



神奈川県
教育委員会

平成 25 年度 教育に関する意識調査 調査報告書

平成 26 年 3 月

神奈川県教育委員会

- ・ 報告書に掲載されている統計表等を転載する場合は、「平成 25 年度教育に関する意識調査」（神奈川県教育委員会）による旨を記載してください。
- ・ 商業目的での転用は、ご遠慮ください。

はじめに

神奈川県教育委員会では平成19年8月に、明日のかながわを担う人づくりを進めていくため、本県の教育の総合的な指針となる「かながわ教育ビジョン」を策定いたしました。この教育ビジョンは、概ね20年間を見据えて策定したものです。社会状況の変化に柔軟に対応するため、教育ビジョンの策定から一定の期間が経過したところで、その推進過程を振り返り、達成状況の点検などを行い、一部見直しに取り組むこととしております。

策定から5年以上が経過し、この間、国では「第2期教育振興基本計画」が示され、県では「神奈川の教育を考える調査会 最終まとめ」を受けるなど、状況は大きく変化していることから、現在、平成26年度を目途に教育ビジョンの一部改定をめざしております。

教育ビジョンの策定に際しましては、当時の社会状況を把握するため、平成17年に学校関係者及び県民の方々を対象として調査を実施しておりますので、今回の教育ビジョンの一部改定に当たりましても、前回の調査を踏まえて、「子どもの実態」「家庭教育」「学校と地域」「県が取り組むべき施策」など、9つのテーマに沿って本調査を実施いたしました。

調査結果については、教育ビジョンの一部改定に役立ててまいります。広く学校教育に関わる様々な場面で御活用いただければ幸いです。

調査の実施に当たりまして、1,000人を超える県民の方、県立学校及び市町村立学校110校の児童・生徒、保護者、学校評議員及び教職員、合わせて約12,000人の方から御回答をいただくことができました。調査に御協力くださいました県民の皆様並びに関係諸機関及び学校関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

平成26年3月

神奈川県教育委員会
教育長 藤井 良一

目次

第1章 調査の概要

I 調査概要	1
II 集計・分析	2
III 回収結果	2
IV 回答者の特性	3
V 調査項目一覧	6

第2章 調査結果

◇調査結果1

I 子どもの実態	7
II 子どもの将来像	96
III 家庭教育	117
IV 学習活動	165
V 教員像	185
VI 学校と地域	220
VII 学校のあり方	229
VIII 県が取り組むべき施策	264
IX 特定課題	274

◇調査結果2

I 属性別集計	
I-1 男性女性別集計（児童・生徒）	297
I-2 年代別集計（一般県民）	344
I-3 在職年数別集計（教職員）	373
I-4 地域別集計（教職員、保護者、学校評議員、一般県民）	388
II 調査対象（客体）での回答結果の比較	
II-1 教職員	412
II-2 保護者	431
II-3 学校評議員	443
II-4 一般県民	448
II-5 児童・生徒	466

○資料 調査票

・ 教職員用	499
・ 保護者用	511
・ 学校評議員用	523
・ 一般県民用	535
・ 小学生用	551
・ 中学生用	559
・ 高校生用	567
・ 特別支援学校児童・生徒用	575

第1章 調査の概要

1 調査概要

1-1 調査目的

これからの神奈川の教育について、中長期的な視点から今後の施策の方向性を検討するため、教育現場に即した課題意識やニーズ等に係るデータの収集を行う。

なお、平成17年度にはかながわ教育ビジョンの策定に向けて同様の内容について調査（「教育に関する学校関係者向け調査」及び「平成17年度県民ニーズ調査（かながわの教育）」）を実施しており、その結果と比較することで、今後のかながわ教育ビジョンの一部改定に資する。

1-2 調査方法

（1）調査対象

調査対象は、学校関係者（児童・生徒、保護者、学校評議員、教職員）及び県民を対象とし、学校関係者調査は、県内公立学校から110校を抽出し、児童・生徒（小学校5年生、中学校2年生、高等学校2年生及び特別支援学校児童・生徒）、調査対象となる児童・生徒の保護者、調査対象校の学校評議員及び教職員と、県立総合教育センターにて指定研修を受講する教職員を対象とする。

県民調査は、県内に居住する満20歳以上の男女個人を対象とする。

（2）調査対象数

A：学校関係者調査

小学校41校、中学校41校、高等学校23校、特別支援学校5校、計110校の児童・生徒、保護者、学校評議員、教職員計11,737人

B：県民調査

個人3,000人

（3）調査対象の抽出方法

A：学校関係者調査

- ① 小中学校については、市町村教育委員会に抽出を依頼し、政令市、中核市については各3校、その他の市町村については、各1校を選定した。また、市立高校を有する市は、高等学校1校も選定した。県立学校については、地区、校種及び学科等のバランスを勘案し、県教育委員会が任意で抽出。
- ② 小中学校の児童・生徒は、調査対象となる小中学校の任意の1学級全員。高等学校の生徒は、調査対象となる高等学校の任意の2学級全員。特別支援学校の児童・生徒は、各学校の実情に応じて任意で抽出。
- ③ 保護者は、調査対象となる児童・生徒の保護者全員。
- ④ 学校評議員は、調査対象となる学校の学校評議員全員。
- ⑤ 教職員は、調査対象となる学校から6名（校長、副校長、教頭のいずれか1名を含む）を任意抽出。県立総合教育センターで実施される指定研修（初任者、5年経験者、10年経験者、15年経験者）の受講者から任意抽出。（平成17年度の調査報告書では「教員」と表記）

B：県民調査

- ① 各地区、市区町村別の地点数・抽出数は、県内の7つの地域（横浜/川崎/相模原/横須賀三浦/県央/湘南/県西）と3つの行政区分（政令指定都市/市/町村）に基づき、対象者人口を基準とした150地点から、3,000人を抽出。
- ② 調査対象者は、地点数、抽出数に基づき、県民調査開始時点において県内居住の満20歳以上の男女個人を層化二段階無作為抽出法により住民基本台帳から抽出。

(4) 調査の実施方法

A：学校関係者調査

市町村立学校については市町村教育委員会を通じて、県立学校については県教育委員会から直接調査票を送付し、各学校において児童・生徒、保護者、学校評議員、教職員に調査票を配付、回収した。なお、教職員のうち県立総合教育センターの指定研修受講者については、講座実施時に配付、回収した。

B：県民調査

調査対象者へ調査票を送付し、郵送にて回収した。

(5) 調査時期

- 平成 25 年 8 月 27 日～10 月 4 日 (学校関係者調査：学校実施分)
- 平成 25 年 8 月 6 日～11 月 27 日 (学校関係者調査：県立総合教育センター指定研修実施分)
- 平成 25 年 9 月 13 日～10 月 11 日 (県民調査)

II 集計・分析

- 単純集計及びクロス集計
- 調査対象(客体)間での回答結果の比較
- 前回調査(平成 17 年度調査)との比較

【報告書の数値・表現の扱いについて】

- ・ 数値については、その設問に該当する回答者(n)を基礎として算出し、小数第 2 位を四捨五入して表示したため、各々の項目の数値の合計が 100%とならない場合がある。
- ・ 複数回答の場合、回答率の合計は 100%を超える。
- ・ グラフ中の設問項目の表現が回答者によって違う場合は、原則として大人は教職員、子どもは高校生の項目の文言で表記した。
- ・ 教職員、保護者、学校評議員の校種を回答していないものについては、各設問の合計値に回答結果を含めている。
- ・ 中等教育学校の教職員の回答は、高等学校の集計に含めている。

III 回収結果

本調査の回収結果は次のとおりである。

A：学校関係者調査

回収率：90.2% (配付数：11,737 回収数：10,590)

表 III-1

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	校種不明	計	配付数	回収率
教職員	875	474	447	194	56	2,046	2,085	98.1%
保護者	1,179	1,167	1,059	130	97	3,632	4,530	80.2%
学校評議員	180	168	101	24	61	534	590	90.5%
児童・生徒	1,254	1,316	1,684	124	-	4,378	4,532	96.6%
計	3,488	3,125	3,291	472	214	10,590	11,737	90.2%

特別支援学校児童・生徒の内訳 (盲学校 8 人、ろう学校 25 人、養護学校 89 人、不明 2 人)
(小学部 22 人、中学部 31 人、高等部 69 人、不明 2 人)

B：県民調査

回収率：41.2% (配付数：3,000 回収数：1,235 ※含む無効 2)

IV 回答者の特性

各調査の回答者の特性は次のとおりである。

IV-1 性別

教職員では、小学校(男性:41.3%、女性:58.5%)と特別支援学校(男性:35.1%、女性:64.9%)は女性が多くなっており、中学校(男性:59.9%、女性:39.9%)と高等学校(男性:70.0%、女性:30.0%)は男性が多くなっている。

保護者では、各校種共に女性の割合が高い(女性の割合、小学校:91.3%、中学校:90.5%、高等学校:87.4%、特別支援学校:86.2%)。

学校評議員では、各校種共に男性の割合が高い(男性の割合、小学校:63.3%、中学校:64.3%、高等学校:76.2%、特別支援学校:66.7%)。

児童・生徒では、小学校(男性:50.8%、女性:48.8%)、中学校(男性:50.1%、女性:47.6%)、高等学校(男性:46.3%、女性:51.4%)、特別支援学校(男性:62.9%、女性:34.5%)となっている。

一般県民では、男性が70.6%、女性が27.1%となっている。

表 IV-1(教職員)

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	無回答	合計
男性	361	284	313	68	2	1,028
	41.3%	59.9%	70.0%	35.1%	3.6%	50.2%
女性	512	189	134	126	8	969
	58.5%	39.9%	30.0%	64.9%	14.3%	47.4%
性別不明	2	1	-	-	46	49
	0.2%	0.2%	-	-	82.1%	2.4%

表 IV-2(保護者)

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	無回答	合計
男性	102	110	129	17	8	366
	8.7%	9.4%	12.2%	13.1%	8.2%	10.1%
女性	1,076	1,056	926	112	61	3,231
	91.3%	90.5%	87.4%	86.2%	62.9%	89.0%
性別不明	1	1	4	1	28	35
	0.1%	0.1%	0.4%	0.8%	28.9%	1.0%

表 IV-3(学校評議員)

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	無回答	合計
男性	114	108	77	16	45	360
	63.3%	64.3%	76.2%	66.7%	73.8%	67.4%
女性	66	60	24	8	14	172
	36.7%	35.7%	23.8%	33.3%	23.0%	32.2%
性別不明	-	-	-	-	2	2
	-	-	-	-	3.3%	0.4%

表 IV-4(児童・生徒)

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	無回答	合計
男性	637	659	779	78	-	2,153
	50.8%	50.1%	46.3%	62.9%	0.0%	49.2%
女性	612	626	866	44	-	2,148
	48.8%	47.6%	51.4%	34.5%	0.0%	49.1%
性別不明	5	31	39	2	-	77
	0.4%	2.4%	2.3%	1.6%	-	1.8%

表 IV-5(一般県民)

	男性	女性	性別不明
合計	871	334	28
	70.6%	27.1%	2.3%

IV - 2 年齢

教職員の回答者年齢は、20歳台の割合が小学校 33.1%、中学校 27.8%、高等学校 33.1%、特別支援学校 42.8%であり、30歳台の割合が小学校 37.7%、中学校 26.8%、高等学校 26.2%、特別支援学校 27.3%となっている。

保護者の回答者年齢は、小学校では、40歳代(59.7%)が最も多く、次いで30歳代(34.1%)となっている。中学校では、40歳代(71.7%)が最も多く、次いで30歳代(16.5%)となっている。高等学校では、40歳代(73.1%)が最も多く、次いで50歳代(21.4%)となっている。特別支援学校では、40歳代(65.4%)が最も多く、次いで50歳代(19.2%)となっている。

また、学校評議員では、小学校と中学校では共に60歳代が多く(小学校:33.3%、中学校:31.0%)、高等学校では50歳代が多くなった(42.6%)。特別支援学校では40歳代(29.2%)と60歳代(29.2%)が多くなっている。

一般県民では、60歳代(25.1%)が最も多く、次いで70歳以上(20.0%)が多くなっている。

表 IV-6(教職員) ※教職員は60代以上なし

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	校種不明	計
20代	290	132	148	83	5	658
	33.1%	27.8%	33.1%	42.8%	8.9%	32.2%
30代	330	127	117	53	3	630
	37.7%	26.8%	26.2%	27.3%	5.4%	30.8%
40代	118	74	77	35	2	306
	13.5%	15.6%	17.2%	18.0%	3.6%	15.0%
50代	135	140	103	22	-	400
	15.4%	29.5%	23.0%	11.3%	0.0%	19.6%
年齢不明	2	1	2	1	46	52
	0.2%	0.2%	0.4%	0.5%	82.1%	2.5%

表 IV-7(保護者)

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	校種不明	計
20代	16	9	2	2	-	29
	1.4%	0.8%	0.2%	1.5%	0.0%	0.8%
30代	402	193	45	16	15	671
	34.1%	16.5%	4.2%	12.3%	15.5%	18.5%
40代	704	837	774	85	47	2,447
	59.7%	71.7%	73.1%	65.4%	48.5%	67.4%
50代	45	117	227	25	6	420
	3.8%	10.0%	21.4%	19.2%	6.2%	11.6%
60代	8	6	7	1	1	23
	0.7%	0.5%	0.7%	0.8%	1.0%	0.6%
70歳以上	1	4	1	-	-	6
	0.1%	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%	0.2%
年齢不明	3	1	3	1	28	36
	0.3%	0.1%	0.3%	0.8%	28.9%	1.0%

表 IV-8(学校評議員)

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	校種不明	計
20代	1	-	-	-	-	1
	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
30代	7	1	1	1	1	11
	3.9%	0.6%	1.0%	4.2%	1.6%	2.1%
40代	41	39	13	7	11	111
	22.8%	23.2%	12.9%	29.2%	18.0%	20.8%
50代	34	49	43	6	11	143
	18.9%	29.2%	42.6%	25.0%	18.0%	26.8%
60代	60	52	30	7	23	172
	33.3%	31.0%	29.7%	29.2%	37.7%	32.2%
70歳以上	37	27	14	3	13	94
	20.6%	16.1%	13.9%	12.5%	21.3%	17.6%
年齢不明	-	-	-	-	2	2
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	0.4%

表 IV-9(一般県民)

20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	年齢不明	全体
32	164	223	230	310	246	28	1,233
2.6%	13.3%	18.1%	18.7%	25.1%	20.0%	2.3%	

V 調査項目一覧

※丸数字は設問番号

	項目	教職員	保護者	学校評議員	児童生徒	一般県民
I 子どもの実態						
0	子どものイメージ					⑫
1	教育現場での児童・生徒の課題(最近の子どもの印象) 自分自身について	①	①	①	①	①
2	子どもに影響を与えている存在 自分とかわりの深いもの		②		⑥	
3	夢中になれるとき(楽しいと感じるとき)				②	
4	悩んでいること				③	
5	相談相手				④	
6	ルール・マナーの意識				⑤	
7	学校外での生活				⑩	
II 子どもの将来像						
1	これからの世の中				⑧	
2	どのような大人になりたいか どのような大人になってほしいか	②	③	②		②
3	働くことについて				⑨	
III 家庭教育						
1	学校・家庭・地域での教育課題	③	④	③		③
2	学校の役割・家庭の役割	④	⑤	④		④
3	子どもとのコミュニケーション		⑥	⑤		
4	自分の子をどのくらい把握しているか		⑦			
5	家庭でのしつけや教育に関わること		⑧			
IV 学習活動						
1	学習指導の重点(かながわの学習の重点)	⑧	⑨	⑥		⑤
2	教科やその他の活動の重点		⑩	⑦		⑥
3	勉強する理由(学校に行く理由)				⑬	
V 教員像						
1	教員の印象		⑪	⑧		
2	日々の業務で感じていること	⑤				
3	望ましい教員像 めざす教員像 教わりたい先生	⑥	⑫	⑨		⑦
4	現在の教員に必要な資質	⑦	⑬	⑩	⑭	⑧
VI 学校と地域						
1	学校への地域の望ましい関わり方	⑩				
2	学校・家庭・地域との連携			⑪		⑨
3	地域で活動できること		⑭			⑩
VII 学校のあり方						
1	諸課題の解決の方策と学校のあり方 (これからの学校のあり方や役割)	⑨	⑮	⑫		
2	学校に行きたくないとき				⑪	
3	学校に行きたくない理由				⑫	
4	学校がどのようになったらよいと思うか				⑮	
5	義務教育学校・高等学校のあり方	⑪	⑯	⑬		⑬
6	県立(公立)高校と私立高校					⑭
7	県立高校の改革の取組み					⑮
8	私立高校のあり方					⑯
VIII 県が取り組むべき施策						
1	県が取り組むべき施策	⑫	⑰	⑭		⑪
2	「神奈川らしい教育」に生かしたいもの	⑬	⑱	⑮		
IX 特定課題						
1	支援を必要とする子どもへの対応	⑭	⑲			
2	「キャリア教育」へ期待するもの	⑮				
3	「いのちの授業」へ期待するもの	⑯				
4	教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方	⑰				
5	研修の際に重視すること	⑱				
6	生涯にわたる自分づくりの実践					⑱
7	生涯を通じた教育・「人づくり」の実践					⑲
						⑳

第2章 調査結果

◇調査結果 1

1 子どもの実態

- 大人には「子どもの印象」や「影響を与えている存在」について、子どもには、「自身の状況」や「校外での生活」などについて聞くことで、子どもの実態を把握することにした。
- 調査の結果、大人は子どもを「明るく元気」で、「やさしさや思いやりがある」と感じている。次いで、教職員は「自分らしさをもっている」、保護者が「社会のルールやマナーを守っている」、学校評議員は「体力の低下が目立つ」と感じている。
一方、子どもは、小中高生共に、「仲の良い友だちがいる」と回答した割合が最も高くなっている。次に回答した割合が高いものは、小学生は「家族のことを理解している」、中学生は「社会の役に立ちたい」、高校生が「社会のルールやマナーを守っている」となっている。
特別支援学校児童・生徒は、「学校が好き」、「決まった時間に食事をする」、「いろいろなことを知りたいという気持ちをもっている」と回答した割合が高くなっている。回答の割合が最も高い項目を前回調査と比較すると、平成17年度調査結果では「仲の良い友だちがいる」となっている。
- 保護者は、子どもに影響を与えているのは、「親」であると思っている。次いで、小中高の保護者は「友人」、特別支援学校の保護者は「学校の教員」、3番目に小学校と特別支援学校の保護者は「兄弟姉妹」、中学校と高等学校の保護者は「携帯電話やスマートフォン」となっている。
- 一方、子どもは、小学生は「家族」、「友人」、「ゲーム」の順に、中高生は共に「友人や先輩」、「家族」、「携帯電話やスマートフォン」の順に、自分とかかわりが深いと思っている。特別支援学校児童・生徒は「家族」、「テレビ」、「本」と思っている。
悩みについては、「将来のこと」をあげ、悩んだときの相談相手として、小学生は「親」、「同級の友だち」、中高生は「同級の友だち」、「親」を順にあげている。特別支援学校児童・生徒は「家族」、「学校の先生」を順にあげている。
- 夢中になれたり、充実感を感じたりするのは、「趣味など自分の好きなことをしているとき」、「友だちと遊んだり、話したりしているとき」であると感じている。
- ルール・マナーについて、小中高生共に「約束を守らない」、「電車の中で騒いだり、床に座り込む」のはよくないと意識している。この他に、小学生は「インターネットやメールで人の悪口を書く」、中高生は「万引きをする」のはよくないと回答する割合が高くなっている。特別支援学校児童・生徒は「約束を守らない」、「人のものを勝手に使う」、「インターネットやメールで人の悪口を書く」、「遊ぶために夜遅く外出する」のはよくないと意識している。
- 学校外の生活では、小中高生共に「趣味や自分の好きなことをする」割合が最も高くなっている。
次いで、小学生は「スポーツや遊びでからだを動かす」、「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」、中学生は「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」、「外出して友だちと過ごす」、高校生は「外出して友だちと過ごす」、「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」割合が高くなっている。特別支援学校児童・生徒は「テレビを見る」割合が最も高く、次いで「家族といっしょに過ごす」、「ゲームをする」割合が高くなっている。
回答の割合が最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、小学生は「塾や習い事に通う」で、中学生は「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」となっている。

I-1 教育現場での児童・生徒の課題、最近の子どもの印象、自分自身について

『教育現場での児童・生徒の課題』を教職員に聞いたところ、「明るく元気である」、「やさしさや思いやりがある」、「自分らしさをもっている」との回答の割合が高かった。

『最近の子どもの印象』について聞いたところ、保護者では「明るく元気である」、「やさしさや思いやりがある」、「社会のルールやマナーを守っている」、学校評議員では「明るく元気である」、「やさしさや思いやりがある」、「体力の低下が目立つ」、一般県民では「明るく元気である」、「やさしさや思いやりがある」、「個性豊かである」と回答する割合が高かった。

児童・生徒に『自分自身について』聞いたところ、小学生では「仲の良い友だちがいる」、「家族のことを理解している」、「外で運動したり遊んだりするのが好きだ」、中学生では「仲の良い友だちがいる」、「社会の役に立ちたい」、「外で運動したり遊んだりするのが好きだ」、高校生では「仲の良い友だちがいる」、「社会のルールやマナーを守っている」、「自分らしさをもっている」、特別支援学校児童・生徒では、「学校が好き」、「決まった時間に食事をする」、「いろいろなことを知りたいという気持ちをもっている」と回答する割合が高かった。

最も高い割合の回答について平成17年度調査結果と比較したところ、教職員、保護者、学校評議員、一般県民のいずれも、平成25年度と平成17年度調査ともに「明るく元気である」が最も多く、教職員の平成25年度調査結果は89.2%で平成17年度調査結果は88.8%、保護者の平成25年度調査結果は77.5%で平成17年度調査結果は72.8%、学校評議員の平成25年度調査結果は74.0%で平成17年度調査結果は68.4%、一般県民の平成25年度調査結果は48.6%で平成17年度調査結果は32.7%であった。

児童・生徒では、小中高生いずれも、平成25年度と平成17年度調査とともに「仲の良い友だちがいる」が最も多く、小学生の平成25年度調査は92.8%、平成17年度調査は94.0%、中学生の平成25年度調査は87.8%、平成17年度調査は87.5%、高校生の平成25年度調査は84.7%、平成17年度調査は86.5%であった。特別支援学校児童・生徒の平成25年度調査では「学校が好き」(79.0%)、平成17年度調査では「仲の良い友だちがいる」(80.0%)であった。

【教職員・保護者・学校評議員】

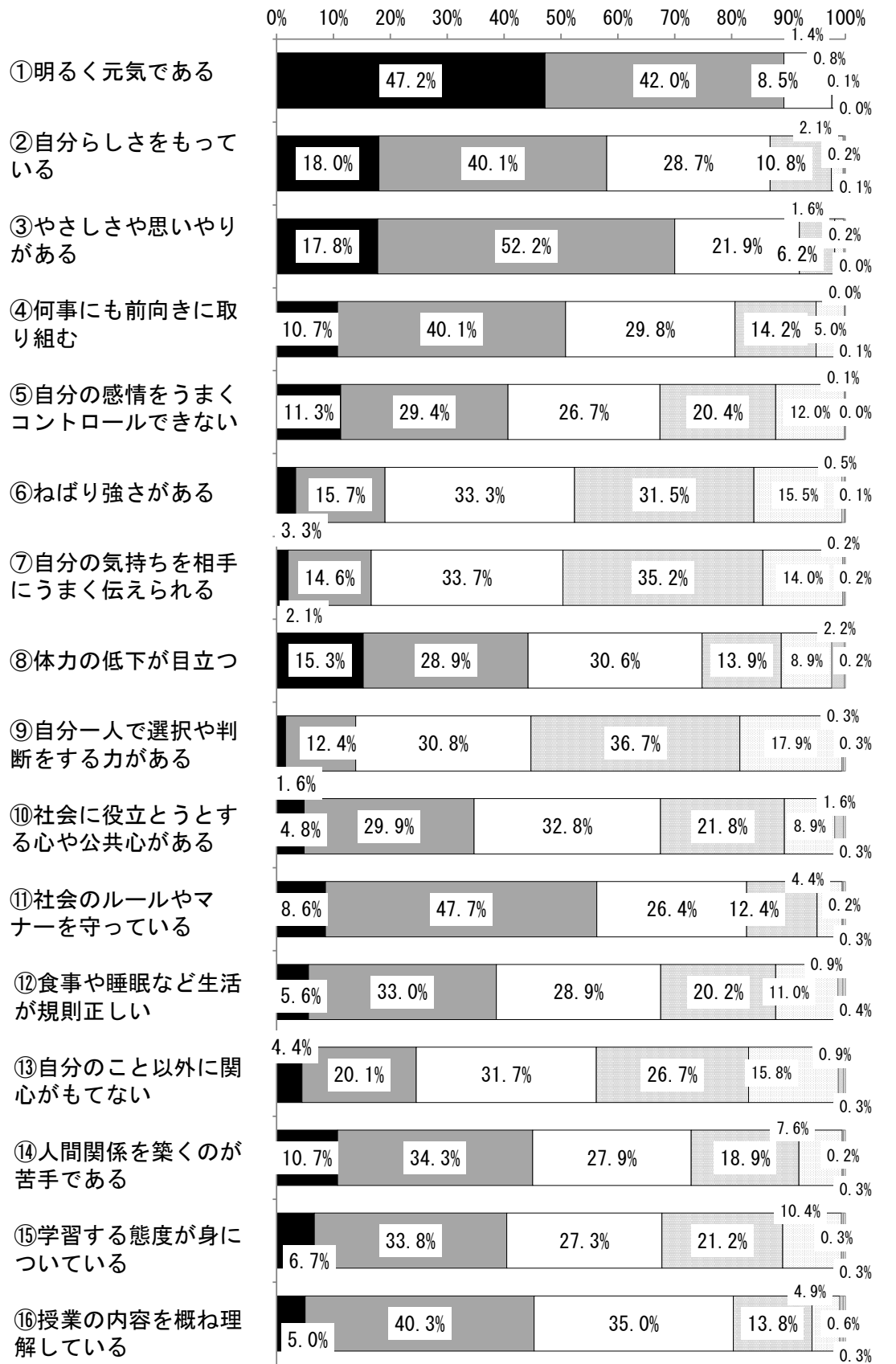
『教育現場での児童・生徒の課題』を教職員に聞いたところ、「そう思う」と「どちらか」というと「そう思う」の合計では、「明るく元気である」(89.2%)、「やさしさや思いやりがある」(70.0%)、「自分らしさをもっている」(58.1%)との回答の割合が高かった。

『最近の子どもの印象』について保護者・学校評議員に聞いたところ、「そう思う」と「どちらか」というと「そう思う」との回答の合計の上位3位は、保護者では、「明るく元気である」(77.5%)、「やさしさや思いやりがある」(71.8%)、「社会のルールやマナーを守っている」(67.6%)であり、学校評議員では、「明るく元気である」(74.0%)、「やさしさや思いやりがある」(61.6%)、「体力の低下が目立つ」(50.6%)であった。(表I-1、図I-1~3参照)

表 I-1 教育現場での児童・生徒の課題、最近の子どもの印象 「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計(教職員、保護者、学校評議員)

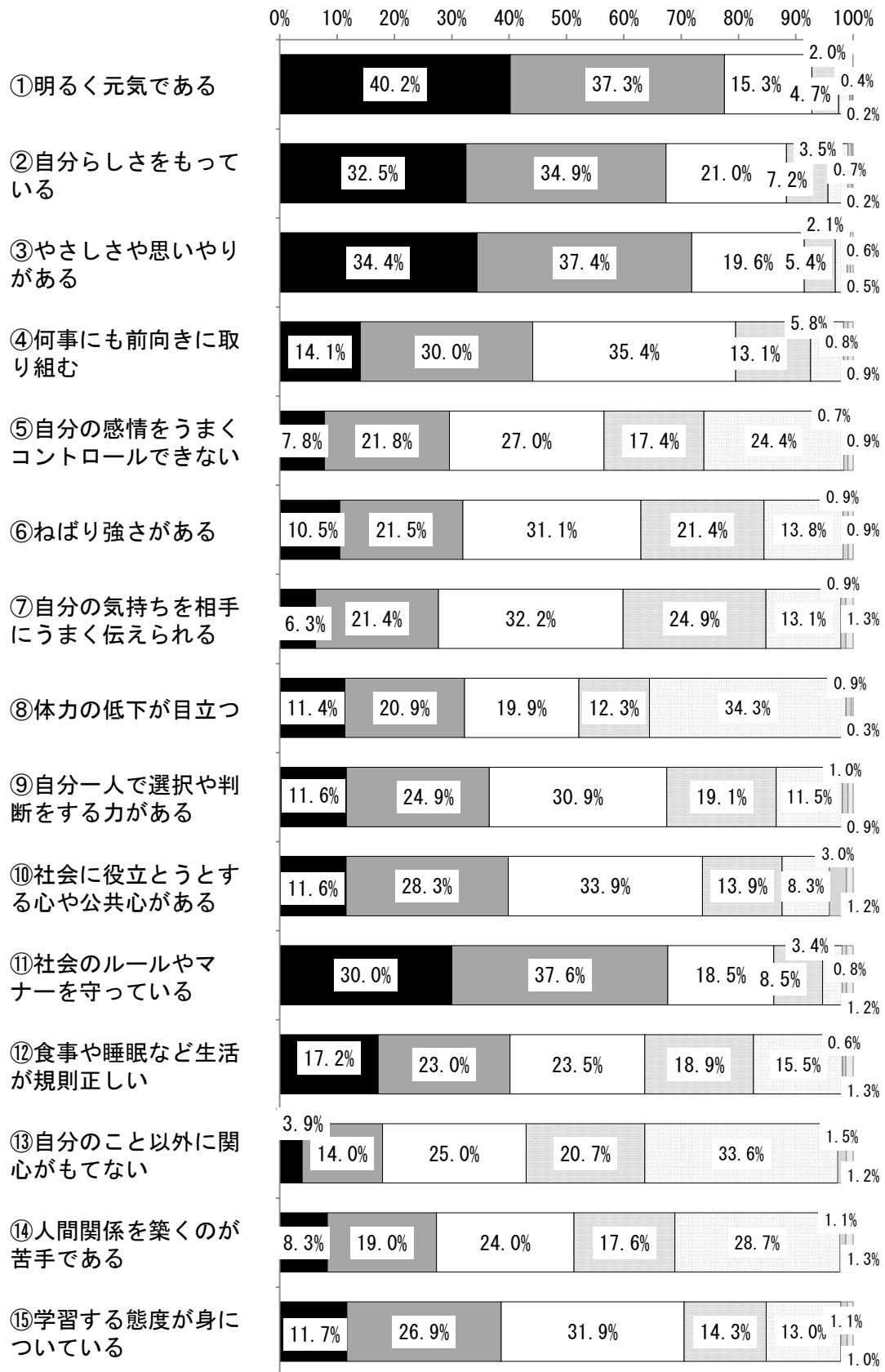
	教職員	保護者	学校評議員
①明るく元気である	89.2%	77.5%	74.0%
②自分らしさをもっている	58.1%	67.4%	45.7%
③やさしさや思いやりがある	70.0%	71.8%	61.6%
④何事にも前向きに取り組む	50.8%	44.1%	34.7%
⑤自分の感情をうまくコントロールできない	40.7%	29.6%	44.2%
⑥ねばり強さがある	19.0%	32.0%	15.9%
⑦自分の気持ちを相手にうまく伝えられる	16.7%	27.7%	20.2%
⑧体力の低下が目立つ	44.2%	32.3%	50.6%
⑨自分一人で選択や判断をする力がある	14.0%	36.5%	18.2%
⑩社会に役立とうとする心や公共心がある	34.7%	39.9%	37.8%
⑪社会のルールやマナーを守っている	56.3%	67.6%	50.2%
⑫食事や睡眠など生活が規則正しい	38.6%	40.2%	16.8%
⑬自分のこと以外に関心をもてない	24.5%	17.9%	30.7%
⑭人間関係を築くのが苦手である	45.0%	27.3%	48.4%
⑮学習する態度が身についている	40.5%	38.6%	39.2%
⑯授業の内容を概ね理解している	45.3%	-	-

図 I-1 教育現場での児童・生徒の課題(教職員 n=2,046)



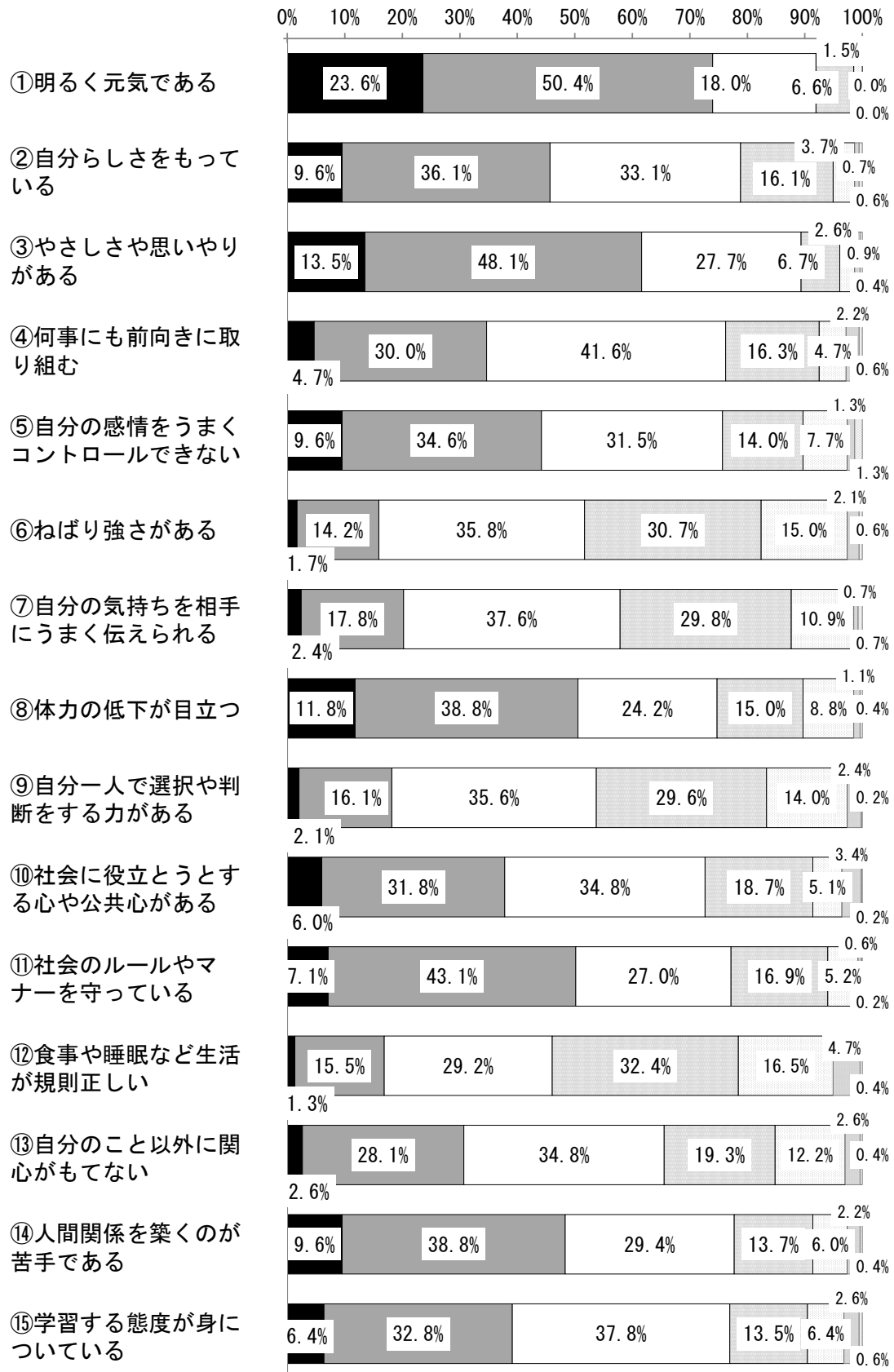
そう思う
 どちらかというと思う
 どちらともいえない
 どちらかというと思わない
 そう思わない
 わからない
 無回答

図 I-2 最近の子どもの印象(保護者 n=3, 632)



そう思う
 どちらかというと思う
 どちらともいえない
 どちらかというと思わない
 そう思わない
 わからない
 無回答

図 I-3 最近の子どもの印象(学校評議員 n=534)



そう思う

 どちらかというと思う

 どちらともいえない

 どちらかというと思わない

 そう思わない

 わからない

 無回答

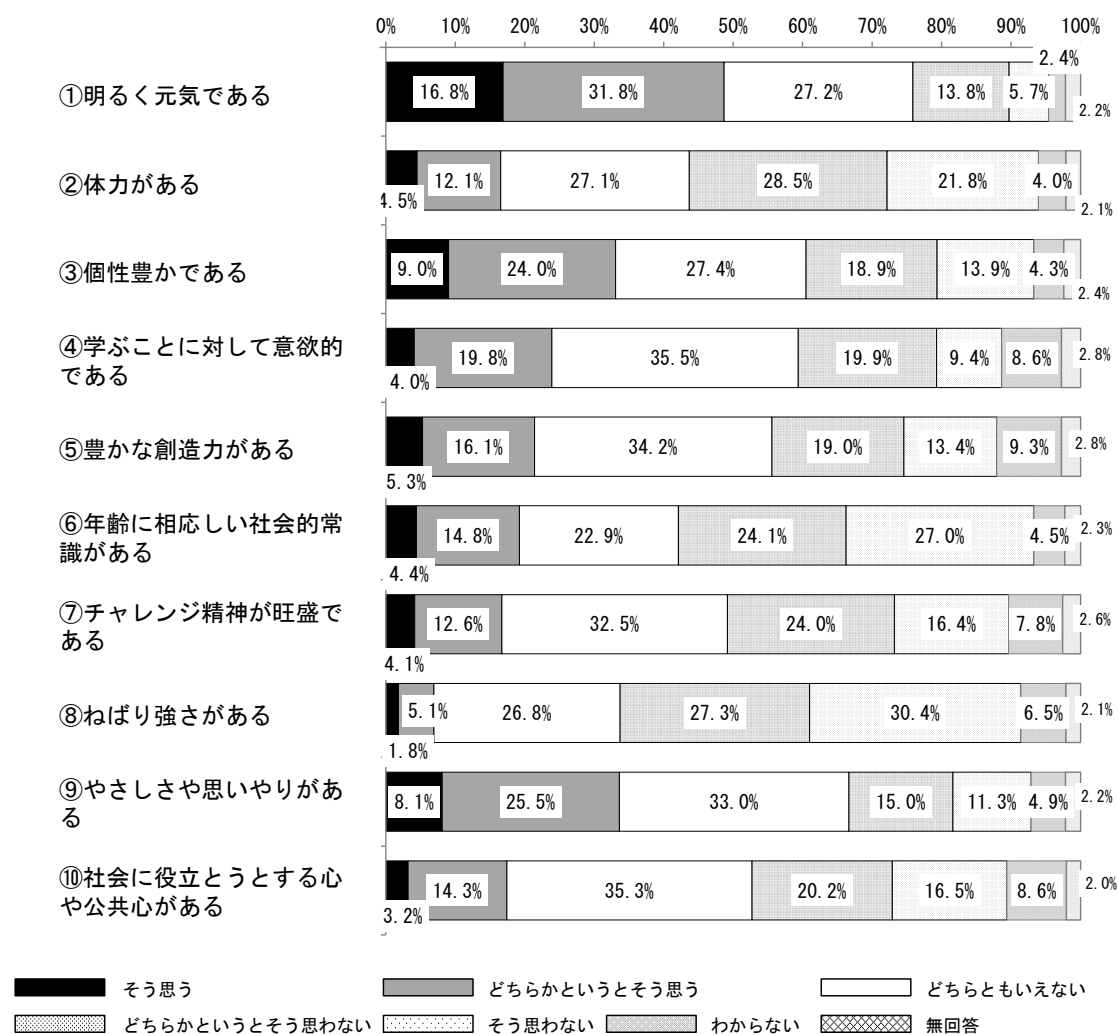
【一般県民】

『最近の子どもの印象』について一般県民に聞いたところ、「そう思う」と「どちらかというと思う」と回答した割合の合計として高かったのは、「明るく元気である」(48.6%)、「やさしさや思いやりがある」(33.6%)、「個性豊かである」(33.0%)であった。(表 I-2、図 I-4 参照)

表 I-2 最近の子どもの印象(「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計)

①明るく元気である	48.6%
②体力がある	16.6%
③個性豊かである	33.0%
④学ぶことに対して意欲的である	23.8%
⑤豊かな創造力がある	21.4%
⑥年齢に相応しい社会的常識がある	19.2%
⑦チャレンジ精神が旺盛である	16.7%
⑧ねばり強さがある	6.9%
⑨やさしさや思いやりがある	33.6%
⑩社会に役立つと心や公共心がある	17.5%

図 I-4 最近の子どもの印象(一般県民 n=1,233)



【児童・生徒】

児童・生徒に『自分自身について』聞いたところ、小学生では、「仲の良い友だちがいる」(92.8%)、「家族のことを理解している」(77.2%)、「外で運動したり遊んだりするのが好きだ」(72.3%)を「そう思う」と回答する割合が高く、中学生では、「仲の良い友だちがいる」(87.8%)、「社会の役に立ちたい」(65.4%)、「外で運動したり遊んだりするのが好きだ」(63.9%)、高校生では、「仲の良い友だちがいる」(84.7%)、「社会のルールやマナーを守っている」(67.8%)、「自分らしさをもっている」(59.9%)を「そう思う」と回答する割合が高かった。特別支援学校児童・生徒では、「学校が好き」(79.0%)、「決まった時間に食事をする」(79.0%)、「いろいろなことを知りたいという気持ちをもっている」(75.0%)に対して「はい」と回答する割合が高かった。(表 I-3, 4、図 I-5～9 参照)

表 I-3 自分自身について(「そう思う」の比較)

	小学生	中学生	高校生
①明るく元気だ	70.4%	55.6%	51.7%
②自分らしさをもっている	65.7%	58.8%	59.9%
③やさしさや思いやりがある	47.1%	42.3%	49.1%
④何事にも前向きに取り組む	41.8%	37.7%	39.5%
⑤自分の気持ちをコントロールできる	51.0%	52.7%	50.8%
⑥ねばり強く、最後までやりとげる	48.6%	39.2%	41.4%
⑦自分の気持ちを相手にうまく伝えられる	36.0%	30.3%	28.0%
⑧外で運動したり遊んだりするのが好きだ	72.3%	63.9%	58.3%
⑨自分の力でものごとを決められる	41.0%	37.1%	44.2%
⑩社会の役に立ちたい	72.9%	65.4%	59.8%
⑪社会のルールやマナーを守っている	59.6%	62.4%	67.8%
⑫食事や睡眠など生活が規則正しい	49.4%	35.3%	32.8%
⑬仲の良い友だちがいる	92.8%	87.8%	84.7%
⑭誰とでもすぐ仲良くなれる	52.7%	39.9%	34.0%
⑮自分で考え、何かをつくり上げるのが得意だ	45.7%	34.5%	35.2%
⑯家で勉強する習慣がある	52.3%	28.1%	18.6%
⑰授業の内容が理解できる	63.9%	53.9%	42.1%
⑱家族のことを理解している	77.2%	61.2%	58.3%
⑲家族はあなたを理解してくれている	63.2%	48.7%	52.4%

表 I-4 自分自身について 特別支援学校児童・生徒(「はい」の回答)

	はい
①学校が好きですか	79.0%
②いろいろなことを知りたいという気持ちをもっていますか	75.0%
③やり始めたことは最後までがんばりますか	55.6%
④やさしい性格ですか	64.5%
⑤人の役に立ちたいと思いますか	54.8%
⑥自分の気持ちを相手にうまく伝えられますか	23.4%
⑦仲の良い友だちがいますか	65.3%
⑧決まった時間に食事をしますか	79.0%

図 I-5 自分自身について(小中高生合計 n=4, 254)

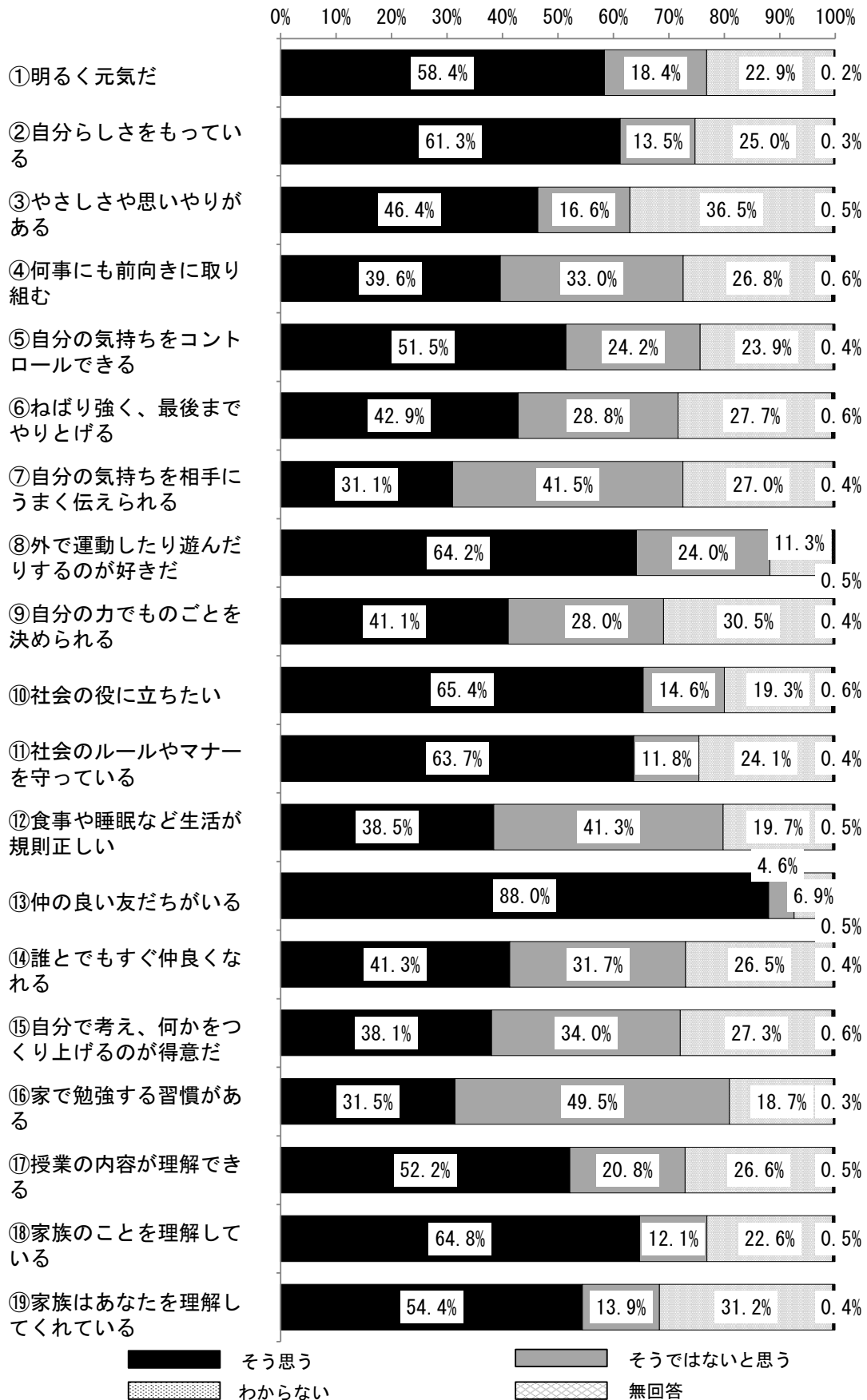


図 I-6 自分自身について(小学生 n=1,254)

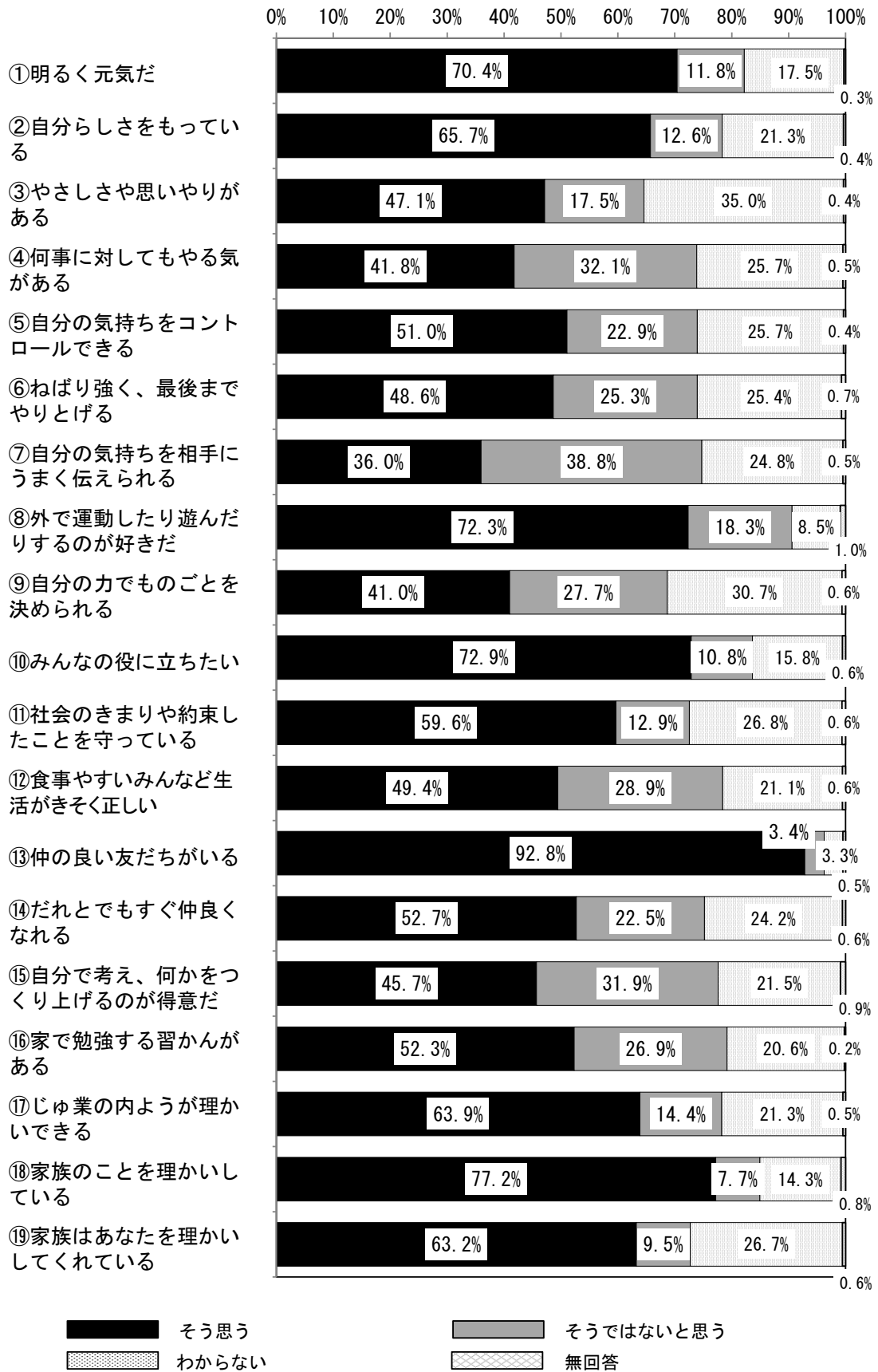


図 I-7 自分自身について(中学生 n=1,316)

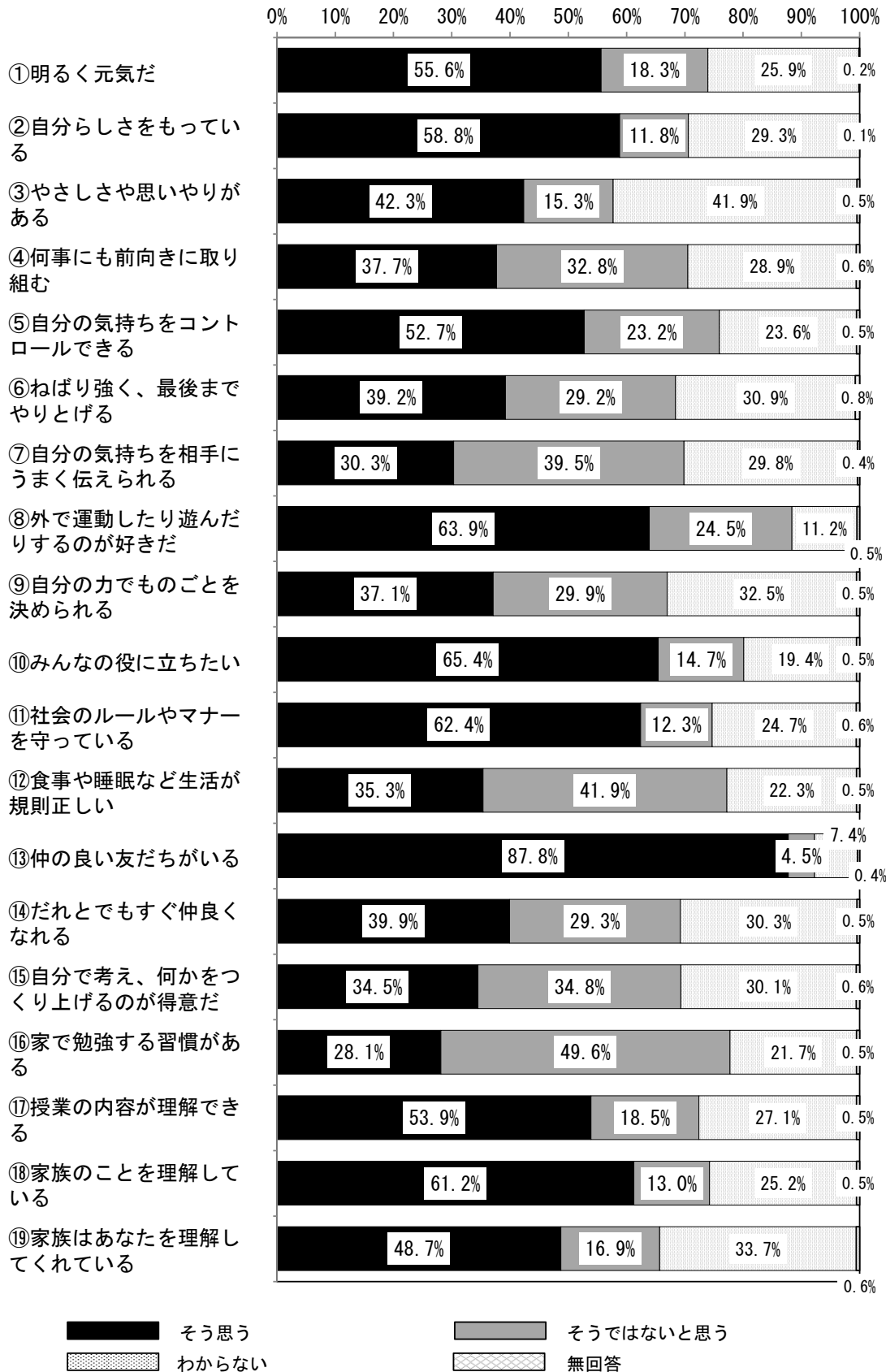


図 I-8 自分自身について(高校生 n=1,684)

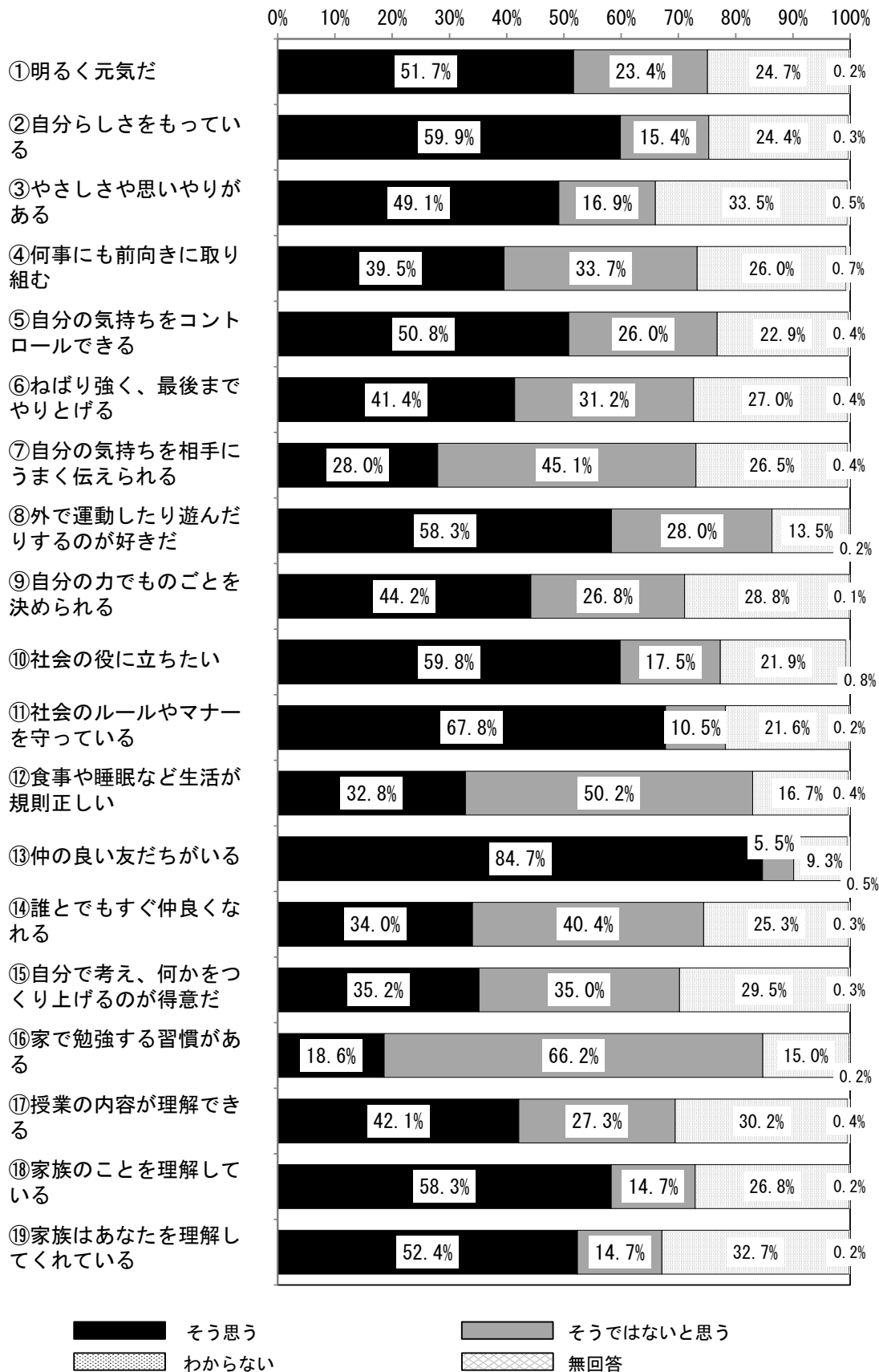
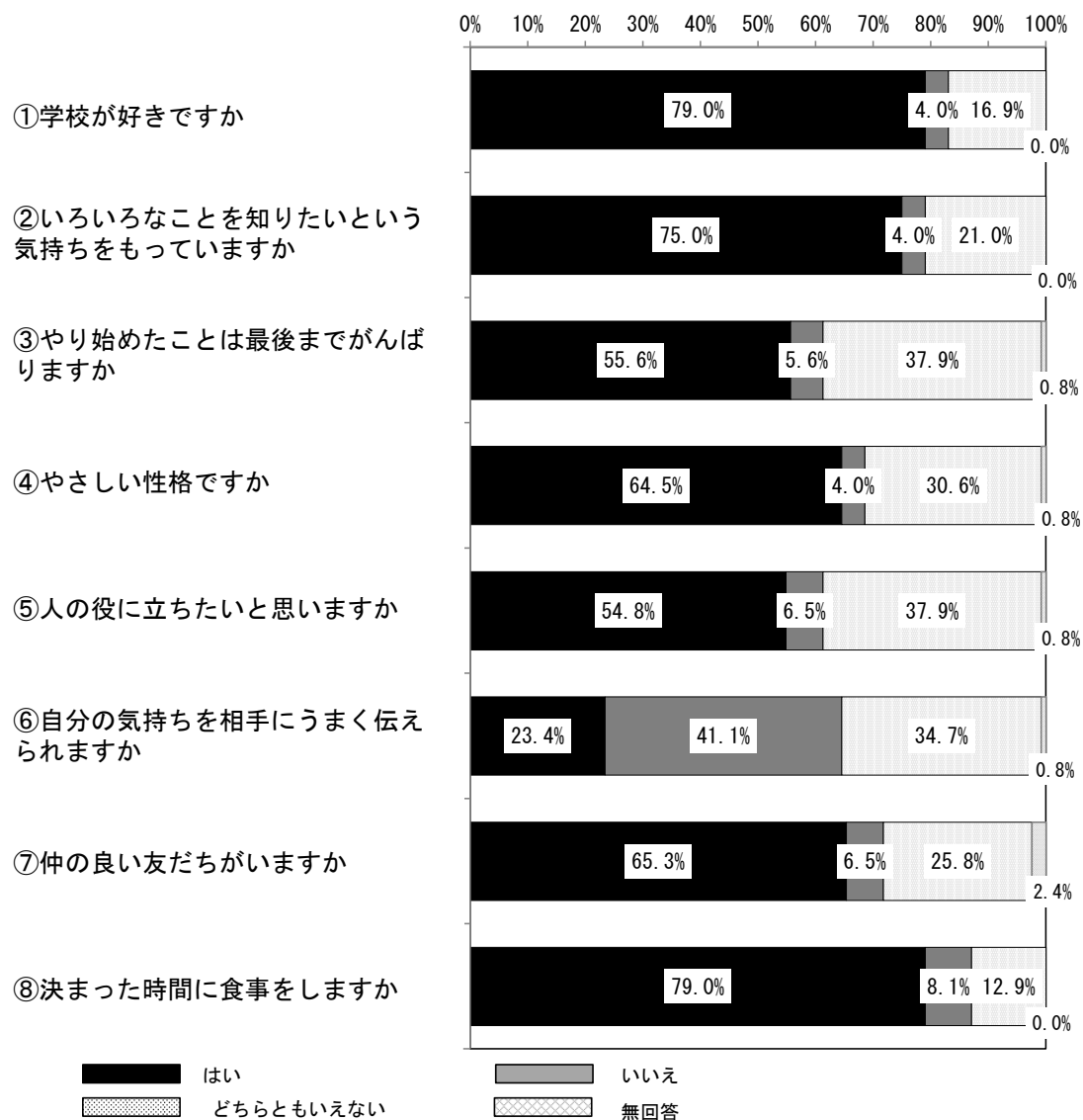


図 I-9 自分自身について(特別支援学校児童・生徒 n=124)



『教育現場での児童・生徒の課題』について、教職員が「そう思う」または「どちらかというと思う」と回答した割合の合計として高かったのは、平成 25 年度調査では、「明るく元気である」(89.2%)、「やさしさや思いやりがある」(70.0%)、「自分らしさをもっている」(58.1%)であり、平成 17 年度調査では「明るく元気である」(88.8%)、「やさしさや思いやりがある」(60.5%)、「自分らしさをもっている」(56.1%)であって、上位 3 位に変動はなかった。

『最近の子どもの印象』について、保護者が「そう思う」または「どちらかというと思う」と回答した割合の合計として高かったのは、平成 25 年度調査では、「明るく元気である」(77.5%)、「やさしさや思いやりがある」(71.8%)、「社会のルールやマナーを守っている」(67.6%)であり、平成 17 年度調査では「明るく元気である」(72.8%)、「やさしさや思いやりがある」(64.5%)、「自分らしさをもっている」(62.2%)であって、上位 3 位に変動はなかった。一方、学校評議員の平成 25 年度調査回答では、「明るく元気である」(74.0%)、「やさしさや思いやりがある」(61.6%)、「体力の低下が目立つ」(50.6%)の割合が高く、平成 17 年度調査では「明るく元気である」(68.4%)、「体力の低下が目立つ」(54.2%)、「自分の感情をうまくコントロールできない」(50.1%)の割合が高かった。

『最近の子どもの印象』について一般県民に聞いたところ、「そう思う」と「どちらかというと思う」と回答した割合の合計として高かったのは、平成 25 年度調査では「明るく元気である」(48.6%)、「やさしさや思いやりがある」(33.6%)、「個性豊かである」(33.0%)であり、平成 17 年度調査では「明るく元気である」(32.7%)、「個性豊かである」(24.1%)、「やさしさや思いやりがある」(15.1%)であった。

児童・生徒に、『自分自身について』聞いたところ、小学生が平成 25 年度調査で「そう思う」と回答した割合が高かったのは「仲の良い友だちがいる」(92.8%)、「家族のことを理解している」(77.2%)、「外で運動したり遊んだりするのが好きだ」(72.3%)であり、平成 17 年度調査では「仲の良い友だちがいる」(94.0%)、「外で運動したり遊んだりするのが好きだ」(69.9%)、「家族のことを理解している」(69.5%)であった。中学生が平成 25 年度調査で「そう思う」と回答した割合が高かったのは「仲の良い友だちがいる」(87.8%)、「みんなの役に立ちたい」(65.4%)、「外で運動したり遊んだりするのが好きだ」(63.9%)であり、平成 17 年度調査では「仲の良い友だちがいる」(87.5%)、「外で運動したり遊んだりするのが好きだ」(66.4%)、「みんなの役に立ちたい」(58.5%)であった。高校生が平成 25 年度調査で「そう思う」と回答した割合が高かったのは「仲の良い友だちがいる」(84.7%)、「社会のルールやマナーを守っている」(67.8%)、「自分らしさをもっている」(59.9%)であり、平成 17 年度調査では「仲の良い友だちがいる」(86.5%)、「外で運動したり遊んだりするのが好きだ」(61.5%)、「自分らしさをもっている」(54.4%)であった。特別支援学校児童・生徒が平成 25 年度調査で「はい」と回答した割合が高かったのは「学校が好き」(79.0%)、「決まった時間に食事をする」(79.0%)、「いろいろなことを知りたいという気持ちを持っている」(75.0%)であり、平成 17 年度調査では「仲の良い友だちがいる」(80.0%)、「いろいろなことを知りたいという気持ちをもっている」(69.2%)、「人の役に立ちたいと思う」(67.7%)であった。(図 I-10~18 参照)

図 I-10 教育現場での児童・生徒の課題 「そう思う」「どちらかというと思う」の合計(教職員)

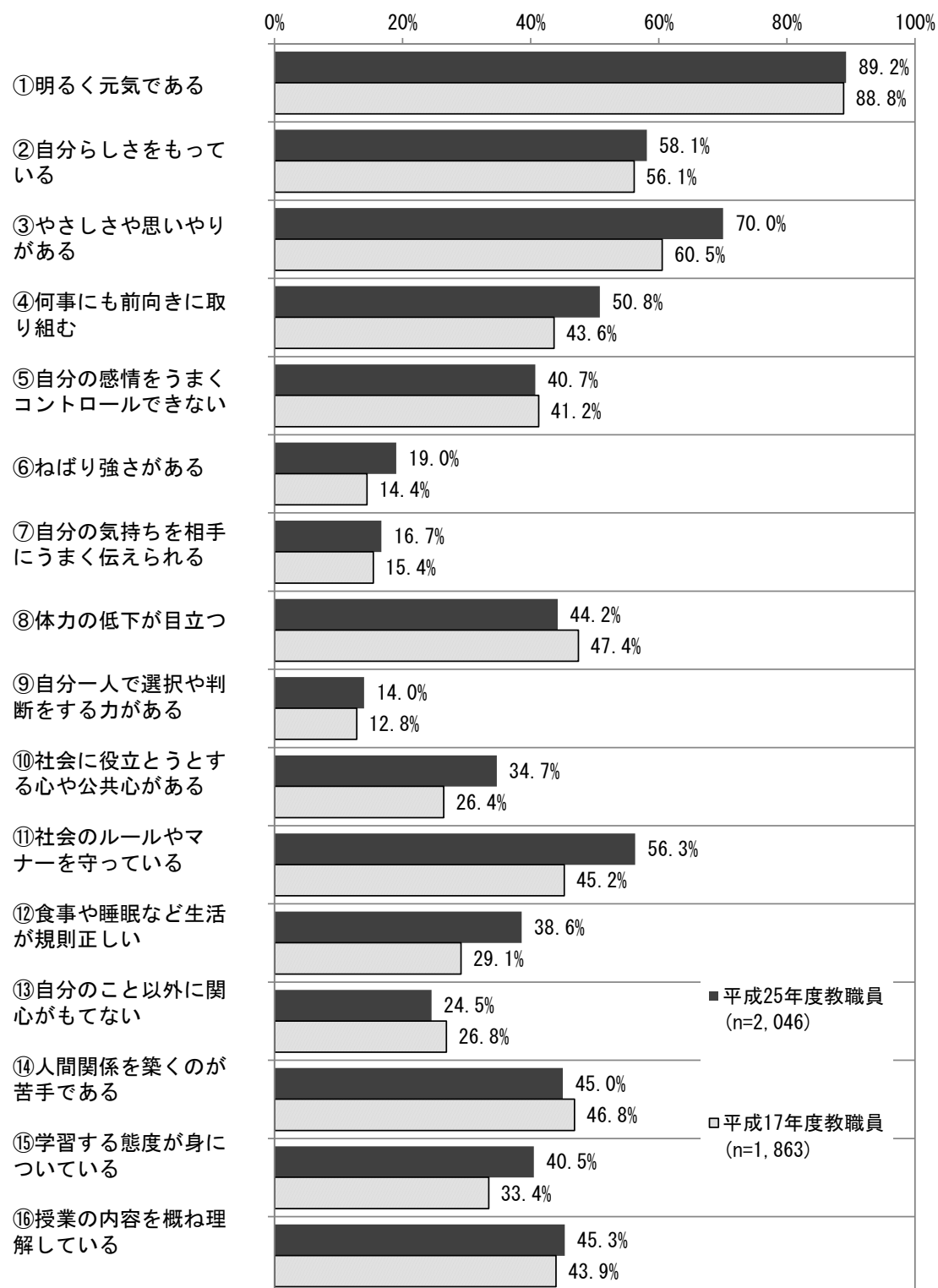


図 I-11 最近の子どもの印象 「そう思う」「どちらかというと思う」の合計(保護者)

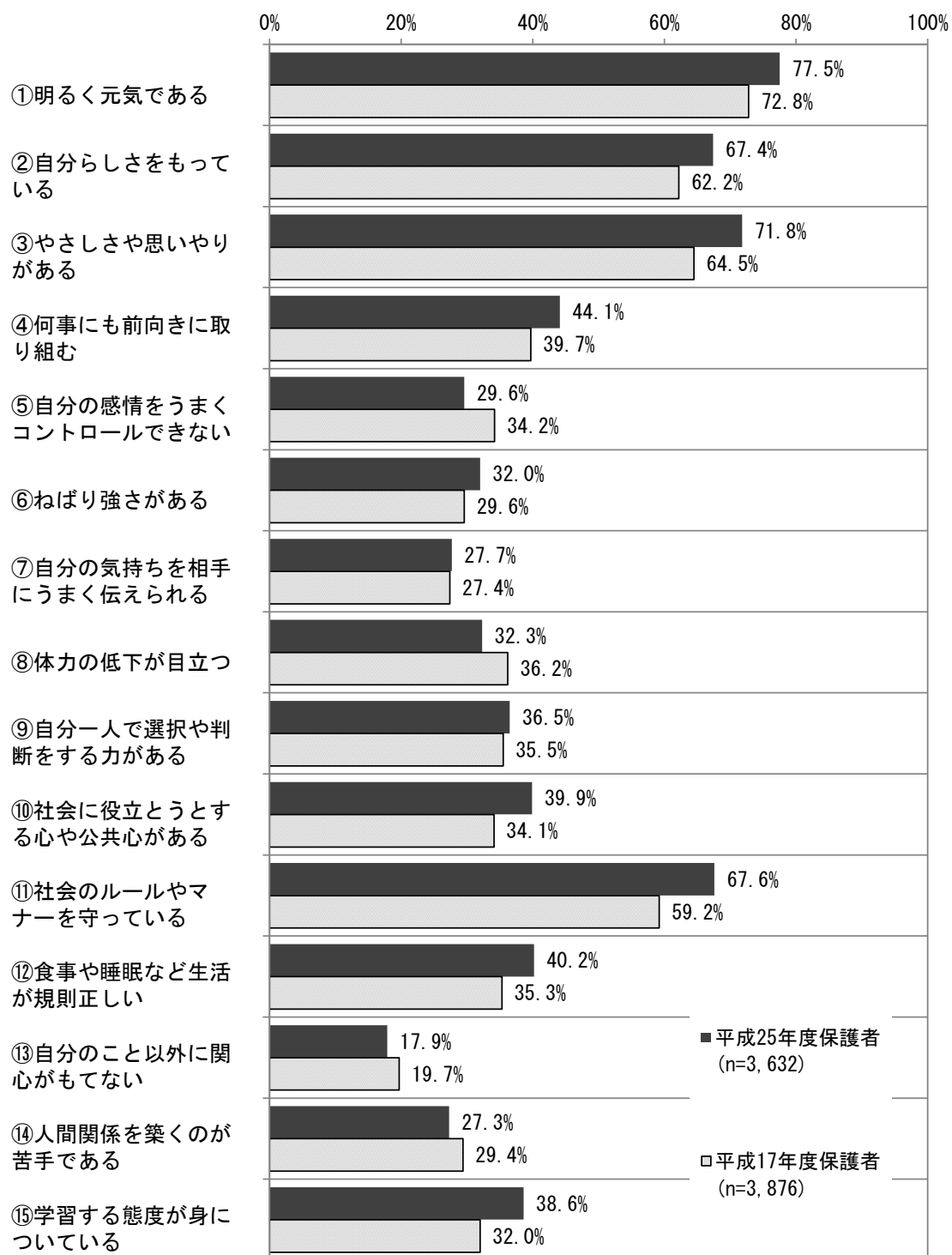


図 I-12 最近の子どもの印象 「そう思う」「どちらかというと思う」の合計(学校評議員)

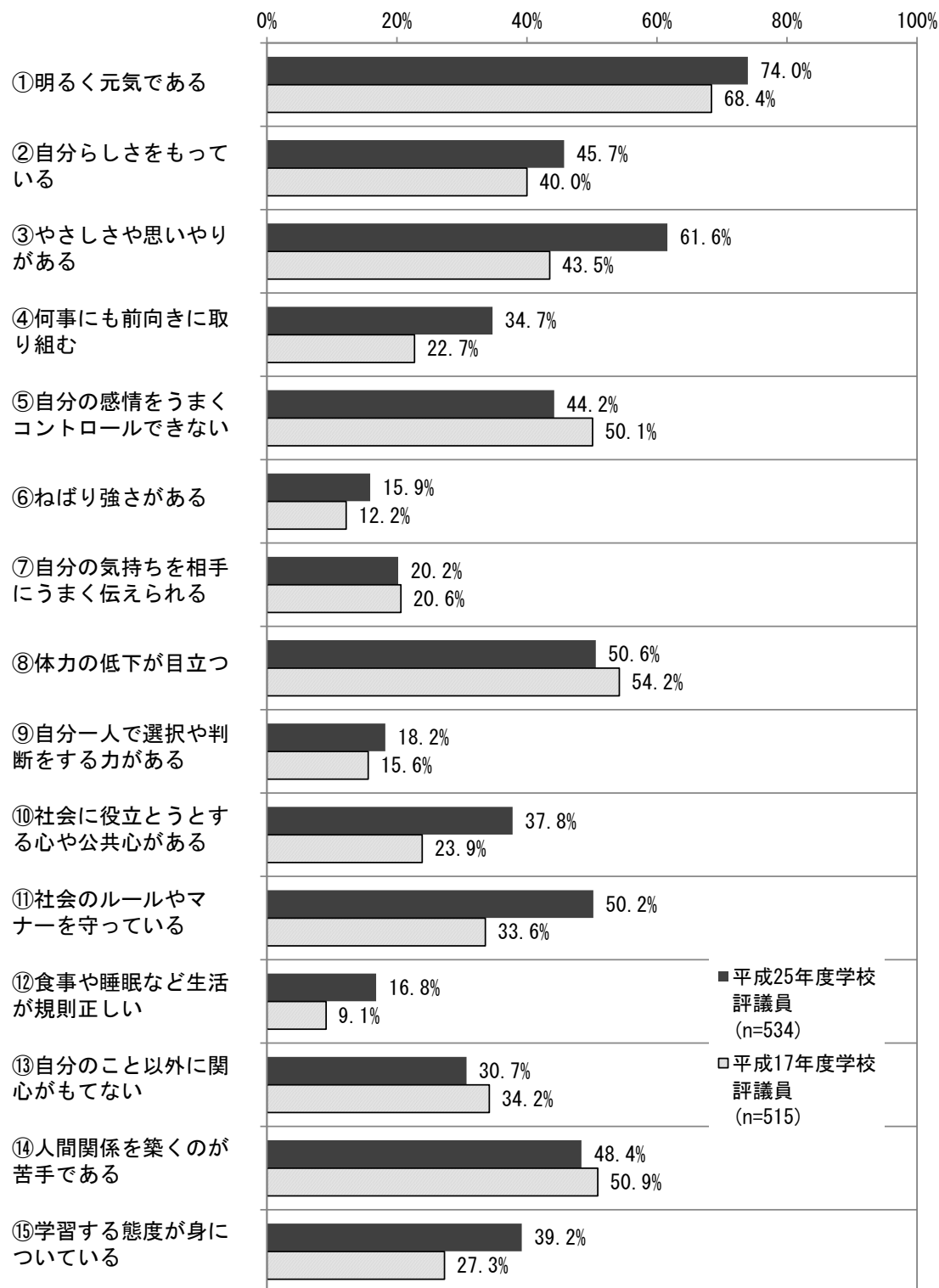


図 I-13 最近の子どもの印象 「そう思う」「どちらかというと思う」の合計(一般県民)

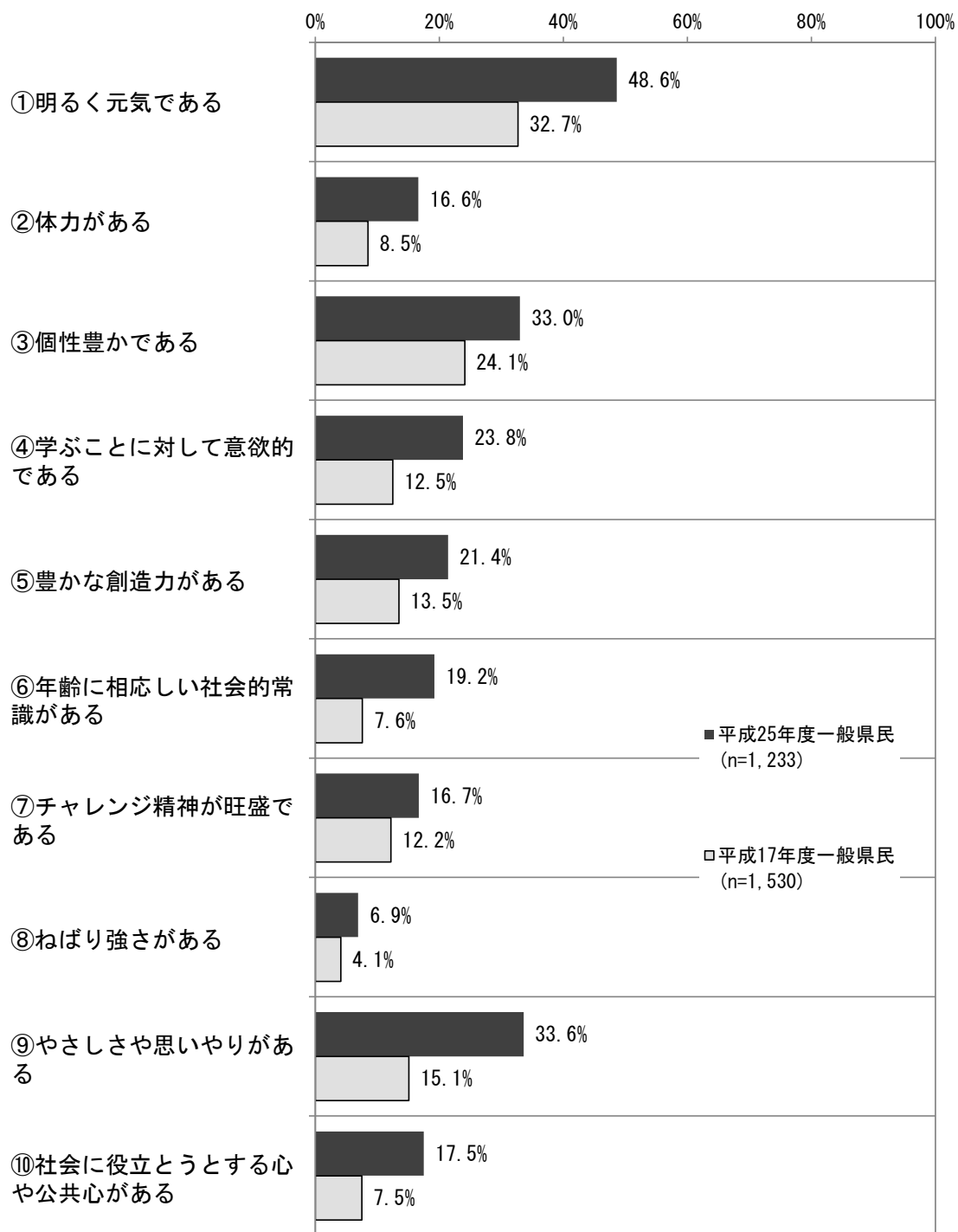


図 I-14 自分自身について 「そう思う」(小中高生合計)

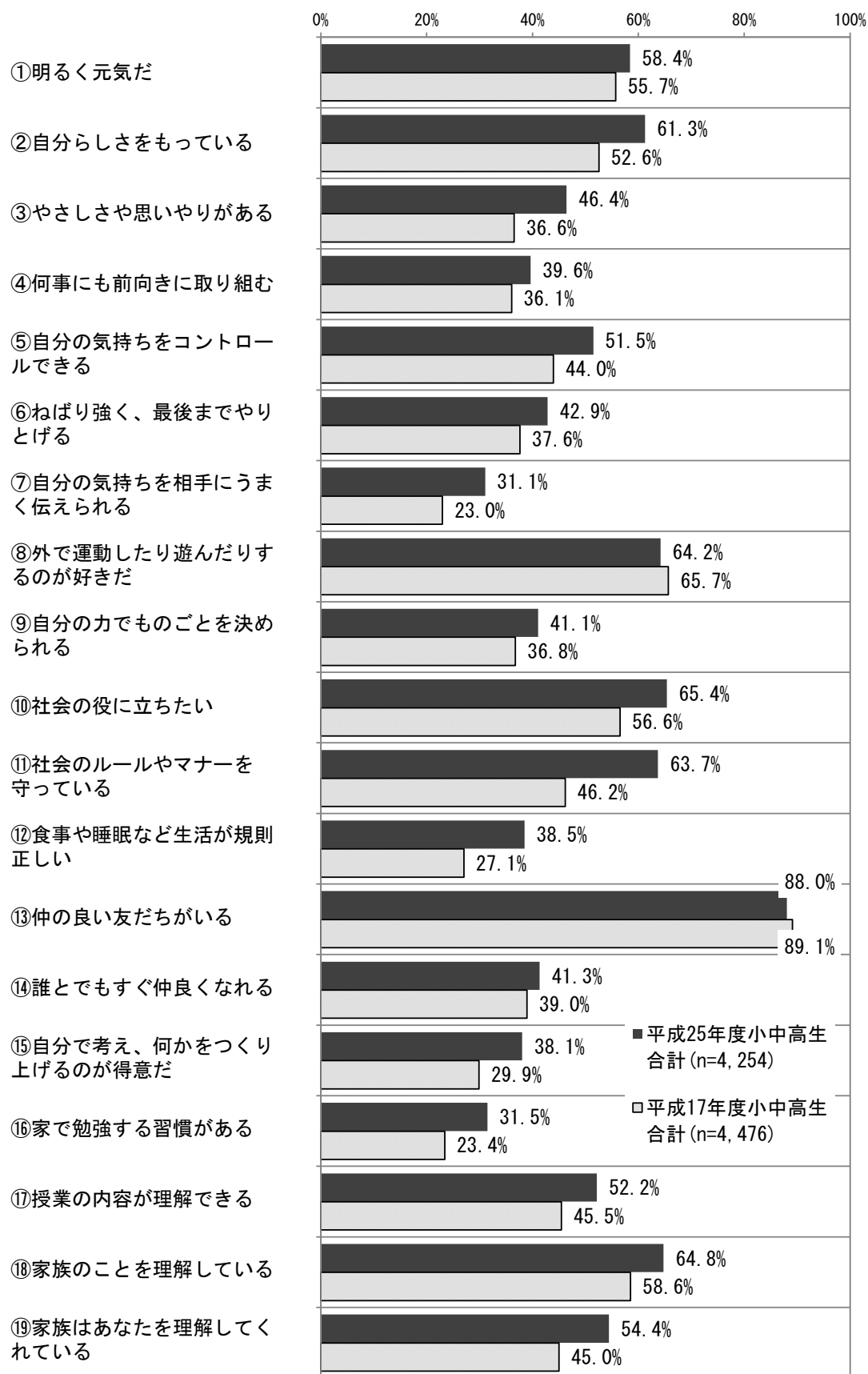


図 I-15 自分自身について 「そう思う」(小学生 n=1,254)

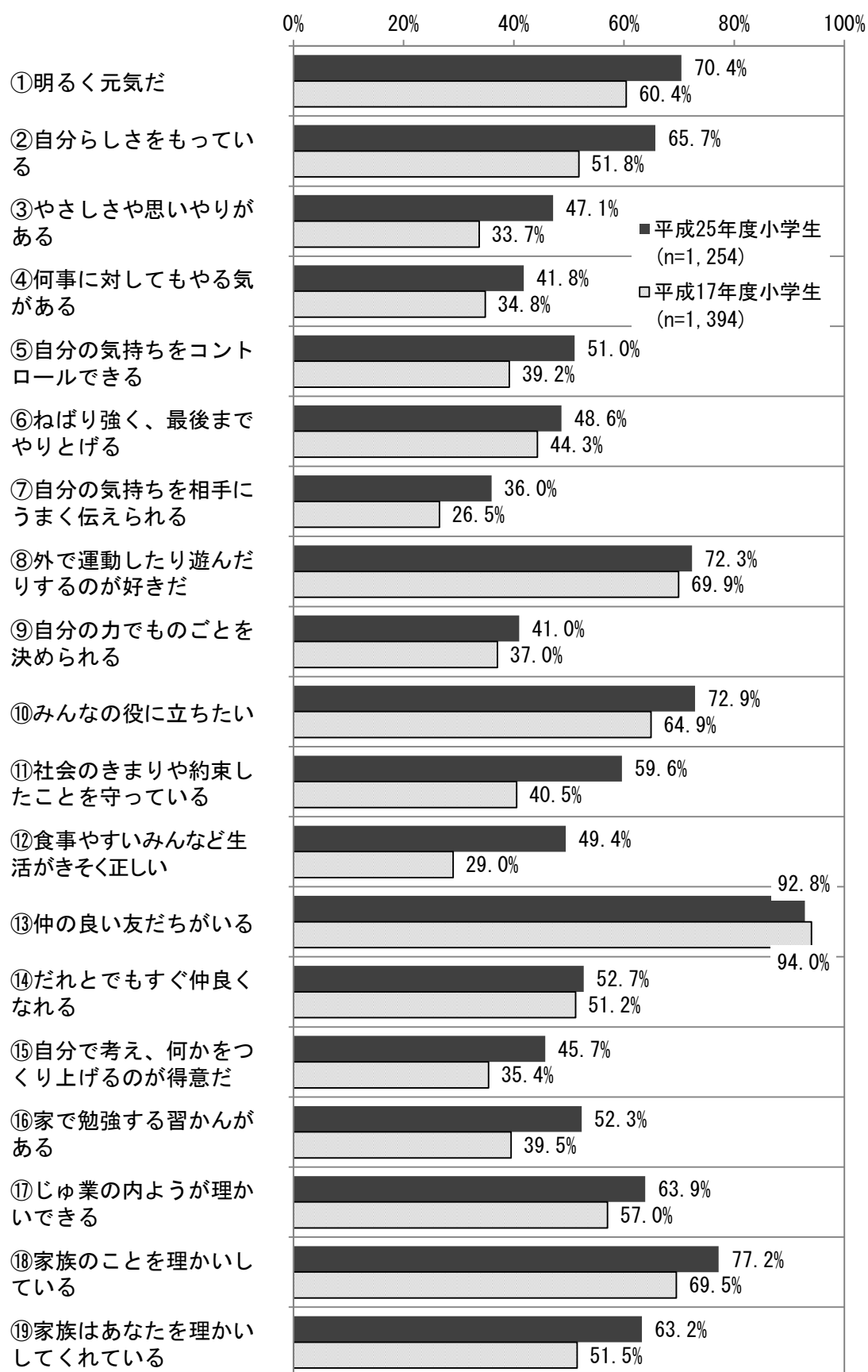


図 I-16 自分自身について 「そう思う」(中学生 n=1,316)

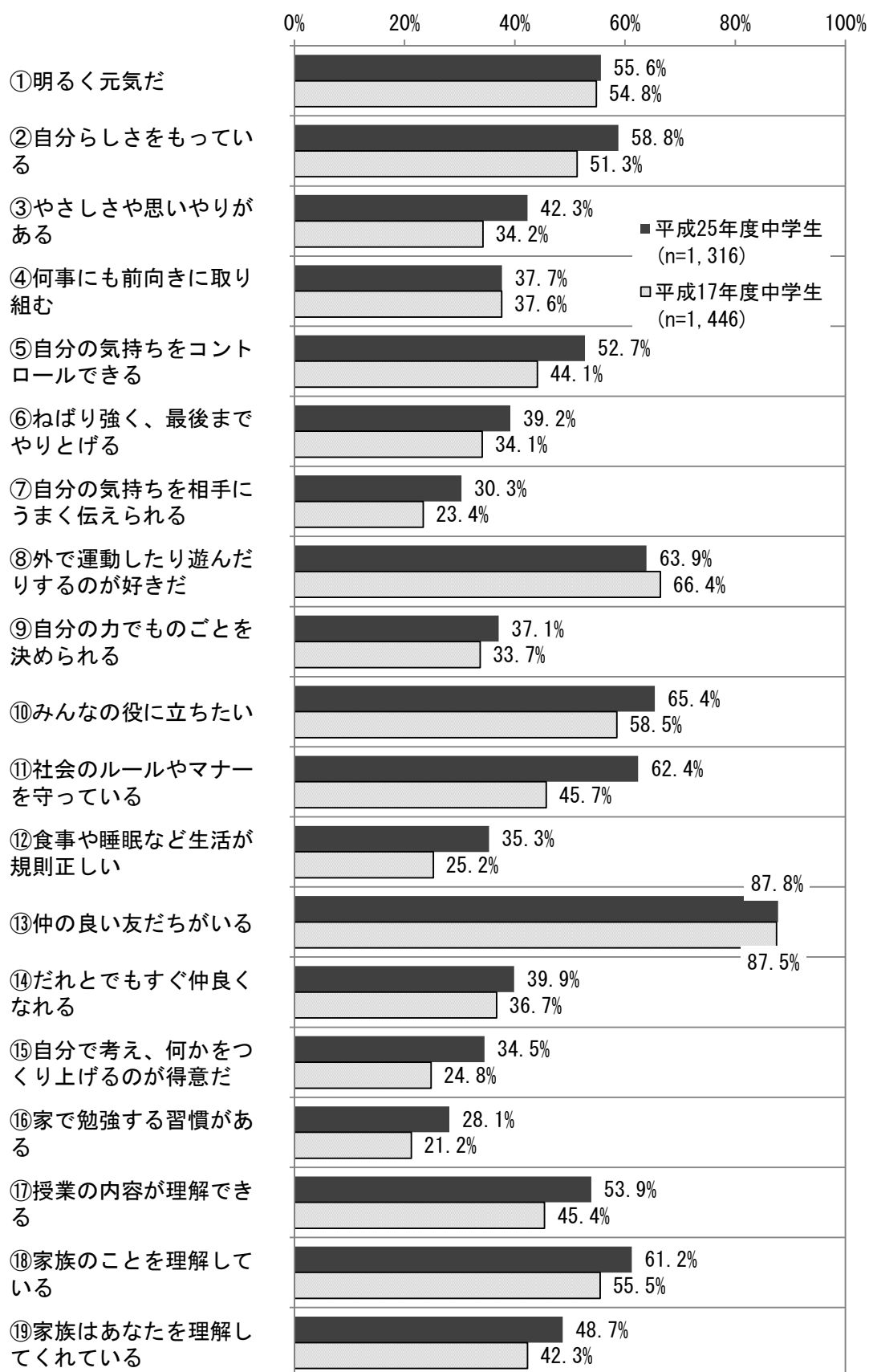


図 I-17 自分自身について 「そう思う」(高校生 n=1,684)

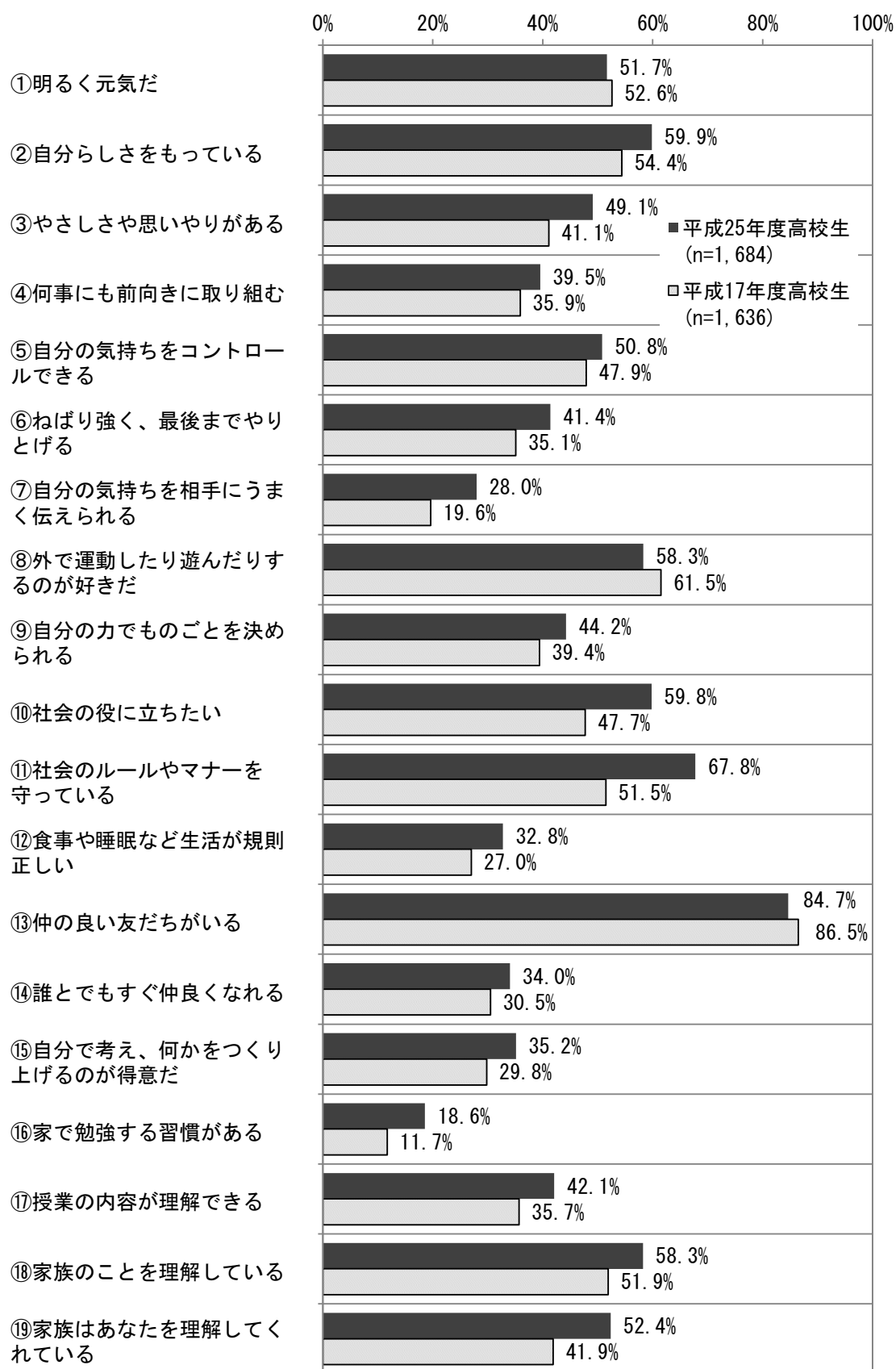
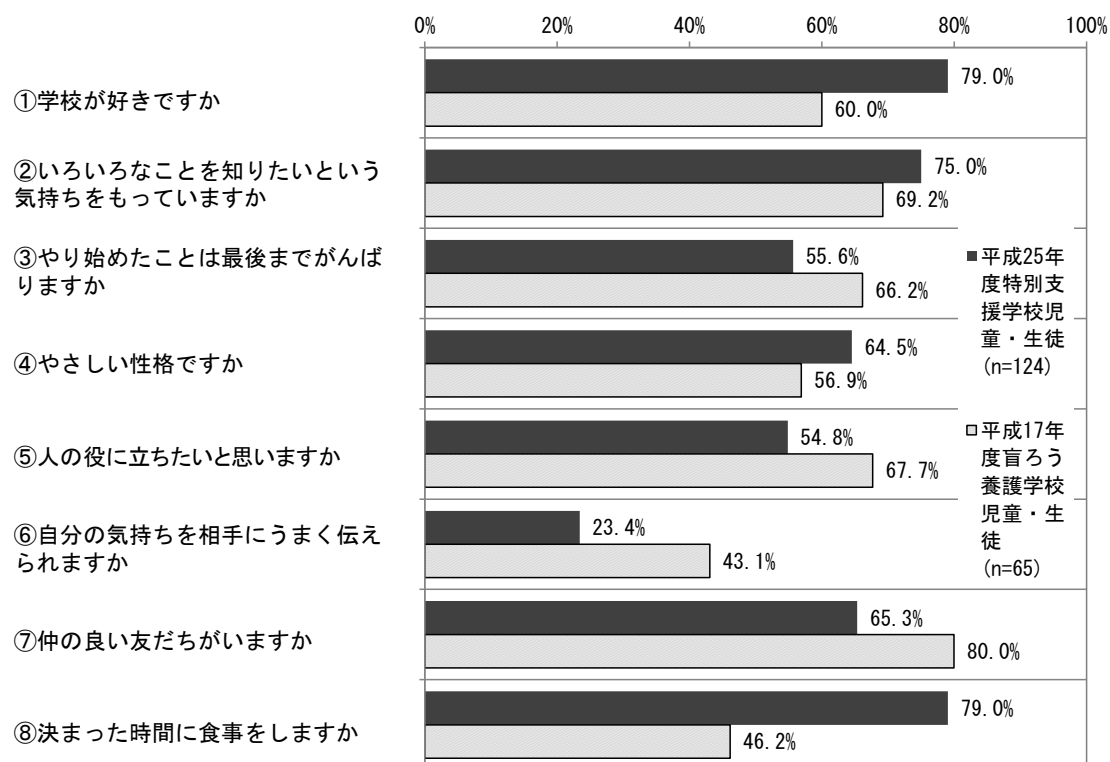


図 I-18 自分自身について 「はい」(特別支援学校児童・生徒 n=65)



I-2 子どもに影響を与えている存在、自分とかかわりの深いもの

保護者に『子どもに影響を与えている存在』を聞いたところ、いずれの校種に子をもつ場合にも、「親」と回答する割合が最も高い。次いで、小中高の保護者では「友人」、特別支援学校の保護者では「学校の教員」をあげ、3番目に割合が高かったのは小学校と特別支援学校では「兄弟姉妹」、中学校と高等学校では「携帯電話やスマートフォン」であった。

児童・生徒に『自分とかかわりの深いもの』を聞いたところ、小学生は「家族」、「友人」、「ゲーム」の順に回答の割合が高く、中高生ではともに「友人や先輩」、「家族」、「携帯電話やスマートフォン」の順であった。特別支援学校児童・生徒では、「家族」、「テレビ」、「本」の回答の割合が高かった。

保護者が子どもに最も影響を与えている存在としてあげている「親」の回答の割合について平成17年度調査結果と比較したところ、小学校保護者の回答は平成25年度調査では93.9%、平成17年度調査では83.9%であり、中学校保護者の回答は平成25年度調査では86.4%であり、平成17年度調査では75.2%であった。高等学校保護者の回答は平成25年度調査では82.2%であり、平成17年度調査では71.3%であった。特別支援学校保護者の回答は平成25年度調査では83.1%であり、平成17年度調査では73.1%であった。

児童・生徒が考える『自分とかかわりの深いもの』を平成17年度調査結果と比較すると、小学生の最も回答の割合の高かったのはいずれも「家族」であり、平成25年度調査では88.8%、平成17年度調査では83.3%であった。中高生の回答で最も多かった「友人や先輩」については、平成25年度調査では中学生71.8%、高校生76.0%であり、平成17年度調査では中学生76.9%、高校生81.0%であった。特別支援学校児童・生徒の回答で最も多かった「家族」は平成25年度調査では78.2%、平成17年度調査では53.8%であった。

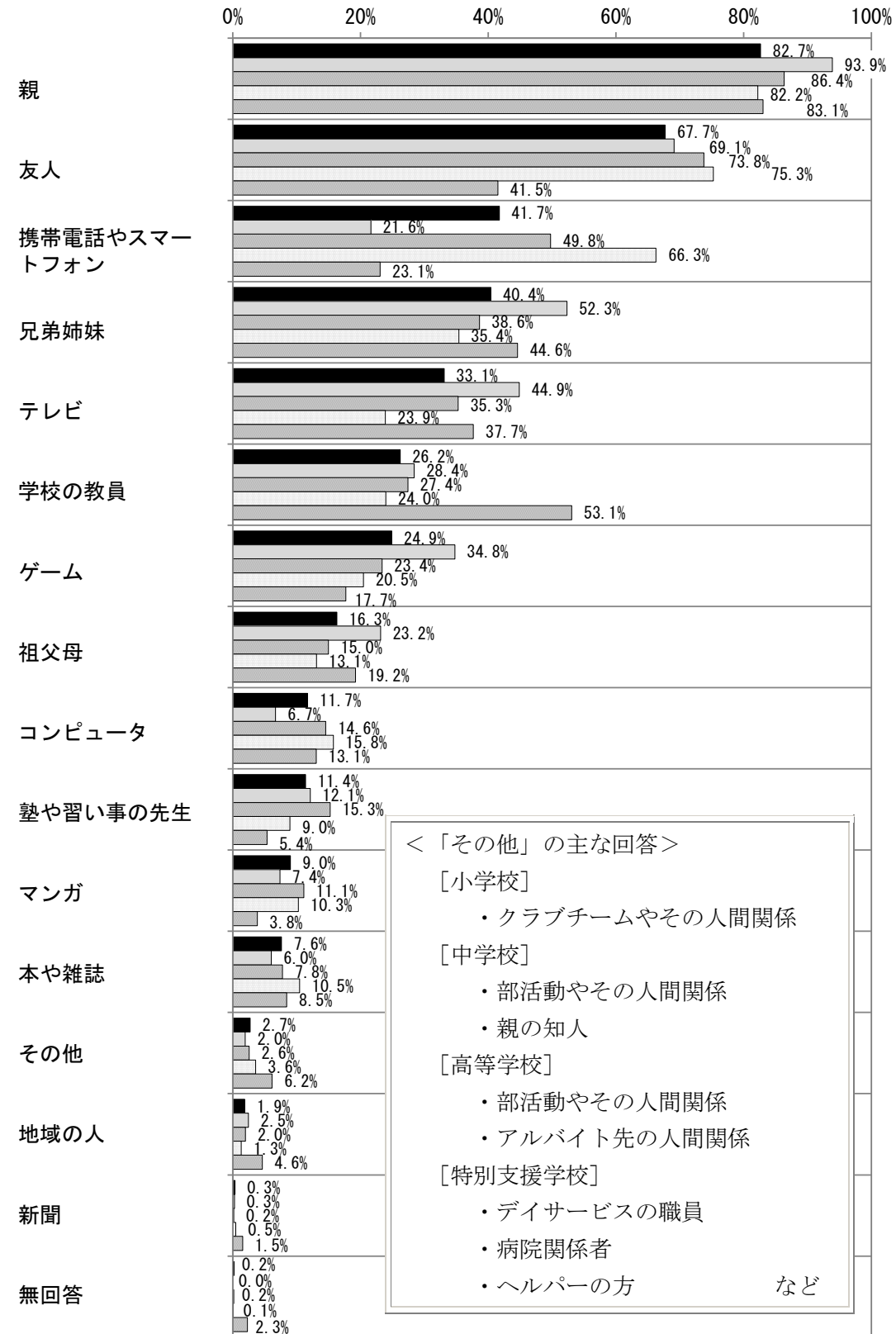
『子どもに影響を与えている存在』を保護者に聞いたところ、いずれの校種においても「親」と回答する割合が最も高かった(保護者(小):93.9%、保護者(中):86.4%、保護者(高):82.2%、保護者(特):83.1%)。次いで、小中高の保護者では「友人」(保護者(小):69.1%、保護者(中):73.8%、保護者(高):75.3%)、特別支援学校の保護者では「学校の教員」(53.1%)の割合が高く、3番目に割合が高かったのは小学校と特別支援学校では「兄弟姉妹」(保護者(小):52.3%、保護者(特):44.6%)であり、中学校と高等学校では「携帯電話やスマートフォン」(保護者(中):49.8%、保護者(高):63.3%)であった。

『自分とかかわりの深いもの』を児童・生徒に聞いたところ、小学生は「家族」(88.8%)、「友人」(76.2%)、「ゲーム」(29.6%)の順に回答の割合が高く、中高生ではともに「友人や先輩」(中学生:71.8%、高校生:76.0%)、「家族」(中学生:68.7%、高校生:66.1%)、「携帯電話やスマートフォン」(中学生:33.1%、高校生:47.0%)の順に回答の割合が高かった。特別支援学校児童・生徒では、「家族」(78.2%)、「テレビ」(44.4%)、「本」(33.1%)の回答の割合が高かった。(表I-5、図I-19~21 参照)

表 I-5 子どもに影響を与えている存在、自分とかかわりの深いもの(上位5項目)

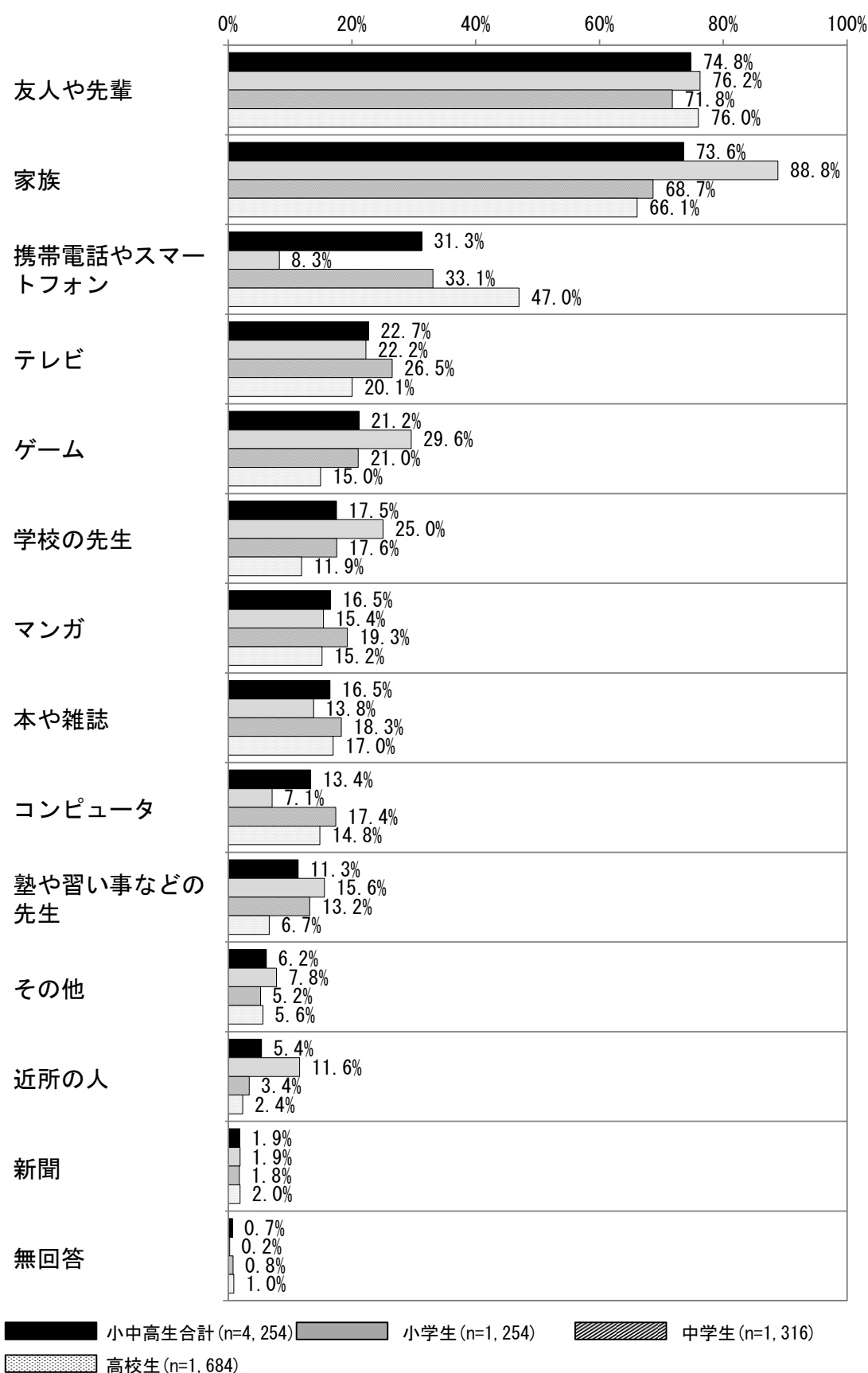
	子どもに影響を与えている存在				自分とかかわりの深いもの		
	保護者				児童・生徒		
	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	小学校	中学校	高等学校
1位	親	親	親	親	家族	友人や先輩	友人や先輩
	93.9%	86.4%	82.2%	83.1%	88.8%	71.8%	76.0%
2位	友人	友人	友人	学校の教員	友人	家族	家族
	69.1%	73.8%	75.3%	53.1%	76.2%	68.7%	66.1%
3位	兄弟姉妹	携帯電話やスマートフォン	携帯電話やスマートフォン	兄弟姉妹	ゲーム	携帯電話やスマートフォン	携帯電話やスマートフォン
	52.3%	49.8%	66.3%	44.6%	29.6%	33.1%	47.0%
4位	テレビ	兄弟姉妹	兄弟姉妹	友人	学校の先生	テレビ	テレビ
	44.9%	38.6%	35.4%	41.5%	25.0%	26.5%	20.1%
5位	ゲーム	テレビ	学校の教員	テレビ	テレビ	ゲーム	本や雑誌
	34.8%	35.3%	24.0%	37.7%	22.2%	21.0%	17.0%

図 I-19 子どもに影響を与えている存在(保護者 n=3, 632)



保護者合計 (n=3, 632)
 保護者(小) (n=1, 179)
 保護者(中) (n=1, 167)
 保護者(高) (n=1, 059)
 保護者(特) (n=130)

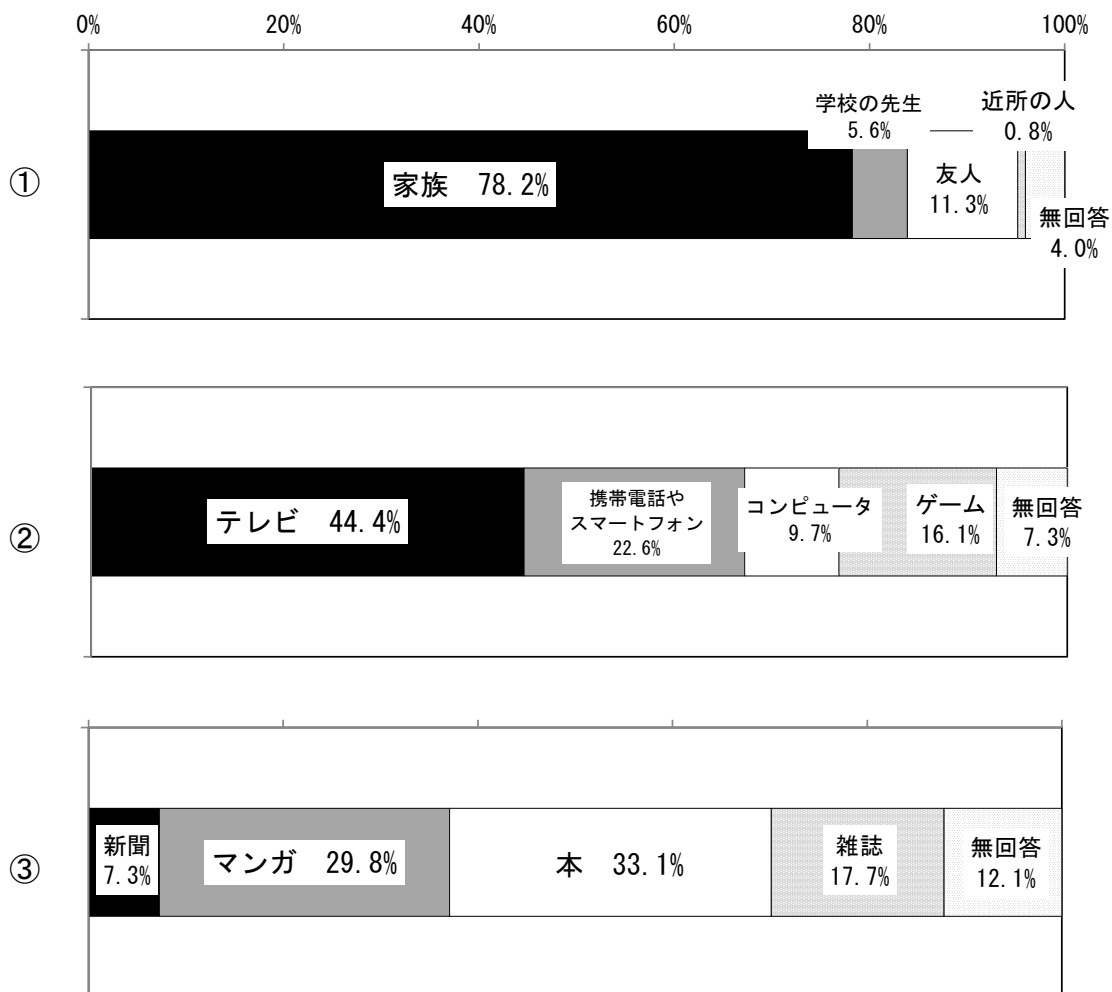
図 I-20 自分とかかわりの深いもの(小中高生 n=4, 254)



< 「その他」 の主な回答 >

- [小中高生共通] ・スポーツ ・音楽 ・親戚 ・おもちゃ (人形、カード、模型等)
- [小学生] ・ペット等の動物
- [中学生] ・ペット等の動物 ・部活動やその人間関係 ・恋人
- [高校生] ・アルバイトやその人間関係 ・部活動やその人間関係 ・恋人
など

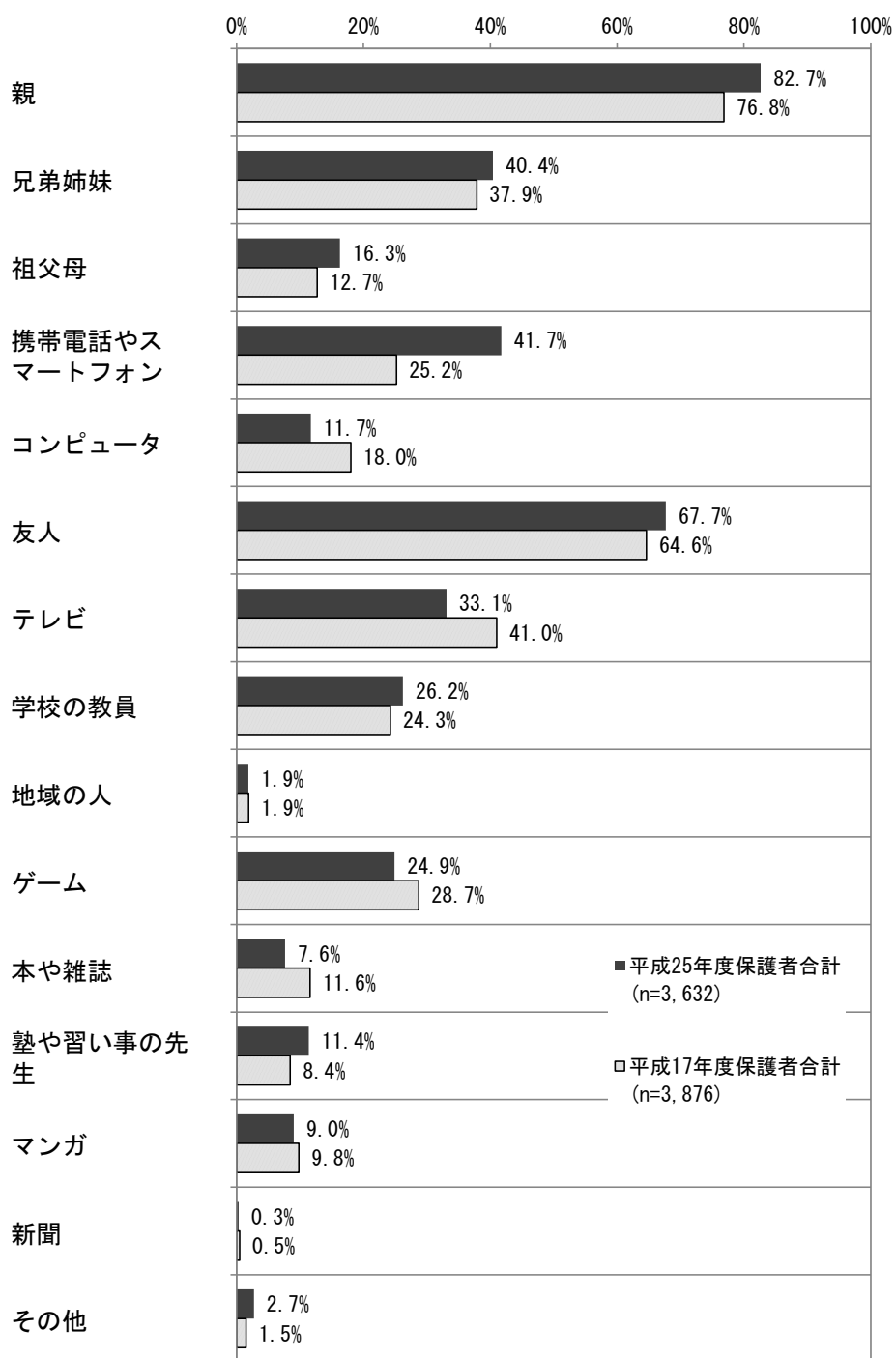
図 I-21 自分とかかわりの深いもの (特別支援学校児童・生徒 n=124)



保護者が考える『子どもに影響を与えている存在』を平成 17 年度調査結果と比較すると、小学校保護者の回答は平成 25 年度調査では「親」(93.9%)、「友人」(69.1%)、「兄弟姉妹」(52.3%)であり、平成 17 年度調査では「親」(83.9%)、「友人」(61.1%)、「テレビ」(49.5%)であった。中学校保護者の回答は平成 25 年度調査では「親」(86.4%)、「友人」(73.8%)、「携帯電話やスマートフォン」(49.8%)であり、平成 17 年度調査では「親」(75.2%)、「友人」(66.5%)、「テレビ」(39.4%)であった。高等学校保護者の回答は平成 25 年度調査では「親」(82.2%)、「友人」(75.3%)、「携帯電話やスマートフォン」(66.3%)であり、平成 17 年度調査では「親」(71.3%)、「友人」(67.0%)、「携帯電話」(37.6%)であった。特別支援学校保護者の回答は平成 25 年度調査では「親」(83.1%)、「学校の教員」(53.1%)、「兄弟姉妹」(44.6%)であり、平成 17 年度調査では「親」(71.7%)、「テレビ」(52.8%)、「友人」(50.9%)であった。

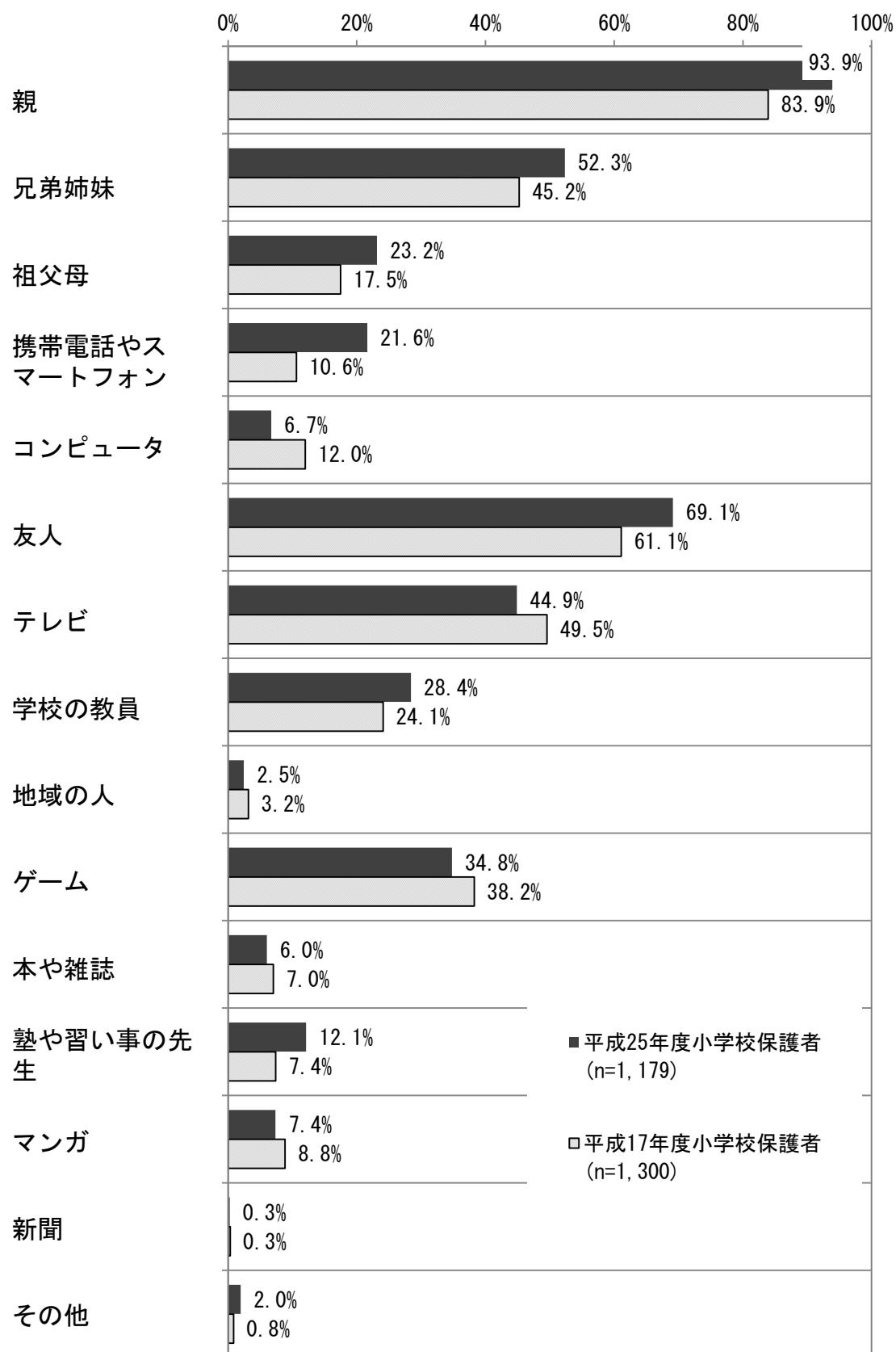
児童・生徒が考える『自分とかかわりの深いもの』を平成 17 年度調査結果と比較すると、小学生の回答は平成 25 年度調査では「家族」(88.8%)、「友人」(76.2%)、「ゲーム」(29.6%)であり、平成 17 年度調査では「家族」(83.3%)、「友人」(76.1%)、「テレビ」(28.2%)であった。中学生の回答は平成 25 年度調査では「友人や先輩」(71.8%)、「家族」(68.7%)、「携帯電話やスマートフォン」(33.1%)であり、平成 17 年度調査では「友人や先輩」(76.9%)、「家族」(62.2%)、「携帯電話」(35.7%)であった。高校生の回答は平成 25 年度調査では「友人や先輩」(76.0%)、「家族」(66.1%)、「携帯電話やスマートフォン」(47.0%)であり、平成 17 年度調査では「友人や先輩」(81.0%)、「家族」(58.7%)、「携帯電話」(46.6%)であった。特別支援学校児童・生徒の回答は平成 25 年度調査では「家族」(78.2%)、「テレビ」(44.4%)、「本」(33.1%)であり、平成 17 年度調査では「家族」(53.8%)、「マンガ」(53.8%)、「友人」(33.8%)、「テレビ」(33.8%)であった。(図 I-22～31 参照)

図 I-22 子どもに影響を与えている存在(保護者)



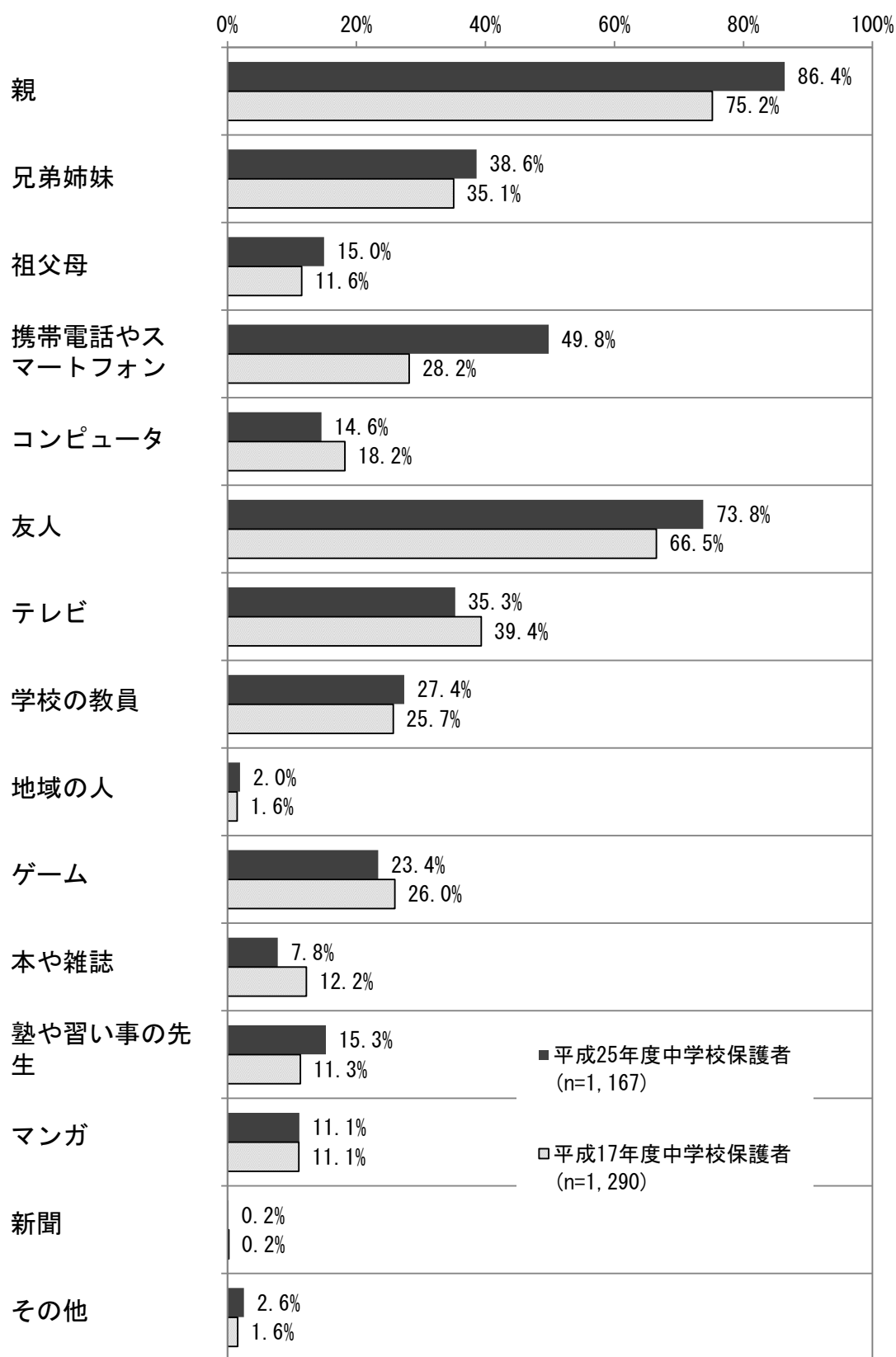
※ 「携帯電話やスマートフォン」・・・平成 17 年度調査 「携帯電話」
 「コンピュータ」・・・平成 17 年度調査 「インターネット」

図 I-23 子どもに影響を与えている存在(保護者：小学校)



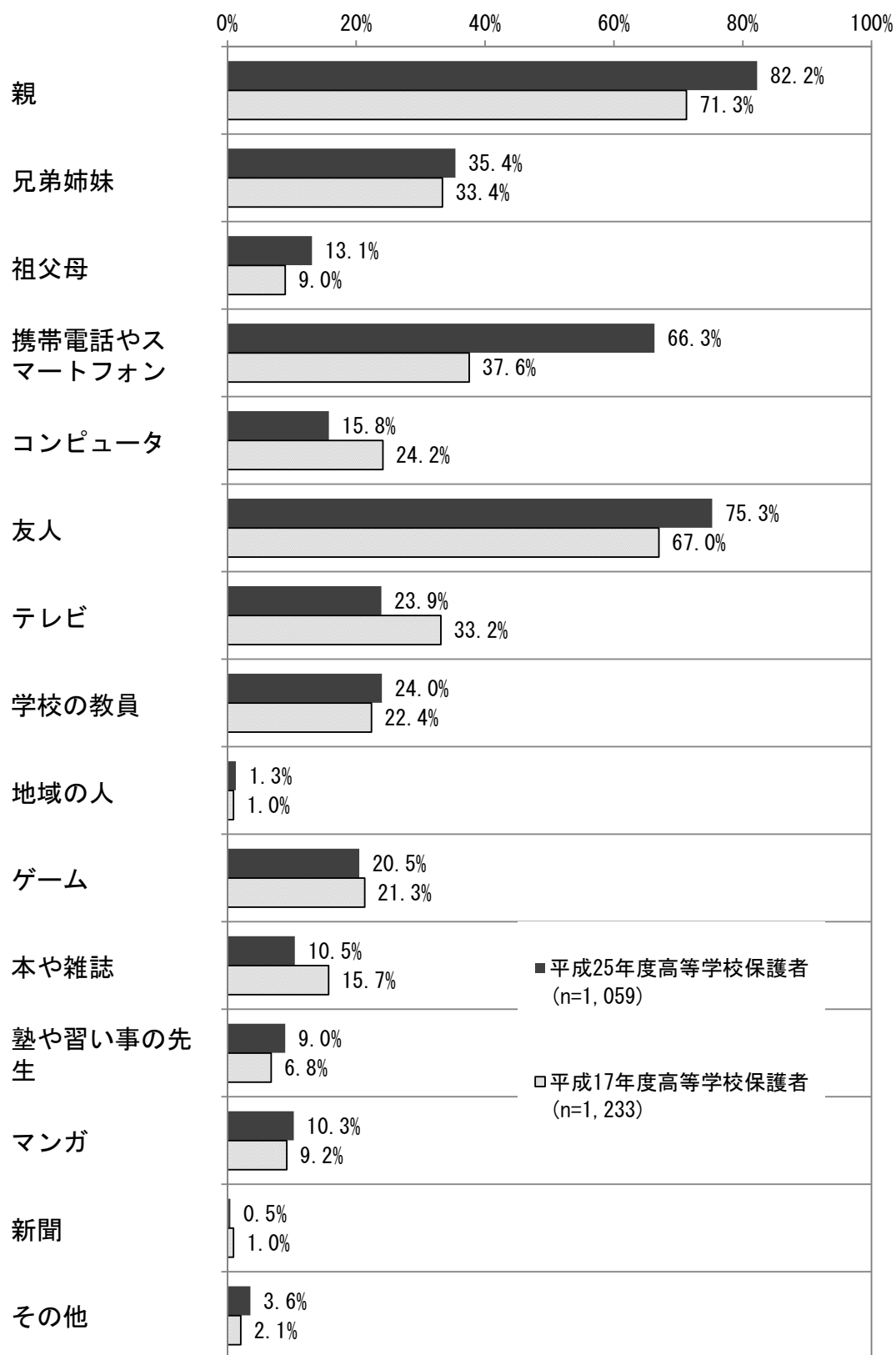
※「携帯電話やスマートフォン」・・・平成17年度調査 「携帯電話」
 「コンピュータ」・・・平成17年度調査 「インターネット」

図 I-24 子どもに影響を与えている存在(保護者：中学校)



※ 「携帯電話やスマートフォン」・・・平成17年度調査 「携帯電話」
 「コンピュータ」・・・平成17年度調査 「インターネット」

図 I-25 子どもに影響を与えている存在(保護者：高等学校)



※「携帯電話やスマートフォン」・・・平成17年度調査 「携帯電話」
 「コンピュータ」・・・平成17年度調査 「インターネット」

図 I-26 子どもに影響を与えている存在(保護者：特別支援学校)

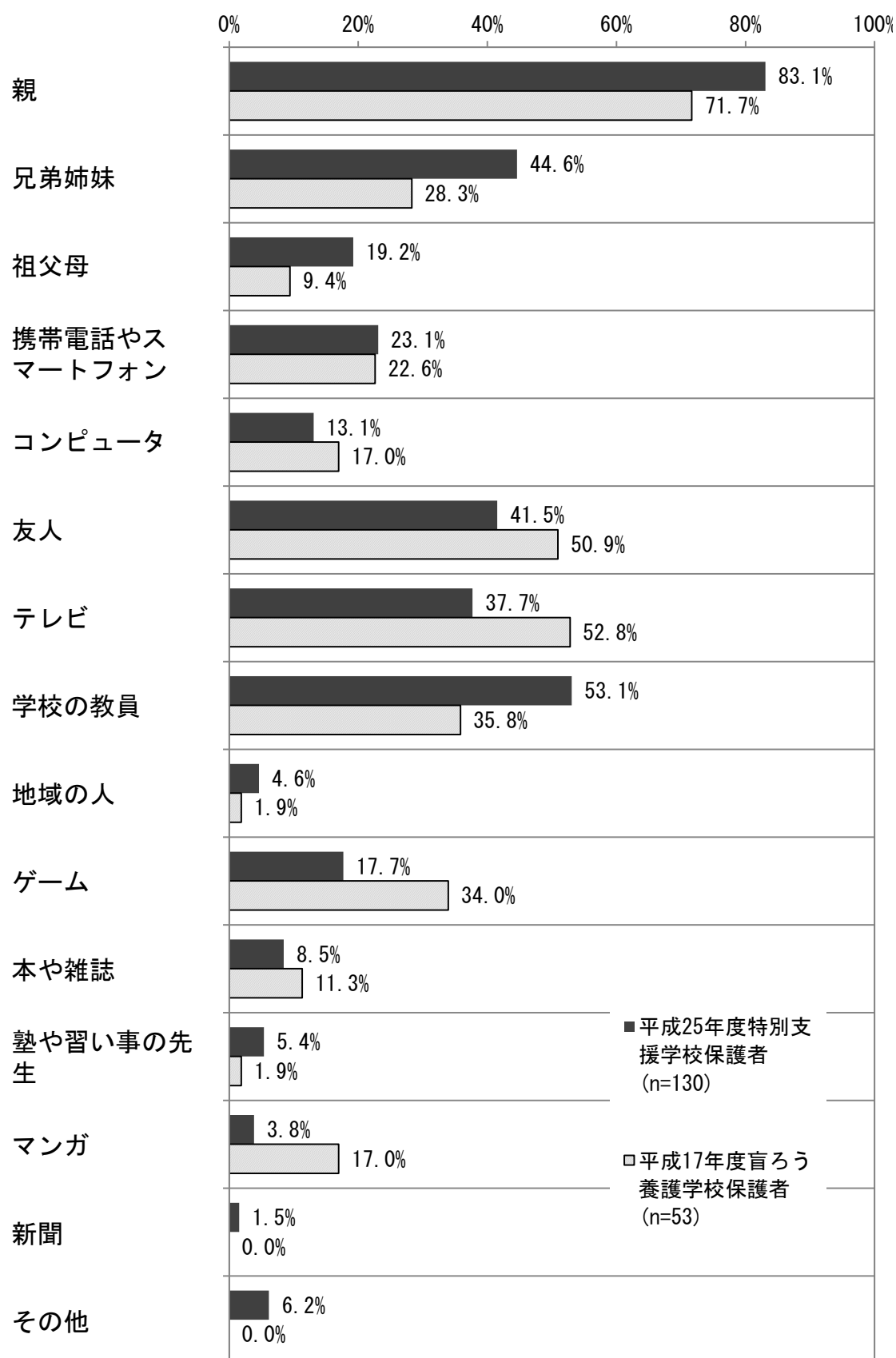
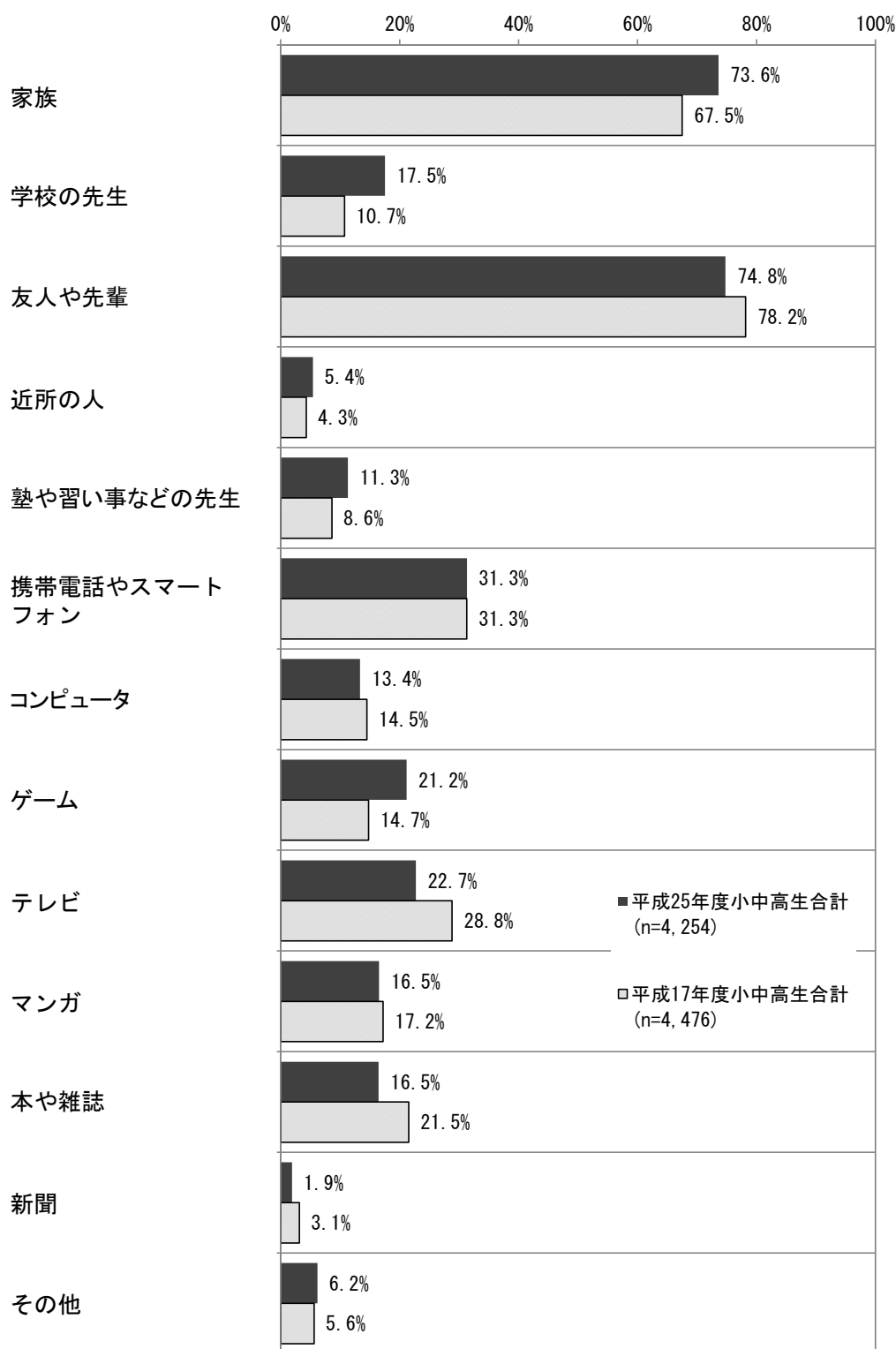
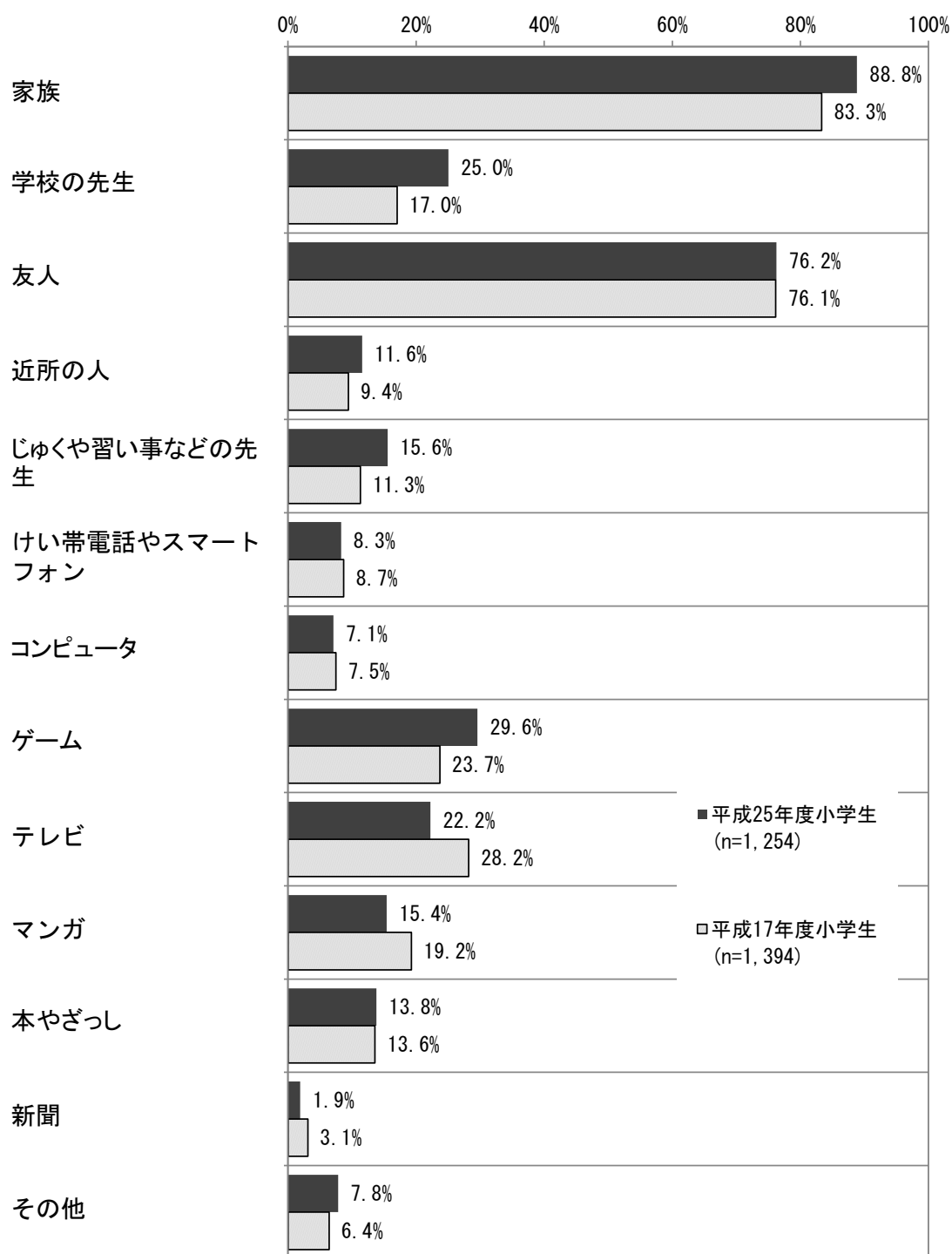


図 I-27 自分とかかわりの深いもの(児童・生徒 小中高生合計)



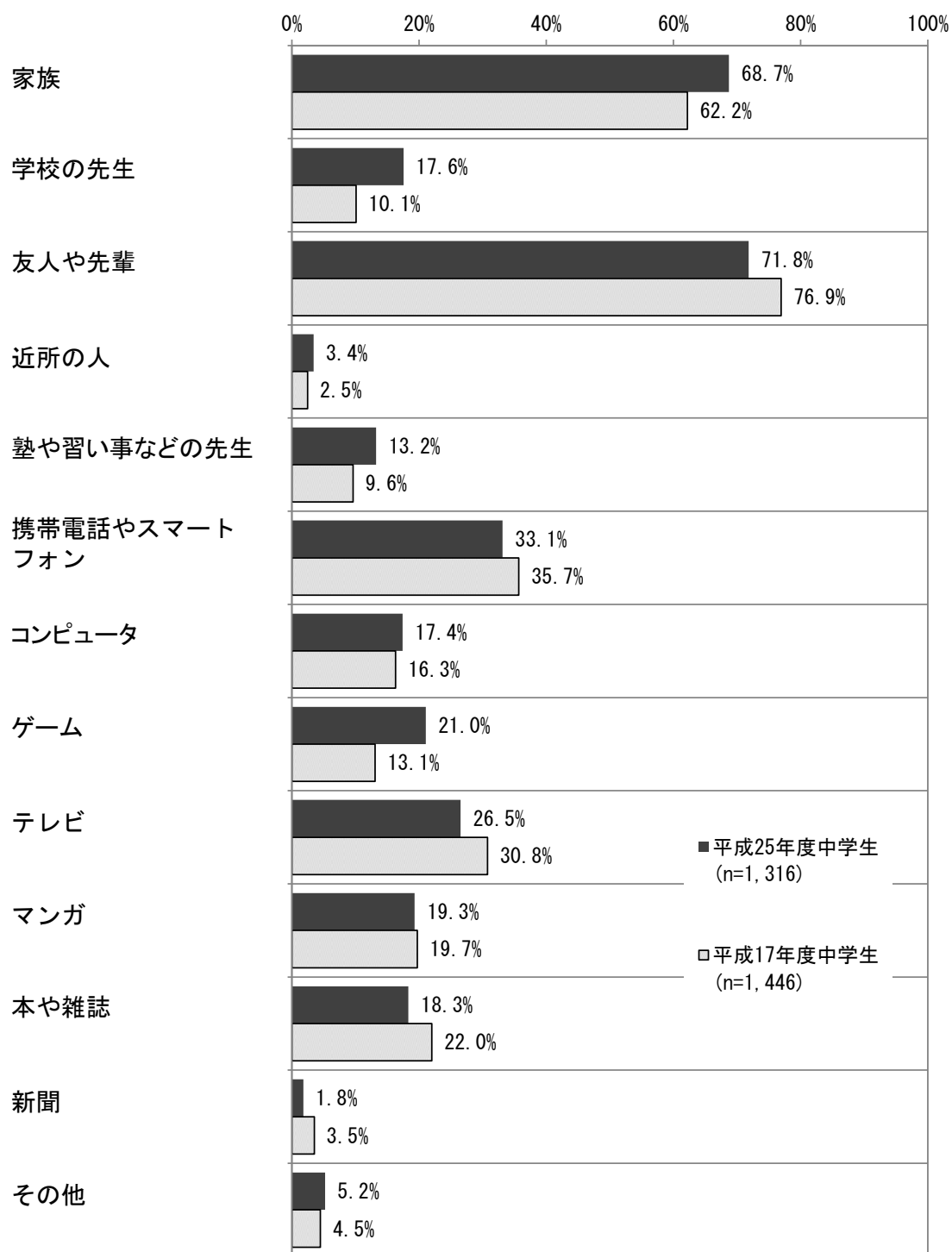
※ 「携帯電話やスマートフォン」・・・平成 17 年度調査 「携帯電話」
 「コンピュータ」・・・平成 17 年度調査 「インターネット」

図 I-28 自分とかかわりの深いもの(小学生)



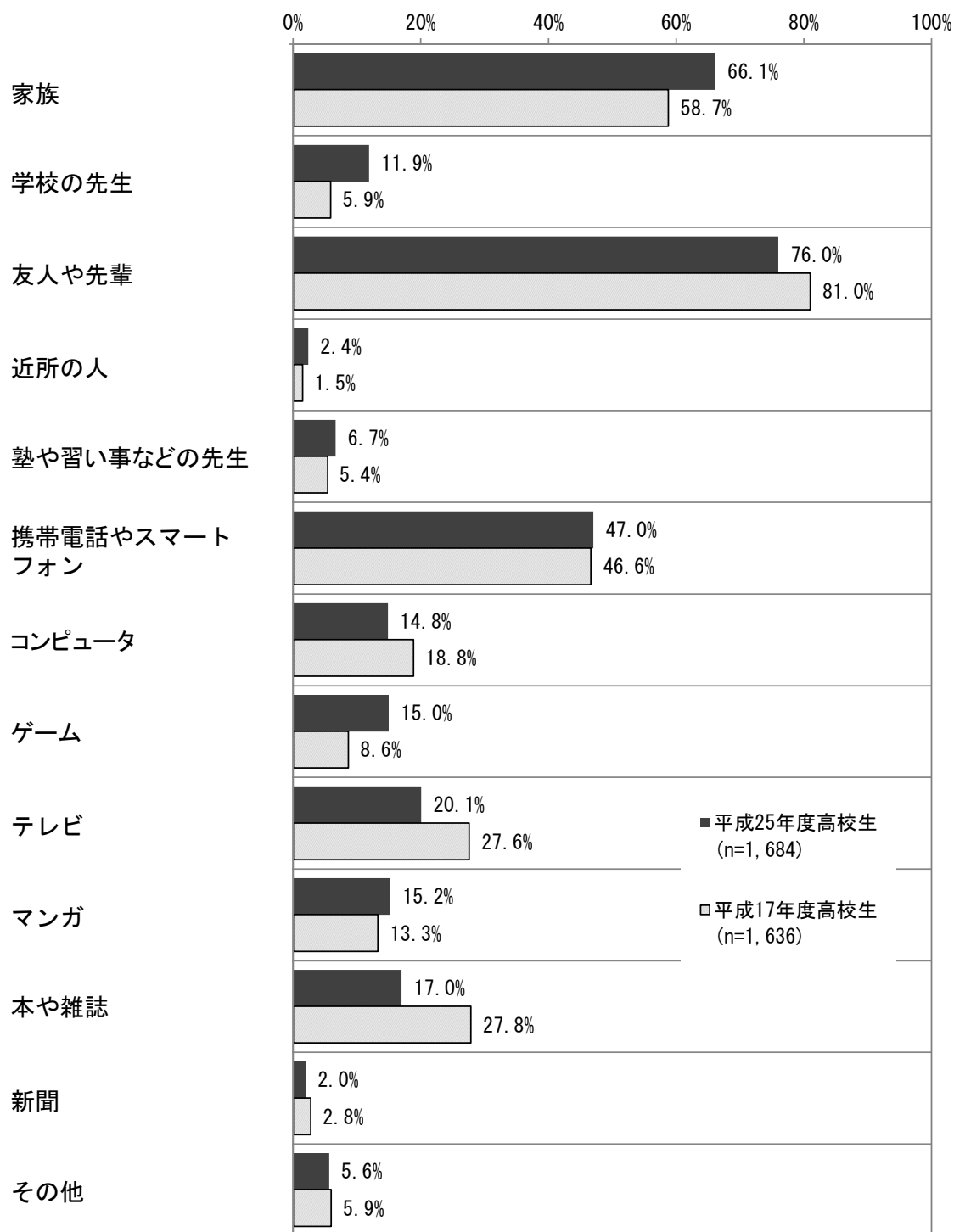
※ 「けい帯電話やスマートフォン」・・・平成 17 年度調査 「携帯電話」
 「コンピュータ」・・・・・・平成 17 年度調査 「インターネット」

図 I-29 自分とかかわりの深いもの(中学生)



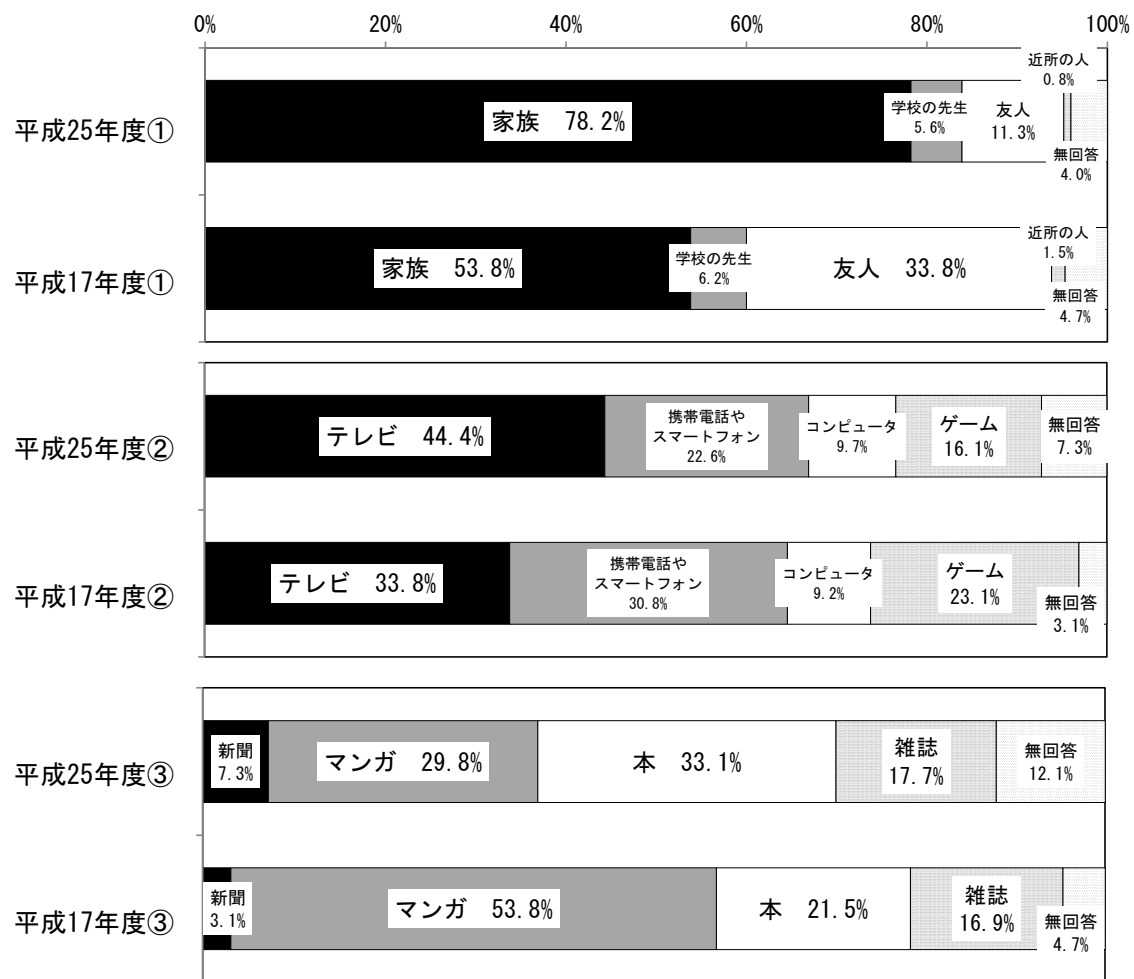
※「携帯電話やスマートフォン」・・・平成17年度調査 「携帯電話」
 「コンピュータ」・・・平成17年度調査 「インターネット」

図 I-30 自分とかかわりの深いもの(高校生)



※ 「携帯電話やスマートフォン」・・・平成 17 年度調査 「携帯電話」
 「コンピュータ」・・・平成 17 年度調査 「インターネット」

図 I-31 自分とかかわりの深いもの(特別支援学校児童・生徒 平成25年度 n=124、平成17年度 n=65)



I-3 夢中になれるとき

小中高生には「夢中になれる、充実感を感じられるとき」を、特別支援学校児童・生徒には「楽しいと感じるとき」についてそれぞれ聞いたところ、小中学生は「友だちと遊んだり、話したりしているとき」、「趣味など自分の好きなことをしているとき」、「スポーツをしているとき」の順に、高校生では「趣味など自分の好きなことをしているとき」、「友だちと遊んだり、話したりしているとき」、「スポーツをしているとき」の順に回答の割合が高くなっている。また、特別支援学校児童・生徒では、「自分の好きなことをしているとき」、「友だちといっしょにいるとき」、「好きな先生の授業を受けているとき」と「スポーツをしているとき」の順に回答の割合が高くなっている。

小中高生が考える『夢中になれるとき』について平成17年度調査結果と比較すると、小中学生の回答で最も割合が高かったのはいずれの調査においても「友だちと遊んだり、話したりしているとき」であり、平成25年度調査では小学生：64.6%、中学生：71.5%であり、平成17年度調査では小学生：71.7%、中学生：73.9%であった。高校生の回答は平成25年度調査では「趣味など自分の好きなことをしているとき」(73.2%)であり、平成17年度調査では「友だちと遊んだり、話したりしているとき」(74.4%)であった。特別支援学校児童・生徒の回答は平成25年度調査では「自分の好きなことをしているとき」(75.0%)であり、平成17年度調査では「友だちといっしょにいるとき」(69.2%)であった。

『夢中になれるとき』について児童・生徒に聞いたところ、小中学生は「友だちと遊んだり、話したりしているとき」(小学生：64.6%、中学生：71.5%)、「趣味など自分の好きなことをしているとき」(小学生：60.4%、中学生：69.9%)、「スポーツをしているとき」(小学生：43.3%、中学生：44.2%)の順に回答の割合が高く、高校生では「趣味など自分の好きなことをしているとき」(73.2%)、「友だちと遊んだり、話したりしているとき」(70.5%)、「スポーツをしているとき」(38.4%)の順となっている。

『楽しいと感じるとき』について特別支援学校児童・生徒に聞いたところ、「自分の好きなことをしているとき」(75.0%)、「友だちといっしょにいるとき」(53.2%)、「好きな先生の授業を受けているとき」(33.1%)、「スポーツをしているとき」(33.1%)の順に回答の割合が高くなっている。(図 I-32, 33 参照)

図 I-32 夢中になれるとき(小中高生)

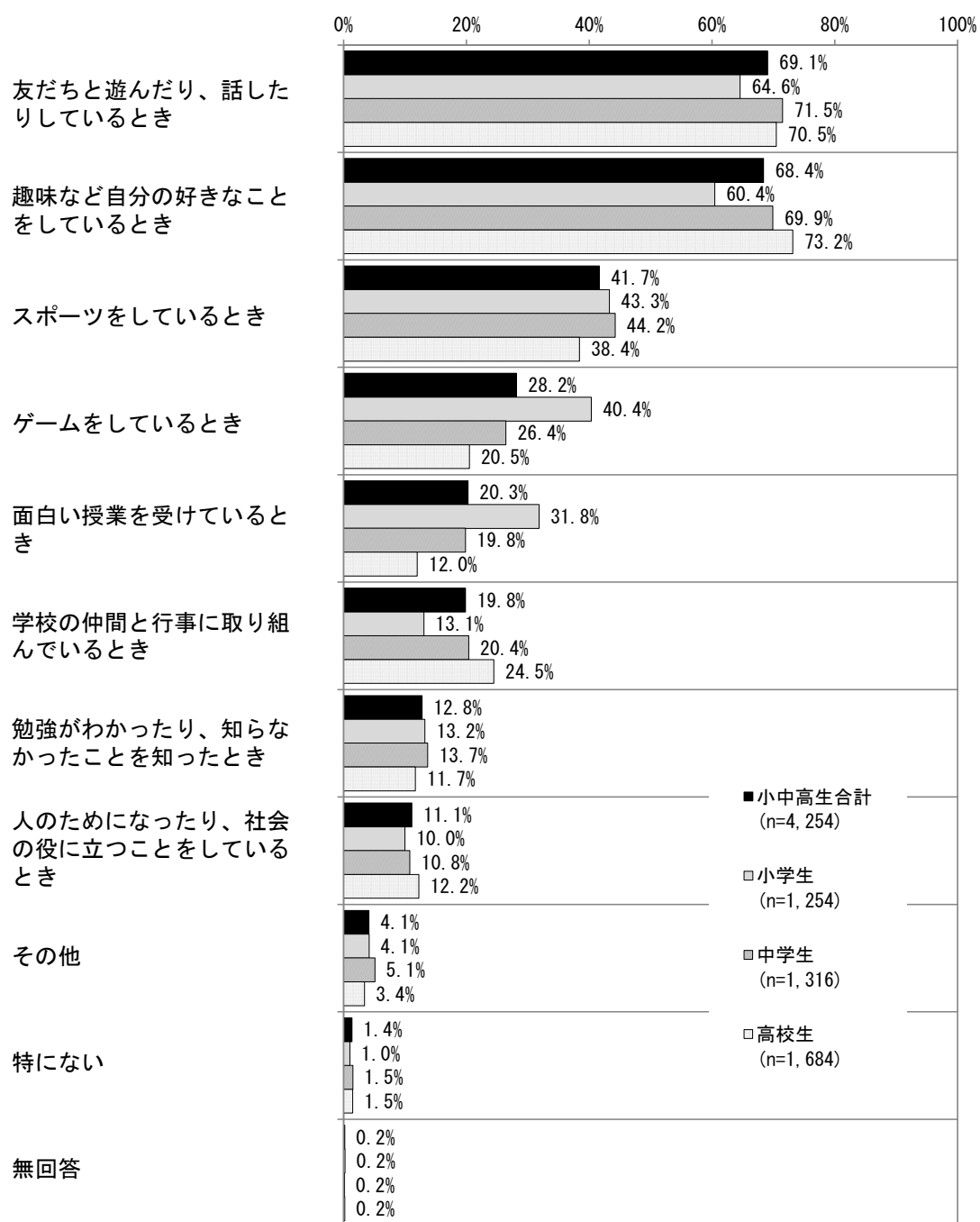
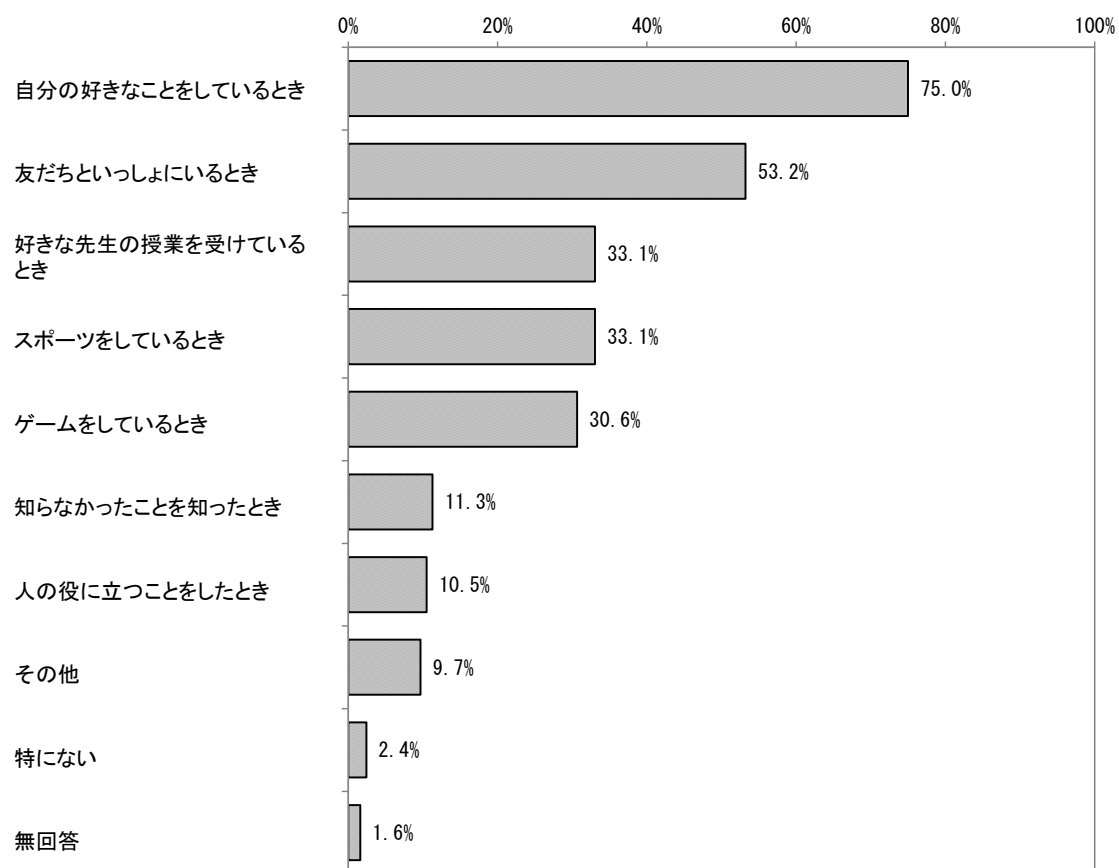


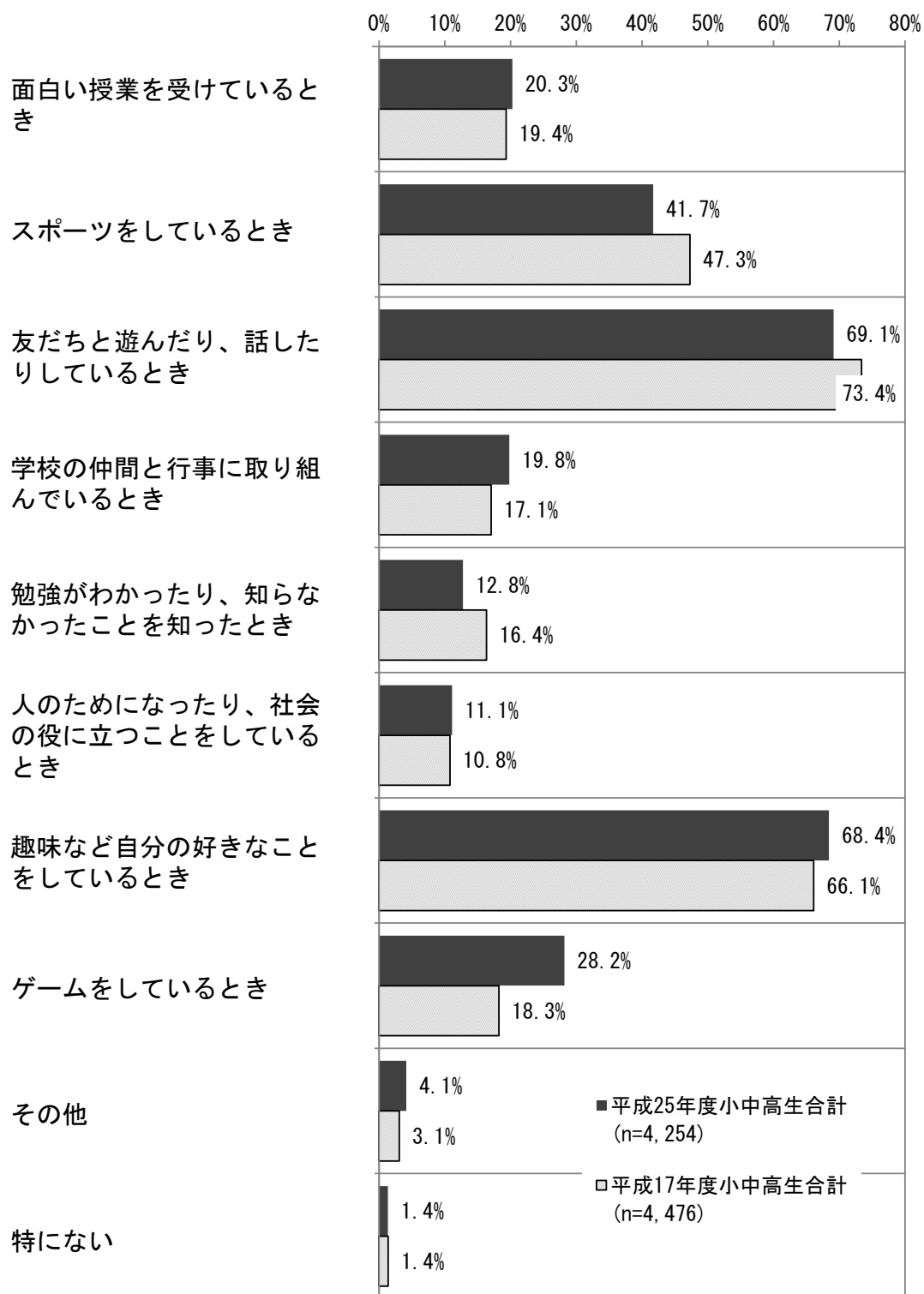
図 I-33 楽しいと感じるとき(特別支援学校児童・生徒 n=124)



小中高生が考える『夢中になれるとき』について平成 17 年度調査結果と比較すると、小中学生の回答は平成 25 年度調査では「友だちと遊んだり、話したりしているとき」(小学生:64.6%、中学生:71.5%)、「趣味など自分の好きなことをしているとき」(小学生:60.4%、中学生:69.9%)、「スポーツをしているとき」(小学生:43.3%、中学生:44.2%)であり、平成 17 年度調査では「友だちと遊んだり、話したりしているとき」(小学生:71.7%、中学生:73.9%)、「趣味など自分の好きなことをしているとき」(小学生:61.2%、中学生:66.8%)、「スポーツをしているとき」(小学生:44.3%、中学生:53.0%)であった。高校生の回答は平成 25 年度調査では「趣味など自分の好きなことをしているとき」(73.2%)、「友だちと遊んだり、話したりしているとき」(70.5%)、「スポーツをしているとき」(38.4%)であり、平成 17 年度調査では「友だちと遊んだり、話したりしているとき」(74.4%)、「趣味など自分の好きなことをしているとき」(69.7%)、「スポーツをしているとき」(44.8%)であった。

特別支援学校児童・生徒が考える『楽しいと感じるとき』について、平成 25 年度調査では「自分の好きなことをしているとき」(75.0%)、「友だちといっしょにいるとき」(53.2%)、「好きな先生の授業を受けているとき」(33.1%)、「スポーツをしているとき」(33.1%)であり、平成 17 年度調査では「友だちといっしょにいるとき」(69.2%)、「自分の好きなことをしているとき」(56.9%)、「ゲームをしているとき」(41.5%)であった。

図 I-34 夢中になれるとき(小中高生合計)



※「スポーツをしているとき」・・・平成17年度調査「スポーツで体を動かしているとき」

図 I-35 夢中になれるとき(小学生)

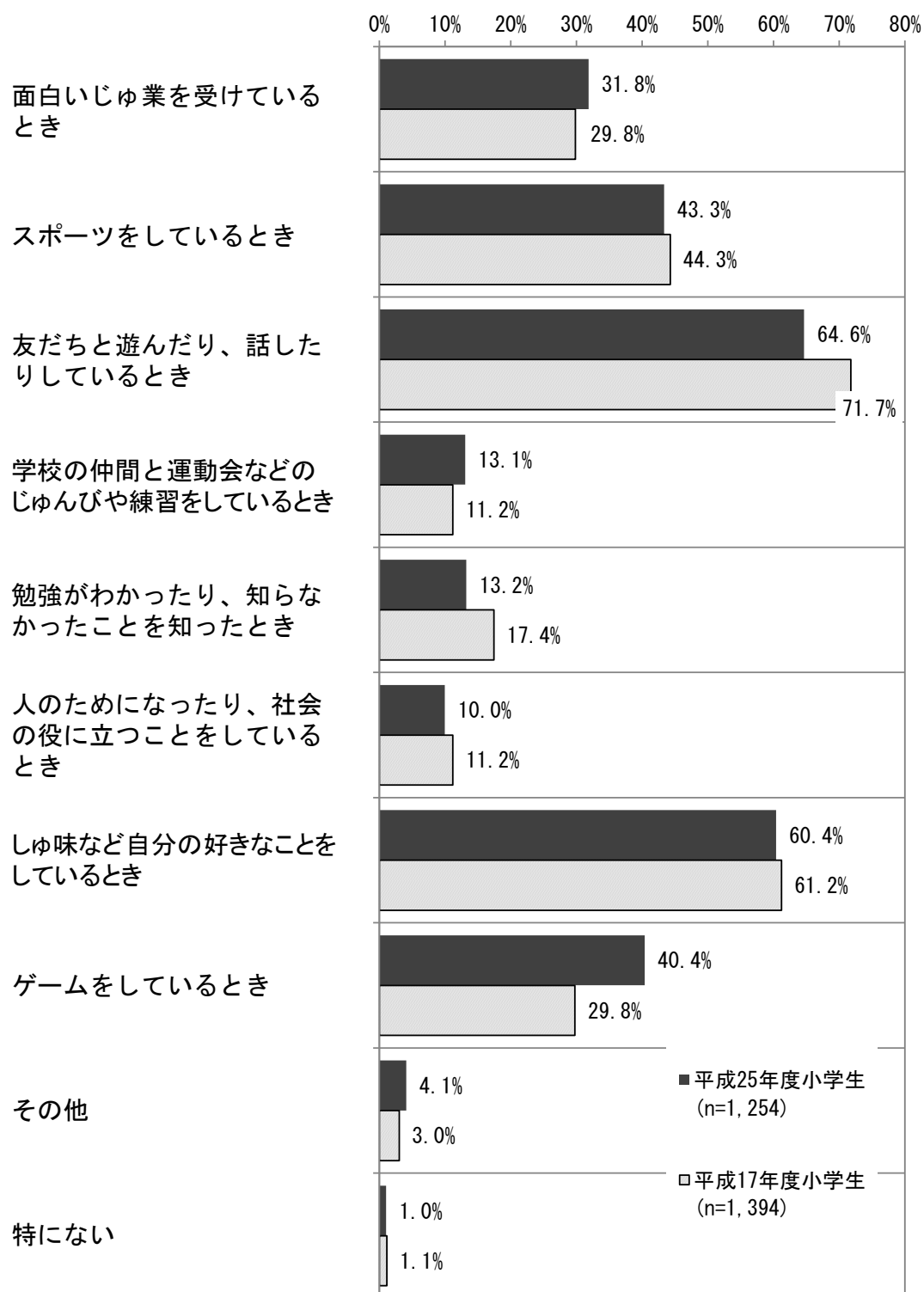


図 I-36 夢中能れるとき(中学生)

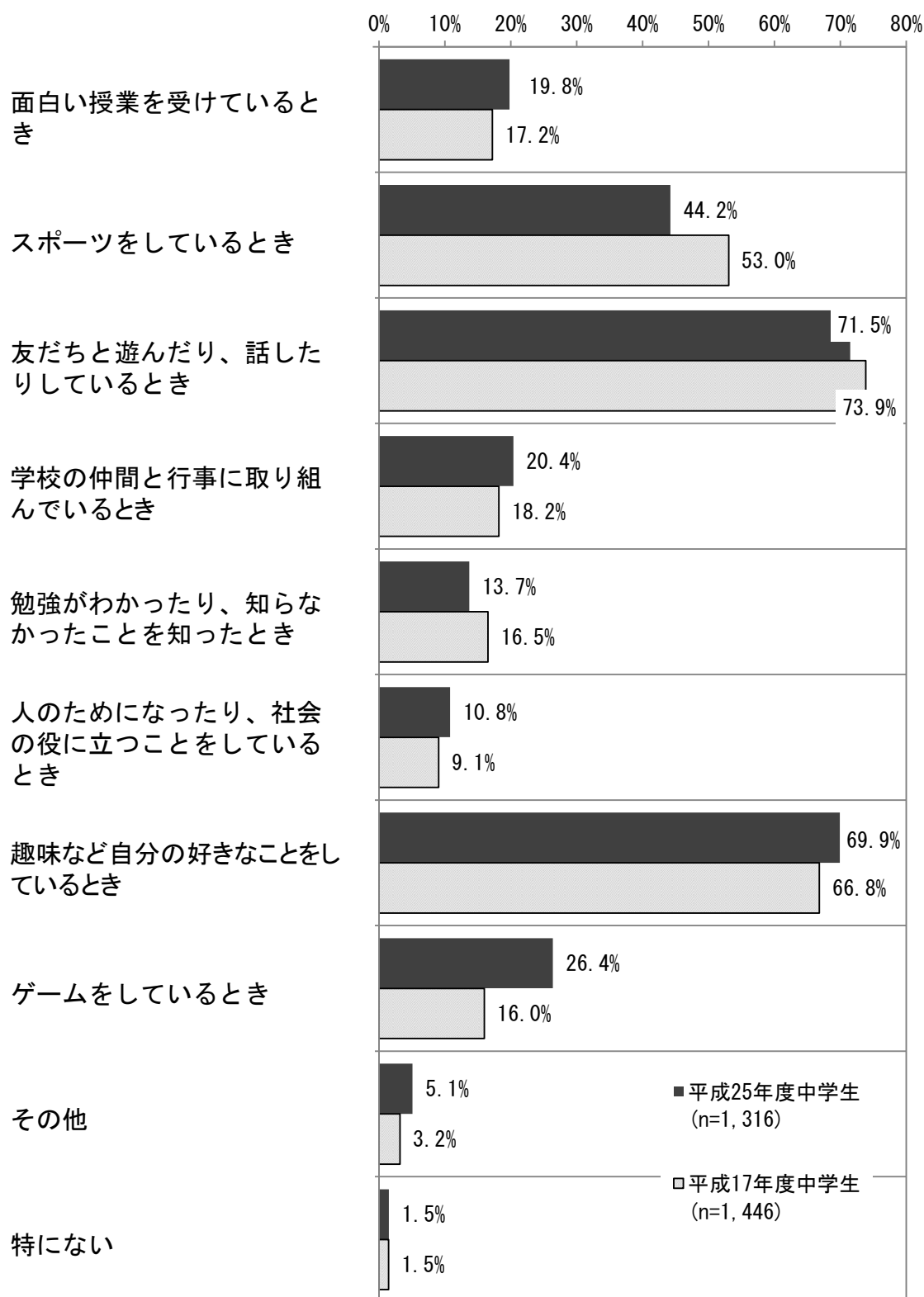


図 I-37 夢中になれるとき(高校生)

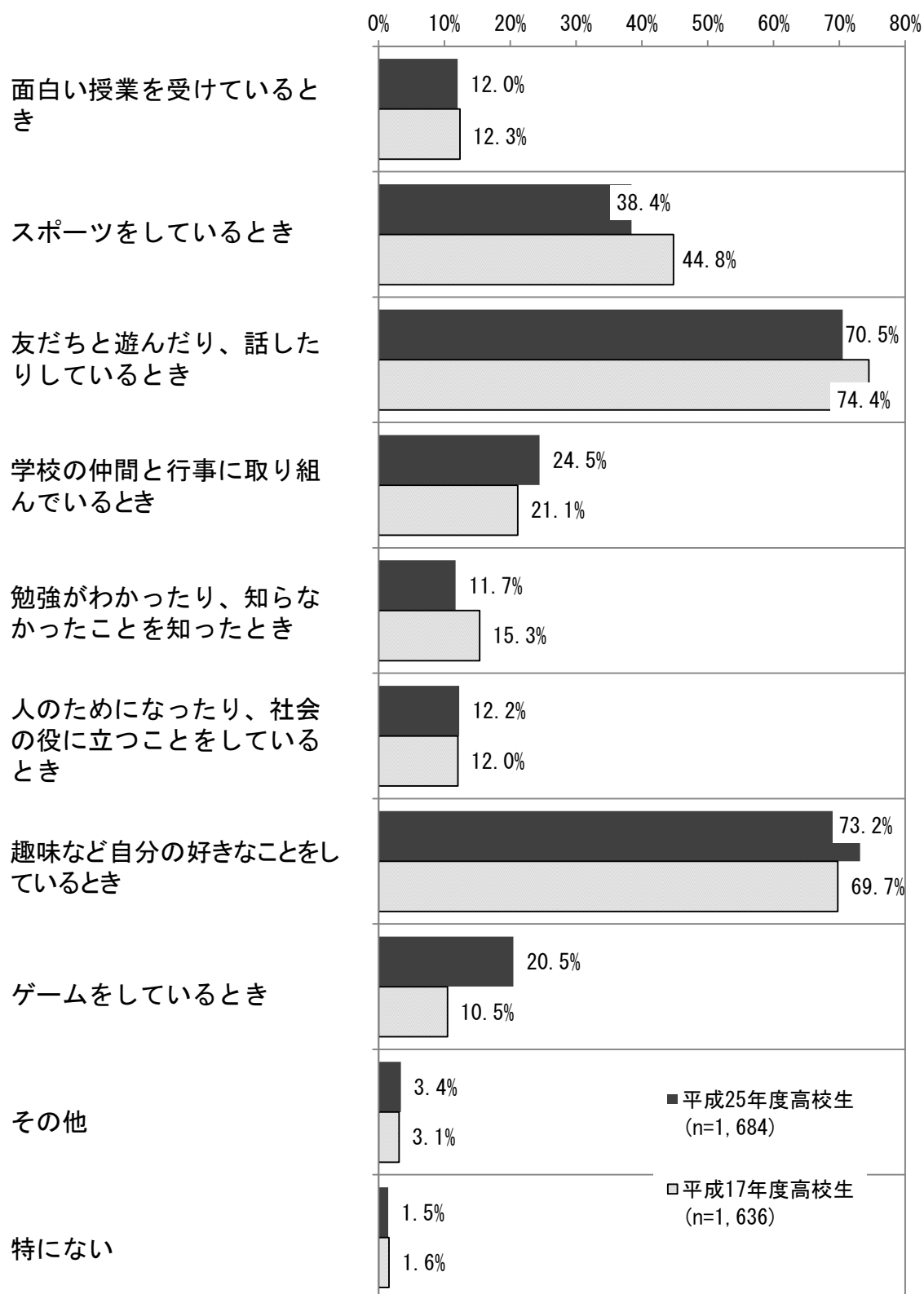
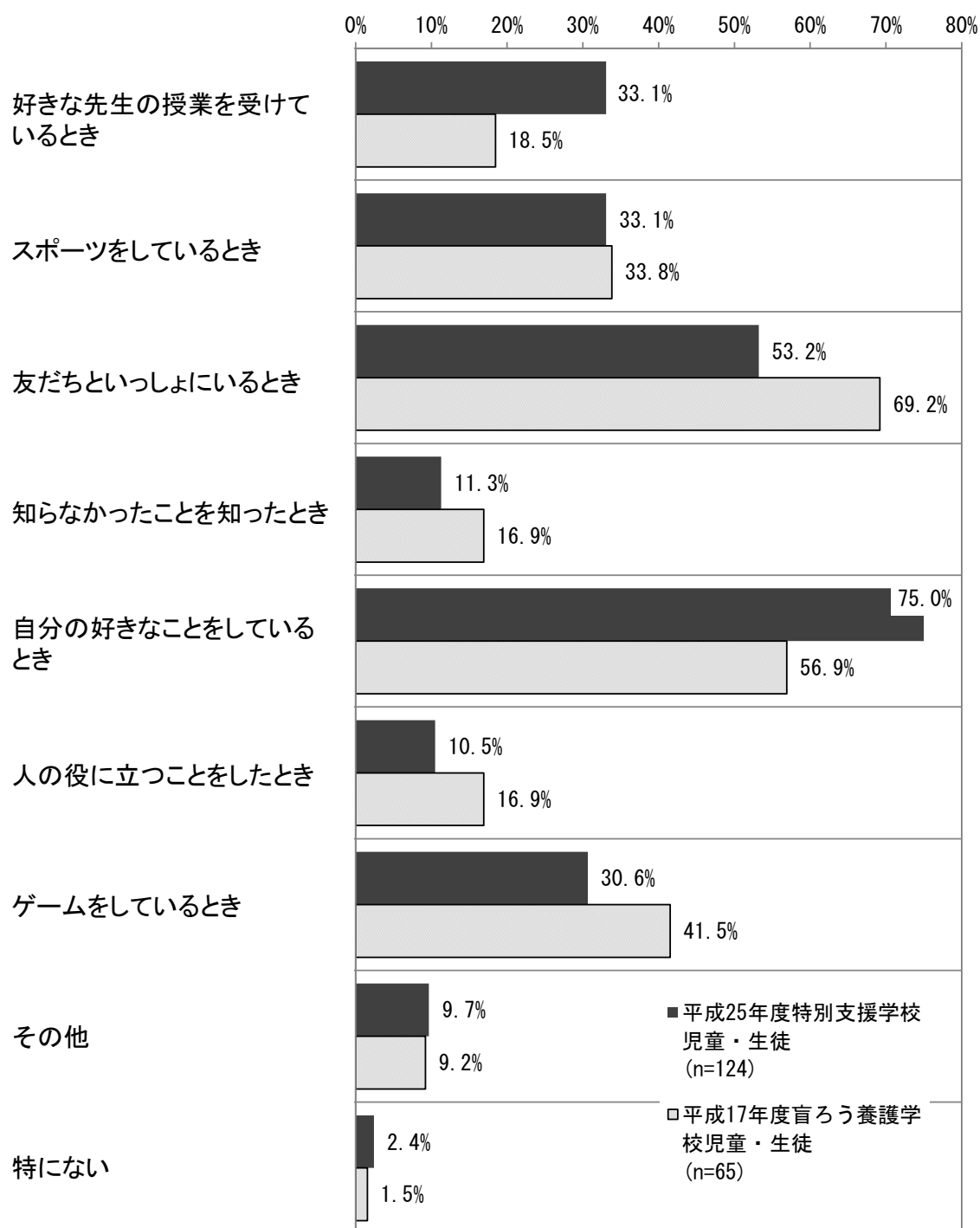


図 I-38 楽しいと感じるとき(特別支援学校児童・生徒)



I-4 悩んでいること

子どもに『悩んでいること』について聞いたところ、小学生の回答は「悩みはない」、「将来のこと」、「友だちのこと」の順に多く、中学生では「将来のこと」、「悩みはない」、「友だちのこと」、高校生では「将来のこと」、「悩みはない」、「学校のこと」の順となっている。特別支援学校児童・生徒の回答は、「将来のこと」、「悩みはない」、「その他」と続いている。

平成17年度調査結果と比較すると、小学生の回答で最も割合の高かったのはいずれの調査においても「悩みはない」であり、平成25年度調査では45.1%、平成17年度調査では36.7%であった。中学生及び特別支援学校児童・生徒の回答で最も割合の高かったのはいずれの調査においても「将来のこと」であり、平成25年度調査では中学生45.1%、高校生63.1%、特別支援学校児童・生徒28.2%であり、平成17年度調査では中学生50.1%、高校生65.9%、特別支援学校児童・生徒30.8%であった。

児童・生徒に『悩んでいること』を聞いたところ、小学生の回答は「悩みはない」(45.1%)、「将来のこと」(29.3%)、「友だちのこと」(19.4%)の順に多く、中学生では「将来のこと」(45.1%)、「悩みはない」(32.9%)、「友だちのこと」(19.5%)、高校生では「将来のこと」(63.1%)、「悩みはない」(19.8%)、「学校のこと」(17.2%)の順となっている。特別支援学校児童・生徒の回答は、「将来のこと」(28.2%)、「悩みはない」(25.0%)の次に「その他」(11.3%)と続いている。(表I-6、図I-39,40参照)

表 I-6 悩んでいること(上位5項目)

	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 児童・生徒
1位	悩みはない 45.1%	将来のこと 45.1%	将来のこと 63.1%	将来のこと 28.2%
2位	将来のこと 29.3%	悩みはない 32.9%	悩みはない 19.8%	悩みはない 25.0%
3位	友だちのこと 19.4%	友だちのこと 19.5%	学校のこと 17.2%	その他 11.3%
4位	体のこと 15.2%	学校のこと 15.2%	友だちのこと 16.2%	学校のこと 9.7%
5位	家族のこと 10.7%	家族のこと 10.3%	家族のこと 10.2%	友だちのこと 6.5%

図 I-39 悩んでいること (小中高生)

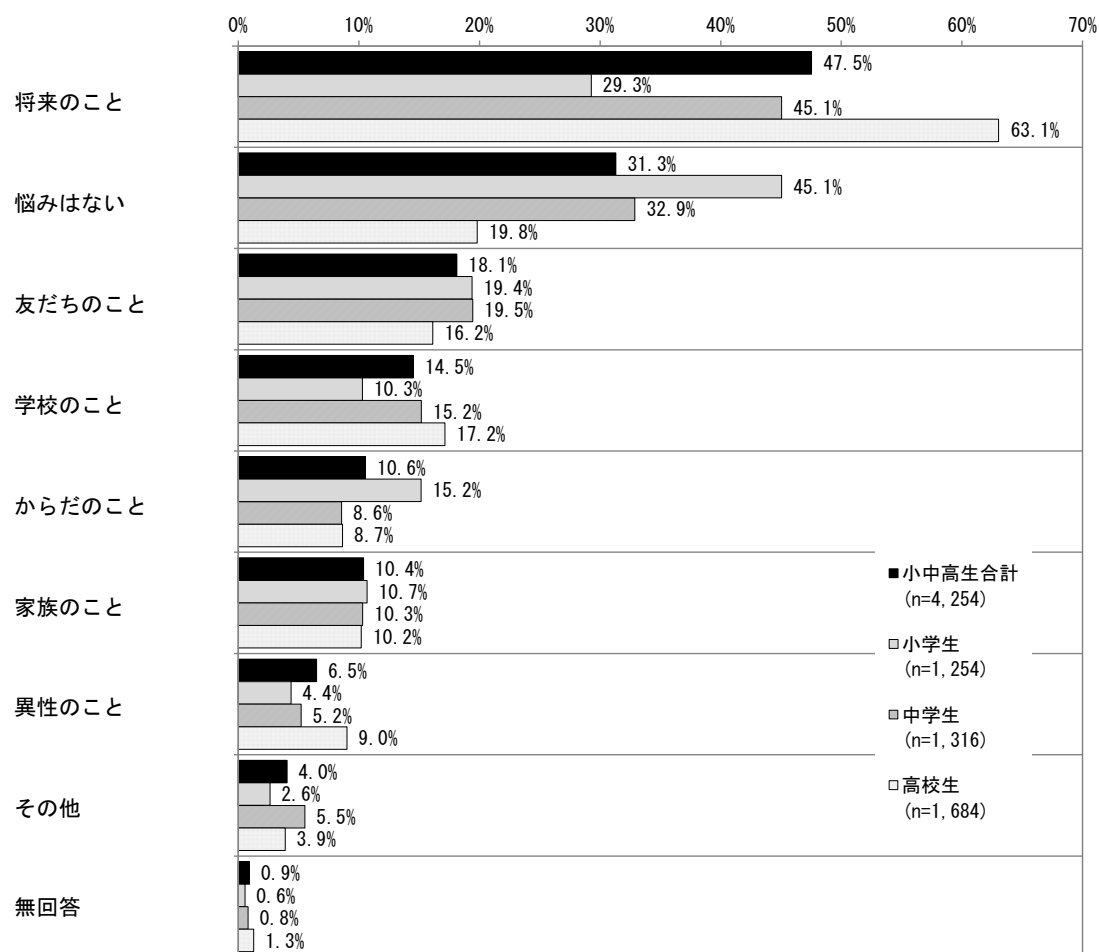
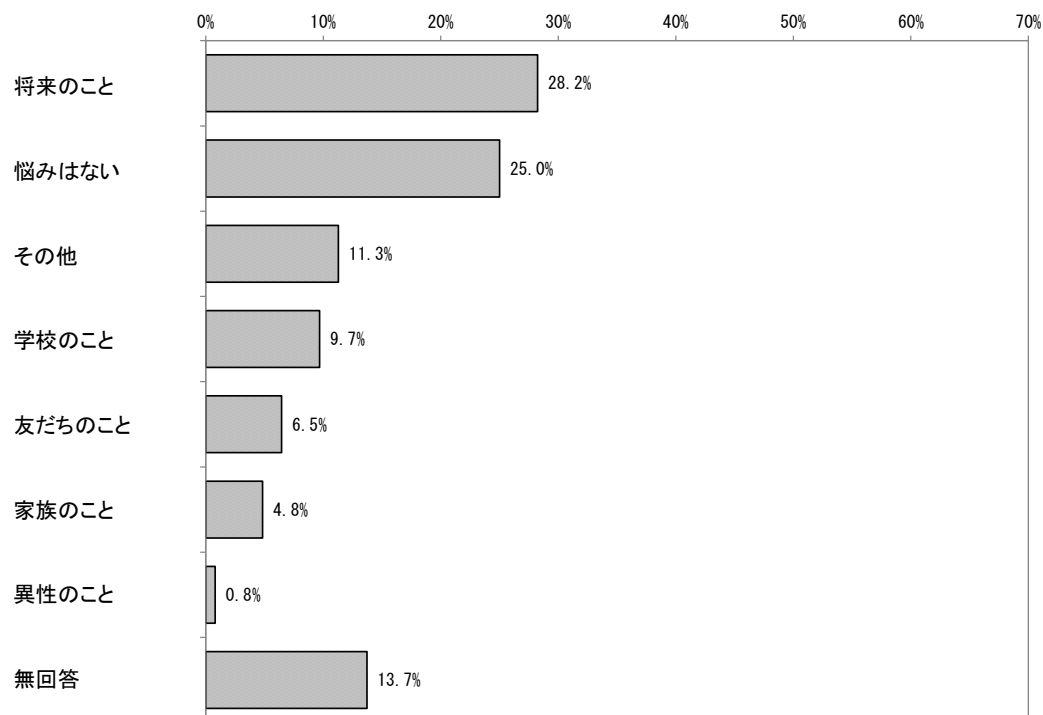


図 I-40 悩んでいること (特別支援学校児童・生徒 n=124)



<「その他」の主な回答>

・日々の生活のこと ・からだのこと など

児童・生徒が『悩んでいること』について平成 17 年度調査結果と比較すると、小学生の回答は平成 25 年度調査では「悩みはない」(45.1%)、「将来のこと」(29.3%)、「友だちのこと」(19.4%)であり、平成 17 年度調査では「悩みはない」(36.7%)、「将来のこと」(31.8%)、「友だちのこと」(25.8%)であった。中学生の回答は平成 25 年度調査では「将来のこと」(45.1%)、「悩みはない」(32.9%)、「友だちのこと」(19.5%)であり、平成 17 年度調査では「将来のこと」(50.1%)、「悩みはない」(23.7%)、「友だちのこと」(23.0%)であった。高校生の回答は平成 25 年度調査では「将来のこと」(63.1%)、「悩みはない」(19.8%)、「学校のこと」(17.2%)であり、平成 17 年度調査では「将来のこと」(65.9%)、「学校のこと」(17.4%)、「友だちのこと」(17.2%)であった。特別支援学校児童・生徒の回答は平成 25 年度調査では「将来のこと」(28.2%)、「悩みはない」(25.0%)、「その他」(11.3%)であり、平成 17 年度調査では「将来のこと」(30.8%)、「悩みはない」(29.2%)、「友だちのこと」、「家族のこと」、「その他」(いずれも 7.7%)であった。(図 I-41~45 参照)

図 I-41 悩んでいること(小中高生合計)

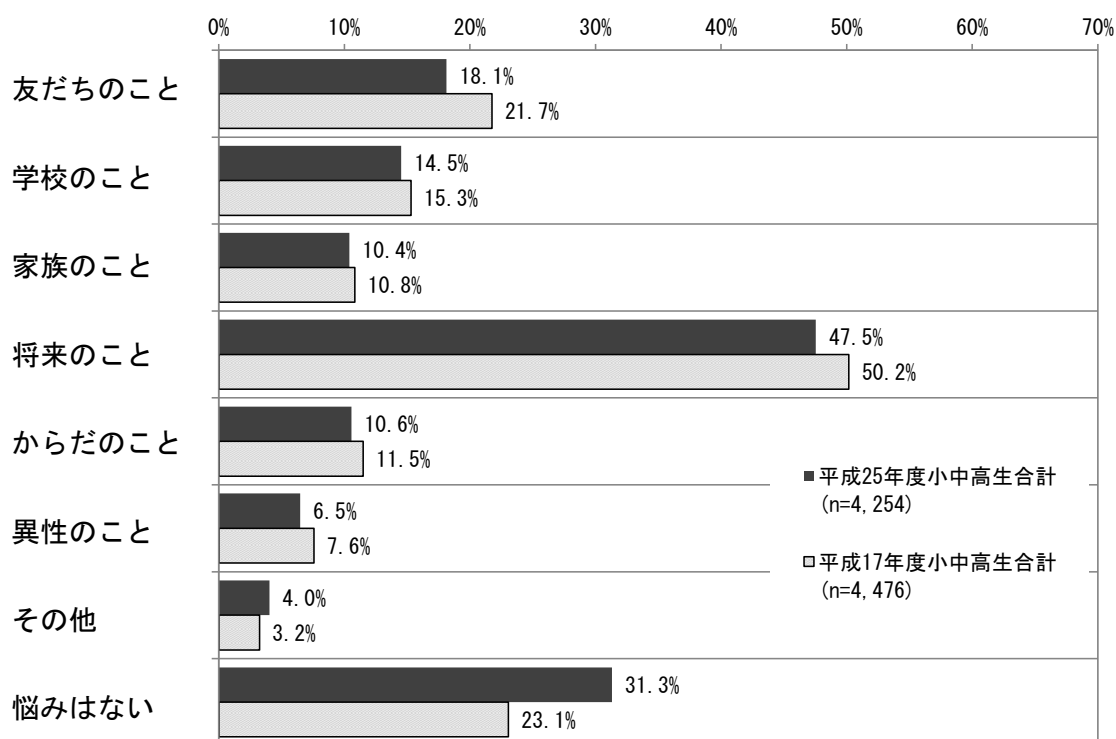


図 I-42 悩んでいること(小学生)

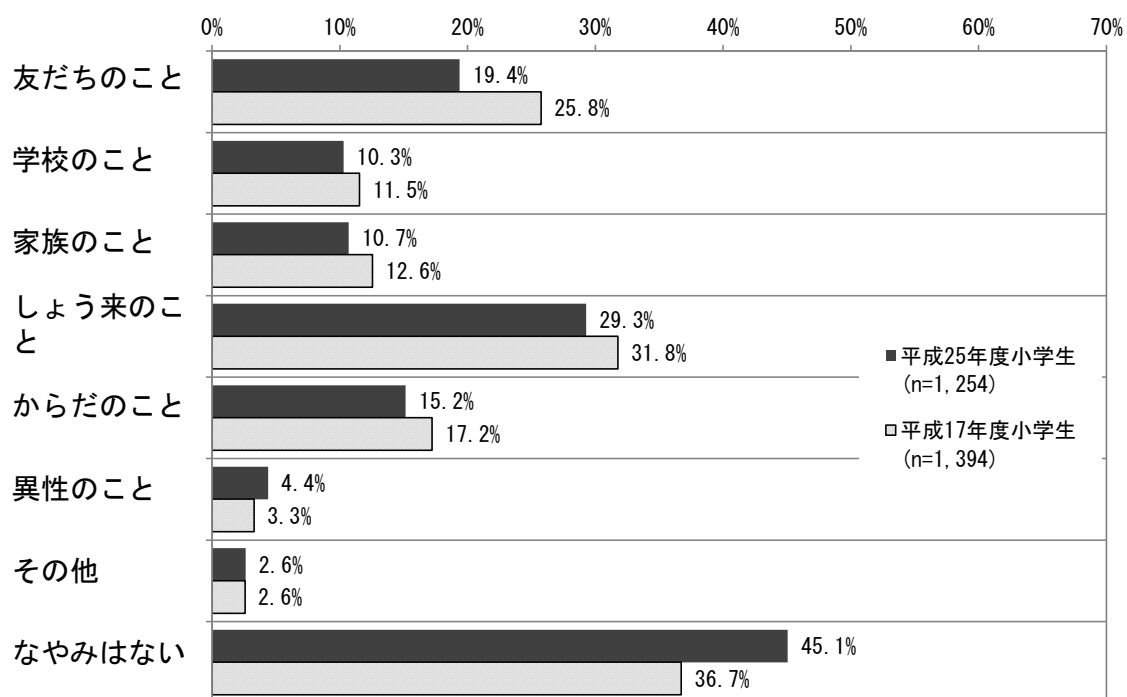


図 I-43 悩んでいること(中学生)

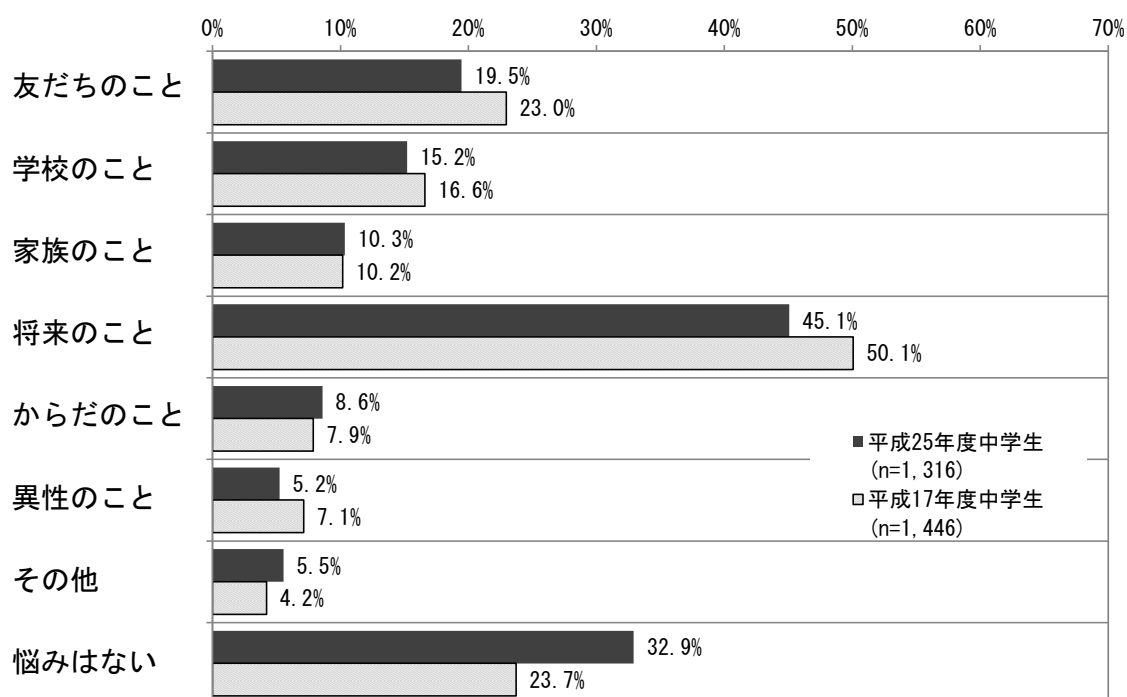


図 I-44 悩んでいること(高校生)

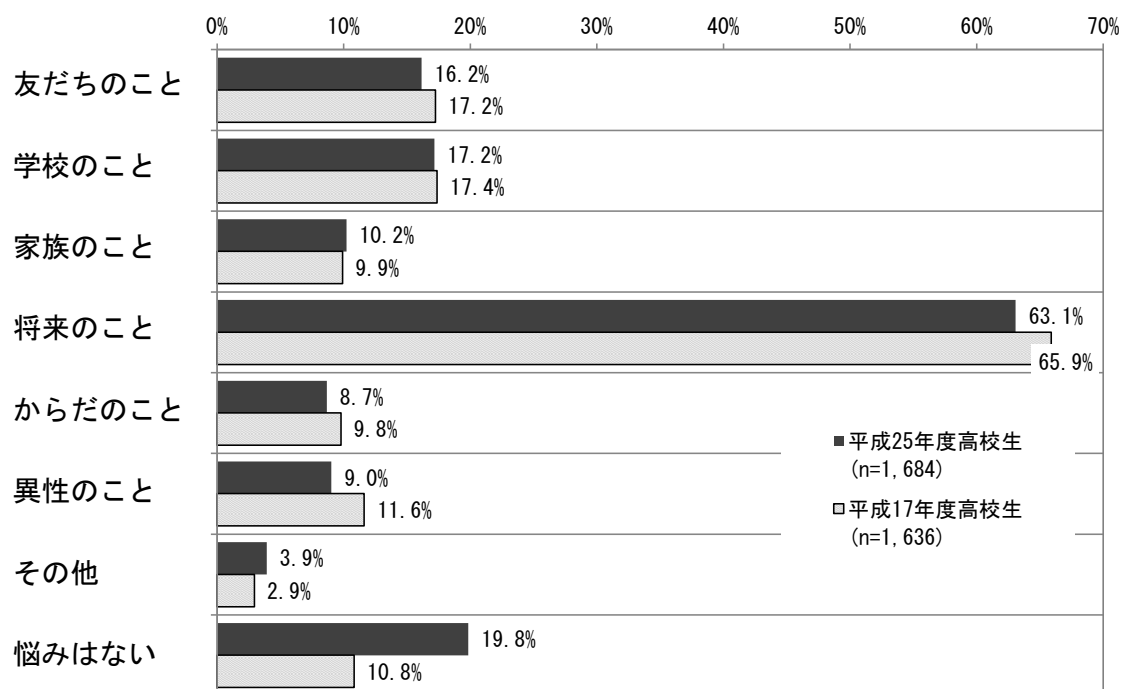
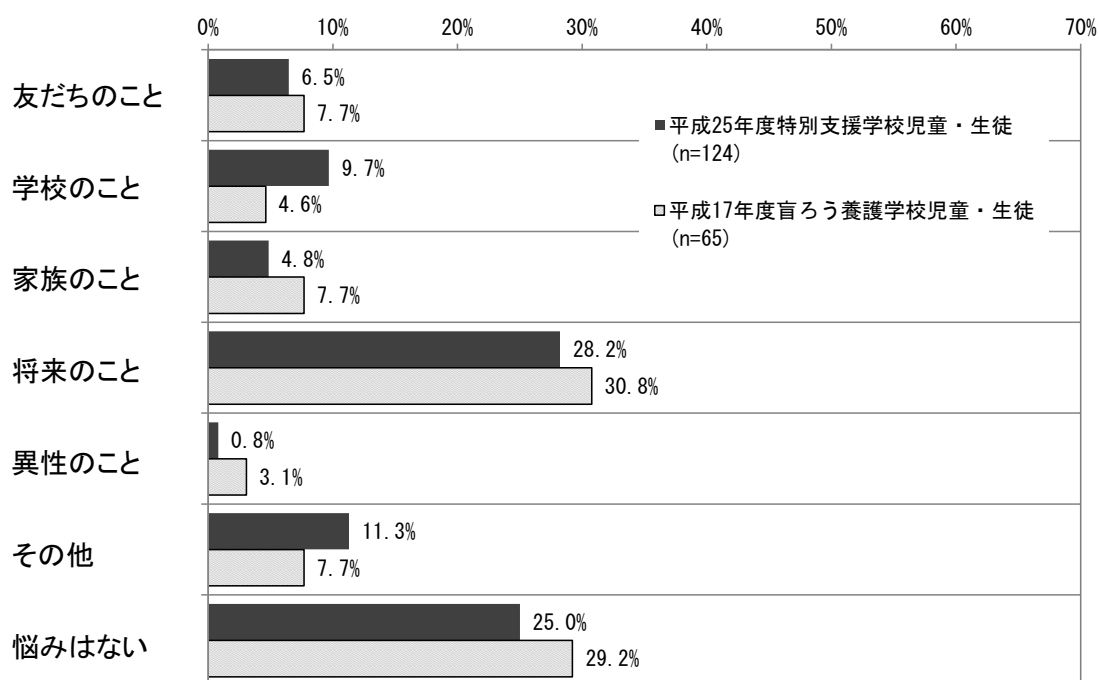


図 I-45 悩んでいること(特別支援学校児童・生徒)



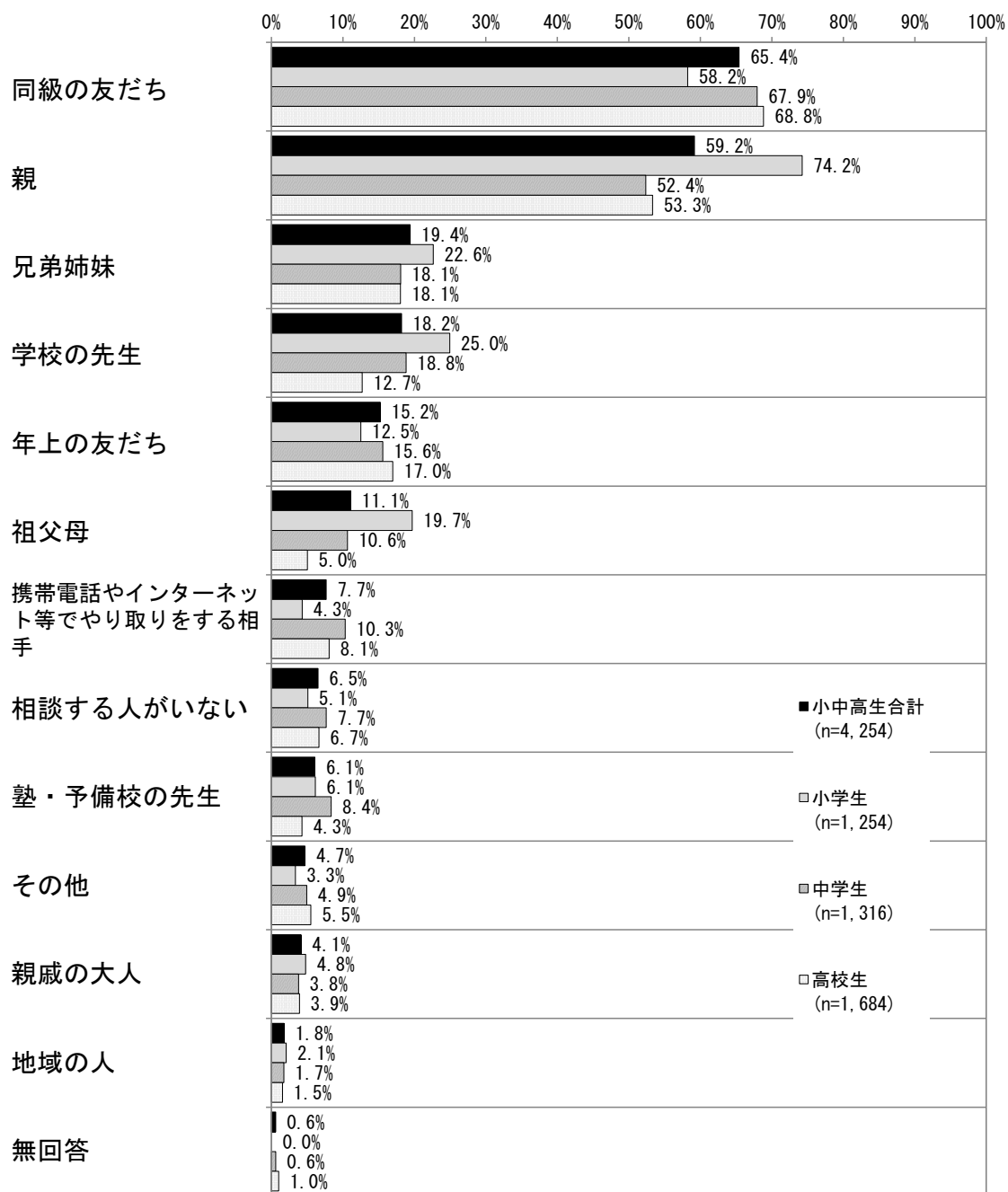
I - 5 相談相手

子どもに、悩んだときの『相談相手』について聞いたところ、小学生の回答は「親」、「同級の友だち」、「学校の先生」の順に多く、中学生では「同級の友だち」、「親」、「学校の先生」、高校生では「同級の友だち」、「親」、「兄弟姉妹」の順となっている。特別支援学校児童・生徒の回答は、「家族」、「学校の先生」、「同級の友だち」の順に割合が高くなっている。

平成 17 年度調査結果と比較すると、小学生の回答で最も割合の高かったのはいずれの調査においても「親」であり、平成 25 年度調査では 74.2%、平成 17 年度調査では 68.8%であった。中高生の回答で最も割合の高かったのはいずれの調査においても「同級の友だち」であり、平成 25 年度調査では中学生 67.9%、高校生 68.8%であり、平成 17 年度調査では中学生 70.5%、高校生 75.9%であった。特別支援学校児童・生徒の回答で最も割合の高かったのは、平成 25 年度調査では「家族」(62.1%)であり、平成 17 年度調査では「家族」(40.0%)であった。

『相談相手』について児童・生徒に聞いたところ、小学生の回答は「親」(74.2%)、「同級の友だち」(58.2%)、「学校の先生」(25.0%)の順に多く、中学生では「同級の友だち」(67.9%)、「親」(52.4%)、「学校の先生」(18.8%)、高校生では「同級の友だち」(68.8%)、「親」(53.3%)、「兄弟姉妹」(18.1%)の順となっている。特別支援学校児童・生徒の回答は、「家族」(62.1%)、「学校の先生」(41.1%)、「同級の友だち」(22.6%)の順に割合が高くなっている。(図 I-46, 47 参照)

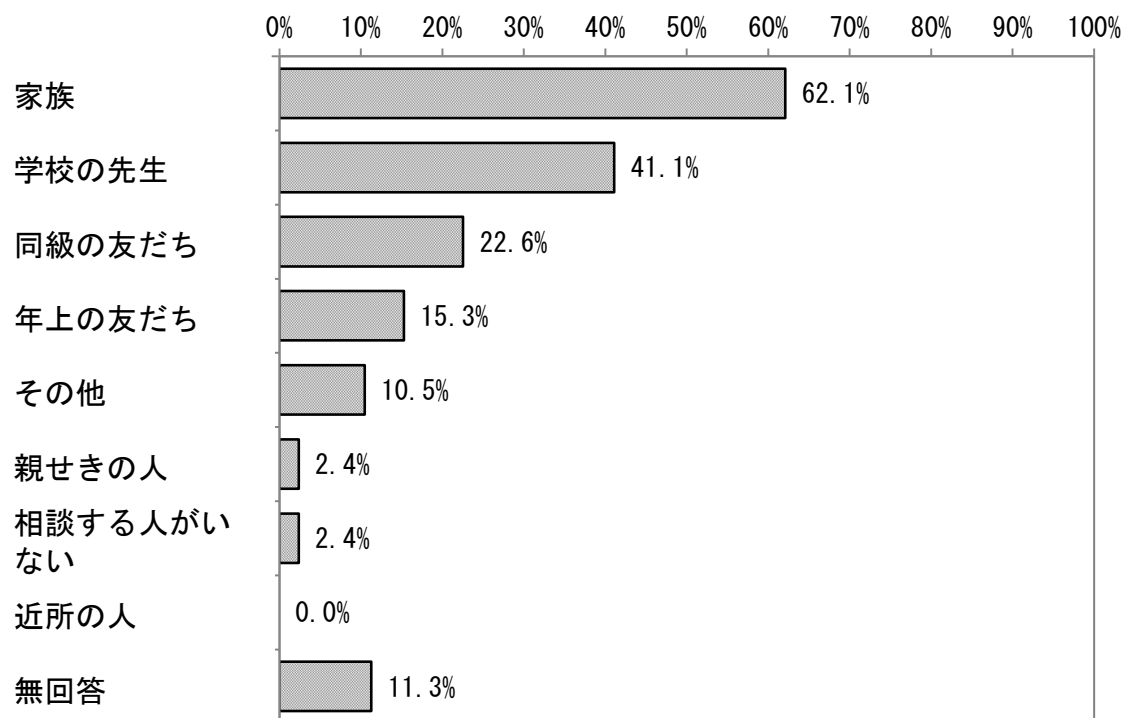
図 I-46 相談相手(小中高生)



< 「その他」の主な回答 >

- | | | | | |
|----------|----------|---------|---------|-----|
| [小中高生共通] | ・いここ等 | ・年下の友だち | | |
| [小学生] | ・児童相談所の人 | ・塾の友だち | | |
| [中学生] | ・電話相談員 | ・塾の友だち | ・カウンセラー | ・恋人 |
| [高校生] | ・病院の先生 | ・カウンセラー | ・恋人 | など |

図 I-47 相談相手(特別支援学校児童・生徒 n=124)

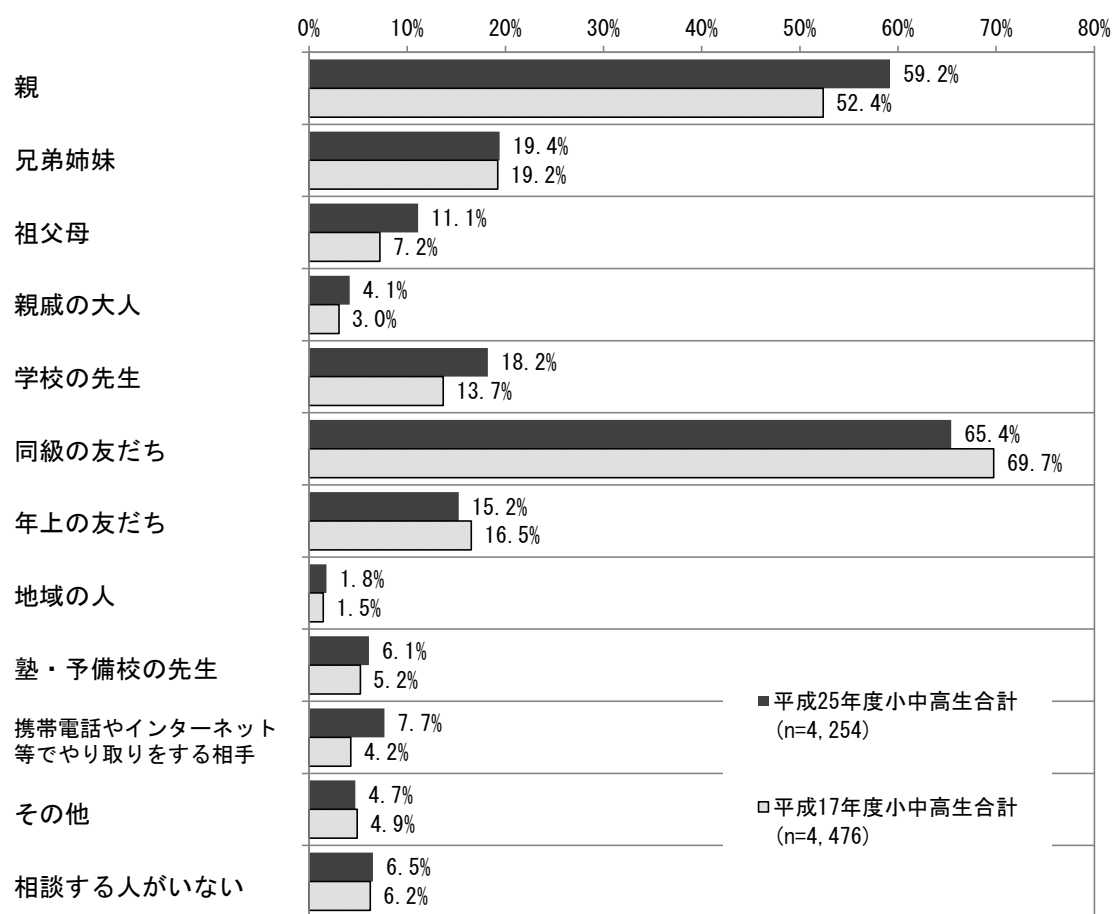


<「その他」の主な回答>

- ・カウンセラー
- ・施設の先生 など

児童・生徒の『相談相手』について平成 17 年度調査結果と比較すると、小学生の回答は平成 25 年度調査では「親」(74.2%)、「同級の友だち」(58.2%)、「学校の先生」(25.0%)であり、平成 17 年度調査では「親」(68.8%)、「同級の友だち」(61.8%)、「兄弟や姉妹」(23.6%)であった。中学生の回答は平成 25 年度調査では「同級の友だち」(67.9%)、「親」(52.4%)、「学校の先生」(18.8%)であり、平成 17 年度調査では「同級の友だち」(70.5%)、「親」(47.2%)、「兄弟姉妹」(16.9%)であった。高校生の回答は平成 25 年度調査では「同級の友だち」(68.8%)、「親」(53.3%)、「兄弟姉妹」(18.1%)であり、平成 17 年度調査では「同級の友だち」(75.9%)、「親」(43.0%)、「年上の友だち」(18.9%)であった。特別支援学校児童・生徒の回答は平成 25 年度調査では「家族」(62.1%)、「学校の先生」(41.1%)、「同級の友だち」(22.6%)であり、平成 17 年度調査では「家族」(40.0%)、「学校の先生」(29.2%)、「年上の友だち」(29.2%)であった。(図 I-48～52 参照)

図 I-48 相談相手(小中高生合計)



※「携帯電話やインターネット等でやり取りをする相手」

・・・平成 17 年度調査「インターネットやチャットの相手」

図 I-49 相談相手(小学生)

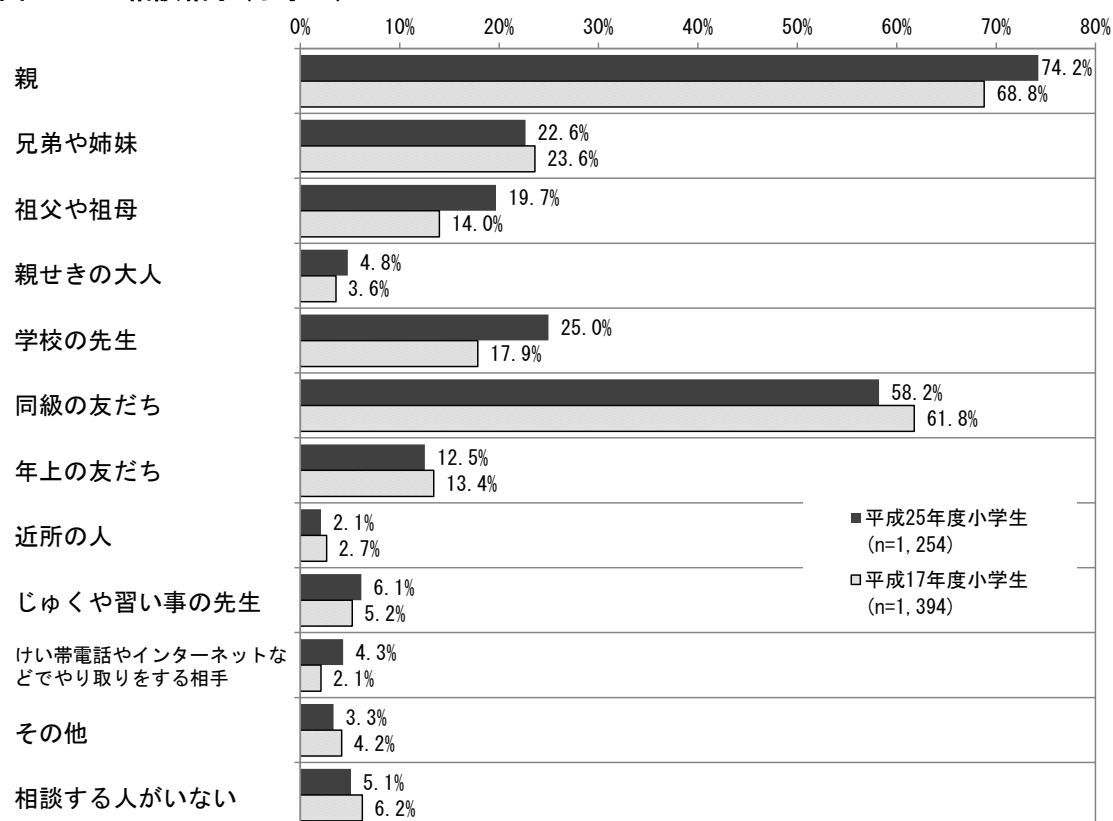


図 I-50 相談相手(中学生)

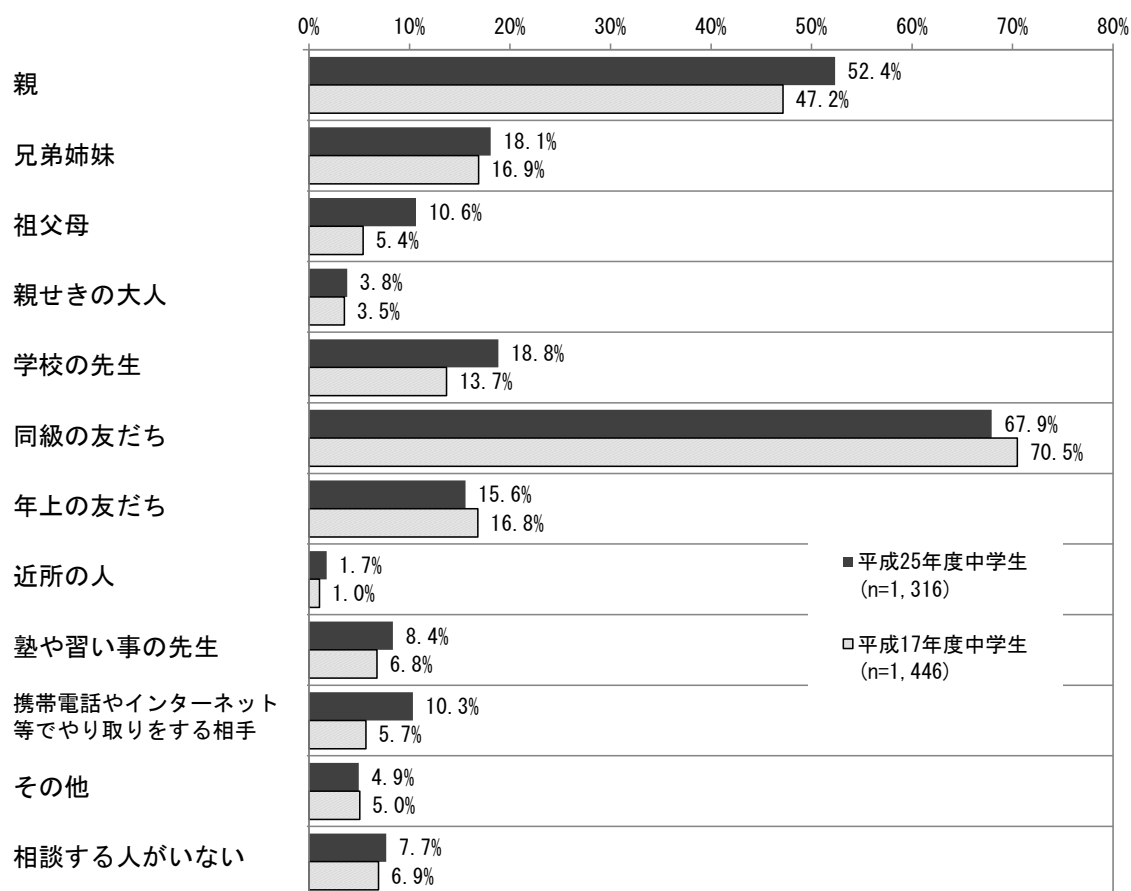


図 I-51 相談相手(高校生)

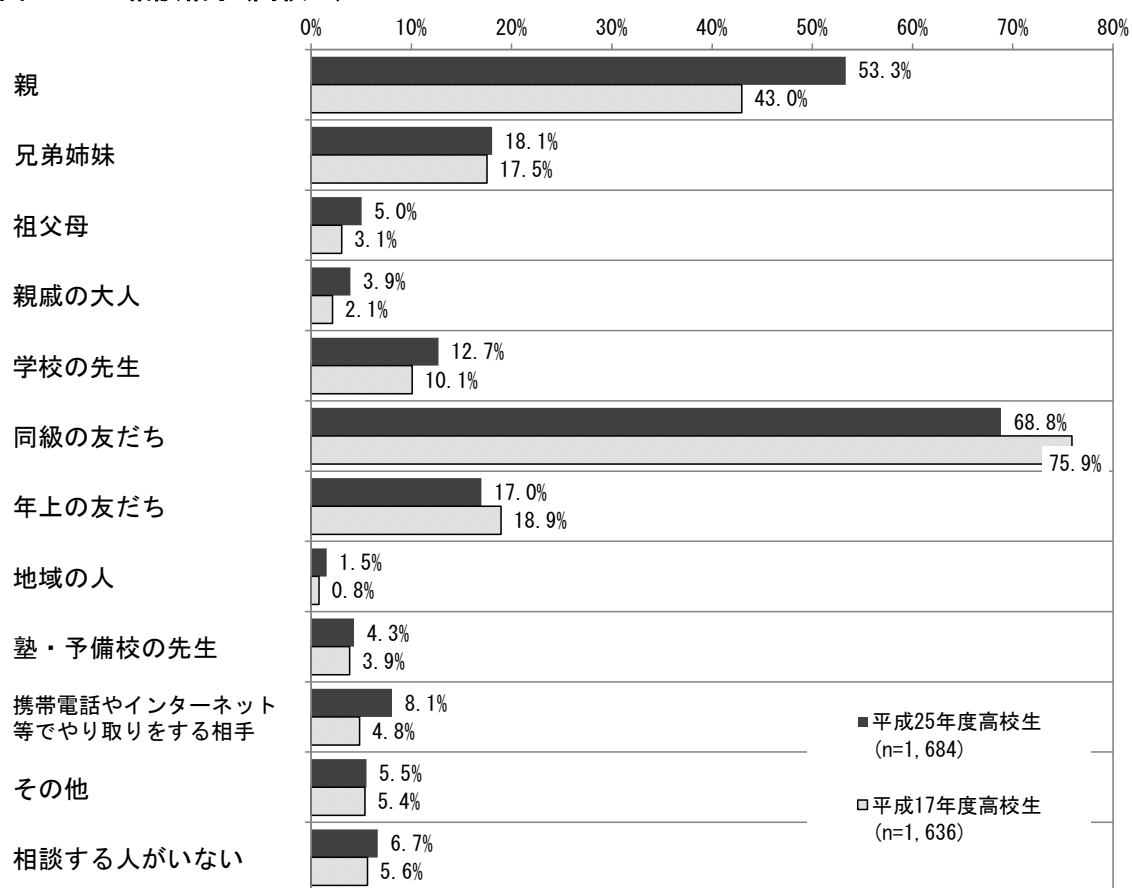
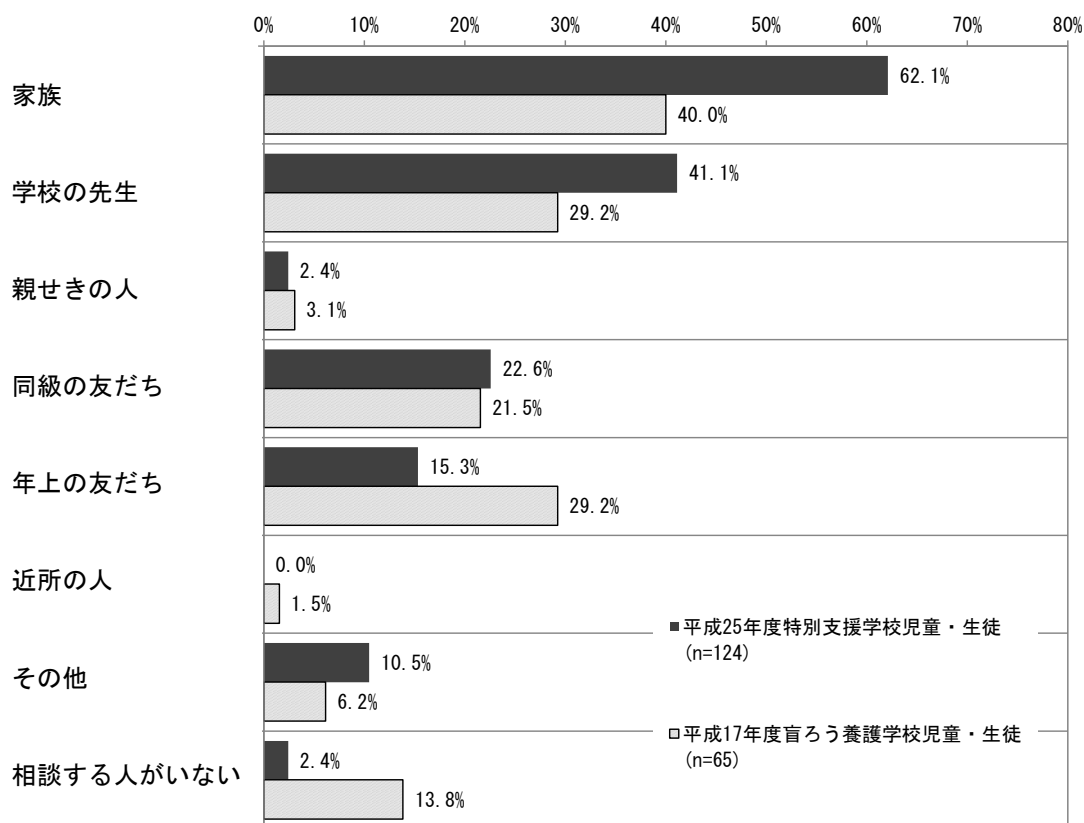


図 I-52 相談相手(特別支援学校児童・生徒)



I - 6 ルール・マナーの意識

『ルール・マナーの意識』について児童・生徒に聞いたところ、「よくないと思う」との回答の割合が高かった項目は、小学生では「インターネットやメールで人の悪口を書く」、「約束を守らない」、「電車の中で騒いだり、床に座り込む」の順に多く、中高生では「万引きをする」、「電車の中で騒いだり、床に座り込む」、「約束を守らない」の順が多かった。特別支援学校児童・生徒の回答では、「約束を守らない」、「人のものを勝手に使う」、「インターネットやメールで人の悪口を書く」、「遊ぶために夜遅く外出する」の割合が高かった。

それぞれの校種で、最も割合の高かった項目を平成 17 年度調査と比較すると、小学生の回答は平成 25 年度調査では「インターネットやメールで人の悪口を書く」(95.5%)であり、平成 17 年度調査では「電車の中で騒いだり、床に座り込む」(89.7%)であった。中高生ではいずれの調査においても「万引きをする」ことを「よくないと思う」と回答する割合が高く、平成 25 年度調査では中学生 95.4%、高校生 94.5%であり、平成 17 年度調査では中学生 93.4%、高校生 91.4%であった。特別支援学校児童・生徒の回答は、平成 25 年度調査では「約束を守らない」と「人のものを勝手に使う」が共に 86.3%と最も多く、平成 17 年度調査では「約束を守らない」が 96.9%であった。

『ルール・マナーの意識』について児童・生徒に聞いたところ、「よくないと思う」との回答の割合が高かった項目は、小学生では「インターネットやメールで人の悪口を書く」(95.5%)、「約束を守らない」(94.9%)、「電車の中で騒いだり、床に座り込む」(94.6%)の順に多く、中学生では「万引きをする」(95.4%)、「電車の中で騒いだり、床に座り込む」(89.5%)、「約束を守らない」(88.8%)、高校生では「万引きをする」(94.5%)、「電車の中で騒いだり、床に座り込む」(93.0%)、「約束を守らない」(90.4%)の順に多かった。特別支援学校児童・生徒の回答では、「約束を守らない」(86.3%)、「人のものを勝手に使う」(86.3%)、「インターネットやメールで人の悪口を書く」(81.5%)、「遊ぶために夜遅く外出する」(81.5%)の割合が高かった。(図 I-53～62 参照)

図 I-53 ルール・マナーの意識 ①約束を守らない(小中高生合計 n=4,254 小学生 n=1,254 中学生 n=1,316 高校生 n=1,684)

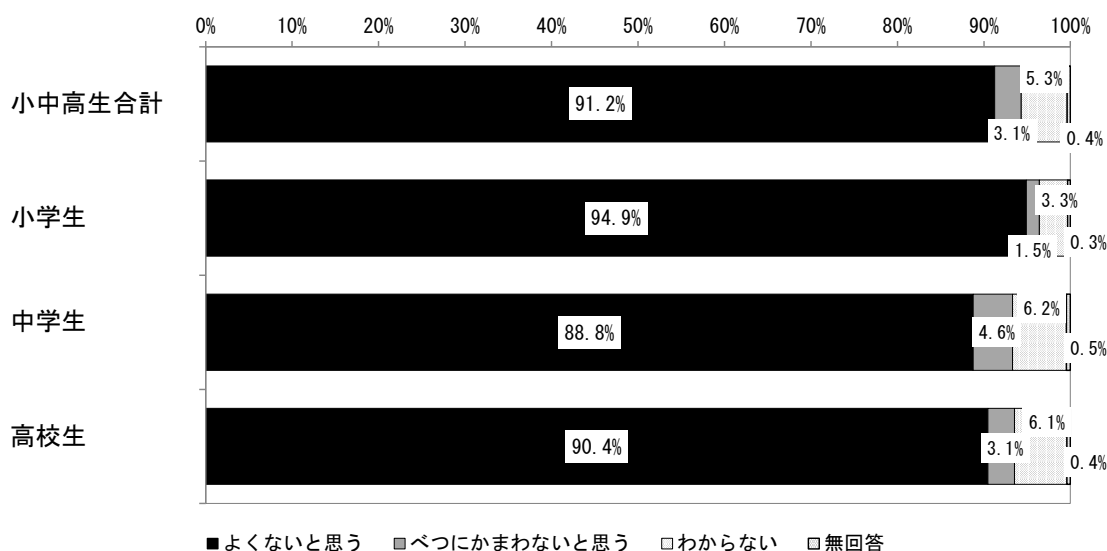


図 I-54 ルール・マナーの意識 ②電車の中で騒いだり、床に座り込む(小中高生合計 n=4,254 小学生 n=1,254 中学生 n=1,316 高校生 n=1,684)

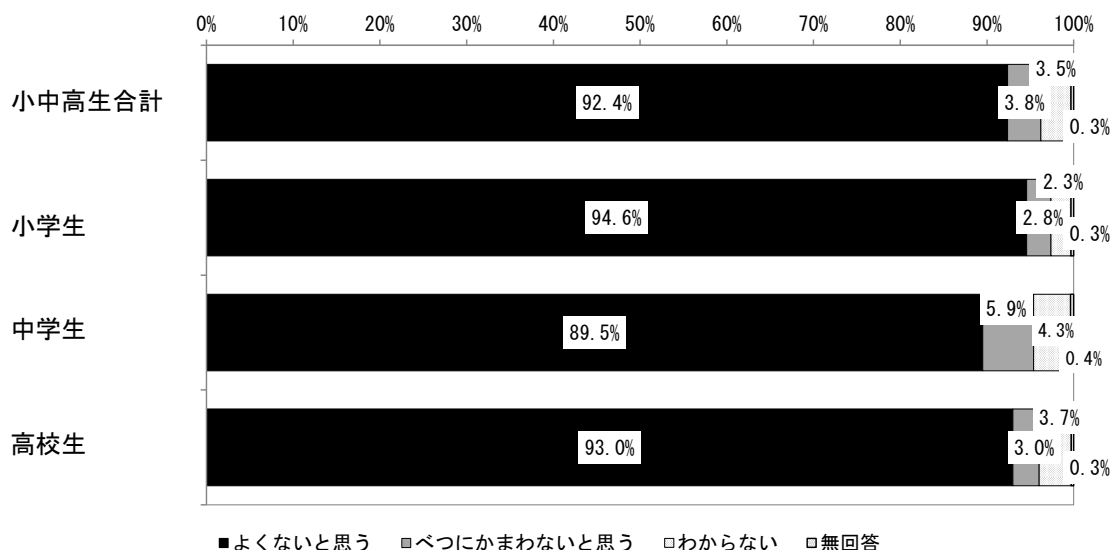


図 I-55 ルール・マナーの意識 ③小学生：電車の中で携帯電話をかける 中・高校生：電車の中で携帯電話をかけたり、化粧をする(小中高生合計 n=4,254 小学生 n=1,254 中学生 n=1,316 高校生 n=1,684)

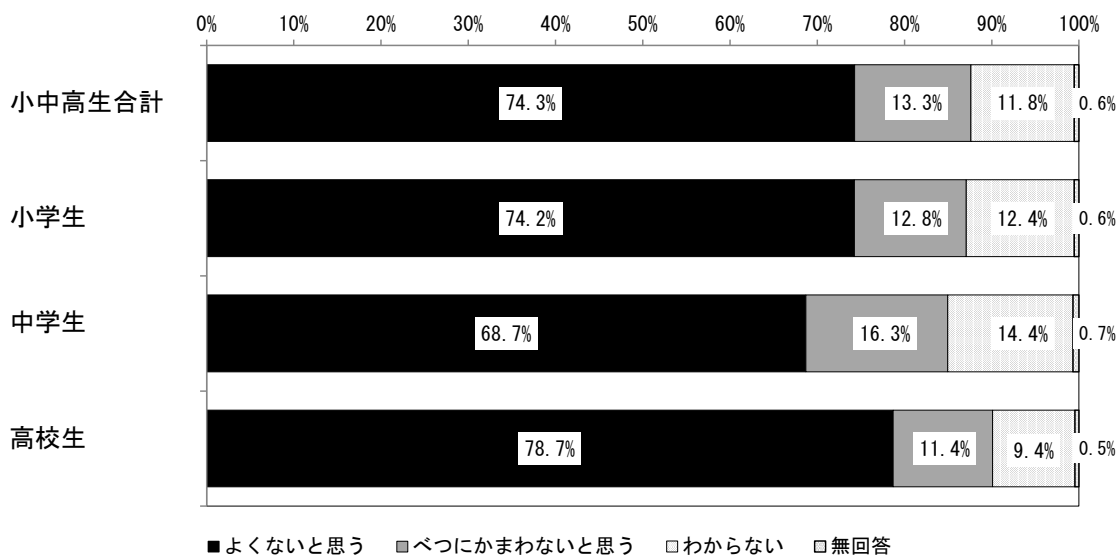


図 I-56 ルール・マナーの意識 ④注意されると無視したり反抗したりする(小中高生合計 n=4,254 小学生 n=1,254 中学生 n=1,316 高校生 n=1,684)

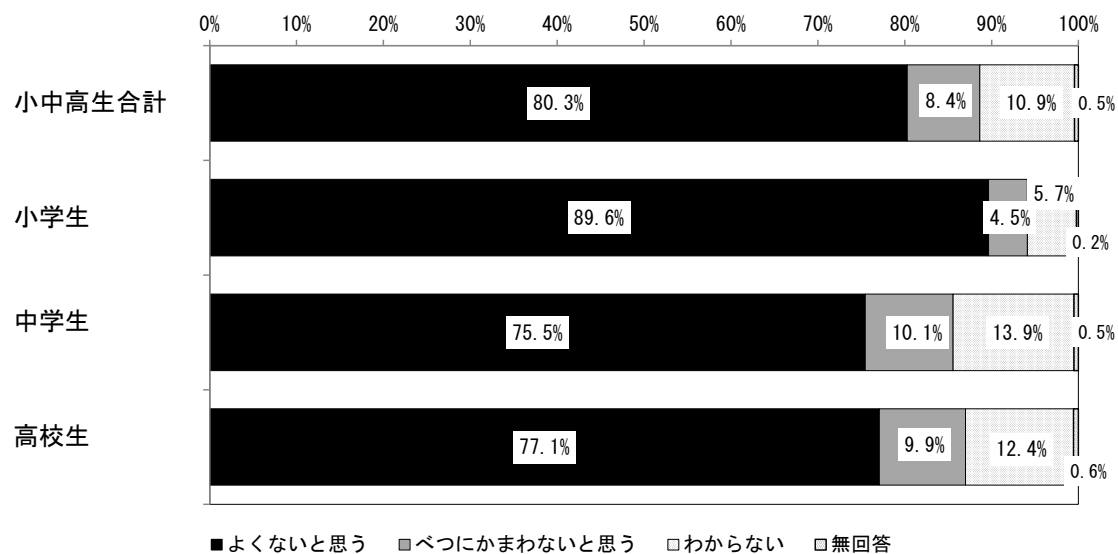


図 I-57 ルール・マナーの意識 ⑤インターネットやメールで人の悪口を書く(小中高生合計 n=4,254 小学生 n=1,254 中学生 n=1,316 高校生 n=1,684)

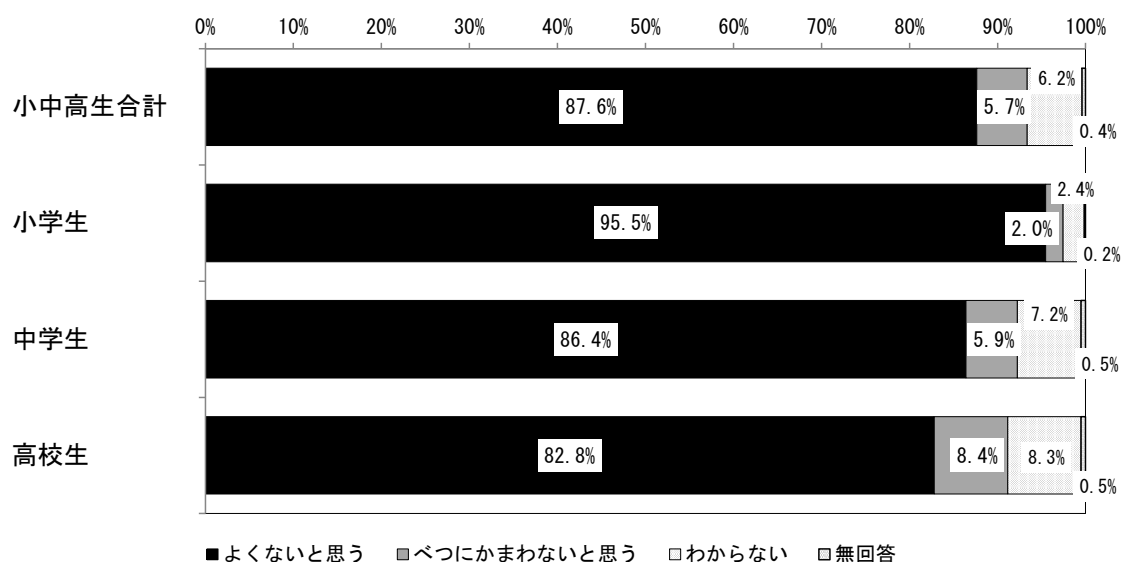


図 I-58 ルール・マナーの意識 ⑥人のものを勝手に使う(小中高生合計 n=4,254 小学生 n=1,254 中学生 n=1,316 高校生 n=1,684)

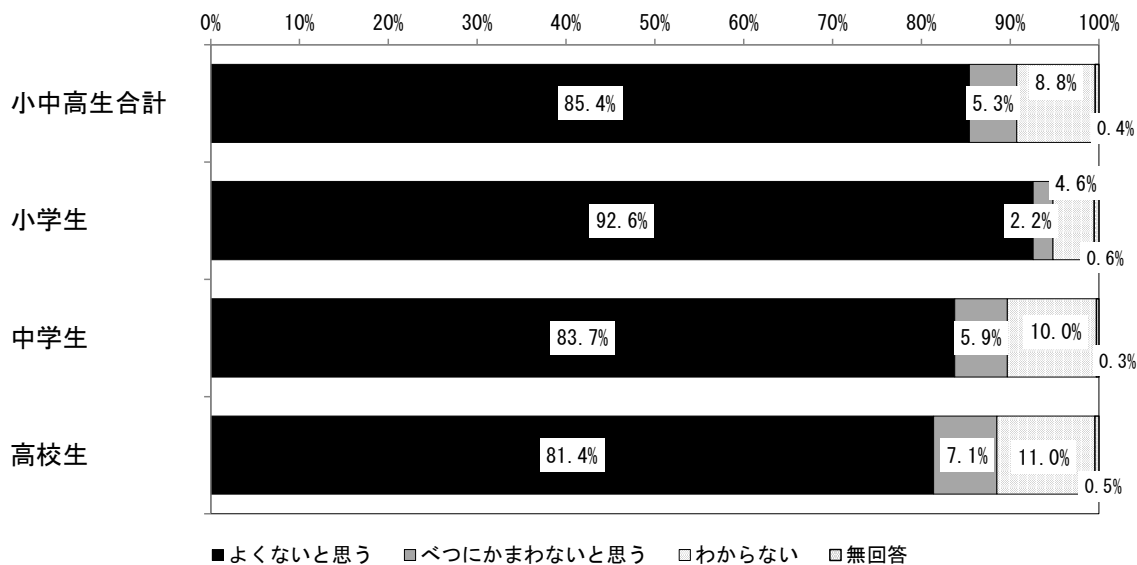


図 I-59 ルール・マナーの意識 ⑦遊ぶために夜遅く外出する(小中高生合計 n=4,254 小学生 n=1,254 中学生 n=1,316 高校生 n=1,684)

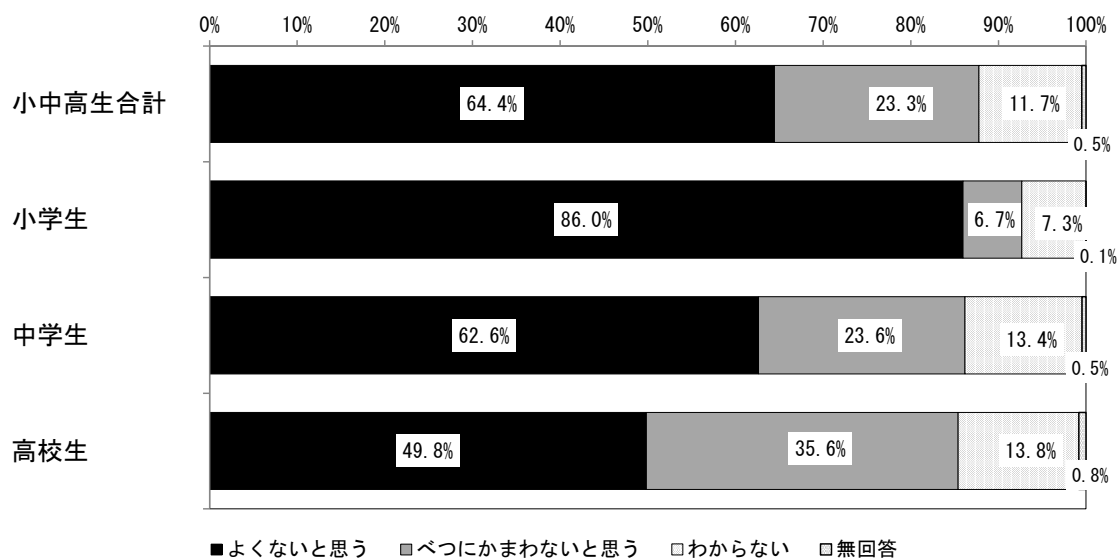


図 I-60 ルール・マナーの意識 ⑧タバコを吸ったり、酒を飲んだりする(中高生合計 n=3,000 中学生 n=1,316 高校生 n=1,684)

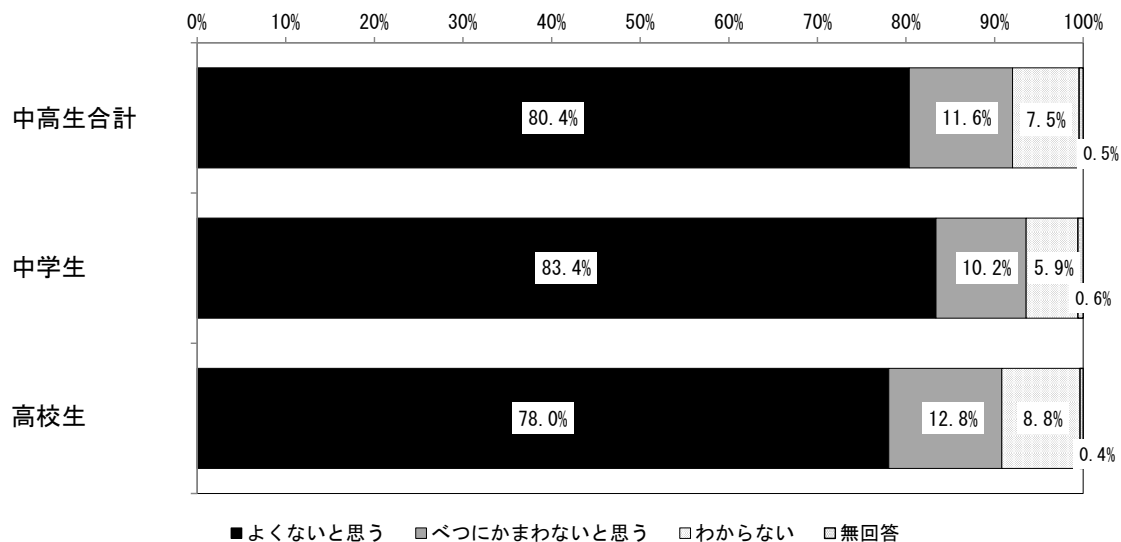


図 I-61 ルール・マナーの意識 ⑨万引きをする(中高生合計 n=3,000 中学生 n=1,316 高校生 n=1,684)

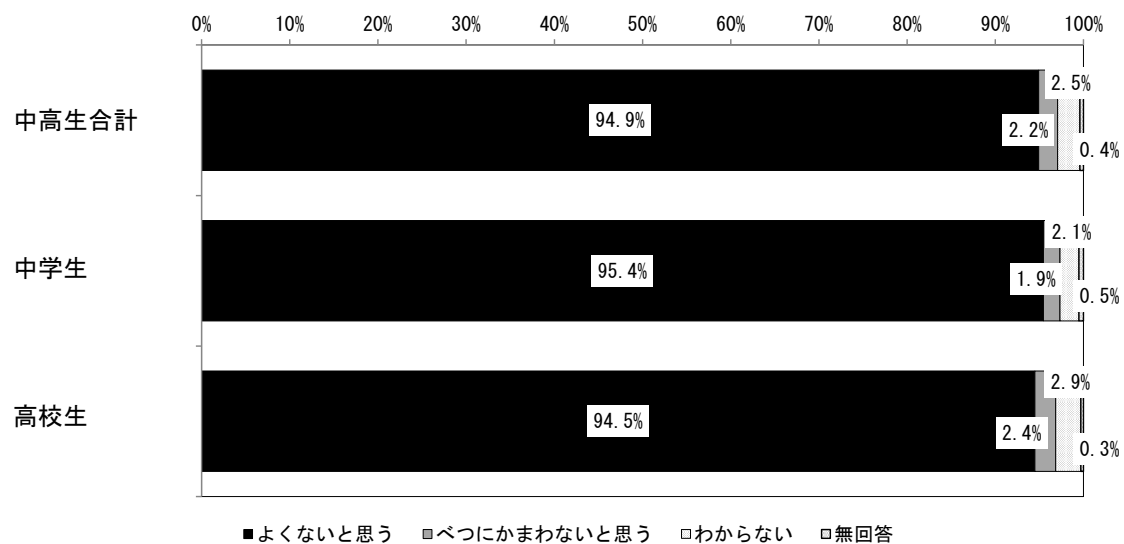
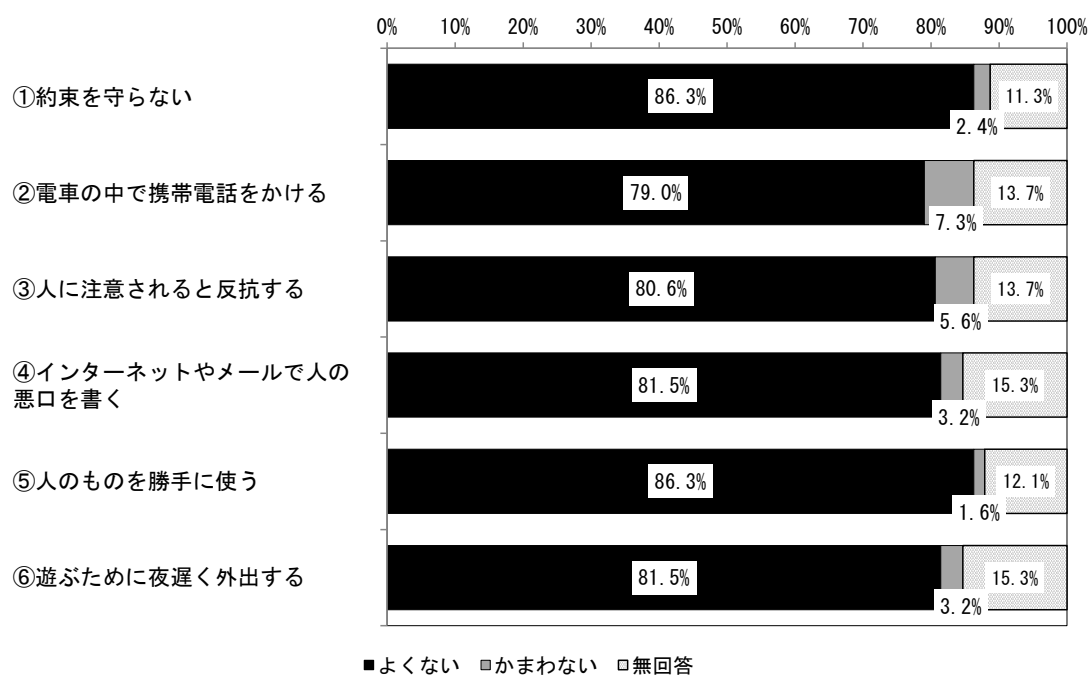


図 I-62 ルール・マナーの意識(特別支援学校児童・生徒 n=124)



『ルール・マナーの意識』について児童・生徒に聞いたところ、「よくないと思う」との回答の割合が高かった項目は、小学生の回答は平成 25 年度調査では「インターネットやメールで人の悪口を書く」(95.5%)、「約束を守らない」(94.9%)、「電車の中で騒いだり、床に座り込む」(94.6%)であり、平成 17 年度調査では「電車の中で騒いだり、床に座り込む」(89.7%)、「インターネットやメールで人の悪口を書く」(87.9%)、「人のものを勝手に使う」(87.2%)であった。中学生の回答は平成 25 年度調査では「万引きをする」(95.4%)、「電車の中で騒いだり、床に座り込む」(89.5%)、「約束を守らない」(88.8%)であり、平成 17 年度調査では「万引きをする」(93.4%)、「約束を守らない」(86.2%)、「たばこを吸ったり、酒を飲んだりする」(80.6%)であった。高校生の回答は平成 25 年度調査では「万引きをする」(94.5%)、「電車の中で騒いだり、床に座り込む」(93.0%)、「約束を守らない」(90.4%)であり、平成 17 年度調査では「万引きをする」(91.4%)、「約束を守らない」(87.8%)、「電車の中で騒いだり、床に座り込む」(77.5%)であった。特別支援学校児童・生徒の回答は平成 25 年度調査では「約束を守らない」(86.3%)、「人のものを勝手に使う」(86.3%)、「インターネットやメールで人の悪口を書く」(81.5%)、「遊ぶために夜遅く外出する」(81.5%)であり、平成 17 年度調査では「約束を守らない」(96.9%)、「人のものを勝手に使う」(90.8%)、「インターネットやメールで人の悪口を書く」(80.0%)であった。(図 I-63～97 参照)

図 I-63 ルール・マナーの意識

①約束を守らない(小中高生合計 平成 25 年度 n=4, 254、平成 17 年度 n=4, 476)

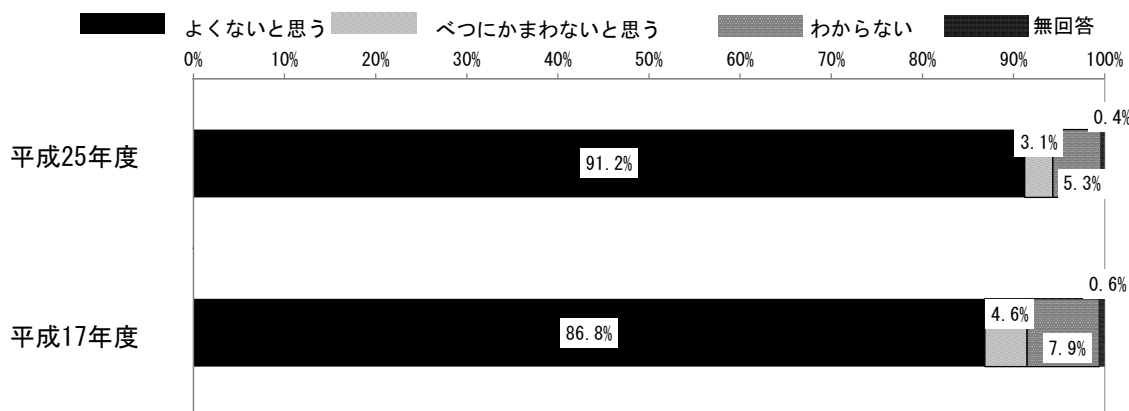


図 I-64 ルール・マナーの意識

①約束を守らない(小学生 平成 25 年度 n=1, 254、平成 17 年度 n=1, 394)

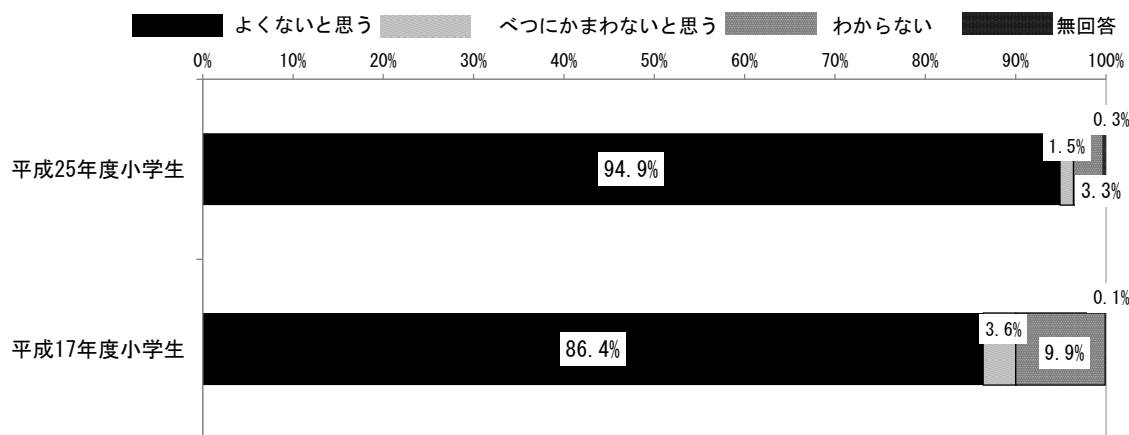


図 I-65 ルール・マナーの意識

①約束を守らない(中学生 平成 25 年度 n=1,316、平成 17 年度 n=1,446)

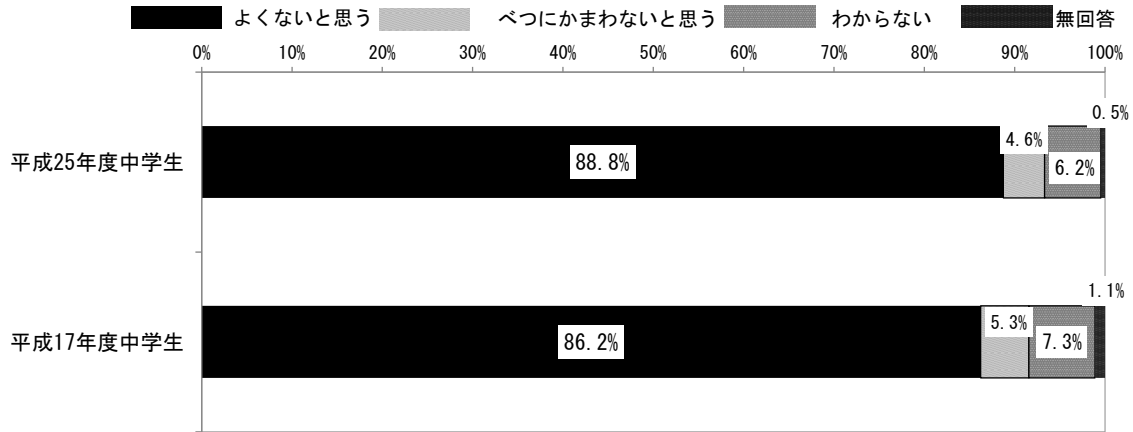


図 I-66 ルール・マナーの意識

①約束を守らない(高校生 平成 25 年度 n=1,684、平成 17 年度 n=1,636)

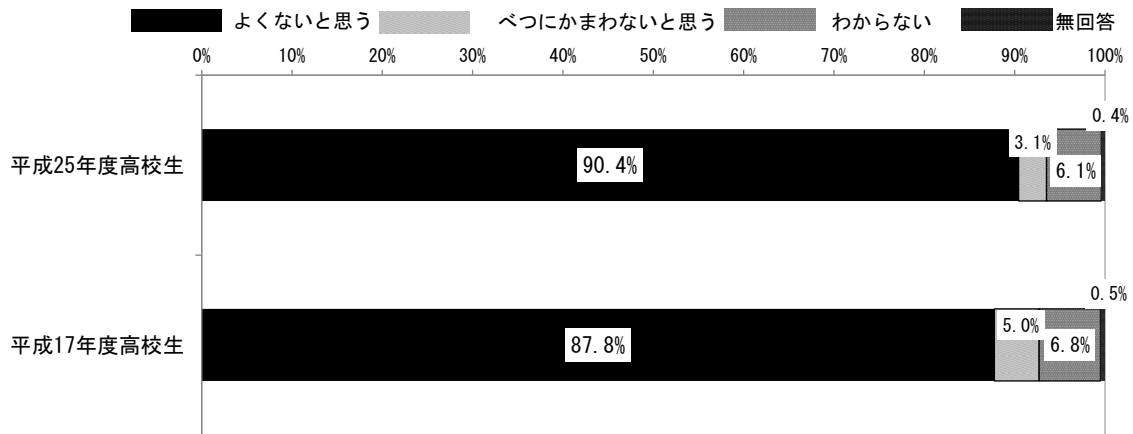


図 I-67 ルール・マナーの意識

②電車の中で騒いだり、床に座り込む(小中高生合計 平成 25 年度 n=4,254、平成 17 年度 n=4,476)

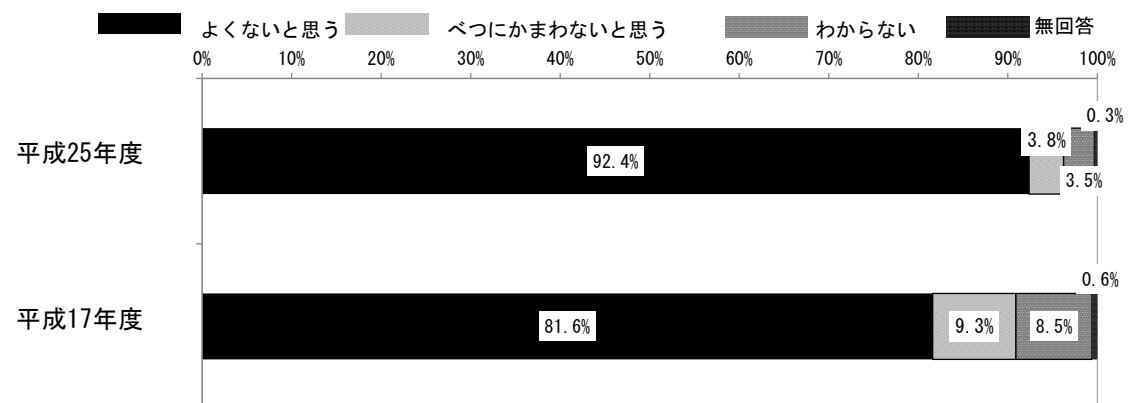


図 I-68 ルール・マナーの意識

②電車の中でさわいだり、ゆかにすわりこむ(小学生 平成25年度 n=1,254、平成17年度 n=1,394)

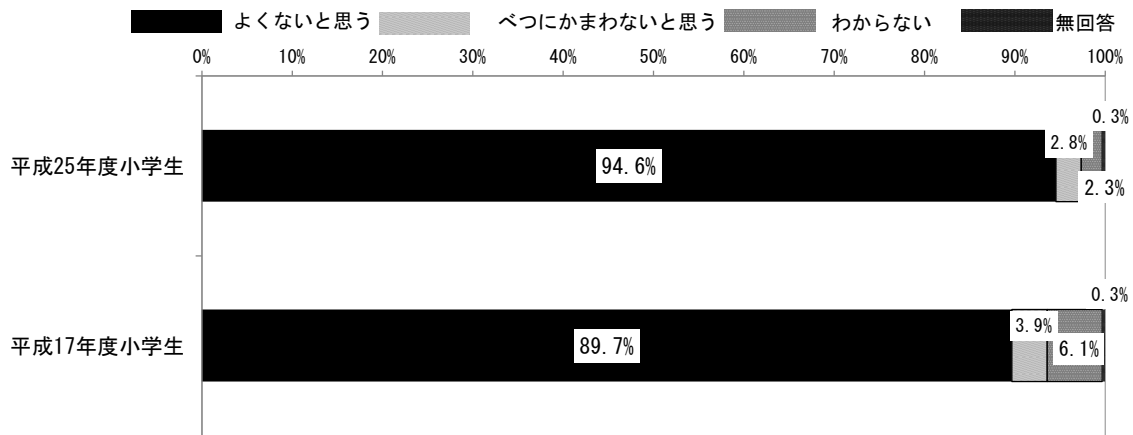


図 I-69 ルール・マナーの意識

②電車の中で騒いだり、床に座り込む(中学生 平成25年度 n=1,316、平成17年度 n=1,446)

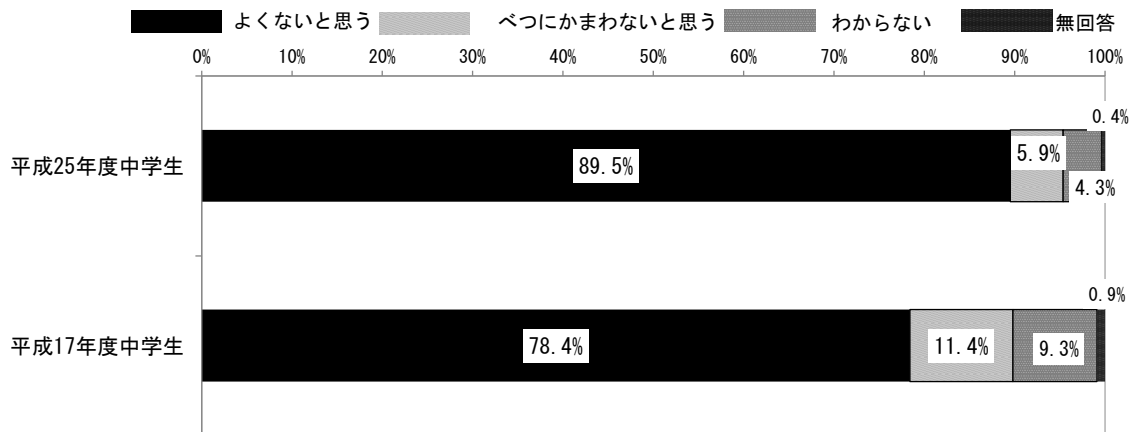


図 I-70 ルール・マナーの意識

②電車の中で騒いだり、床に座り込む(高校生 平成25年度 n=1,684、平成17年度 n=1,636)

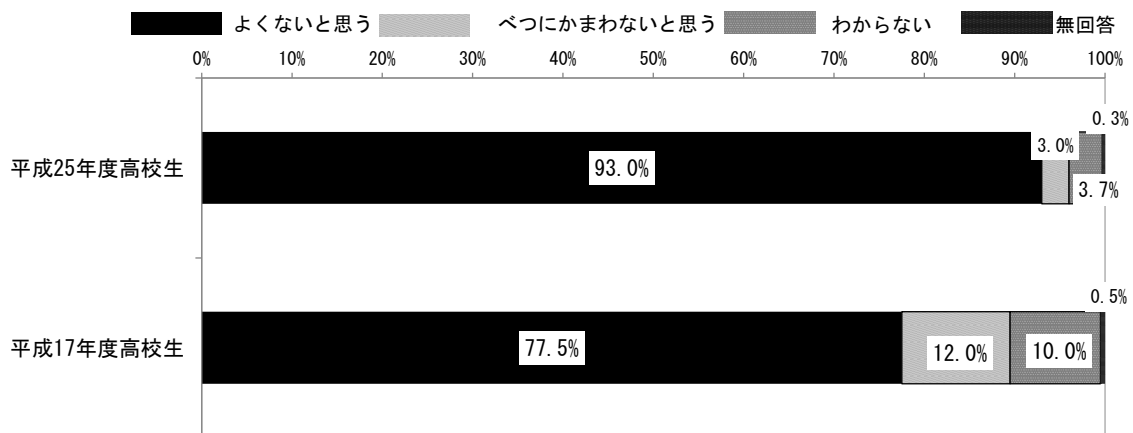


図 I-71 ルール・マナーの意識

③小学生：電車の中でけい帯電話をかける 中高生：電車の中で携帯電話をかけたリ、化粧をする(小中高生合計 平成25年度 n=4,254、平成17年度 n=4,476)

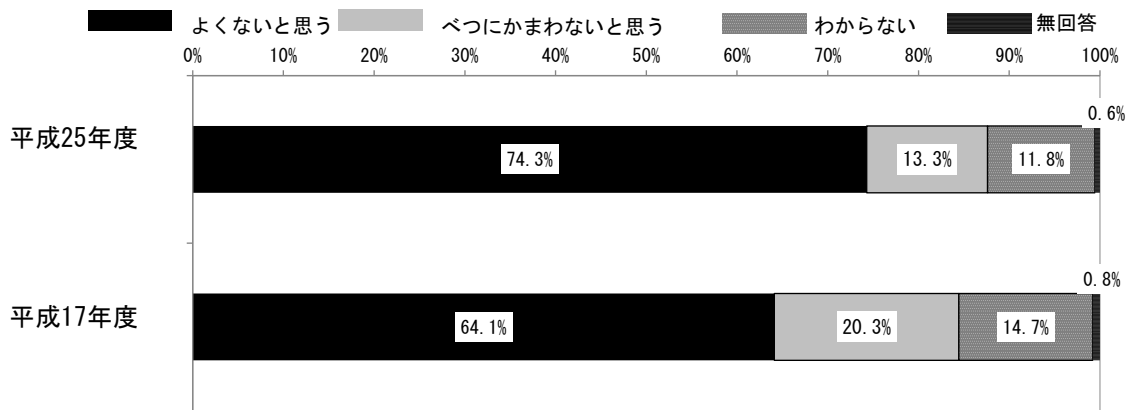


図 I-72 ルール・マナーの意識

③電車の中でけい帯電話をかける(小学生 平成25年度 n=1,254、平成17年度 n=1,394)

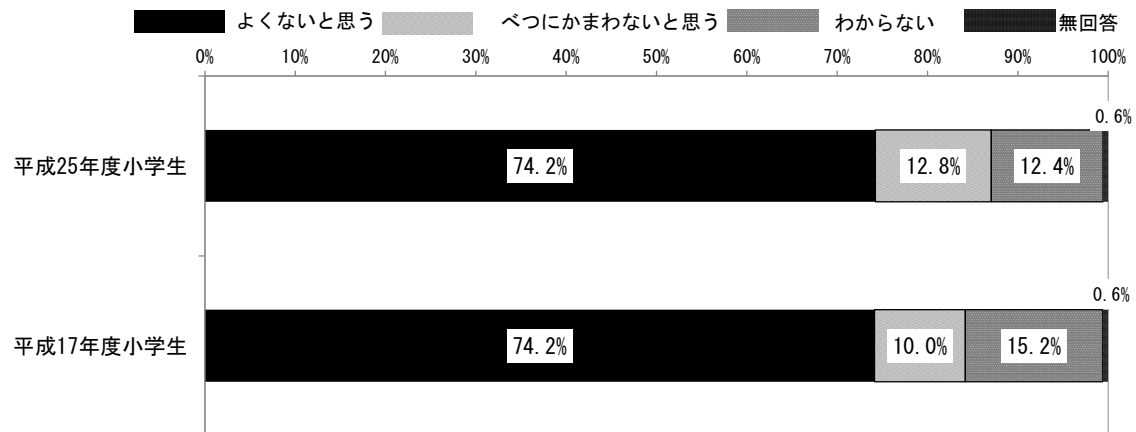


図 I-73 ルール・マナーの意識

③電車の中で携帯電話をかけたリ、化粧をする(中学生 平成25年度 n=1,316、平成17年度 n=1,446)

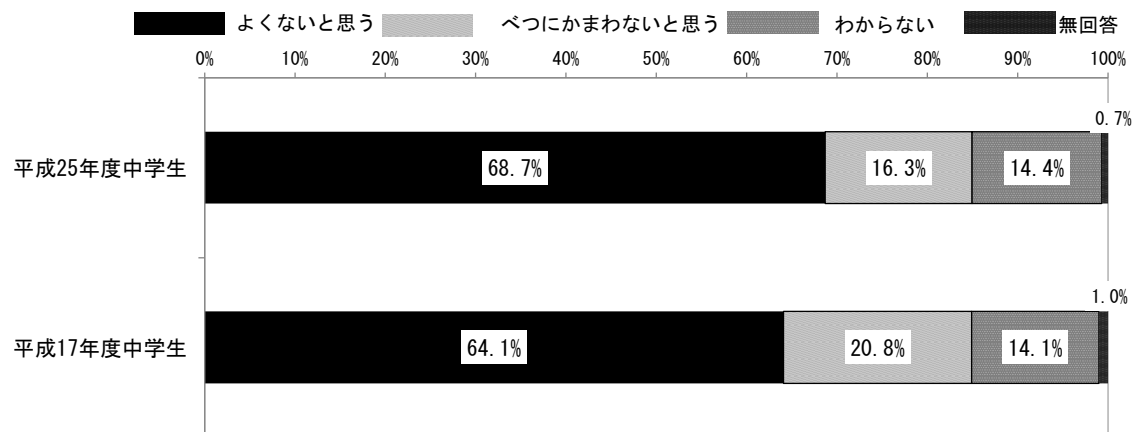


図 I-74 ルール・マナーの意識

③電車の中で携帯電話をかけたたり、化粧をする(高校生 平成25年度 n=1,684、平成17年度 n=1,636)

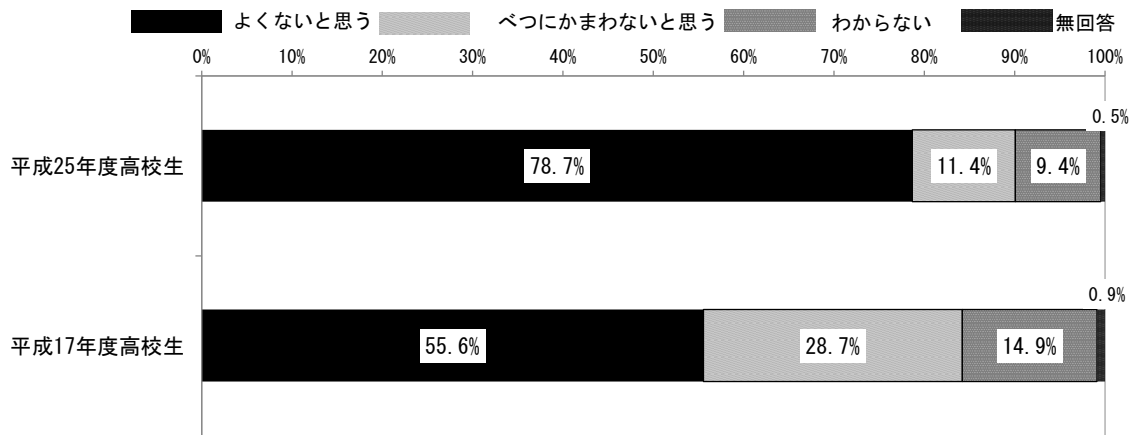


図 I-75 ルール・マナーの意識

④注意されると無視したり反抗したりする(小中高生合計 平成25年度 n=4,254、平成17年度 n=4,476)

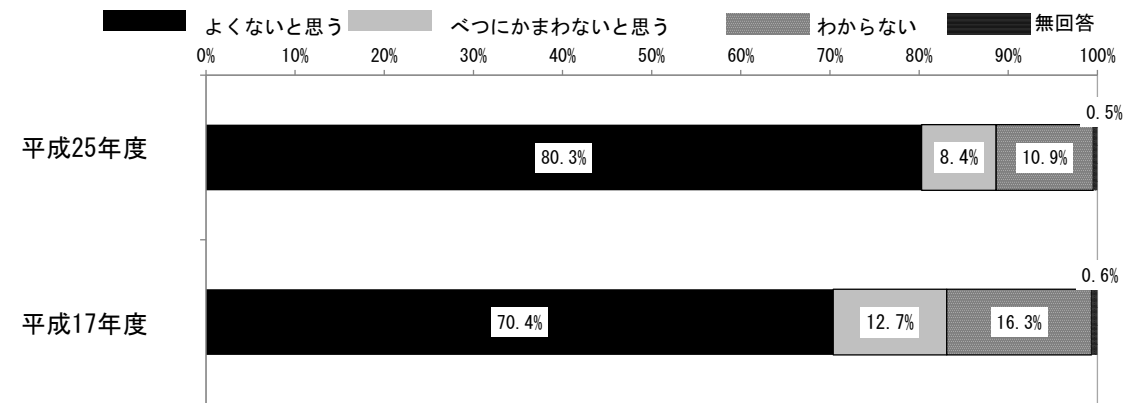


図 I-76 ルール・マナーの意識

④注意されると無視したり反抗したりする(小学生 平成25年度 n=1,254、平成17年度 n=1,394)

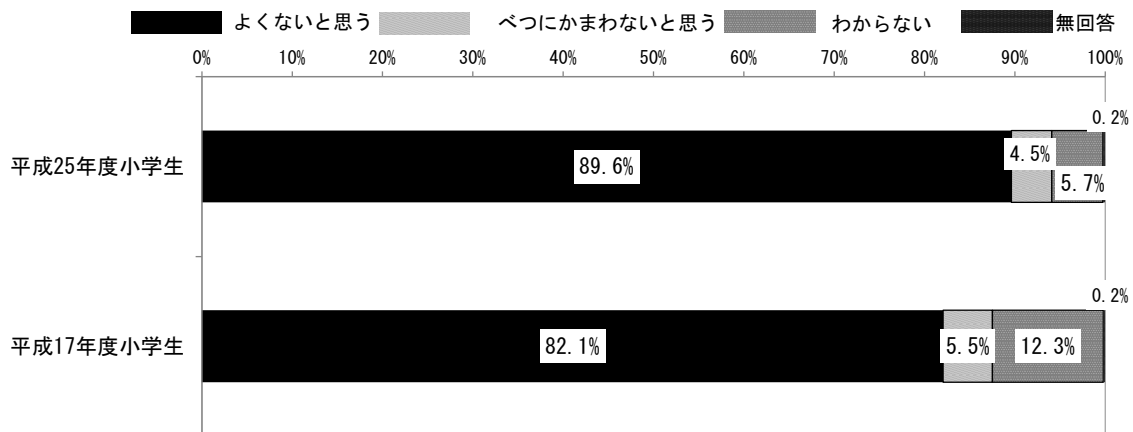


図 I-77 ルール・マナーの意識

④注意されると無視したり反抗したりする(中学生 平成 25 年度 n=1,316、平成 17 年度 n=1,446)

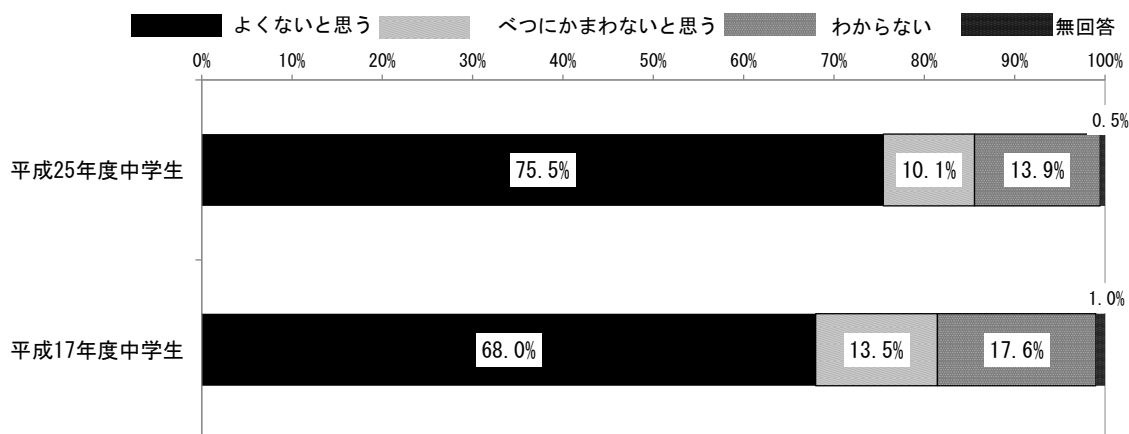


図 I-78 ルール・マナーの意識

④注意されると無視したり反抗したりする(高校生 平成 25 年度 n=1,684、平成 17 年度 n=1,636)

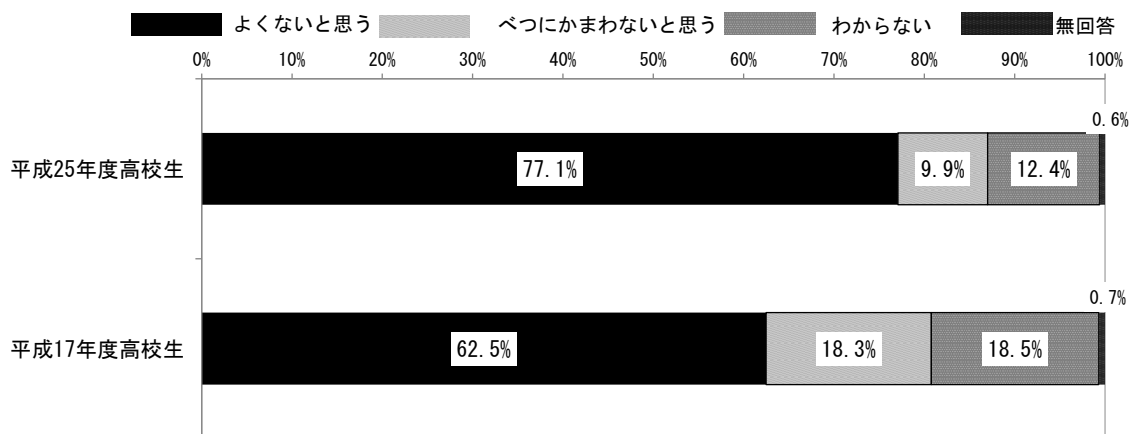


図 I-79 ルール・マナーの意識

⑤インターネットやメールで人の悪口を書く(小中高生合計 平成 25 年度 n=4,254、平成 17 年度 n=4,476)

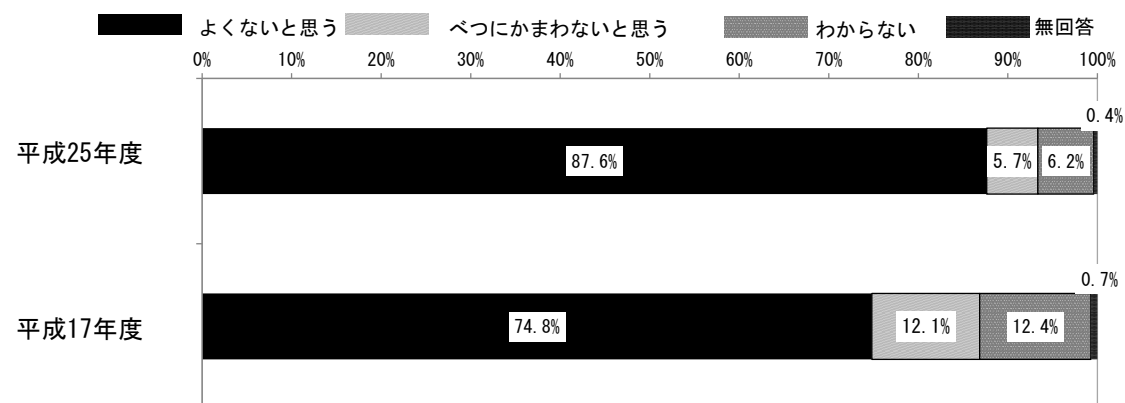


図 I-80 ルール・マナーの意識

⑤インターネットやメールで人の悪口を書く(小学生 平成25年度 n=1,254、平成17年度 n=1,394)

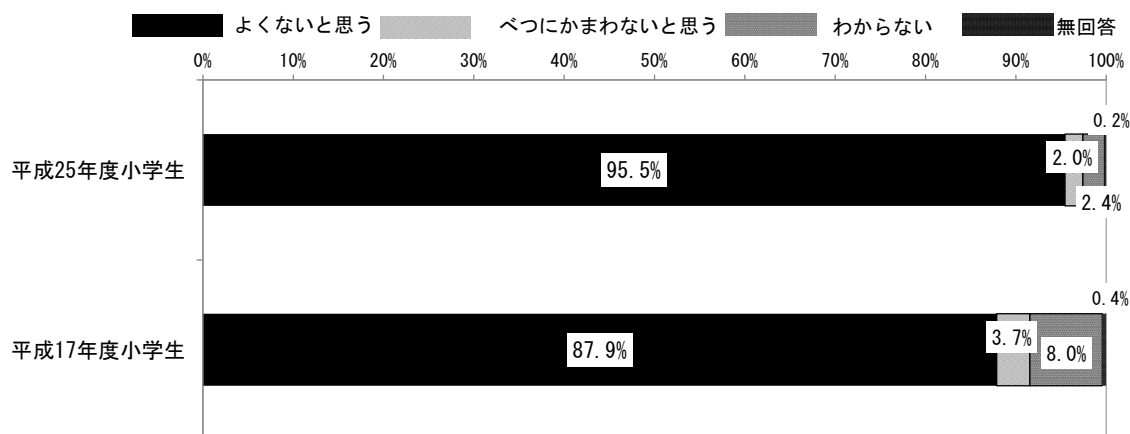


図 I-81 ルール・マナーの意識

⑤インターネットやメールで人の悪口を書く(中学生 平成25年度 n=1,316、平成17年度 n=1,446)

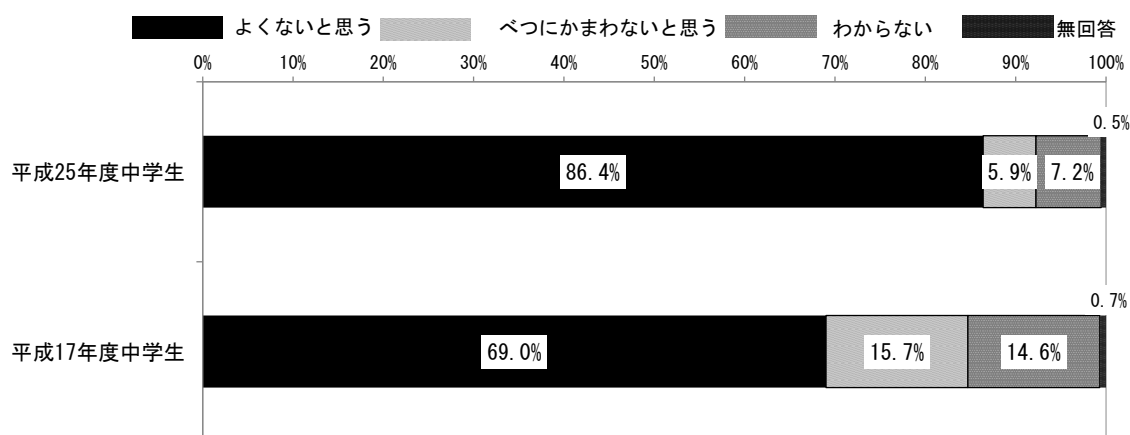


図 I-82 ルール・マナーの意識

⑤インターネットやメールで人の悪口を書く(高校生 平成25年度 n=1,684、平成17年度 n=1,636)

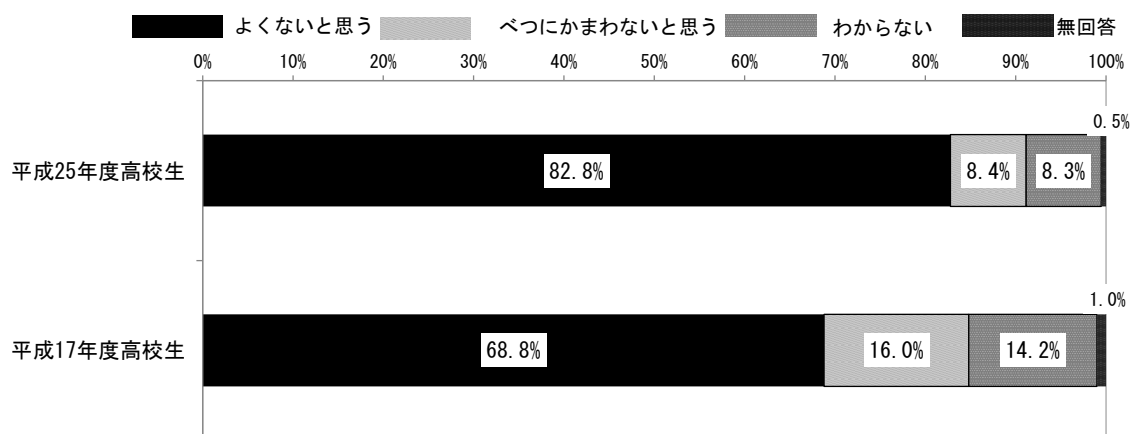


図 I-83 ルール・マナーの意識

⑥人のものを勝手に使う(小中高生合計 平成25年度 n=4,254、平成17年度 n=4,476)

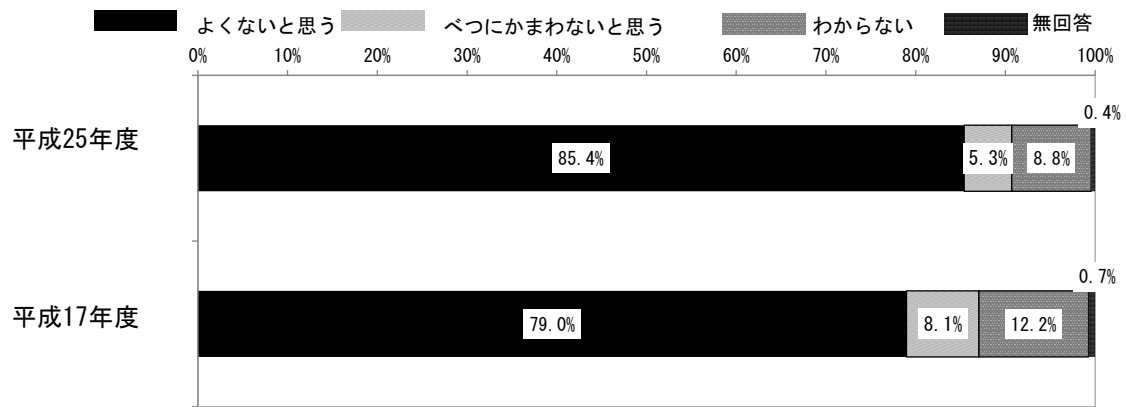


図 I-84 ルール・マナーの意識

⑥人のものを勝手に使う(小学生 平成25年度 n=1,254、平成17年度 n=1,394)

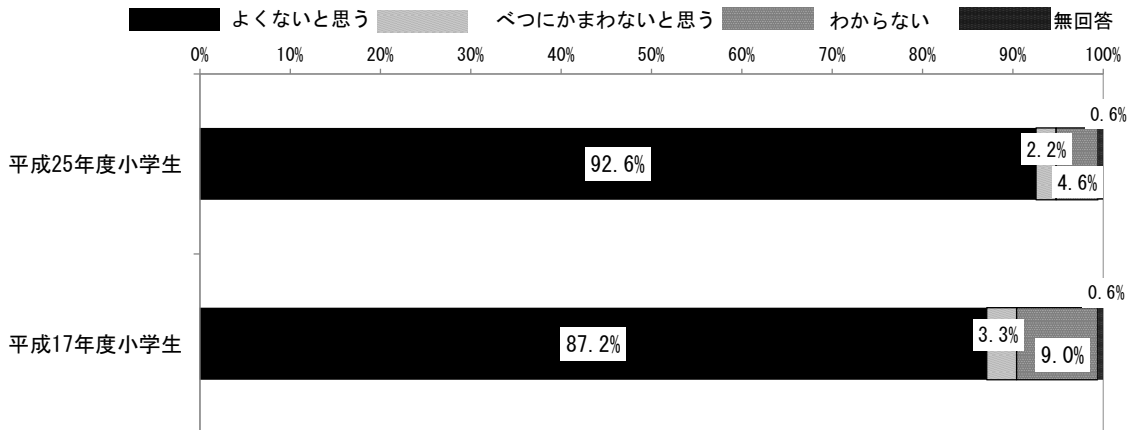


図 I-85 ルール・マナーの意識

⑥人のものを勝手に使う(中学生 平成25年度 n=1,316、平成17年度 n=1,446)

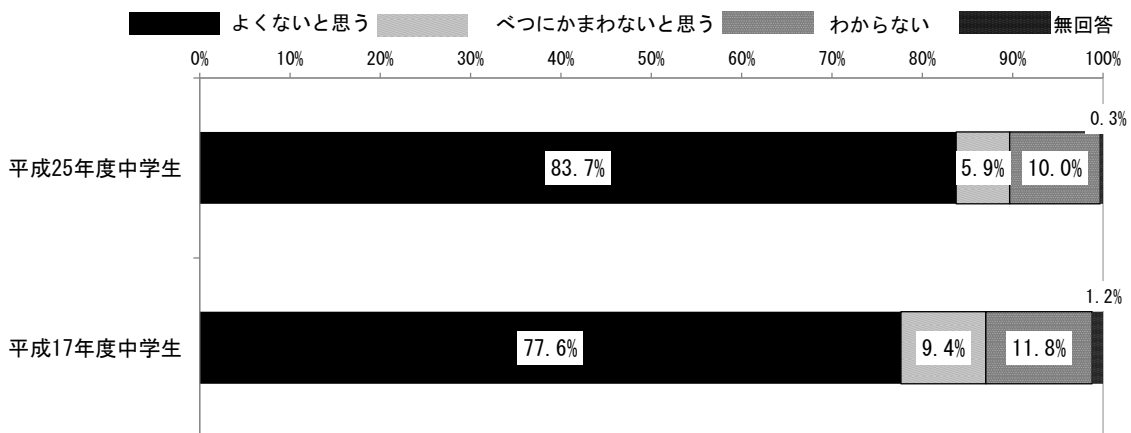


図 I-86 ルール・マナーの意識

⑥人のものを勝手に使う(高校生 平成25年度 n=1,684、平成17年度 n=1,636)

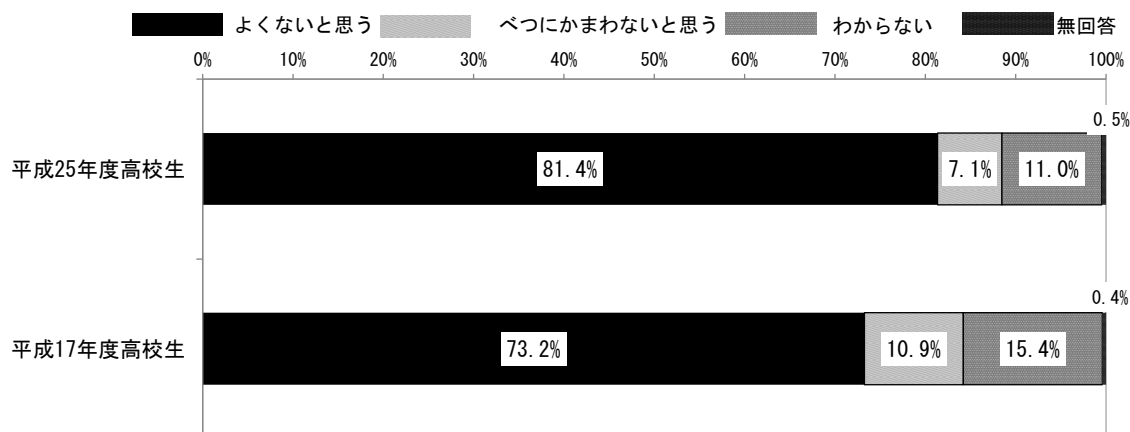


図 I-87 ルール・マナーの意識

⑦遊ぶために夜遅く外出する(小中高生合計 平成25年度 n=4,254、平成17年度 n=4,476)

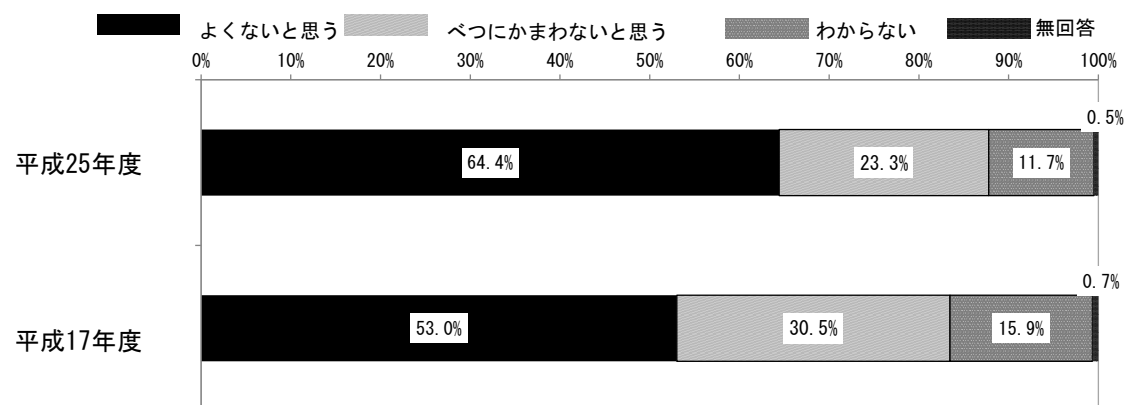


図 I-88 ルール・マナーの意識

⑦遊ぶために夜おそく外出する(小学生 平成25年度 n=1,254、平成17年度 n=1,394)

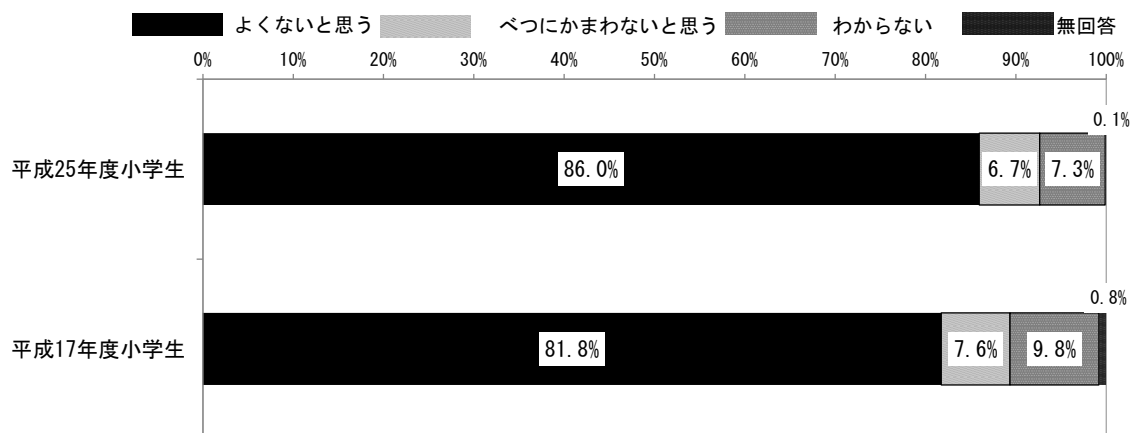


図 I-89 ルール・マナーの意識

⑦遊ぶために夜遅く外出する(中学生 平成25年度 n=1,316、平成17年度 n=1,446)

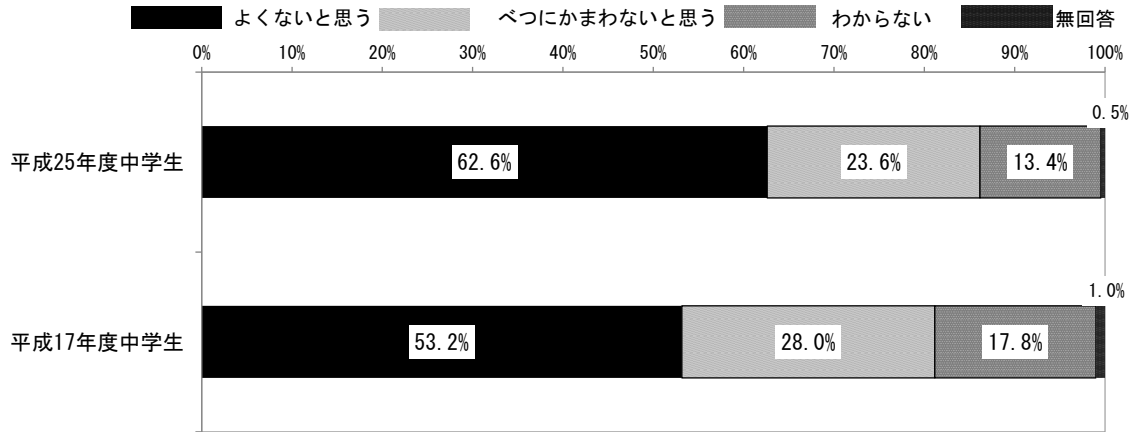


図 I-90 ルール・マナーの意識

⑦遊ぶために夜遅く外出する(高校生 平成25年度 n=1,684、平成17年度 n=1,636)

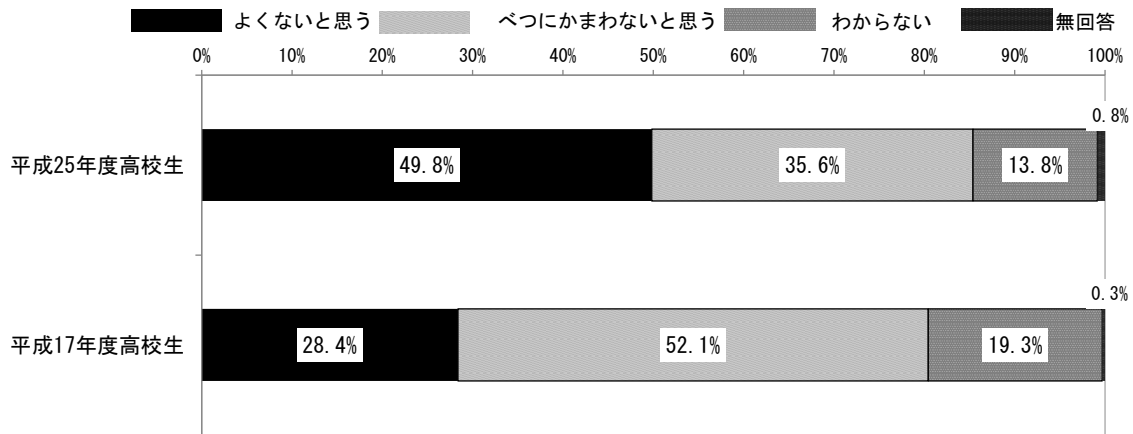


図 I-91 ルール・マナーの意識

⑧たばこを吸ったり、酒を飲んだりする(中高生合計 平成25年度 n=3,000、平成17年度 n=3,082)

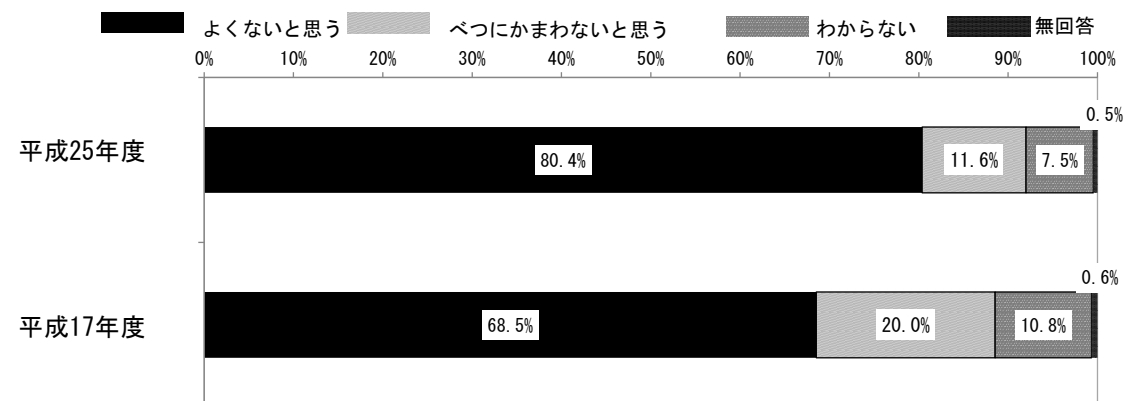


図 I-92 ルール・マナーの意識

⑧たばこを吸ったり、酒を飲んだりする(中学生 平成25年度 n=1,316、平成17年度 n=1,446)

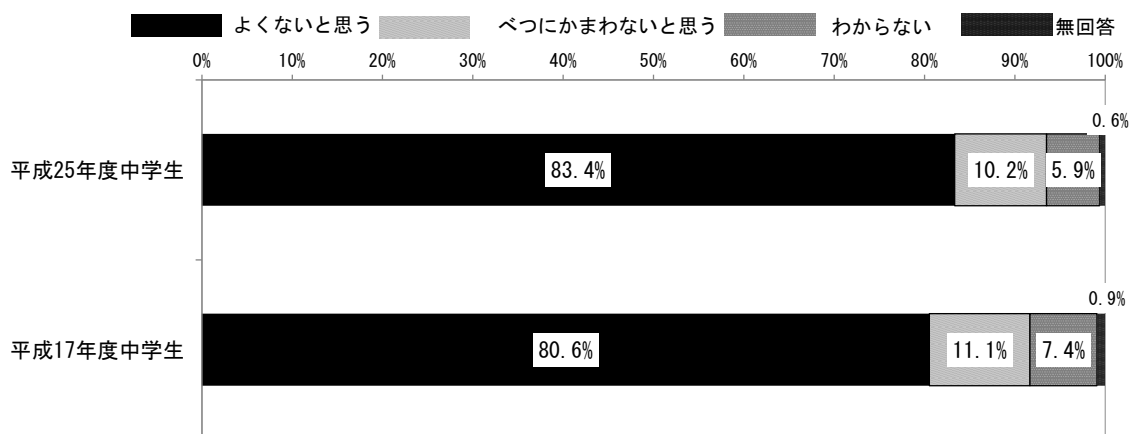


図 I-93 ルール・マナーの意識

⑧たばこを吸ったり、酒を飲んだりする(高校生 平成25年度 n=1,684、平成17年度 n=1,636)

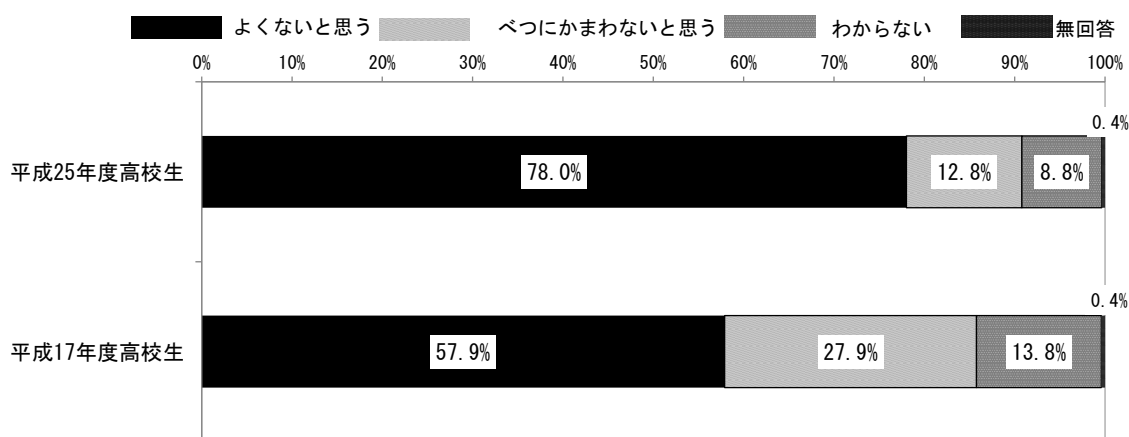


図 I-94 ルール・マナーの意識

⑨万引きをする(中高生合計 平成25年度 n=3,000、平成17年度 n=3,082)

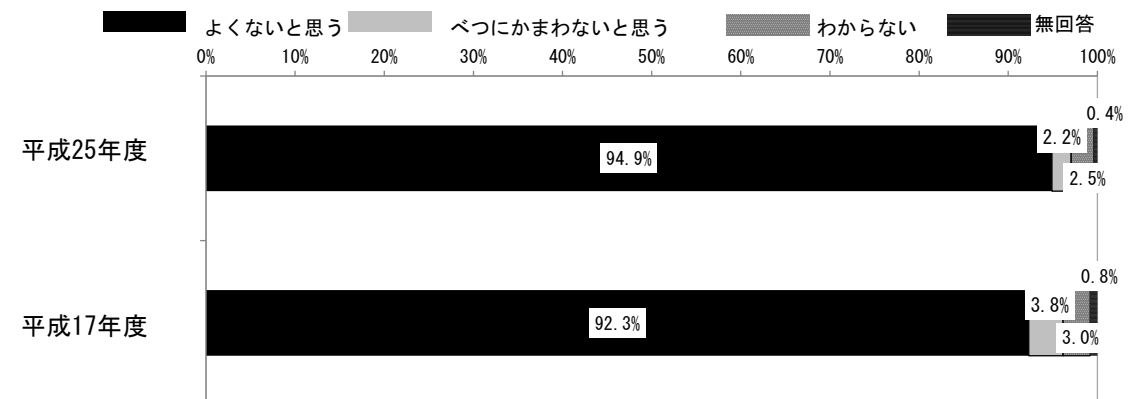


図 I-95 ルール・マナーの意識

⑨万引きをする(中学生 平成25年度 n=1,316、平成17年度 n=1,446)

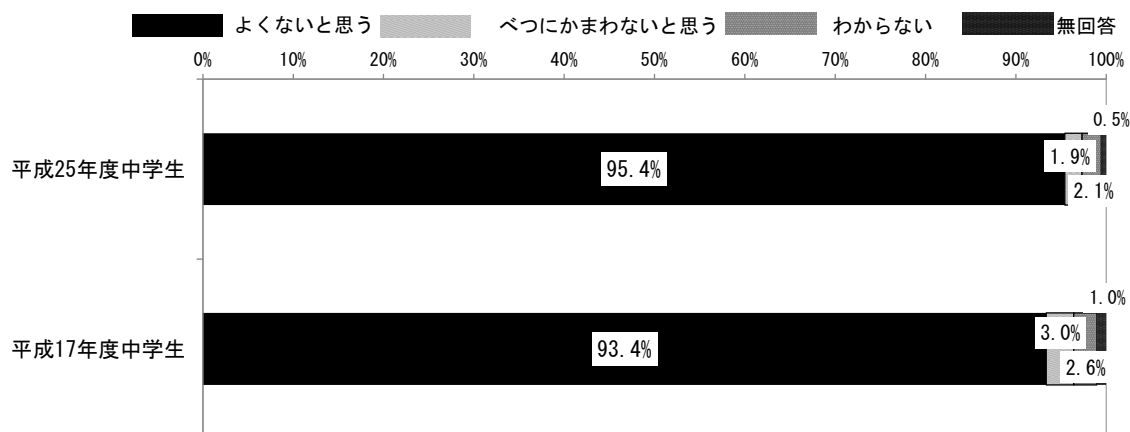


図 I-96 ルール・マナーの意識

⑨万引きをする(高校生 平成25年度 n=1,684、平成17年度 n=1,636)

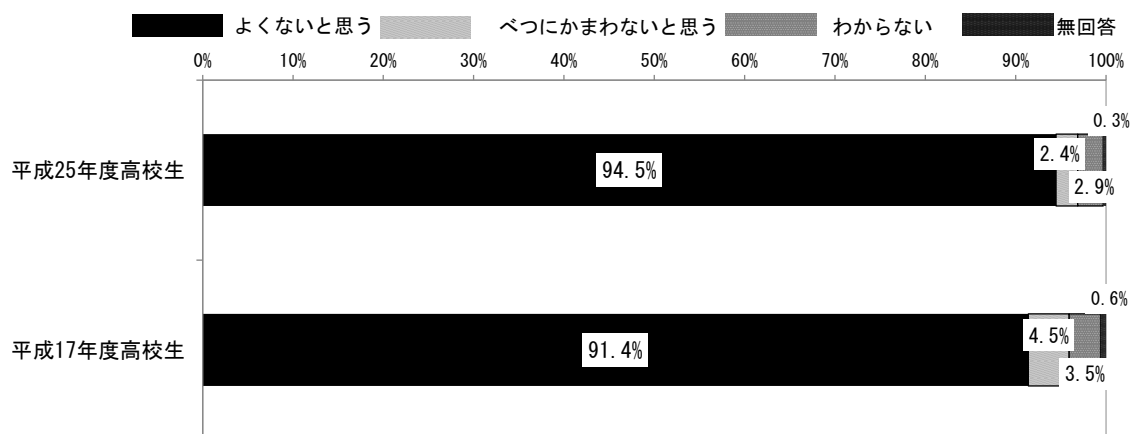
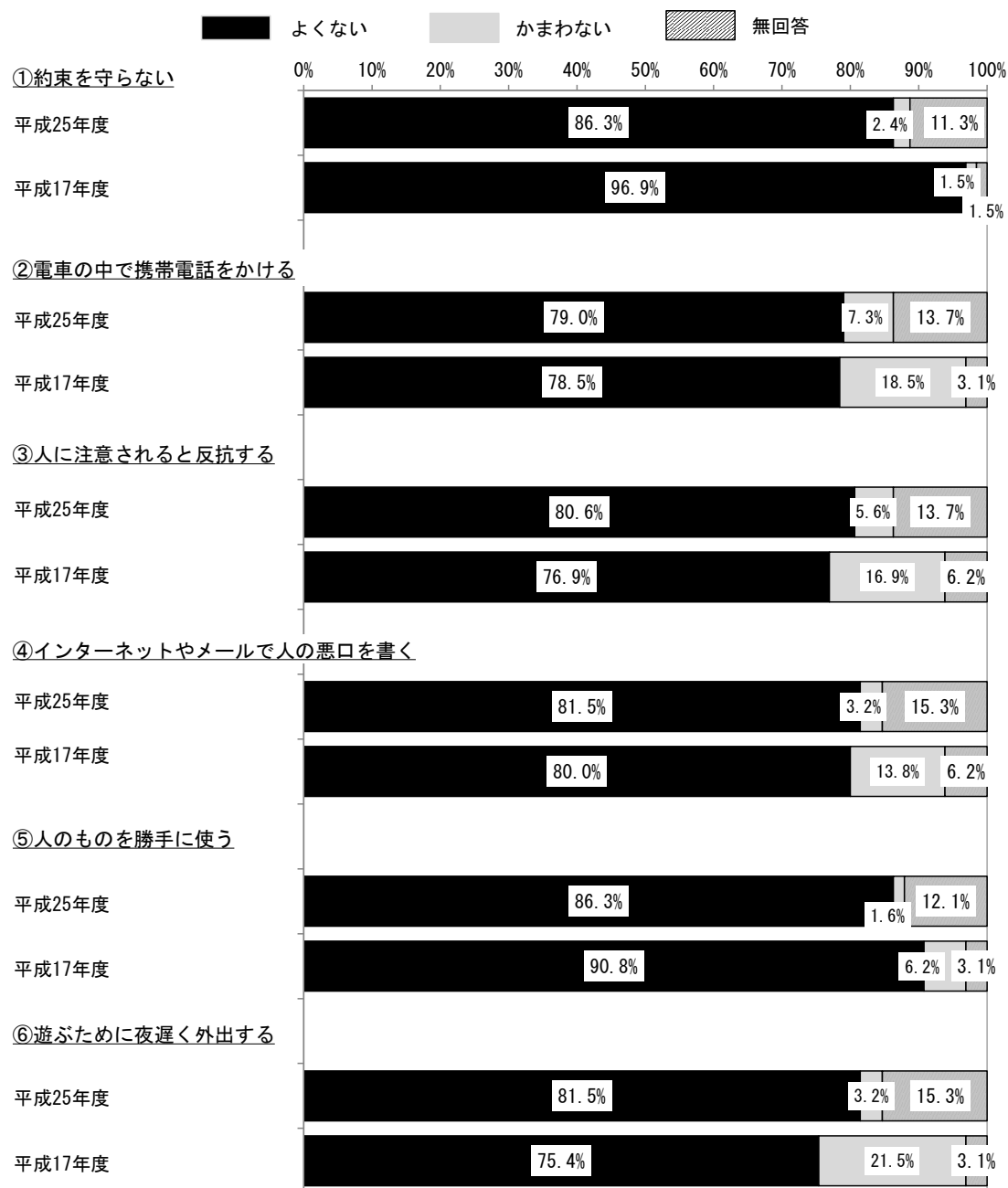


図 I-97 ルール・マナーの意識(特別支援学校児童・生徒 平成25年度 n=124、平成17年度 n=65)



I-7 学校外での生活

子どもに、『学校外での生活』について聞いたところ、小中高生では「趣味や自分の好きなことをする」の回答が最も高い割合となっており、次いで、小学生では「スポーツや遊びでからだを動かす」、「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」、中学生では「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」、「外出して友だちと過ごす」、高校生では「外出して友だちと過ごす」、「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」との回答の割合が高くなっている。特別支援学校児童・生徒は、「テレビを見る」、「家族といっしょに過ごす」、「ゲームをする」の回答の割合が高くなっている。

回答の割合が最も高かった項目を平成 17 年度調査結果と比べると、小学生は平成 25 年度調査では「しゅ味や自分の好きなことをする」(48.6%)であり、平成 17 年度調査では「じゅくや習い事に通う」(45.8%)であった。中学生は平成 25 年度調査では「趣味や自分の好きなことをする」(56.5%)であり、平成 17 年度調査では「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」(45.2%)であった。高校生はどちらの調査結果においても「趣味や自分の好きなことをする」との回答が最も割合が高く、平成 25 年度調査では 60.6%、平成 17 年度調査 50.3%であった。特別支援学校児童・生徒どちらの調査結果においても「テレビを見る」との回答が最も割合が高く、平成 25 年度調査では 48.4%、平成 17 年度調査 50.8%であった。

『学校外での生活』について児童・生徒に聞いたところ、小中高生では「趣味や自分の好きなことをする」(小学生：48.6%、中学生：56.5%、高校生：60.6%)の回答が最も高い割合となっており、次いで、小学生では「スポーツや遊びでからだを動かす」(43.3%)、「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」(37.2%)、中学生では「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」(46.4%)、「外出して友だちと過ごす」(41.9%)、高校生では「外出して友だちと過ごす」(45.2%)、「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」(40.9%)の回答が続いている。

また、特別支援学校児童・生徒は、「テレビを見る」(48.4%)、「家族といっしょに過ごす」(43.5%)、「ゲームをする」(33.1%)の回答の割合が高くなっている。(表 I-7、図 I-98, 99 参照)

表 I-7 学校外での生活(上位5項目)

	小学生	中学生	高校生
1位	趣味や自分の好きなことをする 48.6%	趣味や自分の好きなことをする 56.5%	趣味や自分の好きなことをする 60.6%
2位	スポーツや遊びでからだを動かす 43.3%	テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする 46.4%	外出して友だちと過ごす 45.2%
3位	テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする 37.2%	外出して友だちと過ごす 41.9%	テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする 40.9%
4位	家族と一緒に過ごす 37.1%	スポーツや遊びでからだを動かす 32.4%	携帯電話やスマートフォンなどを使って友だちと言葉のやり取りをする 33.2%
5位	外出して友だちと過ごす 32.5%	携帯電話やスマートフォンなどを使って友だちと言葉のやり取りをする 25.3%	スポーツや遊びでからだを動かす 20.1%

	特別支援学校児童・生徒
1位	テレビを見る 48.4%
2位	家族といっしょに過ごす 43.5%
3位	ゲームをする 33.1%
4位	スポーツや遊びでからだを動かす 29.0%
5位	家の手伝いをする 22.6%

図 I-98 学校外での生活(小中高生)

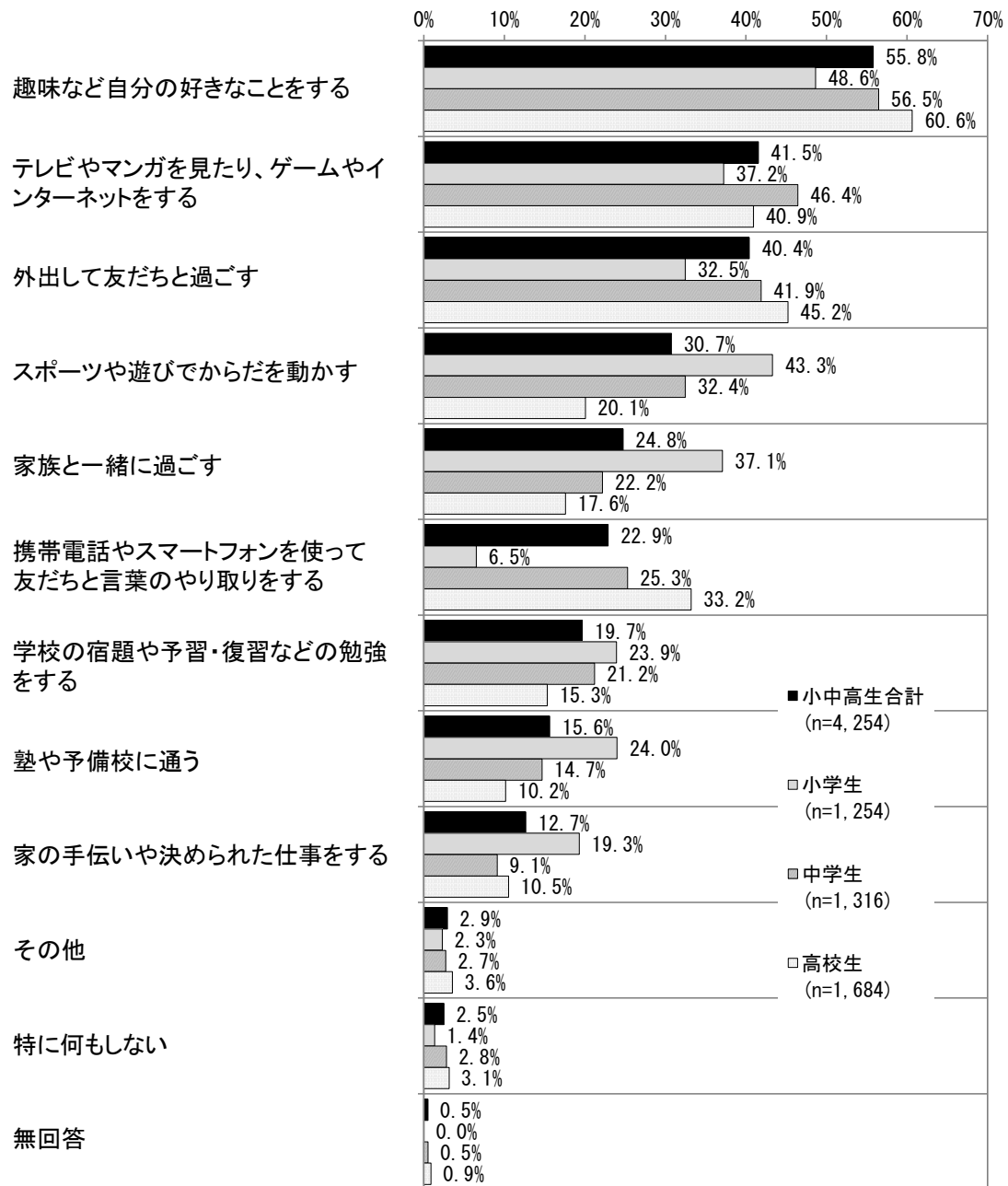
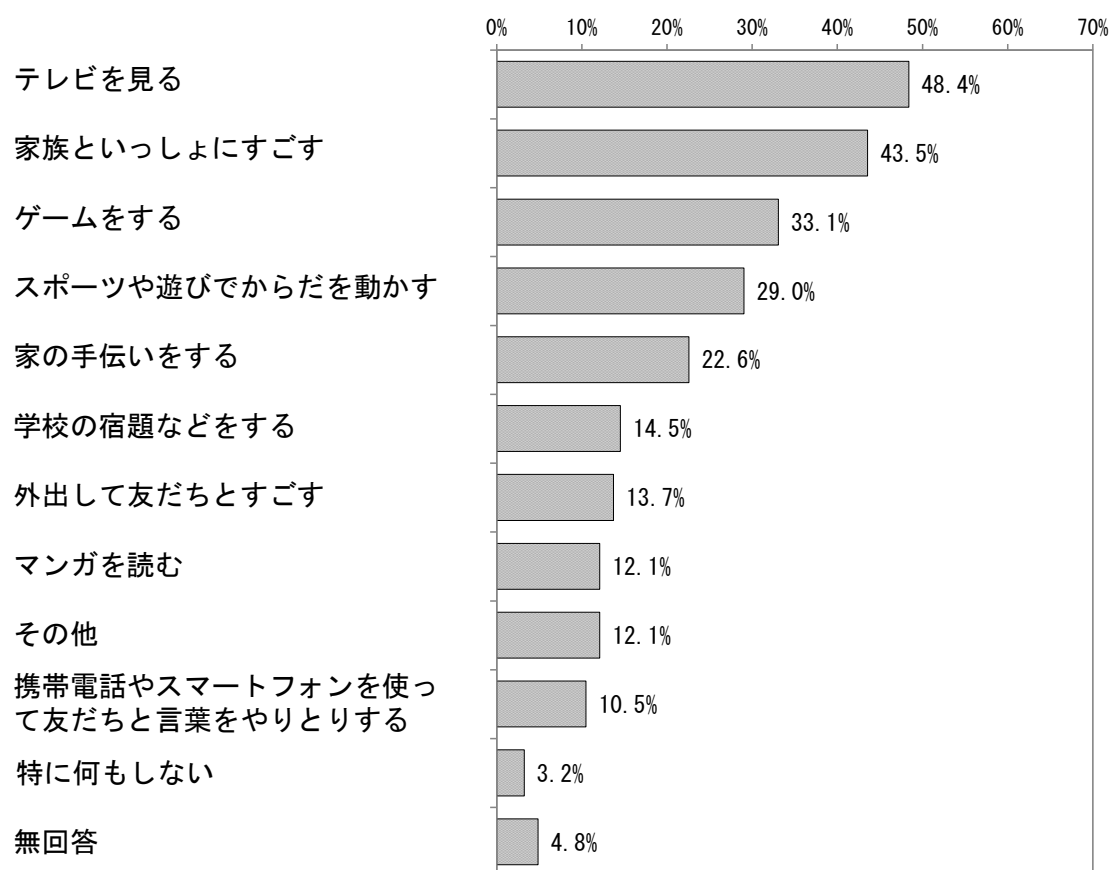


図 I-99 学校外での生活(特別支援学校児童・生徒 n=124)

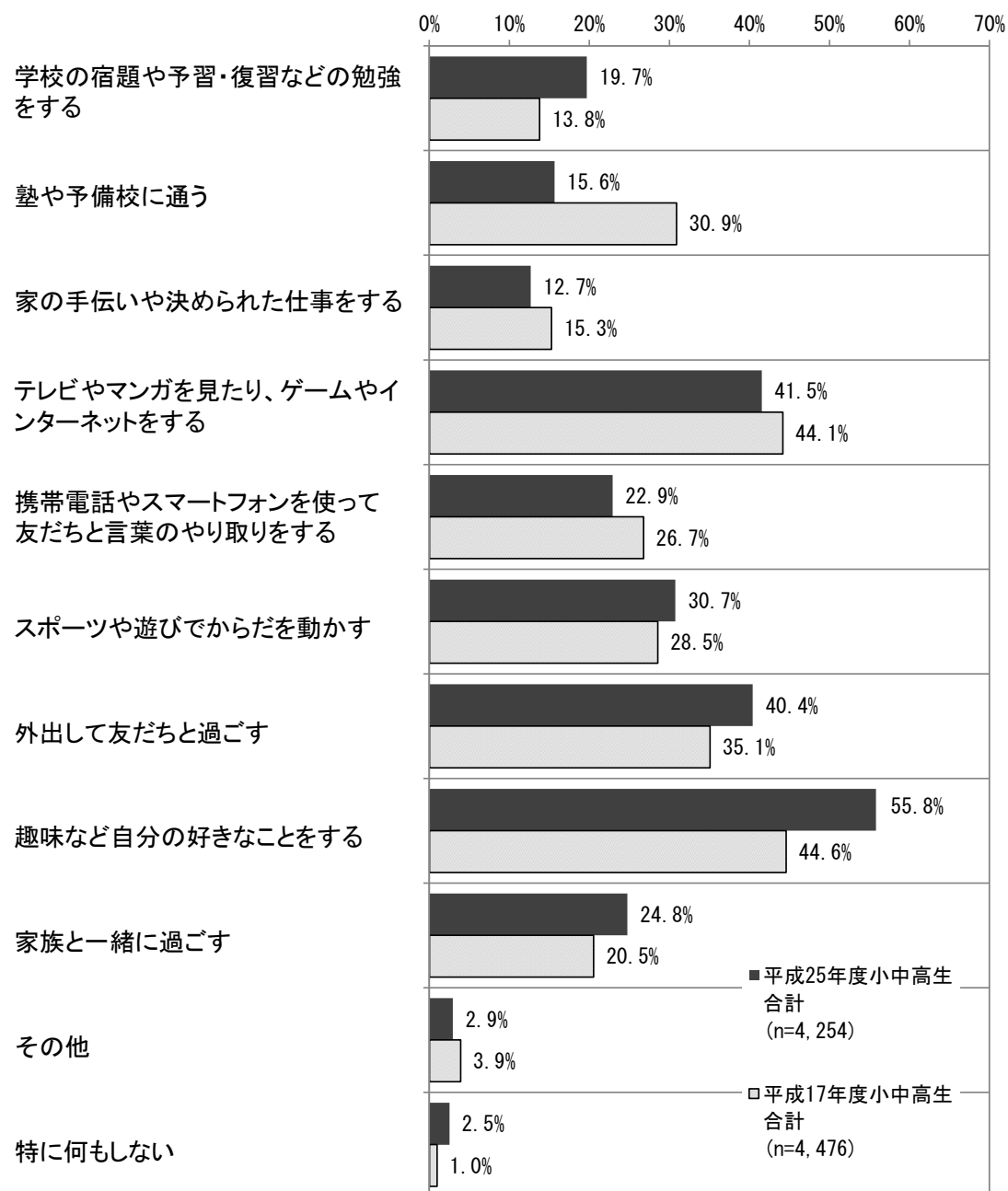


<「その他」の主な回答>

- ・デイサービスを利用する
- ・ヘルパーさんと外出する
- ・休養し、翌日の学校生活に備える
- ・一人で外出する
- など

児童・生徒の『学校外での生活』として回答の割合が高かった項目について平成 17 年度調査結果と比較すると、小学生の回答は平成 25 年度調査では「しゅ味や自分の好きなことをする」(48.6%)、「スポーツや遊びでからだを動かす」(43.3%)、「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」(37.2%)であり、平成 17 年度調査では「じゅくや習い事に通う」(45.8%)、「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」(40.5%)、「しゅ味や自分の好きなことをする」(38.6%)であった。中学生の回答は平成 25 年度調査では「趣味や自分の好きなことをする」(56.5%)、「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」(46.4%)、「外出して友だちと過ごす」(41.9%)であり、平成 17 年度調査では「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」(45.2%)、「趣味や自分の好きなことをする」(43.8%)、「塾や予備校に通う」(38.0%)であった。高校生の回答は平成 25 年度調査では「趣味や自分の好きなことをする」(60.6%)、「外出して友だちと過ごす」(45.2%)、「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」(40.9%)であり、平成 17 年度調査では「趣味や自分の好きなことをする」(50.3%)、「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」(46.4%)、「外出して友だちと過ごす」(42.9%)であった。特別支援学校児童・生徒の回答は平成 25 年度調査では「テレビを見る」(48.4%)、「家族といっしょに過ごす」(43.5%)、「ゲームをする」(33.1%)であり、平成 17 年度調査では「テレビを見る」(50.8%)、「家の手伝いをする」(43.1%)、「ゲームをする」(40.0%)であった。(図 I-100～104 参照)

図 I-100 学校外での生活(小中高生合計)



※「携帯電話やスマートフォンを使って友だちと言葉のやり取りをする」
 ……平成17年度調査「携帯電話や電子メールで友だちと話す」

図 I-101 学校外での生活(小学生)

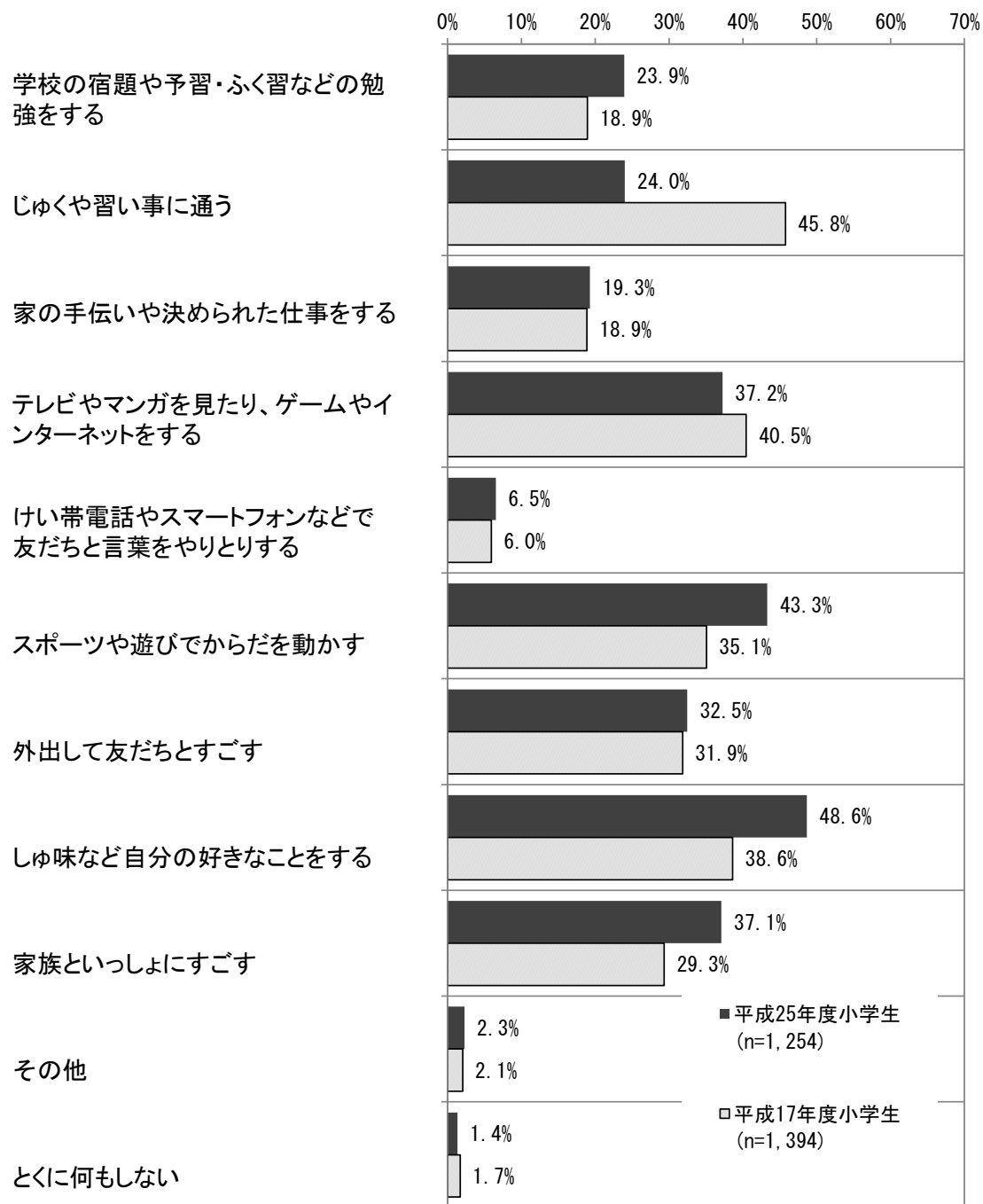


図 I-102 学校外での生活(中学生)

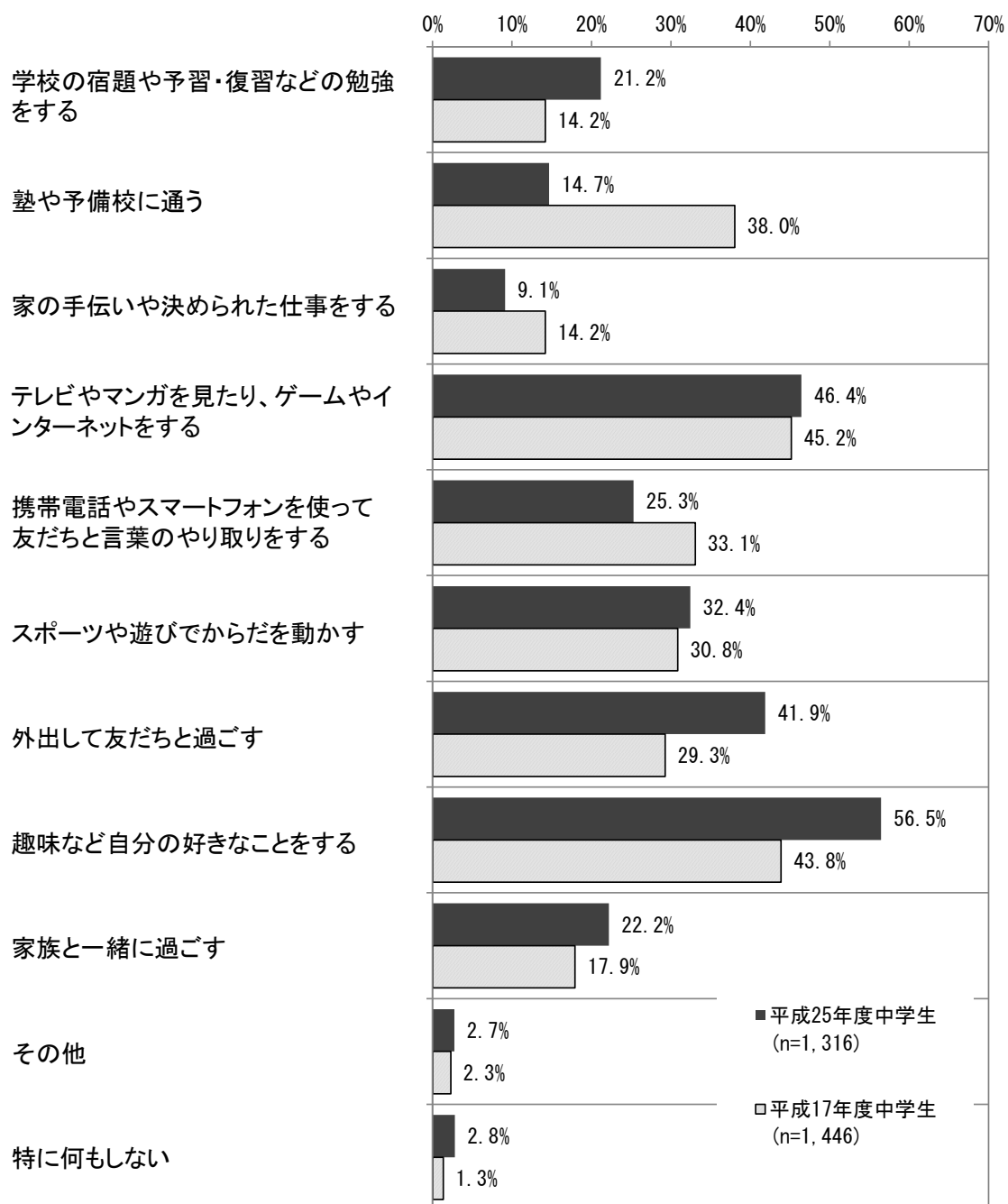


図 I-103 学校外での生活(高校生)

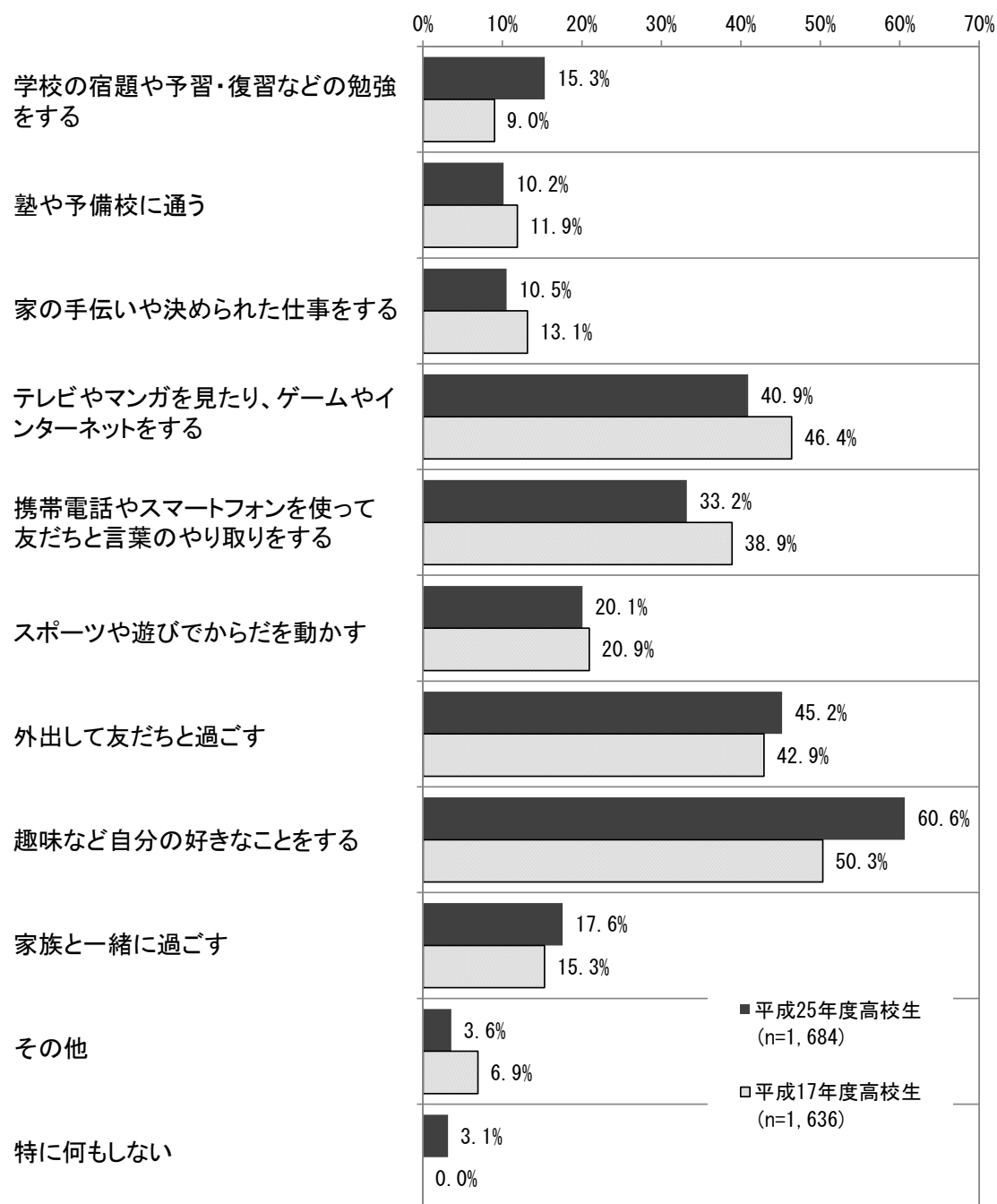
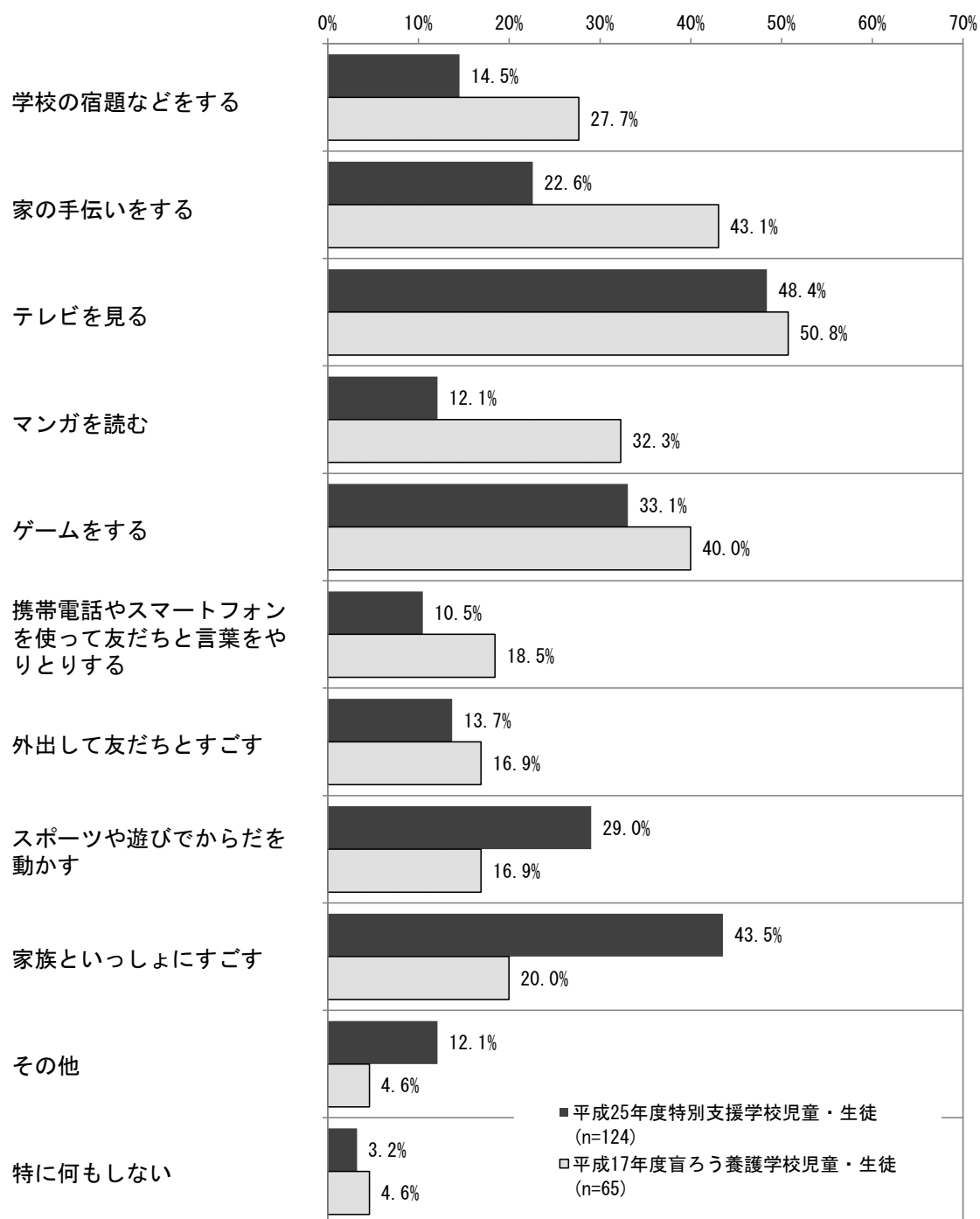


図 I-104 学校外での生活(特別支援学校児童・生徒)



※「携帯電話やスマートフォンを使って友だちと言葉のやり取りをする」
 ……平成17年度調査「携帯電話で友だちと連絡をとる」

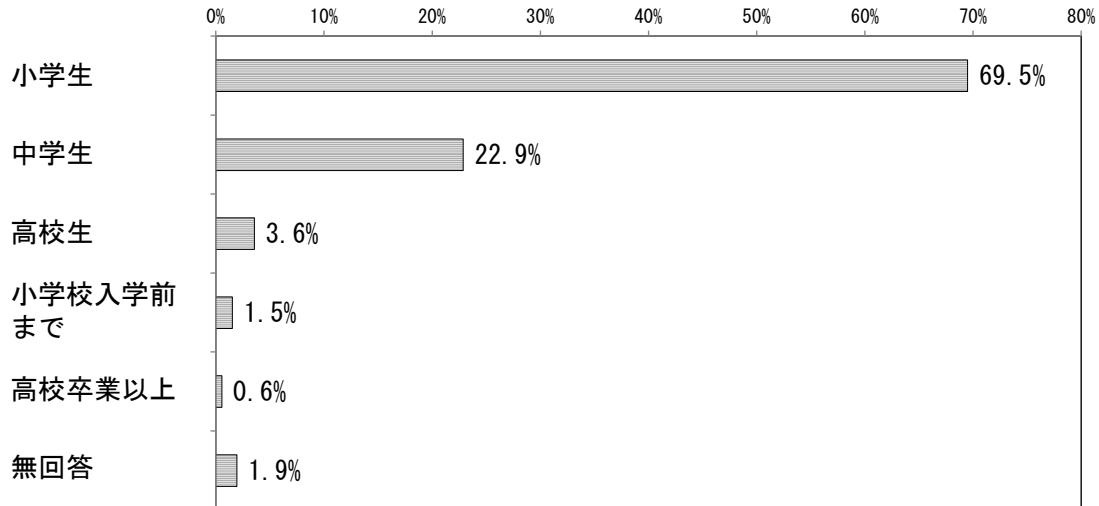
I-8 子どものイメージ

本調査を回答するにあたって、一般県民がイメージする「子ども」の学校段階を聞いたところ、「小学生」をイメージした回答が69.5%であった。

また、平成17年度調査では「小学生」と回答した割合は66.2%であった。

「子ども」という言葉からイメージする学校段階について一般県民に聞いたところ、「小学生」69.5%、「中学生」22.9%、「高校生」3.6%であった。(図I-105参照)

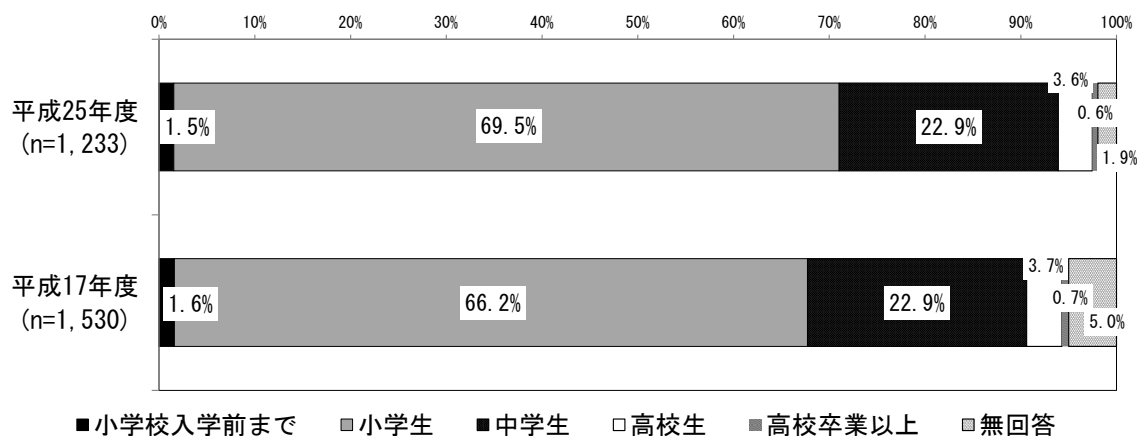
図 I-105 子どものイメージ(一般県民 n=1, 233)



平成17年度調査との比較

平成17年度調査結果と比較すると、平成25年度調査では「小学生」(69.5%)、「中学生」(22.9%)、「高校生」(3.6%)であり、平成17年度調査では「小学生」(66.2%)、「中学生」(22.9%)、「高校生」(3.7%)であった。(図I-106参照)

図 I-106 子どものイメージ(一般県民)



II 子どもの将来像

- 子どもには「これからの社会」と「勤労観」、「自分のなりたい人間像」、大人には「な
ってほしい人間像」について聞くことで、描いている子どもの将来像について把握する
こととした。
- 調査の結果、これからの世の中について、小学生は「今より良くなっている」、中高生
と特別支援学校児童・生徒は「わからない」と思っている割合が最も高くなっている。
回答の割合が最も高い項目を前回調査と比較すると、平成 17 年度調査結果では、小学
生は同じく「今より良くなっている」(平成 25 年度調査:52.1%、平成 17 年度調査:35.9%)
であるのに対し、中高生は「今より悪くなっている」となっている。特別支援学校児童・
生徒は同じく「わからない」(平成 25 年度調査:46.8%、平成 17 年度調査:41.5%)とな
っている。
- また、小中高生は共に「たくさんの友だちや仲間がいる人」、「自分らしさをもってい
る人」、「人を思いやる心をもっている人」になりたいと思っている。特別支援学校児童・
生徒は「人を思いやるやさしい人」、「自分らしさをもっている人」、「人の役に立てる人」
になりたいと思っている。
- 働くことについて、回答の割合が高いのは、小学生は「働いて自分の夢をかなえたい」、
「働いて充実感や生きる喜びを感じたい」、「働いてほしいものを手に入れたい」の順に、
中高生は「働いて充実感や生きる喜びを感じたい」(高校生は「働いて生きがいや、やり
がいを得たい」、「働いて自分の希望をかなえたい」、「働いてほしいものを手に入れたい」
の順になっている。特別支援学校児童・生徒は「まだわからない」、「働いて充実感や生
きる喜びを感じたい」、「働いてほしいものを手に入れたい」の順になっている。
- こうした中で、なってほしい大人像について、回答の割合が高いのは、教職員は「人
を思いやる心をもっている」、「困難を乗り越えることができる」、「社会のルールやマナ
ーを守る」の順になっている。
保護者は「困難を乗り越えることができる」、「人を思いやる心をもっている」、「健康
なからだや体力を備えている」の順になっている。
学校評議員と一般県民は「人を思いやる心をもっている」、「社会のルールやマナーを
守る」、「困難を乗り越えることができる」の順になっている。回答の割合が最も高い項
目を前回調査と比較すると、平成 17 年度調査結果では、一般県民は「社会のルールやマ
ナーを守る」となっている。

II-1 これからの世の中

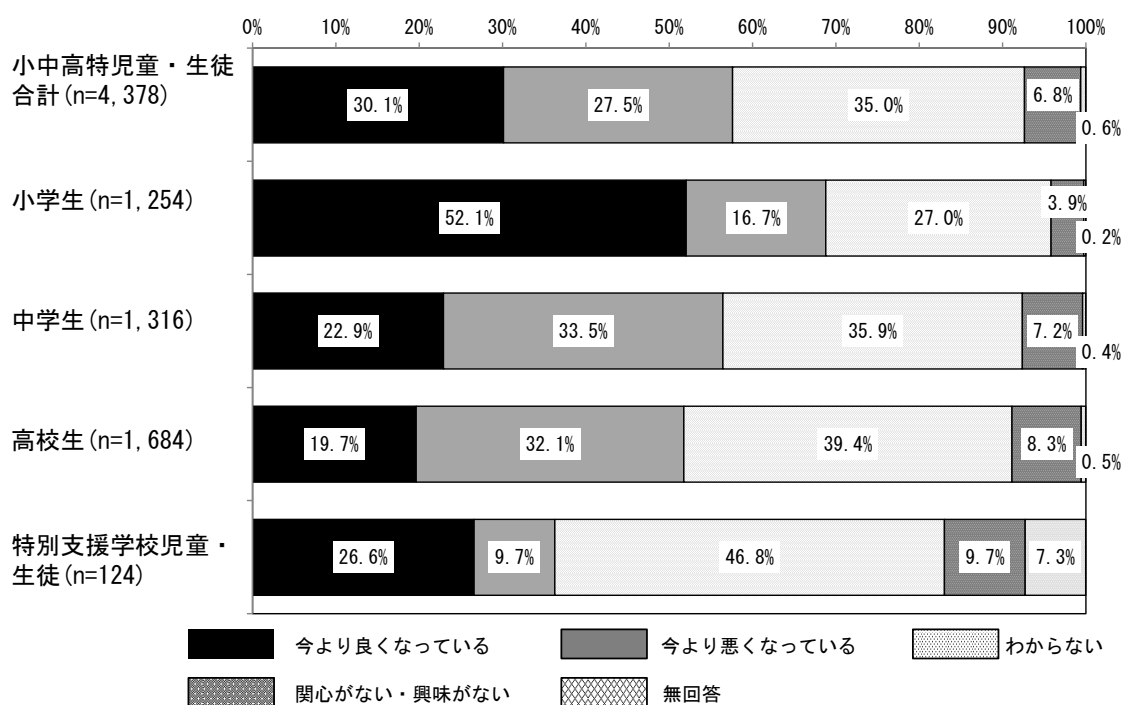
「自分が大人になった頃の世の中はどのようになっているか」を子どもに聞いたところ、小学生では「今より良くなっている」との回答が、中高生と特別支援学校児童・生徒では「わからない」との回答が最も割合が高かった。

また、最も回答の割合の高かった項目について、平成17年度調査結果と比較すると、小学生の回答はいずれの調査でも「今より良くなっている」（平成25年度調査：52.1%、平成17年度調査：35.9%）であるのに対し、中高生の回答は平成25年度調査では「わからない」（中学生：35.9%、高校生：39.4%）、平成17年度調査では「今より悪くなっている」（中学生：49.3%、高校生：48.3%）であった。特別支援学校児童・生徒の回答はいずれの調査でも「わからない」の割合が最も高く、平成25年度調査は46.8%、平成17年度調査は41.5%であった。

『これからの世の中』について児童・生徒に聞いたところ、「今より良くなっている」と回答している割合は、小学生では52.1%、中学生では22.9%、高校生19.7%では、特別支援学校児童・生徒では26.6%であった。

また、最も割合の高かった回答は、小学生では「今より良くなっている」（52.1%）であり、その他の児童・生徒では「わからない」（中学生：35.9%、高校生：39.4%、特別支援学校児童・生徒：46.8%）であった。（図II-1 参照）

図 II-1 これからの世の中(児童・生徒)

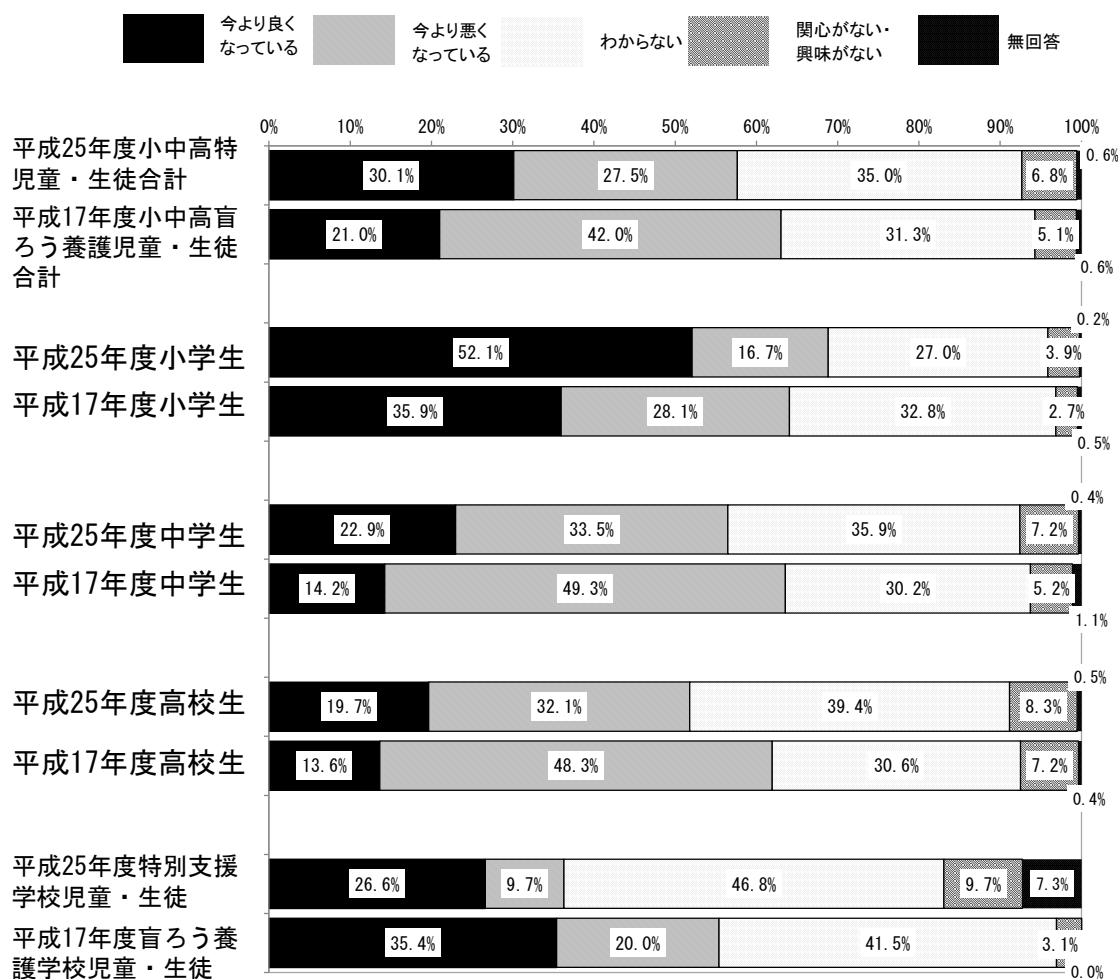


平成 17 年度調査との比較

児童・生徒が『これからの世の中』を「今より良くなっている」と回答している割合について平成 17 年度調査結果と比較すると、小学生の回答は平成 25 年度調査では 52.1%であり、平成 17 年度調査では 35.9%であった。同じく中学生の回答は平成 25 年度調査では 22.9%であり、平成 17 年度調査では 14.2%、高校生の回答は平成 25 年度調査では 19.7%であり、平成 17 年度調査では 13.6%、特別支援学校児童・生徒の回答は平成 25 年度調査では 26.6%であり、平成 17 年度調査では 35.4%であった。

また、最も回答の割合の高かった項目について平成 17 年度調査結果と比較すると、小学生の回答はいずれの調査でも「今より良くなっている」（平成 25 年度調査：52.1%、平成 17 年度調査：35.9%）であるのに対し、中高生の回答は平成 25 年度調査では「わからない」（中学生：35.9%、高校生：39.4%）、平成 17 年度調査では「今より悪くなっている」（中学生：49.3%、高校生：48.3%）であった。特別支援学校児童・生徒の回答はいずれの調査でも「わからない」の割合が最も高く、平成 25 年度調査は 46.8%、平成 17 年度調査は 41.5%であった。（図 II-2 参照）

図 II-2 これからの世の中(児童・生徒)



小中高特児・生徒合計	平成 25 年度 n=4, 378、平成 17 年度 n=4, 541
小学生	平成 25 年度 n=1, 254 平成 17 年度 n=1, 394
中学生	平成 25 年度 n=1, 316 平成 17 年度 n=1, 446
高校生	平成 25 年度 n=1, 684 平成 17 年度 n=1, 636
特別支援学校児童・生徒 (盲ろう養護児童・生徒)	平成 25 年度 n=124 平成 17 年度 n=65

II-2 どのような大人になりたいか

『どのような大人になりたいか』について児童・生徒に聞いたところ、小学生では「たくさんの友だちや仲間がいる人」、「自分らしさをもっている人」、「人を思いやる心をもっている人」の順に回答の割合が高く、中高生では、「自分らしさをもっている人」、「人を思いやる心をもっている人」、「たくさんの友だちや仲間がいる人」、特別支援学校児童・生徒では「人を思いやるやさしい人」、「自分らしさをもっている人」、「人の役に立てる人」の順に回答の割合が高かった。

また、回答の割合の最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、小学生の回答はいずれの調査においても「たくさんの友だちや仲間がいる人」であり、平成25年度調査では46.6%、平成17年度調査では49.1%であった。中学生の回答は平成25年度調査では「自分らしさをもっている人」(52.7%)であり、平成17年度調査では「たくさんの友だちや仲間がいる人」(52.5%)であった。高校生の回答はいずれの調査においても「自分らしさをもっている人」が最も回答の割合が高く、平成25年度調査では58.1%、平成17年度調査では58.4%であった。特別支援学校児童・生徒の回答は平成25年度調査では「人を思いやるやさしい人」(50.0%)であり、平成17年度調査では「自分らしさをもっている人」(53.8%)であった。

『どのような大人になりたいか』について児童・生徒に聞いたところ、小学生では「たくさんの友だちや仲間がいる人」(46.6%)、「自分らしさをもっている人」(39.8%)、「人を思いやる心をもっている人」(38.8%)の順に回答の割合が高く、中高生では、「自分らしさをもっている人」(中学生：52.7%、高校生：58.1%)、「人を思いやる心をもっている人」(中学生：46.0%、高校生：43.7%)、「たくさんの友だちや仲間がいる人」(中学生：45.8%、高校生：38.3%)の順であった。また、特別支援学校児童・生徒では「人を思いやるやさしい人」(50.0%)、「自分らしさをもっている人」(35.5%)、「人の役に立てる人」(30.6%)の順に回答の割合が高かった。(表 II-1、図 II-3,4 参照)

表 II-1 どのような大人になりたいか(上位5項目)

	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 児童・生徒
1位	たくさんの友だちや仲間がいる人 46.6%	自分らしさをもっている人 52.7%	自分らしさをもっている人 58.1%	人を思いやるやさしい人 50.0%
2位	自分らしさをもっている人 39.8%	人を思いやる心をもっている人 46.0%	人を思いやる心をもっている人 43.7%	自分らしさをもっている人 35.5%
3位	人を思いやる心をもっている人 38.8%	たくさんの友だちや仲間がいる人 45.8%	たくさんの友だちや仲間がいる人 38.3%	人の役に立てる人 30.6%
4位	いつも努力をしている人 38.4%	困難を乗り越えられる人 33.5%	困難を乗り越えられる人 31.2%	いつも努力をしている人 29.8%
5位	人の役に立てる人 35.9%	社会のルールやマナーを守る人 32.2%	常に努力を惜しまない人 28.6%	たくさんの友だちがいる人 25.0%

図 II-3 どのような大人になりたいか(小中高生)

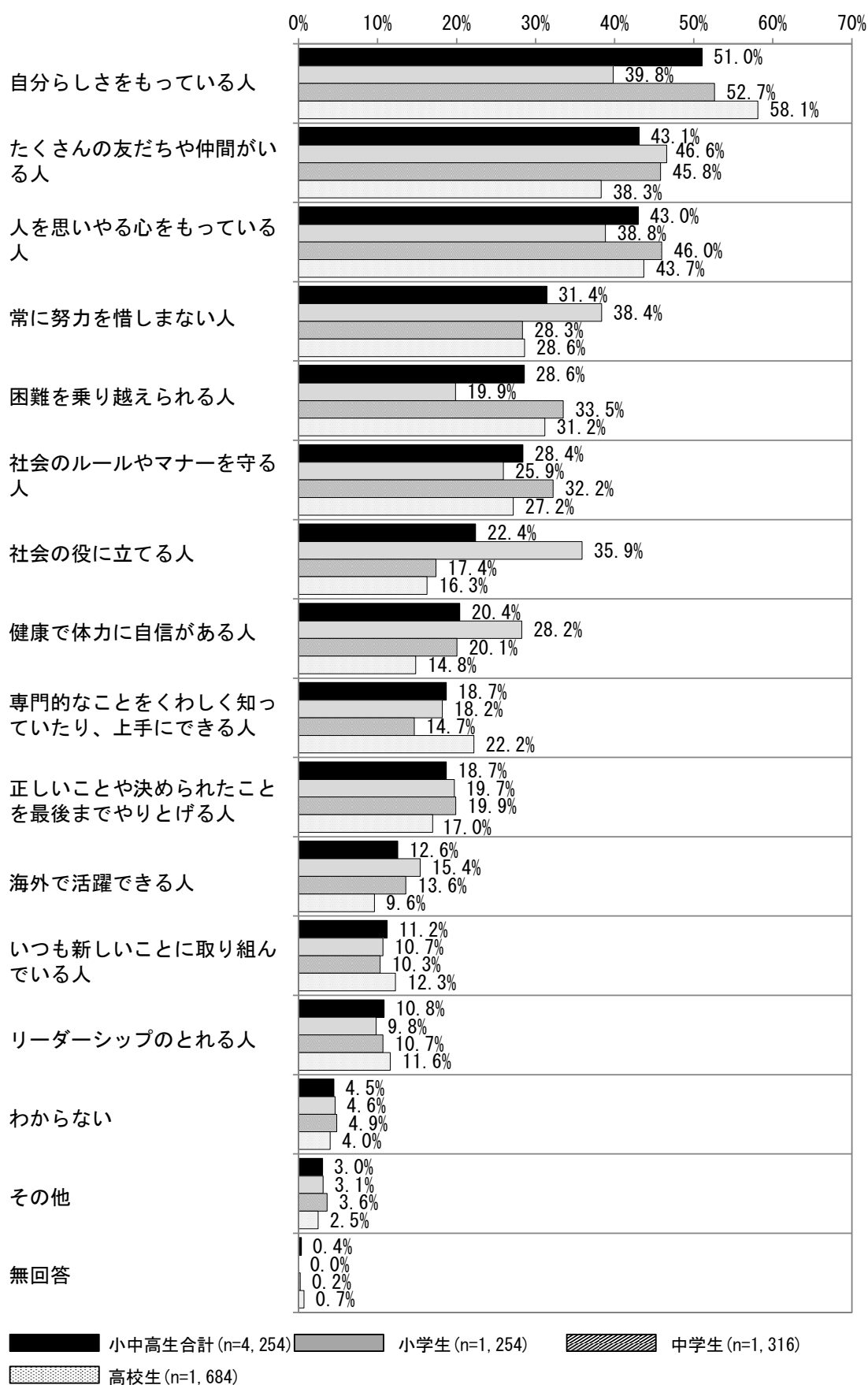
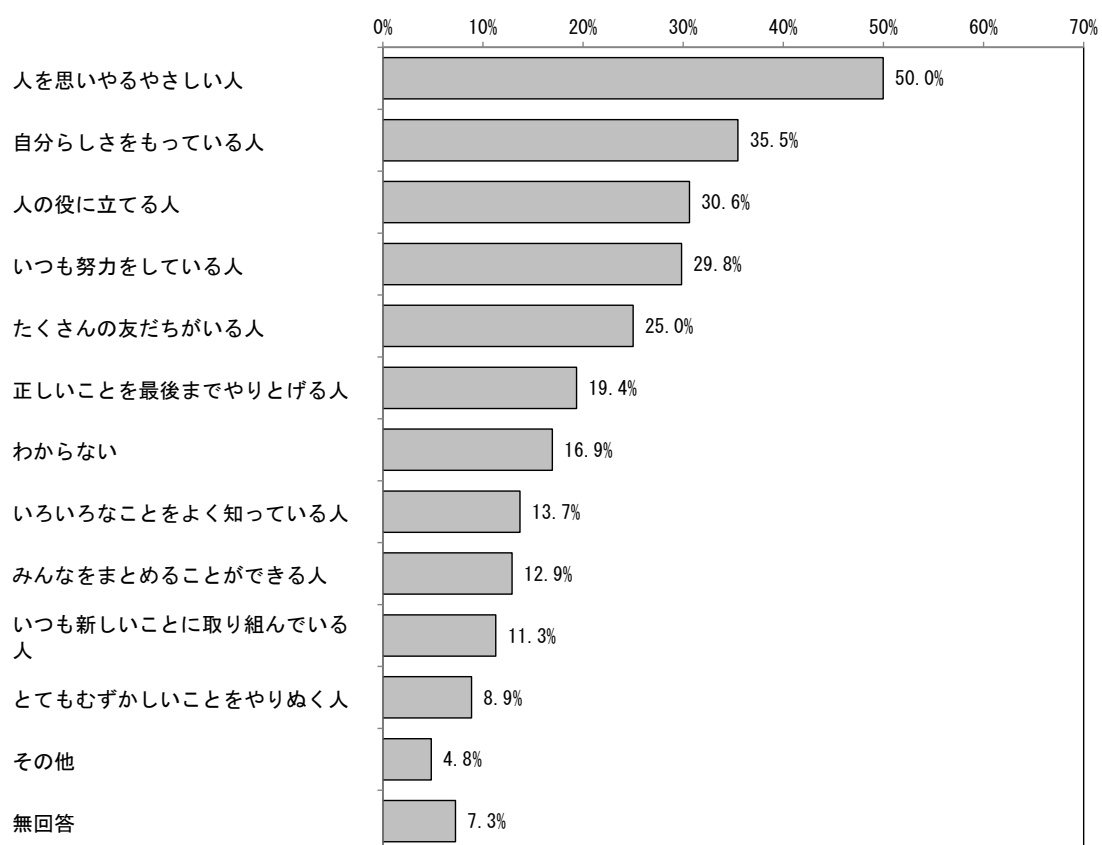


図 II-4 どのような大人になりたいか(特別支援学校児童・生徒 n=124)



回答の割合の高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、小学生の回答は平成 25 年度調査では「たくさんの友だちや仲間がいる人」(46.6%)、「自分らしさをもっている人」(39.8%)、「人を思いやる心をもっている人」(38.8%)であり、平成 17 年度調査では「たくさんの友だちや仲間がいる人」(49.1%)、「自分らしさをもっている人」(37.9%)、「人を思いやる心をもっている人」(37.3%)であった。

中学生の回答は平成 25 年度調査では「自分らしさをもっている人」(52.7%)、「人を思いやる心をもっている人」(46.0%)、「たくさんの友だちや仲間がいる人」(45.8%)であり、平成 17 年度調査では「たくさんの友だちや仲間がいる人」(52.5%)、「自分らしさをもっている人」(50.6%)、「人を思いやる心をもっている人」(44.5%)であった。

高校生の回答は平成 25 年度調査では「自分らしさをもっている人」(58.1%)、「人を思いやる心をもっている人」(43.7%)、「たくさんの友だちや仲間がいる人」(38.3%)であり、平成 17 年度調査では「自分らしさをもっている人」(58.4%)、「たくさんの友だちや仲間がいる人」(51.4%)、「人を思いやる心をもっている人」(51.0%)であった。

特別支援学校児童・生徒の回答は平成 25 年度調査では「人を思いやるやさしい人」(50.0%)、「自分らしさをもっている人」(35.5%)、「人の役に立てる人」(30.6%)であり、平成 17 年度調査では「自分らしさをもっている人」(53.8%)、「人を思いやるやさしい人」(52.3%)、「正しいことを最後までやりとげる人」(32.3%)であった。(図 II-5~9 参照)

図 II-5 どのような大人になりたいか(小中高生合計)

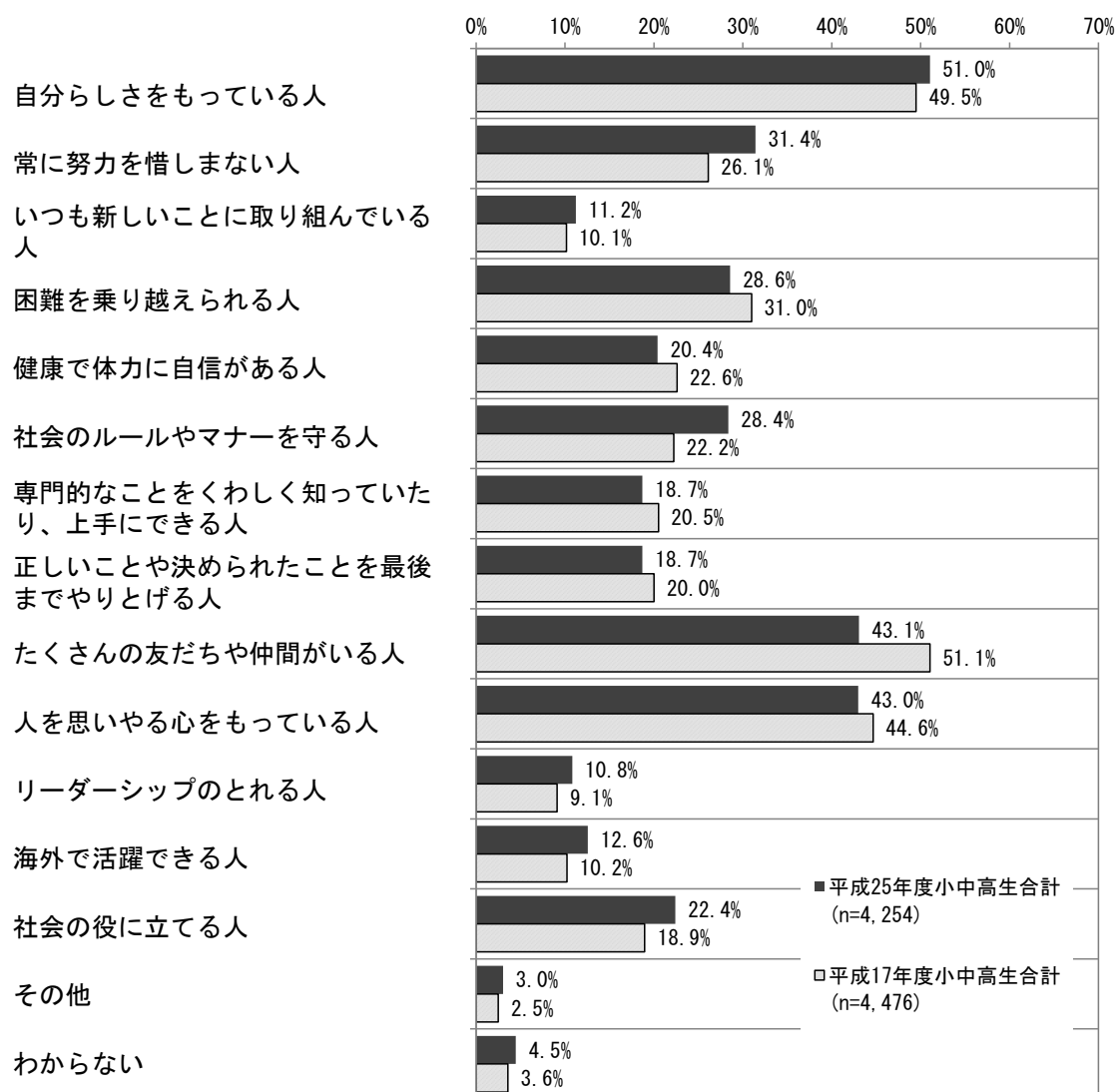


図 II-6 どのような大人になりたいか(小学生)

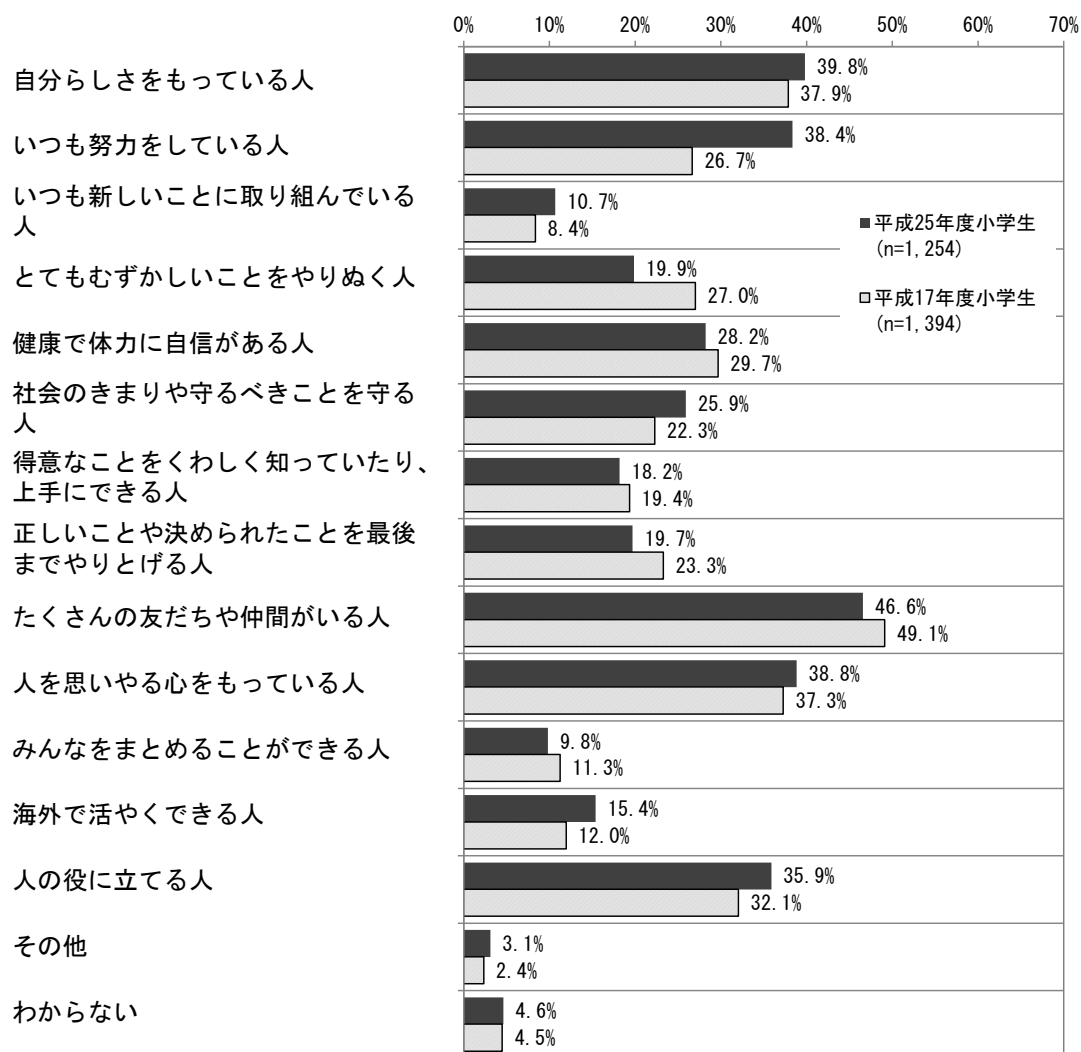


図 II-7 どのような大人になりたいか(中学生)

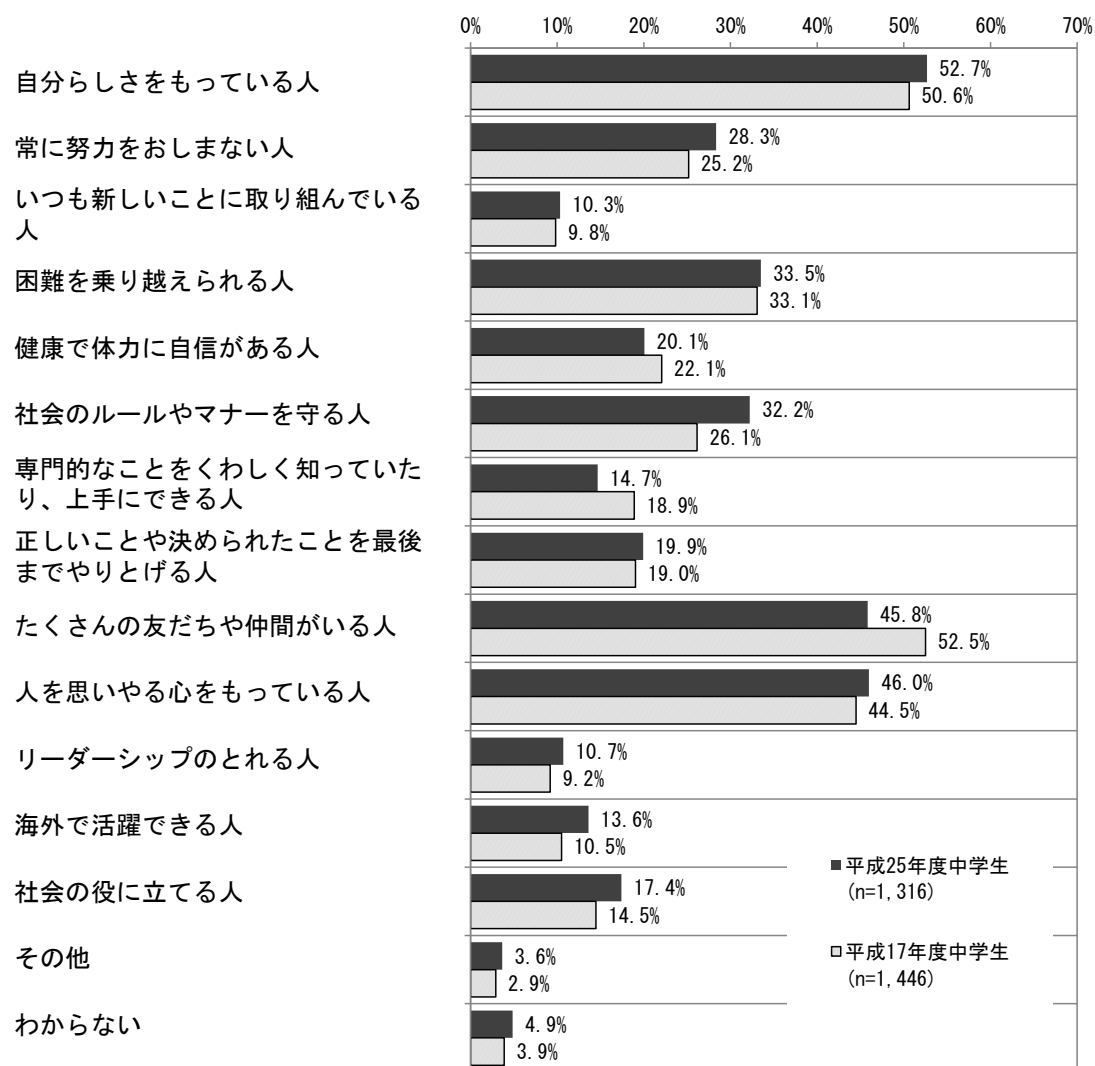


図 II-8 どのような大人になりたいか(高校生)

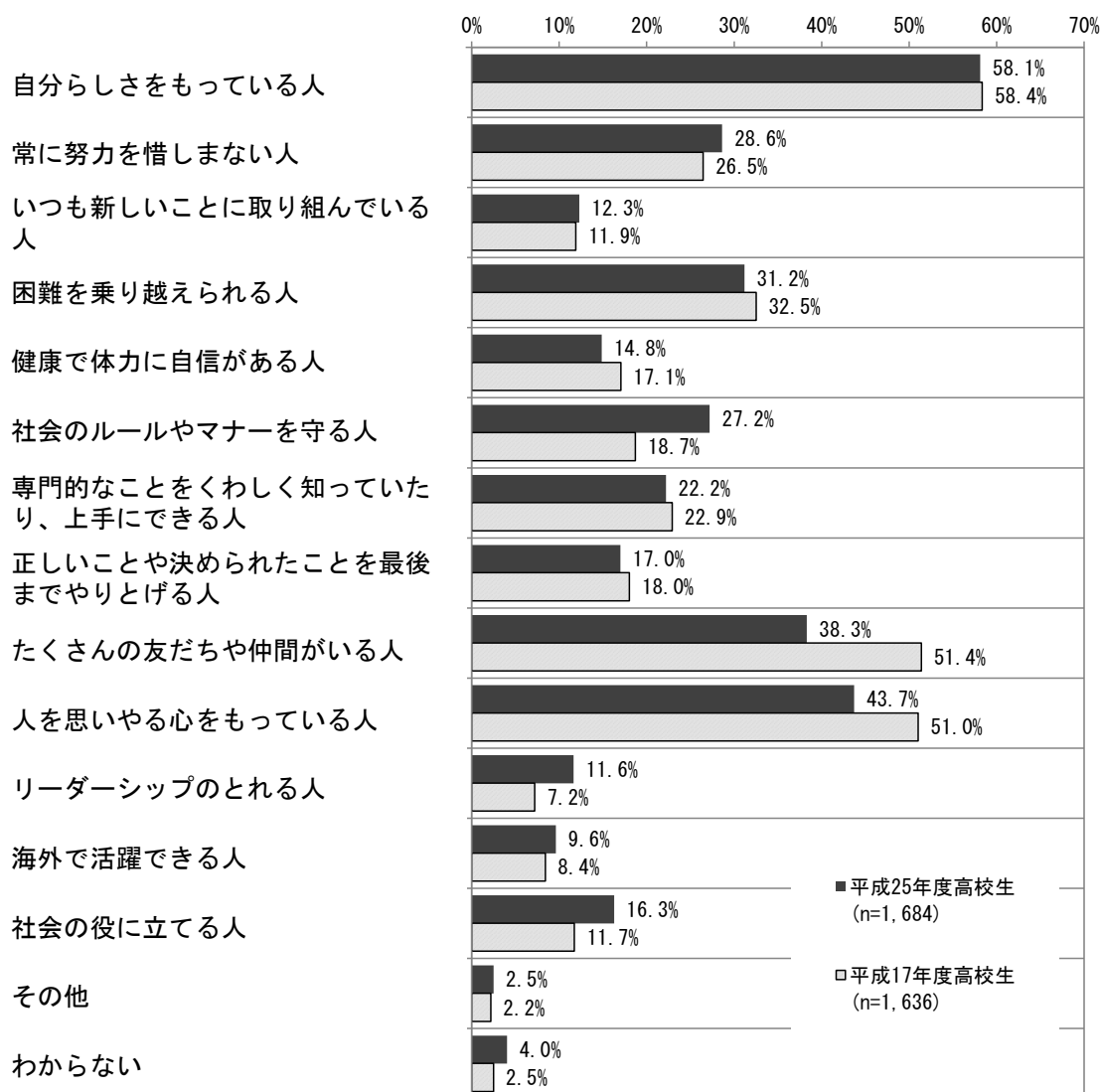
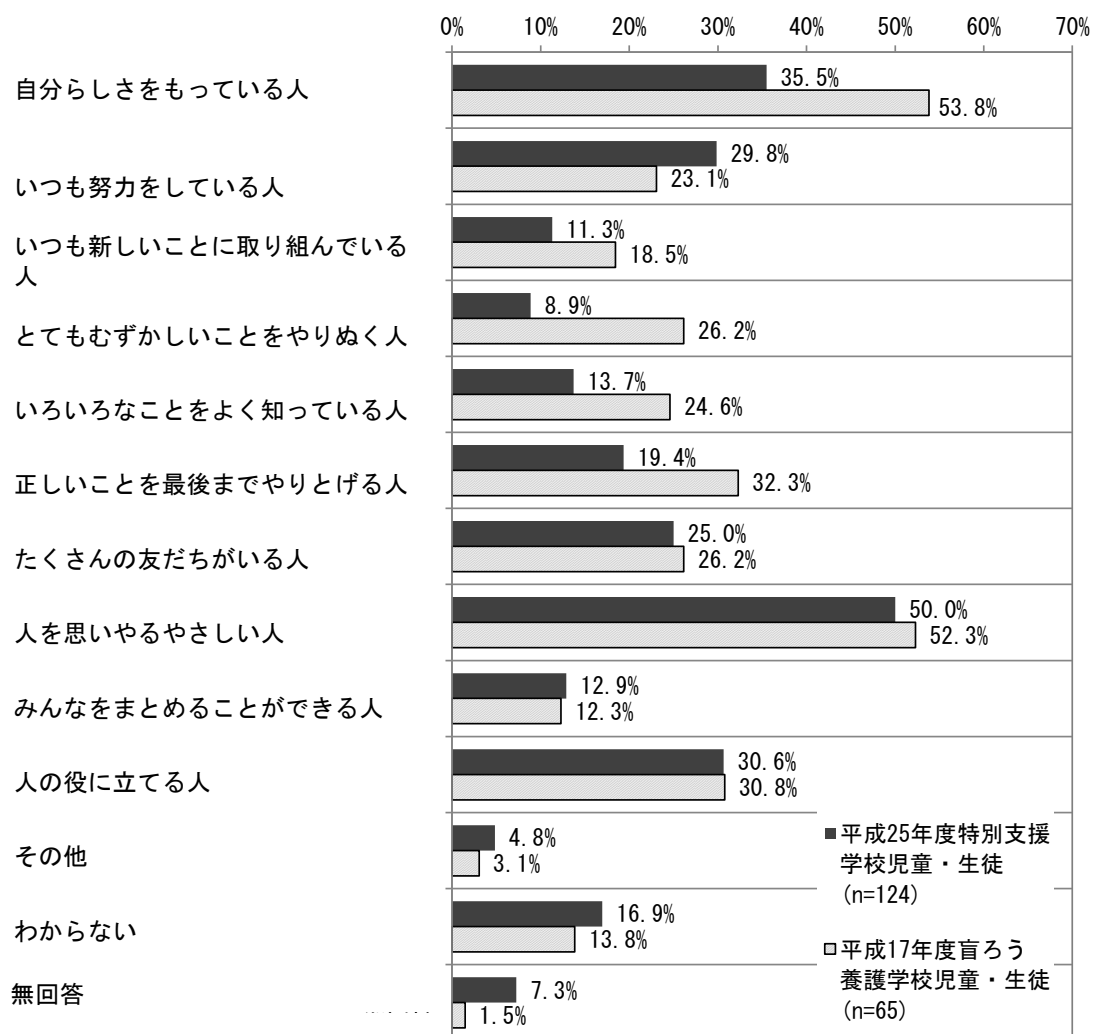


図 II-9 どのような大人になりたいか(特別支援学校児童・生徒)



※「とてもむずかしいことをやりぬく人」

・・・平成17年度調査「困難を乗り越えられる人」

II-3 どのような大人になってほしいか

「どのような大人になってほしいか」を大人に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、教職員では「人を思いやる心をもっている」、「困難を乗り越えることができる」、「社会のルールやマナーを守る」、保護者では「困難を乗り越えることができる」、「人を思いやる心をもっている」、「健康なからだや体力を備えている」の順であった。学校評議員及び一般県民では共に「人を思いやる心をもっている」、「社会のルールやマナーを守る」、「困難を乗り越えることができる」の順であった。

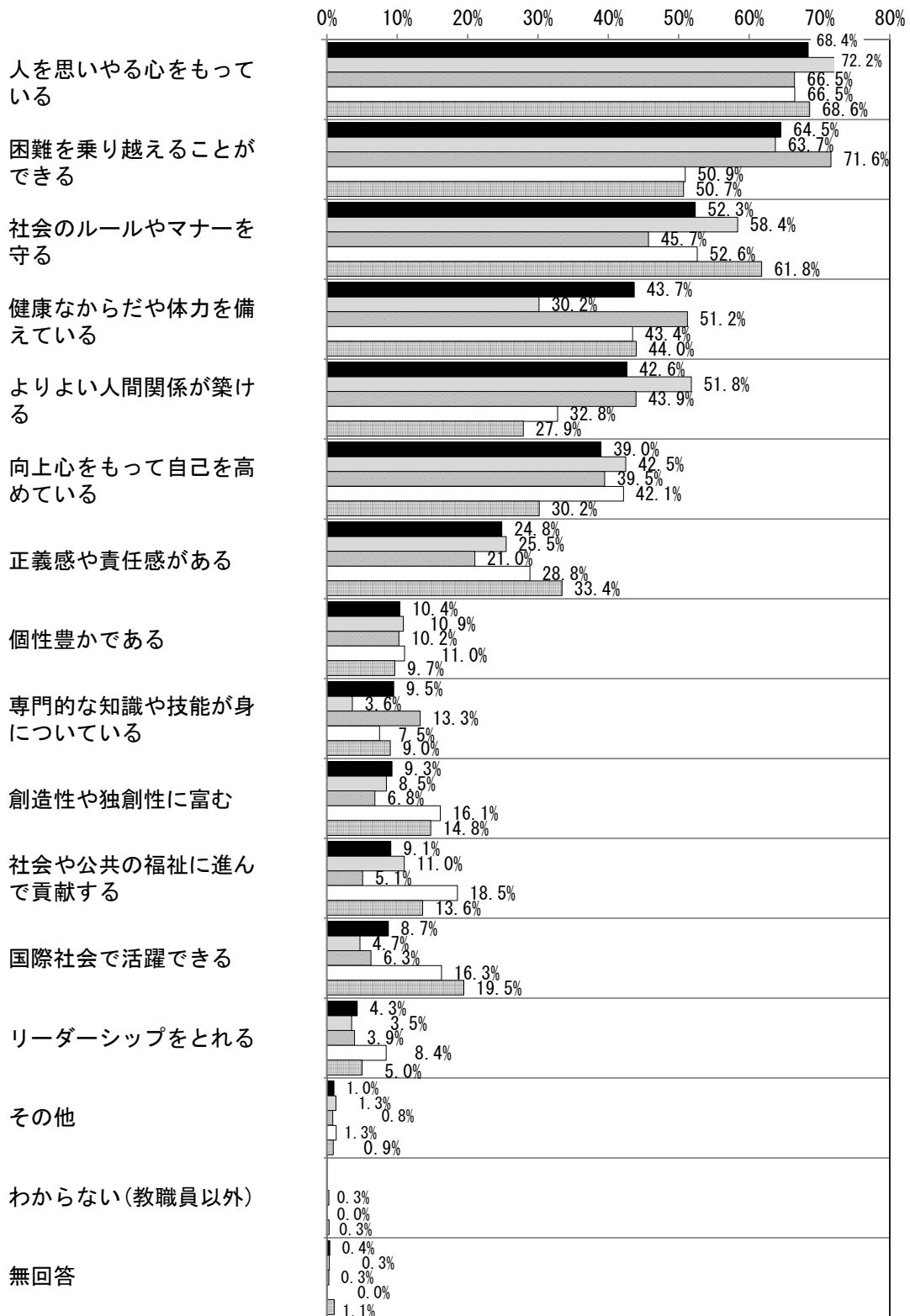
また、『どのような大人になってほしいか』について、回答の割合が最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、いずれの調査においても教職員と学校評議員では「人を思いやる心をもっている」との回答の割合が最も高く、平成25年度調査では教職員72.2%、学校評議員66.5%であり、平成17年度調査では教職員61.3%、学校評議員68.7%であった。保護者の回答はいずれの調査においても、「困難を乗り越えることができる」が最も高く、平成25年度調査では71.6%、平成17年度調査では67.5%であった。一般県民の回答は平成25年度調査では「人を思いやる心をもっている」(68.6%)であり、平成17年度調査では「社会のルールやマナーを守る」(69.6%)であった。

『どのような大人になってほしいか』を大人に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、教職員では「人を思いやる心をもっている」(72.2%)、「困難を乗り越えることができる」(63.7%)、「社会のルールやマナーを守る」(58.4%)であり、保護者では、「困難を乗り越えることができる」(71.6%)、「人を思いやる心をもっている」(66.5%)、「健康なからだや体力を備えている」(51.2%)であった。学校評議員及び一般県民では、「人を思いやる心をもっている」(学校評議員：66.5%、一般県民：68.6%)、「社会のルールやマナーを守る」(学校評議員：52.6%、一般県民：61.8%)、「困難を乗り越えることができる」(学校評議員：50.9%、一般県民：50.7%)の順であった。(表II-2、図II-10 参照)

表 II-2 どのような大人になってほしいか(上位5項目)

	教職員	保護者	学校評議員	一般県民
1位	人を思いやる心をもっている 72.2%	困難を乗り越えることができる 71.6%	人を思いやる心をもっている 66.5%	人を思いやる心をもっている 68.6%
2位	困難を乗り越えることができる 63.7%	人を思いやる心をもっている 66.5%	社会のルールやマナーを守る 52.6%	社会のルールやマナーを守る 61.8%
3位	社会のルールやマナーを守る 58.4%	健康なからだや体力を備えている 51.2%	困難を乗り越えることができる 50.9%	困難を乗り越えることができる 50.7%
4位	よりよい人間関係が築ける 51.8%	社会のルールやマナーを守る 45.7%	健康なからだや体力を備えている 43.4%	健康なからだや体力を備えている 44.0%
5位	向上心をもって自己を高めている 42.5%	よりよい人間関係が築ける 43.9%	向上心をもって自己を高めている 42.1%	正義感や責任感がある 33.4%

図 II-10 どのような大人になってほしいか(教職員、保護者、学校評議員、一般県民)



合計 (n=7,445)
 教職員 (n=2,046)
 保護者 (n=3,632)
 学校評議員 (n=534)
 一般県民 (n=1,233)

『どのような大人になってほしいか』について、回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、教職員の回答は平成 25 年度調査では「人を思いやる心をもっている」(72.2%)、「困難を乗り越えることができる」(63.7%)、「社会のルールやマナーを守る」(58.4%)であり、平成 17 年度調査では「人を思いやる心をもっている」(61.3%)、「社会のルールやマナーを守る」(51.5%)、「困難を乗り越えることができる」(49.0%)であった。

保護者の回答は平成 25 年度調査では「困難を乗り越えることができる」(71.6%)、「人を思いやる心をもっている」(66.5%)、「健康なからだや体力を備えている」(51.2%)であり、平成 17 年度調査では「困難を乗り越えることができる」(67.5%)、「人を思いやる心をもっている」(66.7%)、「健康なからだや体力を備えている」(52.3%)であった。

学校評議員の回答は平成 25 年度調査では「人を思いやる心をもっている」(66.5%)、「社会のルールやマナーを守る」(52.6%)、「困難を乗り越えることができる」(50.9%)であり、平成 17 年度調査では「人を思いやる心をもっている」(68.7%)、「社会のルールやマナーを守る」(54.8%)、「健康なからだや体力を備えている」(46.2%)であった。

一般県民の回答は平成 25 年度調査では「人を思いやる心をもっている」(68.6%)、「社会のルールやマナーを守る」(61.8%)、「困難を乗り越えることができる」(50.7%)であり、平成 17 年度調査では「社会のルールやマナーを守る」(69.6%)、「人を思いやる心をもっている」(66.6%)、「健康なからだや体力を備えている」(44.7%)であった。(図Ⅱ-11～14 参照)

図 II-11 どのような大人になってほしいか(教職員)

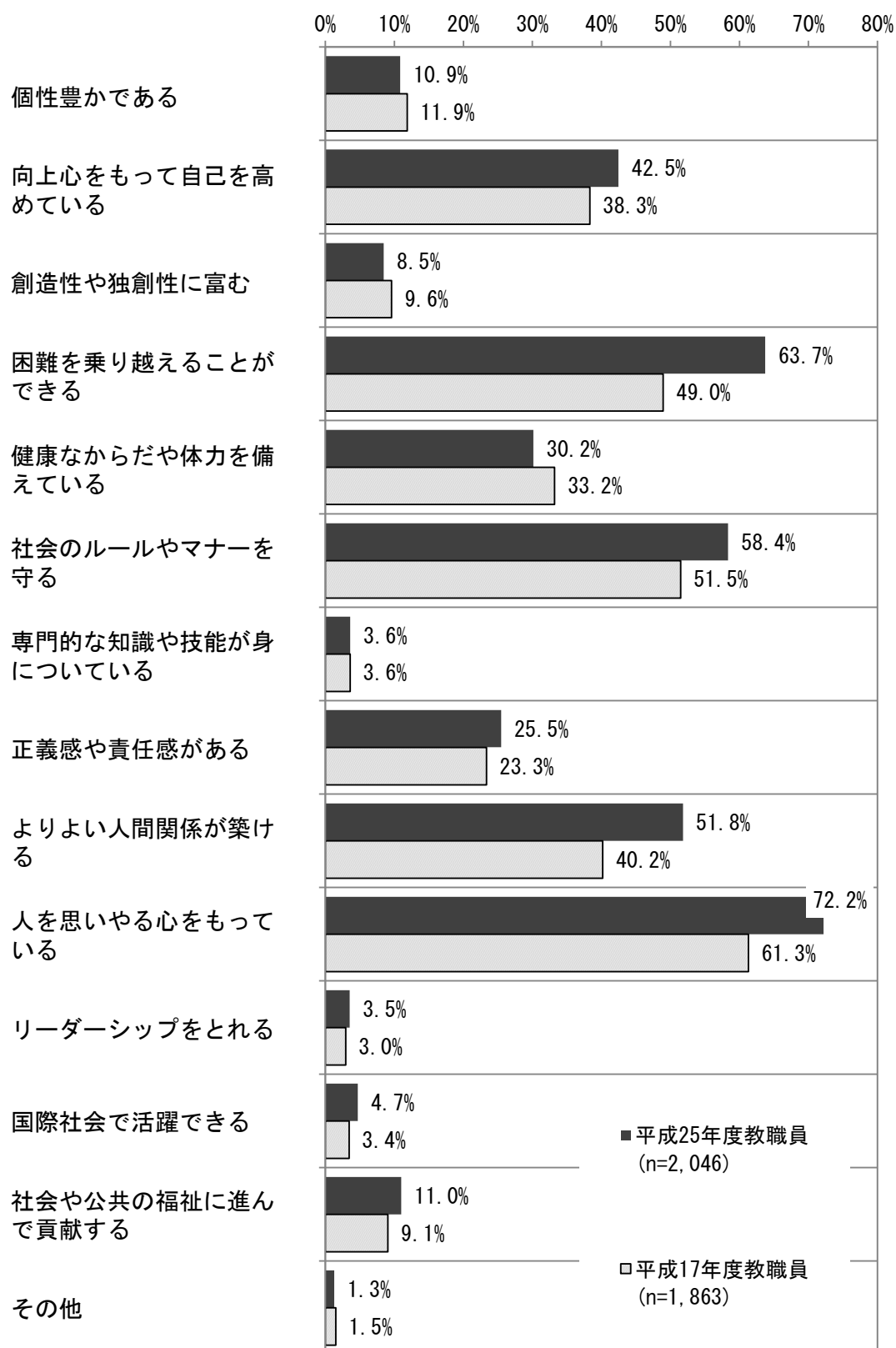


図 II-12 どのような大人になってほしいか(保護者)

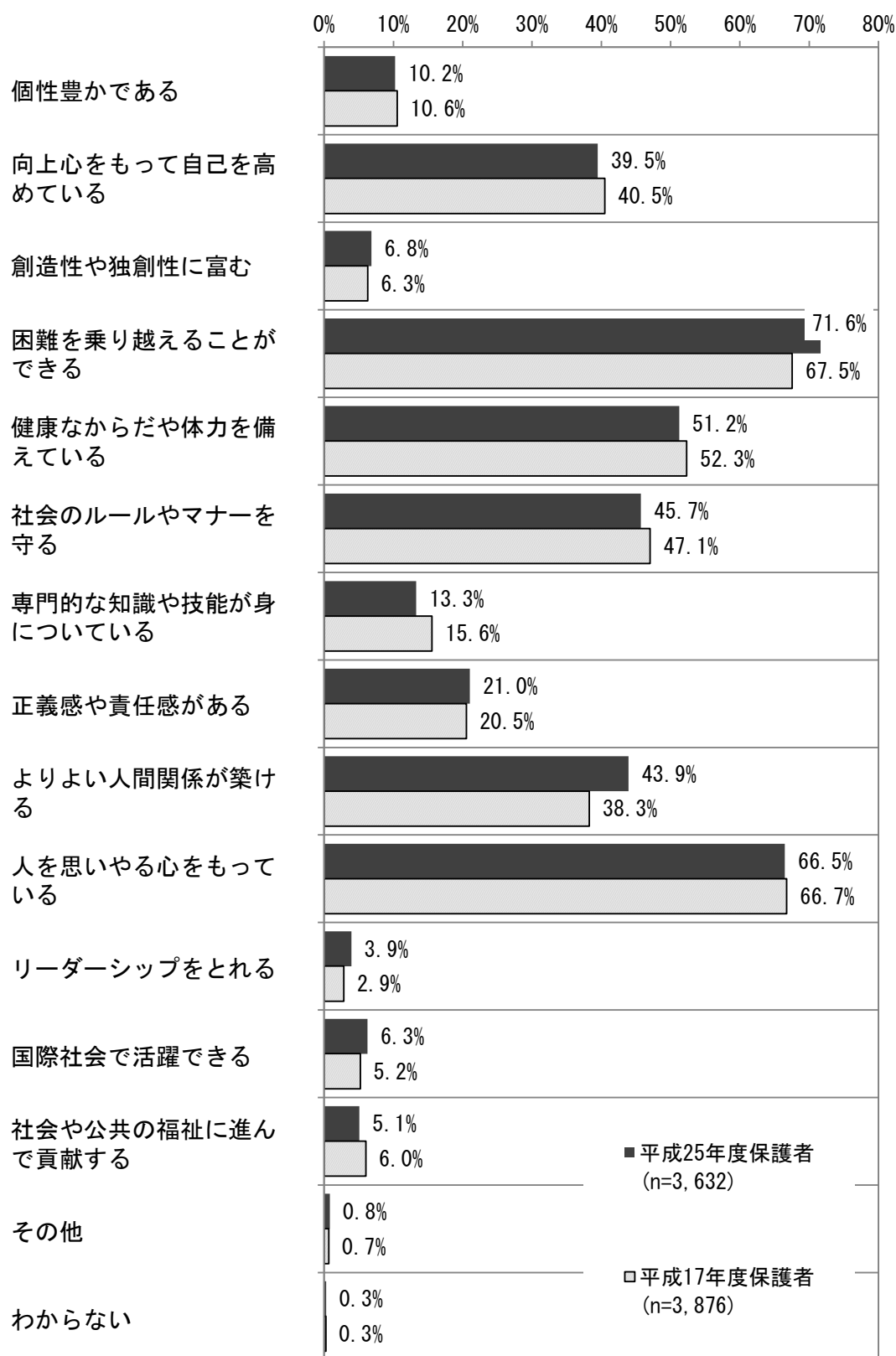


図 II-13 どのような大人になってほしいか(学校評議員)

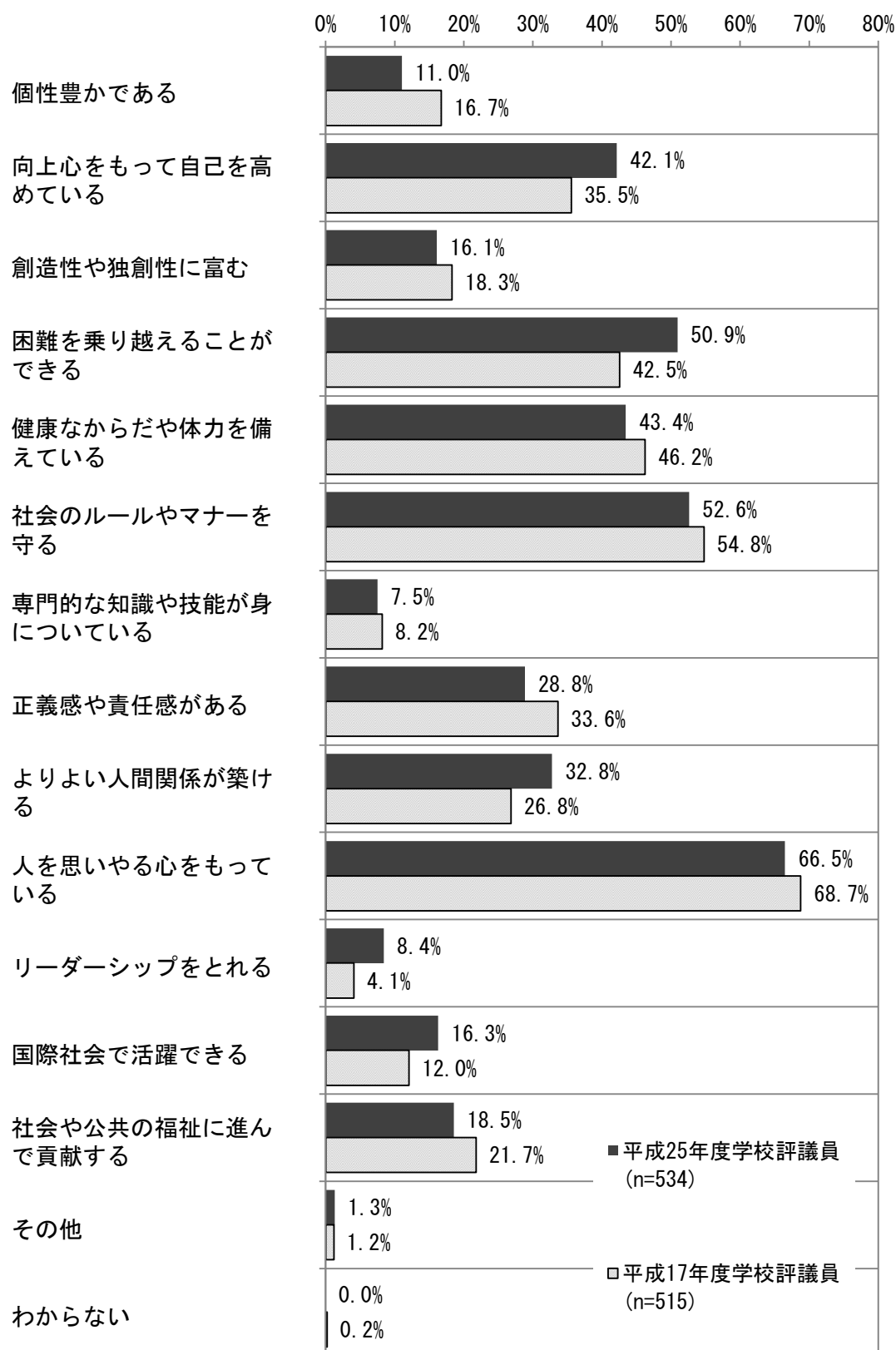
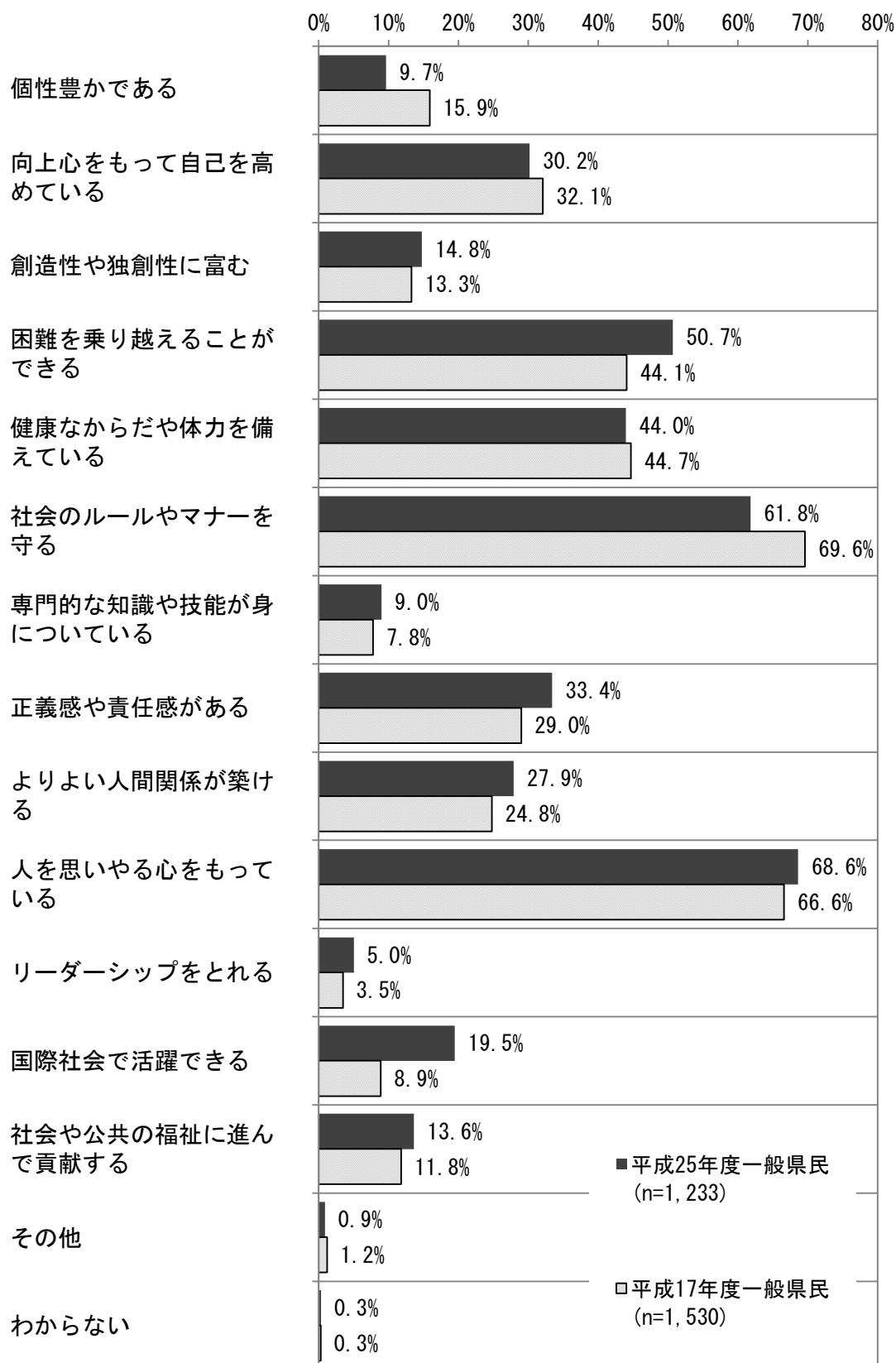


図 II-14 どのような大人になってほしいか(一般県民)



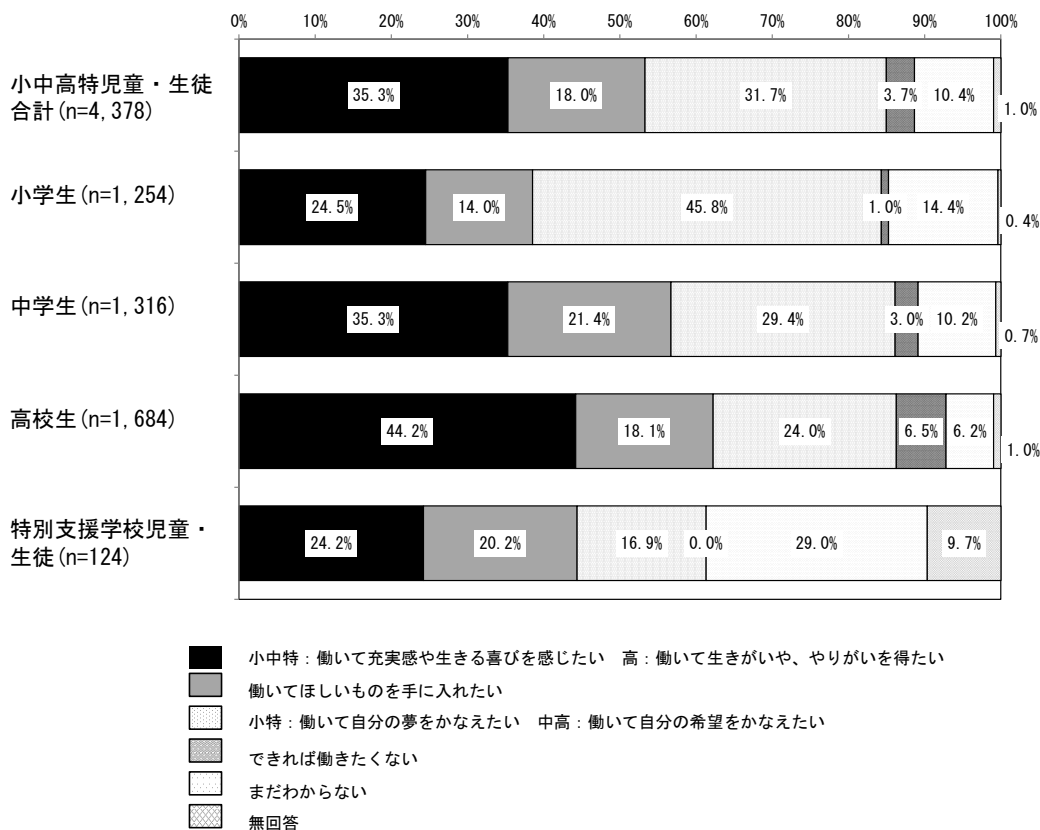
II-4 働くことについて

「働くことについてどのように考えているか」を子どもに聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、小学生では順に「働いて自分の夢をかなえたい」、「働いて充実感や生きるよろこびを感じたい」、「働いてほしいものを手に入れたい」、中高生では「働いて充実感や生きる喜びを感じたい」（高校生は「働いて生きがいや、やりがいを得たい）」、「働いて自分の希望をかなえたい」、「働いてほしいものを手に入れたい」、であった。特別支援学校児童・生徒では「まだわからない」、「働いて充実感や生きるよろこびを感じたい」、「働いてほしいものを手に入れたい」の順となっている。

回答の割合が最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、小学生の回答はいずれの調査においても「働いて自分のゆめをかなえたい」との回答が最も割合が高く、平成25年度調査では45.8%、平成17年度調査では52.5%であった。中学生の回答は、平成25年度調査では「働いて充実感や生きるよろこびを感じたい」(35.3%)であり、平成17年度調査では「働いて自分の希望をかなえたい」(32.8%)であった。高校生の回答は、いずれの調査においても「働いて生きがいや、やりがいを得たい」が最も割合が高く、平成25年度調査では44.2%、平成17年度調査では46.8%であった。特別支援学校児童・生徒の回答は、平成25年度調査では「まだわからない」(29.0%)であり、平成17年度調査では「働いて自分の夢をかなえたい」(41.5%)であった。

『働くことについて』を児童・生徒に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、小学生では「働いて自分の夢をかなえたい」(45.8%)、「働いて充実感や生きるよろこびを感じたい」(24.5%)、「働いてほしいものを手に入れたい」(14.0%)であった。中学生では「働いて充実感や生きる喜びを感じたい」(35.3%)、「働いて自分の希望をかなえたい」(29.4%)、「働いてほしいものを手に入れたい」(21.4%)であり、高校生では「働いて生きがいや、やりがいを得たい」(44.2%)、「働いて自分の希望をかなえたい」(24.0%)、「働いてほしいものを手に入れたい」(18.1%)であった。特別支援学校児童・生徒では「まだわからない」(29.0%)、「働いて充実感や生きるよろこびを感じたい」(24.2%)、「働いてほしいものを手に入れたい」(20.2%)の順となっている。(図II-15 参照)

図 II-15 働くことについて(小中高生、特別支援学校児童・生徒)



『働くことについて』について、回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、小学生の回答は、平成 25 年度調査では「働いて自分のゆめをかなえたい」(45.8%)、「働いてじゅう実感や生きるよろこびを感じたい」(24.5%)、「働いてほしいものを手に入れたい」(14.0%)であり、平成 17 年度調査では「働いて自分のゆめをかなえたい」(52.5%)、「働いてじゅう実感や生きるよろこびを感じたい」(19.2%)、「働いてほしいものを手に入れたい」(11.2%)であった。中学生の回答は、平成 25 年度調査では「働いて充実感や生きる喜びを感じたい」(35.3%)、「働いて自分の希望をかなえたい」(29.4%)、「働いてほしいものを手に入れたい」(21.4%)であり、平成 17 年度調査では「働いて自分の希望をかなえたい」(32.8%)、「働いて充実感や生きる喜びを感じたい」(31.3%)、「働いてほしいものを手に入れたい」(19.5%)であった。高校生の回答は、平成 25 年度調査では「働いて生きがいや、やりがいを得たい」(44.2%)、「働いて自分の希望をかなえたい」(24.0%)、「働いてほしいものを手に入れたい」(18.1%)であり、平成 17 年度調査では「働いて生きがいや、やりがいを得たい」(46.8%)、「働いて自分の希望をかなえたい」(22.6%)、「働いてほしいものを手に入れたい」(17.1%)であった。特別支援学校児童・生徒の回答は、平成 25 年度調査では「まだわからない」(29.0%)、「働いて充実感や生きるよろこびを感じたい」(24.2%)、「働いてほしいものを手に入れたい」(20.2%)であり、平成 17 年度調査では「働いて自分の夢をかなえたい」(41.5%)、「まだわからない」(21.5%)、「働いて充実感や生きるよろこびを感じたい」(20.0%)であった。(図 II-16~20 参照)

図 II-16 働くことについて(児童・生徒合計)

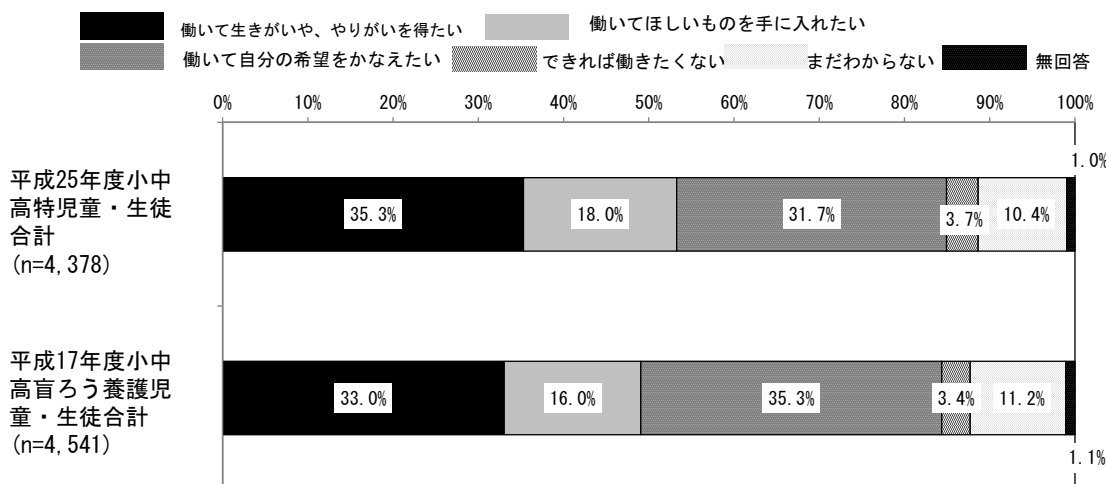


図 II-17 働くことについて(小学生)

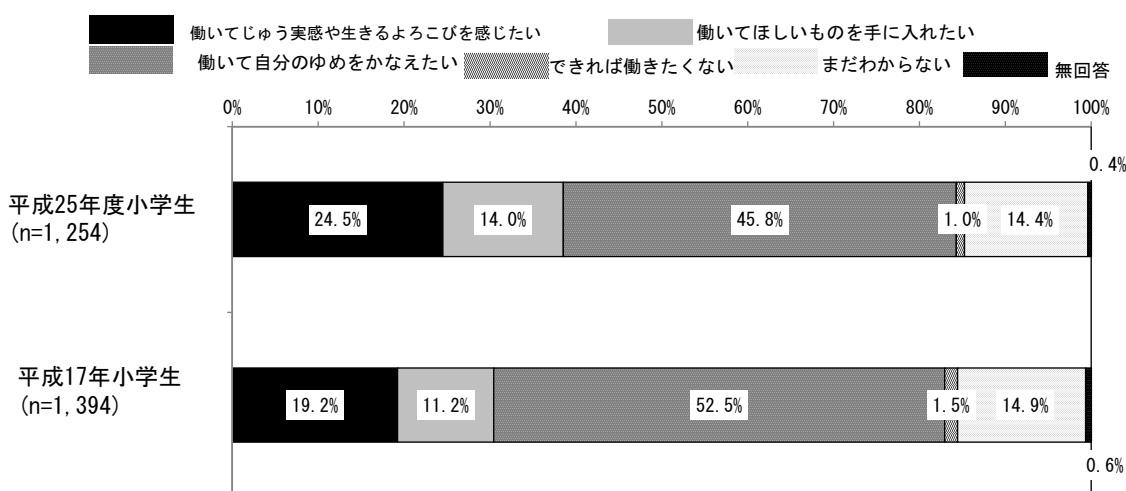


図 II-18 働くことについて(中学生)

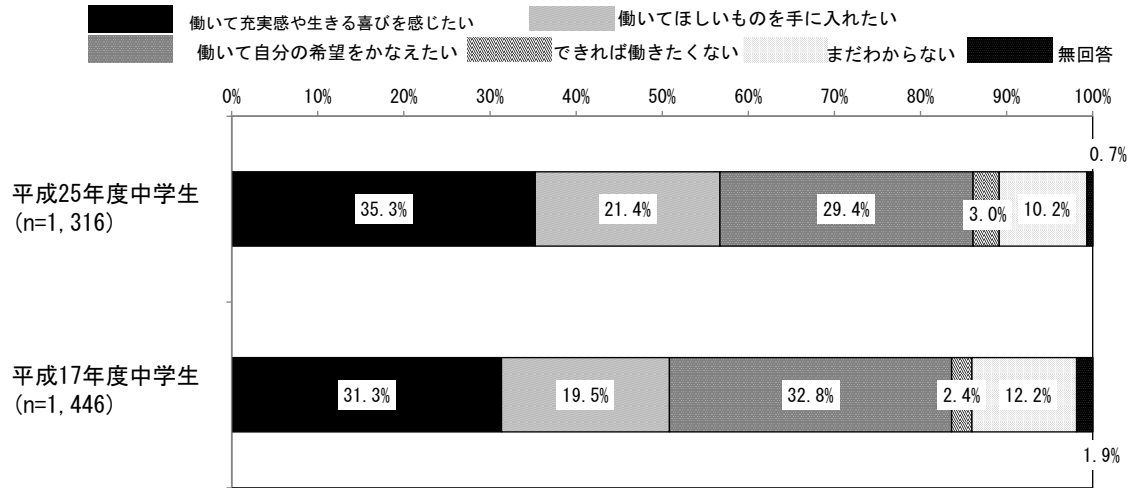


図 II-19 働くことについて(高校生)

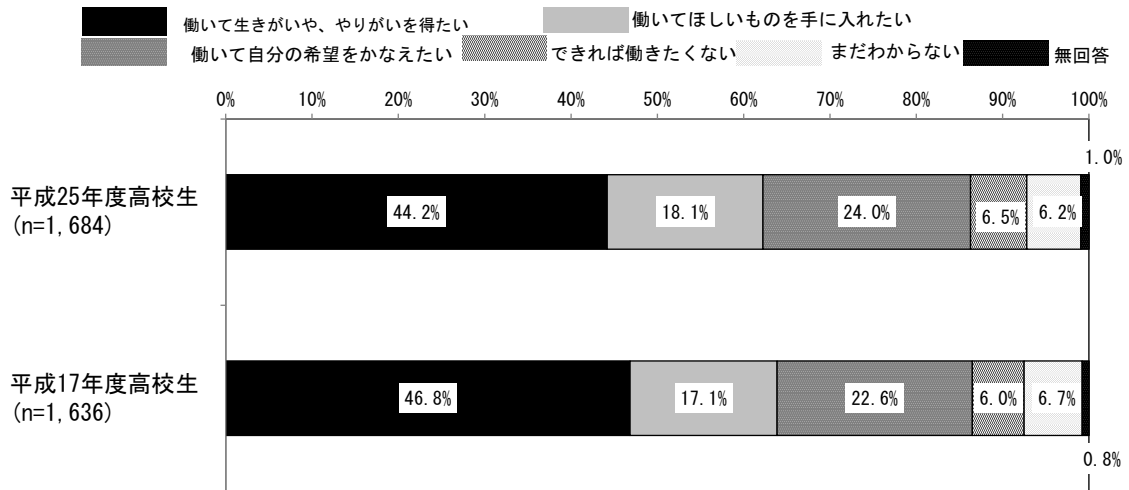
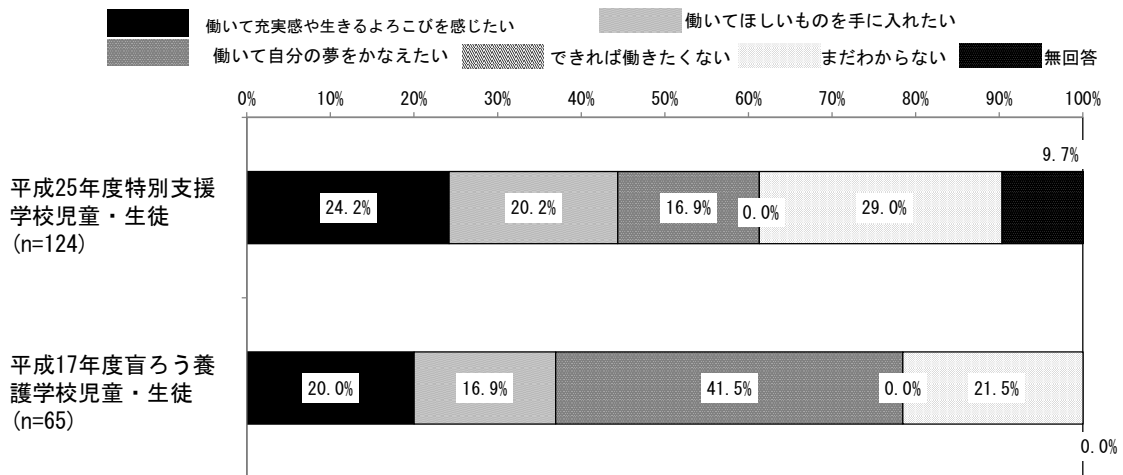


図 II-20 働くことについて(特別支援学校児童・生徒)



III 家庭教育

- 学校・家庭・地域の役割などについて、教員、保護者、学校評議員、一般県民に聞くことで、家庭教育などに関する意識や実態について把握することにした。
- 調査の結果、子どもに「基本的な生活習慣」、「社会のルールやマナー」を身に付けさせるのは、主に「家庭」と考えている人がいずれにおいても高い割合となっている。
- また、学校において、教職員と学校評議員は順に「学校はいじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる」、「学校では確かな学力の定着が図られている」、「地域では子どもの教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている」と回答する割合が高くなっている。

保護者は「家庭ではしつけや教育が十分に行われている」「学校では確かな学力の定着が図られている」、「地域では子どもの教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている」の順になっている。

一般県民は「学校では確かな学力の定着が図られている」、「地域では子どもの教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている」、「学校はいじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる」の順になっている。回答の割合が最も高い項目を前回調査と比較すると、平成17年度調査結果では、一般県民は「地域では子どもの教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている」となっている。
- 保護者と学校評議員は、子どもとのコミュニケーションにおいて、「日常の出来事や体験したこと」を大切な話題と考えている。次いで、保護者は「学校での交友関係について」、「健康面や体調について」、学校評議員は「社会で必要なルールやマナーの理解について」、「学校での交友関係について」と回答した割合が高くなっている。
- また、保護者に「自分の子をどのくらい把握しているか」と聞いたところ、回答の割合が高いのは「健康状態」、「興味や関心のあること」の順となっている。次いで、小中学校の保護者は「友だちのこと」、高等学校の保護者は「将来の夢や進路」、特別支援学校の保護者は「学校での生活」となっている。
- 家庭でのしつけや教育について、保護者は「社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる」、「片付けなど自分のことは自分でできるようにさせる」ことに気を付けていると回答している。次いで、小学校と特別支援学校の保護者は「早寝早起きなど規則正しい生活習慣を身につけさせる」、中学校と高等学校の保護者は「勉強のことだけでなく会話をする」と回答している。

III-1 学校・家庭・地域での教育課題

『学校・家庭・地域での教育課題』について教職員、保護者、学校評議員及び一般県民に聞いたところ、回答の割合の高かった項目は、教職員及び学校評議員では「学校ははじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる」、「学校では確かな学力の定着が図られている」、「地域では子どもの教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている」の順であった（「そう思う」と「どちらかというと思う」の回答の割合の合計。以下同じ）。保護者では「家庭ではしつけや教育が十分に行われている」、「学校では確かな学力の定着が図られている」、「地域では子どもの教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている」、一般県民では「学校では確かな学力の定着が図られている」、「地域では子どもの教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている」、「学校ははじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる」の順であった。

また、回答の割合が最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、教職員及び学校評議員の回答は、いずれの調査においても「学校ははじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる」が最も割合が高く、平成25年度調査では教職員82.8%、学校評議員63.8%であり、平成17年度調査では教職員75.3%、学校評議員54.5%であった。保護者の回答は、いずれの調査においても「家庭ではしつけや教育が十分に行われている」の割合が最も高く、平成25年度調査では42.9%、平成17年度調査では34.7%であった。一般県民の回答は平成25年度調査では「学校では確かな学力の定着が図られている」(24.3%)であり、平成17年度調査では「地域では子どもの教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている」(16.7%)であった。

『学校・家庭・地域での教育課題』について教職員、保護者、学校評議員及び一般県民に聞いたところ、回答の割合の高かった項目は、教職員及び学校評議員では「学校ははじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる」（「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計。以下同じ。教職員：82.8%、学校評議員：63.8%）、「学校では確かな学力の定着が図られている」（教職員：55.7%、学校評議員：61.4%）、「地域では子どもの教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている」（教職員：54.8%、学校評議員：56.0%）の順であった。

保護者では「家庭ではしつけや教育が十分に行われている」（42.9%）、「学校では確かな学力の定着が図られている」（41.5%）、「地域では子どもの教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている」（36.0%）であり、一般県民では「学校では確かな学力の定着が図られている」（24.3%）、「地域では子どもの教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている」（21.7%）、学校ははじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる」（13.0%）であった。（図III-1～4 参照）

図 III-1 学校・家庭・地域での教育課題(教職員 n=2,046)

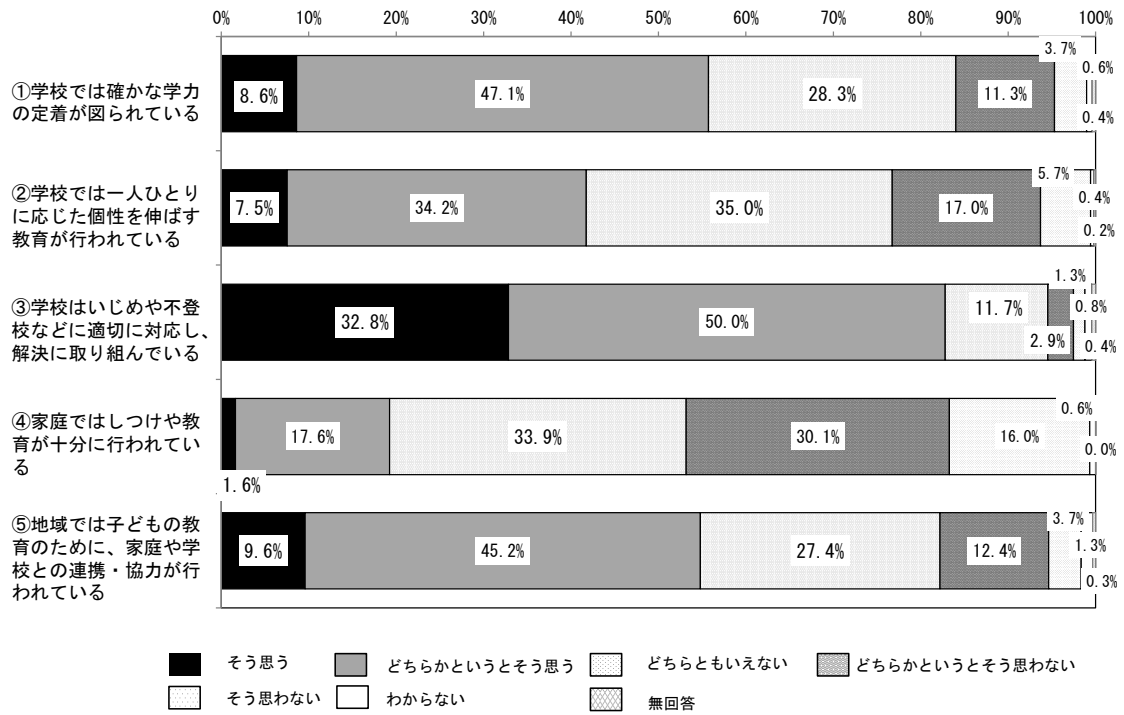


図 III-2 学校・家庭・地域での教育課題(保護者 n=3,632)

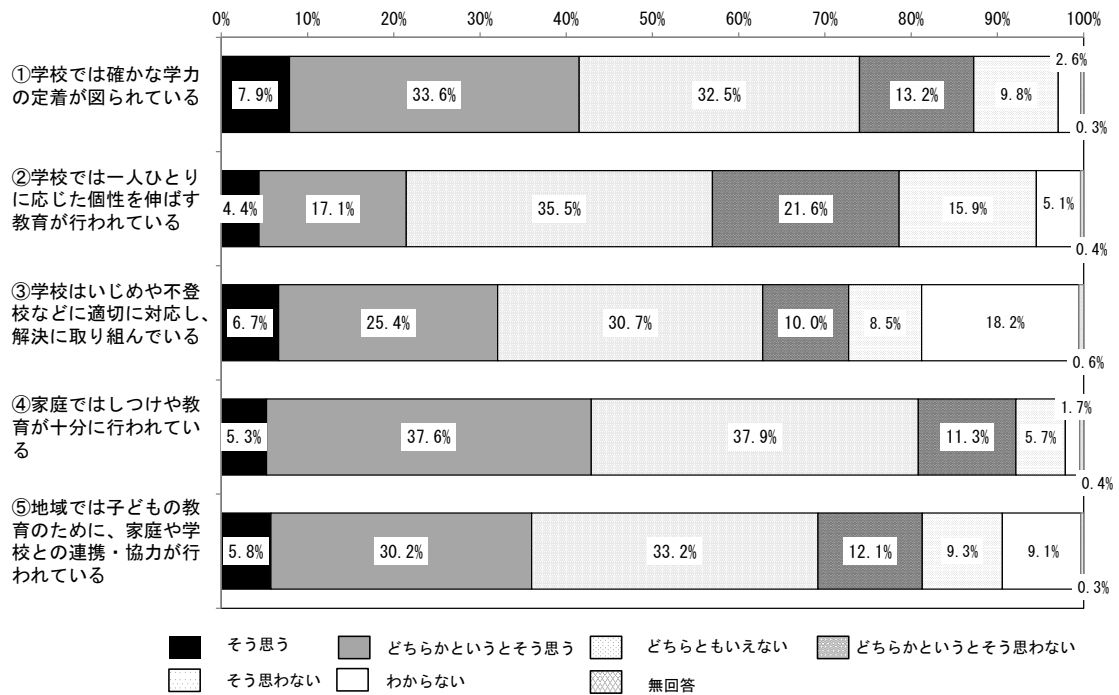


図 III-3 学校・家庭・地域での教育課題(学校評議員 n=534)

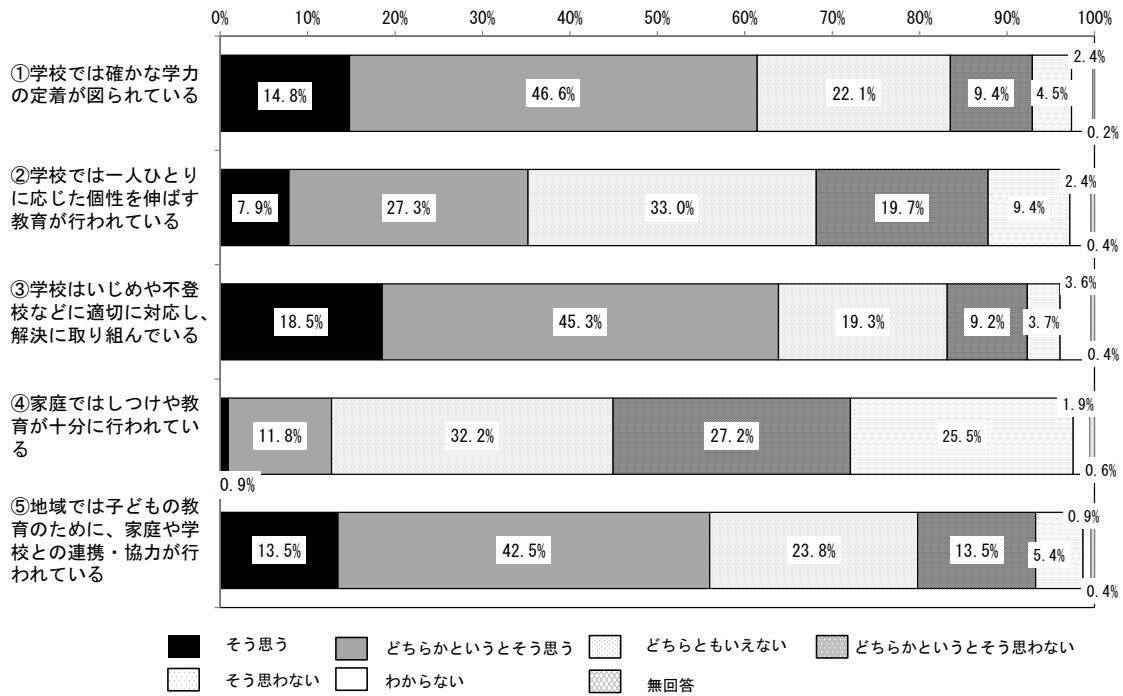
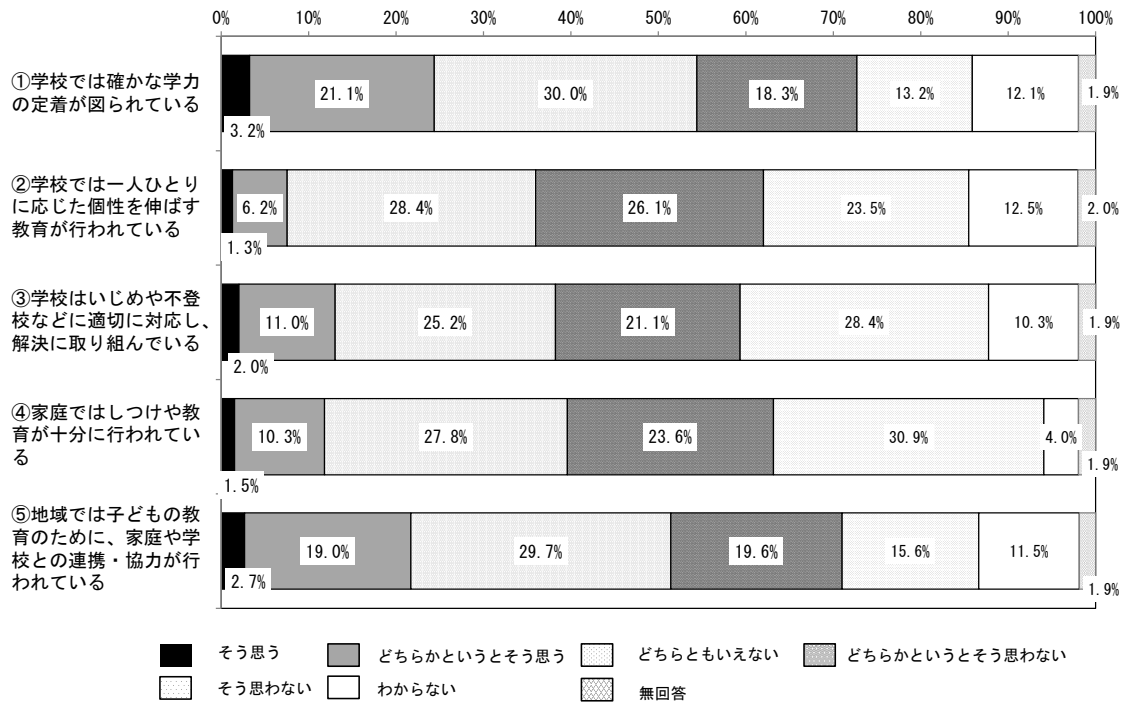


図 III-4 学校・家庭・地域での教育課題(一般県民 n=1,233)



『学校・家庭・地域での教育課題』について、回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、教職員の回答は平成 25 年度調査では「学校はいじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる」（「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計。以下同じ。82.8%）、「学校では確かな学力の定着が図られている」（55.7%）、「地域では児童・生徒の教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている」（54.8%）であり、平成 17 年度調査では「学校はいじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる」（75.3%）、「地域では児童・生徒の教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている」（50.5%）、「学校では確かな学力の定着が図られている」（41.8%）であった。

保護者の回答は平成 25 年度調査では「家庭ではしつけや教育が十分に行われている」（42.9%）、「学校では確かな学力の定着が図られている」（41.5%）、「地域では子どもの教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている」（36.0%）であり、平成 17 年度調査では「家庭ではしつけや教育が十分に行われている」（34.7%）、「地域では子どもの教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている」（28.4%）、「学校では確かな学力の定着が図られている」（26.8%）であった。

学校評議員の回答は平成 25 年度調査では「学校はいじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる」（63.8%）、「学校では確かな学力の定着が図られている」（61.4%）、「地域では子どもの教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている」（56.0%）であり、平成 17 年度調査では「学校はいじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる」（54.5%）、「地域では子どもの教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている」（48.4%）、「学校では確かな学力の定着が図られている」（46.4%）であった。

一般県民の回答は平成 25 年度調査では「学校では確かな学力の定着が図られている」（24.3%）、「地域では子どもの教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている」（21.7%）、「学校はいじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる」（13.0%）であり、平成 17 年度調査では「地域では子どもの教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている」（16.7%）、「学校では確かな学力の定着が図られている」（14.3%）、「家庭ではしつけや教育が十分に行われている」（9.5%）であった。（図Ⅲ-5～24 参照）

図 III-5 学校・家庭・地域での教育課題

①学校では確かな学力の定着が図られている

（教職員 平成 25 年度 n=2,046、平成 17 年度 n=1,863）

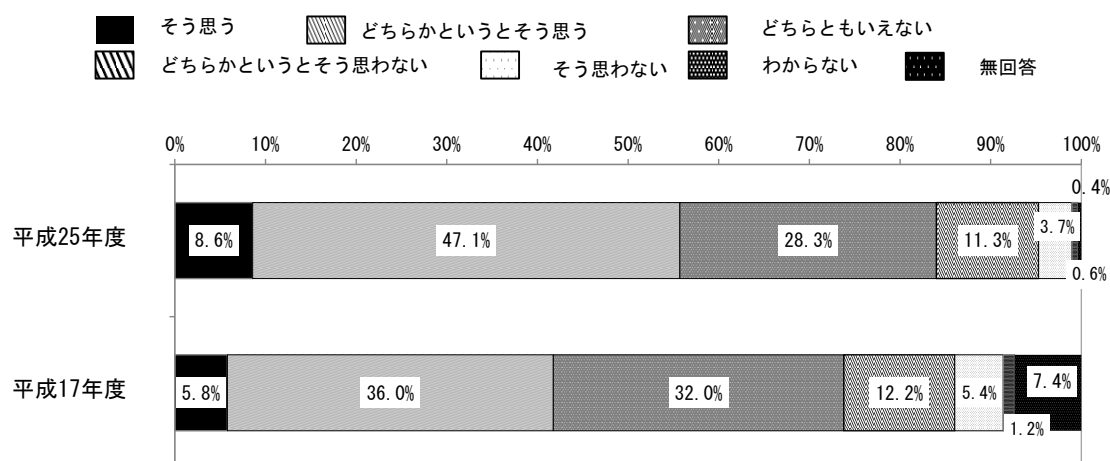


図 III-6 学校・家庭・地域での教育課題

②学校では一人ひとりに応じた個性を伸ばす教育が行われている

(教職員 平成 25 年度 n=2,046、平成 17 年度 n=1,863)

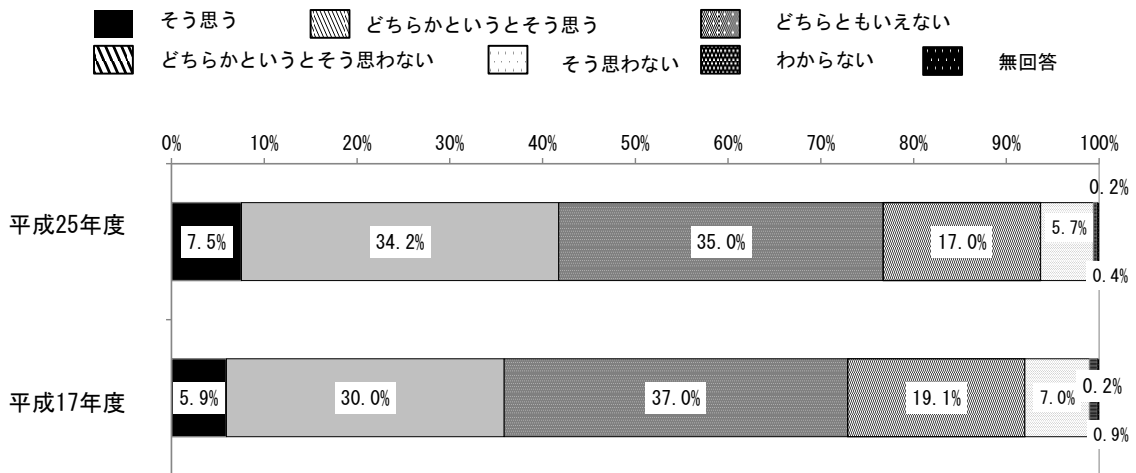


図 III-7 学校・家庭・地域での教育課題

③学校はいじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる

(教職員 平成 25 年度 n=2,046、平成 17 年度 n=1,863)

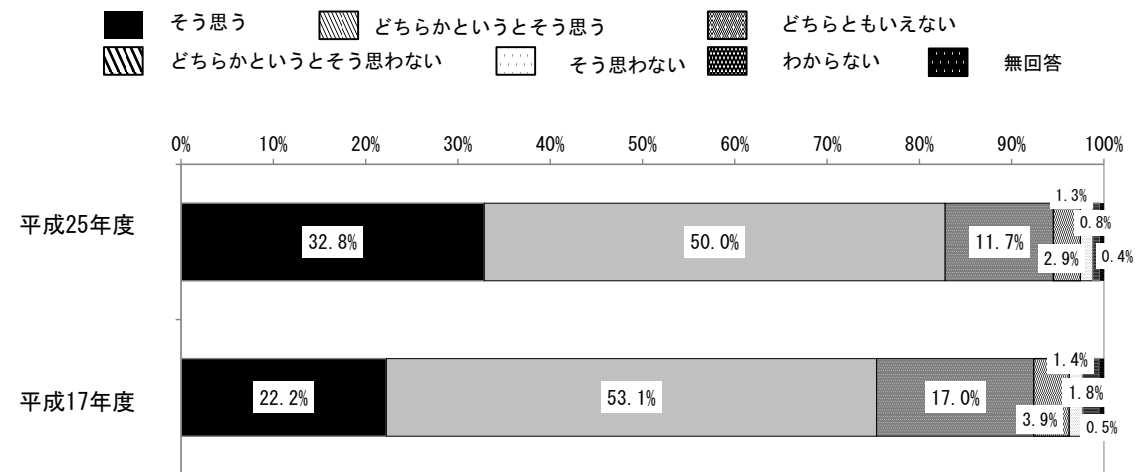


図 III-8 学校・家庭・地域での教育課題

④家庭ではしつけや教育が十分に行われている

(教職員 平成 25 年度 n=2,046、平成 17 年度 n=1,863)

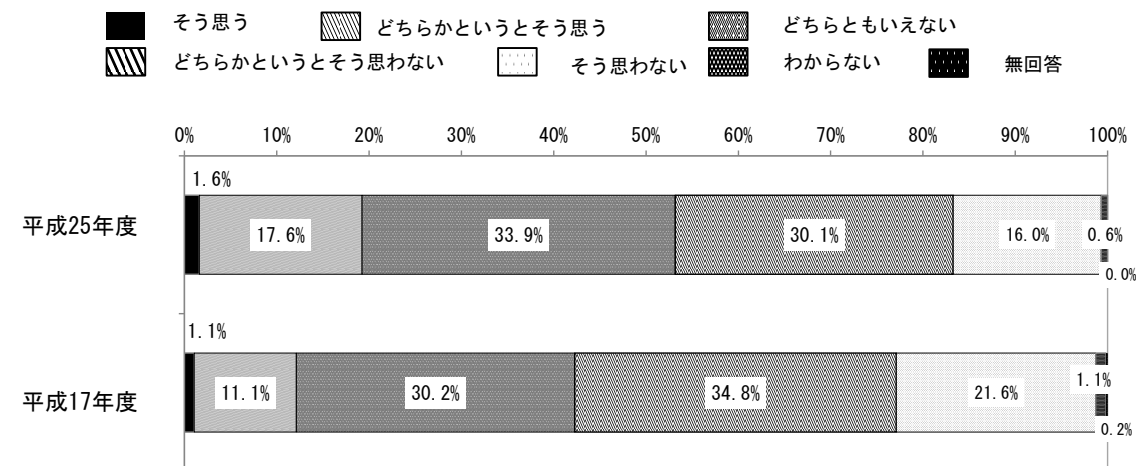


図 III-9 学校・家庭・地域での教育課題

⑤地域では児童・生徒の教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている
(教職員 平成25年度 n=2,046、平成17年度 n=1,863)

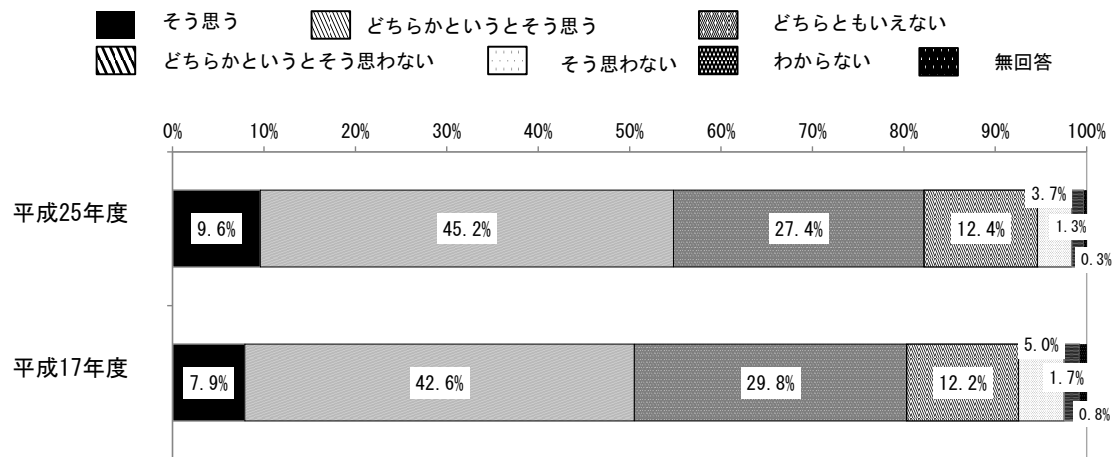


図 III-10

①学校では確かな学力の定着が図られている
(保護者 平成25年度 n=3,632、平成17年度 n=3,876)

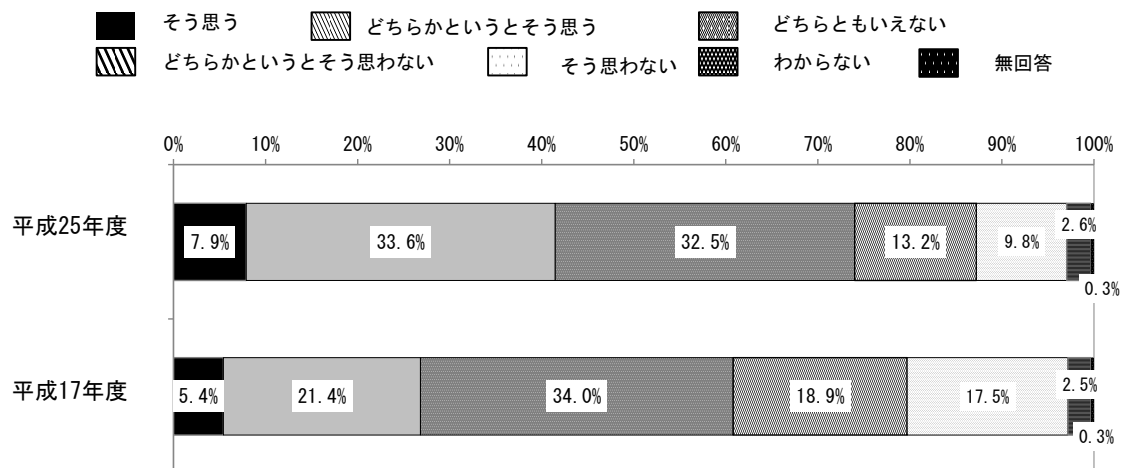


図 III-11

②学校では一人ひとりに応じた個性を伸ばす教育が行われている
(保護者 平成25年度 n=3,632、平成17年度 n=3,876)

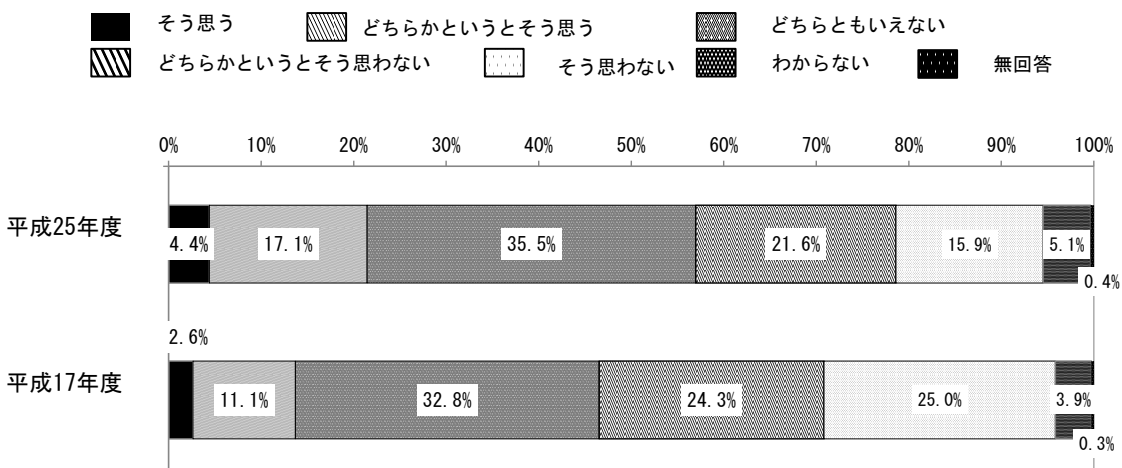


図 III-12

③学校はいじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる
 (保護者 平成25年度 n=3,632、平成17年度 n=3,876)

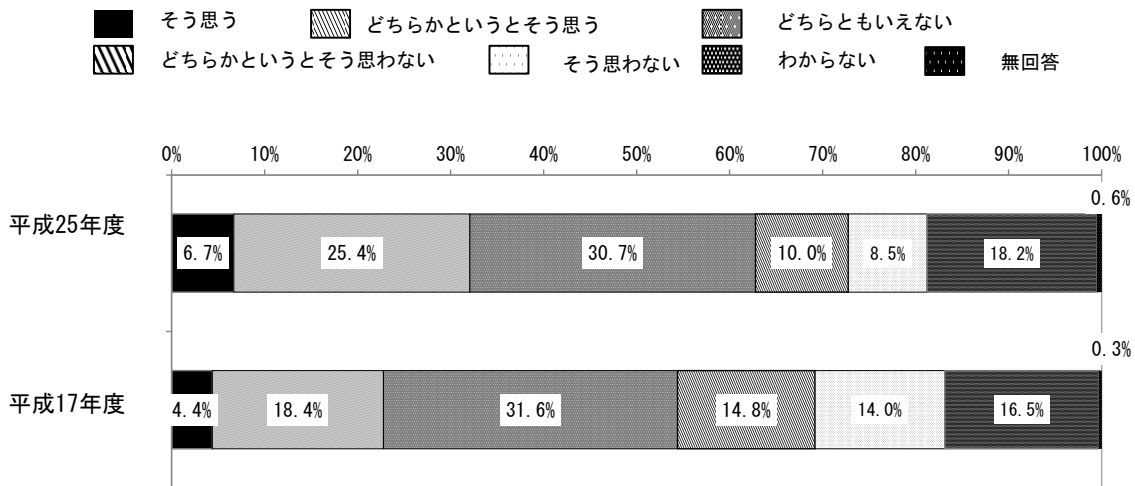


図 III-13

④家庭ではしつけや教育が十分に行われている
 (保護者 平成25年度 n=3,632、平成17年度 n=3,876)

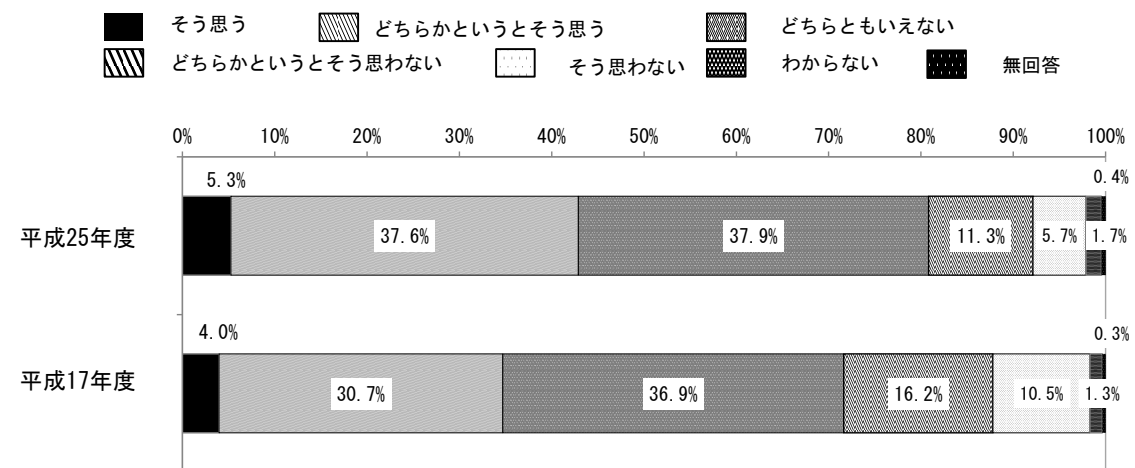


図 III-14

⑤地域では児童・生徒の教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている
 (保護者 平成25年度 n=3,632、平成17年度 n=3,876)

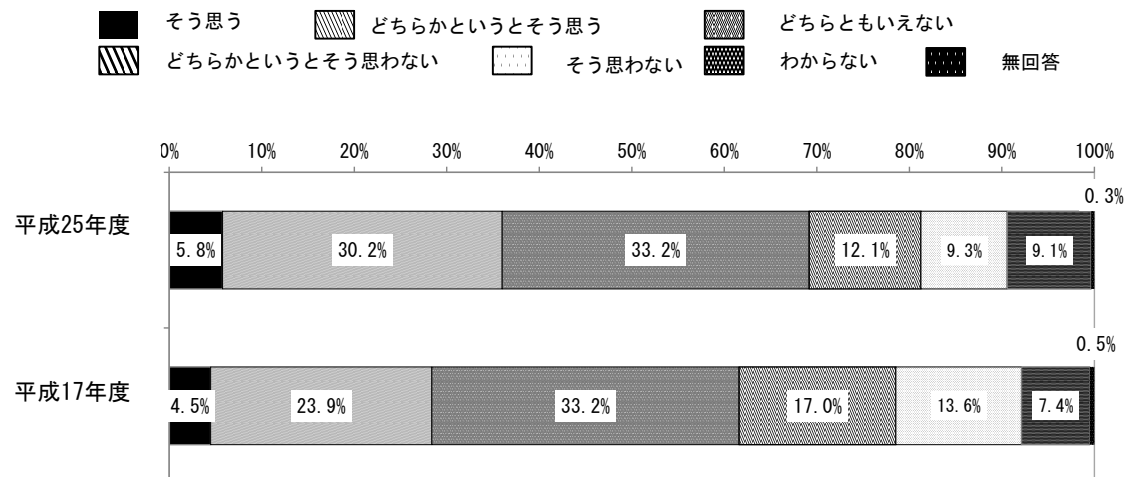


図 III-15

①学校では確かな学力の定着が図られている
(学校評議員 平成25年度 n=534、平成17年度 n=515)

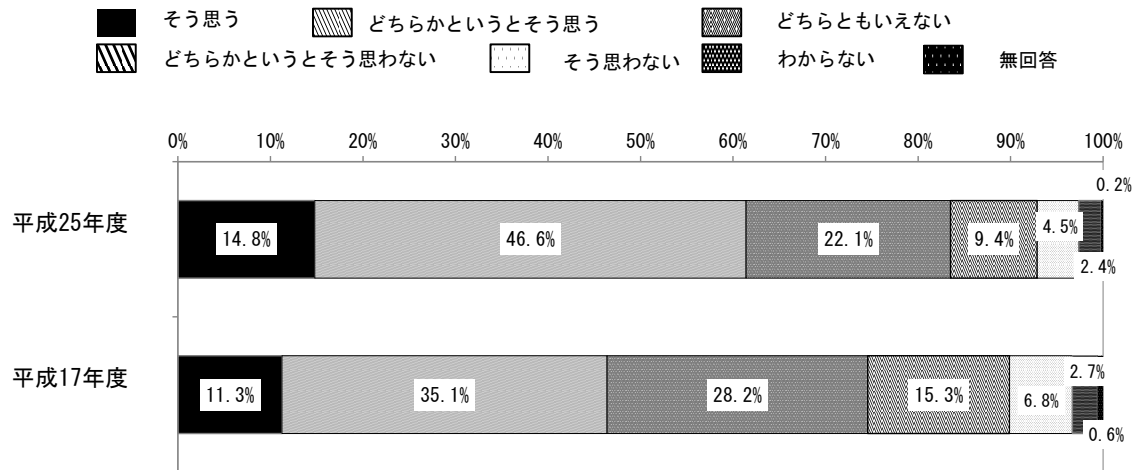


図 III-16

②学校では一人ひとりに応じた個性を伸ばす教育が行われている
(学校評議員 平成25年度 n=534、平成17年度 n=515)

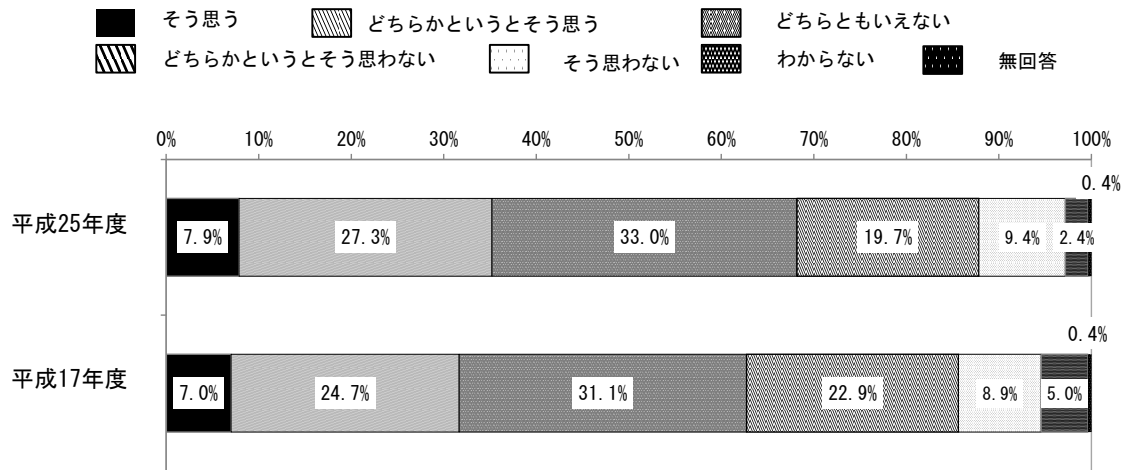


図 III-17

③学校はいじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる
(学校評議員 平成25年度 n=534、平成17年度 n=515)

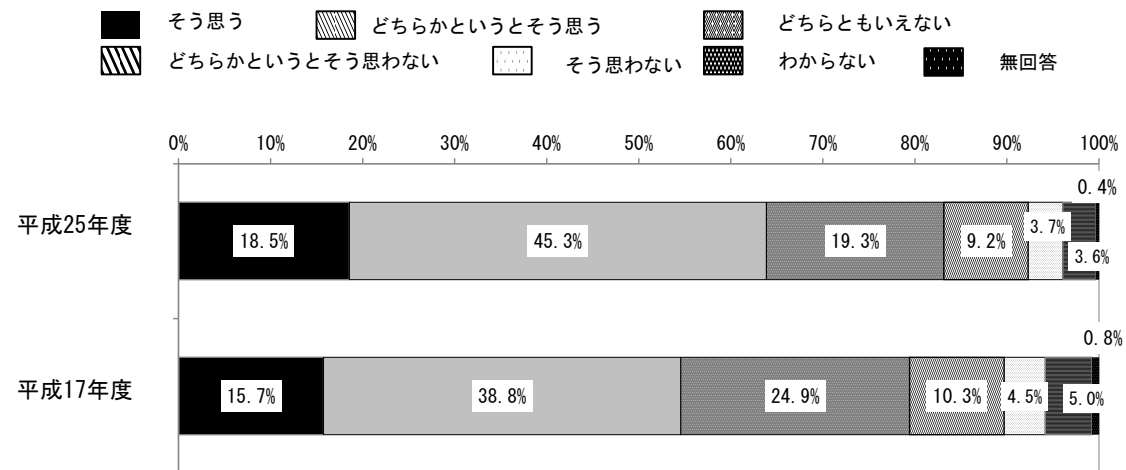


図 III-18

④家庭ではしつけや教育が十分に行われている
(学校評議員 平成25年度 n=534、平成17年度 n=515)

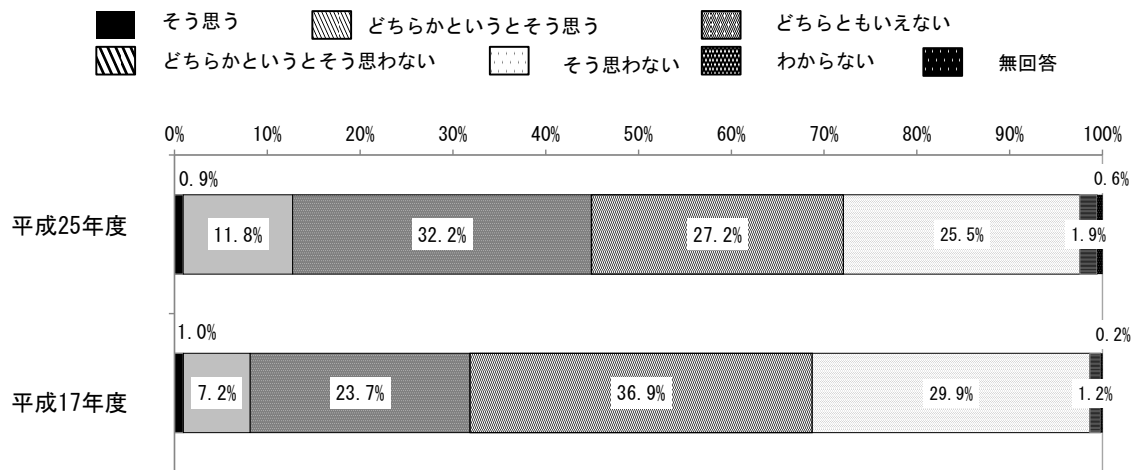


図 III-19

⑤地域では児童・生徒の教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている
(学校評議員 平成25年度 n=534、平成17年度 n=515)

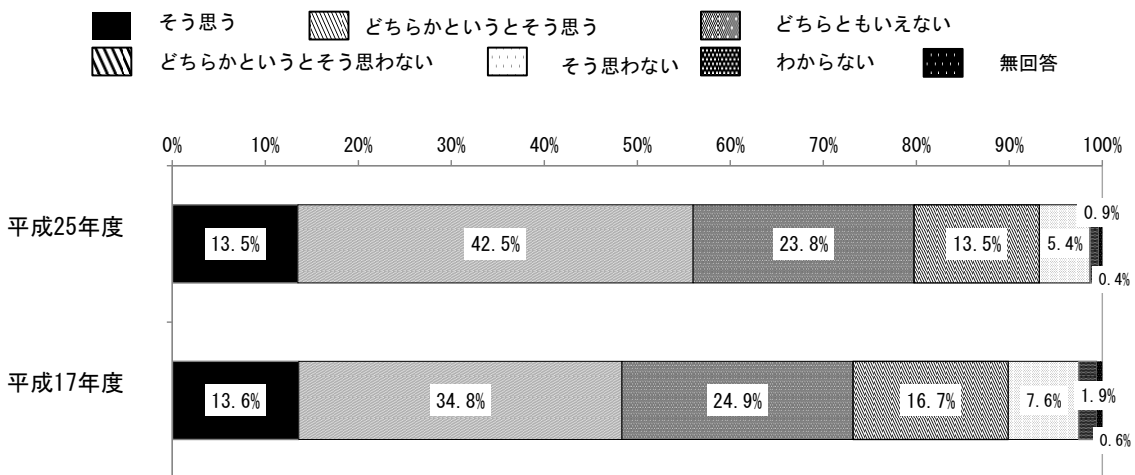


図 III-20

①学校では確かな学力の定着が図られている
(一般県民 平成25年度 n=1,233、平成17年度 n=1,350)

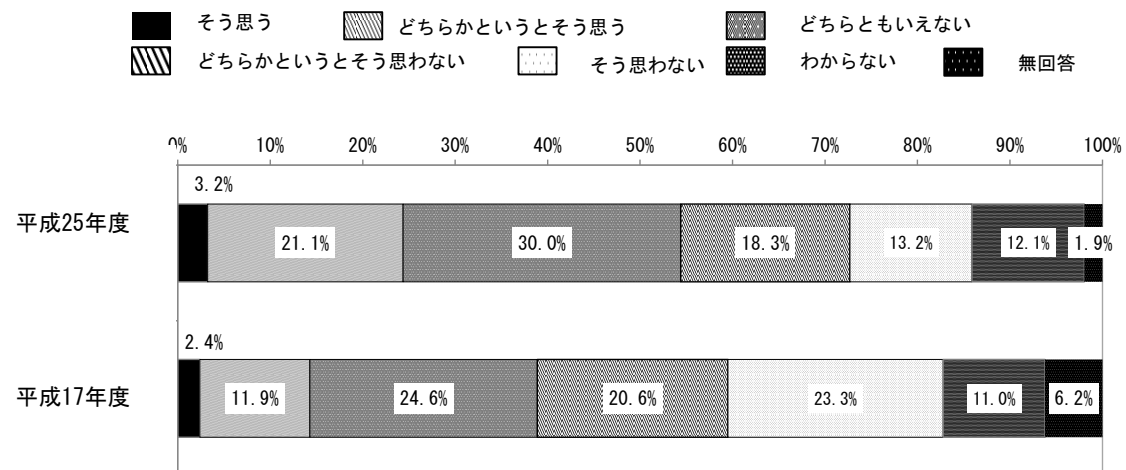


図 III-21

②学校では一人ひとりに応じた個性を伸ばす教育が行われている
 (一般県民 平成25年度 n=1,233、平成17年度 n=1,350)

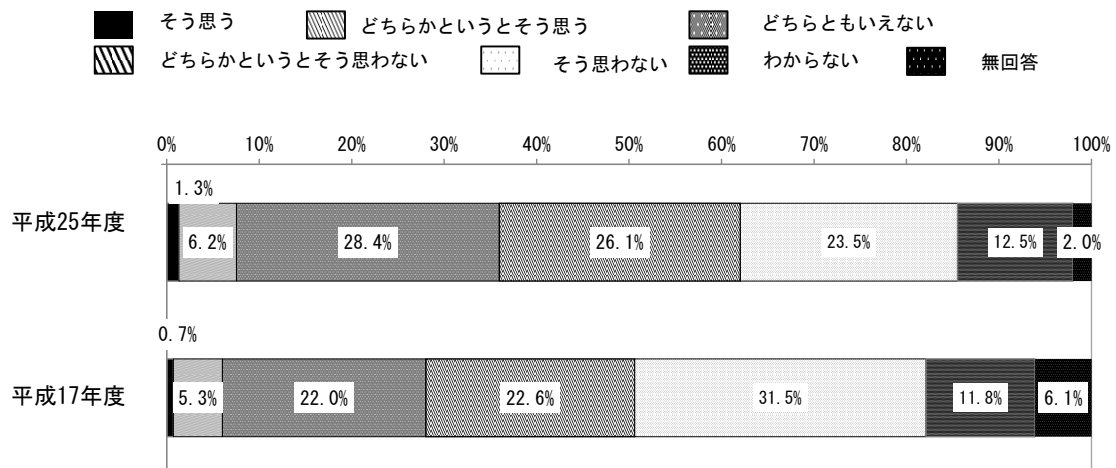


図 III-22

③学校はいじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる
 (一般県民 平成25年度 n=1,233、平成17年度 n=1,350)

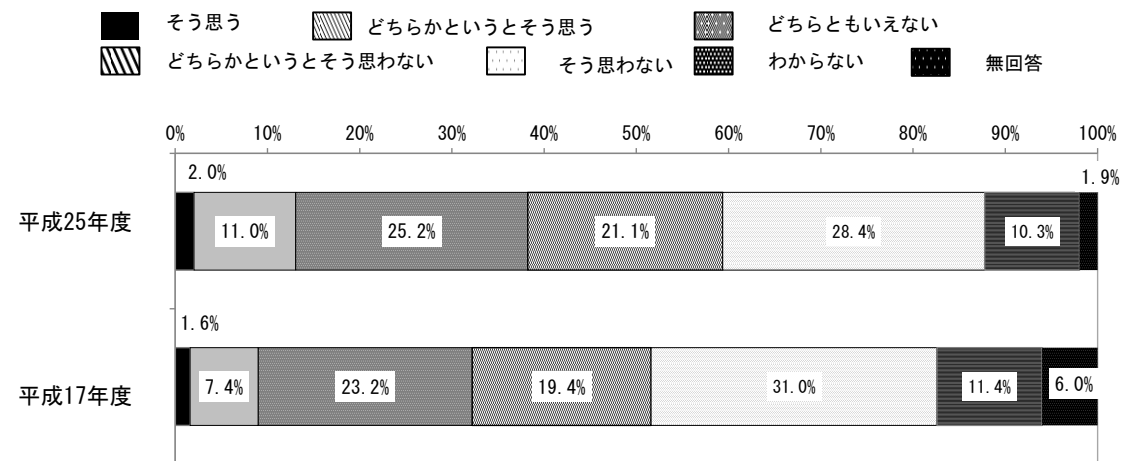


図 III-23

④家庭ではしつけや教育が十分に行われている
 (一般県民 平成25年度 n=1,233、平成17年度 n=1,350)

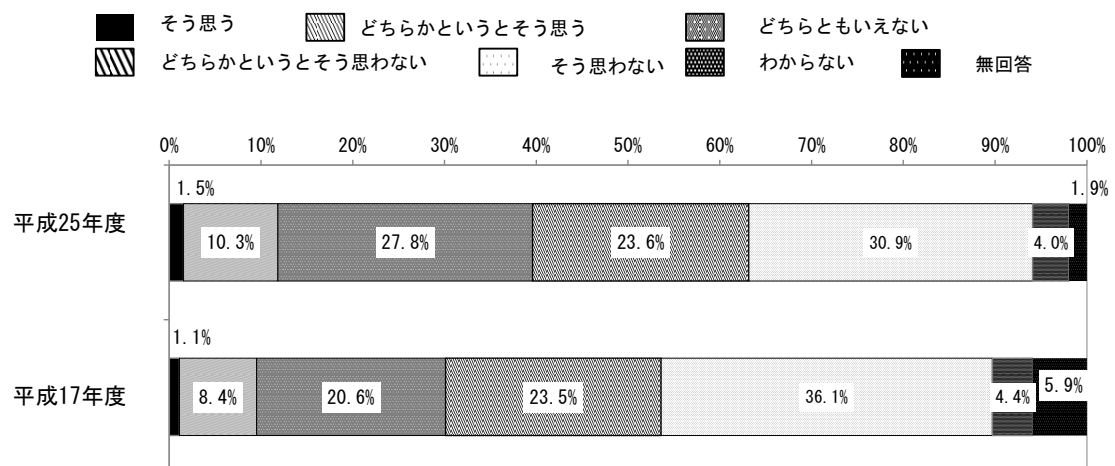
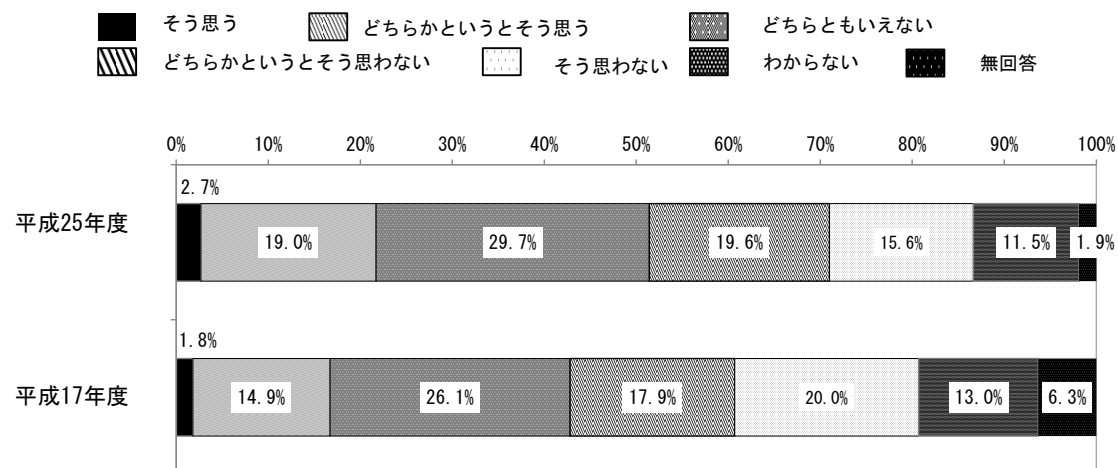


図 III-24

⑤地域では児童・生徒の教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている
 (一般県民 平成25年度 n=1,233、平成17年度 n=1,350)



III - 2 学校の役割・家庭の役割

教職員、保護者、学校評議員、一般県民に対して、それぞれの項目ごとに「児童・生徒に身につけさせるのは、学校と家庭のどちらの役割か」を聞いたところ、家庭の役割と回答した割合が最も高かったのはいずれにおいても「基本的な生活習慣」（「主として家庭」と「どちらかという家庭」の合計。以下同じ）であり、教職員では「社会のルールやマナー」、「知識や感性・情操などを育む読書の習慣」と続き、保護者、学校評議員及び一般県民では「人を思いやる心」、「社会のルールやマナー」と続いている。

一方、学校の役割と回答した割合が高かったのは、教職員では「友だちをつくり、人間関係を築く力」、「学ぶ意欲や学習の習慣」、「将来の職業に役立つ知識・技能」であり、保護者では「友だちをつくり、人間関係を築く力」、「受験に必要な学力」、「将来の職業に役立つ知識・技能」であった。また、学校評議員では、「受験に必要な学力」、「将来の職業に役立つ知識・技能」、「友だちをつくり、人間関係を築く力」であった。一般県民では「受験に必要な学力」と「将来の職業に役立つ知識・技能」は共に最も割合が高く、「友だちをつくり、人間関係を築く力」が続いている。

「家庭の役割」であると回答した割合の最も高い項目について平成 17 年度調査結果と比較すると、いずれの調査においても、また教職員、保護者、学校評議員、一般県民のいずれにおいても、「基本的な生活習慣」（「主として家庭」と「どちらかという家庭」の合計。以下同じ）との回答が最も割合が高かった。その割合は、教職員の回答は平成 25 年度調査では 97.7%、平成 17 年度調査では 94.1%であり、保護者の回答は平成 25 年度調査では 97.9%、平成 17 年度調査では 98.2%、学校評議員の回答は平成 25 年度調査では 99.4%、平成 17 年度調査では 98.9%、一般県民の回答は平成 25 年度調査では 95.9%、平成 17 年度調査では 91.9%であった。

一方、「学校の役割」であると回答した割合の最も高い項目について平成 17 年度調査結果と比較すると、教職員の回答は平成 25 年度調査では「友だちをつくり、人間関係を築く力」（「主として学校」と「どちらかという学校」の合計。以下同じ。86.3%）であり、平成 17 年度調査では「学ぶ意欲や学習の習慣」（85.8%）であった。保護者の回答は平成 25 年度調査では「友だちをつくり、人間関係を築く力」（81.1%）であり、平成 17 年度調査では「受験に必要な学力」（84.4%）であった。学校評議員では、いずれの調査においても「受験に必要な学力」との回答の割合が最も高く、平成 25 年度調査では 85.0%、平成 17 年度調査では 90.1%であった。一般県民の回答は平成 25 年度調査では「受験に必要な学力」と「将来の職業に役立つ知識・技能」（いずれも 82.7%）であり、平成 17 年度調査では「受験に必要な学力」（83.1%）であった。

『学校の役割・家庭の役割』について教職員、保護者、学校評議員及び一般県民に聞いたところ、家庭の役割と回答した割合が最も高かったのはいずれにおいても「基本的な生活習慣」（「主として家庭」と「どちらかという家庭」の合計。以下同じ。教職員：97.7%、保護者：97.9%、学校評議員：99.4%、一般県民：95.9%）であり、教職員では「社会のルールやマナー」（62.5%）、「知識や感性・情操などを育む読書の習慣」（59.6%）と続き、保護者、学校評議員及び一般県民では「人を思いやる心」（保護者：80.4%、学校評議員：83.7%、一般県民：83.2%）、「社会のルールやマナー」（保護者：80.2%、学校評議員：81.7%、一般県民：73.5%）と続いている。

一方、学校の役割と回答した割合が高かったのは、教職員では「友だちをつくり、人間関係を築く力」（86.3%）、「学ぶ意欲や学習の習慣」（85.0%）、「将来の職業に役立つ知識・技能」（83.0%）であり、保護者では「友だちをつくり、人間関係を築く力」（81.1%）、「受験に必要な学力」（80.2%）、「将来の職業に役立つ知識・技能」（78.8%）であった。また、学校評議員では、「受験に必要な学力」（85.0%）、「将来の職業に役立つ知識・技能」（84.9%）、「友だちをつくり、人間関係を築く力」（80.0%）の順に割合が高い。一般県民では「受験に必要な学力」と「将来の職業に役立つ知識・技能」は共に 82.7%で最も割合が高く、「友だちをつくり、人間関係を築く力」（80.8%）が続いている。（表Ⅲ-1, 2、図Ⅲ-25～28 参照）

表 III-1 主として(どちらかといえば)家庭の役割と考えるもの(上位5項目)

	教職員	保護者	学校評議員	一般県民
1位	基本的な生活習慣 97.7%	基本的な生活習慣 97.9%	基本的な生活習慣 99.4%	基本的な生活習慣 95.9%
2位	社会のルールやマナー 62.5%	人を思いやる心 80.4%	人を思いやる心 83.7%	人を思いやる心 83.2%
3位	知識や感性・情操などを育む読書の習慣 59.6%	社会のルールやマナー 80.2%	社会のルールやマナー 81.7%	社会のルールやマナー 73.5%
4位	人を思いやる心 56.3%	知識や感性・情操などを育む読書の習慣 61.5%	知識や感性・情操などを育む読書の習慣 63.5%	知識や感性・情操などを育む読書の習慣 59.3%
5位	音楽や美術など芸術的な感性や能力 35.4%	ものごとをやりとげるねばり強さ 48.9%	ものごとをやりとげるねばり強さ 56.2%	ものごとをやりとげるねばり強さ 52.0%

表 III-2 主として(どちらかといえば)学校の役割と考えるもの(上位5項目)

	教職員	保護者	学校評議員	一般県民
1位	友だちをつくり、人間関係を築く力 86.3%	友だちをつくり、人間関係を築く力 81.1%	受験に必要な学力 85.0%	受験に必要な学力 将来の職業に役立つ知識・技能
2位	学ぶ意欲や学習の習慣 85.0%	受験に必要な学力 80.2%	将来の職業に役立つ知識・技能 84.9%	82.7%
3位	将来の職業に役立つ知識・技能 83.0%	将来の職業に役立つ知識・技能 78.8%	友だちをつくり、人間関係を築く力 80.0%	友だちをつくり、人間関係を築く力 80.8%
4位	受験に必要な学力 76.5%	英会話など実践的な語学力 73.9%	英会話など実践的な語学力 77.0%	英会話など実践的な語学力 77.2%
5位	将来や進路について考える力 74.3%	学ぶ意欲や学習の習慣 73.8%	学ぶ意欲や学習の習慣 76.6%	学ぶ意欲や学習の習慣 72.0%

図 III-25 学校の役割・家庭の役割(教職員 n=2,046)

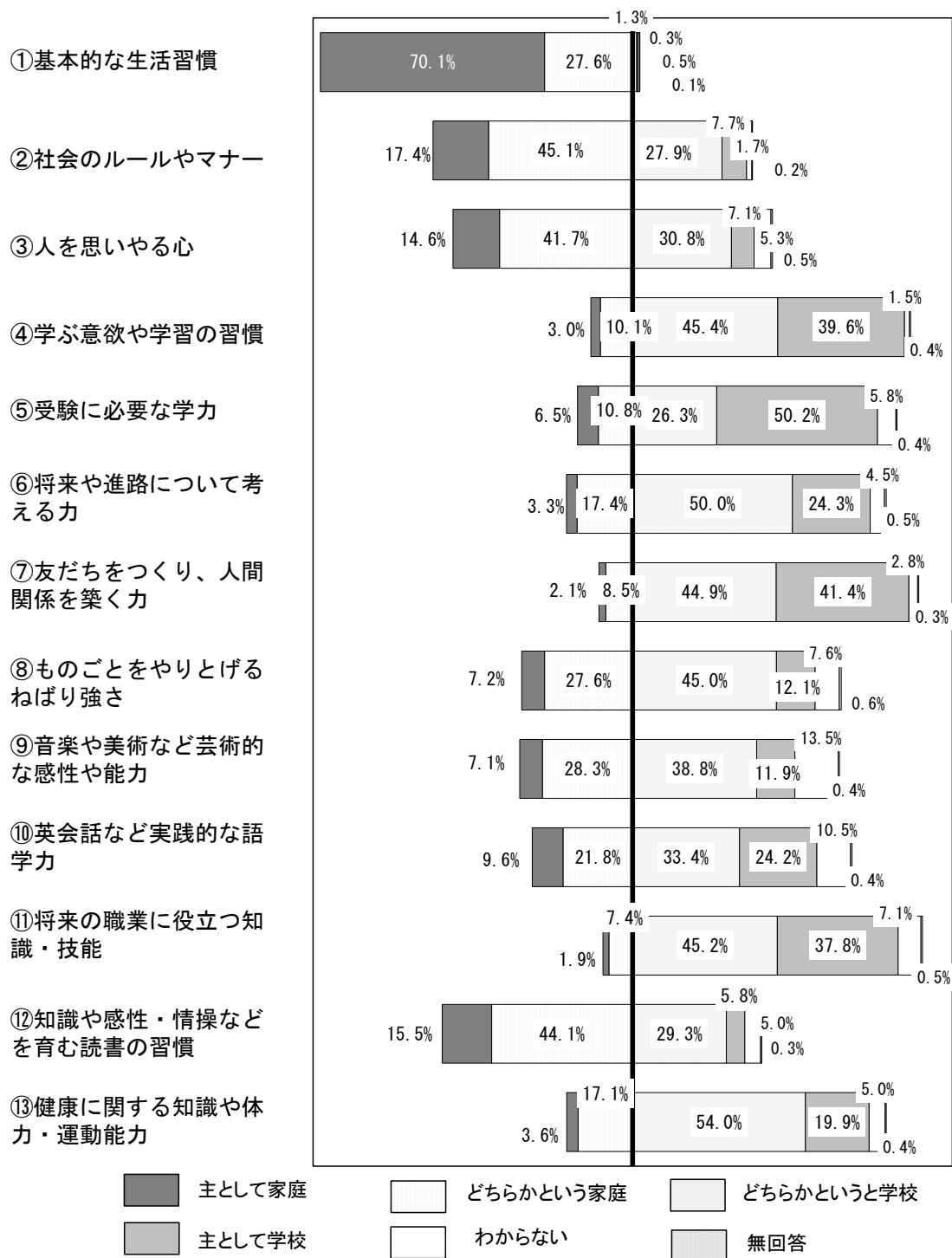


図 III-26 学校の役割・家庭の役割(保護者 n=3, 632)

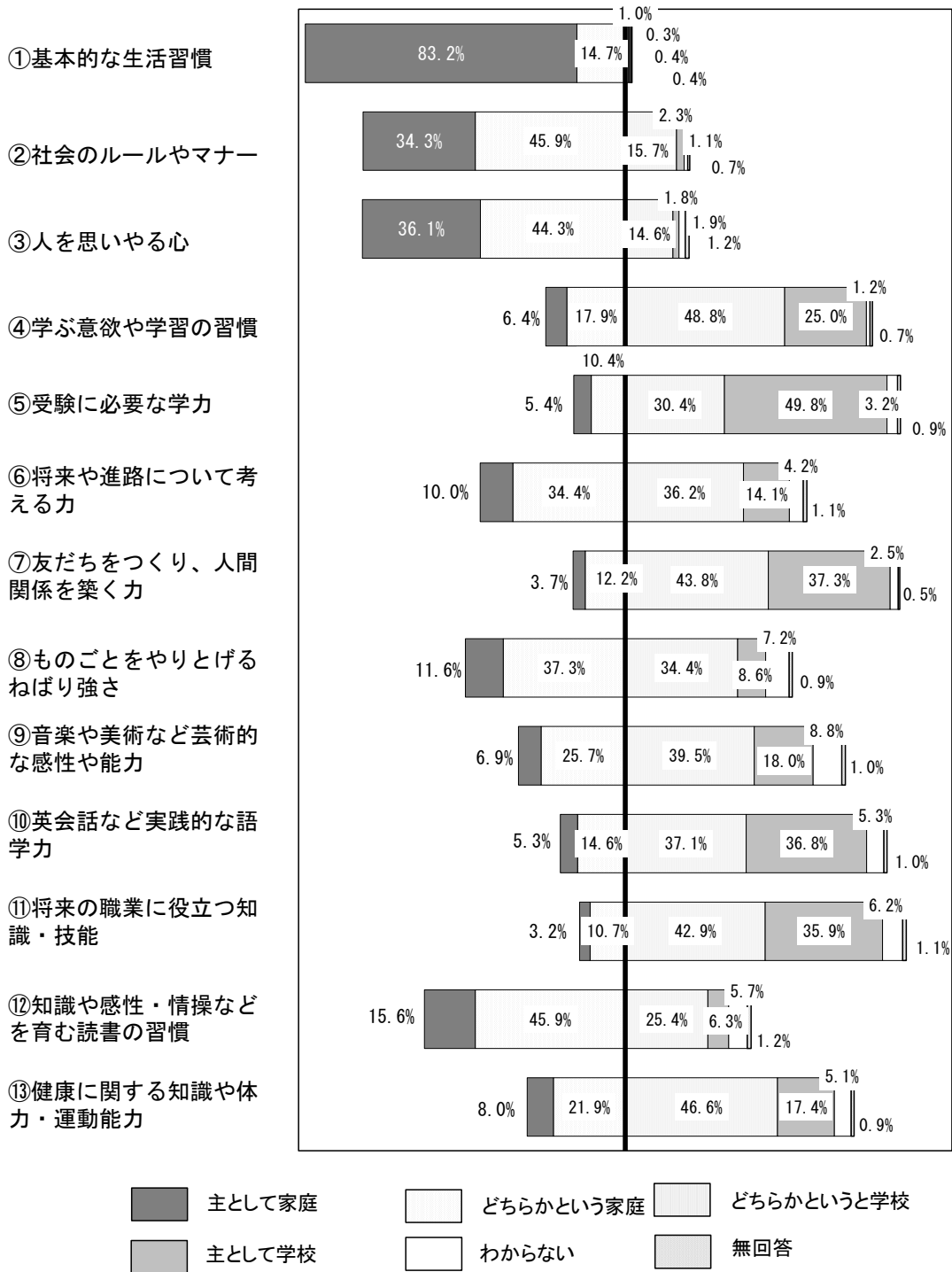


図 III-27 学校の役割・家庭の役割(学校評議員 n=534)

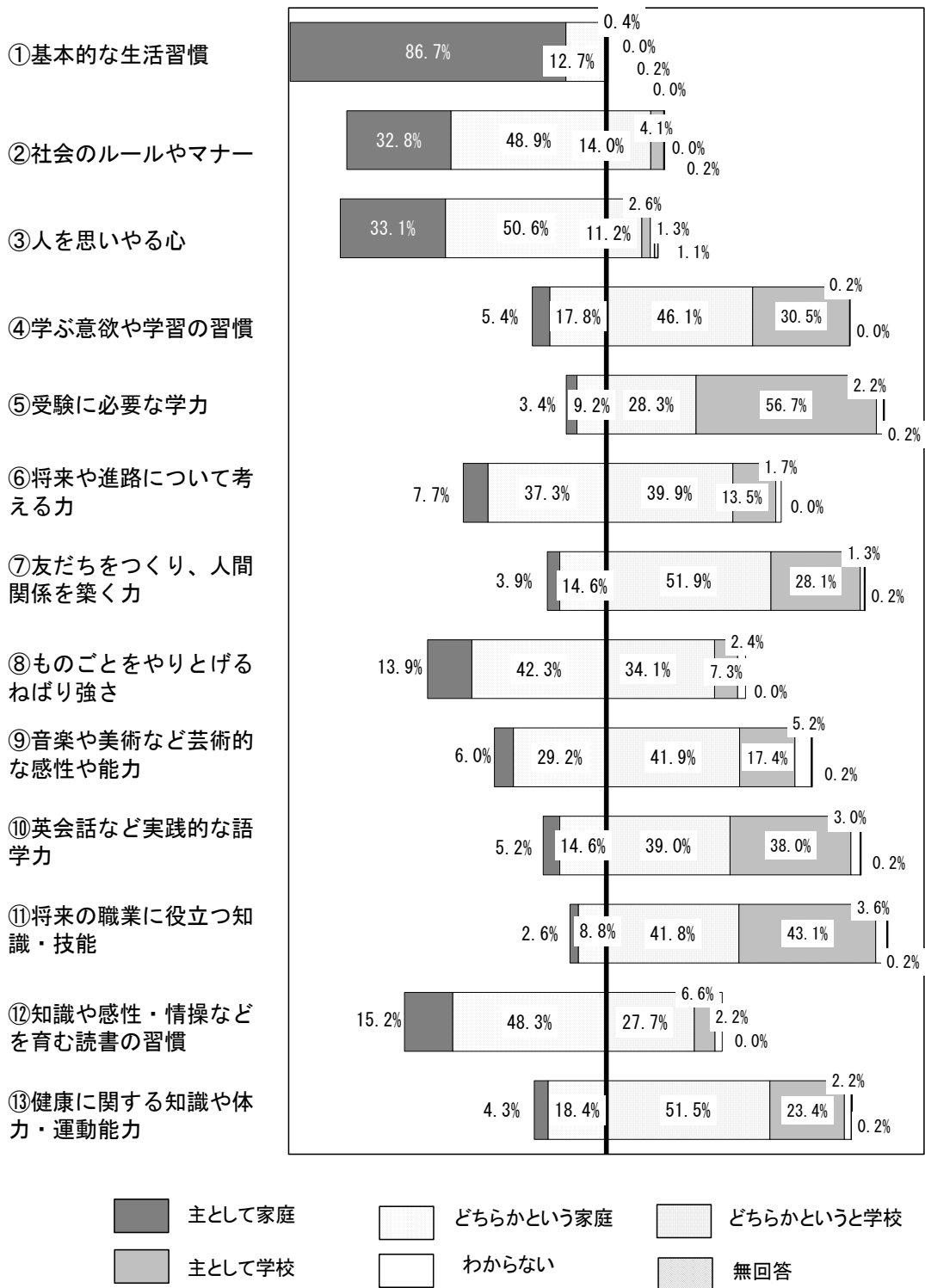
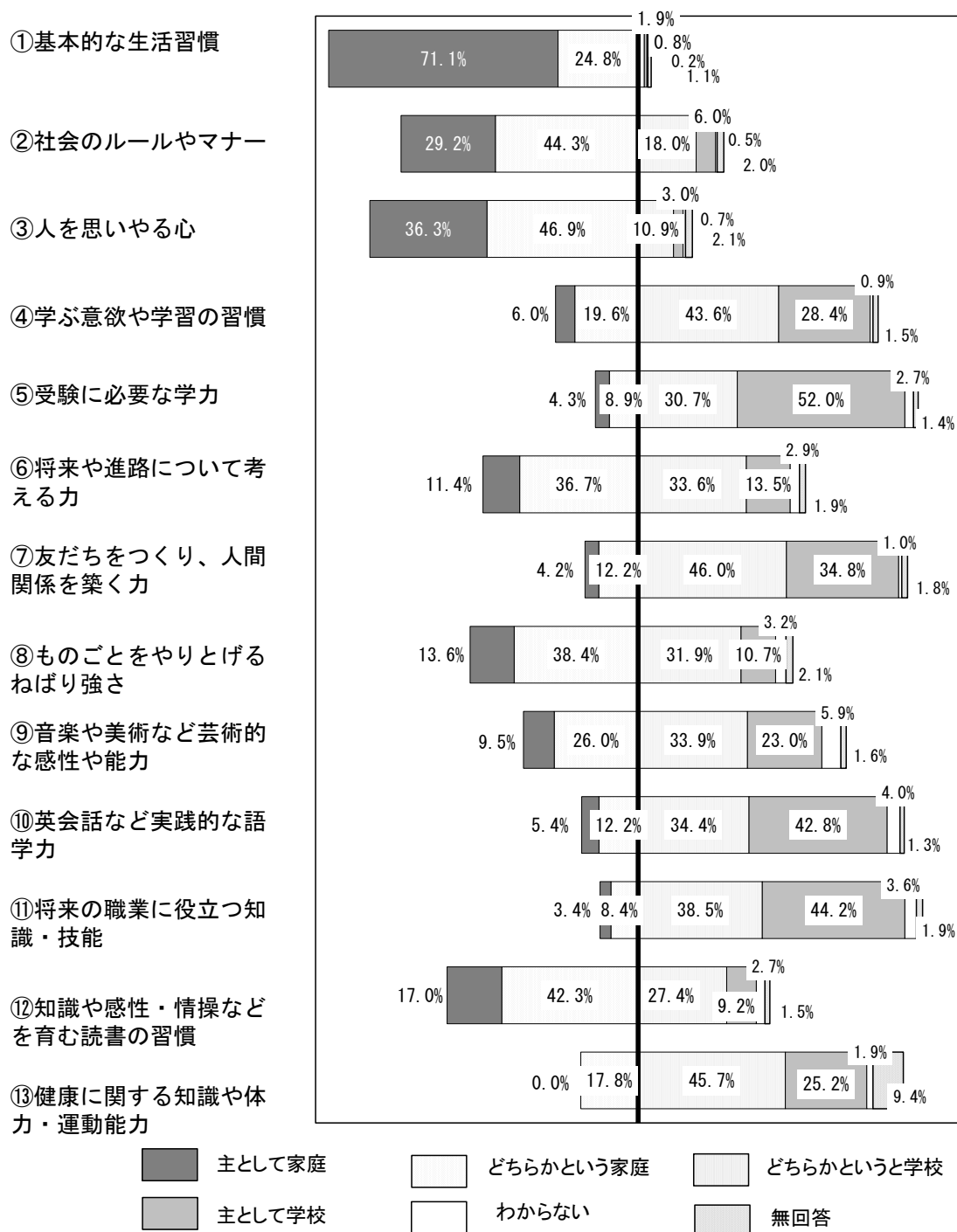


図 III-28 学校の役割・家庭の役割(一般県民 n=1,233)



「家庭の役割」であると回答した割合の高い項目について平成 17 年度調査結果と比較すると、教職員の回答は平成 25 年度調査では「基本的な生活習慣」（「主として家庭」と「どちらかという家庭」の合計。以下同じ。97.7%）、「社会のルールやマナー」（62.5%）、「知識や感性・情操などを育む読書の習慣」（59.6%）であり、平成 17 年度調査では「基本的な生活習慣」（94.1%）、「社会のルールやマナー」（67.0%）、「人を思いやる心」（66.1%）であった。保護者の回答は平成 25 年度調査では「基本的な生活習慣」（97.9%）、「人を思いやる心」（80.4%）、「社会のルールやマナー」（80.2%）であり、平成 17 年度調査では「基本的な生活習慣」（98.2%）、「人を思いやる心」（84.0%）、「社会のルールやマナー」（80.7%）であった。学校評議員の回答は平成 25 年度調査では「基本的な生活習慣」（99.4%）、「人を思いやる心」（83.7%）、「社会のルールやマナー」（81.7%）であり、平成 17 年度調査では「基本的な生活習慣」（98.9%）、「人を思いやる心」（81.3%）、「社会のルールやマナー」（78.7%）であった。一般県民の回答は平成 25 年度調査では「基本的な生活習慣」（95.9%）、「人を思いやる心」（83.2%）、「社会のルールやマナー」（73.5%）であり、平成 17 年度調査では「基本的な生活習慣」（91.9%）、「人を思いやる心」（80.6%）、「社会のルールやマナー」（70.2%）であった。

一方、「学校の役割」であると回答した割合の高い項目について平成 17 年度調査結果と比較すると、教職員の回答は平成 25 年度調査では「友だちをつくり、人間関係を築く力」（「主として学校」と「どちらかという学校」の合計。以下同じ。86.3%）、「学ぶ意欲や学習の習慣」（85.0%）、「将来の職業に役立つ知識・技能」（83.0%）であり、平成 17 年度調査では「学ぶ意欲や学習の習慣」（85.8%）、「将来の職業に役立つ知識・技能」（84.7%）、「友だちをつくり、人間関係を築く力」（84.1%）であった。保護者の回答は平成 25 年度調査では「友だちをつくり、人間関係を築く力」（81.1%）、「受験に必要な学力」（80.2%）、「将来の職業に役立つ知識・技能」（78.8%）であり、平成 17 年度調査では「受験に必要な学力」（84.4%）、「友だちをつくり、人間関係を築く力」（79.6%）、「将来の職業に役立つ知識・技能」（79.0%）であった。学校評議員の回答は平成 25 年度調査では「受験に必要な学力」（85.0%）、「将来の職業に役立つ知識・技能」（84.9%）、「友だちをつくり、人間関係を築く力」（80.0%）であり、平成 17 年度調査では「受験に必要な学力」（90.1%）、「将来の職業に役立つ知識・技能」（86.0%）、「友だちをつくり、人間関係を築く力」（82.3%）であった。一般県民の回答は平成 25 年度調査では「受験に必要な学力」（82.7%）、「将来の職業に役立つ知識・技能」（82.7%）、「友だちをつくり、人間関係を築く力」（80.8%）であり、平成 17 年度調査では「受験に必要な学力」（83.1%）、「将来の職業に役立つ知識・技能」（79.0%）、「友だちをつくり、人間関係を築く力」（74.6%）であった。（図Ⅲ-29～78 参照）

図 III-29 学校の役割・家庭の役割

①基本的な生活習慣（教職員 平成 25 年度 n=2,046、平成 17 年度 n=1,863）

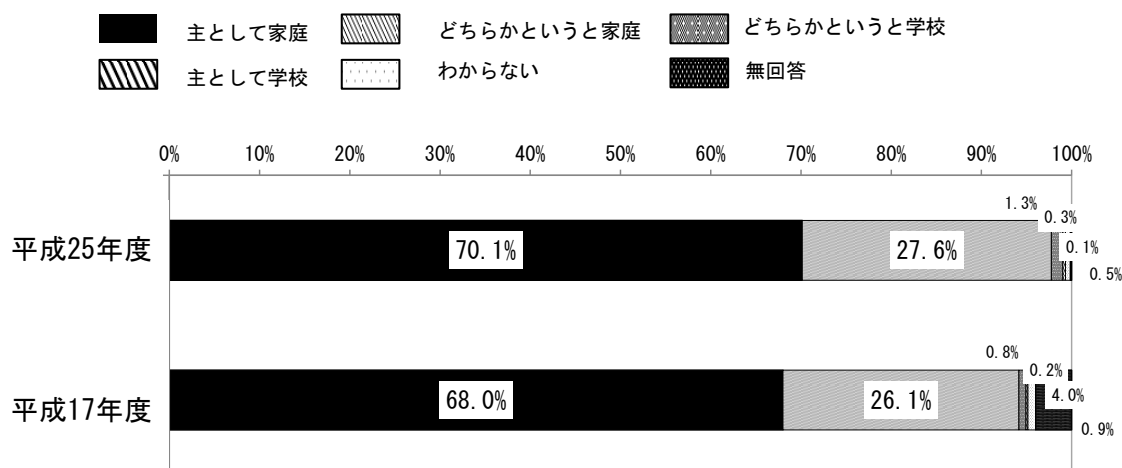


図 III-30 学校の役割・家庭の役割

②社会のルールやマナー（教職員 平成25年度 n=2,046、平成17年度 n=1,863）

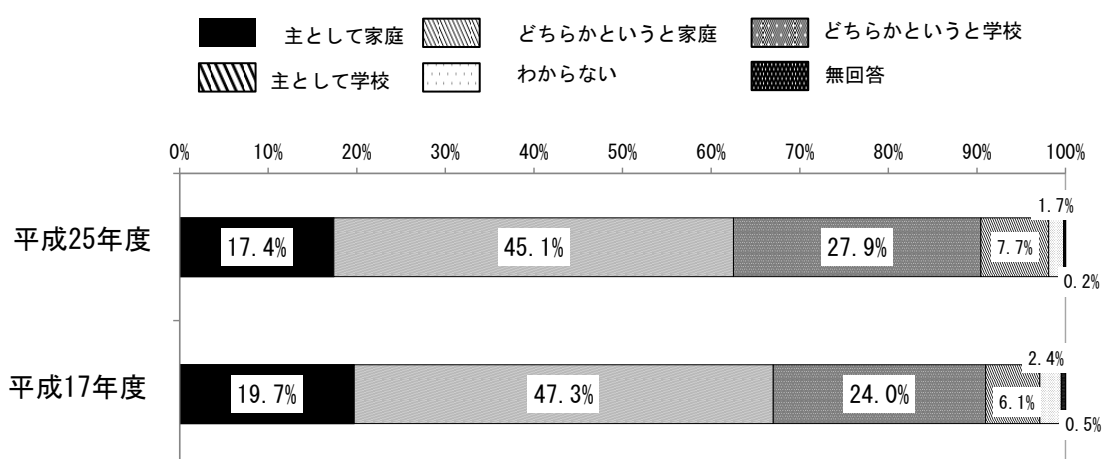


図 III-31 学校の役割・家庭の役割

③人を思いやる心（教職員 平成25年度 n=2,046、平成17年度 n=1,863）

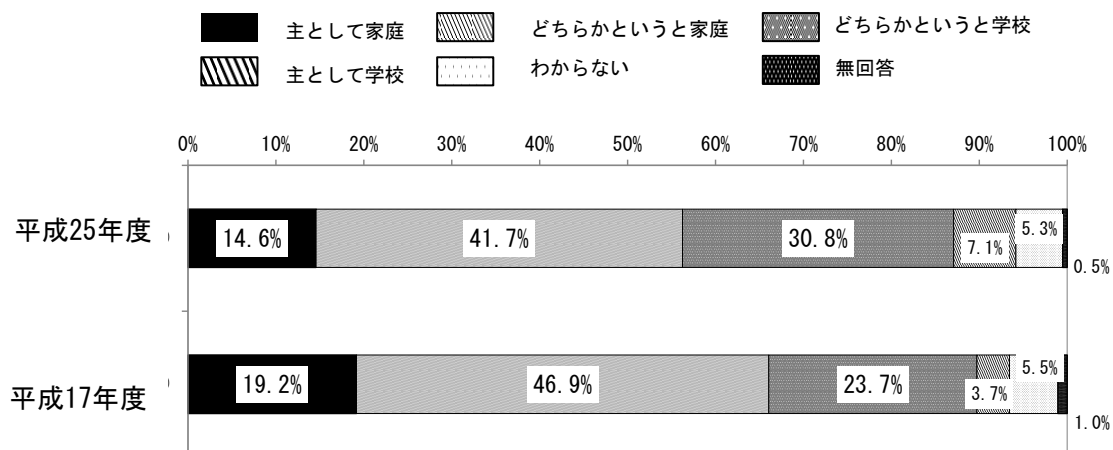


図 III-32 学校の役割・家庭の役割

④学ぶ意欲や学習の習慣（教職員 平成25年度 n=2,046、平成17年度 n=1,863）

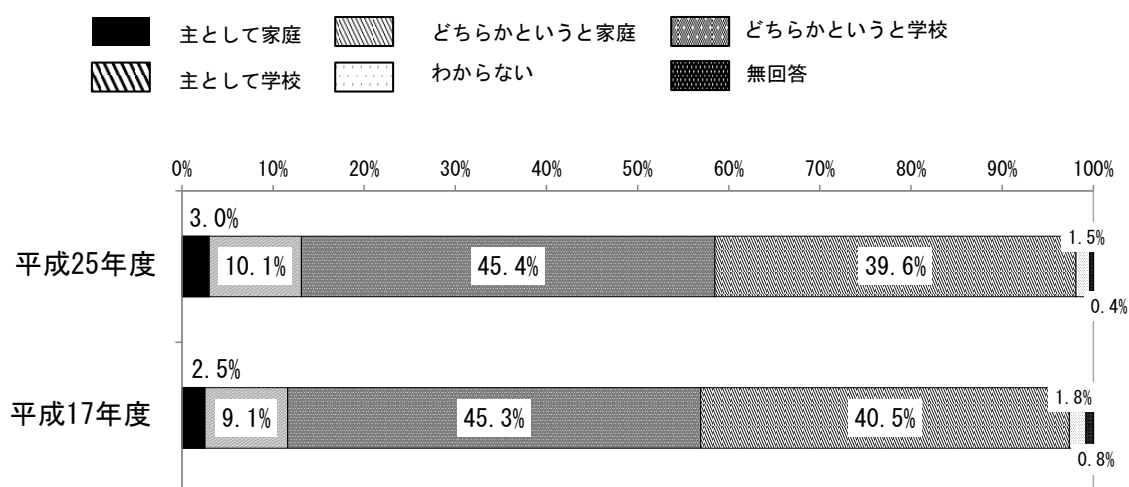


図 III-33 学校の役割・家庭の役割

⑤受験に必要な学力（教職員 平成25年度 n=2,046、平成17年度 n=1,863）

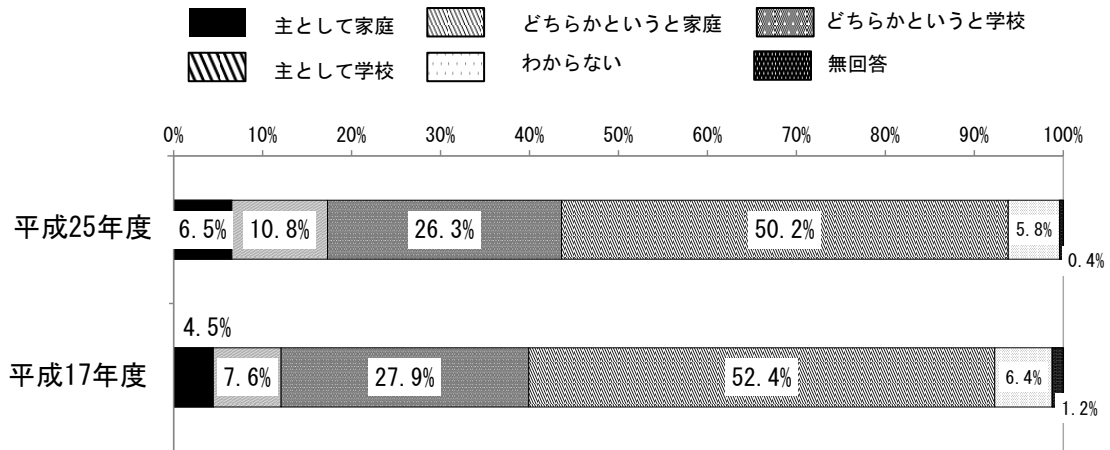


図 III-34 学校の役割・家庭の役割

⑥将来や進路について考える力（教職員 平成25年度 n=2,046、平成17年度 n=1,863）

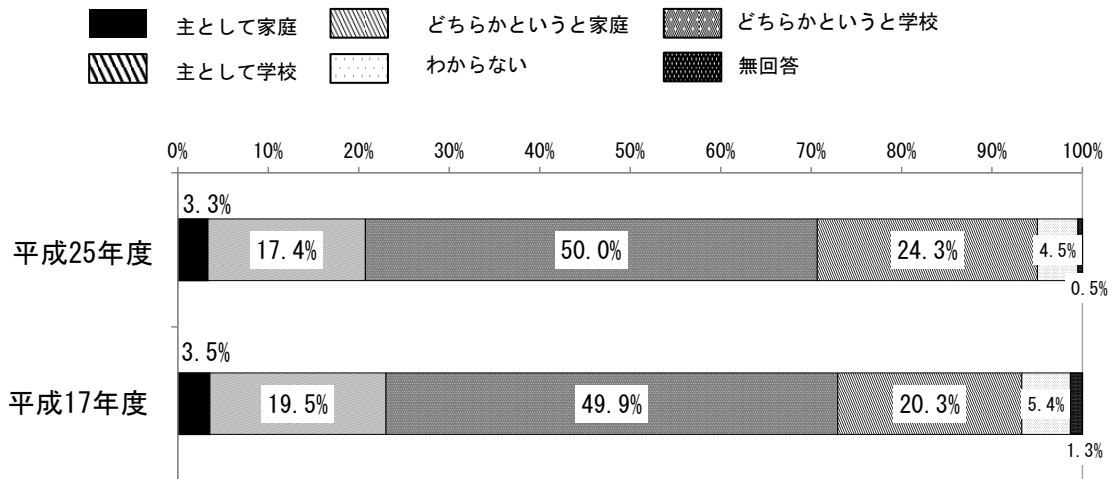


図 III-35 学校の役割・家庭の役割

⑦友だちをつくり、人間関係を築く力（教職員 平成25年度 n=2,046、平成17年度 n=1,863）

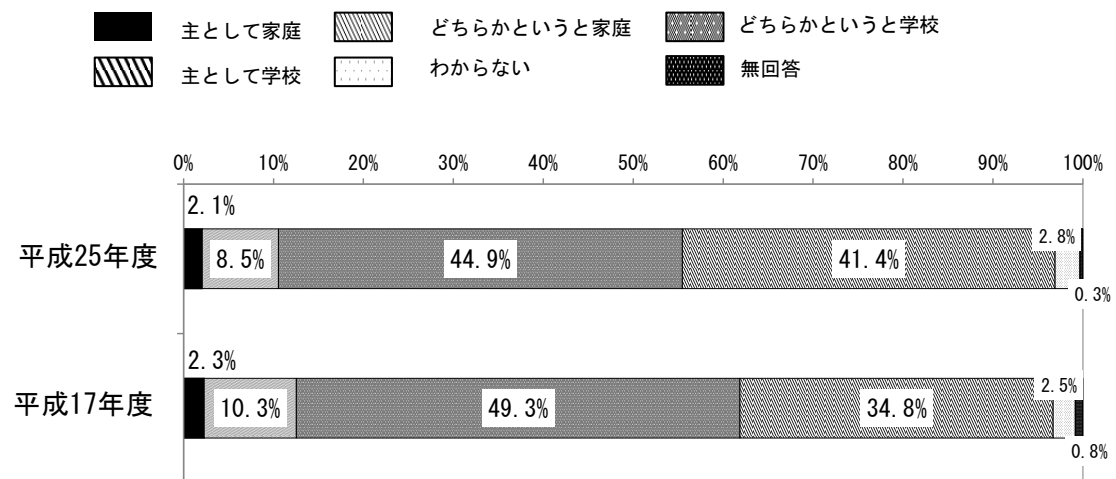


図 III-36 学校の役割・家庭の役割

⑧ものごとをやりとげるねばり強さ(教職員 平成25年度 n=2,046、平成17年度 n=1,863)

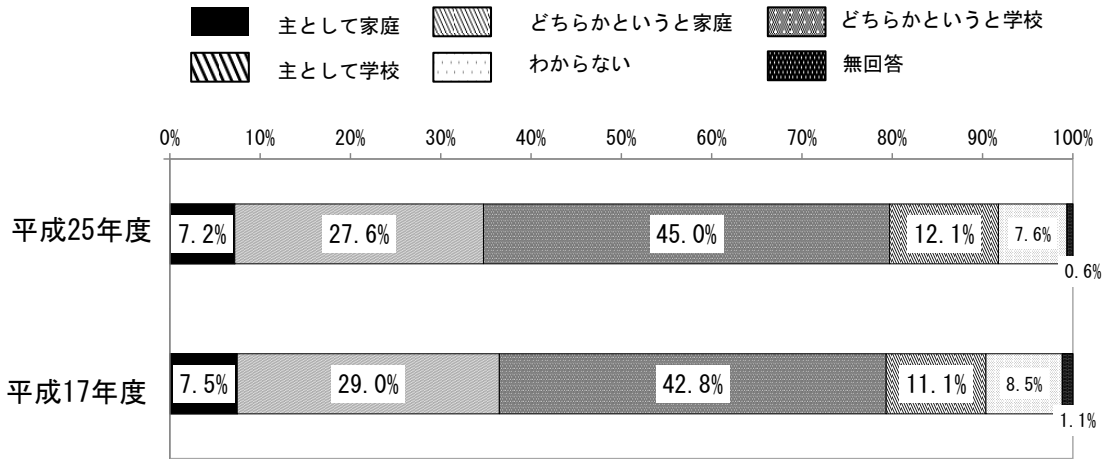


図 III-37 学校の役割・家庭の役割

⑨音楽や美術など芸術的な感性や能力(教職員 平成25年度 n=2,046、平成17年度 n=1,863)

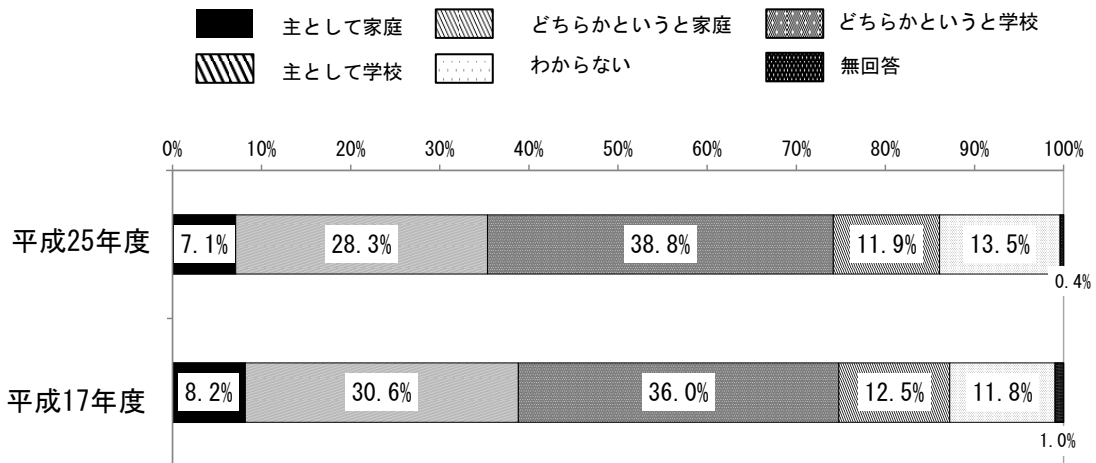


図 III-38 学校の役割・家庭の役割

⑩英会話など実践的な語学力(教職員 平成25年度 n=2,046、平成17年度 n=1,863)

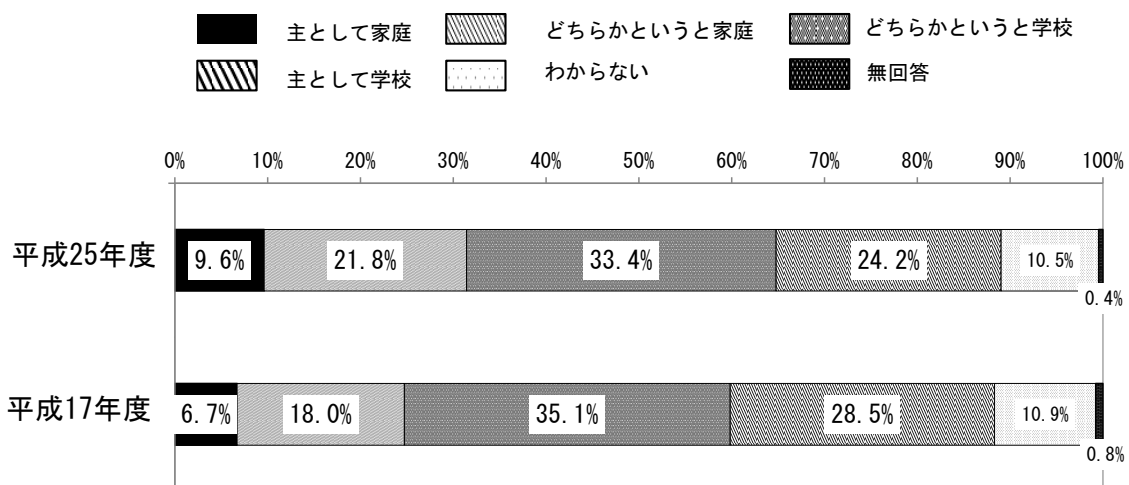


図 III-39 学校の役割・家庭の役割

⑪将来の職業に役立つ知識・技能(教職員 平成25年度 n=2,046、平成17年度 n=1,863)

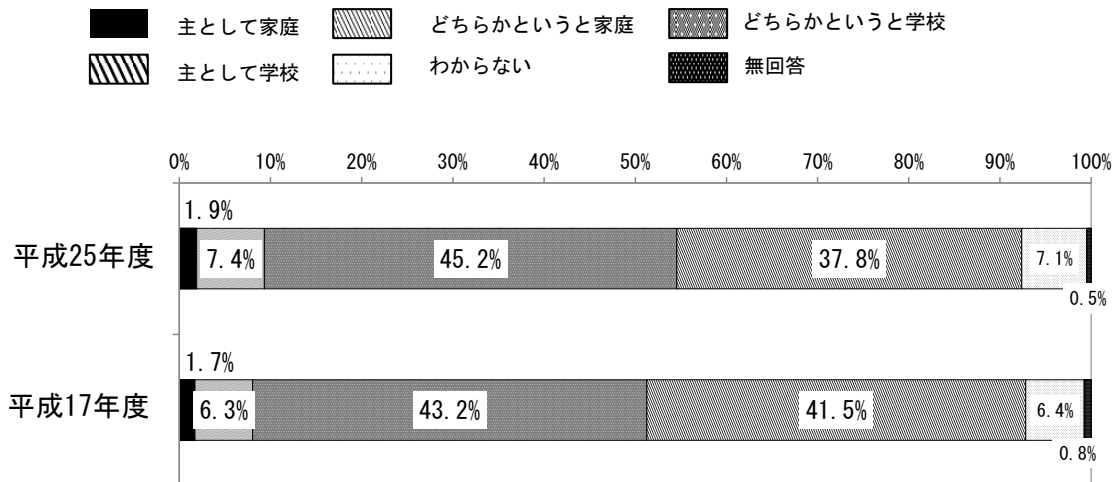


図 III-40 学校の役割・家庭の役割

⑫知識や感性・情操などを育む読書の習慣

(教職員 平成25年度 n=2,046、平成17年度 n=1,863)

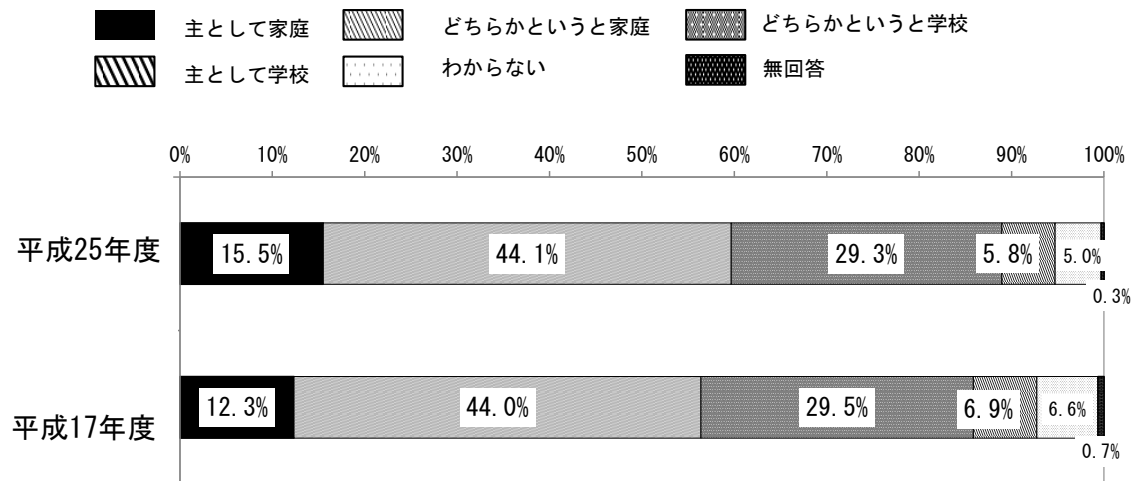


図 III-41 学校の役割・家庭の役割

⑬健康に関する知識や体力・運動能力(教職員 平成25年度 n=2,046、平成17年度 n=1,863)

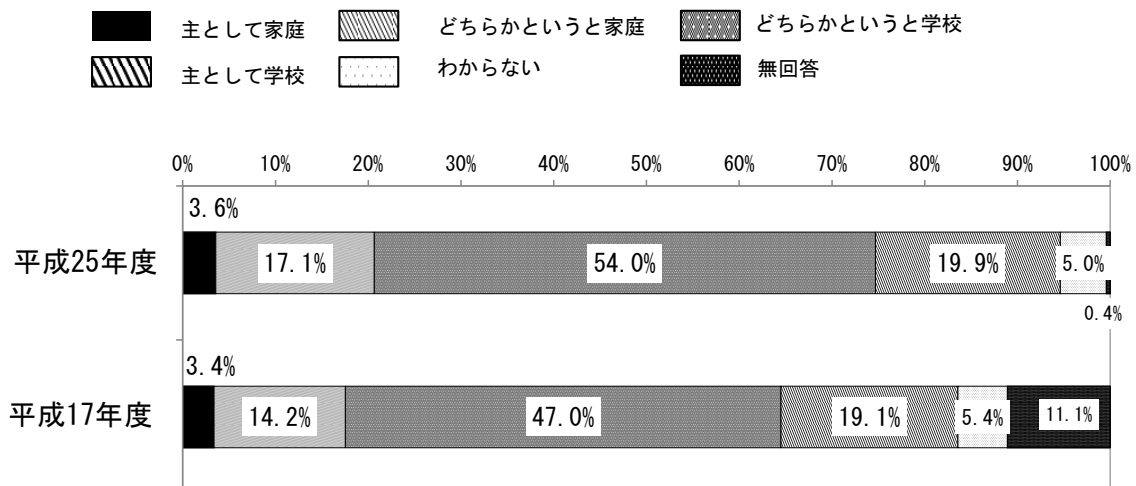


図 III-42 学校の役割・家庭の役割

①基本的な生活習慣(保護者 平成25年度 n=3,632、平成17年度 n=3,876)

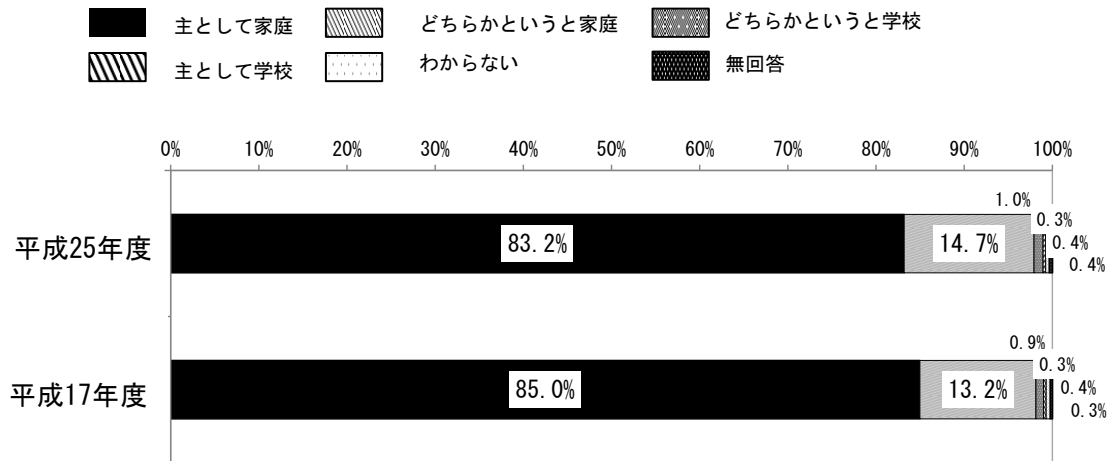


図 III-43 学校の役割・家庭の役割

②社会のルールやマナー(保護者 平成25年度 n=3,632、平成17年度 n=3,876)

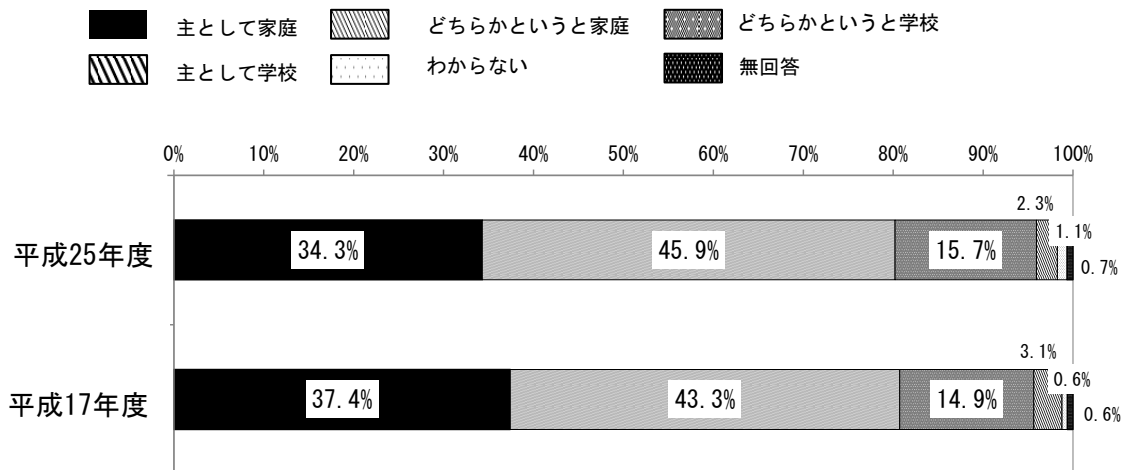


図 III-44 学校の役割・家庭の役割

③人を思いやる心(保護者 平成25年度 n=3,632、平成17年度 n=3,876)

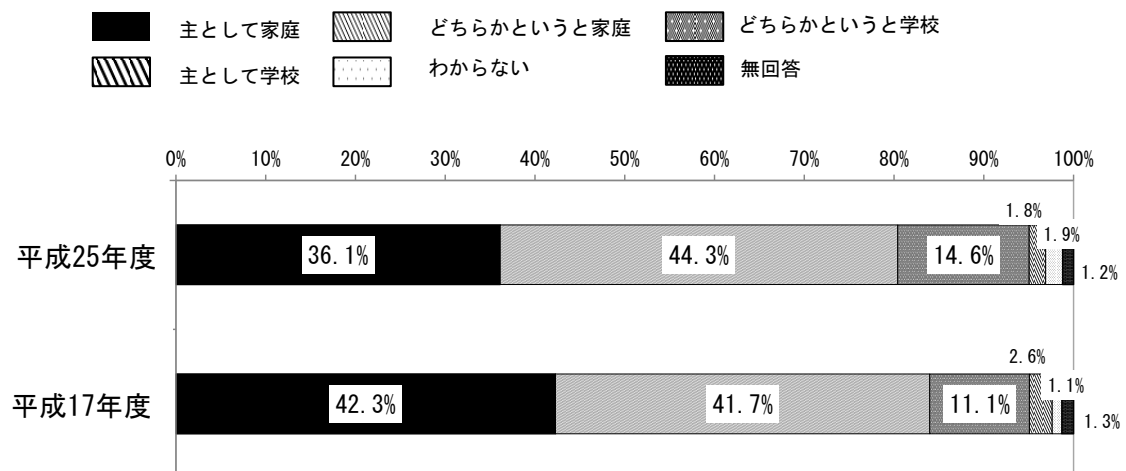


図 III-45 学校の役割・家庭の役割

④学ぶ意欲や学習の習慣(保護者 平成25年度 n=3,632、平成17年度 n=3,876)

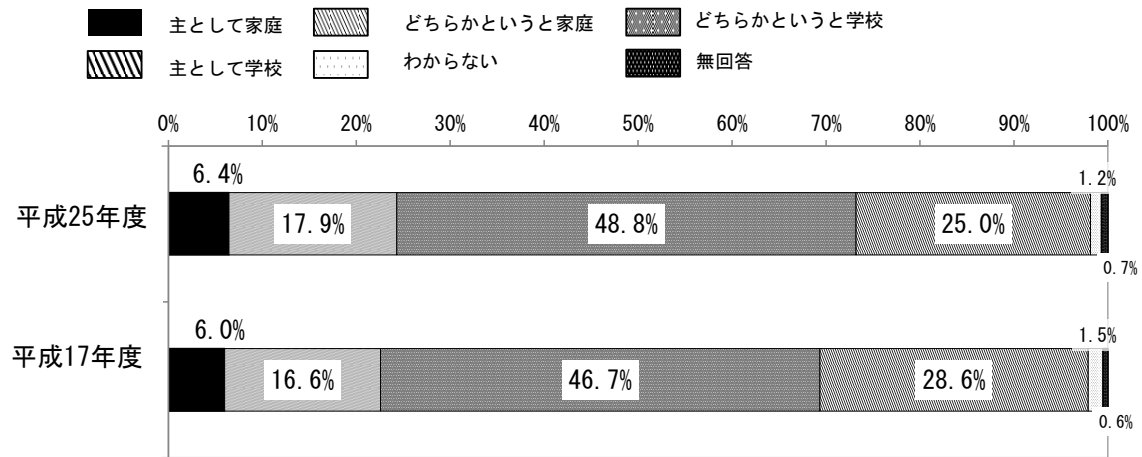


図 III-46 学校の役割・家庭の役割

⑤受験に必要な学力(保護者 平成25年度 n=3,632、平成17年度 n=3,876)

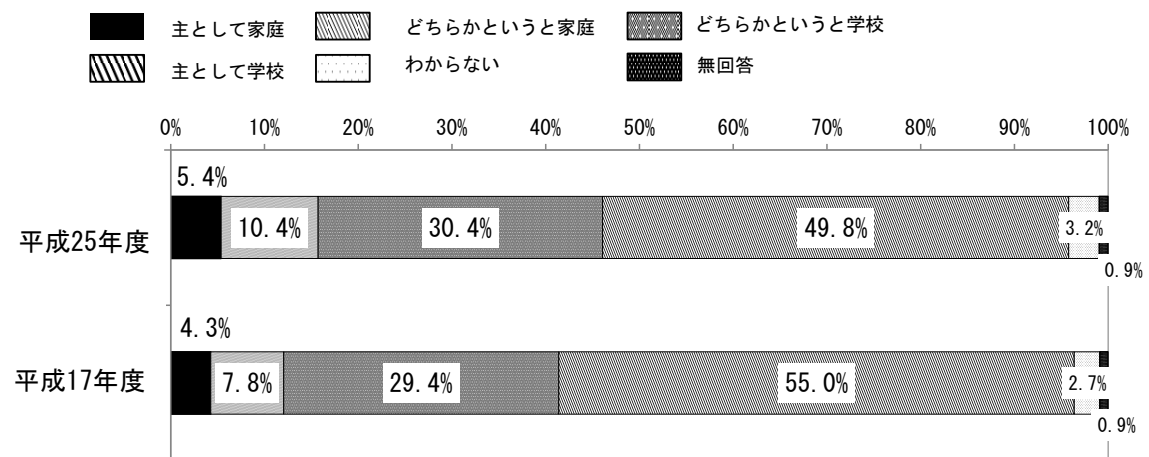


図 III-47 学校の役割・家庭の役割

⑥将来や進路について考える力(保護者 平成25年度 n=3,632、平成17年度 n=3,876)

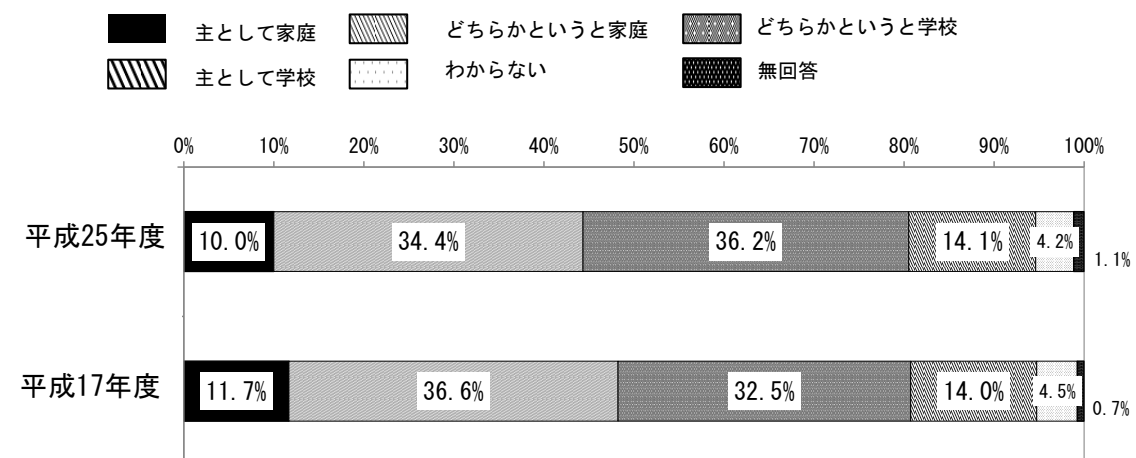


図 III-48 学校の役割・家庭の役割

⑦友だちをつくり、人間関係を築く力(保護者 平成25年度 n=3,632、平成17年度 n=3,876)

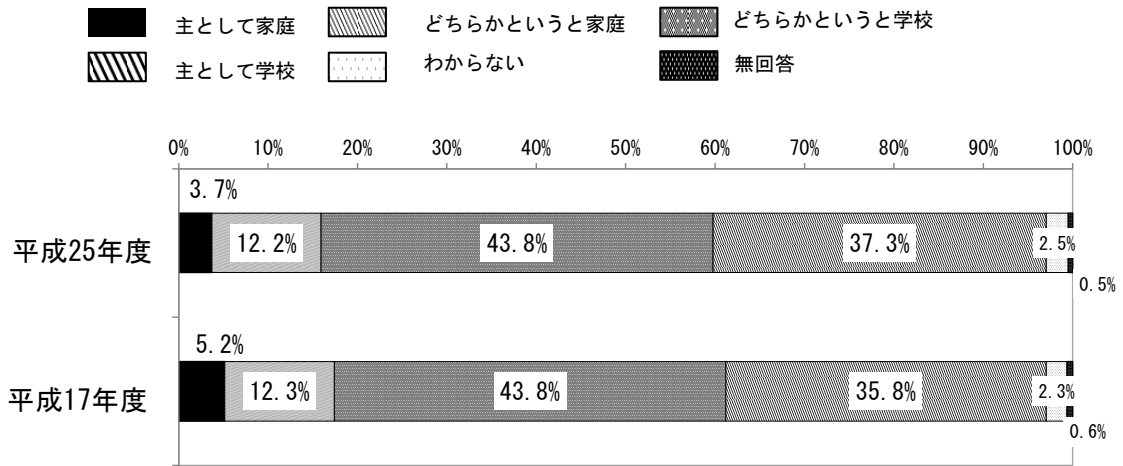


図 III-49 学校の役割・家庭の役割

⑧ものごとをやりとげるねばり強さ(保護者 平成25年度 n=3,632、平成17年度 n=3,876)

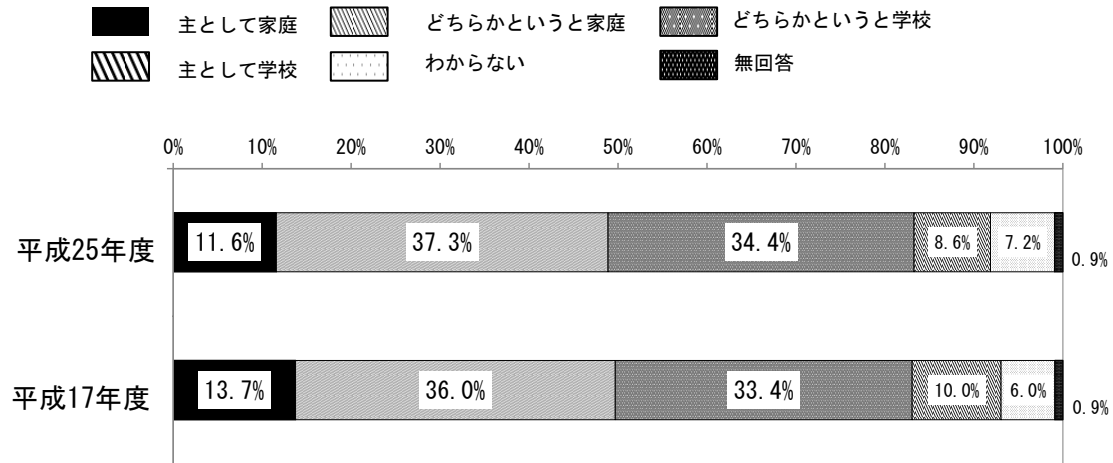


図 III-50 学校の役割・家庭の役割

⑨音楽や美術など芸術的な感性や能力(保護者 平成25年度 n=3,632、平成17年度 n=3,876)

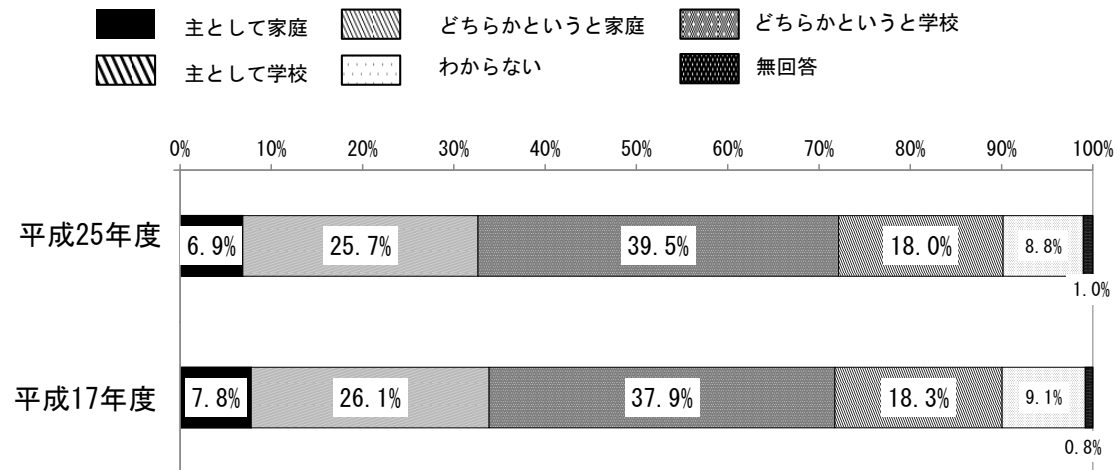


図 III-51 学校の役割・家庭の役割

⑩英会話など実践的な語学力(保護者 平成25年度 n=3,632、平成17年度 n=3,876)

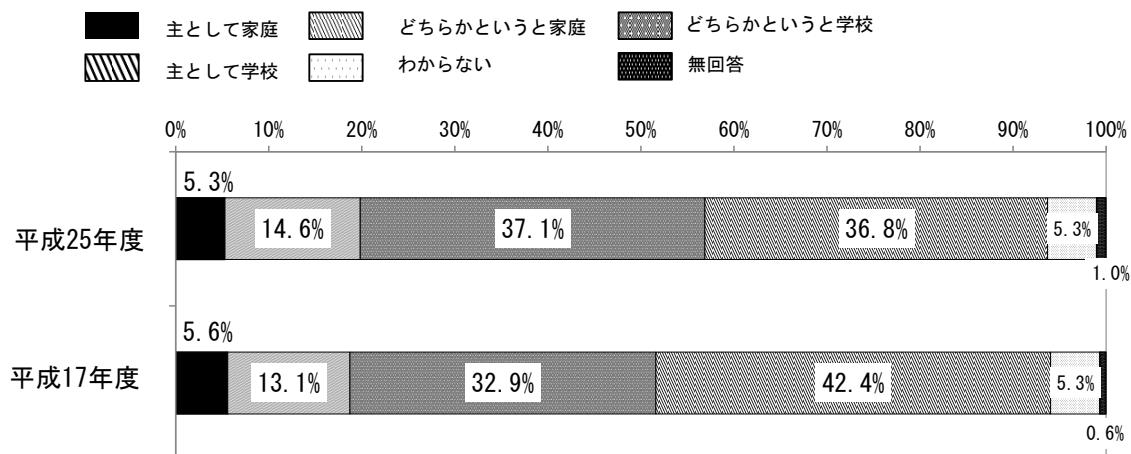


図 III-52 学校の役割・家庭の役割

⑪将来の職業に役立つ知識・技能(保護者 平成25年度 n=3,632、平成17年度 n=3,876)

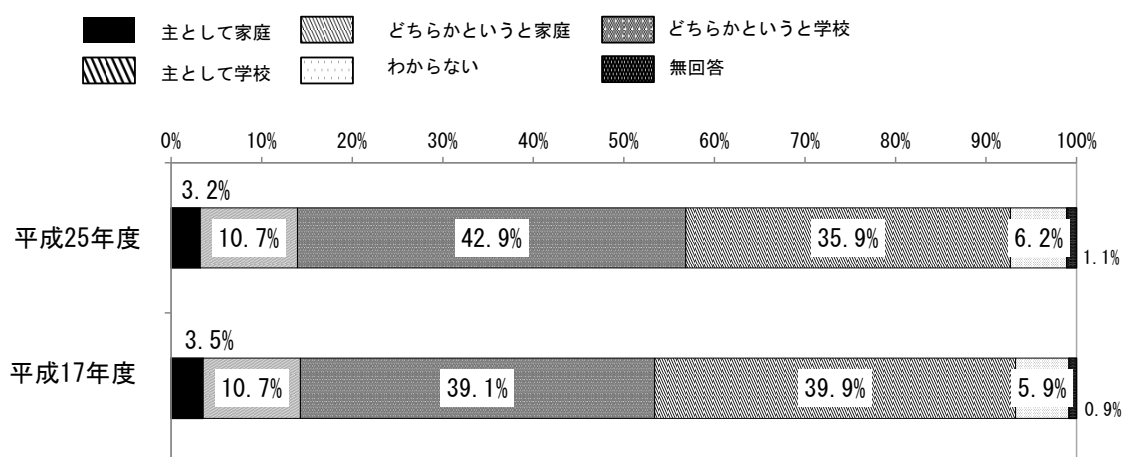


図 III-53 学校の役割・家庭の役割

⑫知識や感性・情操などを育む読書の習慣

(保護者 平成25年度 n=3,632、平成17年度 n=3,876)

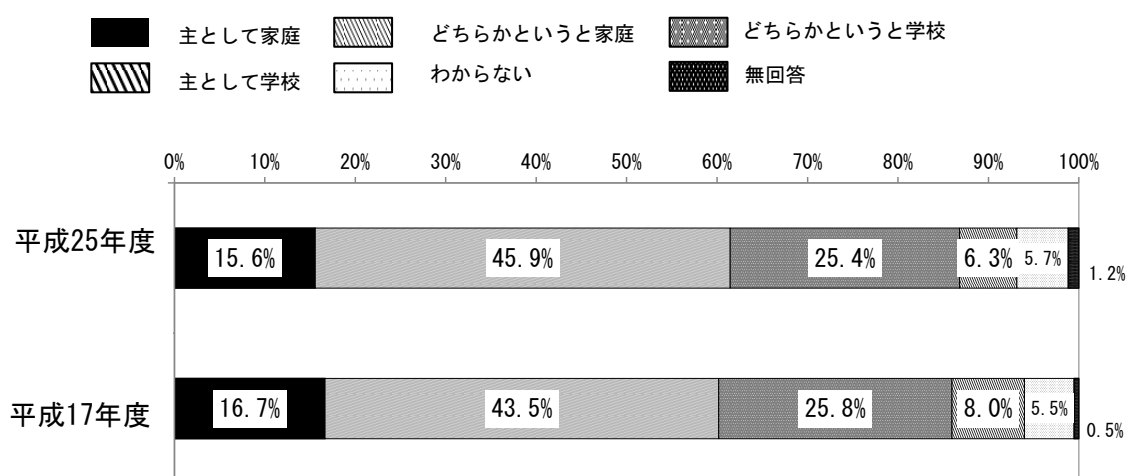


図 III-54 学校の役割・家庭の役割

⑬健康に関する知識や体力・運動能力(保護者 平成25年度 n=3,632、平成17年度 n=3,876)

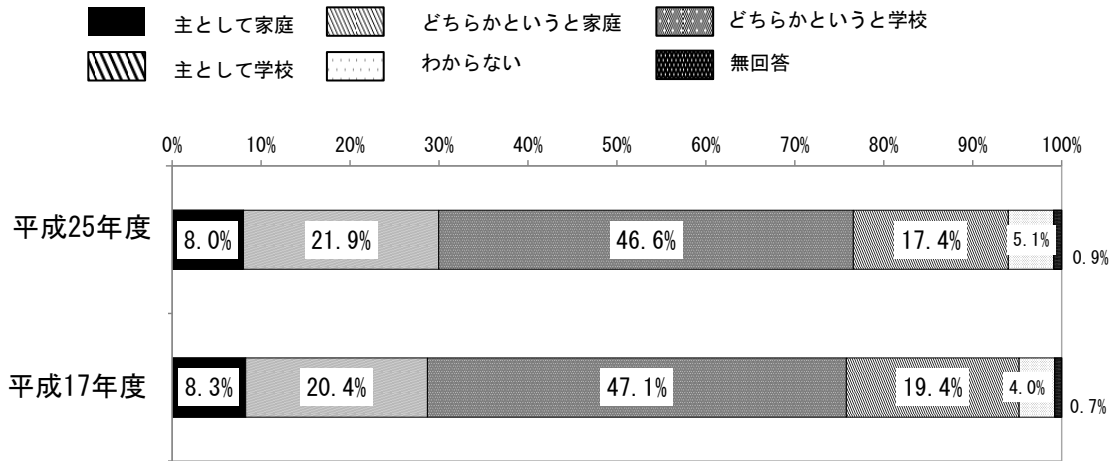


図 III-55 学校の役割・家庭の役割

①基本的な生活習慣(学校評議員 平成25年度 n=534、平成17年度 n=515)

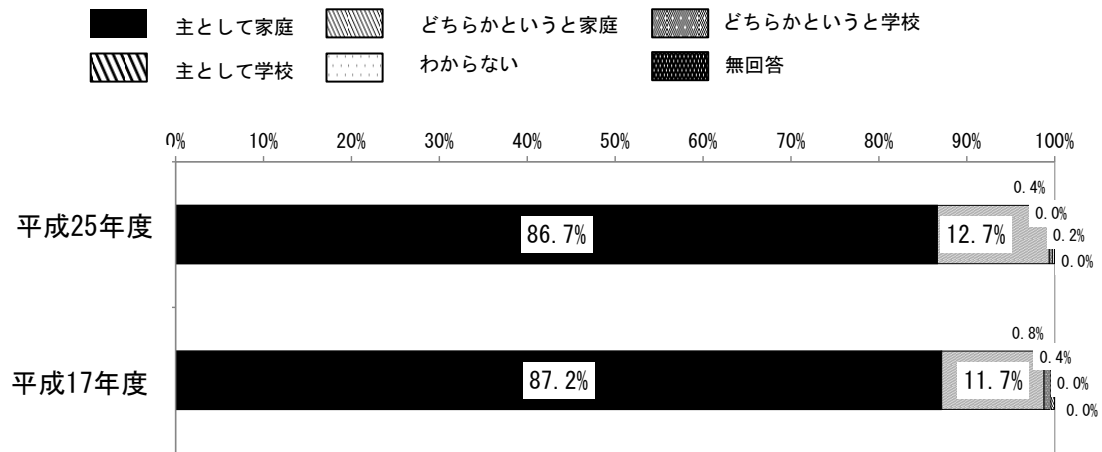


図 III-56 学校の役割・家庭の役割

②社会のルールやマナー(学校評議員 平成25年度 n=534、平成17年度 n=515)

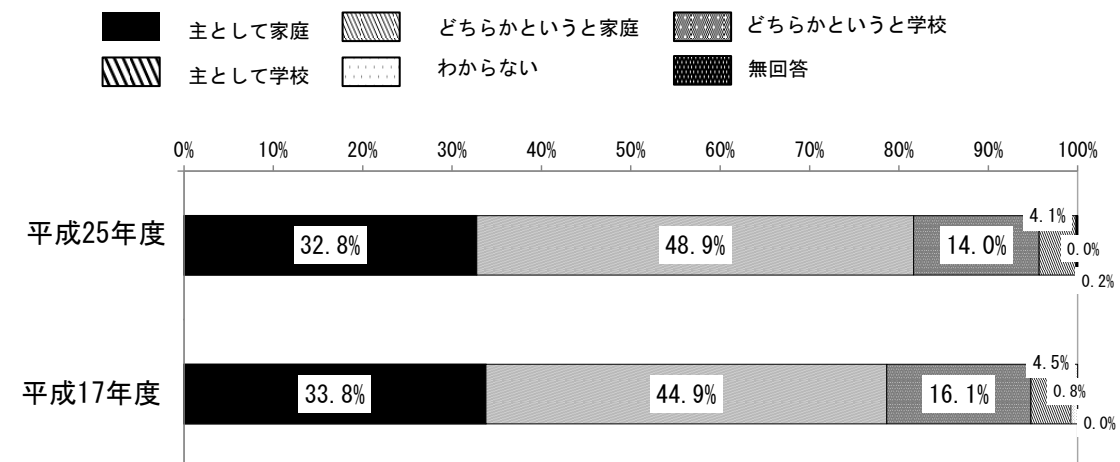


図 III-57 学校の役割・家庭の役割

③人を思いやる心(学校評議員 平成25年度 n=534、平成17年度 n=515)

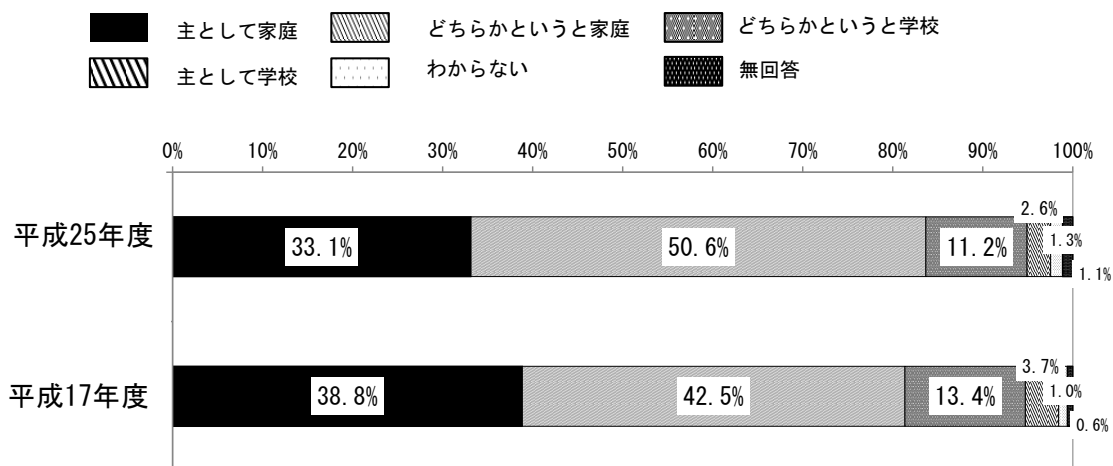


図 III-58 学校の役割・家庭の役割

④学ぶ意欲や学習の習慣(学校評議員 平成25年度 n=534、平成17年度 n=515)

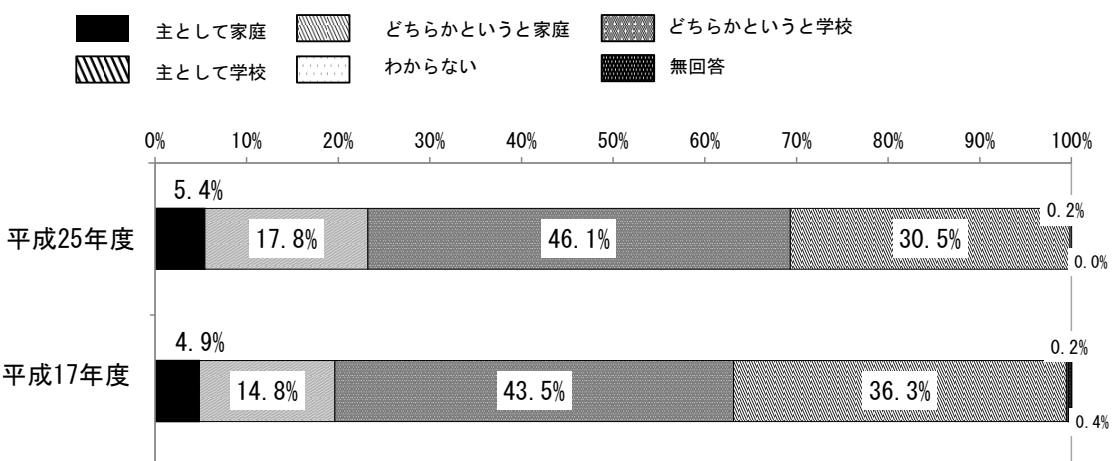


図 III-59 学校の役割・家庭の役割

⑤受験に必要な学力(学校評議員 平成25年度 n=534、平成17年度 n=515)

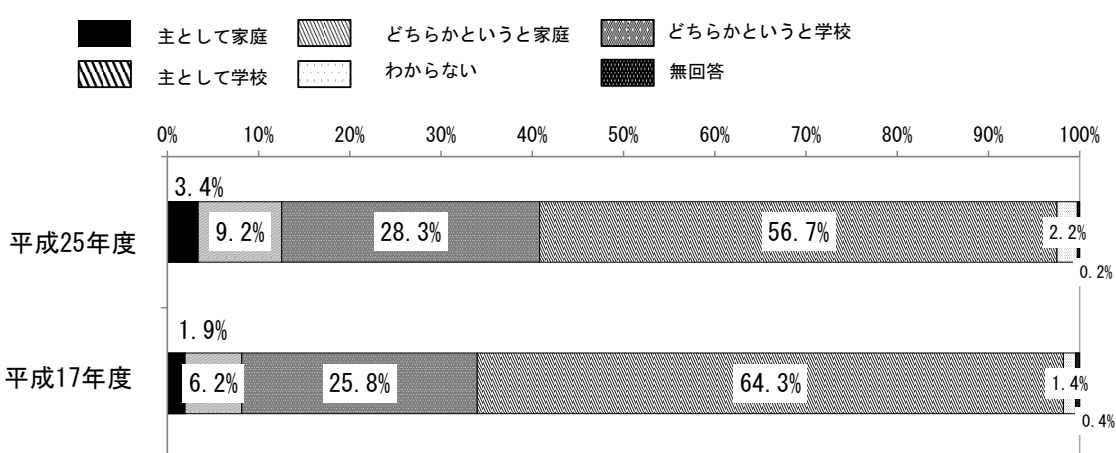


図 III-60 学校の役割・家庭の役割

⑥将来や進路について考える力(学校評議員 平成25年度 n=534、平成17年度 n=515)

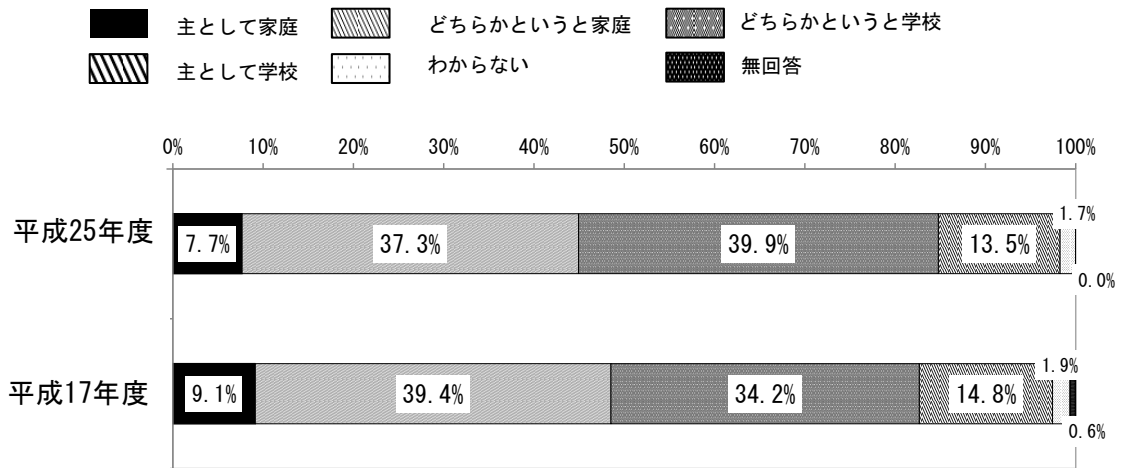


図 III-61 学校の役割・家庭の役割

⑦友だちをつくり、人間関係を築く力(学校評議員 平成25年度 n=534、平成17年度 n=515)

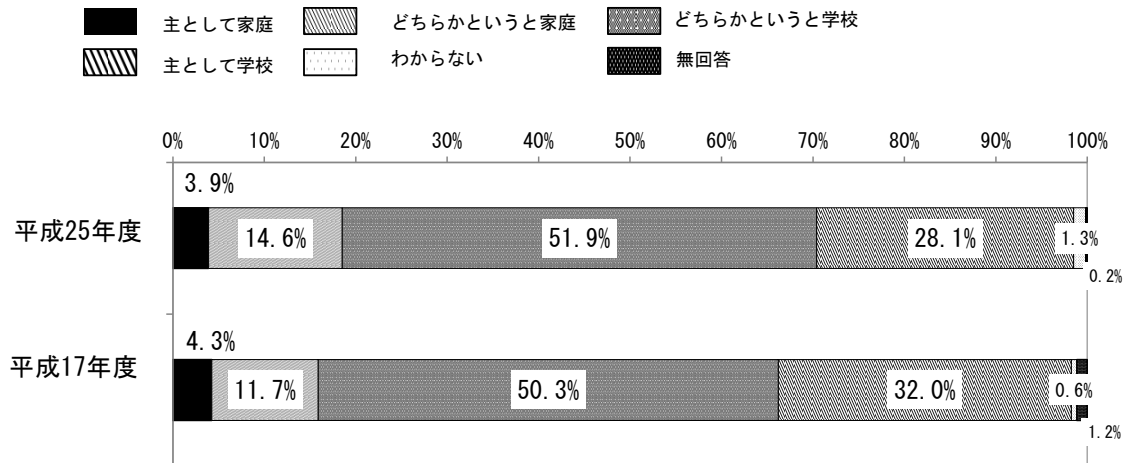


図 III-62 学校の役割・家庭の役割

⑧ものごとをやりとげるねばり強さ(学校評議員 平成25年度 n=534、平成17年度 n=515)

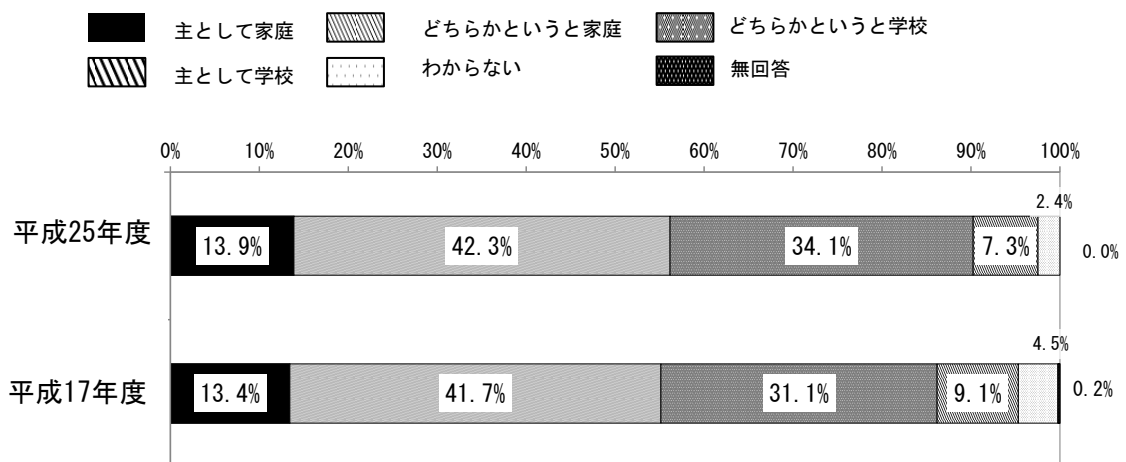


図 III-63 学校の役割・家庭の役割

⑨音楽や美術など芸術的な感性や能力(学校評議員 平成25年度n=534、平成17年度n=515)

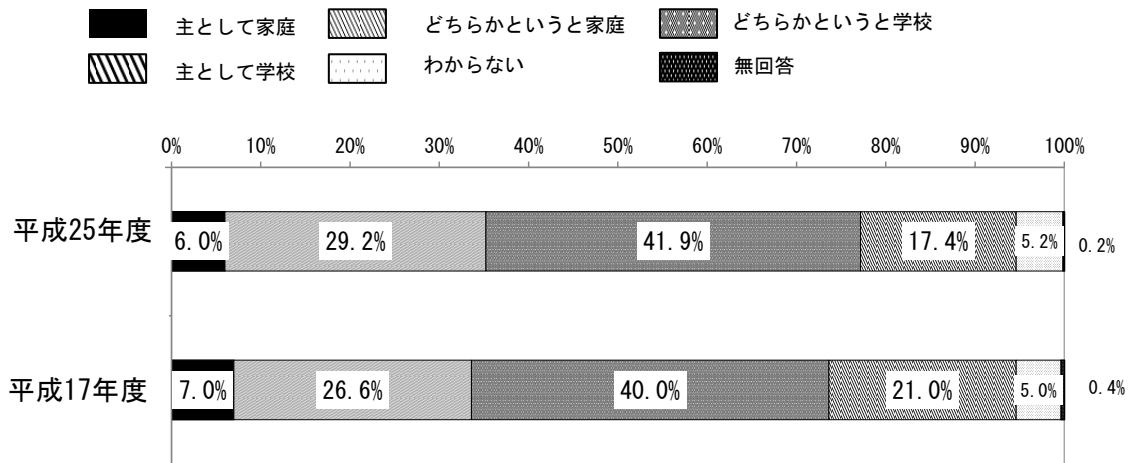


図 III-64 学校の役割・家庭の役割

⑩英会話など実践的な語学力(学校評議員 平成25年度n=534、平成17年度n=515)

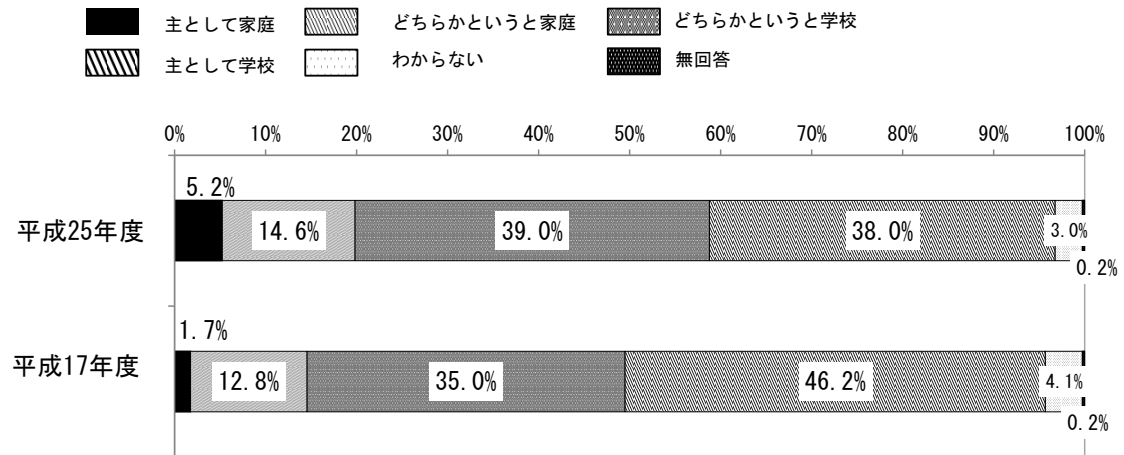


図 III-65 学校の役割・家庭の役割

⑪将来の職業に役立つ知識・技能(学校評議員 平成25年度n=534、平成17年度n=515)

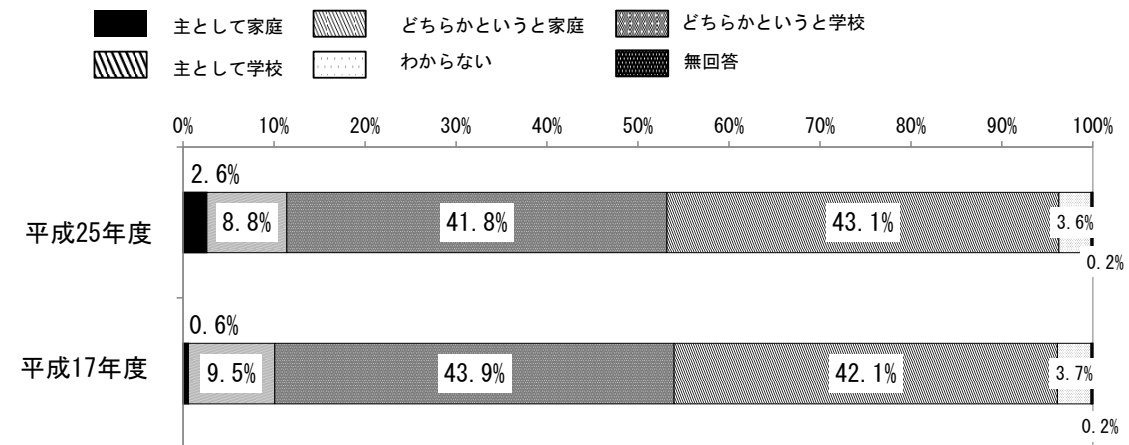


図 III-66 学校の役割・家庭の役割

⑫知識や感性・情操などを育む読書の習慣

(学校評議員 平成 25 年度 n=534、平成 17 年度 n=515)

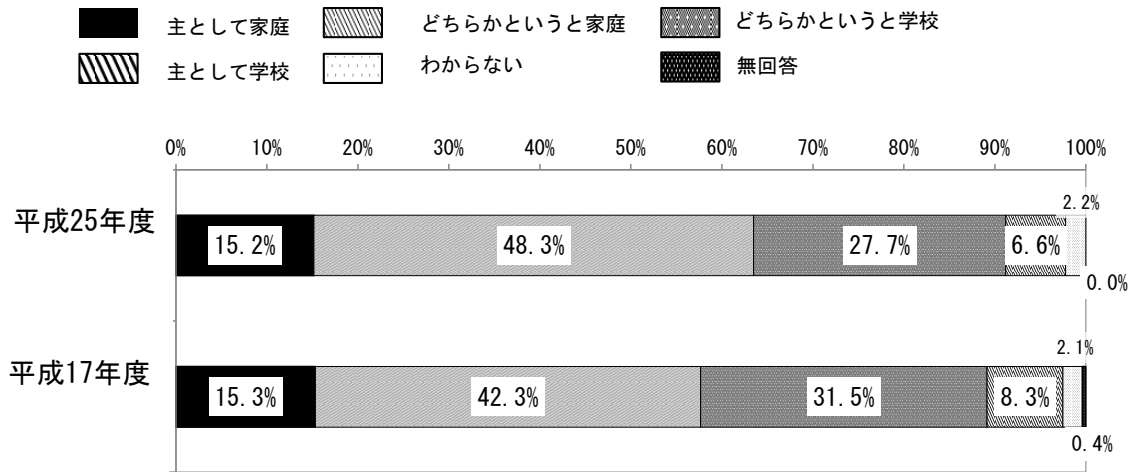


図 III-67 学校の役割・家庭の役割

⑬健康に関する知識や体力・運動能力(学校評議員 平成 25 年度 n=534、平成 17 年度 n=515)

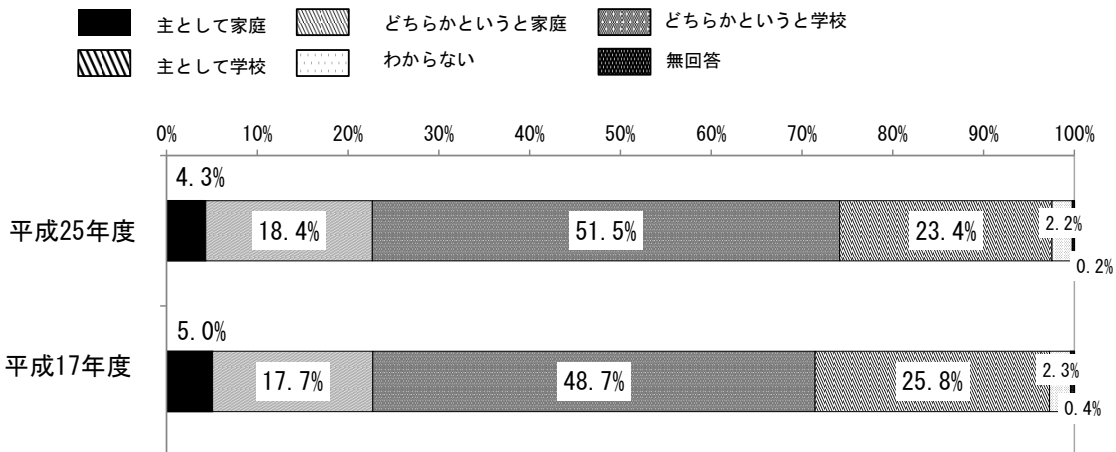


図 III-68 学校の役割・家庭の役割

①基本的な生活習慣(一般県民 平成 25 年度 n=1, 233、平成 17 年度 n=1, 530)

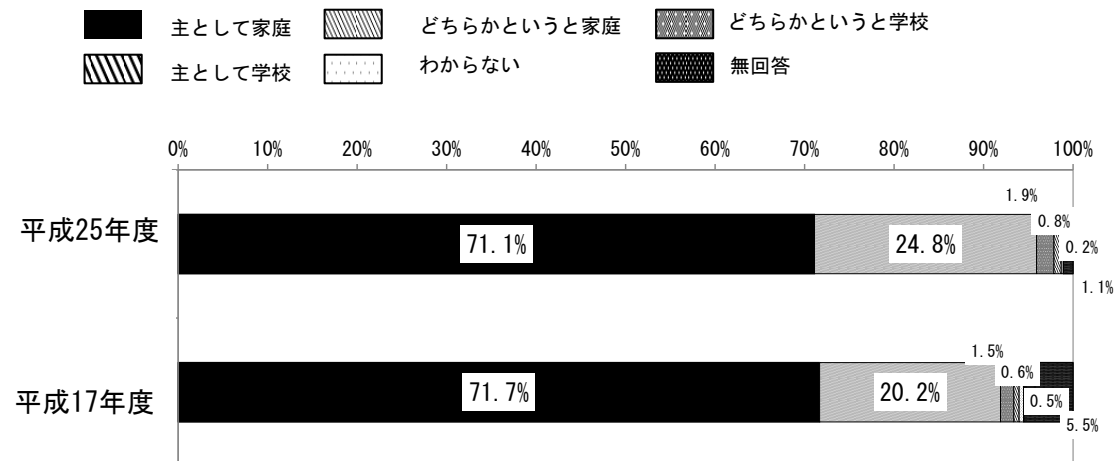


図 III-69 学校の役割・家庭の役割

②社会のルールやマナー(一般県民 平成25年度 n=1,233、平成17年度 n=1,530)

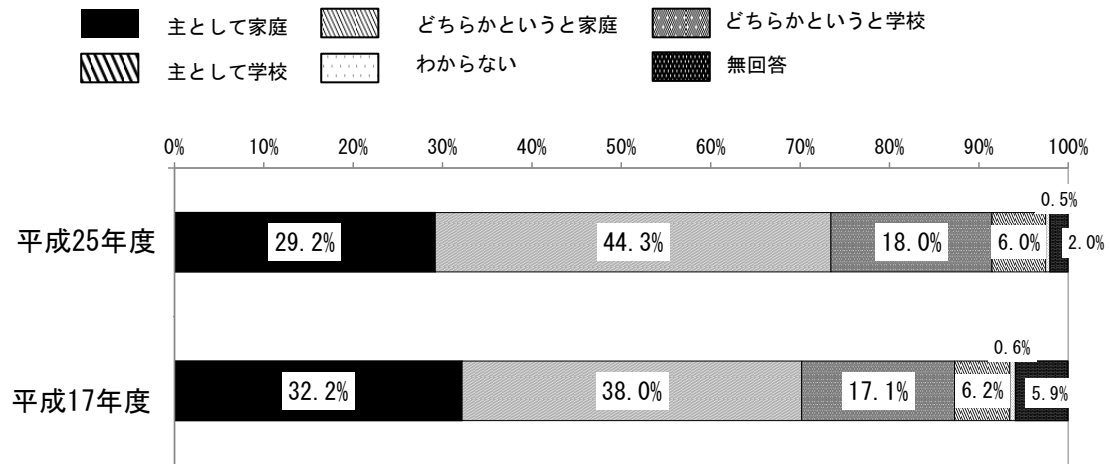


図 III-70 学校の役割・家庭の役割

③人を思いやる心(一般県民 平成25年度 n=1,233、平成17年度 n=1,530)

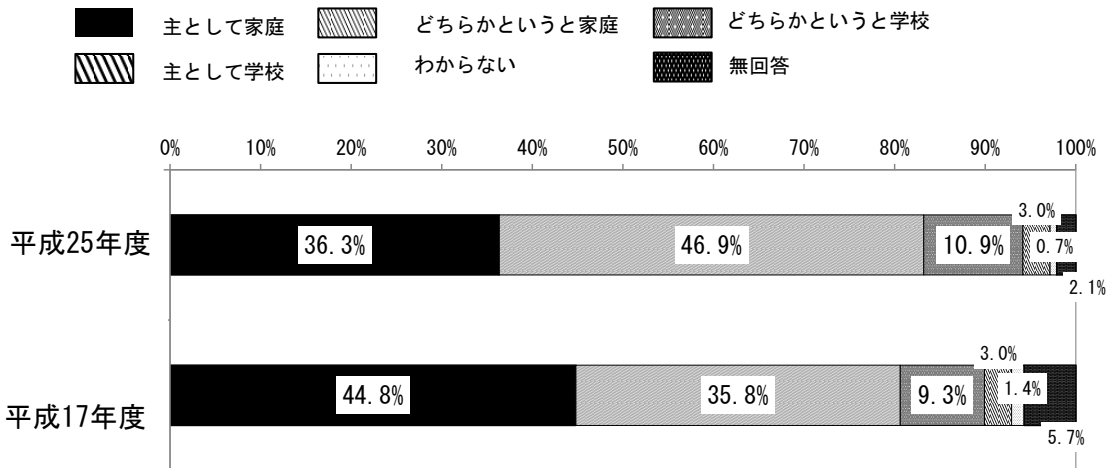


図 III-71 学校の役割・家庭の役割

④学ぶ意欲や学習の習慣(一般県民 平成25年度 n=1,233、平成17年度 n=1,530)

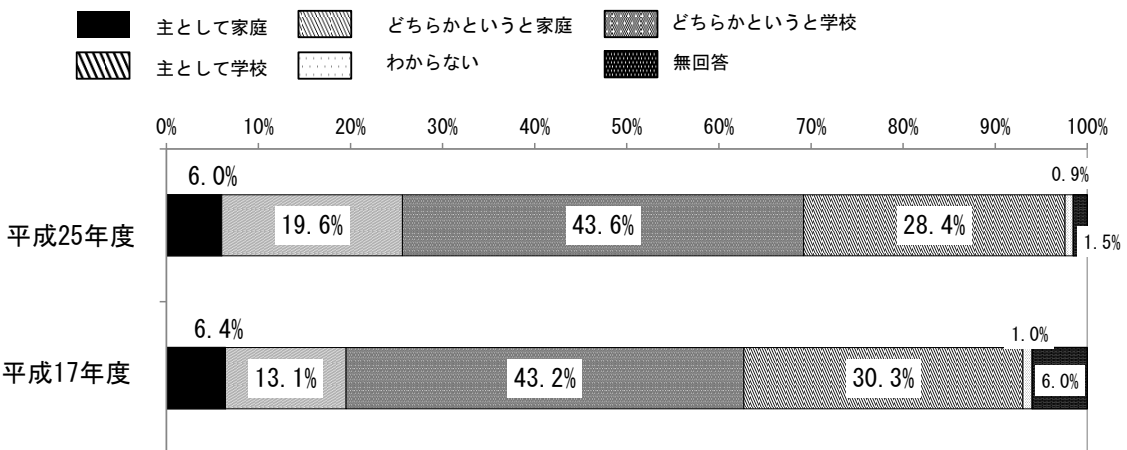


図 III-72 学校の役割・家庭の役割

⑤受験に必要な学力(一般県民 平成25年度 n=1,233、平成17年度 n=1,530)

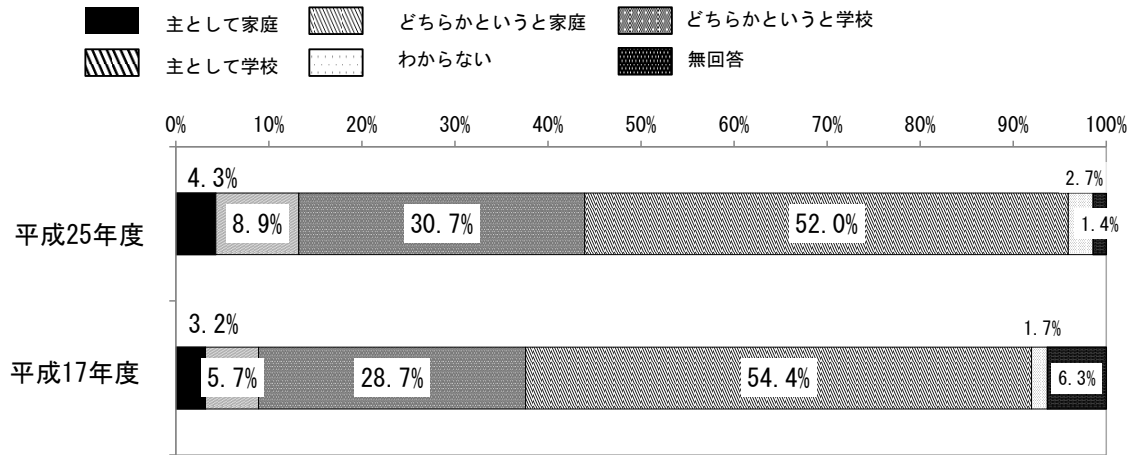


図 III-73 学校の役割・家庭の役割

⑥将来や進路について考える力(一般県民 平成25年度 n=1,233、平成17年度 n=1,530)

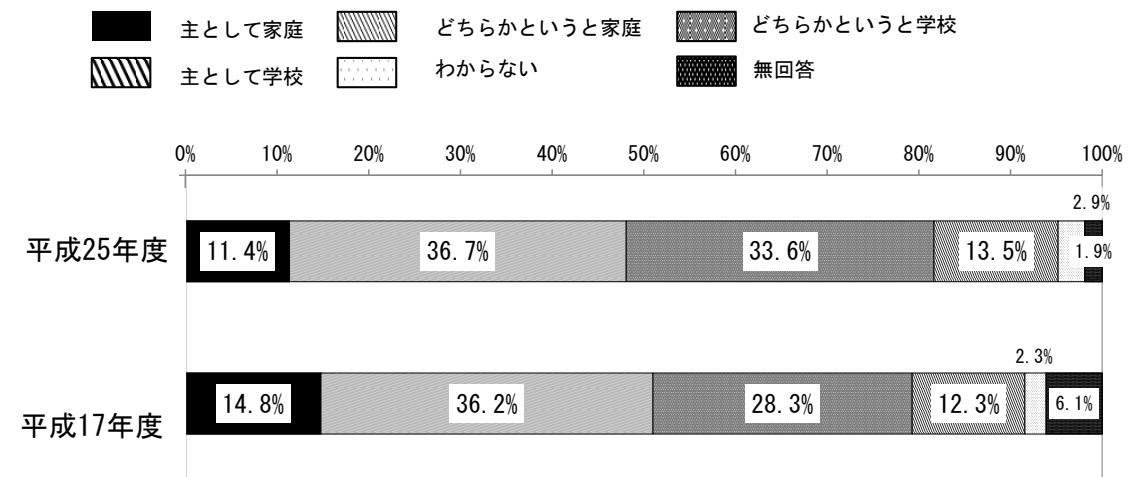


図 III-74 学校の役割・家庭の役割

⑦友だちをつくり、人間関係を築く力(一般県民 平成25年度 n=1,233、平成17年度 n=1,530)

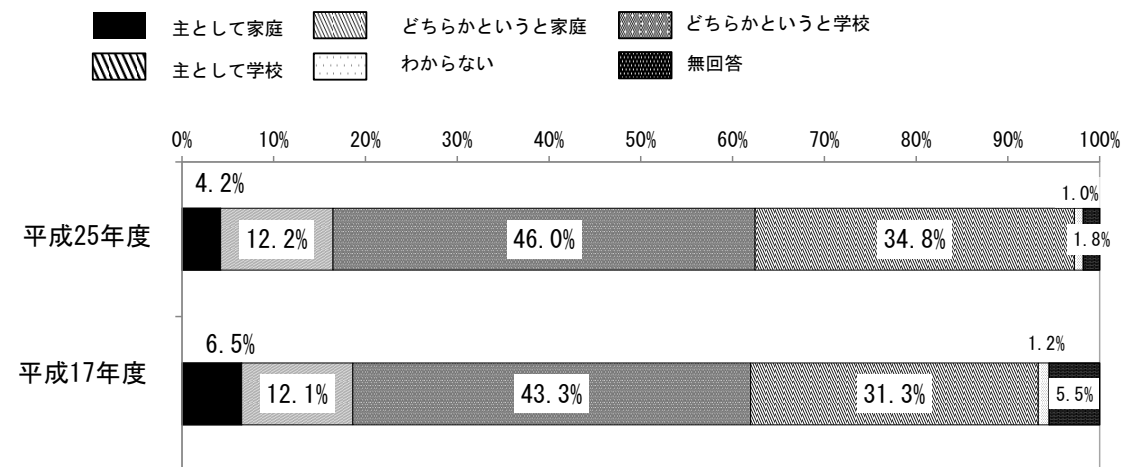


図 III-75 学校の役割・家庭の役割

⑧ものごとをやりとげるねばり強さ(一般県民 平成25年度n=1,233、平成17年度n=1,530)

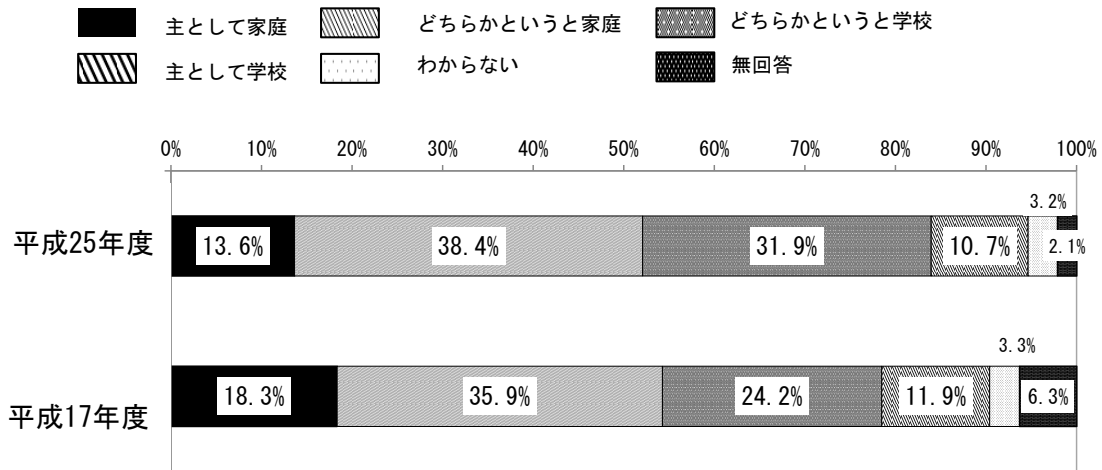


図 III-76 学校の役割・家庭の役割

⑨音楽や美術など芸術的な感性や能力

(一般県民 平成25年度n=1,233、平成17年度n=1,530)

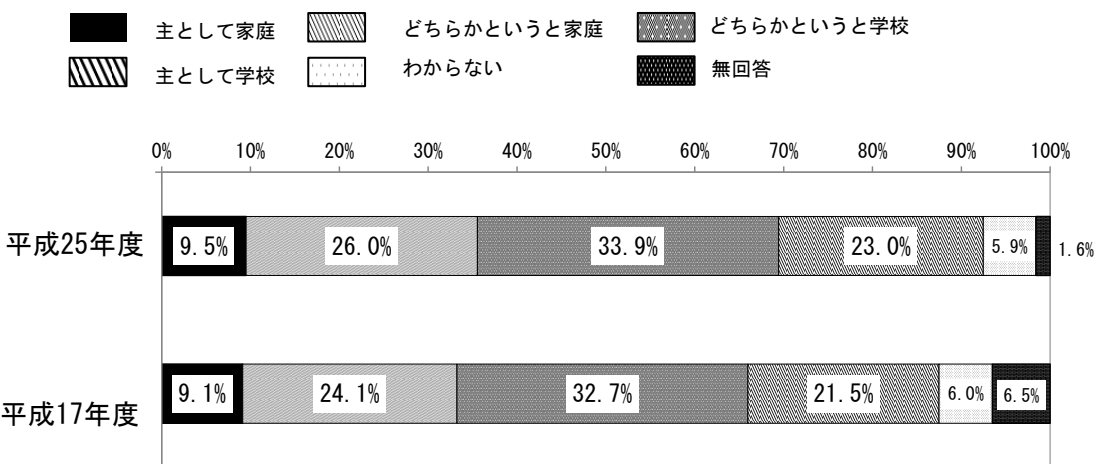


図 III-77 学校の役割・家庭の役割

⑩英会話など実践的な語学力(一般県民 平成25年度n=1,233、平成17年度n=1,530)

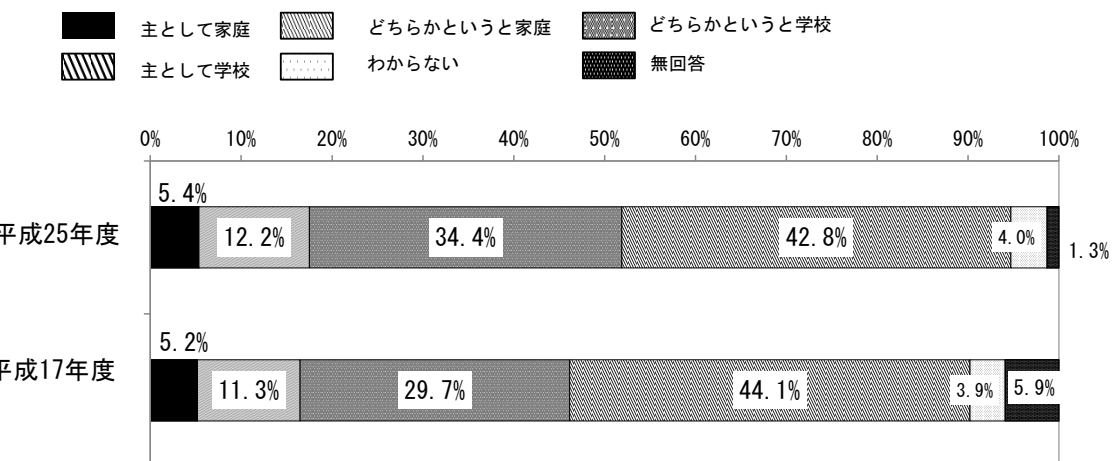
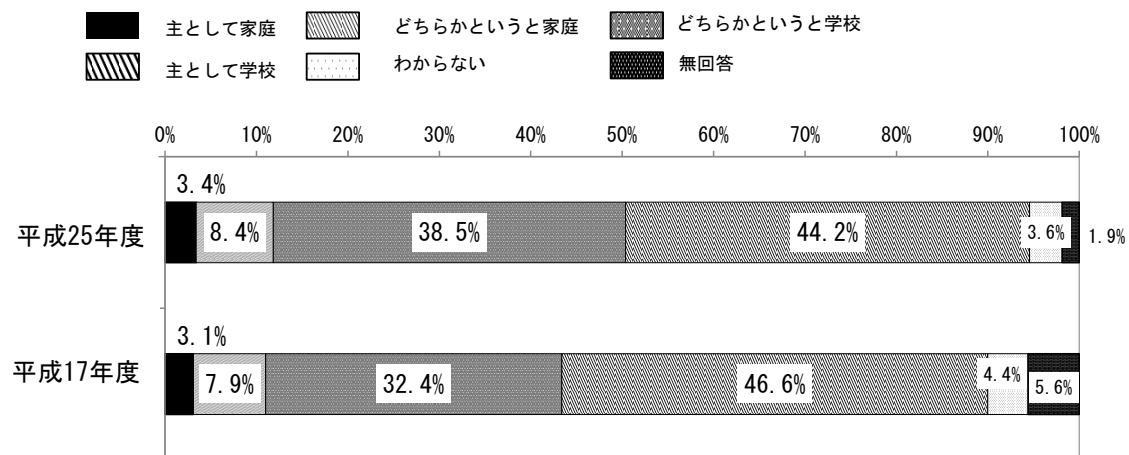


図 III-78 学校の役割・家庭の役割

⑪将来の職業に役立つ知識・技能(一般県民 平成25年度 n=1,233、平成17年度 n=1,530)



III-3 子どもとのコミュニケーション

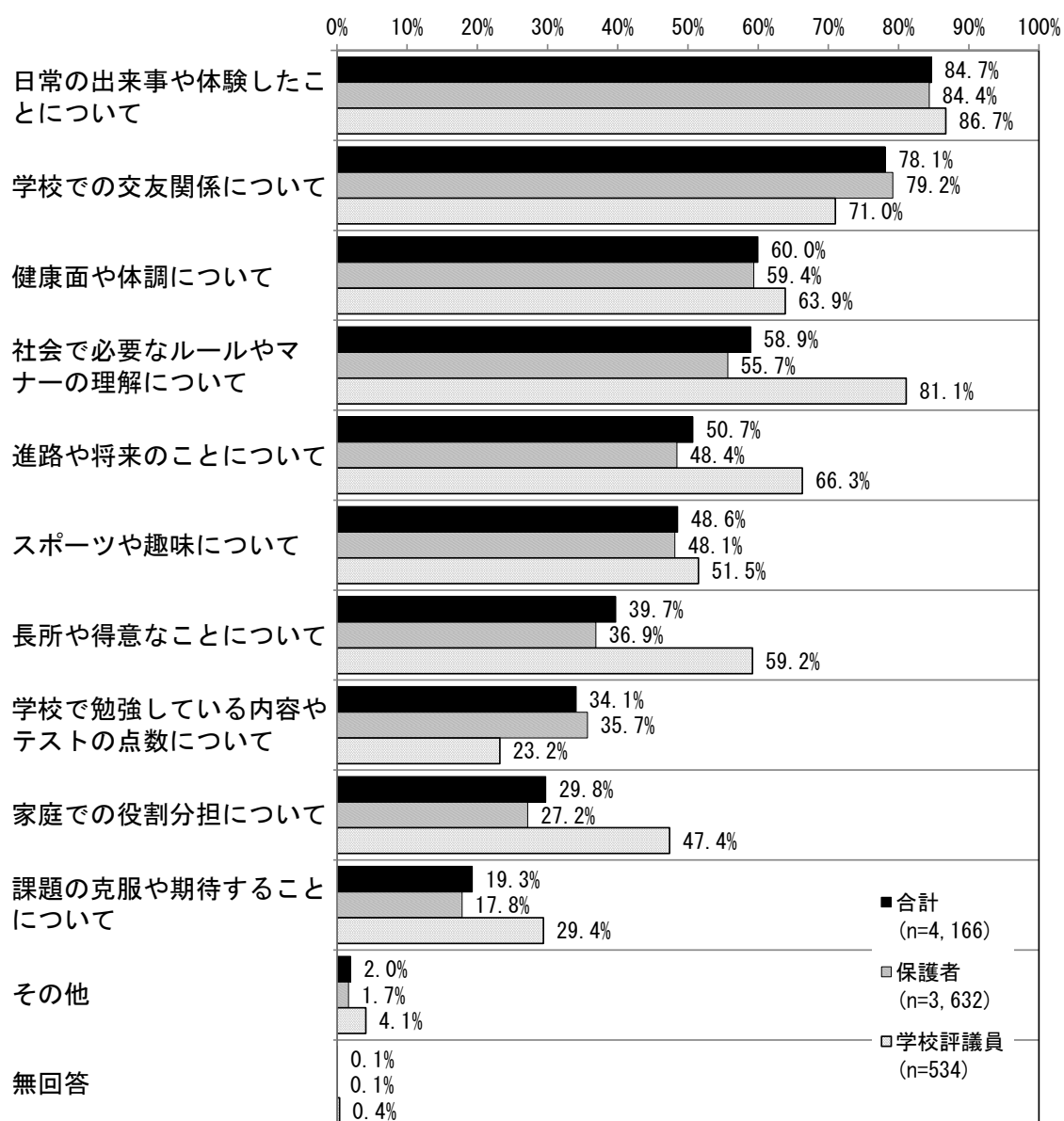
保護者、学校評議員に対して、「子どもとのコミュニケーションで大切な話題は何か」を聞いたところ、保護者では「日常の出来事や体験したことについて」、「学校での交友関係について」、「健康面や体調について」、学校評議員では「日常の出来事や体験したことについて」、「社会で必要なルールやマナーの理解について」、「学校での交友関係について」との回答の割合が高かった。

『子どもとのコミュニケーション』について保護者と学校評議員に聞いたところ、保護者では、「日常の出来事や体験したことについて」(84.4%)、「学校での交友関係について」(79.2%)、「健康面や体調について」(59.4%)、学校評議員では、「日常の出来事や体験したことについて」(86.7%)、「社会で必要なルールやマナーの理解について」(81.1%)、「学校での交友関係について」(71.0%)との回答の割合が高かった。(表III-3、図III-79 参照)

表 III-3 子どもとのコミュニケーション(上位5項目)

	保護者	学校評議員
1位	日常の出来事や体験したことについて 84.4%	日常の出来事や体験したことについて 86.7%
2位	学校での交友関係について 79.2%	社会で必要なルールやマナーの理解について 81.1%
3位	健康面や体調について 59.4%	学校での交友関係について 71.0%
4位	社会で必要なルールやマナーの理解について 55.7%	進路や将来のことについて 66.3%
5位	進路や将来のことについて 48.4%	健康面や体調について 63.9%

図 III-79 子どもとのコミュニケーション(保護者、学校評議員)



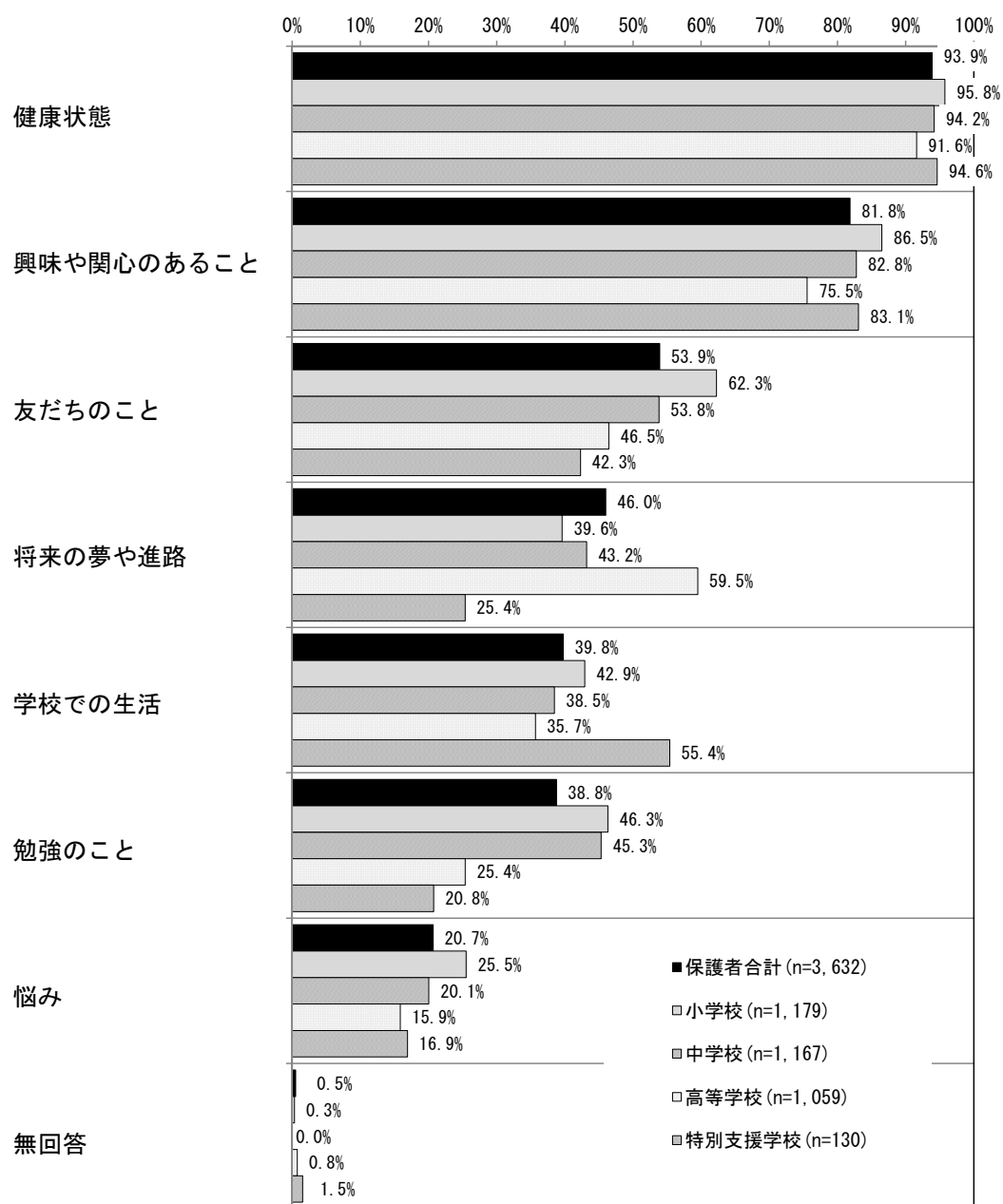
III - 4 自分の子をどのくらい把握しているか

保護者に「自分の子をどのくらい把握しているか」を聞いたところ、子どもの校種にかかわらず「健康状態」、次いで「興味や関心のあること」との回答の割合が高かった。さらに、小中学校の保護者では「友だちのこと」、高等学校の保護者では「将来の夢や進路」、特別支援学校の保護者では「学校での生活」の割合が高かった。

平成 17 年度調査結果と比較すると、いずれの調査においても、またどの校種の保護者においても、割合が最も高かった回答は「健康状態」であり、その割合は小学校保護者の回答は平成 25 年度調査では 95.8%、平成 17 年度調査では 97.2%である。中学校保護者の回答は平成 25 年度調査では 94.2%、平成 17 年度調査では 95.5%、高等学校保護者の回答は平成 25 年度調査では 91.6%、平成 17 年度調査では 95.5%であり、特別支援学校保護者の回答は平成 25 年度調査では 94.6%、平成 17 年度調査では 94.3%であった。

『自分の子をどのくらい把握しているか』を保護者に聞いたところ、「健康状態」（小学校：95.8%、中学校：94.2%、高等学校：91.6%、特別支援学校：94.6%）との回答が最も高い割合となっており、次に回答の割合が高いのは「興味や関心のあること」（小学校：86.5%、中学校：82.8%、高等学校：75.5%、特別支援学校：83.1%）となっている。さらに、小中学校の保護者では「友だちのこと」（小学校：62.3%、中学校：53.8%）、高等学校の保護者では「将来の夢や進路」（59.5%）、特別支援学校の保護者では「学校での生活」（55.4%）が続いている。（図Ⅲ-80 参照）

図 III-80 自分の子をどのくらい把握しているか(保護者)



『自分の子をどのくらい把握しているか』について、回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、小学校保護者の回答は平成 25 年度調査では「健康状態」(95.8%)、「興味や関心のあること」(86.5%)、「友だちのこと」(62.3%)であり、平成 17 年度調査では「健康状態」(97.2%)、「興味や関心のあること」(88.2%)、「友だちのこと」(62.7%)であった。中学校保護者の回答は平成 25 年度調査では「健康状態」(94.2%)、「興味や関心のあること」(82.8%)、「友だちのこと」(53.8%)であり、平成 17 年度調査では「健康状態」(95.5%)、「興味や関心のあること」(81.1%)、「友だちのこと」(50.9%)であった。高等学校保護者の回答は平成 25 年度調査では「健康状態」(91.6%)、「興味や関心のあること」(75.5%)、「将来の夢や進路」(59.5%)であり、平成 17 年度調査では「健康状態」(95.5%)、「興味や関心のあること」(77.1%)、「将来の夢や進路」(57.7%)であった。特別支援学校保護者の回答は平成 25 年度調査では「健康状態」(94.6%)、「興味や関心のあること」(83.1%)、「学校での生活」(55.4%)であり、平成 17 年度調査では「健康状態」(94.3%)、「興味や関心のあること」(77.4%)、「学校での生活」(47.2%)であった。(図Ⅲ-81～85 参照)

図 III-81 自分の子をどのくらい把握しているか(保護者合計)

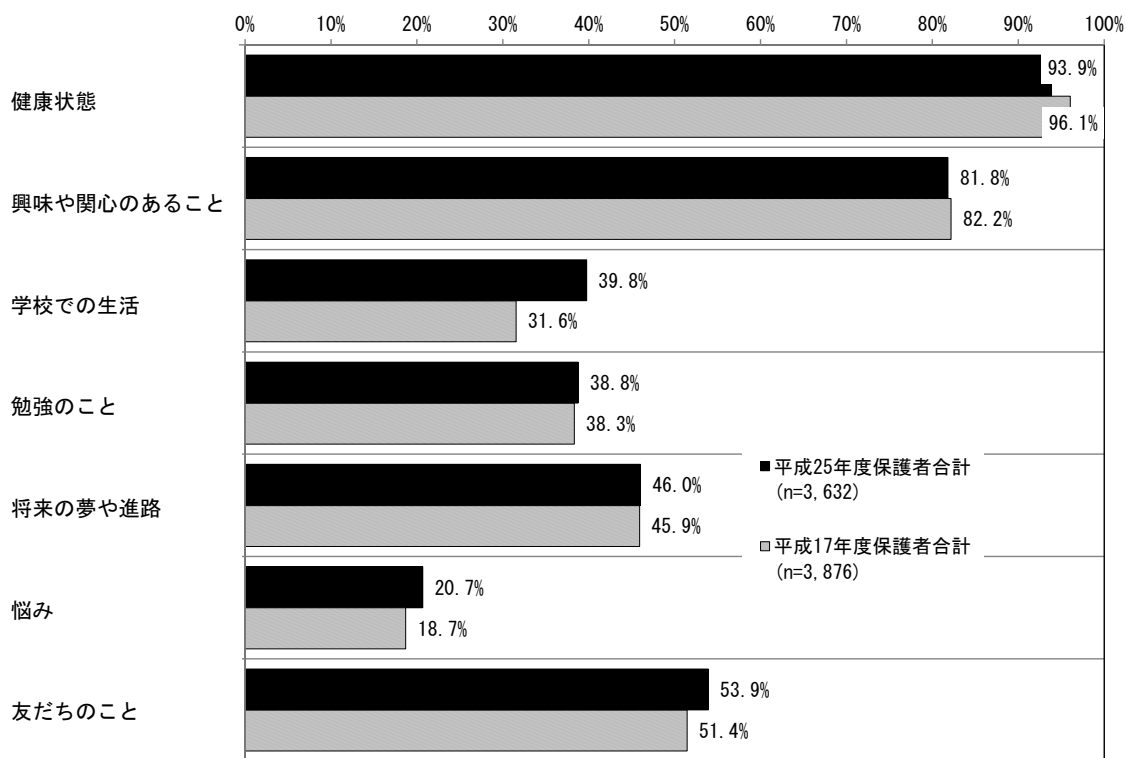


図 III-82 自分の子をどのくらい把握しているか(保護者：小学校)

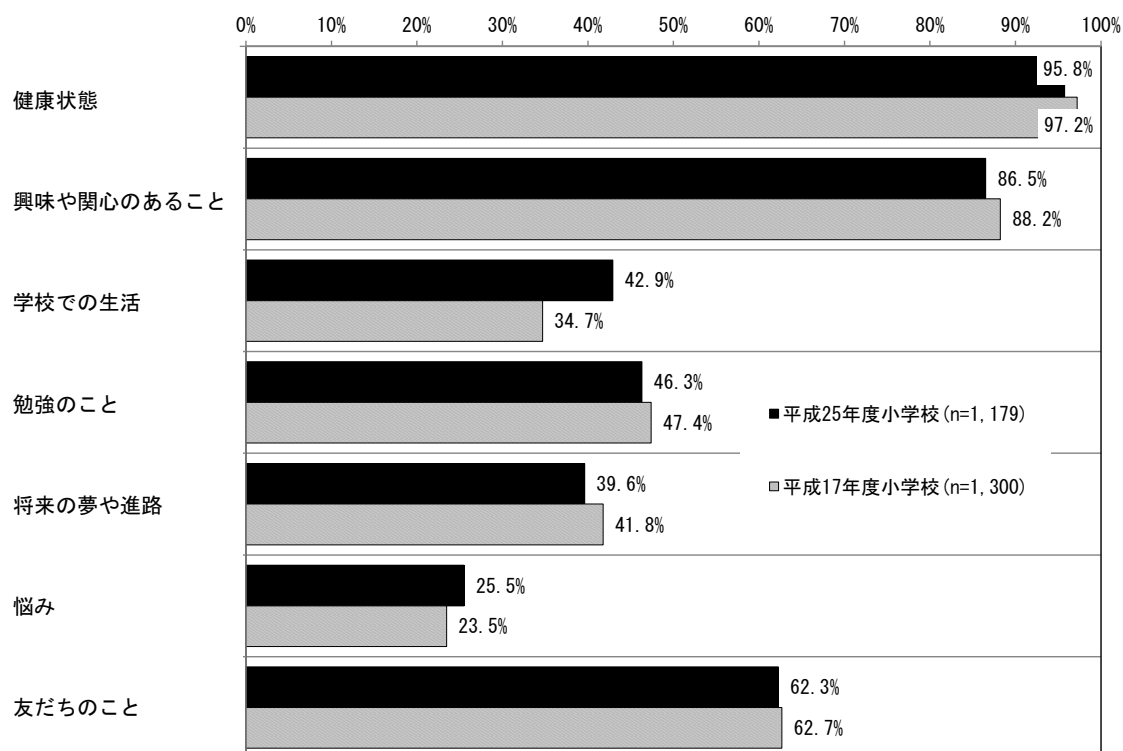


図 III-83 自分の子をどのくらい把握しているか(保護者：中学校)

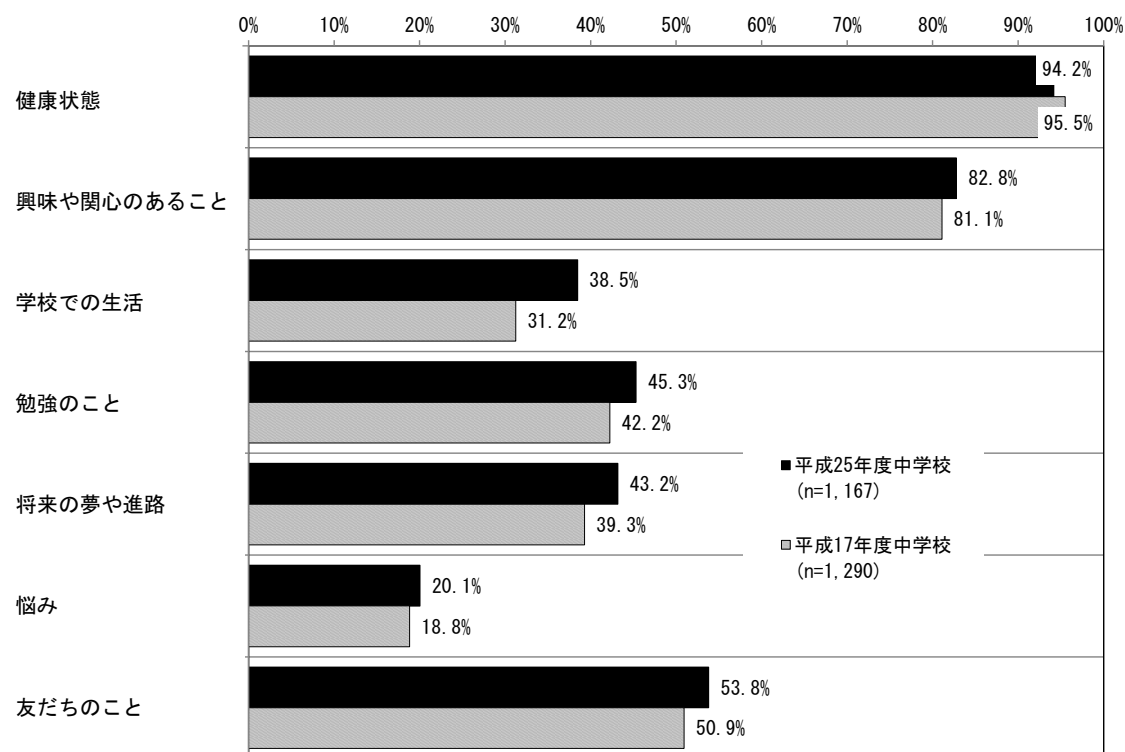


図 III-84 自分の子をどのくらい把握しているか(保護者：高等学校)

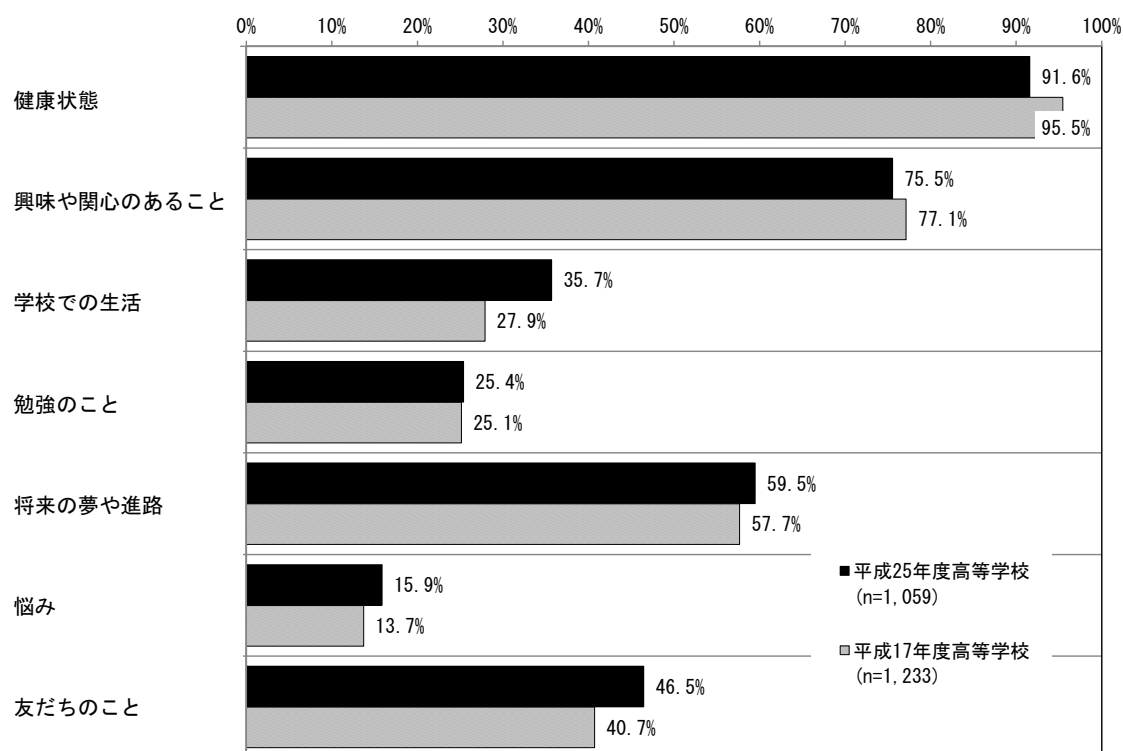
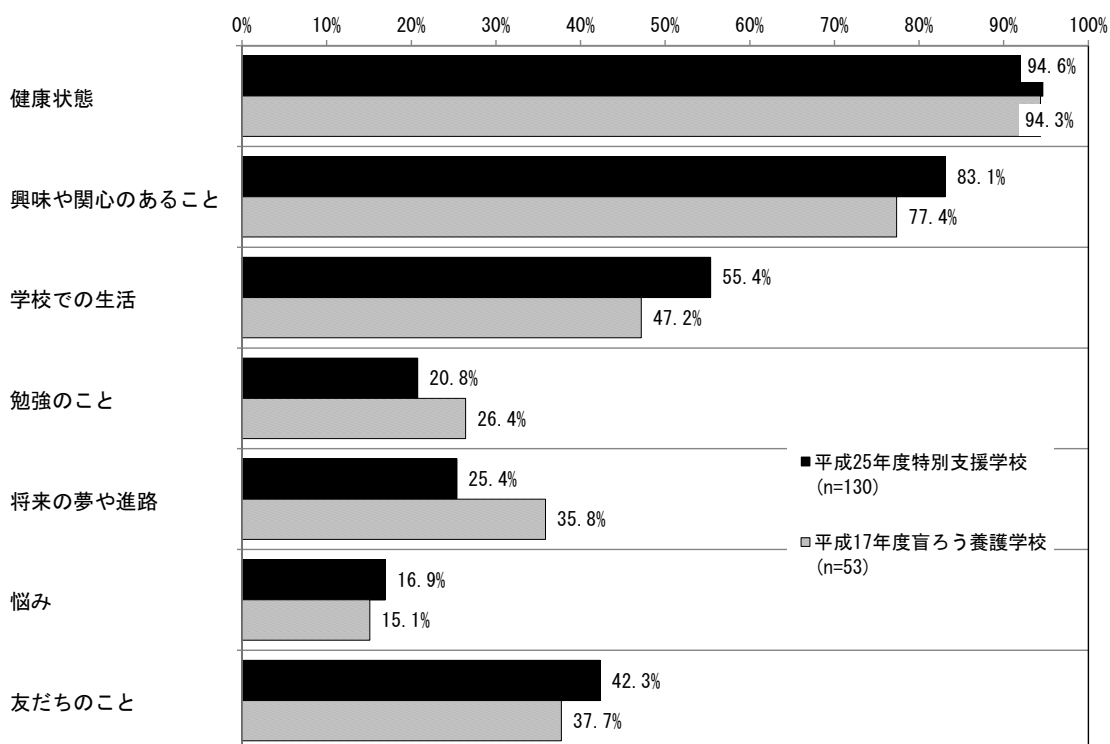


図 III-85 自分の子をどのくらい把握しているか(保護者：特別支援学校)



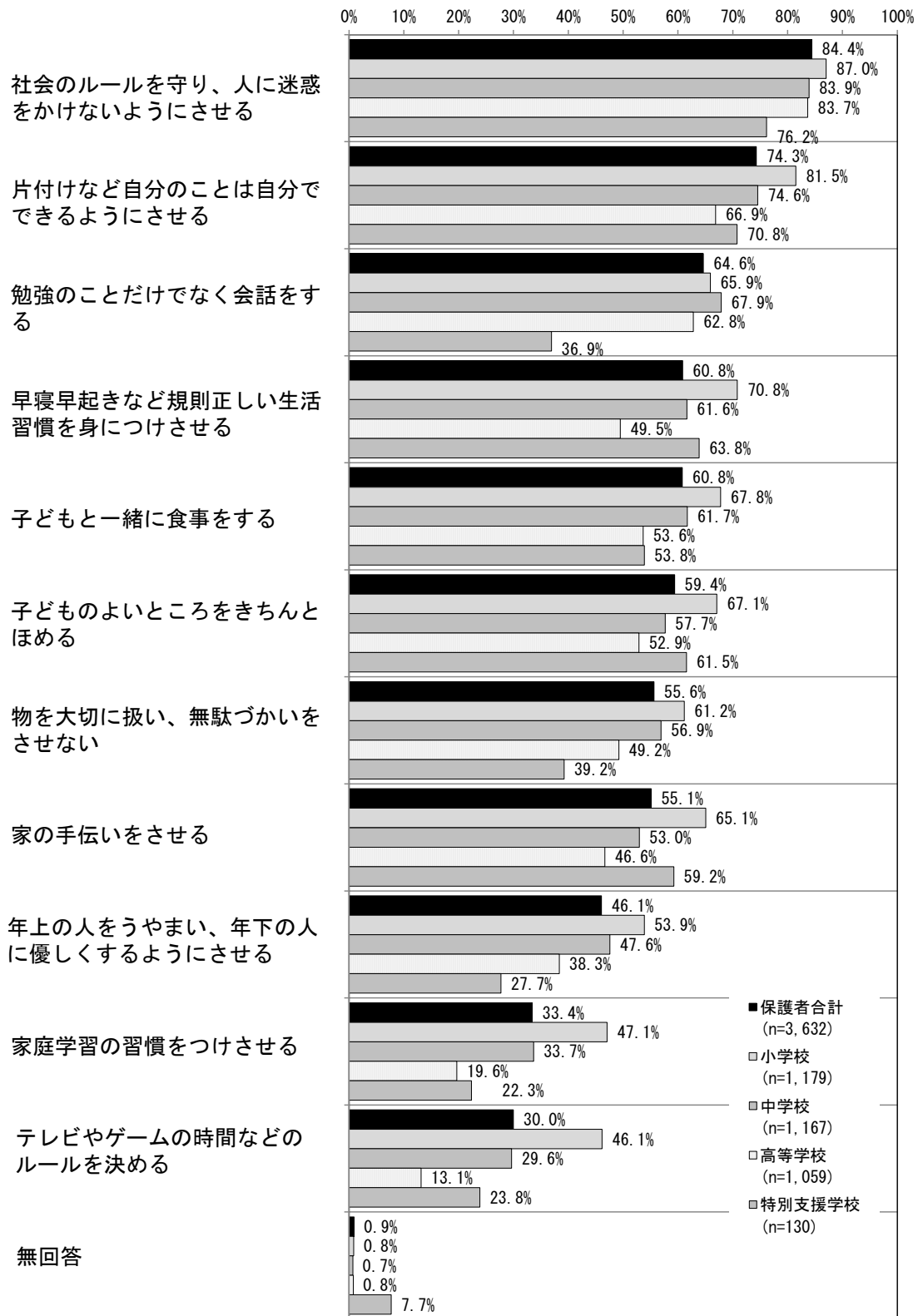
III - 5 家庭でのしつけや教育に関わること

家庭でのしつけや教育内容について保護者に聞いたところ、「社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる」、「片付けなど自分のことは自分でできるようにさせる」が高い割合であった。さらに、小学校と特別支援学校の保護者では「早寝早起きなど規則正しい生活習慣を身につけさせる」、中学校と高等学校の保護者では「勉強のことだけでなく会話をする」が続いている。

また、回答の割合の最も高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、小中高等学校の保護者の回答はいずれの調査においても、「社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる」との回答の割合が最も高く、小学校保護者の割合は平成 25 年度調査では 87.0%、平成 17 年度調査では 90.3%、中学校保護者の割合は平成 25 年度調査では 83.9%、平成 17 年度調査では 87.5%、高等学校保護者の割合は平成 25 年度調査では 83.7%、平成 17 年度調査では 89.5%であった。特別支援学校保護者の回答は平成 25 年度調査では「社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる」(76.2%)であり、平成 17 年度調査では「片付けなど自分のことは自分でできるようにさせる」(81.1%)であった。

家庭でのしつけや教育内容について保護者に聞いたところ、「社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる」(小学校：87.0%、中学校：83.9%、高等学校：83.7%、特別支援学校：76.2%)との回答が最も割合が高く、次いで「片付けなど自分のことは自分でできるようにさせる」(小学校：81.5%、中学校：74.6%、高等学校：66.9%、特別支援学校：70.8%)が高い割合であった。さらに、小学校と特別支援学校の保護者では「早寝早起きなど規則正しい生活習慣を身につけさせる」(小学校：70.8%、特別支援学校：63.8%)、中学校と高等学校の保護者では「勉強のことだけでなく会話をする」(中学校：67.9%、高等学校：62.8%)が続いている。(図III-86 参照)

図 III-86 家庭でのしつけや教育に関わること(保護者)



家庭でのしつけや教育内容について、保護者の回答の割合の高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、小学校保護者の回答は平成 25 年度調査では「社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる」(87.0%)、「片付けなど自分のことは自分でできるようにさせる」(81.5%)、「早寝早起きなど規則正しい生活習慣を身につけさせる」(70.8%)であり、平成 17 年度調査では「社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる」(90.3%)、「片付けなど自分のことは自分でできるようにさせる」(84.2%)、「勉強のことだけでなく会話をする」(72.5%)であった。中学校保護者の回答は平成 25 年度調査では「社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる」(83.9%)、「片付けなど自分のことは自分でできるようにさせる」(74.6%)、「勉強のことだけでなく会話をする」(67.9%)であり、平成 17 年度調査では「社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる」(87.5%)、「片付けなど自分のことは自分でできるようにさせる」(74.5%)、「勉強のことだけでなく会話をする」(69.8%)であった。高等学校保護者の回答は平成 25 年度調査では「社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる」(83.7%)、「片付けなど自分のことは自分でできるようにさせる」(66.9%)、「勉強のことだけでなく会話をする」(62.8%)であり、平成 17 年度調査では「社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる」(89.5%)、「片付けなど自分のことは自分でできるようにさせる」(68.3%)、「勉強のことだけでなく会話をする」(67.9%)であった。特別支援学校保護者の回答は平成 25 年度調査では「社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる」(76.2%)、「片付けなど自分のことは自分でできるようにさせる」(70.8%)、「早寝早起きなど規則正しい生活習慣を身につけさせる」(63.8%)であり、平成 17 年度調査では「片付けなど自分のことは自分でできるようにさせる」(81.1%)、「社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる」(79.2%)、「早寝早起きなど規則正しい生活習慣を身につけさせる」(69.8%)であった。(図Ⅲ-87～91 参照)

図 III-87 家庭でのしつけや教育に関わること(保護者合計)

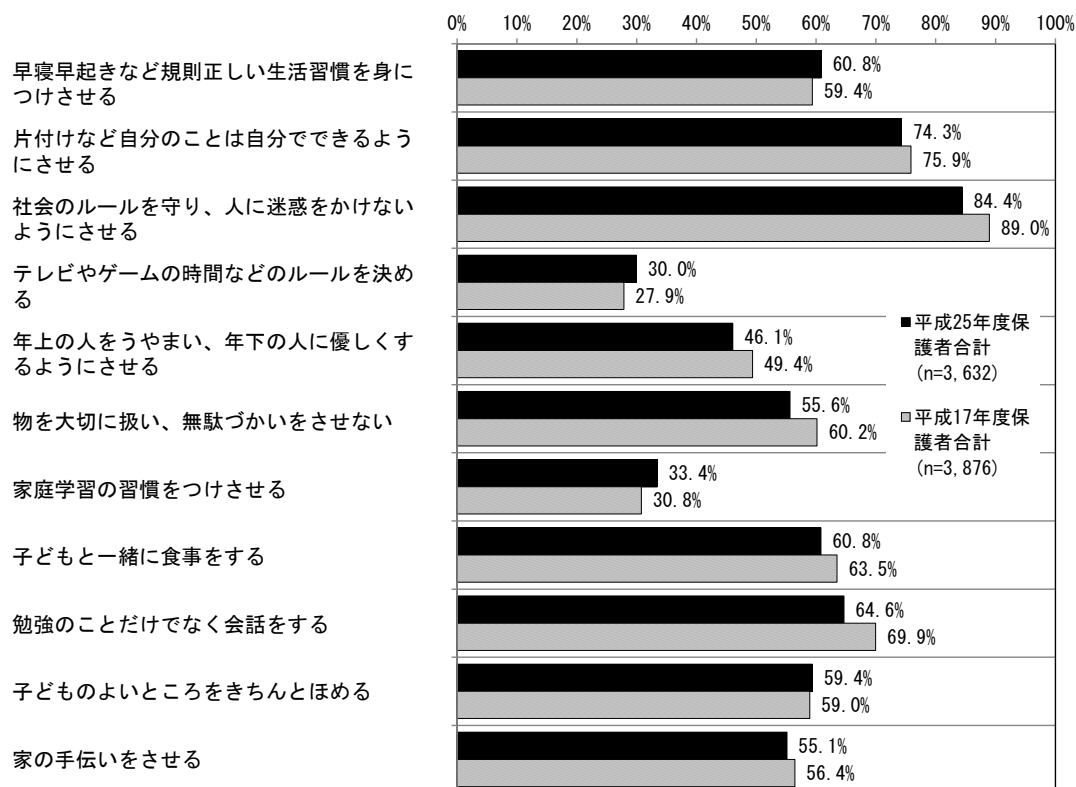


図 III-88 家庭でのしつけや教育に関わること(保護者：小学校)

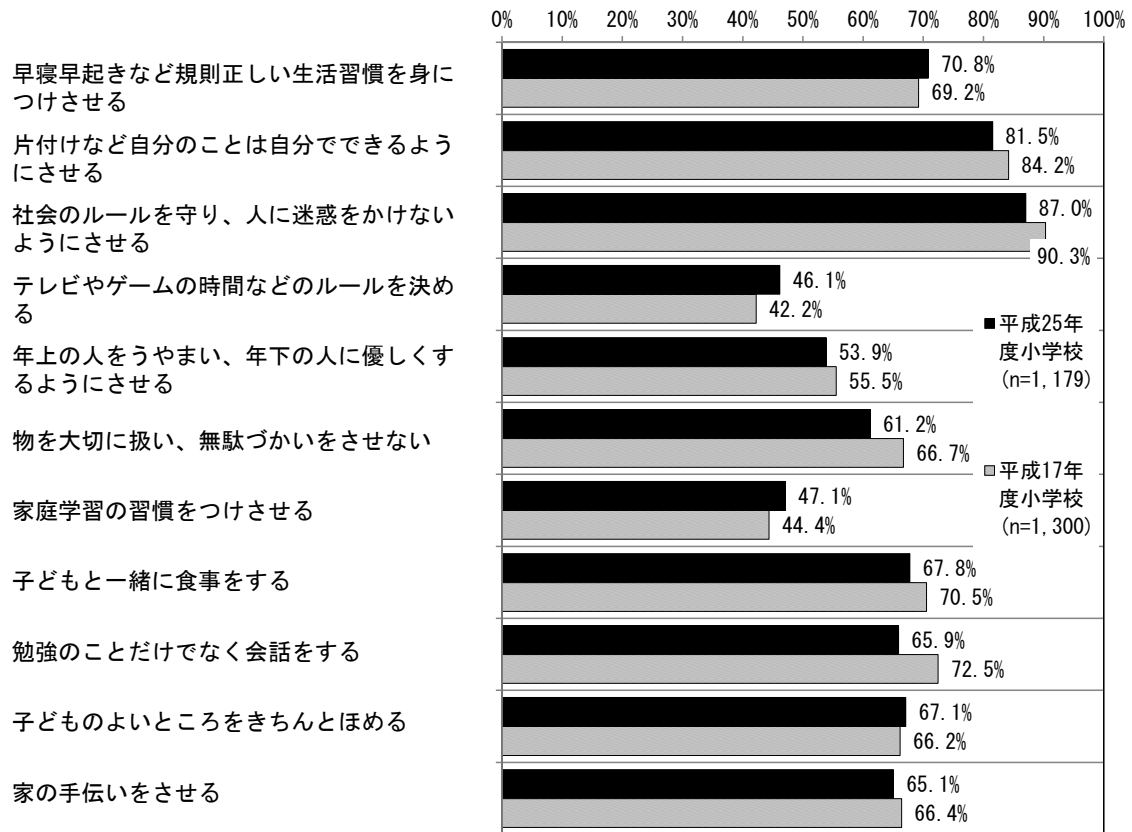


図 III-89 家庭でのしつけや教育に関わること(保護者：中学校)

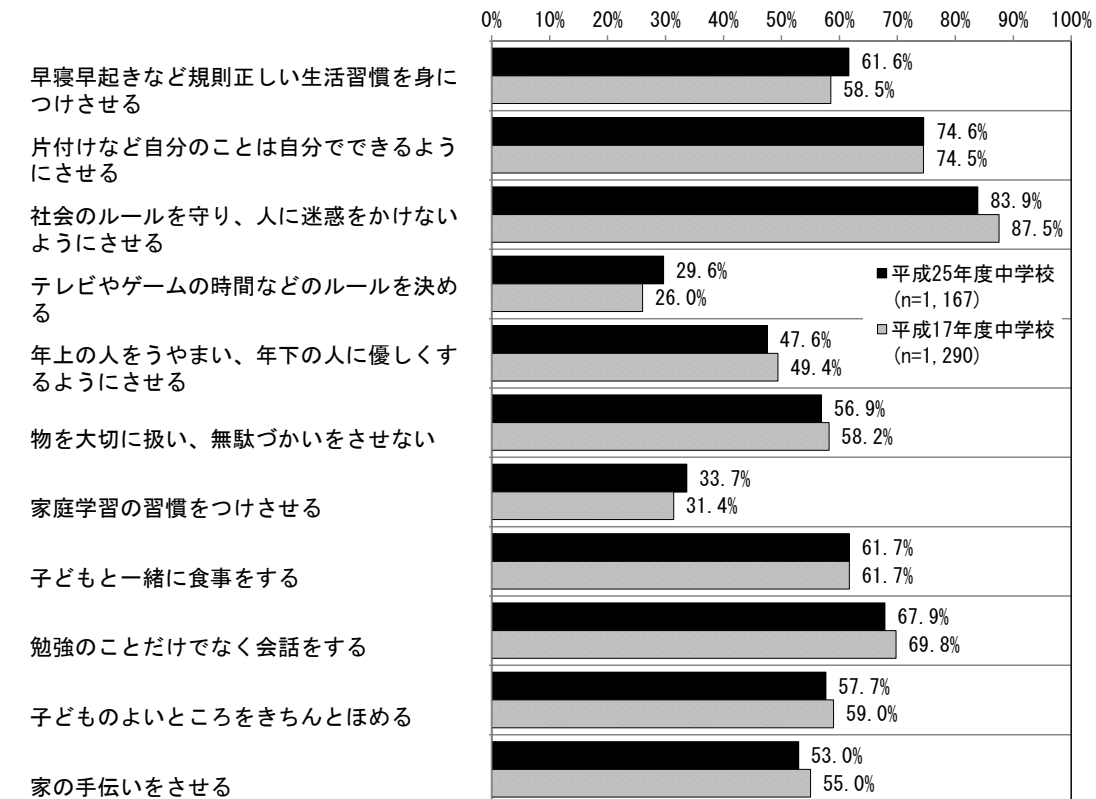


図 III-90 家庭でのしつけや教育に関わること(保護者：高等学校)

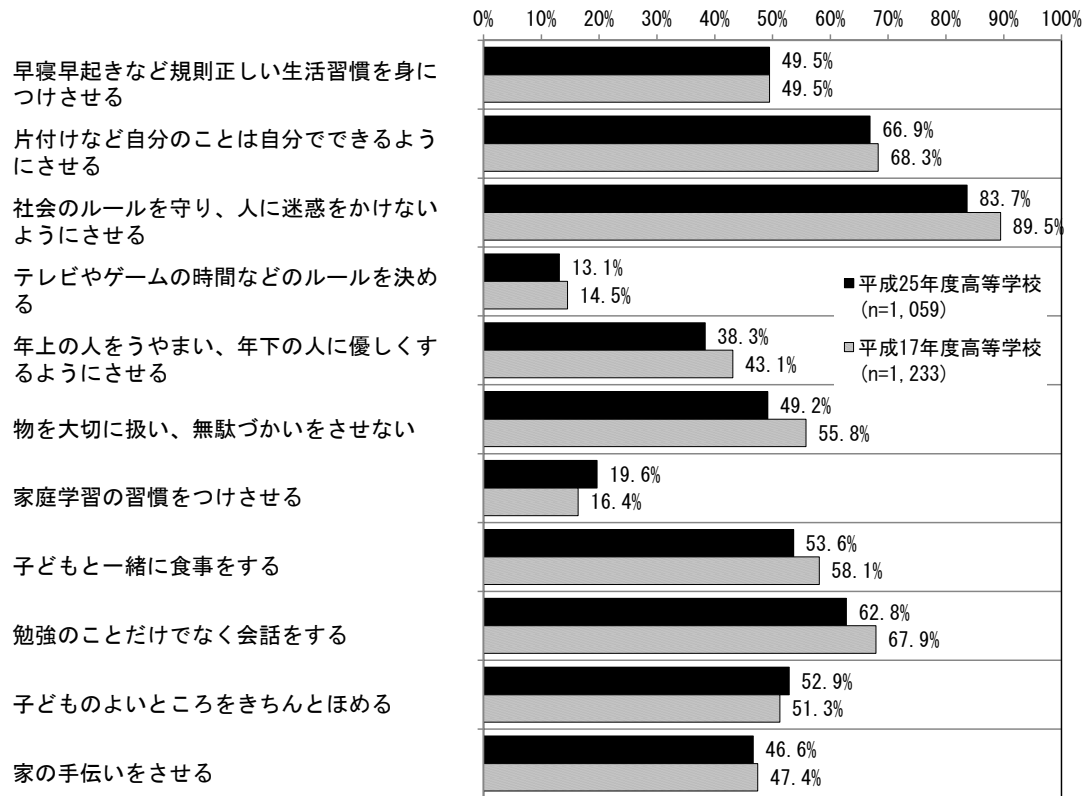
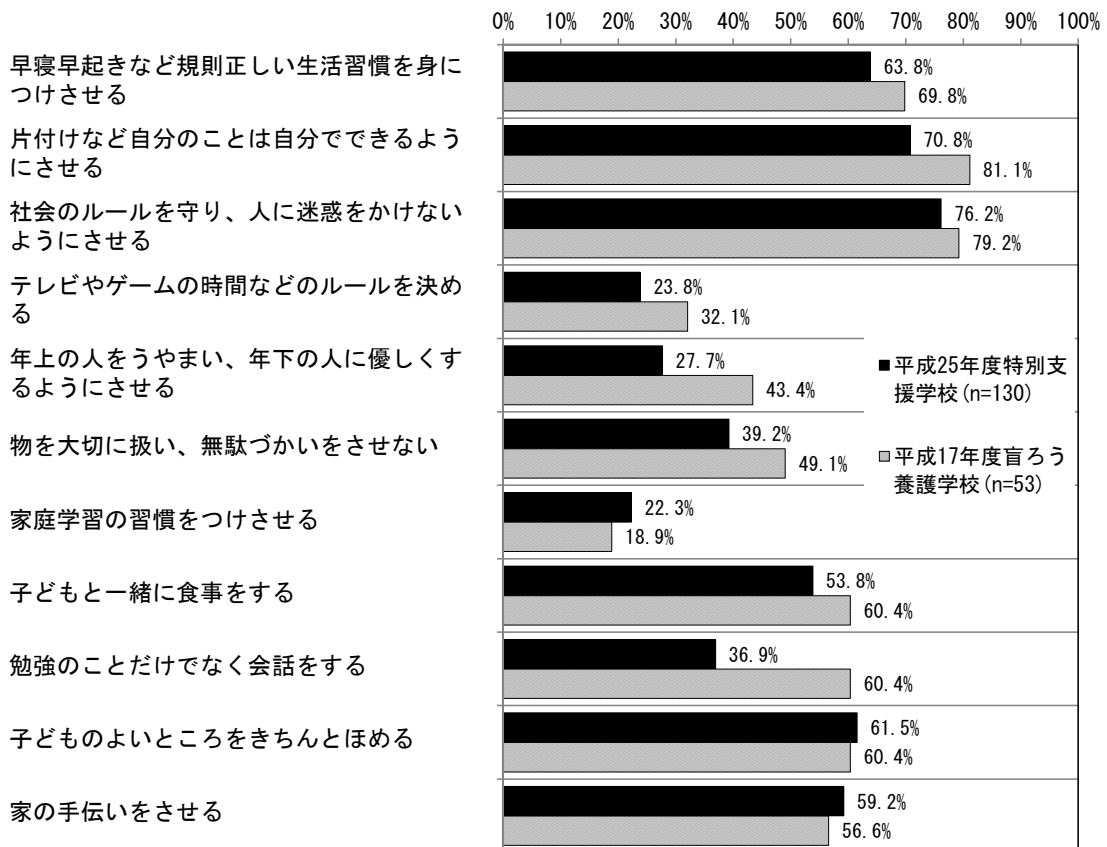


図 III-91 家庭でのしつけや教育に関わること(保護者：特別支援学校)



IV 学習活動

- 大人には、学習指導の重点のおき方や望まれる教育内容、子どもには自身の学習観を聞くことで、現在の学校教育におけるニーズを把握することにした。
- 調査の結果、学校での学習指導の重点については、教職員、保護者、学校評議員、一般県民のいずれにおいても、「自ら考える力や表現する力」を身につけること、「基礎・基本の学習」、「集団の中で互いに学び合うこと」に重点をおいた方がよいと考えている割合が高くなっている。
具体的に見ると、「さらに力を入れてほしい教育内容」では、保護者、学校評議員、一般県民共に『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育」と回答する割合が最も高くなっている。次いで、保護者は「コミュニケーション能力を高める英語教育」、「将来の職業・進路を考える教育(キャリア教育)」、学校評議員と一般県民は「豊かな心を育む道徳教育」、「コミュニケーション能力を高める英語教育」となっている。
- また、子どもは「勉強する理由」について、回答の割合が高いのは、小学生は順に「立派な大人になるため」、「将来何かの役に立つと思うから」、「新しいことを知ったり、わかることが楽しいから」となっている。
中学生は「高校や大学に進学したいから」、「将来何かの役に立つと思うから」、「立派な大人になるため」の順になっている。
高校生は「将来何かの役に立つと思うから」、「進学したいから」、「やりたい仕事があるから」の順になっている。
特別支援学校児童・生徒は「学校に行く理由」について、「学校で学んだことが、将来役に立つと思うから」、「新しいことを知ることが楽しいから」、「立派な大人になるため」の順になっている。
回答の割合が最も高い項目を前回調査と比較すると、平成17年度調査結果では、小学生は「将来何かの役に立つと思うから」となっている。高校生は「進学したいから」となっている。

IV-1 学習指導の重点① 「多くの知識や技能」か「自ら考える力・表現する力」か

現在の学校教育において、教職員、保護者、学校評議員及び一般県民にA「暗記や反復学習などにより、多くの知識や技能を身につける」とB「自分で調べたり、意見を発表することなどにより、自ら考える力や表現する力を身につける」とのどちらに学習指導の重点をおくかを聞いたところ、「B」または「どちらかというともB」がいずれも高い割合となっている。

また、平成17年度調査結果でも「B」または「どちらかというともB」がいずれも高い割合となっている。

「B」または「どちらかというともB」と回答した割合の合計は、小学校では、教職員 83.0%、保護者 75.1%、学校評議員 81.7%となっている。中学校では、教職員 71.1%、保護者 69.5%、学校評議員 83.3%となっている。高等学校では、教職員 67.8%、保護者 75.0%、学校評議員 85.2%となっている。特別支援学校では、教職員 83.5%、保護者 61.5%、学校評議員 83.4%となっている。一般県民は 78.5%となっている。(図IV-1～5 参照)

図 IV-1 小学校

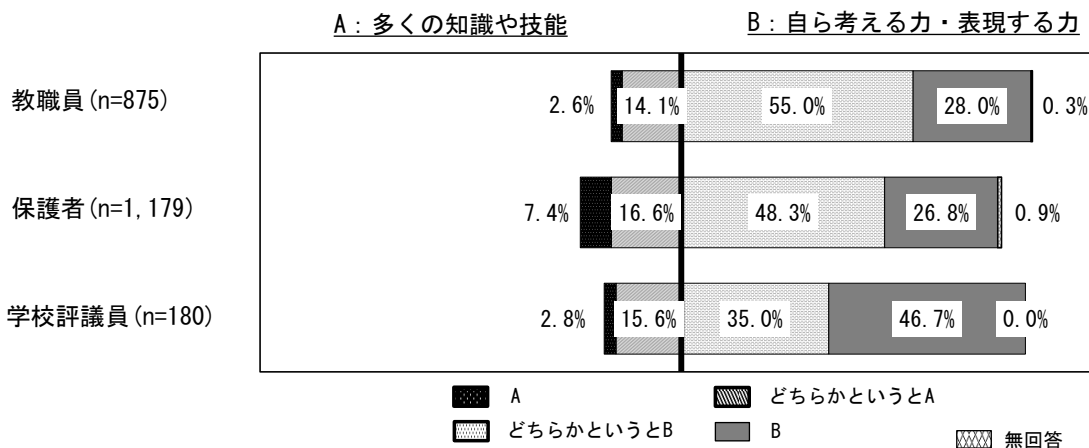


図 IV-2 中学校

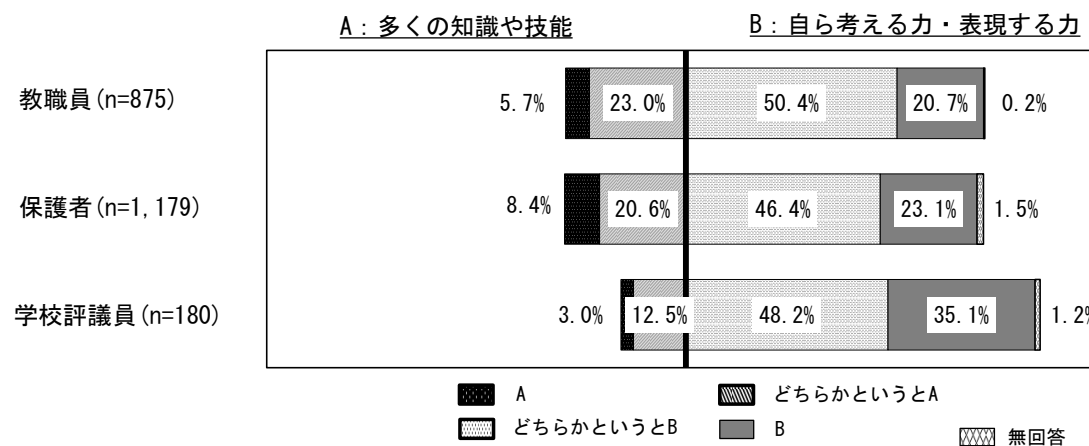


図 IV-3 高等学校

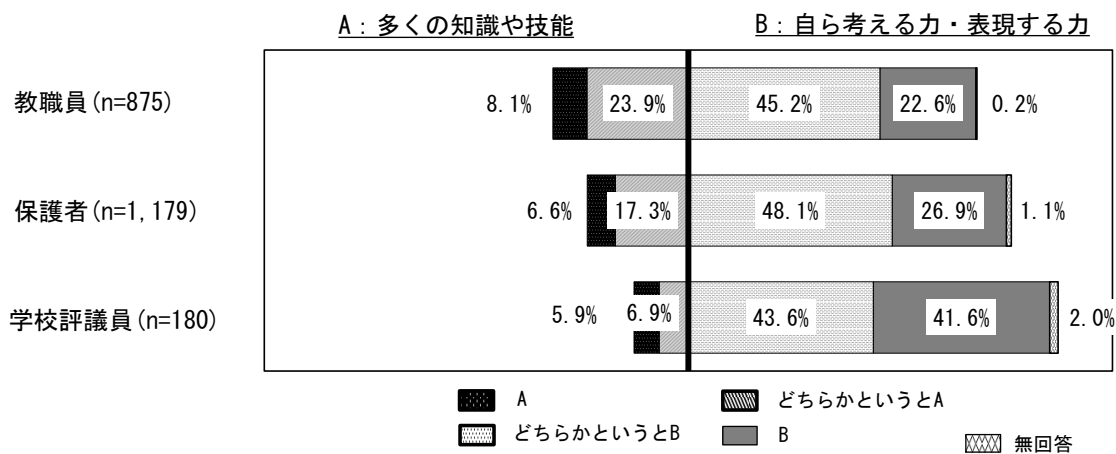


図 IV-4 特別支援学校

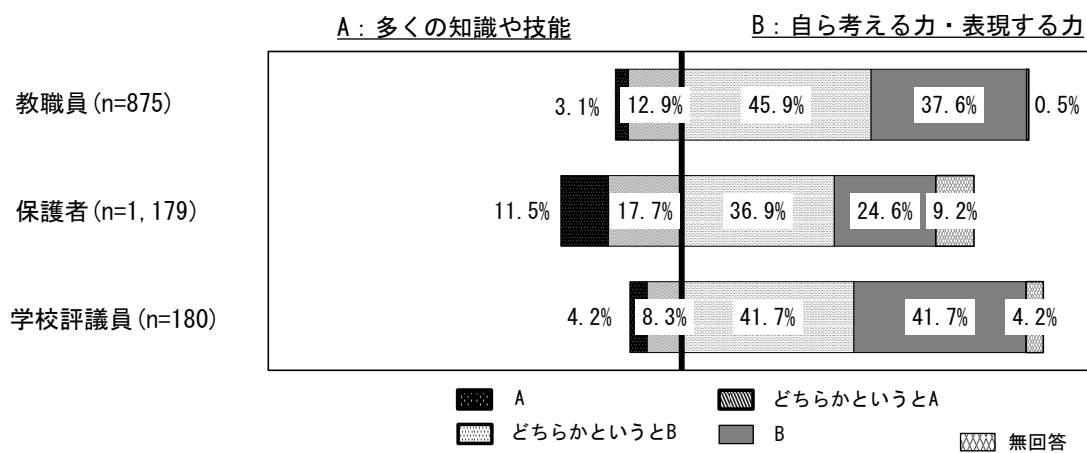
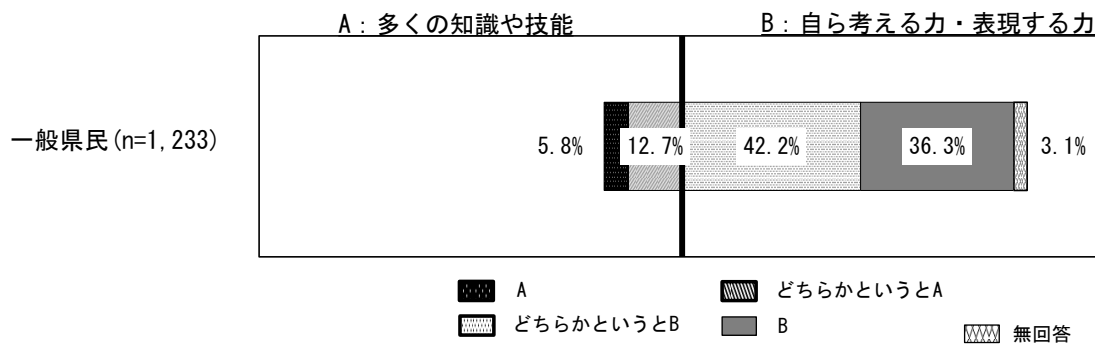


図 IV-5 一般県民



A「暗記や反復学習などにより、多くの知識や技能を身につける」とB「自分で調べたり、意見を発表することなどにより、自ら考える力や表現する力を身につける」とのどちらかに学習指導の重点をおくかについて、平成 17 年度調査結果と比較すると、「B」または「どちらかというともB」と回答した割合の合計は、小学校では教職員(H25：83.0%、H17：71.4%)、保護者(H25：75.1%、H17：68.9%)、学校評議員(H25：81.7%、H17：77.5%)、中学校では教職員(H25：71.1%、H17：56.3%)、保護者(H25：69.5%、H17：61.9%)、学校評議員(H25：83.3%、H17：76.7%)、高等学校では教職員(H25：67.8%、H17：46.1%)、保護者(H25：75.0%、H17：71.1%)、学校評議員(H25：85.2%、H17：81.5%)、特別支援学校では教職員(H25：83.5%、H17：69.1%)、保護者(H25：61.5%、H17：67.9%)、学校評議員(H25：83.4%、H17：85.1%)、一般県民では(H25：78.5%、H17：73.7%)との結果であった。(図IV-6～10 参照)

図 IV-6 学習指導の重点① 小学校

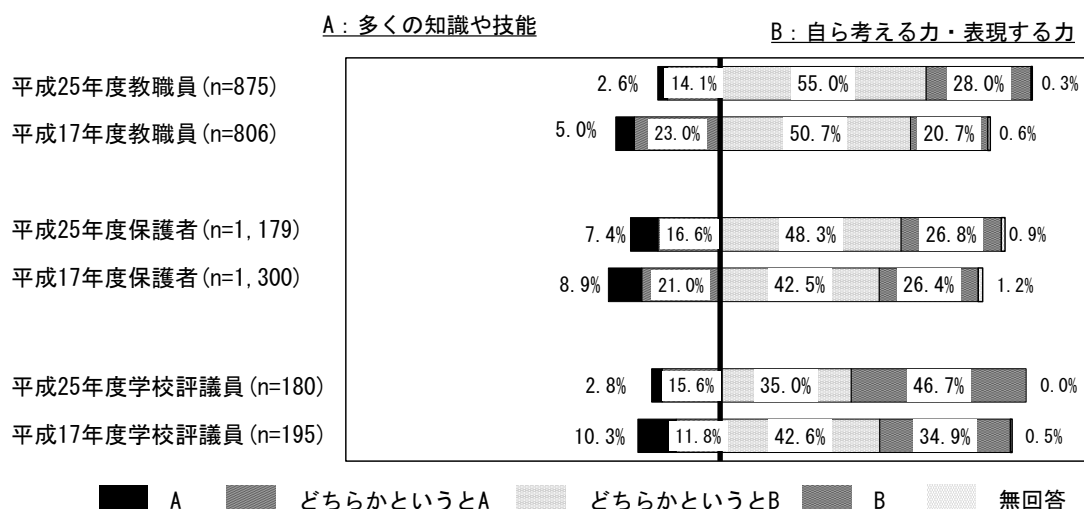


図 IV-7 学習指導の重点① 中学校

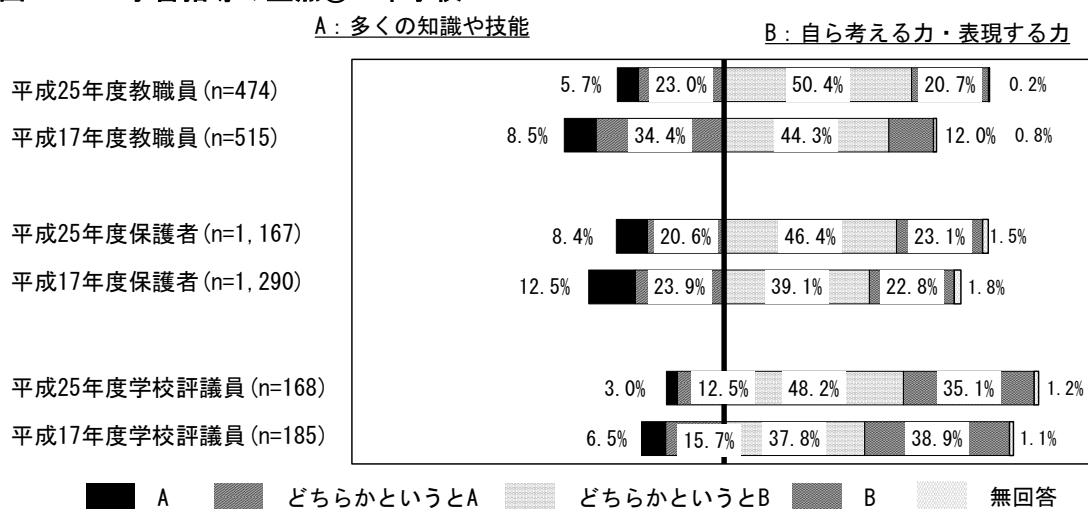


図 IV-8 学習指導の重点① 高等学校

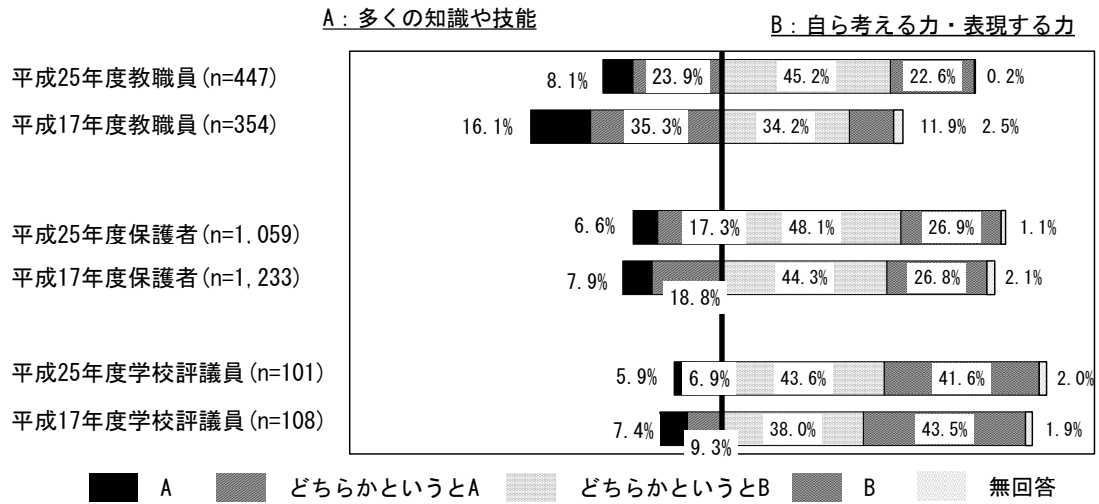


図 IV-9 学習指導の重点① 特別支援学校

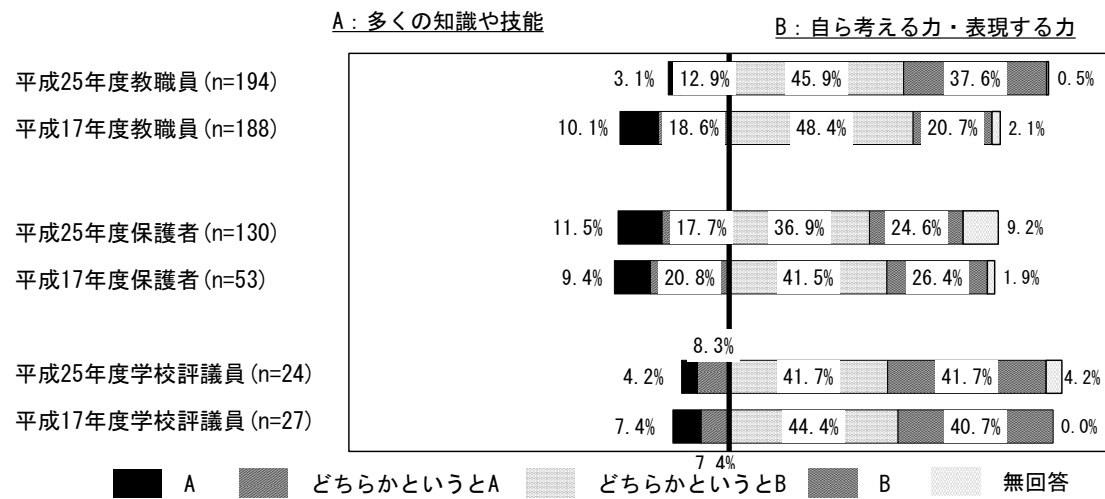
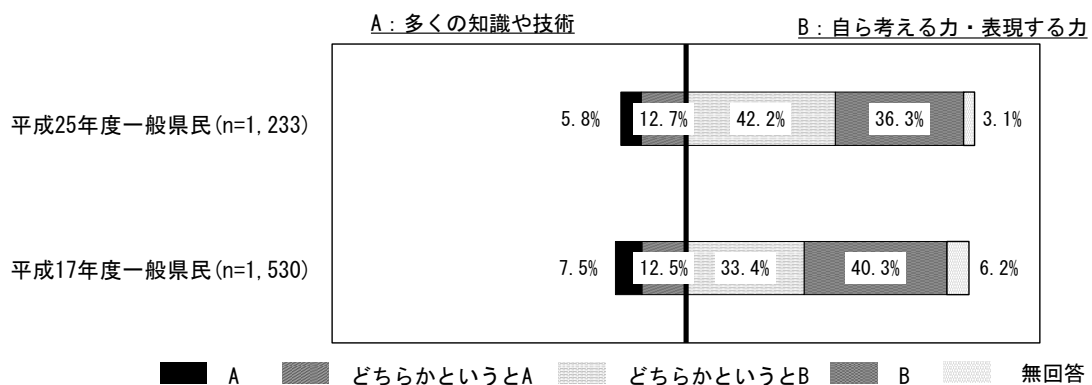


図 IV-10 学習指導の重点① 一般県民



IV-2 学習指導の重点② 「基礎・基本の学習」か「発展的な学習」か

現在の学校教育において、教職員、保護者、学校評議員及び一般県民にA「多くの子どもが理解できるよう、基礎・基本の学習を行う」とB「能力の高い子どもがより伸びるように、発展的な学習を行う」とのどちらに学習指導の重点をおくかを聞いたところ、「A」または「どちらか」というとA」がいずれも高い割合となっている。

また、平成17年度調査結果でも「A」または「どちらか」というとA」がいずれも高い割合となっている。

「A」または「どちらか」というとA」と回答した割合の合計は、小学校では、教職員 95.1%、保護者 83.1%、学校評議員 88.9%となっている。中学校では、教職員 91.6%、保護者 82.7%、学校評議員 86.4%となっている。高等学校では、教職員 73.0%、保護者 72.4%、学校評議員 57.4%となっている。特別支援学校では、教職員 90.7%、保護者 72.3%、学校評議員 87.5%となっている。また、一般県民では 77.5%となっている。(図IV-11～15 参照)

図 IV-11 小学校

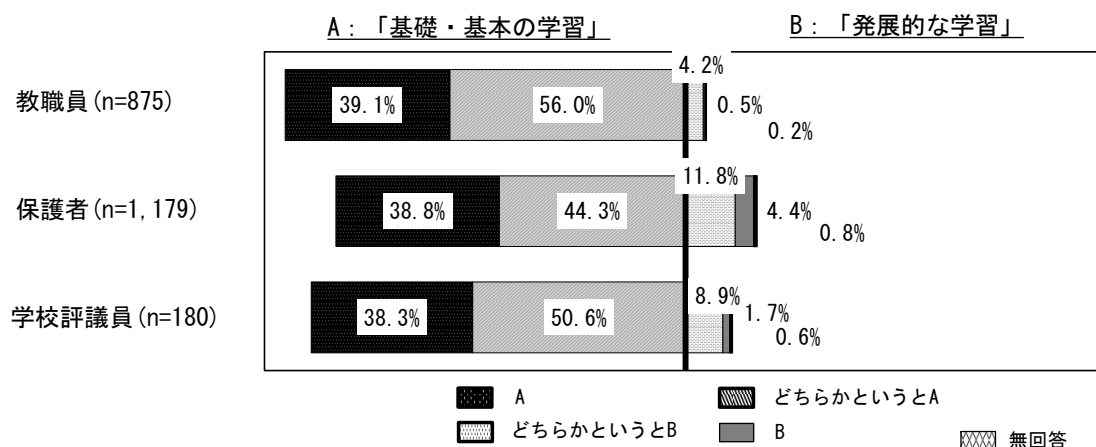


図 IV-12 中学校

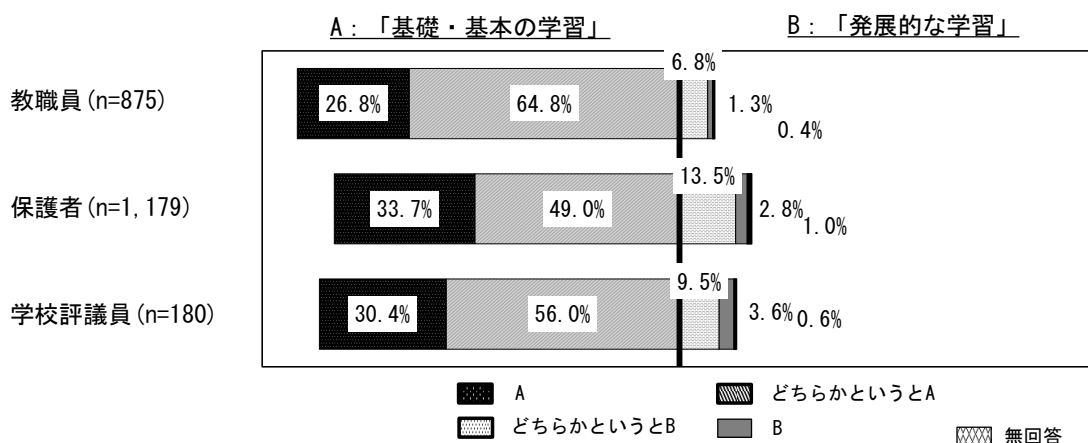


図 IV-13 高等学校

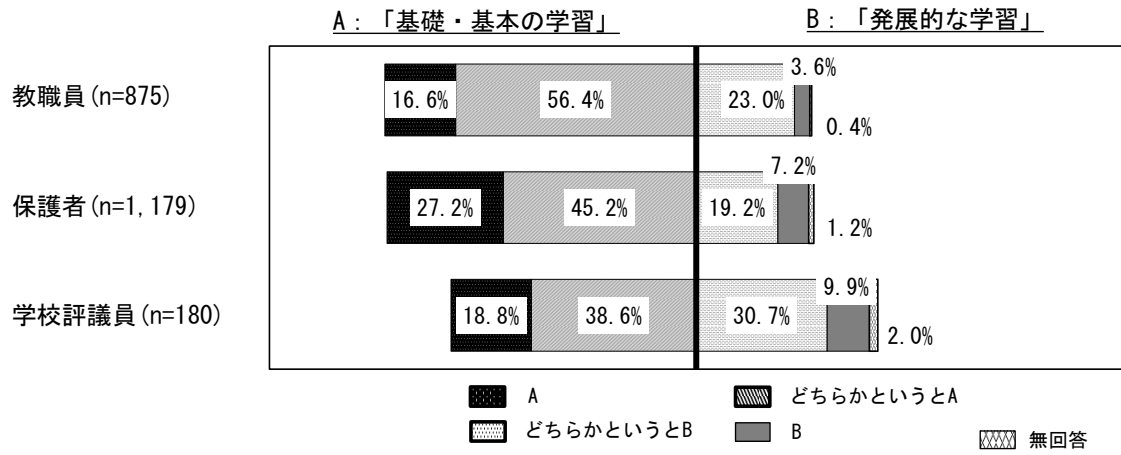


図 IV-14 特別支援学校

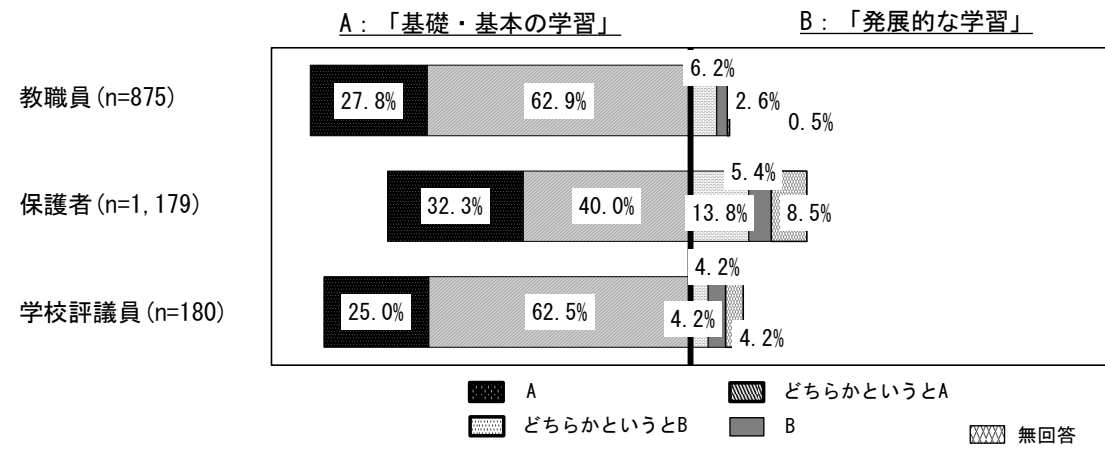
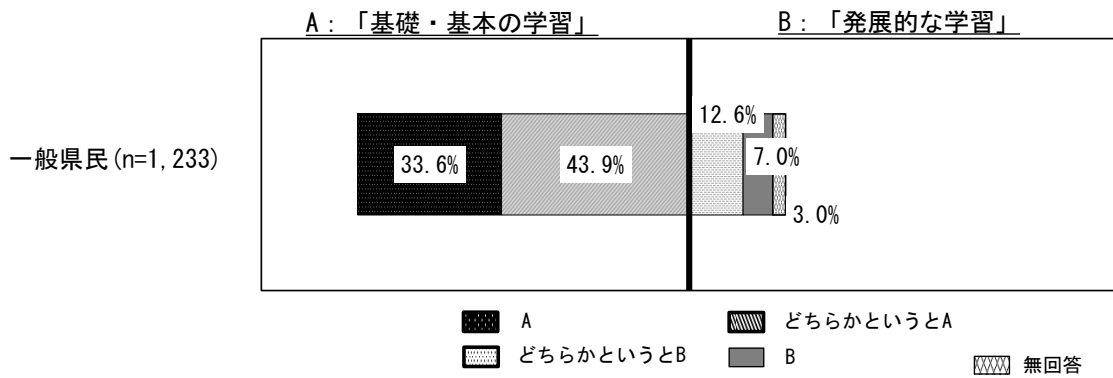


図 IV-15 一般県民



A「多くの子どもが理解できるよう、基礎・基本の学習を行う」とB「能力の高い子どもがより伸びるよう、発展的な学習を行う」とのどちらかに学習指導の重点をおくかについて、平成 17 年度調査結果と比較すると、「A」または「どちらかというともA」と回答した割合の合計は、小学校では教職員(H25：95.1%、H17：93.7%)、保護者(H25：83.1%、H17：83.3%)、学校評議員(H25：88.9%、H17：85.6%)、中学校では教職員(H25：91.6%、H17：90.1%)、保護者(H25：82.7%、H17：82.3%)、学校評議員(H25：86.4%、H17：87.0%)、高等学校では教職員(H25：73.0%、H17：77.4%)、保護者(H25：72.4%、H17：79.5%)、学校評議員(H25：57.4%、H17：63.0%)、特別支援学校では教職員(H25：90.7%、H17：88.3%)、保護者(H25：72.3%、H17：84.9%)、学校評議員(H25：87.5%、H17：87.7%)、一般県民では(H25：77.5%、H17：73.7%)との結果であった。(図IV-16～20 参照)

図 IV-16 学習指導の重点② 小学校

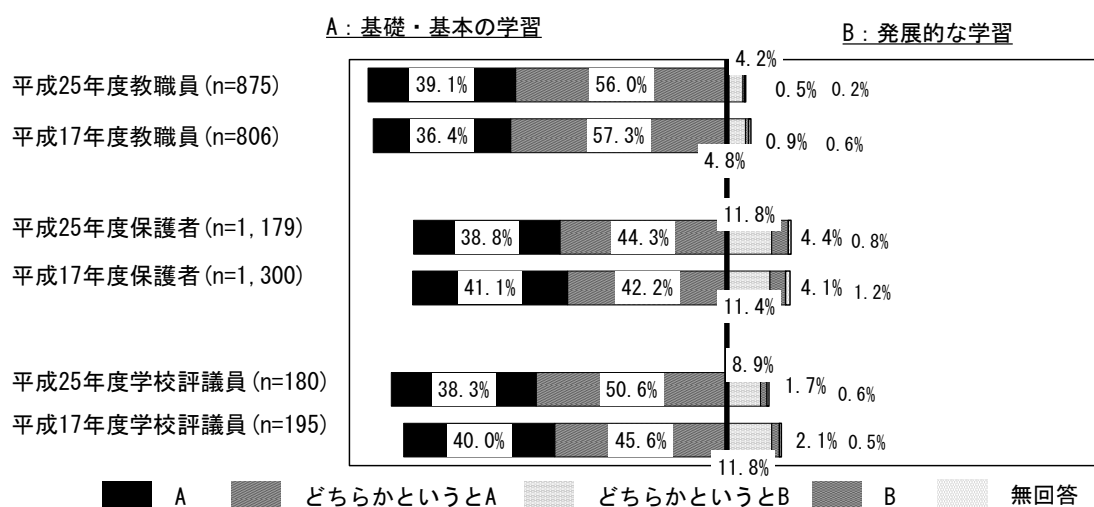


図 IV-17 学習指導の重点② 中学校

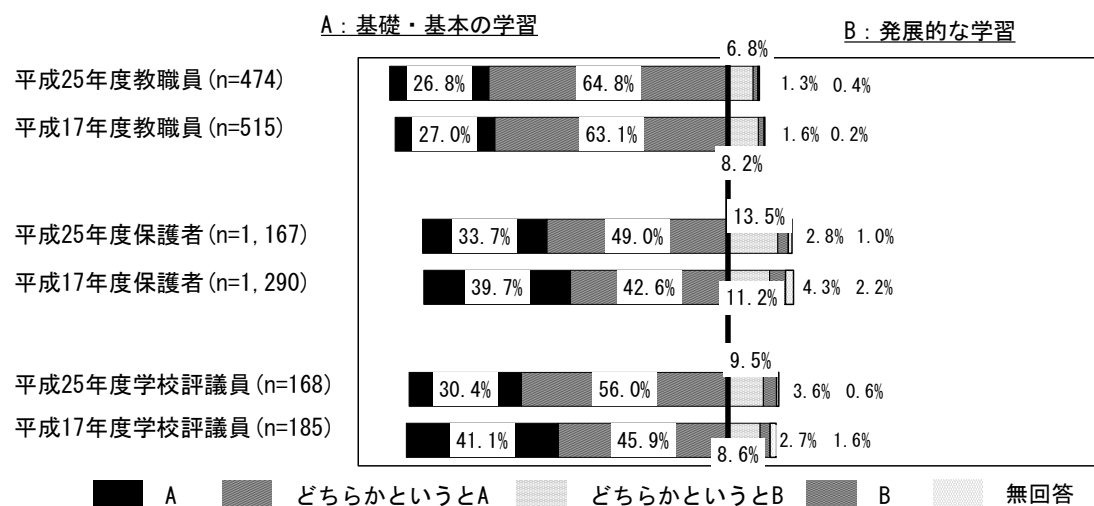


図 IV-18 学習指導の重点② 高等学校

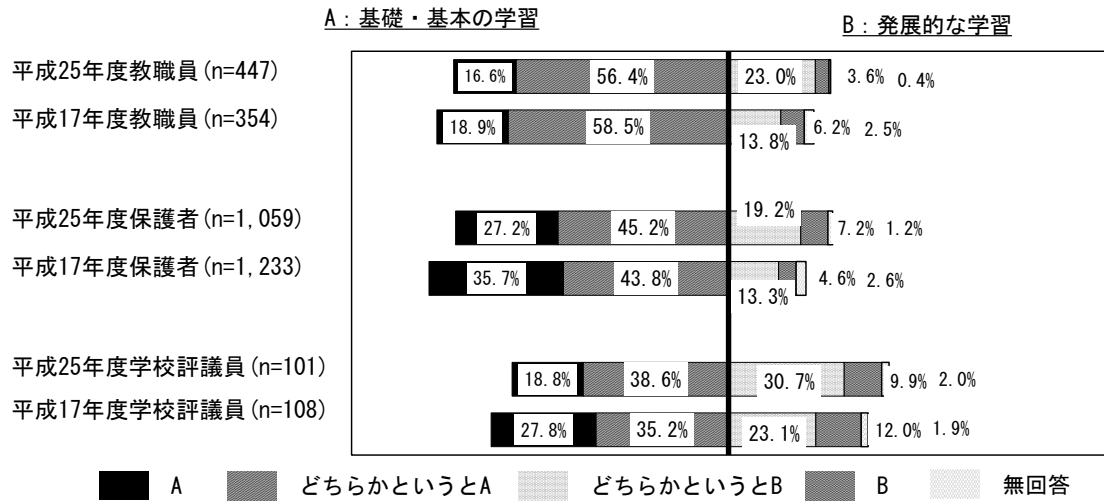


図 IV-19 学習活動の重点② 特別支援学校

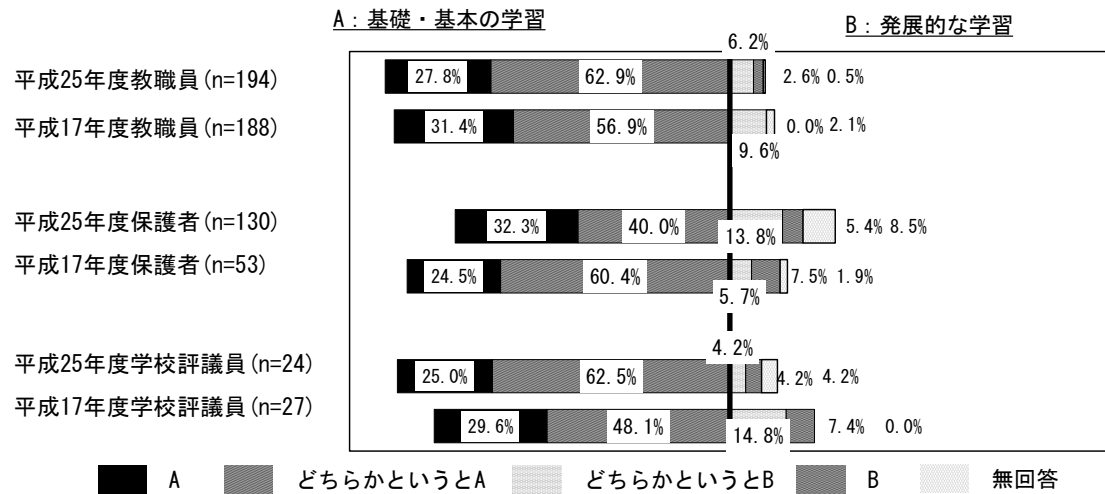
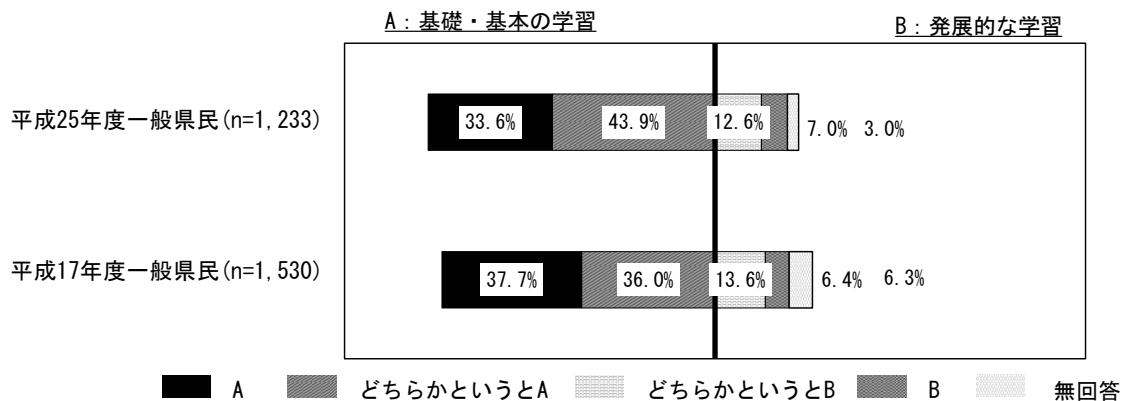


図 IV-20 学習活動の重点② 一般県民



IV-3 学習指導の重点③ 「集団の中で学び合う」か「進度に応じて個別に学ぶ」か

現在の学校教育において、教職員、保護者、学校評議員及び一般県民にA「子どもたちが集団の中で互いに学び合う」とB「それぞれの子どもが進度に応じて個別に学ぶ」とのどちらに学習指導の重点をおくかを聞いたところ、「A」または「どちらかというともA」がいずれも高い割合となっている。

また、平成17年度調査結果でも「A」または「どちらかというともA」がいずれも高い割合となっている。

「A」または「どちらかというともA」と回答した割合の合計は、小学校では、教職員 91.6%、保護者 76.6%、学校評議員 83.4%となっている。中学校では、教職員 83.1%、保護者 72.0%、学校評議員 75.0%となっている。高等学校では、教職員 72.5%、保護者 64.4%、学校評議員 67.4%となっている。特別支援学校では、教職員 72.6%、保護者 60.8%、学校評議員 66.7%となっている。一般県民は 71.6%となっている。(図IV-21～25 参照)

図 IV-21 小学校

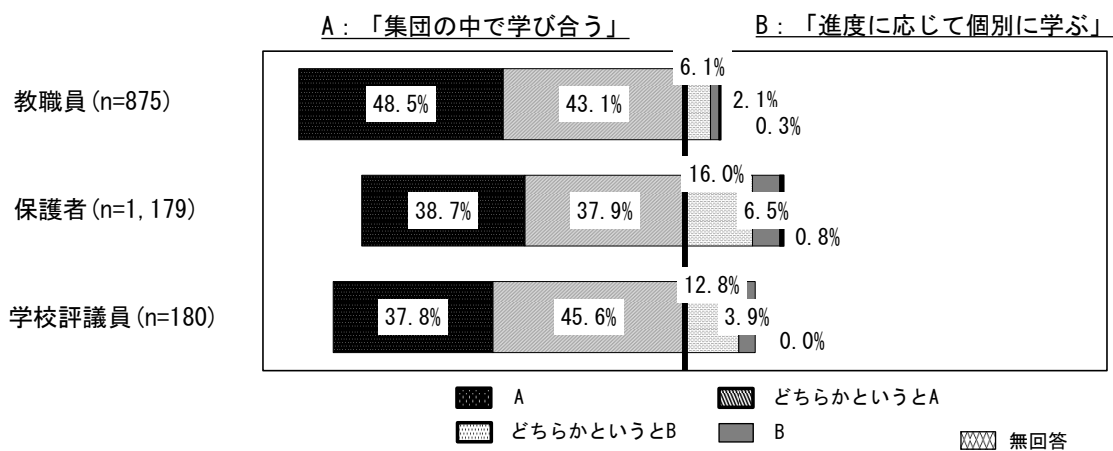


図 IV-22 中学校

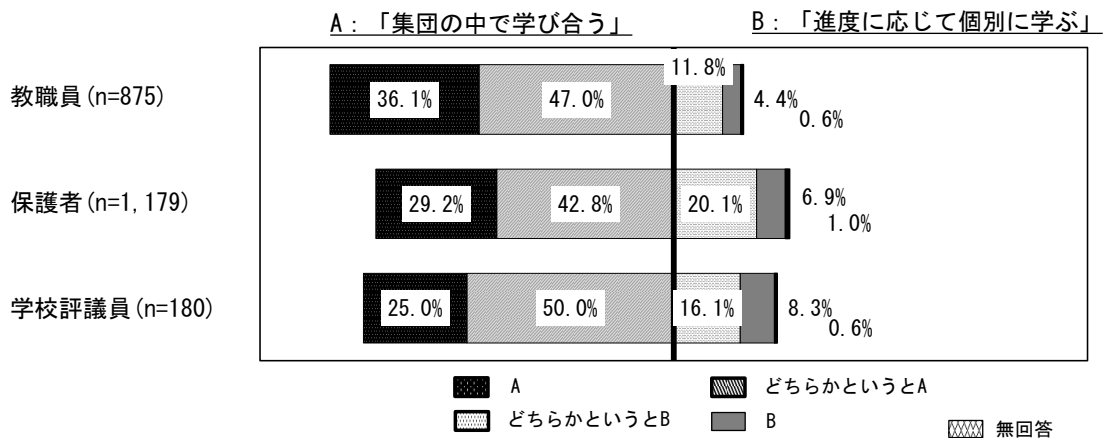


図 IV-23 高等学校

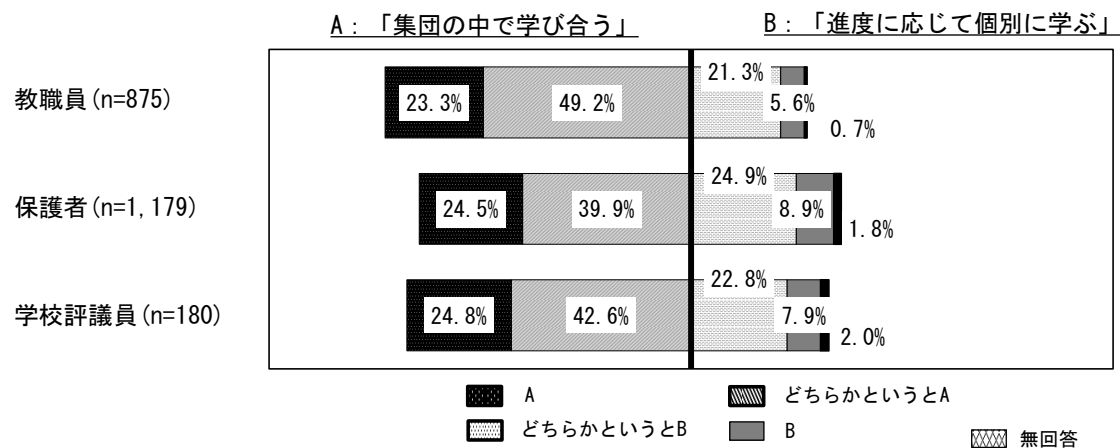


図 IV-24 特別支援学校

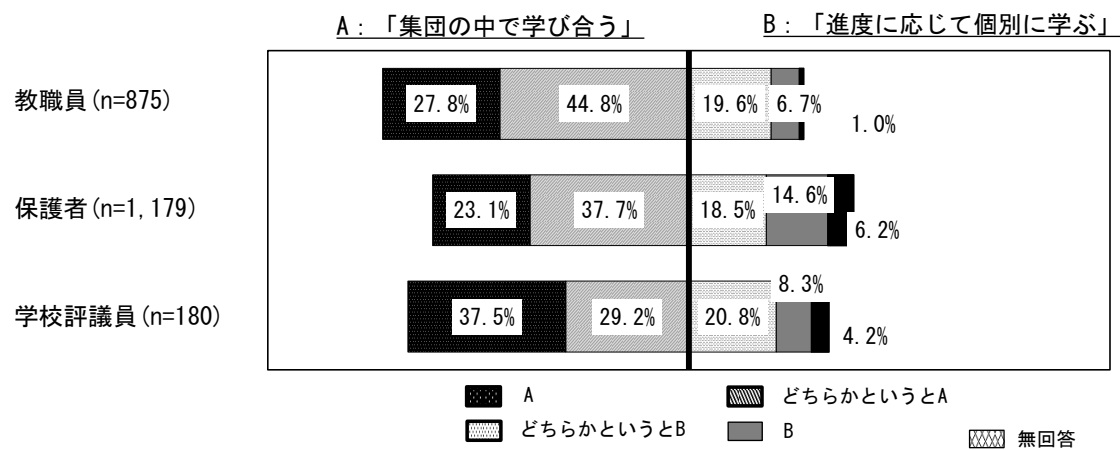
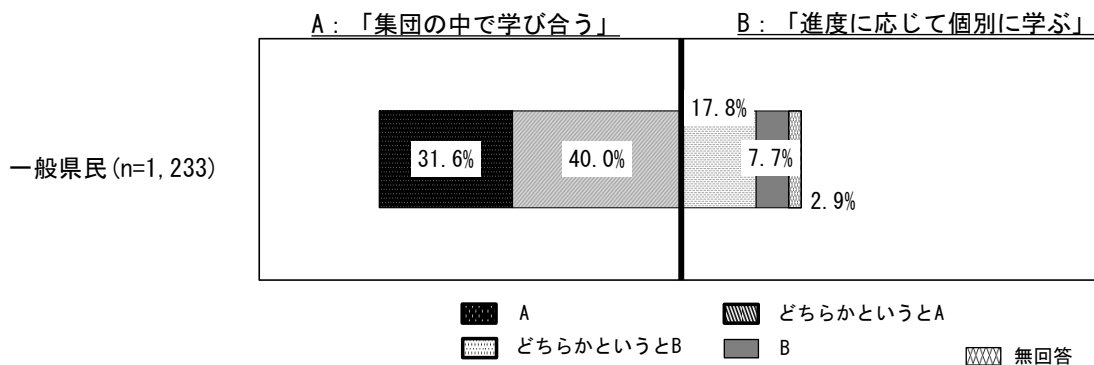


図 IV-25 一般県民



A「子どもたちが集団の中で互いに学び合う」とB「それぞれの子どもが進度に応じて個別に学ぶ」とのどちらに学習指導の重点をおくかについて、平成 17 年度調査結果と比較すると、「A」または「どちらかというとA」と回答した割合の合計は、小学校では教職員(H25：91.6%、H17：87.6%)、保護者(H25：76.6%、H17：75.2%)、学校評議員(H25：83.4%、H17：80.5%)、中学校では教職員(H25：83.1%、H17：73.4%)、保護者(H25：72.0%、H17：65.4%)、学校評議員(H25：75.0%、H17：72.4%)、高等学校では教職員(H25：72.5%、H17：62.7%)、保護者(H25：64.4%、H17：61.6%)、学校評議員(H25：67.4%、H17：57.4%)、特別支援学校では教職員(H25：72.6%、H17：64.9%)、保護者(H25：60.8%、H17：56.6%)、学校評議員(H25：66.7%、H17：59.2%)、一般県民では(H25：71.6%、H17：69.8%)との結果であった。(図IV-26～30 参照)

図 IV-26 学習指導の重点③ 小学校

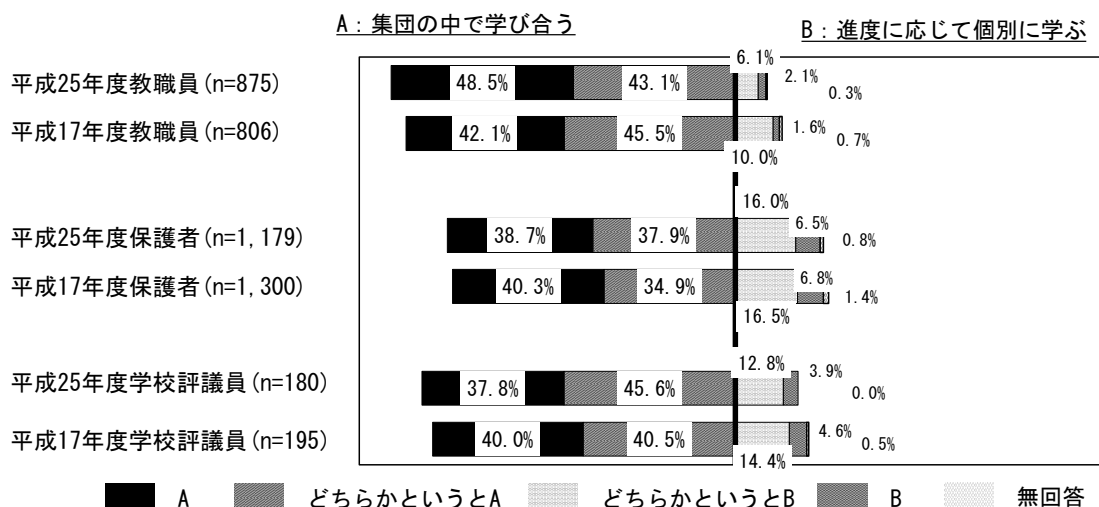


図 IV-27 学習指導の重点③ 中学校

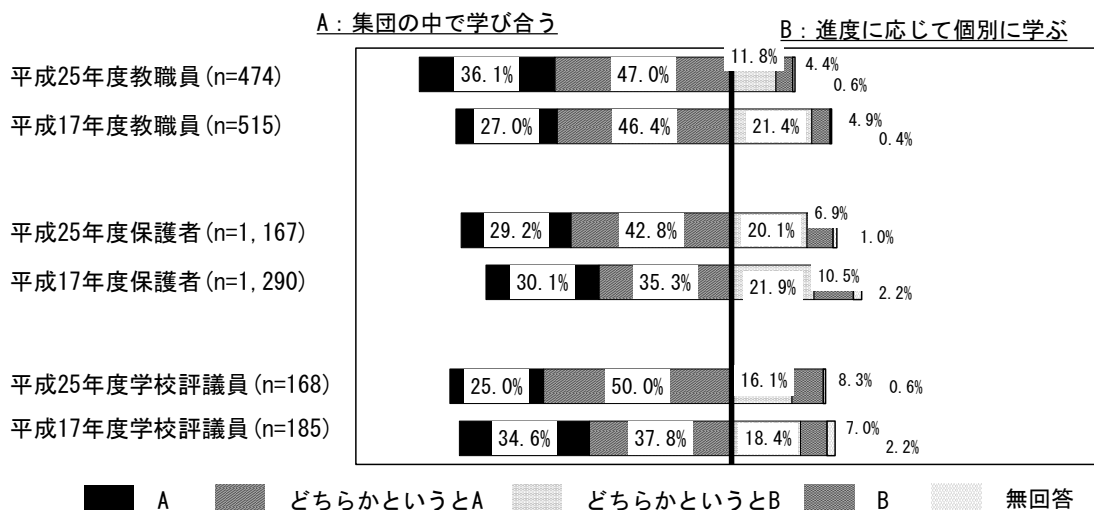


図 IV-28 学習指導の重点③ 高等学校

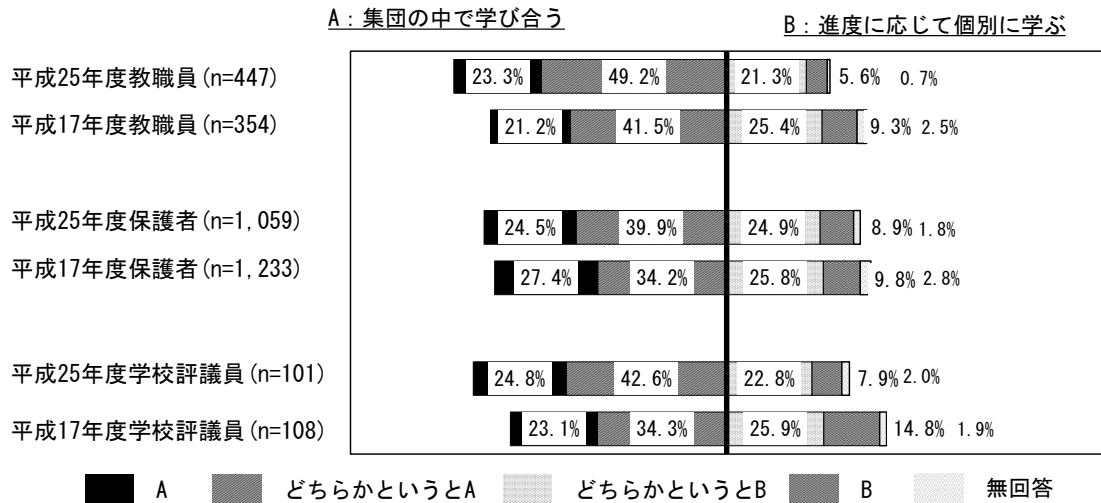


図 IV-29 学習指導の重点③ 特別支援学校

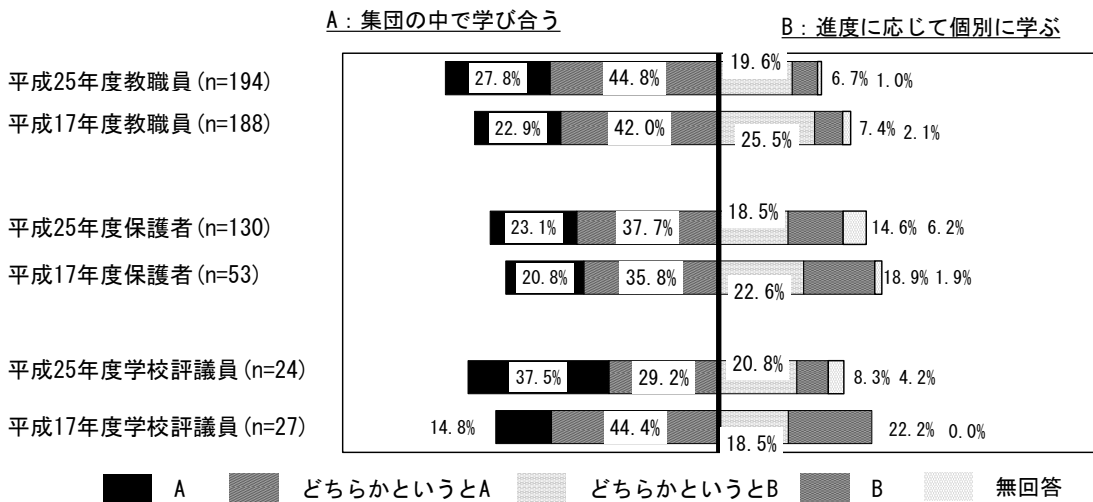
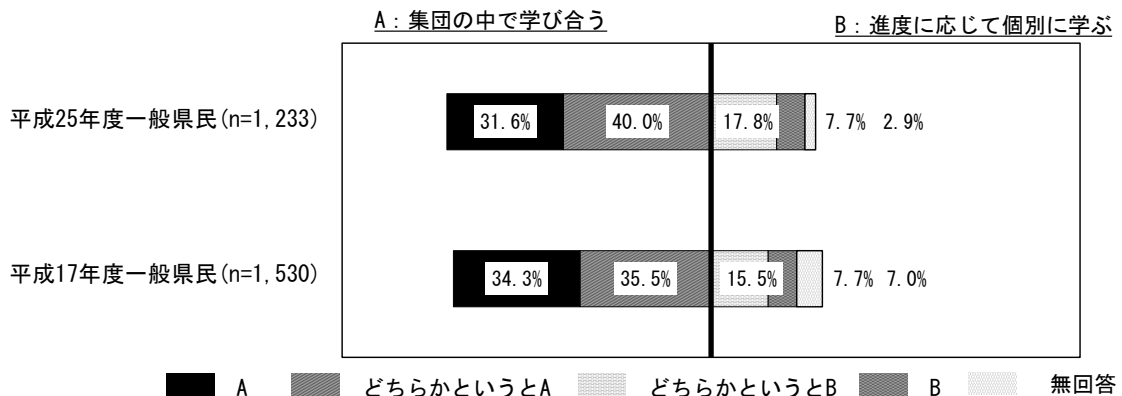


図 IV-30 学習指導の重点③ 一般県民



IV-4 教科やその他の活動の重点

保護者、学校評議員、一般県民に対して、今後、「学校でさらに力を入れてほしいと思う教育内容」について聞いたところ、回答の割合が高かったのは、保護者では『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育、「コミュニケーション能力を高める英語教育」、「将来の職業・進路を考える教育(キャリア教育)」であり、学校評議員及び一般県民では、『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育、「豊かな心を育む道德教育」、「コミュニケーション能力を高める英語教育」の順であった。

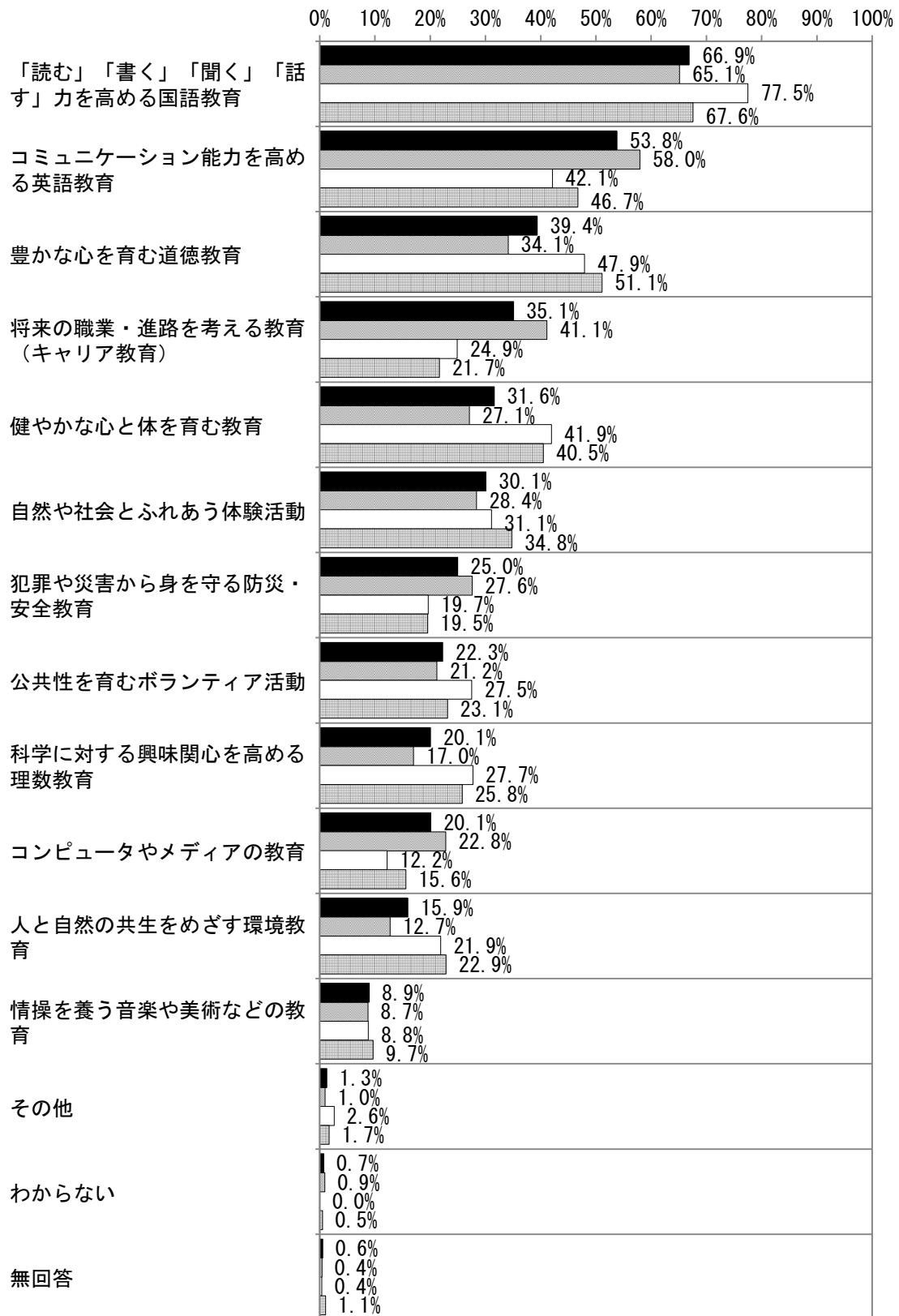
回答の割合が最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、いずれの調査においても保護者、学校評議員、一般県民の3者共に『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育をあげており、保護者の回答の割合は平成25年度調査では65.1%、平成17年度調査では68.5%、学校評議員の回答の割合は平成25年度調査では77.5%、平成17年度調査では81.2%、一般県民の回答の割合は平成25年度調査では67.6%、平成17年度調査では71.1%であった。

『教科やその他の活動の重点』について保護者、学校評議員及び一般県民に聞いたところ、回答の割合が高かったのは、保護者では『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育(65.1%)、「コミュニケーション能力を高める英語教育」(58.0%)、「将来の職業・進路を考える教育(キャリア教育)」(41.1%)であった。学校評議員及び一般県民では、『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育(学校評議員:77.5%、一般県民:67.6%)、「豊かな心を育む道德教育」(学校評議員:47.9%、一般県民:51.1%)、「コミュニケーション能力を高める英語教育」(学校評議員:42.1%、一般県民:46.7%)の順であった。(表IV-1、図IV-31 参照)

表 IV-1 教科やその他の活動の重点(上位5項目)

	保護者	学校評議員	一般県民
1位	「読む」「書く」「聞く」「話す」 力を高める国語教育 65.1%	「読む」「書く」「聞く」「話す」 力を高める国語教育 77.5%	「読む」「書く」「聞く」「話す」 力を高める国語教育 67.6%
2位	コミュニケーション能力を 高める英語教育 58.0%	豊かな心を育む道德教育 47.9%	豊かな心を育む道德教育 51.1%
3位	将来の職業・進路を考える教育 (キャリア教育) 41.1%	コミュニケーション能力を 高める英語教育 42.1%	コミュニケーション能力を 高める英語教育 46.7%
4位	豊かな心を育む道德教育 34.1%	健やかな心と体を育む教育 41.9%	健やかな心と体を育む教育 40.5%
5位	自然や社会とふれあう体験活 動 28.4%	自然や社会とふれあう体験活 動 31.1%	自然や社会とふれあう体験活 動 34.8%

図 IV-31 教科やその他の活動の重点(保護者、学校評議員、一般県民)



合計 (n=5,399)
 学校評議員 (n=534)
 保護者 (n=3,632)
 一般県民 (n=1,233)

『教科やその他の活動の重点』について、回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、保護者の回答は平成 25 年度調査では「『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育」(65.1%)、「コミュニケーション能力を高める英語教育」(58.0%)、「将来の職業・進路を考える教育(キャリア教育)」(41.1%)であり、平成 17 年度調査では「『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育」(68.5%)、「コミュニケーション能力を高める英語教育」(49.4%)、「豊かな心を育む道德教育」(36.8%)であった。学校評議員の回答は平成 25 年度調査では「『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育」(77.5%)、「豊かな心を育む道德教育」(47.9%)、「コミュニケーション能力を高める英語教育」(42.1%)であり、平成 17 年度調査では「『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育」(81.2%)、「健やかな心と体を育む教育」(51.5%)、「豊かな心を育む道德教育」(50.7%)であった。一般県民の回答は平成 25 年度調査では「『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育」(67.6%)、「豊かな心を育む道德教育」(51.1%)、「コミュニケーション能力を高める英語教育」(46.7%)であり、平成 17 年度調査では「『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育」(71.1%)、「豊かな心を育む道德教育」(50.0%)、「健やかな心と体を育む教育」(45.1%)であった。(表IV-2 参照)

表 IV-2 教科やその他の活動の重点(上位 5 項目)

	保護者		学校評議員		一般県民	
	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)
	n=3,632	n=3,876	n=534	n=515	n=1,233	n=1,530
1 位	「読む」「書く」「聞く」「話す」力を高める国語教育 65.1%	「読む」「書く」「聞く」「話す」力を高める国語教育 68.5%	「読む」「書く」「聞く」「話す」力を高める国語教育 77.5%	「読む」「書く」「聞く」「話す」力を高める国語教育 81.2%	「読む」「書く」「聞く」「話す」力を高める国語教育 67.6%	「読む」「書く」「聞く」「話す」力を高める国語教育 71.1%
2 位	コミュニケーション能力を高める英語教育 58.0%	コミュニケーション能力を高める英語教育 49.4%	豊かな心を育む道德教育 47.9%	健やかな心と体を育む教育 51.5%	豊かな心を育む道德教育 51.1%	豊かな心を育む道德教育 50.0%
3 位	将来の職業・進路を考える教育(キャリア教育) 41.1%	豊かな心を育む道德教育 36.8%	コミュニケーション能力を高める英語教育 42.1%	豊かな心を育む道德教育 50.7%	コミュニケーション能力を高める英語教育 46.7%	健やかな心と体を育む教育 45.1%
4 位	豊かな心を育む道德教育 34.1%	健やかな心と体を育む教育 36.1%	健やかな心と体を育む教育 41.9%	自然や社会とふれあう体験活動 31.8%	健やかな心と体を育む教育 40.5%	自然や社会とふれあう体験活動 33.8%
5 位	自然や社会とふれあう体験活動 28.4%	将来の職業・進路を考える教育(キャリア教育) 30.6%	自然や社会とふれあう体験活動 31.1%	コミュニケーション能力を高める英語教育 27.8%	自然や社会とふれあう体験活動 34.8%	コミュニケーション能力を高める英語教育 31.7%

IV - 5 勉強する理由

子どもに『勉強する理由』を聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、小学生では「立派な大人になるため」、「将来何かの役に立つと思うから」、「新しいことを知ったり、わかることが楽しいから」、中学生では「高校や大学に進学したいから」、「将来何かの役に立つと思うから」、「立派な大人になるため」、高校生では「将来何かの役に立つと思うから」、「進学したいから」、「やりたい仕事があるから」であった。また、特別支援学校児童・生徒に『学校に行く理由』を聞いたところ、「学校で学んだことが、将来役に立つと思うから」、「新しいことを知ることが楽しいから」、「立派な大人になるため」との回答の割合が高かった。

児童・生徒が『勉強する理由』について、回答の割合が最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、小学生の回答は平成25年度調査では「立派な大人になるため」(48.2%)であり、平成17年度調査では「将来何かの役に立つと思うから」(45.9%)であった。中学生の回答は、いずれの調査においても「高校や大学に進学したいから」との回答の割合が最も高く、平成25年度調査では46.4%、平成17年度調査では51.0%であった。高校生の回答で最も割合が高かった項目は平成25年度調査では「将来何かの役に立つと思うから」(35.6%)であり、平成17年度調査では「進学したいから」(38.8%)であった。また、特別支援学校児童・生徒が『学校に行く理由』について、回答の割合が最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、いずれの調査においても「学校で学んだことが、将来役に立つと思うから」があげられており、平成25年度調査では38.7%、平成17年度調査では38.5%であった。

『勉強する理由』について児童・生徒に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、小学生では「立派な大人になるため」(48.2%)、「将来何かの役に立つと思うから」(45.1%)、「新しいことを知ったり、わかることが楽しいから」(25.0%)であり、中学生では「高校や大学に進学したいから」(46.4%)、「将来何かの役に立つと思うから」(38.1%)、「立派な大人になるため」(28.0%)、高校生では「将来何かの役に立つと思うから」(35.6%)、「進学したいから」(34.7%)、「やりたい仕事があるから」(25.2%)であった。

また、特別支援学校児童・生徒に『学校に行く理由』を聞いたところ、「学校で学んだことが、将来役に立つと思うから」(38.7%)、「新しいことを知ることが楽しいから」(26.6%)、「立派な大人になるため」(21.0%)との回答の割合が高かった。(表IV-3、図IV-32, 33 参照)

表 IV-3 勉強する理由(上位5項目) (特別支援学校児童・生徒は「学校に行く理由」)

	小学生	中学生	高校生	特別支援学校児童・生徒
1位	立派な大人になるため 48.2%	高校や大学に進学したいから 46.4%	将来何かの役に立つと思うから 35.6%	学校で学んだことが、将来役に立つと思うから 38.7%
2位	将来何かの役に立つと思うから 45.1%	将来何かの役に立つと思うから 38.1%	進学したいから 34.7%	新しいことを知ることが楽しいから 26.6%
3位	新しいことを知ったり、わかることが楽しいから 25.0%	立派な大人になるため 28.0%	やりたい仕事があるから 25.2%	立派な大人になるため 21.0%
4位	高校や大学などに行きたいから 22.7%	やりたい仕事があるから 22.6%	立派な大人になるため 20.0%	わからない 15.3%
5位	やりたい仕事があるから 19.4%	新しい知識を知ったり、わかることが楽しいから 15.7%	新しい知識を得たり、理解することが楽しいから 17.0%	やりたいことがあるから 14.5%

図 IV-32 勉強する理由(小中高生)

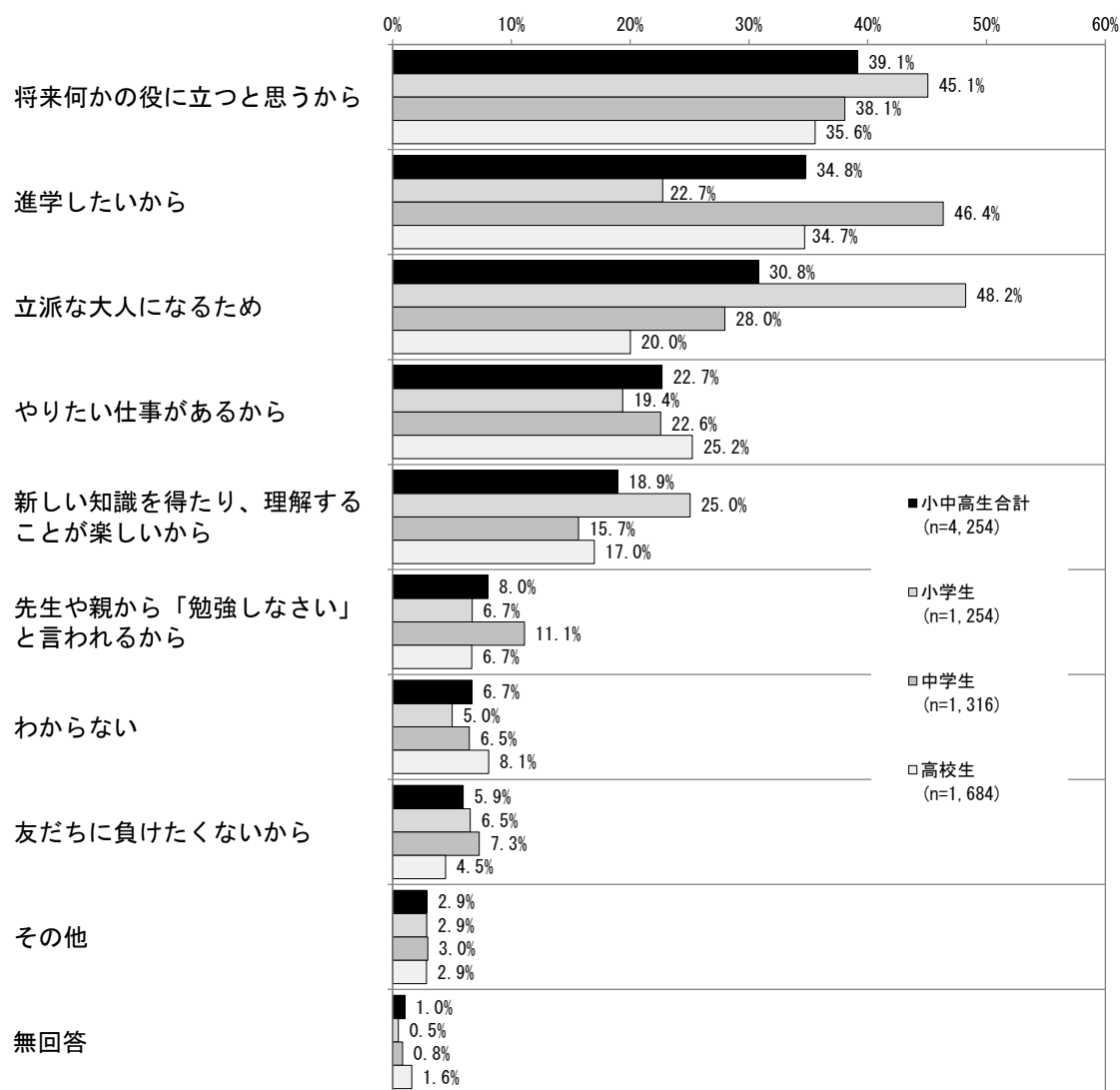
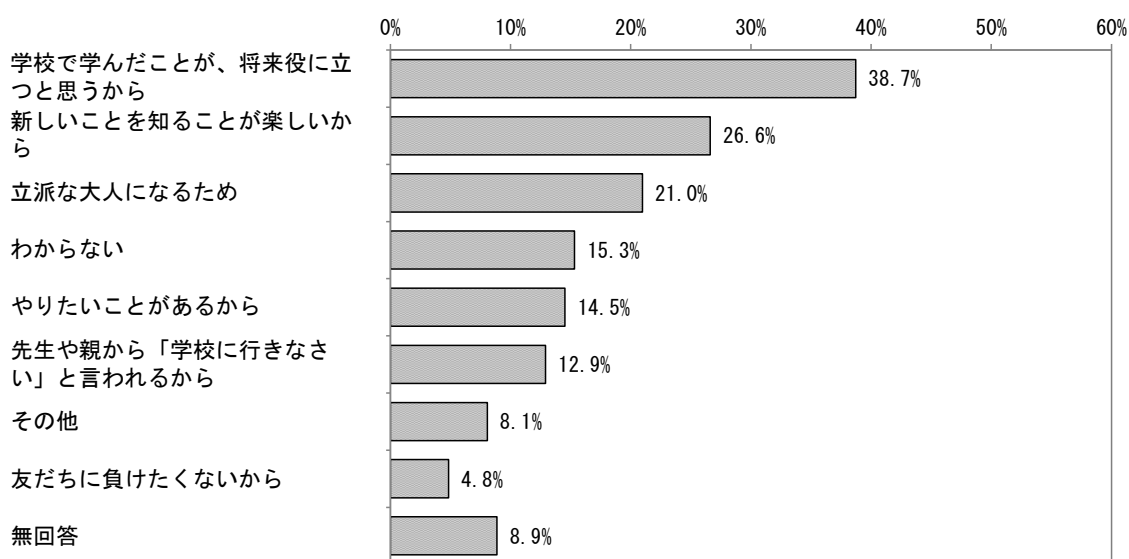


図 IV-33 学校に行く理由(特別支援学校児童・生徒 n=124)



児童・生徒が『勉強する理由』について、回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、小学生の回答は平成 25 年度調査では「立派な大人になるため」(48.2%)、「将来何かの役に立つと思うから」(45.1%)、「新しいことを知ったり、わかることが楽しいから」(25.0%)であり、平成 17 年度調査では「将来何かの役に立つと思うから」(45.9%)、「新しいことを知ったり、わかることが楽しいから」(28.2%)、「立派な大人になるため」(24.7%)であった。中学生の回答は平成 25 年度調査では「高校や大学に進学したいから」(46.4%)、「将来何かの役に立つと思うから」(38.1%)、「立派な大人になるため」(28.0%)であり、平成 17 年度調査では「高校や大学に進学したいから」(51.0%)、「将来何かの役に立つと思うから」(32.2%)、「やりたい仕事があるから」(22.1%)であった。高校生の回答は平成 25 年度調査では「将来何かの役に立つと思うから」(35.6%)、「進学したいから」(34.7%)、「やりたい仕事があるから」(25.2%)であり、平成 17 年度調査では「進学したいから」(38.8%)、「将来何かの役に立つと思うから」(29.4%)、「やりたい仕事があるから」(28.9%)であった。

また、特別支援学校児童・生徒が『学校に行く理由』について、回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、平成 25 年度調査では「学校で学んだことが、将来役に立つと思うから」(38.7%)、「新しいことを知ることが楽しいから」(26.6%)、「立派な大人になるため」(21.0%)であり、平成 17 年度調査では「学校で学んだことが、将来役に立つと思うから」(38.5%)、「新しいことを知ることが楽しいから」(36.9%)、「やりたいことがあるから」(35.4%)であった。(表IV-4 参照)

表 IV-4 勉強する理由(上位 6 項目) (特別支援学校児童・生徒は「学校へ行く理由」)

	小学生		中学生	
	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)
	n=1,254	n=1,394	n=1,316	n=1,446
1 位	立派な大人になるため 48.2%	将来何かの役に立つ と思うから 45.9%	高校や大学に進学し たいから 46.4%	高校や大学に進学し たいから 51.0%
2 位	将来何かの役に立つ と思うから 45.1%	新しいことを知った り、わかることが楽し いから 28.2%	将来何かの役に立つ と思うから 38.1%	将来何かの役に立つ と思うから 32.2%
3 位	新しいことを知った り、わかることが楽し いから 25.0%	立派な大人になるた め 24.7%	立派な大人になるた め 28.0%	やりたい仕事がある から 22.1%
4 位	高校や大学などに行 きたいから 22.7%	高校や大学などに行 きたいから 21.9%	やりたい仕事がある から 22.6%	新しいことを知った り、わかることが楽し いから 16.0%
5 位	やりたい仕事がある から 19.4%	やりたい仕事がある から 18.6%	新しい知識を知った り、わかることが楽し いから 15.7%	立派な大人になるた め 15.1%
6 位	先生や親から「勉強し なさい」と言われるか ら 6.7%	友だちに負けたくな いから 11.8%	先生や親から「勉強し なさい」と言われるか ら 11.1%	先生や親から「勉強し なさい」と言われるか ら 12.9%

	高校生		特別支援学校児童・生徒	
	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)
	n=1, 684	n=1, 636	n=124	n=65
1 位	将来何かの役に立つ と思うから 35.6%	進学したいから 38.8%	学校で学んだことが、 将来役に立つと思う から 38.7%	学校で学んだことが、 将来役に立つと思う から 38.5%
2 位	進学したいから 34.7%	将来何かの役に立つ と思うから 29.4%	新しいことを知ること が楽しいから 26.6%	新しいことを知ること が楽しいから 36.9%
3 位	やりたい仕事がある から 25.2%	やりたい仕事がある から 28.9%	立派な大人になるた め 21.0%	やりたいことがある から 35.4%
4 位	立派な大人になるた め 20.0%	新しい知識を得たり、 理解することが楽し いから 18.6%	わからない 15.3%	先生や親から「学校に 行きなさい」と言われ るから
5 位	新しい知識を得たり、 理解することが楽し いから 17.0%	わからない 10.6%	やりたいことがある から 14.5%	立派な大人になるた め
6 位	わからない 8.1%	立派な大人になるた め 9.0%	先生や親から「学校に 行きなさい」と言われ るから 12.9%	わからない 13.8%

V 教員像

- 教員の業務に関する印象や理想の姿を、子ども、保護者、学校評議員、教員自身に聞くことで、教員がおかれている状況と求められる教員像について把握することにした。
- 調査の結果、教員の業務の現状について、小学校教職員は順に「教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった」、「特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している」、「教員間の仕事の分担や業務量に差がある」と感じている割合が高くなっている。

中学校教職員は「特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している」、「教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった」、「教員間の仕事の分担や業務量に差がある」の順になっている。

高等学校教職員と特別支援学校教職員は「教員間の仕事の分担や業務量に差がある」、「教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった」、「特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している」の順になっている。

回答の割合が最も高い項目を前回調査と比較すると、平成 17 年度調査結果では、中学校教職員は「教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった」となっている。高等学校教職員は「教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった」となっている。
- 保護者は、教職員に対して「子ども一人ひとりと接する時間が少ない」、「子どもに信頼されている」、「様々な課題にすぐに対応してくれる」と感じている。

学校評議員は「授業などにいろいろな工夫をしている」、「子ども一人ひとりと接する時間が少ない」、「家庭や地域との連携に積極的である」と感じている。回答の割合が最も高い項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、学校評議員は「授業などにいろいろな工夫をしている」ではなく「子ども一人ひとりと接する時間が少ない」（平成 17 年度調査）となっている。
- 理想とする教員像について、教職員は「わかりやすい授業をする」、「児童・生徒をよく理解し、適切に対処・指導ができる」、「児童・生徒のやる気を引き出し、意欲を高められる」とする回答の割合が高くなっている。
- 子どもについても、「わかりやすい授業をしてくれる」、「やる気を出させ、意欲を高められる」、「自分たちのことをわかってくれて、しかったり、ほめたりしてくれる」とする回答の割合が高くなっている。

回答の割合が最も高い項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、特別支援学校児童・生徒は、今回の調査では「自分たちのことをよくわかってくれてくれる先生」、前回の調査では「わかりやすい授業をしてくれる先生」となっている。
- 保護者と学校評議員も、「子どもをよく理解し、適切に対処・指導してくれる」、「子どものやる気を引き出し、意欲を高められる」、「わかりやすい授業をしてくれる」とする回答の割合が高くなっている。

一方、一般県民は「子どものやる気を引き出し、意欲を高めている」、「子どもをよく理解し、適切に対処・指導している」、「信頼され、尊敬される人格をもっている」とする回答の割合が高くなっている。

回答の割合が最も高い項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、学校評議員は、今回の調査では「子どもをよく理解し、適切に対処・指導している」、前回の調査では「子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる」（平成 17 年度調査）となっている。一般県民は、今回の調査では「子どものやる気を引き出し、意欲を高めている」、前回の調査では「子どもをよく理解し、適切に対処・指導してくれる」となっている。
- また、現在の教員に必要な資質について、教職員は「子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力」、「同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力」、「思考力等を育むために子ども同士が学び合うなどの授業をデザインする実践的指導力」とする回答の割合が高くなっている。

保護者と一般県民は「子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力」、「思考力等を育むために子ども同士が学び合うなどの授業をデザインする実践的指導力」、「学習指導や生徒指導等の教育課題に対応できる力」とする回答の割合が高くなっている。

学校評議員は、「子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力」、「思考力等を育むために子ども同士が学び合うなどの授業をデザインする実践的指導力」、「同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力」とする回答の割合が高くなっている。

V-1 教員の印象

保護者、学校評議員に「教員の印象」について聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、保護者では「子ども一人ひとりと接する時間が少ない」、「子どもに信頼されている」、「様々な課題にすぐに対応してくれる」であり、学校評議員では「授業などにいろいろな工夫をしている」、「子ども一人ひとりと接する時間が少ない」、「家庭や地域との連携に積極的である」であった。

また、保護者と学校評議員の『教員の印象』について、回答の割合が最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、保護者の回答はいずれの調査においても「子ども一人ひとりと接する時間が少ない」との回答の割合が最も高く、平成25年度調査では65.5%、平成17年度調査では73.4%であった。一方、学校評議員の回答は平成25年度調査では「授業などにいろいろな工夫をしている」(74.9%)であり、平成17年度調査では「子ども一人ひとりと接する時間が少ない」(67.6%)であった。

『教員の印象』について保護者と学校評議員に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、保護者では「子ども一人ひとりと接する時間が少ない」(「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計。以下同じ。65.5%)、「子どもに信頼されている」(52.3%)、「様々な課題にすぐに対応してくれる」(46.1%)であり、学校評議員では「授業などにいろいろな工夫をしている」(74.9%)、「子ども一人ひとりと接する時間が少ない」(67.8%)、「家庭や地域との連携に積極的である」(65.7%)であった。(表V-1、図V-1～6 参照)

表 V-1 教員の印象 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計の上位5項目(保護者、学校評議員)

	保護者	学校評議員
1位	子ども一人ひとりと接する時間が少ない 65.5%	授業などにいろいろな工夫をしている 74.9%
2位	子どもに信頼されている 52.3%	子ども一人ひとりと接する時間が少ない 67.8%
3位	様々な課題にすぐに対応してくれる 46.1%	家庭や地域との連携に積極的である 65.7%
4位	授業などにいろいろな工夫をしている 43.5%	子どもに信頼されている 65.6%
5位	家庭や地域との連携に積極的である 42.2%	様々な課題にすぐに対応してくれる 59.2%

図 V-1 教員の印象

①子ども一人ひとりと接する時間が少ない(保護者 n=3,632、学校評議員 n=534)

■ そう思う □ どちらかというと思う □ どちらかというと思わない □ そう思わない □ わからない ■ 無回答

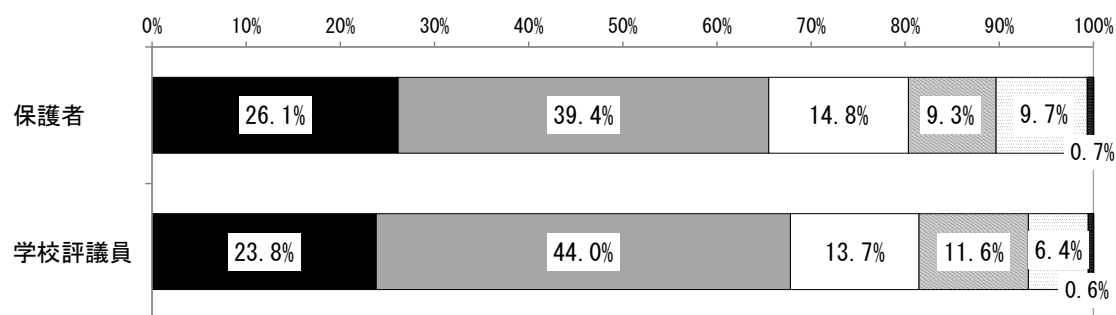


図 V-2 教員の印象

②子どものことに熱心に取り組む教員が少ない(保護者 n=3,632、学校評議員 n=534)

■ そう思う □ どちらかというと思う □ どちらかというと思わない □ そう思わない □ わからない ■ 無回答

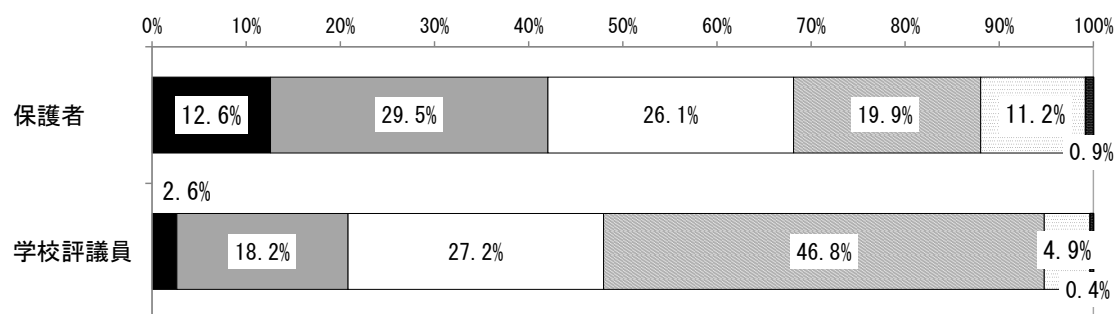


図 V-3 教員の印象

③様々な課題にすぐに対応してくれる(保護者 n=3,632、学校評議員 n=534)

■ そう思う □ どちらかというと思う □ どちらかというと思わない □ そう思わない □ わからない ■ 無回答

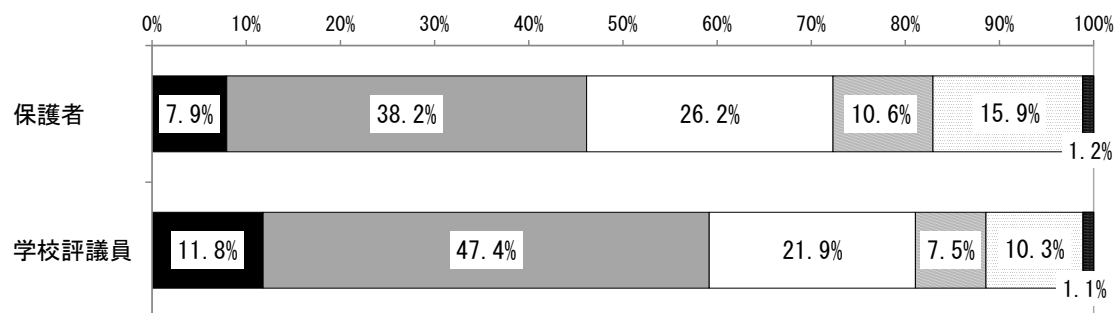


図 V-4 教員の印象

④子どもに信頼されている(保護者 n=3,632、学校評議員 n=534)

■ そう思う □ どちらかというと思う □ どちらかというと思わない □ そう思わない □ わからない ■ 無回答

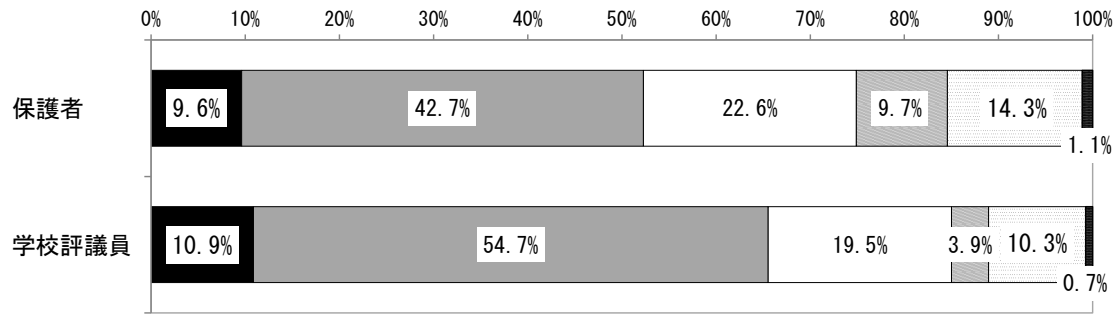


図 V-5 教員の印象

⑤授業などにいろいろな工夫をしている(保護者 n=3,632、学校評議員 n=534)

■ そう思う □ どちらかというと思う □ どちらかというと思わない □ そう思わない □ わからない ■ 無回答

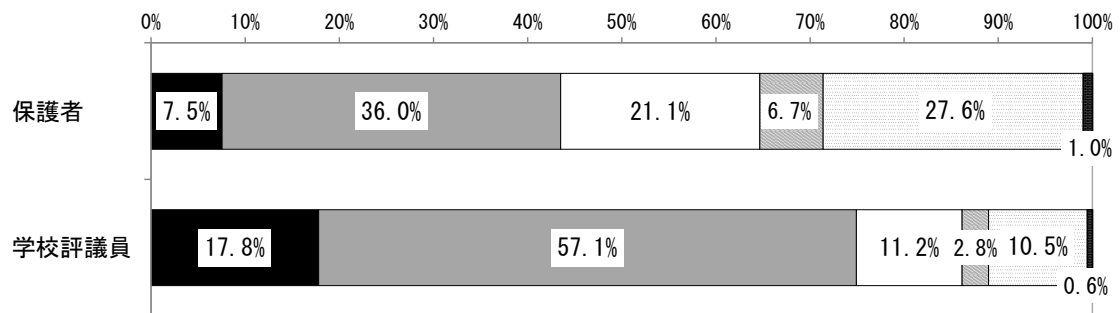
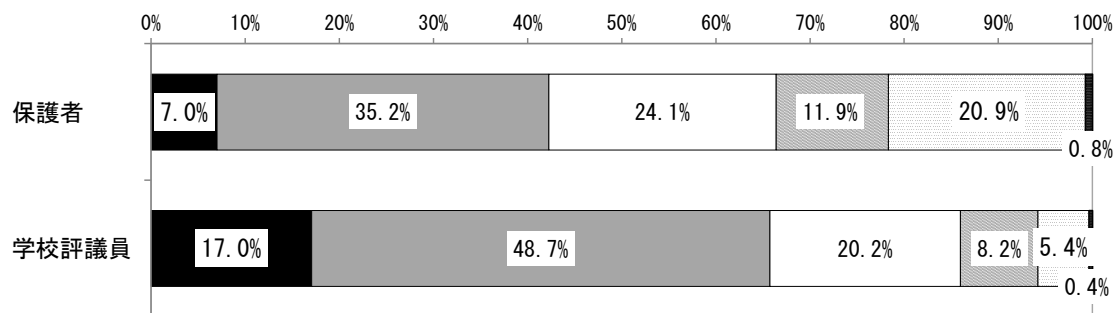


図 V-6 教員の印象

⑥家庭や地域との連携に積極的である(保護者 n=3,632、学校評議員 n=534)

■ そう思う □ どちらかというと思う □ どちらかというと思わない □ そう思わない □ わからない ■ 無回答



保護者と学校評議員の『教員の印象』について、回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、保護者の回答は平成 25 年度調査では「子ども一人ひとりと接する時間が少ない」（「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計。以下同じ。65.5%）、「子どもに信頼されている」（52.3%）、「様々な課題にすぐに対応してくれる」（46.1%）であり、平成 17 年度調査では「子ども一人ひとりと接する時間が少ない」（73.4%）、「子どものことに熱心に取り組む教員が少ない」（55.1%）、「子どもに信頼されている」（44.2%）であった。学校評議員の回答は平成 25 年度調査では「授業などにいろいろな工夫をしている」（74.9%）、「子ども一人ひとりと接する時間が少ない」（67.8%）、「家庭や地域との連携に積極的である」（65.7%）であり、平成 17 年度調査では「子ども一人ひとりと接する時間が少ない」（67.6%）、「授業などにいろいろな工夫をしている」（65.9%）、「子どもに信頼されている」（57.9%）であった。（表 V-2 参照）

表 V-2 教員の印象「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計(上位 6 項目)

	保護者		学校評議員	
	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)
	n=3,632	n=3,876	n=534	n=515
1 位	子ども一人ひとりと接する時間が少ない 65.5%	子ども一人ひとりと接する時間が少ない 73.4%	授業などにいろいろな工夫をしている 74.9%	子ども一人ひとりと接する時間が少ない 67.6%
2 位	子どもに信頼されている 52.3%	子どものことに熱心に 取り組む教員が少ない 55.1%	子ども一人ひとりと接する時間が少ない 67.8%	授業などにいろいろな工夫をしている 65.9%
3 位	様々な課題にすぐに対応してくれる 46.1%	子どもに信頼されている 44.2%	家庭や地域との連携に積極的である 65.7%	子どもに信頼されている 57.9%
4 位	授業などにいろいろな工夫をしている 43.5%	様々な課題にすぐに対応してくれる 37.7%	子どもに信頼されている 65.6%	家庭や地域との連携に積極的である 56.1%
5 位	家庭や地域との連携に積極的である 42.2%	授業などにいろいろな工夫をしている 35.3%	様々な課題にすぐに対応してくれる 59.2%	様々な課題にすぐに対応してくれる 55.2%
6 位	子どものことに熱心に 取り組む教員が少ない 42.1%	家庭や地域との連携に積極的である 35.2%	子どものことに熱心に 取り組む教員が少ない 20.8%	子どものことに熱心に 取り組む教員が少ない 33.6%

V-2 日々の業務で感じていること

教職員に、『日々の業務で感じていること』について聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、小学校教職員では「教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった」、「特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している」、「教員間の仕事の分担や業務量に差がある」であり、中学校教職員では「特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している」、「教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった」、「教員間の仕事の分担や業務量に差がある」であった。高等学校教職員と特別支援学校教職員では「教員間の仕事の分担や業務量に差がある」、「教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった」、「特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している」の順に回答の割合が高かった。

『日々の業務で感じていること』について、回答の割合が最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、小学校の教職員の回答ではいずれの調査においても「教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった」と回答する割合が最も高く、平成25年度調査では85.9%、平成17年度調査では81.1%であった。中学校教職員の回答は平成25年度調査では「特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している」(85.2%)であり、平成17年度調査では「教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった」(87.0%)であった。高等学校教職員の回答は平成25年度調査では「教員間の仕事の分担や業務量に差がある」(88.6%)であり、平成17年度調査では「教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった」(87.6%)であった。特別支援学校教職員の回答はいずれの調査においても「教員間の仕事の分担や業務量に差がある」と回答する割合が最も高く、平成25年度調査では83.5%、平成17年度調査では70.2%であった。

『日々の業務で感じていること』について教職員に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、小学校教職員では「教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった」(「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計。以下同じ。85.9%)、「特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している」(82.7%)、「教員間の仕事の分担や業務量に差がある」(71.9%)であり、中学校教職員では「特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している」(85.2%)、「教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった」(82.1%)、「教員間の仕事の分担や業務量に差がある」(80.0%)であった。高等学校教職員と特別支援学校教職員では「教員間の仕事の分担や業務量に差がある」(高等学校：88.6%、特別支援学校：83.5%)、「教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった」(高等学校：74.7%、特別支援学校：80.4%)、「特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している」(高等学校：61.5%、特別支援学校：66.5%)の順に回答の割合が高かった。(表V-3、図V-7～13 参照)

表 V-3 日々の業務で感じていること 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計(上位5項目)

	教職員(小)	教職員(中)	教職員(高)	教職員(特)
1位	教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった 85.9%	特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している 85.2%	教員間の仕事の分担や業務量に差がある 88.6%	教員間の仕事の分担や業務量に差がある 83.5%
2位	特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している 82.7%	教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった 82.1%	教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった 74.7%	教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった 80.4%
3位	教員間の仕事の分担や業務量に差がある 71.9%	教員間の仕事の分担や業務量に差がある 80.0%	特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している 61.5%	特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している 66.5%
4位	児童・生徒の問題行動に、どこまで対応すべきか迷うことが多くなった 63.7%	児童・生徒の問題行動に、どこまで対応すべきか迷うことが多くなった 59.5%	児童・生徒の問題行動に、どこまで対応すべきか迷うことが多くなった 52.8%	児童・生徒の問題行動に、どこまで対応すべきか迷うことが多くなった 51.0%
5位	児童・生徒を理解することが、これまで以上に難しくなった 48.1%	児童・生徒を理解することが、これまで以上に難しくなった 50.2%	児童・生徒を理解することが、これまで以上に難しくなった 42.7%	人間関係での悩みごとが増えた 43.3%

図 V-7 日々の業務で感じていること

①児童・生徒を理解することが、これまで以上に難しくなった

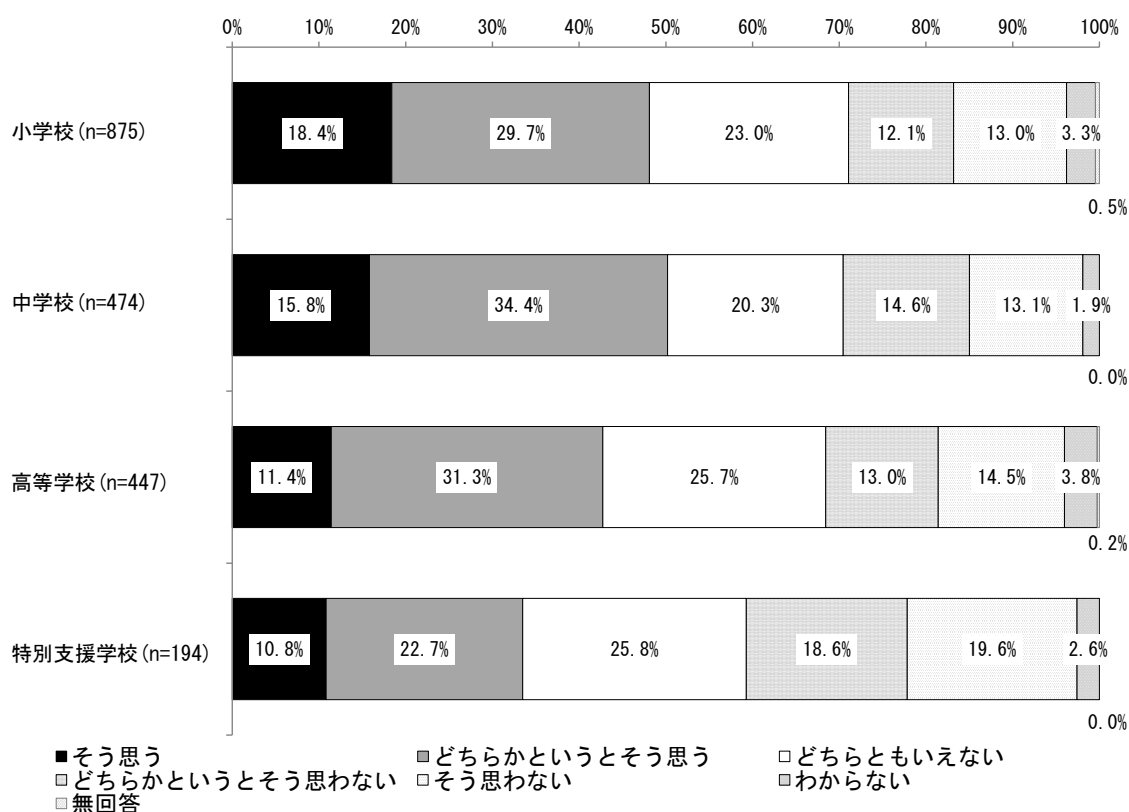


図 V-8 日々の業務で感じていること

②教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった

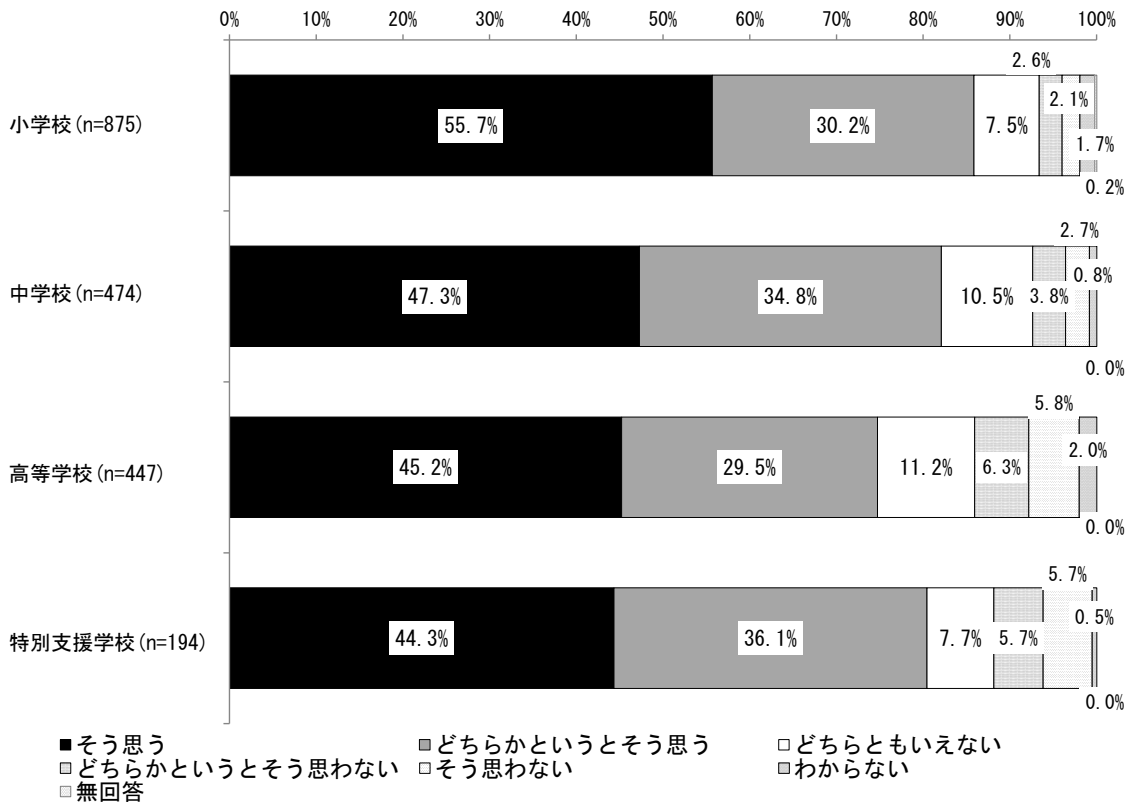


図 V-9 日々の業務で感じていること

③特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している

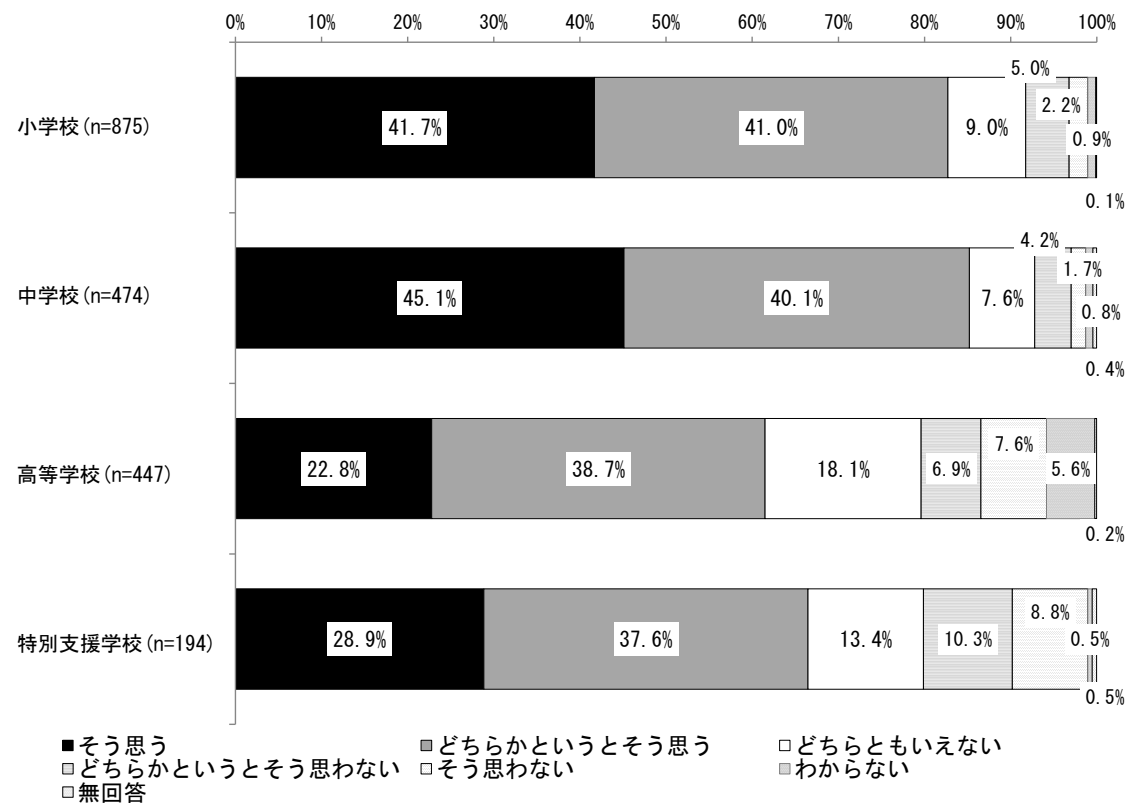


図 V-10 日々の業務で感じていること

④児童・生徒の問題行動に、どこまで対応すべきか迷うことが多くなった

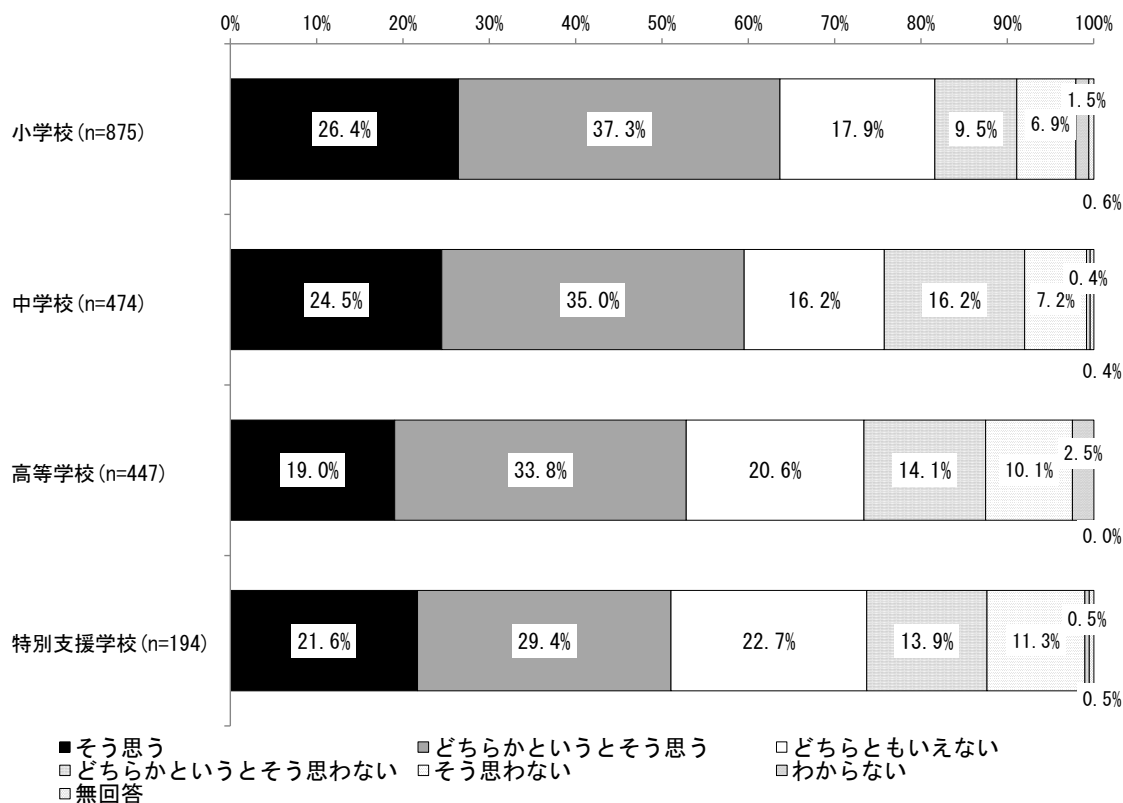


図 V-11 日々の業務で感じていること

⑤家庭訪問や外部連携会議、見回りなどへの対応で、学校を離れる回数が増えた

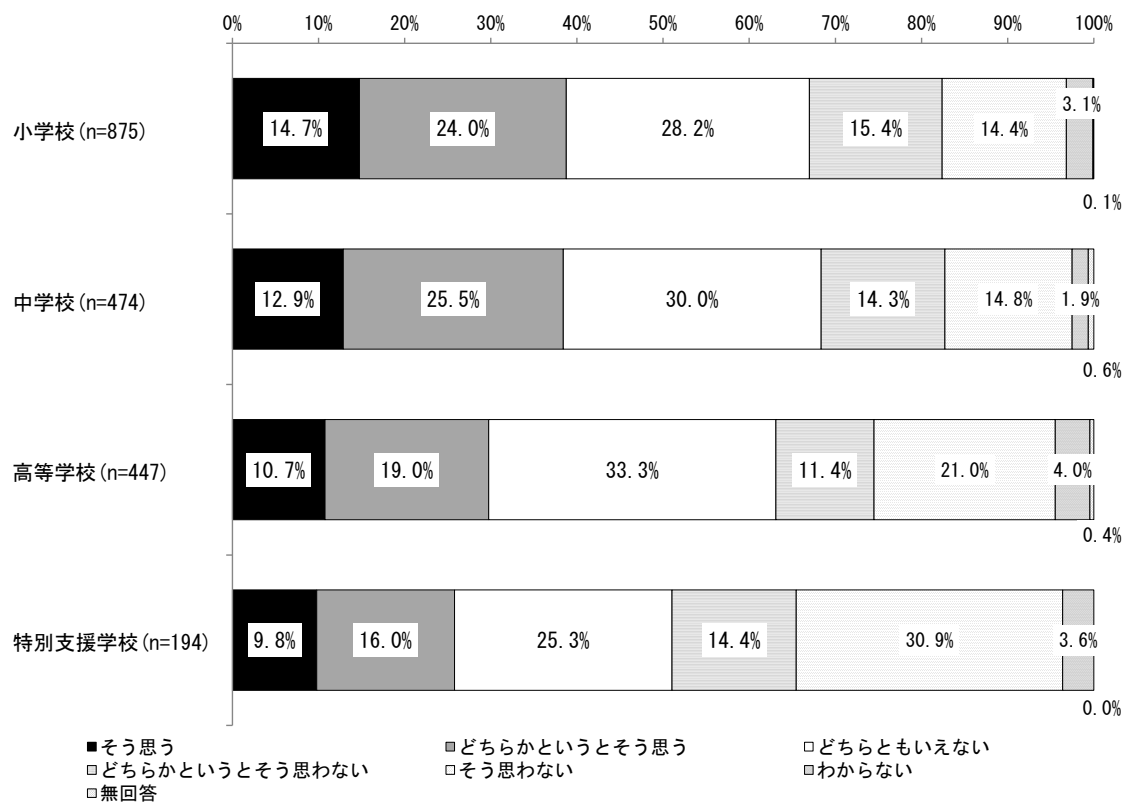


図 V-12 日々の業務で感じていること
⑥教員間の仕事の分担や業務量に差がある

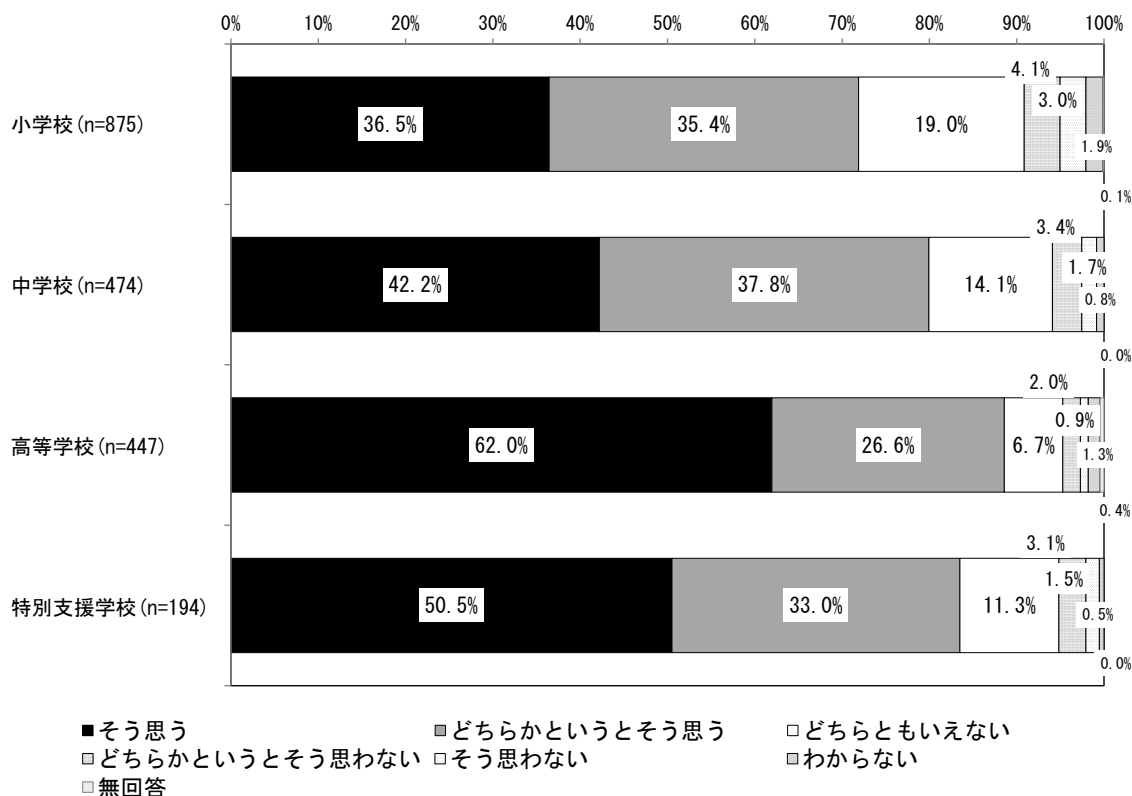
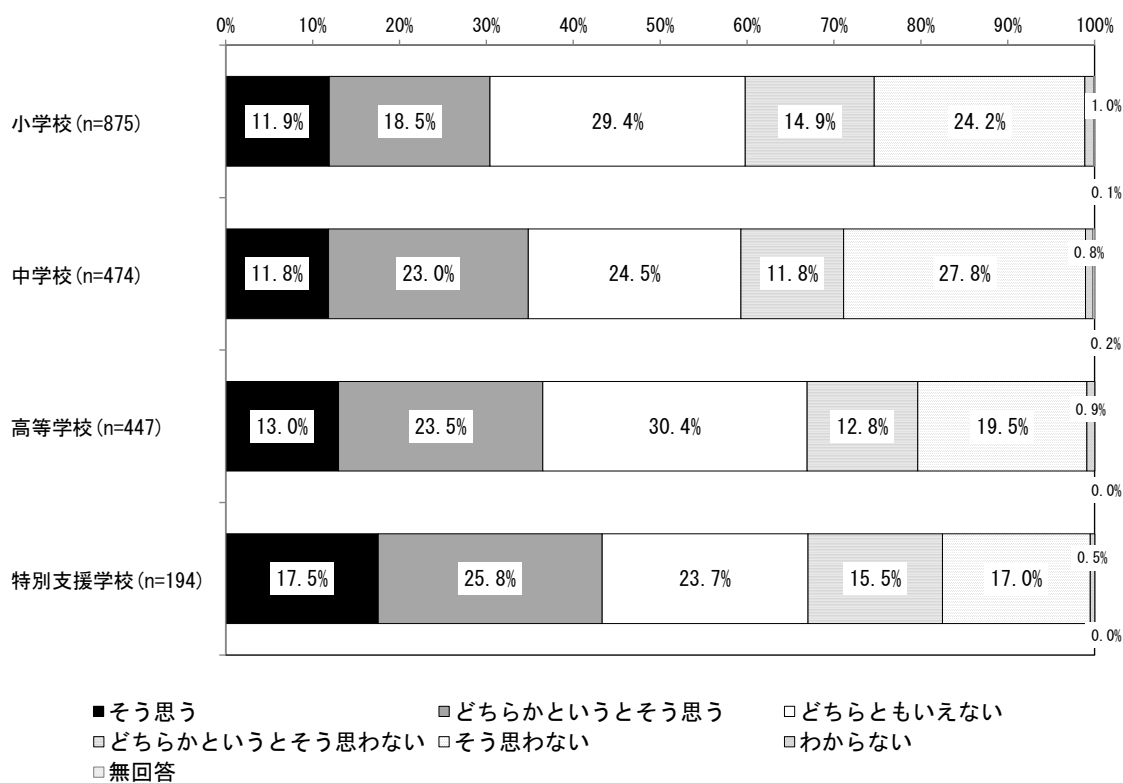


図 V-13 日々の業務で感じていること
⑦人間関係での悩みごとが増えた



『日々の業務で感じていること』について、回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、小学校教職員の回答は平成 25 年度調査では「教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった」（「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計。以下同じ。85.9%）、「特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している」（82.7%）、「教員間の仕事の分担や業務量に差がある」（71.9%）であり、平成 17 年度調査では「教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった」（81.1%）、「特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している」（80.2%）、「児童・生徒の問題行動に、どこまで対応すべきか迷うことが多くなった」（60.8%）であった。

中学校教職員の回答は平成 25 年度調査では「特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している」（85.2%）、「教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった」（82.1%）、「教員間の仕事の分担や業務量に差がある」（80.0%）であり、平成 17 年度調査では「教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった」（87.0%）、「特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している」（84.5%）、「教員間の仕事の分担や業務量に差がある」（77.3%）であった。

高等学校教職員の回答は平成 25 年度調査では「教員間の仕事の分担や業務量に差がある」（88.6%）、「教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった」（74.7%）、「特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している」（61.5%）であり、平成 17 年度調査では「教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった」（87.6%）、「教員間の仕事の分担や業務量に差がある」（85.6%）、「特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している」（59.3%）であった。

特別支援学校教職員の回答は平成 25 年度調査では「教員間の仕事の分担や業務量に差がある」（83.5%）、「教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった」（80.4%）、「特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している」（66.5%）であり、平成 17 年度調査では「教員間の仕事の分担や業務量に差がある」（70.2%）、「教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった」（67.6%）、「特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している」（58.5%）であった。（表 V-4 参照）

表 V-4 日々の業務で感じていること(上位6項目)

	教職員(小)		教職員(中)	
	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)
	n=875	n=806	n=474	n=515
1 位	教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった	教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった	特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している	教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった
	85.9%	81.1%	85.2%	87.0%
2 位	特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している	特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している	教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった	特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している
	82.7%	80.2%	82.1%	84.5%
3 位	教員間の仕事の分担や業務量に差がある	児童・生徒の問題行動に、どこまで対応すべきか迷うことが多くなった	教員間の仕事の分担や業務量に差がある	教員間の仕事の分担や業務量に差がある
	71.9%	60.8%	80.0%	77.3%
4 位	児童・生徒の問題行動に、どこまで対応すべきか迷うことが多くなった	教員間の仕事の分担や業務量に差がある	児童・生徒の問題行動に、どこまで対応すべきか迷うことが多くなった	児童・生徒を理解することが、これまで以上に難しくなった
	63.7%	59.4%	59.5%	56.3%
5 位	児童・生徒を理解することが、これまで以上に難しくなった	児童・生徒を理解することが、これまで以上に難しくなった	児童・生徒を理解することが、これまで以上に難しくなった	児童・生徒の問題行動に、どこまで対応すべきか迷うことが多くなった
	48.1%	54.7%	50.2%	55.0%

	教職員(高)		教職員(特)	
	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)
	n=447	n=354	n=194	n=188
1 位	教員間の仕事の分担や業務量に差がある	教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった	教員間の仕事の分担や業務量に差がある	教員間の仕事の分担や業務量に差がある
	88.6%	87.6%	83.5%	70.2%
2 位	教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった	教員間の仕事の分担や業務量に差がある	教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった	教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった
	74.7%	85.6%	80.4%	67.6%
3 位	特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している	特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している	特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している	特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している
	61.5%	59.3%	66.5%	58.5%
4 位	児童・生徒の問題行動に、どこまで対応すべきか迷うことが多くなった	児童・生徒を理解することが、これまで以上に難しくなった	児童・生徒の問題行動に、どこまで対応すべきか迷うことが多くなった	児童・生徒の問題行動に、どこまで対応すべきか迷うことが多くなった
	52.8%	53.7%	51.0%	46.8%
5 位	児童・生徒を理解することが、これまで以上に難しくなった	児童・生徒の問題行動に、どこまで対応すべきか迷うことが多くなった	人間関係での悩みごとが増えた	人間関係での悩みごとが増えた
	42.7%	53.1%	43.3%	39.4%

V-3 望ましい教員像

保護者、学校評議員、一般県民に「望ましい教員像」について聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、保護者及び学校評議員では、「子どもをよく理解し、適切に対処・指導してくれる(いる)」、「子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる(いる)」、「わかりやすい授業をしてくれる(いる)」であり、一般県民では、「子どものやる気を引き出し、意欲を高めている」、「子どもをよく理解し、適切に対処・指導している」、「信頼され、尊敬される人格をもっている」であった。

『望ましい教員像』について、回答の割合が最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、保護者では、いずれの調査においても、「子どもをよく理解し、適切に対処・指導してくれる」との回答が最も高く、平成25年度調査では69.2%、平成17年度調査では66.8%であった。学校評議員の回答は平成25年度調査では、「子どもをよく理解し、適切に対処・指導している」(65.0%)であり、平成17年度調査では「子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる」(64.9%)であった。一般県民の回答は平成25年度調査では「子どものやる気を引き出し、意欲を高めている」(56.1%)であり、平成17年度調査では「子どもをよく理解し、適切に対処・指導してくれる」(59.5%)であった。

『望ましい教員像』について保護者、学校評議員及び一般県民に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、保護者及び学校評議員では、「子どもをよく理解し、適切に対処・指導してくれる(いる)」(保護者：69.2%、学校評議員：65.0%)、「子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる(いる)」(保護者：63.0%、学校評議員：61.8%)、「わかりやすい授業をしてくれる(いる)」(保護者：48.5%、学校評議員：47.6%)であり、一般県民では、「子どものやる気を引き出し、意欲を高めている」(56.1%)、「子どもをよく理解し、適切に対処・指導している」(53.9%)、「信頼され、尊敬される人格をもっている」(43.2%)であった。

(表V-5、図V-14～16 参照)

表 V-5 望ましい教員像(上位5項目)

	保護者	学校評議員	一般県民
1位	子どもをよく理解し、適切に対処・指導してくれる 69.2%	子どもをよく理解し、適切に対処・指導している 65.0%	子どものやる気を引き出し、意欲を高めている 56.1%
2位	子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる 63.0%	子どものやる気を引き出し、意欲を高めている 61.8%	子どもをよく理解し、適切に対処・指導してくれる 53.9%
3位	わかりやすい授業をしてくれる 48.5%	わかりやすい授業をしている 47.6%	信頼され、尊敬される人格をもっている 43.2%
4位	信頼され、尊敬される人格をもっている 40.2%	信頼され、尊敬される人格をもっている 46.8%	子どもに社会のルールやマナーを身につけさせている 35.4%
5位	時代の変化に対応した指導を実践している 15.6%	時代の変化に対応した指導を実践している 21.2%	わかりやすい授業をしてくれる 35.3%

図 V-14 望ましい教員像(保護者 n=3, 632)

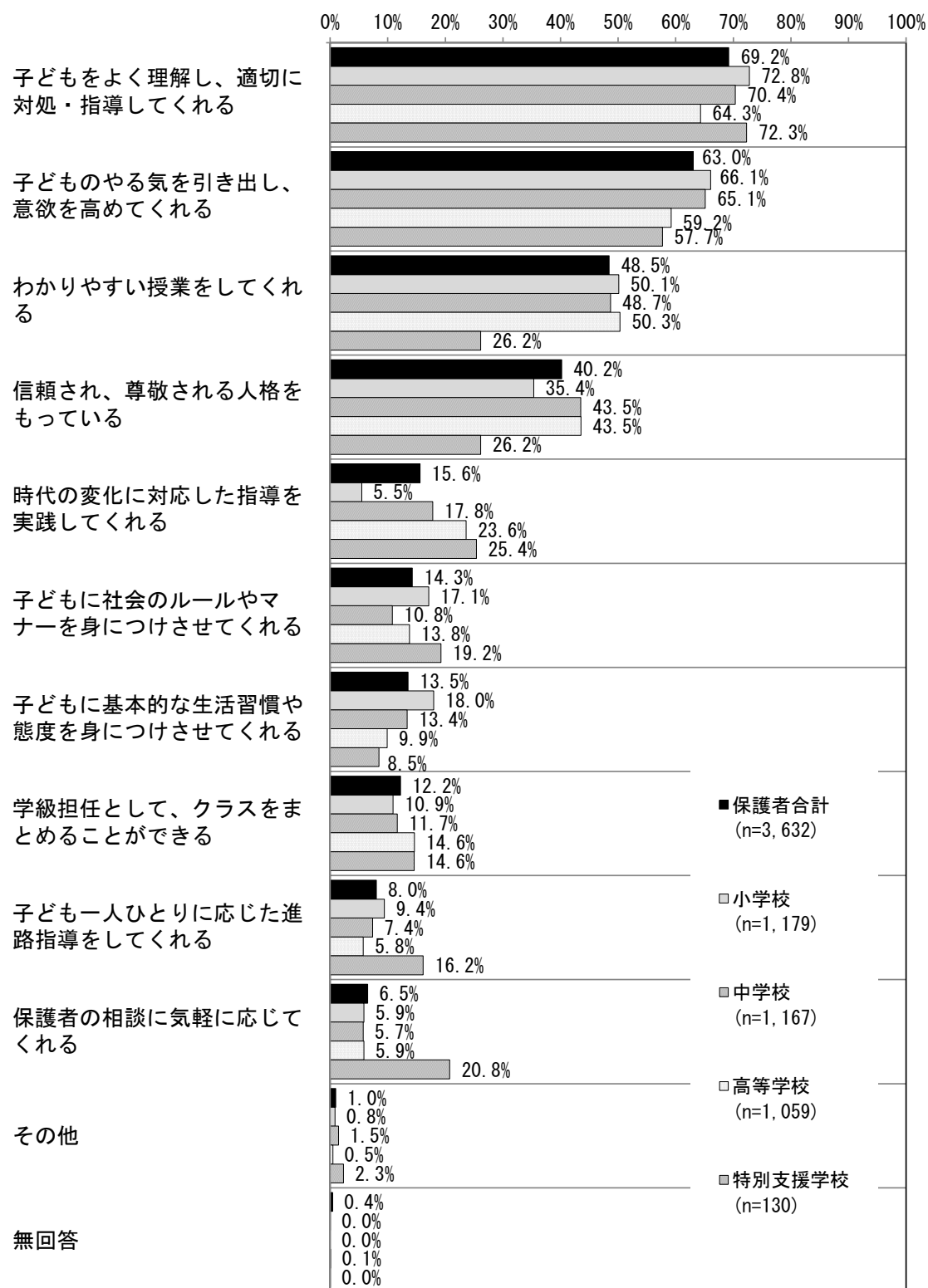


図 V-15 望ましい教員像(学校評議員 n=534)

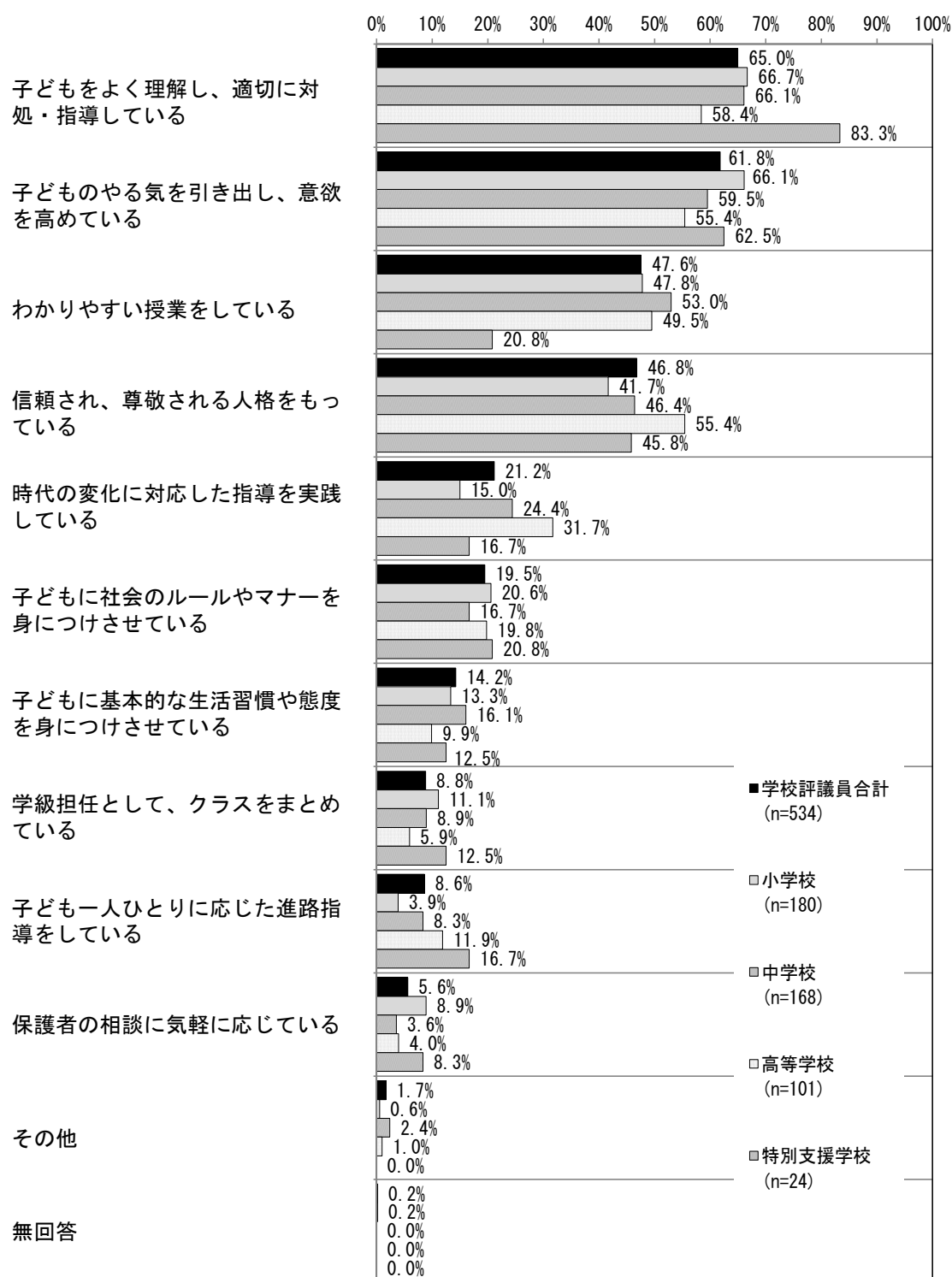
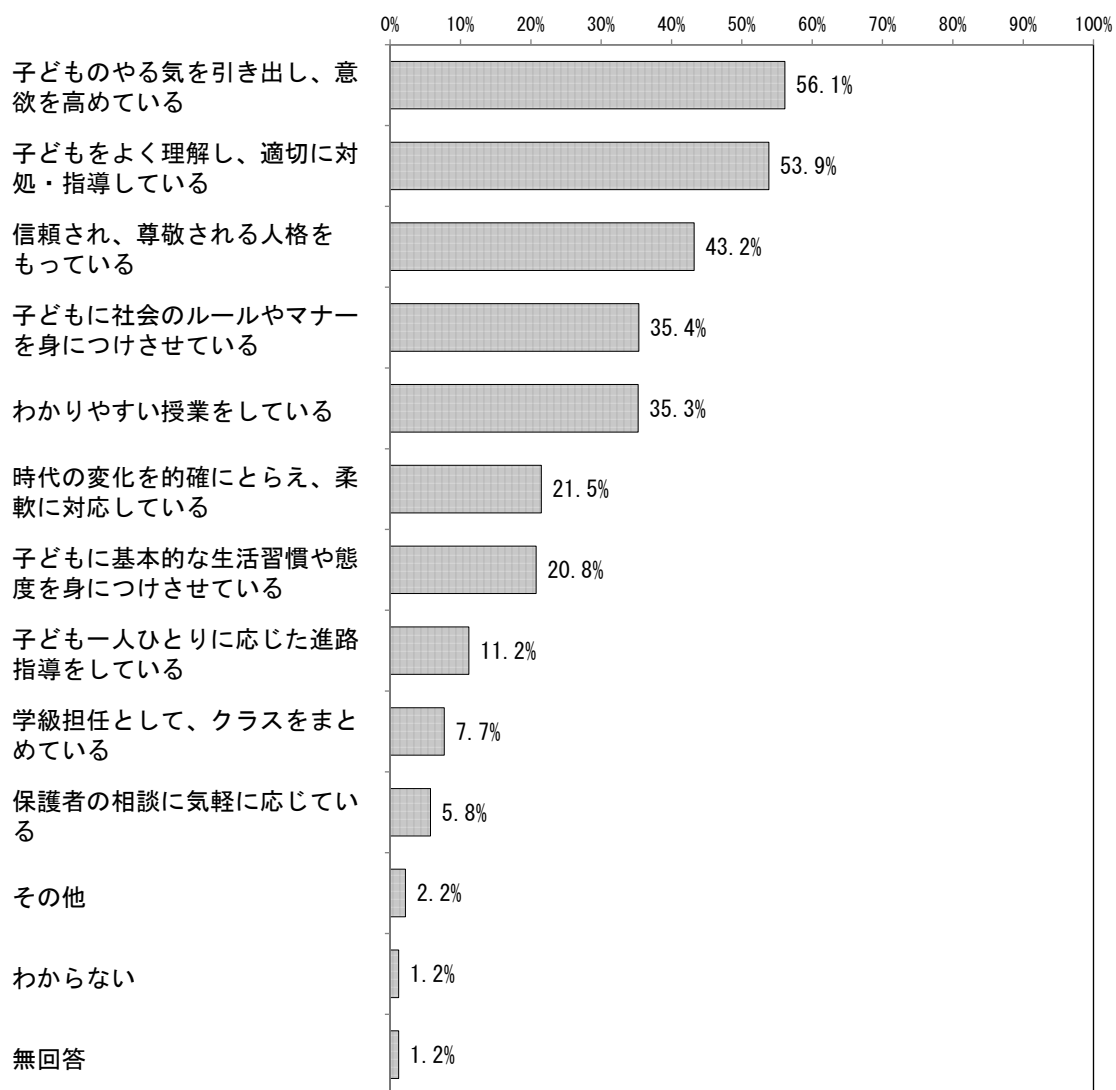


図 V-16 望ましい教員像(一般県民 n=1, 233)



『望ましい教職員像』について、回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、保護者の回答は平成 25 年度調査では「子どもをよく理解し、適切に対処・指導してくれる」(69.2%)、「子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる」(63.0%)、「わかりやすい授業をしてくれる」(48.5%)であり、平成 17 年度調査では「子どもをよく理解し、適切に対処・指導してくれる」(66.8%)、「子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる」(64.3%)、「わかりやすい授業をしてくれる」(46.1%)であった。

学校評議員の回答は平成 25 年度調査では保護者及び学校評議員では、「子どもをよく理解し、適切に対処・指導している」(65.0%)、「子どものやる気を引き出し、意欲を高めている」(61.8%)、「わかりやすい授業をしている」(47.6%)であり、平成 17 年度調査では「子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる」(64.9%)、「子どもをよく理解し、適切に対処・指導してくれる」(64.7%)、「信頼され、尊敬される人格をもっている」(49.7%)であった。

一般県民の回答は平成 25 年度調査では「子どものやる気を引き出し、意欲を高めている」(56.1%)、「子どもをよく理解し、適切に対処・指導している」(53.9%)、「信頼され、尊敬される人格をもっている」(43.2%)であり、平成 17 年度調査では「子どもをよく理解し、適切に対処・指導してくれる」(59.5%)、「子どものやる気を出させ、意欲を高めてくれる」(52.9%)、「信頼され、尊敬される人格をもっている」(38.2%)であった。(表 V-6、図 V-17 ~25 参照)

表 V-6 望ましい教員像(上位9項目)

	保護者		学校評議員		一般県民	
	(平成25年度)	(平成17年度)	(平成25年度)	(平成17年度)	(平成25年度)	(平成17年度)
	n=3,632	n=3,876	n=534	n=515	n=1,233	n=1,530
1位	子どもをよく理解し、適切に対処・指導してくれる	子どもをよく理解し、適切に対処・指導してくれる	子どもをよく理解し、適切に対処・指導している	子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる	子どものやる気を引き出し、意欲を高めている	子どもをよく理解し、適切に対処・指導してくれる
	69.2%	66.8%	65.0%	64.9%	56.1%	59.5%
2位	子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる	子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる	子どものやる気を引き出し、意欲を高めている	子どもをよく理解し、適切に対処・指導してくれる	子どもをよく理解し、適切に対処・指導している	子どもを出させ、意欲を高めてくれる
	63.0%	64.3%	61.8%	64.7%	53.9%	52.9%
3位	わかりやすい授業をしてくれる	わかりやすい授業をしてくれる	わかりやすい授業をしている	信頼され、尊敬される人格をもっている	信頼され、尊敬される人格をもっている	信頼され、尊敬される人格をもっている
	48.5%	46.1%	47.6%	49.7%	43.2%	38.2%
4位	信頼され、尊敬される人格をもっている	信頼され、尊敬される人格をもっている	信頼され、尊敬される人格をもっている	わかりやすい授業をしてくれる	子どもに社会のルールやマナーを身につけさせている	わかりやすい授業をする
	40.2%	40.8%	46.8%	41.2%	35.4%	36.4%
5位	時代の変化に対応した指導を実践している	時代の変化に対応した指導を実践してくれる	時代の変化に対応した指導を実践してくれる	時代の変化に対応した指導を実践してくれる	わかりやすい授業をしている	子どもに基本的な生活習慣や態度を身につけさせてくれる
	15.6%	14.6%	21.2%	20.4%	35.3%	30.3%
6位	子どもに社会のルールやマナーを身につけさせてくれる	子ども一人ひとりに応じた進路指導をしてくれる	子どもに社会のルールやマナーを身につけさせている	子どもに基本的な生活習慣や態度を身につけさせてくれる	時代の変化を的確にとらえ、柔軟に対応している	時代の変化を的確にとらえ、柔軟に対応できる
	14.3%	12.5%	19.5%	17.1%	21.5%	25.5%
7位	子どもに基本的な生活習慣や態度を身につけさせてくれる	学級担任としてクラスをまとめることができる	子どもに基本的な生活習慣や態度を身につけさせている	学級担任としてクラスをまとめることができる	子どもに基本的な生活習慣や態度を身につけさせている	子ども一人ひとりに応じた進路指導をしてくれる
	13.5%	10.2%	14.2%	12.0%	20.8%	12.2%
8位	学級担任として、クラスをまとめることができる	子どもに基本的な生活習慣や態度を身につけさせてくれる	学級担任として、クラスをまとめている	保護者の相談に気軽に応じしてくれる	子ども一人ひとりに応じた進路指導をしている	学級担任として、クラスをまとめることができる
	12.2%	9.6%	8.8%	7.4%	11.2%	9.4%
9位	子ども一人ひとりに応じた進路指導をしてくれる	保護者の相談に気軽に応じしてくれる	子ども一人ひとりに応じた進路指導をしている	子ども一人ひとりに応じた進路指導をしている	学級担任として、クラスをまとめている	保護者の相談に気軽に応じしてくれる
	8.0%	6.0%	8.6%	5.8%	7.7%	9.3%

図 V-17 望ましい教員像(保護者：小学校)

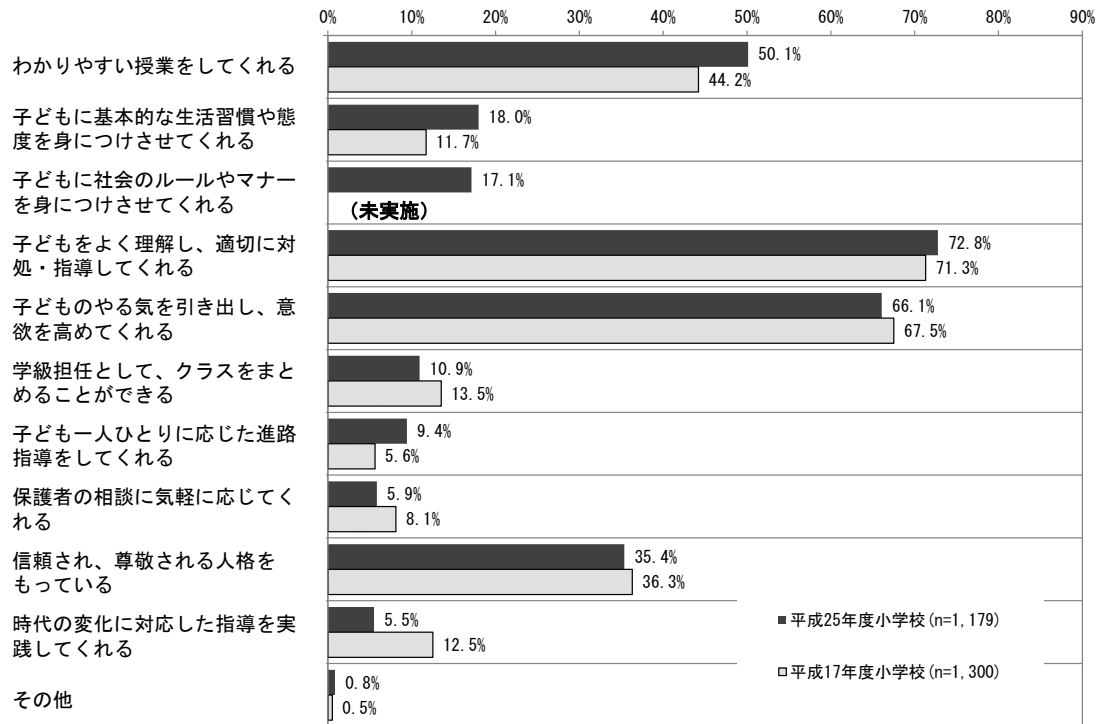


図 V-18 望ましい教員像(保護者：中学校)

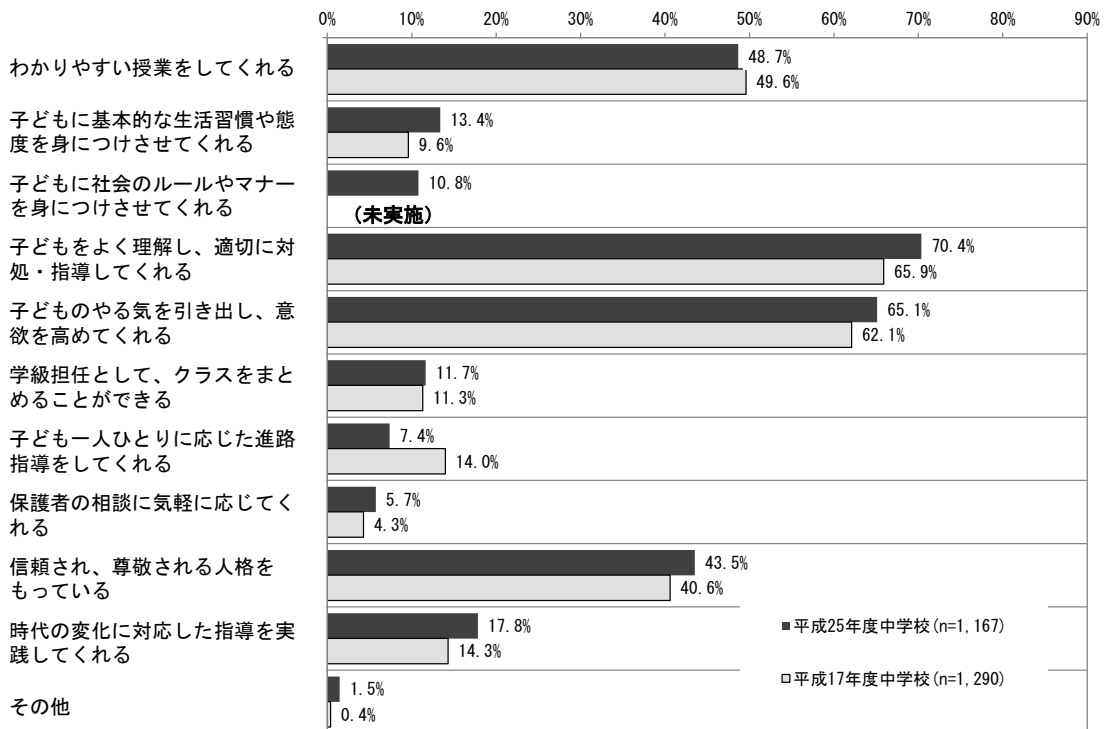


図 V-19 望ましい教員像(保護者：高等学校)

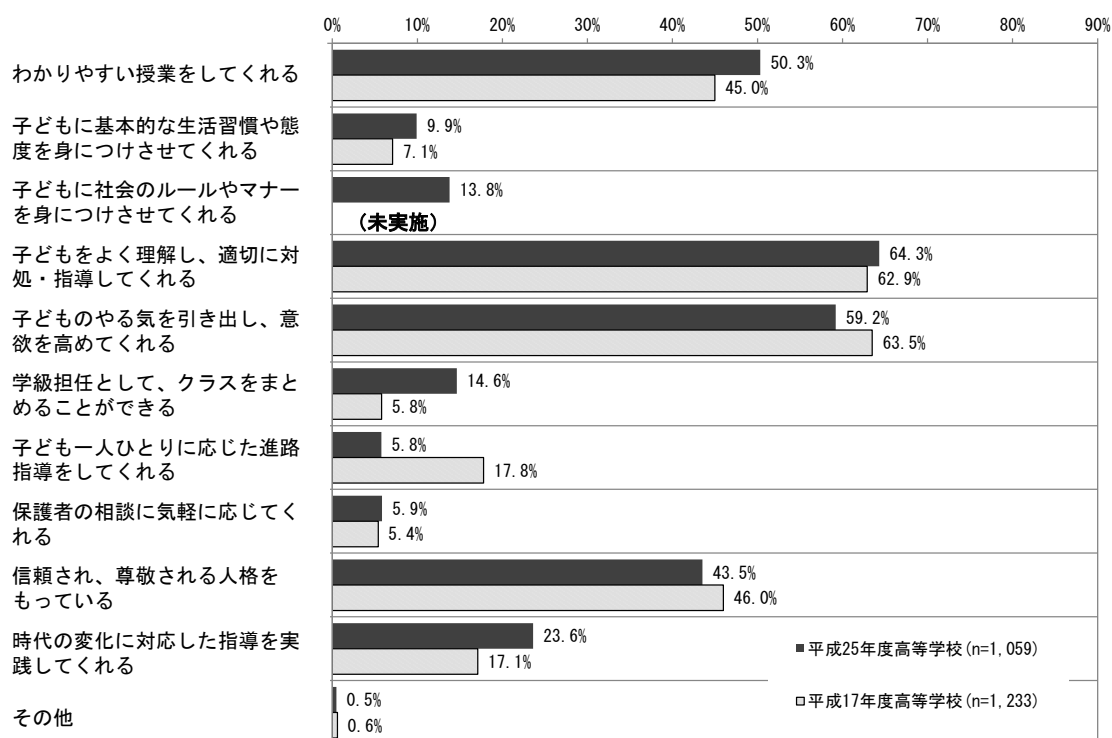


図 V-20 望ましい教員像(保護者：特別支援学校)

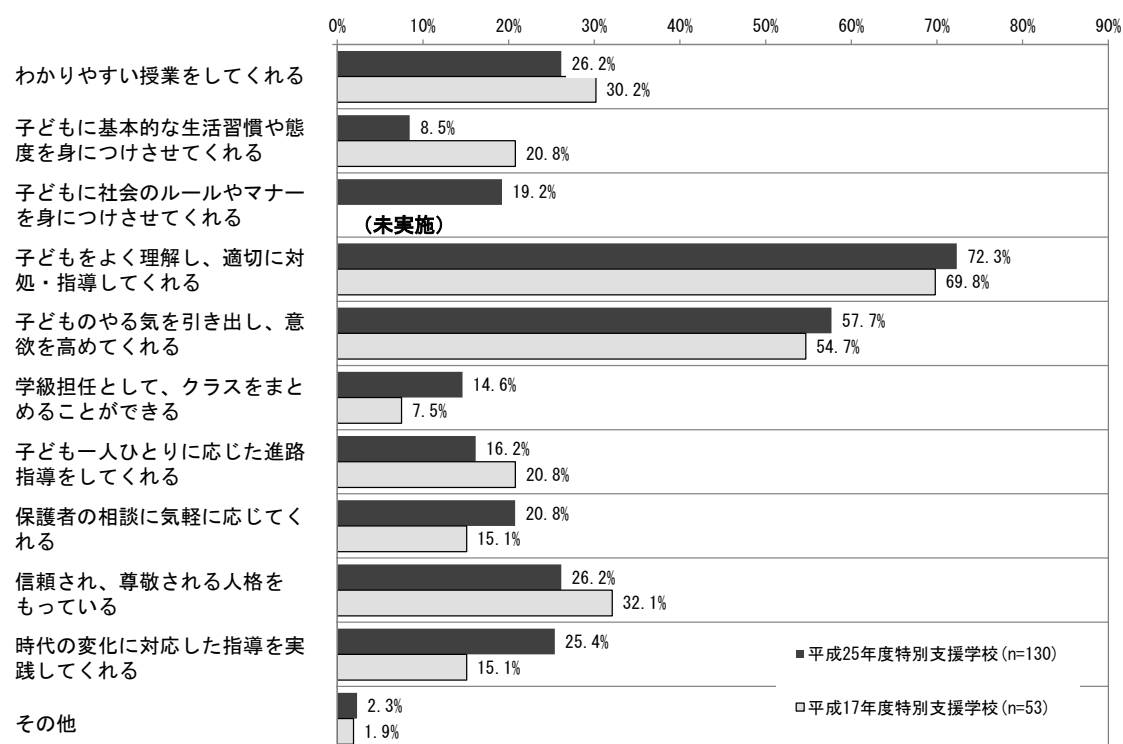


図 V-21 望ましい教員像(学校評議員：小学校)

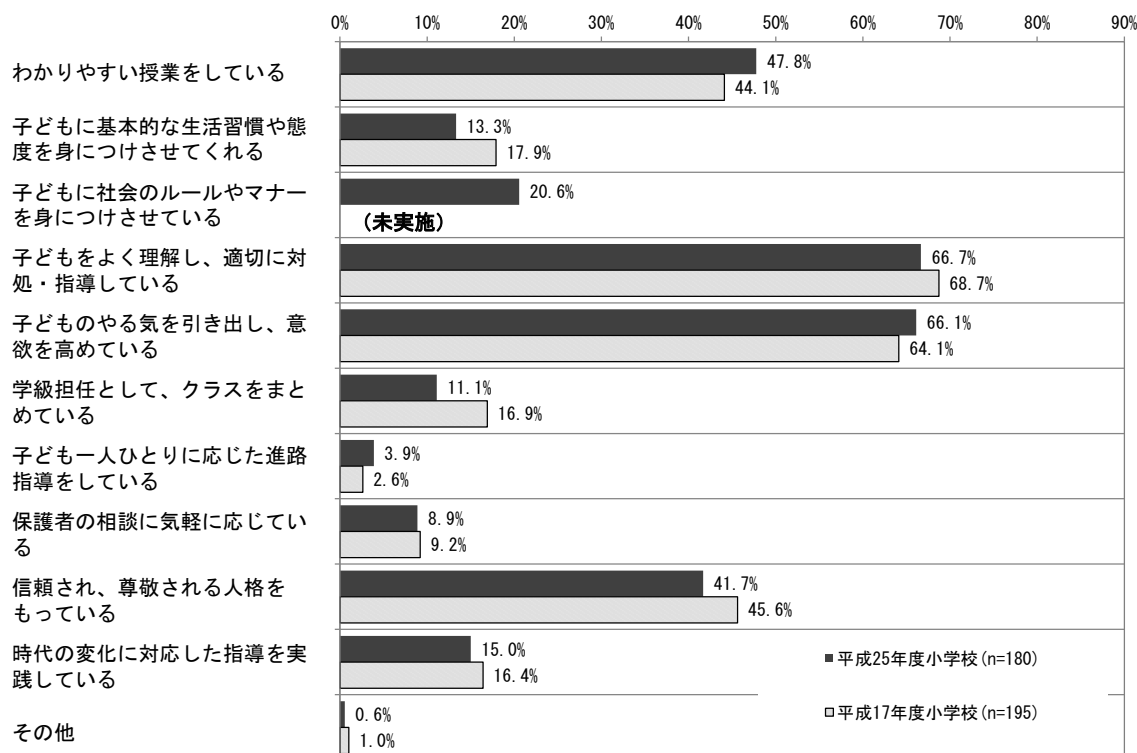


図 V-22 望ましい教員像(学校評議員：中学校)

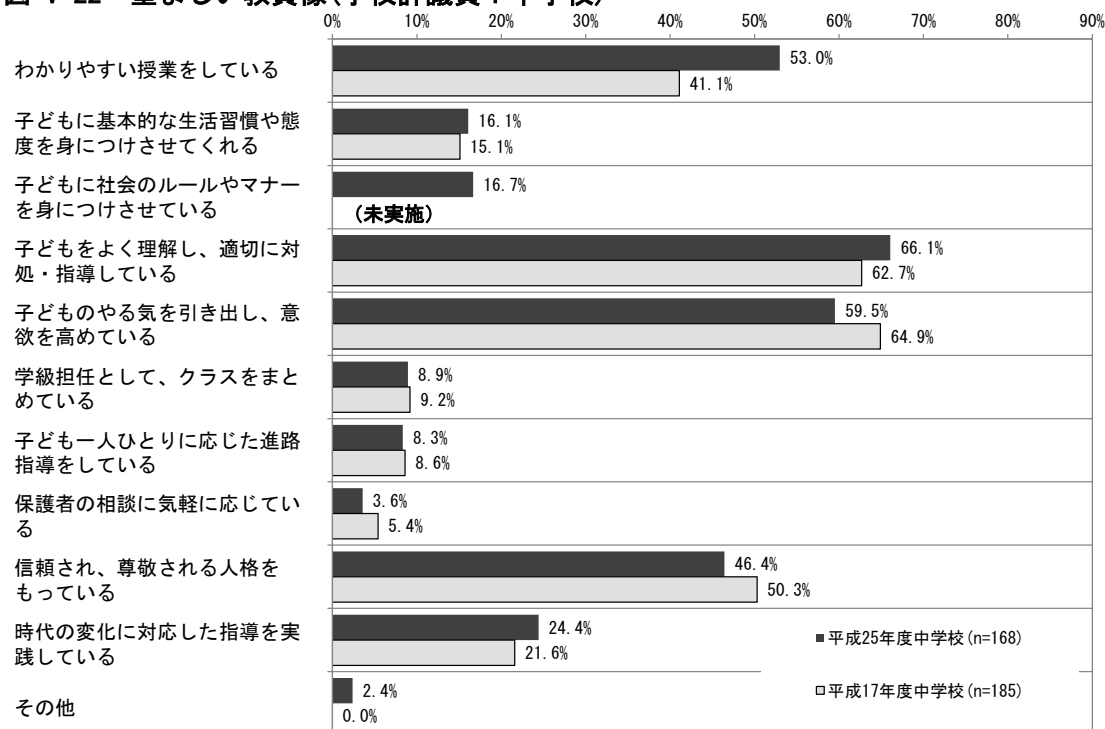


図 V-23 望ましい教員像(学校評議員：高等学校)

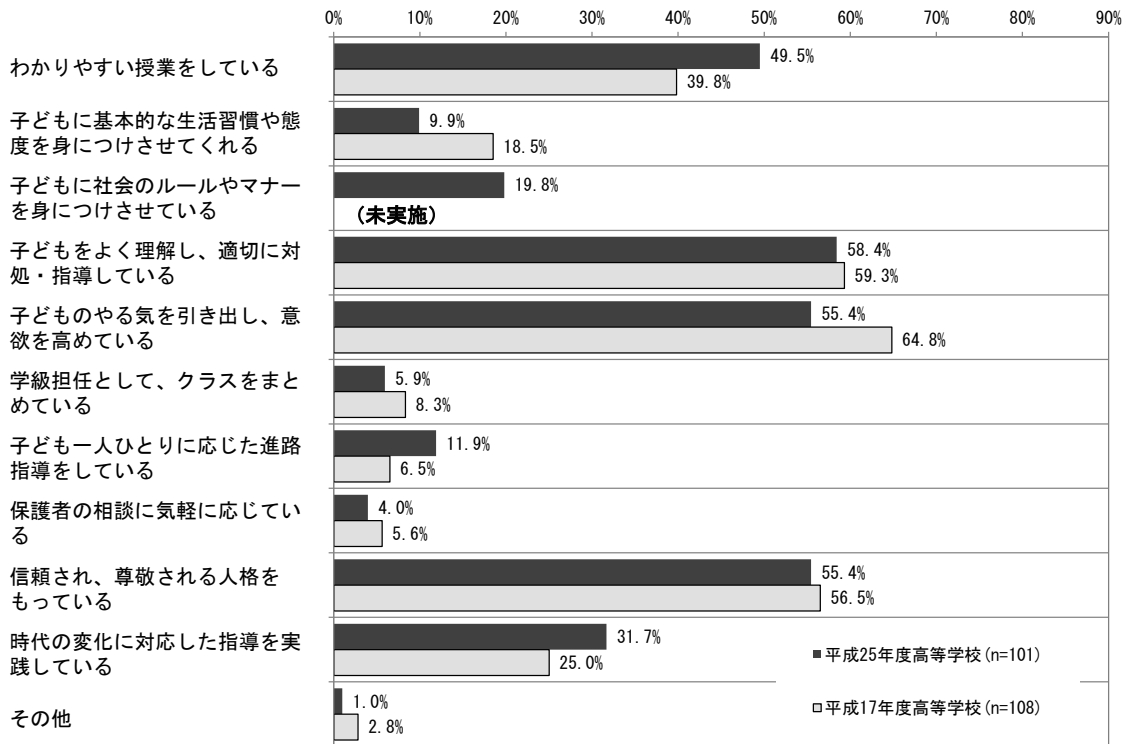


図 V-24 望ましい教員像(学校評議員：特別支援学校)

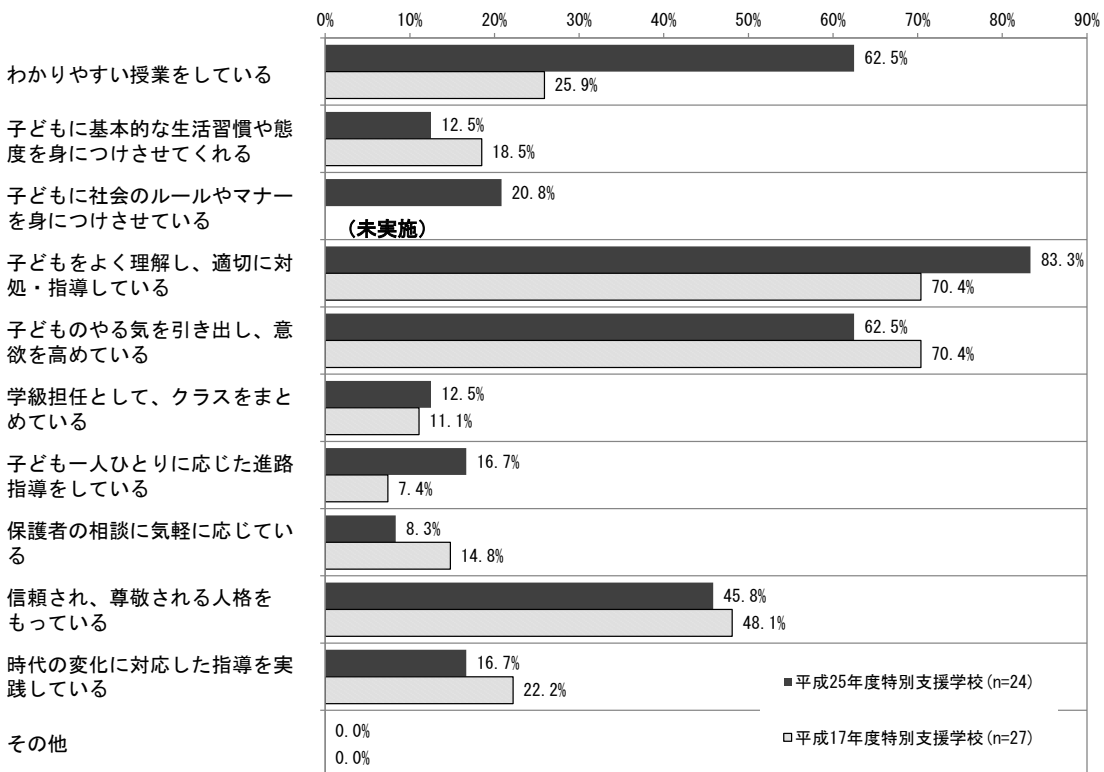
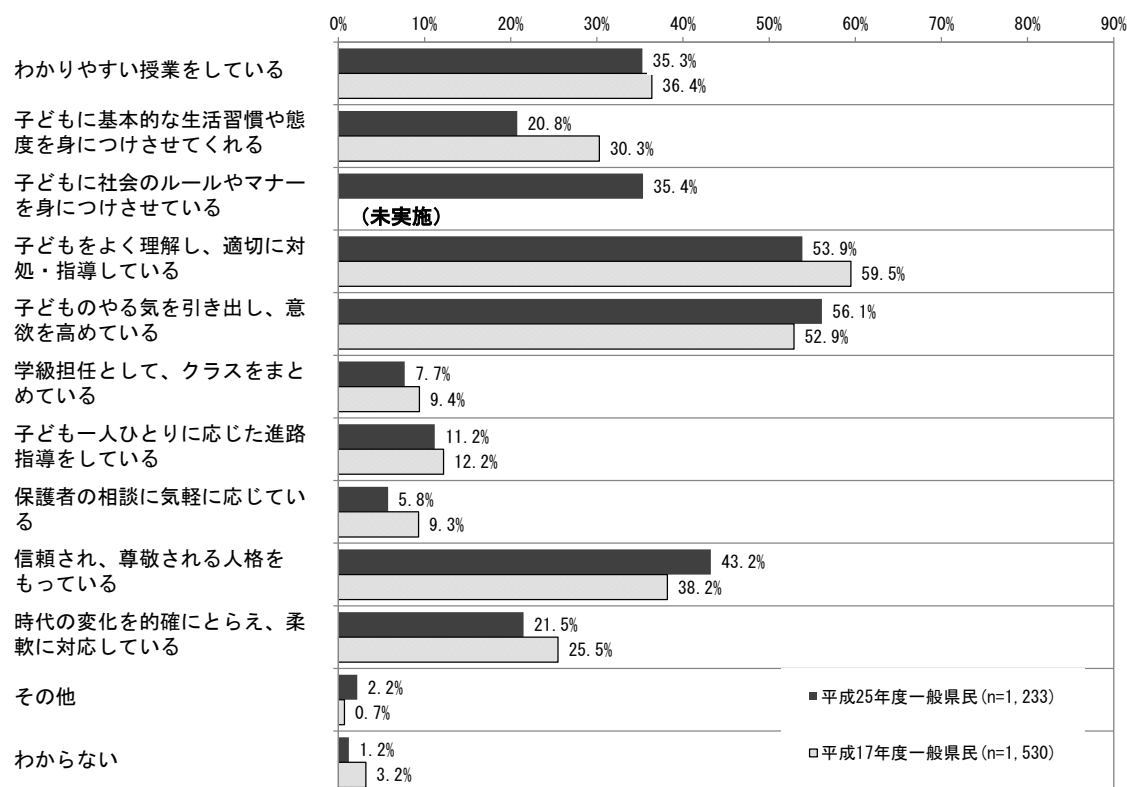


図 V-25 望ましい教員像(一般県民)



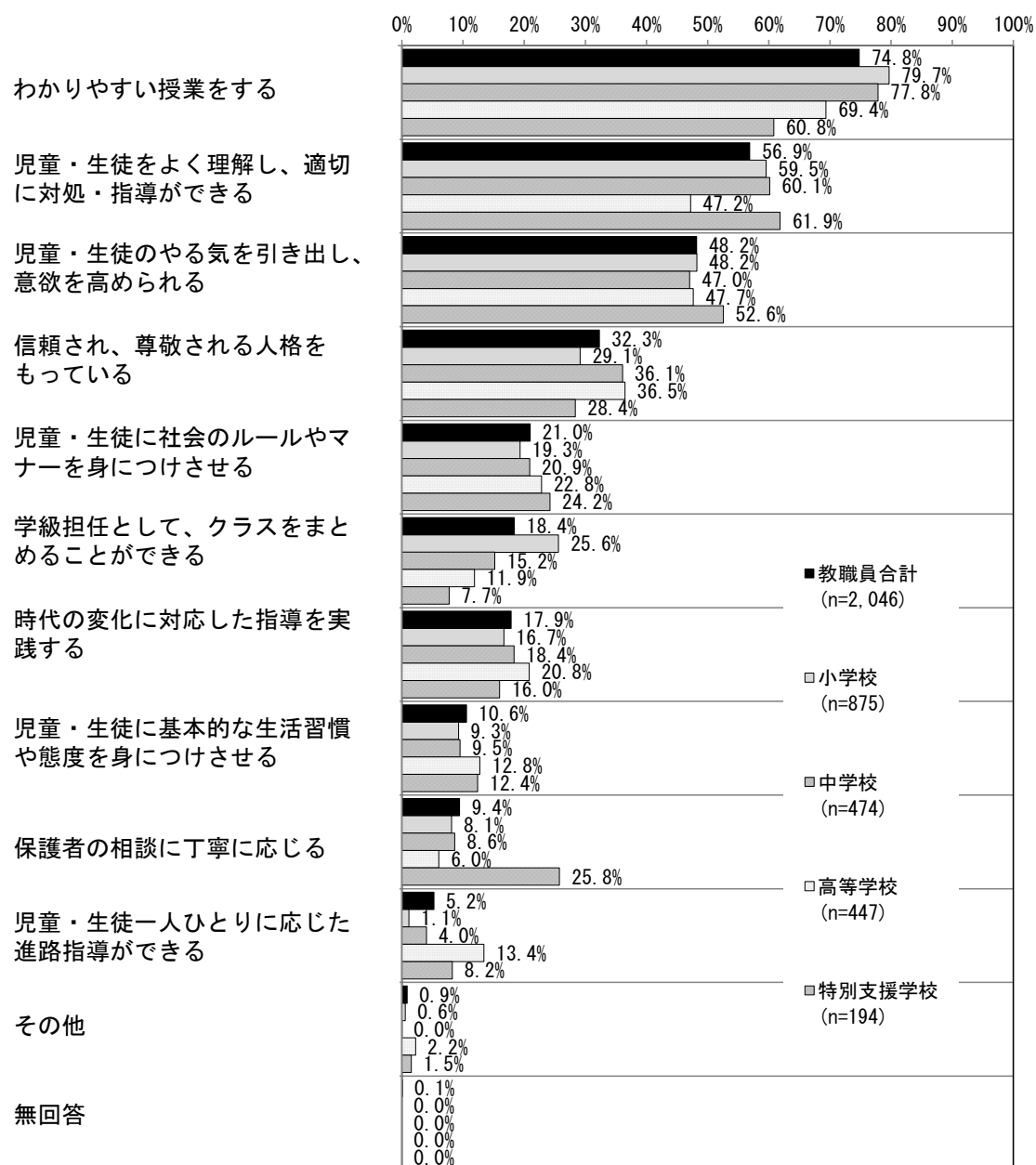
V-4 めざす教員像

教職員に「めざす教員像」について聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、小学校教職員では「わかりやすい授業をする」、「児童・生徒をよく理解し、適切に対処・指導ができる」、「児童・生徒のやる気を引き出し、意欲を高められる」であり、中学校教職員では「わかりやすい授業をする」、「児童・生徒をよく理解し、適切に対処・指導ができる」、「児童・生徒のやる気を引き出し、意欲を高められる」、高等学校教職員では「わかりやすい授業をする」、「児童・生徒のやる気を引き出し、意欲を高められる」、「児童・生徒をよく理解し、適切に対処・指導ができる」、特別支援学校教職員では「児童・生徒をよく理解し、適切に対処・指導ができる」、「わかりやすい授業をする」、「児童・生徒のやる気を引き出し、意欲を高められる」である。

また、回答の割合が最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、小中高等学校の教職員の回答は、いずれの調査においても「わかりやすい授業をする」との回答の割合が最も高く、平成25年度調査では小学校教職員79.7%、中学校教職員77.8%、高等学校教職員69.4%であり、平成17年度調査では小学校教職員71.8%、中学校教職員72.0%、高等学校教職員69.8%であった。特別支援学校教職員の回答は、いずれの調査においても「児童・生徒をよく理解し、適切に対処・指導ができる」との回答の割合が最も高く、平成25年度調査では61.9%、平成17年度調査では70.2%であった。

『めざす教員像』について教職員に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、小学校教職員では「わかりやすい授業をする」(79.7%)、「児童・生徒をよく理解し、適切に対処・指導ができる」(59.5%)、「児童・生徒のやる気を引き出し、意欲を高められる」(48.2%)であり、中学校教職員では「わかりやすい授業をする」(77.8%)、「児童・生徒をよく理解し、適切に対処・指導ができる」(60.1%)、「児童・生徒のやる気を引き出し、意欲を高められる」(47.0%)、高等学校教職員では「わかりやすい授業をする」(69.4%)、「児童・生徒のやる気を引き出し、意欲を高められる」(47.7%)、「児童・生徒をよく理解し、適切に対処・指導ができる」(47.2%)、特別支援学校教職員では「児童・生徒をよく理解し、適切に対処・指導ができる」(61.9%)、「わかりやすい授業をする」(60.8%)、「児童・生徒のやる気を引き出し、意欲を高められる」(52.6%)である。(図V-26 参照)

図 V-26 めざす教員像(教職員)



『めざす教員像』について、回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、小学校教職員の回答は平成 25 年度調査では「わかりやすい授業をする」(79.7%)、「児童・生徒をよく理解し、適切に対処・指導ができる」(59.5%)、「児童・生徒のやる気を引き出し、意欲を高められる」(48.2%)であり、平成 17 年度調査では「わかりやすい授業をする」(71.8%)、「児童・生徒をよく理解し、適切に対処・指導ができる」(66.0%)、「児童・生徒のやる気を引き出し、意欲を高められる」(52.2%)であった。

中学校教職員の回答は平成 25 年度調査では「わかりやすい授業をする」(77.8%)、「児童・生徒をよく理解し、適切に対処・指導ができる」(60.1%)、「児童・生徒のやる気を引き出し、意欲を高められる」(47.0%)であり、平成 17 年度調査では「わかりやすい授業をする」(72.0%)、「児童・生徒をよく理解し、適切に対処・指導ができる」(64.7%)、「児童・生徒のやる気を引き出し、意欲を高められる」(44.5%)であった。

高等学校教職員の回答は平成 25 年度調査では「わかりやすい授業をする」(69.4%)、「児童・生徒のやる気を引き出し、意欲を高められる」(47.7%)、「児童・生徒をよく理解し、適切に対処・指導ができる」(47.2%)であり、平成 17 年度調査では「わかりやすい授業をする」(69.8%)、「児童・生徒をよく理解し、適切に対処・指導ができる」(60.2%)、「児童・生徒のやる気を引き出し、意欲を高められる」(50.0%)であった。

特別支援学校教職員の回答は平成 25 年度調査では「児童・生徒をよく理解し、適切に対処・指導ができる」(61.9%)、「わかりやすい授業をする」(60.8%)、「児童・生徒のやる気を引き出し、意欲を高められる」(52.6%)であり、平成 17 年度調査では「児童・生徒をよく理解し、適切に対処・指導ができる」(70.2%)、「児童・生徒のやる気を引き出し、意欲を高められる」(45.7%)、「保護者の相談に丁寧に応じる」(37.2%)であった。(図 V-27～31 参照)

図 V-27 めざす教員像(教職員合計)

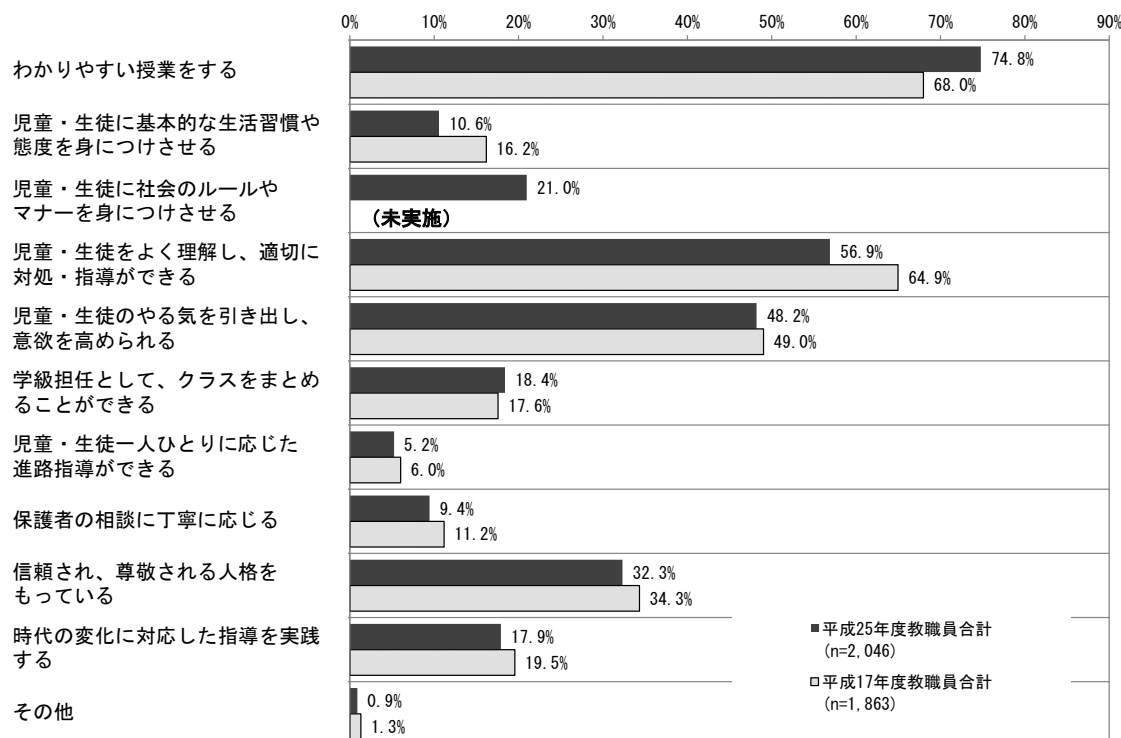


図 V-28 めざす教員像(教職員：小学校)

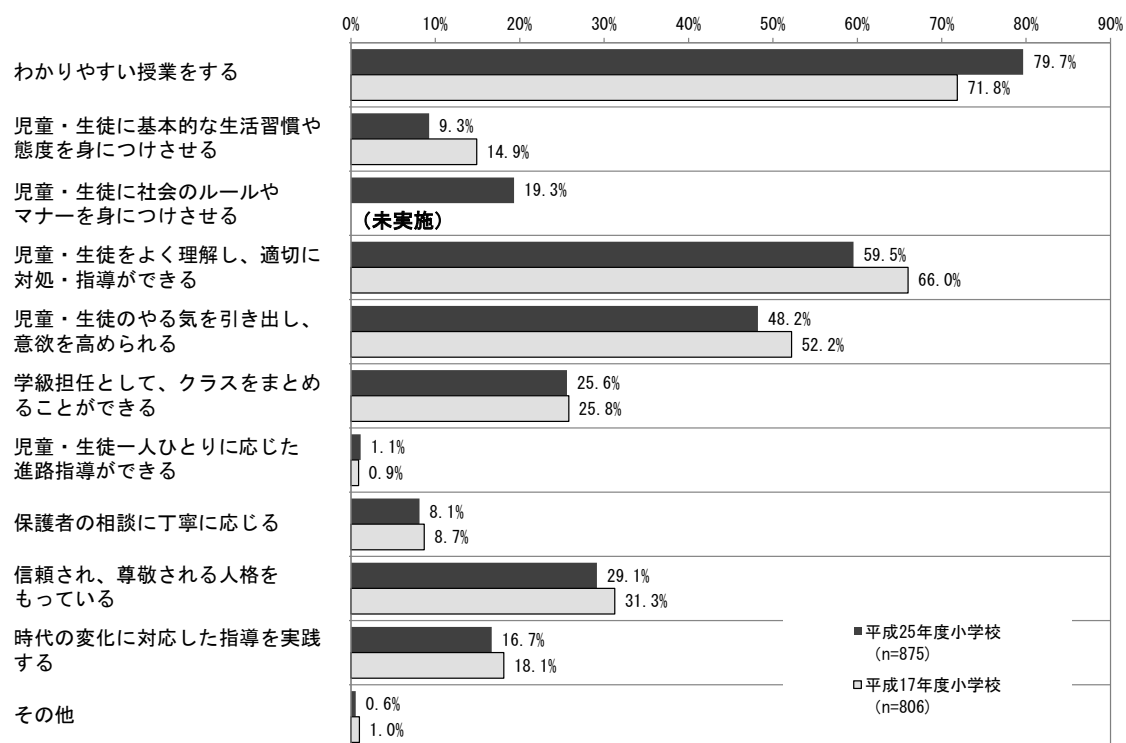


図 V-29 めざす教員像(教職員：中学校)

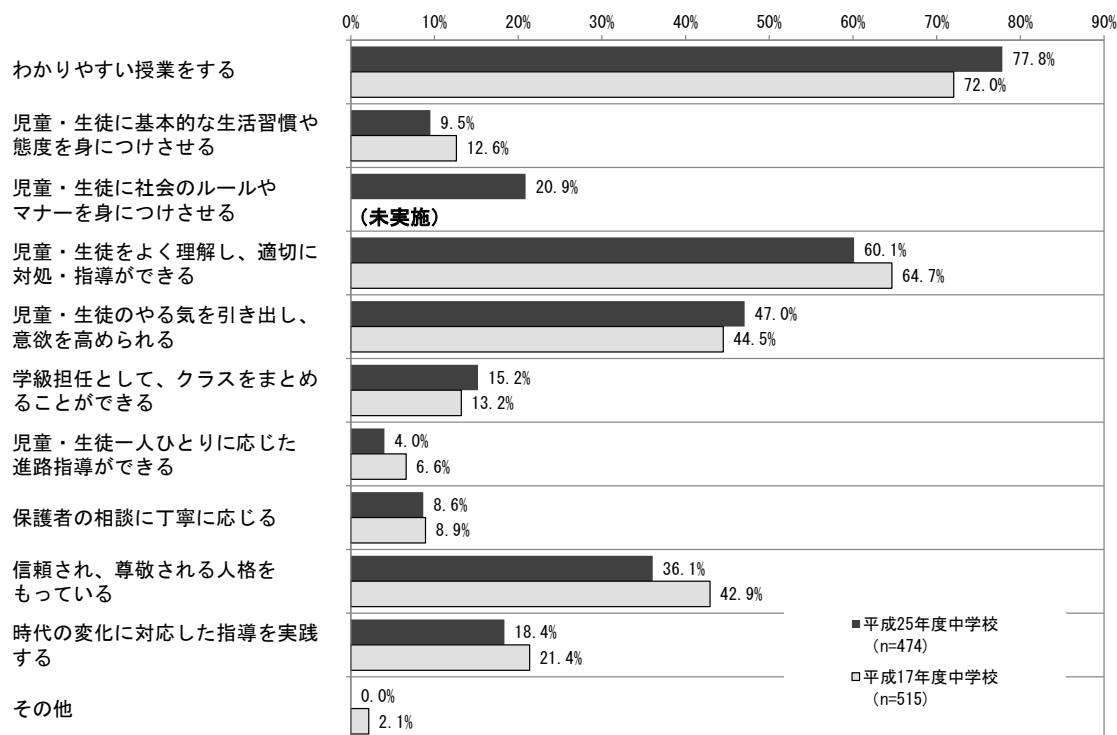


図 V-30 めざす教員像(教職員：高等学校)

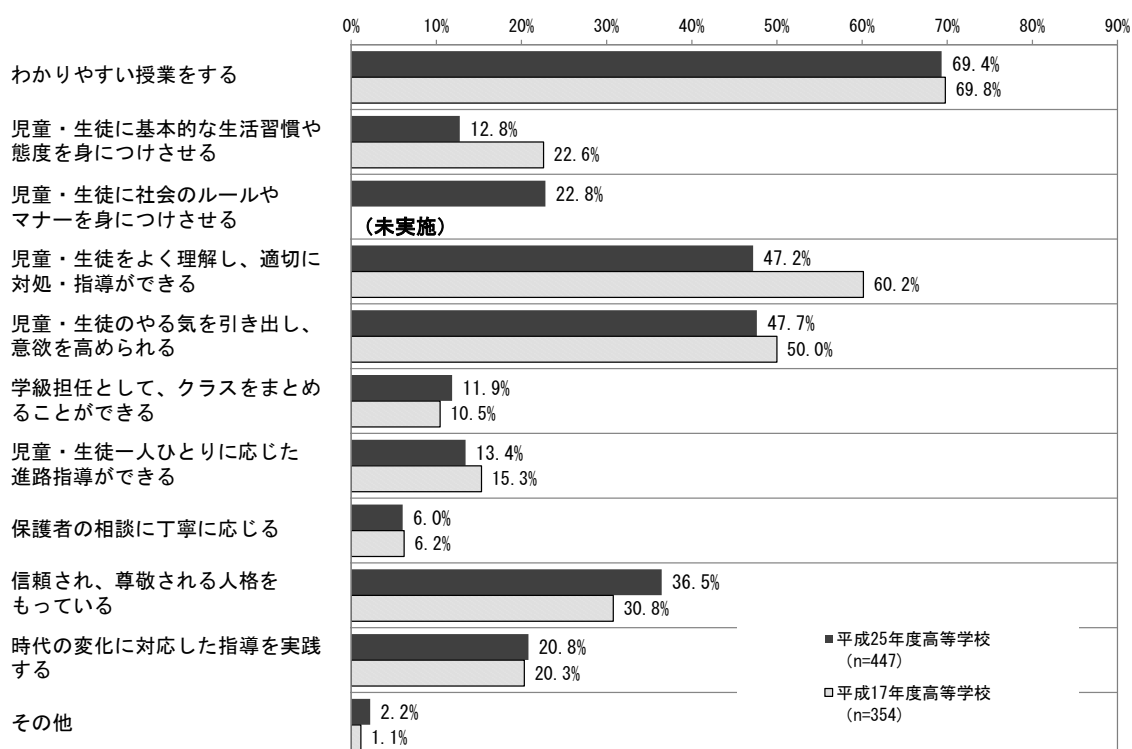
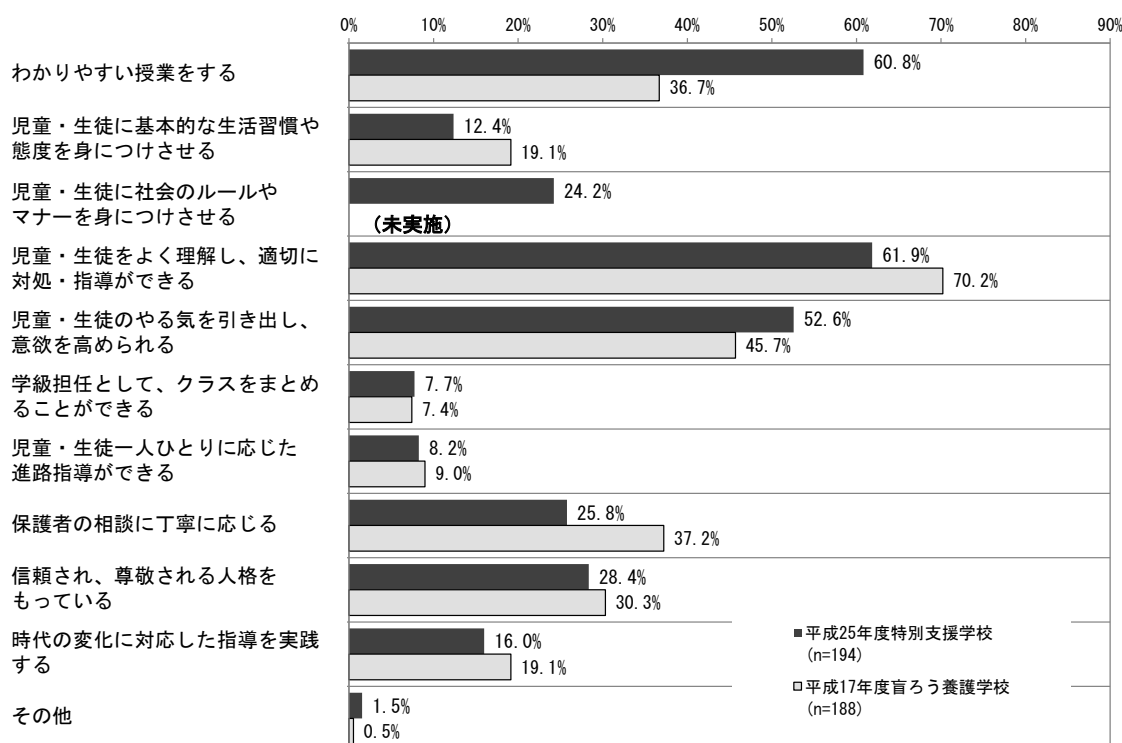


図 V-31 めざす教員像(教職員：特別支援学校)



V-5 教わりたい先生

子どもに『教わりたい先生』について聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、小学生では、「わかりやすい授業をしてくれる」、「自分たちのことをわかってくれて、しかったり、ほめたりしてくれる」、「やる気にさせてくれる」であり、中高生では、「わかりやすい授業をしてくれる」、「やる気を出させ、意欲を高めてくれる」、「自分たちのことをわかってくれて、しかったり、ほめたりしてくれる」、特別支援学校児童・生徒では、「自分たちのことをよくわかってくれる先生」、「わかりやすい授業をしてくれる先生」、「やさしくほめてくれる先生」であった。

また、『教わりたい先生』について、回答の割合が最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、小中高生の回答は、いずれの調査においても、「わかりやすい授業をしてくれる」との回答が最も割合が高く、平成25年度調査では小学生70.7%、中学生68.6%、高校生66.8%であり、平成17年度調査では小学生71.6%、中学生68.1%、高校生70.5%であった。特別支援学校児童・生徒の回答は平成25年度調査では「自分たちのことをよくわかってくれる先生」(51.6%)であり、平成17年度調査では「わかりやすい授業をしてくれる先生」(67.7%)であった。

『教わりたい先生』について児童・生徒に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、小学生では、「わかりやすい授業をしてくれる」(70.7%)、「自分たちのことをわかってくれて、しかったり、ほめたりしてくれる」(51.3%)、「やる気にさせてくれる」(36.8%)であり、中高生では、「わかりやすい授業をしてくれる」(中学生：68.6%、高校生：66.8%)、「やる気を出させ、意欲を高めてくれる」(中学生：40.7%、高校生：40.9%)、「自分たちのことをわかってくれて、しかったり、ほめたりしてくれる」(中学生：38.1%、高校生：31.9%)、特別支援学校児童・生徒では、「自分たちのことをよくわかってくれる先生」(51.6%)、「わかりやすい授業をしてくれる先生」(41.1%)、「やさしくほめてくれる先生」(37.1%)であった。(表V-7、図V-32,33 参照)

表 V-7 教わりたい先生(上位5項目)

	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 児童・生徒
1位	わかりやすい授業をして くれる 70.7%	わかりやすい授業をして くれる 68.6%	わかりやすい授業をして くれる 66.8%	自分たちのことをよく わかってくれる先生 51.6%
2位	自分たちのことをわか ってかれて、しかった り、ほめたりしてくれ る 51.3%	やる気を出させ、意欲 を高めてくれる 40.7%	やる気を出させ、意欲 を高めてくれる 40.9%	わかりやすい授業をし てくれる先生 41.1%
3位	やる気にさせてくれる 36.8%	自分たちのことをわか ってかれて、しかった り、ほめたりしてくれ る 38.1%	自分たちのことをわか ってかれて、しかった り、ほめたりしてくれ る 31.9%	やさしくほめてくれる 先生 37.1%
4位	何でもよく知っている 18.7%	生徒と一緒にあって何 でもやってくれる 35.6%	生徒と一緒にあって何 でもやってくれる 26.0%	やる気にさせてくれる 先生 28.2%
5位	何でもいっしょになっ てやってくれる 17.0%	将来や進路の相談に乗 ってくれる 19.8%	一人ひとりに応じた進 路指導をしてくれる 19.5%	何でもいっしょになっ てやってくれる先生 27.4%

図 V-32 教わりたい先生(小中高生)

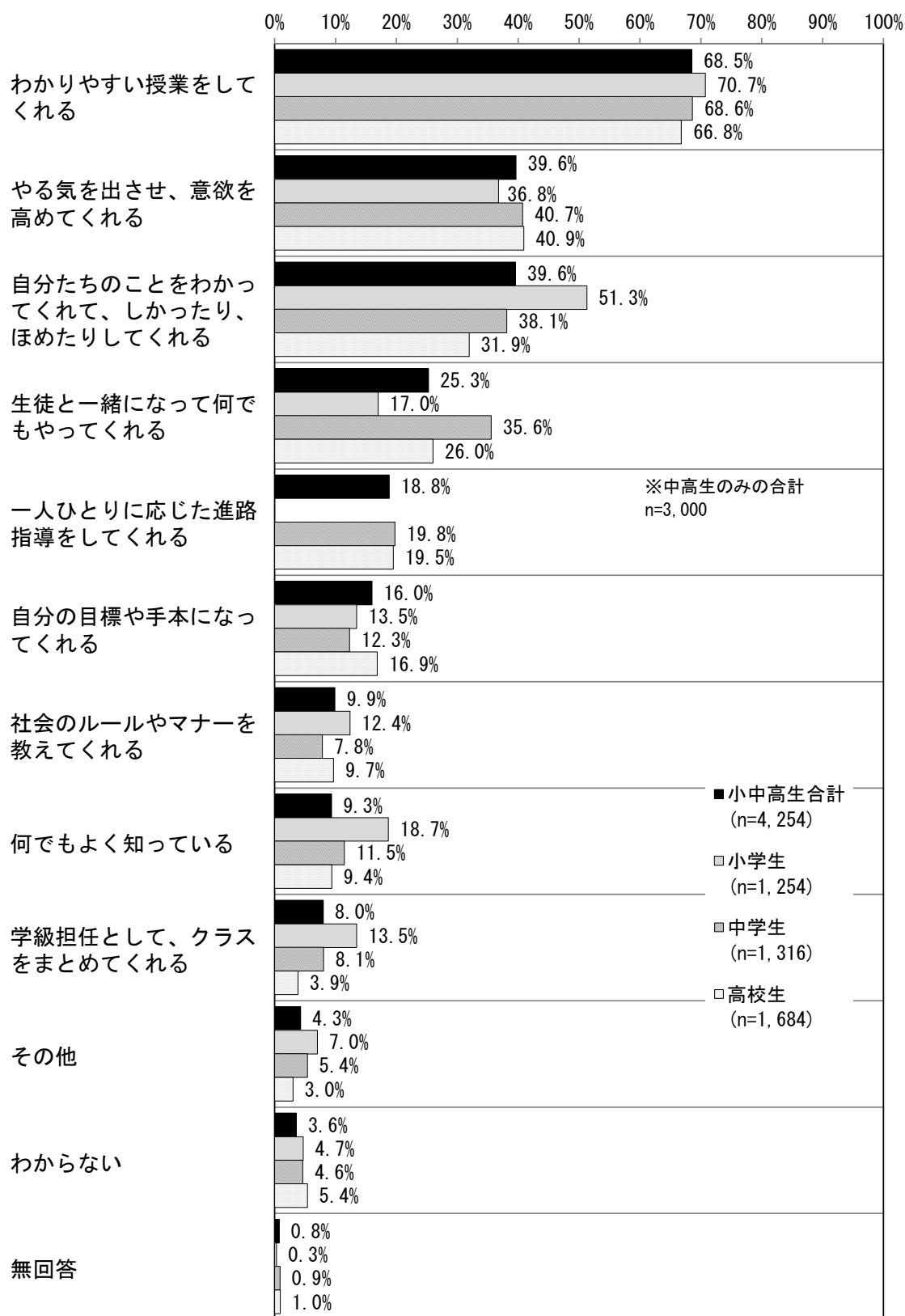
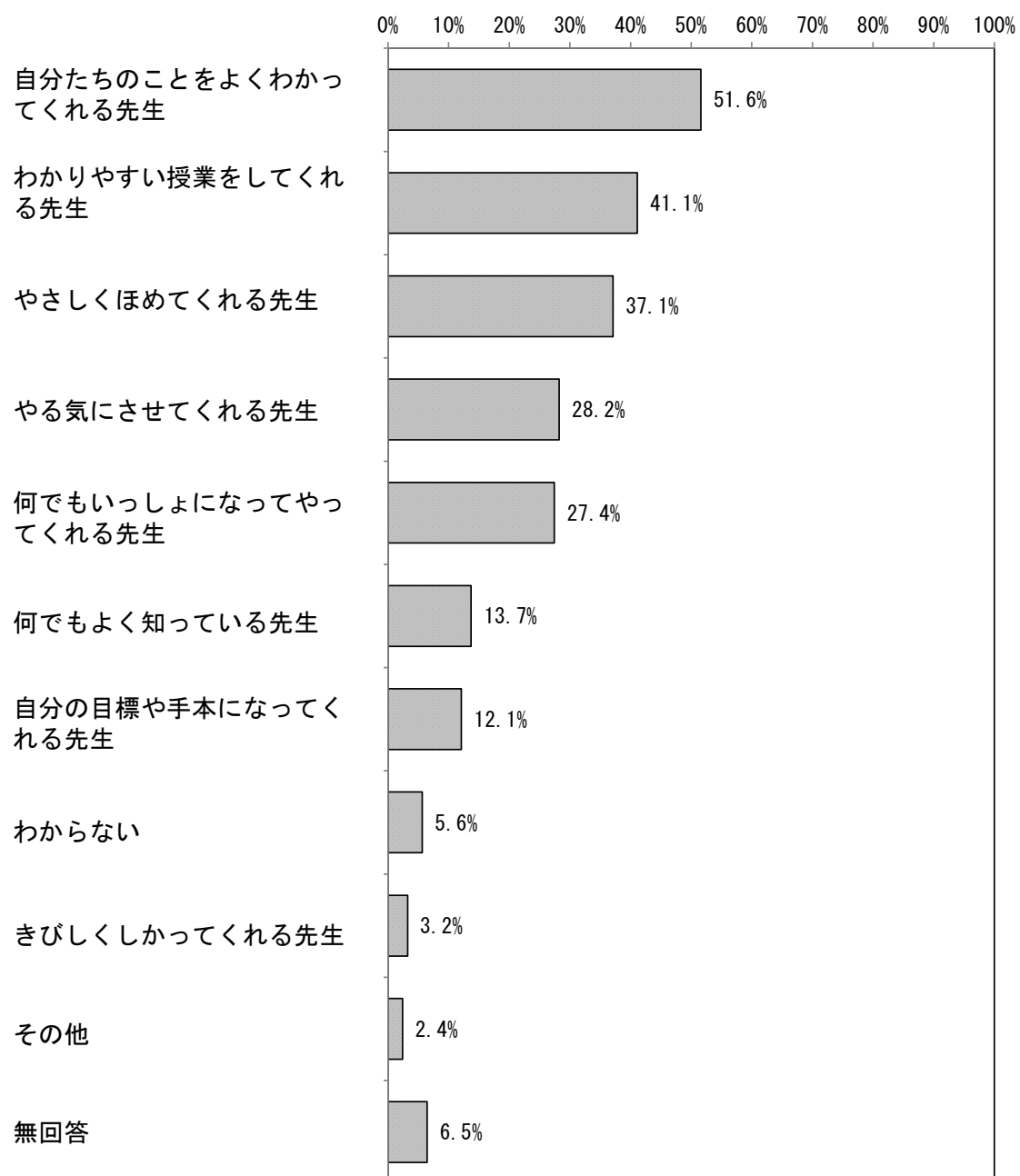


図 V-33 教わりたい先生(特別支援学校児童・生徒 n=124)



『教わりたい先生』について、回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、小学生の回答は平成 25 年度調査では「わかりやすい授業をしてくれる」(70.7%)、「自分たちのことをわかってくれて、しかったり、ほめたりしてしてくれる」(51.3%)、「やる気にさせてくれる」(36.8%)であり、平成 17 年度調査では「わかりやすい授業をしてくれる」(71.6%)、「自分たちのことをわかってくれて、しかったり、ほめたりしてしてくれる」(50.8%)、「やる気を出させ、意欲を高めてくれる」(35.9%)であった。

中学生の回答は平成 25 年度調査では「わかりやすい授業をしてくれる」(68.6%)、「やる気を出させ、意欲を高めてくれる」(40.7%)、「自分たちのことをわかってくれて、しかったり、ほめたりしてしてくれる」(38.1%)であり、平成 17 年度調査では「わかりやすい授業をしてくれる」(68.1%)、「自分たちのことをわかってくれて、しかったり、ほめたりしてしてくれる」(44.6%)、「やる気を出させ、意欲を高めてくれる」(38.0%)であった。

高校生の回答は平成 25 年度調査では「わかりやすい授業をしてくれる」(66.8%)、「やる気を出させ、意欲を高めてくれる」(40.9%)、「自分たちのことをわかってくれて、しかったり、ほめたりしてしてくれる」(31.9%)であり、平成 17 年度調査では「わかりやすい授業をしてくれる」(70.5%)、「やる気を出させ、意欲を高めてくれる」(42.5%)、「自分たちのことをわかってくれて、しかったり、ほめたりしてしてくれる」(34.4%)であった。

特別支援学校児童・生徒の回答は平成 25 年度調査では「自分たちのことをよくわかってくれる先生」(51.6%)、「わかりやすい授業をしてくれる先生」(41.1%)、「やさしくほめてくれる先生」(37.1%)であり、平成 17 年度調査では「わかりやすい授業をしてくれる先生」(67.7%)、「自分たちのことをよくわかってくれる先生」(33.8%)、「やさしくほめてくれる先生」(27.7%)であった。(表V-8 参照)

表 V-8 教わりたい先生(上位5項目)

	小学生		中学生	
	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)
	n=1, 254	n=1, 394	n=1, 316	n=1, 446
1 位	わかりやすい授業をして くれる 70.7%	わかりやすい授業をして くれる 71.6%	わかりやすい授業をして くれる 68.6%	わかりやすい授業をして くれる 68.1%
2 位	自分たちのことをわか ってくれて、しかった り、ほめたりしてくれる 51.3%	自分たちのことをわか ってくれて、しかった り、ほめたりしてくれる 50.8%	やる気を出させ、意欲 を高めてくれる 40.7%	自分たちのことをわか ってくれて、しかった り、ほめたりしてくれる 44.6%
3 位	やる気にさせてくれる 36.8%	やる気を出させ、意欲 を高めてくれる 35.9%	自分たちのことをわか ってくれて、しかった り、ほめたりしてくれる 38.1%	やる気を出させ、意欲 を高めてくれる 38.0%
4 位	何でもよく知っている 18.7%	自分の目標や手本にな ってくれる 17.9%	生徒と一緒にあって何 でもやってくれる 35.6%	何でもいっしょになっ てやってくれる 37.6%
5 位	何でもいっしょになっ てやってくれる 17.0%	何でもいっしょになっ てやってくれる 17.8%	将来や進路の相談に乗 ってくれる 19.8%	一人ひとりに応じた進 路指導をしてくれる 19.1%

	高校生		特別支援学校児童・生徒	
	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)
	n=1, 684	n=1, 636	n=124	n=65
1 位	わかりやすい授業をして くれる 66.8%	わかりやすい授業をして くれる 70.5%	自分たちのことをよく わかってくれる先生 51.6%	わかりやすい授業をし てくれる先生 67.7%
2 位	やる気を出させ、意欲 を高めてくれる 40.9%	やる気を出させ、意欲 を高めてくれる 42.5%	わかりやすい授業をし てくれる先生 41.1%	自分たちのことをよく わかってくれる先生 33.8%
3 位	自分たちのことをわか ってくれて、しかった り、ほめたりしてくれる 31.9%	自分たちのことをわか ってくれて、しかった り、ほめたりしてくれる 34.4%	やさしくほめてくれる 先生 37.1%	やさしくほめてくれる 先生 27.7%
4 位	生徒と一緒にあって何 でもやってくれる 26.0%	何でもいっしょになっ てやってくれる 29.1%	やる気にさせてくれる 先生 28.2%	自分の目標や手本にな ってくれる 27.7%
5 位	一人ひとりに応じた進 路指導をしてくれる 19.5%	一人ひとりに応じた進 路指導をしてくれる 20.5%	何でもいっしょになっ てやってくれる先生 27.4%	何でもいっしょになっ てやってくれる 24.6%

V-6 現在の教員に必要な資質

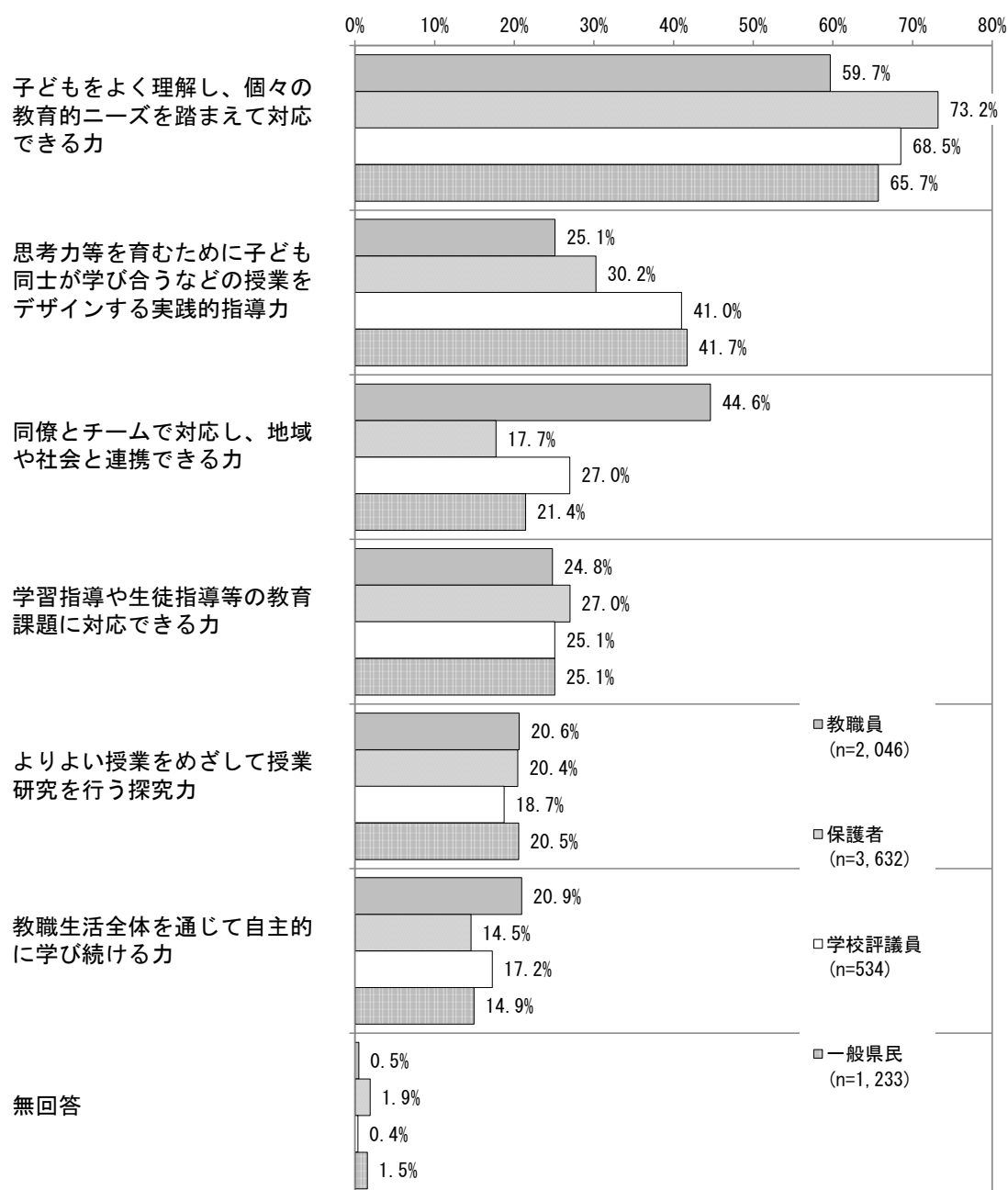
教職員、保護者、学校評議員、一般県民に、「現在の教員に必要な資質」について聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、教職員では「子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力」、「同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力」、「思考力等を育むために子ども同士が学び合うなどの授業をデザインする実践的指導力」であり、保護者及び一般県民では「子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力」、「思考力等を育むために子ども同士が学び合うなどの授業をデザインする実践的指導力」、「学習指導や生徒指導等の教育課題に対応できる力」、学校評議員では、「子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力」、「思考力等を育むために子ども同士が学び合うなどの授業をデザインする実践的指導力」、「同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力」であった。

『現在の教員に必要な資質』について教職員、保護者、学校評議員及び一般県民に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、教職員では、「子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力」(59.7%)、「同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力」(44.6%)、「思考力等を育むために子ども同士が学び合うなどの授業をデザインする実践的指導力」(25.1%)であり、保護者及び一般県民では、「子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力」(保護者：73.2%、一般県民：65.7%)、「思考力等を育むために子ども同士が学び合うなどの授業をデザインする実践的指導力」(保護者：30.2%、一般県民：41.7%)、「学習指導や生徒指導等の教育課題に対応できる力」(保護者：27.0%、一般県民：25.1%)、学校評議員では、「子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力」(68.5%)、「思考力等を育むために子ども同士が学び合うなどの授業をデザインする実践的指導力」(41.0%)、「同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力」(27.0%)であった。(表V-9、図V-34 参照)

表 V-9 現在の教員に必要な資質(上位5項目)

	教職員	保護者	学校評議員	一般県民
1位	子どもをよく理解し、 個々の教育的ニーズを 踏まえて対応できる力 59.7%	子どもをよく理解し、 個々の教育的ニーズを 踏まえて対応できる力 73.2%	子どもをよく理解し、 個々の教育的ニーズを 踏まえて対応できる力 68.5%	子どもをよく理解し、 個々の教育的ニーズを 踏まえて対応できる力 65.7%
2位	同僚とチームで対応 し、地域や社会と連携 できる力 44.6%	思考力等を育むために 子ども同士が学び合う などの授業をデザイン する実践的指導力 30.2%	思考力等を育むために 子ども同士が学び合う などの授業をデザイン する実践的指導力 41.0%	思考力等を育むために 子ども同士が学び合う などの授業をデザイン する実践的指導力 41.7%
3位	思考力等を育むために 子ども同士が学び合う などの授業をデザイン する実践的指導力 25.1%	学習指導や生徒指導等 の教育課題に対応でき る力 27.0%	同僚とチームで対応 し、地域や社会と連携 できる力 27.0%	学習指導や生徒指導等 の教育課題に対応でき る力 25.1%
4位	学習指導や生徒指導等 の教育課題に対応でき る力 24.8%	よりよい授業をめざし て授業研究を行う探究 力 20.4%	学習指導や生徒指導等 の教育課題に対応でき る力 25.1%	同僚とチームで対応 し、地域や社会と連携 できる力 21.4%
5位	教職生活全体を通じて 自主的に学び続ける力 20.9%	同僚とチームで対応 し、地域や社会と連携 できる力 17.7%	よりよい授業をめざし て授業研究を行う探究 力 18.7%	よりよい授業をめざし て授業研究を行う探究 力 20.5%

図 V-34 現在の教員に必要な資質(教職員、保護者、学校評議員、一般県民)



VI 学校と地域

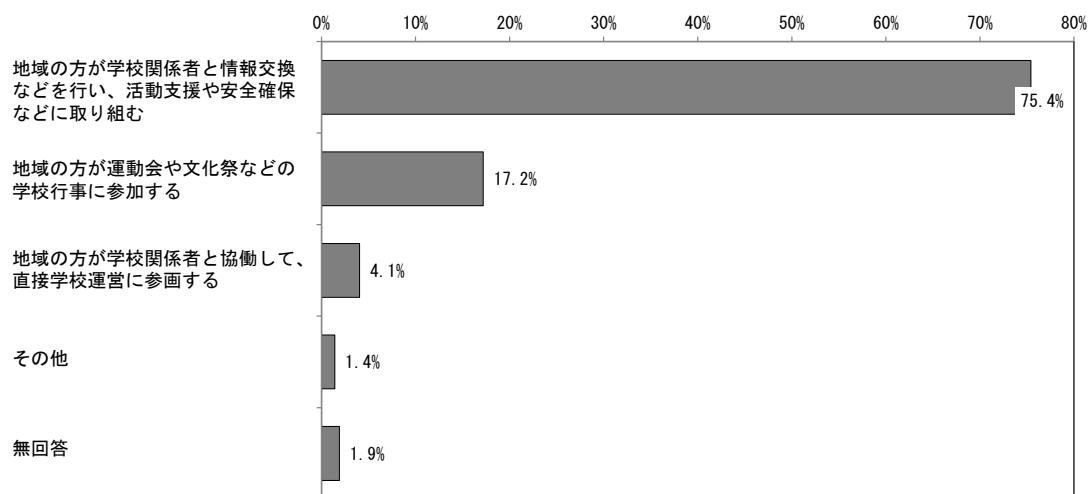
- 「学校と地域」の関係について、教員、保護者、学校評議員に聞くことで、学校活動に地域と家庭がどのように関わるべきと考えているのか把握することにした。
- 調査の結果、教職員は、地域と学校の関わり方について「情報交換と活動支援など」と回答した割合が高く、地域が学校運営に直接関わることを望む回答は低い割合となっている。
- それに対して、学校評議員は、「保護者の学校教育活動や地域の行事への積極的な参加」や「家庭や地域の人による授業への協力」など、地域や保護者が学校の取組みに参画する必要があると回答する割合が高くなっている。
一般県民は、「家庭や地域の人による授業への協力」や「学校、家庭、地域が協力して行事などをつくる」などの連携が必要であると回答する割合が高くなっている。
学校評議員、一般県民共に「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」とする回答が最も高くなっている。
- 保護者と一般県民ができる地域活動として、「子どもへのあいさつなどの声かけ」、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」と回答する割合が高くなっている。
回答の割合が最も高い項目を前回調査と比較すると、平成17年度調査結果では一般県民は「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」となっている。

VI - 1 学校への地域の望ましい関わり方

教職員に『学校への地域の望ましい関わり方』について聞いたところ、「地域の方が学校関係者と情報交換などを行い、活動支援や安全確保などに取り組む」、「地域の方が運動会や文化祭などの学校行事に参加する」、「地域の方が学校関係者と協働して、直接学校運営に参画する」の順に回答した割合が高く、「地域の方が学校関係者と情報交換などを行い、活動支援や安全確保などに取り組む」の割合を平成 17 年度調査結果と比較すると、平成 25 年度調査では 75.4%であり、平成 17 年度調査では 75.8%であった。

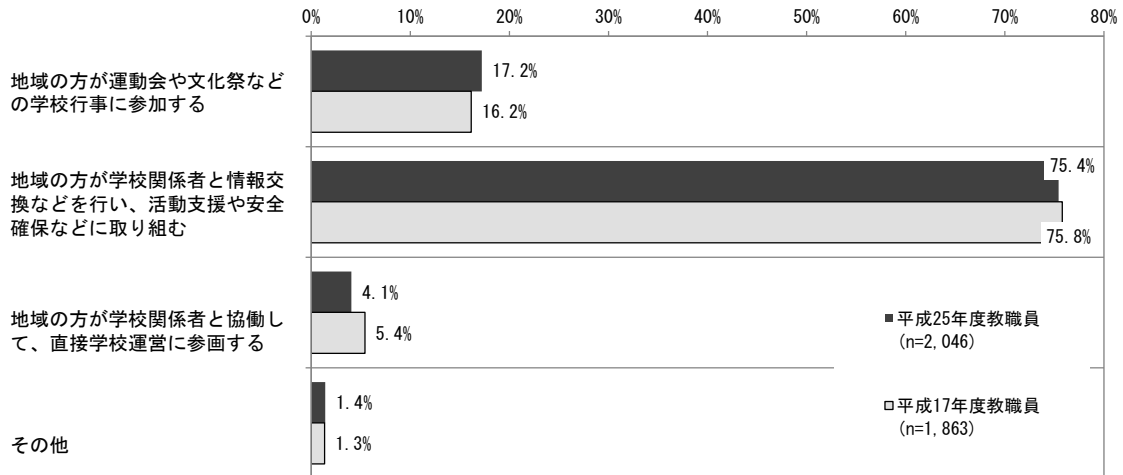
『学校への地域の望ましい関わり方』について教職員に聞いたところ、「地域の方が学校関係者と情報交換などを行い、活動支援や安全確保などに取り組む」(75.4%)、「地域の方が運動会や文化祭などの学校行事に参加する」(17.2%)、「地域の方が学校関係者と協働して、直接学校運営に参画する」(4.1%)の順に回答した割合が高かった。(図VI-1 参照)

図 VI-1 学校への地域の望ましい関わり方(教職員 n=2,046)



『学校への地域の望ましい関わり方』について、平成 17 年度調査結果と比較すると、教職員の回答は平成 25 年度調査では「地域の方が学校関係者と情報交換などを行い、活動支援や安全確保などに取り組む」(75.4%)、「地域の方が運動会や文化祭などの学校行事に参加する」(17.2%)、「地域の方が学校関係者と協働して、直接学校運営に参画する」(4.1%)であり、平成 17 年度調査では「地域の方が学校関係者と情報交換などを行い、活動支援や安全確保などに取り組む」(75.8%)、「地域の方が運動会や文化祭などの学校行事に参加する」(16.2%)、「地域の方が学校関係者と協働して、直接学校運営に参画する」(5.4%)であった。(図VI-2 参照)

図 VI-2 学校への地域の望ましい関わり方(教職員)



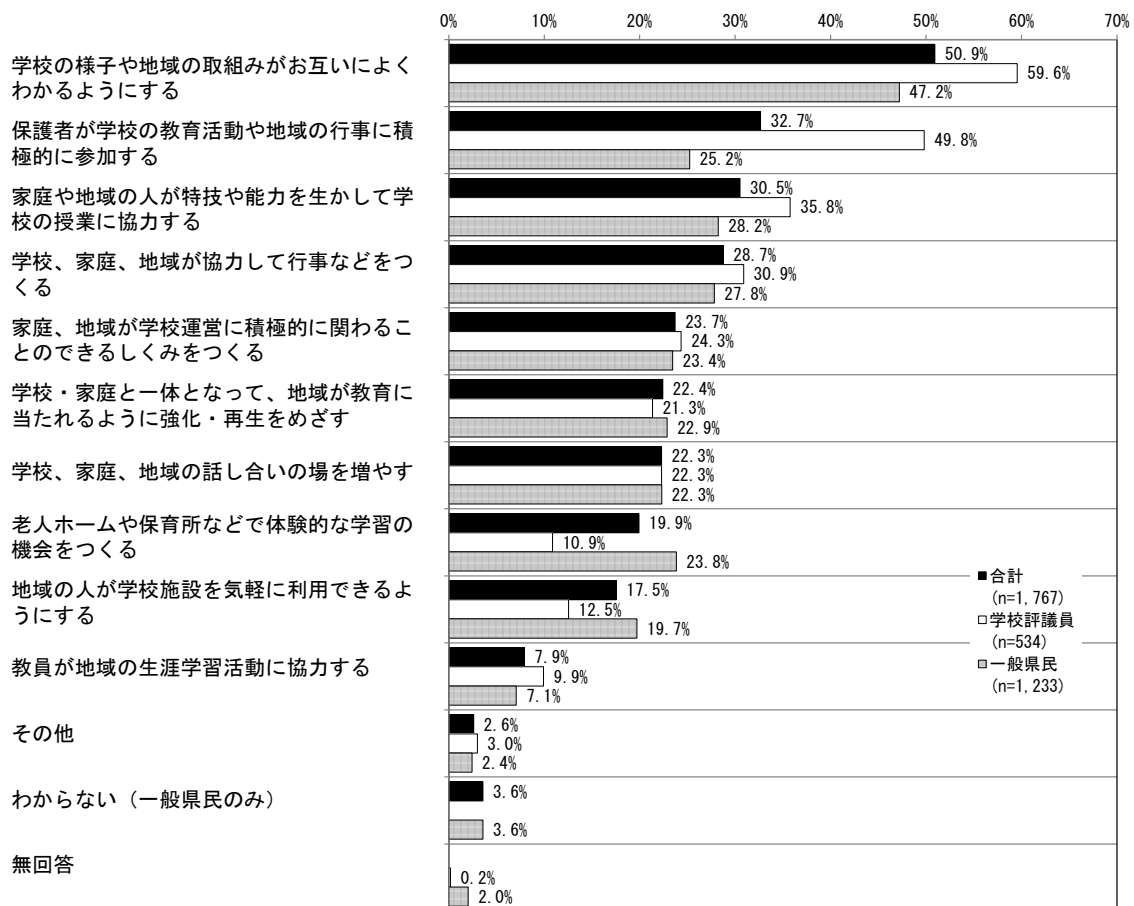
VI - 2 学校、家庭、地域との連携

「子どもの教育のために、学校、家庭、地域の連携協力で必要なこと」について学校評議員と一般県民に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、学校評議員では、「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」、「保護者が学校の教育活動や地域の行事に積極的に参加する」、「家庭や地域の人が特技や能力を生かして学校の授業に協力する」であり、一般県民では、「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」、「家庭や地域の人が特技や能力を生かして学校の授業に協力する」、「学校、家庭、地域が協力して行事などをつくる」であった。

また、『学校、家庭、地域との連携』について、回答の割合が最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、学校評議員と一般県民の回答は、いずれの調査においても、「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」の割合が最も高く、平成25年度調査では学校評議員 59.6%、一般県民 47.2%であり、平成17年度調査では学校評議員 56.9%、一般県民 50.0%であった。

『学校、家庭、地域との連携』について学校評議員と一般県民に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、学校評議員では、「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」(59.6%)、「保護者が学校の教育活動や地域の行事に積極的に参加する」(49.8%)、「家庭や地域の人が特技や能力を生かして学校の授業に協力する」(35.8%)であり、一般県民では、「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」(47.2%)、「家庭や地域の人が特技や能力を生かして学校の授業に協力する」(28.2%)、「学校、家庭、地域が協力して行事などをつくる」(27.8%)であった。(図VI-3 参照)

図 VI-3 学校、家庭、地域との連携(学校評議員、一般県民)



『学校、家庭、地域との連携』について、回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、学校評議員の回答は平成 25 年度調査では「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」(59.6%)、「保護者が学校の教育活動や地域の行事に積極的に参加する」(49.8%)、「家庭や地域の人が特技や能力を生かして学校の授業に協力する」(35.8%)であり、平成 17 年度調査では「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」(56.9%)、「保護者が学校の教育活動や地域の行事に積極的に参加する」(46.0%)、「家庭や地域の人が特技や能力を生かして学校の授業に協力する」(38.8%)であった。一方、一般県民の回答は平成 25 年度調査では「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」(47.2%)、「家庭や地域の人が特技や能力を生かして学校の授業に協力する」(28.2%)、「学校、家庭、地域が協力して行事などをつくる」(27.8%)であり、平成 17 年度調査では「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」(50.0%)、「保護者が学校の教育活動や地域の行事に積極的に参加する」(30.7%)、「学校、家庭、地域の話し合いの場を増やす」(26.8%)であった。(図 VI-4, 5 参照)

図 VI-4 学校、家庭、地域との連携(学校評議員)

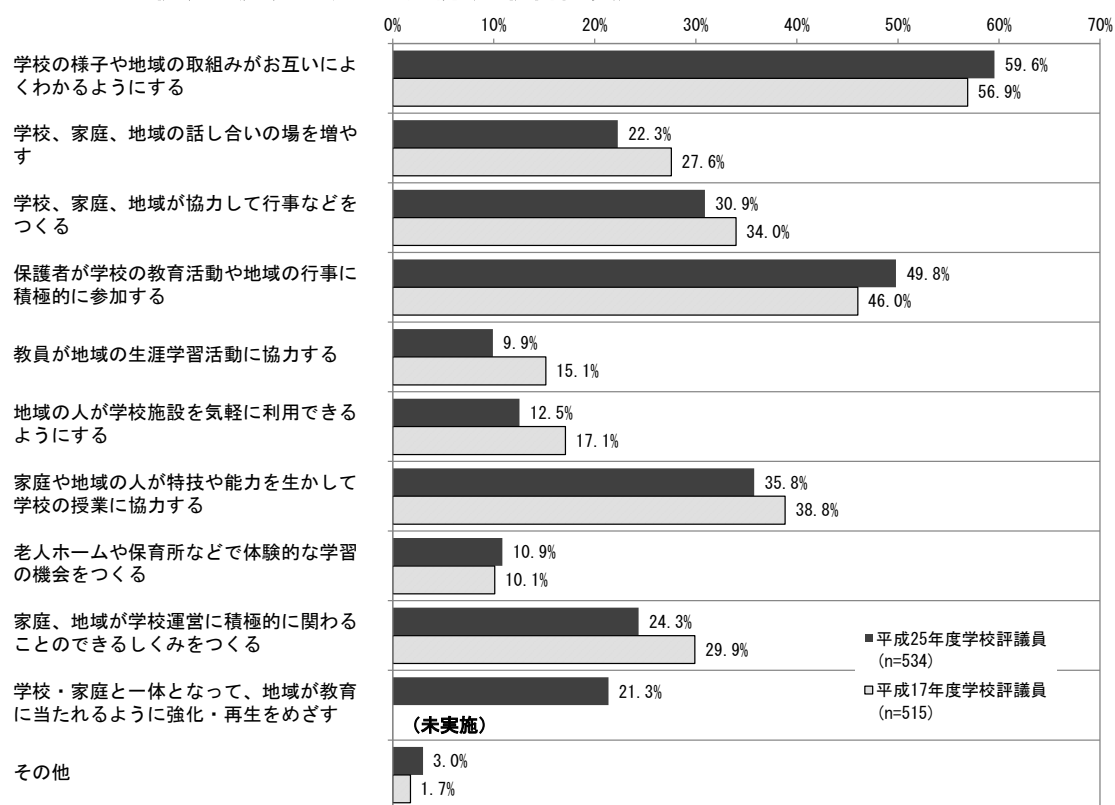
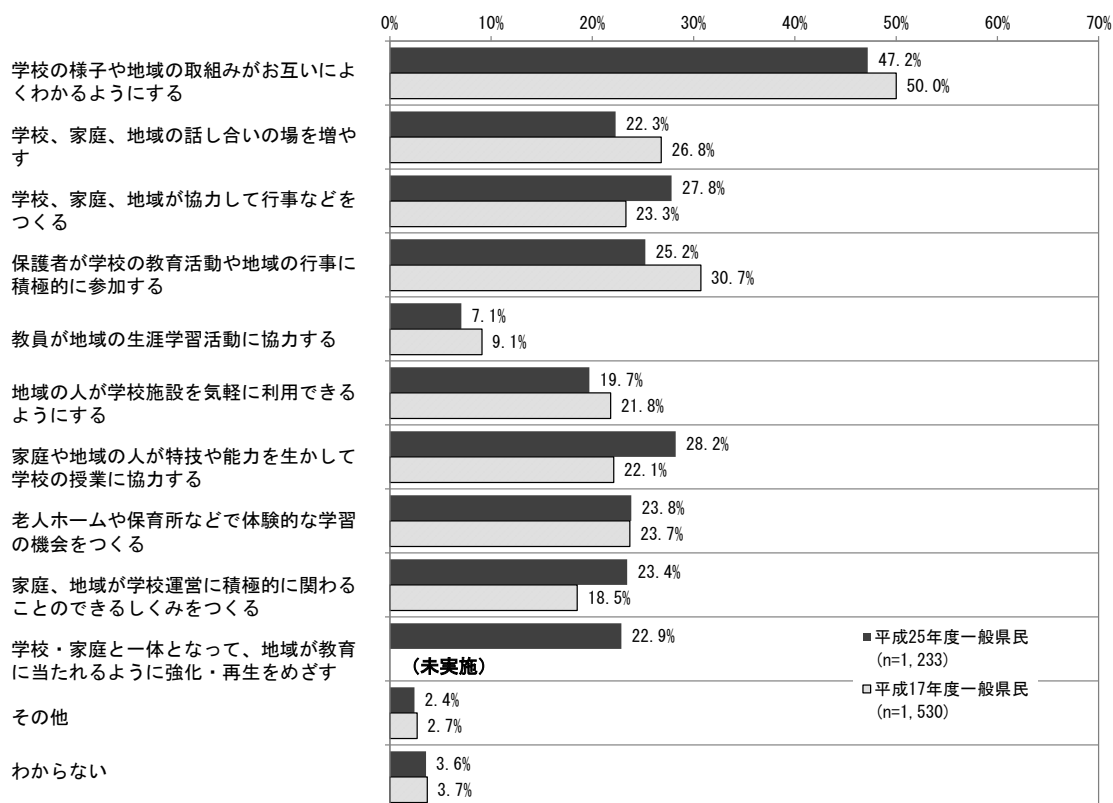


図 VI-5 学校、家庭、地域との連携（一般県民）



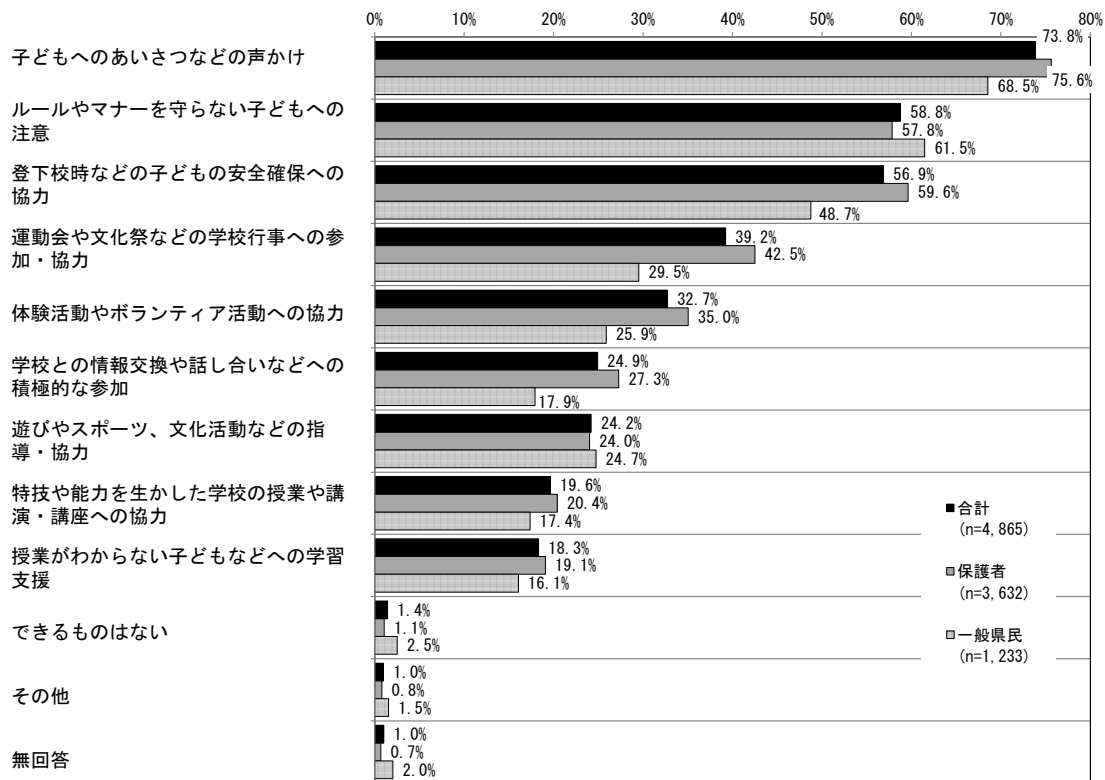
VI - 3 地域で活動できること

保護者と一般県民に、『地域で活動できること』について聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、保護者では、「子どもへのあいさつなどの声かけ」、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」であり、一般県民では、「子どもへのあいさつなどの声かけ」、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」であった。

また、『地域で活動できること』について、回答の割合が最も高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、保護者の回答は平成 25 年度調査では「子どもへのあいさつなどの声かけ」(75.6%)であり、平成 17 年度調査では「子どもへのあいさつなどの声かけ」(71.3%)であった。一方、一般県民の回答は平成 25 年度調査では「子どもへのあいさつなどの声かけ」(68.5%)であり、平成 17 年度調査では「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」(59.2%)であった。

『地域で活動できること』について保護者と一般県民に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、保護者では、「子どもへのあいさつなどの声かけ」(75.6%)、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」(59.6%)、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」(57.8%)であり、一般県民では、「子どもへのあいさつなどの声かけ」(68.5%)、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」(61.5%)、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」(48.7%)であった。(図VI-6 参照)

図 VI-6 地域で活動できること(保護者、一般県民)



『地域で活動できること』について、回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、保護者の回答は平成 25 年度調査では「子どもへのあいさつなどの声かけ」(75.6%)、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」(59.6%)、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」(57.8%)であり、平成 17 年度調査では「子どもへのあいさつなどの声かけ」(71.3%)、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」(56.7%)、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」(52.6%)であった。一方、一般県民の回答は平成 25 年度調査では「子どもへのあいさつなどの声かけ」(68.5%)、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」(61.5%)、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」(48.7%)であり、平成 17 年度調査では「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」(59.2%)、「子どもへのあいさつなどの声かけ」(58.8%)、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」(41.0%)であった。(図VI-7,8 参照)

図 VI-7 地域で活動できること(保護者)

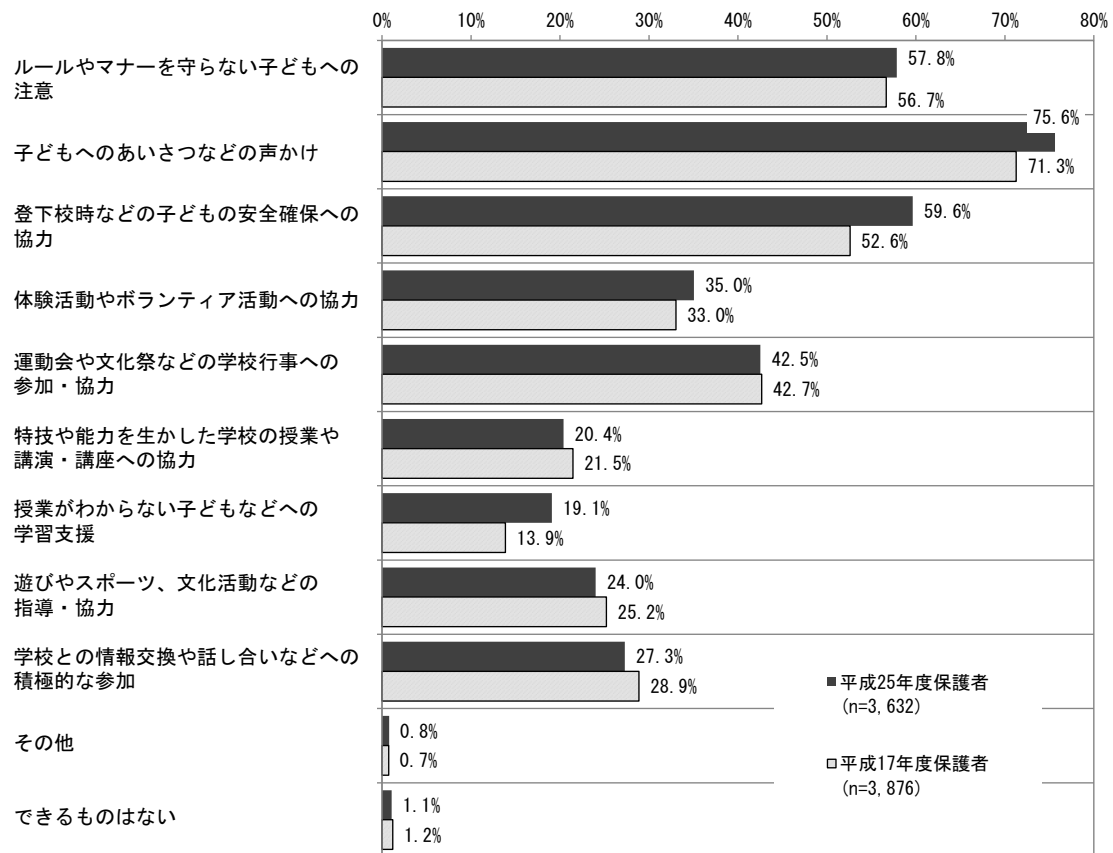
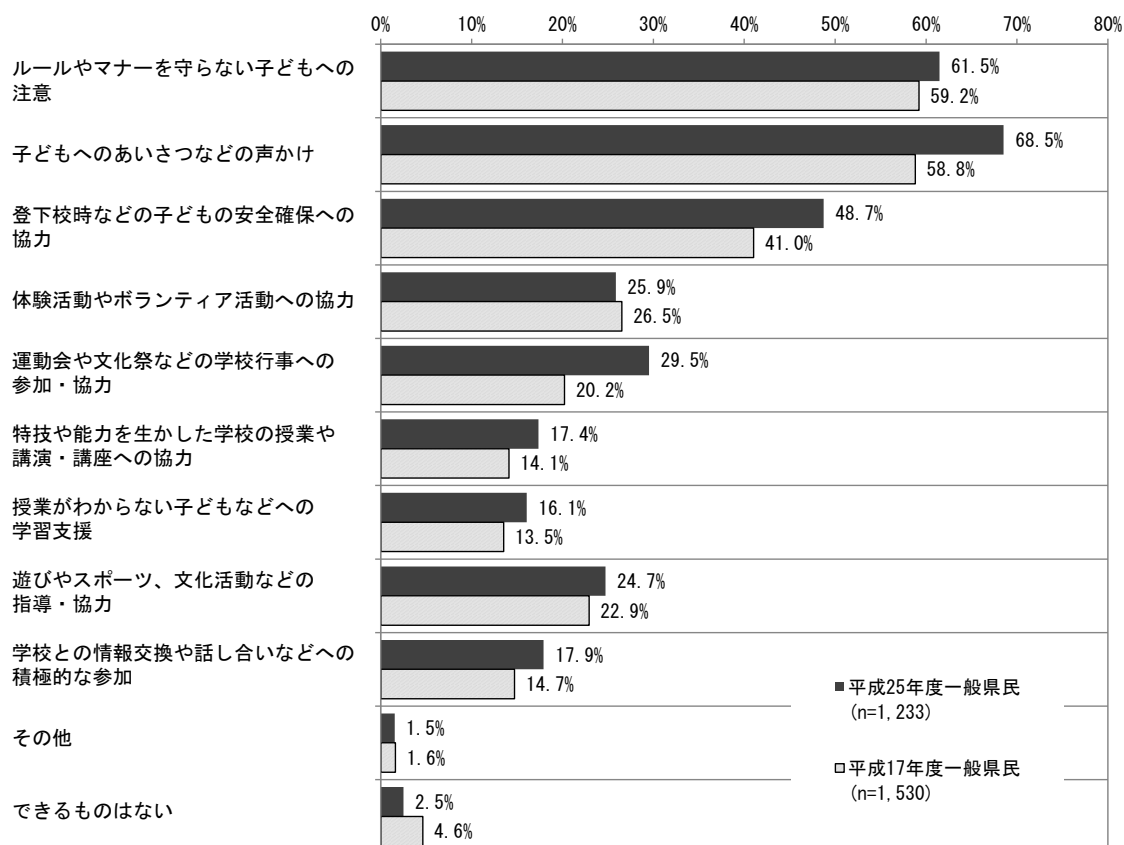


図 VI-8 地域で活動できること(一般県民)



VII 学校のあり方

- 学校が直面する課題について、大人、子どもそれぞれの立場から聞くことで、これからの学校のあり方についての考えを把握することにした。
- 調査の結果、教職員、保護者、学校評議員のいずれも、諸課題の解決に向けて、「個人の力だけではなく学校全体での取り組み」を必要とする回答の割合が最も高くなっている。
次いで、教職員は「教員一人ひとりが自らの指導力を自覚し、それぞれの能力に応じた向上に努める」、「地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める」、保護者と学校評議員は「指導力の高い教員を増やしていく」、「地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める」の順になっている。
- 「学校に行きたくないときがある」子どもは、小中高のいずれの学校段階においても、5割を超えている。その理由として、「疲れているから」という回答が最も多くなっている。
「学校に行きたくないときがある」と回答した子どもの割合を平成17年度調査結果と比較すると、小学生は今回の調査の54.1%に対して前回の調査では56.8%、中学生は今回の調査の56.9%に対して前回の調査では62.0%、高校生の回答は今回の調査の72.7%に対して前回の調査では73.8%、特別支援学校児童・生徒の回答は今回の調査の36.3%に対して前回の調査では50.8%となっている。
- また、小中高生共に「学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる」、「勉強の時間や内容が増えても、一人ひとりに合わせて指導してくれる」、「学校の活動で、いろいろな体験をする機会がもっと増える」ようになるとよいと思っている。
特別支援学校児童・生徒は「いろいろな体験をする場面がもっと増える」、「いごちのいいところがある」、「みんなといっしょに行事をする回数が増える」ようになるとよいと思っている。回答の割合が最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、特別支援学校児童・生徒は今回の調査と同じく「いろいろな体験をする場面がもっと増える」とともに、「みんなといっしょに行事をする回数が増える」となっている。
- 義務教育学校・高等学校のあり方について、教職員、保護者、学校評議員、一般県民のいずれも、「生徒の個性化・多様化に対応しながらも、誰もが身につけるべき共通的な資質・能力の定着を重視した高等学校づくりをめざすべきだ」であり、次いで「各学校では、外部の意見や評価を生かし、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざすべきだ」と回答する割合が高くなっている。
次いで、教職員は「各学校では、保護者や地域住民が学校運営に参画し、協働して地域とともにある学校づくりをめざすべきだ」としている。一方、保護者と一般県民は「小学校や中学校の再編統合によって1校あたりの児童・生徒数を確保し、子ども同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ」としている。また、学校評議員は「高等学校の新たな再編統合によって1校あたりの生徒数を確保し、生徒同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ」としている。
- 「県立(公立)高校と私立高校」について、一般県民は、県立(公立)高校の方が「就職」、「学校の行事・部活動」、「学校の雰囲気」はよく、私立高校の方が「施設や設備」、「学校の特色や個性」、「大学などへの進学」はよいと回答する割合が高くなっている。
県立(公立)高校と私立高校の選択については、「県立(公立)高校を選ぶ」、「どちらともいえない」、「私立高校を選ぶ」の順となっている。県立(公立)高校を選ぶ理由は「学費が安い」、「通学の便がよい」、「男女共学である」となっている。一方で、私立高校を選ぶ理由は「特色ある教育内容など興味・関心に応じた学習ができる」、「施設・設備が充実している」、「進学実績が高い」となっている。
- 「県立高校の改革の取り組み」について、一般県民は、「障害のある生徒にも、個々の障害の状況等に応じた指導を行う学校づくりの推進」、「専門的な知識や技能をしっかりと身につけさせる教育を行う学校づくりの推進」、「学習の遅れがちな生徒にも、学力の着実な定着を図るための学校づくりの推進」を必要とする回答の割合が高くなっている。
一方で、「私立高校のあり方」については、「社会のルールをきちんと守れるよう生徒指導に重点を置く」、「より特色ある教育内容の提供など生徒の学習ニーズに応じた教育を展開する」、「私学独自の『建学の精神』を生かす」べきであるとする回答の割合が高くなっている。

VII - 1 諸問題の解決の方策と学校のあり方

教職員、保護者、学校評議員に、諸課題の解決に向けた「これからの学校のあり方」について聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、教職員では「授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人のみだけでなく学校全体でも取り組む」、「教員一人ひとりが自らの指導力を自覚し、それぞれの能力に応じた向上に努める」、「地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める」であり、保護者及び学校評議員では「授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人のみだけでなく学校全体でも取り組む」、「指導力の高い教員を増やしていく」、「地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める」であった。

また、回答の割合が最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、教職員、保護者、学校評議員の回答はいずれの調査においても「授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人のみだけでなく学校全体でも取り組む」との回答の割合が最も多く、平成25年度調査では教職員94.3%、保護者：91.3%、学校評議員：96.3%であり、平成17年度調査では教職員93.6%、保護者：89.7%、学校評議員：95.5%であった。

『諸問題の解決の方策と学校のあり方』について教職員、保護者、学校評議員に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、教職員では、「授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人のみだけでなく学校全体でも取り組む」(94.3%)、「教員一人ひとりが自らの指導力を自覚し、それぞれの能力に応じた向上に努める」(89.0%)、「地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める」(78.1%)であり、保護者及び学校評議員では、「授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人のみだけでなく学校全体でも取り組む」(保護者：91.3%、学校評議員：96.3%)、「指導力の高い教員を増やしていく」(保護者：73.8%、学校評議員：83.3%)、「地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める」(保護者：66.2%、学校評議員：81.2%)であった。(表VII-1、図VII-1～3 参照)

表 VII-1 諸問題の解決の方策と学校のあり方 「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計(上位5項目)

	教職員	保護者	学校評議員
1位	授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人のみだけでなく学校全体でも取り組む 94.3%	授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけでなく学校全体でも取り組むようにする 91.3%	授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけでなく学校全体でも取り組むようにする 96.3%
2位	教員一人ひとりが自らの指導力を自覚し、それぞれの能力に応じた向上に努める 89.0%	指導力の高い教員を増やしていく 73.8%	指導力の高い教員を増やしていく 83.3%
3位	地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める 78.1%	地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める 66.2%	地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める 81.2%
4位	教員の仕事が均分化・平準化できるよう、校内の組織や業務内容を見直す 73.7%	NPOや企業などとの連携・協力を進め、県民の力を生かした学校づくりを進める 44.4%	学校(校長)にいろいろな決定権を与えて、子どもの実態に応じた学校づくりを進める 57.9%
5位	NPOや企業などとの連携・協力を進め、県民の力を生かした学校づくりを進める 51.6%	学校が、子どもの教育だけでなく、地域の人々が学べる拠点としての役割をもつようにしていく 36.7%	NPOや企業などとの連携・協力を進め、県民の力を生かした学校づくりを進める 46.8%

図 VII-1 諸問題の解決の方策と学校のあり方(教職員 n=2,046)

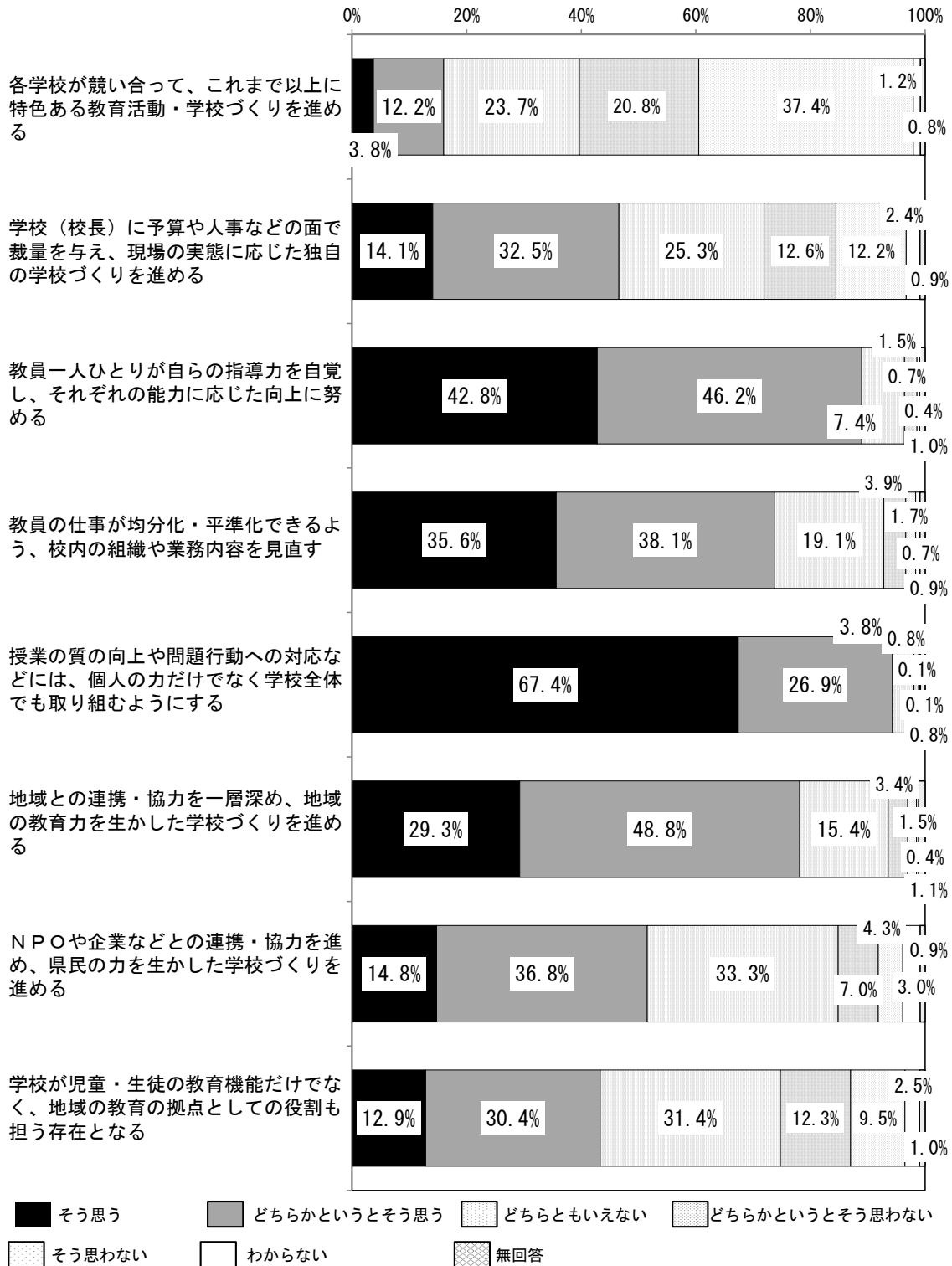


図 VII-2 諸問題の解決の方策と学校のあり方(保護者 n=3, 632)

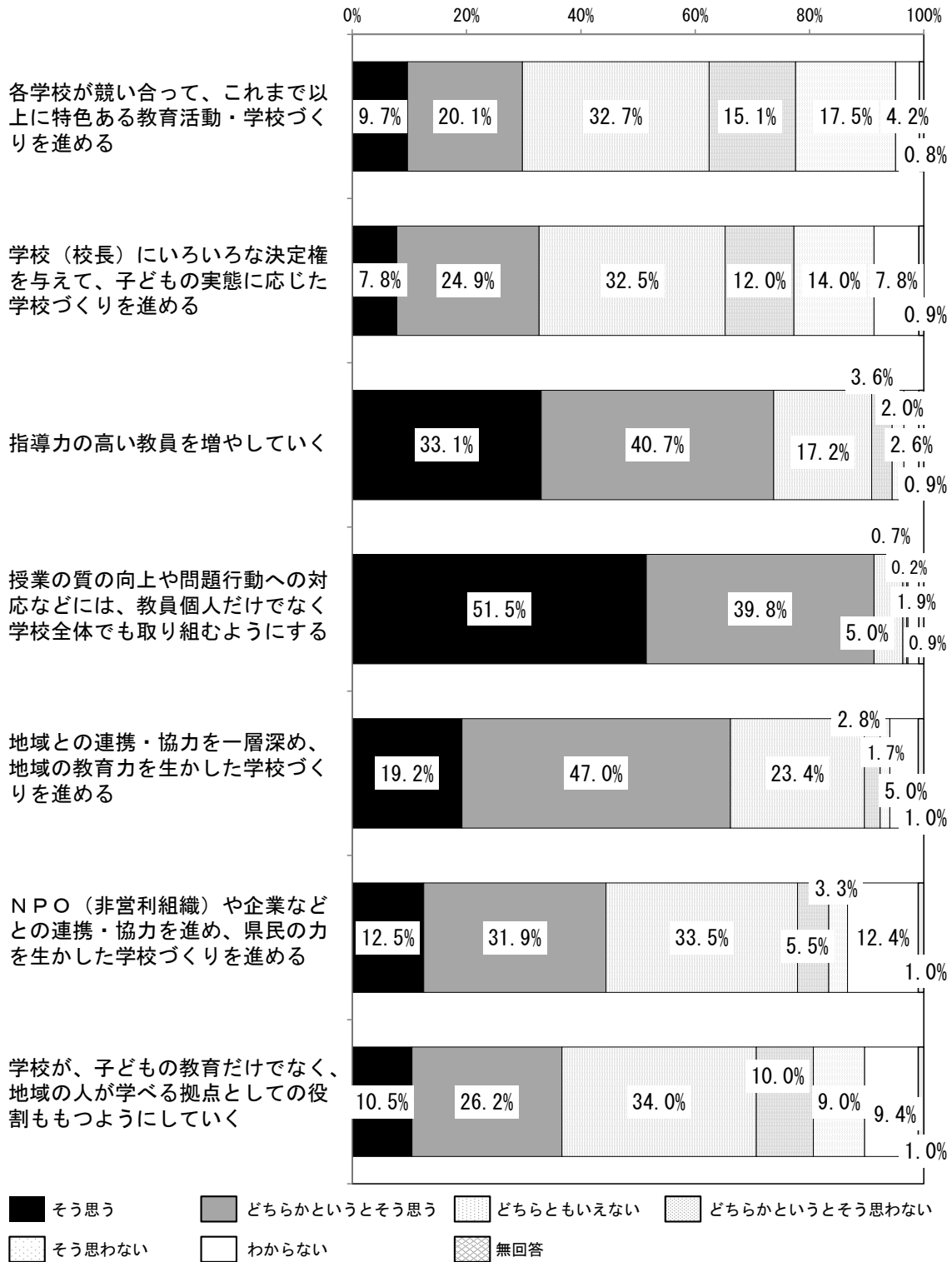
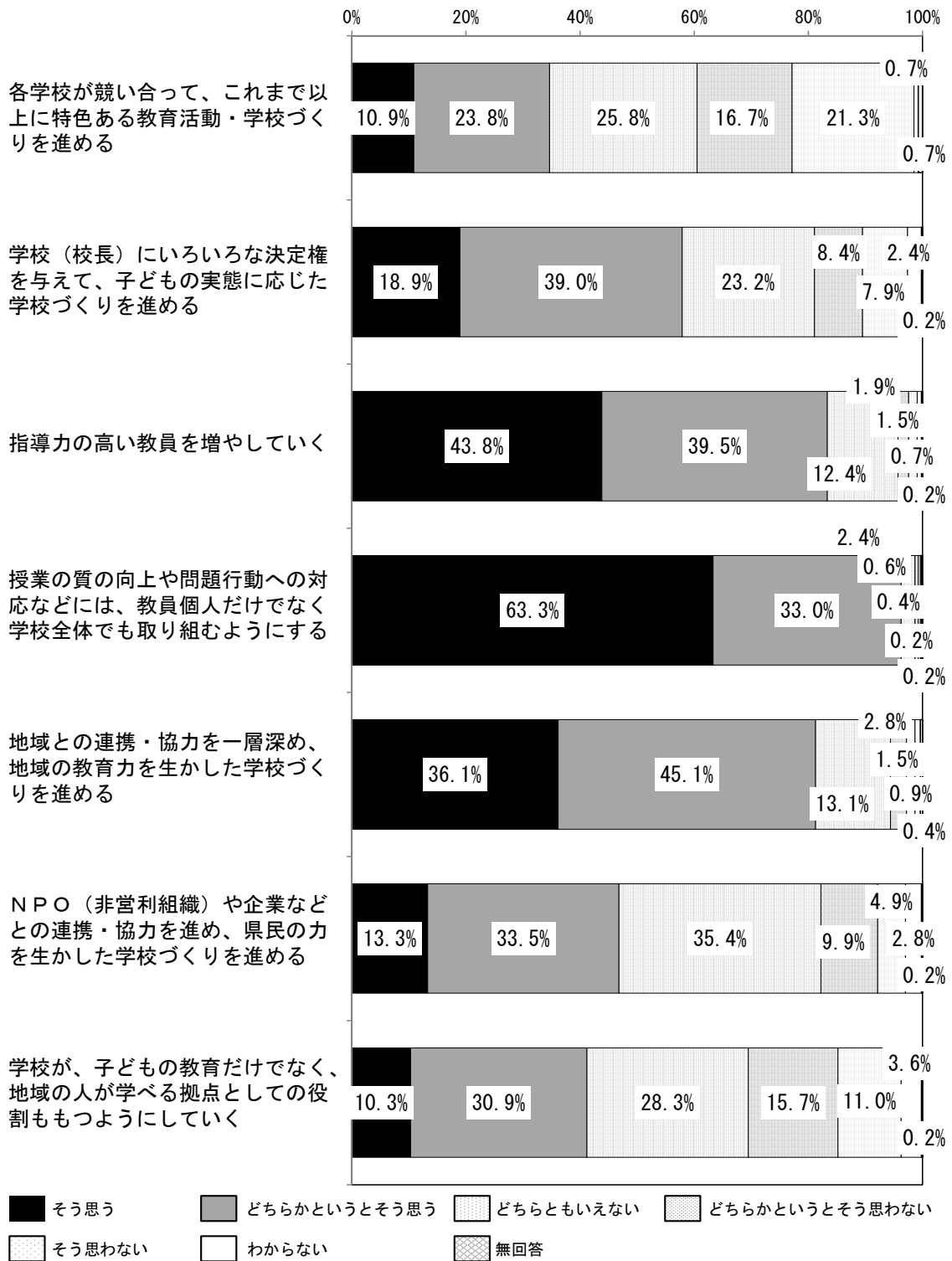


図 VII-3 諸問題の解決の方策と学校のあり方(学校評議員 n=534)



『諸問題の解決の方策と学校のあり方』について、回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、教職員の回答は平成 25 年度調査では「授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人のみだけでなく学校全体でも取り組む」(94.3%)、「教員一人ひとりが自らの指導力を自覚し、それぞれの能力に応じた向上に努める」(89.0%)、「地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める」(78.1%)であり、平成 17 年度調査では「授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人のみだけでなく学校全体でも取り組む」(93.6%)、「教員一人ひとりが自らの指導力を自覚し、それぞれの能力に応じた向上に努める」(89.4%)、「地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める」(78.9%)であった。一方、保護者及び学校評議員の回答は平成 25 年度調査では「授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人のみだけでなく学校全体でも取り組む」(保護者：91.3%、学校評議員：96.3%)、「指導力の高い教員を増やしていく」(保護者：73.8%、学校評議員：83.3%)、「地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める」(保護者：66.2%、学校評議員：81.2%)であり、平成 17 年度調査では「授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人のみだけでなく学校全体でも取り組む」(保護者：89.7%、学校評議員：95.5%)、「指導力の高い教員を増やしていく」(保護者：70.8%、学校評議員：84.9%)、「地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める」(保護者：66.6%、学校評議員：83.1%)であった。(表 VII-2 参照)

表 VII-2 諸問題の解決の方策と学校のあり方
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計(上位6項目)

	教職員		保護者		学校評議員	
	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)
	n=2,046	n=1,863	n=3,632	n=3,876	n=534	n=515
1 位	授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人の力だけでなく学校全体でも取り組む	授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人の力だけでなく学校全体でも取り組む	授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけでなく学校全体でも取り組むようにする	授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけでなく学校全体でも取り組むようにする	授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけでなく学校全体でも取り組むようにする	授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけでなく学校全体でも取り組むようにする
	94.3%	93.6%	91.3%	89.7%	96.3%	95.5%
2 位	教員一人ひとりが自らの指導力を自覚し、それぞれの能力に応じた向上に努める	教員一人ひとりが自らの指導力を自覚し、それぞれの能力に応じた向上に努める	指導力の高い教員を増やしていく	指導力の高い教員を増やしていく	指導力の高い教員を増やしていく	指導力の高い教員を増やしていく
	89.0%	89.4%	73.8%	70.8%	83.3%	84.9%
3 位	地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める	地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める	地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める	地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める	地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める	地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める
	78.1%	78.9%	66.2%	66.6%	81.2%	83.1%
4 位	教員の仕事が均分化・平準化できるよう、校内の組織や業務内容を見直す	教員の仕事が均分化・平準化できるよう、校内の組織や業務内容を見直す	NPOや企業などとの連携・協力を進め、県民の力を生かした学校づくりを進める	学校が、子どもへの教育だけでなく、地域の方が学べる拠点としての役割ももつようにしていく	学校(校長)にいろいろな決定権を与えて、子どもの実態に応じた学校づくりを進める	学校(校長)にいろいろな決定権を与えて、子どもの実態に応じた学校づくりを進める
	73.7%	68.8%	44.4%	42.5%	57.9%	61.5%
5 位	NPOや企業などとの連携・協力を進め、県民の力を生かした学校づくりを進める	NPOや企業などとの連携・協力を進め、県民の力を生かした学校づくりを進める	学校が、子どもの教育だけでなく、地域の方が学べる拠点としての役割ももつようにしていく	NPO(非営利組織)や企業などとの連携・協力を進め、県民の力を生かした学校づくりを進める	NPOや企業などとの連携・協力を進め、県民の力を生かした学校づくりを進める	学校が、子どもの教育だけでなく、地域の方が学べる拠点としての役割ももつようにしていく
	51.6%	52.3%	36.7%	39.3%	46.8%	51.3%
6 位	学校(校長)に予算や人事などの面で裁量を与え、現場の実態に応じた独自の学校づくりを進める	学校(校長)に予算や人事などの面で裁量を与え、現場の実態に応じた独自の学校づくりを進める	学校(校長)にいろいろな決定権を与えて、子どもの実態に応じた学校づくりを進める	学校(校長)にいろいろな決定権を与えて、子どもの実態に応じた学校づくりを進める	学校が、子どもの教育だけでなく、地域の方が学べる拠点としての役割ももつようにしていく	各学校が競い合って、これまで以上に特色ある教育活動・学校づくりを進める
	46.6%	51.1%	32.7%	31.7%	41.2%	39.6%

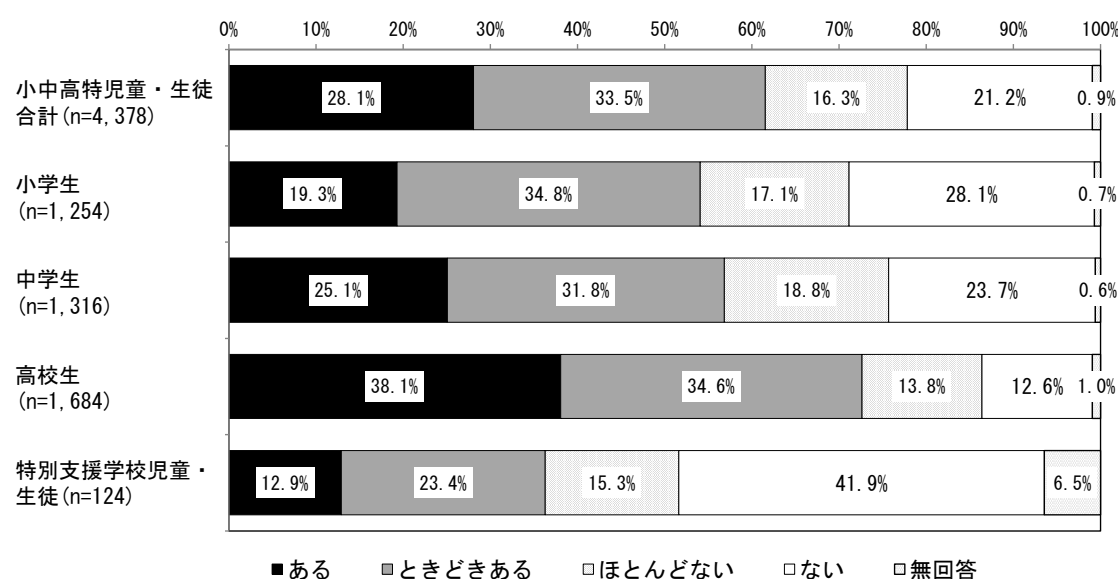
VII - 2 学校に行きたくないとき

子どもに『学校に行きたくないとき』があるかを聞いたところ、「ある」または「ときどきある」との回答は、小学生では 54.1%、中学生では 56.9%、高校生では 72.7%、特別支援学校児童・生徒では 36.3%であった。

また、平成 17 年度調査結果と比較すると、小学生の回答は平成 25 年度調査の 54.1%に対して平成 17 年度調査では 56.8%、中学生の回答は平成 25 年度調査の 56.9%に対して平成 17 年度調査では 62.0%、高校生の回答は平成 25 年度調査の 72.7%に対して平成 17 年度調査では 73.8%、特別支援学校児童・生徒の回答は平成 25 年度調査の 36.3%に対して平成 17 年度調査では 50.8%であった。

『学校に行きたくないとき』があるかを児童・生徒に聞いたところ、「ある」または「ときどきある」との回答は、小学生では 54.1%、中学生では 56.9%、高校生では 72.7%、特別支援学校児童・生徒では 36.3%であった。(図VII-4 参照)

図 VII-4 学校に行きたくないとき(児童・生徒)



『学校に行きたくないとき』があるかとの質問への「ある」または「ときどきある」との回答結果について、平成 17 年度調査結果と比較すると、小学生の回答は平成 25 年度調査の 54.1%に対して平成 17 年度調査では 56.8%、中学生の回答は平成 25 年度調査の 56.9%に対して平成 17 年度調査では 62.0%、高校生の回答は平成 25 年度調査の 72.7%に対して平成 17 年度調査では 73.8%、特別支援学校児童・生徒の回答は平成 25 年度調査の 36.3%に対して平成 17 年度調査では 50.8%であった。(図VII-5, 6 参照)

図 VII-5 学校に行きたくないとき(小中高生)

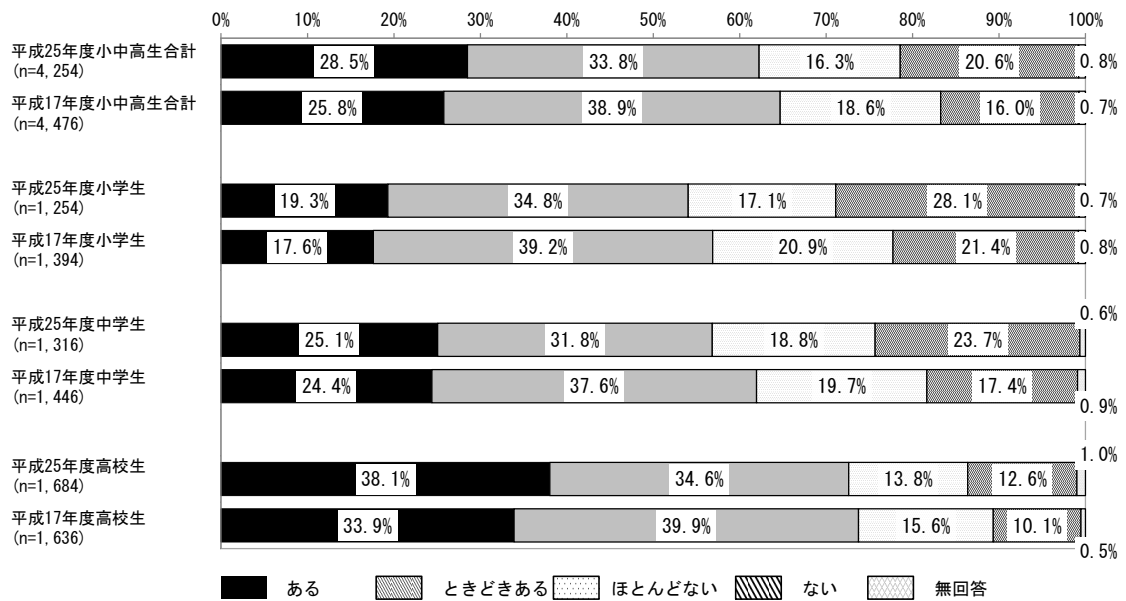
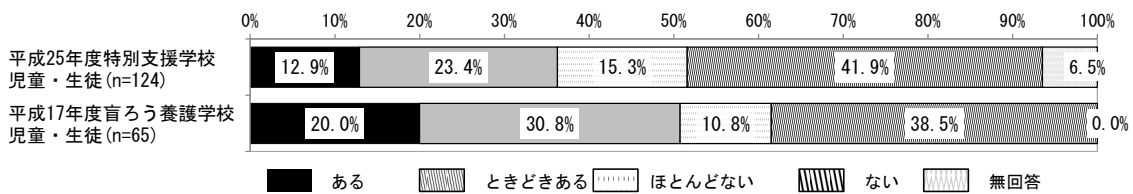


図 VII-6 学校に行きたくないとき(特別支援学校児童・生徒)



VII - 3 学校に行きたくない理由

Ⅶ-2で、「学校に行きたくないとき」が「ある」、「ときどきある」、「ほとんどない」と回答した子どもに、「学校に行きたくない理由」について聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、すべての校種で「疲れているから」の割合が最も高く、次いで、小中高生では「なんとなく気持ちが乗らないから」、「家にいる方が楽しいから」、特別支援学校児童・生徒では「わからない」、「家にいる方が楽しいから」が続いている。

また、『学校に行きたくない理由』について、回答の割合が最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、すべての校種の児童・生徒がいずれの調査においても、「疲れているから」を理由として回答する割合が最も高く、平成25年度調査では小学生45.2%、中学生59.3%、高校生66.4%、特別支援学校児童・生徒40.6%であり、平成17年度調査では小学生46.7%、中学生58.3%、高校生64.5%、特別支援学校児童・生徒47.5%であった。

『学校に行きたくない理由』について児童・生徒に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、すべての校種で「疲れているから」（小学生：45.2%、中学生：59.3%、高校生：66.4%、特別支援学校児童・生徒：40.6%）を理由として回答している割合が最も高くなっており、次いで、小中高生では「なんとなく気持ちが乗らないから」（小学生：37.3%、中学生：38.6%、高校生：46.9%）、「家にいる方が楽しいから」（小学生：22.1%、中学生：18.0%、高校生：14.4%）、特別支援学校児童・生徒では「わからない」（18.8%）、「家にいる方が楽しいから」（15.6%）の割合が高くなっている。（表Ⅶ-3、図Ⅶ-7,8 参照）

表 VII-3 学校に行きたくない理由(上位5項目)

	小学生	中学生	高校生	特別支援学校児童・生徒
1位	疲れているから 45.2%	疲れているから 59.3%	疲れているから 66.4%	疲れているから 40.6%
2位	なんとなくやる気が起きないから 37.3%	なんとなく気持ちが乗らないから 38.6%	なんとなく気持ちが乗らないから 46.9%	わからない 18.8%
3位	家にいる方が楽しいから 22.1%	家にいる方が楽しいから 18.0%	家にいる方が楽しいから 14.4%	家にいる方が楽しいから 15.6%
4位	その他 14.0%	その他 16.5%	その他 10.1%	授業がつまらないから 14.1%
5位	先生がいやなときがあるから 9.2%	自分と合わない先生がいるから 7.5%	仲の良い友だちが少ないから 6.3%	いじわるをされるから 10.9%

図 VII-7 学校に行きたくない理由(小中高生)

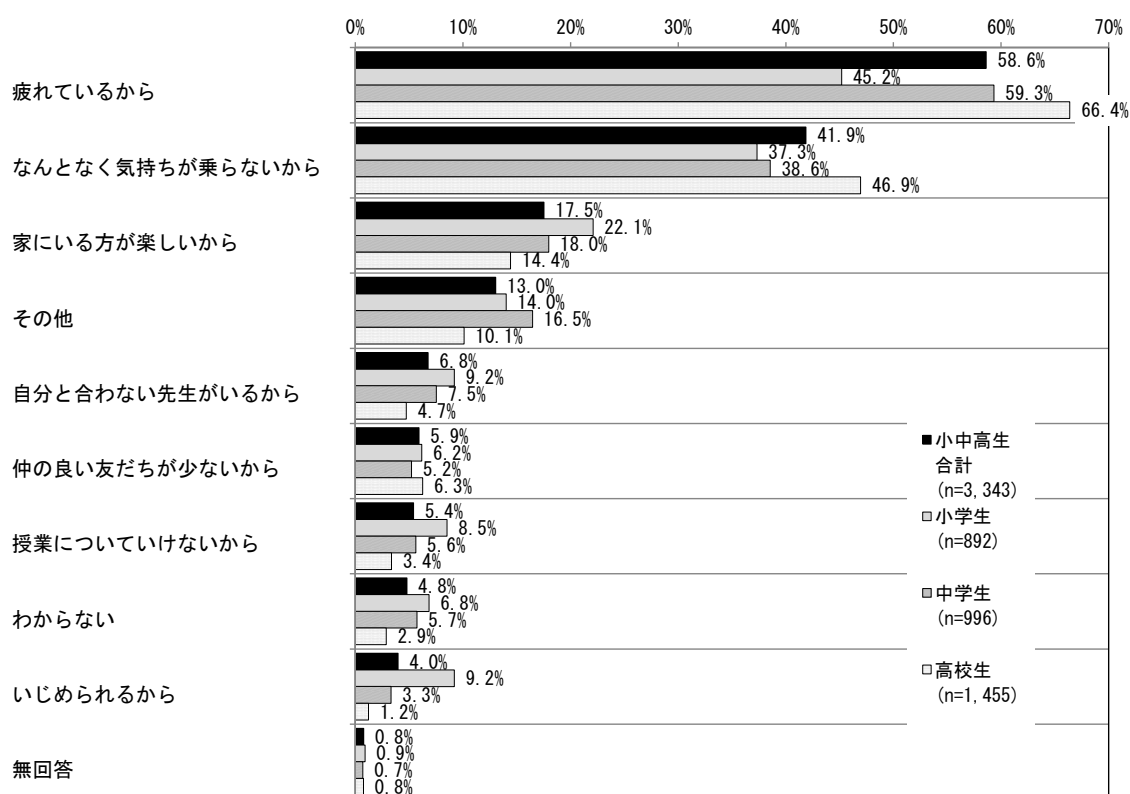
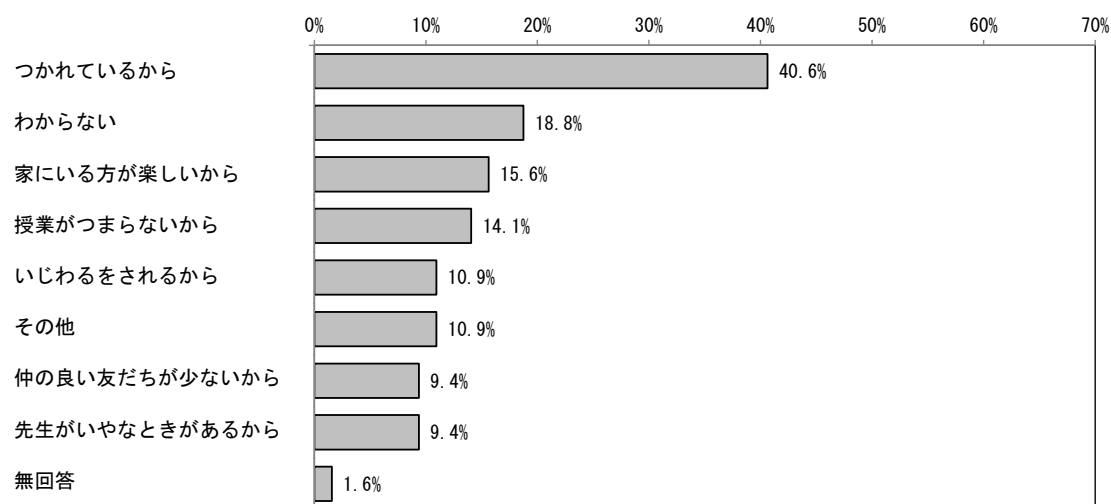


図 VII-8 学校に行きたくない理由(特別支援学校児童・生徒 n=64)



<「その他」の主な回答>

[小中高生共通]

- ・眠いから、朝がつらいから
- ・授業や勉強が嫌だから
- ・苦手な友だちがいるから
- ・体調が悪いから

[小学生]

- ・宿題が終わっていないから
- ・友だちとけんかしているから
- ・体育があるから
- ・給食で嫌いなものが出るから
- ・受験勉強をしたいから

[中学生]

- ・宿題が終わっていないから
- ・友だちとけんかしているから
- ・みんなの前での発表があるから
- ・部活動がきついから
- ・天候が悪いから
- ・学校が遠いから
- ・遊んでいたいから

[高校生]

- ・課題がたまっているから
- ・授業のスピードが遅いから
- ・部活動がつらいから
- ・天候が悪いから
- ・学校が遠いから
- ・アルバイトをしたいから

[特別支援学校児童・生徒]

- ・授業が3コマもあると長く感じるから
- ・苦手な友だちがいるから
- ・先生に障害特性を理解してもらえないときがあるから
- ・久しぶりで緊張するから

など

『学校に行きたくない理由』について、回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、小学生の回答は平成 25 年度調査では「疲れているから」(45.2%)、「なんとなくやる気が起きないから」(37.3%)、「家にいる方が楽しいから」(22.1%)であり、平成 17 年度調査では「疲れているから」(46.7%)、「なんとなく気持ちがのらないから」(33.9%)、「家にいる方が楽しいから」(16.2%)であった。中高生の回答は平成 25 年度調査では「疲れているから」(中学生：59.3%、高校生：66.4%)、「なんとなく気持ちが乗らないから」(中学生：38.6%、高校生：46.9%)、「家にいる方が楽しいから」(中学生：18.0%、高校生：14.4%)であり、平成 17 年度調査では「疲れているから」(中学生：58.3%、高校生：64.5%)、「なんとなく気持ちが乗らないから」(中学生：39.9%、高校生：51.0%)、「その他」(中学生：13.3%、高校生：10.0%)であった。特別支援学校児童・生徒の回答は平成 25 年度調査では「疲れているから」(40.6%)、「わからない」(18.8%)、「家にいる方が楽しいから」(15.6%)であり、平成 17 年度調査では「疲れているから」(47.5%)、「家にいる方が楽しいから」(25.0%)、「授業がつまらないから」(22.5%)であった。(表VII-4 参照)

表 VII-4 学校に行きたくない理由(上位 7 項目)

	小学生		中学生	
	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)
	n=892	n=1,084	n=996	n=1,181
1 位	疲れているから 45.2%	疲れているから 46.7%	疲れているから 59.3%	疲れているから 58.3%
2 位	なんとなくやる気が起きないから 37.3%	なんとなく気持ちがのらないから 33.9%	なんとなく気持ちが乗らないから 38.6%	なんとなく気持ちが乗らないから 39.9%
3 位	家にいる方が楽しいから 22.1%	家にいる方が楽しいから 16.2%	家にいる方が楽しいから 18.0%	その他 13.3%
4 位	その他 14.0%	わからない 10.1%	その他 16.5%	家にいる方が楽しいから 11.5%
5 位	先生がいやなときがあるから	いじめられるから 9.9%	自分と合わない先生がいるから 7.5%	自分と合わない先生がいるから 10.8%
6 位	いじめられるから 9.2%	授業についていけないから 9.8%	わからない 5.7%	仲の良い友だちが少ないから
7 位	授業についていけないから 8.5%	その他 9.3%	授業についていけないから 5.6%	授業についていけないから 6.7%

	高校生		特別支援学校児童・生徒	
	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)
	n=1,455	n=1,462	n=64	n=40
1位	疲れているから 66.4%	疲れているから 64.5%	疲れているから 40.6%	疲れているから 47.5%
2位	なんとなく気持ちが乗らないから 46.9%	なんとなく気持ちが乗らないから 51.0%	わからない 18.8%	家にいる方が楽しいから 25.0%
3位	家にいる方が楽しいから 14.4%	その他 10.0%	家にいる方が楽しいから 15.6%	授業がつまらないから 22.5%
4位	その他 10.1%	家にいる方が楽しいから 7.7%	授業がつまらないから 14.1%	わからない 17.5%
5位	仲の良い友だちが少ないから 6.3%	自分と合わない先生がいるから 5.6%	いじわるをされるから その他	その他 15.0%
6位	自分と合わない先生がいるから 4.7%	仲の良い友だちが少ないから 5.0%	その他 10.9%	先生がいやなときがあるから 12.5%
7位	授業についていけないから 3.4%	授業についていけないから 4.8%	仲の良い友達が少ないから 先生がいやなときがあるから 9.4%	いじわるをされるから 7.5%

VII-4 学校がどのようになったらよいと思うか

子どもに「学校がどのようになったらよいと思うか」を聞いたところ、回答の割合が高かった項目は小学生では「学校の活動で、いろいろな体験をする場面がもっとふえる」、「学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる」、「勉強の時間や内ようがふえても、一人ひとりの進み方に合わせて勉強させてくれる」であり、中学生では、「学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる」、「学校の活動で、いろいろな体験をする機会がもっと増える」、「勉強の時間や内容が増えても、一人ひとりに合わせて指導してくれる」、高校生では、「学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる」、「勉強の時間や内容が増えても、一人ひとりに合わせて指導してくれる」、「学校の活動で、いろいろな体験をする機会がもっと増える」、特別支援学校児童・生徒では、「いろいろな体験をする場面がもっと増える」、「いごちのいいところがある」、「みんなといっしょに行事をする回数が増える」であった。

また、回答の割合が最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、小学生の回答はいずれの調査においても「学校の活動で、いろいろな体験をする場面がもっとふえる」との回答の割合が最も高く、平成25年度調査では34.9%、平成17年度調査では39.2%であり、中高生の回答はいずれの調査においても「学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる」との回答の割合が最も高く、平成25年度調査では中学生41.9%、高校生34.4%、平成17年度調査では中学生45.2%、高校生42.5%であった。特別支援学校児童・生徒の回答は平成25年度調査では「いろいろな体験をする場面がもっと増える」(39.5%)であり、平成17年度調査では「いろいろな体験をする場面がもっと増える」と「みんなといっしょに行事をする回数が増える」(共に29.2%)であった。

『これからの学校のあり方』について児童・生徒に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は小学生では、「学校の活動で、いろいろな体験をする場面がもっとふえる」(34.9%)、「学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる」(31.9%)、「勉強の時間や内ようがふえても、一人ひとりの進み方に合わせて勉強させてくれる」(24.7%)であり、中学生では、「学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる」(41.9%)、「学校の活動で、いろいろな体験をする機会がもっと増える」(27.1%)、「勉強の時間や内容が増えても、一人ひとりに合わせて指導してくれる」(26.0%)、高校生では、「学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる」(34.4%)、「勉強の時間や内容が増えても、一人ひとりに合わせて指導してくれる」(24.3%)、「学校の活動で、いろいろな体験をする機会がもっと増える」(23.5%)、特別支援学校児童・生徒では、「いろいろな体験をする場面がもっと増える」(39.5%)、「いごちのいいところがある」(24.2%)、「みんなといっしょに行事をする回数が増える」(21.8%)であった。(表VII-5、図VII-9, 10 参照)

表 VII-5 これからの学校(上位5項目)

	小学生	中学生	高校生	特別支援学校児童・生徒
1位	学校の活動で、いろいろな体験をする場面がもっとふえる 34.9%	学校にいとほっとしたり、楽な気持ちになれる 41.9%	学校にいとほっとしたり、楽な気持ちになれる 34.4%	いろいろな体験をする場面がもっと増える 39.5%
2位	学校にいとほっとしたり、楽な気持ちになれる 31.9%	学校の活動で、いろいろな体験をする機会がもっと増える 27.1%	勉強の時間や内容が増えても、一人ひとりに合わせて指導してくれる 24.3%	いごちのいいところがある 24.2%
3位	勉強の時間や内ようがふえても、一人ひとりの進み方に合わせて勉強させてくれる 24.7%	勉強の時間や内容が増えても、一人ひとりに合わせて指導してくれる 26.0%	学校の活動で、いろいろな体験をする機会がもっと増える 23.5%	みんなといっしょに行事をする回数が増える 21.8%
4位	同級生や上級生、下級生といっしょに行事などをする場面がふえる 21.6%	同級生や上級生、下級生と一緒に行事などに取り組む機会が増える 21.4%	同級生や上級生、下級生と一緒に行事などに取り組む機会が増える 18.2%	一人ひとりに対し、もっとていねいにめんどろを見てくれる 20.2%
5位	ほかの学校に自慢できることがある 17.1%	ほかの学校に自慢できることがある 14.6%	社会のことや大人になったときのことをたくさん教えてくれる 17.6%	いろいろな経験をしていてたくさんの人に出える 18.5%

図 VII-9 これからの学校のあり方(小中高生)

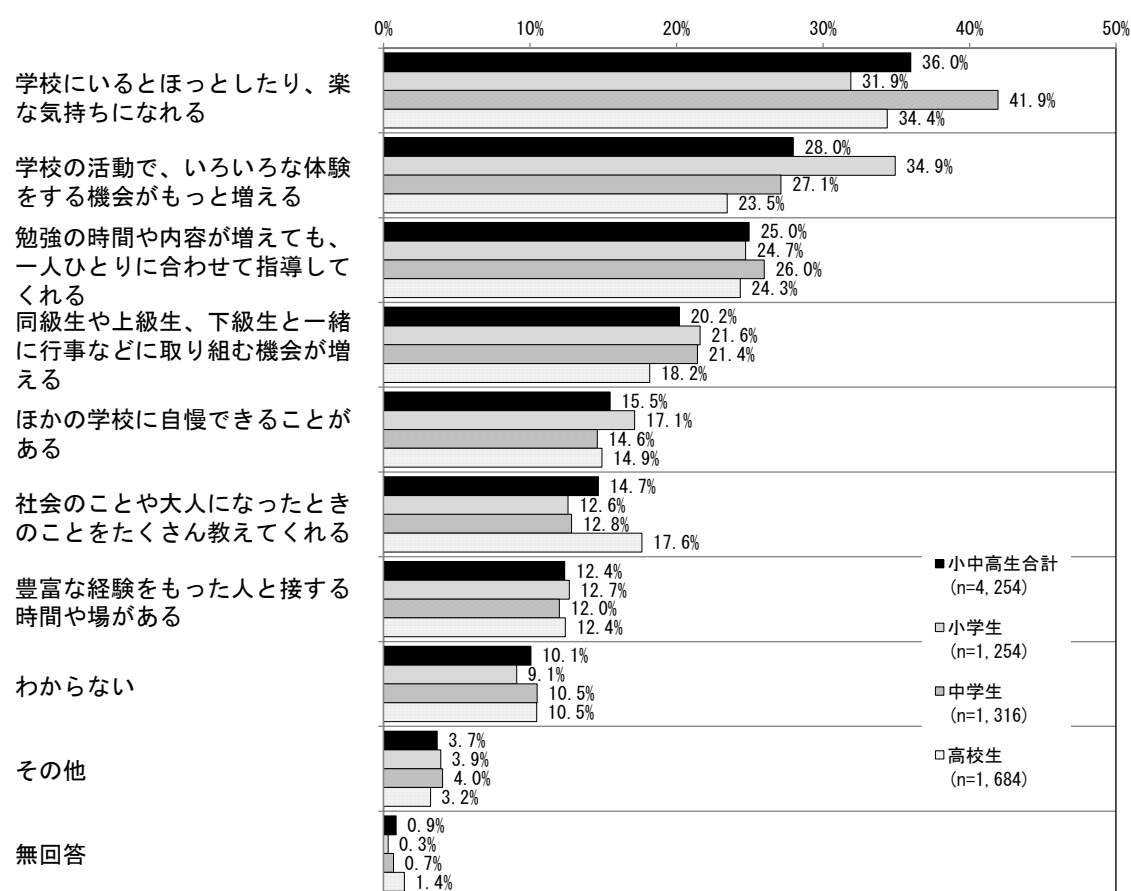
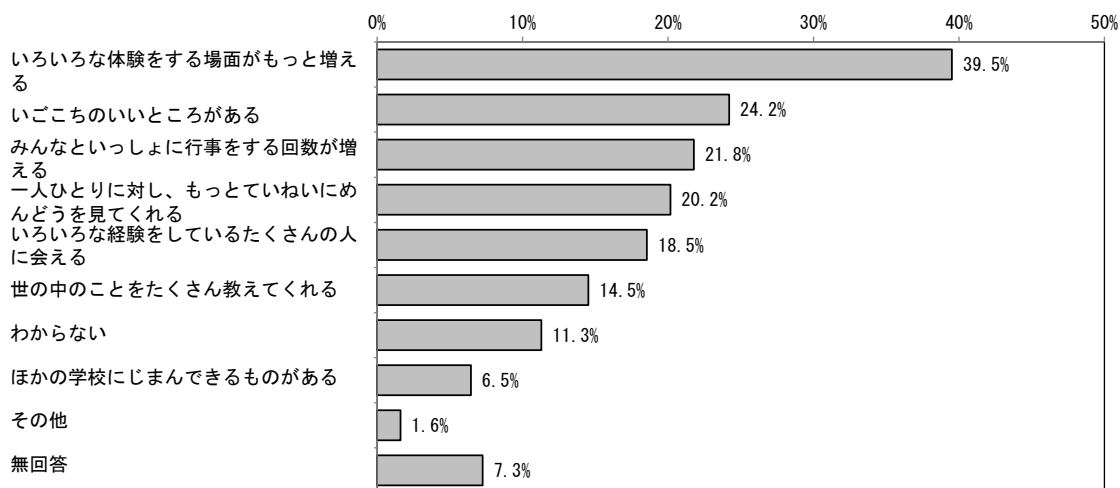


図 VII-10 これからの学校 (特別支援学校児童・生徒 n=124)



平成 17 年度調査との比較

『これからの学校のあり方』について、回答の割合が高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、小学生の回答は平成25年度調査では「学校の活動で、いろいろな体験をする場面がもっとふえる」(34.9%)、「学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる」(31.9%)、「勉強の時間や内ようがふえても、一人ひとりの進み方に合わせて勉強させてくれる」(24.7%)であり、平成17年度調査では「学校の活動で、いろいろな体験をする機会がもっと増える」(39.2%)、「学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる」(34.6%)、「同級生や上級生、下級生と一緒に行事などをする機会が増える」(20.8%)であった。

中学生では、「学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる」(41.9%)、「学校の活動で、いろいろな体験をする機会がもっと増える」(27.1%)、「勉強の時間や内容が増えても、一人ひとりに合わせて指導してくれる」(26.0%)であり、平成17年度調査では「学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる」(45.2%)、「学校の活動で、いろいろな体験をする機会がもっと増える」(27.0%)、「勉強の時間や内容が増えても、一人ひとりに合わせて指導してくれる」(25.6%)であった。

高校生では、「学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる」(34.4%)、「勉強の時間や内容が増えても、一人ひとりに合わせて指導してくれる」(24.3%)、「学校の活動で、いろいろな体験をする機会がもっと増える」(23.5%)であり、平成17年度調査では「学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる」(42.5%)、「学校の活動で、いろいろな体験をする機会がもっと増える」(24.1%)、「勉強の時間や内容が増えても、一人ひとりに合わせて指導してくれる」(23.0%)であった。

特別支援学校児童・生徒では、「いろいろな体験をする場面がもっと増える」(39.5%)、「いごちのいいところがある」(24.2%)、「みんなといっしょに行事をする回数が増える」(21.8%)であり、平成17年度調査では「いろいろな体験をする場面がもっと増える」(29.2%)、「みんなといっしょに行事をする回数が増える」(29.2%)、「いごちのいいところがある」(23.1%)であった。(表VII-6 参照)

表 VII-6 これからの学校のあり方(上位5項目)

	小学生		中学生	
	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)
	n=1, 254	n=1, 394	n=1, 316	n=1, 446
1 位	学校の活動で、いろいろな体験をする場面がもっとふえる	学校の活動で、いろいろな体験をする機会がもっと増える	学校にいとほつしたり、楽な気持ちになれる	学校にいとほつしたり、楽な気持ちになれる
	34.9%	39.2%	41.9%	45.2%
2 位	学校にいとほつしたり、楽な気持ちになれる	学校にいとほつしたり、楽な気持ちになれる	学校の活動で、いろいろな体験をする機会がもっと増える	学校の活動で、いろいろな体験をする機会がもっと増える
	31.9%	34.6%	27.1%	27.0%
3 位	勉強の時間や内ようがふえても、一人ひとりの進み方に合わせて勉強させてくれる	同級生や上級生、下級生と一緒に行事などをする機会が増える	勉強の時間や内容が増えても、一人ひとりに合わせて指導してくれる	勉強の時間や内容が増えても、一人ひとりに合わせて指導してくれる
	24.7%	20.8%	26.0%	25.6%
4 位	同級生や上級生、下級生といっしょに行事などをする場面がふえる	勉強の時間や内容が増えても、一人ひとりに合わせて指導してくれる	同級生や上級生、下級生と一緒に行事などに取り組む機会が増える	同級生や上級生、下級生と一緒に行事などに取り組む機会が増える
	21.6%	19.0%	21.4%	18.3%
5 位	ほかの学校に自慢できることがある	ほかの学校に自慢できることがある	ほかの学校に自慢できることがある	ほかの学校に自慢できることがある
	17.1%	16.4%	14.6%	13.8%

	高校生		特別支援学校児童・生徒	
	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)
	n=1, 684	n=1, 636	n=124	n=65
1 位	学校にいとほつしたり、楽な気持ちになれる	学校にいとほつしたり、楽な気持ちになれる	いろいろな体験をする場面がもっと増える	いろいろな体験をする場面がもっと増える
	34.4%	42.5%	39.5%	みんなといっしょに行事をする回数が増える
2 位	勉強の時間や内容が増えても、一人ひとりに合わせて指導してくれる	学校の活動で、いろいろな体験をする機会がもっと増える	いごちのいいところがある	
	24.3%	24.1%	24.2%	29.2%
3 位	学校の活動で、いろいろな体験をする機会がもっと増える	勉強の時間や内容が増えても、一人ひとりに合わせて指導してくれる	みんなといっしょに行事をする回数が増える	いごちのいいところがある
	23.5%	23.0%	21.8%	23.1%
4 位	同級生や上級生、下級生と一緒に行事などに取り組む機会が増える	同級生や上級生、下級生と一緒に行事などに取り組む機会が増える	一人ひとりに対し、もっていねいにめんどろを見てくれる	いろいろな経験を持ったたくさんの人に会える
	18.2%	16.6%	20.2%	
5 位	社会のことや大人になったときのことをたくさん教えてくれる	社会のことや大人になったときのことをたくさん教えてくれる	いろいろな経験をしているたくさんの人に会える	わからない
	17.6%	16.3%	18.5%	20.0%

VII - 5 義務教育学校・高等学校のあり方

教職員、保護者、学校評議員、一般県民に『義務教育学校・高等学校のあり方』について聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、教職員、保護者、学校評議員、一般県民のいずれにおいても「生徒の個性化・多様化に対応しながらも、誰もが身につけるべき共通的な資質・能力の定着を重視した高等学校づくりをめざすべきだ」であり、次いで「各学校では、外部の意見や評価を生かし、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざすべきだ」であった。続いて、教職員では「各学校では、保護者や地域住民が学校運営に参画し、協働して地域とともにある学校づくりをめざすべきだ」、保護者及び一般県民では「小学校や中学校の再編統合によって1校あたりの児童・生徒数を確保し、子ども同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ」、学校評議員では「高等学校の新たな再編統合によって1校あたりの生徒数を確保し、生徒同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ」との回答の割合が高くなっている。

『義務教育学校・高等学校のあり方』について教職員、保護者、学校評議員及び一般県民に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、教職員、保護者、学校評議員、一般県民のいずれにおいても「生徒の個性化・多様化に対応しながらも、誰もが身につけるべき共通的な資質・能力の定着を重視した高等学校づくりをめざすべきだ」（教職員：73.4%、保護者：72.4%、学校評議員：84.1%、一般県民：74.8%）であり、次いで「各学校では、外部の意見や評価を生かし、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざすべきだ」（教職員：65.2%、保護者：68.9%、学校評議員：80.3%、一般県民：69.7%）であった。続いて、教職員では「各学校では、保護者や地域住民が学校運営に参画し、協働して地域とともにある学校づくりをめざすべきだ」（44.5%）、保護者及び一般県民では「小学校や中学校の再編統合によって1校あたりの児童・生徒数を確保し、子ども同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ」（保護者：43.2%、一般県民：51.7%）、学校評議員では「高等学校の新たな再編統合によって1校あたりの生徒数を確保し、生徒同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ」（52.6%）との回答の割合が高くなっている。（表VII-7、図VII-11～14 参照）

表 VII-7 義務教育学校・高等学校のあり方 「そう思う」と「どちらかというと思
う」の合計(上位5項目)

	教職員	保護者	学校評議員	一般県民
1位	生徒の個性化・多様化に対応しながらも、誰もが身につけるべき共通的な資質・能力の定着を重視した高等学校づくりをめざすべきだ	生徒の個性化・多様化に対応しながらも、誰もが身につけるべき共通的な資質・能力の定着を重視した高等学校づくりをめざすべきだ	生徒の個性化・多様化に対応しながらも、誰もが身につけるべき共通的な資質・能力の定着を重視した高等学校づくりをめざすべきだ	生徒の個性化・多様化に対応しながらも、誰もが身につけるべき共通的な資質・能力の定着を重視した高等学校づくりをめざすべきだ
	73.4%	72.4%	84.1%	74.8%
2位	各学校では、外部の意見や評価を生かし、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざすべきだ	各学校では、外部の意見や評価を生かし、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざすべきだ	各学校では、外部の意見や評価を生かし、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざすべきだ	各学校では、外部の意見や評価を生かし、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざすべきだ
	65.2%	68.9%	80.3%	69.7%
3位	各学校では、保護者や地域住民が学校運営に参画し、協働して地域とともにある学校づくりをめざすべきだ	小学校や中学校の再編統合によって1校あたりの児童・生徒数を確保し、子ども同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ	高等学校の新たな再編統合によって1校あたりの生徒数を確保し、生徒同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ	小学校や中学校の再編統合によって1校あたりの児童・生徒数を確保し、子ども同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ
	44.5%	43.2%	52.6%	51.7%
4位	小学校や中学校の再編統合によって1校あたりの児童・生徒数を確保し、子ども同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ	各学校では、保護者や地域住民が学校運営に参画し、協働して地域とともにある学校づくりをめざすべきだ	各学校では、保護者や地域住民が学校運営に参画し、協働して地域とともにある学校づくりをめざすべきだ	各学校では、保護者や地域住民が学校運営に参画し、協働して地域とともにある学校づくりをめざすべきだ
	39.4%	42.6%	52.4%	50.6%
5位	高等学校の新たな再編統合によって1校あたりの生徒数を確保し、生徒同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ	高等学校の新たな再編統合によって1校あたりの生徒数を確保し、生徒同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ	小学校や中学校の再編統合によって1校あたりの児童・生徒数を確保し、子ども同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ	高等学校の新たな再編統合によって1校あたりの生徒数を確保し、生徒同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ
	36.6%	38.0%	49.0%	46.4%

図 VII-11 義務教育学校・高等学校のあり方(教職員 n=2,046)

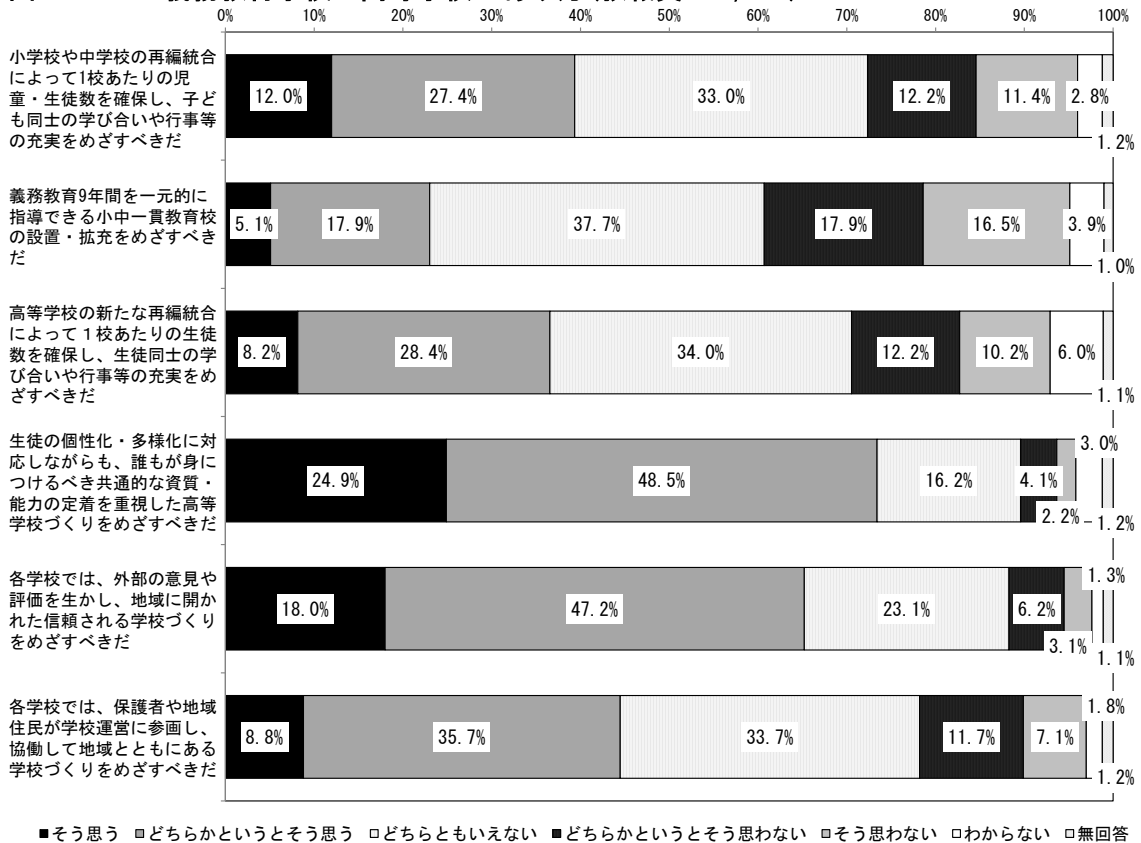


図 VII-12 義務教育学校・高等学校のあり方(保護者 n=3,632)

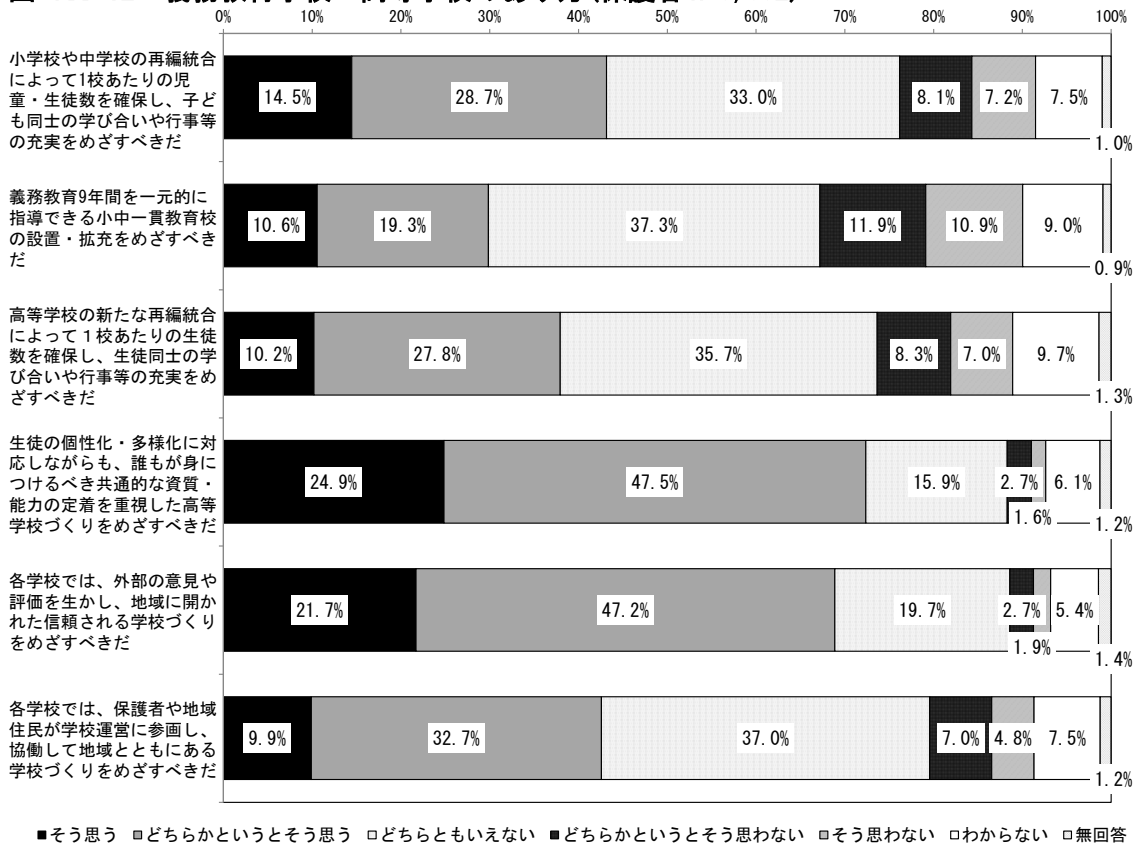


図 VII-13 義務教育学校・高等学校のあり方(学校評議員 n=534)

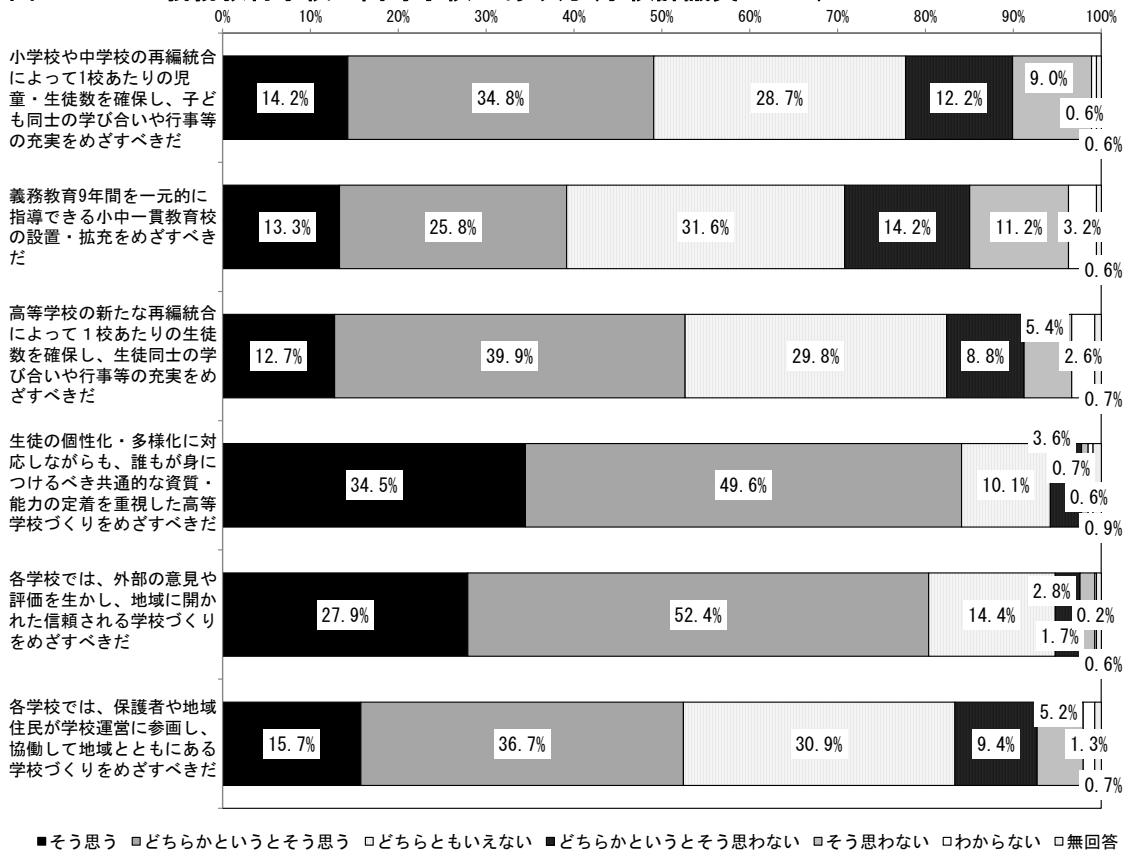
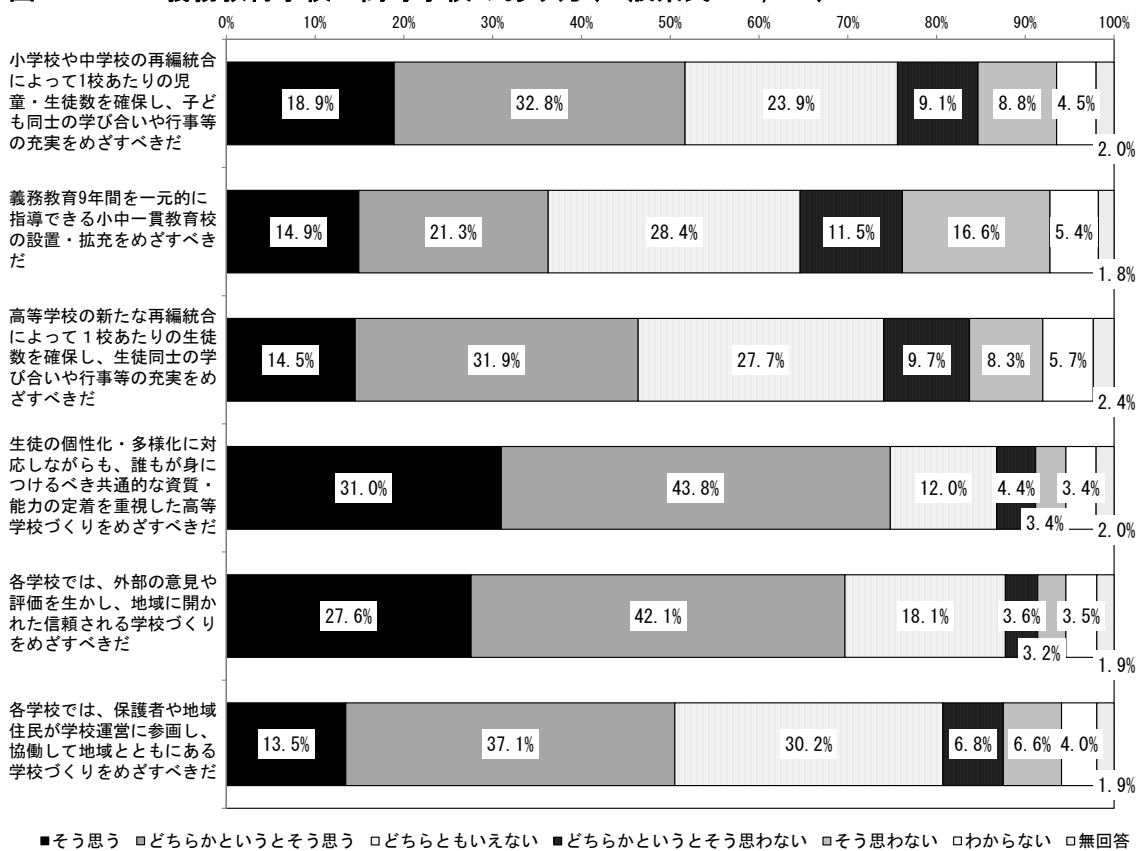


図 VII-14 義務教育学校・高等学校のあり方(一般県民 n=1,233)



VII - 6 県立(公立)高校と私立高校

一般県民に対して、『県立(公立)高校と私立高校』について聞いたところ、「県立(公立)の方がよい」との回答で割合が高かった項目は「就職」、「学校の行事・部活動」、「学校の雰囲気」であり、「私立の方がよい」との回答で割合が高かった項目は「施設や設備」、「学校の特色や個性」、「大学などへの進学」であった。県立(公立)高校と私立高校のどちらを進学先として選ぶかを聞いたところ、「県立(公立)高校を選ぶ」、「どちらともいえない」、「私立高校を選ぶ」の順に回答の割合が高かった。そして、県立(公立)高校を選ぶ理由として回答した割合の高かった項目は「学費が安い」、「通学の便がよい」、「男女共学である」であり、私立高校を選ぶ理由として回答した割合の高かった項目は「特色ある教育内容など興味・関心に応じた学習ができる」、「施設・設備が充実している」、「進学実績が高い」であった。

また、回答の割合が最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、「県立(公立)の方がよい」との回答で割合が高かった項目はいずれの調査においても「就職」であり、平成25年度調査では12.3%、平成17年度調査では10.1%であった。一方、「私立の方がよい」との回答で割合が高かった項目はいずれの調査においても「施設や設備」であり、平成25年度調査では72.1%、平成17年度調査では59.7%であった。県立(公立)高校と私立高校のどちらを進学先として選ぶかへの回答で最も割合が高かったのはいずれの調査においても「県立(公立)高校を選ぶ」であり、平成25年度調査43.1%、平成17年度調査40.3%であった。そして、県立(公立)高校を選ぶ理由として回答した割合の高かった項目はいずれの調査においても「学費が安い」との回答の割合が最も高く、平成25年度調査では91.5%、平成17年度調査では87.9%であった。

『県立(公立)高校と私立高校』について一般県民に聞いたところ、「県立(公立)の方がよい」との回答で割合が高かった項目は「就職」(12.3%)、「学校の行事・部活動」(10.1%)、「学校の雰囲気」(8.8%)であり、「私立の方がよい」との回答で割合が高かった項目は「施設や設備」(72.1%)、「学校の特色や個性」(61.9%)、「大学などへの進学」(47.1%)であった。

また、県立(公立)高校と私立高校のどちらを進学先として選ぶかを聞いたところ、「県立(公立)高校を選ぶ」(43.1%)、「どちらともいえない」(23.1%)、「私立高校を選ぶ」(22.5%)との回答結果であった。

さらに、県立(公立)高校を選ぶ理由として回答した割合の高かった項目は「学費が安い」(91.5%)、「通学の便がよい」(41.2%)、「男女共学である」(39.2%)であり、私立高校を選ぶ理由として回答した割合の高かった項目は「特色ある教育内容など興味・関心に応じた学習ができる」(40.3%)、「施設・設備が充実している」(39.6%)、「進学実績が高い」(39.2%)であった。(図VII-15～17 参照)

図 VII-15 県立(公立)高校と私立高校を比べると、次の点について、どちらの方がよいと思うか(一般県民 n=1, 233)

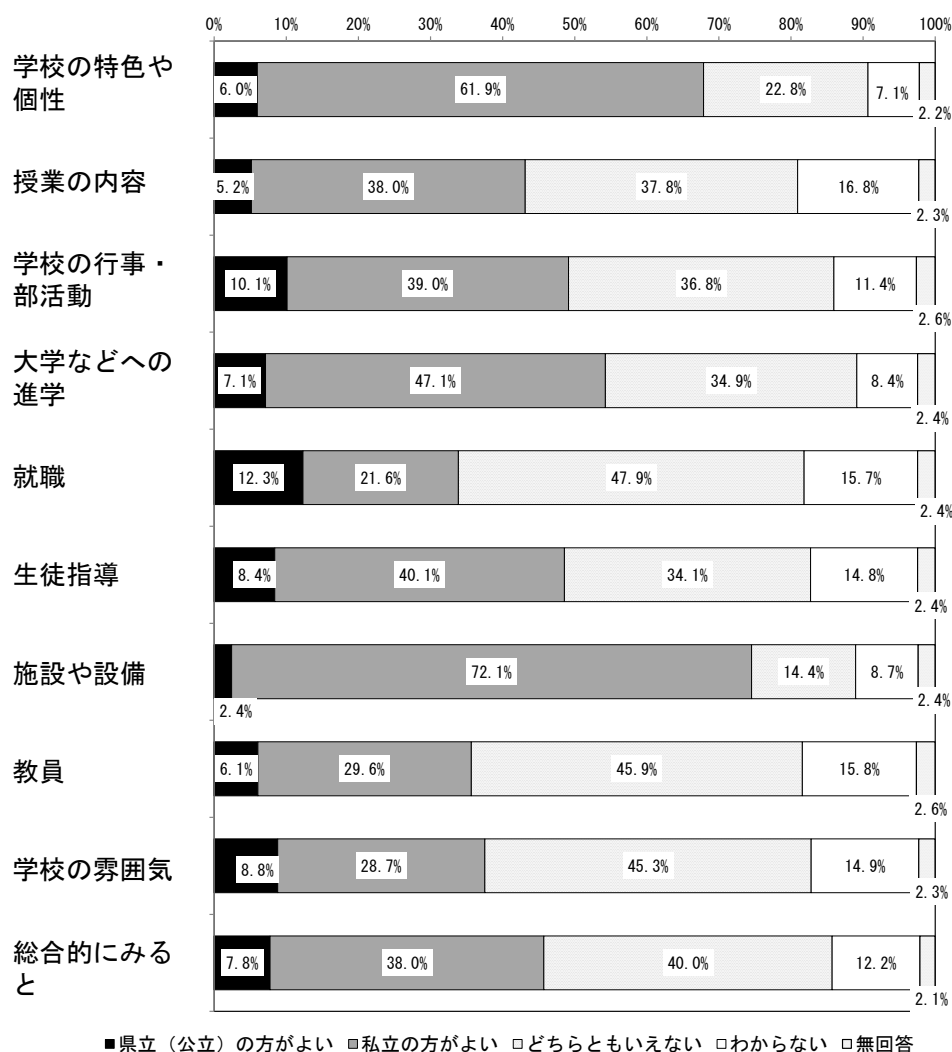


図 VII-16 もし、あなたが(またはお子様が)中学3年生だとしたら、県立(公立)高校と私立高校のどちらを選ぶか(一般県民 n=1, 233)

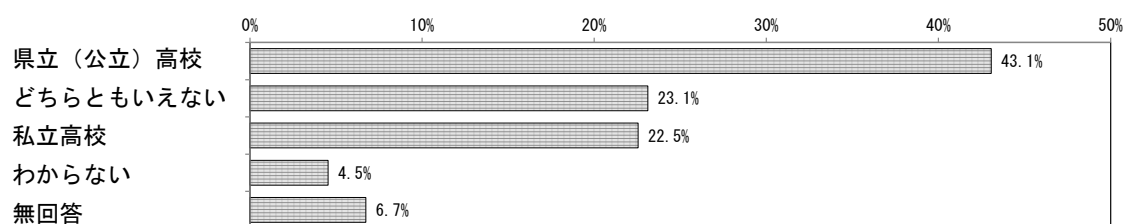
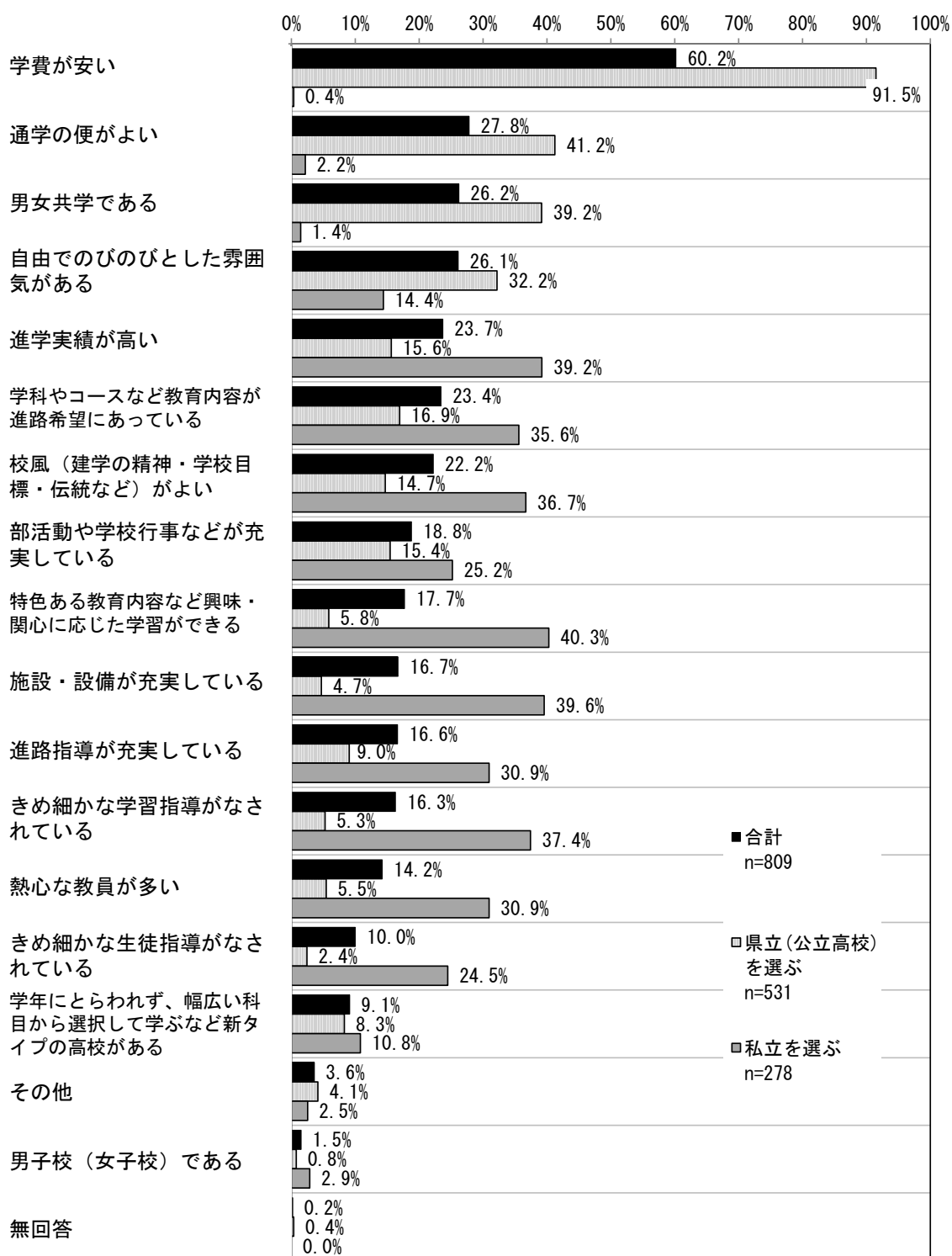


図 VII-17 県立(公立)または私立を選んだ理由の主なもの(一般県民)



平成 17 年度調査との比較

『県立(公立)高校と私立高校』について回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、「県立(公立)の方がよい」との回答で割合が高かった項目は平成 25 年度調査では「就職」(12.3%)、「学校の行事・部活動」(10.1%)、「学校の雰囲気」(8.8%)であり、平成 17 年度調査では「就職」(10.1%)、「学校の行事・部活動」(8.7%)、「大学などへの進学」(8.7%)であった。一方、「私立の方がよい」との回答で割合が高かった項目は平成 25 年度調査では「施設や設備」(72.1%)、「学校の特色や個性」(61.9%)、「大学などへの進学」(47.1%)であり、平成 17 年度調査では「施設や設備」(59.7%)、「学校の特色や個性」(52.9%)、「大学などへの進学」(44.8%)であった。

また、県立(公立)高校と私立高校のどちらを進学先として選ぶかを聞いたところ、その回答は、平成 25 年度調査では「県立(公立)高校を選ぶ」(43.1%)、「どちらともいえない」(23.1%)、「私立高校を選ぶ」(22.5%)であり、平成 17 年度調査では「県立(公立)高校を選ぶ」(40.3%)、「私立高校を選ぶ」(26.5%)、「どちらともいえない」(18.6%)であった。

さらに、県立(公立)高校を選ぶ理由として回答した割合の高かった項目は平成 25 年度調査では「学費が安い」(91.5%)、「通学の便がよい」(41.2%)、「男女共学である」(39.2%)、平成 17 年度調査では「学費が安い」(87.9%)、「通学の便がよい」(38.1%)、「男女共学である」(31.1%)であり、私立高校を選ぶ理由として回答した割合の高かった項目は平成 25 年度調査では「特色ある教育内容など興味・関心に応じた学習ができる」(40.3%)、「施設・設備が充実している」(39.6%)、「進学実績が高い」(39.2%)、平成 17 年度調査では「きめ細やかな学習指導がなされている」(40.9%)、「校風(建学の精神・学校目標・伝統など)がよい」(36.5%)、「特色ある教育内容など興味・関心に応じた学習ができる」(34.3%)であった。(図VII-18～31 参照)

図 VII-18 県立(公立)高校と私立高校を比べると、次の点について、どちらの方がよいと思うか ①学校の特色や個性(一般県民 平成 25 年度 n=1,233、平成 17 年度 n=1,530)

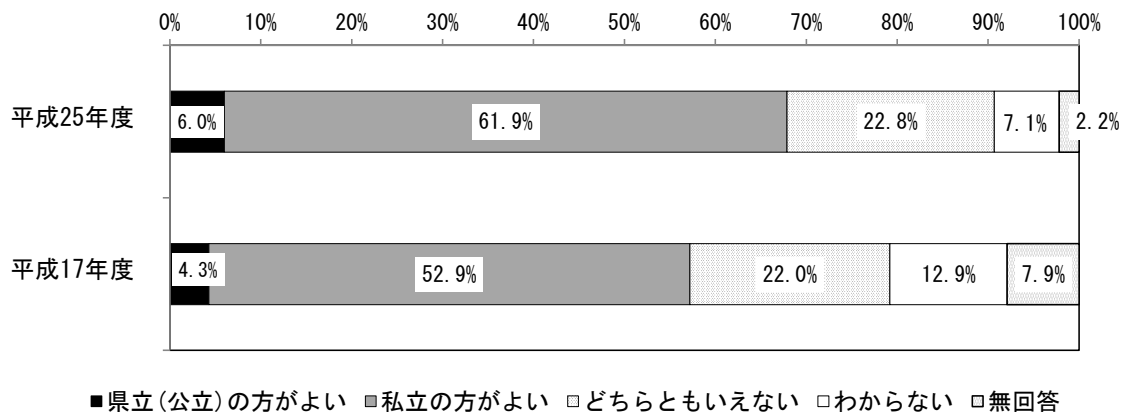
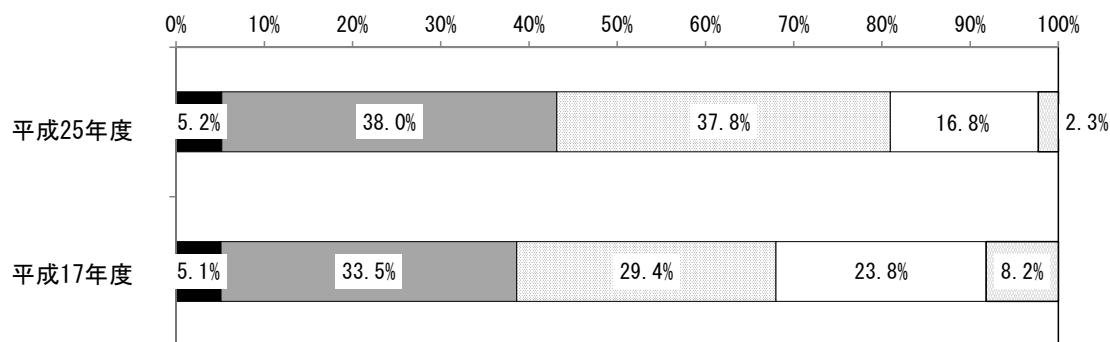
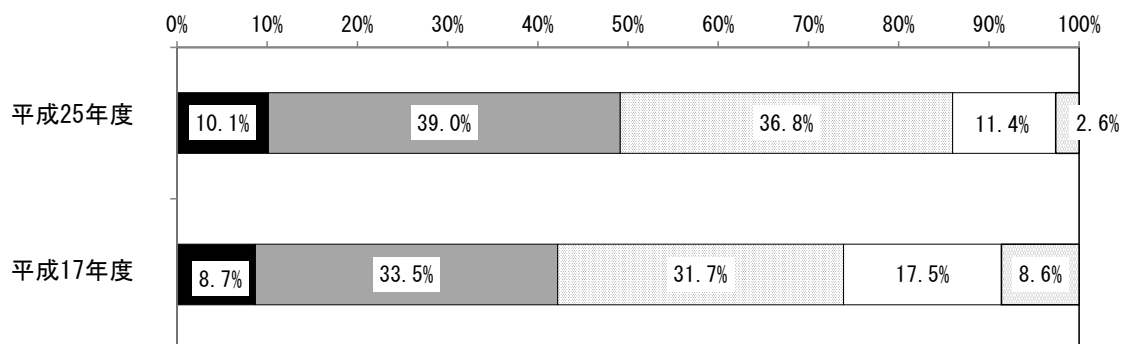


図 VII-19 県立(公立)高校と私立高校を比べると、次の点について、どちらの方がよいと思うか ②授業の内容(一般県民 平成25年度 n=1,233、平成17年度 n=1,530)



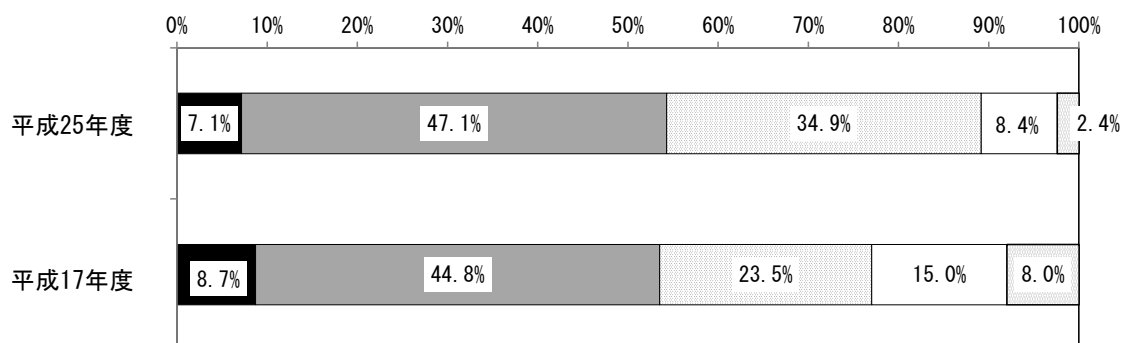
■ 県立(公立)の方がよい □ 私立の方がよい □ どちらともいえない □ わからない □ 無回答

図 VII-20 県立(公立)高校と私立高校を比べると、次の点について、どちらの方がよいと思うか ③学校の行事・部活動(一般県民 平成25年度 n=1,233、平成17年度 n=1,530)



■ 県立(公立)の方がよい □ 私立の方がよい □ どちらともいえない □ わからない □ 無回答

図 VII-21 県立(公立)高校と私立高校を比べると、次の点について、どちらの方がよいと思うか ④大学などへの進学(一般県民 平成25年度 n=1,233、平成17年度 n=1,530)



■ 県立(公立)の方がよい □ 私立の方がよい □ どちらともいえない □ わからない □ 無回答

図 VII-22 県立(公立)高校と私立高校を比べると、次の点について、どちらの方がよいと思うか ⑤就職(一般県民 平成25年度 n=1,233、平成17年度 n=1,530)

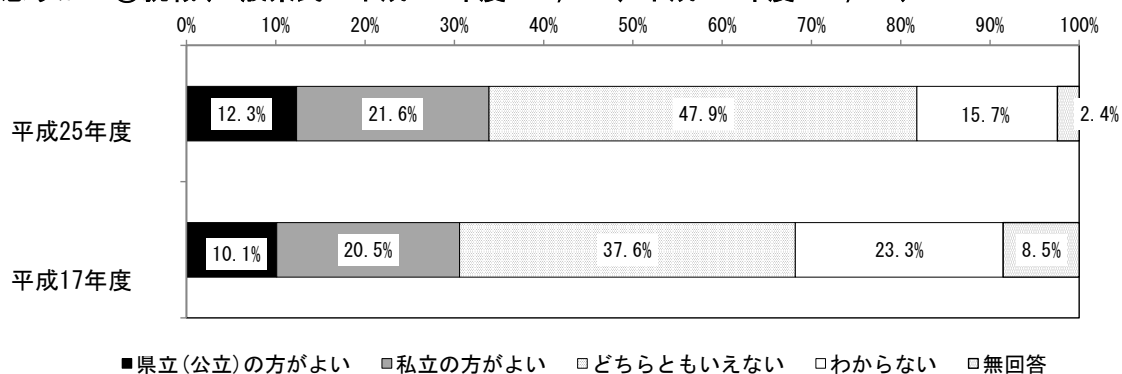


図 VII-23 県立(公立)高校と私立高校を比べると、次の点について、どちらの方がよいと思うか ⑥生徒指導(一般県民 平成25年度 n=1,233、平成17年度 n=1,530)

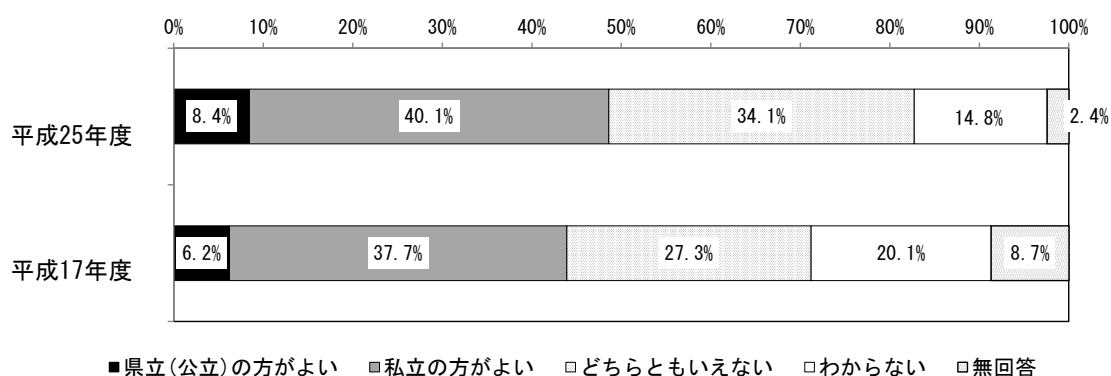


図 VII-24 県立(公立)高校と私立高校を比べると、次の点について、どちらの方がよいと思うか ⑦施設や設備(一般県民 平成25年度 n=1,233、平成17年度 n=1,530)

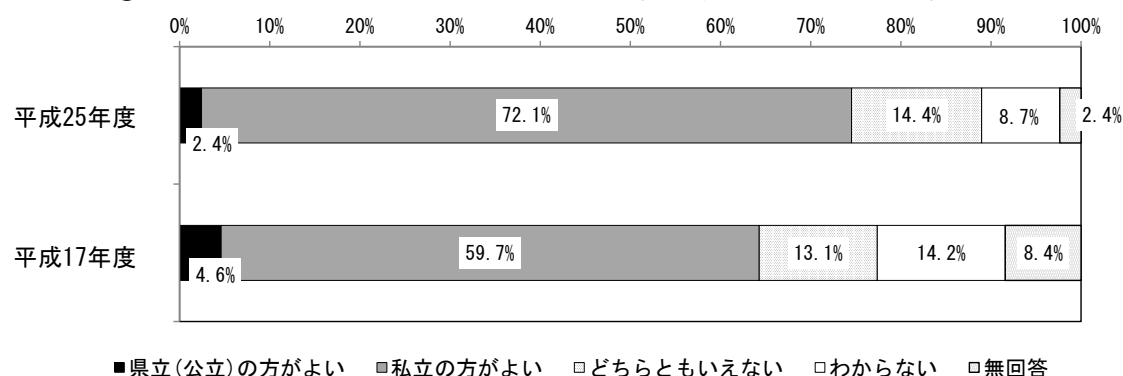
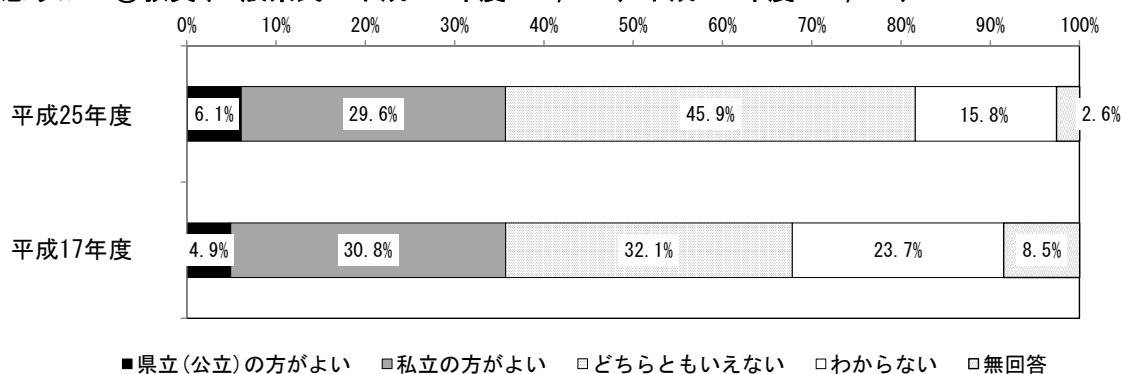
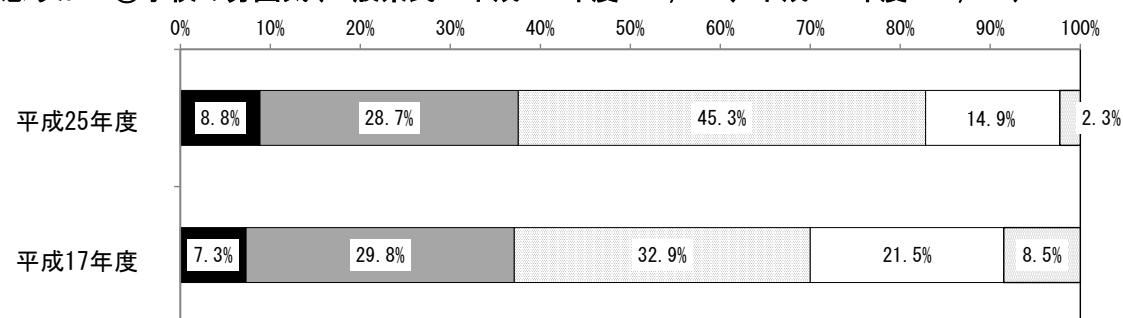


図 VII-25 県立(公立)高校と私立高校を比べると、次の点について、どちらの方がよいと思うか ⑧教員(一般県民 平成25年度 n=1,233、平成17年度 n=1,530)



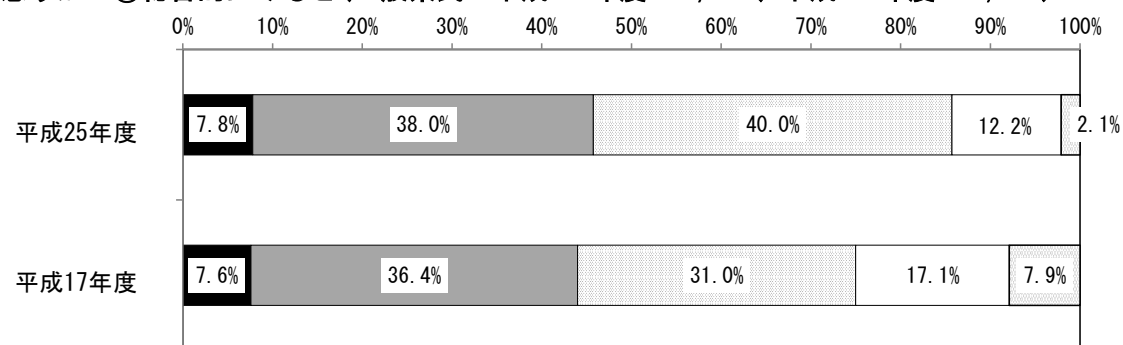
■ 県立(公立)の方がよい □ 私立の方がよい □ どちらともいえない □ わからない □ 無回答

図 VII-26 県立(公立)高校と私立高校を比べると、次の点について、どちらの方がよいと思うか ⑨学校の雰囲気(一般県民 平成25年度 n=1,233、平成17年度 n=1,530)



■ 県立(公立)の方がよい □ 私立の方がよい □ どちらともいえない □ わからない □ 無回答

図 VII-27 県立(公立)高校と私立高校を比べると、次の点について、どちらの方がよいと思うか ⑩総合的にみると(一般県民 平成25年度 n=1,233、平成17年度 n=1,530)



■ 県立(公立)の方がよい □ 私立の方がよい □ どちらともいえない □ わからない □ 無回答

図 VII-28 もし、あなたが（またはお子様が）中学3年生だとしたら、県立（公立）高校と私立高校のどちらを選ぶか（一般県民）

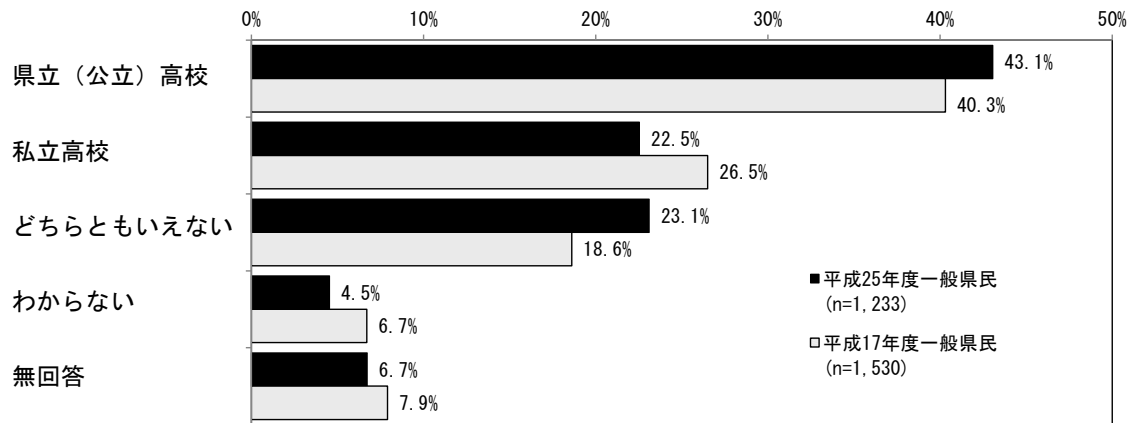


図 VII-29 県立（公立）または私立を選んだ理由（一般県民）

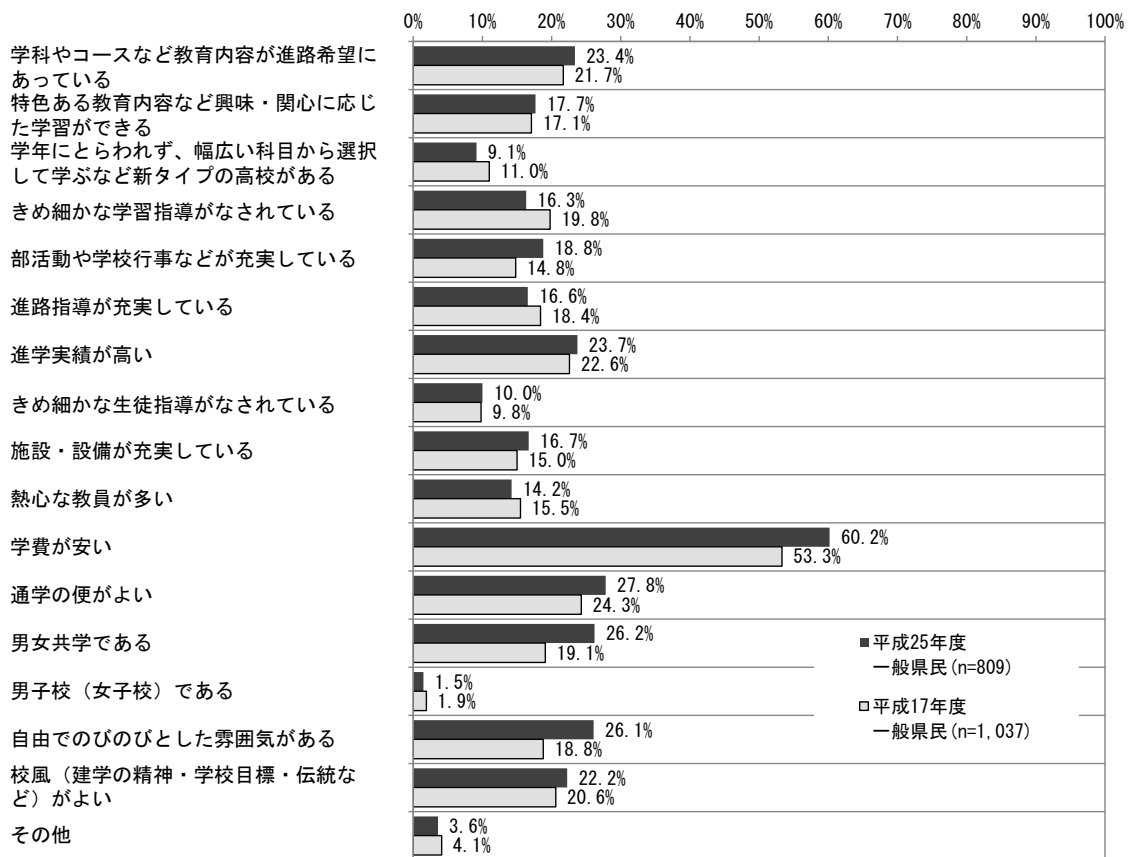


図 VII-30 県立(公立)を選んだ理由(一般県民)

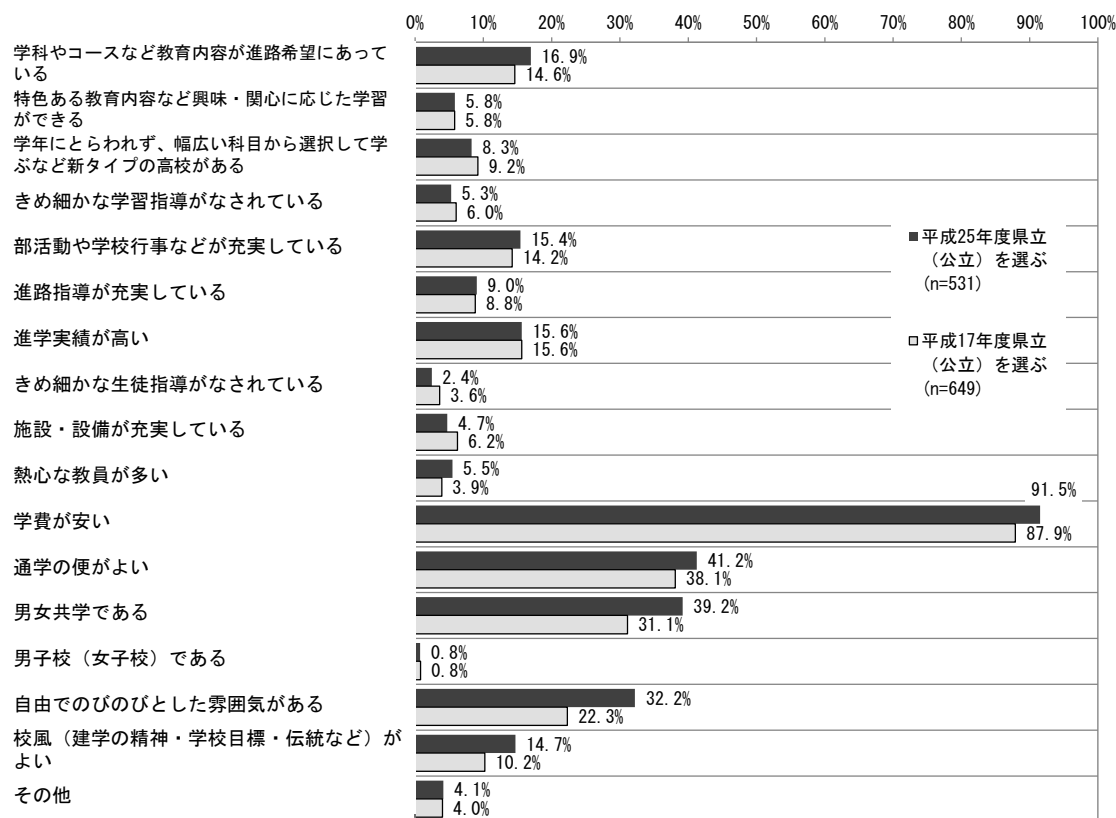
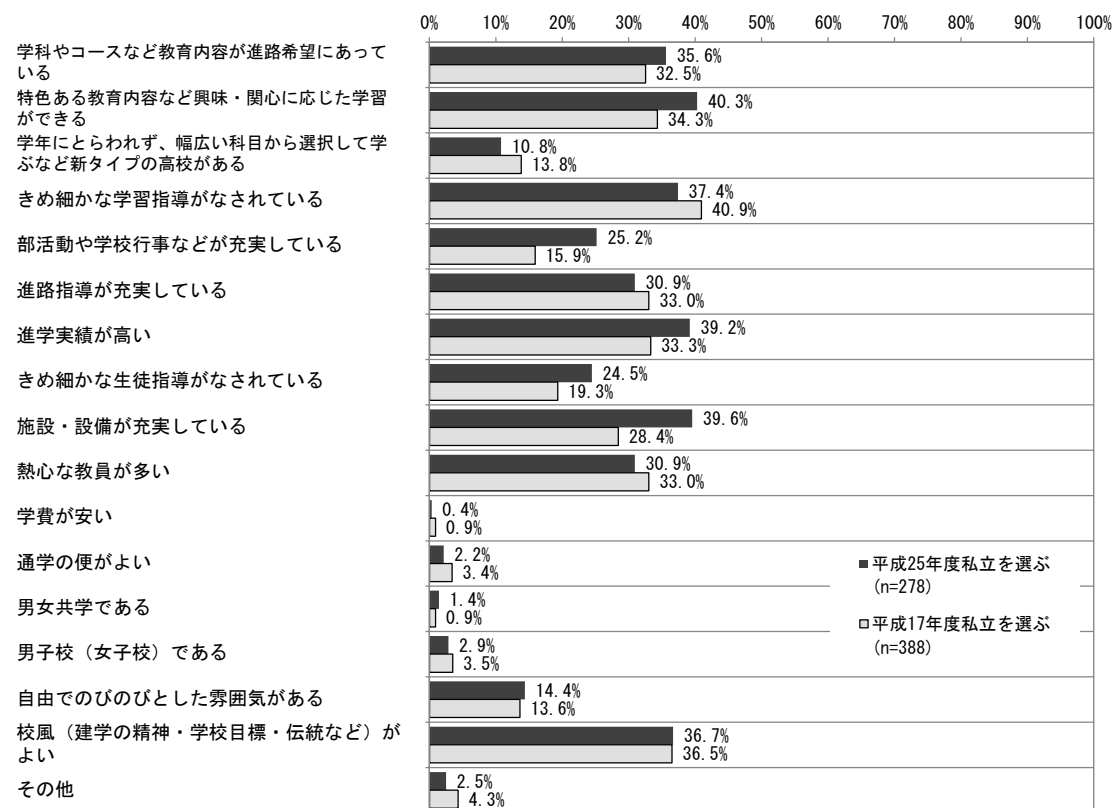


図 VII-31 私立を選んだ理由(一般県民)

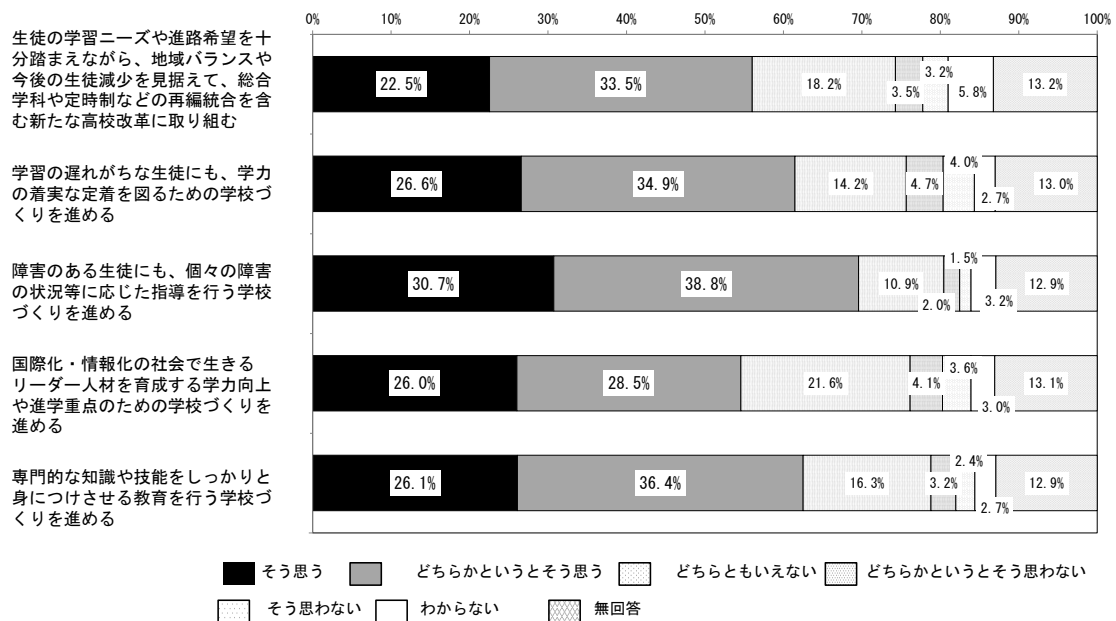


VII - 7 県立高校の改革の取組み

一般県民に対して、『県立高校の改革の取組み』について、将来の県立高校にどのようなことを望むかを聞いたところ、回答の割合が高かった項目は「障害のある生徒にも、個々の障害の状況等に応じた指導を行う学校づくりを進める」、「専門的な知識や技能をしっかりと身につけさせる教育を行う学校づくりを進める」、「学習の遅れがちな生徒にも、学力の着実な定着を図るための学校づくりを進める」であった。

『県立高校の改革の取組み』について一般県民に聞いたところ、「そう思う」または「どちらかというと思う」と回答した割合が高かった項目は、「障害のある生徒にも、個々の障害の状況等に応じた指導を行う学校づくりを進める」(69.5%)、「専門的な知識や技能をしっかりと身につけさせる教育を行う学校づくりを進める」(62.5%)、「学習の遅れがちな生徒にも、学力の着実な定着を図るための学校づくりを進める」(61.5%)であった。(図VII-32 参照)

図 VII-32 県立高校の改革の取組み(一般県民 n=1, 233)



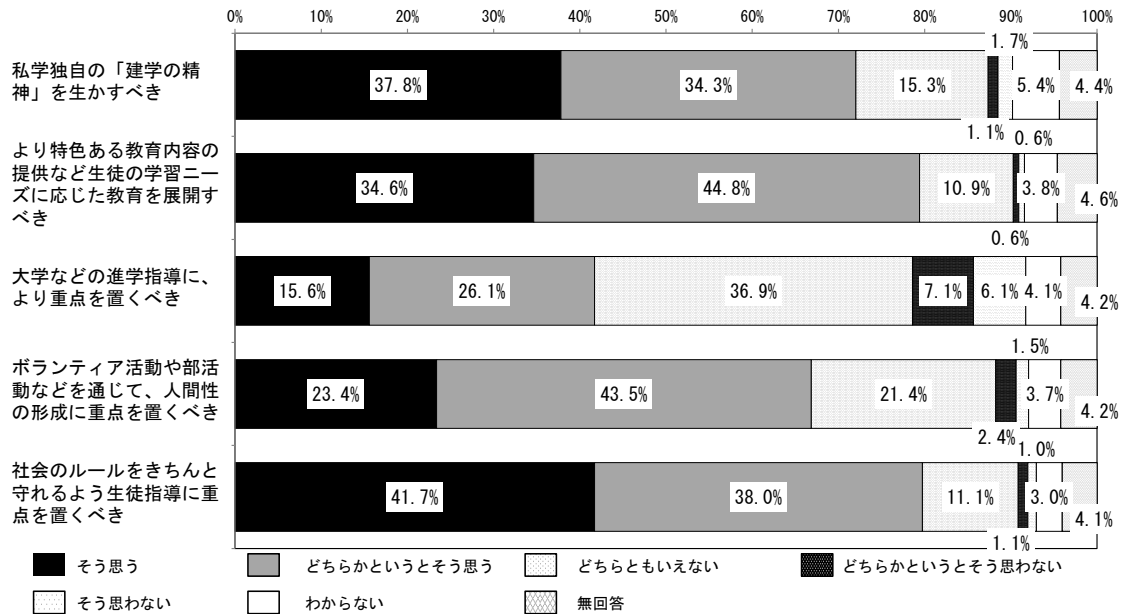
VII - 8 私立高校のあり方

一般県民に対して、今後の「私立高校のあり方」についてどのように思うかを聞いたところ、回答の割合が高かった項目は「社会のルールをきちんと守れるよう生徒指導に重点を置くべき」、「より特色ある教育内容の提供など生徒の学習ニーズに応じた教育を展開すべき」、「私学独自の『建学の精神』を生かすべき」であった。

また、回答の割合が最も高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、一般県民の回答はいずれの調査においても「社会のルールをきちんと守れるよう生徒指導に重点を置くべき」との回答の割合が最も高く、平成 25 年度調査では 79.7%、平成 17 年度調査では 79.5%であった。

『私立高校のあり方』について一般県民に聞いたところ、「そう思う」または「どちらか」というと「そう思う」と回答した割合が高かった項目は、「社会のルールをきちんと守れるよう生徒指導に重点を置くべき」(79.7%)、「より特色ある教育内容の提供など生徒の学習ニーズに応じた教育を展開すべき」(79.4%)、「私学独自の『建学の精神』を生かすべき」(72.1%)であった。(図VII-33 参照)

図 VII-33 私立高校のあり方(一般県民 n=1, 233)



平成 17 年度調査との比較

『私立高校のあり方』について、「そう思う」または「どちらかというと思う」と回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、一般県民の回答は平成 25 年度調査では「社会のルールをきちんと守れるよう生徒指導に重点を置くべき」(79.7%)、「より特色ある教育内容の提供など生徒の学習ニーズに応じた教育を展開すべき」(79.4%)、「私学独自の『建学の精神』を生かすべき」(72.1%)であり、平成 17 年度調査では「社会のルールをきちんと守れるよう生徒指導に重点を置くべき」(79.5%)、「より特色ある教育内容の提供など生徒の学習ニーズに応じた教育を展開すべき」(76.0%)、「私学独自の『建学の精神』を生かすべき」(68.7%)であった。(図VII-34～38 参照)

図 VII-34 私立高校のあり方 私学独自の「建学の精神」を生かすべき(一般県民 平成 25 年度 n=1, 233、平成 17 年度 n=1, 530)

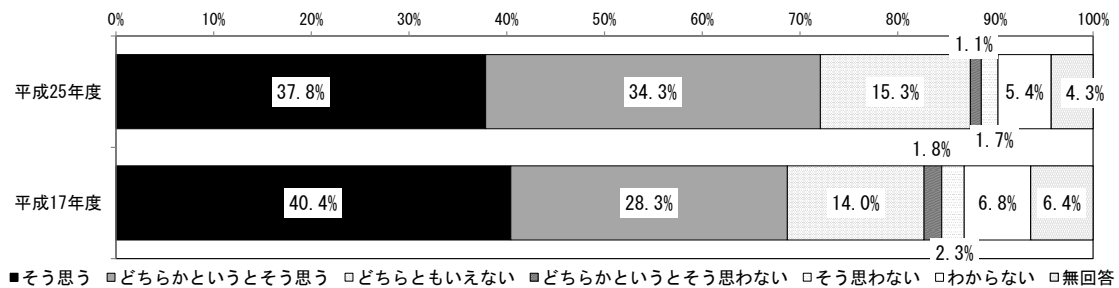


図 VII-35 私立高校のあり方 より特色ある教育内容の提供など生徒の学習ニーズに応じた教育を展開すべき(一般県民 平成 25 年度 n=1, 233、平成 17 年度 n=1, 530)

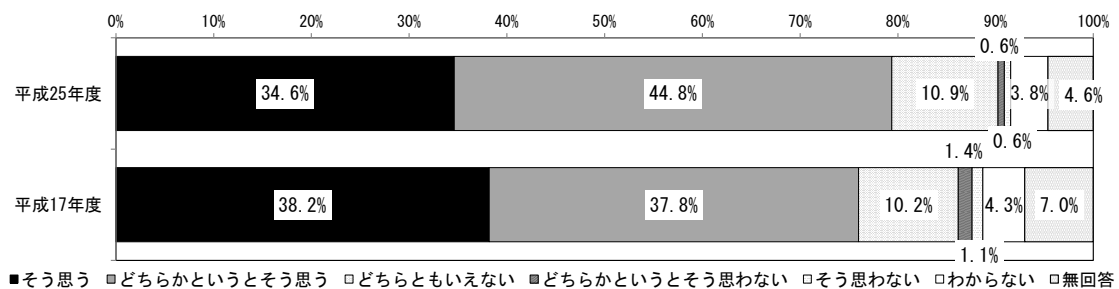


図 VII-36 私立高校のあり方 大学などの進学指導に、より重点を置くべき(一般県民 平成 25 年度 n=1, 233、平成 17 年度 n=1, 530)

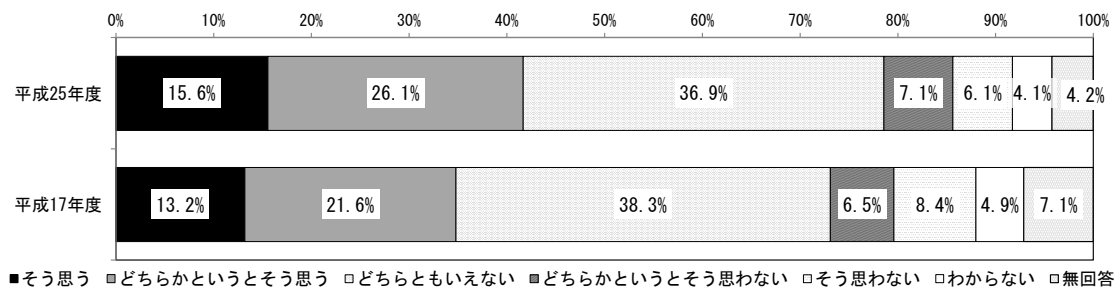


図 VII-37 私立高校のあり方 ボランティア活動や部活動などを通じて、人間性の形成に重点を置くべき(一般県民 平成 25 年度 n=1, 233、平成 17 年度 n=1, 530)

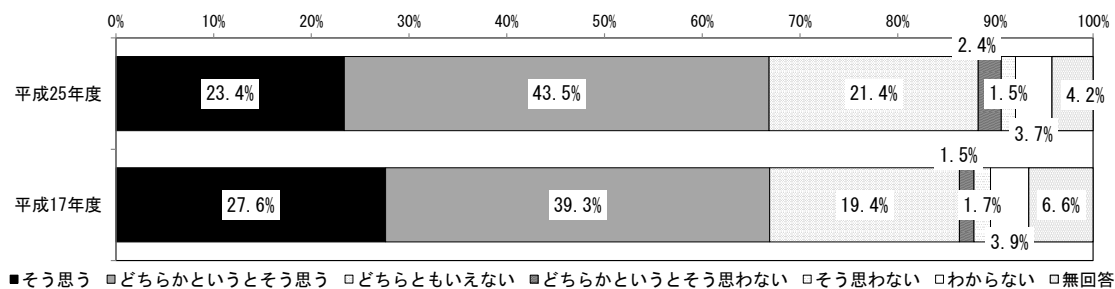
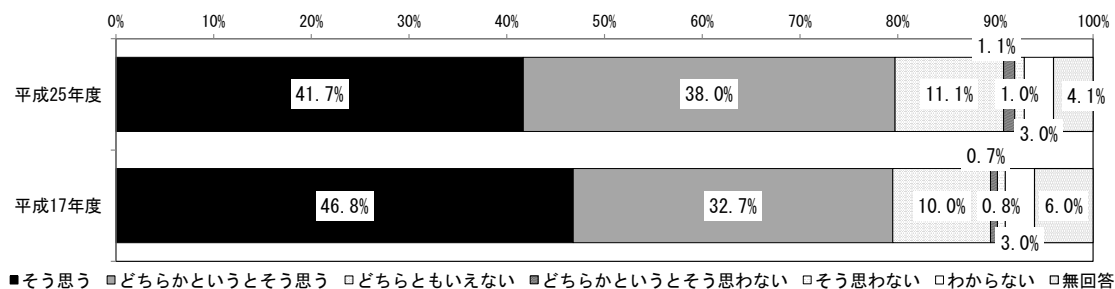


図 VII-38 私立高校のあり方 社会のルールをきちんと守れるよう生徒指導に重点を置くべき(一般県民 平成 25 年度 n=1, 233、平成 17 年度 n=1, 530)



VIII 県が取り組むべき施策

- 「県が取り組むべき施策」や「神奈川県らしい教育に生かしたいもの」について、教職員、保護者、学校評議員に聞くことで、本県の教育行政に期待するところや、神奈川の特色を生かした独自の教育についての考えを把握することにした。
- 調査の結果、「県が取り組むべき施策」について、教職員は順に「少人数学級などのきめ細かな学習指導の充実」、「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」、「障害のある児童・生徒への支援」と回答する割合が高くなっている。保護者と学校評議員は「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」、「少人数学級などのきめ細かな学習指導」、「多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり」の順になっている。一般県民では「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」、「少人数学級などのきめ細かな学習指導」、「体験活動やボランティア活動ができる環境の整備」の順になっている。

回答の割合が最も高い項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、保護者は、今回の調査では「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」、前回の調査では「少人数学級などのきめ細かな学習指導」となっている。学校評議員は、今回の調査では「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」、前回の調査では「少人数学級などのきめ細かな学習指導」となっている。
- また、「神奈川県らしい教育に生かしたいもの」について、教職員は順に「自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性」、「個性豊かでたくましい人づくり」、「神奈川の歴史や伝統文化・風土」と回答する割合が高くなっている。

保護者と学校評議員は「自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性」、「社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション」、「個性豊かでたくましい人づくり」の順になっている。

回答の割合が最も高い項目を前回調査と比較すると、平成 17 年度調査結果では、教職員、保護者、学校評議員のいずれも「個性豊かでたくましい人づくり」となっている。

VIII - 1 県が取り組むべき施策

教職員、保護者、学校評議員、一般県民に、『県が取り組むべき施策』について聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、教職員では「少人数学級などのきめ細かな学習指導の充実」、「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」、「障害のある児童・生徒への支援」であり、保護者及び学校評議員では「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」、「少人数学級などのきめ細かな学習指導」、「多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり」、一般県民では「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」、「少人数学級などのきめ細かな学習指導」、「体験活動やボランティア活動ができる環境の整備」であった。

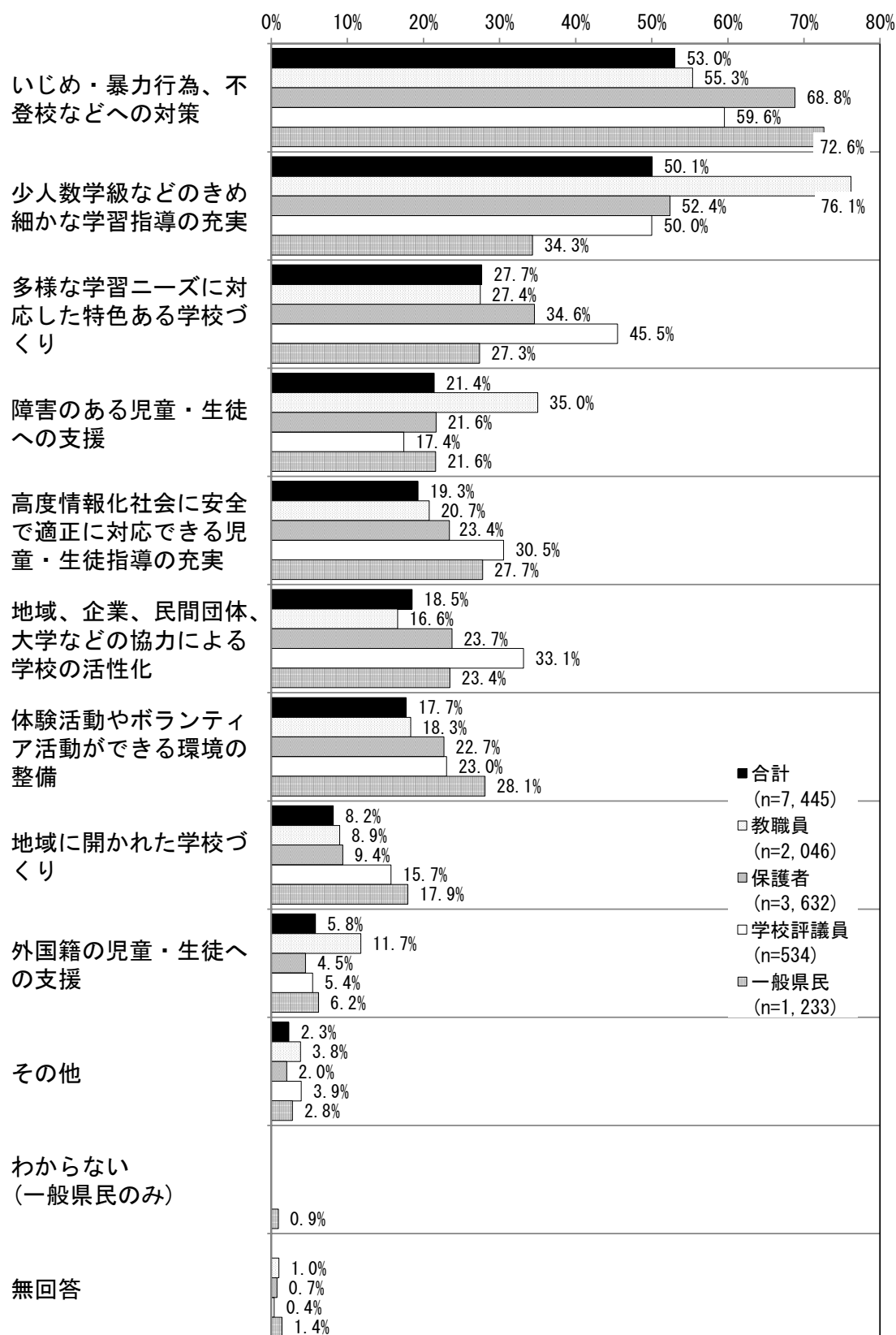
また、回答の割合が最も高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、教職員の回答はいずれの調査においても「少人数学級などのきめ細かな学習指導の充実」の割合が最も高く、平成 25 年度調査では 76.1%であり、平成 17 年度調査では 76.9%であった。保護者の回答は平成 25 年度調査では「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」(68.8%)であり、平成 17 年度調査では「少人数学級などのきめ細かな学習指導」(61.9%)であった。学校評議員の回答は平成 25 年度調査では「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」(59.6%)であり、平成 17 年度調査では「少人数学級などのきめ細かな学習指導」(60.2%)であった。一般県民の回答はいずれの調査においても「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」の割合が最も高く、平成 25 年度調査では 72.6%、平成 17 年度調査では 62.3%であった。

『県が取り組むべき施策』について教職員、保護者、学校評議員及び一般県民に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、教職員では「少人数学級などのきめ細かな学習指導の充実」(76.1%)、「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」(55.3%)、「障害のある児童・生徒への支援」(35.0%)であり、保護者及び学校評議員では「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」(保護者：68.8%、学校評議員：59.6%)、「少人数学級などのきめ細かな学習指導」(保護者：52.4%、学校評議員：50.0%)、「多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり」(保護者：34.6%、学校評議員：45.5%)、一般県民では「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」(72.6%)、「少人数学級などのきめ細かな学習指導」(34.3%)、「体験活動やボランティア活動ができる環境の整備」(28.1%)であった。(表VIII-1、図VIII-1 参照)

表 VIII-1 県が取り組むべき施策(上位 5 項目)

	教職員	保護者	学校評議員	一般県民
1 位	少人数学級などのきめ細かな学習指導の充実 76.1%	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策 68.8%	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策 59.6%	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策 72.6%
2 位	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策 55.3%	少人数学級などのきめ細かな学習指導 52.4%	少人数学級などのきめ細かな学習指導 50.0%	少人数学級などのきめ細かな学習指導 34.3%
3 位	障害のある児童・生徒への支援 35.0%	多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり 34.6%	多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり 45.5%	体験活動やボランティア活動ができる環境の整備 28.1%
4 位	多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり 27.4%	地域、企業、民間団体、大学などの協力による学校の活性化 23.7%	地域、企業、民間団体、大学などの協力による学校の活性化 33.1%	高度情報化社会に安全で適正に対応できる児童・生徒指導の充実 27.7%
5 位	高度情報化社会に安全で適正に対応できる児童・生徒指導の充実 20.7%	高度情報化社会に安全で適正に対応できる児童・生徒指導の充実 23.4%	高度情報化社会に安全で適正に対応できる児童・生徒指導の充実 30.5%	多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり 27.3%

図 VIII-1 県が取り組むべき施策(教職員、保護者、学校評議員、一般県民)



『県が取り組むべき施策』について、回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、教職員の回答は平成 25 年度調査では「少人数学級などのきめ細かな学習指導の充実」(76.1%)、「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」(55.3%)、「障害のある児童・生徒への支援」(35.0%)であり、平成 17 年度調査では「少人数学級などのきめ細かな学習指導の充実」(76.9%)、「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」(46.7%)、「障害のある児童・生徒への支援」(33.2%)であった。

保護者の回答は平成 25 年度調査では「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」(68.8%)、「少人数学級などのきめ細かな学習指導」(52.4%)、「多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり」(34.6%)であり、平成 17 年度調査では「少人数学級などのきめ細かな学習指導」(61.9%)、「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」(58.0%)、「多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり」(33.3%)であった。

学校評議員の回答は平成 25 年度調査では「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」(59.6%)、「少人数学級などのきめ細かな学習指導」(50.0%)、「多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり」(45.5%)であり、平成 17 年度調査では「少人数学級などのきめ細かな学習指導」(60.2%)、「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」(41.9%)、「多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり」(39.4%)であった。

一般県民の回答は平成 25 年度調査では「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」(72.6%)、「少人数学級などのきめ細かな学習指導」(34.3%)、「体験活動やボランティア活動ができる環境の整備」(28.1%)であり、平成 17 年度調査では「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」(62.3%)、「少人数学級などのきめ細かな学習指導」(44.9%)、「多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり」(35.9%)であった。(表Ⅷ-2 参照)

表 VIII-2 県が取り組むべき施策(上位9項目)

	教職員		保護者	
	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)
	n=2, 046	n=1, 863	n=3, 632	n=3, 876
1 位	少人数学級などのきめ細かな学習指導の充実 76.1%	少人数学級などきめ細かな学習指導の充実 76.9%	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策 68.8%	少人数学級などのきめ細かな学習指導 61.9%
2 位	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策 55.3%	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策 46.7%	少人数学級などのきめ細かな学習指導 52.4%	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策 58.0%
3 位	障害のある児童・生徒への支援 35.0%	障害のある児童・生徒への支援 33.2%	多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり 34.6%	多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり 33.3%
4 位	多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり 27.4%	多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり 29.8%	地域、企業、民間団体、大学などの協力による学校の活性化 23.7%	情報化社会へ安全で適正に対応できる児童・生徒指導の充実 28.6%
5 位	高度情報化社会に安全で適正に対応できる児童・生徒指導の充実 20.7%	体験活動やボランティア活動ができる環境の整備 20.5%	高度情報化社会に安全で適正に対応できる児童・生徒指導の充実 23.4%	体験活動やボランティア活動ができる環境の整備 24.3%
6 位	体験活動やボランティア活動ができる環境の整備 18.3%	情報化社会へ安全で適正に対応できる児童・生徒指導の充実 18.3%	体験活動やボランティア活動ができる環境の整備 22.7%	地域、企業、民間団体、大学などの協力による学校の活性化 21.7%
7 位	地域、企業、民間団体、大学などの協力による学校の活性化 16.6%	地域、企業、民間団体、大学などの協力による学校の活性化 16.9%	障害のある子どもへの支援 21.6%	障害のある子どもへの支援 19.3%
8 位	外国籍の児童・生徒への支援 11.7%	地域に開かれた学校づくり 12.6%	地域に開かれた学校づくり 9.4%	地域に開かれた学校づくり 10.9%
9 位	地域に開かれた学校づくり 8.9%	外国籍の児童・生徒への支援 8.8%	外国籍の子どもへの支援 4.5%	外国籍の子どもへの支援 3.3%

	学校評議員		一般県民	
	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)
	n=534	n=515	n=1, 233	n=1, 530
1 位	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策	少人数学級などのきめ細かな学習指導	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策
	59.6%	60.2%	72.6%	62.3%
2 位	少人数学級などのきめ細かな学習指導	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策	少人数学級などのきめ細かな学習指導	少人数学級などのきめ細かな学習指導
	50.0%	41.9%	34.3%	44.9%
3 位	多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり	多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり	体験活動やボランティア活動ができる環境の整備	多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり
	45.5%	39.4%	28.1%	35.9%
4 位	地域、企業、民間団体、大学などの協力による学校の活性化	地域、企業、民間団体、大学などの協力による学校の活性化	高度情報化社会に安全で適正に対応できる児童・生徒指導の充実	体験活動やボランティア活動ができる環境の整備
	33.1%	32.6%	27.7%	35.2%
5 位	高度情報化社会に安全で適正に対応できる児童・生徒指導の充実	情報化社会へ安全で適正に対応できる児童・生徒指導の充実	多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり	地域、企業、民間団体、大学などの協力による学校の活性化
	30.5%	30.9%	27.3%	30.6%
6 位	体験活動やボランティア活動ができる環境の整備	体験活動やボランティア活動ができる環境の整備	地域、企業、民間団体、大学などの協力による学校の活性化	障害のある子どもへの支援
	23.0%	27.0%	23.4%	21.4%
7 位	障害のある子どもへの支援	地域に開かれた学校づくり	障害のある子どもへの支援	地域に開かれた学校づくり
	17.4%	24.9%	21.6%	18.4%
8 位	地域に開かれた学校づくり	障害のある子どもへの支援	地域に開かれた学校づくり	外国籍の子どもへの支援
	15.7%	16.3%	17.9%	4.6%
9 位	外国籍の子どもへの支援	その他	外国籍の子どもへの支援	その他
	5.4%	3.7%	6.2%	3.2%

VIII - 2 「神奈川らしい教育」に生かしたいもの

教職員には「神奈川らしい教育」に生かしたいものについて、保護者と学校評議員には「神奈川らしい教育」として取り組んでほしいものについて聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、教職員では「自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性」、「個性豊かでたくましい人づくり」、「神奈川の歴史や伝統文化・風土」であり、保護者及び学校評議員では「自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性」、「社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション」、「個性豊かでたくましい人づくり」であった。

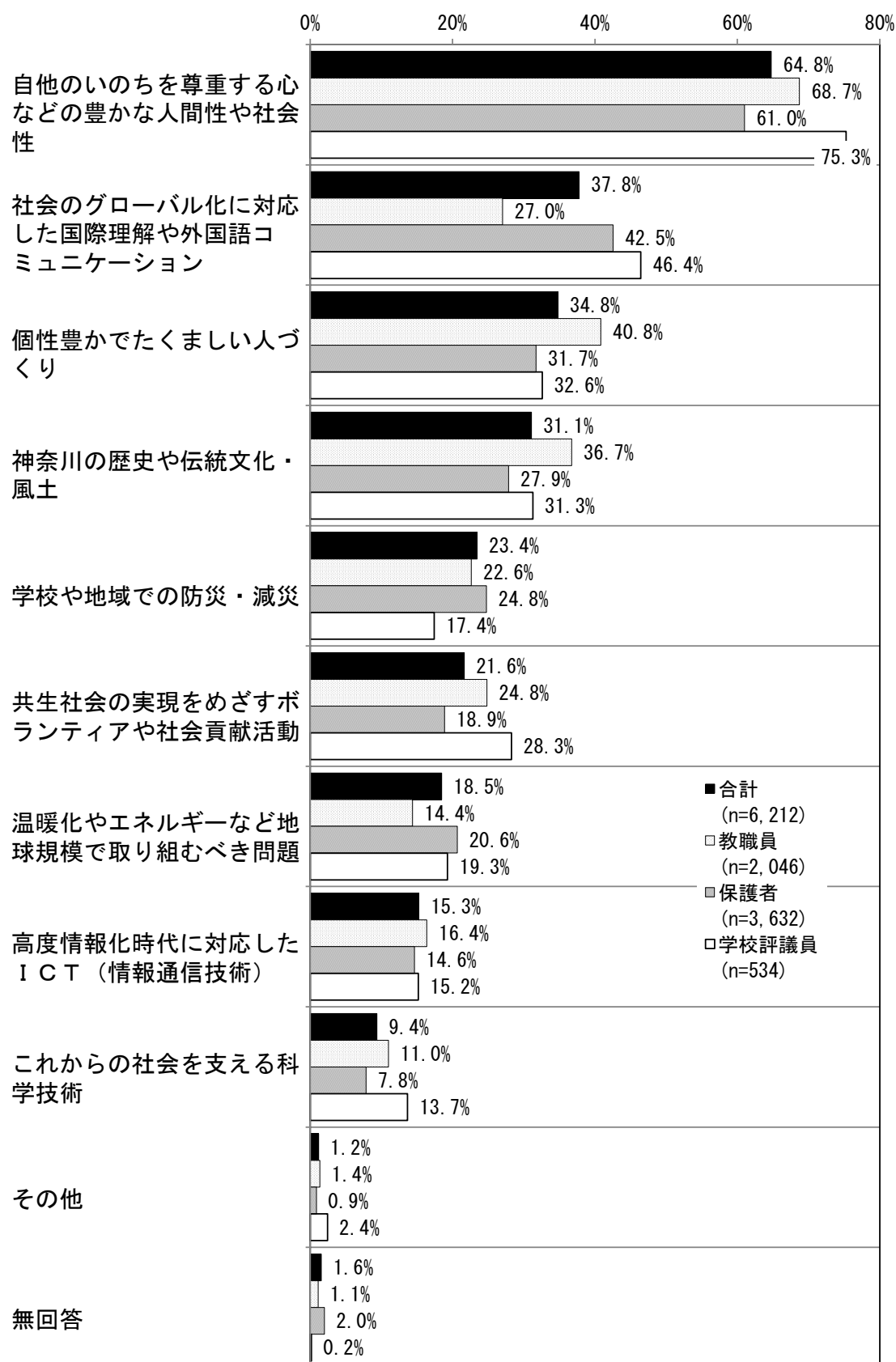
また、回答の割合が最も高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、教職員の回答は平成 25 年度調査では「自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性」(68.7%)、平成 17 年度調査では「個性豊かでたくましい人づくり」(39.0%)であり、保護者の回答は平成 25 年度調査では「自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性」(61.0%)、平成 17 年度調査では「個性豊かでたくましい人づくり」(40.0%)、学校評議員の回答は平成 25 年度調査では「自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性」(75.3%)、平成 17 年度調査では「個性豊かでたくましい人づくり」(46.0%)であった。

『「神奈川らしい教育」に生かしたいもの』について教職員、保護者及び学校評議員に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、教職員では、「自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性」(68.7%)、「個性豊かでたくましい人づくり」(40.8%)、「神奈川の歴史や伝統文化・風土」(36.7%)であり、保護者及び学校評議員では、「自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性」(保護者：61.0%、学校評議員：75.3%)、「社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション」(保護者：42.5%、学校評議員：46.4%)、「個性豊かでたくましい人づくり」(保護者：31.7%、学校評議員：32.6%)であった。(表VIII-3、図VIII-2 参照)

表 VIII-3 「神奈川らしい教育」に生かしたいもの(上位5項目)

	教職員	保護者	学校評議員
1位	自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性 68.7%	自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性 61.0%	自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性 75.3%
2位	個性豊かでたくましい人づくり 40.8%	社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション 42.5%	社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション 46.4%
3位	神奈川の歴史や伝統文化・風土 36.7%	個性豊かでたくましい人づくり 31.7%	個性豊かでたくましい人づくり 32.6%
4位	社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション 27.0%	神奈川の歴史や伝統文化・風土 27.9%	神奈川の歴史や伝統文化・風土 31.3%
5位	共生社会の実現をめざすボランティアや社会貢献活動 24.8%	学校や地域での防災・減災 24.8%	共生社会の実現をめざすボランティアや社会貢献活動 28.3%

図 VIII-2 「神奈川県らしい教育」に生かしたいもの(教職員、保護者、学校評議員)



『「神奈川らしい教育」に生かしたいもの』について、回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、教職員の回答は平成 25 年度調査では「自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性」(68.7%)、「個性豊かでたくましい人づくり」(40.8%)、「神奈川の歴史や伝統文化・風土」(36.7%)であり、平成 17 年度調査では「個性豊かでたくましい人づくり」(39.0%)、「共生社会の実現をめざすボランティアや社会貢献活動」(30.7%)、「神奈川の歴史や伝統文化・風土」(29.5%)であった。

保護者の回答は平成 25 年度調査では「自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性」(61.0%)、「社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション」(42.5%)、「個性豊かでたくましい人づくり」(31.7%)であり、平成 17 年度調査では「個性豊かでたくましい人づくり」(40.0%)、「社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション」(34.7%)、「温暖化やエネルギーなど地球規模で取り組むべき問題」(30.0%)であった。

学校評議員の回答は平成 25 年度調査では「自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性」(75.3%)、「社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション」(46.4%)、「個性豊かでたくましい人づくり」(32.6%)であり、平成 17 年度調査では「個性豊かでたくましい人づくり」(46.0%)、「共生社会の実現をめざすボランティアや社会貢献活動」(31.7%)、「社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション」(31.3%)であった。(表Ⅷ-4 参照)

表 VIII-4 「神奈川らしい教育」に生かしたいもの(上位8項目)

	教職員		保護者		学校評議員	
	(平成25年度)	(平成17年度)	(平成25年度)	(平成17年度)	(平成25年度)	(平成17年度)
	n=2,046	n=1,863	n=3,632	n=3,876	n=534	n=515
1位	自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性(※)	個性豊かでたくましい人づくり	自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性(※)	個性豊かでたくましい人づくり	自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性(※)	個性豊かでたくましい人づくり
	68.7%	39.0%	61.0%	40.0%	75.3%	46.0%
2位	個性豊かでたくましい人づくり	共生社会の実現をめざすボランティアや社会貢献活動	社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション	社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション	社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション	共生社会の実現をめざすボランティアや社会貢献活動
	40.8%	30.7%	42.5%	34.7%	46.4%	31.7%
3位	神奈川の歴史や伝統文化・風土	神奈川の歴史や伝統文化・風土	個性豊かでたくましい人づくり	温暖化やエネルギーなど地球規模で取り組むべき問題	個性豊かでたくましい人づくり	社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション
	36.7%	29.5%	31.7%	30.0%	32.6%	31.3%
4位	社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション	温暖化やエネルギーなど地球規模で取り組むべき問題	神奈川の歴史や伝統文化・風土	神奈川の歴史や伝統文化・風土	神奈川の歴史や伝統文化・風土	神奈川の歴史や伝統文化・風土
	27.0%	25.0%	27.9%	共生社会の実現をめざすボランティアや社会貢献活動	31.3%	26.8%
5位	共生社会の実現をめざすボランティアや社会貢献活動	社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション	学校や地域での防災・減災(※)	共生社会の実現をめざすボランティアや社会貢献活動	共生社会の実現をめざすボランティアや社会貢献活動	温暖化やエネルギーなど地球規模で取り組むべき問題
	24.8%	22.3%	24.8%	23.6%	28.3%	20.4%
6位	学校や地域での防災・減災(※)	高度情報化時代に対応したIT(情報技術)	温暖化やエネルギーなど地球規模で取り組むべき問題	高度情報化時代に対応したIT(情報技術)	温暖化やエネルギーなど地球規模で取り組むべき問題	高度情報化時代に対応したIT(情報技術)
	22.6%	12.5%	20.6%	15.8%	19.3%	10.9%
7位	高度情報化時代に対応したICT(情報通信技術)	これからの社会を支える科学技術	共生社会の実現をめざすボランティアや社会貢献活動	これからの社会を支える科学技術	学校や地域での防災・減災(※)	これからの社会を支える科学技術
	16.4%	7.7%	18.9%	5.3%	17.4%	9.1%
8位	温暖化やエネルギーなど地球規模で取り組むべき問題	その他	高度情報化時代に対応したICT(情報通信技術)	その他	高度情報化時代に対応したICT(情報通信技術)	その他
	14.4%	1.9%	14.6%	1.3%	15.2%	2.7%

※印は平成25年度の新規追加項目

IX 特定課題

- 学校における教育活動のうち、支援教育、キャリア教育、いのちの授業、教員研修、自分づくり・人づくりという5つの特定課題に注目して教職員、保護者、一般県民に聞くことで、現状と今後の取組みに向けた課題を把握することにした。
- 支援教育については、小中高の教職員は順に「就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる」、「自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る」、「小・中・高等学校での子どもへの支援に、特別支援学校がもつ専門的な知識や機能を活用する」必要があるとする回答の割合が高くなっている。
特別支援学校の教職員は「小・中・高等学校での子どもへの支援に、特別支援学校がもつ専門的な知識や機能を活用する」必要があるとする回答の割合が最も高くなっている。次いで「自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る」、「就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる」ことが並んでいる。
- 一方、小中高の保護者は共に、「就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる」必要があるとの回答の割合が最も高くなっている。次いで、小中学校の保護者は順に「普段は地域の学校にある“通常の学級”で学ばせ、必要に応じて“特別支援学級や通級指導教室”で学ばせる」、「自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る」となっている。高等学校の保護者は順に「自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る」、「普段は地域の学校にある“通常の学級”で学ばせ、必要に応じて“特別支援学級や通級指導教室”で学ばせる」となっている。
特別支援学校の保護者は「自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る」必要があるとする回答の割合が高くなっている。次いで、「就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる」、「小・中・高等学校での子どもへの支援に、特別支援学校がもつ専門的な知識や機能を活用する」の順になっている。
- キャリア教育については、小中高の教職員共に「希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」、「社会の一員としての自覚と責任の形成」を期待する回答の割合が高くなっている。
次いで、小学校教職員は「学ぶことの意義の理解と主体的な学習態度の形成」、中学校教職員は「望ましい職業観や勤労観の確立」、高等学校教職員と特別支援学校教職員は「将来設計の立案と社会的自立への準備」となっている。
- いのちの授業については、小中高の教職員共に順に「他者への思いやりや他者との関わり大切さに気づくこと」、「自己の大切さを感じる」、「生命や生物の尊さを感じる」を期待する回答の割合が高くなっている。
- 研修のあり方については、いずれの学校段階の教職員においても、順に「学校が抱える共通の課題に応じた校内研修」、「学校外で開催される講座や実習などの研修」、「地域の学校が抱える課題に対して近隣の学校が合同で行う研修」が望ましいとする回答の割合が高くなっている。
回答の割合が最も高い項目を前回調査と比較すると、平成17年度調査結果では、高等学校教職員は「学校外で開催される講座や実習などの研修」となっている。
- また、「研修の際に重視すること」について、小中高の教職員共に「研修の成果を職場の教職実践に生かせる研修であること」、「共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること」とする回答の割合が高くなっている。
次いで、小学校教職員は「指導力の高い教職員から直接指導を受ける研修であること」、中学校と高等学校の教職員は「多様な研修形態の中から、必要に応じて選択できること」となっている。特別支援学校教職員は「研修の成果を職場の教職実践に生かせる研修であること」、「多様な研修形態の中から、必要に応じて選択できること」、「共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること」の順になっている。

- 「生涯にわたる自分づくり」について、一般県民は、「自然・歴史・風土・文化芸術・産業・観光などのかながわの魅力を生かした学びの場の充実」、「地域の人々が互いに学び合えるコミュニティの充実」、「大学や民間企業等における学び直しの機会の充実」を期待する回答の割合が高くなっている。
 - 一方で、「生涯を通じた教育・『人づくり』」として自分自身が取り組んでいることとしては、「家庭における育児・子育て等の取組み」、「学校における子どもや成人に対する取組み」、「市町村行政における子どもや成人に対する取組み」と回答する割合が高くなっている。
- また、『今後期待する教育・「人づくり」の場』として回答の割合が高いのは、「学校」、「家庭」、「地域」の順となっている

IX-1 支援を必要とする子どもへの対応

教職員と保護者に、「支援を必要とする子どもへの対応」について必要なことを聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、小中高等学校の教職員では、「就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる」、「自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る」、「小・中・高等学校での子どもへの支援に、特別支援学校がもつ専門的な知識や機能を活用する」であり、小中学校の保護者では、「就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる」、「普段は地域の学校にある“通常の学級”で学ばせ、必要に応じて“特別支援学級や通級指導教室”で学ばせる」、「自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る」であった。高等学校の保護者では、「就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる」、「自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る」、「普段は地域の学校にある“通常の学級”で学ばせ、必要に応じて“特別支援学級や通級指導教室”で学ばせる」であり、特別支援学校教職員では、「小・中・高等学校での子どもへの支援に、特別支援学校がもつ専門的な知識や機能を活用する」、「自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る」、「就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる」、特別支援学校保護者では、「自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る」、「就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる」、「小・中・高等学校での子どもへの支援に、特別支援学校がもつ専門的な知識や機能を活用する」であった。

『支援を必要とする子どもへの対応』について教職員と保護者に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、小学校教職員では、「就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる」(57.4%)、「自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る」(45.6%)、「小・中・高等学校での子どもへの支援に、特別支援学校がもつ専門的な知識や機能を活用する」(43.4%)であり、小学校保護者では、「就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる」(58.5%)、「普段は地域の学校にある“通常の学級”で学ばせ、必要に応じて“特別支援学級や通級指導教室”で学ばせる」(48.3%)、「自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る」(41.7%)であった。

中学校教職員では、「就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる」(56.5%)、「自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る」(56.3%)、「小・中・高等学校での子どもへの支援に、特別支援学校がもつ専門的な知識や機能を活用する」(44.7%)であり、中学校保護者では、「就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる」(59.8%)、「普段は地域の学校にある“通常の学級”で学ばせ、必要に応じて“特別支援学級や通級指導教室”で学ばせる」(48.0%)、「自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る」(45.6%)であった。

高等学校教職員では、「就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる」(56.2%)、「自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る」(48.1%)、「小・中・高等学校での子どもへの支援に、特別支援学校がもつ専門的な知識や

機能を活用する」(35.1%)であり、高等学校保護者では、「就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる」(60.0%)、「自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る」(48.0%)、「普段は地域の学校にある“通常の学級”で学ばせ、必要に応じて“特別支援学級や通級指導教室”で学ばせる」(42.6%)であった。

特別支援学校教職員では、「小・中・高等学校での子どもへの支援に、特別支援学校がもつ専門的な知識や機能を活用する」(59.8%)、「自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る」(58.2%)、「就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる」(58.2%)であり、特別支援学校保護者では、「自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る」(61.5%)、「就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる」(56.2%)、「小・中・高等学校での子どもへの支援に、特別支援学校がもつ専門的な知識や機能を活用する」(44.6%)であった。(表IX-1、図IX-1～5 参照)

表 IX-1 支援を必要とする子どもへの対応(上位5項目)

	教職員	保護者
1位	就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる 56.4%	就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる 59.0%
2位	自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る 49.2%	普段は地域の学校にある“通常の学級”で学ばせ、必要に応じて“特別支援学級や通級指導教室”で学ばせる 45.6%
3位	小・中・高等学校での子どもへの支援に、特別支援学校がもつ専門的な知識や機能を活用する 43.0%	自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る 45.3%
4位	普段は地域の学校にある“通常の学級”で学ばせ、必要に応じて“特別支援学級や通級指導教室”で学ばせる 35.8%	“通常の学級”と“特別支援学級や特別支援学校”の子ども同士の交流を充実させる 31.8%
5位	“通常の学級”と“特別支援学級や特別支援学校”の子ども同士の交流を充実させる 30.8%	小・中・高等学校での子どもへの支援に、特別支援学校がもつ専門的な知識や機能を活用する 24.2%

図 IX-1 支援を必要とする子どもへの対応(教職員、保護者)

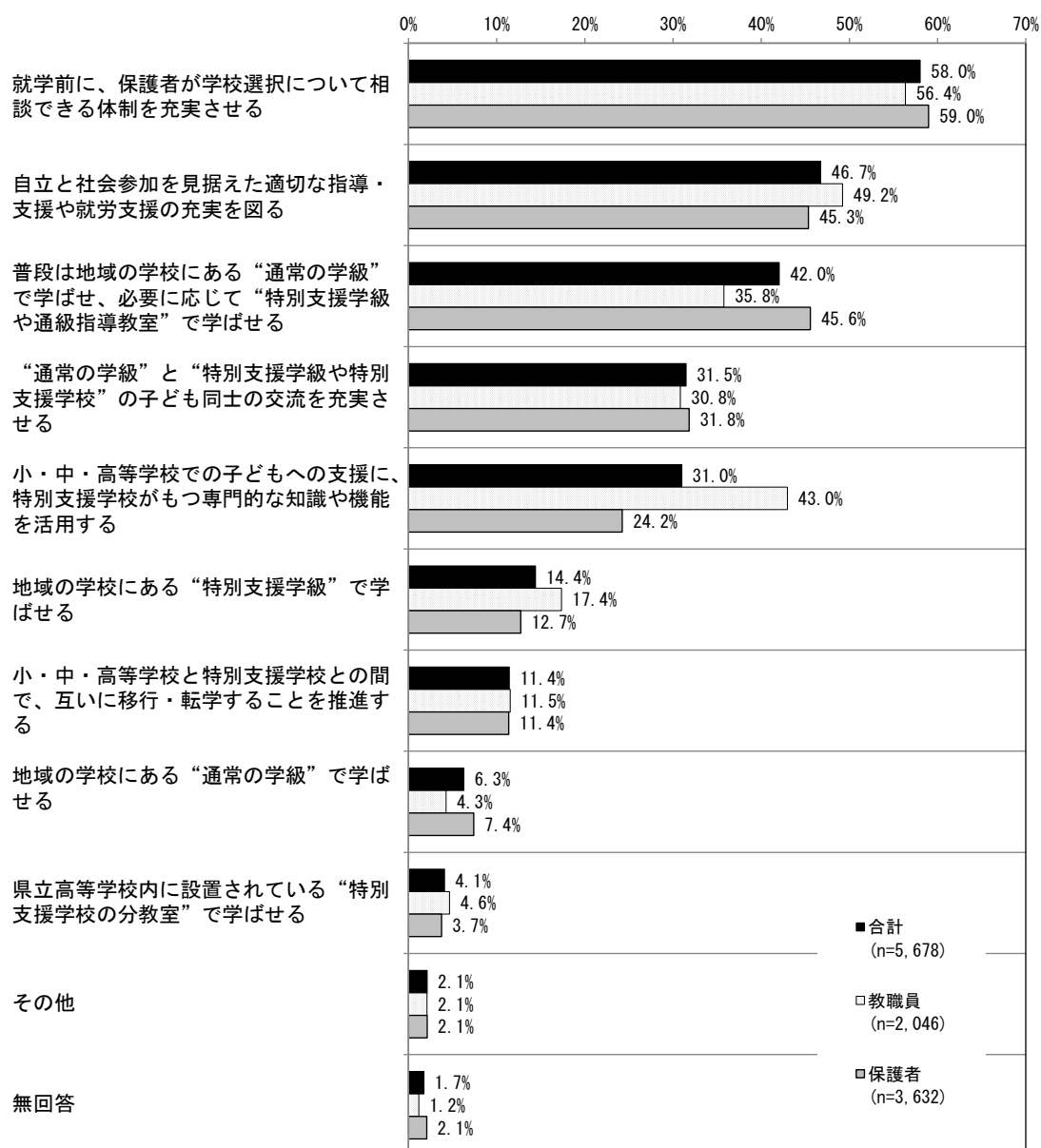


図 IX-2 支援を必要とする子どもへの対応(教職員、保護者：小学校)

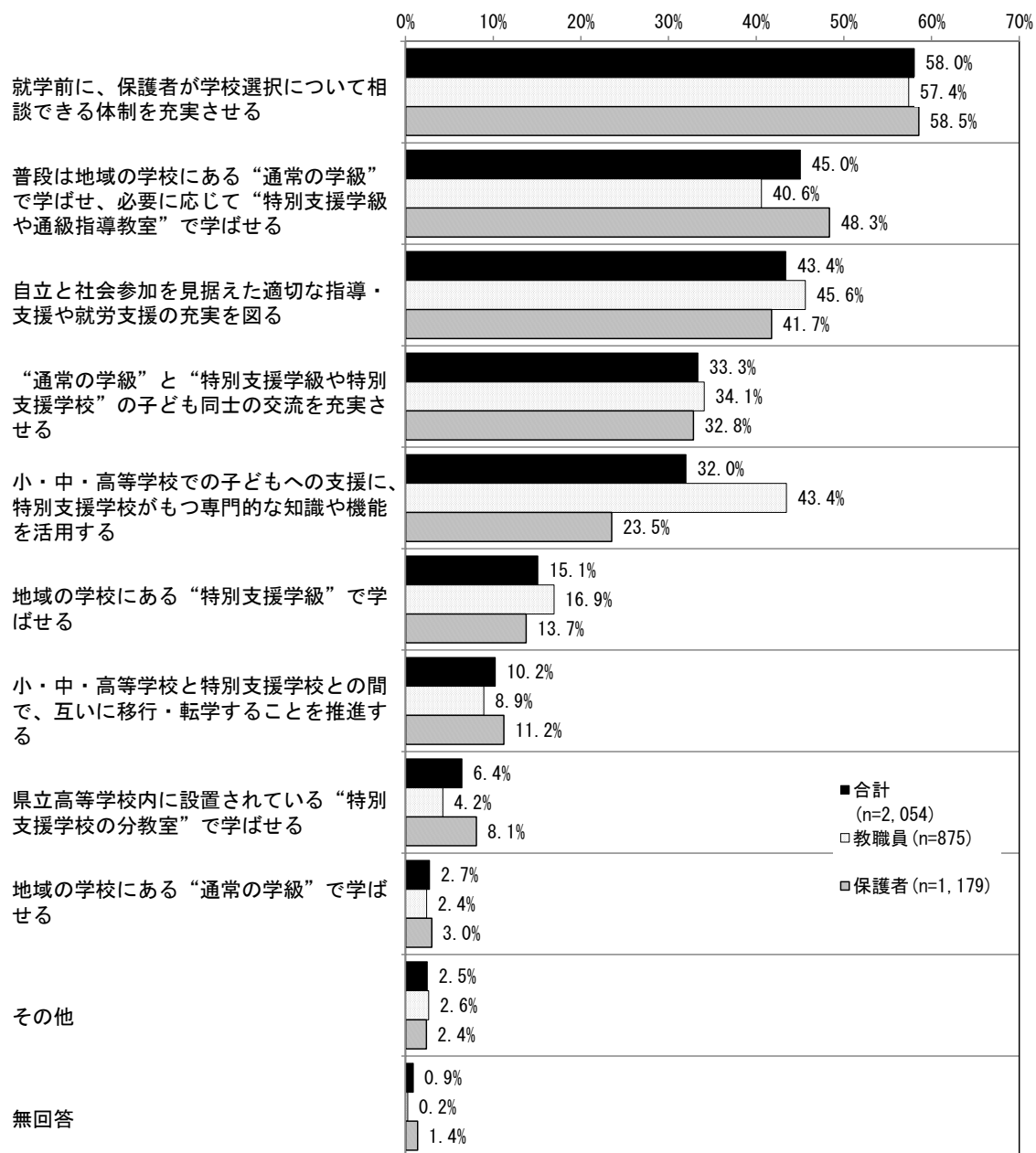


図 IX-3 支援を必要とする子どもへの対応(教職員、保護者：中学校)

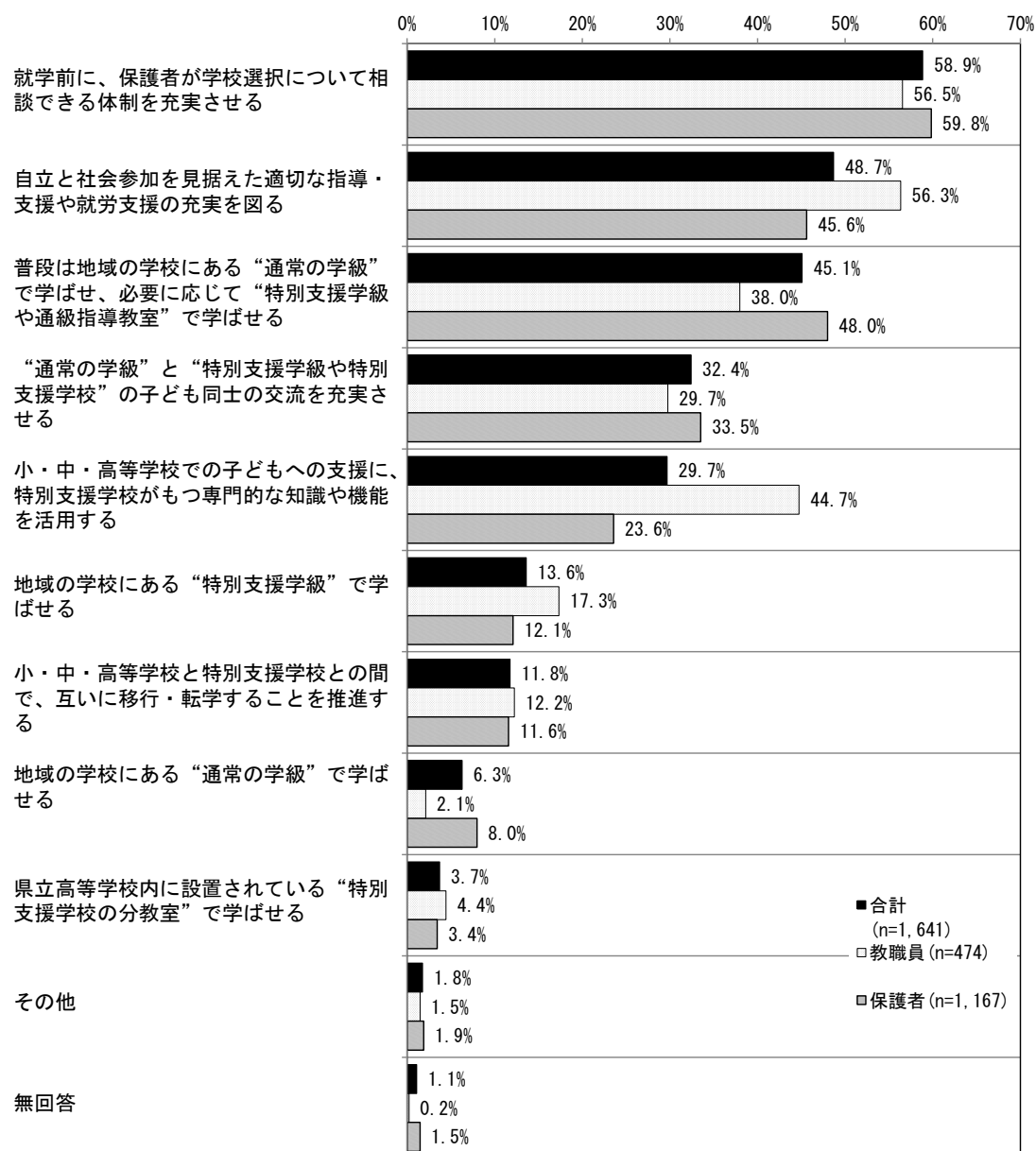


図 IX-4 支援を必要とする子どもへの対応(教職員、保護者：高等学校)

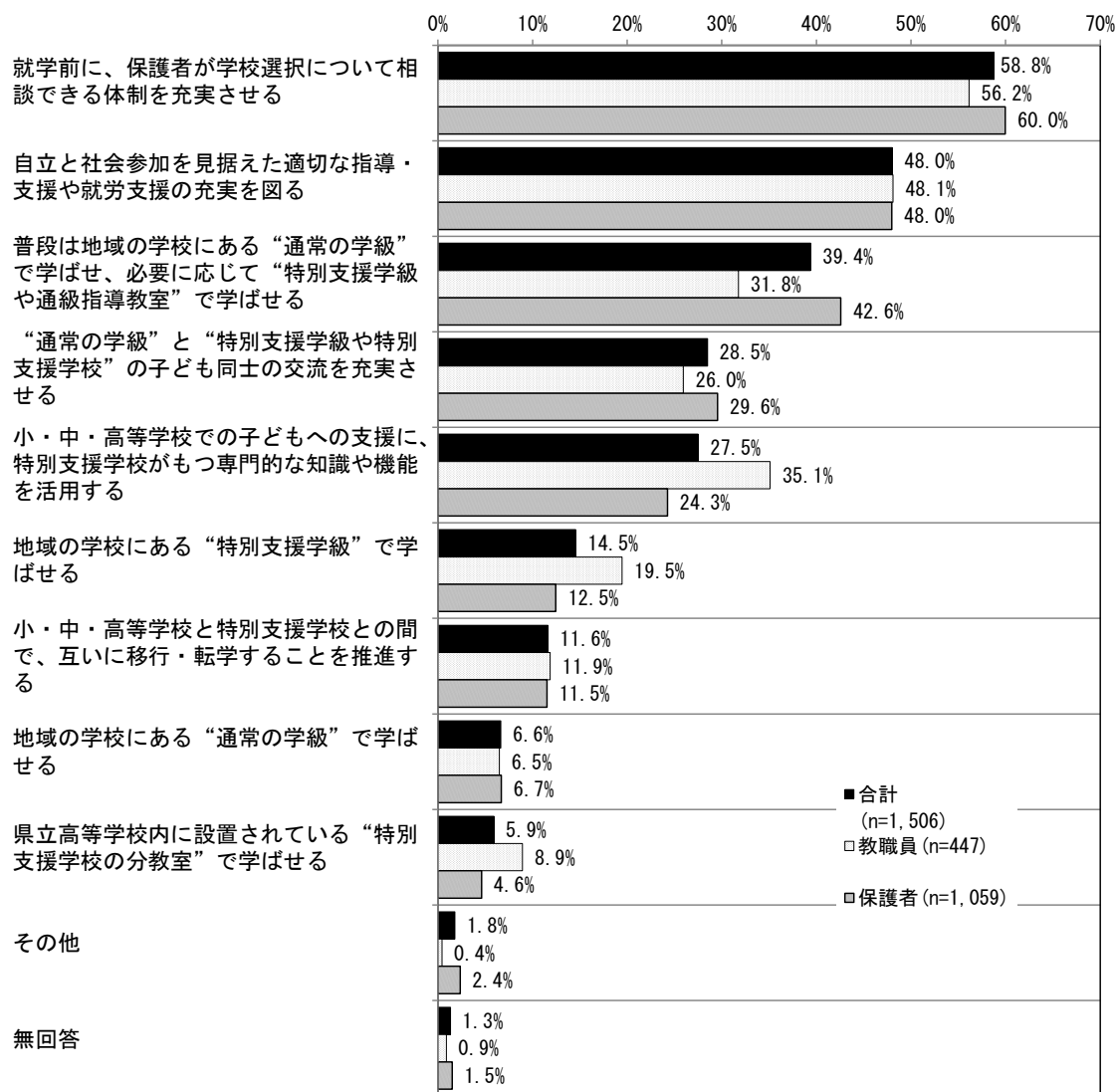
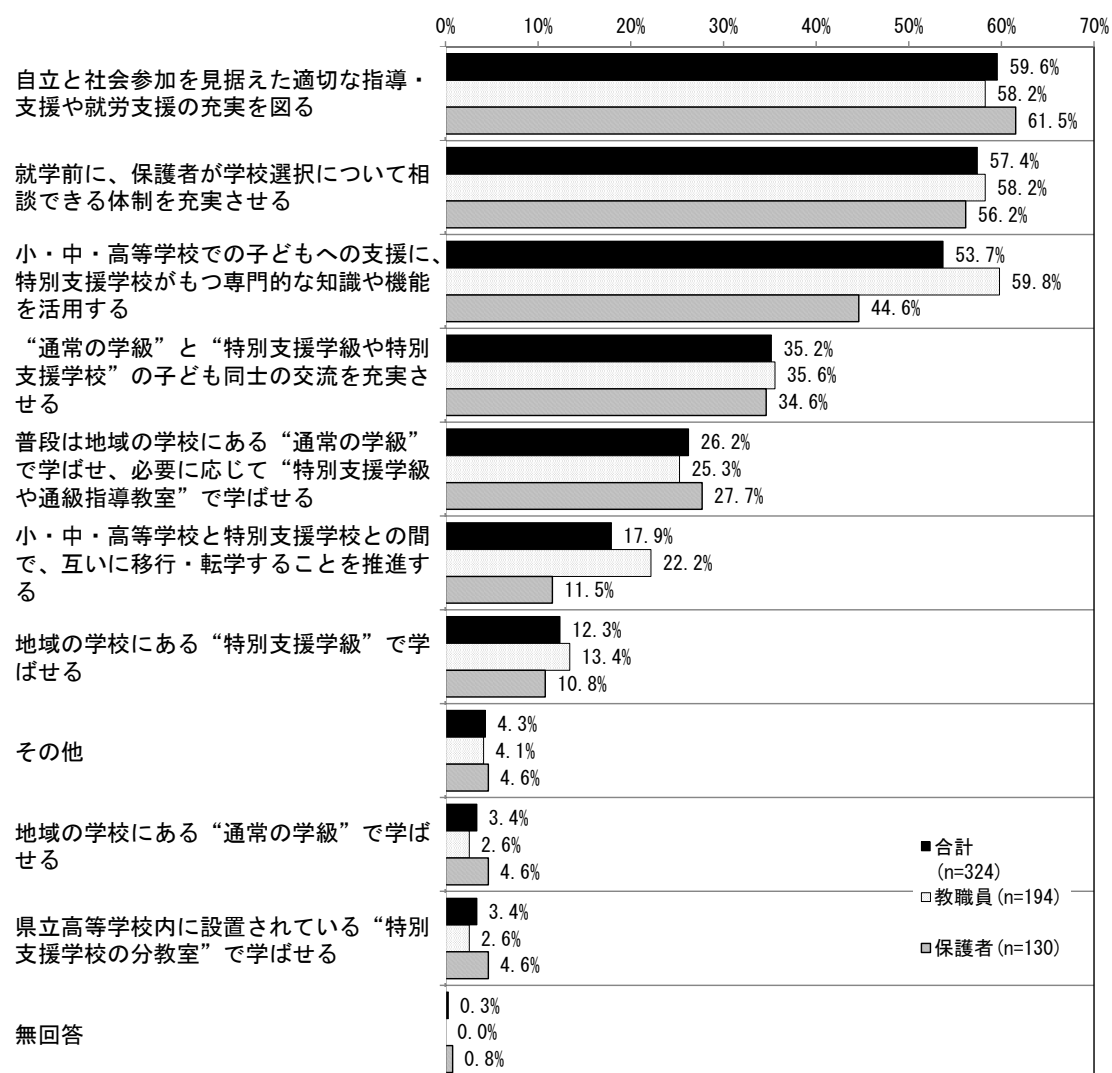


図 IX-5 支援を必要とする子どもへの対応(教職員、保護者：特別支援学校)



IX-2 「キャリア教育」へ期待するもの

「キャリア教育への期待」について、教職員に聞いたところ、すべての校種で回答の割合が高かった項目は、「希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」、「社会の一員としての自覚と責任の形成」であり、次いで小学校教職員では「学ぶことの意義の理解と主体的な学習態度の形成」、中学校教職員では「望ましい職業観や勤労観の確立」、高等学校教職員と特別支援学校教職員では「将来設計の立案と社会的自立への準備」の回答の割合が高かった。

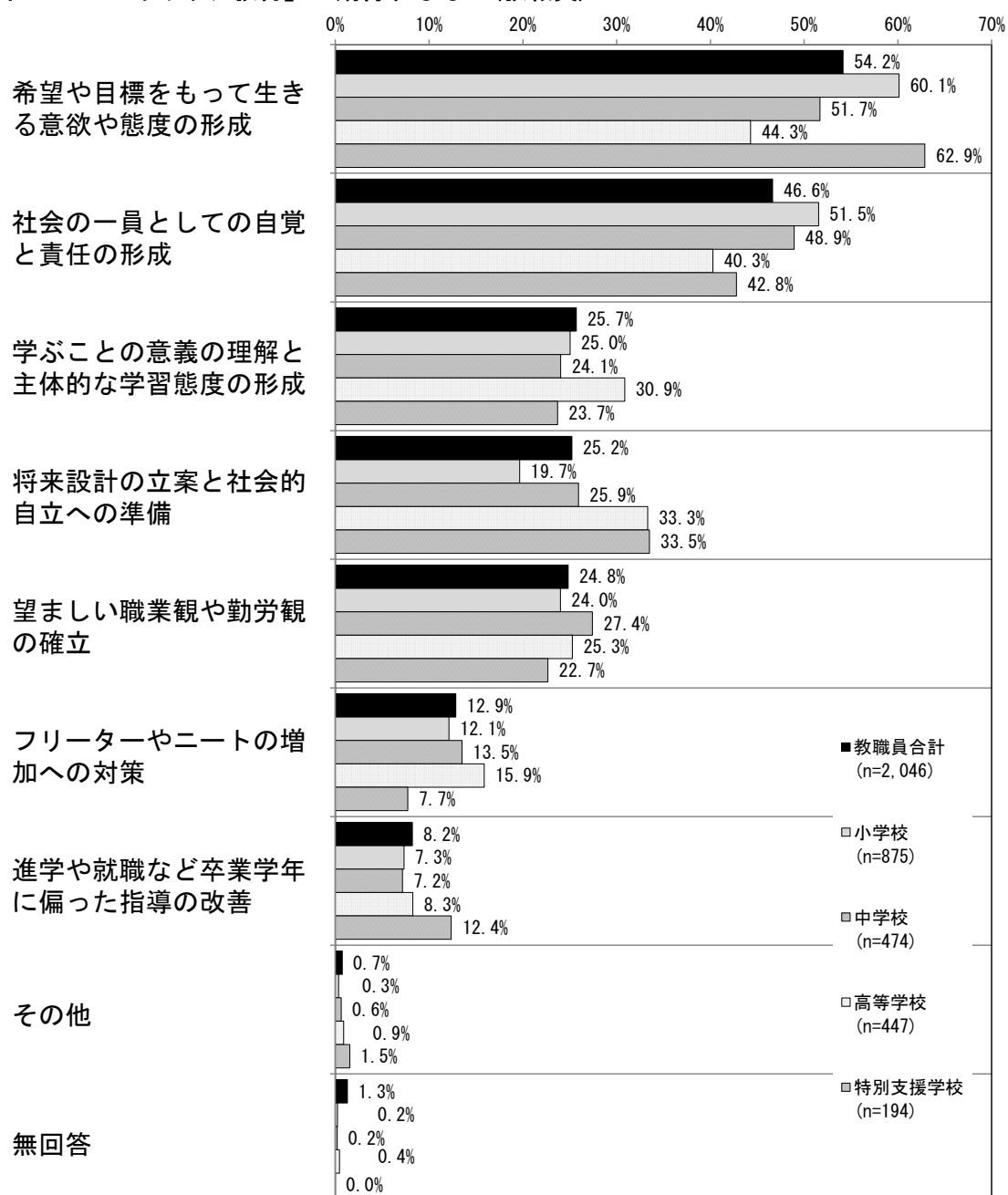
また、回答の割合が最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、いずれの調査においても、すべての校種の教職員の回答で「希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」の割合が最も高かった。平成25年度調査では小学校60.1%、中学校51.7%、高等学校44.3%、特別支援学校62.9%であり、平成17年度調査では小学校56.2%、中学校51.8%、高等学校42.1%、特別支援学校46.8%であった。

『「キャリア教育」へ期待するもの』について教職員に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、「希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」(小学校:60.1%、中学校:51.7%、高等学校:44.3%、特別支援学校:62.9%)であり、次いで、「社会の一員としての自覚と責任の形成」(小学校教職員:51.5%、中学校:48.9%、高等学校:40.3%、特別支援学校:42.8%)の割合が高い。さらに、小学校教職員では「学ぶことの意義の理解と主体的な学習態度の形成」(25.0%)、中学校教職員では「望ましい職業観や勤労観の確立」(27.4%)、高等学校教職員と特別支援学校教職員では「将来設計の立案と社会的自立への準備」(高等学校:33.3%、特別支援学校:33.5%)の回答の割合が高かった。(表IX-2、図IX-6 参照)

表 IX-2 「キャリア教育」へ期待するもの(上位5項目)

	教職員(小)	教職員(中)	教職員(高)	教職員(特)
1位	希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成 60.1%	希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成 51.7%	希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成 44.3%	希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成 62.9%
2位	社会の一員としての自覚と責任の形成 51.5%	社会の一員としての自覚と責任の形成 48.9%	社会の一員としての自覚と責任の形成 40.3%	社会の一員としての自覚と責任の形成 42.8%
3位	学ぶことの意義の理解と主体的な学習態度の形成 25.0%	望ましい職業観や勤労観の確立 27.4%	将来設計の立案と社会的自立への準備 33.3%	将来設計の立案と社会的自立への準備 33.5%
4位	望ましい職業観や勤労観の確立 24.0%	将来設計の立案と社会的自立への準備 25.9%	学ぶことの意義の理解と主体的な学習態度の形成 30.9%	学ぶことの意義の理解と主体的な学習態度の形成 23.7%
5位	将来設計の立案と社会的自立への準備 19.7%	学ぶことの意義の理解と主体的な学習態度の形成 24.1%	望ましい職業観や勤労観の確立 25.3%	望ましい職業観や勤労観の確立 22.7%

図 IX-6 「キャリア教育」へ期待するもの(教職員)



『「キャリア教育」へ期待するもの』について回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、小学校教職員の回答は平成 25 年度調査では「希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」(60.1%)、「社会の一員としての自覚と責任の形成」(51.5%)、「学ぶことの意義の理解と主体的な学習態度の形成」(25.0%)であり、平成 17 年度調査では「希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」(56.2%)、「社会の一員としての自覚と責任の形成」(45.0%)、「学ぶことの意義の理解と主体的な学習態度の形成」(24.2%)であった。

中学校教職員の回答は平成 25 年度調査では「希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」(51.7%)、「社会の一員としての自覚と責任の形成」(48.9%)、「望ましい職業観や勤労観の確立」(27.4%)であり、平成 17 年度調査では「希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」(51.8%)、「社会の一員としての自覚と責任の形成」(39.4%)、「望ましい職業観や勤労観の確立」(24.1%)であった。

高等学校教職員の回答は平成 25 年度調査では「希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」(44.3%)、「社会の一員としての自覚と責任の形成」(40.3%)、「将来設計の立案と社会的自立への準備」(33.3%)であり、平成 17 年度調査では「希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」(42.1%)、「社会の一員としての自覚と責任の形成」(41.0%)、「望ましい職業観や勤労観の確立」(24.3%)であった。

特別支援学校教職員の回答は平成 25 年度調査では「希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」(62.9%)、「社会の一員としての自覚と責任の形成」(42.8%)、「将来設計の立案と社会的自立への準備」(33.5%)であり、平成 17 年度調査では「希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」(46.8%)、「社会の一員としての自覚と責任の形成」(30.9%)、「将来設計の立案と社会的自立への準備」(28.7%)であった。(表IX-3 参照)

表 IX-3 「キャリア教育」へ期待するもの(上位5項目)

	教職員(小)		教職員(中)	
	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)
	n=875	n=806	n=474	n=515
1 位	希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成 60.1%	希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成 56.2%	希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成 51.7%	希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成 51.8%
2 位	社会の一員としての自覚と責任の形成 51.5%	社会の一員としての自覚と責任の形成 45.0%	社会の一員としての自覚と責任の形成 48.9%	社会の一員としての自覚と責任の形成 39.4%
3 位	学ぶことの意義の理解と主体的な学習態度の形成 25.0%	学ぶことの意義の理解と主体的な学習態度の形成 24.2%	望ましい職業観や勤労観の確立 27.4%	望ましい職業観や勤労観の確立 24.1%
4 位	望ましい職業観や勤労観の確立 24.0%	将来設計の立案と社会的自立への準備 17.7%	将来設計の立案と社会的自立への準備 25.9%	学ぶことの意義の理解と主体的な学習態度の形成 23.7%
5 位	将来設計の立案と社会的自立への準備 19.7%	望ましい職業観や勤労観の確立 16.3%	学ぶことの意義の理解と主体的な学習態度の形成 24.1%	将来設計の立案と社会的自立への準備 23.1%

	教職員(高)		教職員(特)	
	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)
	n=447	n=354	n=194	n=188
1 位	希望や目標をもって 生きる意欲や態度の 形成 44.3%	希望や目標をもって 生きる意欲や態度の 形成 42.1%	希望や目標をもって 生きる意欲や態度の 形成 62.9%	希望や目標をもって 生きる意欲や態度の 形成 46.8%
2 位	社会の一員としての 自覚と責任の形成 40.3%	社会の一員としての 自覚と責任の形成 41.0%	社会の一員としての 自覚と責任の形成 42.8%	社会の一員としての 自覚と責任の形成 30.9%
3 位	将来設計の立案と社 会的自立への準備 33.3%	望ましい職業観や勤 労観の確立 24.3%	将来設計の立案と社 会的自立への準備 33.5%	将来設計の立案と社 会的自立への準備 28.7%
4 位	学ぶことの意義の理 解と主体的な学習態 度の形成 30.9%	将来設計の立案と社 会的自立への準備 23.4%	学ぶことの意義の理 解と主体的な学習態 度の形成 23.7%	学ぶことの意義の理 解と主体的な学習態 度の形成 25.5%
5 位	望ましい職業観や勤 労観の確立 25.3%	学ぶことの意義の理 解と主体的な学習態 度の形成 23.2%	望ましい職業観や勤 労観の確立 22.7%	望ましい職業観や勤 労観の確立 18.6%

IX-3 「いのちの授業」へ期待するもの

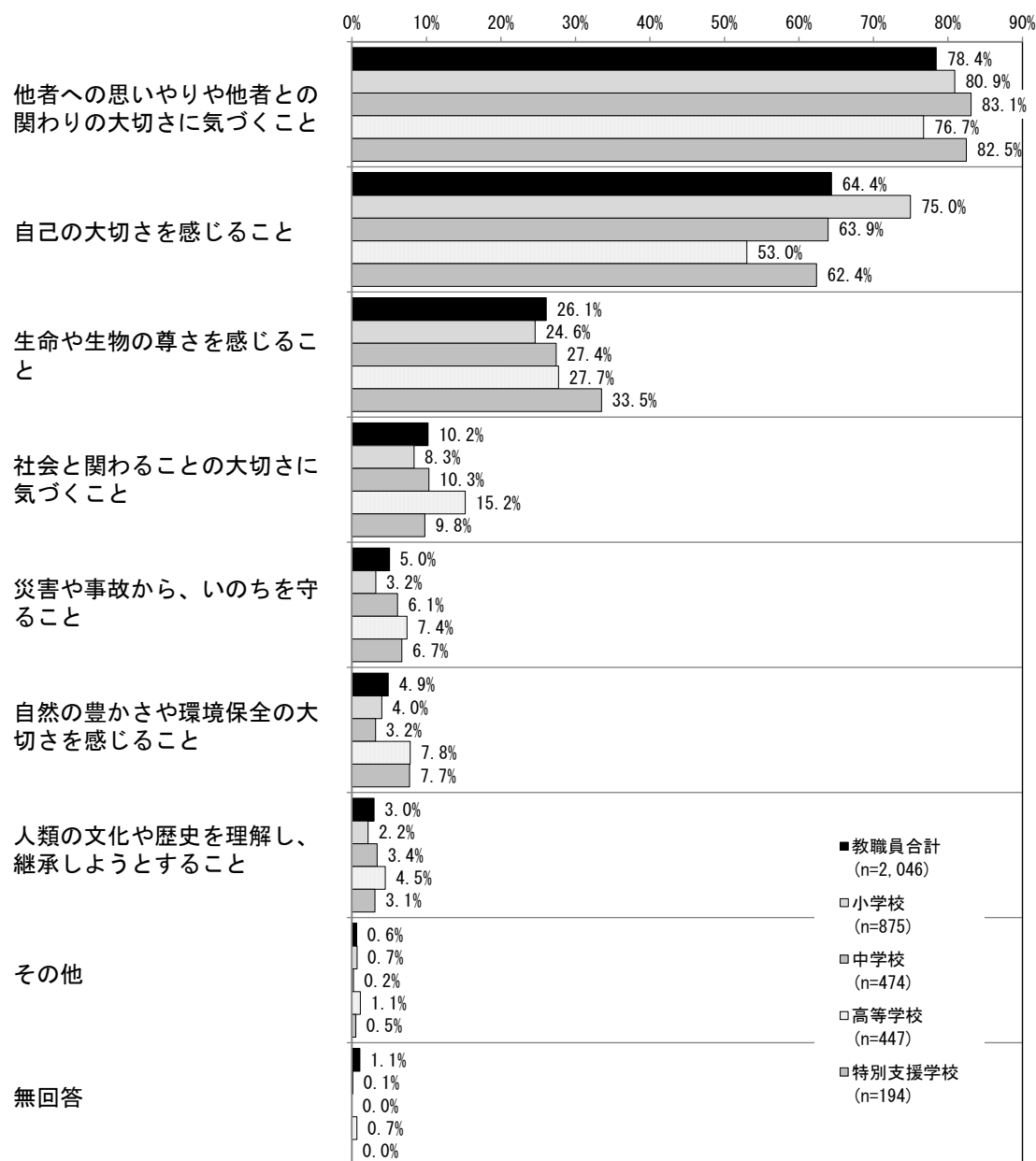
「いのちの授業への期待」について、教職員に聞いたところ、回答の割合が高かった項目はすべての校種で「他者への思いやりや他者との関わり大切さに気づくこと」、「自己の大切さを感じる事」、「生命や生物の尊さを感じる事」の順であった。

『「いのちの授業」へ期待するもの』について教職員に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、すべての校種で「他者への思いやりや他者との関わり大切さに気づくこと」(小学校：80.9%、中学校：83.1%、高等学校：76.7%、特別支援学校：82.5%)、「自己の大切さを感じる事」(小学校：75.0%、中学校：63.9%、高等学校：53.0%、特別支援学校：62.4%)、「生命や生物の尊さを感じる事」(小学校：24.6%、中学校：27.4%、高等学校：27.7%、特別支援学校：33.5%)の順であった。(表IX-4、図IX-7 参照)

表 IX-4 「いのちの授業」へ期待するもの(上位5項目)

	教職員(小)	教職員(中)	教職員(高)	教職員(特)
1位	他者への思いやりや他者との関わり大切さに気づくこと 80.9%	他者への思いやりや他者との関わり大切さに気づくこと 83.1%	他者への思いやりや他者との関わり大切さに気づくこと 76.7%	他者への思いやりや他者との関わり大切さに気づくこと 82.5%
2位	自己の大切さを感じる事 75.0%	自己の大切さを感じる事 63.9%	自己の大切さを感じる事 53.0%	自己の大切さを感じる事 62.4%
3位	生命や生物の尊さを感じる事 24.6%	生命や生物の尊さを感じる事 27.4%	生命や生物の尊さを感じる事 27.7%	生命や生物の尊さを感じる事 33.5%
4位	社会と関わる事大切さに気づくこと 8.3%	社会と関わる事大切さに気づくこと 10.3%	社会と関わる事大切さに気づくこと 15.2%	社会と関わる事大切さに気づくこと 9.8%
5位	自然の豊かさや環境保全の大切さを感じる事 4.0%	災害や事故から、いのちを守ること 6.1%	自然の豊かさや環境保全の大切さを感じる事 7.8%	自然の豊かさや環境保全の大切さを感じる事 7.7%

図 IX-7 「いのちの授業」へ期待するもの(教職員)



IX-4 教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方

現在の様々な教育課題の解決に向けた「望ましい研修のあり方」について、回答の割合が高かった項目は、すべての校種で「学校が抱える共通の課題に応じた校内研修」、「学校外で開催される講座や実習などの研修」、「地域の学校が抱える課題に対して近隣の学校が合同で行う研修」の順であった。

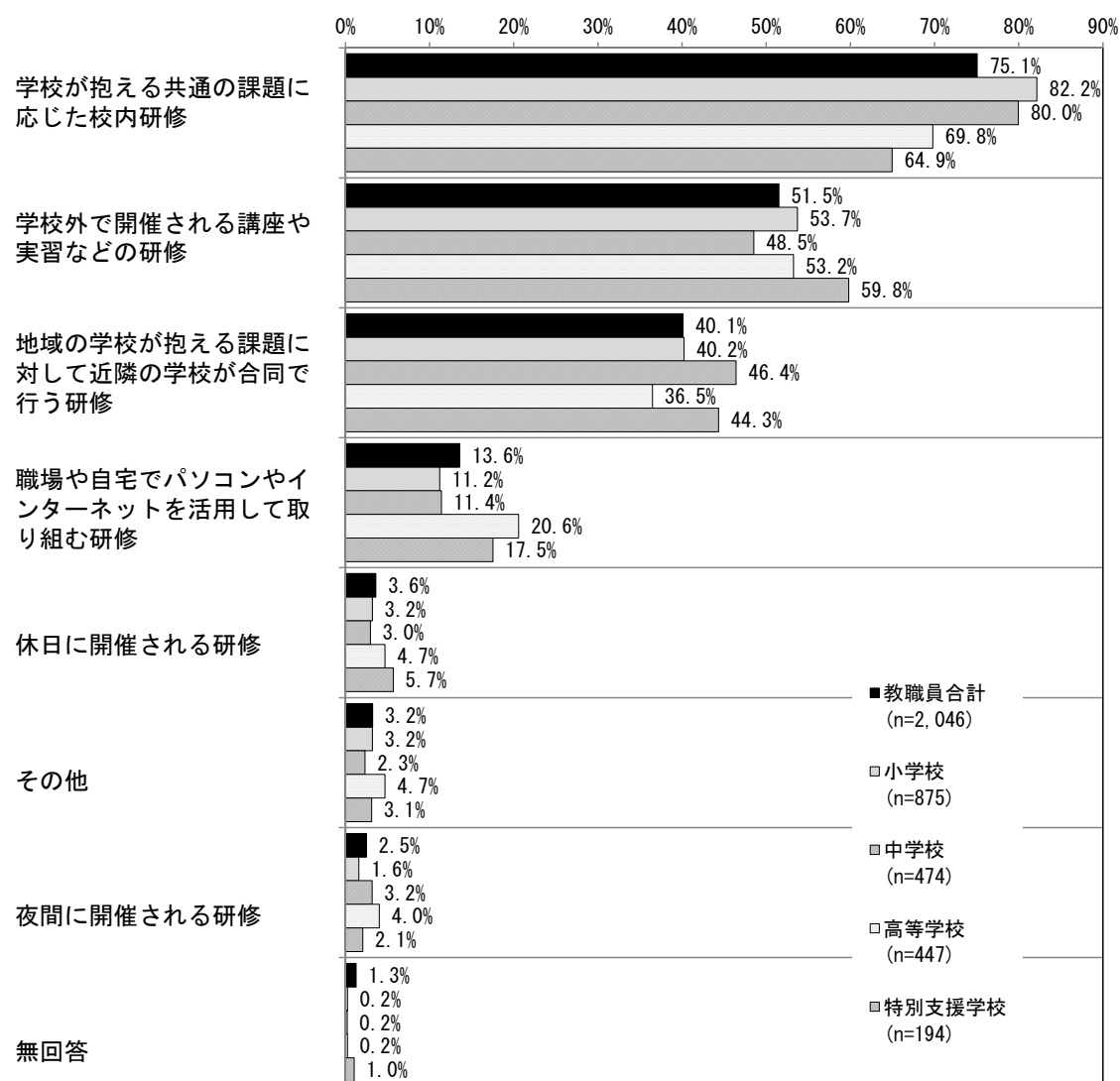
また、回答の割合が最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、小中学校及び特別支援学校の教職員の回答で、いずれの調査においても、「学校が抱える共通の課題に応じた校内研修」の割合が最も高く、その割合は、平成25年度調査では小学校82.2%、中学校80.0%、特別支援学校64.9%であり、平成17年度調査では小学校66.6%、中学校52.8%、特別支援学校65.2%であった。高等学校教職員の回答で最も割合の高かった項目は平成25年度調査では「学校が抱える共通の課題に応じた校内研修」(69.8%)であり、平成17年度調査では「学校外で開催される講座や実習などの研修」(58.0%)高等学校の教職員の回答であった。

『教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方』について教職員に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、すべての校種で「学校が抱える共通の課題に応じた校内研修」(小学校：82.2%、中学校：80.0%、高等学校：69.8%、特別支援学校：64.9%)、「学校外で開催される講座や実習などの研修」(小学校：53.7%、中学校：48.5%、高等学校：53.2%、特別支援学校：59.8%)、「地域の学校が抱える課題に対して近隣の学校が合同で行う研修」(小学校：40.2%、中学校：46.4%、高等学校：36.5%、特別支援学校：44.3%)の順であった。(表IX-5、図IX-8 参照)

表 IX-5 教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方(上位5項目)

	教職員(小)	教職員(中)	教職員(高)	教職員(特)
1位	学校が抱える共通の課題に応じた校内研修 82.2%	学校が抱える共通の課題に応じた校内研修 80.0%	学校が抱える共通の課題に応じた校内研修 69.8%	学校が抱える共通の課題に応じた校内研修 64.9%
2位	学校外で開催される講座や実習などの研修 53.7%	学校外で開催される講座や実習などの研修 48.5%	学校外で開催される講座や実習などの研修 53.2%	学校外で開催される講座や実習などの研修 59.8%
3位	地域の学校が抱える課題に対して近隣の学校が合同で行う研修 40.2%	地域の学校が抱える課題に対して近隣の学校が合同で行う研修 46.4%	地域の学校が抱える課題に対して近隣の学校が合同で行う研修 36.5%	地域の学校が抱える課題に対して近隣の学校が合同で行う研修 44.3%
4位	職場や自宅でパソコンやインターネットを活用して取り組む研修 11.2%	職場や自宅でパソコンやインターネットを活用して取り組む研修 11.4%	職場や自宅でパソコンやインターネットを活用して取り組む研修 20.6%	職場や自宅でパソコンやインターネットを活用して取り組む研修 17.5%
5位	休日に開催される研修 3.2%	夜間に開催される研修 3.2%	休日に開催される研修 4.7%	休日に開催される研修 5.7%

図 IX-8 教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方(教職員)



『教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方』について、回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、回答の割合が高かった項目は、小学校教職員の回答は平成 25 年度調査では「学校が抱える共通の課題に応じた校内研修」(82.2%)、「学校外で開催される講座や実習などの研修」(53.7%)、「地域の学校が抱える課題に対して近隣の学校が合同で行う研修」(40.2%)であり、平成 17 年度調査では「学校が抱える共通の課題に応じた校内研修」(66.6%)、「学校外で開催される講座や実習などの研修」(49.7%)、「地域の学校が抱える課題に対して近隣の学校が合同で行う研修」(41.7%)であった。

中学校教職員の回答は平成 25 年度調査では「学校が抱える共通の課題に応じた校内研修」(80.0%)、「学校外で開催される講座や実習などの研修」(48.5%)、「地域の学校が抱える課題に対して近隣の学校が合同で行う研修」(46.4%)であり、平成 17 年度調査では「学校が抱える共通の課題に応じた校内研修」(52.8%)、「学校外で開催される講座や実習などの研修」(51.4%)、「地域の学校が抱える課題に対して近隣の学校が合同で行う研修」(30.5%)であった。

高等学校教職員の回答は平成 25 年度調査では「学校が抱える共通の課題に応じた校内研修」(69.8%)、「学校外で開催される講座や実習などの研修」(53.2%)、「地域の学校が抱える課題に対して近隣の学校が合同で行う研修」(36.5%)であり、平成 17 年度調査では「学校外で開催される講座や実習などの研修」(58.0%)、「学校が抱える共通の課題に応じた校内研修」(56.9%)、「地域の学校が抱える課題に対して近隣の学校が合同で行う研修」(36.7%)であった。

特別支援学校教職員の回答は平成 25 年度調査では「学校が抱える共通の課題に応じた校内研修」(64.9%)、「学校外で開催される講座や実習などの研修」(59.8%)、「地域の学校が抱える課題に対して近隣の学校が合同で行う研修」(44.3%)であり、平成 17 年度調査では「学校が抱える共通の課題に応じた校内研修」(65.2%)、「学校外で開催される講座や実習などの研修」(53.4%)、「地域の学校が抱える課題に対して近隣の学校が合同で行う研修」(36.8%)であった。(図IX-9～13 参照)

図 IX-9 教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方(教職員)

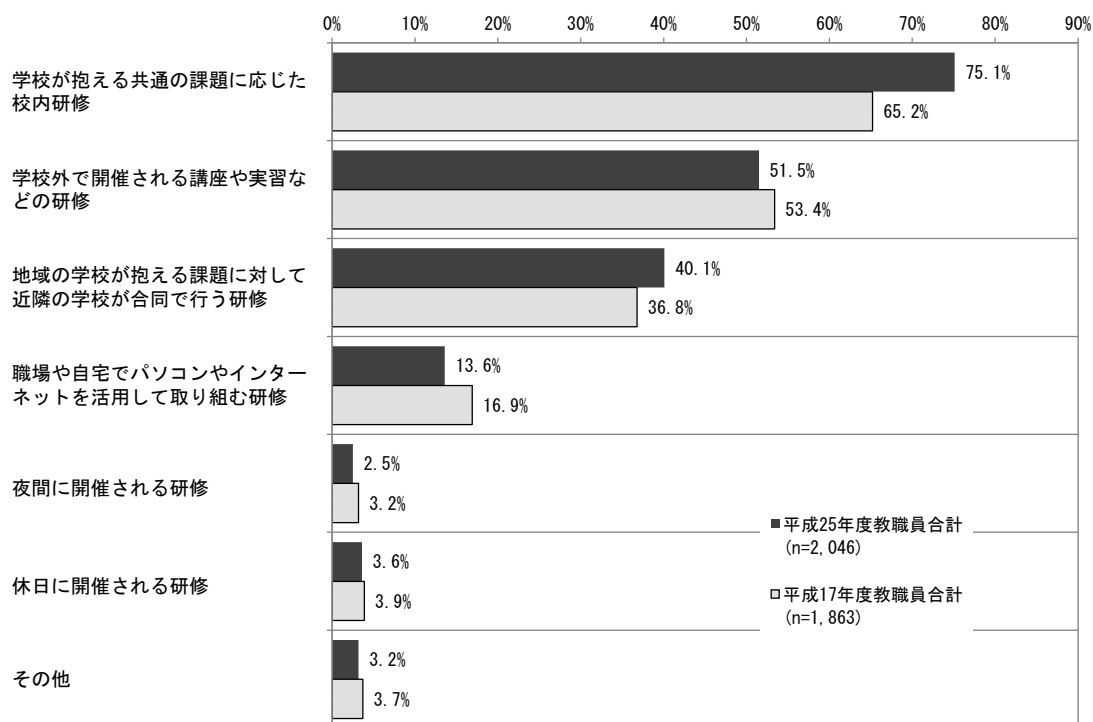


図 IX-10 教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方(教職員：小学校)

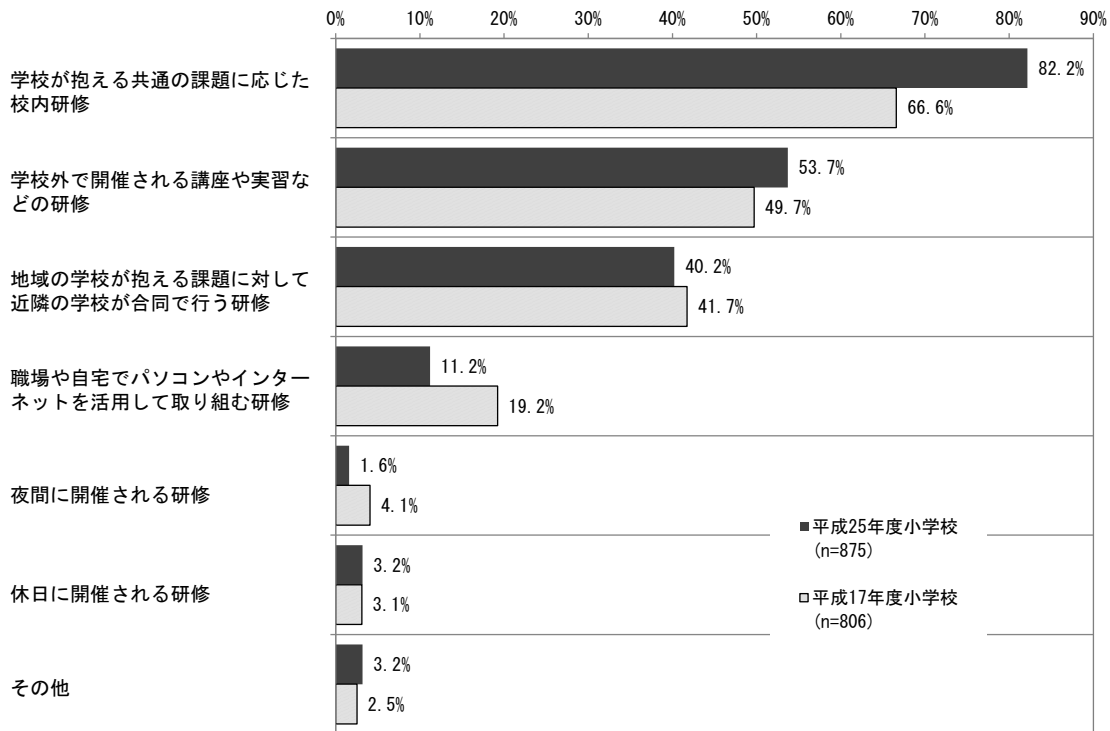


図 IX-11 教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方(教職員：中学校)

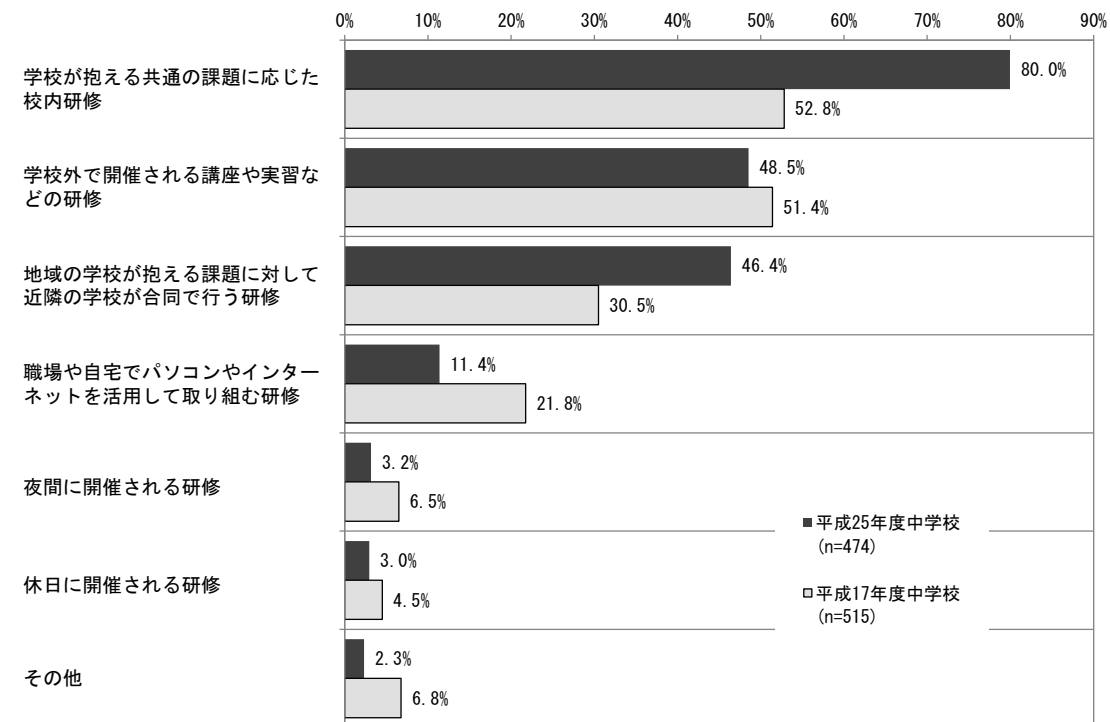


図 IX-12 教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方(教職員：高等学校)

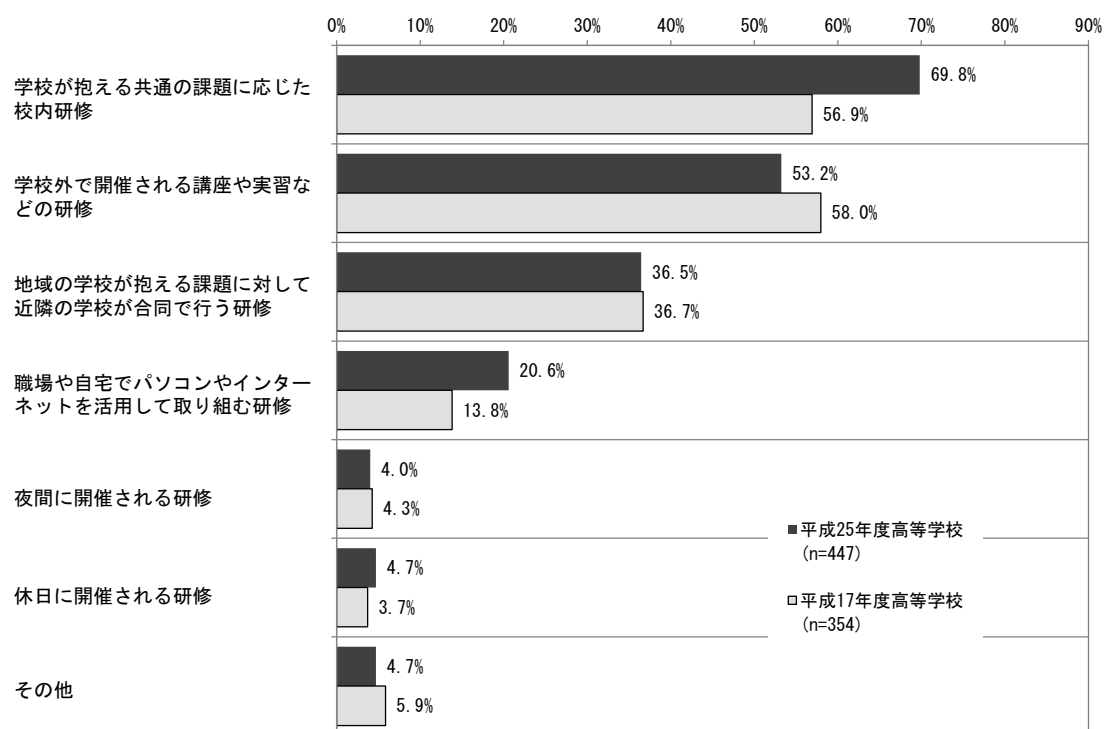
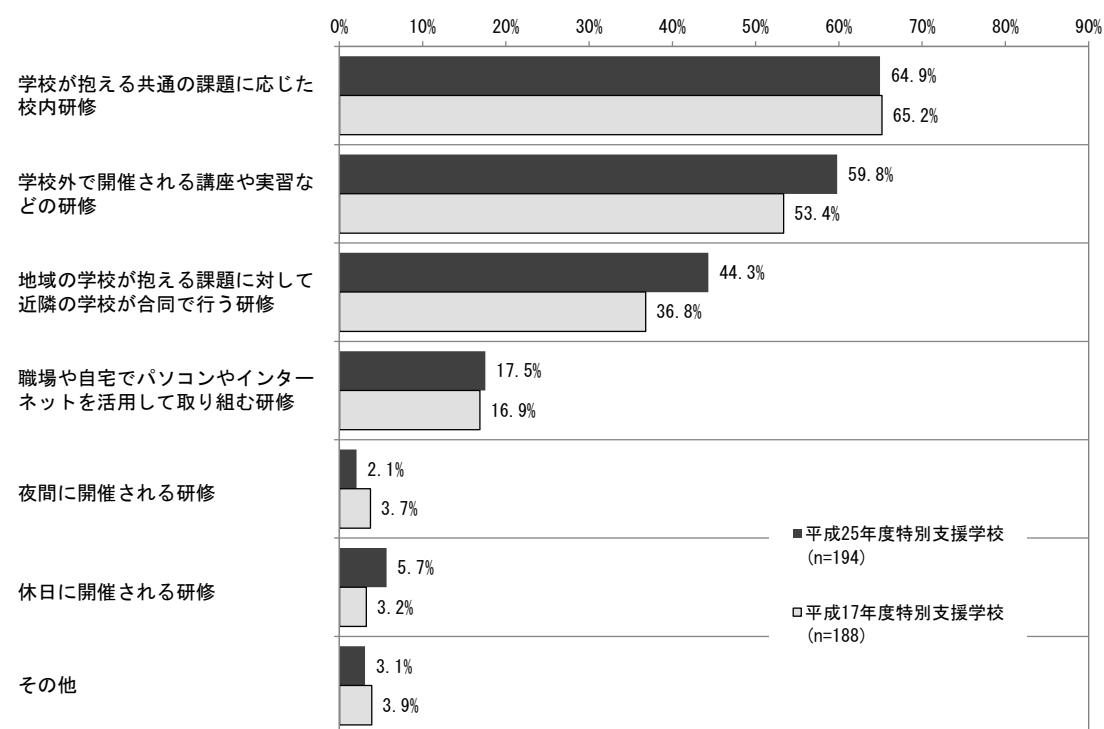


図 IX-13 教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方(教職員：特別支援学校)



IX-5 研修の際に重視すること

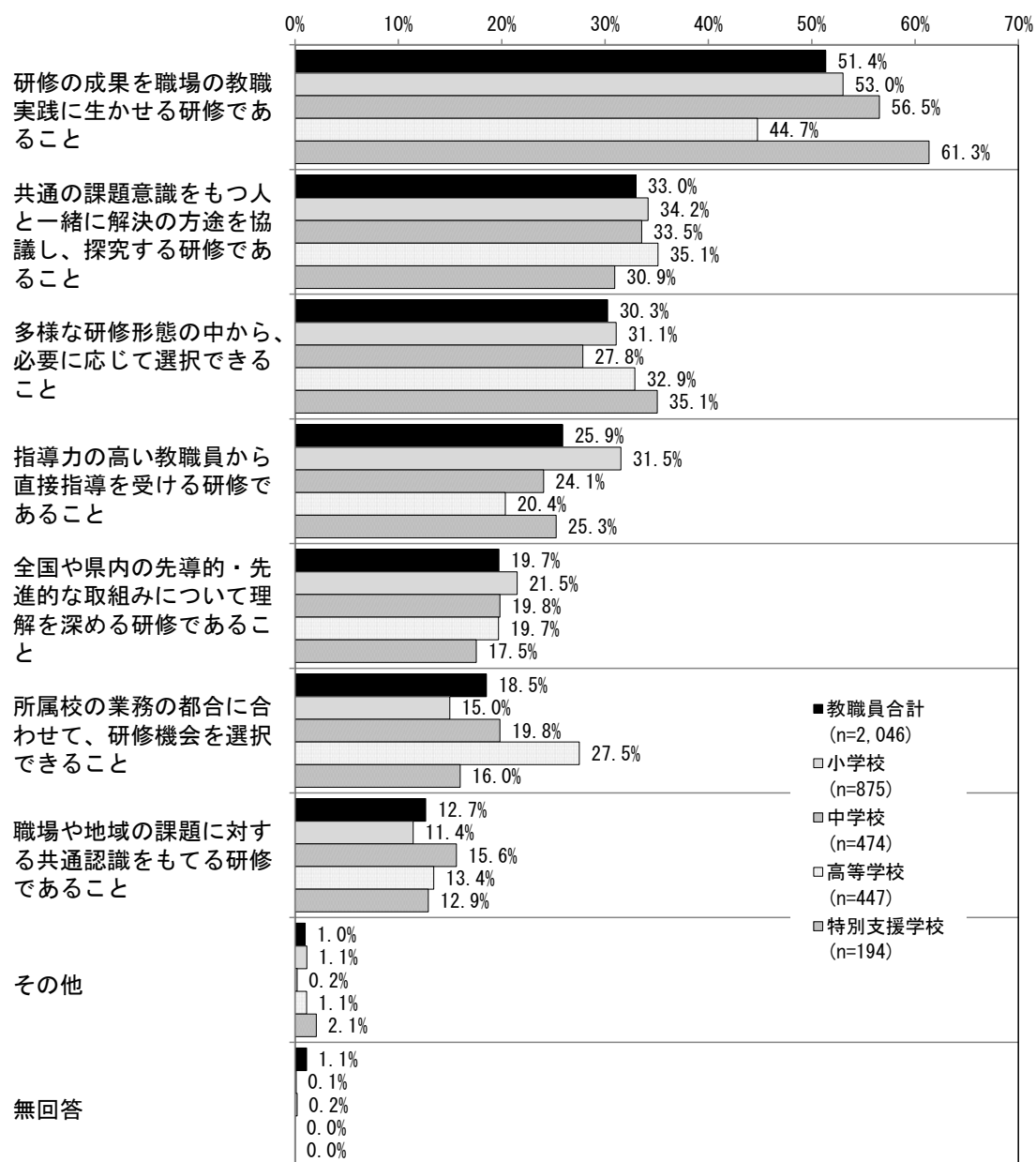
「研修の際に重視すること」について、教職員に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、小学校教職員では「研修の成果を職場の教職実践に生かせる研修であること」、「共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること」、「指導力の高い教職員から直接指導を受ける研修であること」であり、中学校と高等学校の教職員では「研修の成果を職場の教職実践に生かせる研修であること」、「共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること」、「多様な研修形態の中から、必要に応じて選択できること」であり、特別支援学校教職員では「研修の成果を職場の教職実践に生かせる研修であること」、「多様な研修形態の中から、必要に応じて選択できること」、「共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること」であった。

『研修の際に重視すること』について教職員に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、小学校教職員では、「研修の成果を職場の教職実践に生かせる研修であること」(53.0%)、「共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること」(34.2%)、「指導力の高い教職員から直接指導を受ける研修であること」(31.5%)であり、中学校と高等学校の教職員では、「研修の成果を職場の教職実践に生かせる研修であること」(中学校：56.5%、高等学校：44.7%)、「共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること」(中学校：33.5%、高等学校：35.1%)、「多様な研修形態の中から、必要に応じて選択できること」(中学校：27.8%、高等学校：32.9%)であり、特別支援学校教職員では、「研修の成果を職場の教職実践に生かせる研修であること」(61.3%)、「多様な研修形態の中から、必要に応じて選択できること」(35.1%)、「共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること」(30.9%)であった。(表IX-6、図IX-14 参照)

表 IX-6 研修の際に重視すること(上位5項目)

	教職員(小)	教職員(中)	教職員(高)	教職員(特)
1位	研修の成果を職場の教職実践に生かせる研修であること 53.0%	研修の成果を職場の教職実践に生かせる研修であること 56.5%	研修の成果を職場の教職実践に生かせる研修であること 44.7%	研修の成果を職場の教職実践に生かせる研修であること 61.3%
2位	共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること 34.2%	共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること 33.5%	共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること 35.1%	多様な研修形態の中から、必要に応じて選択できること 35.1%
3位	指導力の高い教職員から直接指導を受ける研修であること 31.5%	多様な研修形態の中から、必要に応じて選択できること 27.8%	多様な研修形態の中から、必要に応じて選択できること 32.9%	共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること 30.9%
4位	多様な研修形態の中から、必要に応じて選択できること 31.1%	指導力の高い教職員から直接指導を受ける研修であること 24.1%	所属校の業務の都合に合わせて、研修機会を選択できること 27.5%	指導力の高い教職員から直接指導を受ける研修であること 25.3%
5位	全国や県内の先導的・先進的な取組みについて理解を深める研修であること 21.5%	全国や県内の先導的・先進的な取組みについて理解を深める研修であること 19.8%	指導力の高い教職員から直接指導を受ける研修であること 20.4%	全国や県内の先導的・先進的な取組みについて理解を深める研修であること 17.5%

図 IX-14 研修の際に重視すること(教職員)

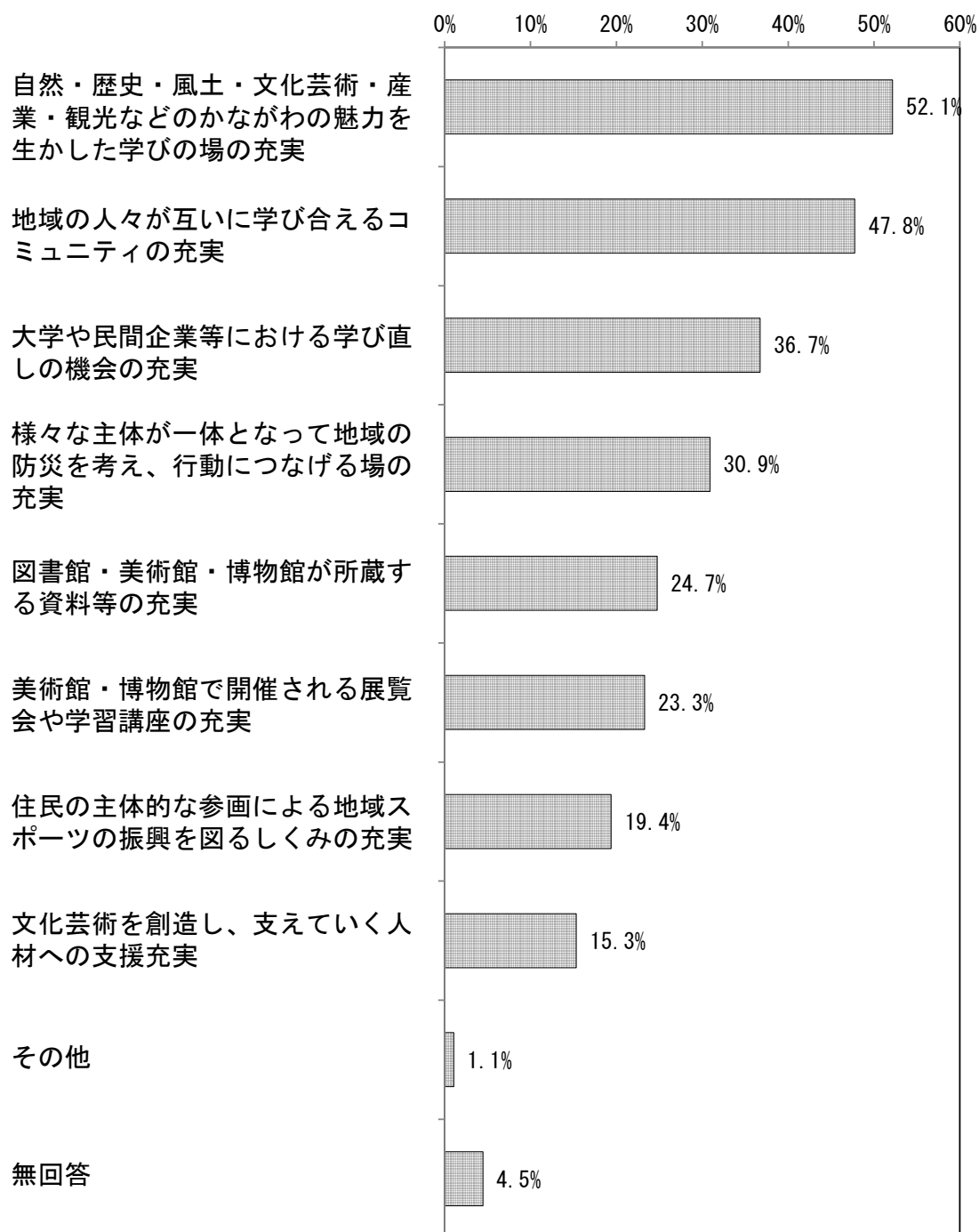


IX - 6 生涯にわたる自分づくりの実践

「生涯にわたる自分づくり」に期待するものについて、一般県民に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、「自然・歴史・風土・文化芸術・産業・観光などのかながわの魅力を生かした学びの場の充実」、「地域の人々が互いに学び合えるコミュニティの充実」、「大学や民間企業等における学び直しの機会の充実」であった。

『生涯にわたる自分づくりの実践』について一般県民に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、「自然・歴史・風土・文化芸術・産業・観光などのかながわの魅力を生かした学びの場の充実」(52.1%)、「地域の人々が互いに学び合えるコミュニティの充実」(47.8%)、「大学や民間企業等における学び直しの機会の充実」(36.7%)であった。(図IX-15参照)

図 IX-15 生涯にわたる自分づくりの実践(一般県民 n=1, 233)



IX-7 生涯を通じた教育・「人づくり」の実践

一般県民に対して、「生涯を通じた教育・『人づくり』」について聞いたところ、自分自身が取り組んでいることとして回答の割合が高かった項目は、「家庭における育児・子育て等の取組み」、「学校における子どもや成人に対する取組み」、「市町村行政における子どもや成人に対する取組み」であり、『今後期待する教育・「人づくり」の場』として回答の割合が高かった項目は「学校」、「家庭」、「地域」であった。

一般県民に対して、「自らが取り組んでいることの中で教育・『人づくり』だと思うことは何か」について聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、「家庭における育児・子育て等の取組み」(81.5%)、「学校における子どもや成人に対する取組み」(56.0%)、「市町村行政における子どもや成人に対する取組み」(36.0%)であった。

また、『今後期待する教育・「人づくり」の場』について一般県民に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、「学校」(83.4%)、「家庭」(80.1%)、「地域」(34.2%)であった。

(図IX-16, 17 参照)

図 IX-16 あなたが、取り組んでいることの中で、教育・「人づくり」だと思うものはどのようなことか(一般県民 n=1, 233)

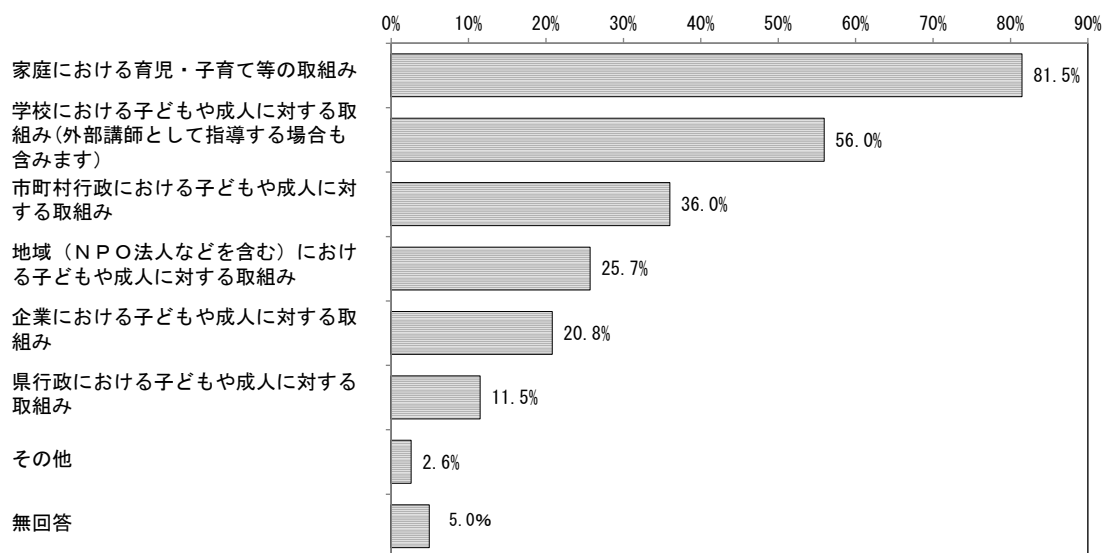
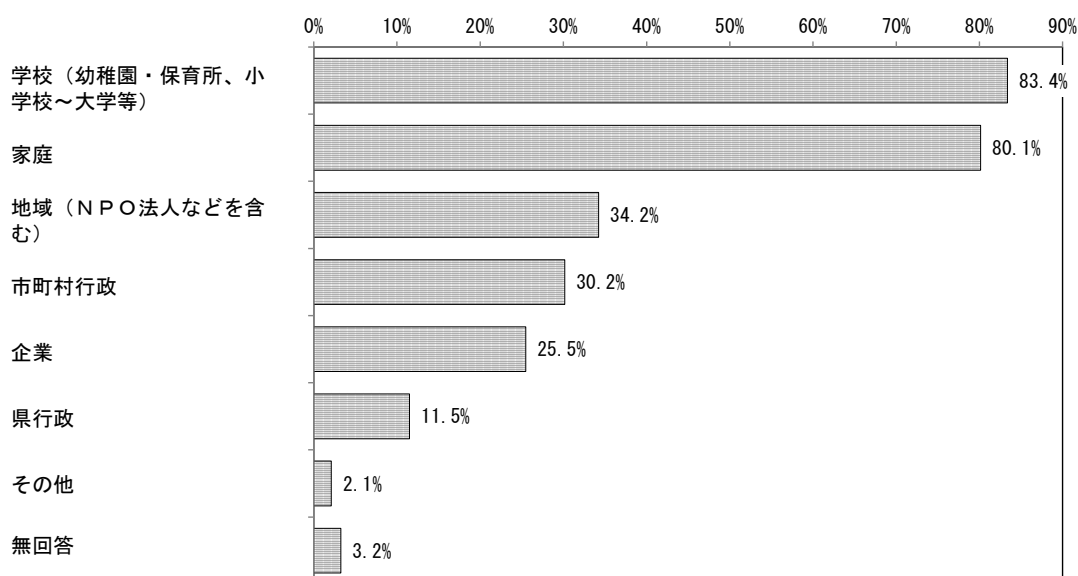


図 IX-17 あなたが今後期待する教育・「人づくり」の場は何か(一般県民 n=1, 233)



調査結果 2

I 属性別集計

I-1 男性女性別集計（児童・生徒）

表 I-1 児童・生徒の男性女性別回答者数（人）

	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 児童・生徒
男性	637	659	779	78
女性	612	626	866	44
無回答	5	31	39	2
合計	1,254	1,316	1,684	124

I-1-1 「自分自身について」

『自分自身について』について児童・生徒に聞いた回答の結果を性別で比較したところ、回答の割合が高かった項目は、小学生では、男子の回答は「仲の良い友だちがいる」(92.0%)、「外で運動したり遊んだりするのが好きだ」(81.3%)、「家族のことを理かいしている」(75.5%)であり、女子の回答は「仲の良い友だちがいる」(94.0%)、「みんなの役に立ちたい」(81.2%)、「家族のことを理かいしている」(79.1%)であった。

中学生では、男子の回答は「仲の良い友だちがいる」(86.2%)、「外で運動したり遊んだりするのが好きだ」(73.4%)、「社会のルールやマナーを守っている」(61.6%)であり、女子の回答は「仲の良い友だちがいる」(90.3%)、「みんなの役に立ちたい」(71.6%)、「社会のルールやマナーを守っている」(63.6%)であった。

高校生では、男子の回答は「仲の良い友だちがいる」(82.8%)、「社会のルールやマナーを守っている」(67.7%)、「外で運動したり遊んだりするのが好きだ」(65.3%)であり、女子の回答は「仲の良い友だちがいる」(86.7%)、「社会のルールやマナーを守っている」(68.2%)、「社会の役に立ちたい」(60.0%)であった。

特別支援学校児童・生徒では、男子の回答は「決まった時間に食事をしている」(79.5%)、「学校が好き」(78.2%)、「いろいろなことを知りたいという気持ちをもっている」(75.6%)であり、女子の回答は「学校が好き」(79.5%)、「決まった時間に食事をしている」(77.3%)、「いろいろなことを知りたいという気持ちをもっている」(72.7%)であった。(図 I-1～65 参照)

【小学生】

図 I-1 明るく元気だ

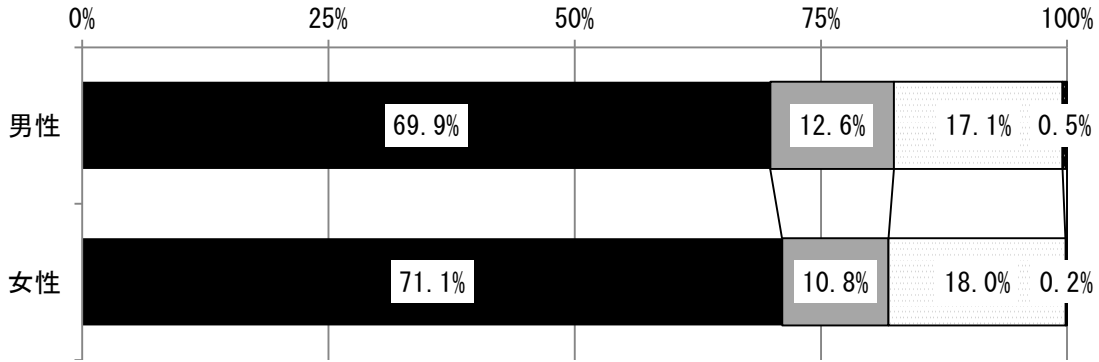


図 I-2 自分らしさをもっている

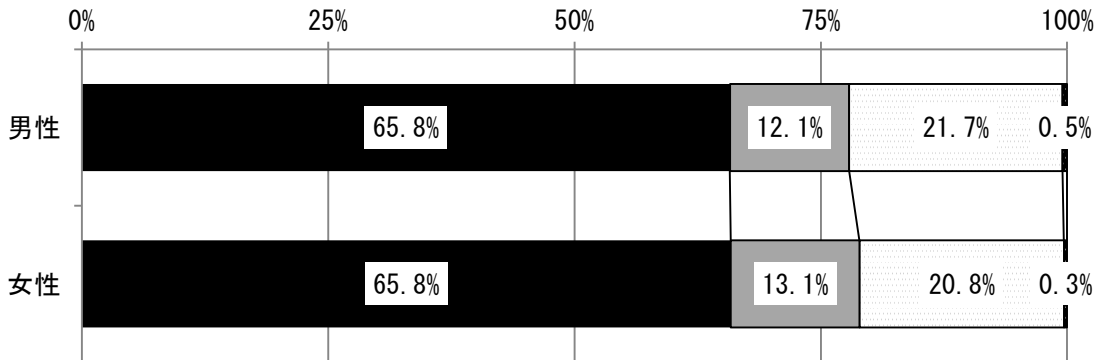


図 I-3 やさしさや思いやりがある

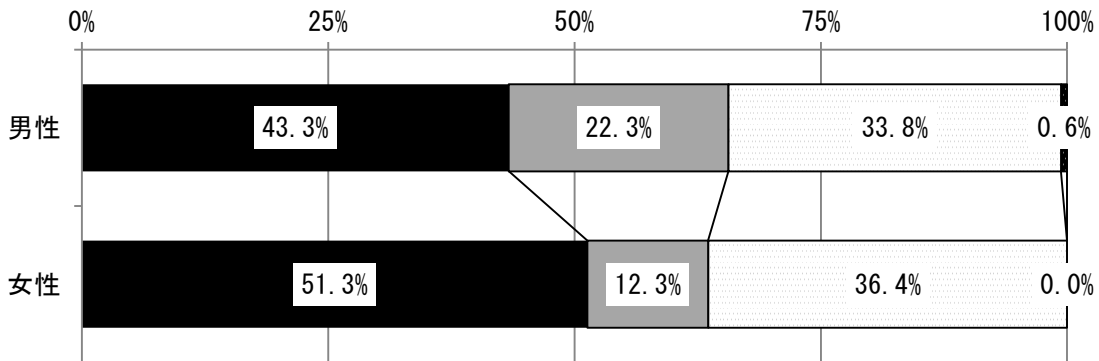
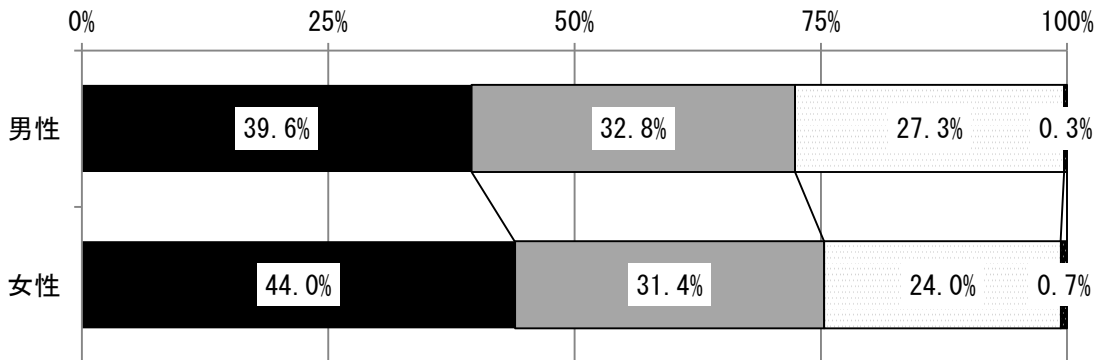


図 I-4 何事に対してもやる気がある



そう思う
 そうではないと思う
 わからない
 無回答

図 I-5 自分の気持ちをコントロールできる

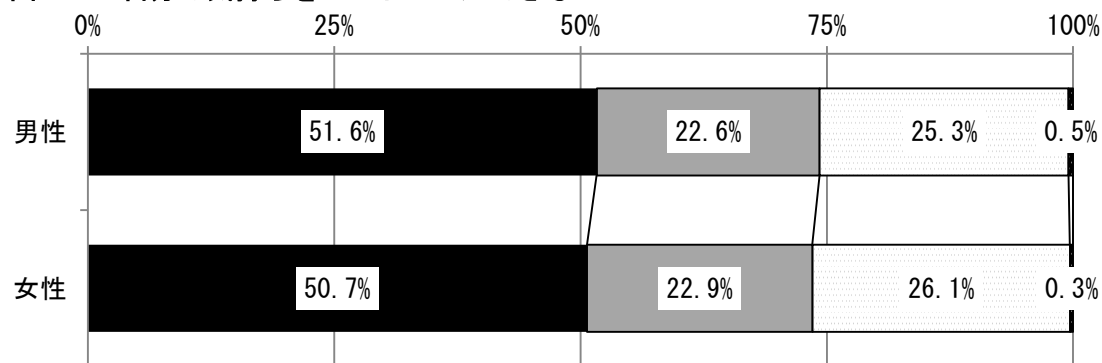


図 I-6 ねばり強く、最後までやりとげる

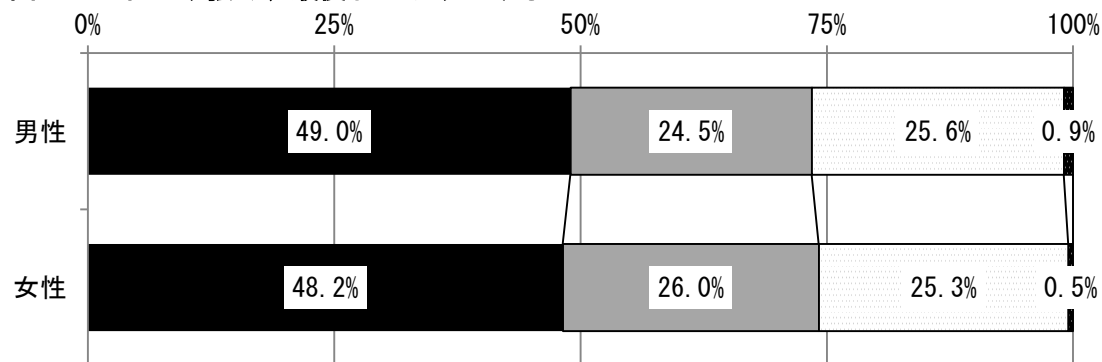


図 I-7 自分の気持ちを相手にうまく伝えられる

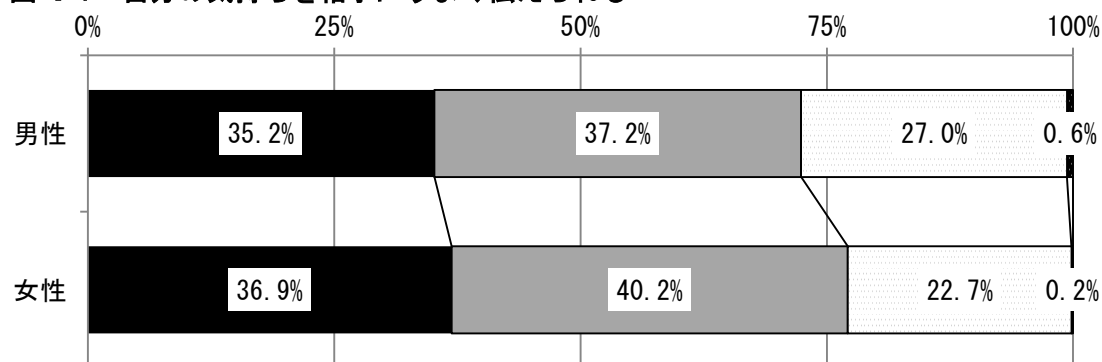
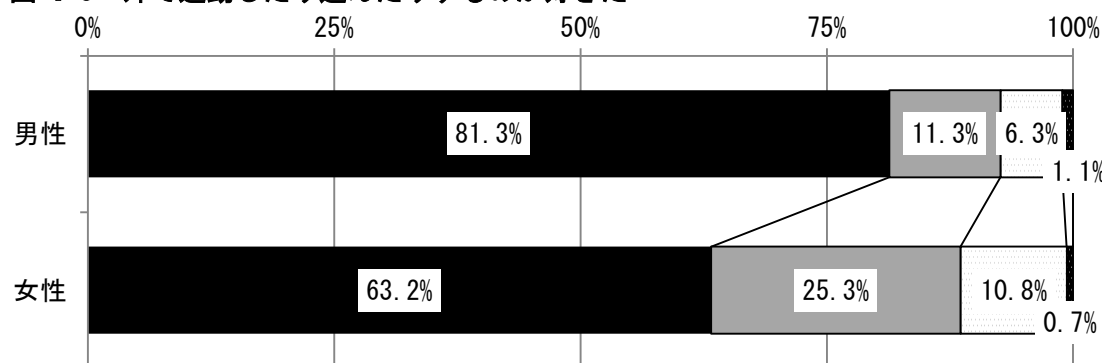


図 I-8 外で運動したり遊んだりするのが好きだ



そう思う
 そうではないと思う
 わからない
 無回答

図 I-9 自分の力でものごとを決められる

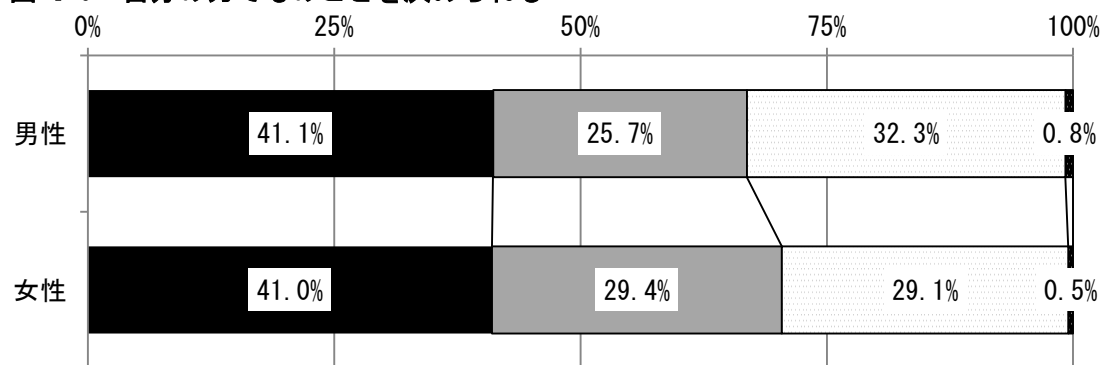


図 I-10 みんなの役に立ちたい

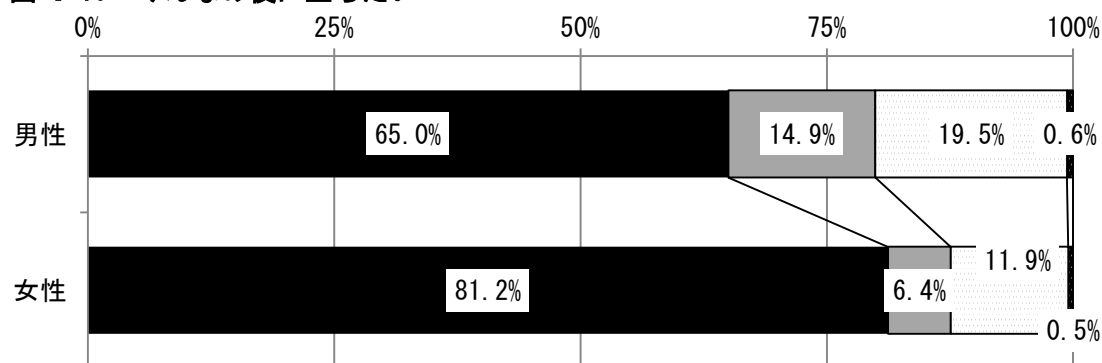
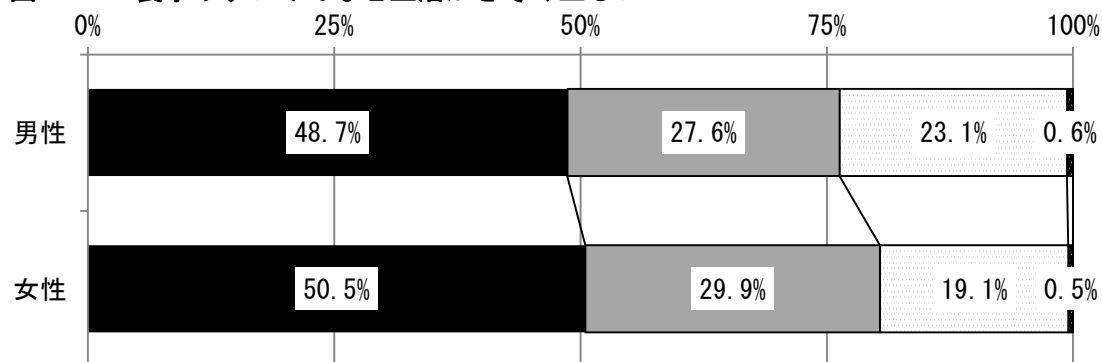


図 I-11 社会のきまりや約束したことを守っている



図 I-12 食事やすいみんななど生活がきそく正しい



そう思う
 そうではないと思う
 わからない
 無回答

図 I-13 仲の良い友だちがいる

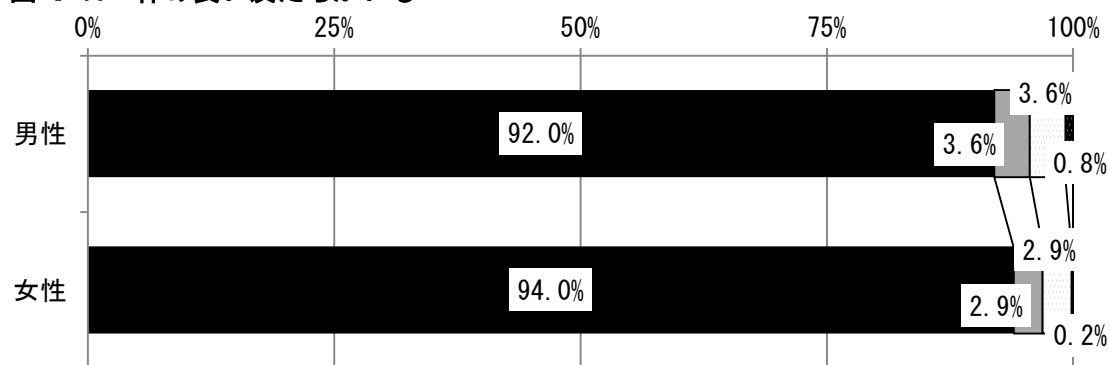


図 I-14 だれとでもすぐ仲良くなれる

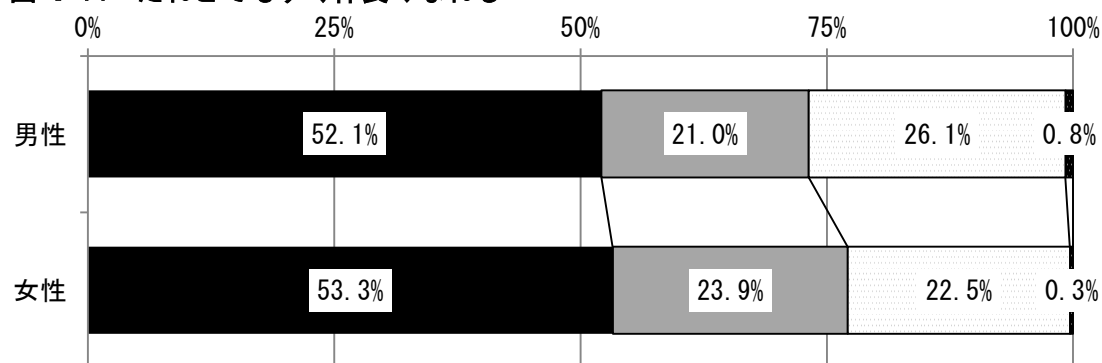


図 I-15 自分で考え、何かをつくり上げるのが得意だ

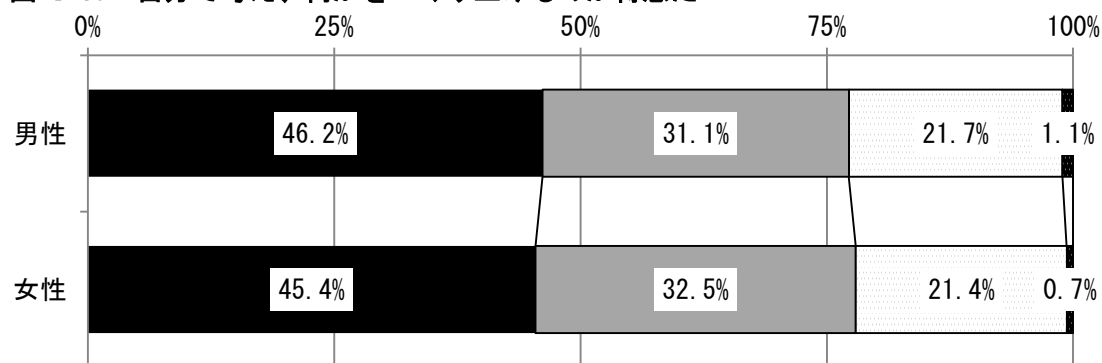
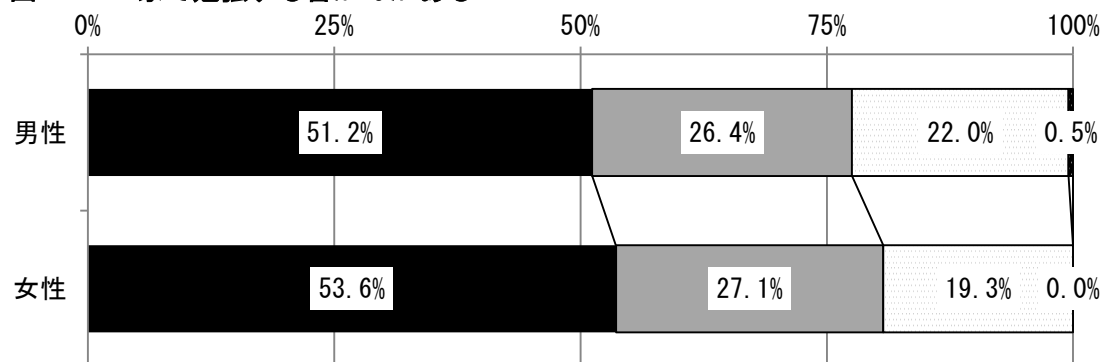


図 I-16 家で勉強する習慣がある



そう思う
 そうではないと思う
 わからない
 無回答

図 I-17 じゅ業の内ようが理かいできる

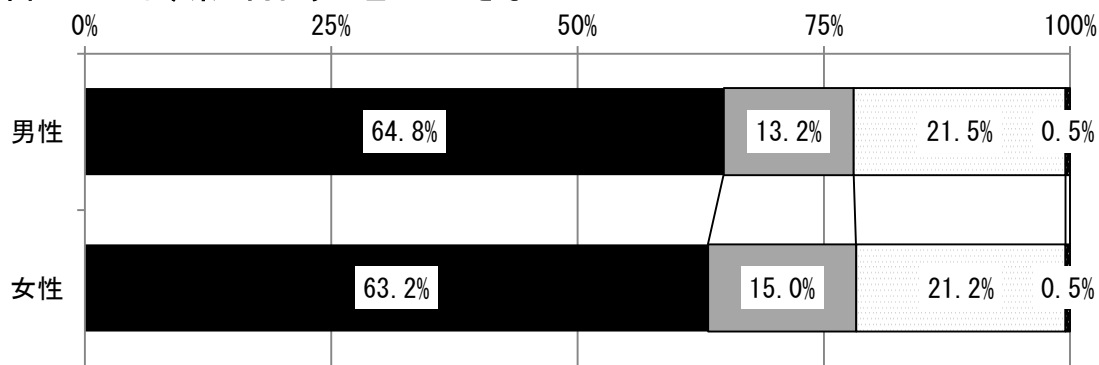


図 I-18 家族のことを理かいている

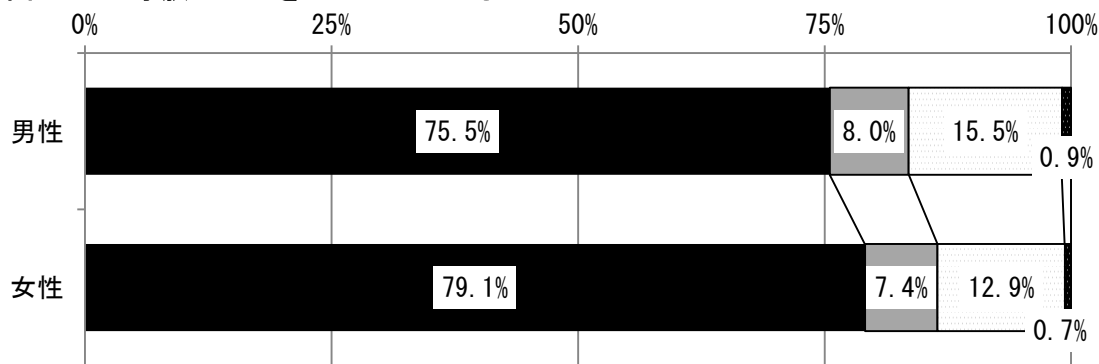
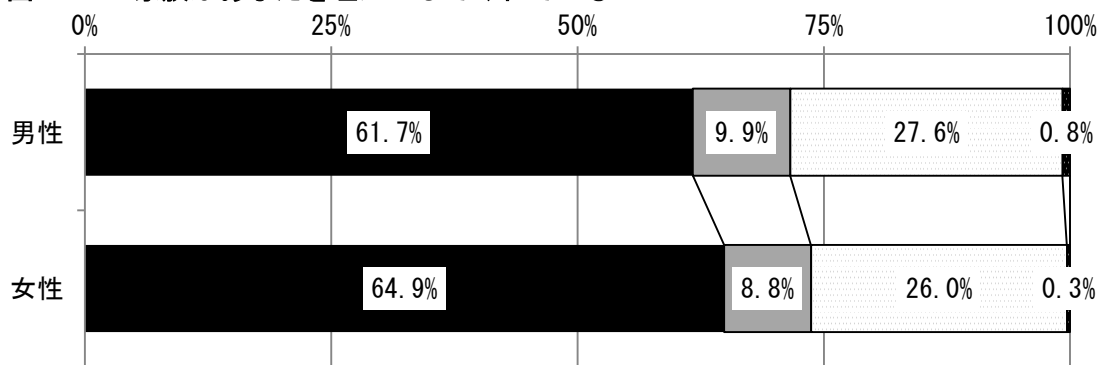


図 I-19 家族はあなたを理かいてくれている



そう思う
 そうではないと思う
 わからない
 無回答

【中学生】

図 I-20 明るく元気だ

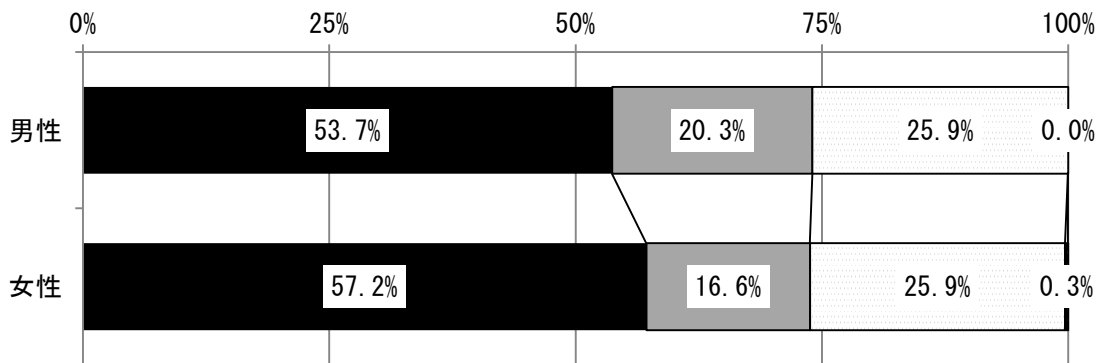


図 I-21 自分らしさをもっている

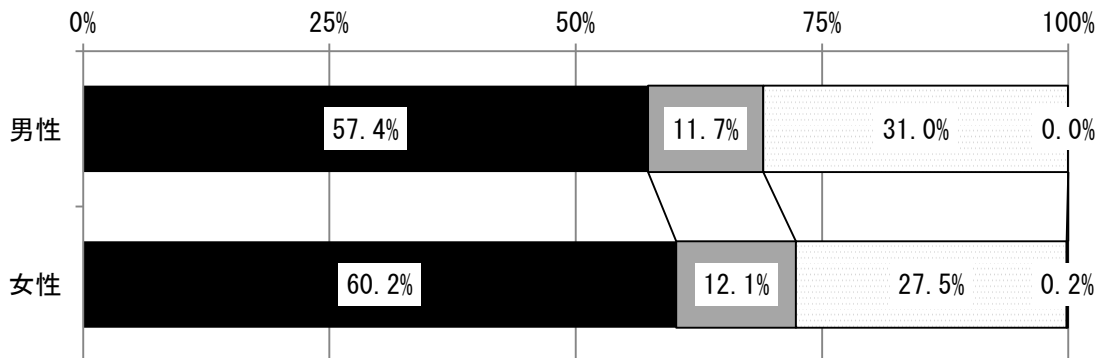


図 I-22 やさしさや思いやりがある

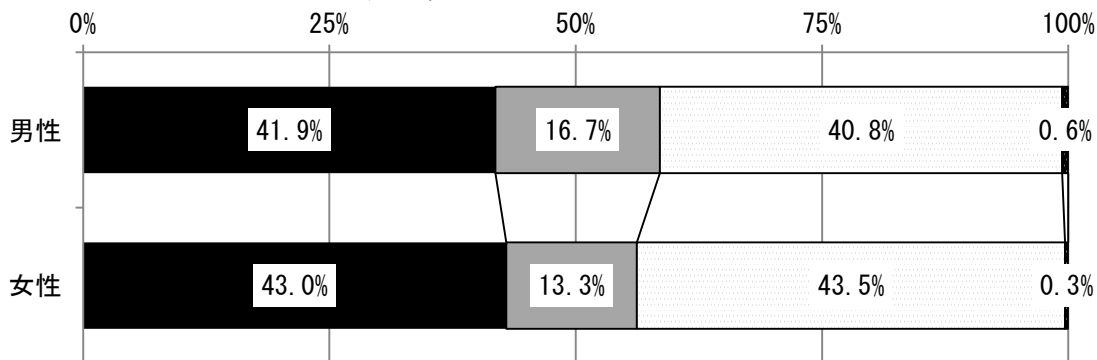
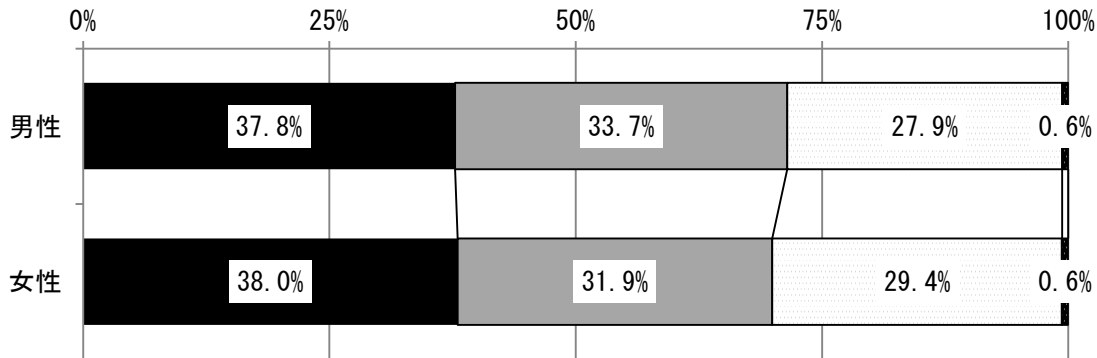


図 I-23 何事にも前向きに取り組む



そう思う
 そうではないと思う
 わからない
 無回答

図 I-24 自分の気持ちをコントロールできる

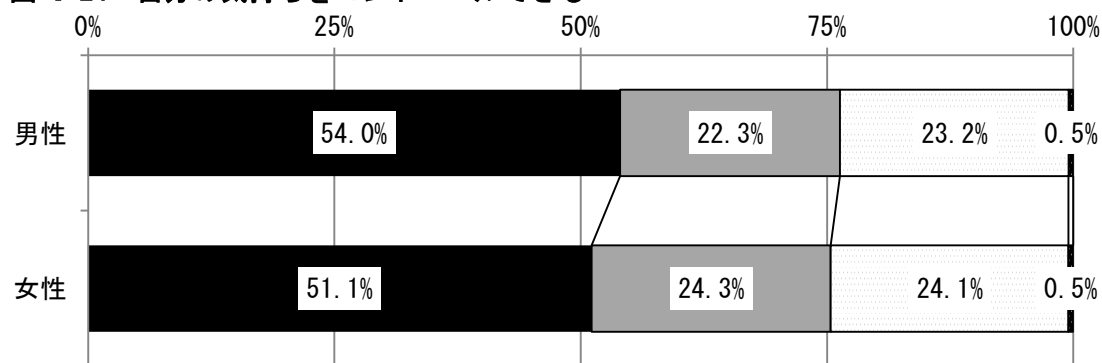


図 I-25 ねばり強く、最後までやりとげる

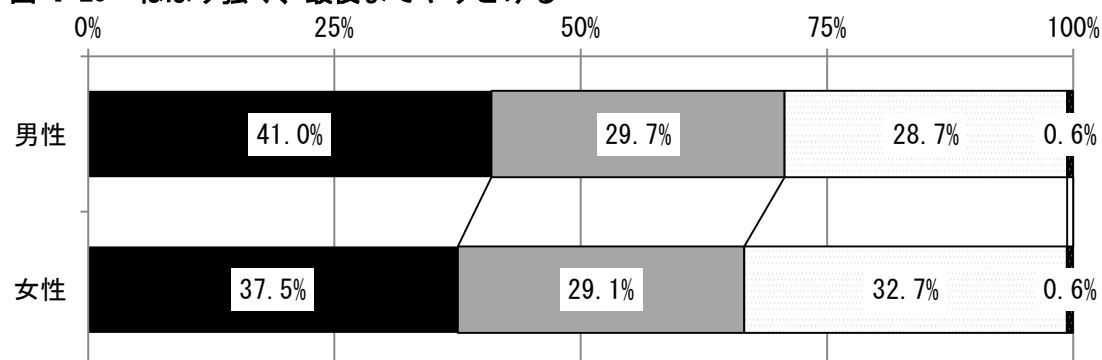


図 I-26 自分の気持ちを相手にうまく伝えられる

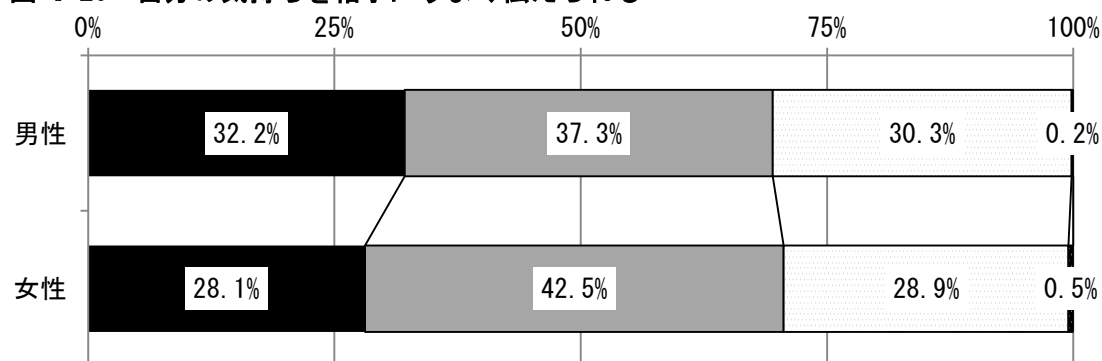
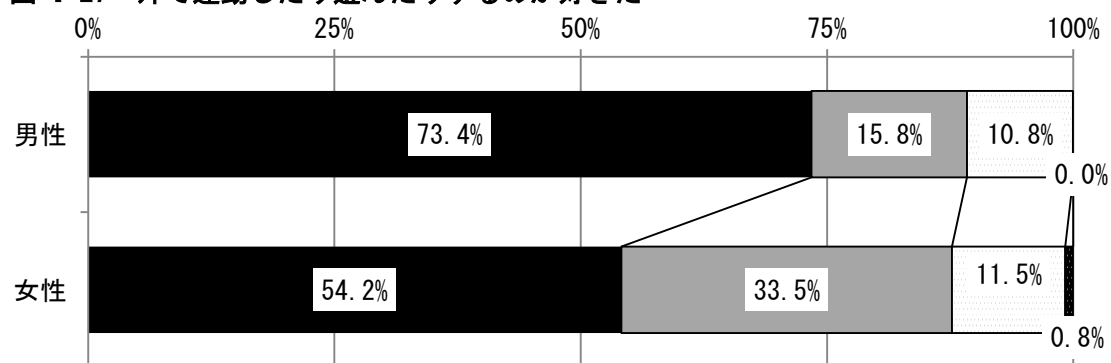


図 I-27 外で運動したり遊んだりするのが好きだ



そう思う
 そうではないと思う
 わからない
 無回答

図 I-28 自分の力でものごとを決められる

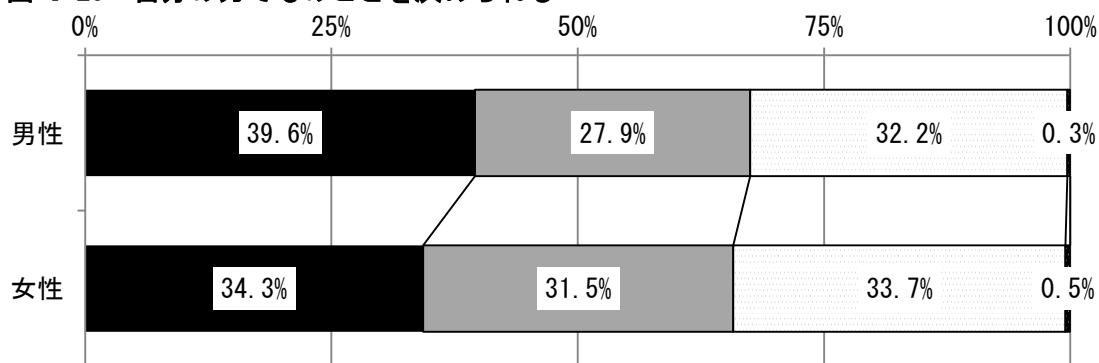


図 I-29 みんなの役に立ちたい

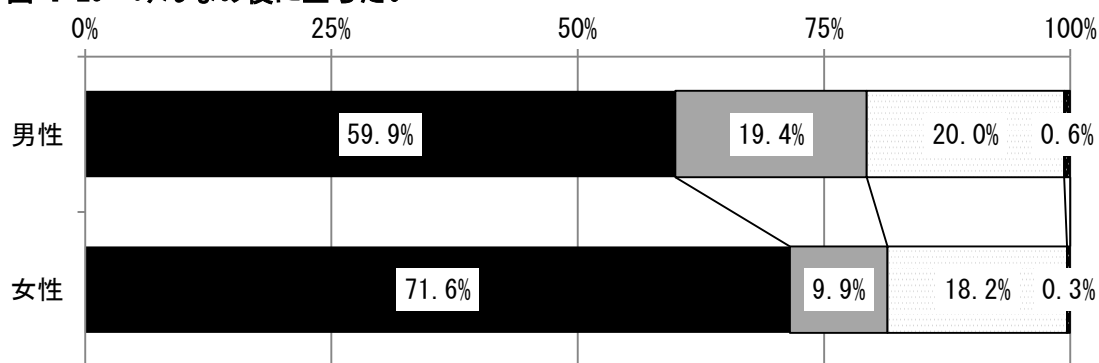


図 I-30 社会のルールやマナーを守っている

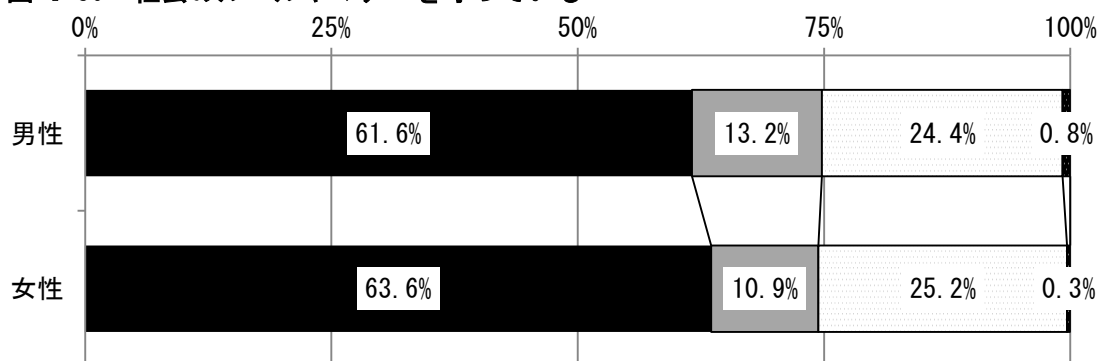
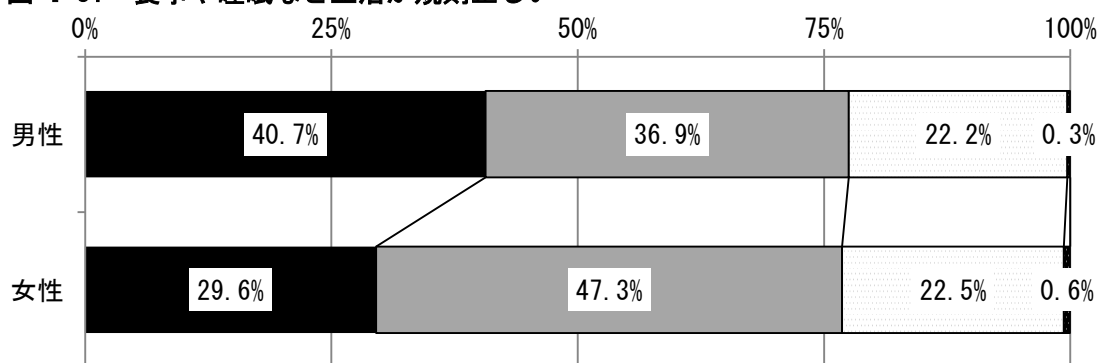


図 I-31 食事や睡眠など生活が規則正しい



そう思う
 そうではないと思う
 わからない
 無回答

図 I-32 仲の良い友だちがいる

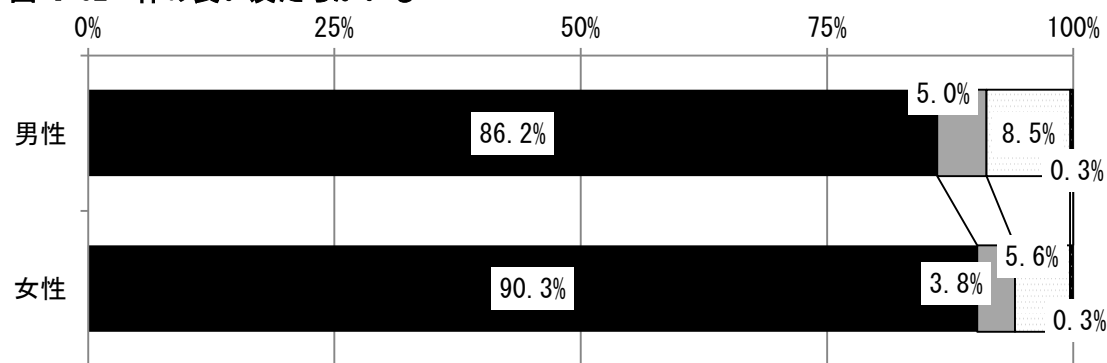


図 I-33 だれとでもすぐ仲良くなれる

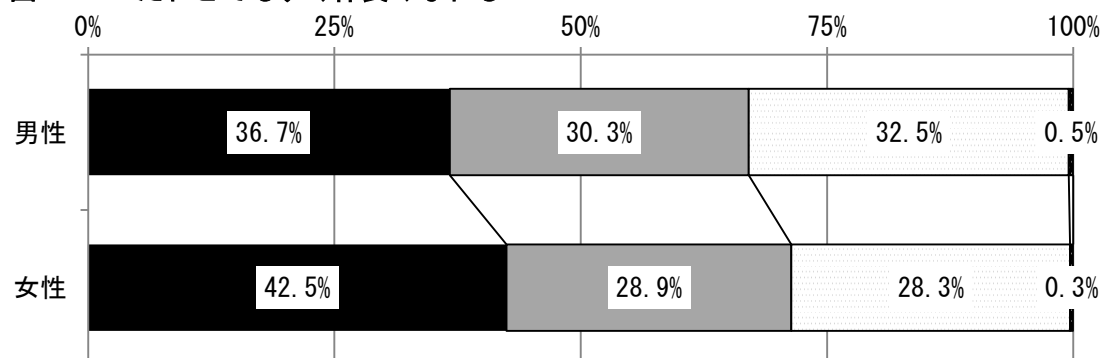


図 I-34 自分で考え、何かをつくり上げるのが得意だ

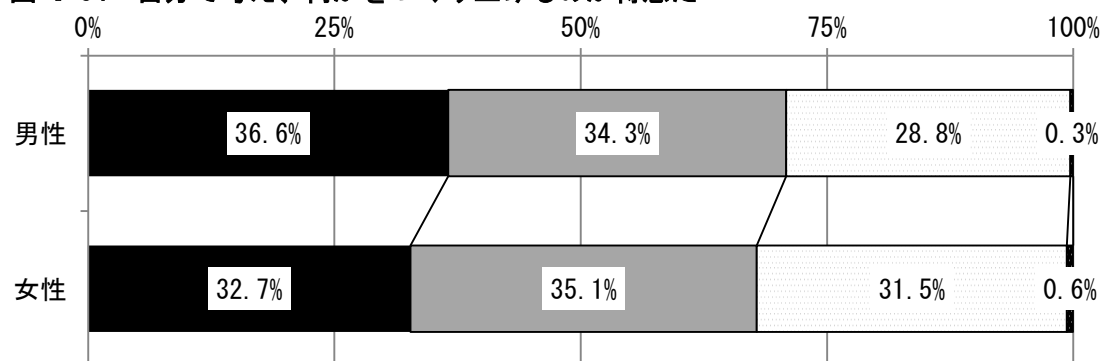
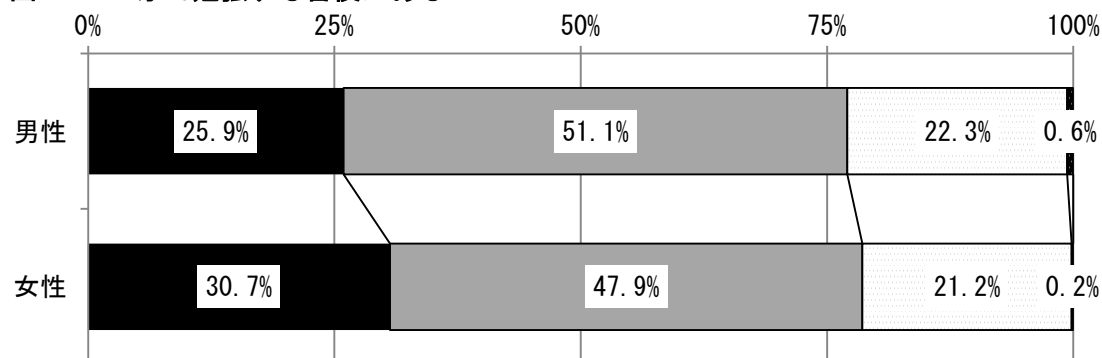


図 I-35 家で勉強する習慣がある



そう思う
 そうではないと思う
 わからない
 無回答

図 I-36 授業の内容が理解できる

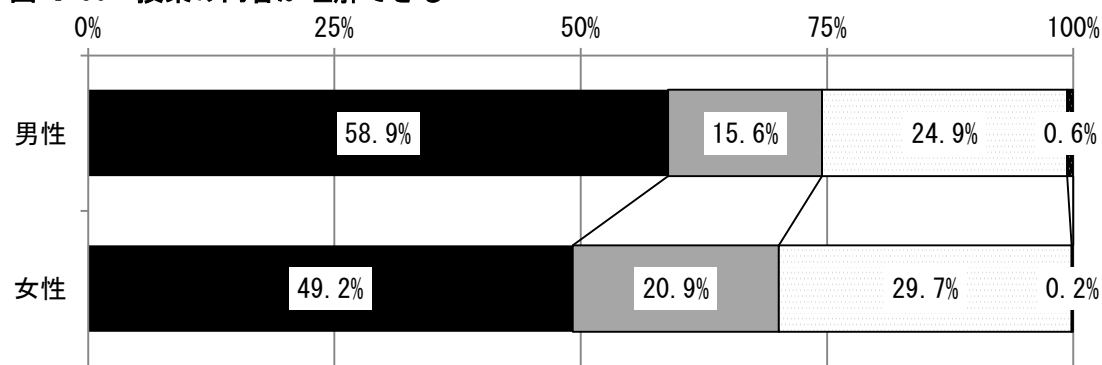


図 I-37 家族のことを理解している

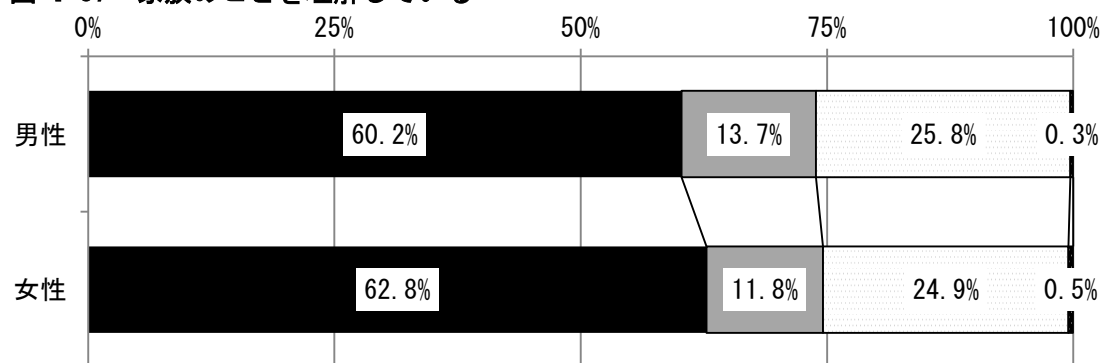
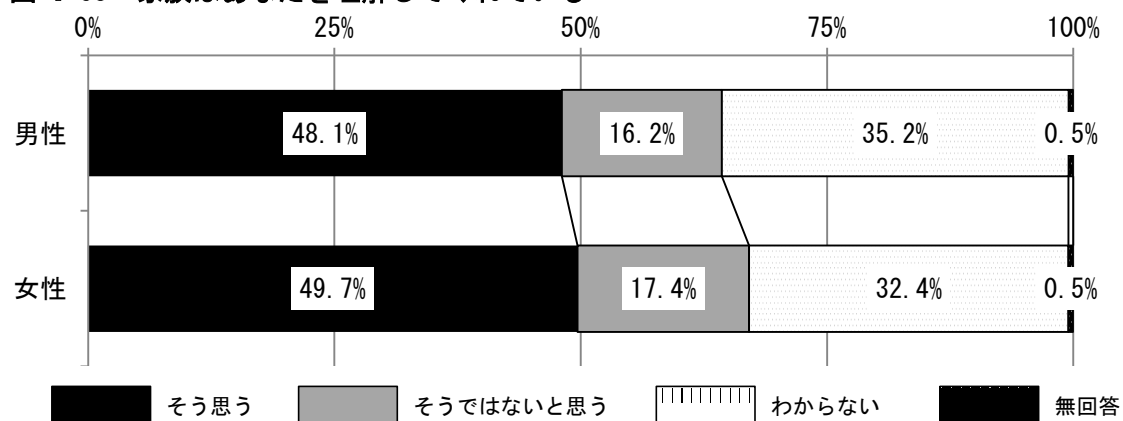


図 I-38 家族はあなたを理解してくれている



【高校生】

図 I-39 明るく元気だ

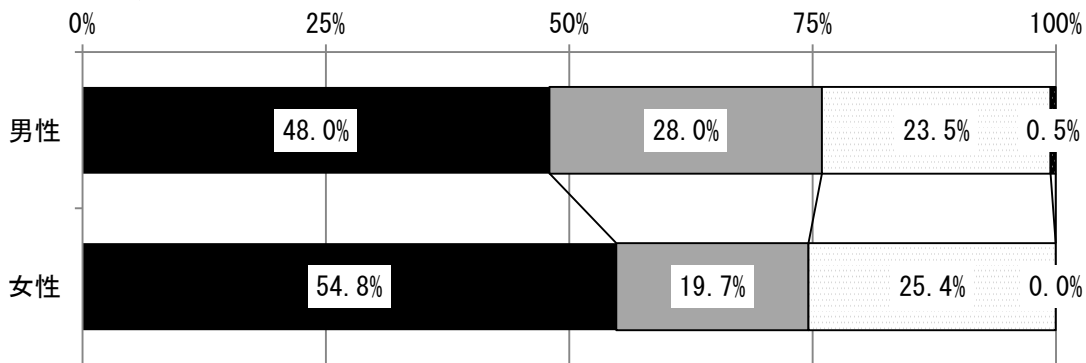


図 I-40 自分らしさをもっている

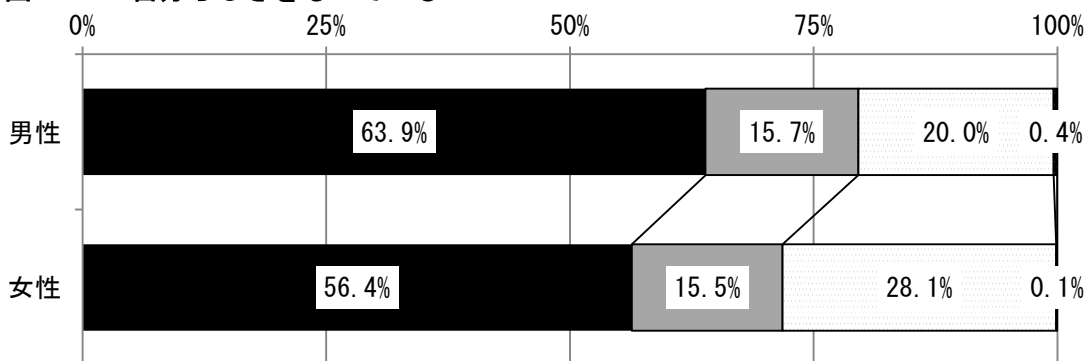


図 I-41 やさしさや思いやりがある

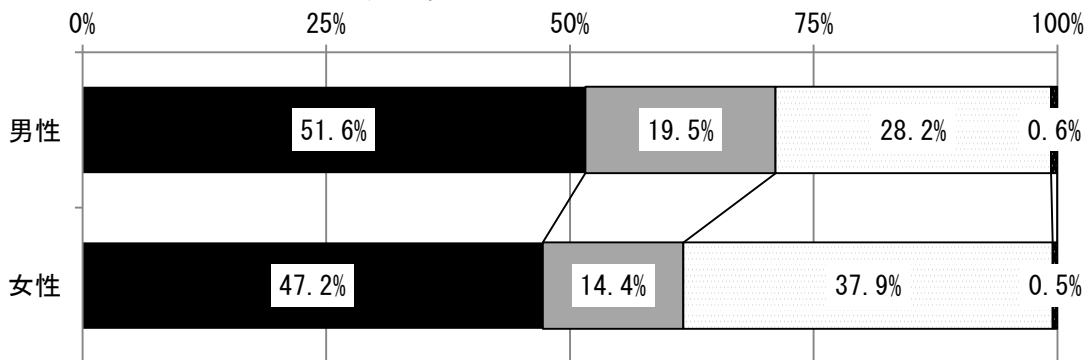
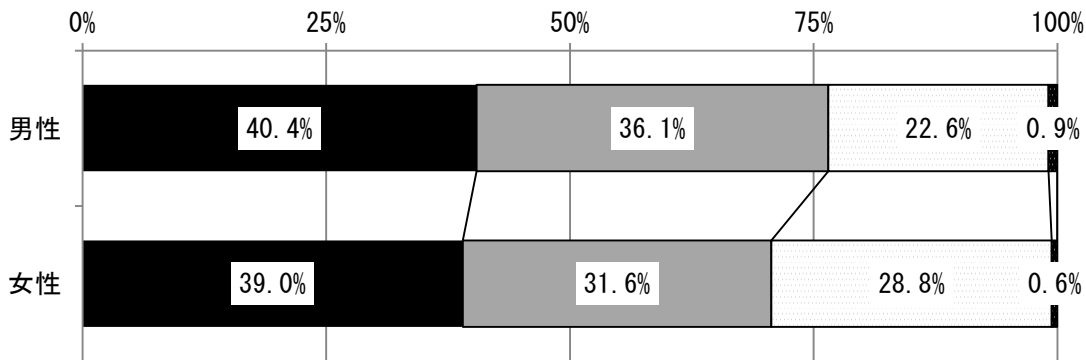


図 I-42 何事にも前向きに取り組む



そう思う
 そうではないと思う
 わからない
 無回答

図 I-43 自分の気持ちをコントロールできる

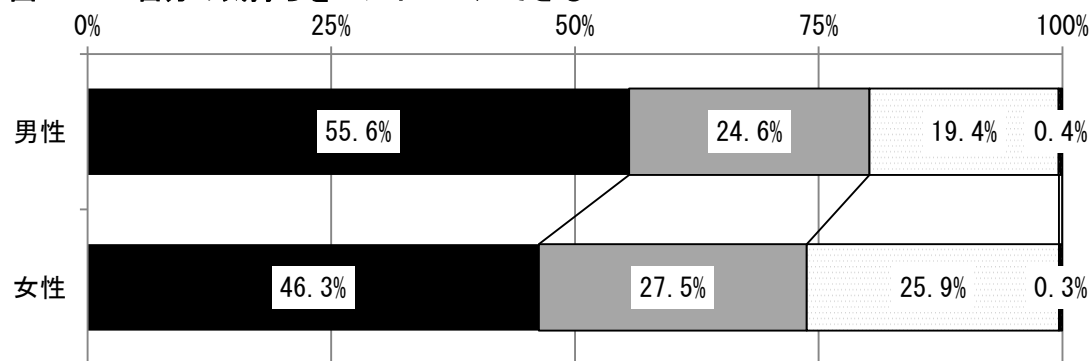


図 I-44 ねばり強く、最後までやりとげる

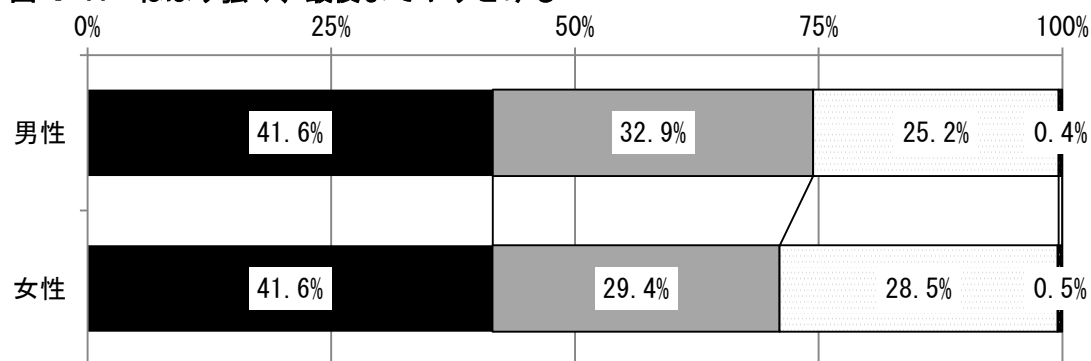


図 I-45 自分の気持ちを相手にうまく伝えられる

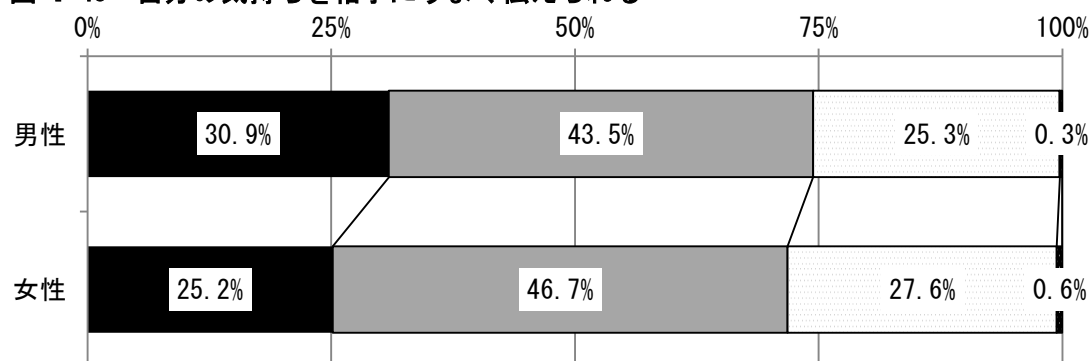


図 I-46 外で運動したり遊んだりするのが好きだ

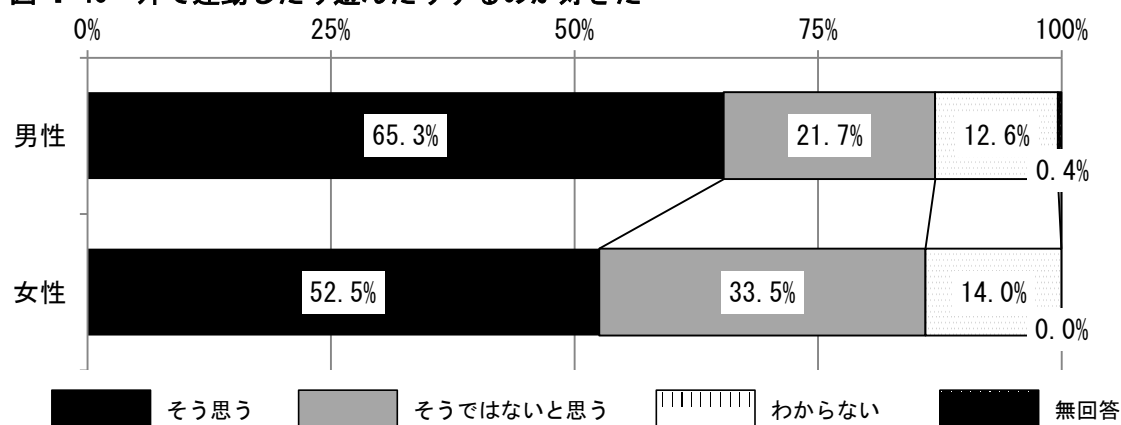


図 I-47 自分の力でものごとを決められる

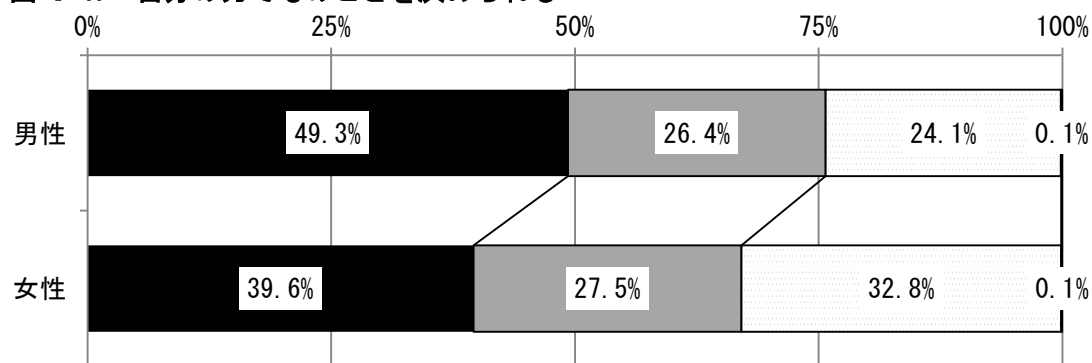


図 I-48 社会の役に立ちたい

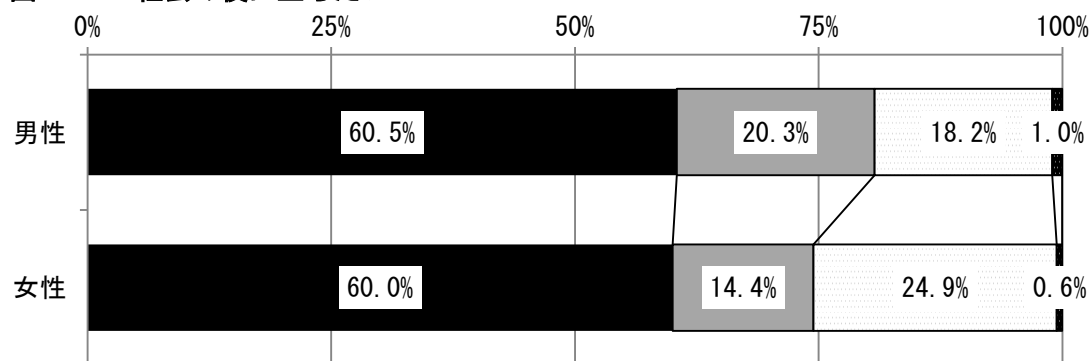


図 I-49 社会のルールやマナーを守っている

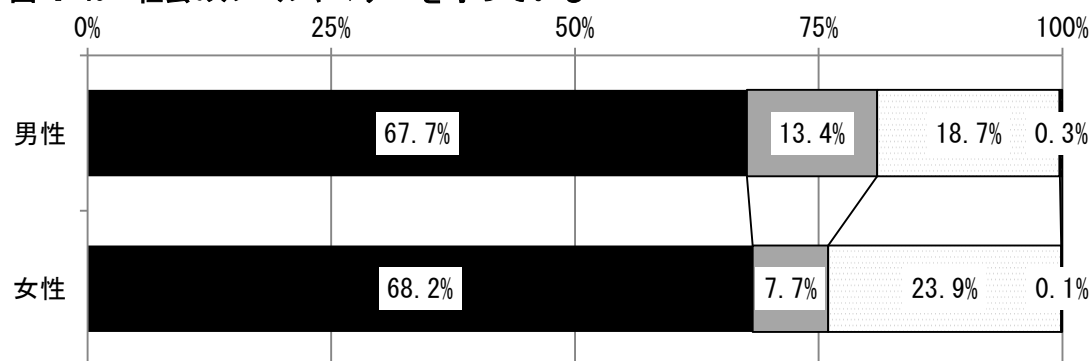
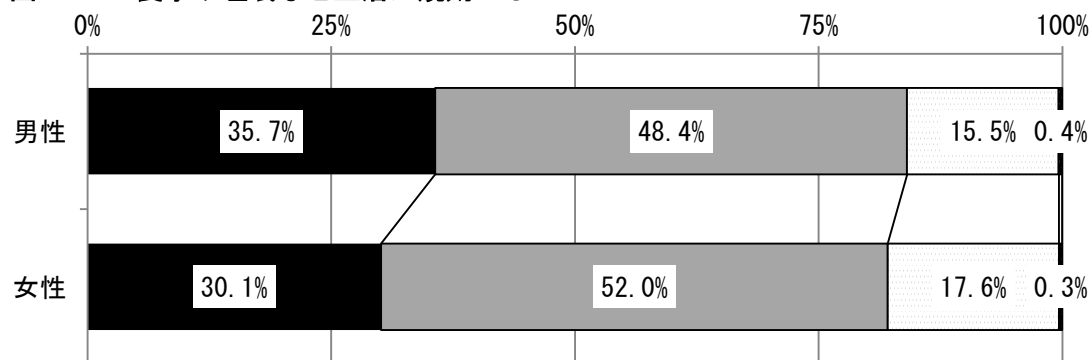


図 I-50 食事や睡眠など生活が規則正しい



そう思う
 そうではないと思う
 わからない
 無回答

図 I-51 仲の良い友だちがいる

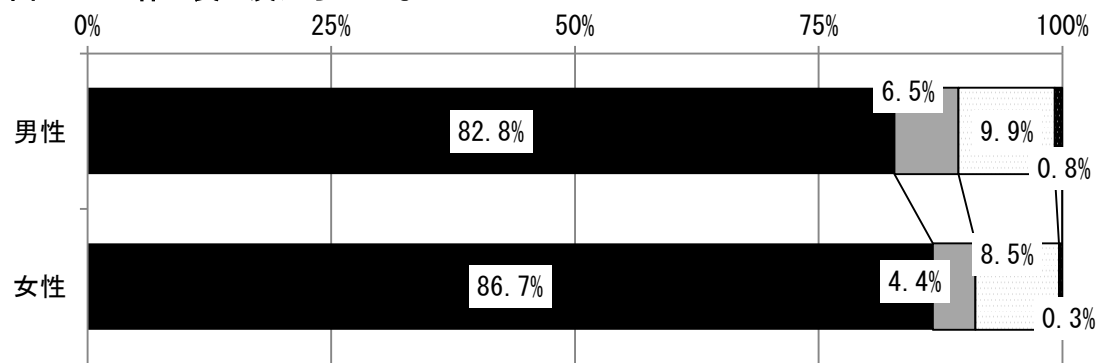


図 I-52 誰とでもすぐ仲良くなれる

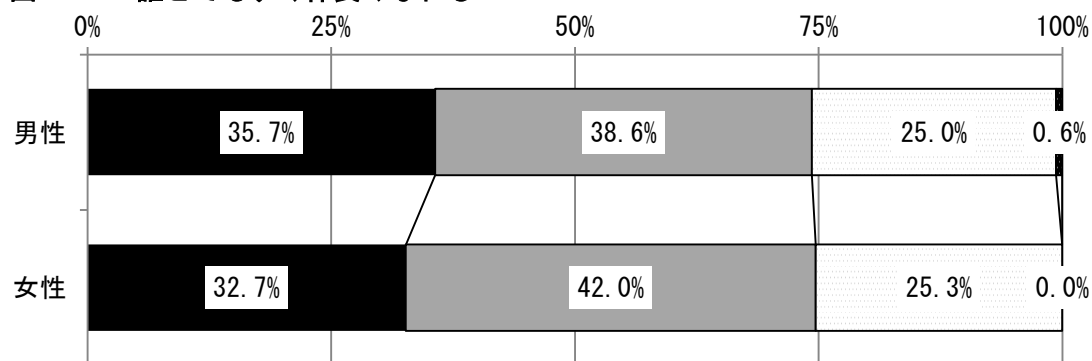


図 I-53 自分で考え、何かをつくり上げるのが得意だ

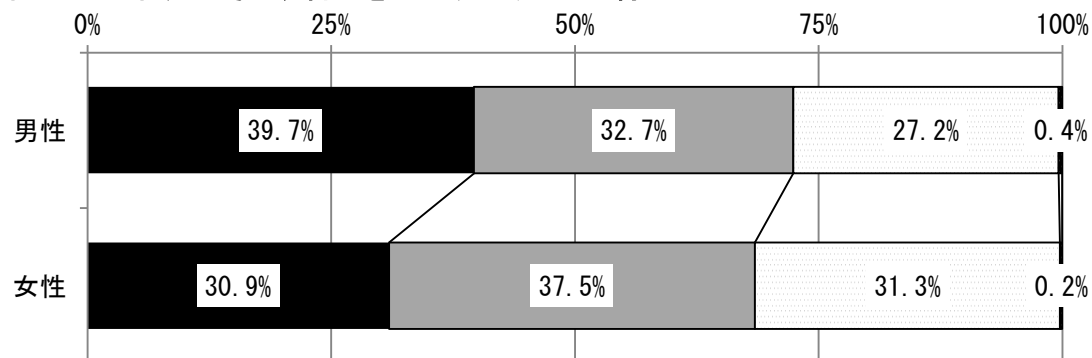
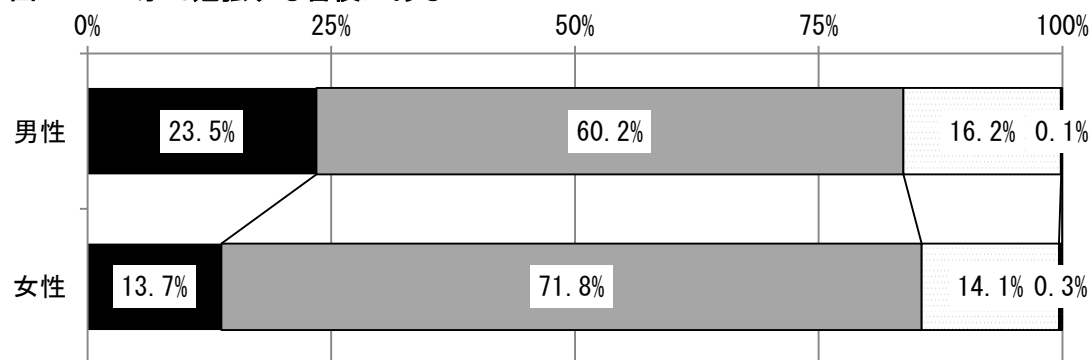


図 I-54 家で勉強する習慣がある



そう思う
 そうではないと思う
 わからない
 無回答

図 I-55 授業の内容が理解できる

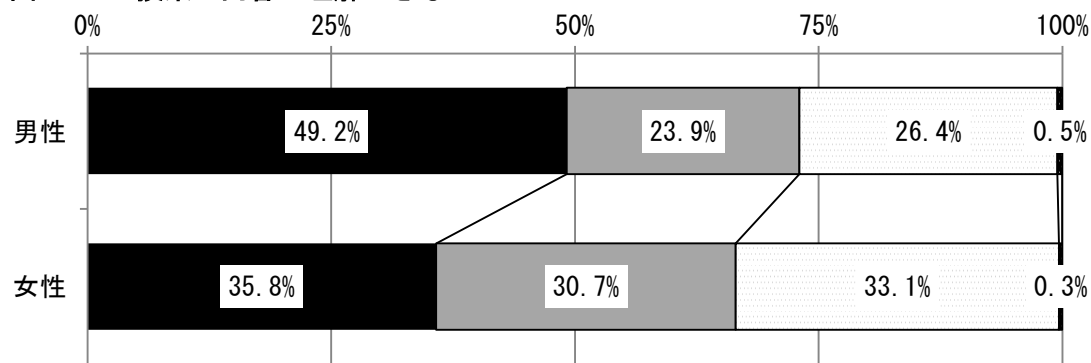


図 I-56 家族のことを理解している

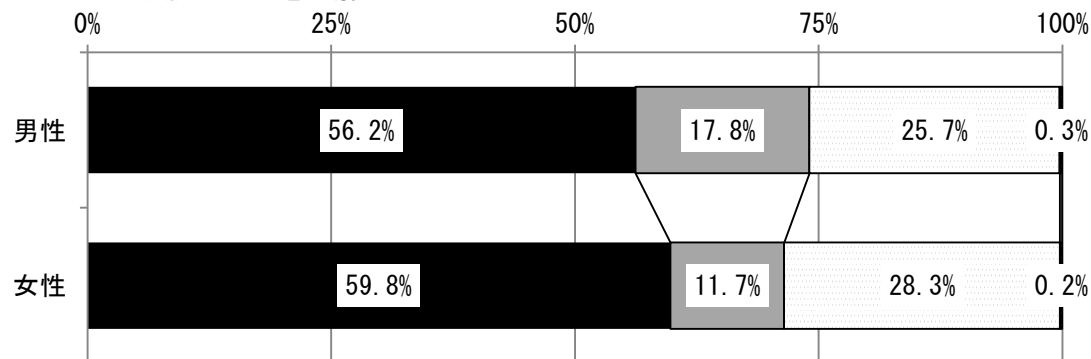
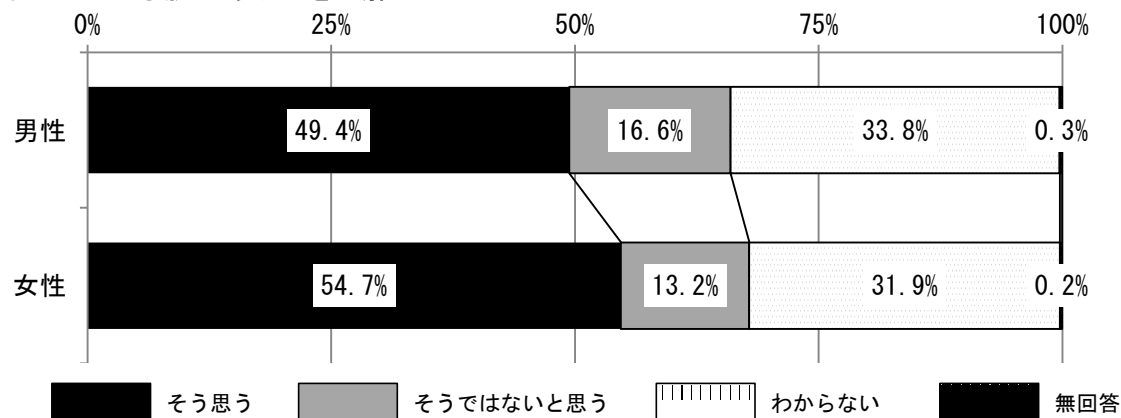


図 I-57 家族はあなたを理解してくれている



【特別支援学校児童・生徒】

図 I-58 学校が好きですか



図 I-59 いろいろなことを知りたいという気持ちがありますか

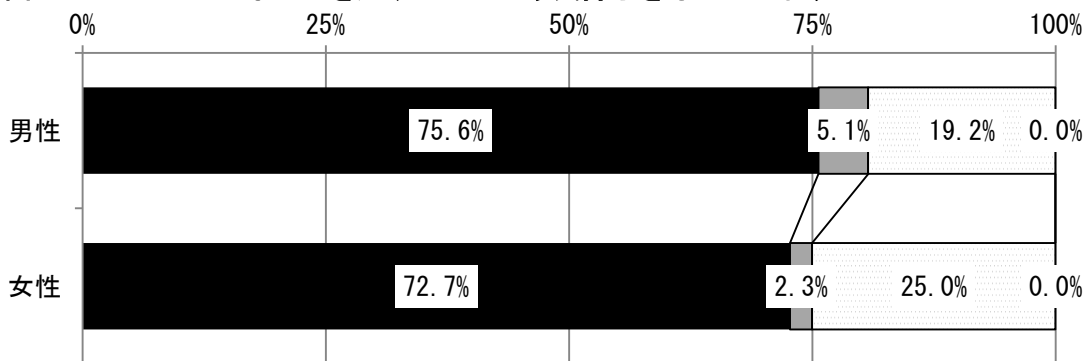


図 I-60 やり始めたことは最後までがんばりますか

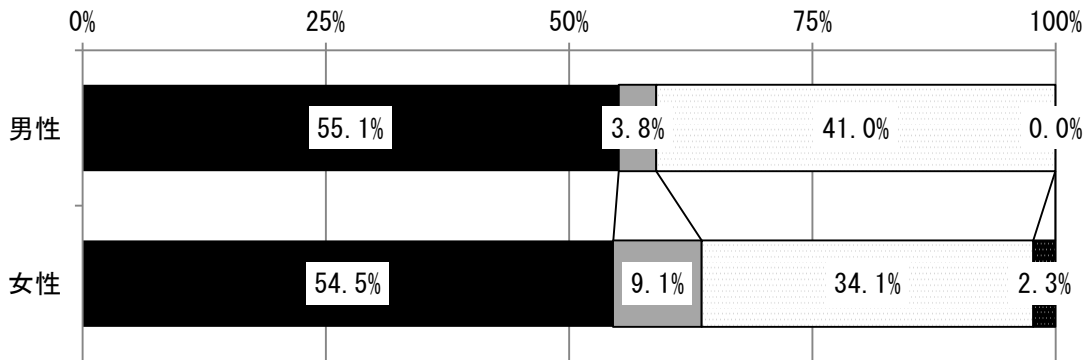
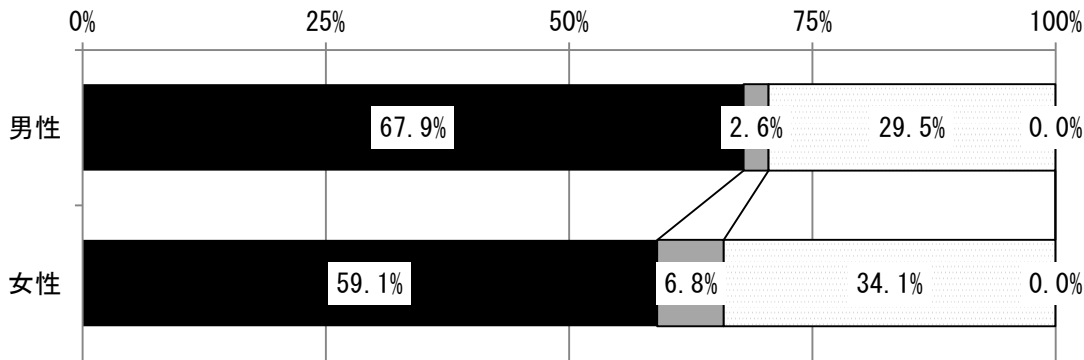


図 I-61 やさしい性格ですか



はい
 いいえ
 どちらともいえない
 無回答

図 I-62 人の役に立ちたいと思いますか

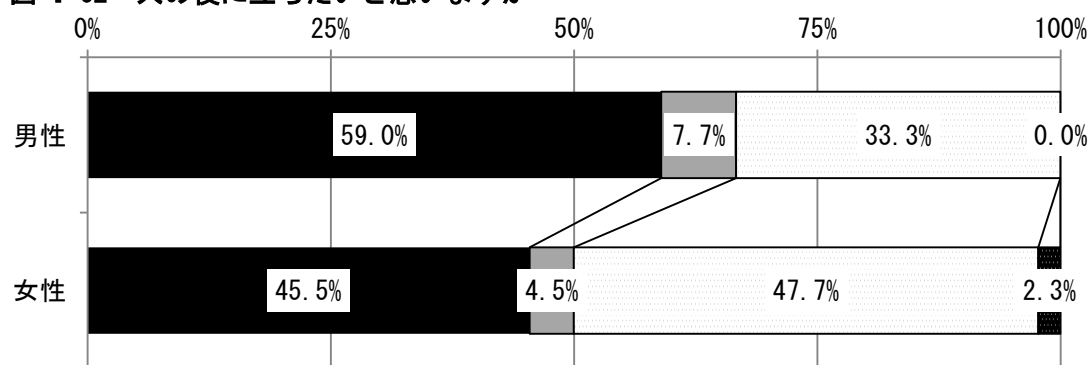


図 I-63 自分の気持ちを相手にうまく伝えられますか

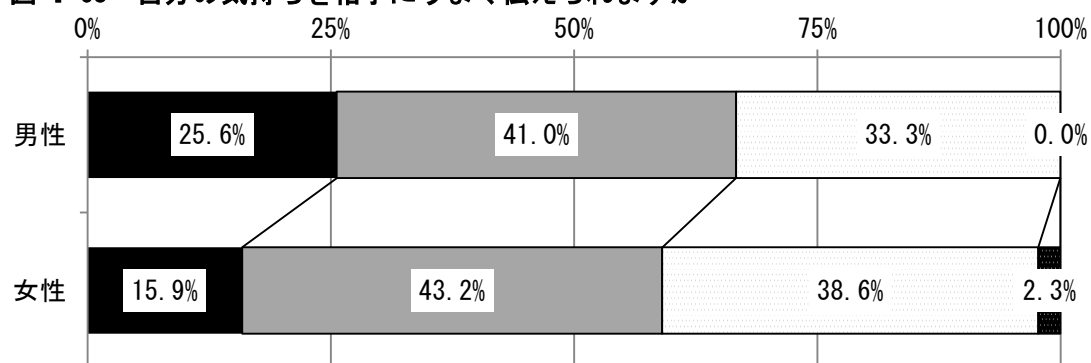


図 I-64 仲の良い友だちがいますか

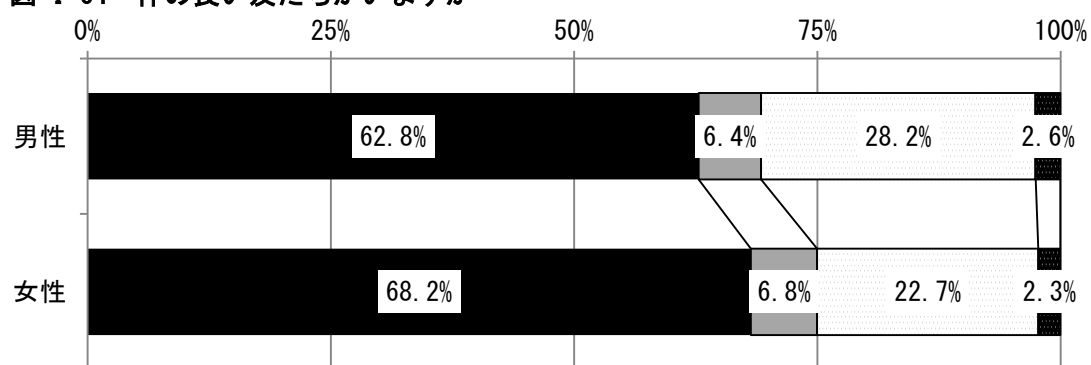
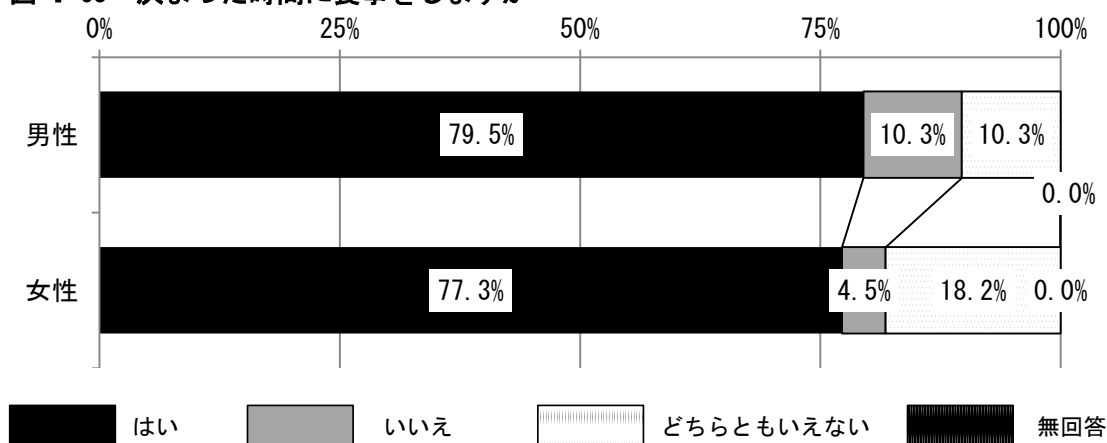


図 I-65 決まった時間に食事をしますか



はい
 いいえ
 どちらともいえない
 無回答

I-1-2 「夢中になれるとき」

小中高生に『夢中になれるとき』、特別支援学校児童・生徒に『楽しいと感じるとき』を聞いた回答の結果を性別で比較したところ、回答の割合が高かった項目は、小学生では、男子の回答は「友だちと遊んだり、話したりしているとき」(60.0%)、「スポーツをしているとき」(58.2%)、「しゅ味など自分の好きなことをしているとき」(54.5%)であり、女子の回答は「友だちと遊んだり、話したりしているとき」(69.4%)、「しゅ味など自分の好きなことをしているとき」(66.7%)、「面白いじゅ業を受けているとき」(33.7%)であった。

中学生では、男子の回答は「友だちと遊んだり、話したりしているとき」(67.2%)、「しゅ味など自分の好きなことをしているとき」(63.9%)、「スポーツをしているとき」(56.9%)であり、女子の回答は「趣味など自分の好きなことをしているとき」(77.2%)、「友だちと遊んだり、話したりしているとき」(76.8%)、「スポーツをしているとき」(30.4%)であった。

高校生では、男子の回答は「趣味など自分の好きなことをしているとき」(66.5%)、「友だちと遊んだり、話したりしているとき」(65.0%)、「スポーツをしているとき」(49.7%)であり、女子の回答は「趣味など自分の好きなことをしているとき」(79.4%)、「友だちと遊んだり、話したりしているとき」(75.8%)、「学校の仲間と行事に取り組んでいるとき」(30.3%)であった。

特別支援学校児童・生徒では、男子の回答は「自分の好きなことをしているとき」(75.6%)、「友だちといっしょにいるとき」(52.6%)、「ゲームをしているとき」(37.2%)であり、女子の回答は「自分の好きなことをしているとき」(75.0%)、「友だちといっしょにいるとき」(54.5%)、「好きな先生の授業を受けているとき」(43.2%)であった。(図 I-66～69 参照)

図 I-66 夢中になれるとき(小学生)

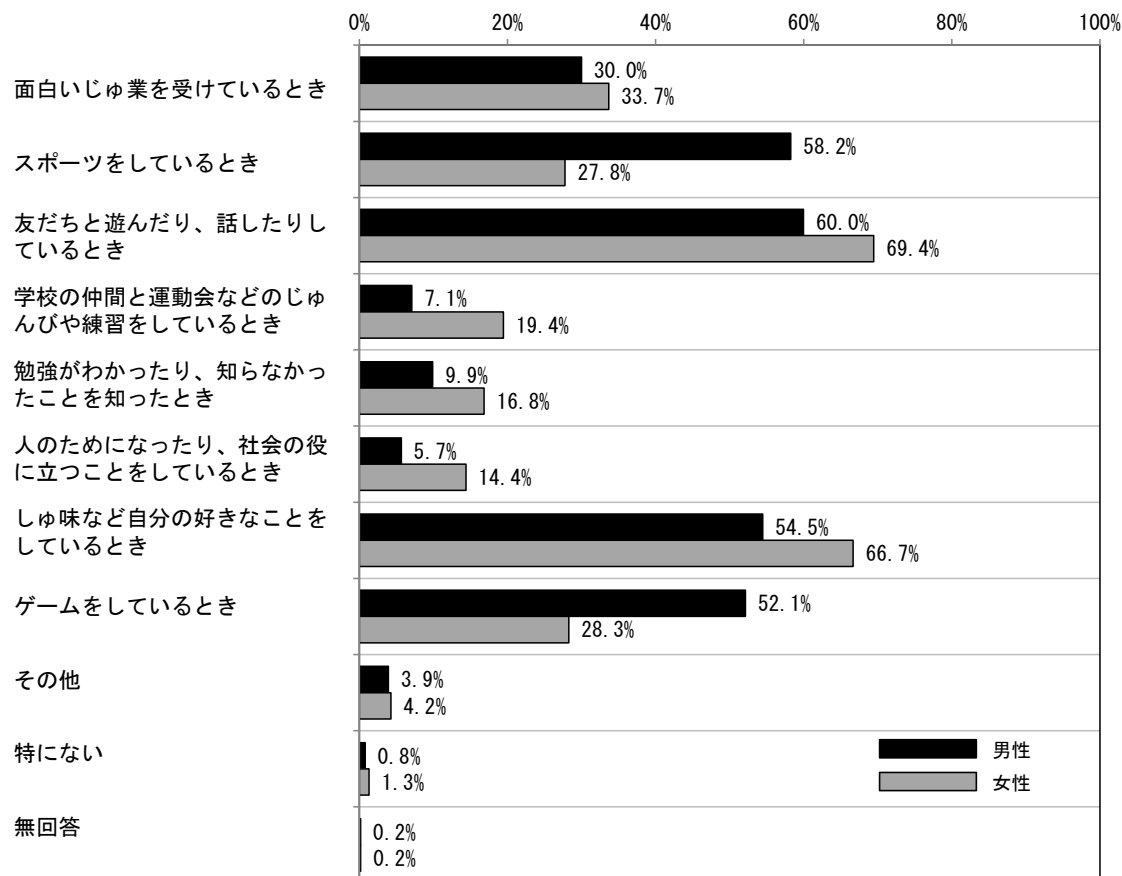


図 I-67 夢中になれるとき(中学生)

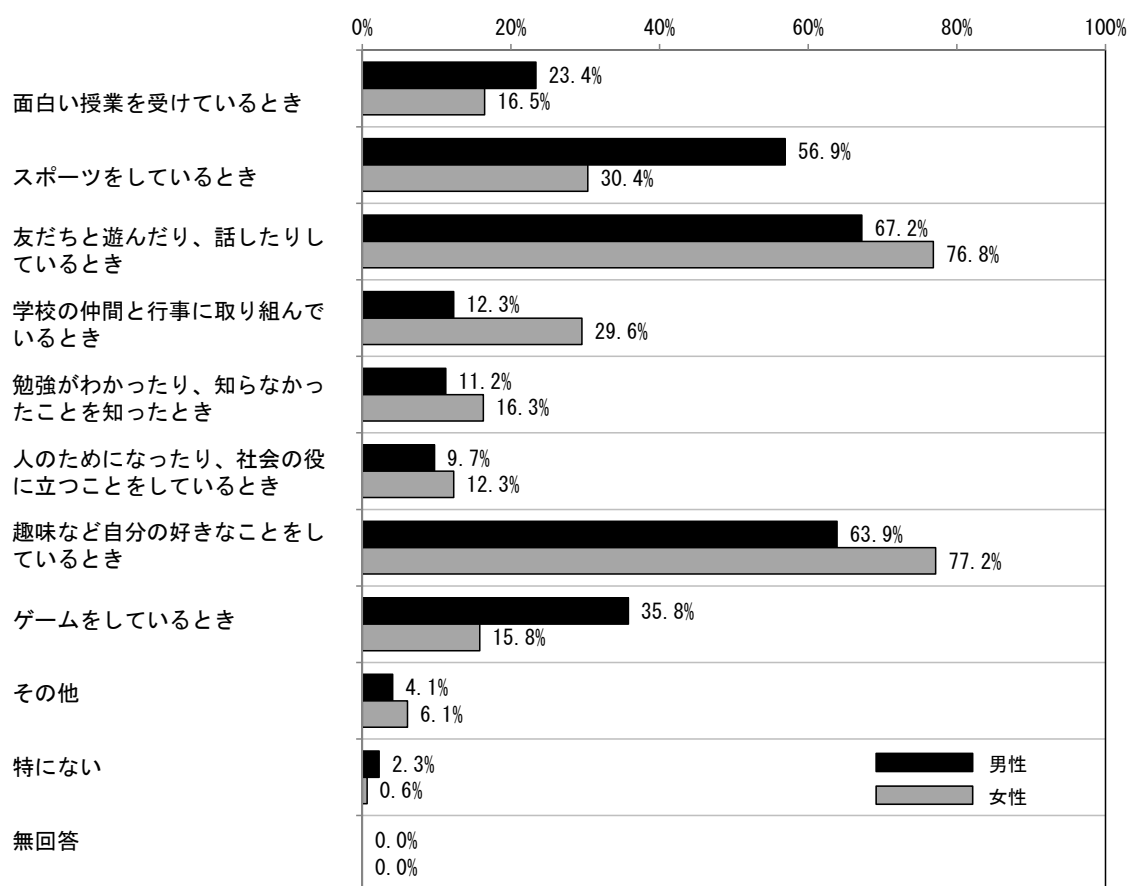


図 I-68 夢中になれるとき(高校生)

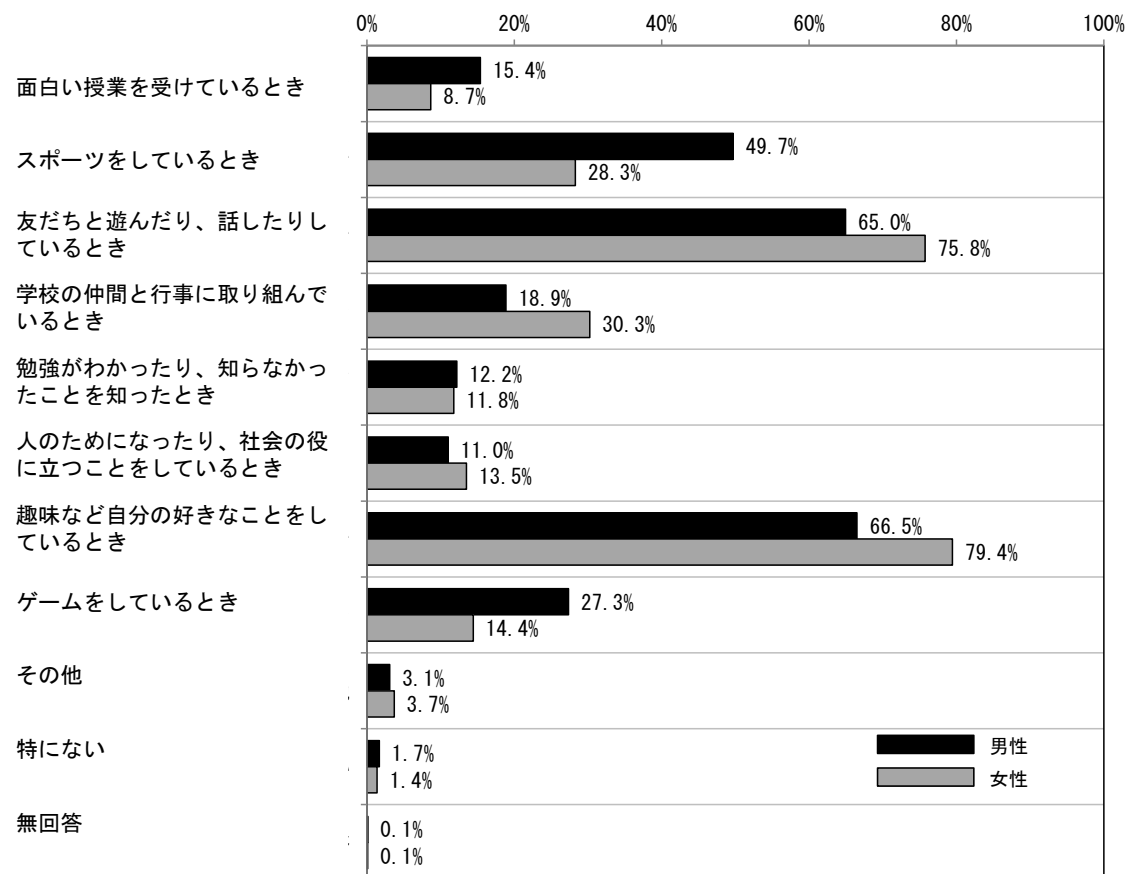
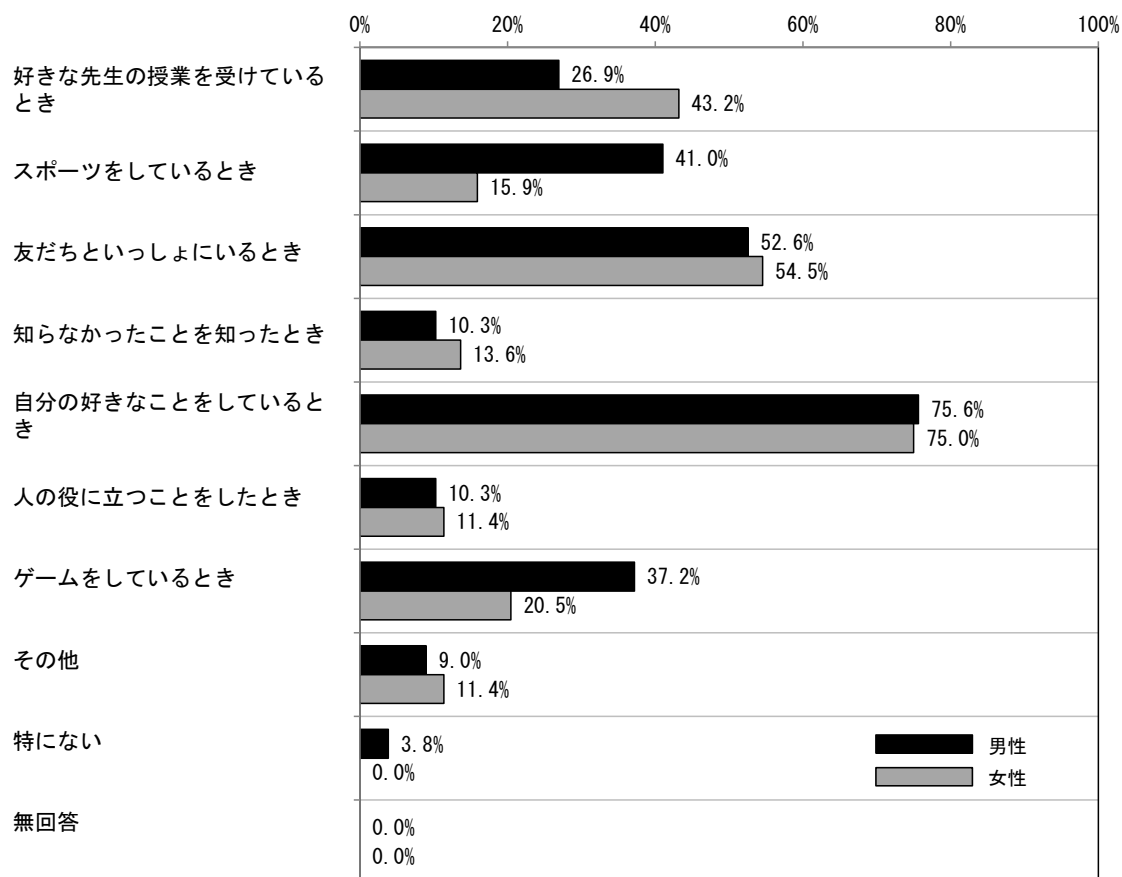


図 I-69 楽しいと感じるとき(特別支援学校児童・生徒)



I-1-3 「悩んでいること」

『悩んでいること』について児童・生徒に聞いた回答の結果を性別で比較したところ、回答の割合が高かった項目は、小学生では、男子の回答は「なやみはない」(50.4%)、「しょう来のこと」(32.5%)、「友だちのこと」(13.5%)であり、女子の回答は「なやみはない」(39.5%)、「友だちのこと」(25.3%)、「しょう来のこと」(26.0%)であった。

中学生では、男子の回答は「将来のこと」(45.1%)、「悩みはない」(40.8%)、「友だちのこと」(12.0%)、「学校のこと」(12.0%)であり、女子の回答は「将来のこと」(45.5%)、「友だちのこと」(27.2%)、「悩みはない」(24.4%)であった。

高校生では、男子の回答は「将来のこと」(60.7%)、「悩みはない」(22.6%)、「学校のこと」(15.3%)であり、女子の回答は「将来のこと」(66.2%)、「友だちのこと」(19.6%)、「学校のこと」(18.8%)であった。

特別支援学校児童・生徒では、男子の回答は「将来のこと」(29.5%)、「悩みはない」(23.1%)、「その他」(11.5%)であり、女子の回答は「悩みはない」(29.5%)、「将来のこと」(22.7%)、「学校のこと」(11.4%)、「その他」(11.4%)であった。(図 I-70~73 参照)

図 I-70 なやんでいること(小学生)

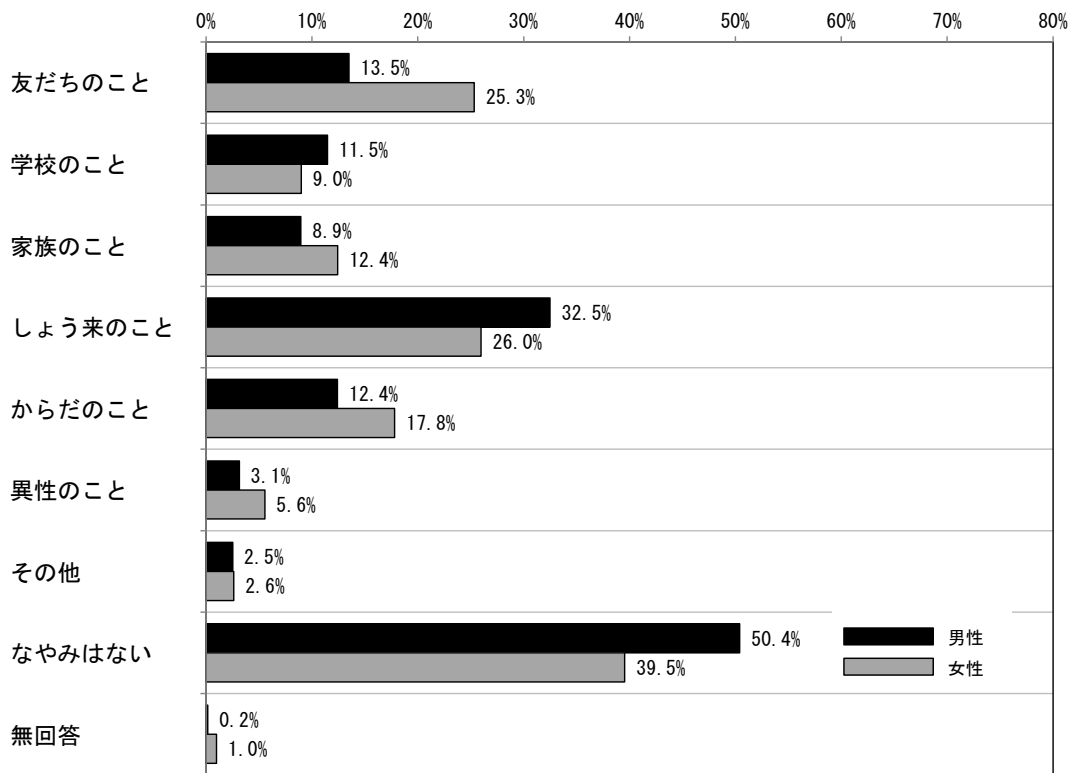


図 I-71 悩んでいること(中学生)

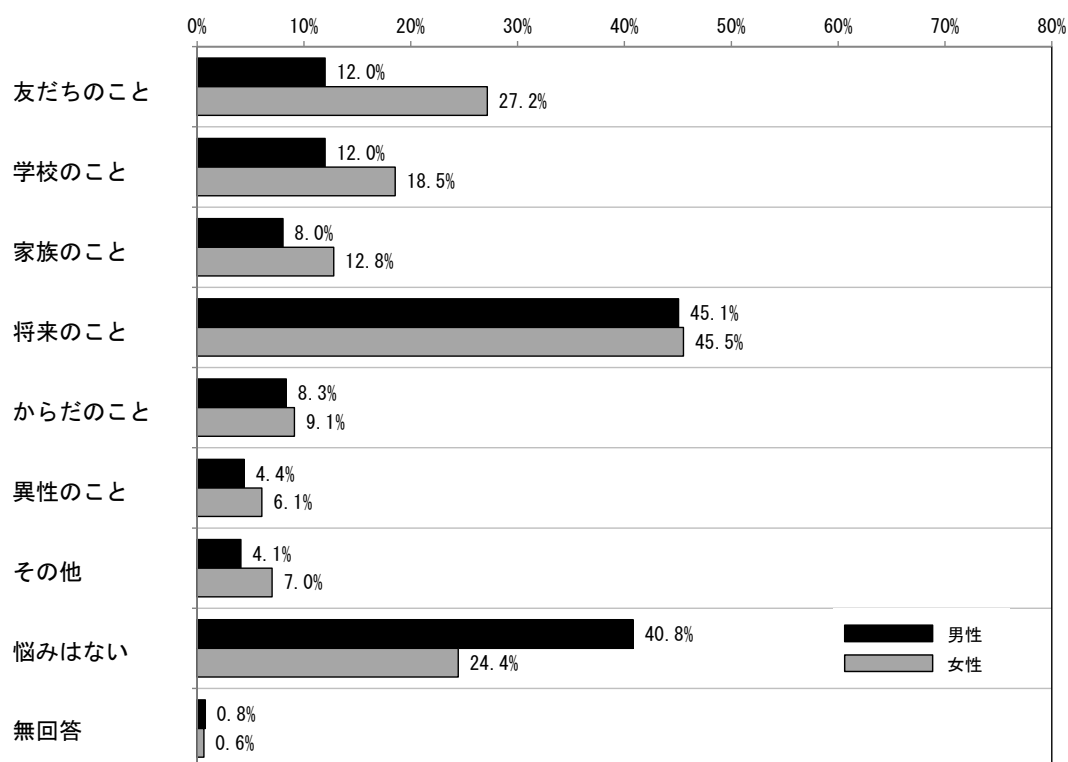


図 I-72 悩んでいること(高校生)

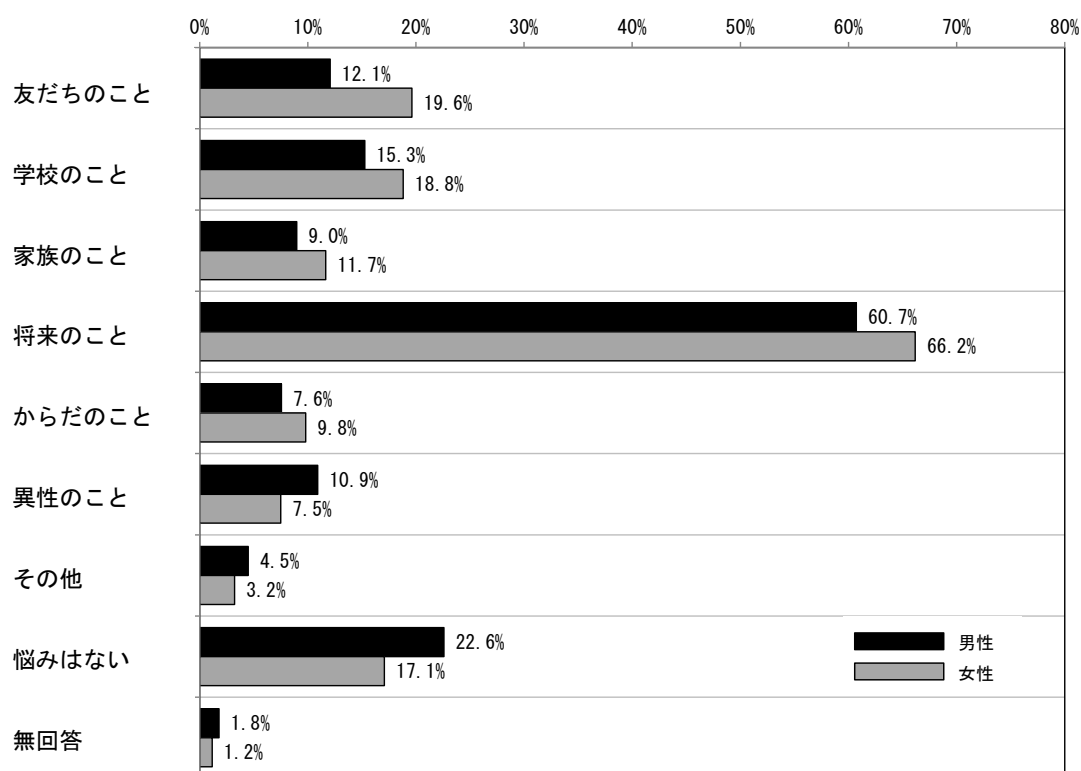
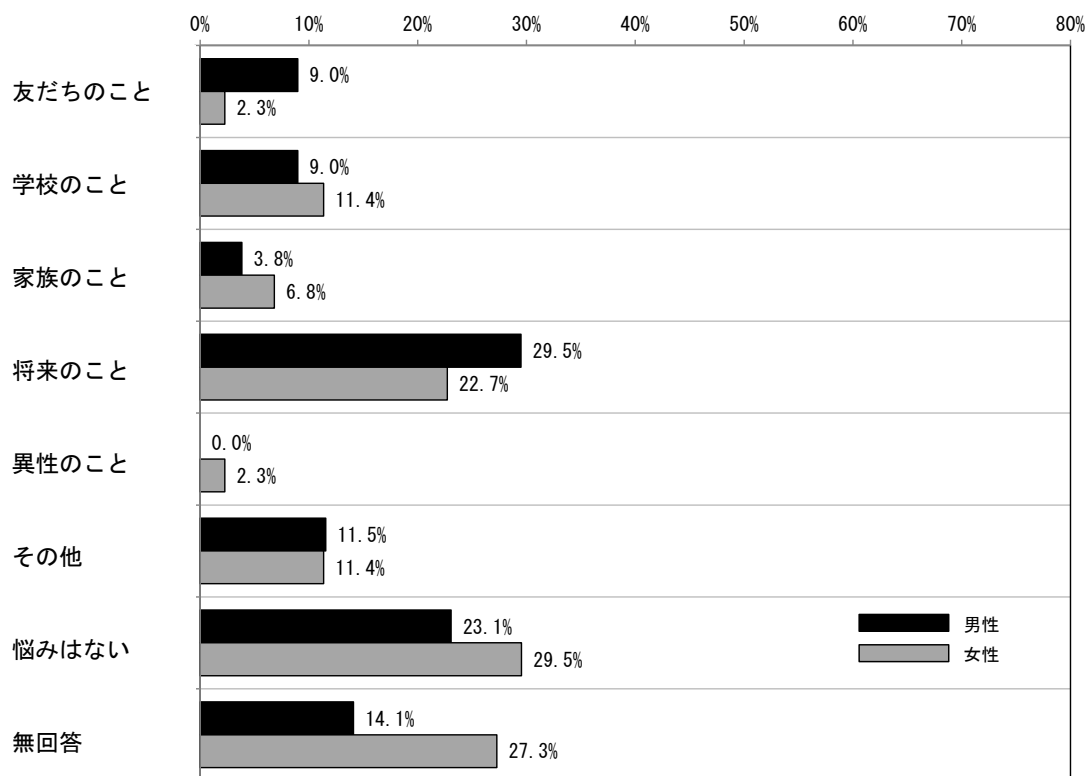


図 I-73 悩んでいること(特別支援学校児童・生徒)



I-1-4 「相談相手」

『相談相手』について児童・生徒に聞いた回答の結果を性別で比較したところ、回答の割合が高かった項目は、小学生では、男子の回答は「親」(74.3%)、「同級の友だち」(50.9%)、「学校の先生」(22.6%)であり、女子の回答は「親」(74.3%)、「同級の友だち」(65.8%)、「学校の先生」(27.3%)であった。

中学生では、男子の回答は「同級の友だち」(62.5%)、「親」(50.4%)、「学校の先生」(18.2%)であり、女子の回答は「同級の友だち」(74.9%)、「親」(54.6%)、「兄弟姉妹」(21.7%)であった。

高校生では、男子の回答は「同級の友だち」(62.5%)、「親」(48.5%)、「兄弟姉妹」(14.1%)であり、女子の回答は「同級の友だち」(75.2%)、「親」(58.3%)、「兄弟姉妹」(21.4%)であった。

特別支援学校児童・生徒では、男子の回答は「家族」(67.9%)、「学校の先生」(48.7%)、「同級の友だち」(21.8%)であり、女子の回答は「家族」(54.5%)、「学校の先生」(27.3%)、「同級の友だち」(25.0%)であった。(図 I-74~77 参照)

図 I-74 相談相手(小学生)

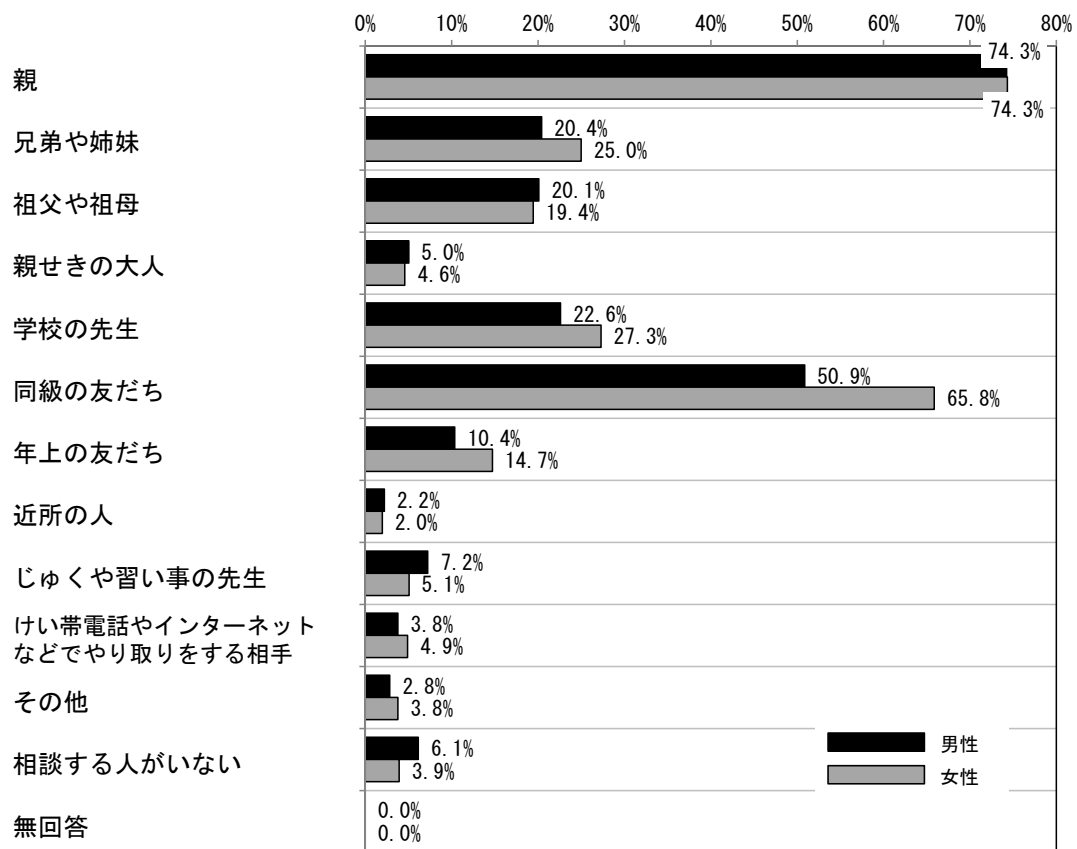


図 I-75 相談相手(中学生)

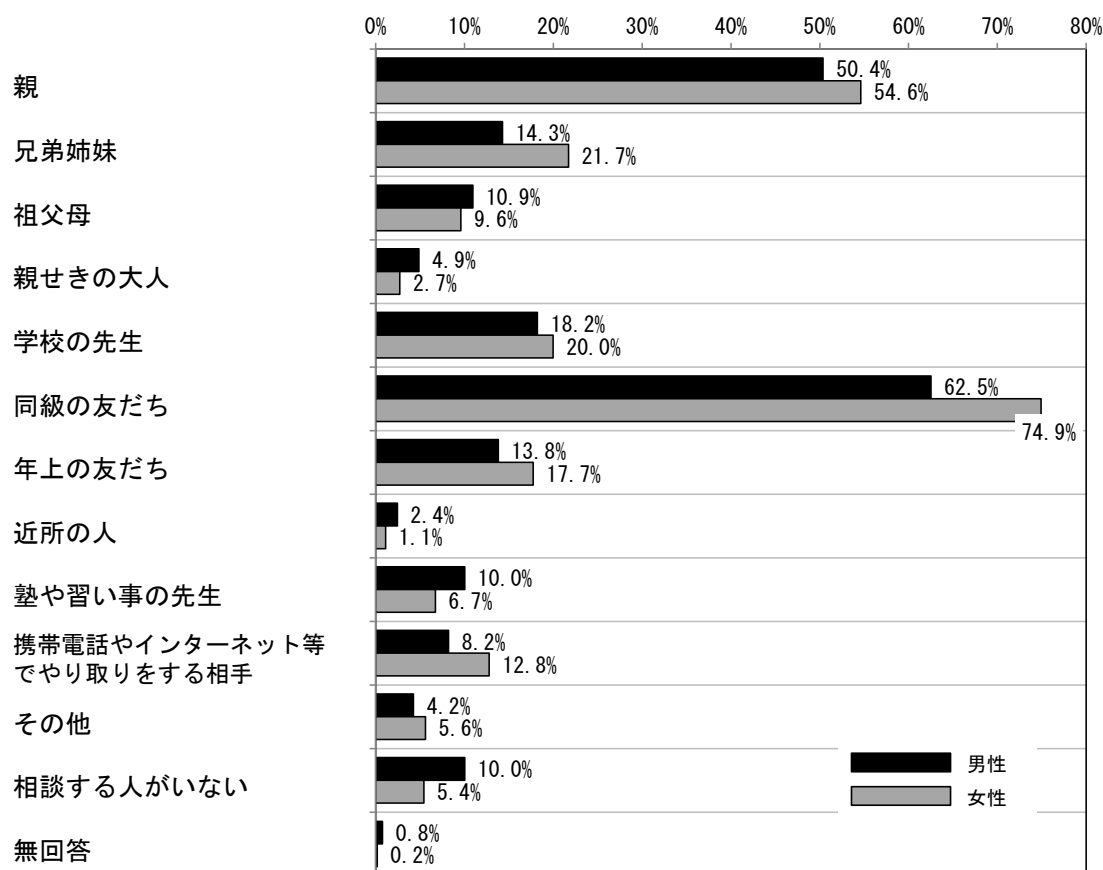


図 I-76 相談相手(高校生)

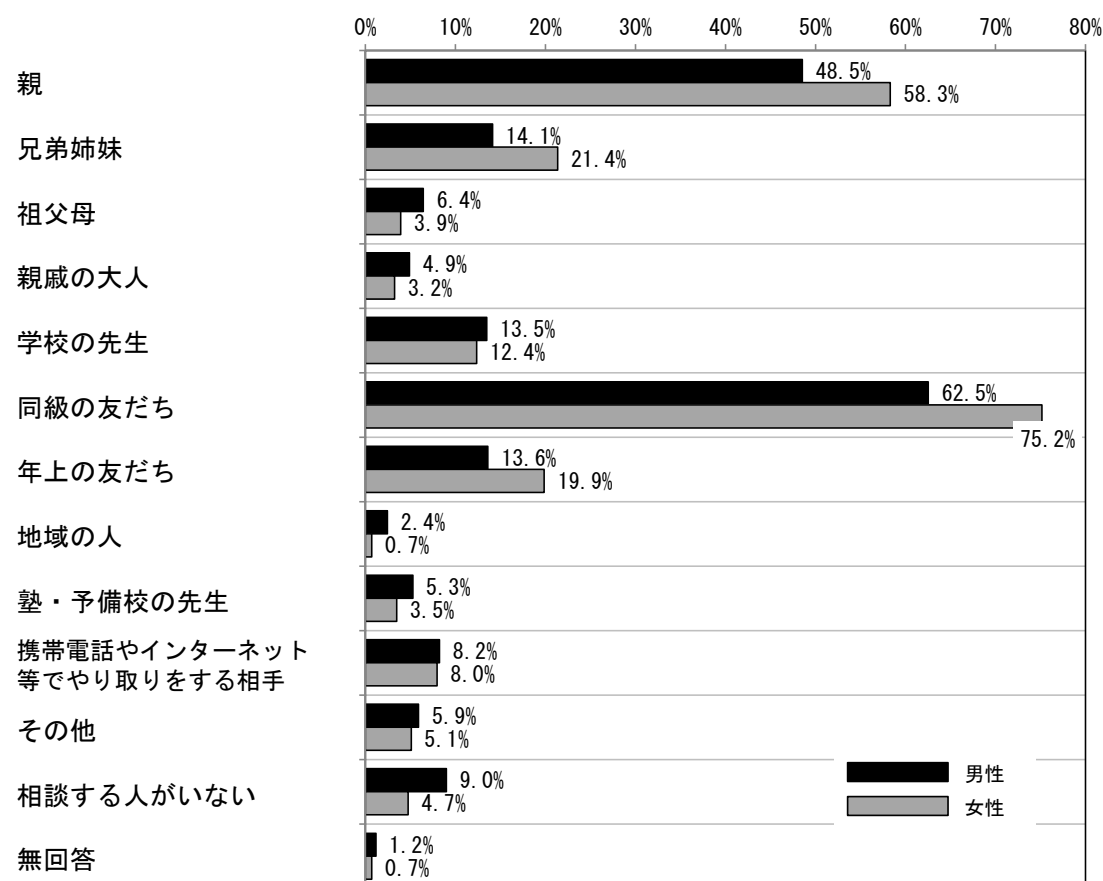
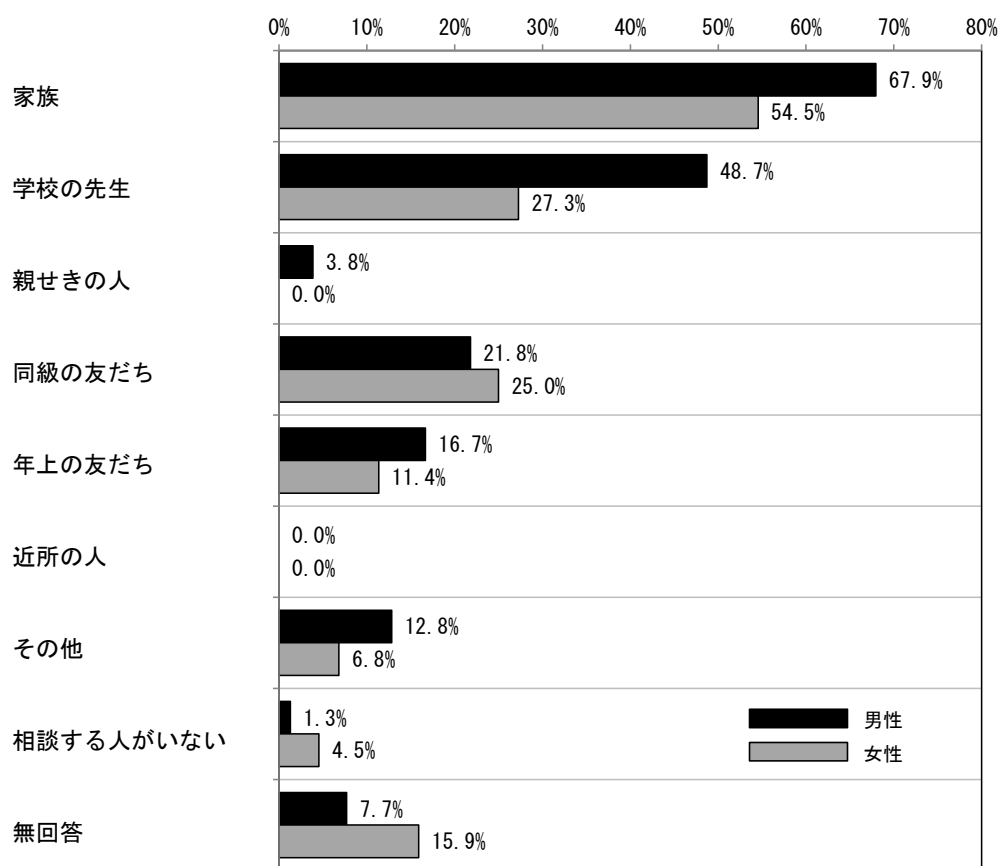


図 1-77 相談相手(特別支援学校児童・生徒)



I-1-5 「自分とかかわりの深いもの」

『自分とかかわりの深いもの』について児童・生徒に聞いた回答の結果を性別で比較したところ、回答の割合が高かった項目は、小学生では、男子の回答は「家族」(86.7%)、「友人」(74.9%)、「ゲーム」(39.6%)であり、女子の回答は「家族」(91.3%)、「友人」(77.8%)、「学校の先生」(24.8%)であった。

中学生では、男子の回答は「友人や先輩」(68.7%)、「家族」(67.8%)、「ゲーム」(30.0%)であり、女子の回答は「友人や先輩」(76.0%)、「家族」(70.0%)、「携帯電話やスマートフォン」(38.3%)であった。

高校生では、男子の回答は「友人や先輩」(71.5%)、「家族」(57.9%)、「携帯電話やスマートフォン」(42.4%)であり、女子の回答は「友人や先輩」(80.8%)、「家族」(73.8%)、「携帯電話やスマートフォン」(51.8%)であった。

特別支援学校児童・生徒では、男子の回答は「家族」(82.1%)、「テレビ」(43.6%)、「本」(34.6%)であり、女子の回答は「家族」(75.0%)、「テレビ」(45.5%)、「本」(29.5%)であった。(図 I-78～83 参照)

図 I-78 自分とかかわりの深いもの(小学生)

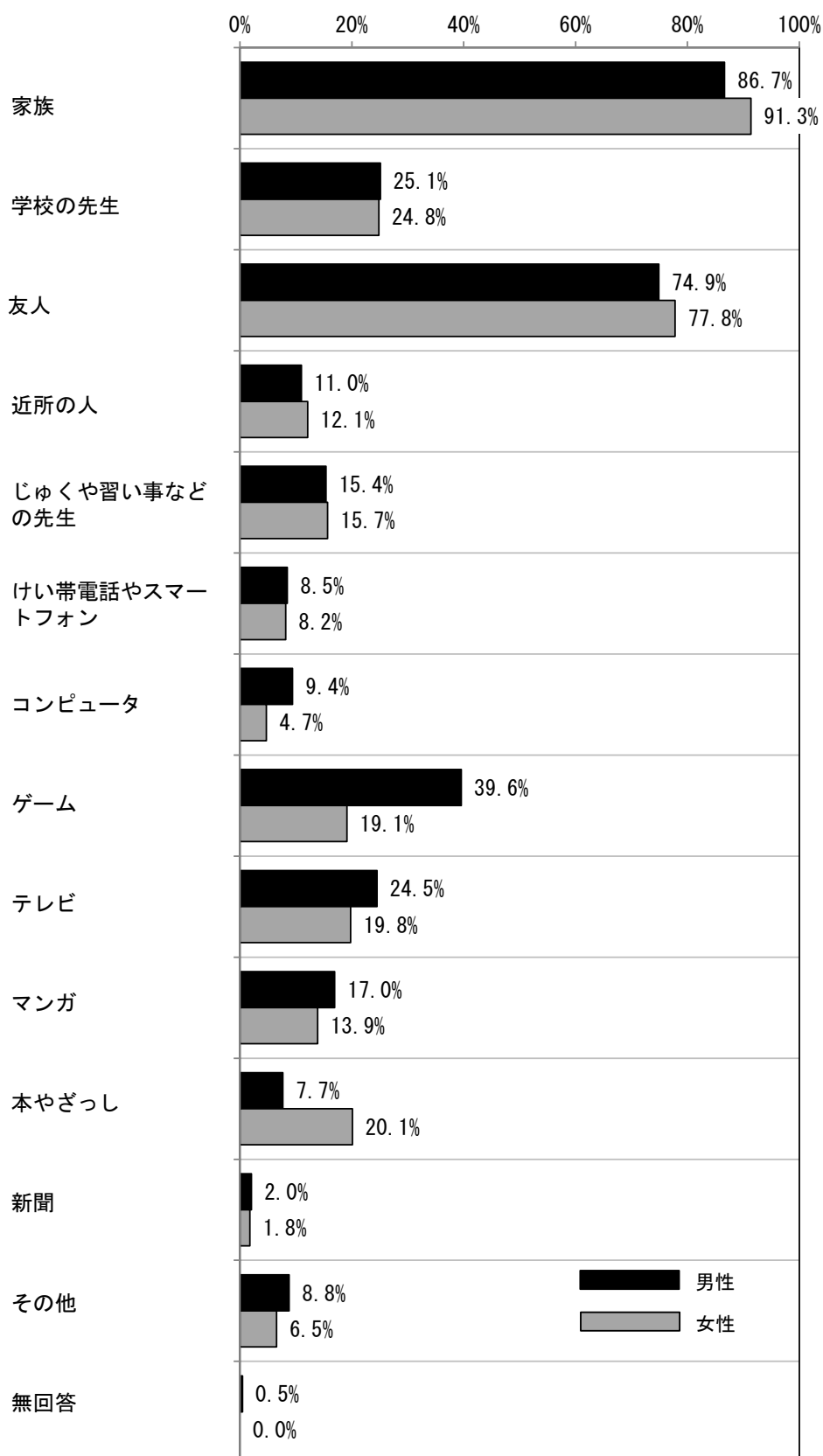


図 I-79 自分とかかわりの深いもの(中学生)

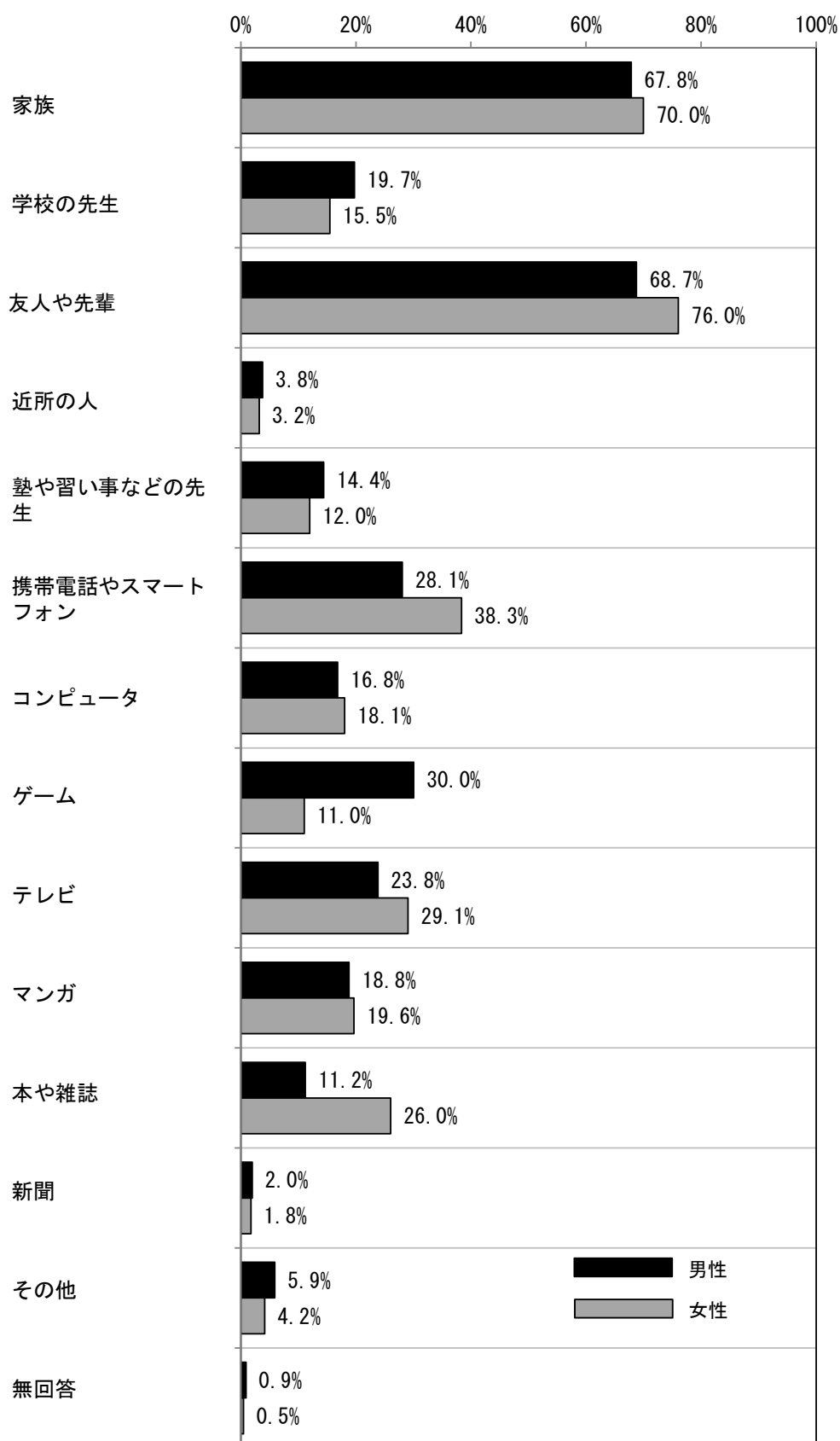


図 I-80 自分とかかわりの深いもの(高校生)

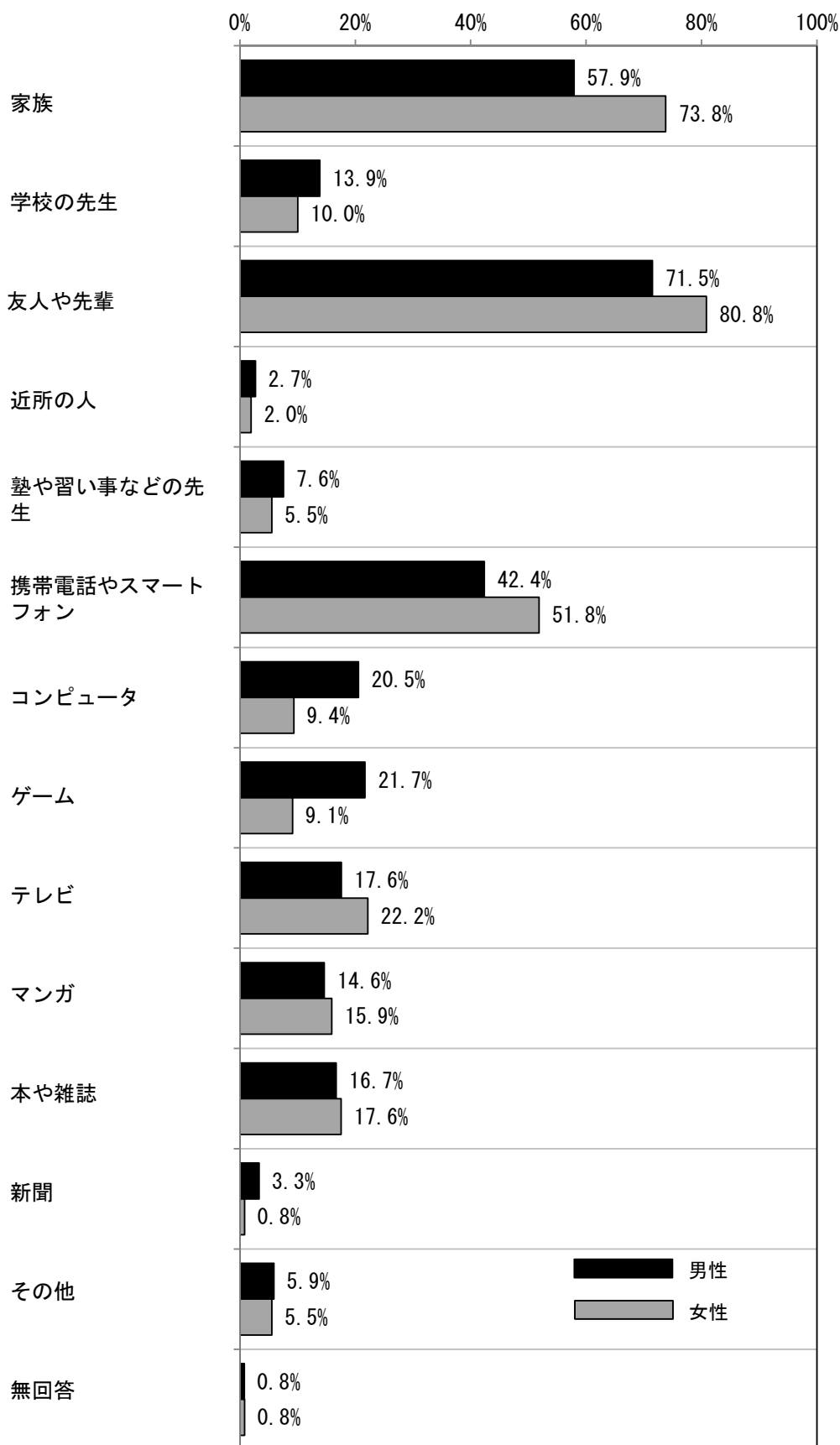


図 I-81 自分とかかわりの深いもの(特別支援学校児童・生徒①)

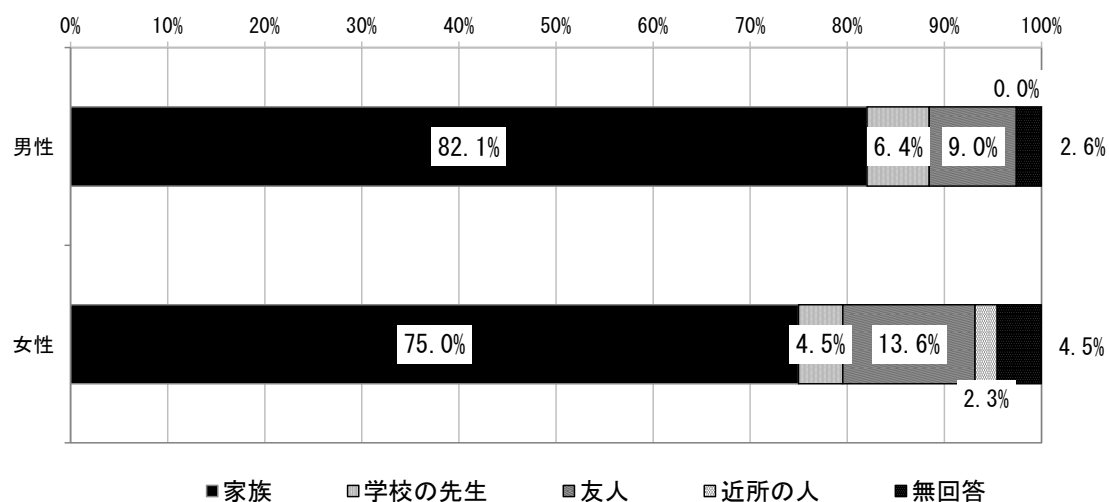


図 I-82 自分とかかわりの深いもの(特別支援学校児童・生徒②)

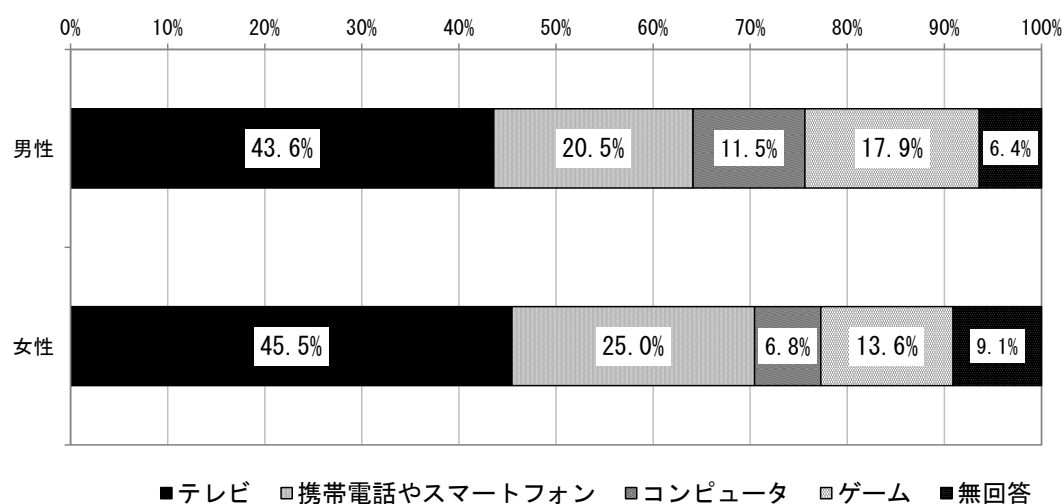
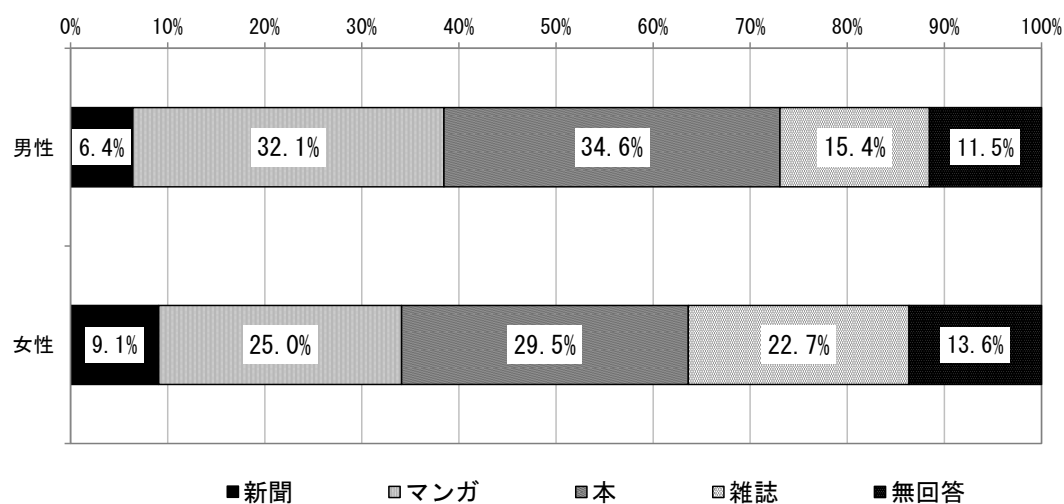


図 I-83 自分とかかわりの深いもの(特別支援学校児童・生徒③)



I-1-6 「どのような大人になりたいか」

『どのような大人になりたいか』について児童・生徒に聞いた回答の結果を性別で比較したところ、回答の割合が高かった項目は、小学生では、男子の回答は「たくさんの友だちや仲間がいる人」(42.5%)、「いつも努力をしている人」(41.8%)、「自分らしさをもっている人」(36.6%)であり、女子の回答は「人を思いやる心をもっている人」(52.1%)、「たくさんの友だちや仲間がいる人」(51.0%)、「自分らしさをもっている人」(43.3%)であった。

中学生では、男子の回答は「自分らしさをもっている人」(46.7%)、「たくさんの友だちや仲間がいる人」(42.0%)、「人を思いやる心をもっている人」(36.4%)であり、女子の回答は「自分らしさをもっている人」(59.1%)、「人を思いやる心をもっている人」(57.2%)、「たくさんの友だちや仲間がいる人」(49.8%)であった。

高校生では、男子の回答は「自分らしさをもっている人」(55.2%)、「たくさんの友だちや仲間がいる人」(36.3%)、「人を思いやる心をもっている人」(35.3%)であり、女子の回答は「自分らしさをもっている人」(61.3%)、「人を思いやる心をもっている人」(52.1%)、「たくさんの友だちや仲間がいる人」(41.0%)であった。

特別支援学校児童・生徒では、男子の回答は「人を思いやるやさしい人」(53.8%)、「自分らしさをもっている人」(39.7%)、「いつも努力をしている人」(29.5%)、「人の役に立てる人」(29.5%)であり、女子の回答は「人を思いやるやさしい人」(45.5%)、「人の役に立てる人」(34.1%)、「いつも努力をしている人」(29.5%)であった。(図 I-84~87 参照)

図 I-84 どのような大人になりたいか(小学生)

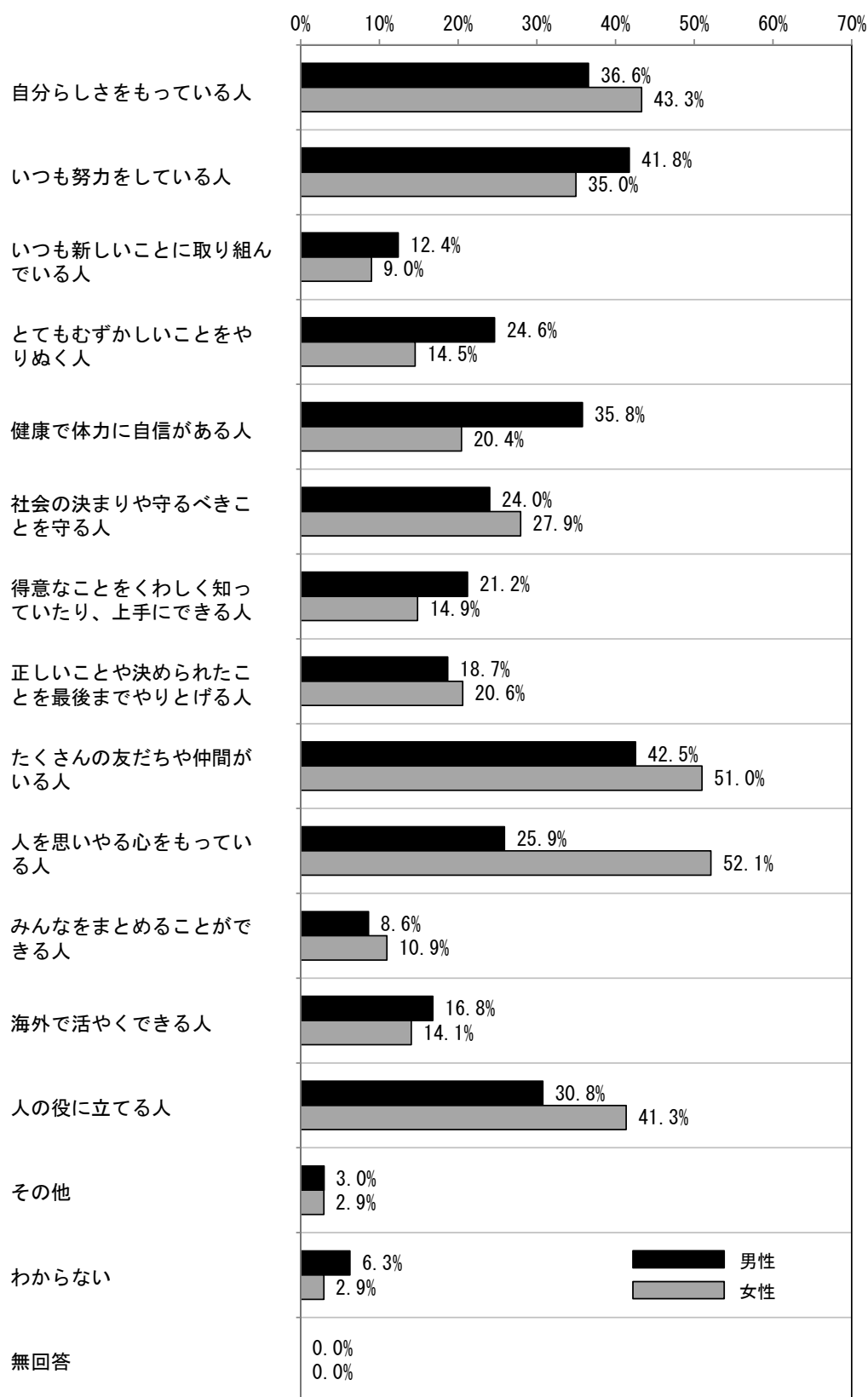


図 I-85 どのような大人になりたいか(中学生)

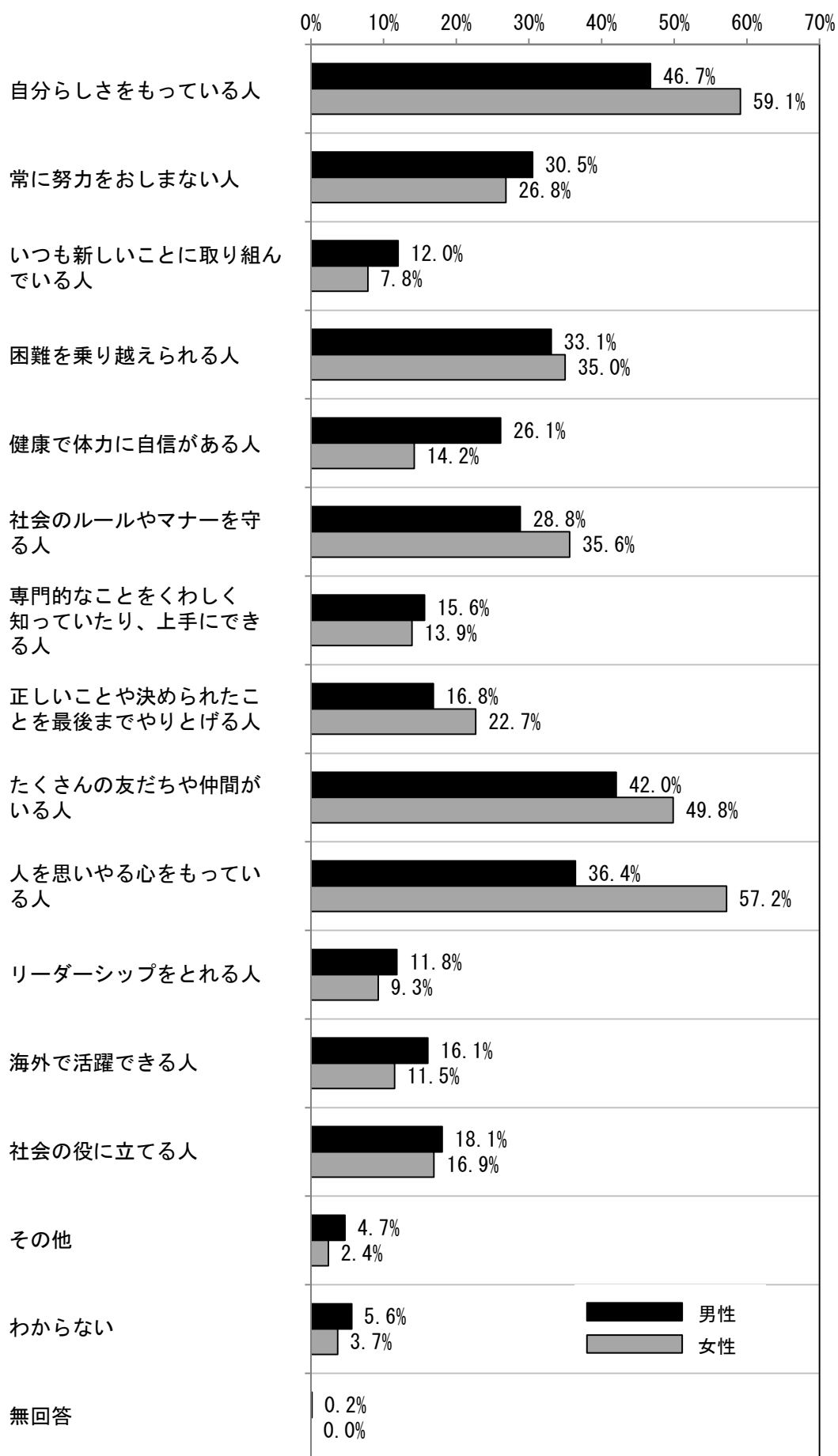


図 I-86 どのような大人になりたいか(高校生)

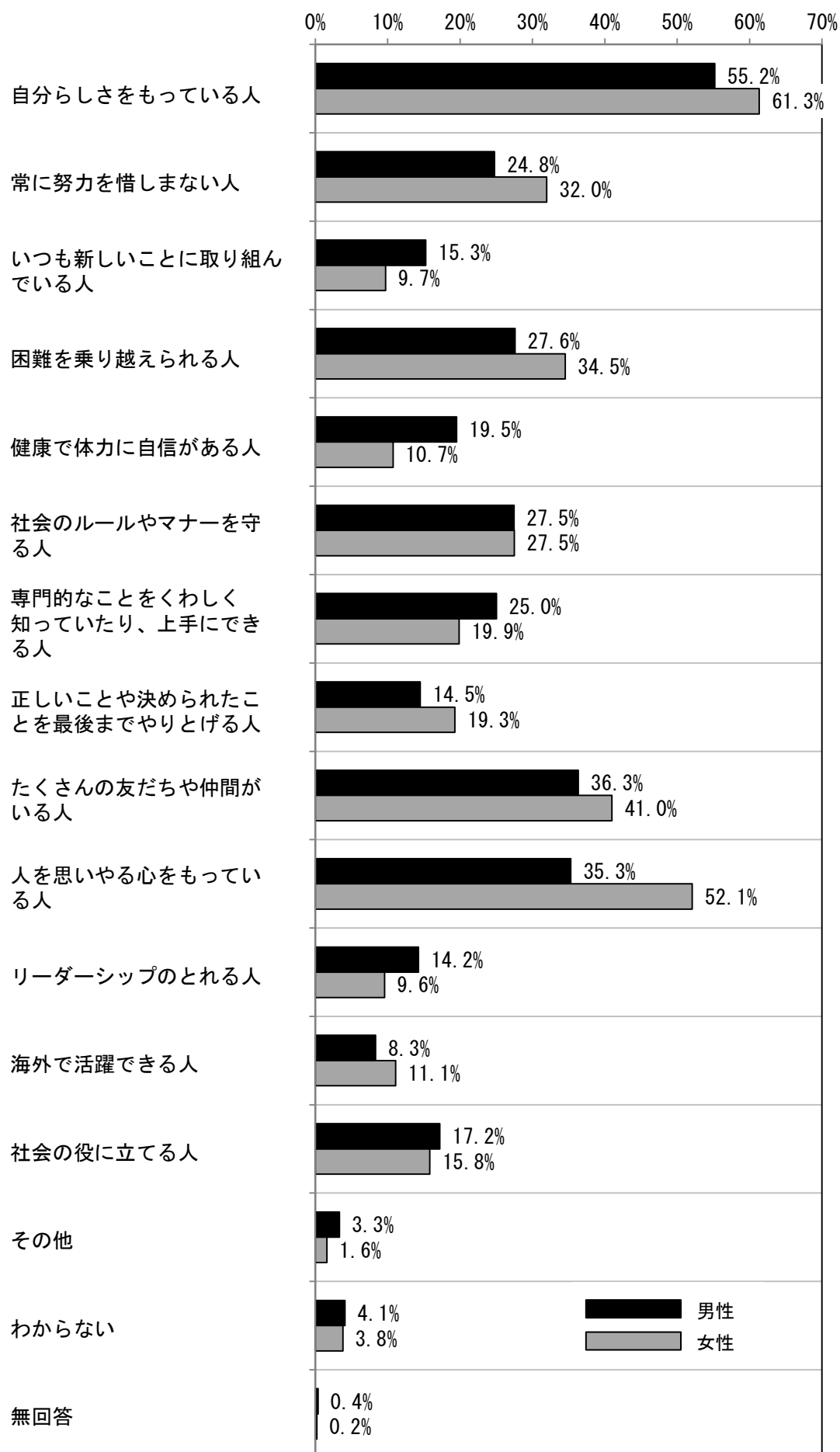
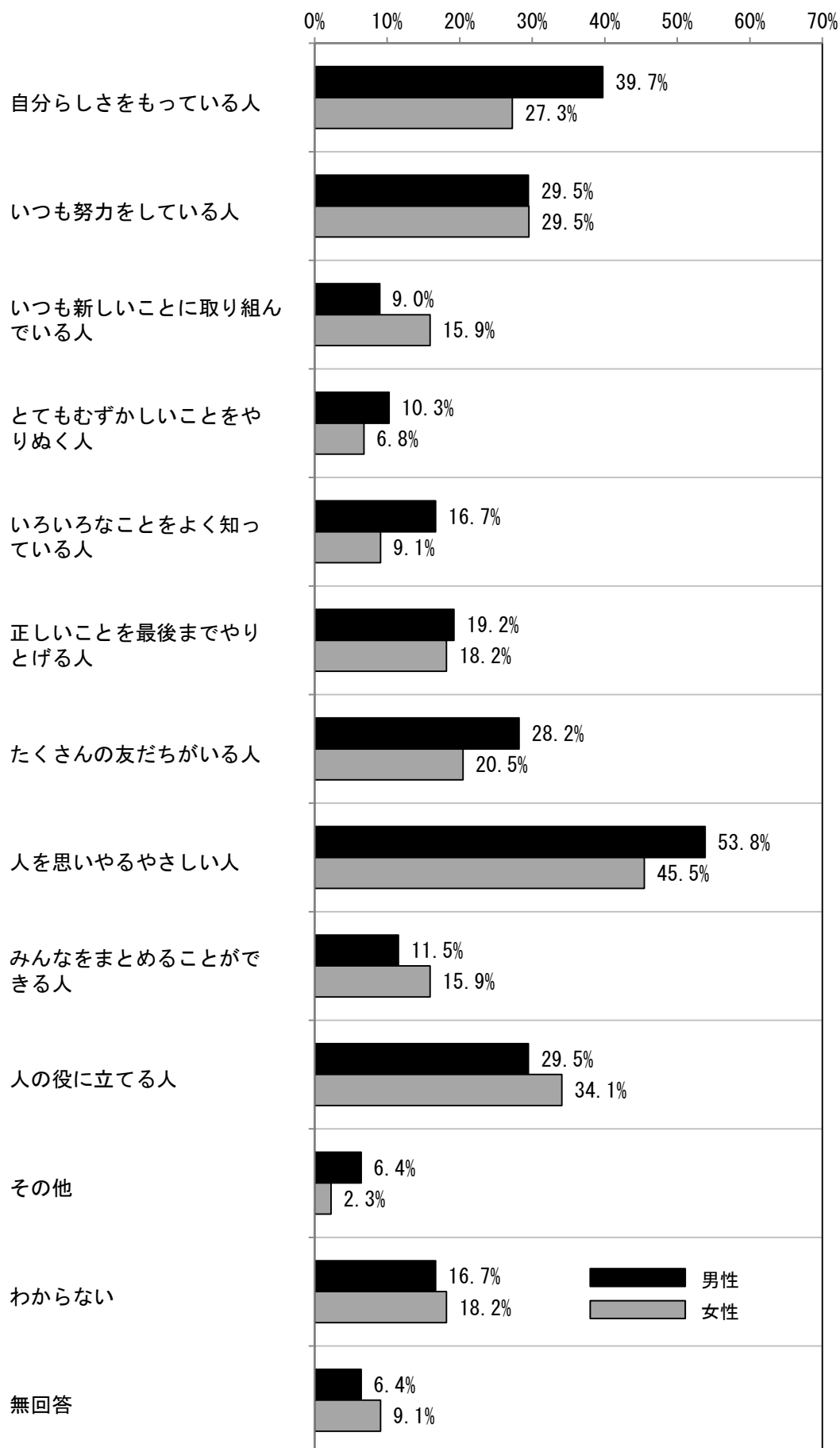


図 I-87 どのような大人になりたいか(特別支援学校児童・生徒)



I-1-7 「これからの世の中」

『これからの世の中』について児童・生徒に聞いた回答の結果を性別で比較したところ、回答の割合が高かった項目は、小学生では、男子の回答は「今より良くなっている」(47.3%)、「わからない」(30.0%)、「今より悪くなっている」(17.7%)であり、女子の回答は「今より良くなっている」(57.2%)、「わからない」(24.0%)、「今より悪くなっている」(15.7%)であった。

中学生では、男子の回答は「今より悪くなっている」(36.9%)、「わからない」(31.1%)、「今より良くなっている」(23.1%)であり、女子の回答は「わからない」(40.9%)、「今より悪くなっている」(30.8%)、「今より良くなっている」(22.5%)であった。

高校生では、男子の回答は「今より悪くなっている」(36.1%)、「わからない」(32.3%)、「今より良くなっている」(22.6%)であり、女子の回答は「わからない」(46.1%)、「今より悪くなっている」(29.2%)、「今より良くなっている」(17.0%)であった。

特別支援学校児童・生徒では、男子の回答は「わからない」(50.0%)、「今より良くなっている」(25.6%)、「どのような社会になるか興味がない」(10.3%)であり、女子の回答は「わからない」(38.6%)、「今より良くなっている」(29.5%)、「今より悪くなっている」(13.6%)であった。(図 I-88~91 参照)

図 I-88 これからの世の中(小学生)

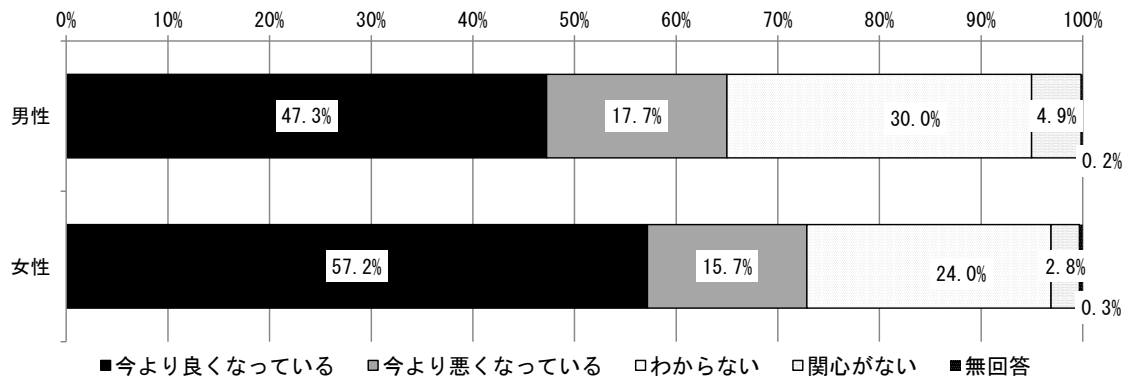


図 I-89 これからの世の中(中学生)

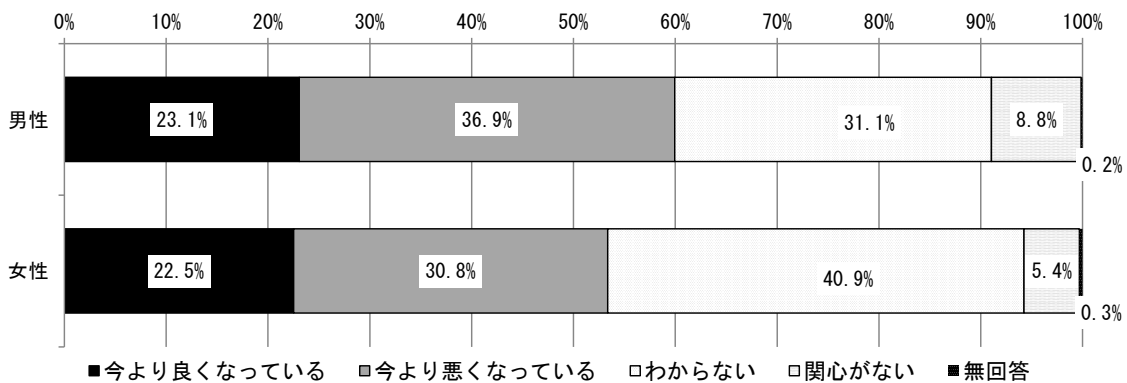


図 I-90 これからの世の中(高校生)

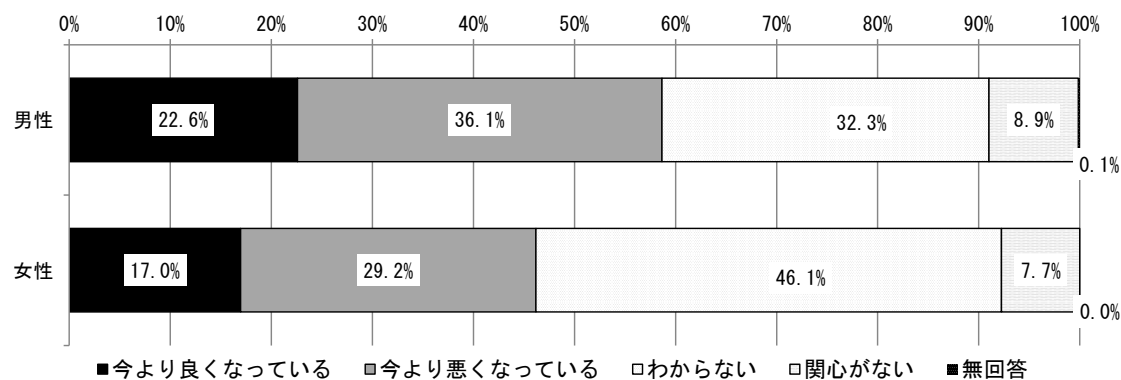
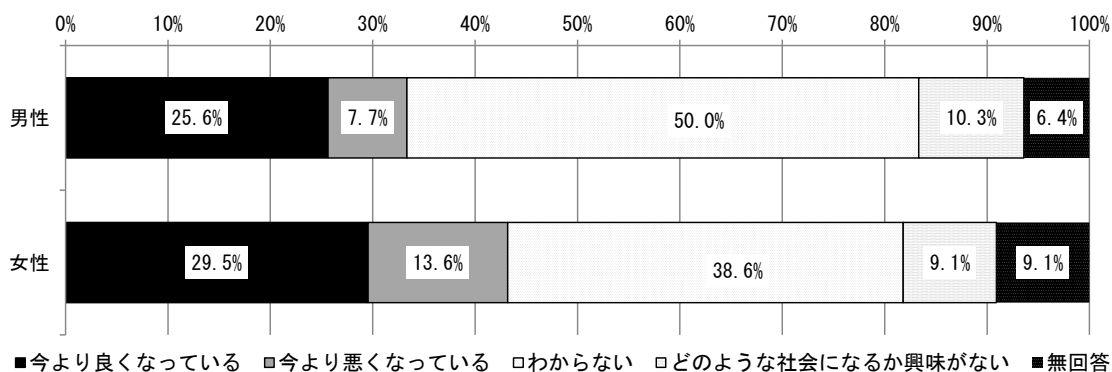


図 I-91 これからの世の中(特別支援学校児童・生徒)



I-1-8 「学校外での生活」

『学校外での生活』について児童・生徒に聞いた回答の結果を性別で比較したところ、回答の割合が高かった項目は、小学生では、男子の回答は「スポーツや遊びでからだを動かす」(55.1%)、「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」(46.8%)、「しゅ味や自分の好きなことをする」(41.8%)であり、女子の回答は「しゅ味や自分の好きなことをする」(55.9%)、「家族といっしょにすごす」(41.2%)、「外出して友だちとすごす」(32.2%)であった。

中学生では、男子の回答は「趣味など自分の好きなことをする」(52.4%)、「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」(50.1%)、「スポーツや遊びでからだを動かす」(43.9%)であり、女子の回答は「趣味など自分の好きなことをする」(61.5%)、「外出して友だちと過ごす」(47.1%)、「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」(42.3%)であった。

高校生では、男子の回答は「趣味など自分の好きなことをする」(58.5%)、「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」(45.8%)、「外出して友だちと過ごす」(39.9%)であり、女子の回答は「趣味など自分の好きなことをする」(63.7%)、「外出して友だちと過ごす」(50.5%)、「携帯電話やスマートフォンを使って友だちと言葉のやり取りをする」(37.9%)であった。

特別支援学校児童・生徒では、男子の回答は「テレビを見る」(47.4%)、「家族といっしょにすごす」(46.2%)、「ゲームをする」(43.6%)であり、女子の回答は「テレビを見る」(52.3%)、「家族といっしょにすごす」(38.6%)、「家の手伝いをする」(27.3%)であった。(図 I-92～95 参照)

図 I-92 学校外での生活(小学生)

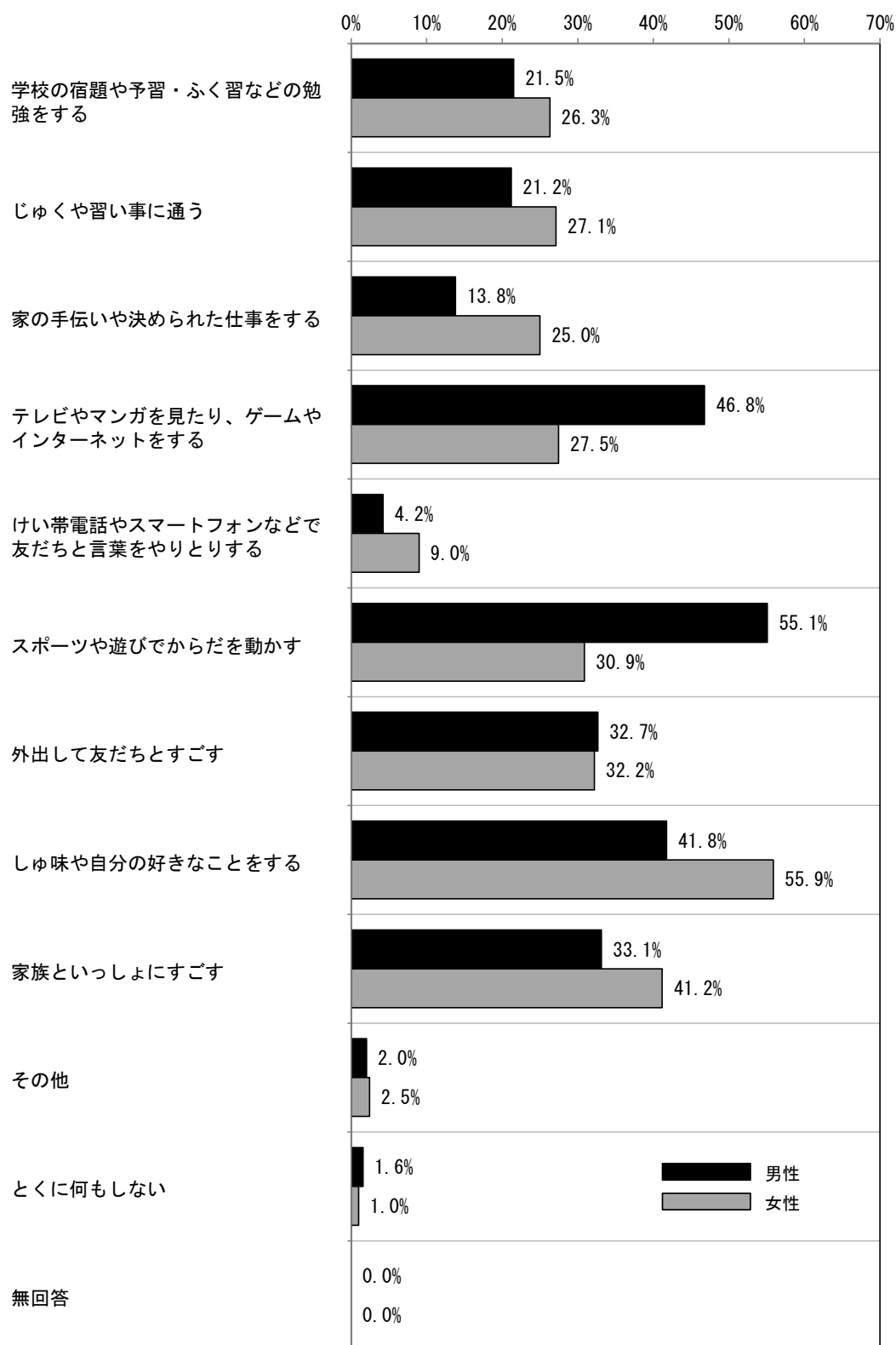


図 I-93 学校外での生活(中学生)

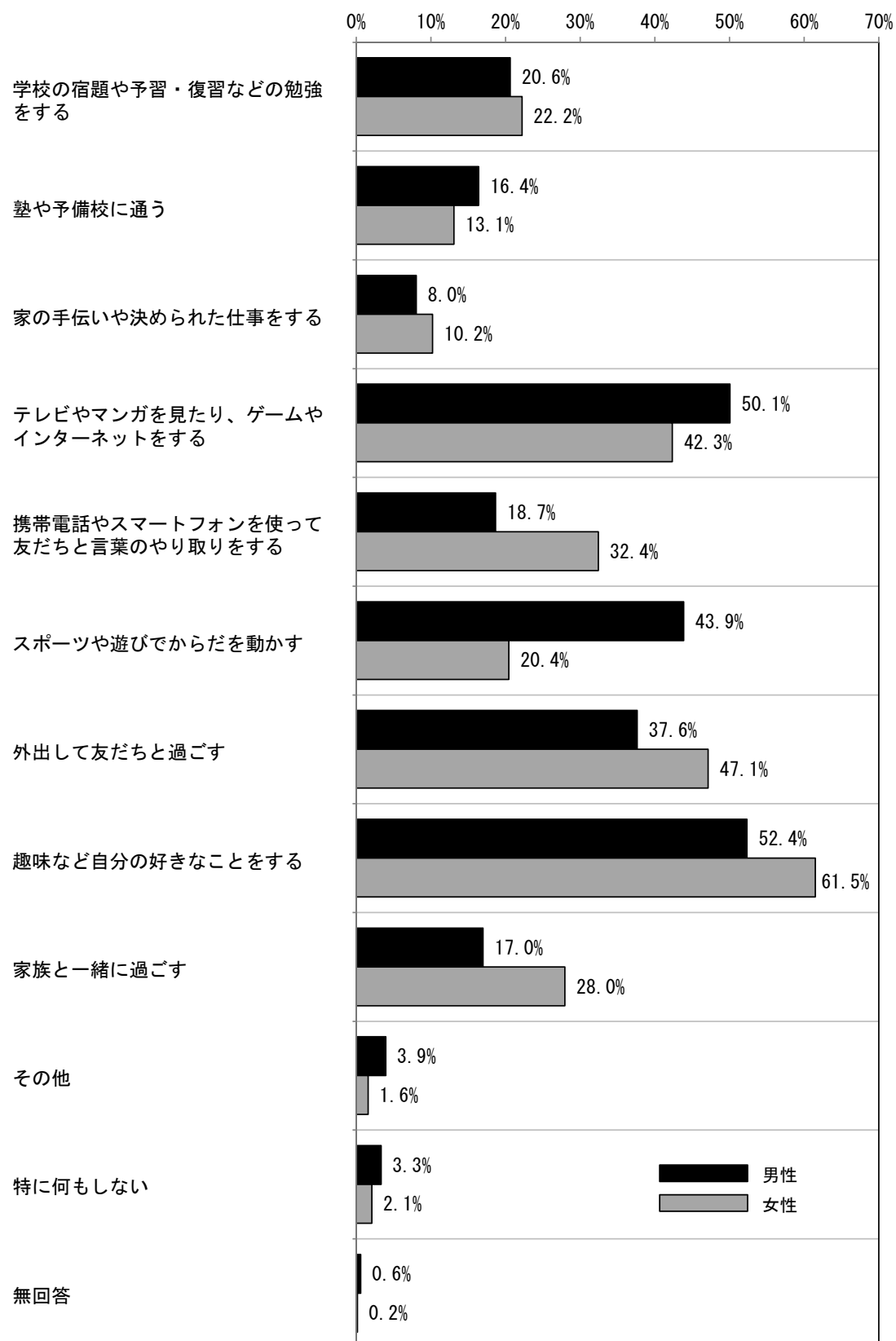


図 I-94 学校外での生活(高校生)

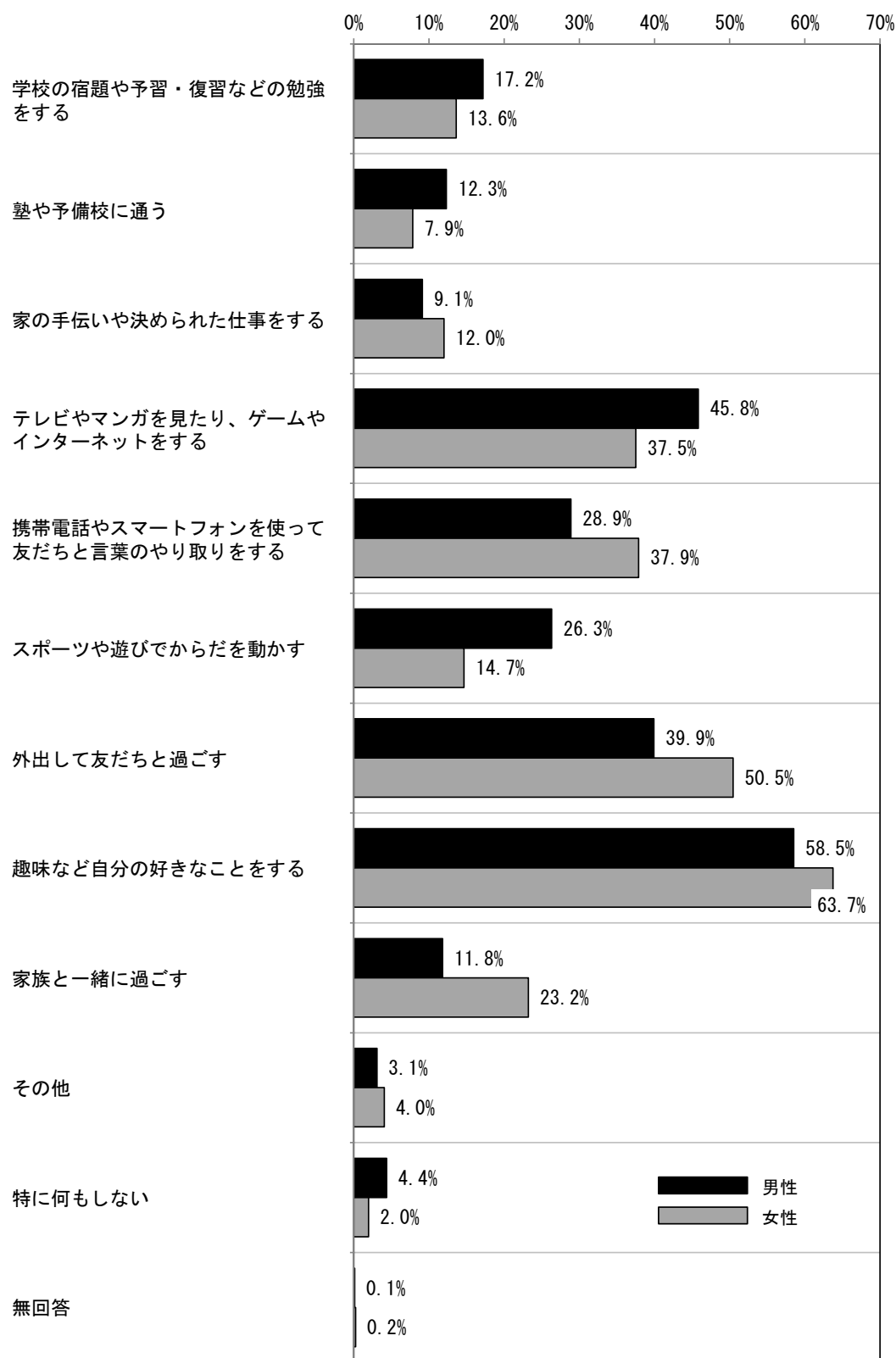
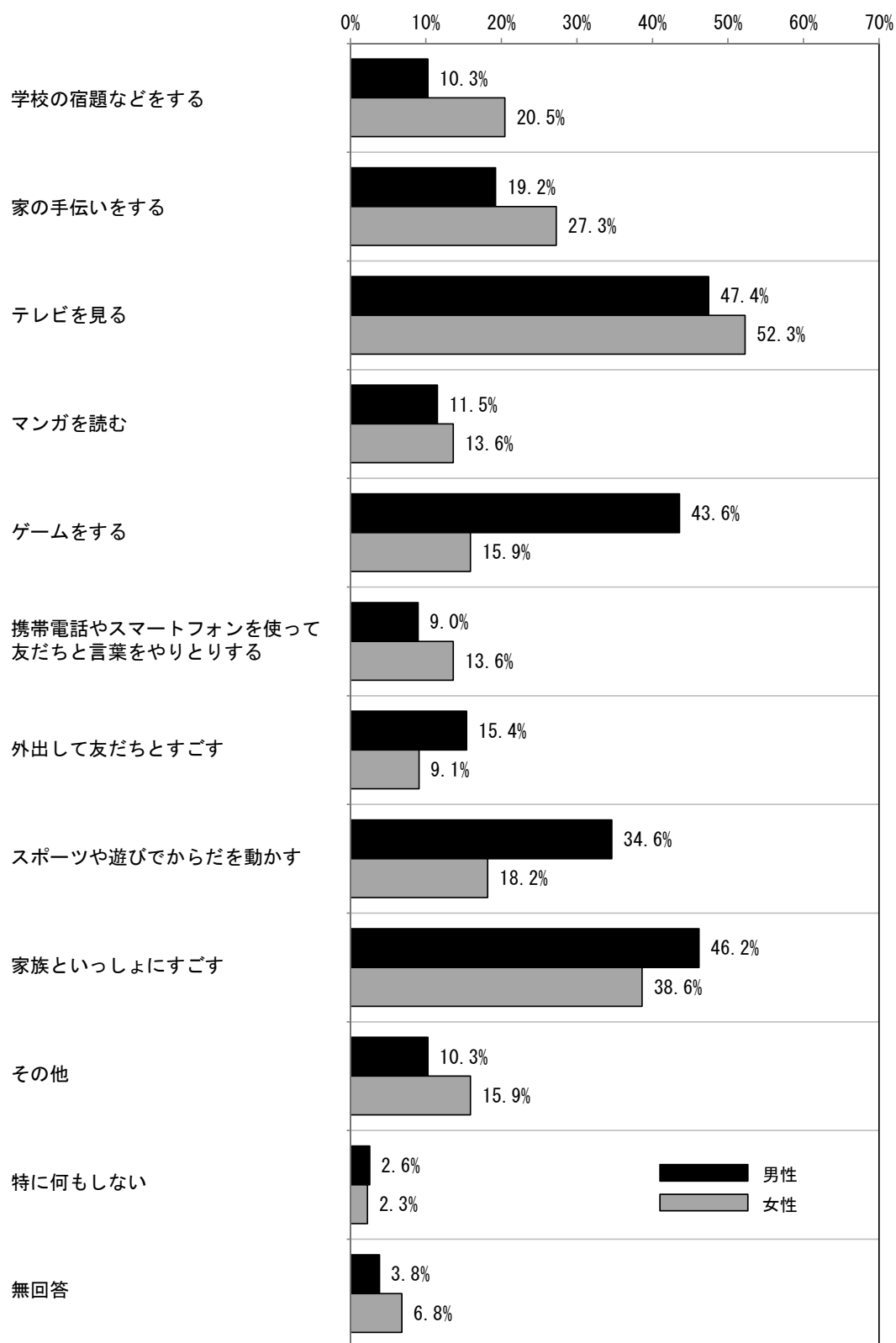


図 I-95 学校外での生活(特別支援学校児童・生徒)



I-1-9 「勉強する理由」

『勉強する理由』について児童・生徒に聞いた回答の結果を性別で比較したところ、回答の割合が高かった項目は、小学生では、男子の回答は「りっぱな大人になるため」(50.9%)、「しょう来何かの役に立つと思うから」(40.8%)、「新しいことを知ったり、わかることが楽しいから」(24.5%)であり、女子の回答は「しょう来何かの役に立つと思うから」(49.8%)、「りっぱな大人になるため」(45.6%)、「新しいことを知ったり、わかることが楽しいから」(25.5%)であった。

中学生では、男子の回答は「高校や大学に進学したいから」(42.9%)、「将来何かの役に立つと思うから」(39.9%)、「立派な大人になるため」(30.5%)であり、女子の回答は「高校や大学に進学したいから」(51.1%)、「将来何かの役に立つと思うから」(36.9%)、「やりたい仕事があるから」(26.7%)であった。

高校生では、男子の回答は「将来何かの役に立つと思うから」(35.4%)、「進学したいから」(31.6%)、「新しい知識を得たり、理解することが楽しいから」(20.8%)、「やりたい仕事があるから」(20.8%)であり、女子の回答は「進学したいから」(38.0%)、「将来何かの役に立つと思うから」(36.8%)、「やりたい仕事があるから」(29.6%)であった。

特別支援学校児童・生徒では、男子の回答は「学校で学んだことが、将来役に立つと思うから」(39.7%)、「立派な大人になるため」(24.4%)、「新しいことを知ることが楽しいから」(21.8%)であり、女子の回答は「学校で学んだことが、将来役に立つと思うから」(36.4%)、「新しいことを知ることが楽しいから」(34.1%)、「立派な大人になるため」(15.9%)であった。(図 I-96~99 参照)

図 I-96 勉強する理由(小学生)

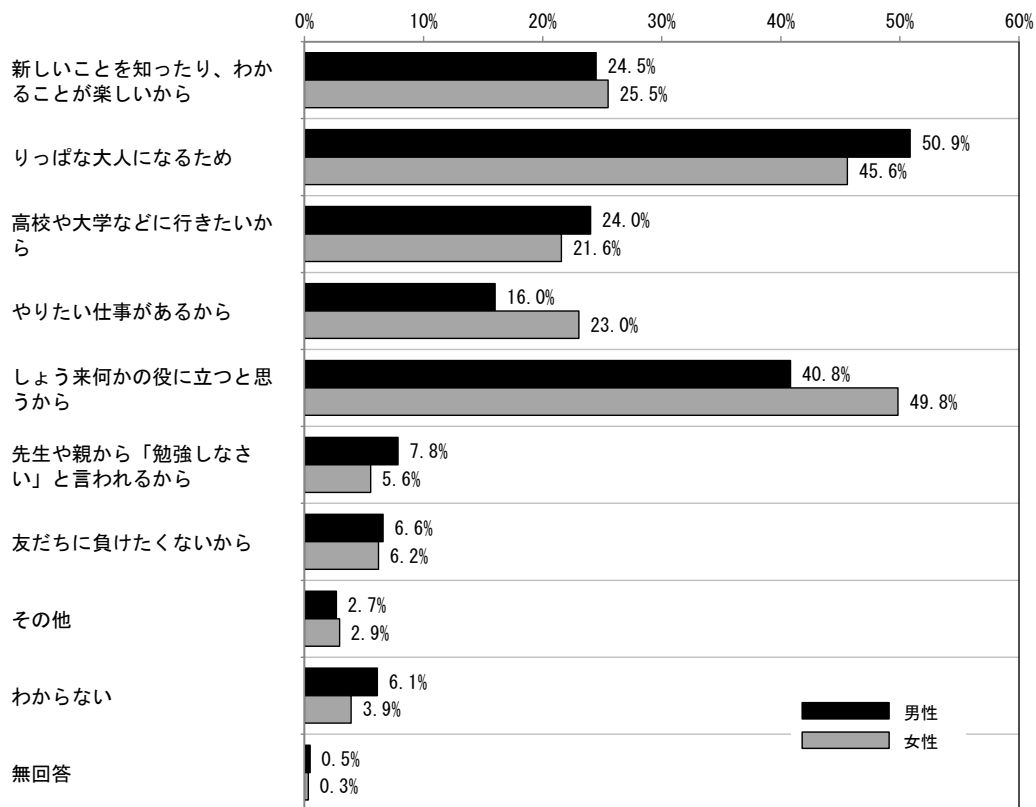


図 I-97 勉強する理由(中学生)

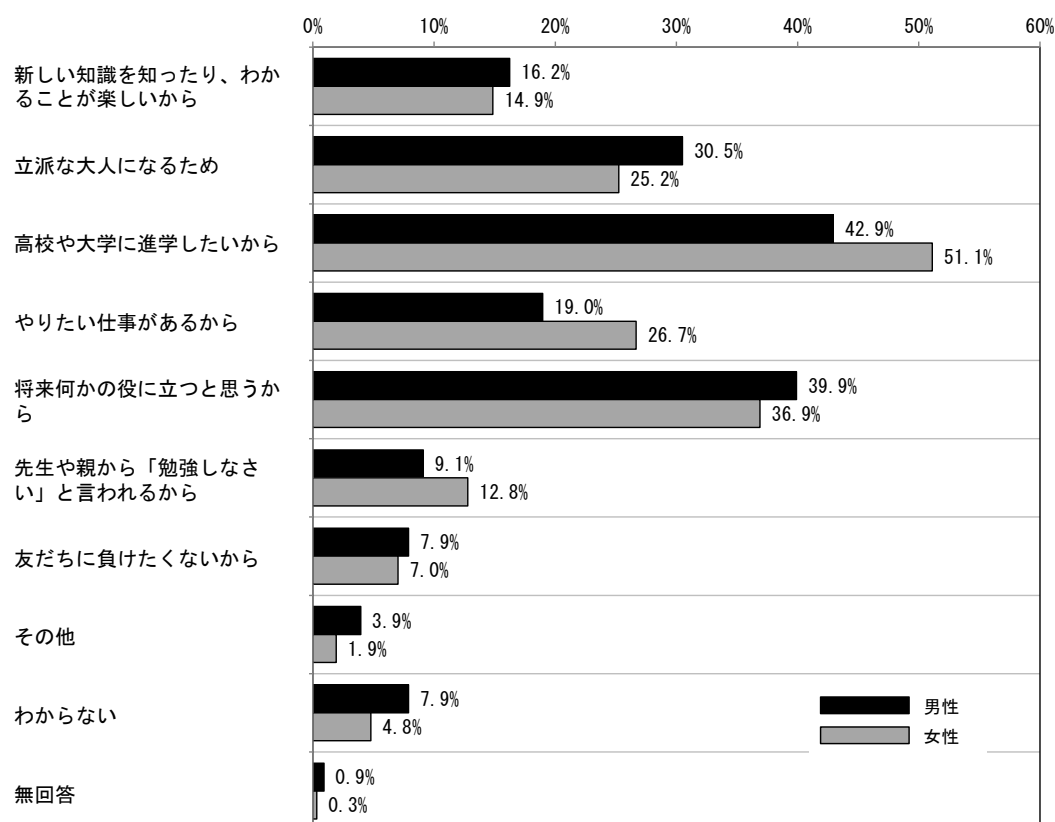


図 I-98 勉強する理由(高校生)

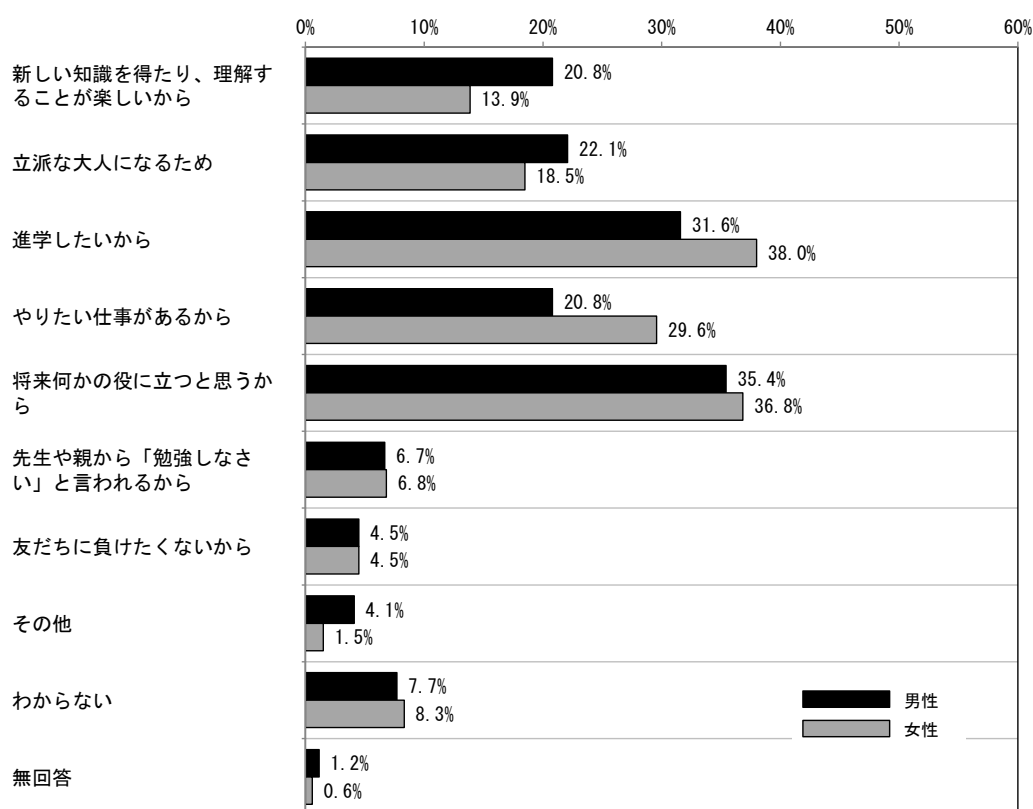
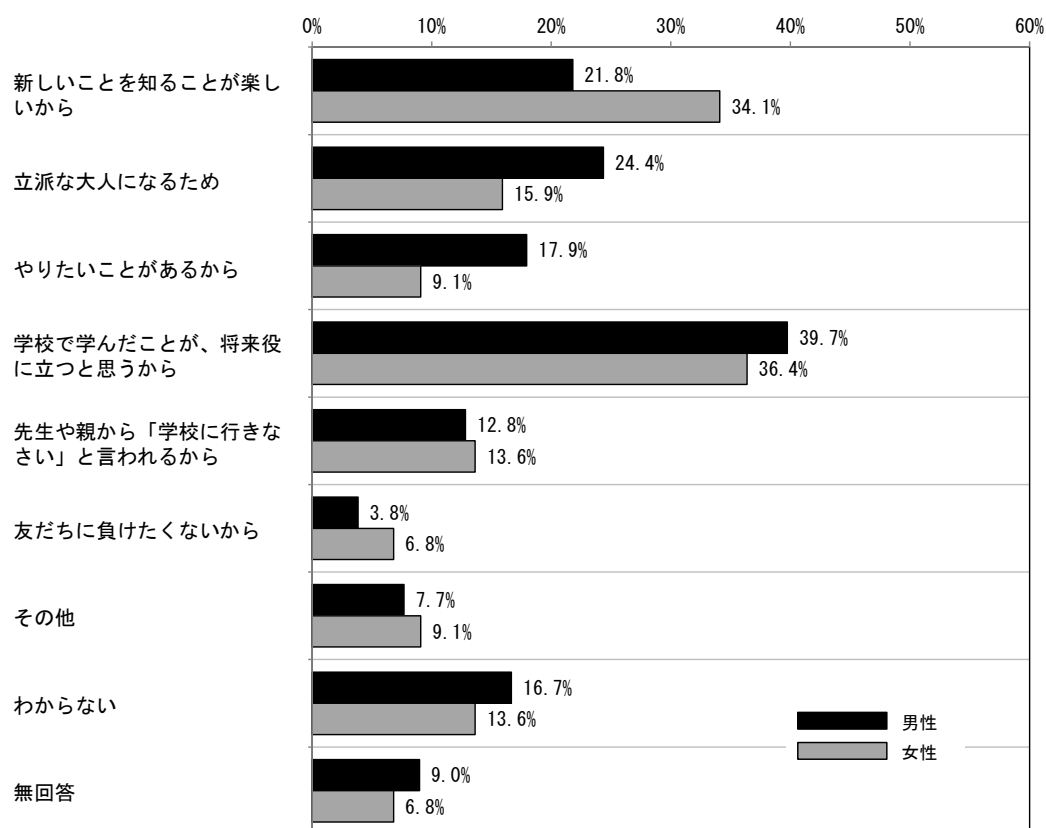


図 I-99 学校に行く理由(特別支援学校児童・生徒)



I - 2 年代別集計（一般県民）

表 I-2 一般県民の年代別回答者数（人）

全体	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70 歳以上	無回答
1,233	32	164	223	230	310	246	28

I-2-1 「どのような大人になってほしいか」

一般県民による『どのような大人になってほしいか』についての回答結果を年代別で比較したところ、回答の割合が高かった項目は、20 歳代では「人を思いやる心をもっている」（71.9%）、「社会のルールやマナーを守る」（62.5%）、「困難を乗り越えることができる」（43.8%）、30 歳代では「人を思いやる心をもっている」（79.3%）、「困難を乗り越えることができる」（56.1%）、「社会のルールやマナーを守る」（56.1%）、40 歳代では「人を思いやる心をもっている」（73.5%）、「困難を乗り越えることができる」（61.0%）、「社会のルールやマナーを守る」（59.6%）、50 歳代では「社会のルールやマナーを守る」（68.7%）、「人を思いやる心をもっている」（64.3%）、「困難を乗り越えることができる」（51.3%）、60 歳代では「人を思いやる心をもっている」（68.7%）、「社会のルールやマナーを守る」（62.6%）、「健康なからだや体力を備えている」（44.8%）、70 歳以上では「人を思いやる心をもっている」（62.6%）、「社会のルールやマナーを守る」（62.2%）、「困難を乗り越えることができる」（48.8%）であった。（図 I-100, 101 参照）

図 I-100 どのような大人になってほしいか ①

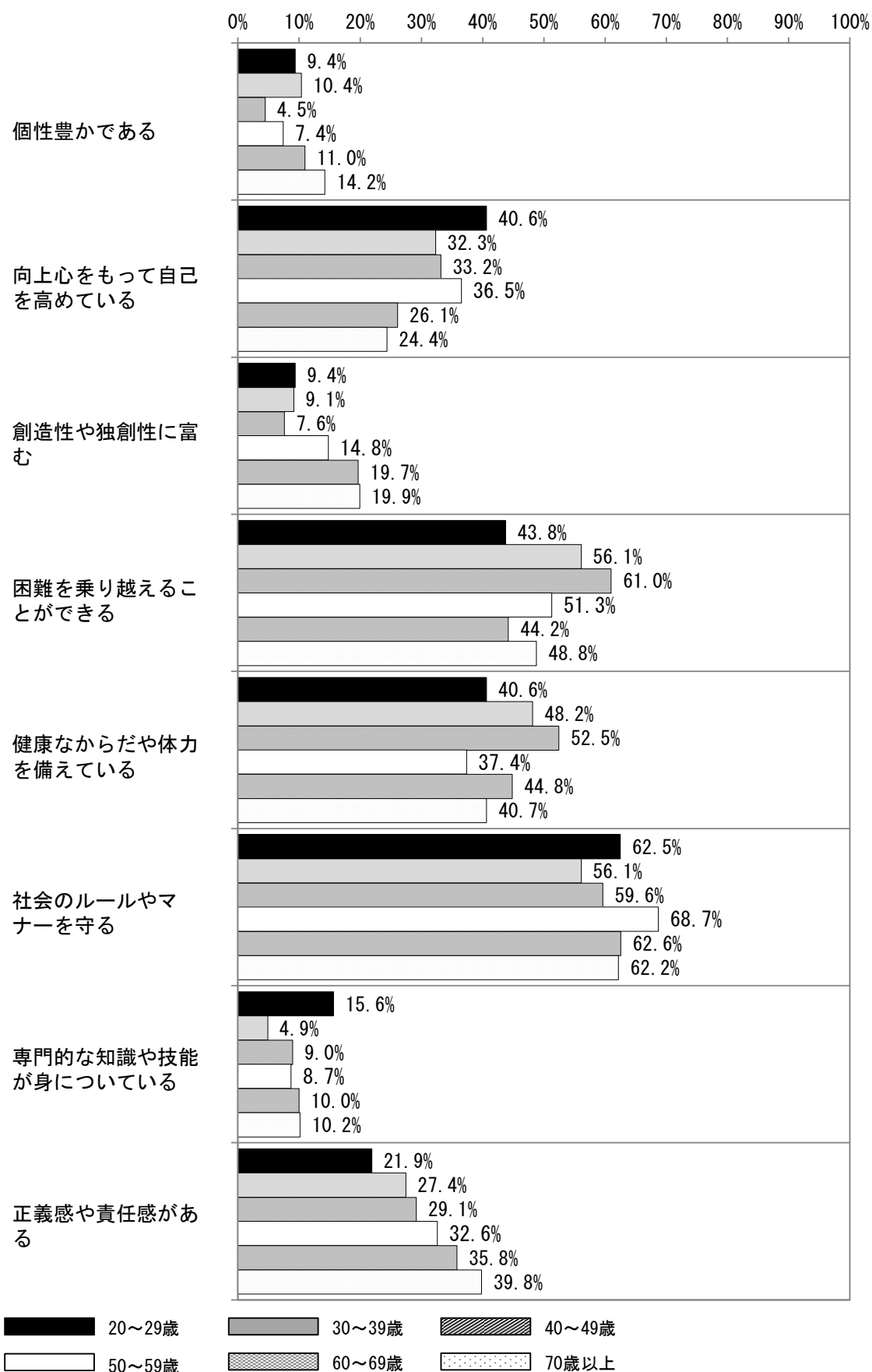
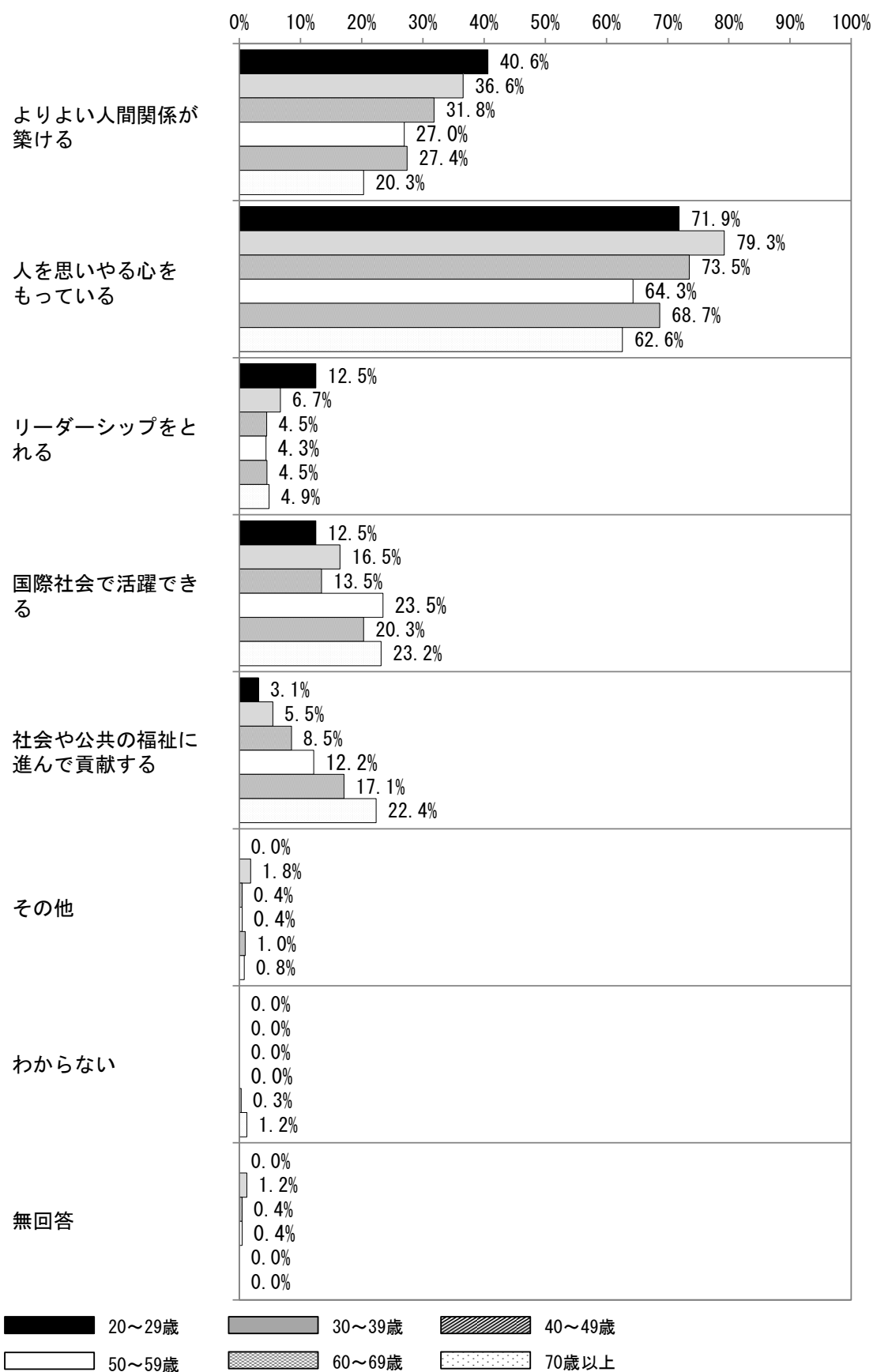


図 I-101 どのような大人になってほしいか ②



I-2-2 「学校の役割・家庭の役割」

一般県民に対して、それぞれの項目が『学校の役割であるか、家庭の役割であるか』を聞き、回答結果を年代別で比較した。

「主として家庭」と「どちらかという和家庭」との回答の合計の割合が高かった項目は、20歳代では、「基本的な生活習慣」(100.0%)、「社会のルールやマナー」(56.2%)、「人を思いやる心」(53.1%)、30歳代では、「基本的な生活習慣」(94.6%)、「人を思いやる心」(76.8%)、「社会のルールやマナー」(69.5%)、40歳代では、「基本的な生活習慣」(97.3%)、「人を思いやる心」(86.1%)、「社会のルールやマナー」(83.9%)、50歳代では、「基本的な生活習慣」(99.2%)、「人を思いやる心」(86.6%)、「社会のルールやマナー」(80.8%)、60歳代では、「基本的な生活習慣」(96.7%)、「人を思いやる心」(87.4%)、「社会のルールやマナー」(69.1%)、70歳以上では、「基本的な生活習慣」(94.8%)、「人を思いやる心」(82.5%)、「社会のルールやマナー」(70.3%)であった。

「主として学校」と「どちらかという学校」との回答の合計の割合が高かった項目は、20歳代では「友達をつくり、人間関係を築く力」(90.7%)、「健康に関する知識や体力・運動能力」(84.4%)、「受験に必要な学力」(81.2%)であり、30歳代では「友達をつくり、人間関係を築く力」(83.5%)、「受験に必要な学力」(78.7%)、「学ぶ意欲や学習の習慣」(75.6%)、40歳代では「友達をつくり、人間関係を築く力」(83.8%)、「受験に必要な学力」(79.8%)、「英会話など実践的な語学力」(74.0%)、50歳代では「将来の職業に役立つ知識・技能」(86.1%)、「受験に必要な学力」(85.6%)、「友達をつくり、人間関係を築く力」(83.5%)、60歳代では「将来の職業に役立つ知識・技能」(87.1%)、「受験に必要な学力」(84.9%)、「英会話など実践的な語学力」(80.0%)、70歳以上では「将来の職業に役立つ知識・技能」(86.9%)、「受験に必要な学力」(85.8%)、「友達をつくり、人間関係を築く力」(77.2%)、「英会話など実践的な語学力」(80.9%)であった。(図I-102～114参照)

図 I-102 基本的な生活習慣

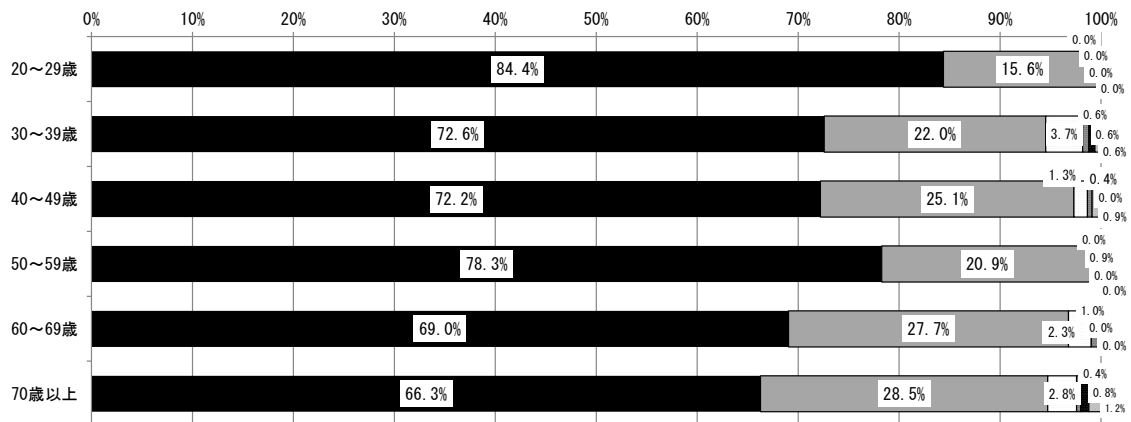
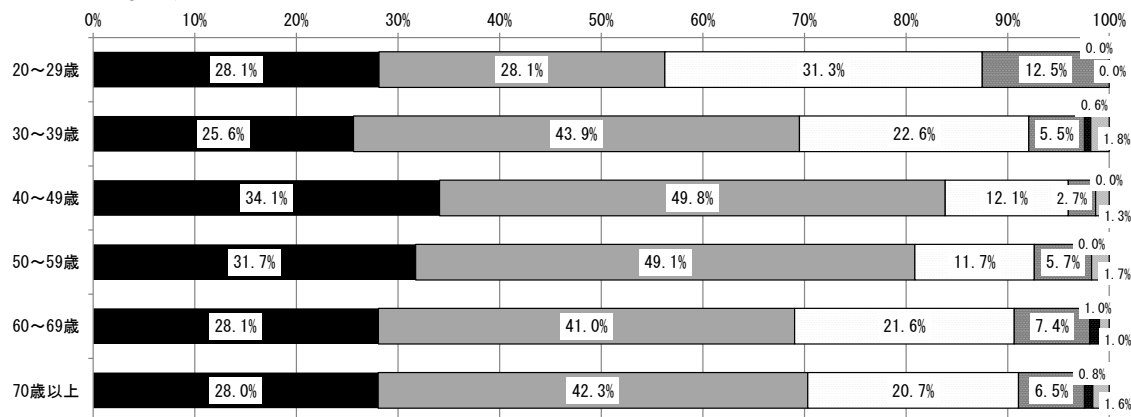


図 I-103 社会のルールやマナー



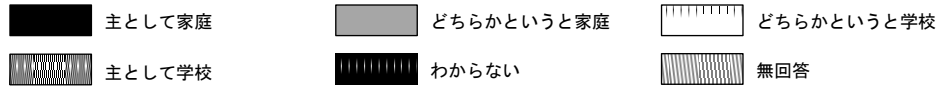


図 I-104 人を思いやる心

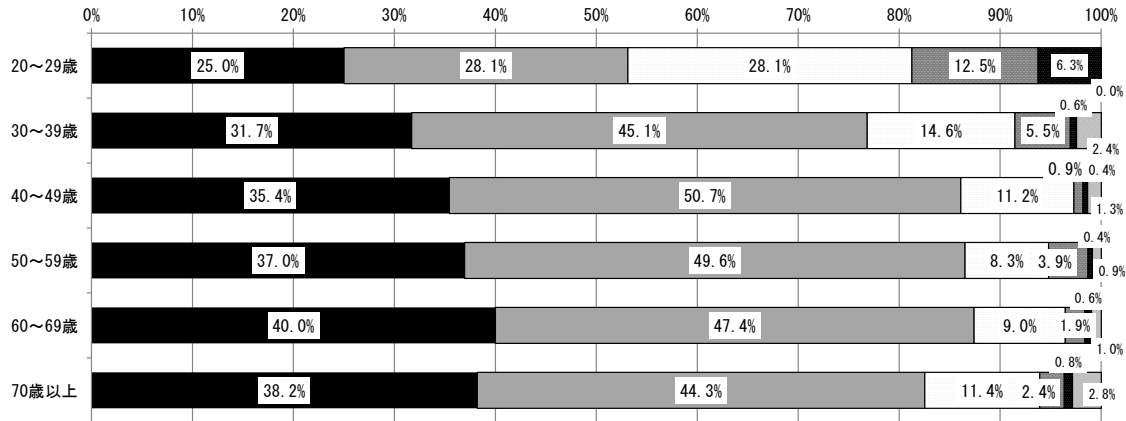


図 I-105 学ぶ意欲や学習の習慣

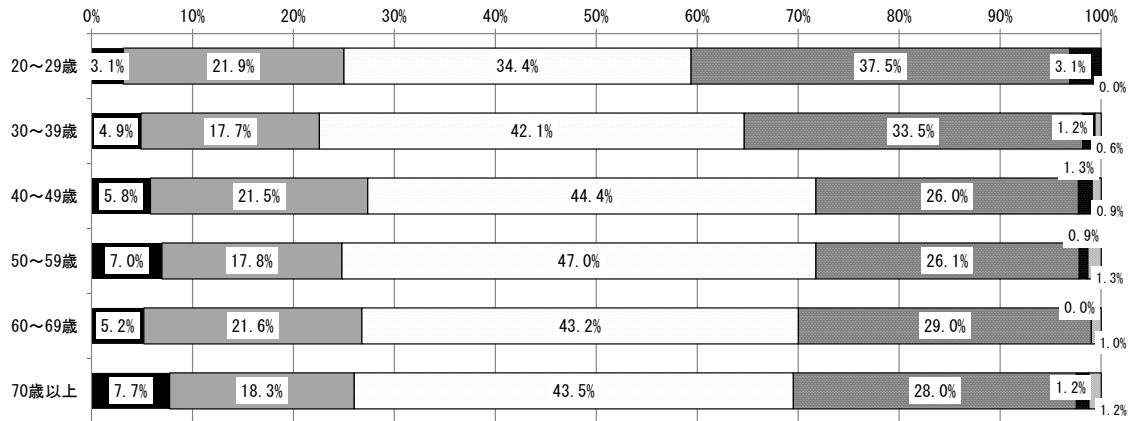


図 I-106 受験に必要な学力

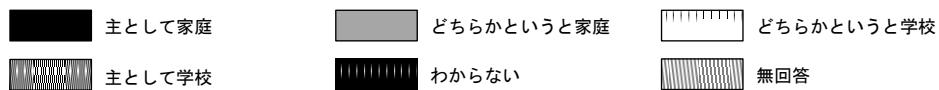
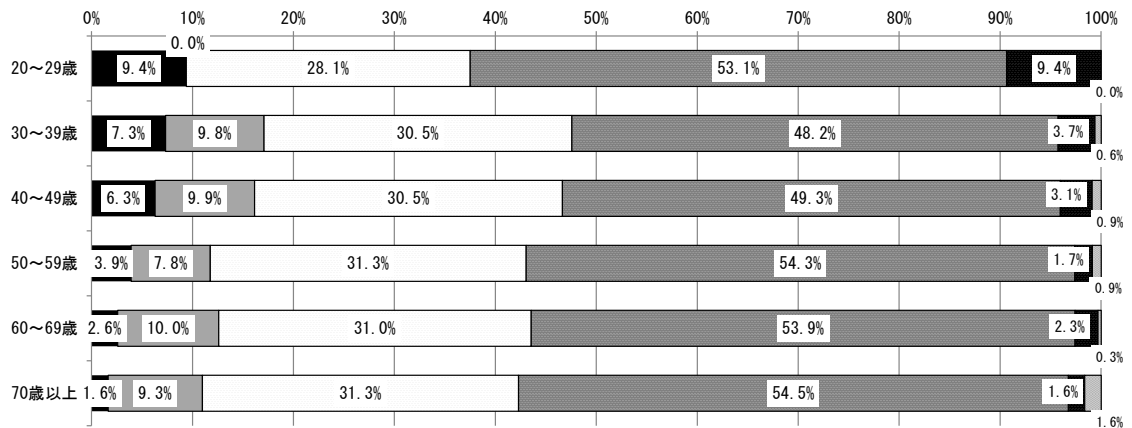


図 I-107 将来や進路について考える力

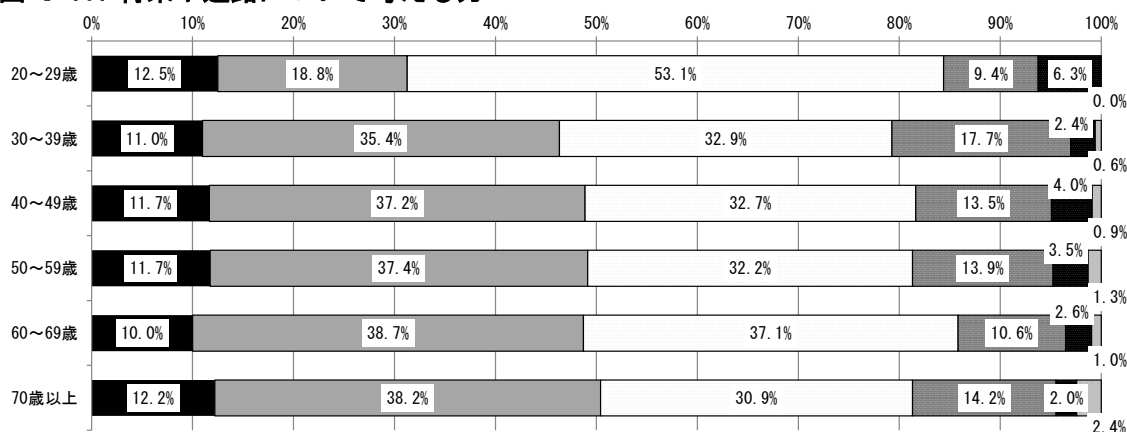


図 I-108 友達をつくり、人間関係を築く力

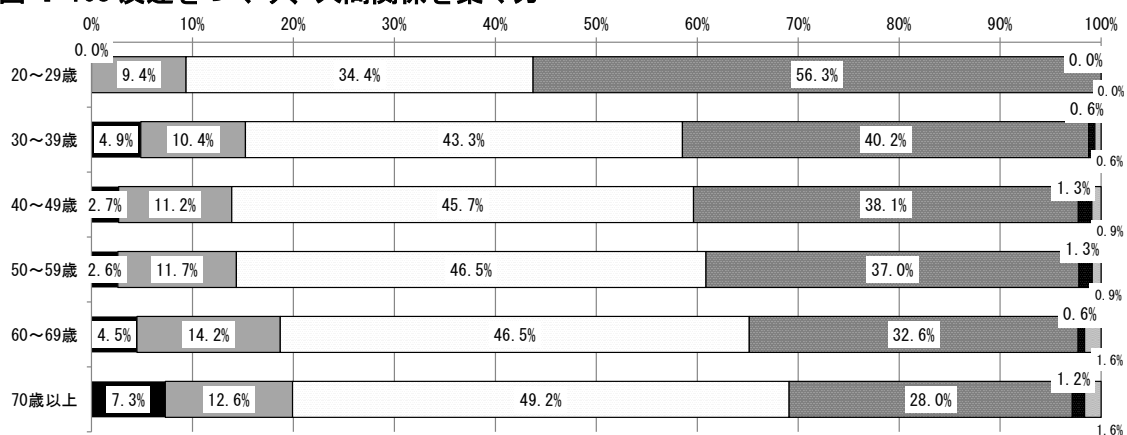
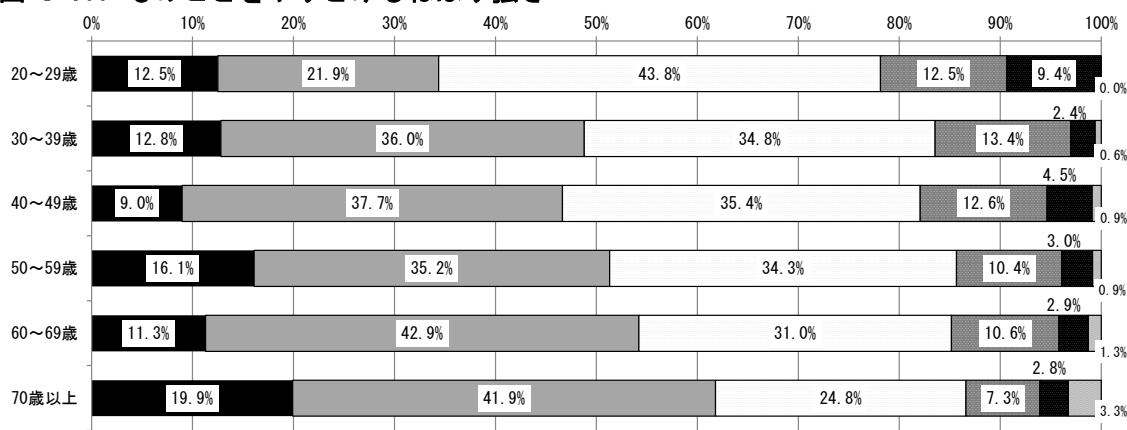


図 I-109 ものごとをやりとげるねばり強さ



主として家庭
 どちらかという和家庭
 どちらかという和学校
 主として学校
 わからない
 無回答

図 I-110 音楽や美術など芸術的な感性や能力

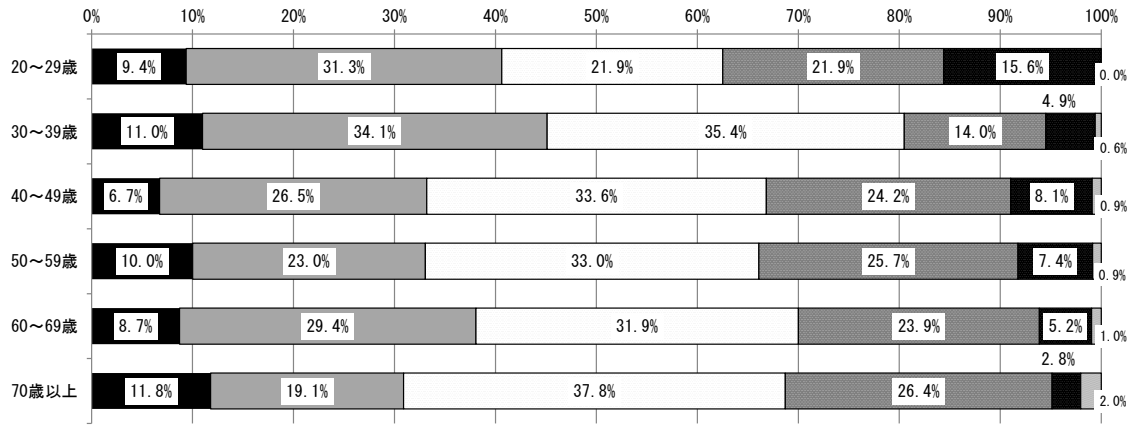


図 I-111 英会話など実践的な語学力

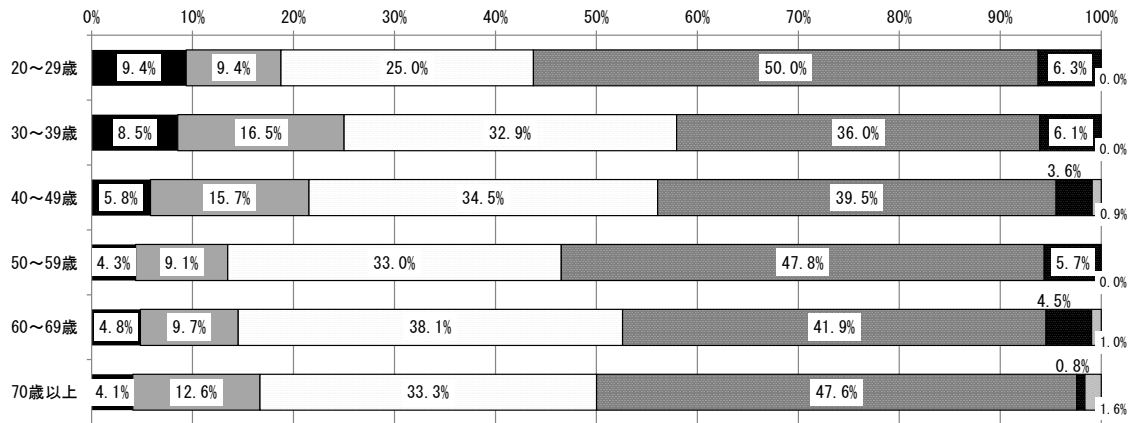
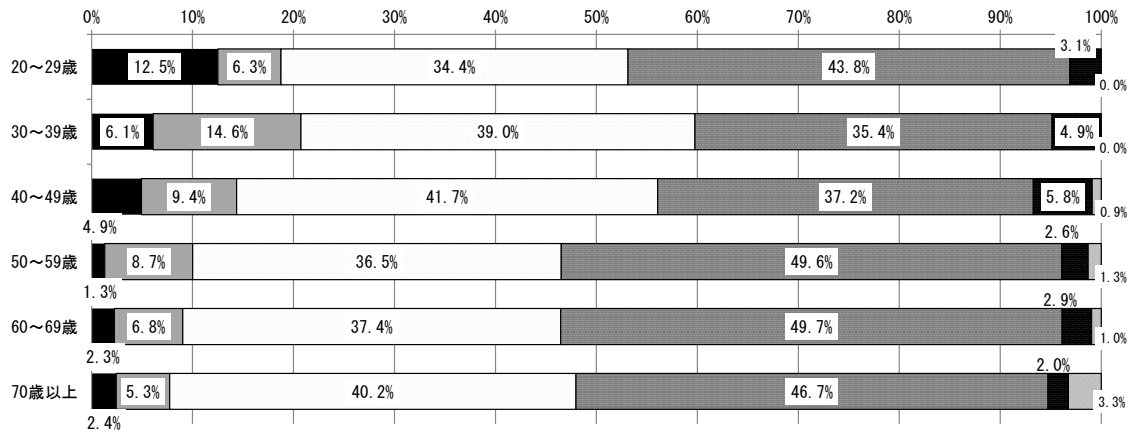


図 I-112 将来の職業に役立つ知識・技能



主として家庭
 どちらかという和家庭
 どちらかという学校
 主として学校
 わからない
 無回答

図 I-113 知識や感性・情操などを育む読書の習慣

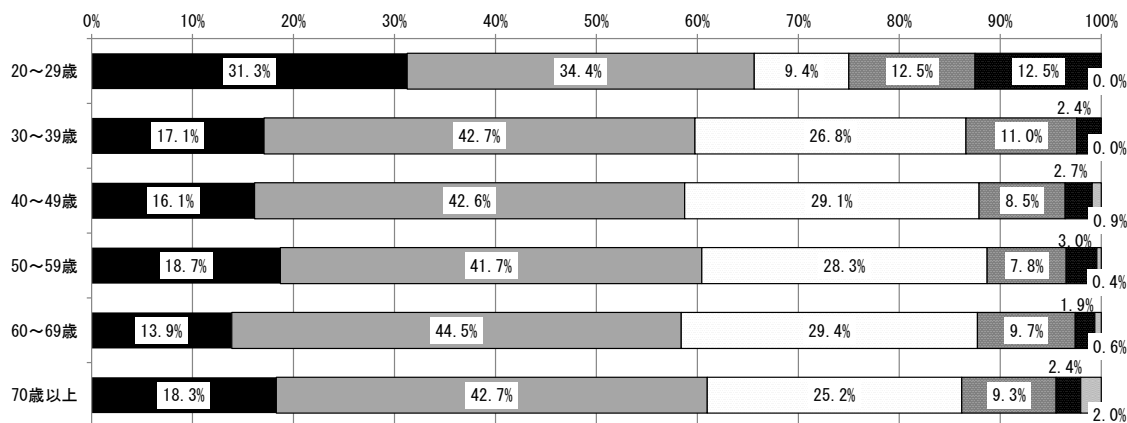
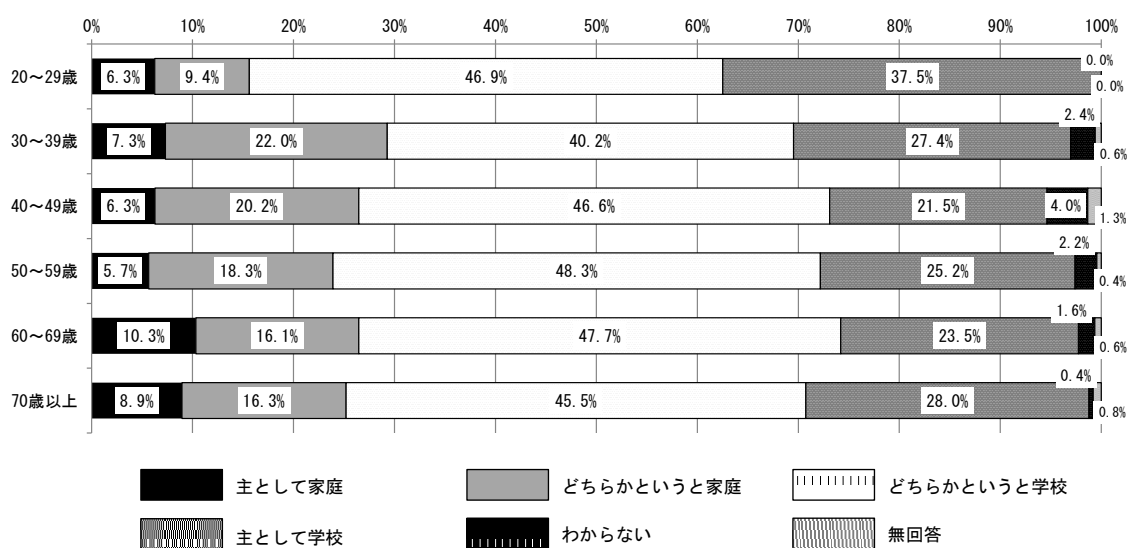


図 I-114 健康に関する知識や体力・運動能力



I-2-3 「教科やその他の活動の重点」

一般県民による『教科やその他の活動の重点』についての回答結果を年代別で比較したところ、回答の割合が高かった項目は、20歳代では「『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育」(71.9%)、「コミュニケーション能力を高める英語教育」(56.3%)、「健やかな心と体を育む教育」(40.6%)であり、30歳代では「『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育」(61.6%)、「コミュニケーション能力を高める英語教育」(51.8%)、「豊かな心を育む道德教育」(48.2%)、40歳代では「『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育」(65.9%)、「コミュニケーション能力を高める英語教育」(51.6%)、「豊かな心を育む道德教育」(45.3%)、50歳代では「『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育」(64.3%)、「コミュニケーション能力を高める英語教育」(49.1%)、「豊かな心を育む道德教育」(49.1%)、60歳代では「『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育」(69.7%)、「豊かな心を育む道德教育」(53.2%)、「健やかな心と体を育む教育」(47.4%)、70歳以上では「『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育」(74.4%)、「豊かな心を育む道德教育」(60.2%)、「健やかな心と体を育む教育」(49.2%)であった。(図I-115～116参照)

図 I-115 教科やその他の活動の重点 ①

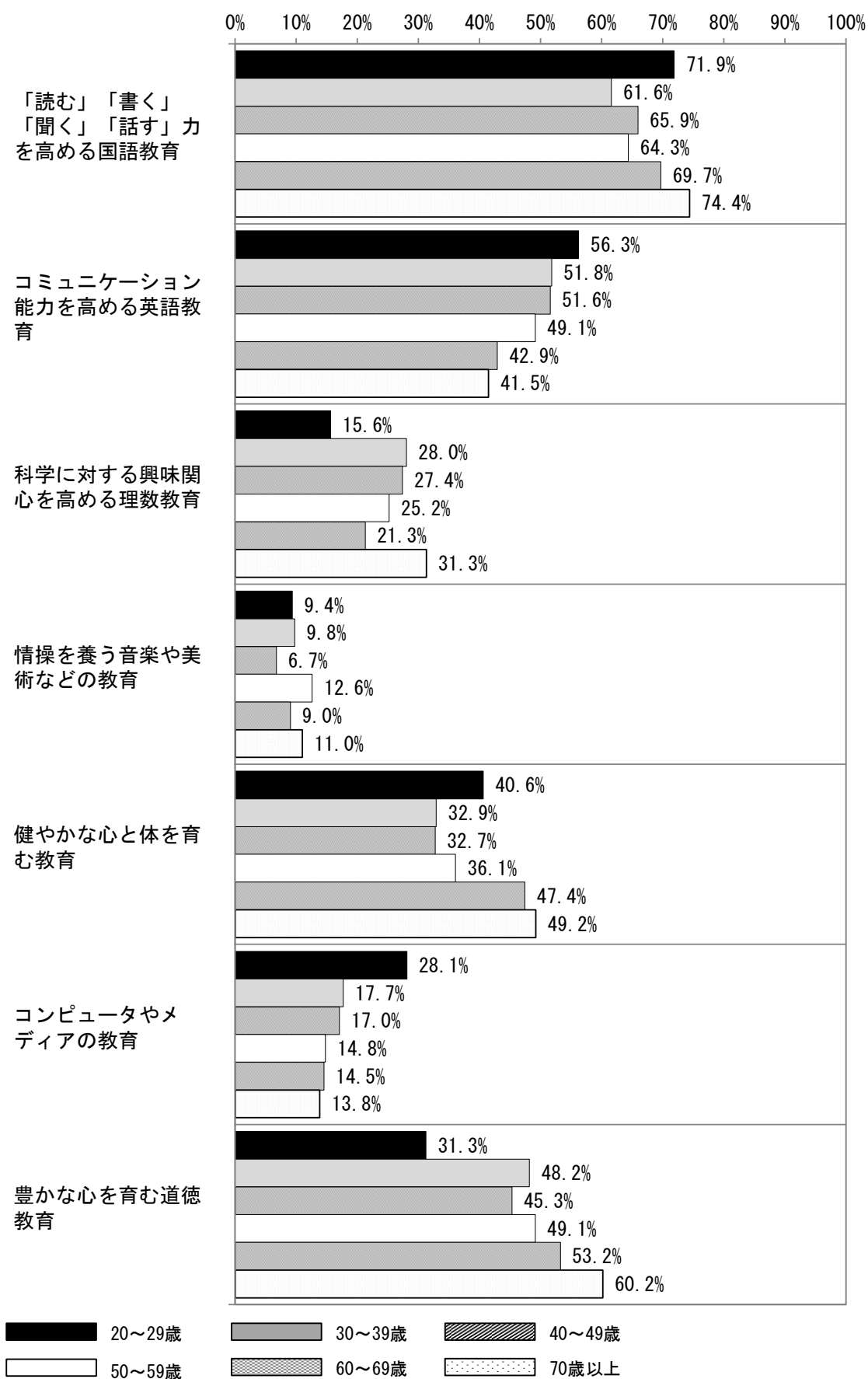
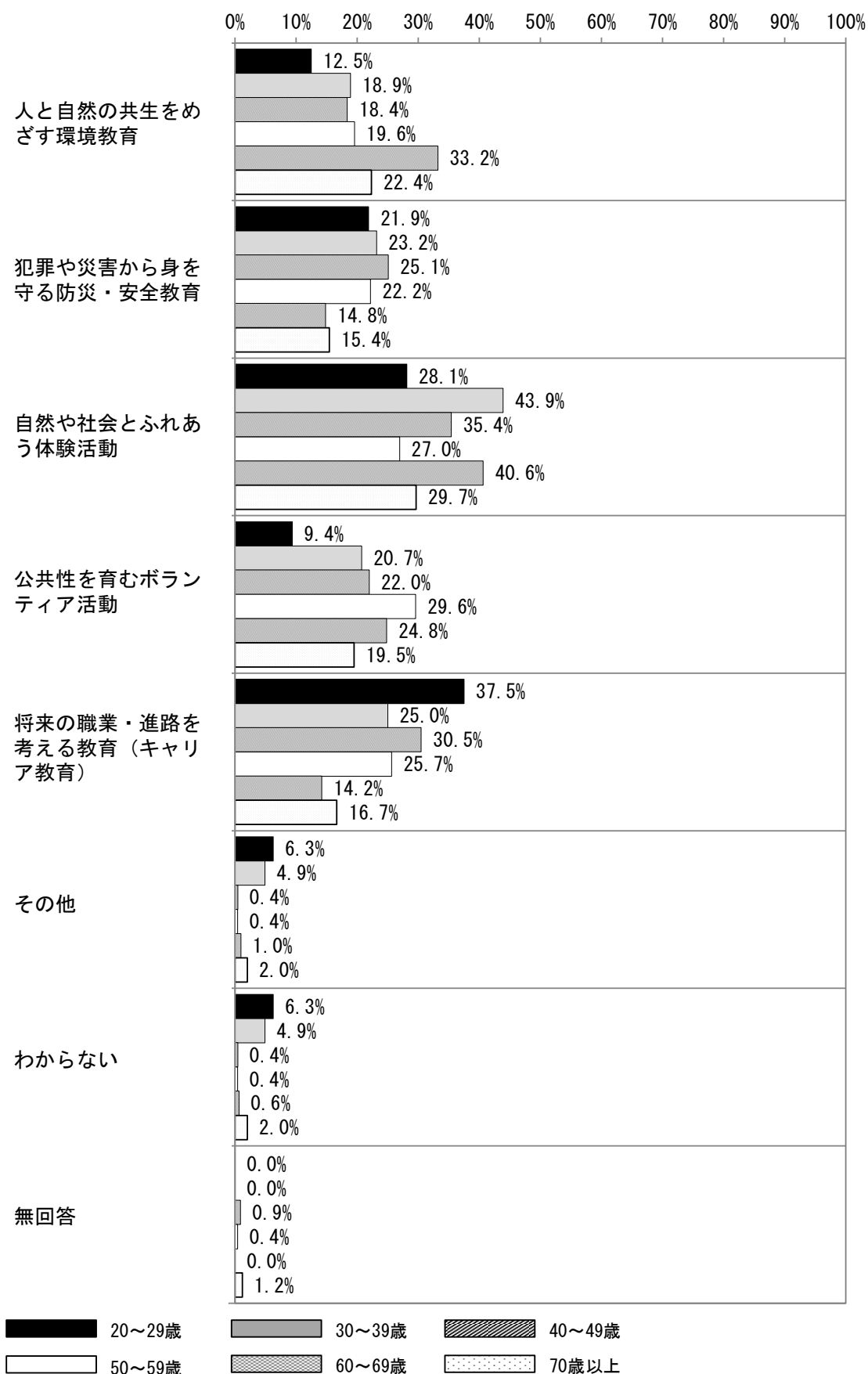


図 I-116 教科やその他の活動の重点 ②



I-2-4 「望ましい教員像」

一般県民による『望ましい教員像』についての回答結果を年代別で比較したところ、回答の割合が高かった項目は、20歳代では「子どもをよく理解し、適切に対処・指導している」(46.9%)、「わかりやすい授業をしている」(40.6%)、「子どもに社会のルールやマナーを身につけさせている」(37.5%)、「信頼され、尊敬される人格をもっている」(37.5%)であり、30歳代では「子どもをよく理解し、適切に対処・指導している」(62.8%)、「子どものやる気を引き出し、意欲を高めている」(57.9%)、「信頼され、尊敬される人格をもっている」(40.2%)、40歳代では「子どもをよく理解し、適切に対処・指導している」(61.0%)、「子どものやる気を引き出し、意欲を高めている」(54.3%)、「信頼され、尊敬される人格をもっている」(44.8%)、50歳代では「子どものやる気を引き出し、意欲を高めている」(59.6%)、「子どもをよく理解し、適切に対処・指導している」(56.5%)、「信頼され、尊敬される人格をもっている」(45.2%)、60歳代では「子どものやる気を引き出し、意欲を高めている」(57.4%)、「子どもをよく理解し、適切に対処・指導している」(50.6%)、「子どもに社会のルールやマナーを身につけさせている」(46.1%)、70歳以上では「子どものやる気を引き出し、意欲を高めている」(55.7%)、「信頼され、尊敬される人格をもっている」(47.2%)、「子どもをよく理解し、適切に対処・指導している」(46.7%)であった。(図I-117, 118 参照)

図 I-117 望ましい教員像 ①

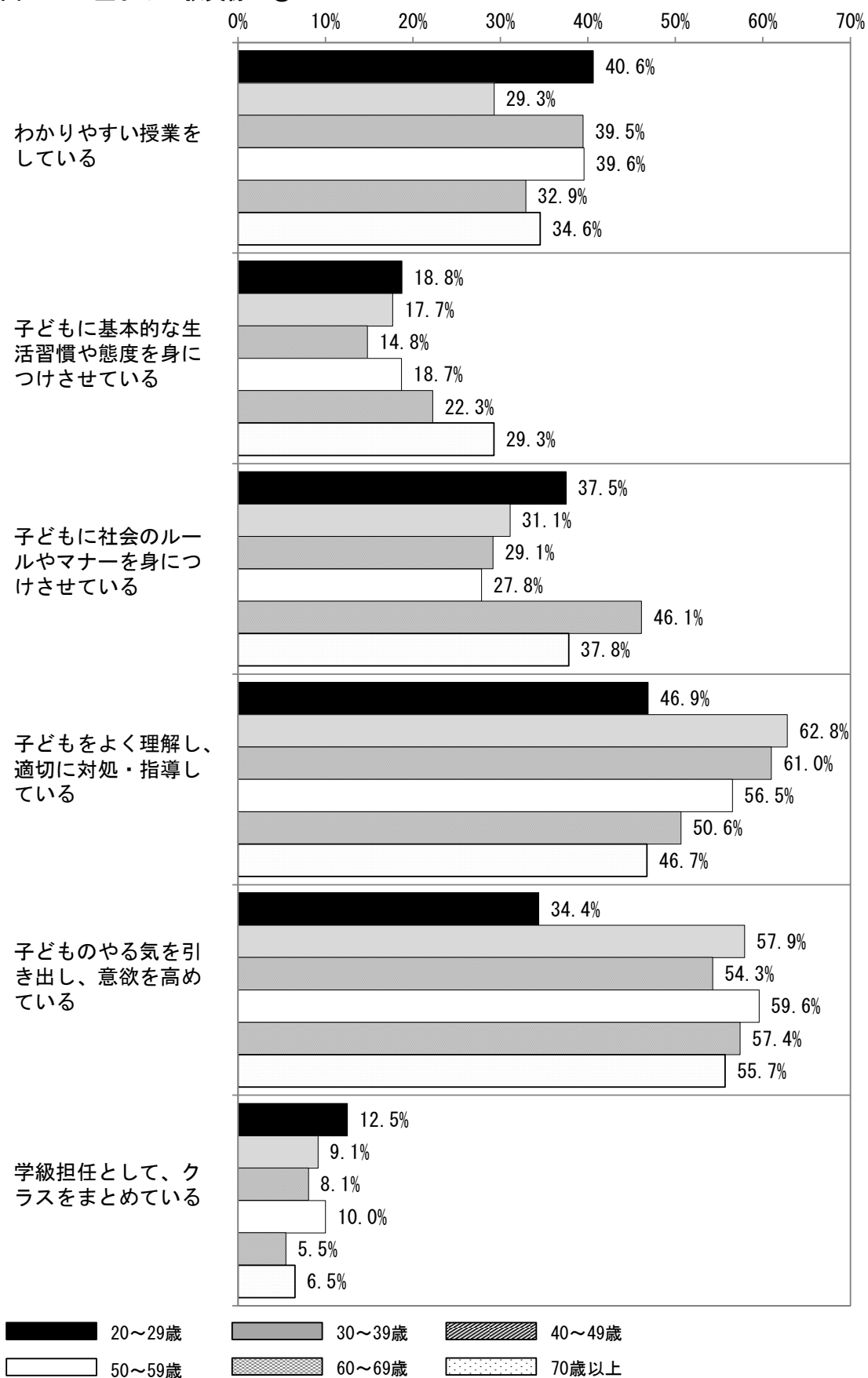
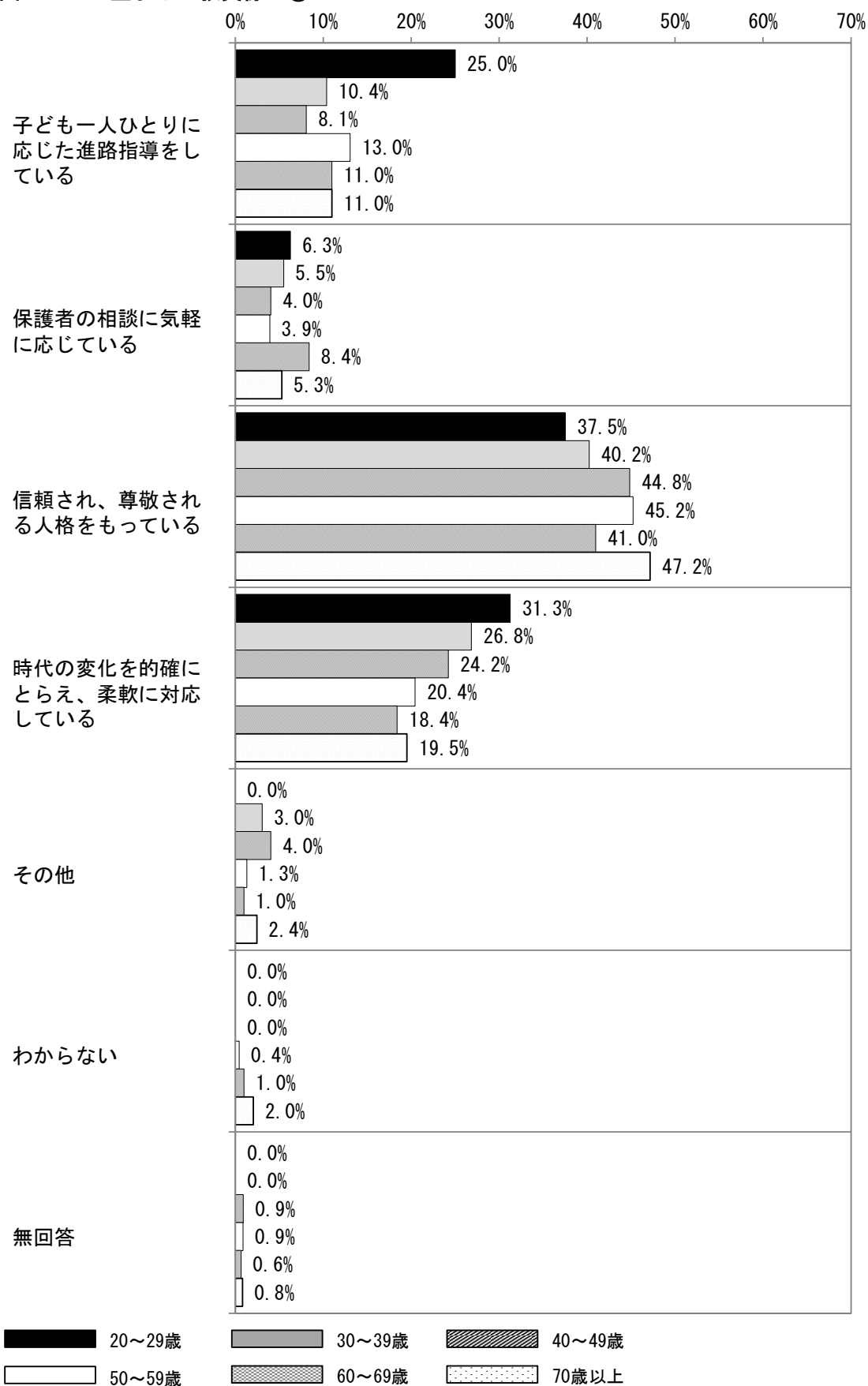


図 I-118 望ましい教員像 ②



I-2-5 「学校、家庭、地域との連携」

一般県民による『学校、家庭、地域との連携』についての回答結果を年代別で比較したところ、回答の割合が高かった項目は、20歳代では「学校、家庭、地域が協力して行事などをつくる」(34.4%)、「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」(31.3%)、「老人ホームや保育所などで体験的な学習の機会をつくる」(28.1%)であり、30歳代では「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」(54.3%)、「学校、家庭、地域が協力して行事などをつくる」(37.2%)、「家庭、地域が学校運営に積極的に関わることのできるしくみをつくる」(26.8%)、40歳代では「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」(50.7%)、「学校、家庭、地域が協力して行事などをつくる」(29.6%)、「老人ホームや保育所などで体験的な学習の機会をつくる」(25.6%)、「家庭、地域が学校運営に積極的に関わることのできるしくみをつくる」(25.6%)、50歳代では「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」(42.2%)、「家庭や地域の人が特技や能力を生かして学校の授業に協力する」(33.9%)、「保護者が学校の教育活動や地域の行事に積極的に参加する」(29.6%)、60歳代では「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」(44.8%)、「家庭や地域の人が特技や能力を生かして学校の授業に協力する」(30.6%)、「保護者が学校の教育活動や地域の行事に積極的に参加する」(29.0%)、70歳以上では「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」(49.6%)、「学校、家庭、地域の話し合いの場を増やす」(36.2%)、「学校・家庭と一体となって、地域が教育に当たれるように強化・再生をめざす」(30.5%)であった。(図 I-119, 120 参照)

図 I-119 学校、家庭、地域との連携 ①

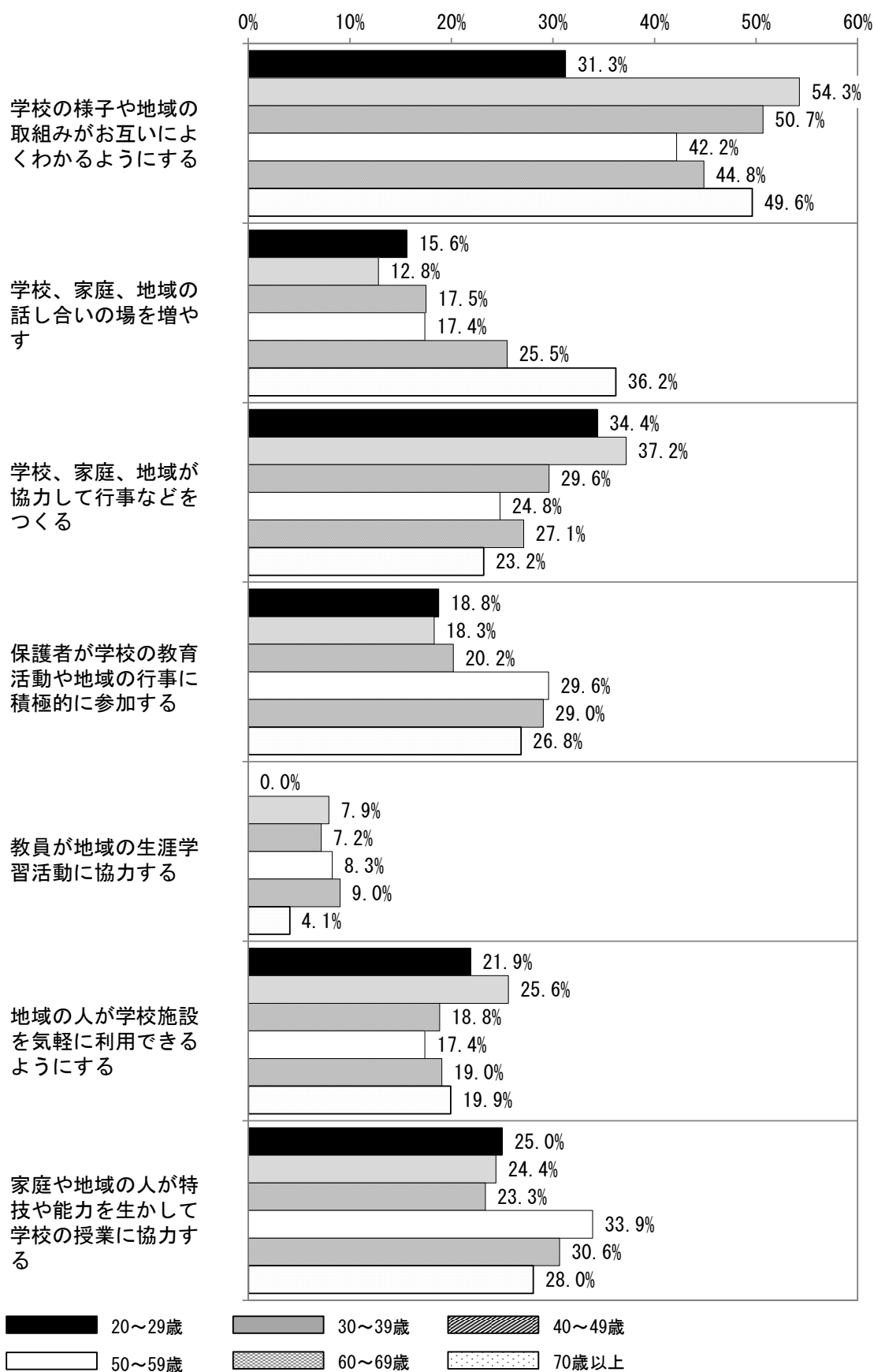
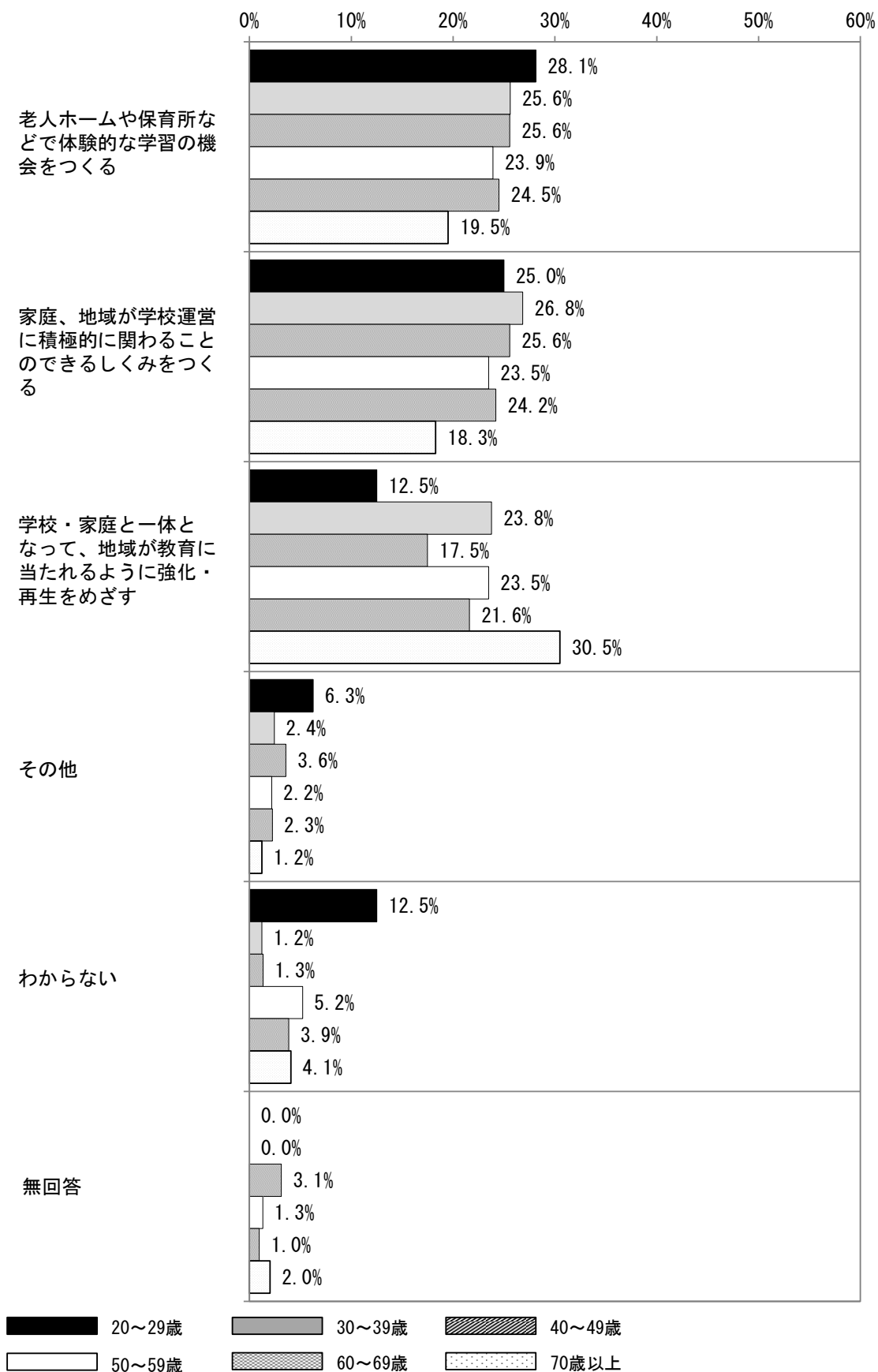


図 I-120 学校、家庭、地域との連携 ②



I-2-6 「地域で活動できること」

一般県民による『地域で活動できること』についての回答結果を年代別で比較したところ、回答の割合が高かった項目は、20歳代では「子どもたちへのあいさつなどの声かけ」(59.4%)、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」(56.3%)、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」(37.5%)であり、30歳代では「子どもたちへのあいさつなどの声かけ」(71.3%)、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」(54.9%)、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」(43.3%)、40歳代では「子どもたちへのあいさつなどの声かけ」(72.2%)、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」(60.5%)、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」(47.1%)、50歳代では「子どもたちへのあいさつなどの声かけ」(65.2%)、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」(53.9%)、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」(43.5%)、60歳代では「子どもたちへのあいさつなどの声かけ」(68.4%)、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」(66.8%)、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」(51.9%)、70歳以上では「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」(71.5%)、「子どもたちへのあいさつなどの声かけ」(70.3%)、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」(57.3%)であった。(図 I-121, 122 参照)

図 I-121 「地域で活動できること」①

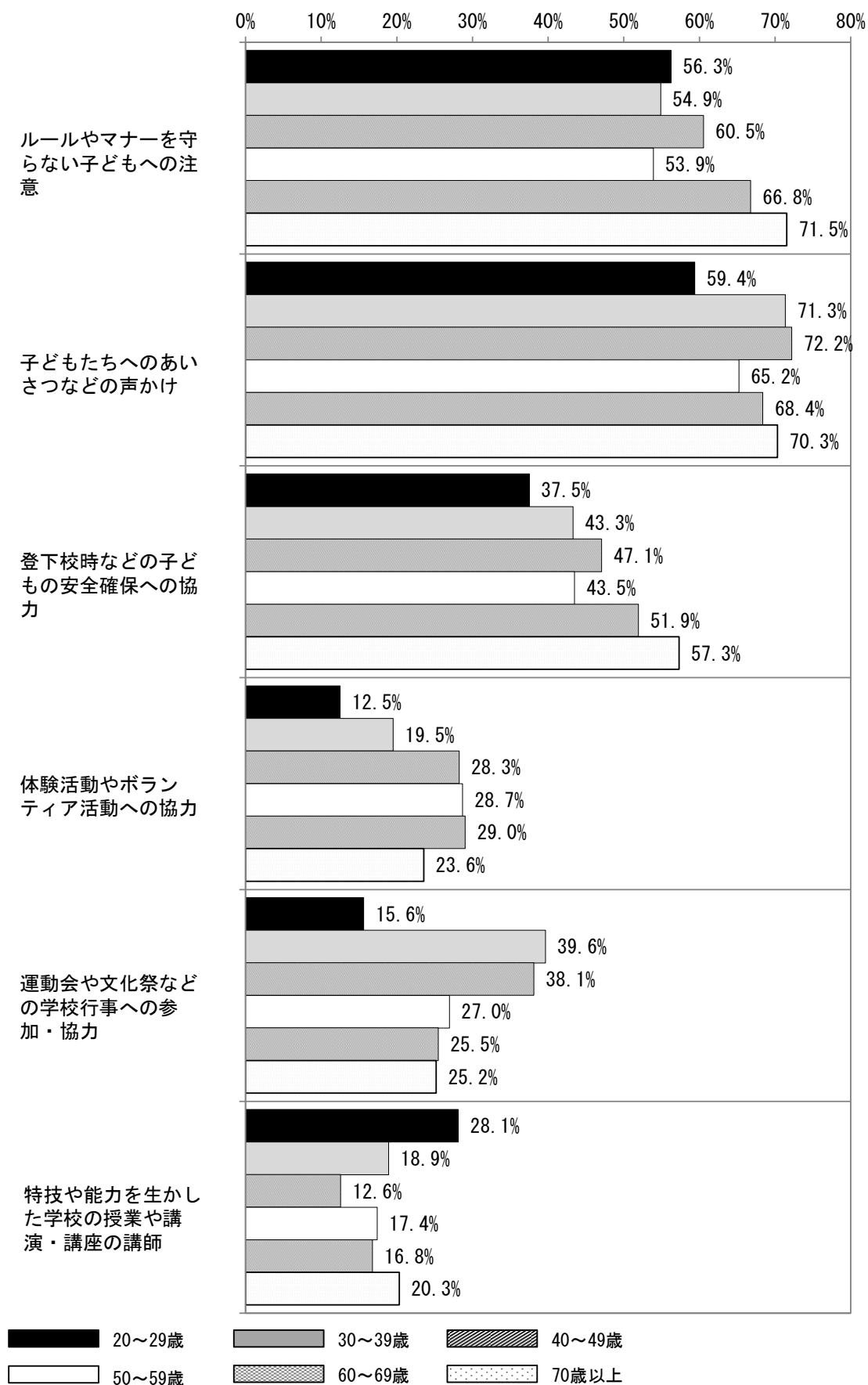
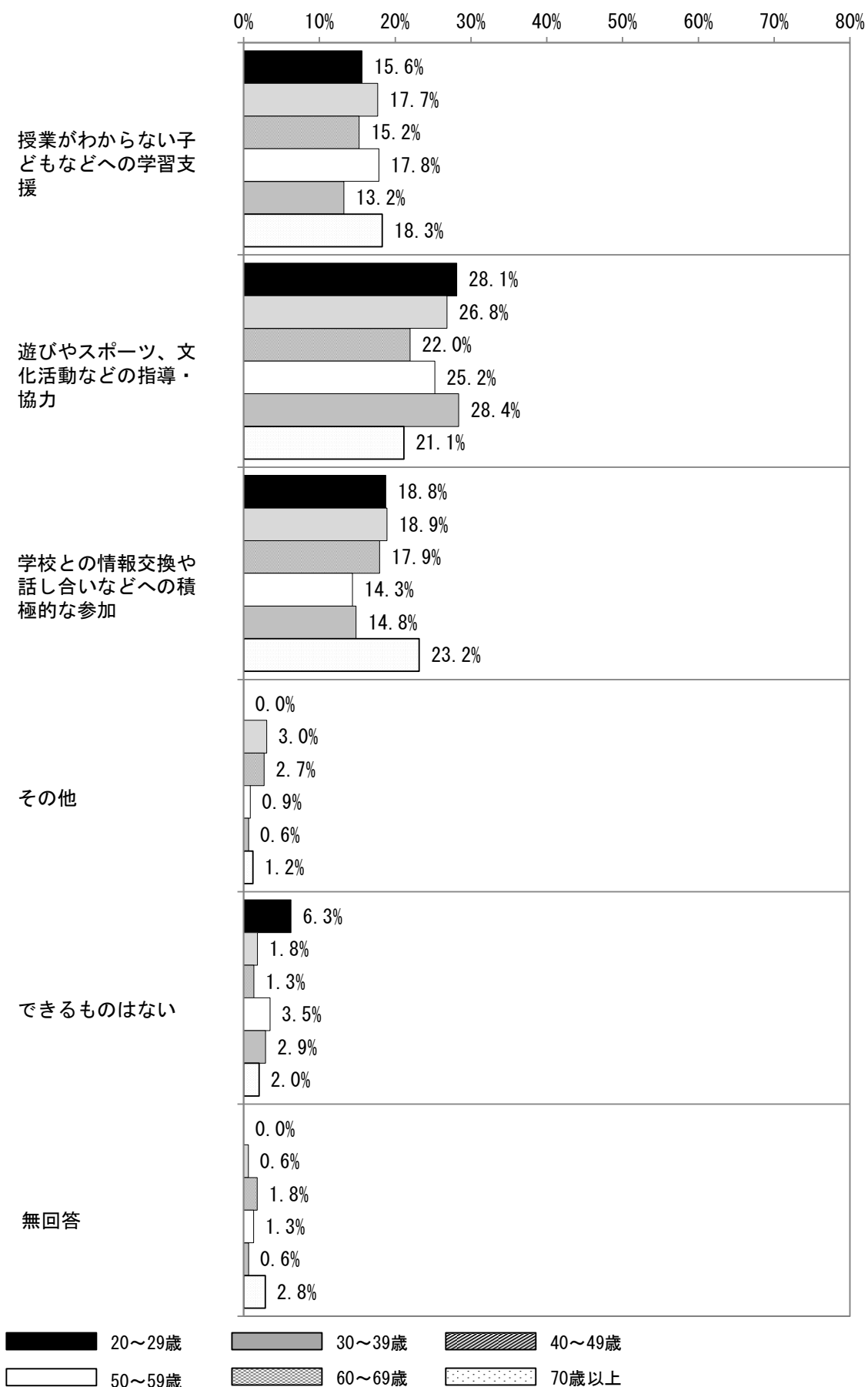


図 I-122 「地域で活動できること」②



I-2-7 「義務教育学校・高等学校のあり方」

一般県民による『義務教育学校・高等学校のあり方』についての回答結果を年代別で比較したところ、「そう思う」と「どちらかというと思う」の回答の割合の合計が高かった項目は、20歳代では「各学校では、外部の意見や評価を生かし、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざすべきだ」(84.4%)、「生徒の個性化・多様化に対応しながらも、誰もが身につけるべき共通的な資質・能力の定着を重視した高等学校づくりをめざすべきだ」(75.0%)、「各学校では、保護者や地域住民が学校運営に参画し、協働して地域とともにある学校づくりをめざすべきだ」(59.4%)であり、30歳代では「各学校では、外部の意見や評価を生かし、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざすべきだ」(78.0%)、「生徒の個性化・多様化に対応しながらも、誰もが身につけるべき共通的な資質・能力の定着を重視した高等学校づくりをめざすべきだ」(73.2%)、「各学校では、保護者や地域住民が学校運営に参画し、協働して地域とともにある学校づくりをめざすべきだ」(61.0%)であった。

40歳代では「生徒の個性化・多様化に対応しながらも、誰もが身につけるべき共通的な資質・能力の定着を重視した高等学校づくりをめざすべきだ」(72.7%)、「各学校では、外部の意見や評価を生かし、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざすべきだ」(71.8%)、「各学校では、保護者や地域住民が学校運営に参画し、協働して地域とともにある学校づくりをめざすべきだ」(51.2%)であり、50歳代では「生徒の個性化・多様化に対応しながらも、誰もが身につけるべき共通的な資質・能力の定着を重視した高等学校づくりをめざすべきだ」(75.2%)、「各学校では、外部の意見や評価を生かし、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざすべきだ」(61.3%)、「各学校では、保護者や地域住民が学校運営に参画し、協働して地域とともにある学校づくりをめざすべきだ」(51.3%)であった。

60歳代では「生徒の個性化・多様化に対応しながらも、誰もが身につけるべき共通的な資質・能力の定着を重視した高等学校づくりをめざすべきだ」(77.1%)、「各学校では、外部の意見や評価を生かし、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざすべきだ」(69.1%)、「小学校や中学校の再編統合によって1校あたりの児童・生徒数を確保し、子ども同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ」(55.4%)であり、70歳以上では「生徒の個性化・多様化に対応しながらも、誰もが身につけるべき共通的な資質・能力の定着を重視した高等学校づくりをめざすべきだ」(78.0%)、「各学校では、外部の意見や評価を生かし、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざすべきだ」(70.3%)、「小学校や中学校の再編統合によって1校あたりの児童・生徒数を確保し、子ども同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ」(62.2%)であった。(図I-123~128参照)

図 I-123 小学校や中学校の再編統合によって1校あたりの児童・生徒数を確保し、子ども同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ

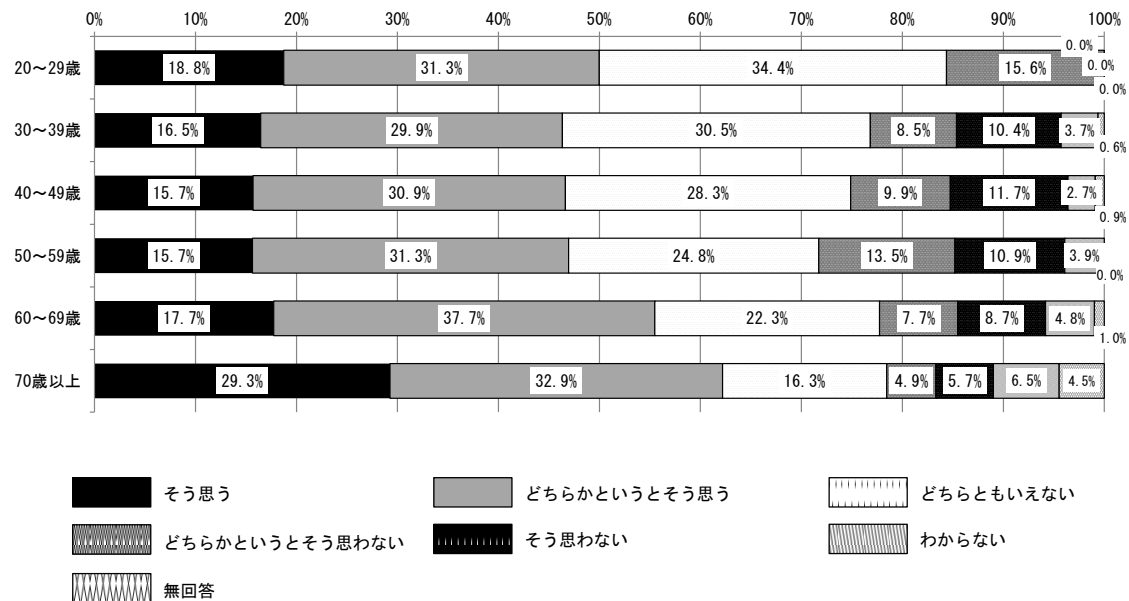


図 I-124 義務教育9年間を一元的に指導できる小中一貫教育校の設置・拡充をめざすべきだ

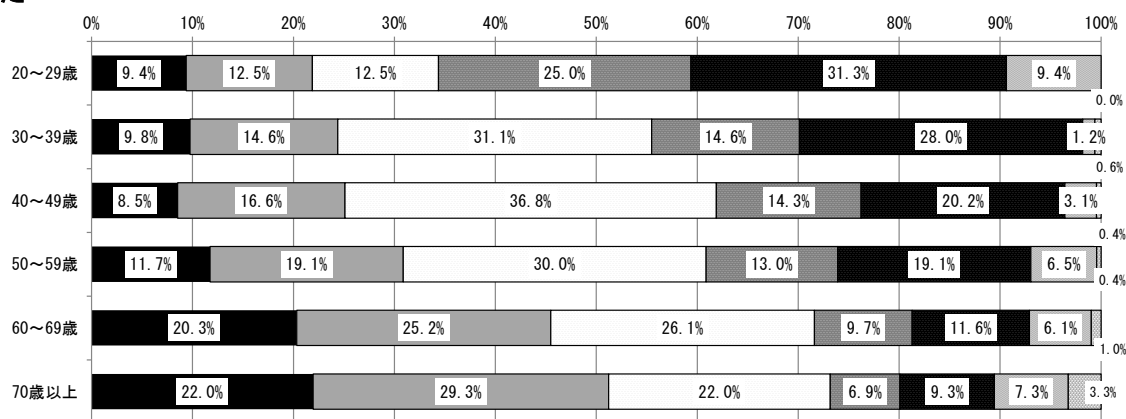


図 I-125 高等学校の新たな再編統合によって1校あたりの生徒数を確保し、生徒同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ

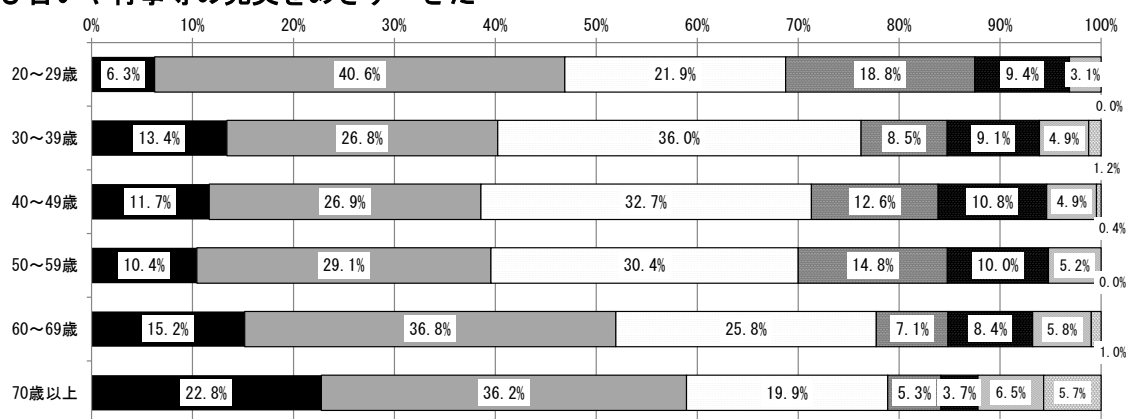
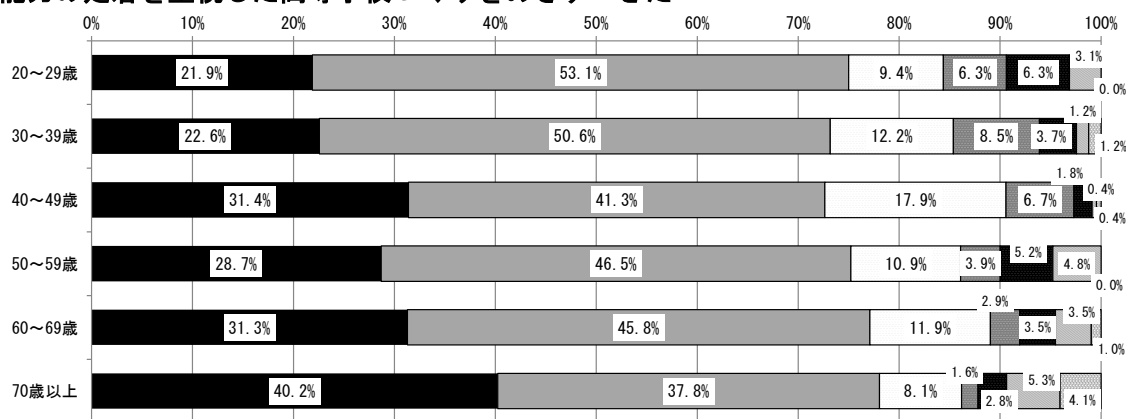


図 I-126 生徒の個性化・多様化に対応しながらも、誰もが身につけるべき共通的な資質・能力の定着を重視した高等学校づくりをめざすべきだ



そう思う
 どちらかというと思う
 どちらともいえない

どちらかというと思わない
 そう思わない
 わからない

無回答

図 I-127 各学校では、外部の意見や評価を生かし、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざすべきだ

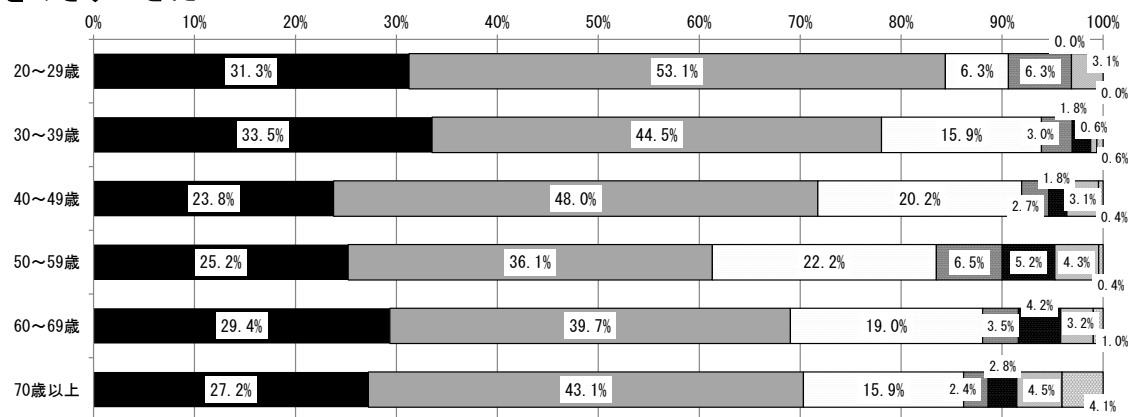
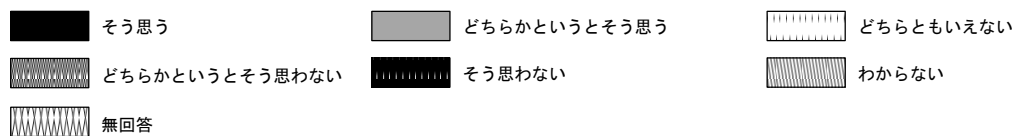
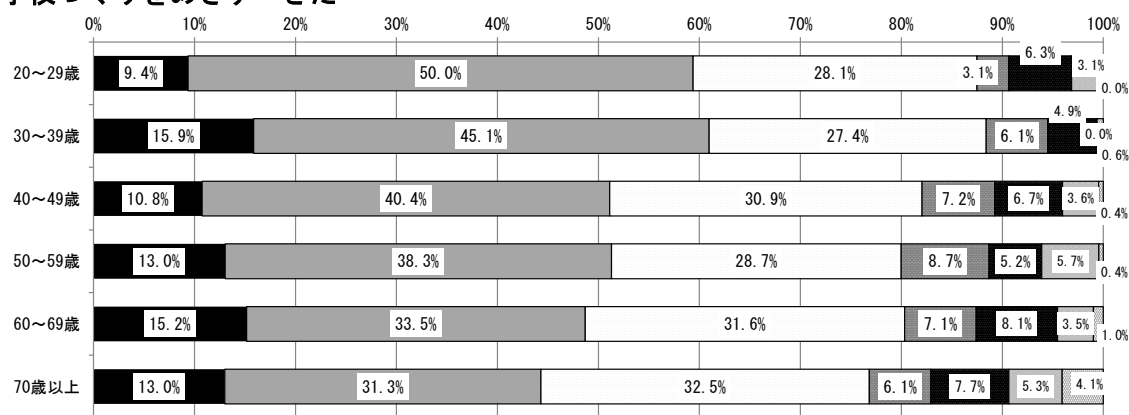


図 I-128 各学校では、保護者や地域住民が学校運営に参画し、協働して地域とともにある学校づくりをめざすべきだ



I-2-8 「県立（公立）高校と私立高校」

一般県民による『県立（公立）高校と私立高校』についての回答結果を年代別で比較したところ、「県立（公立）の方がよい」と回答した割合が高かった項目は、20歳代では「学校の特色や個性」（21.9%）、「生徒指導」（21.9%）、「学校の雰囲気」（21.9%）であり、30歳代では「学校の雰囲気」（12.8%）、「学校の行事・部活動」（11.6%）、「生徒指導」（11.6%）、40歳代では「就職」（9.0%）、「学校の行事・部活動」（8.5%）、「学校の雰囲気」（8.1%）、50歳代では「就職」（11.3%）、「学校の行事・部活動」（8.3%）、「学校の雰囲気」（5.7%）、60歳代では「就職」（11.6%）、「生徒指導」（11.3%）、「学校の行事・部活動」（8.7%）、「大学などへの進学」（8.7%）、70歳以上では「就職」（17.9%）、「大学などへの進学」（15.0%）、「学校の行事・部活動」（13.8%）であった。

一方、「私立の方がよい」と回答した割合が高かった項目は、20歳代では「施設や設備」（75.0%）、「学校の特色や個性」（50.0%）、「大学などへの進学」（50.0%）であり、30歳代では「施設や設備」（82.3%）、「学校の特色や個性」（58.5%）、「大学などへの進学」（50.0%）、40歳代では「施設や設備」（84.8%）、「学校の特色や個性」（67.3%）、「大学などへの進学」（51.1%）、50歳代では「施設や設備」（82.6%）、「学校の特色や個性」（69.1%）、「生徒指導」（51.7%）、60歳代では「施設や設備」（65.2%）、「学校の特色や個性」（59.0%）、「大学などへの進学」（47.7%）、70歳以上では「学校の特色や個性」（61.8%）、「施設や設備」（56.1%）、「大学などへの進学」（40.7%）であった。（図 I-129～138 参照）

図 I-129 学校の特色や個性

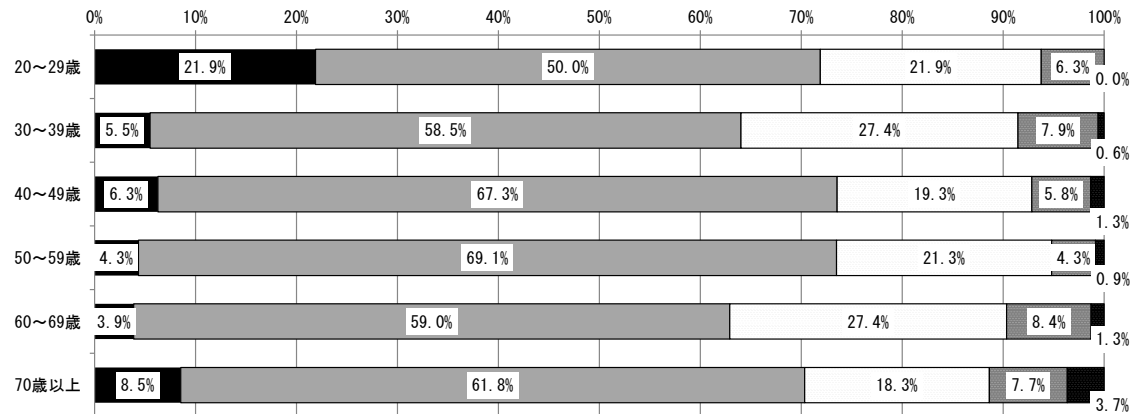
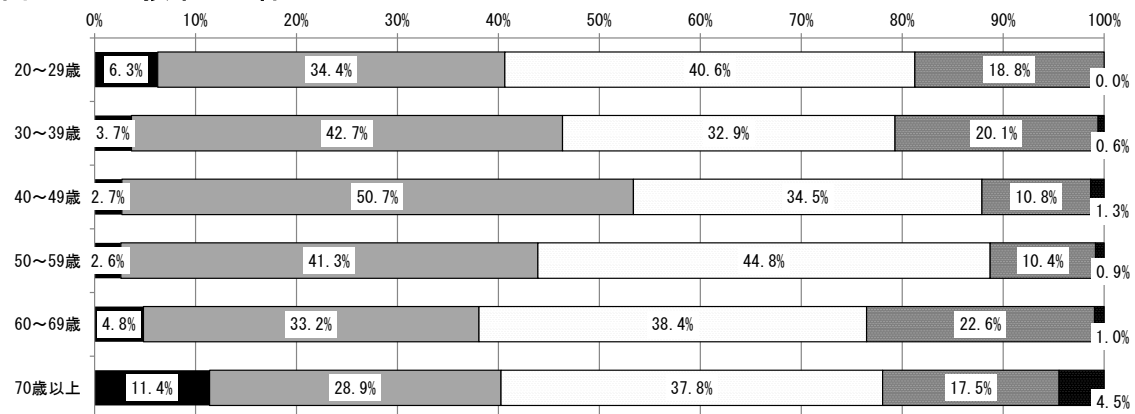


図 I-130 授業の内容



県立（公立）の方がよい
 私立の方がよい
 どちらともいえない

わからない
 無回答

図 I-131 学校の行事・部活動

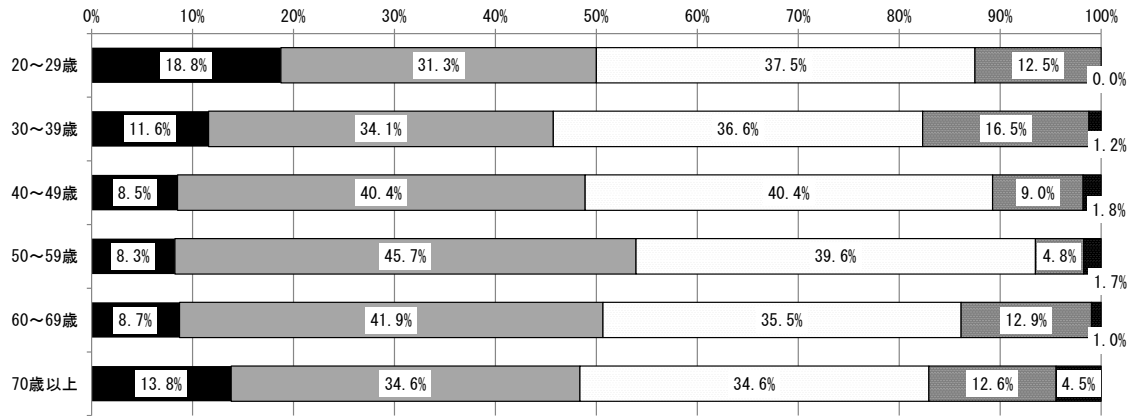


図 I-132 大学などへの進学

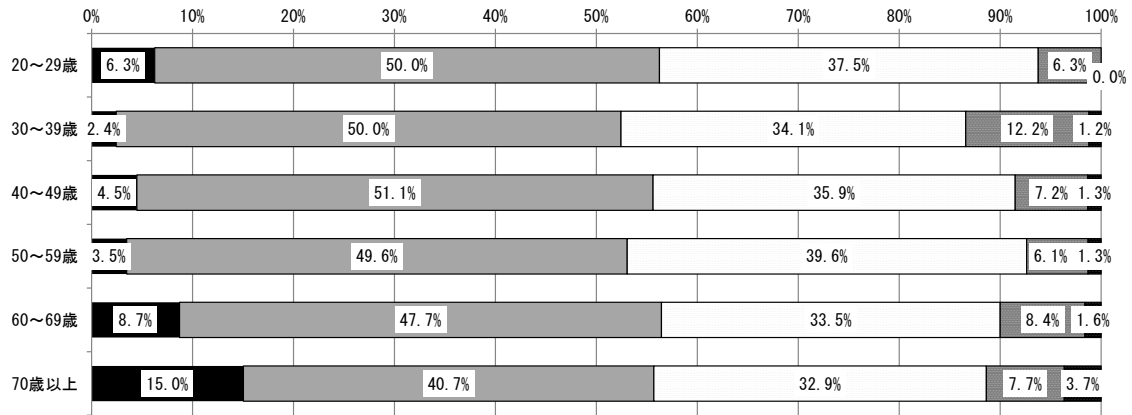
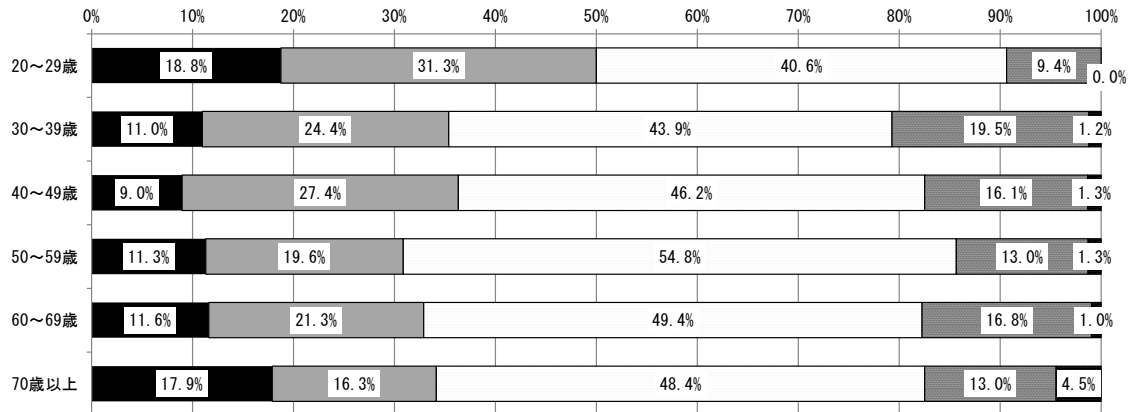


図 I-133 就職



■ 公立(公立)の方がよい

■ 私立の方がよい

□ どちらともいえない

▨ わからない

▩ 無回答

図 I-134 生徒指導

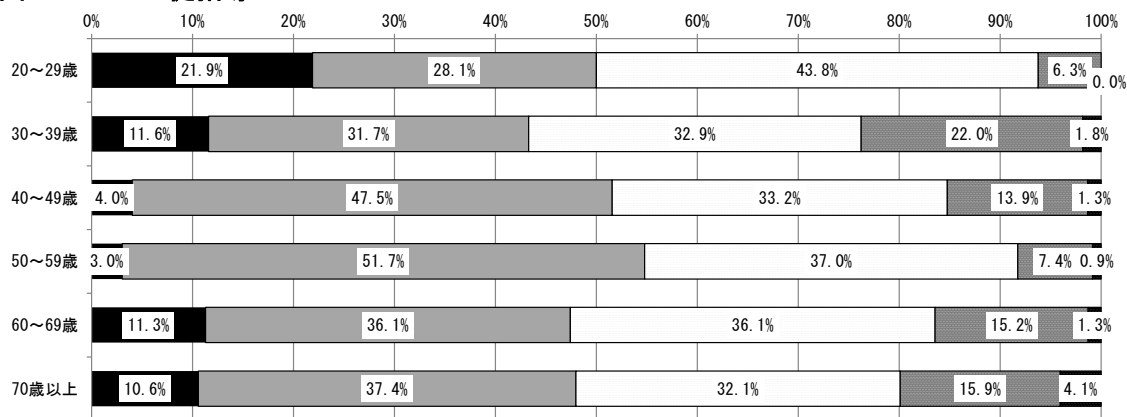


図 I-135 施設や設備

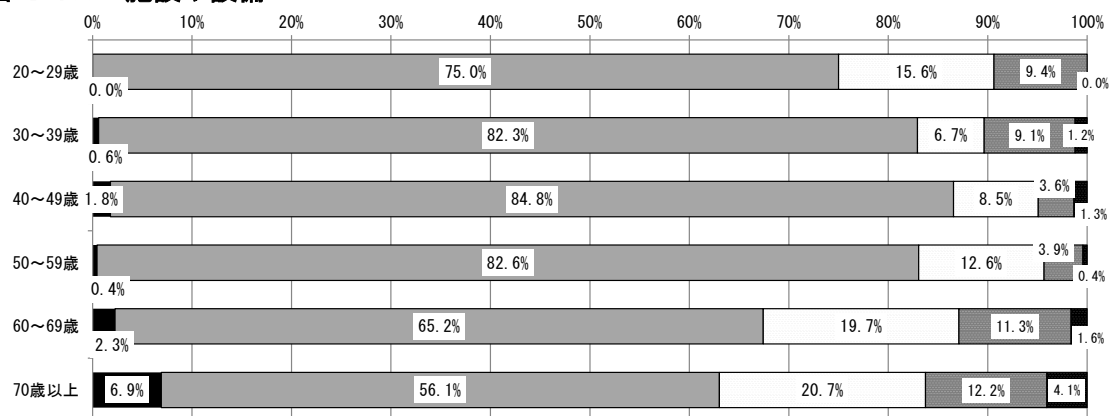
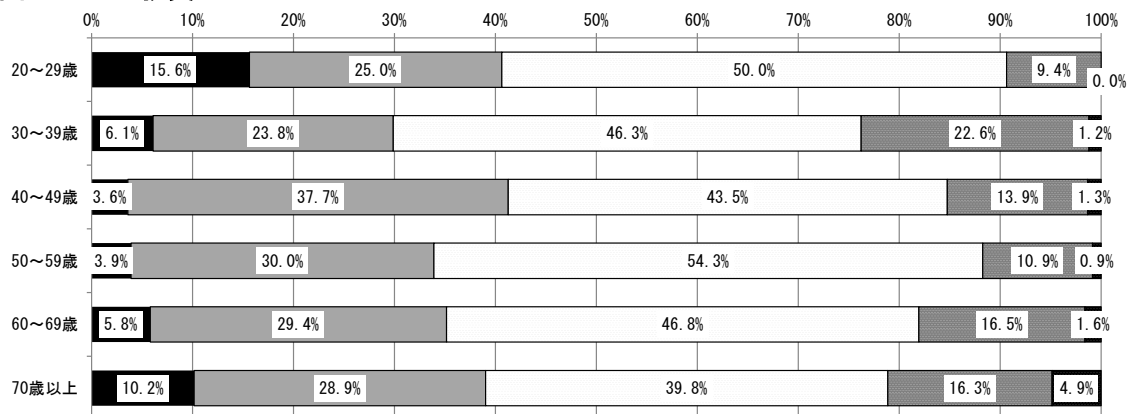


図 I-136 教員



県立（公立）の方がよい
 私立の方がよい
 どちらともいえない

わからない
 無回答

図 I-137 学校の雰囲気

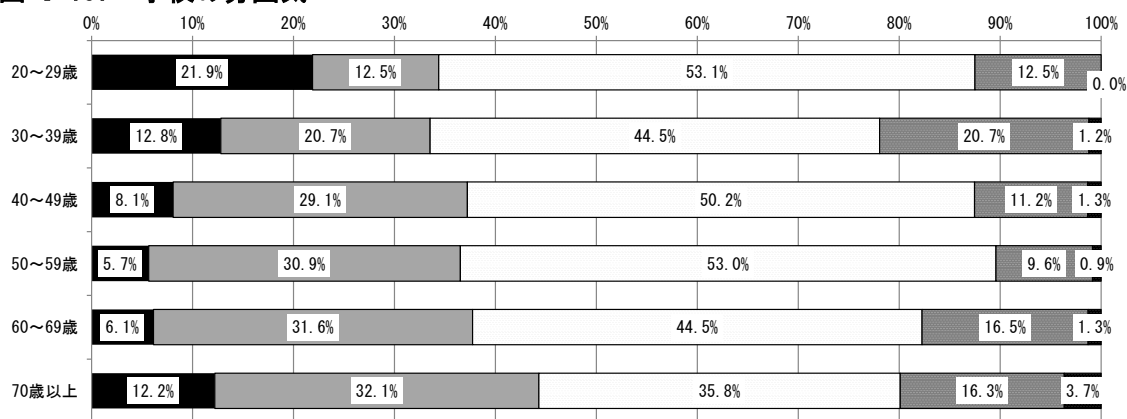
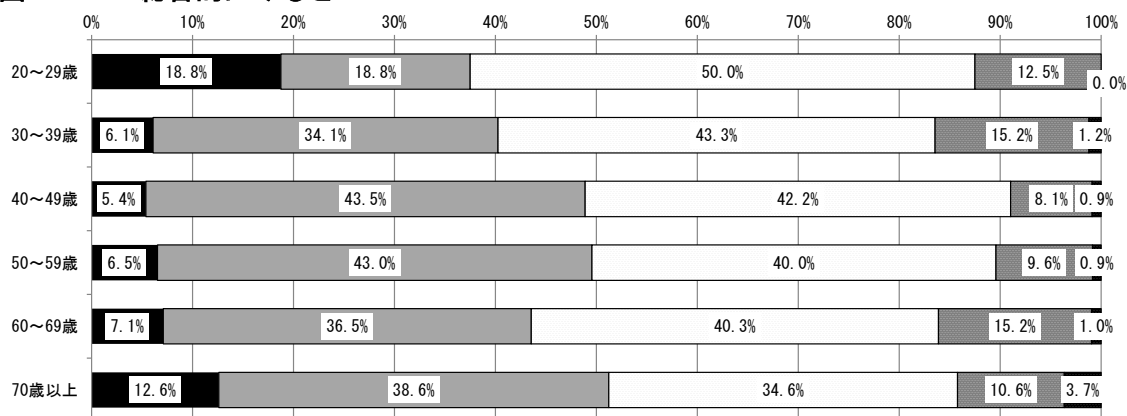


図 I-138 総合的にみると



県立(公立)の方がよい
 私立の方がよい
 どちらともいえない
 わからない
 無回答

I-2-9 「生涯にわたる自分づくりの実践」

一般県民による『生涯にわたる自分づくりの実践』についての回答結果を年代別で比較したところ、回答の割合が高かった項目は、20歳代では「大学や民間企業等における学び直しの機会の充実」(62.5%)、「地域の人々が互いに学び合えるコミュニティの充実」(43.8%)、「自然・歴史・風土・文化芸術・産業・観光などのかながわの魅力を生かした学びの場の充実」(37.5%)であり、30歳代では「地域の人々が互いに学び合えるコミュニティの充実」(46.3%)、「自然・歴史・風土・文化芸術・産業・観光などのかながわの魅力を生かした学びの場の充実」(42.1%)、「大学や民間企業等における学び直しの機会の充実」(37.8%)であった。

40歳代では「大学や民間企業等における学び直しの機会の充実」(48.4%)、「地域の人々が互いに学び合えるコミュニティの充実」(44.8%)、「自然・歴史・風土・文化芸術・産業・観光などのかながわの魅力を生かした学びの場の充実」(41.3%)であり、50歳代では「自然・歴史・風土・文化芸術・産業・観光などのかながわの魅力を生かした学びの場の充実」(51.7%)、「地域の人々が互いに学び合えるコミュニティの充実」(41.3%)、「大学や民間企業等における学び直しの機会の充実」(40.0%)であった。

60歳代では「自然・歴史・風土・文化芸術・産業・観光などのかながわの魅力を生かした学びの場の充実」(62.6%)、「地域の人々が互いに学び合えるコミュニティの充実」(55.2%)、「大学や民間企業等における学び直しの機会の充実」(33.2%)であり、70歳以上では「自然・歴史・風土・文化芸術・産業・観光などのかながわの魅力を生かした学びの場の充実」(61.4%)、「地域の人々が互いに学び合えるコミュニティの充実」(52.8%)、「様々な主体が一体となって地域の防災を考え、行動につなげる場の充実」(30.9%)であった。(図 I-139 参照)

図 I-139 生涯にわたる自分づくりの実践

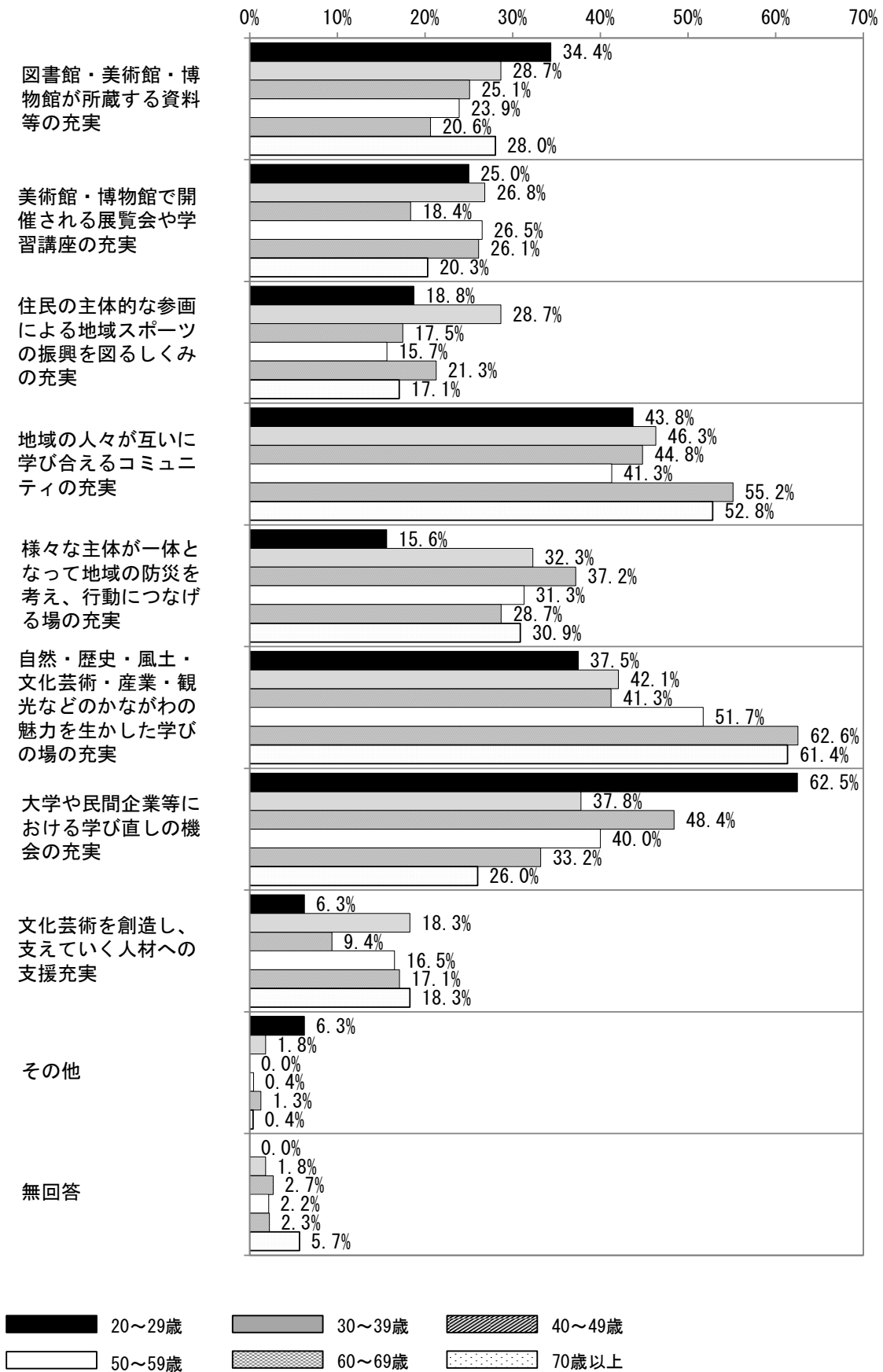


表 I-3 教職員の在職年数別回答者数（人）

	合計	1～10年	11～20年	21～30年	31年以上	無回答
小学校	875	504	237	52	80	2
中学校	474	222	77	92	83	0
高等学校	447	257	62	77	50	1
特別支援学校	194	124	44	19	7	0
無回答	56	7	4	0	0	45

I-3-1 「教員に必要な資質」

教職員による『教員に必要な資質』についての回答結果を在職年数別で比較したところ、回答の割合が高かった項目について、小学校では、どの段階の在職年数の教職員においても、「子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力」（10年以下：59.7%、11年以上20年以下：58.6%、21年以上30年以下：75.0%、31年以上：71.3%）が最も回答の割合が多かった。次いで、在職年数10年以下の回答は「同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力」（48.0%）、「思考力等を育むために子ども同士が学び合うなどの授業をデザインする実践的指導力」（29.4%）、在職年数11年以上20年以下の回答は「同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力」（41.8%）、「思考力等を育むために子ども同士が学び合うなどの授業をデザインする実践的指導力」（37.6%）、在職年数21年以上30年以下の回答は「同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力」（32.7%）、「思考力等を育むために子ども同士が学び合うなどの授業をデザインする実践的指導力」（26.9%）、在職年数31年以上の回答は「思考力等を育むために子ども同士が学び合うなどの授業をデザインする実践的指導力」（37.5%）、「同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力」（35.0%）の順に回答の割合が高かった。

中学校では、在職年数10年以下の回答は「同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力」（56.3%）、「子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力」（49.5%）、「学習指導や生徒指導等の教育課題に対応できる力」（29.3%）であり、在職年数11年以上20年以下の回答は「同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力」（61.0%）、「子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力」（57.1%）、「学習指導や生徒指導等の教育課題に対応できる力」（35.1%）、在職年数21年以上30年以下の回答は「子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力」（57.6%）、「同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力」（53.3%）、「学習指導や生徒指導等の教育課題に対応できる力」（39.1%）、在職年数31年以上の回答は「子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力」（62.7%）、「同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力」（34.9%）、「学習指導や生徒指導等の教育課題に対応できる力」（34.9%）であった。

高等学校では、どの段階の在職年数の教職員においても、「子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力」（10年以下：54.9%、11年以上20年以下：53.2%、21年以上30年以下：55.8%、31年以上：50.0%）が最も回答の割合が多かった。次いで、在職年数10年以下の回答は「同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力」（32.3%）、「学習指導や生徒指導等の教育課題に対応できる力」（30.0%）、在職年数11年以上20年以下の回答は「同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力」（45.2%）、「学習指導や生徒指導等の教育課題に対応できる力」（29.0%）、在職年数21年以上30年以下の回答は「学習指導や生徒指導等の教育課題に対応できる力」（41.6%）、「同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力」（31.2%）、在職年数31年以上の回答は「学習指導や生徒指導等の教育課題に対応できる力」（42.0%）、「教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力」（36.0%）の順に回答の割合が高かった。

特別支援学校では、どの段階の在職年数の教職員においても、「子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力」（10年以下：83.9%、11年以上20年以下：70.5%、

21年以上30年以下：84.2%、31年以上：71.4%)が最も回答の割合が多かった。次いで、在職年数10年以下の回答は「同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力」(50.0%)、「教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力」(19.4%)、「思考力等を育むために子ども同士が学び合うなどの授業をデザインする実践的指導力」(19.4%)、在職年数11年以上20年以下の回答は「同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力」(63.6%)、「学習指導や生徒指導等の教育課題に対応できる力」(22.7%)、在職年数21年以上30年以下の回答は「同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力」(57.9%)、「よりよい授業をめざして授業研究を行う探究力」(31.6%)、在職年数31年以上の回答は「同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力」(42.9%)、「思考力等を育むために子ども同士が学び合うなどの授業をデザインする実践的指導力」(42.9%)の順に回答の割合が高かった。(図I-140～143 参照)

図 I-140 教員に必要な資質(教職員：小学校)

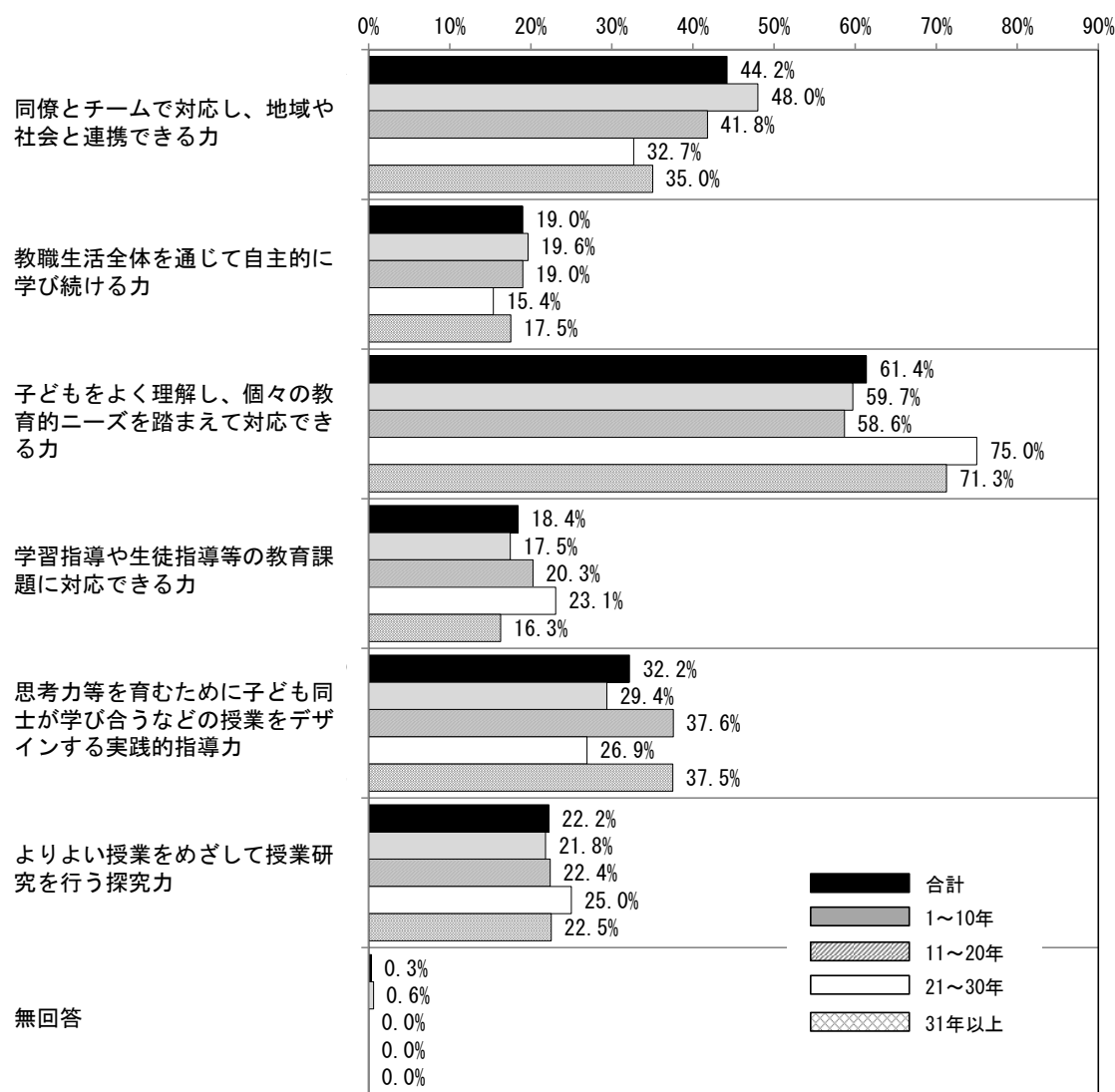


図 I-141 教員に必要な資質(教職員：中学校)

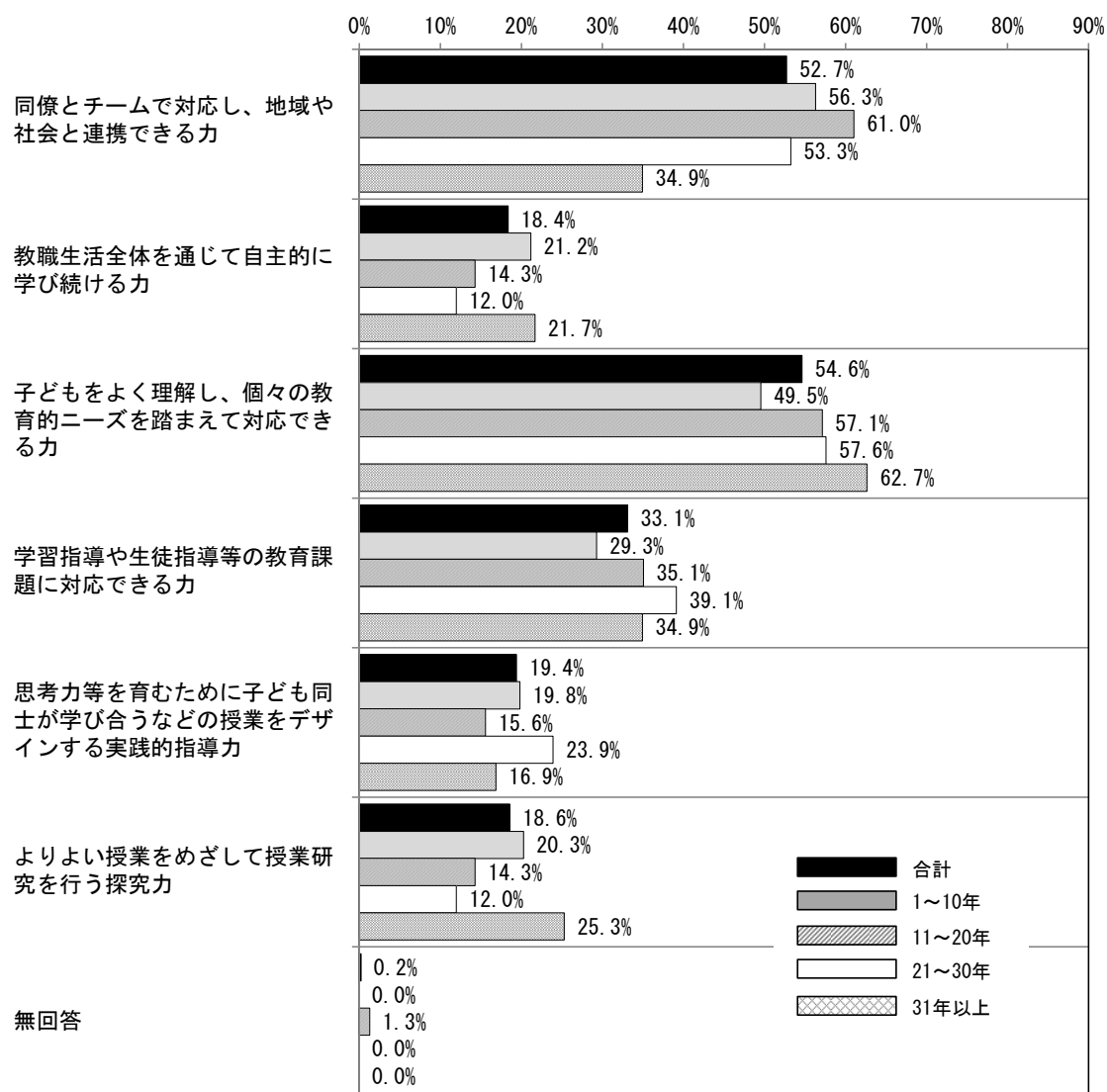


図 I-142 教員に必要な資質(教職員：高等学校)

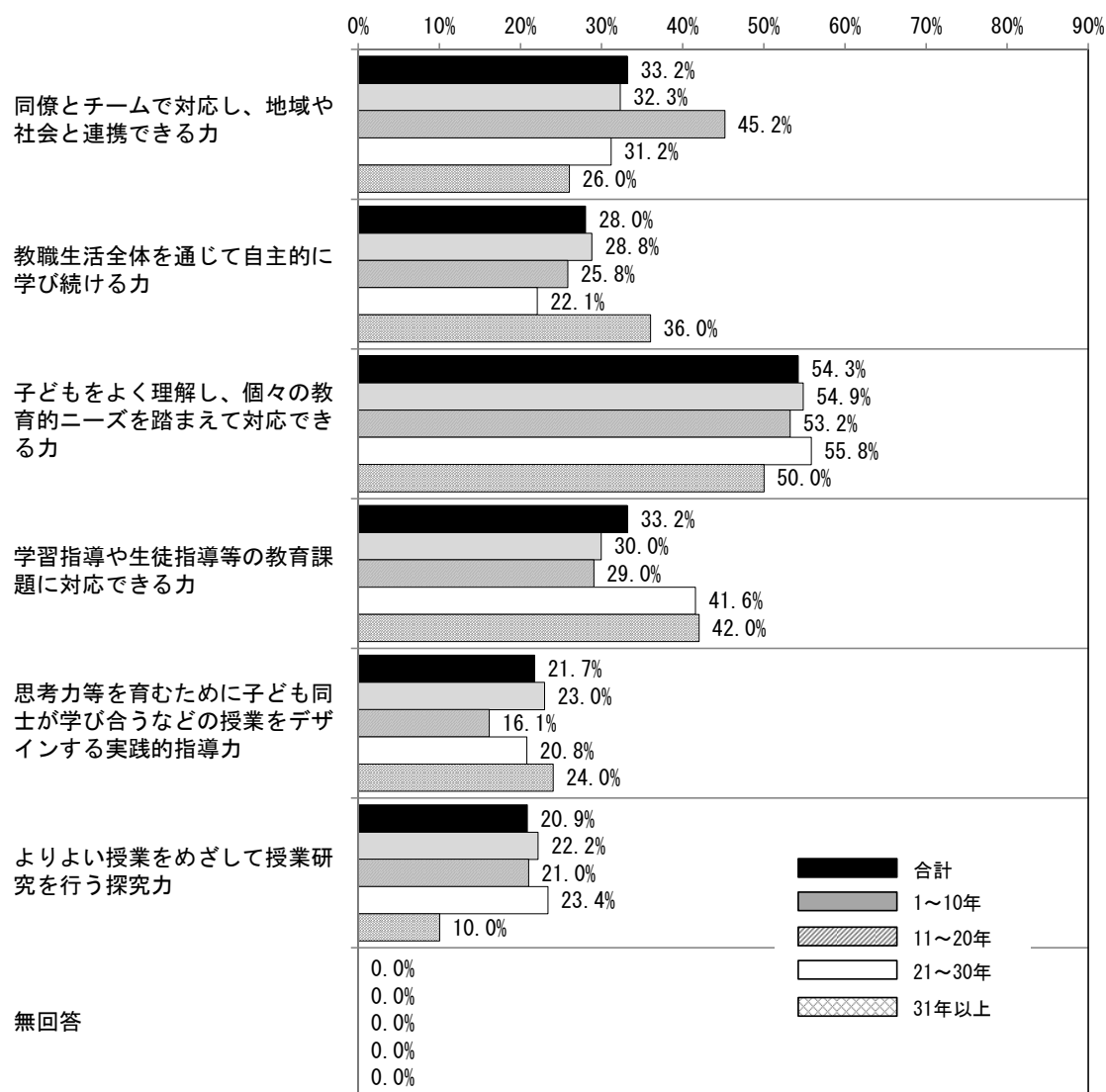
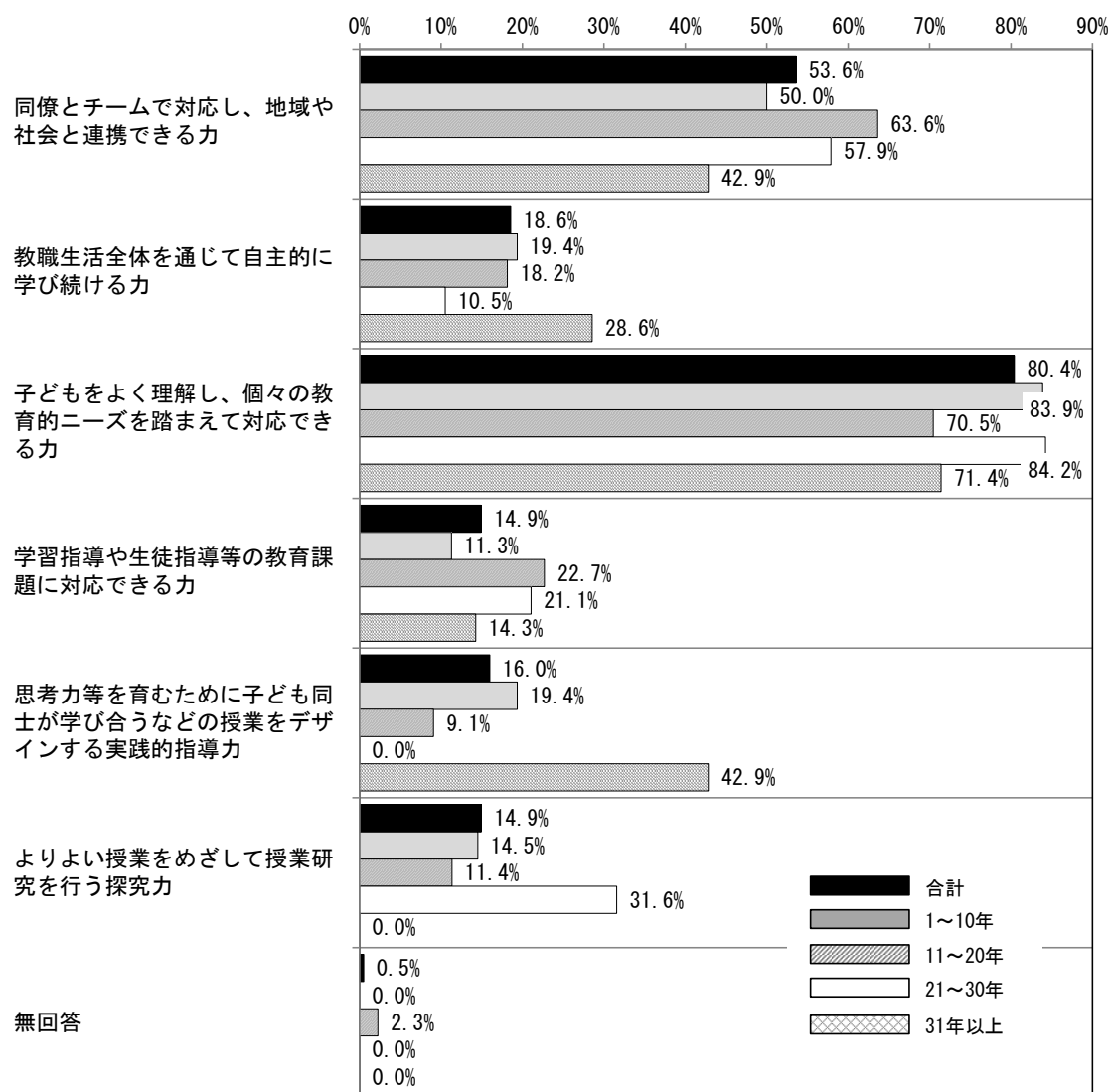


図 I-143 教員に必要な資質(教職員：特別支援学校)



I-3-2 「教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方」

教職員による『教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方』についての回答結果を在職年数別で比較したところ、回答の割合が高かった項目について、小学校では、どの段階の在職年数の教職員においても、「学校が抱える共通の課題に応じた校内研修」(10年以下：80.6%、11年以上20年以下：79.7%、21年以上30年以下：86.5%、31年以上：96.3%)が最も回答の割合が多く、次いで「学校外で開催される講座や実習などの研修」(10年以下：49.0%、11年以上20年以下：58.6%、21年以上30年以下：75.0%、31年以上：53.8%)、さらに「地域の学校が抱える課題に対して近隣の学校が合同で行う研修」(10年以下：45.8%、11年以上20年以下：32.5%、21年以上30年以下：23.1%、31年以上：40.0%)の順に回答の割合が高かった。

中学校では、どの段階の在職年数の教職員においても、「学校が抱える共通の課題に応じた校内研修」(10年以下：72.1%、11年以上20年以下：83.1%、21年以上30年以下：88.0%、31年以上：89.2%)が最も回答の割合が多かった。次いで、在職年数10年以下の回答は「地域の学校が抱える課題に対して近隣の学校が合同で行う研修」(49.5%)、「学校外で開催される講座や実習などの研修」(44.6%)、在職年数11年以上20年以下の回答は「学校外で開催される講座や実習などの研修」(50.6%)、「地域の学校が抱える課題に対して近隣の学校が合同で行う研修」(40.3%)、在職年数21年以上30年以下の回答は「学校外で開催される講座や実習などの研修」(57.6%)、「地域の学校が抱える課題に対して近隣の学校が合同で行う研修」(43.5%)、在職年数31年以上の回答は「学校外で開催される講座や実習などの研修」(47.0%)、「地域の学校が抱える課題に対して近隣の学校が合同で行う研修」(47.0%)の順に回答の割合が高かった。

高等学校では、どの段階の在職年数の教職員においても、「学校が抱える共通の課題に応じた校内研修」(10年以下：64.6%、11年以上20年以下：75.8%、21年以上30年以下：75.3%、31年以上：80.0%)が最も回答の割合が多かった。次いで、在職年数10年以下の回答は「学校外で開催される講座や実習などの研修」(54.1%)、「地域の学校が抱える課題に対して近隣の学校が合同で行う研修」(37.4%)、在職年数11年以上20年以下の回答は「学校外で開催される講座や実習などの研修」(53.2%)、「地域の学校が抱える課題に対して近隣の学校が合同で行う研修」(30.6%)、在職年数21年以上30年以下の回答は「学校外で開催される講座や実習などの研修」(64.9%)、「地域の学校が抱える課題に対して近隣の学校が合同で行う研修」(27.3%)、在職年数31年以上の回答は「地域の学校が抱える課題に対して近隣の学校が合同で行う研修」(52.0%)、「学校外で開催される講座や実習などの研修」(32.0%)の順に回答の割合が高かった。

特別支援学校では、どの段階の在職年数の教職員においても、「学校が抱える共通の課題に応じた校内研修」(10年以下：62.9%、11年以上20年以下：63.6%、21年以上30年以下：78.9%、31年以上：71.4%)が最も回答の割合が多く、次いで「学校外で開催される講座や実習などの研修」(10年以下：57.3%、11年以上20年以下：61.4%、21年以上30年以下：73.7%、31年以上：57.1%)、さらに「地域の学校が抱える課題に対して近隣の学校が合同で行う研修」(10年以下：46.8%、11年以上20年以下：45.5%、21年以上30年以下：26.3%、31年以上：42.9%)の順に回答の割合が高かった。(図I-144～147 参照)

図 I-144 教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方(教職員：小学校)

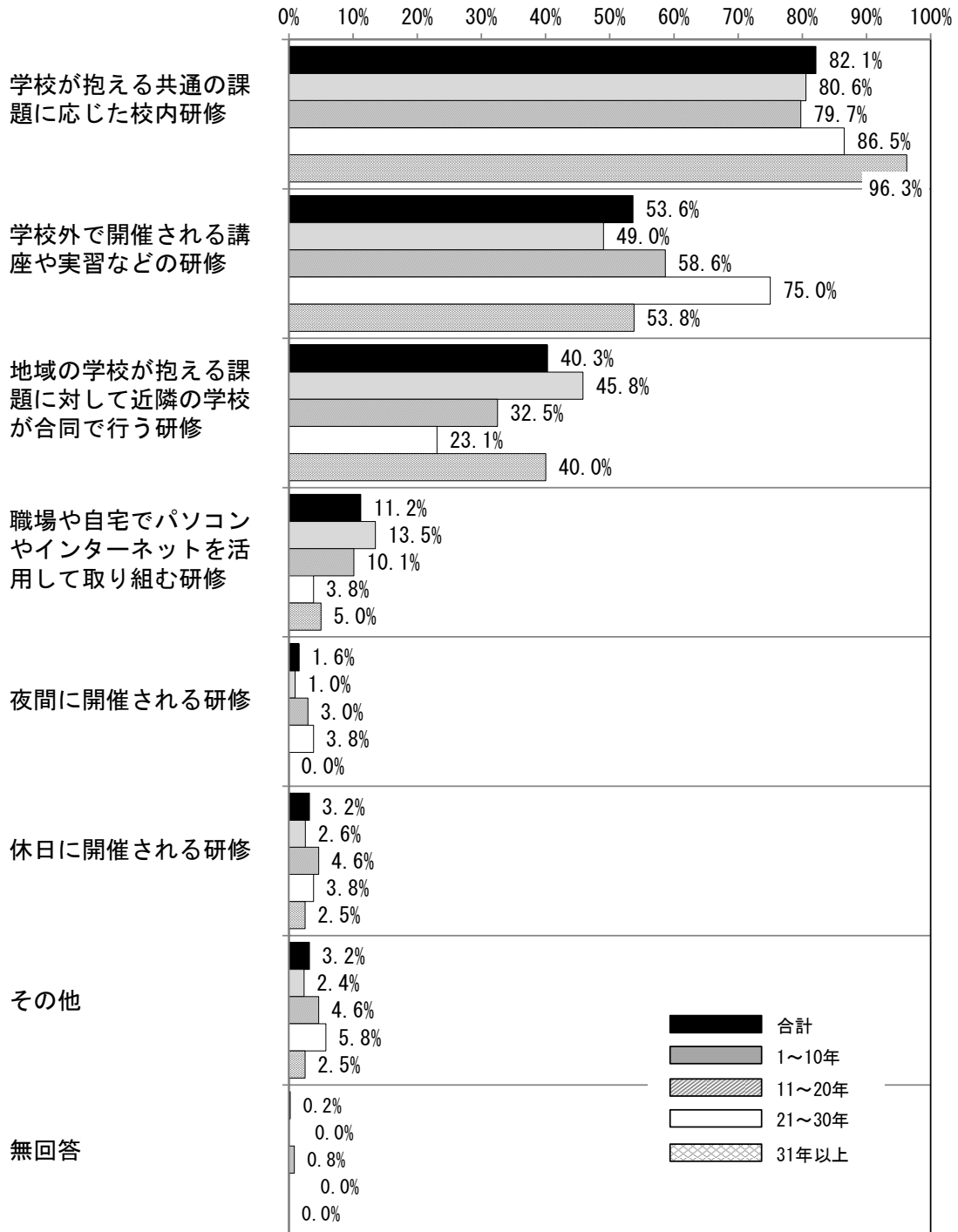


図 I-145 教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方(教職員：中学校)

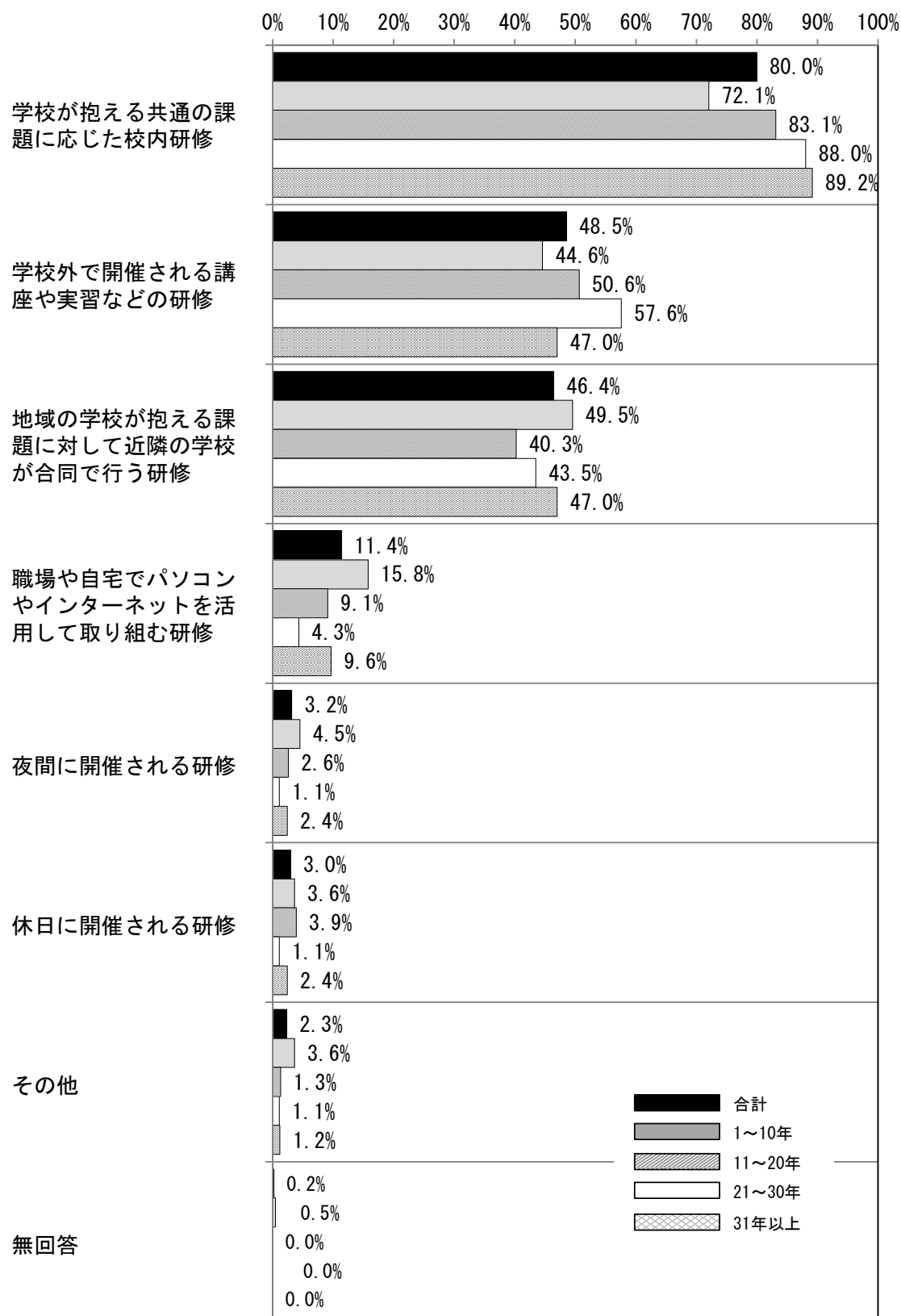


図 I-146 教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方(教職員：高等学校)

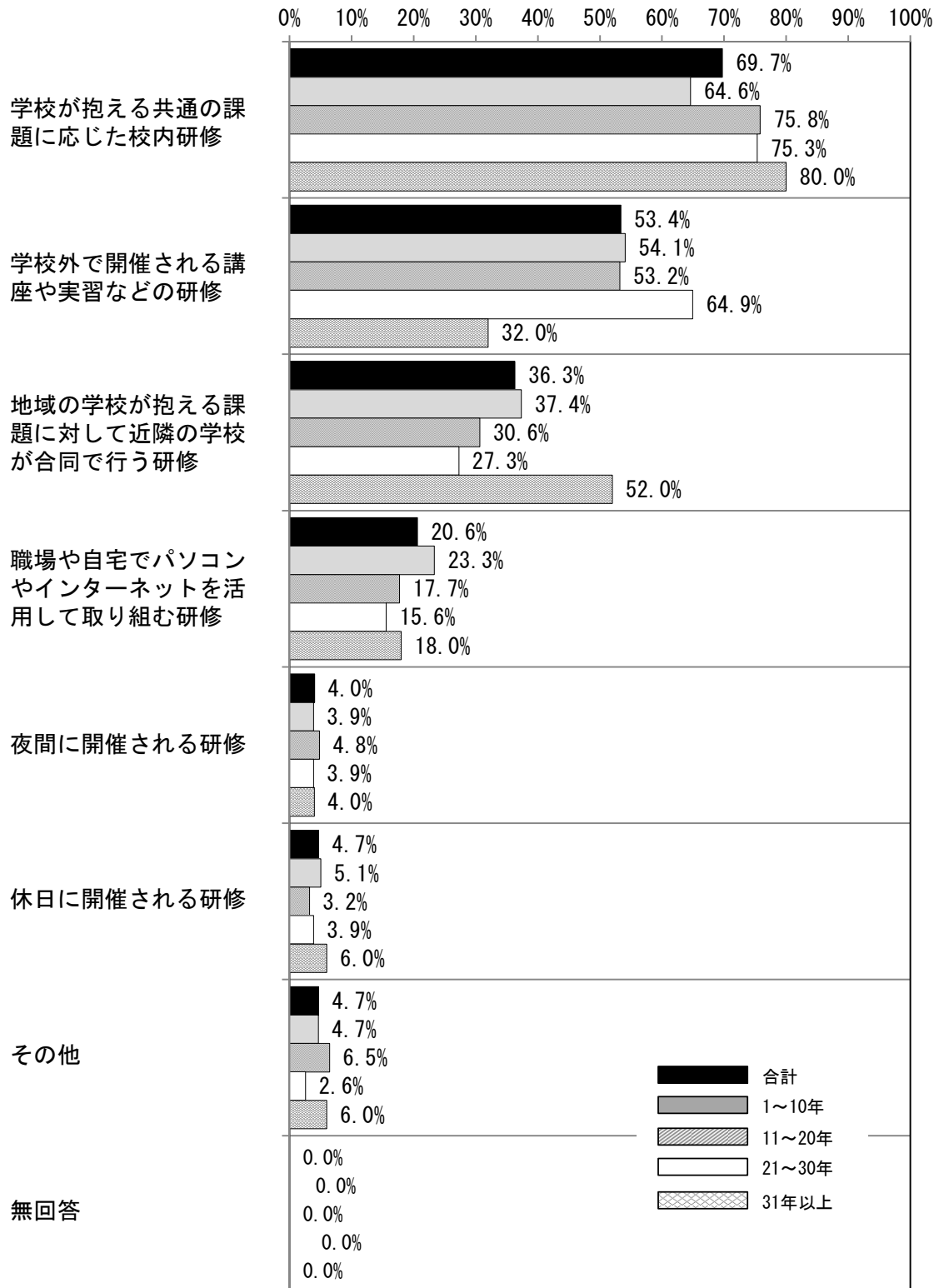
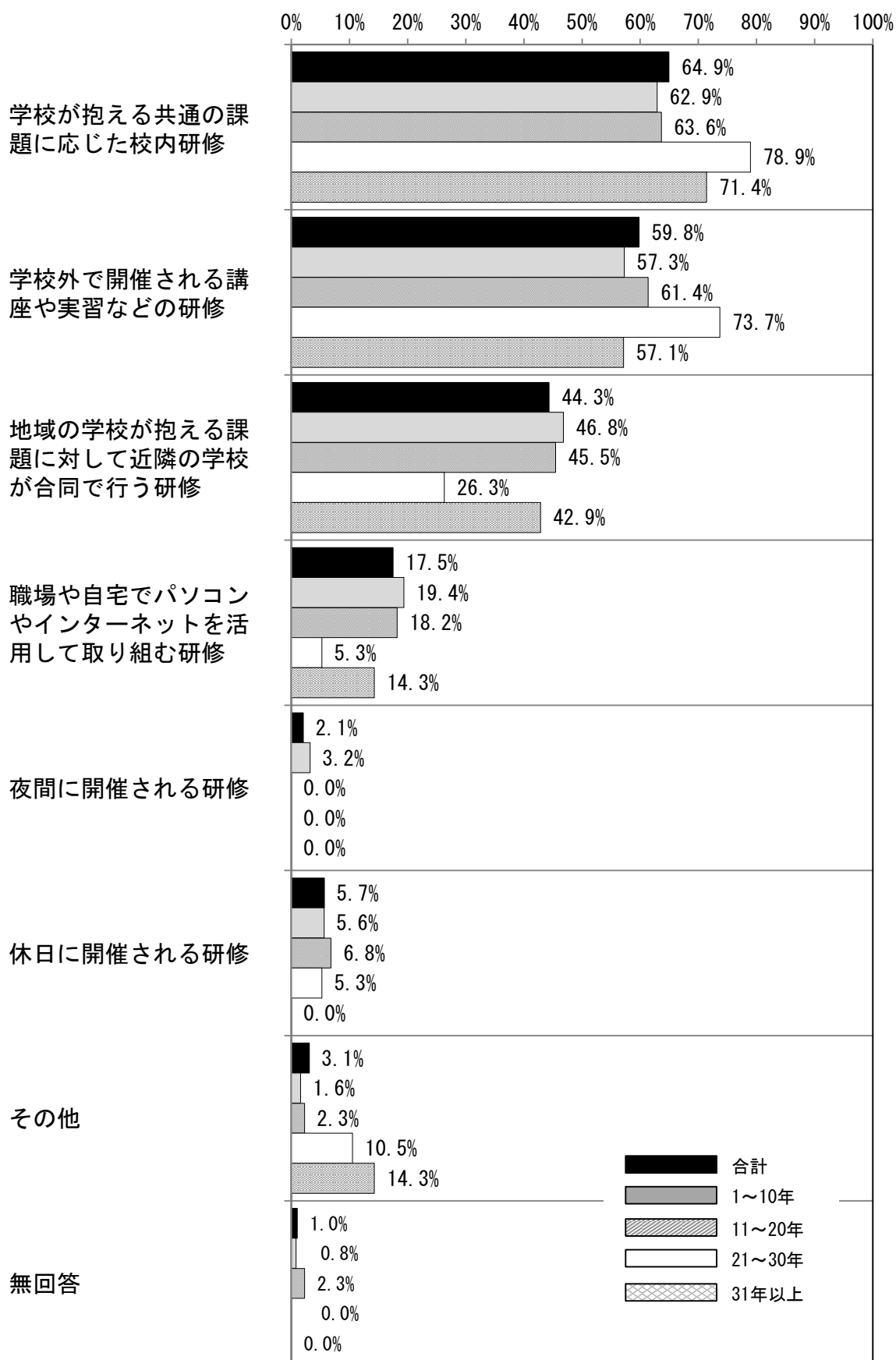


図 I-147 教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方(教職員：特別支援学校)



I-3-3 「研修の際に重視すること」

教職員による『研修の際に重視すること』についての回答結果を在職年数別で比較したところ、回答の割合が高かった項目について、小学校では、どの段階の在職年数の教職員においても、「研修の成果を職場の教職実践に生かせる研修であること」(10年以下:50.4%、11年以上20年以下:52.3%、21年以上30年以下:57.7%、31年以上:68.8%)が最も回答の割合が多かった。次いで、在職年数10年以下の回答は「指導力の高い教職員から直接指導を受ける研修であること」(36.5%)、「共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること」(35.5%)、在職年数11年以上20年以下の回答は「多様な研修形態の中から、必要に応じて選択できること」(34.2%)、「共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること」(30.8%)、在職年数21年以上30年以下の回答は「共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること」(38.5%)、「多様な研修形態の中から、必要に応じて選択できること」(38.5%)、在職年数31年以上の回答は「多様な研修形態の中から、必要に応じて選択できること」(40.0%)、「共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること」(33.8%)の順に回答の割合が高かった。

中学校では、どの段階の在職年数の教職員においても、「研修の成果を職場の教職実践に生かせる研修であること」(10年以下:57.7%、11年以上20年以下:46.8%、21年以上30年以下:58.7%、31年以上:60.2%)が最も回答の割合が多かった。次いで、在職年数10年以下の回答は「指導力の高い教職員から直接指導を受ける研修であること」(32.0%)、「共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること」(27.9%)、在職年数11年以上20年以下の回答は「共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること」(36.4%)、「多様な研修形態の中から、必要に応じて選択できること」(31.2%)、在職年数21年以上30年以下の回答は「共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること」(34.8%)、「多様な研修形態の中から、必要に応じて選択できること」(27.2%)、在職年数31年以上の回答は「共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること」(44.6%)、「多様な研修形態の中から、必要に応じて選択できること」(32.5%)の順に回答の割合が高かった。

高等学校では、在職年数10年以下の回答は「研修の成果を職場の教職実践に生かせる研修であること」(44.4%)、「共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること」(33.9%)、「多様な研修形態の中から、必要に応じて選択できること」(31.5%)であり、在職年数11年以上20年以下の回答は「多様な研修形態の中から、必要に応じて選択できること」(41.9%)、「共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること」(38.7%)、「研修の成果を職場の教職実践に生かせる研修であること」(38.7%)、在職年数21年以上30年以下の回答は「研修の成果を職場の教職実践に生かせる研修であること」(49.4%)、「共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること」(32.5%)、「多様な研修形態の中から、必要に応じて選択できること」(31.2%)、在職年数31年以上の回答は「研修の成果を職場の教職実践に生かせる研修であること」(46.0%)、「共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること」(40.0%)、「所属校の業務の都合に合わせて、研修機会を選択できること」(38.0%)であった。

特別支援学校では、どの段階の在職年数の教職員においても、「研修の成果を職場の教職実践に生かせる研修であること」(10年以下:60.5%、11年以上20年以下:61.4%、21年以上30年以下:68.4%、31年以上:57.1%)が最も回答の割合が多かった。次いで、在職年数10年以下の回答は「多様な研修形態の中から、必要に応じて選択できること」(36.3%)、「指導力の高い教職員から直接指導を受ける研修であること」(33.1%)、在職年数11年以上20年以下の回答は「多様な研修形態の中から、必要に応じて選択できること」(31.8%)、「共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること」(27.3%)、在職年数21年以上30年以下の回答は「共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること」(42.1%)、「多様な研修形態の中から、必要に応じて選択できること」(36.8%)、在職年数31年以上の回答は「全国や県内の先導的・先進的な取組みについて理解を深める研修であること」(42.9%)、「共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること」(28.6%)、「所属校の業務の都合に合わせて、研修機会を選択できること」(28.6%)、「多様な研修形態の中から、必要に応じて選択できること」(28.6%)の順に回答の割合が高かった。(図I-148～151参照)

図 I-148 研修の際に重視すること(教職員：小学校)

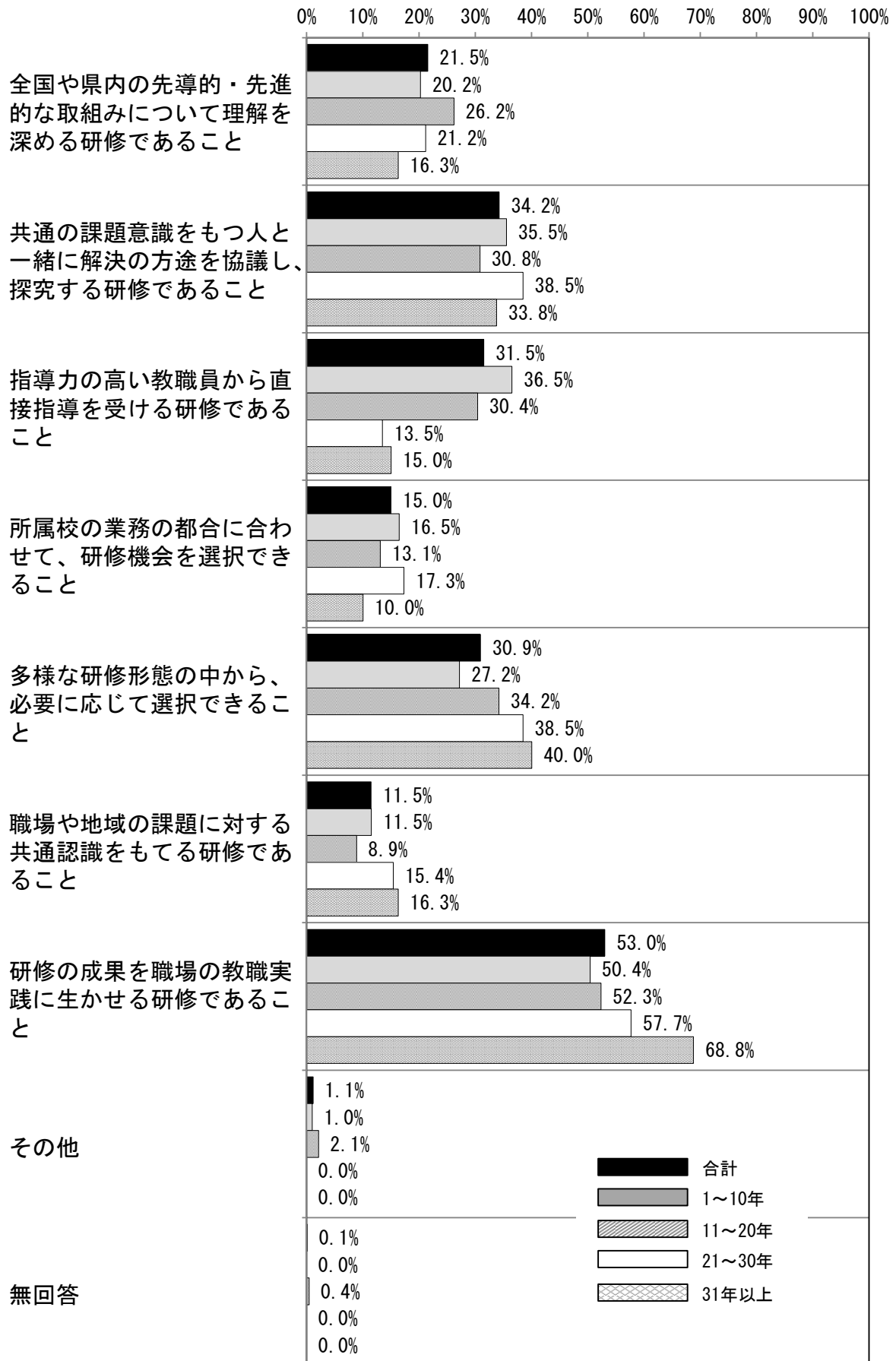


図 I-149 研修の際に重視すること(教職員：中学校)

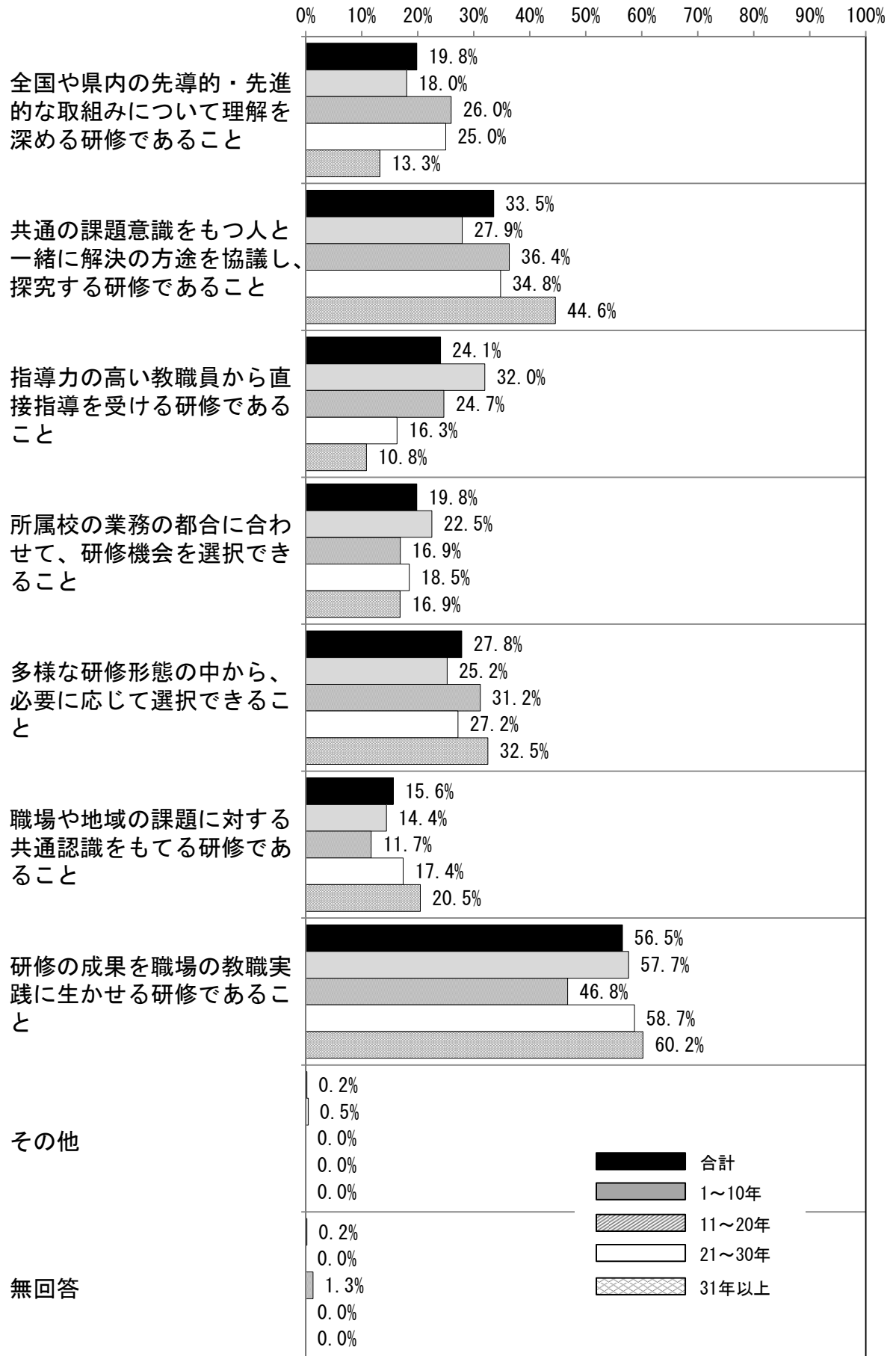


図 I-150 研修の際に重視すること(教職員：高等学校)

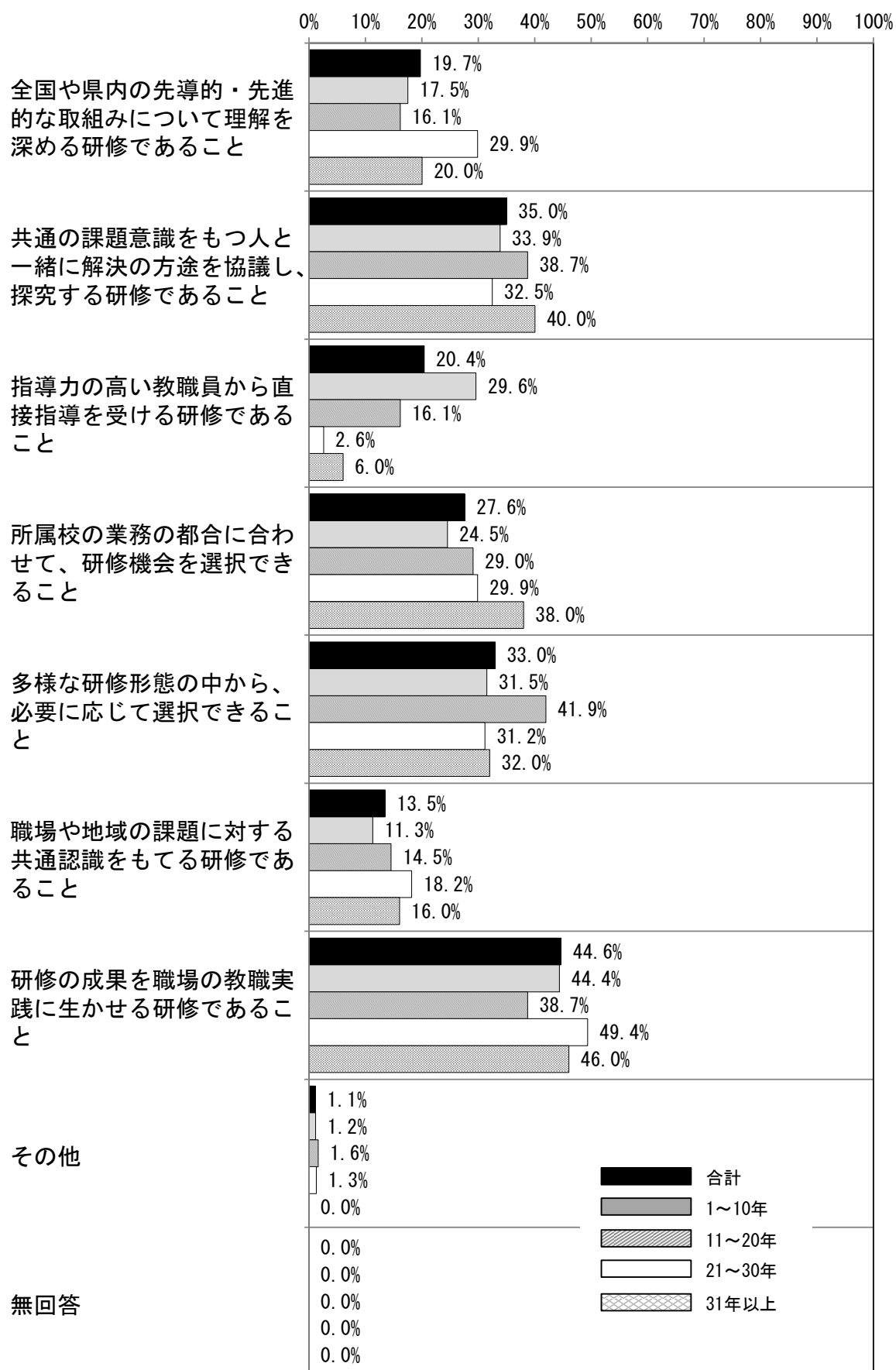
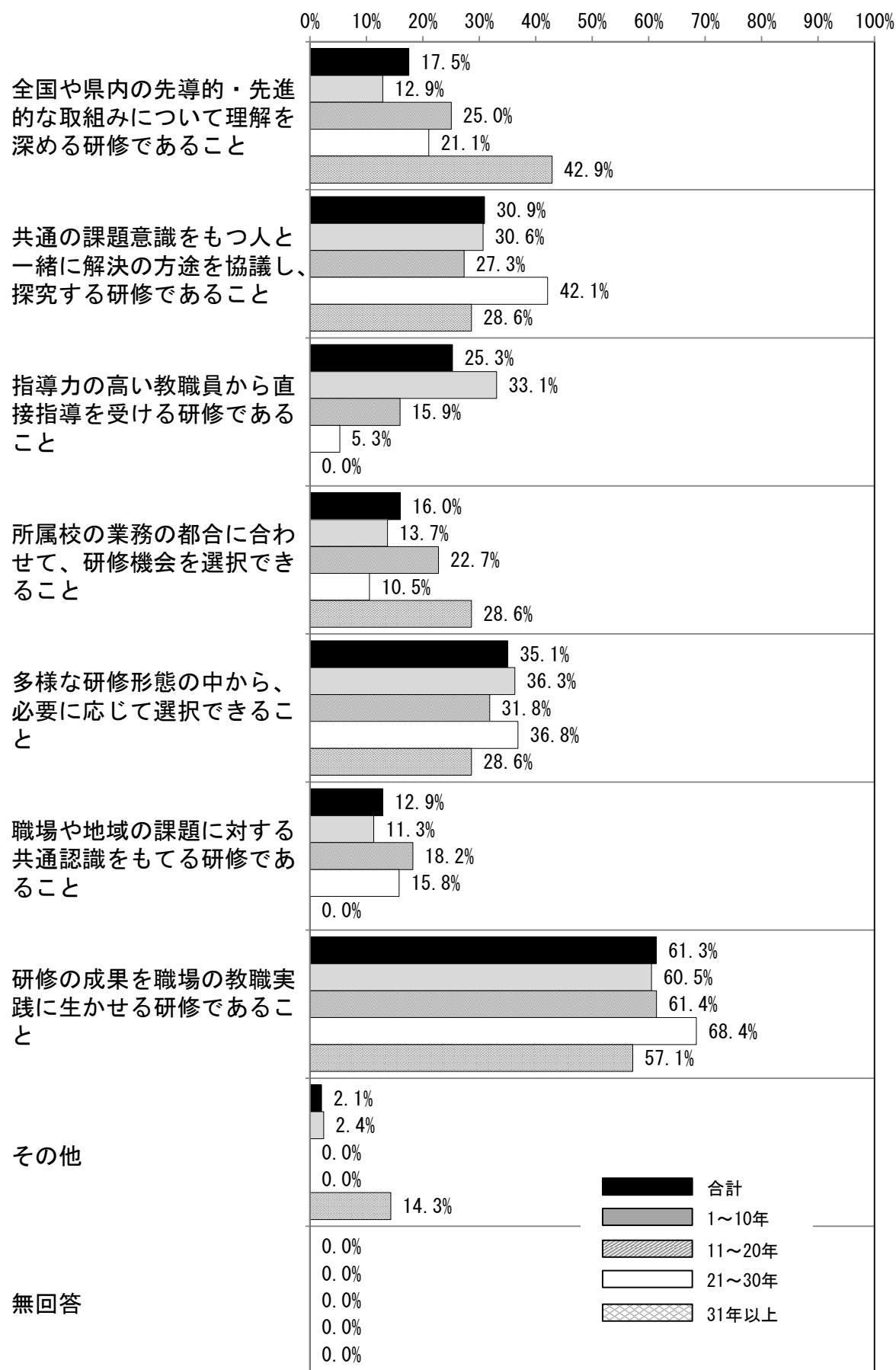


図 I-151 研修の際に重視すること(教職員：特別支援学校)



I - 4 地域別集計（教職員、保護者、学校評議員、一般県民）

表 I-4 学校関係者ならびに一般県民の地域別回答者数（人）

	教職員	保護者	学校評議員	一般県民
横浜	224	566	72	546
川崎	117	323	49	229
相模原	112	250	36	67
横須賀三浦	225	523	81	112
県央	427	459	71	75
湘南	624	714	108	124
県西	254	687	100	52
無回答	63	110	17	28
合計	2,046	3,632	534	1,233

表 I-5 地区区分

横浜	横浜市
川崎	川崎市
相模原	相模原市
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町
県央	厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村
湘南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町
県西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町

I-4-1 「学校・家庭・地域での教育課題」

教職員、保護者、学校評議員及び一般県民による『学校・家庭・地域での教育課題』についての回答結果を地域別で比較したところ、「そう思う」と「どちらかというと思う」の回答の割合の合計が最も高かった項目は、教職員では、いずれの地区においても「学校はいじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる」が最も回答の割合が高く、その割合は横浜地区 71.4%、川崎地区 80.4%、相模原地区 79.5%、横須賀三浦地区 87.1%、県央地区 87.1%、湘南地区 81.1%、県西地区 91.0%であった。

保護者では、川崎・相模原・横須賀三浦・湘南・県西地区において「家庭ではしつけや教育が十分に行われている」（川崎：46.8%、相模原：40.4%、横須賀三浦：46.1%、湘南：43.7%、県西：42.4%）との回答が最も高く、横浜・県央地区において「学校では確かな学力の定着が図られている」（横浜：44.0%、県央：41.8%）との回答が最も高かった。

学校評議員では、横浜・川崎地区において「学校では確かな学力の定着が図られている」と「学校はいじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる」（横浜：61.1%、川崎：55.1%）との回答の割合が最も高く、相模原・湘南地区において「学校では確かな学力の定着が図られている」（相模原：69.5%、湘南：56.5%）との回答が最も高く、横須賀三浦・県央・県西地区において「学校はいじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる」（横須賀三浦：69.2%、県央：69.0%、県西：69.0%）との回答が最も高かった。

一般県民では、横浜・川崎・相模原・横須賀三浦・県西地区において「学校では確かな学力の定着が図られている」（横浜：24.2%、川崎：28.9%、相模原：25.4%、横須賀三浦：25.9%、県西：15.4%）との回答の割合が最も高く、県央・湘南において、「地域では子どもの教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている」（県央：24.0%、湘南：23.4%）との回答の割合が最も高かった。（図 I-152～171 参照）

図 I-152 学校では確かな学力の定着が図られている(教職員)

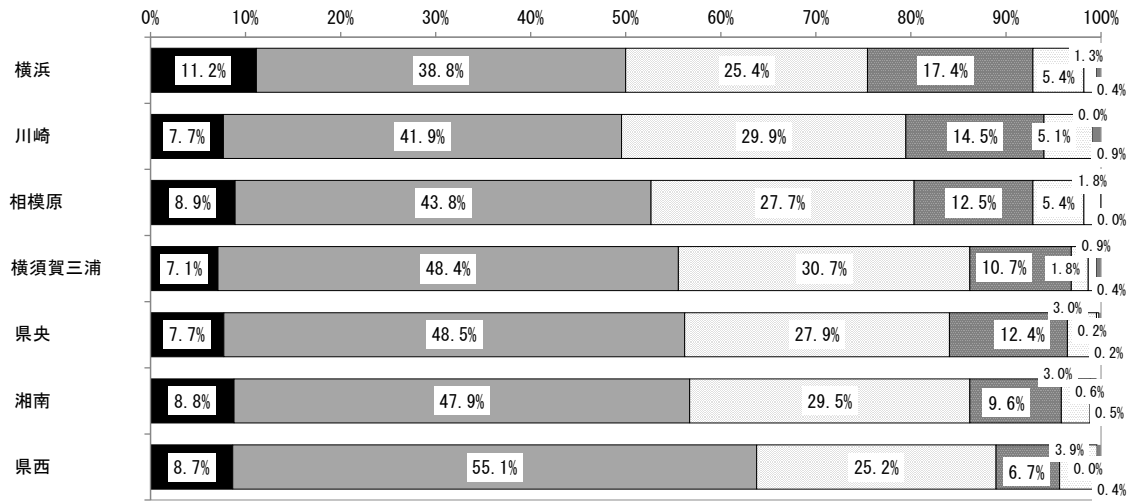


図 I-153 学校では確かな学力の定着が図られている(保護者)

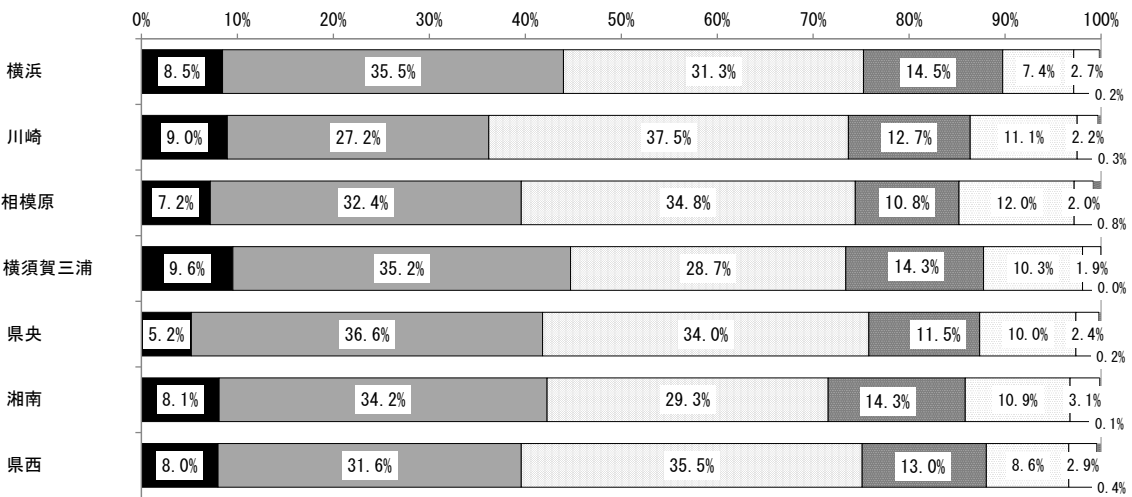
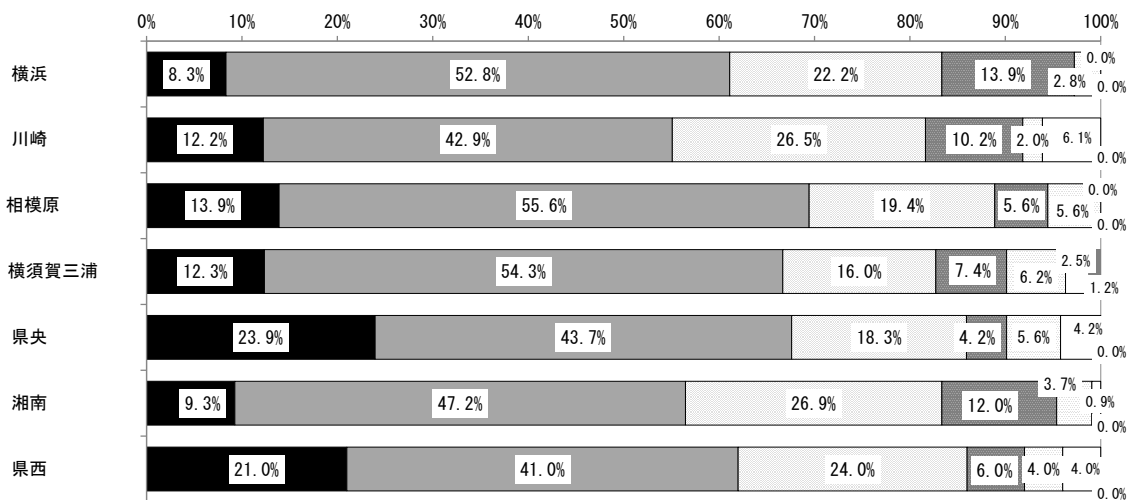


図 I-154 学校では確かな学力の定着が図られている(学校評議員)



そう思う
 どちらかというと思う
 どちらともいえない

どちらかというと思わない
 そう思わない
 わからない

無回答

図 I-155 学校では確かな学力の定着が図られている(一般県民)

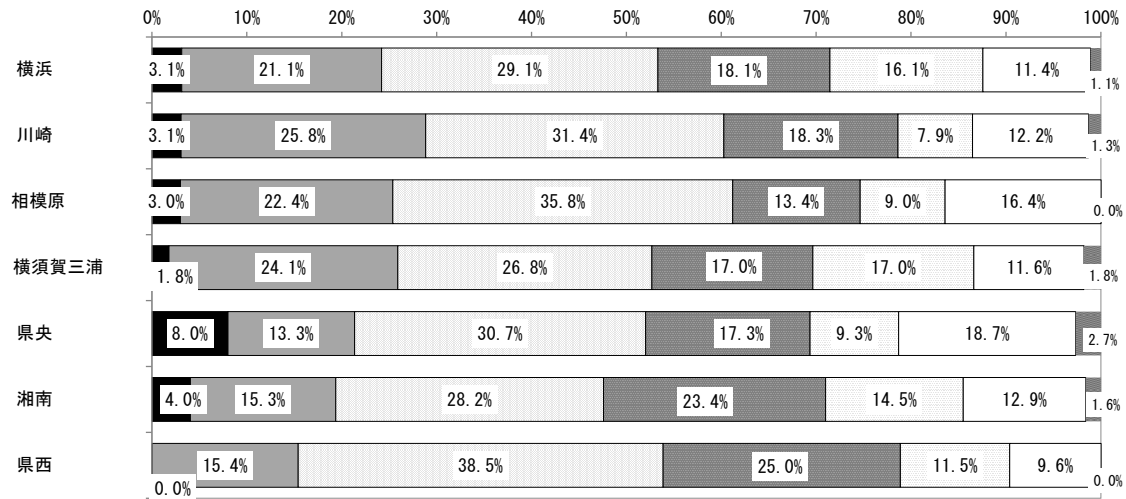


図 I-156 学校では一人ひとりに応じた個性を伸ばす教育が行われている(教職員)

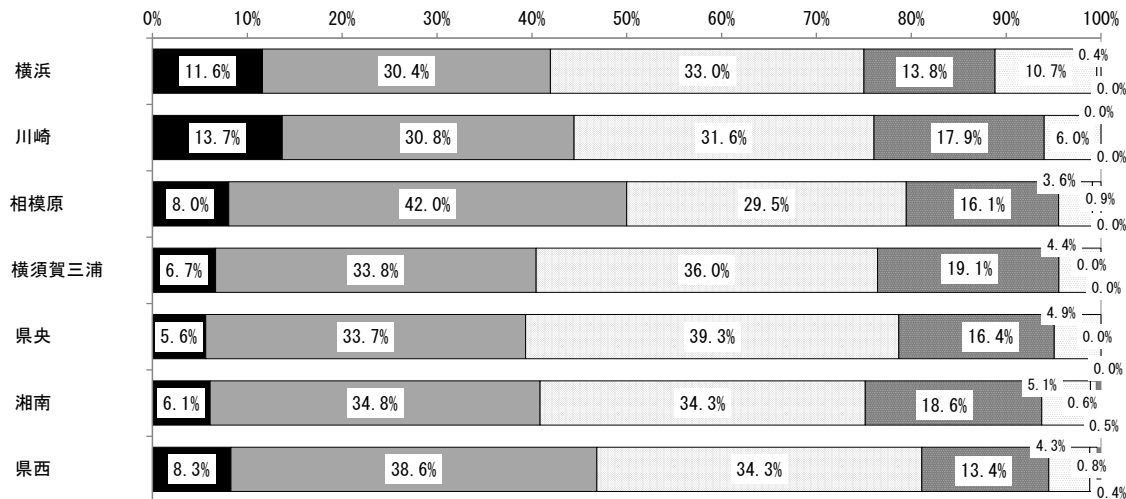
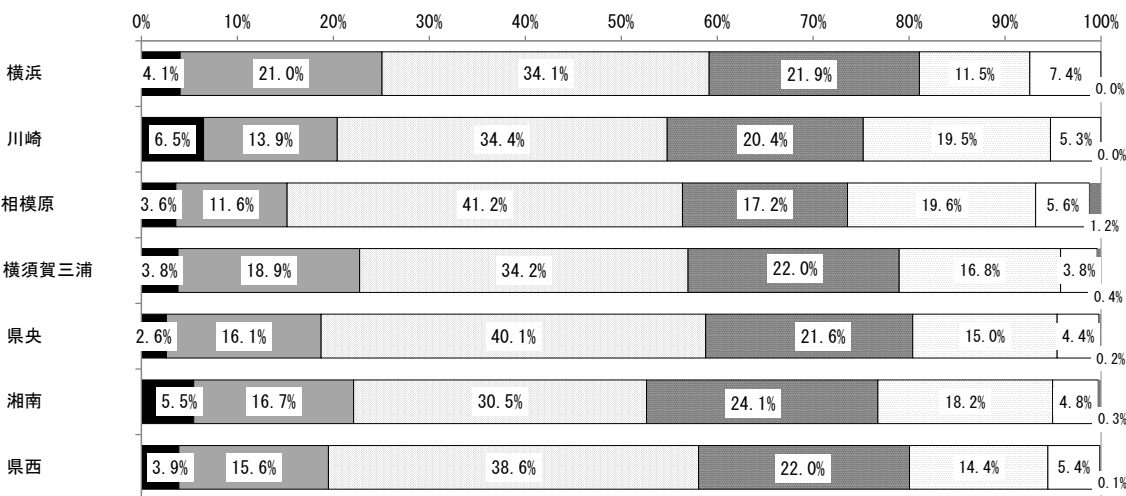


図 I-157 学校では一人ひとりに応じた個性を伸ばす教育が行われている(保護者)



そう思う
 どちらかというと思う
 どちらともいえない

どちらかというと思わない
 そう思わない
 わからない

無回答

図 I-158 学校では一人ひとりに応じた個性を伸ばす教育が行われている(学校評議員)

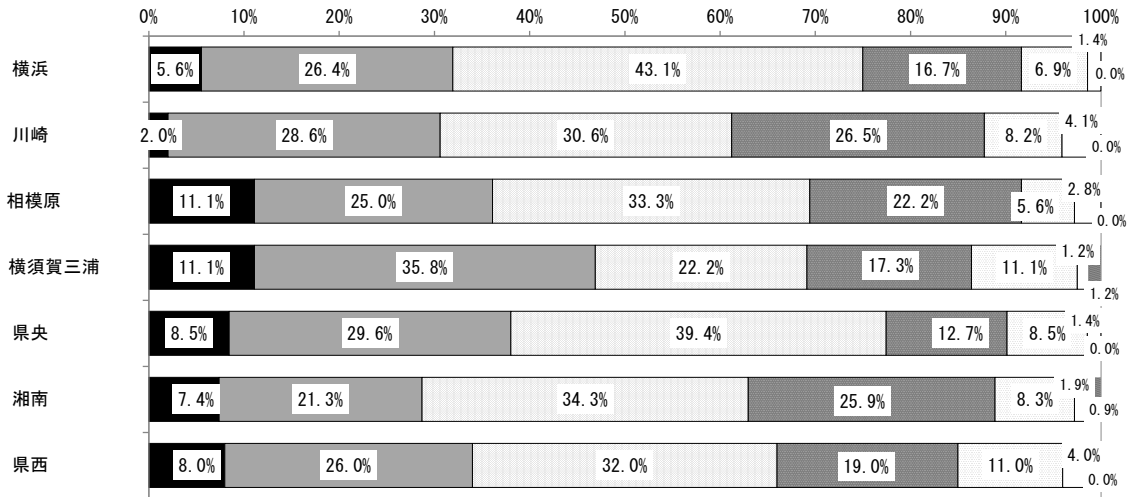


図 I-159 学校では一人ひとりに応じた個性を伸ばす教育が行われている(一般県民)

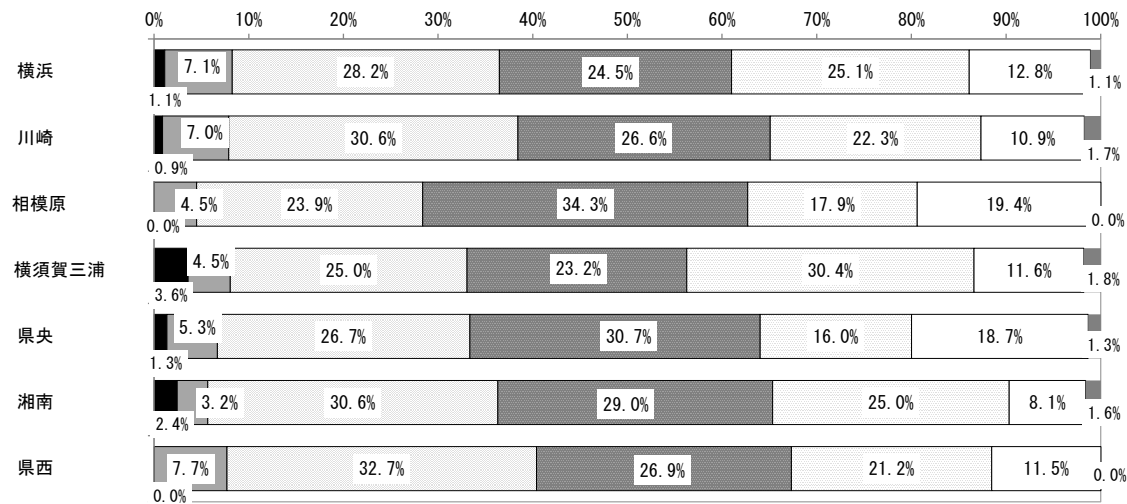
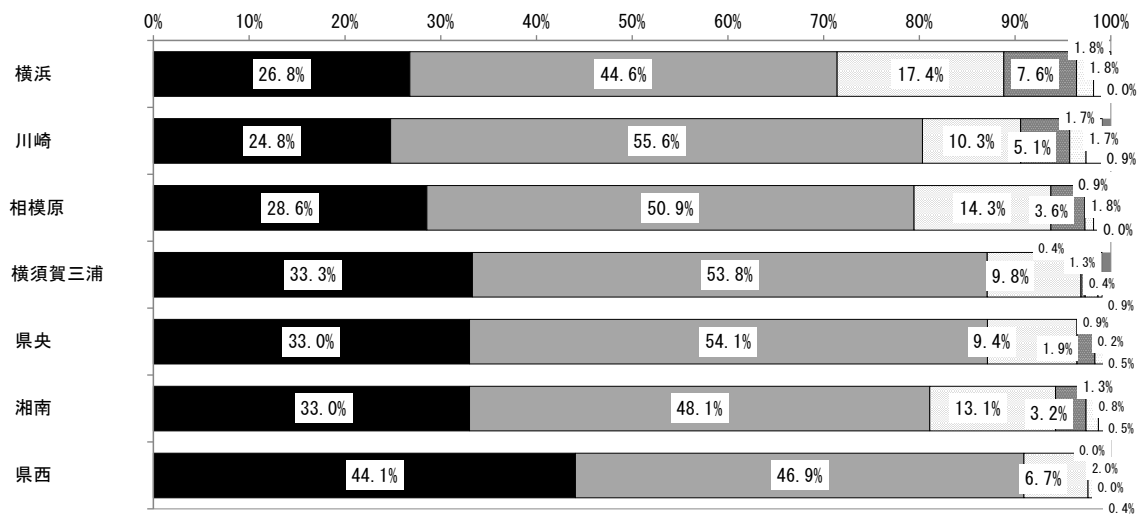


図 I-160 学校はいじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる(教職員)



そう思う
 どちらかというと思う
 どちらともいえない

どちらかというと思わない
 そう思わない
 わからない

無回答

図 I-161 学校はいじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる(保護者)

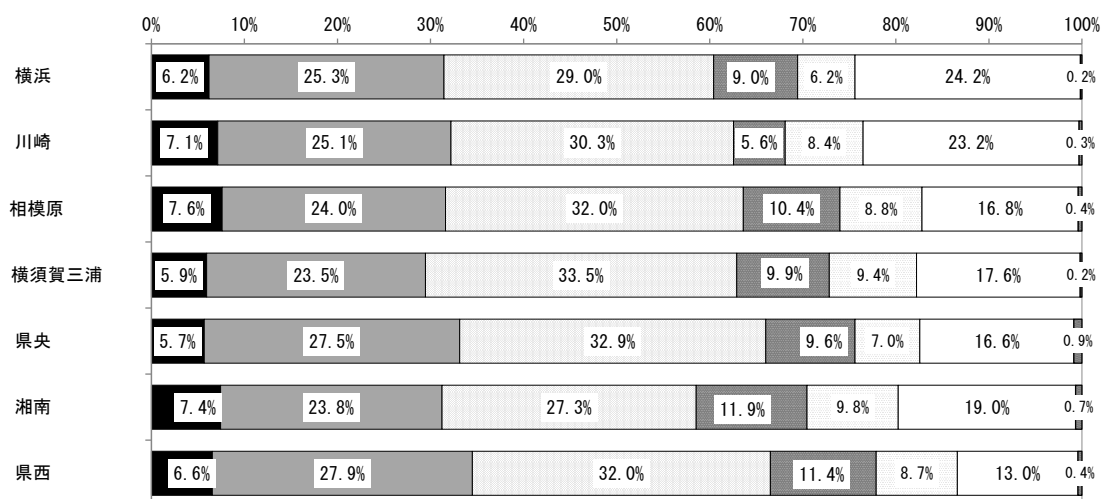


図 I-162 学校はいじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる(学校評議員)

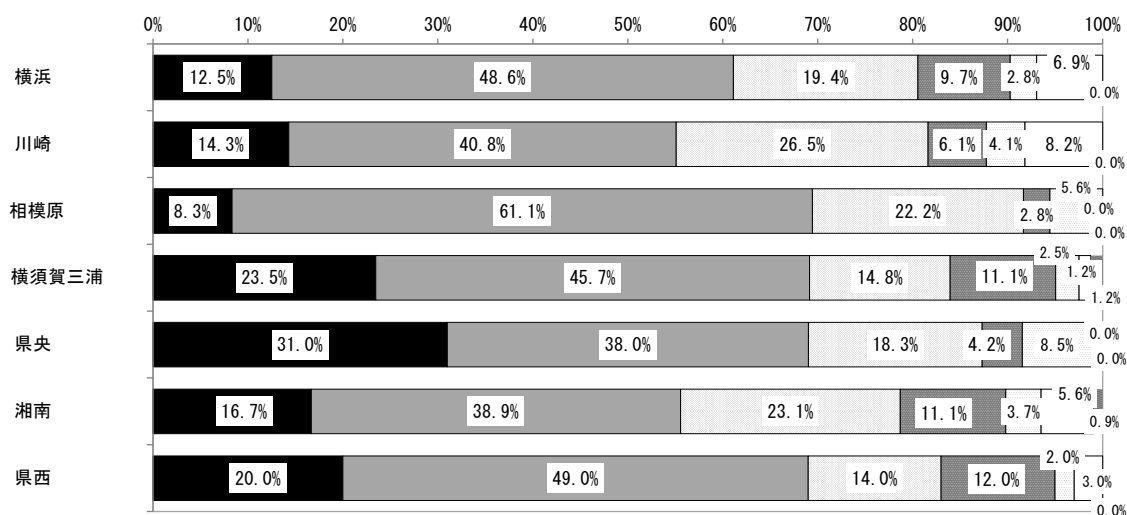


図 I-163 学校はいじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる(一般県民)

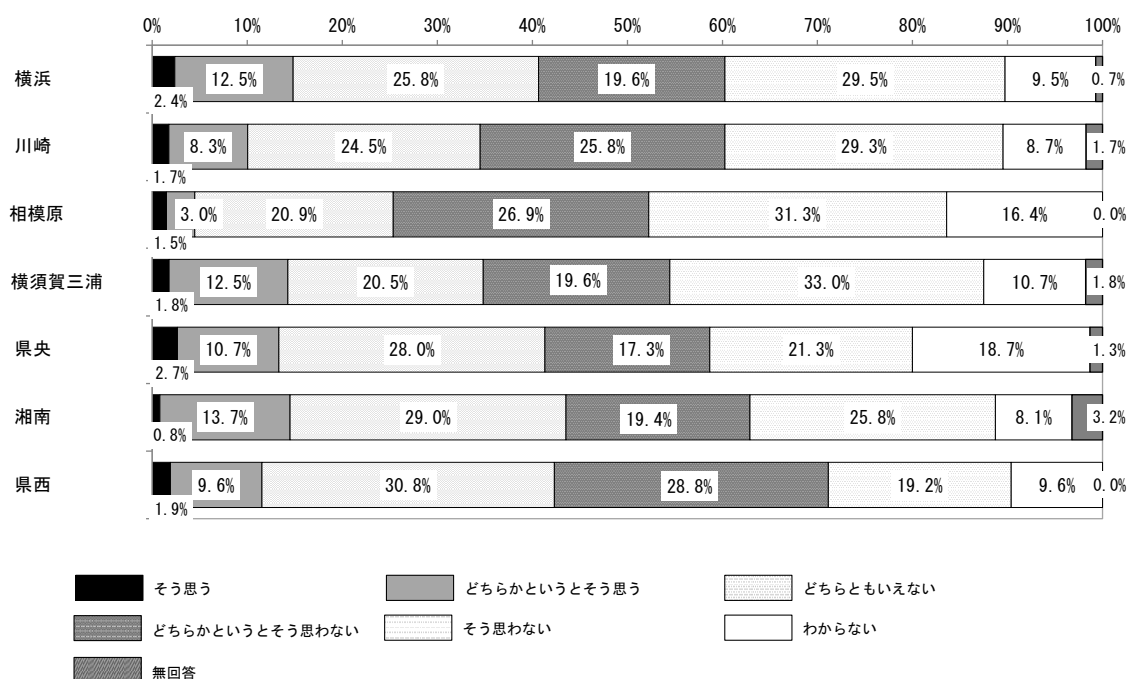


図 I-164 家庭ではしつけや教育が十分に行われている(教職員)

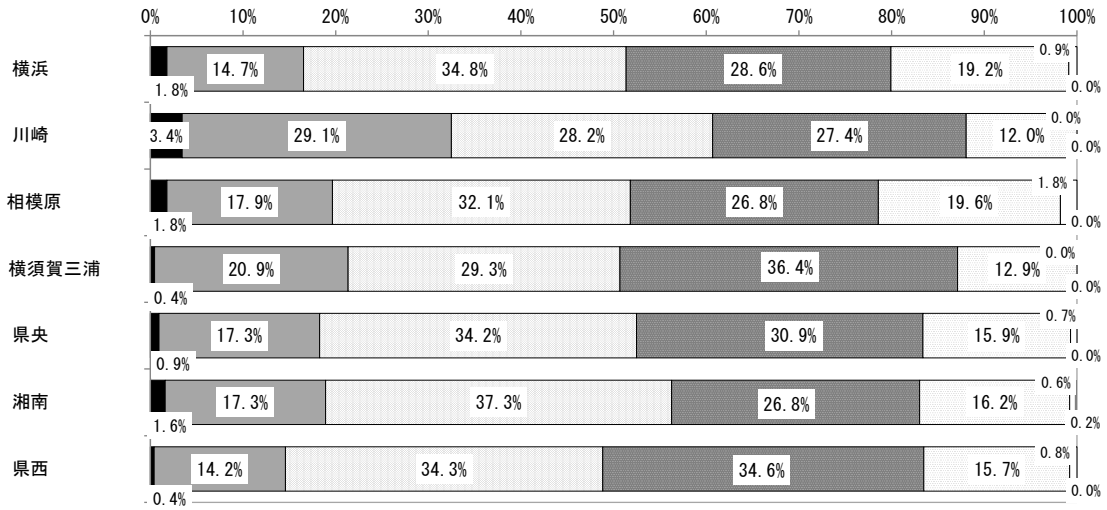


図 I-165 家庭ではしつけや教育が十分に行われている(保護者)

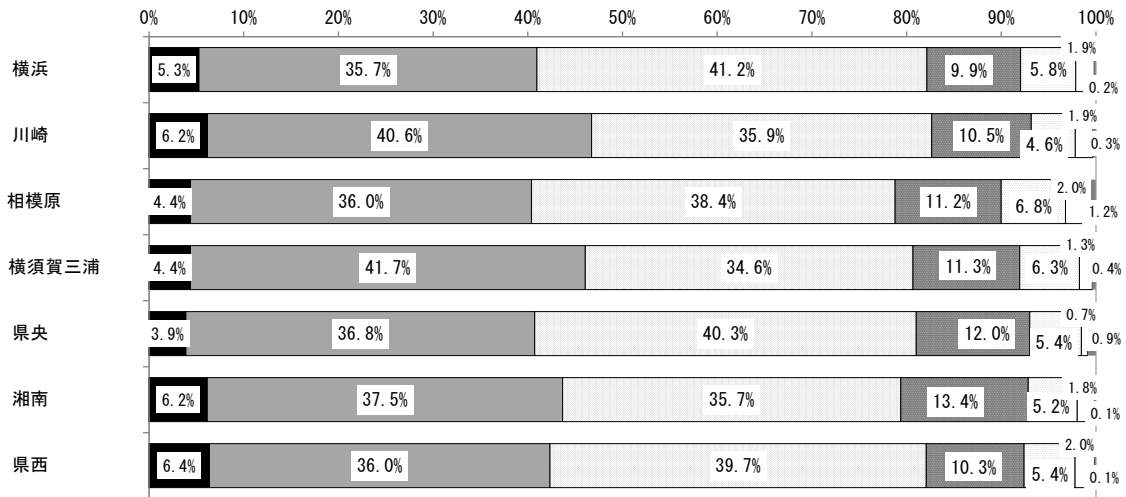
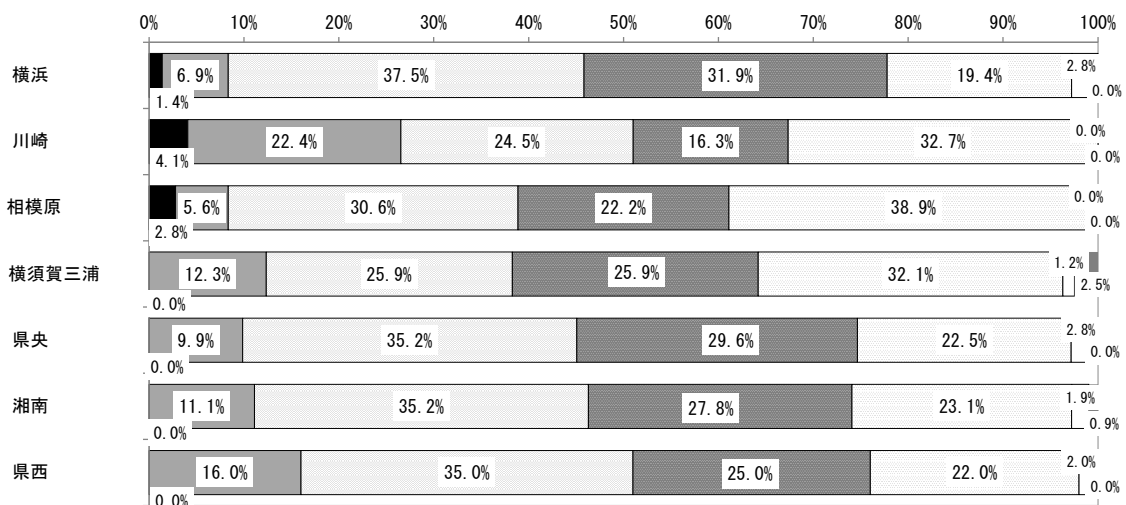


図 I-166 家庭ではしつけや教育が十分に行われている(学校評議員)



そう思う
 どちらかというと思う
 どちらともいえない

どちらかというと思わない
 そう思わない
 わからない

無回答

図 I-167 家庭ではしつけや教育が十分に行われている（一般県民）

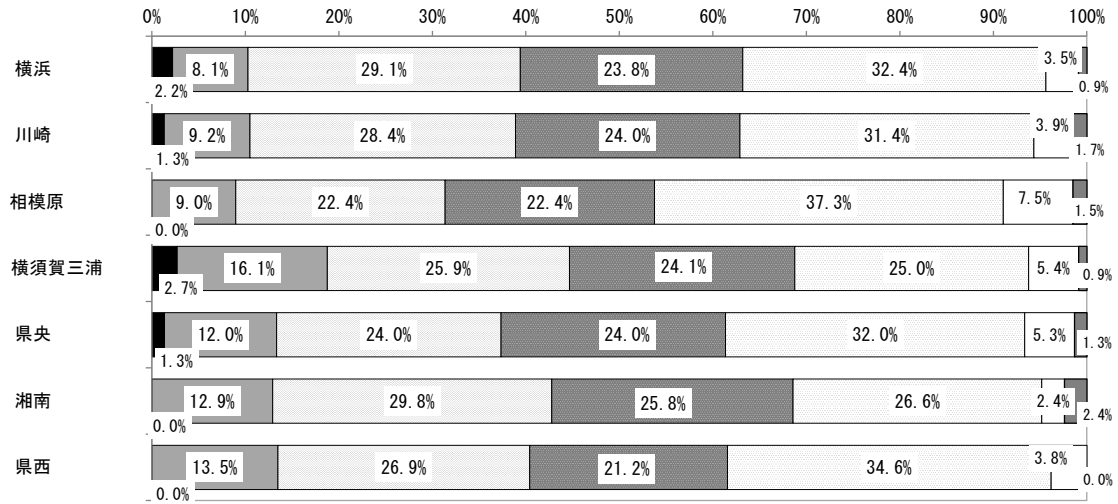


図 I-168 地域では児童・生徒の教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている（教職員）

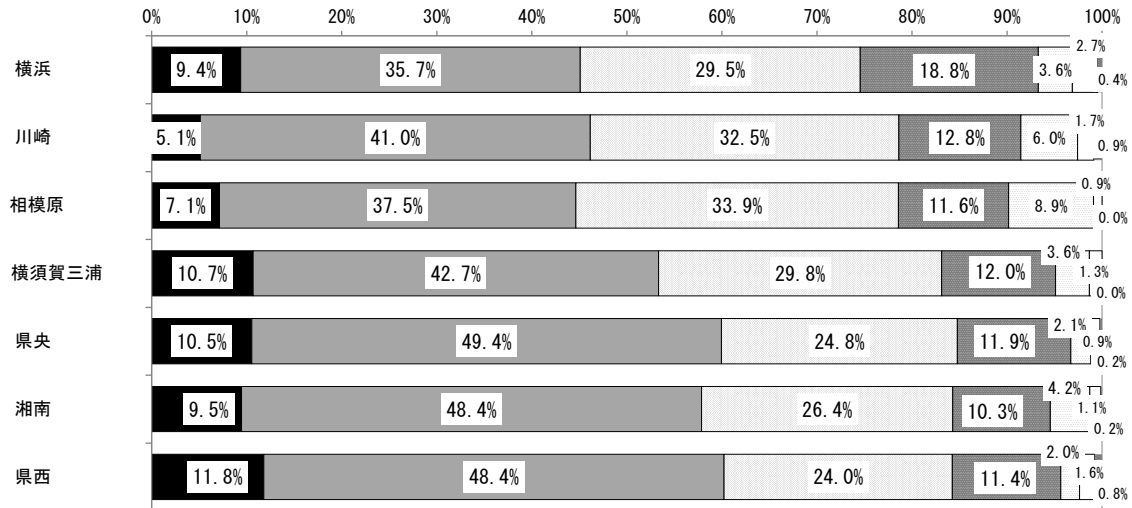


図 I-169 地域では子どもの教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている（保護者）

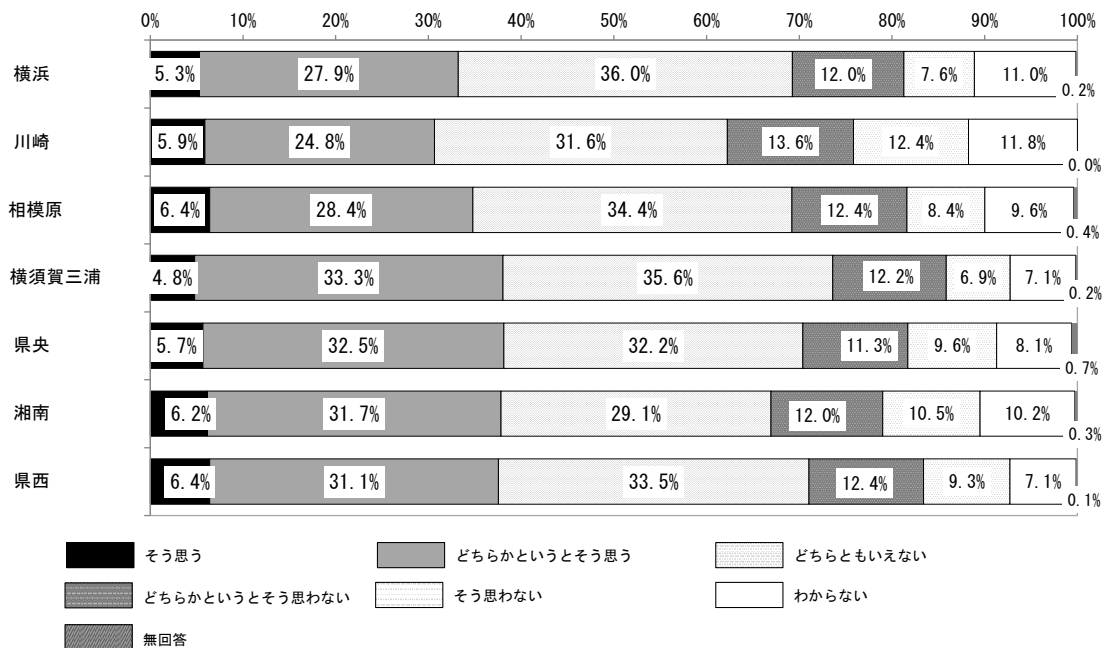


図 I-170 地域では子どもの教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている(学校評議員)

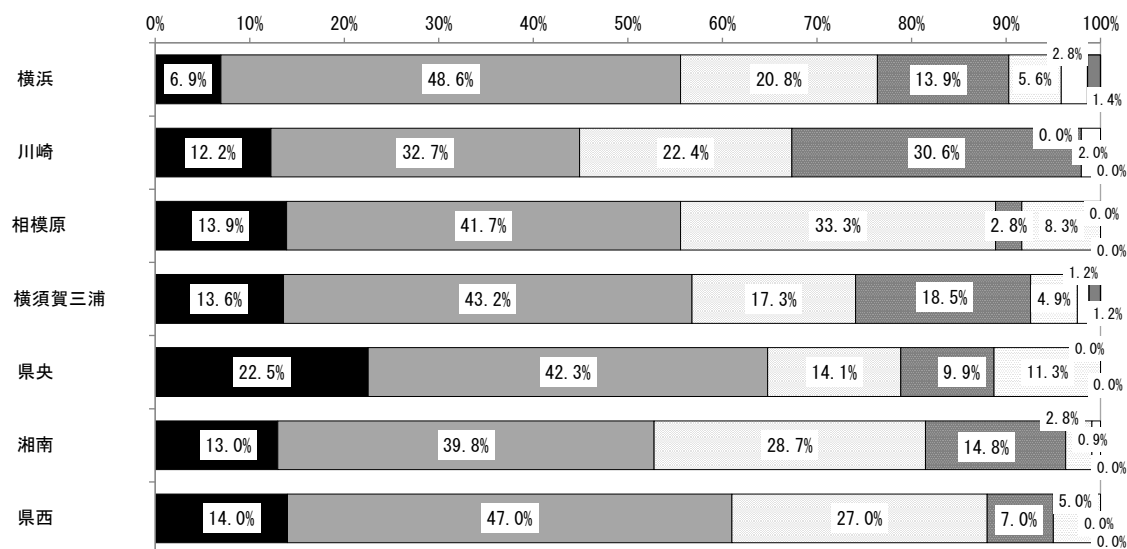
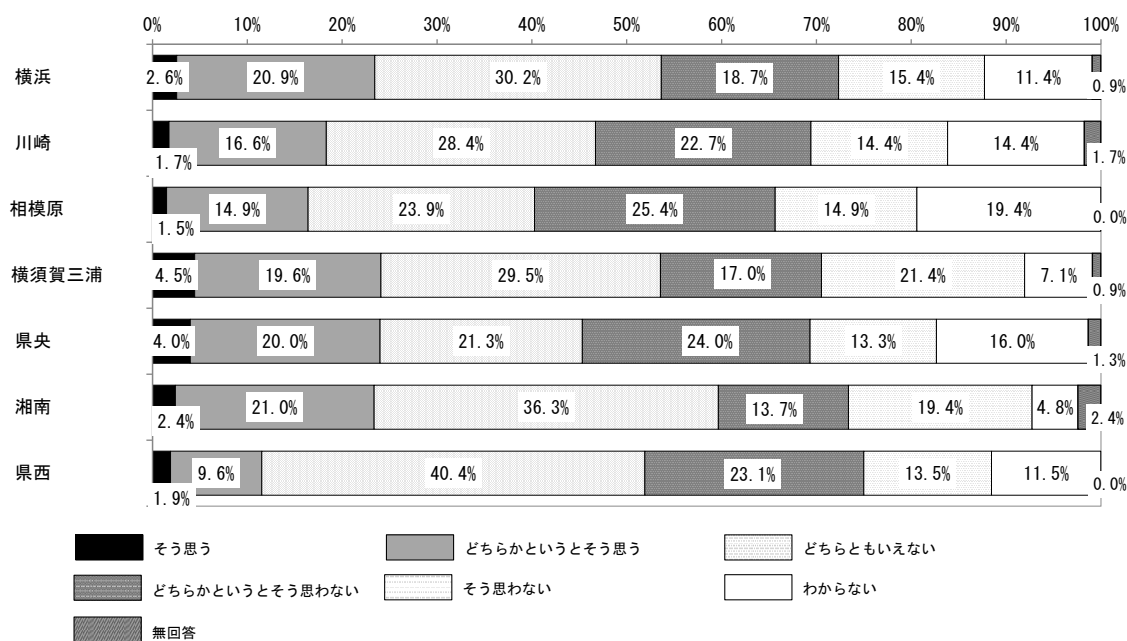


図 I-171 地域では子どもの教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている(一般県民)



I-4-2 「諸課題の解決の方策と学校のあり方」

教職員、保護者、学校評議員及び一般県民による『諸課題の解決の方策と学校のあり方』についての回答結果を地域別で比較したところ、「そう思う」と「どちらかというと思う」の回答の割合の合計が最も高かった項目は、いずれの地区の教職員も「授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人のみだけでなく学校全体でも取り組む」(横浜:91.5%、川崎:96.5%、相模原:93.7%、横須賀三浦:91.5%、県央:96.0%、湘南:95.4%、県西:98.4%)と回答する割合が最も高かった。

保護者も、すべての地区で「授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人のみだけでなく学校全体でも取り組む」(横浜:91.2%、川崎:91.0%、相模原:88.8%、横須賀三浦:92.7%、県央:92.4%、湘南:92.8%、県西:91.5%)と回答する割合が最も高かった。

学校評議員もまた、いずれの地区においても「授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人のみだけでなく学校全体でも取り組む」(横浜:91.6%、川崎:100.0%、相模原:94.4%、横須賀三浦:95.0%、県央:94.4%、湘南:99.1%、県西:99.0%)と回答する割合が最も高かった。(図 I-172~193 参照)

図 I-172 各学校が競い合って、これまで以上に特色ある教育活動・学校づくりを進める
(教職員)

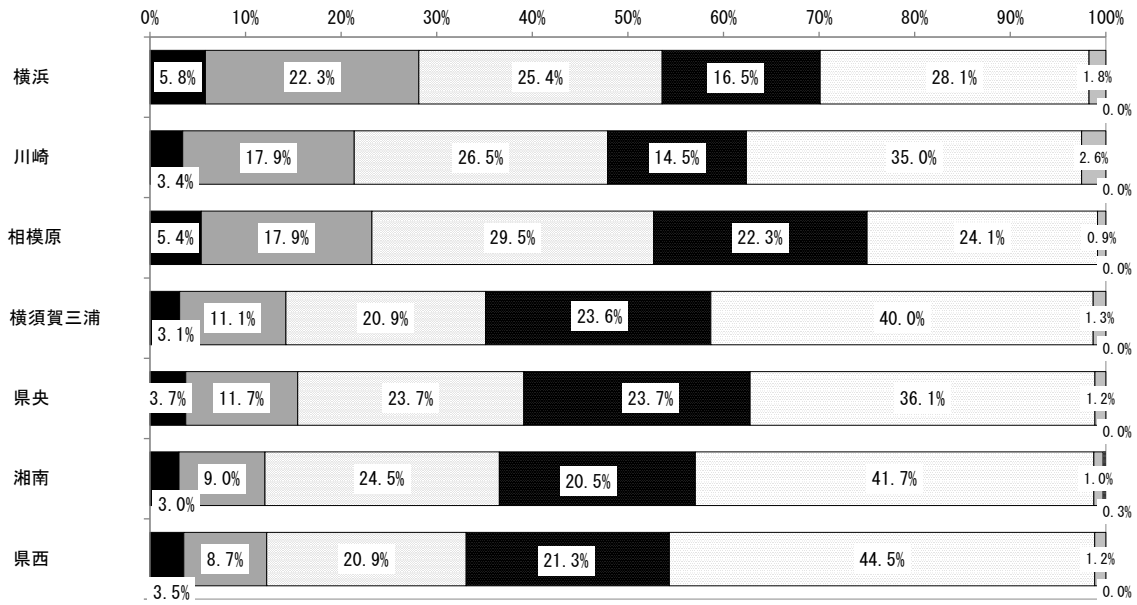


図 I-173 各学校が競い合って、これまで以上に特色ある教育活動・学校づくりを進める
(保護者)

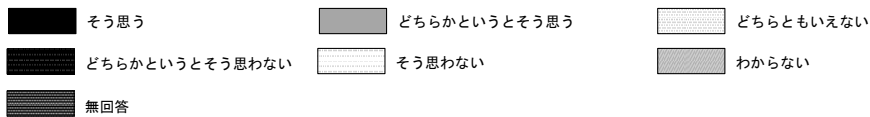
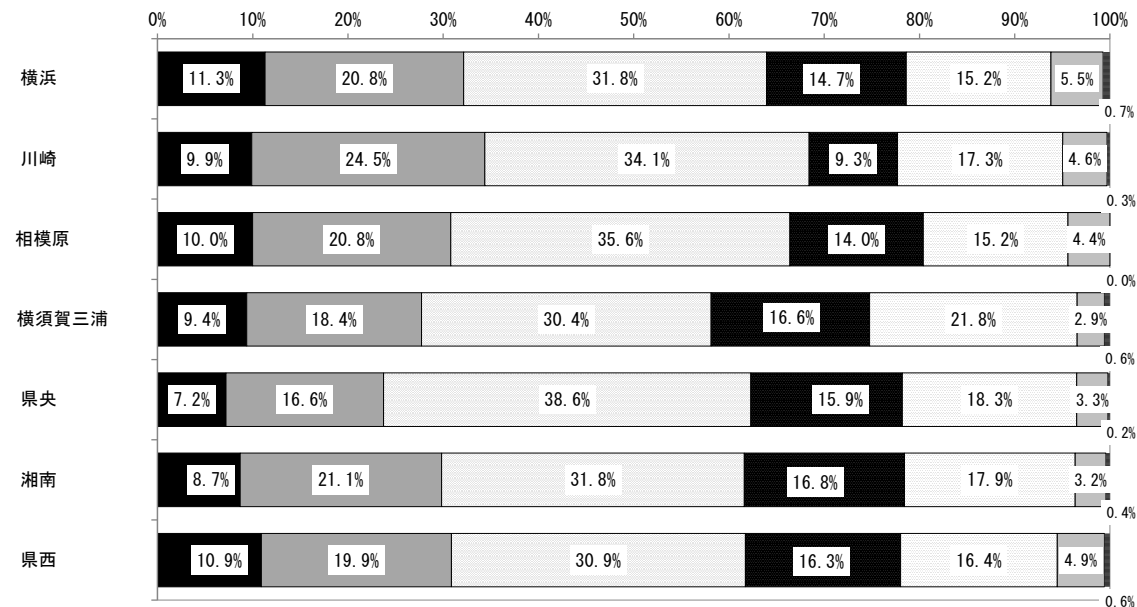


図 I-174 各学校が競い合って、これまで以上に特色ある教育活動・学校づくりを進める
(学校評議員)

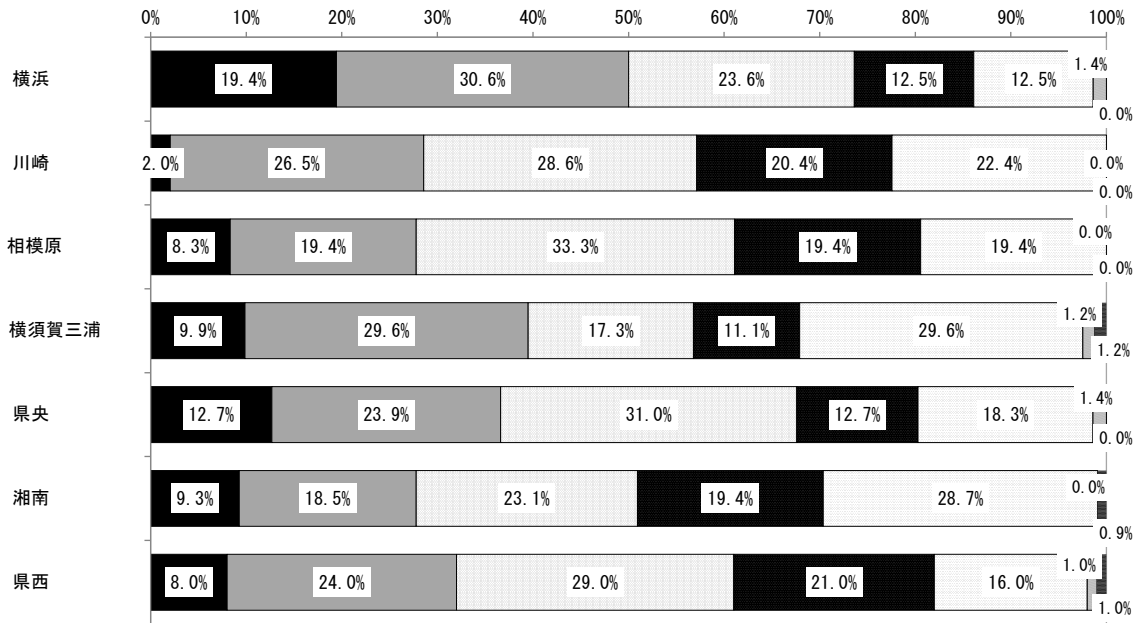
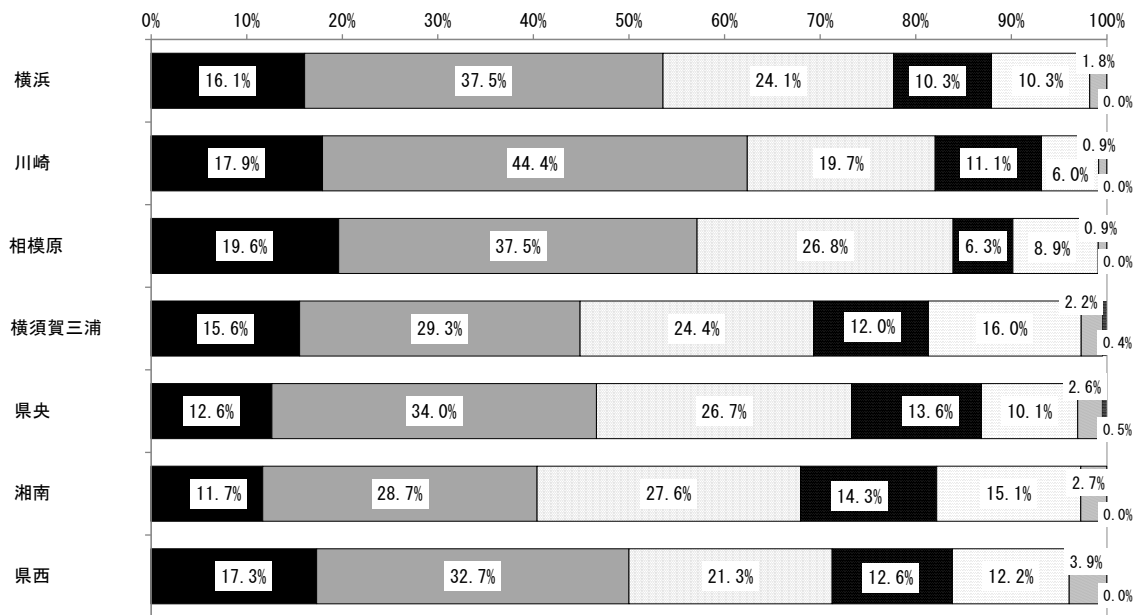


図 I-175 学校（校長）に予算や人事などの面で裁量を与え、現場の実態に応じた独自の
学校づくりを進める(教職員)



そう思う
 どちらかというそう思う
 どちらともいえない
 どちらかというそう思わない
 そう思わない
 わからない
 無回答

図 I-176 学校（校長）にいろいろな決定権を与えて、子どもの実態に応じた学校づくりを進める（保護者）

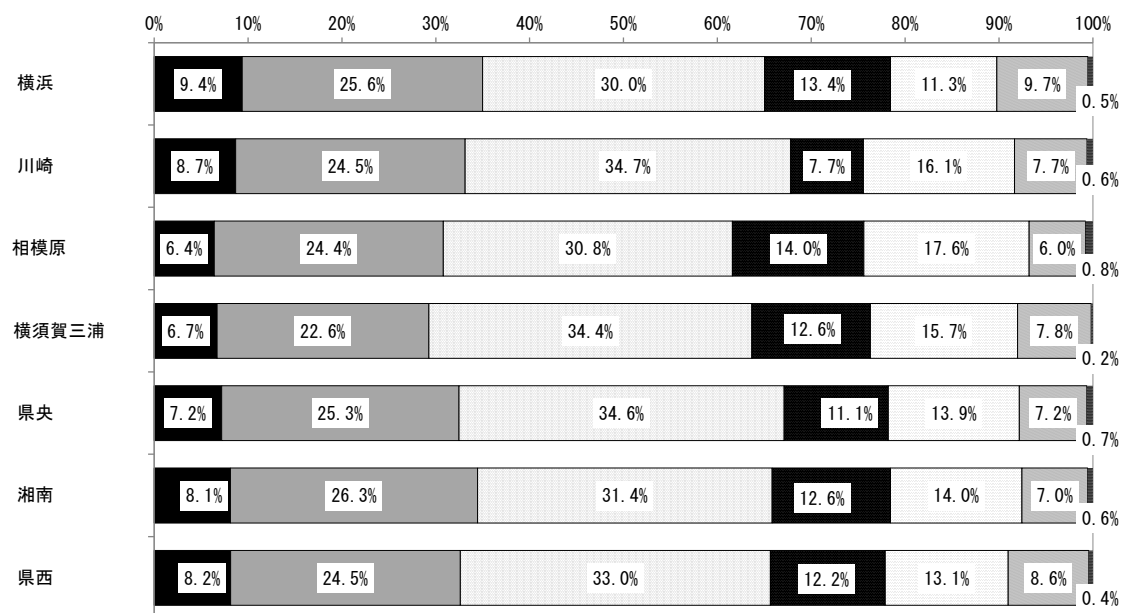
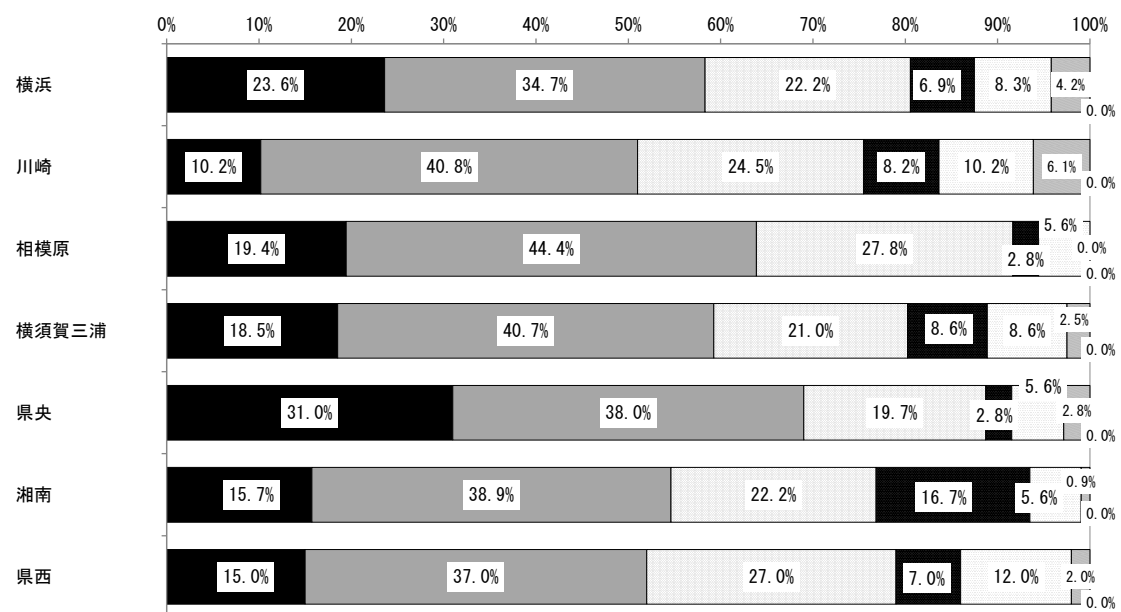


図 I-177 学校（校長）にいろいろな決定権を与えて、子どもの実態に応じた学校づくりを進める（学校評議員）



そう思う
 どちらかというと思う
 どちらともいえない
 どちらかというと思わない
 そう思わない
 わからない
 無回答

図 I-178 教員一人ひとりが自らの指導力を自覚し、それぞれの能力に応じた向上に努める(教職員)

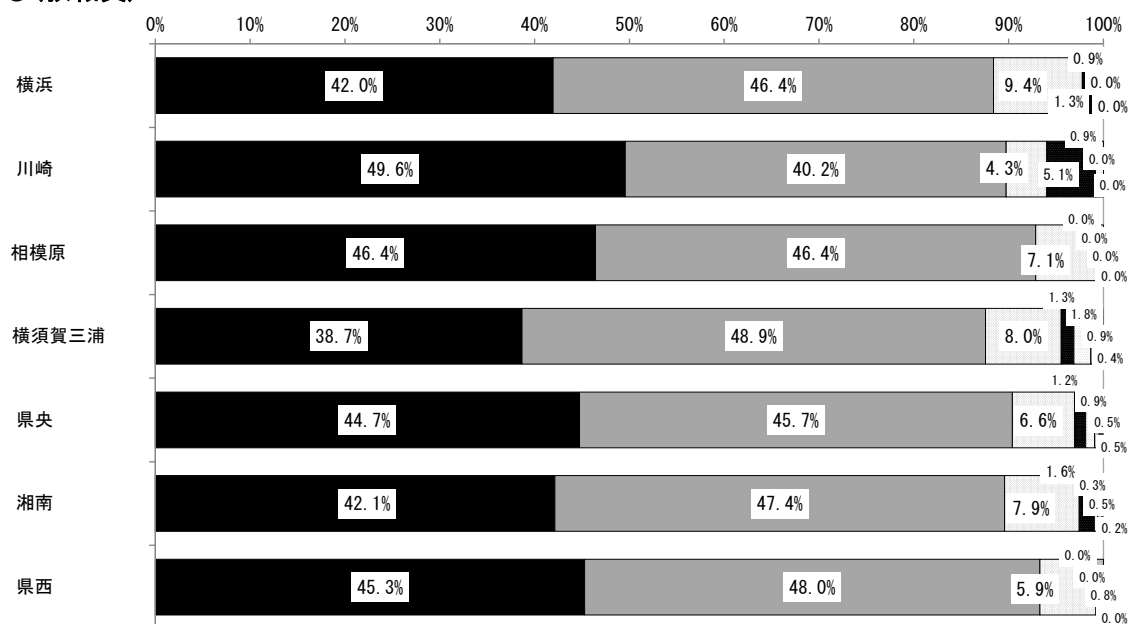
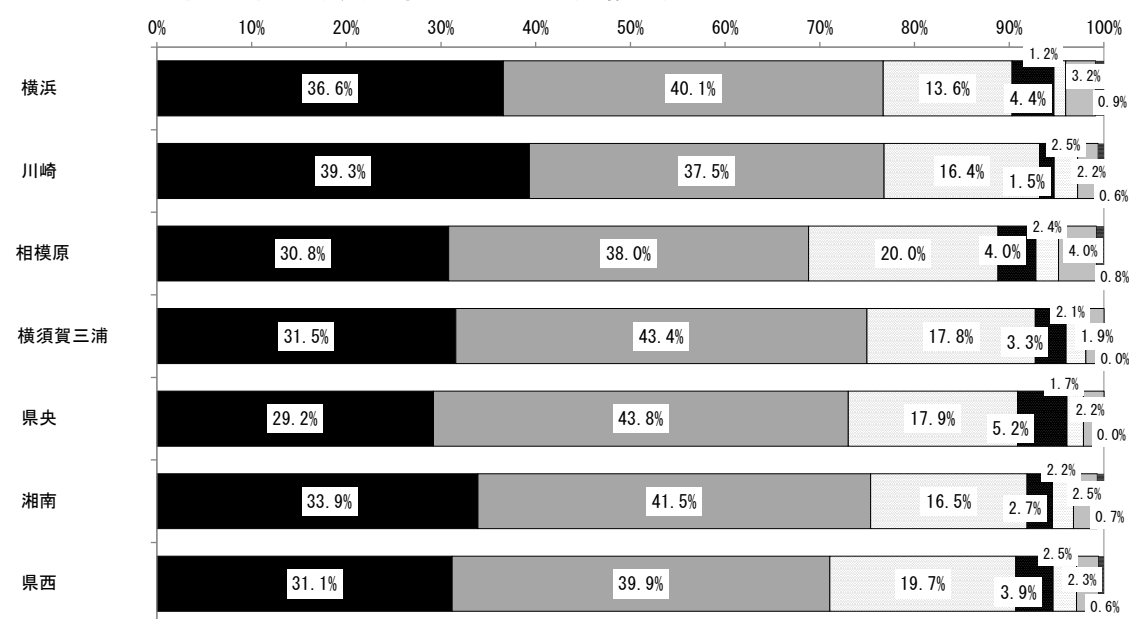


図 I-179 指導力の高い教員を増やしていく(保護者)



そう思う
 どちらかというと思う
 どちらともいえない

どちらかというと思わない
 そう思わない
 わからない

無回答

図 I-180 指導力の高い教員を増やしていく(学校評議員)

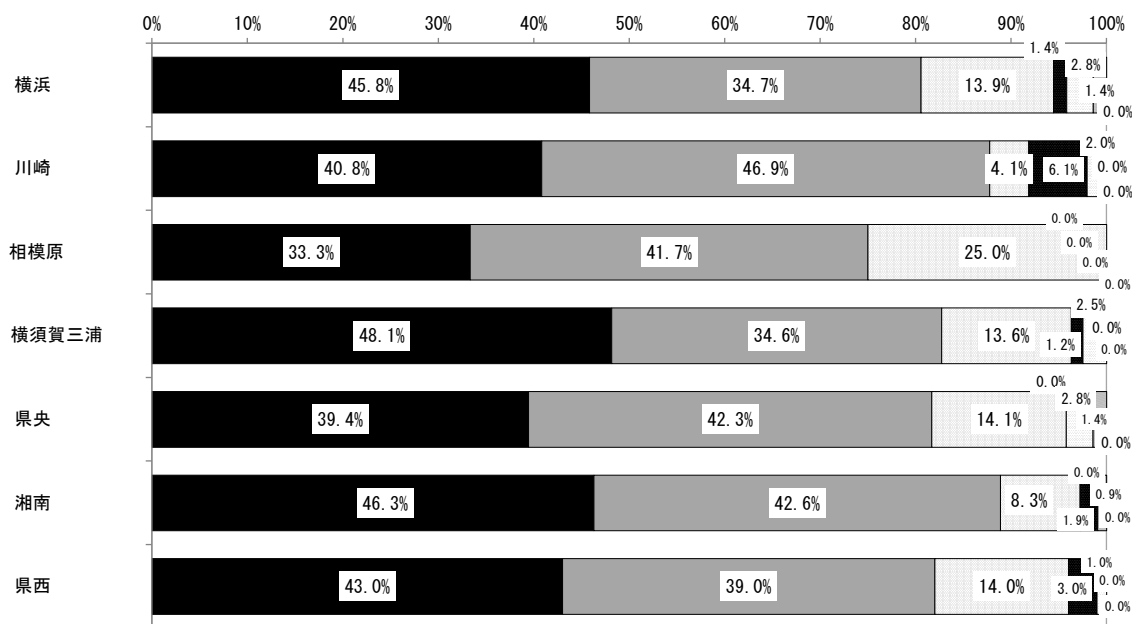
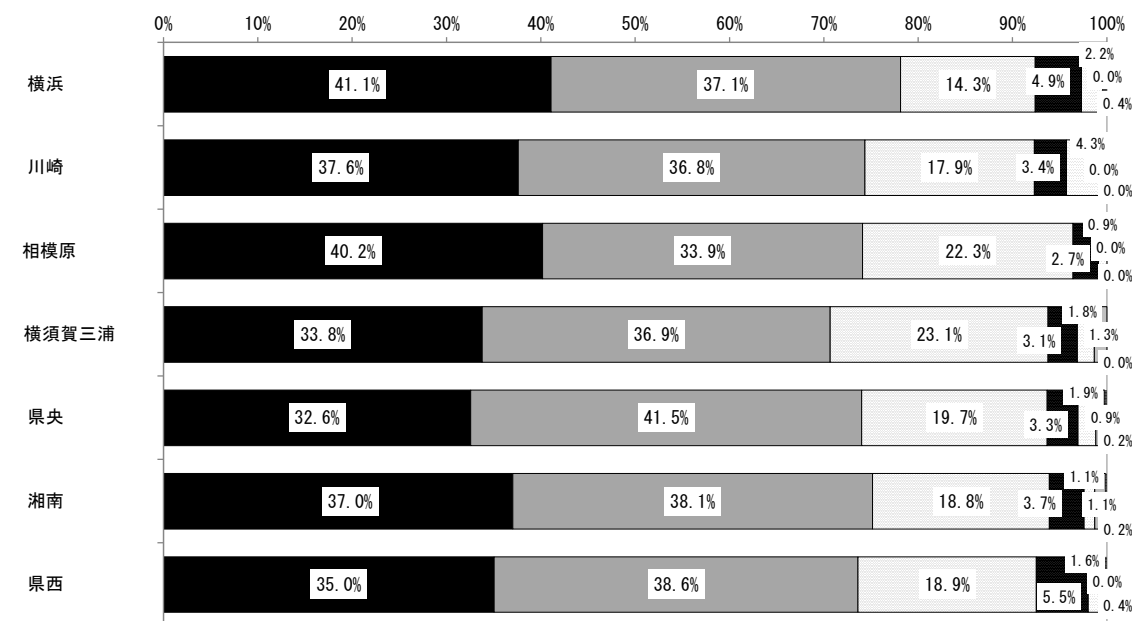


図 I-181 教員の仕事が均分化・平準化できるよう、校内の組織や業務内容を見直す(教職員)



そう思う
 どちらかというと思う
 どちらともいえない
 どちらかというと思わない
 そう思わない
 わからない
 無回答

図 I-182 授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人の力だけでなく学校全体でも取り組む(教職員)

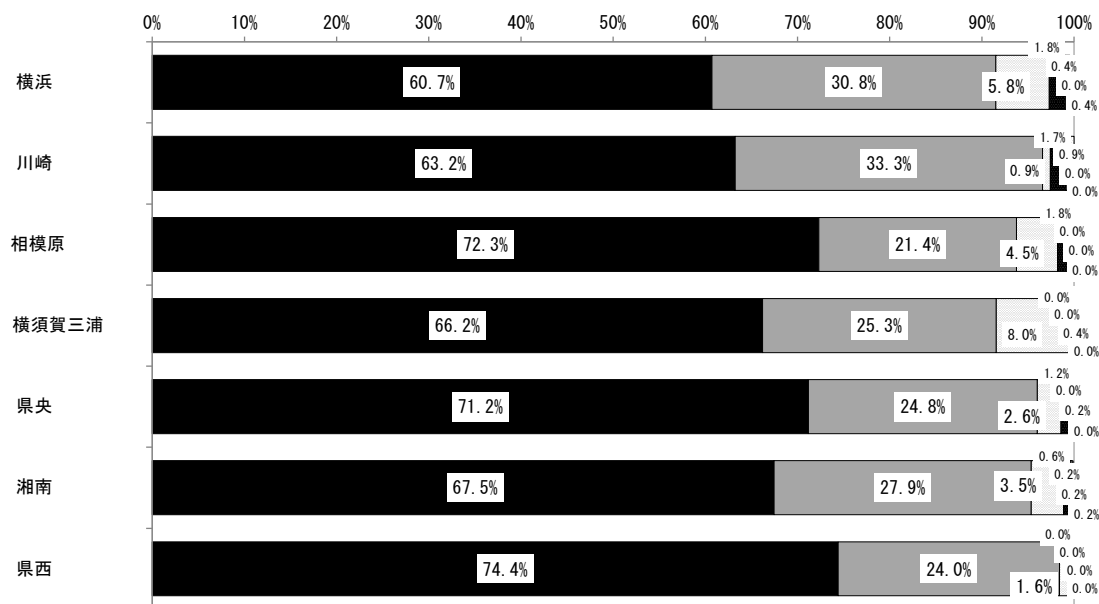
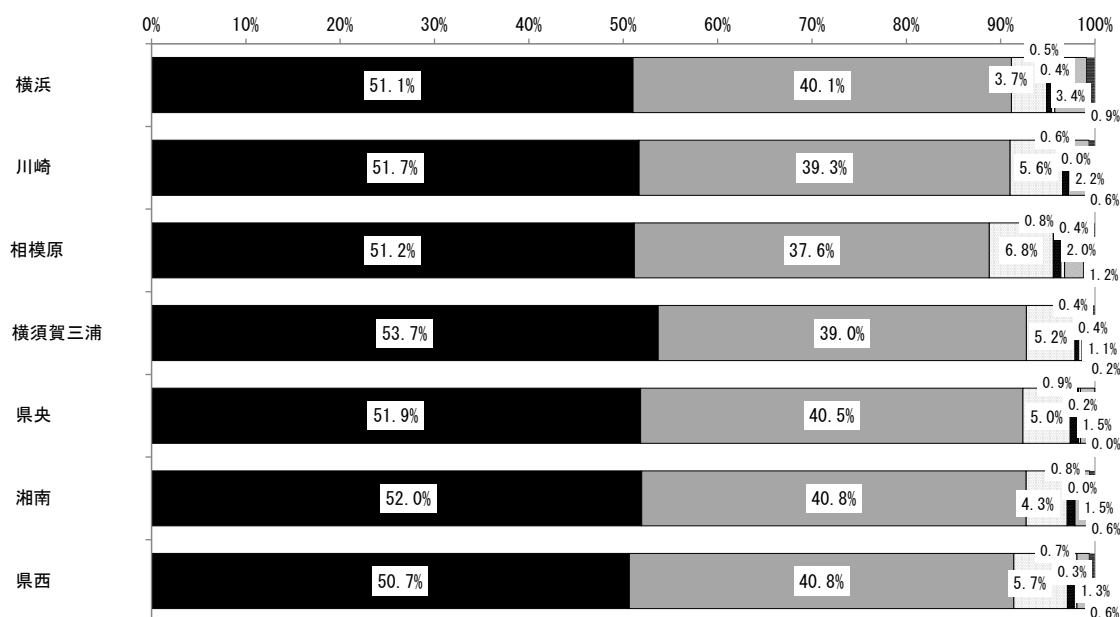


図 I-183 授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけでなく学校全体でも取り組むようにする(保護者)



そう思う
 どちらかというと思う
 どちらともいえない

どちらかというと思わない
 そう思わない
 わからない

無回答

図 I-184 授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけでなく学校全体でも取り組むようにする(学校評議員)

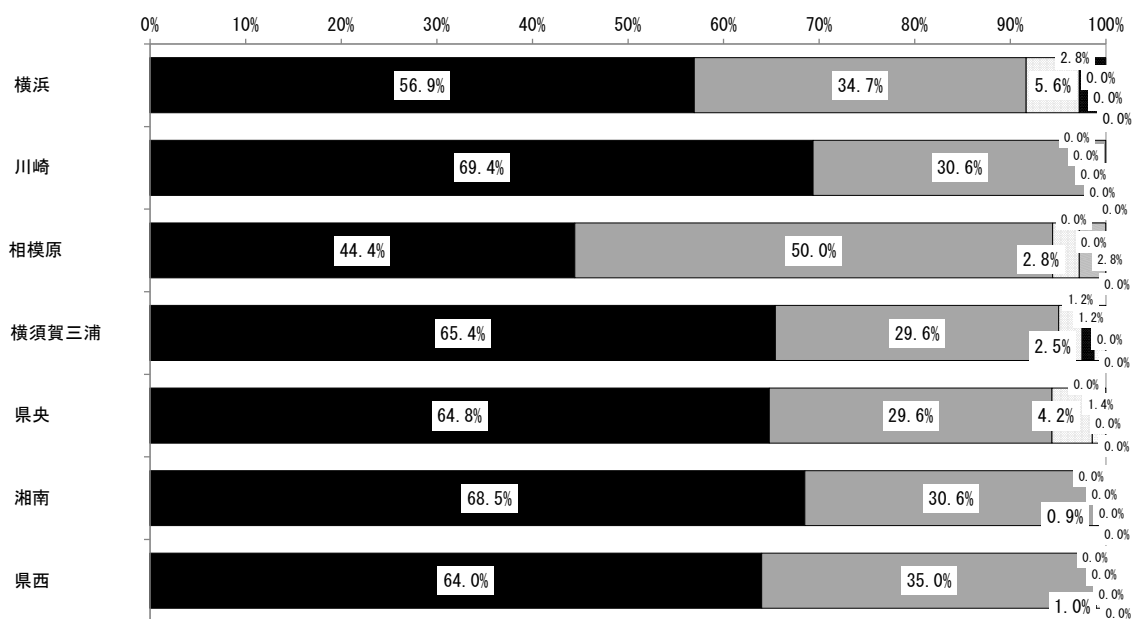


図 I-185 地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める(教職員)

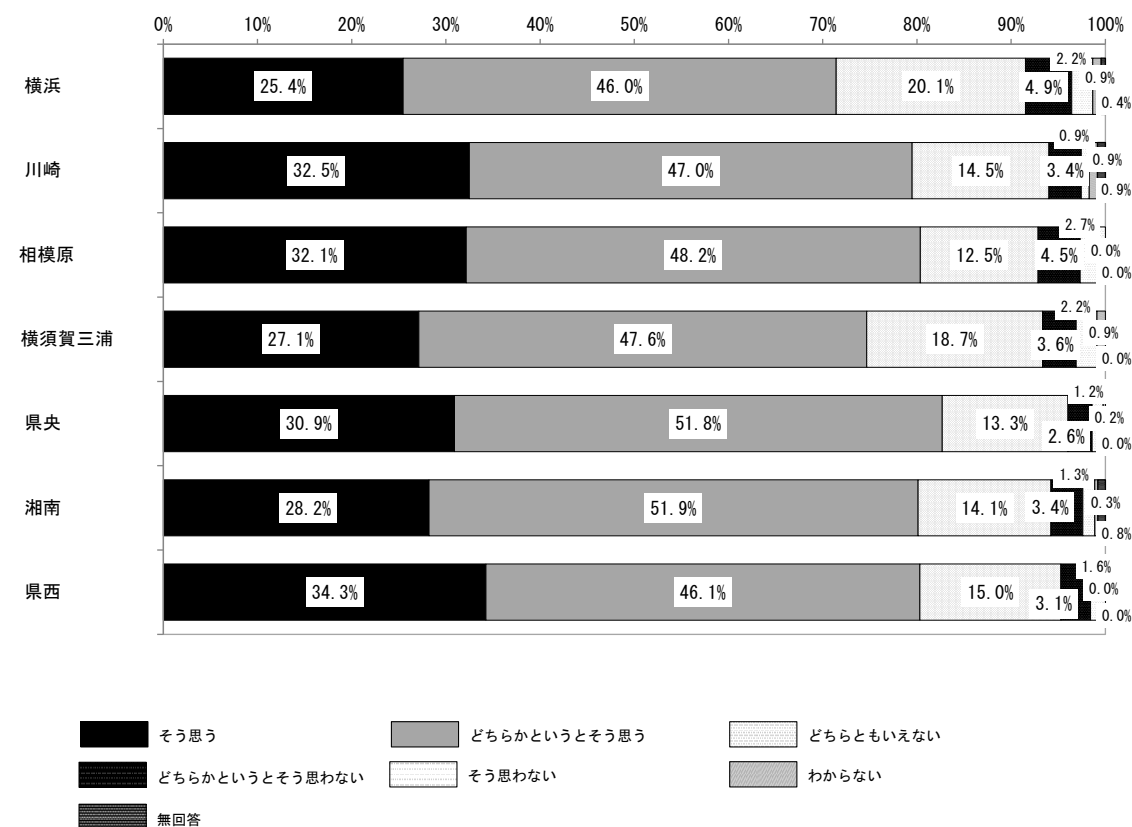


図 I-186 地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める
(保護者)

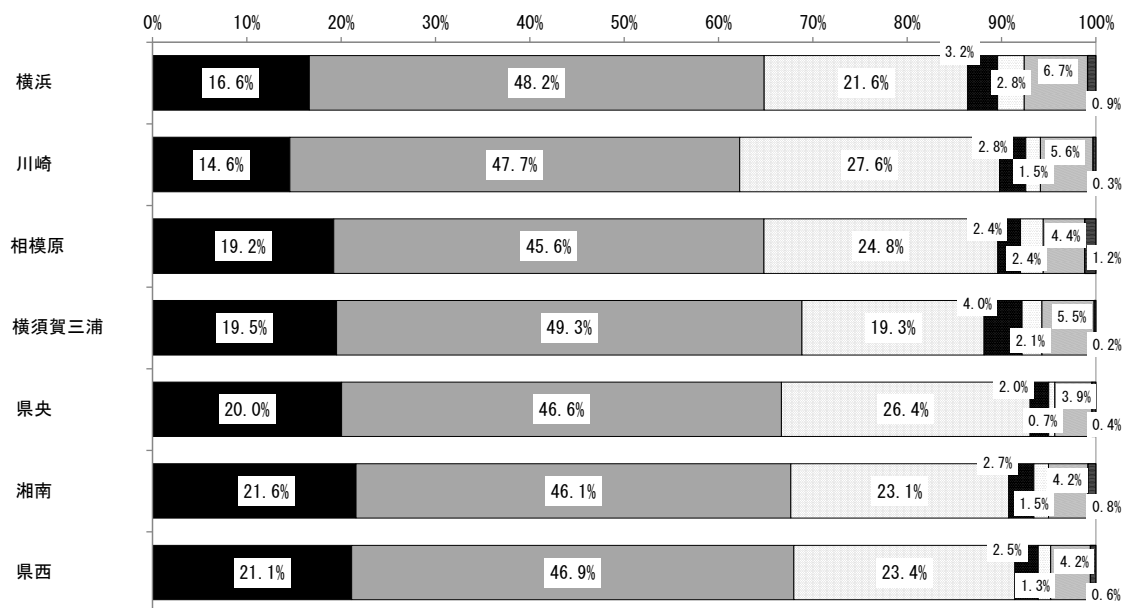


図 I-187 地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める
(学校評議員)

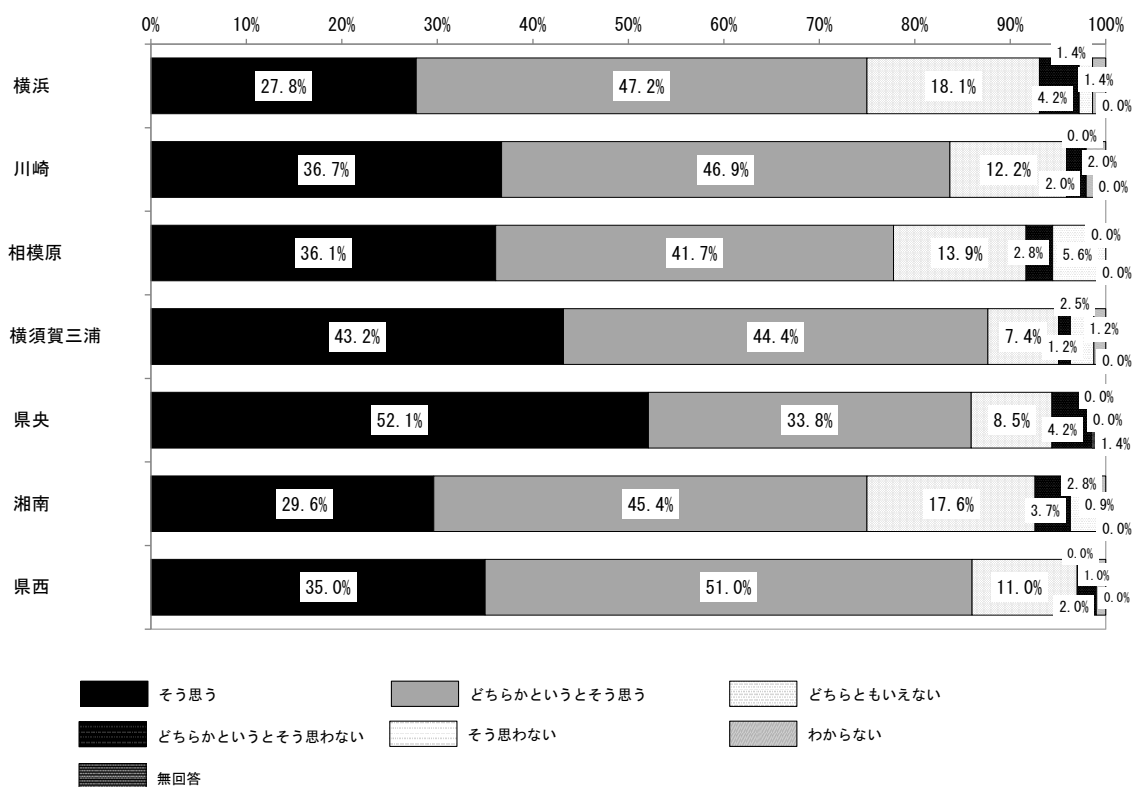


図 I-188 NPOや企業などとの連携・協力を進め、県民の力を生かした学校づくりを進める(教職員)

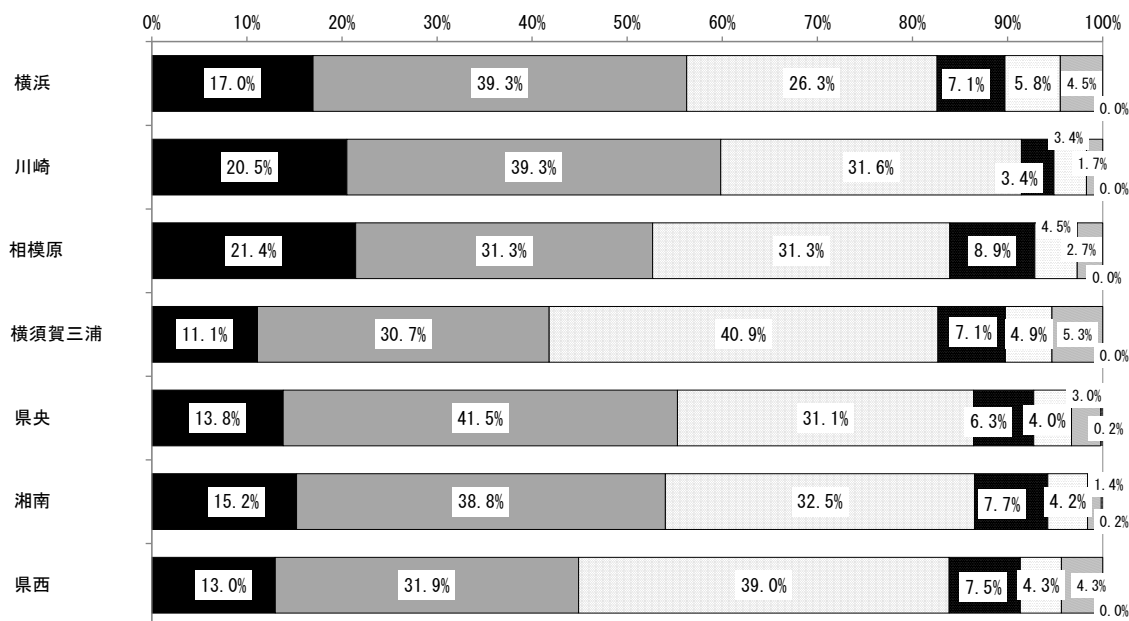
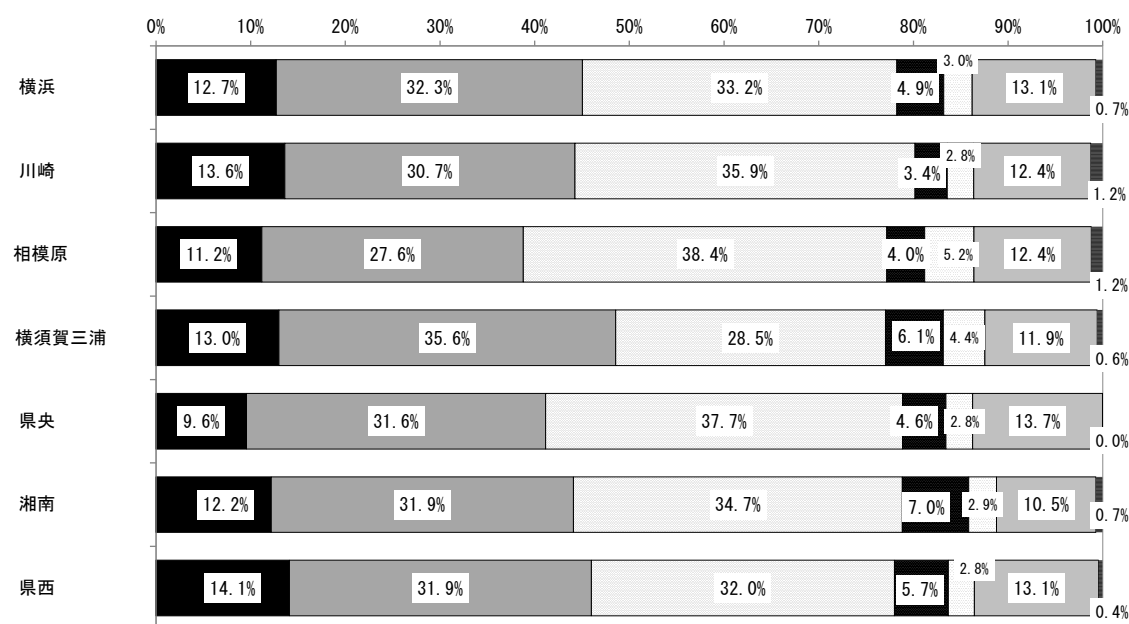


図 I-189 NPO（非営利組織）や企業などとの連携・協力を進め、県民の力を生かした学校づくりを進める(保護者)



そう思う
 どちらかというと思う
 どちらともいえない
 どちらかというと思わない
 そう思わない
 わからない
 無回答

図 I-190 NPO（非営利組織）や企業などとの連携・協力を進め、県民の力を生かした学校づくりを進める（学校評議員）

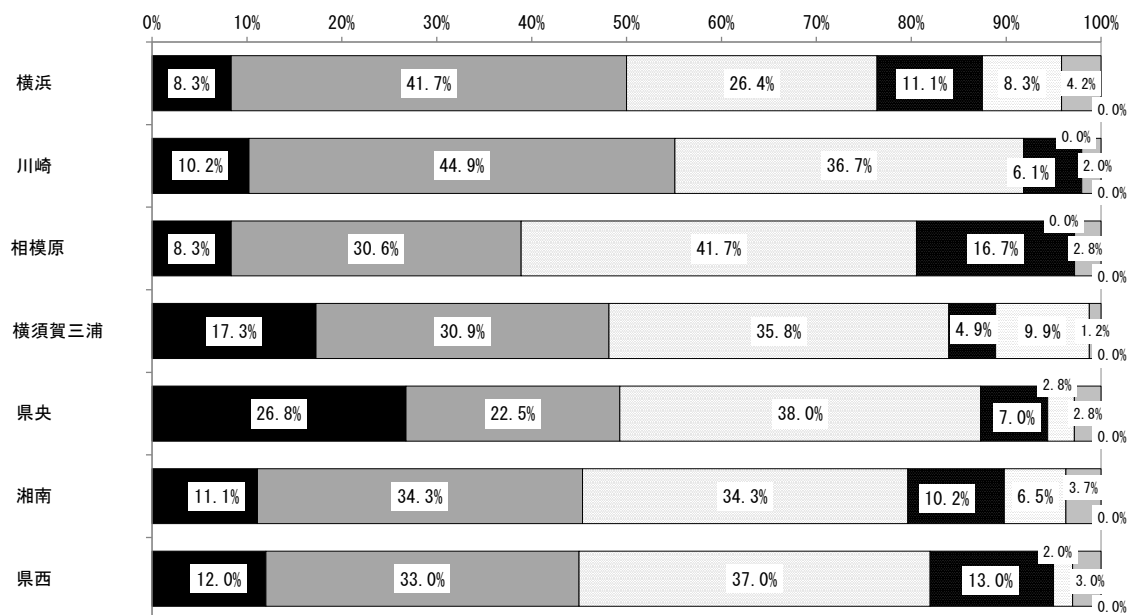
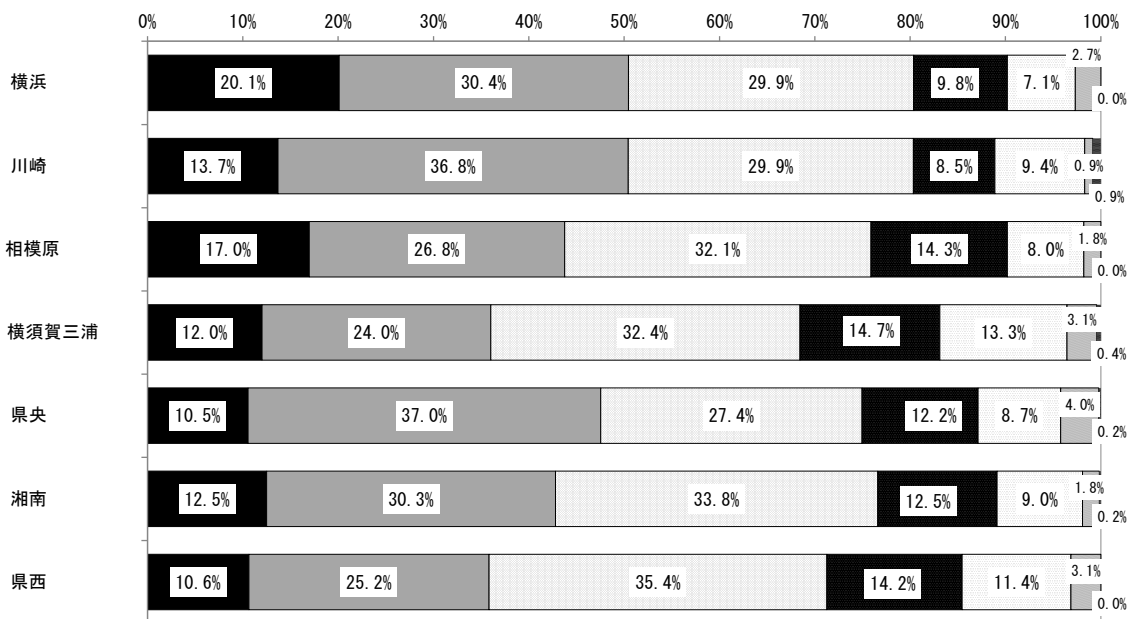


図 I-191 学校が児童・生徒の教育機能だけでなく、地域の教育の拠点としての役割も担う存在となる（教職員）



そう思う
 どちらかというと思う
 どちらともいえない
 どちらかというと思わない
 そう思わない
 わからない
 無回答

図 I-192 学校が、子どもの教育だけでなく、地域の人が学べる拠点としての役割ももつようにしていく(保護者)

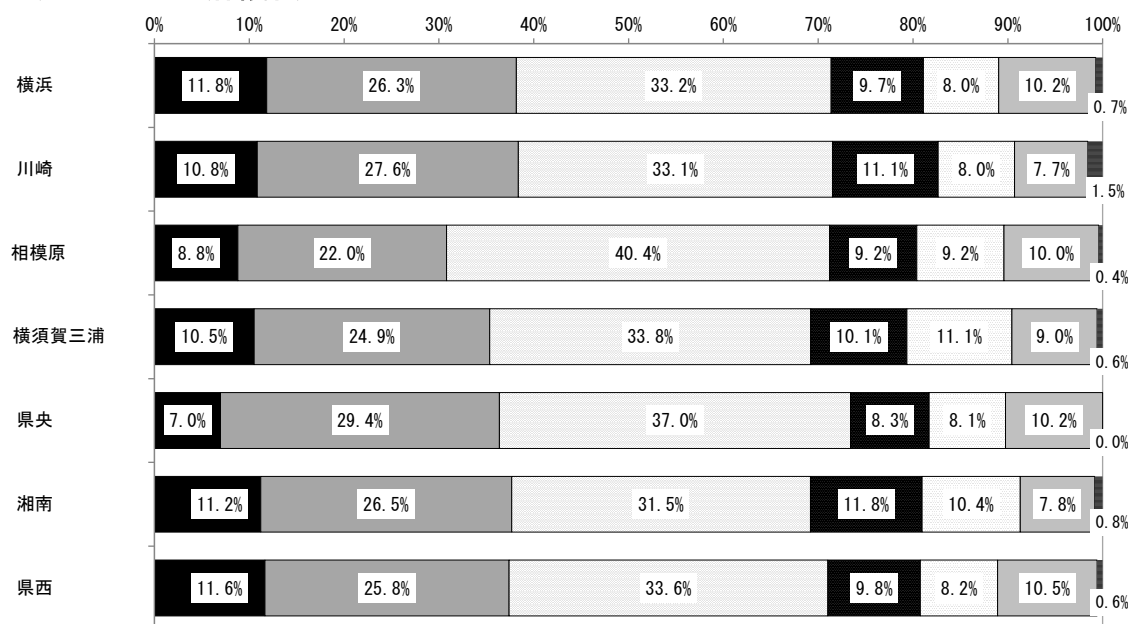
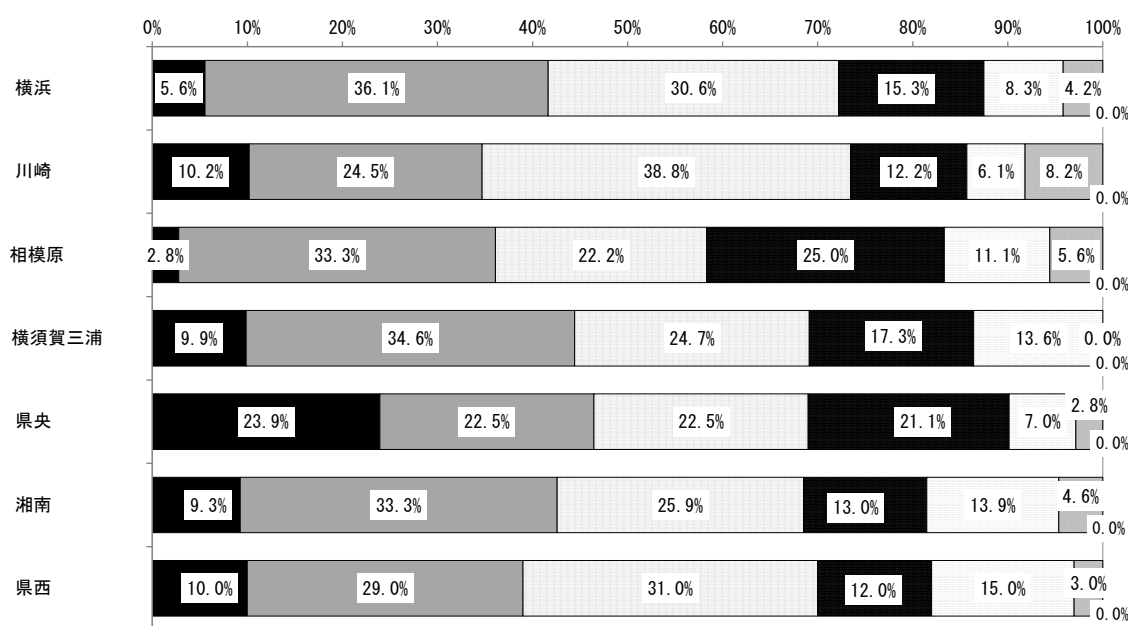


図 I-193 学校が、子どもの教育だけでなく、地域の人が学べる拠点としての役割ももつようにしていく(学校評議員)



そう思う
 どちらかというと思う
 どちらともいえない
 どちらかというと思わない
 そう思わない
 わからない
 無回答

I-4-3 『『神奈川らしい教育』に生かしたいもの』

教職員、保護者、学校評議員による『『神奈川らしい教育』に生かしたいもの』についての回答結果を地域別で比較したところ、回答の割合が最も高かった項目は、いずれの地区の教職員も「自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性」（横浜：62.5%、川崎：69.2%、相模原：73.9%、横須賀三浦：67.0%、県央：72.1%、湘南：69.3%、県西：73.2%）と回答する割合が最も高かった。

保護者も、すべての地区で「自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性」（横浜：61.0%、川崎：68.4%、相模原：64.0%、横須賀三浦：58.1%、県央：65.1%、湘南：58.8%、県西：62.7%）と回答する割合が最も高かった。

学校評議員もまた、いずれの地区においても「自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性」（横浜：69.4%、川崎：77.6%、相模原：80.6%、横須賀三浦：71.6%、県央：81.7%、湘南：75.9%、県西：78.0%）と回答する割合が最も高かった。（図 I-194～196 参照）

図 I-194 「神奈川らしい教育」に生かしたいもの(教職員)

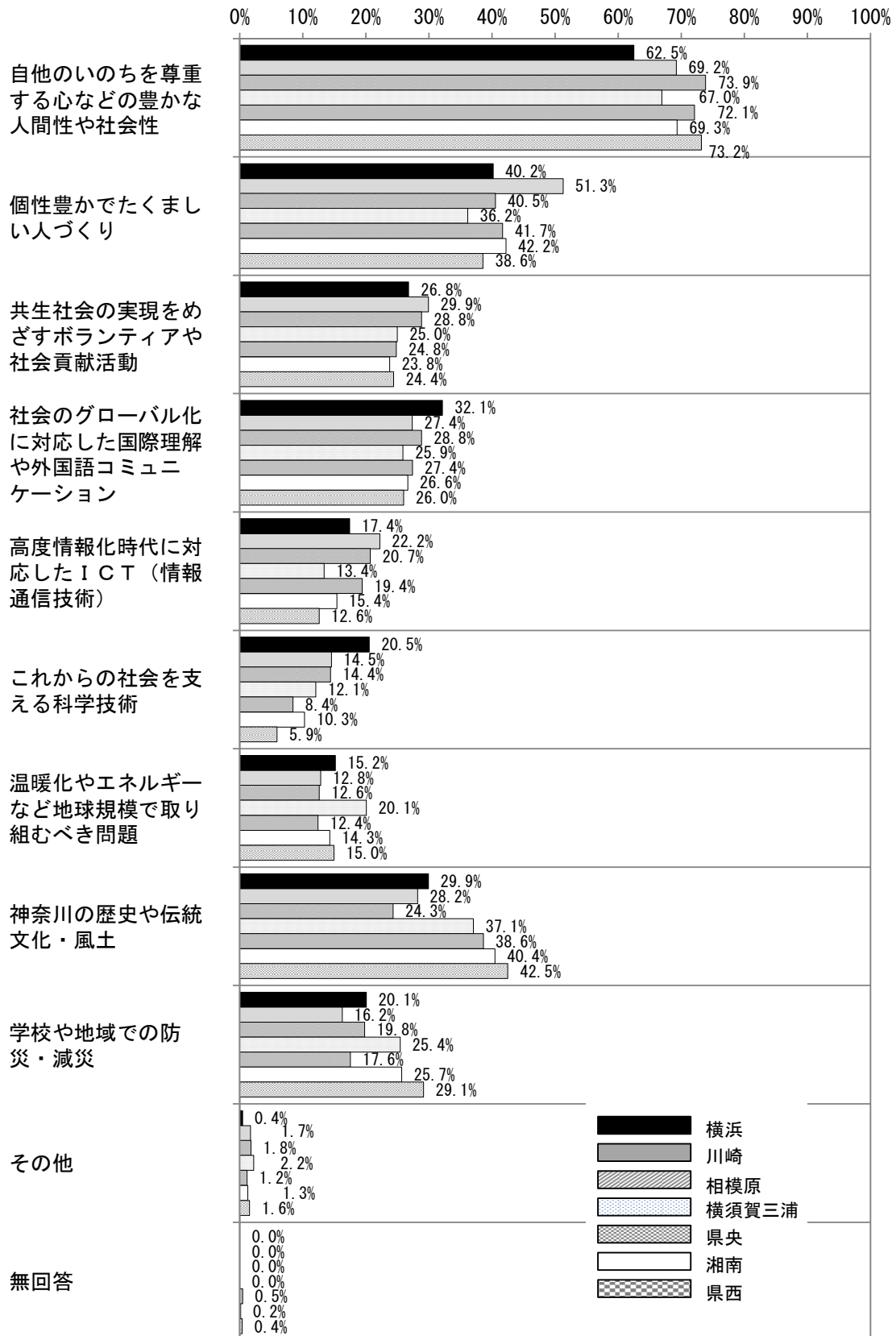


図 I-195 「神奈川らしい教育」に生かしたいもの(保護者)

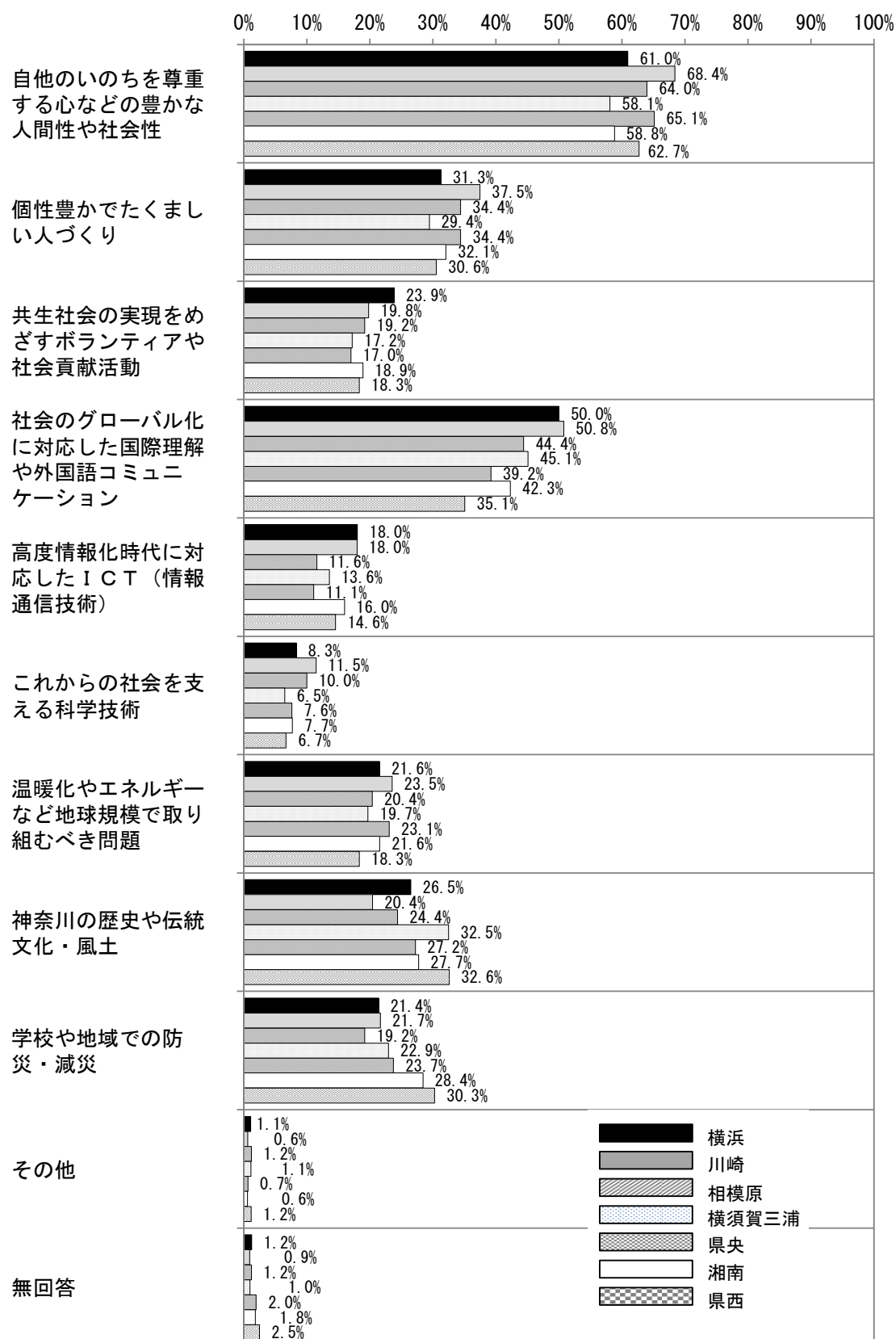
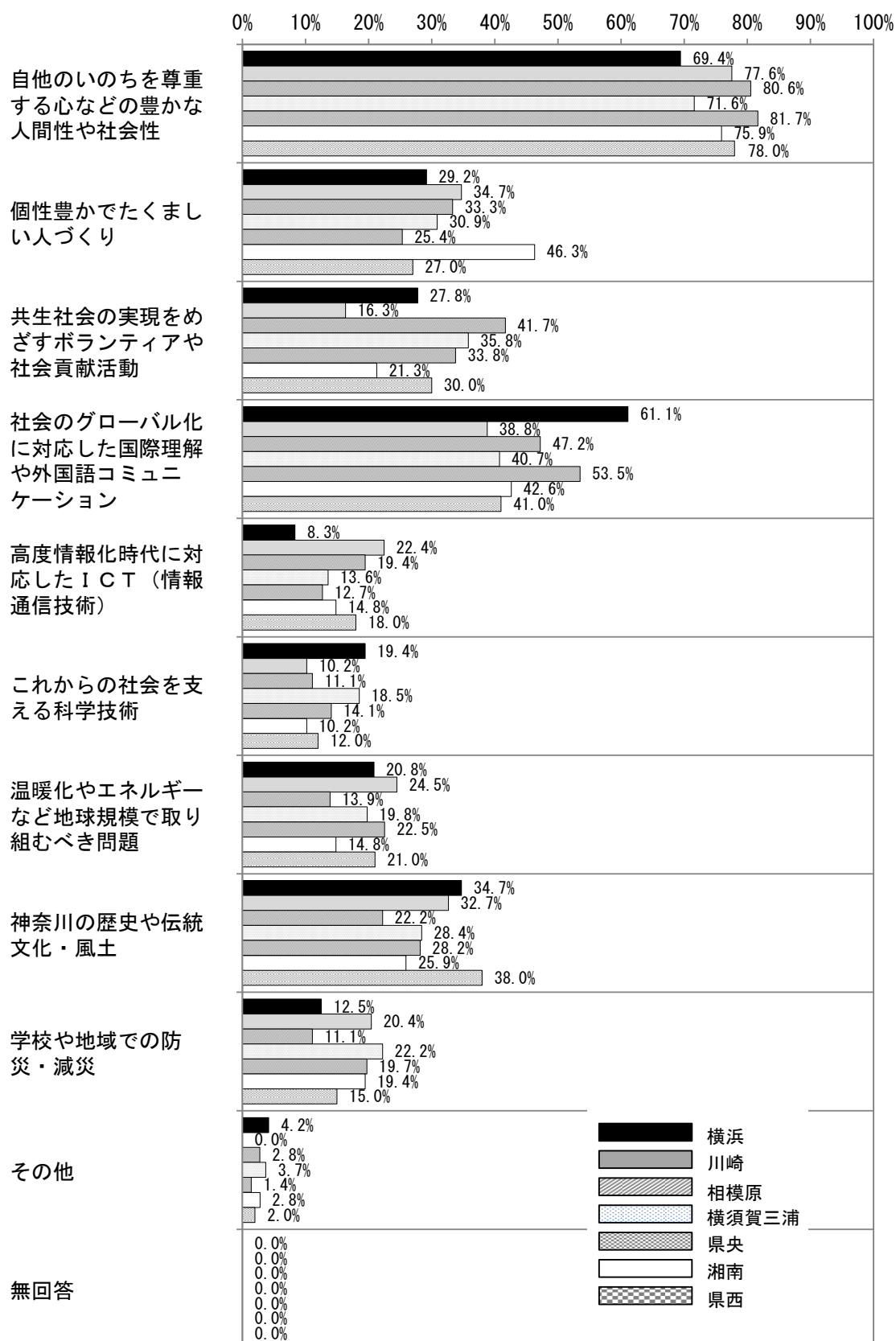


図 I-196 「神奈川らしい教育」に生かしたいもの(学校評議員)



II 調査客体内クロス集計

II-1 教職員

II-1-1 「どのような大人になってほしいか」×「『キャリア教育』へ期待するもの」

教職員に聞いた『どのような大人になってほしいか』と『「キャリア教育」へ期待するもの』の両回答の関係をみると、「人を思いやる心をもっている」×「希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」が 40.8%、「困難を乗り越えることができる」×「希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」が 34.8%、「人を思いやる心をもっている」×「社会の一員としての自覚と責任の形成」が 34.5%となっている。(表 II-1 参照)

表 II-1 「どのような大人になってほしいか」×「『キャリア教育』へ期待するもの」

	『キャリア教育』へ期待するもの							
	フリーターやニートの増加への対策	進学や就職など卒業学年に偏った指導の改善	希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成	望ましい職業観や勤労観の確立	社会の一員としての自覚と責任の形成	学ぶことの意義の理解と主体的な学習態度の形成	将来設計の立案と社会的自立への準備	その他
個性豊かである	2.0%	1.1%	6.3%	2.1%	4.6%	2.5%	2.6%	0.1%
向上心をもって自己を高めている	5.4%	3.6%	23.1%	11.2%	18.5%	12.6%	9.8%	0.2%
創造性や独創性に富む	1.3%	0.8%	4.3%	2.4%	2.5%	2.5%	2.4%	0.2%
困難を乗り越えることができる	8.2%	5.6%	34.8%	15.5%	30.2%	16.2%	16.2%	0.3%
健康なからだや体力を備えている	3.7%	2.5%	17.0%	7.1%	14.7%	6.5%	8.3%	0.2%
社会のルールやマナーを守る	7.7%	4.6%	31.5%	14.7%	29.5%	13.7%	14.6%	0.5%
専門的な知識や技能が身についている	0.7%	0.3%	1.6%	1.0%	1.6%	0.8%	1.2%	0.0%
正義感や責任感がある	3.4%	2.2%	13.8%	6.8%	12.7%	6.2%	5.5%	0.1%
よりよい人間関係が築ける	6.0%	3.7%	28.5%	13.3%	24.1%	13.8%	13.4%	0.4%
人を思いやる心をもっている	8.3%	5.2%	40.8%	17.9%	34.5%	19.3%	17.7%	0.5%
リーダーシップをとれる	0.6%	0.5%	1.2%	0.7%	1.8%	1.3%	0.9%	0.0%
国際社会で活躍できる	0.6%	0.2%	2.3%	1.3%	2.2%	1.3%	1.4%	0.0%
社会や公共の福祉に貢献する	1.4%	0.9%	5.4%	2.9%	4.7%	3.5%	3.4%	0.1%
その他	0.2%	0.2%	0.6%	0.1%	0.3%	0.3%	0.3%	0.0%

Ⅱ-1-2 「日々の業務で感じていること」×「教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方」

教職員に聞いた『日々の業務で感じていること』と『教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方』の両回答の関係をみると、「《教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった（そう思う）》×「学校が抱える共通の課題に応じた校内研修」が39.0%、「《教員間の仕事の分担や業務量に差がある（そう思う）》×「学校が抱える共通の課題に応じた校内研修」が32.4%、「《特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している（どちらかというと思う）》×「学校が抱える共通の課題に応じた校内研修」が30.8%となっている。（表Ⅱ-2 参照）

表 Ⅱ-2 「日々の業務で感じていること」×「教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方」

		教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方							
		学校が抱える共通の課題に応じた校内研修	学校外で開催される講座や実習などの研修	地域の学校が抱える課題に対して近隣の学校が合同で行う研修	職場や自宅でパソコンやインターネットを活用して取り組む研修	夜間に開催される研修	休日に開催される研修	その他	
日々の業務で感じていること	児童・生徒を理解することが、これまで以上に難しくなった	1	12.2%	8.3%	6.3%	1.8%	0.2%	0.5%	0.6%
		2	24.3%	16.8%	12.4%	3.8%	0.8%	1.0%	0.4%
		3	17.4%	11.8%	9.7%	3.3%	0.6%	1.0%	0.9%
		4	9.3%	7.4%	5.8%	2.2%	0.4%	0.4%	0.6%
		5	10.8%	6.7%	5.4%	2.2%	0.3%	0.6%	0.8%
		6	1.9%	1.4%	1.2%	0.6%	0.2%	0.1%	0.1%
	教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった	1	39.0%	26.1%	19.0%	7.6%	1.1%	1.9%	2.1%
		2	24.5%	16.5%	14.4%	3.8%	0.8%	1.0%	0.5%
		3	6.5%	4.7%	4.0%	1.1%	0.4%	0.3%	0.5%
		4	2.8%	2.4%	1.5%	0.7%	0.1%	0.2%	0.1%
		5	2.3%	1.9%	1.2%	0.6%	0.1%	0.2%	0.1%
		6	1.0%	0.8%	0.6%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している	1	29.7%	19.2%	14.6%	4.8%	0.8%	1.3%	1.3%
		2	30.8%	20.9%	16.5%	5.7%	0.8%	1.4%	1.2%
		3	7.5%	6.3%	4.5%	1.7%	0.6%	0.4%	0.3%
		4	4.0%	3.2%	2.8%	0.8%	0.1%	0.1%	0.2%
		5	2.9%	1.7%	1.7%	0.5%	0.1%	0.3%	0.2%
		6	1.1%	1.0%	0.6%	0.3%	0.1%	0.1%	0.2%
	児童・生徒の問題行動に、どこまで対応すべきか迷うことが多くなった	1	18.3%	12.0%	9.6%	3.6%	0.5%	0.8%	0.9%
		2	27.1%	18.0%	15.1%	4.9%	0.8%	1.3%	1.0%
		3	13.8%	10.4%	7.2%	2.6%	0.6%	0.8%	0.6%
		4	9.7%	6.8%	5.0%	1.8%	0.1%	0.3%	0.4%
		5	6.0%	4.4%	3.1%	0.8%	0.4%	0.5%	0.4%
		6	0.9%	0.7%	0.6%	0.2%	0.0%	0.0%	0.1%
家庭訪問や外部連携会議、見回りなどへの対応で、学校を離れる回数が増えた	1	10.0%	7.1%	4.5%	1.7%	0.2%	0.5%	0.8%	
	2	18.3%	10.4%	9.5%	3.6%	0.5%	0.8%	0.8%	
	3	21.7%	16.4%	11.9%	4.1%	0.8%	1.1%	0.7%	
	4	10.8%	6.9%	6.7%	1.7%	0.4%	0.4%	0.3%	
	5	13.2%	9.8%	6.9%	2.3%	0.6%	0.8%	0.5%	
	6	1.9%	1.8%	1.1%	0.6%	0.1%	0.1%	0.1%	
教員間の仕事の分担や業務量に差がある	1	32.4%	22.4%	18.7%	7.8%	1.2%	2.1%	2.1%	
	2	27.2%	18.8%	13.0%	4.3%	0.9%	0.7%	0.8%	
	3	11.0%	7.5%	6.3%	1.3%	0.3%	0.6%	0.5%	
	4	2.7%	1.7%	1.5%	0.2%	0.1%	0.1%	0.0%	
	5	1.7%	1.0%	0.9%	0.2%	0.0%	0.1%	0.0%	
	6	0.9%	0.9%	0.3%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	
人間関係での悩みごとが増えた	1	9.4%	6.5%	5.3%	2.1%	0.2%	0.6%	0.5%	
	2	16.5%	11.3%	8.7%	3.3%	0.7%	0.9%	0.7%	
	3	21.1%	14.8%	11.4%	3.4%	0.8%	1.0%	0.8%	
	4	10.5%	7.1%	5.9%	2.0%	0.3%	0.4%	0.5%	
	5	17.9%	12.2%	9.2%	2.8%	0.5%	0.7%	0.8%	
	6	0.6%	0.5%	0.3%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	

※日々の業務で感じていること

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

Ⅱ-1-3 「めざす教員像」×「教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方」

教職員に聞いた『めざす教員像』と『教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方』の両回答の関係をみると、「わかりやすい授業をする」×「学校が抱える共通の課題に応じた校内研修」が58.0%、「児童・生徒をよく理解し、適切に対処・指導ができる」×「学校が抱える共通の課題に応じた校内研修」が44.7%、「わかりやすい授業をする」×「学校外で開催される講座や実習などの研修」が39.1%であった。（表Ⅱ-3 参照）

表Ⅱ-3 「めざす教員像」×「教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方」

		教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方						
		学校が抱える共通の課題に応じた校内研修	学校外で開催される講座や実習などの研修	地域の学校が抱える課題に対して近隣の学校が合同で行う研修	職場や自宅でパソコンやインターネットを活用して取り組む研修	夜間に開催される研修	休日に開催される研修	その他
め ざ す 教 員 像	わかりやすい授業をする	58.0%	39.1%	30.6%	9.9%	1.7%	2.8%	2.3%
	児童・生徒に基本的な生活習慣や態度を身につけさせる	7.8%	5.7%	4.1%	1.6%	0.4%	0.3%	0.2%
	児童・生徒に社会のルールやマナーを身につけさせる	15.8%	10.6%	8.9%	3.4%	0.7%	0.7%	0.6%
	児童・生徒をよく理解し、適切に対処・指導ができる	44.7%	30.5%	23.3%	7.0%	1.2%	2.0%	2.0%
	児童・生徒のやる気を引き出し、意欲を高められる	36.6%	25.8%	20.0%	6.1%	1.2%	1.8%	1.7%
	学級担任として、クラスをまとめることができる	14.9%	9.1%	6.8%	2.6%	0.5%	0.7%	0.4%
	児童・生徒一人ひとりに応じた進路指導ができる	3.5%	3.1%	1.9%	1.2%	0.1%	0.2%	0.2%
	保護者の相談に丁寧に応じる	7.1%	4.7%	4.3%	1.5%	0.2%	0.4%	0.3%
	信頼され、尊敬される人格をもっている	24.0%	16.9%	14.1%	4.6%	1.0%	1.0%	0.9%
	時代の変化に対応した指導を実践する	12.8%	9.6%	6.8%	3.2%	0.6%	0.8%	0.8%
	その他	0.5%	0.4%	0.1%	0.2%	0.0%	0.0%	0.3%

II-1-4 「めざす教員像」×「研修の際に重視すること」

教職員に聞いた『めざす教員像』と『研修の際に重視すること』の両回答の関係をみると、「《「わかりやすい授業をする」×「研修の成果を職場の教職実践に生かせる研修であること」》が 39.1%、「《「児童・生徒をよく理解し、適切に対処・指導ができる」×「研修の成果を職場の教職実践に生かせる研修であること」》が 32.1%、「《「児童・生徒のやる気を引き出し、意欲を高められる」×「研修の成果を職場の教職実践に生かせる研修であること」》が 25.6%であった。(表 II-4 参照)

表 II-4 「めざす教員像」×「研修の際に重視すること」

		研修の際に重視すること							
		全国や県内の先導的・先進的な取り組みについて理解を深める研修であること	共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること	指導力の高い教職員から直接指導を受ける研修であること	所属校の業務の都合に合わせて、研修機会を選択できること	多様な研修形態の中から、必要に応じて選択できること	職場や地域の課題に対する共通認識をもてる研修であること	研修の成果を職場の教職実践に生かせる研修であること	その他
め ざ す 教 員 像	わかりやすい授業をする	15.7%	24.9%	20.5%	13.2%	22.5%	9.6%	39.1%	0.7%
	児童・生徒に基本的な生活習慣や態度を身につけさせる	2.0%	3.8%	2.6%	2.2%	3.6%	1.0%	5.2%	0.1%
	児童・生徒に社会のルールやマナーを身につけさせる	4.0%	7.2%	5.9%	4.2%	6.8%	2.3%	10.3%	0.2%
	児童・生徒をよく理解し、適切に対処・指導ができる	10.3%	19.8%	13.6%	10.2%	17.5%	8.2%	32.1%	0.3%
	児童・生徒のやる気を引き出し、意欲を高められる	9.6%	16.4%	12.6%	8.4%	14.4%	6.7%	25.6%	0.6%
	学級担任として、クラスをまとめることができる	2.9%	5.4%	6.2%	3.5%	6.2%	2.2%	8.9%	0.2%
	児童・生徒一人ひとりに応じた進路指導ができる	0.8%	1.9%	1.2%	1.4%	2.2%	0.6%	2.4%	0.0%
	保護者の相談に丁寧に応じる	2.3%	3.1%	2.6%	1.7%	2.8%	1.7%	4.6%	0.1%
	信頼され、尊敬される人格をもっている	6.5%	11.3%	9.1%	6.3%	8.8%	4.4%	16.6%	0.4%
	時代の変化に対応した指導を実践する	5.2%	5.5%	4.3%	3.6%	5.5%	2.0%	9.1%	0.3%
その他	0.4%	0.3%	0.1%	0.3%	0.2%	0.0%	0.4%	0.0%	

II-1-5 「教員に必要な資質」×「教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方」

教職員に聞いた『教員に必要な資質』と『教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方』の両回答の関係をみると、「子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力」×「学校が抱える共通の課題に応じた校内研修」が46.6%、「同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力」×「学校が抱える共通の課題に応じた校内研修」が34.5%、「子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力」×「学校外で開催される講座や実習などの研修」が30.6%であった。（表II-5 参照）

表 II-5 「教員に必要な資質」×「教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方」

		教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方						
		学校が抱える共通の課題に応じた校内研修	学校外で開催される講座や実習などの研修	地域の学校が抱える課題に対して近隣の学校が合同で行う研修	職場や自宅でパソコンやインターネットを活用して取り組む研修	夜間に開催される研修	休日に開催される研修	その他
教員に必要な資質	同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力	34.5%	22.8%	19.8%	6.0%	1.2%	1.4%	1.3%
	教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力	14.7%	11.5%	8.0%	2.9%	0.8%	1.2%	0.9%
	子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力	46.6%	30.6%	25.2%	8.1%	1.4%	2.1%	1.8%
	学習指導や生徒指導等の教育課題に対応できる力	19.0%	13.0%	10.1%	3.5%	0.6%	0.9%	0.9%
	思考力等を育むために子ども同士が学び合うなどの授業をデザインする実践的指導力	19.5%	13.0%	10.1%	4.0%	0.5%	0.8%	0.7%
	よりよい授業をめざして授業研究を行う探究力	15.7%	11.5%	7.2%	2.7%	0.6%	0.9%	1.0%

II-1-6 「教員に必要な資質」×「研修の際に重視すること」

教職員に聞いた『教員に必要な資質』と『研修の際に重視すること』の両回答の関係をみると、「子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力」×「研修の成果を職場の教職実践に生かせる研修であること」が31.4%、「同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力」×「研修の成果を職場の教職実践に生かせる研修であること」が23.8%、「子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力」×「共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること」が20.7%であった。（表II-6 参照）

表 II-6 「教員に必要な資質」×「研修の際に重視すること」

		研修の際に重視すること							
		全国や県内の先導的・先進的な取組みについて理解を深める研修であること	共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること	指導力の高い教職員から直接指導を受ける研修であること	所属校の業務の都合に合わせて、研修機会を選択できること	多様な研修形態の中から、必要に応じて選択できること	職場や地域の課題に対する共通認識をもてる研修であること	研修の成果を職場の教職実践に生かせる研修であること	その他
教員に必要な資質	同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力	8.1%	15.3%	10.5%	8.7%	14.7%	6.5%	23.8%	0.5%
	教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力	4.9%	7.1%	6.4%	3.8%	6.4%	2.2%	9.7%	0.4%
	子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力	11.1%	20.7%	15.3%	11.4%	18.6%	8.3%	31.4%	0.4%
	学習指導や生徒指導等の教育課題に対応できる力	5.7%	8.2%	5.9%	5.1%	7.6%	3.0%	12.9%	0.1%
	思考力等を育むために子ども同士が学び合うなどの授業をデザインする実践的指導力	5.9%	8.8%	6.6%	3.8%	7.3%	2.6%	14.1%	0.2%
	よりよい授業をめざして授業研究を行う探究力	3.8%	6.4%	7.1%	3.7%	5.8%	2.7%	10.3%	0.2%

II-1-7 「諸課題の解決の方策と学校のあり方」×「日々の業務で感じていること」

教職員に聞いた『諸課題の解決の方策と学校のあり方』と『日々の業務で感じていること』の両回答の関係をみると、「授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人のみだけでなく学校全体でも取り組む（そう思う）」×「教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった（そう思う）」が35.7%、「授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人のみだけでなく学校全体でも取り組む（そう思う）」×「教員間の仕事の分担や業務量に差がある（そう思う）」が31.9%、「授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人のみだけでなく学校全体でも取り組む（そう思う）」×「特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している（そう思う）」が27.6%であった。（表II-7～10 参照）

表 II-7 「諸課題の解決の方策と学校のあり方」×「日々の業務で感じていること」①

		日々の業務で感じていること												
		児童・生徒を理解することが、これまで以上に難しくなった						教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった						
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
諸課題の解決の方策と学校のあり方	各学校が競い合っ て、これまで以上に 特色ある教育活動・ 学校づくりを進める	1	0.9%	0.8%	0.7%	0.3%	0.7%	0.2%	2.2%	0.7%	0.3%	0.2%	0.3%	0.0%
		2	1.3%	3.9%	3.3%	1.7%	1.4%	0.6%	5.0%	3.7%	1.5%	1.1%	0.7%	0.3%
		3	4.0%	7.4%	6.5%	2.9%	2.3%	0.5%	11.0%	8.1%	2.8%	0.8%	0.6%	0.4%
		4	2.5%	7.2%	4.6%	3.0%	2.8%	0.4%	9.4%	7.7%	1.7%	0.9%	0.7%	0.3%
		5	6.5%	10.5%	7.6%	5.5%	6.4%	1.0%	21.2%	11.1%	2.7%	1.0%	1.1%	0.2%
		6	0.3%	0.4%	0.1%	0.0%	0.2%	0.1%	0.9%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
	学校（校長）に予算 や人事などの面で裁 量を与え、現場の実 態に応じた独自の学 校づくりを進める	1	3.1%	3.2%	3.0%	1.5%	3.1%	0.2%	7.9%	3.9%	1.0%	0.5%	0.7%	0.0%
		2	4.6%	11.4%	7.2%	4.5%	3.9%	0.9%	15.9%	10.7%	2.8%	1.8%	0.8%	0.6%
		3	3.5%	8.4%	6.9%	3.1%	2.4%	0.9%	12.2%	8.4%	2.7%	0.9%	0.8%	0.2%
		4	1.6%	3.9%	2.8%	2.1%	1.7%	0.4%	6.0%	4.2%	1.2%	0.4%	0.4%	0.3%
5		2.2%	2.8%	2.6%	1.9%	2.4%	0.2%	6.5%	3.6%	1.2%	0.2%	0.7%	0.0%	
6		0.4%	0.4%	0.4%	0.4%	0.4%	0.3%	1.2%	0.7%	0.2%	0.1%	0.0%	0.2%	
教員一人ひとりが自 らの指導力を自覚し 、それぞれの能力に 応じた向上に努める	1	7.0%	10.8%	8.8%	6.7%	7.9%	1.5%	21.0%	12.9%	3.8%	2.2%	2.2%	0.6%	
	2	6.5%	16.5%	11.4%	5.5%	4.9%	1.3%	23.3%	15.9%	4.0%	1.4%	1.0%	0.6%	
	3	1.2%	2.1%	2.4%	0.8%	0.8%	0.1%	3.9%	2.1%	1.0%	0.2%	0.2%	0.0%	
	4	0.4%	0.4%	0.2%	0.3%	0.1%	0.0%	0.9%	0.3%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	
	5	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.3%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	
	6	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
教員の仕事が均分 化・平準化できるよ う、校内の組織や業 務内容を見直す	1	6.0%	8.9%	8.5%	5.3%	5.8%	1.1%	22.1%	8.5%	1.9%	1.5%	1.4%	0.3%	
	2	5.6%	13.3%	8.6%	4.7%	4.5%	1.2%	17.1%	14.0%	4.1%	1.5%	0.9%	0.4%	
	3	2.7%	6.4%	5.0%	2.2%	2.1%	0.5%	7.9%	6.9%	2.6%	0.5%	0.8%	0.4%	
	4	0.8%	1.1%	0.4%	0.8%	0.6%	0.0%	1.6%	1.3%	0.4%	0.3%	0.2%	0.0%	
	5	0.3%	0.2%	0.3%	0.3%	0.5%	0.0%	0.7%	0.6%	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%	
	6	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.2%	0.2%	0.3%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.2%	
授業の質の向上や問 題行動への対応など には、個人のみだけ でなく学校全体でも 取り組む	1	11.1%	20.2%	14.6%	9.2%	10.2%	2.0%	35.7%	20.1%	5.3%	2.7%	2.6%	0.9%	
	2	3.9%	8.6%	6.6%	3.8%	3.1%	0.7%	11.7%	10.0%	3.1%	1.0%	0.6%	0.4%	
	3	0.4%	1.2%	1.4%	0.2%	0.4%	0.1%	1.8%	1.3%	0.4%	0.0%	0.1%	0.1%	
	4	0.1%	0.1%	0.2%	0.1%	0.1%	0.0%	0.3%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	
	5	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	6	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
地域との連携・協力 を一層深め、地域の 教育力を生かした学 校づくりを進める	1	4.8%	8.1%	6.1%	4.1%	5.2%	1.0%	15.2%	9.0%	2.2%	1.2%	1.3%	0.5%	
	2	7.0%	16.2%	11.3%	7.0%	5.9%	1.3%	23.4%	16.4%	5.1%	2.1%	1.2%	0.5%	
	3	2.9%	4.5%	4.6%	1.2%	1.8%	0.4%	8.0%	4.6%	1.6%	0.3%	0.7%	0.2%	
	4	0.3%	1.0%	0.5%	0.7%	0.6%	0.1%	1.8%	1.0%	0.1%	0.4%	0.1%	0.0%	
	5	0.3%	0.2%	0.3%	0.3%	0.3%	0.0%	1.1%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	6	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	
NPOや企業などの 連携・協力を進め 、県民の力を生か した学校づくりを進 める	1	2.9%	3.2%	2.9%	2.0%	3.1%	0.6%	8.7%	3.4%	0.9%	0.7%	0.7%	0.3%	
	2	5.2%	11.3%	8.8%	5.8%	4.6%	1.0%	17.4%	12.6%	3.5%	1.6%	1.2%	0.4%	
	3	5.1%	11.8%	8.2%	3.8%	3.6%	0.7%	15.5%	11.5%	3.6%	1.0%	1.2%	0.3%	
	4	0.8%	2.0%	1.5%	1.1%	1.3%	0.2%	3.6%	2.1%	0.6%	0.5%	0.1%	0.0%	
	5	1.0%	0.7%	0.8%	0.6%	0.9%	0.2%	2.6%	1.0%	0.4%	0.0%	0.1%	0.1%	
	6	0.4%	1.1%	0.6%	0.2%	0.4%	0.2%	1.9%	0.8%	0.1%	0.0%	0.0%	0.2%	
学校が児童・生徒の 教育機能だけでなく 、地域の教育の拠 点としての役割も担 う存在となる	1	2.4%	2.8%	2.6%	1.7%	2.7%	0.6%	6.9%	3.2%	1.0%	0.7%	0.8%	0.2%	
	2	3.8%	10.5%	6.7%	4.3%	3.9%	1.2%	13.6%	11.0%	2.7%	1.5%	1.1%	0.5%	
	3	4.9%	10.3%	8.6%	4.1%	3.3%	0.3%	15.9%	10.0%	3.6%	0.9%	0.7%	0.2%	
	4	2.2%	3.6%	2.4%	1.9%	1.9%	0.3%	5.9%	4.5%	0.8%	0.4%	0.5%	0.0%	
	5	1.9%	2.1%	2.0%	1.4%	1.8%	0.3%	6.0%	2.0%	0.6%	0.3%	0.3%	0.2%	
	6	0.3%	0.8%	0.7%	0.2%	0.3%	0.2%	1.4%	0.7%	0.3%	0.0%	0.0%	0.1%	

※諸課題の解決の方策と学校のあり方／日々の業務で感じていること

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
- 4：どちらかというと思わない、5：思わない、6：わからない

表 II-8 「諸課題の解決の方策と学校のあり方」×「日々の業務で感じていること」②

		日々の業務で感じていること												
		特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している						児童・生徒の問題行動に、どこまで対応すべきか迷うことが多くなった						
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
諸課題の解決の方策と学校のあり方	各学校が競い合っ て、これまで以上に 特色ある教育活動・ 学校づくりを進める	1	1.3%	1.1%	0.5%	0.1%	0.4%	0.2%	1.1%	1.1%	0.5%	0.5%	0.5%	0.0%
		2	3.2%	5.1%	2.1%	0.8%	0.7%	0.3%	1.7%	5.3%	2.5%	1.7%	0.9%	0.2%
		3	8.1%	10.8%	2.9%	1.0%	0.6%	0.4%	5.3%	8.2%	5.8%	2.4%	1.5%	0.4%
		4	7.0%	8.5%	2.8%	1.7%	0.5%	0.2%	4.3%	7.8%	3.9%	3.5%	1.2%	0.2%
		5	16.8%	13.5%	2.8%	2.2%	1.5%	0.5%	10.9%	12.1%	5.5%	4.3%	3.9%	0.5%
		6	0.5%	0.4%	0.1%	0.0%	0.1%	0.1%	0.4%	0.4%	0.2%	0.0%	0.1%	0.0%
	学校（校長）に予算 や人事などの面で裁 量を与え、現場の実 態に応じた独自の学 校づくりを進める	1	6.1%	4.6%	1.4%	0.5%	1.1%	0.3%	4.3%	3.6%	2.1%	1.9%	2.1%	0.0%
		2	11.6%	13.7%	4.0%	1.8%	0.8%	0.6%	6.8%	12.4%	5.9%	5.0%	1.8%	0.4%
		3	8.9%	10.4%	3.1%	1.6%	0.8%	0.4%	5.6%	9.2%	5.9%	2.7%	1.5%	0.3%
		4	4.2%	5.7%	1.3%	0.8%	0.3%	0.1%	2.7%	5.0%	2.3%	1.3%	0.9%	0.2%
		5	5.1%	4.3%	1.0%	0.8%	0.7%	0.2%	3.6%	4.1%	1.7%	1.1%	1.5%	0.1%
		6	0.9%	0.6%	0.5%	0.1%	0.1%	0.1%	0.4%	0.6%	0.5%	0.4%	0.2%	0.1%
	教員一人ひとりが自 らの指導力を自覚 し、それぞれの能力 に応じた向上に努め る	1	16.8%	15.4%	4.7%	2.6%	2.1%	1.1%	11.1%	13.1%	7.2%	5.6%	4.8%	0.8%
		2	15.9%	20.9%	5.1%	2.1%	1.4%	0.6%	10.1%	18.7%	8.7%	6.0%	2.2%	0.3%
		3	2.7%	2.5%	1.2%	0.7%	0.1%	0.1%	1.7%	2.6%	1.8%	0.6%	0.6%	0.1%
		4	0.9%	0.3%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.4%	0.4%	0.4%	0.2%	0.1%	0.0%
		5	0.3%	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%
		6	0.2%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%
	教員の仕事が均分 化・平準化できるよ う、校内の組織や業 務内容を見直す	1	14.4%	12.3%	4.3%	1.9%	1.9%	0.7%	10.7%	10.1%	6.6%	4.8%	3.0%	0.4%
		2	13.7%	17.1%	3.8%	1.9%	0.9%	0.7%	8.3%	15.5%	7.1%	4.2%	2.3%	0.5%
		3	6.4%	8.3%	2.4%	1.1%	0.6%	0.2%	3.4%	7.4%	4.1%	2.3%	1.4%	0.3%
		4	1.5%	1.3%	0.5%	0.3%	0.2%	0.0%	0.6%	1.4%	0.4%	0.8%	0.6%	0.0%
		5	0.6%	0.5%	0.2%	0.2%	0.2%	0.0%	0.5%	0.2%	0.2%	0.2%	0.6%	0.0%
		6	0.2%	0.1%	0.0%	0.1%	0.1%	0.2%	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%
授業の質の向上や問 題行動への対応など には、個人の力だけ でなく学校全体でも 取り組む	1	27.6%	25.2%	6.5%	3.9%	2.8%	1.2%	17.6%	22.7%	11.6%	7.9%	6.4%	0.9%	
	2	7.9%	12.0%	4.0%	1.6%	0.8%	0.5%	4.9%	10.7%	5.5%	4.1%	1.3%	0.3%	
	3	1.0%	1.9%	0.6%	0.0%	0.1%	0.0%	0.9%	1.3%	1.1%	0.2%	0.2%	0.1%	
	4	0.1%	0.4%	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.2%	0.2%	0.2%	0.1%	0.1%	0.0%	
	5	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	6	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	
地域との連携・協力 を一層深め、地域の 教育力を生かした学 校づくりを進める	1	11.8%	10.5%	3.1%	1.5%	1.9%	0.3%	8.2%	8.5%	5.3%	3.8%	2.9%	0.4%	
	2	17.4%	20.9%	5.6%	2.7%	1.2%	0.8%	10.2%	18.9%	9.1%	6.3%	3.6%	0.5%	
	3	5.6%	5.9%	2.1%	1.0%	0.4%	0.5%	3.8%	5.7%	3.3%	1.6%	0.8%	0.2%	
	4	1.3%	1.5%	0.2%	0.2%	0.1%	0.1%	0.9%	1.3%	0.4%	0.4%	0.4%	0.0%	
	5	0.5%	0.5%	0.0%	0.1%	0.2%	0.0%	0.5%	0.3%	0.1%	0.2%	0.2%	0.0%	
	6	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	
NPOや企業などの 連携・協力を進め、 県民の力を生かした 学校づくりを進める	1	6.3%	4.3%	1.5%	1.1%	1.3%	0.2%	4.5%	4.0%	2.4%	1.8%	1.8%	0.2%	
	2	13.5%	15.6%	4.0%	1.9%	1.2%	0.6%	8.3%	13.9%	7.1%	4.3%	2.5%	0.5%	
	3	11.1%	14.6%	4.3%	1.6%	0.8%	0.7%	7.2%	12.4%	6.5%	4.3%	2.2%	0.4%	
	4	2.5%	2.9%	0.9%	0.5%	0.0%	0.1%	1.8%	2.2%	1.2%	1.3%	0.5%	0.0%	
	5	2.1%	1.0%	0.2%	0.4%	0.3%	0.2%	1.3%	1.3%	0.4%	0.5%	0.7%	0.0%	
	6	1.3%	1.1%	0.3%	0.1%	0.1%	0.1%	0.6%	1.0%	0.7%	0.3%	0.2%	0.1%	
学校が児童・生徒の 教育機能だけでなく、 地域の教育の拠点 としての役割も担 う存在となる	1	4.7%	4.3%	1.4%	1.1%	1.2%	0.2%	4.0%	3.6%	1.9%	1.6%	1.5%	0.2%	
	2	9.6%	13.4%	3.6%	1.9%	1.4%	0.5%	6.0%	11.8%	5.9%	3.9%	2.4%	0.4%	
	3	11.6%	13.1%	4.1%	1.4%	0.6%	0.5%	6.9%	11.8%	7.0%	3.7%	1.6%	0.3%	
	4	5.2%	4.8%	1.1%	0.7%	0.2%	0.1%	3.2%	4.1%	1.9%	2.0%	0.9%	0.1%	
	5	4.5%	2.9%	0.7%	0.4%	0.5%	0.4%	3.0%	2.6%	1.3%	1.0%	1.3%	0.2%	
	6	1.0%	0.9%	0.3%	0.1%	0.0%	0.1%	0.6%	0.8%	0.4%	0.3%	0.2%	0.1%	

※諸課題の解決の方策と学校のあり方／日々の業務で感じていること

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
- 4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

表 II-9 「諸課題の解決の方策と学校のあり方」×「日々の業務で感じていること」③

		日々の業務で感じていること												
		家庭訪問や外部連携会議、見回りなどへの対応で、学校を離れる回数が増えた						教員間の仕事の分担や業務量に差がある						
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
諸課題の解決の方策と学校のあり方	各学校が競い合っ て、これまで以上に 特色ある教育活動・ 学校づくりを進める	1	0.9%	0.7%	1.0%	0.3%	0.7%	0.2%	2.6%	0.7%	0.2%	0.0%	0.0%	0.1%
		2	1.4%	2.9%	3.5%	1.7%	2.4%	0.2%	6.1%	3.9%	1.4%	0.4%	0.2%	0.2%
		3	2.2%	5.7%	8.3%	3.9%	2.7%	0.8%	9.6%	8.8%	4.3%	0.4%	0.3%	0.2%
		4	1.9%	4.7%	6.1%	3.5%	3.8%	0.8%	8.0%	8.7%	3.0%	0.7%	0.2%	0.2%
		5	6.1%	8.0%	10.1%	4.5%	7.8%	0.9%	17.8%	11.1%	5.0%	1.8%	1.2%	0.4%
		6	0.3%	0.3%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	0.6%	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%	0.2%
	学校（校長）に予算 や人事などの面で裁 量を与え、現場の実 態に応じた独自の学 校づくりを進める	1	2.9%	3.1%	3.0%	1.2%	3.5%	0.2%	8.4%	3.6%	1.2%	0.6%	0.3%	0.0%
		2	3.6%	7.6%	9.5%	5.3%	5.4%	1.0%	13.5%	12.2%	4.6%	1.0%	0.7%	0.5%
		3	2.3%	5.8%	9.7%	3.1%	3.5%	0.7%	9.7%	9.7%	4.5%	0.8%	0.3%	0.3%
		4	1.4%	2.8%	3.6%	2.4%	1.8%	0.6%	6.0%	4.5%	1.5%	0.3%	0.1%	0.1%
		5	2.3%	2.6%	2.7%	1.6%	2.7%	0.3%	6.0%	3.2%	1.9%	0.4%	0.6%	0.1%
		6	0.2%	0.4%	0.6%	0.3%	0.7%	0.2%	1.1%	0.5%	0.5%	0.1%	0.0%	0.2%
	教員一人ひとりが自 らの指導力を自覚 し、それぞれの能力 に応じた向上に努め る	1	6.9%	8.3%	10.3%	5.5%	9.9%	1.8%	22.4%	12.2%	4.7%	1.4%	1.4%	0.7%
		2	4.4%	12.0%	15.3%	7.4%	5.8%	1.0%	18.2%	18.1%	7.3%	1.5%	0.5%	0.5%
		3	0.9%	1.7%	2.8%	0.9%	1.1%	0.0%	2.9%	2.5%	1.4%	0.3%	0.1%	0.1%
		4	0.3%	0.2%	0.4%	0.1%	0.4%	0.0%	0.5%	0.5%	0.4%	0.1%	0.0%	0.0%
		5	0.1%	0.2%	0.2%	0.0%	0.1%	0.0%	0.3%	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
		6	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%	0.1%	0.2%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	教員の仕事が均分 化・平準化できるよ う、校内の組織や業 務内容を見直す	1	6.5%	8.2%	9.3%	4.4%	6.5%	0.7%	24.4%	8.1%	2.1%	0.2%	0.4%	0.3%
		2	3.5%	9.8%	11.4%	6.2%	6.0%	1.2%	13.3%	16.2%	6.0%	1.4%	0.6%	0.4%
		3	2.1%	3.6%	6.9%	2.6%	3.0%	0.7%	4.8%	7.5%	4.9%	1.1%	0.3%	0.3%
		4	0.5%	0.5%	0.9%	0.6%	1.3%	0.0%	1.0%	1.2%	0.9%	0.5%	0.3%	0.0%
		5	0.2%	0.2%	0.4%	0.1%	0.6%	0.1%	0.8%	0.5%	0.1%	0.0%	0.2%	0.0%
		6	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.2%	0.3%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%	0.3%
授業の質の向上や問 題行動への対応など には、個人の力だけ でなく学校全体でも 取り組む	1	9.3%	14.9%	18.9%	9.0%	13.0%	2.2%	31.9%	21.4%	9.3%	2.2%	1.6%	1.0%	
	2	2.6%	6.5%	8.8%	4.4%	3.9%	0.6%	10.7%	10.6%	3.9%	0.9%	0.4%	0.3%	
	3	0.7%	0.7%	1.1%	0.4%	0.5%	0.2%	1.6%	1.4%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	
	4	0.1%	0.2%	0.3%	0.1%	0.1%	0.0%	0.4%	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	
	5	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	6	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	
地域との連携・協力 を一層深め、地域の 教育力を生かした学 校づくりを進める	1	5.3%	6.5%	7.8%	3.3%	5.2%	1.0%	14.3%	8.7%	4.1%	0.9%	0.7%	0.5%	
	2	4.8%	10.9%	15.5%	8.4%	7.8%	1.4%	20.0%	18.0%	7.5%	1.8%	1.0%	0.5%	
	3	1.9%	3.7%	4.6%	1.7%	3.0%	0.4%	7.1%	5.2%	2.1%	0.4%	0.3%	0.2%	
	4	0.4%	0.8%	0.8%	0.4%	0.8%	0.1%	1.9%	1.0%	0.4%	0.1%	0.0%	0.0%	
	5	0.3%	0.3%	0.3%	0.1%	0.4%	0.0%	1.1%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	6	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
NPOや企業などの 連携・協力を進め 、県民の力を生かし た学校づくりを進 める	1	2.7%	2.4%	3.9%	1.9%	3.1%	0.7%	8.5%	3.6%	1.8%	0.3%	0.3%	0.3%	
	2	4.4%	8.5%	11.5%	6.1%	5.3%	0.9%	15.2%	13.3%	5.7%	1.2%	0.7%	0.4%	
	3	3.5%	8.2%	10.2%	4.3%	6.1%	0.8%	13.4%	12.9%	4.9%	1.3%	0.5%	0.3%	
	4	1.1%	1.7%	2.0%	0.9%	1.2%	0.2%	3.8%	1.9%	0.7%	0.4%	0.2%	0.0%	
	5	0.9%	1.0%	0.9%	0.3%	1.1%	0.1%	2.5%	0.9%	0.5%	0.0%	0.2%	0.0%	
	6	0.1%	0.6%	0.7%	0.5%	0.8%	0.3%	1.1%	1.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.2%	
学校が児童・生徒の 教育機能だけでなく 、地域の教育の拠 点としての役割も担 う存在となる	1	2.4%	2.1%	2.9%	1.7%	3.1%	0.6%	7.5%	2.9%	1.5%	0.3%	0.3%	0.2%	
	2	3.2%	7.0%	9.0%	4.6%	5.4%	1.0%	12.6%	11.2%	4.4%	1.0%	0.7%	0.5%	
	3	3.3%	7.3%	11.1%	4.5%	4.5%	0.5%	12.4%	11.9%	5.1%	1.2%	0.4%	0.3%	
	4	1.6%	3.0%	3.5%	2.1%	1.9%	0.2%	5.4%	4.7%	1.4%	0.3%	0.2%	0.1%	
	5	2.0%	2.5%	1.8%	0.8%	2.1%	0.3%	5.5%	2.1%	1.1%	0.3%	0.3%	0.1%	
	6	0.2%	0.4%	0.7%	0.3%	0.5%	0.3%	1.1%	0.7%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	

※諸課題の解決の方策と学校のあり方／日々の業務で感じていること

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
- 4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

表 II-10 「諸課題の解決の方策と学校のあり方」 × 「日々の業務で感じていること」④

		日々の業務で感じていること						
		人間関係での悩みごとが増えた						
		1	2	3	4	5	6	
諸課題の解決の方策と学校のあり方	各学校が競い合っ て、これまで以上に 特色ある教育活動・ 学校づくりを進める	1	1.0%	0.6%	0.9%	0.4%	0.8%	0.0%
		2	1.5%	3.1%	3.1%	1.9%	2.3%	0.2%
		3	2.8%	5.4%	8.2%	3.2%	4.1%	0.1%
		4	2.1%	4.2%	5.8%	3.4%	5.2%	0.1%
		5	5.0%	8.0%	9.1%	4.5%	10.5%	0.3%
		6	0.4%	0.2%	0.3%	0.0%	0.1%	0.0%
	学校（校長）に予算 や人事などの面で裁 量を与え、現場の実 態に応じた独自の学 校づくりを進める	1	2.2%	2.9%	3.1%	1.6%	4.3%	0.0%
		2	3.7%	7.5%	9.6%	4.8%	6.6%	0.2%
		3	3.5%	5.9%	7.7%	3.2%	4.7%	0.2%
		4	1.3%	2.4%	3.7%	2.2%	2.7%	0.2%
		5	1.8%	2.4%	3.0%	1.3%	3.7%	0.1%
		6	0.3%	0.3%	0.4%	0.4%	0.9%	0.0%
	教員一人ひとりが自 らの指導力を自覚 し、それぞれの能力 に応じた向上に努め る	1	6.4%	8.5%	9.4%	5.6%	12.6%	0.3%
		2	5.1%	10.9%	14.9%	6.7%	8.3%	0.3%
		3	1.1%	1.7%	2.5%	0.8%	1.2%	0.1%
		4	0.0%	0.4%	0.2%	0.3%	0.5%	0.0%
		5	0.0%	0.1%	0.3%	0.0%	0.1%	0.0%
		6	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%
	教員の仕事が均分 化・平準化できるよ う、校内の組織や業 務内容を見直す	1	7.1%	7.5%	8.4%	3.9%	8.5%	0.1%
		2	3.1%	9.6%	11.3%	5.9%	7.9%	0.2%
		3	1.9%	3.5%	6.6%	2.7%	4.0%	0.3%
		4	0.3%	0.6%	0.7%	0.8%	1.4%	0.0%
		5	0.3%	0.2%	0.2%	0.1%	0.8%	0.0%
		6	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.3%	0.1%
授業の質の向上や問 題行動への対応など には、個人の力だけ でなく学校全体でも 取り組む	1	9.3%	13.3%	17.7%	9.0%	17.5%	0.4%	
	2	2.5%	6.9%	8.8%	3.8%	4.5%	0.2%	
	3	0.8%	1.1%	0.8%	0.3%	0.6%	0.1%	
	4	0.2%	0.1%	0.1%	0.3%	0.1%	0.0%	
	5	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	
	6	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
地域との連携・協力 を一層深め、地域の 教育力を生かした学 校づくりを進める	1	5.0%	5.7%	7.0%	3.3%	8.0%	0.2%	
	2	4.7%	10.9%	14.8%	7.4%	10.7%	0.3%	
	3	2.2%	3.3%	4.9%	2.0%	2.8%	0.2%	
	4	0.5%	1.1%	0.4%	0.6%	0.7%	0.0%	
	5	0.3%	0.4%	0.1%	0.2%	0.4%	0.0%	
	6	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	
NPOや企業などの 連携・協力を進 め、県民の力を生か した学校づくりを進 める	1	3.0%	2.7%	3.6%	1.8%	3.6%	0.1%	
	2	4.7%	8.0%	10.3%	5.5%	8.0%	0.2%	
	3	3.7%	7.6%	10.2%	4.2%	7.3%	0.2%	
	4	0.7%	1.4%	1.9%	1.3%	1.7%	0.1%	
	5	0.5%	1.2%	0.9%	0.2%	1.3%	0.1%	
	6	0.3%	0.6%	0.6%	0.4%	1.0%	0.1%	
学校が児童・生徒の 教育機能だけでな く、地域の教育の拠 点としての役割も担 う存在となる	1	2.4%	3.0%	2.8%	1.3%	3.2%	0.1%	
	2	4.6%	7.0%	7.9%	4.3%	6.4%	0.2%	
	3	3.2%	7.0%	10.9%	3.8%	6.3%	0.2%	
	4	1.1%	2.3%	3.1%	2.5%	3.0%	0.1%	
	5	1.3%	1.9%	2.0%	1.2%	3.0%	0.1%	
	6	0.2%	0.2%	0.7%	0.4%	1.0%	0.0%	

※諸課題の解決の方策と学校のあり方／日々の業務で感じていること

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

II-1-8 「学校への地域の望ましい関わり方」×「学校・家庭・地域での教育課題」

教職員に聞いた『学校への地域の望ましい関わり方』と『学校・家庭・地域での教育課題』の両回答の関係をみると、「地域の方が学校関係者と情報交換などを行い、活動支援や安全確保などに取り組む」×「学校はいじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる（どちらかというと思う）」が38.2%、「地域の方が学校関係者と情報交換などを行い、活動支援や安全確保などに取り組む」×「学校では確かな学力の定着が図られている（どちらかというと思う）」が36.0%、「地域の方が学校関係者と情報交換などを行い、活動支援や安全確保などに取り組む」×「地域では児童・生徒の教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている（どちらかというと思う）」が34.9%であった。（表II-11～13 参照）

表 II-11 「学校への地域の望ましい関わり方」×「学校・家庭・地域での教育課題」①

		学校・家庭・地域での教育課題											
		学校では確かな学力の定着が図られている						学校では一人ひとりに応じた個性を伸ばす教育が行われている					
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
学校への地域の望ましい関わり方	地域の方が運動会や文化祭などの学校行事に参加する	1.6%	7.8%	5.0%	2.0%	0.6%	0.1%	1.6%	5.7%	5.8%	3.0%	1.2%	0.0%
	地域の方が学校関係者と情報交換などを行い、活動支援や安全確保などに取り組む	6.5%	36.0%	21.3%	8.3%	2.5%	0.4%	5.3%	26.4%	26.5%	12.8%	3.9%	0.3%
	地域の方が学校関係者と協働して、直接学校運営に参画する	0.2%	1.8%	1.0%	0.6%	0.3%	0.1%	0.4%	1.3%	1.3%	0.6%	0.4%	0.1%
	その他	0.1%	0.5%	0.4%	0.3%	0.1%	0.0%	0.1%	0.3%	0.5%	0.3%	0.1%	0.0%

表 II-12 「学校への地域の望ましい関わり方」×「学校・家庭・地域での教育課題」②

		学校・家庭・地域での教育課題											
		学校はいじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる						家庭ではしつけや教育が十分に行われている					
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
学校への地域の望ましい関わり方	地域の方が運動会や文化祭などの学校行事に参加する	5.2%	8.7%	2.3%	0.6%	0.2%	0.0%	0.4%	2.9%	5.5%	4.9%	3.3%	0.2%
	地域の方が学校関係者と情報交換などを行い、活動支援や安全確保などに取り組む	25.4%	38.2%	8.3%	1.9%	0.7%	0.6%	1.1%	13.6%	26.3%	22.7%	11.3%	0.3%
	地域の方が学校関係者と協働して、直接学校運営に参画する	1.3%	1.7%	0.5%	0.2%	0.3%	0.0%	0.0%	0.5%	1.0%	1.5%	0.8%	0.1%
	その他	0.4%	0.6%	0.2%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.3%	0.4%	0.4%	0.3%	0.0%

表 II-13 「学校への地域の望ましい関わり方」×「学校・家庭・地域での教育課題」③

		学校・家庭・地域での教育課題					
		地域では児童・生徒の教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている					
		1	2	3	4	5	6
学校への地域の望ましい関わり方	地域の方が運動会や文化祭などの学校行事に参加する	1.7%	7.2%	4.5%	2.3%	1.2%	0.2%
	地域の方が学校関係者と情報交換などを行い、活動支援や安全確保などに取り組む	7.2%	34.9%	21.0%	9.0%	2.0%	1.0%
	地域の方が学校関係者と協働して、直接学校運営に参画する	0.4%	1.8%	0.8%	0.5%	0.4%	0.1%
	その他	0.1%	0.5%	0.4%	0.3%	0.1%	0.0%

※学校・家庭・地域での教育課題

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

II-1-9 「学校への地域の望ましい関わり方」×「諸課題の解決の方策と学校のあり方」

教職員に聞いた『学校への地域の望ましい関わり方』と『諸課題の解決の方策と学校のあり方』の両回答の関係をみると、「地域の方が学校関係者と情報交換などを行い、活動支援や安全確保などに取り組む」×「授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人の方だけでなく学校全体でも取り組む（そう思う）」が53.2%、「地域の方が学校関係者と情報交換などを行い、活動支援や安全確保などに取り組む」×「地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める（どちらかというと思う）」が37.9%、「地域の方が学校関係者と情報交換などを行い、活動支援や安全確保などに取り組む」×「教員一人ひとりが自らの指導力を自覚し、それぞれの能力に応じた向上に努める（どちらかというと思う）」が35.4%であった。（表II-14～17 参照）

表 II-14 「学校への地域の望ましい関わり方」×「諸課題の解決の方策と学校のあり方」①

		諸課題の解決の方策と学校のあり方											
		各学校が競い合って、これまで以上に特色ある教育活動・学校づくりを進める						学校（校長）に予算や人事などの面で裁量を与え、現場の実態に応じた独自の学校づくりを進める					
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
学校への地域の望ましい関わり方	地域の方が運動会や文化祭などの学校行事に参加する	1.0%	2.5%	3.9%	3.2%	6.2%	0.4%	2.1%	5.7%	4.3%	2.3%	2.2%	0.6%
	地域の方が学校関係者と情報交換などを行い、活動支援や安全確保などに取り組む	2.3%	8.9%	18.1%	16.2%	29.2%	0.7%	10.4%	25.2%	19.4%	9.4%	9.2%	1.7%
	地域の方が学校関係者と協働して、直接学校運営に参画する	0.4%	0.6%	1.0%	0.8%	1.0%	0.1%	1.2%	1.1%	0.9%	0.6%	0.2%	0.0%
	その他	0.0%	0.1%	0.4%	0.2%	0.6%	0.0%	0.3%	0.3%	0.3%	0.1%	0.3%	0.0%

表 II-15 「学校への地域の望ましい関わり方」×「諸課題の解決の方策と学校のあり方」②

		諸課題の解決の方策と学校のあり方											
		教員一人ひとりが自らの指導力を自覚し、それぞれの能力に応じた向上に努める						教員の仕事が均分化・平準化できるよう、校内の組織や業務内容を見直す					
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
学校への地域の望ましい関わり方	地域の方が運動会や文化祭などの学校行事に参加する	6.6%	8.0%	1.5%	0.4%	0.2%	0.3%	6.5%	7.4%	2.6%	0.2%	0.2%	0.2%
	地域の方が学校関係者と情報交換などを行い、活動支援や安全確保などに取り組む	33.0%	35.4%	5.3%	1.0%	0.3%	0.1%	26.3%	28.5%	15.3%	3.5%	1.1%	0.4%
	地域の方が学校関係者と協働して、直接学校運営に参画する	1.8%	1.9%	0.3%	0.0%	0.1%	0.0%	1.9%	1.5%	0.4%	0.1%	0.1%	0.0%
	その他	0.9%	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.3%	0.2%	0.0%	0.2%	0.1%

表 II-16 「学校への地域の望ましい関わり方」×「諸課題の解決の方策と学校のあり方」③

		諸課題の解決の方策と学校のあり方											
		授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人の方だけでなく学校全体でも取り組む						地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める					
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
学校への地域の望ましい関わり方	地域の方が運動会や文化祭などの学校行事に参加する	9.9%	6.1%	0.9%	0.2%	0.0%	0.0%	4.3%	8.4%	3.4%	0.8%	0.3%	0.0%
	地域の方が学校関係者と情報交換などを行い、活動支援や安全確保などに取り組む	53.2%	19.4%	2.3%	0.3%	0.1%	0.0%	22.4%	37.9%	11.2%	2.3%	1.1%	0.3%
	地域の方が学校関係者と協働して、直接学校運営に参画する	2.7%	0.8%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	1.6%	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%
	その他	0.9%	0.2%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.4%	0.6%	0.1%	0.2%	0.0%	0.0%

表 II-17 「学校への地域の望ましい関わり方」×「諸課題の解決の方策と学校のあり方」④

		諸課題の解決の方策と学校のあり方											
		NPOや企業などとの連携・協力を進め、県民の力を生かした学校づくりを進める						学校が児童・生徒の教育機能だけでなく、地域の教育の拠点としての役割も担う存在となる					
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
学校への地域の望ましい関わり方	地域の方が運動会や文化祭などの学校行事に参加する	2.2%	5.7%	6.5%	1.5%	0.8%	0.6%	2.2%	5.6%	5.5%	1.6%	1.7%	0.6%
	地域の方が学校関係者と情報交換などを行い、活動支援や安全確保などに取り組む	11.0%	28.3%	25.2%	5.3%	3.1%	2.4%	9.0%	22.8%	24.5%	10.1%	6.9%	1.9%
	地域の方が学校関係者と協働して、直接学校運営に参画する	1.1%	2.1%	0.6%	0.1%	0.1%	0.0%	1.3%	1.5%	0.7%	0.3%	0.3%	0.0%
	その他	0.4%	0.4%	0.3%	0.1%	0.2%	0.0%	0.2%	0.2%	0.3%	0.1%	0.4%	0.0%

※諸課題の解決の方策と学校のあり方

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

II-1-10 「支援を必要とする児童・生徒への対応」×「教員に必要な資質」

教職員に聞いた『支援を必要とする児童・生徒への対応』と『教員に必要な資質』の両回答の関係をみると、「就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる」×「子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力」が 34.8%、「自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る」×「子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力」が 29.9%、「小・中・高等学校での子どもへの支援に、特別支援学校がもつ専門的な知識や機能を活用する」×「子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力」が 27.2%であった。(表 II-18 参照)

表 II-18 「支援を必要とする児童・生徒への対応」×「教員に必要な資質」

	教員に必要な資質						
	同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力	教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力	子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力	学習指導や生徒指導等の教育課題に対応できる力	思考力等を育むために子ども同士が学び合うなどの授業をデザインする実践的指導力	よりよい授業をめざして授業研究を行う探究力	
支援を必要とする児童・生徒への対応	就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる	26.1%	11.5%	34.8%	13.6%	13.2%	11.9%
	地域の学校にある“通常の学級”で学ばせる	2.0%	1.5%	2.1%	1.0%	0.9%	0.7%
	地域の学校にある“特別支援学級”で学ばせる	7.9%	4.2%	8.9%	4.5%	4.0%	4.4%
	普段は地域の学校にある“通常の学級”で学ばせ、必要に応じて“特別支援学級や通級指導教室”で学ばせる	15.5%	8.3%	21.4%	9.1%	9.5%	6.5%
	県立高等学校内に設置されている“特別支援学校の分教室”で学ばせる	1.9%	1.8%	2.2%	1.6%	0.8%	0.9%
	“通常の学級”と“特別支援学級や特別支援学校”の子ども同士の交流を充実させる	13.9%	6.1%	19.0%	7.0%	9.0%	5.9%
	小・中・高等学校での子どもへの支援に、特別支援学校がもつ専門的な知識や機能を活用する	19.7%	8.2%	27.2%	10.3%	11.7%	8.2%
	小・中・高等学校と特別支援学校との間で、互いに移行・転学することを推進する	5.3%	2.4%	7.0%	3.3%	2.8%	2.3%
	自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る	22.5%	9.6%	29.9%	13.4%	12.3%	9.4%
	その他	0.7%	0.8%	1.1%	0.5%	0.5%	0.4%

Ⅱ-1-1 1 「支援を必要とする児童・生徒への対応」×「諸課題の解決の方策と学校のあり方」

教職員に聞いた『支援を必要とする児童・生徒への対応』と『諸課題の解決の方策と学校のあり方』の両回答の関係をみると、「就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる」×「授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人の方だけでなく学校全体でも取り組む（そう思う）」が38.8%、「自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る」×「授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人の方だけでなく学校全体でも取り組む（そう思う）」が34.4%、「小・中・高等学校での子どもへの支援に、特別支援学校がもつ専門的な知識や機能を活用する」×「授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人の方だけでなく学校全体でも取り組む（そう思う）」が30.6%であった。（表Ⅱ-19～22 参照）

表Ⅱ-19 「支援を必要とする児童・生徒への対応」×「諸課題の解決の方策と学校のあり方」①

	諸課題の解決の方策と学校のあり方												
	各学校が競い合って、これまで以上に特色ある教育活動・学校づくりを進める						学校（校長）に予算や人事などの面で裁量を与え、現場の実態に応じた独自の学校づくりを進める						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
支援を必要とする児童・生徒への対応	就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる	2.2%	7.1%	12.9%	12.1%	21.4%	0.7%	8.3%	18.3%	14.4%	6.8%	7.1%	1.3%
	地域の学校にある“通常の学級”で学ばせる	0.2%	1.0%	0.7%	0.9%	1.4%	0.0%	0.6%	1.3%	1.1%	0.7%	0.4%	0.1%
	地域の学校にある“特別支援学級”で学ばせる	0.9%	2.3%	3.8%	3.6%	6.5%	0.2%	2.5%	5.3%	4.3%	2.6%	2.4%	0.1%
	普段は地域の学校にある“通常の学級”で学ばせ、必要に応じて“特別支援学級や通級指導教室”で学ばせる	1.1%	4.5%	8.6%	7.1%	13.9%	0.5%	5.1%	12.4%	8.7%	4.7%	3.8%	1.1%
	県立高等学校内に設置されている“特別支援学校の分教室”で学ばせる	0.1%	0.6%	1.0%	1.3%	1.4%	0.1%	0.6%	1.8%	0.9%	0.5%	0.7%	0.0%
	“通常の学級”と“特別支援学級や特別支援学校”の子ども同士の交流を充実させる	0.9%	3.9%	7.3%	7.9%	10.6%	0.3%	3.7%	11.3%	7.5%	4.1%	3.8%	0.5%
	小・中・高等学校での子どもへの支援に、特別支援学校がもつ専門的な知識や機能を活用する	1.3%	4.4%	11.3%	9.2%	16.3%	0.4%	6.1%	15.0%	10.9%	5.4%	4.4%	1.0%
	小・中・高等学校と特別支援学校との間で、互いに移行・転学することを推進する	0.9%	2.3%	2.6%	1.4%	4.1%	0.2%	2.2%	4.4%	2.1%	1.0%	1.6%	0.2%
	自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る	1.5%	5.6%	11.4%	11.3%	19.0%	0.5%	7.1%	15.5%	12.9%	6.5%	6.1%	1.1%
その他	0.0%	0.1%	0.4%	0.6%	0.9%	0.0%	0.3%	0.6%	0.3%	0.3%	0.4%	0.0%	

※諸課題の解決の方策と学校のあり方

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
 4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

表 II-20 「支援を必要とする児童・生徒への対応」×「諸課題の解決の方策と学校のあり方」②

	諸課題の解決の方策と学校のあり方												
	教員一人ひとりが自らの指導力を自覚し、それぞれ の能力に応じた向上に努める						教員の仕事が均分化・平準化できるよう、校内の組 織や業務内容を見直す						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
支援を必要とする児童・生徒への対応	就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる	24.6%	26.5%	3.8%	0.9%	0.2%	0.2%	20.4%	21.7%	10.9%	2.0%	1.0%	0.3%
	地域の学校にある“通常の学級”で学ばせる	1.5%	2.0%	0.6%	0.1%	0.0%	0.0%	1.3%	1.8%	0.7%	0.3%	0.0%	0.1%
	地域の学校にある“特別支援学級”で学ばせる	6.7%	8.4%	1.6%	0.4%	0.1%	0.0%	7.1%	5.8%	3.5%	0.6%	0.2%	0.0%
	普段は地域の学校にある“通常の学級”で学ばせ、必要に応じて“特別支援学級や通級指導教室”で学ばせる	15.9%	16.6%	2.3%	0.3%	0.3%	0.2%	12.3%	13.8%	7.3%	1.6%	0.5%	0.2%
	県立高等学校内に設置されている“特別支援学校の分教室”で学ばせる	1.5%	2.2%	0.7%	0.1%	0.0%	0.0%	1.6%	2.0%	0.8%	0.3%	0.0%	0.0%
	“通常の学級”と“特別支援学級や特別支援学校”の子ども同士の交流を充実させる	13.0%	15.0%	2.1%	0.4%	0.2%	0.0%	11.4%	13.1%	4.7%	0.9%	0.4%	0.2%
	小・中・高等学校での子どもへの支援に、特別支援学校がもつ専門的な知識や機能を活用する	18.9%	20.2%	2.7%	0.7%	0.2%	0.1%	14.2%	17.3%	8.5%	1.9%	0.8%	0.2%
	小・中・高等学校と特別支援学校との間で、互いに移行・転学することを推進する	4.8%	5.4%	0.8%	0.1%	0.1%	0.1%	4.6%	4.0%	2.0%	0.4%	0.3%	0.2%
	自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る	22.6%	22.3%	3.0%	0.7%	0.2%	0.2%	17.5%	18.3%	9.8%	2.1%	1.0%	0.4%
その他	1.3%	0.4%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.6%	0.5%	0.1%	0.1%	0.0%	

表 II-21 「支援を必要とする児童・生徒への対応」×「諸課題の解決の方策と学校のあり方」③

	諸課題の解決の方策と学校のあり方												
	授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人 の力だけでなく学校全体でも取り組む						地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生 かした学校づくりを進める						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
支援を必要とする児童・生徒への対応	就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる	38.8%	15.0%	1.9%	0.4%	0.0%	0.1%	16.3%	28.4%	8.7%	1.9%	0.5%	0.2%
	地域の学校にある“通常の学級”で学ばせる	2.2%	1.4%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	1.9%	0.7%	0.0%	0.1%	0.0%
	地域の学校にある“特別支援学級”で学ばせる	10.4%	5.3%	1.3%	0.1%	0.0%	0.0%	4.6%	7.7%	3.6%	0.9%	0.4%	0.0%
	普段は地域の学校にある“通常の学級”で学ばせ、必要に応じて“特別支援学級や通級指導教室”で学ばせる	25.3%	9.0%	1.0%	0.2%	0.0%	0.1%	11.1%	18.2%	4.6%	1.3%	0.3%	0.1%
	県立高等学校内に設置されている“特別支援学校の分教室”で学ばせる	2.3%	1.8%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	2.1%	1.2%	0.2%	0.1%	0.0%
	“通常の学級”と“特別支援学級や特別支援学校”の子ども同士の交流を充実させる	22.2%	7.6%	0.6%	0.2%	0.0%	0.0%	10.3%	15.9%	3.6%	0.6%	0.3%	0.0%
	小・中・高等学校での子どもへの支援に、特別支援学校がもつ専門的な知識や機能を活用する	30.6%	11.3%	0.8%	0.1%	0.0%	0.0%	14.4%	21.6%	5.2%	1.2%	0.3%	0.1%
	小・中・高等学校と特別支援学校との間で、互いに移行・転学することを推進する	7.9%	3.1%	0.4%	0.1%	0.0%	0.0%	3.6%	5.4%	1.6%	0.7%	0.3%	0.0%
	自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る	34.4%	12.9%	1.4%	0.3%	0.1%	0.1%	14.8%	25.2%	6.4%	1.8%	0.8%	0.2%
その他	1.7%	0.1%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.9%	0.4%	0.1%	0.0%	0.0%	

※諸課題の解決の方策と学校のあり方

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

表 II-22 「支援を必要とする児童・生徒への対応」×「諸課題の解決の方策と学校のあり方」④

	諸課題の解決の方策と学校のあり方												
	NPOや企業などとの連携・協力を進め、県民の力を生かした学校づくりを進める						学校が児童・生徒の教育機能だけでなく、地域の教育の拠点としての役割も担う存在となる						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
支援を必要とする児童・生徒への対応	就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる	8.2%	21.1%	18.8%	4.0%	2.3%	1.8%	7.1%	17.7%	17.9%	6.6%	5.1%	1.8%
	地域の学校にある“通常の学級”で学ばせる	0.6%	1.3%	1.7%	0.2%	0.3%	0.1%	0.4%	1.5%	1.4%	0.5%	0.4%	0.1%
	地域の学校にある“特別支援学級”で学ばせる	2.4%	5.4%	6.2%	1.6%	1.1%	0.4%	2.0%	4.6%	5.9%	2.5%	2.1%	0.2%
	普段は地域の学校にある“通常の学級”で学ばせ、必要に応じて“特別支援学級や通級指導教室”で学ばせる	4.5%	15.1%	11.0%	2.6%	1.4%	1.1%	4.5%	11.9%	11.0%	4.6%	2.7%	0.8%
	県立高等学校内に設置されている“特別支援学校の分教室”で学ばせる	0.5%	1.3%	1.8%	0.7%	0.2%	0.0%	0.5%	1.6%	1.3%	0.5%	0.7%	0.0%
	“通常の学級”と“特別支援学級や特別支援学校”の子ども同士の交流を充実させる	4.7%	11.8%	11.0%	1.8%	0.8%	0.7%	4.2%	10.8%	9.7%	3.4%	2.2%	0.5%
	小・中・高等学校での子どもへの支援に、特別支援学校がもつ専門的な知識や機能を活用する	7.5%	16.6%	13.7%	2.7%	1.1%	1.4%	6.3%	13.8%	12.6%	5.7%	3.4%	1.2%
	小・中・高等学校と特別支援学校との間で、互いに移行・転学することを推進する	2.2%	4.6%	3.1%	1.0%	0.3%	0.3%	2.1%	4.1%	3.0%	1.2%	0.9%	0.2%
	自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る	7.5%	19.4%	15.5%	3.2%	1.7%	1.9%	6.7%	14.3%	15.4%	6.2%	5.3%	1.3%
	その他	0.2%	0.9%	0.6%	0.0%	0.3%	0.0%	0.3%	0.6%	0.7%	0.2%	0.2%	0.0%

※諸課題の解決の方策と学校のあり方

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
 4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

II-1-12 「『いのちの授業』へ期待するもの」×「教育現場での児童・生徒の課題」

教職員に聞いた『「いのちの授業」へ期待するもの』と『教育現場での児童・生徒の課題』の両回答の関係をみると、「他者への思いやりや他者との関わりの大切さに気づくこと」×「やさしさや思いやりがある（どちらかというと思う）」が42.1%、「他者への思いやりや他者との関わりの大切さに気づくこと」×「社会のルールやマナーを守っている（どちらかというと思う）」が38.5%、「他者への思いやりや他者との関わりの大切さに気づくこと」×「明るく元気である（そう思う）」が38.1%であった。（表II-23～30 参照）

表 II-23 「『いのちの授業』へ期待するもの」×「教育現場での児童・生徒の課題」①

	教育現場での児童・生徒の課題												
	明るく元気である						自分らしさをもっている						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
「いのちの授業」へ期待するもの	自己の大切さを感じることに	32.6%	27.3%	4.4%	1.0%	0.3%	0.0%	12.3%	26.7%	19.0%	6.4%	1.2%	0.1%
	他者への思いやりや他者との関わりの大切さに気づくことに	38.1%	33.2%	6.3%	1.1%	0.7%	0.1%	14.1%	32.7%	21.7%	9.0%	1.7%	0.1%
	社会と関わることに大切さに気づくことに	4.4%	4.7%	1.2%	0.1%	0.2%	0.0%	1.9%	3.7%	3.1%	1.6%	0.3%	0.0%
	自然の豊かさや環境保全の大切さを感じることに	2.2%	2.1%	0.5%	0.1%	0.0%	0.0%	1.0%	2.0%	1.4%	0.4%	0.2%	0.0%
	生命や生物の尊さを感じることに	12.7%	10.6%	2.5%	0.3%	0.3%	0.0%	4.8%	10.3%	7.6%	3.1%	0.5%	0.1%
	人類の文化や歴史を理解し、継承しようとするに	1.0%	1.3%	0.5%	0.0%	0.0%	0.1%	0.5%	1.0%	1.0%	0.3%	0.1%	0.0%
	災害や事故から、いのちを守ること	2.2%	2.2%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	2.1%	1.8%	0.4%	0.1%	0.0%
	その他	0.3%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%

表 II-24 「『いのちの授業』へ期待するもの」×「教育現場での児童・生徒の課題」②

	教育現場での児童・生徒の課題												
	やさしさや思いやりがある						何事にも前向きに取り組む						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
「いのちの授業」へ期待するもの	自己の大切さを感じることに	12.1%	35.7%	13.8%	3.3%	0.6%	0.1%	7.6%	27.9%	19.0%	8.5%	2.6%	0.0%
	他者への思いやりや他者との関わりの大切さに気づくことに	14.3%	42.1%	16.5%	5.3%	1.2%	0.1%	8.7%	32.5%	23.4%	11.2%	3.7%	0.0%
	社会と関わることに大切さに気づくことに	1.9%	4.9%	2.3%	1.0%	0.4%	0.1%	1.1%	3.8%	3.1%	2.0%	0.5%	0.0%
	自然の豊かさや環境保全の大切さを感じることに	0.7%	2.3%	1.4%	0.5%	0.1%	0.0%	0.4%	1.8%	1.8%	0.7%	0.4%	0.0%
	生命や生物の尊さを感じることに	4.6%	13.0%	6.4%	1.6%	0.8%	0.1%	2.4%	10.1%	8.2%	4.0%	1.6%	0.0%
	人類の文化や歴史を理解し、継承しようとするに	0.5%	1.0%	1.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.3%	0.8%	1.1%	0.5%	0.2%	0.0%
	災害や事故から、いのちを守ること	0.7%	3.0%	1.2%	0.3%	0.0%	0.0%	0.3%	2.1%	1.6%	0.8%	0.3%	0.0%
	その他	0.2%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.1%	0.1%	0.2%	0.0%	0.0%

※教育現場での児童・生徒の課題

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
 4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

表 II-25 『いのちの授業』へ期待するもの × 「教育現場での児童・生徒の課題」③

	教育現場での児童・生徒の課題												
	自分の感情をうまくコントロールできない						ねばり強さがある						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
「いのちの授業」へ期待するもの	自己の大切さを感じることに	7.3%	18.8%	17.8%	13.7%	7.7%	0.0%	2.3%	11.3%	21.5%	20.3%	9.6%	0.3%
	他者への思いやりや他者との関わりの大切さに気づくことに	8.9%	22.6%	21.0%	15.9%	10.2%	0.1%	2.3%	12.6%	26.5%	25.1%	12.1%	0.3%
	社会と関わることの大切さに気づくことに	1.1%	3.1%	2.7%	2.1%	1.4%	0.0%	0.3%	1.6%	3.8%	3.0%	1.8%	0.0%
	自然の豊かさや環境保全の大切さを感じることに	0.9%	1.2%	1.4%	0.9%	0.6%	0.0%	0.2%	0.4%	1.9%	1.6%	0.8%	0.0%
	生命や生物の尊さを感じることに	3.0%	8.4%	6.3%	5.7%	2.8%	0.1%	1.0%	3.5%	9.1%	8.6%	4.0%	0.2%
	人類の文化や歴史を理解し、継承しようとするに	0.4%	1.1%	0.8%	0.5%	0.2%	0.0%	0.2%	0.5%	0.7%	0.8%	0.7%	0.0%
	災害や事故から、いのちを守ること	0.7%	1.5%	1.3%	1.1%	0.7%	0.0%	0.2%	0.8%	1.5%	1.7%	1.1%	0.0%
	その他	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.2%	0.1%	0.0%

表 II-26 『いのちの授業』へ期待するもの × 「教育現場での児童・生徒の課題」④

	教育現場での児童・生徒の課題												
	自分の気持ちを相手にうまく伝えられる						体力の低下が目立つ						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
「いのちの授業」へ期待するもの	自己の大切さを感じることに	1.2%	9.6%	22.4%	22.8%	9.0%	0.2%	10.0%	18.3%	20.2%	9.9%	5.7%	1.5%
	他者への思いやりや他者との関わりの大切さに気づくことに	1.5%	11.8%	26.0%	28.1%	11.3%	0.2%	11.7%	23.2%	24.0%	11.1%	7.4%	1.9%
	社会と関わることの大切さに気づくことに	0.2%	1.5%	3.7%	3.4%	1.7%	0.0%	1.7%	3.6%	2.7%	1.4%	1.0%	0.2%
	自然の豊かさや環境保全の大切さを感じることに	0.0%	0.8%	1.6%	1.8%	0.7%	0.0%	0.7%	1.2%	2.0%	0.5%	0.4%	0.1%
	生命や生物の尊さを感じることに	0.6%	3.8%	8.7%	9.4%	3.8%	0.0%	3.9%	7.9%	7.9%	3.8%	2.4%	0.6%
	人類の文化や歴史を理解し、継承しようとするに	0.3%	0.4%	0.9%	1.0%	0.3%	0.0%	0.9%	0.8%	0.6%	0.4%	0.2%	0.0%
	災害や事故から、いのちを守ること	0.1%	0.9%	1.5%	1.9%	0.9%	0.0%	0.8%	1.6%	1.4%	0.8%	0.6%	0.0%
	その他	0.0%	0.0%	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%

表 II-27 『いのちの授業』へ期待するもの × 「教育現場での児童・生徒の課題」⑤

	教育現場での児童・生徒の課題												
	自分一人で選択や判断をする力がある						社会に役立とうとする心や公共心がある						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
「いのちの授業」へ期待するもの	自己の大切さを感じることに	0.9%	7.9%	20.2%	25.1%	11.2%	0.1%	3.7%	19.4%	22.1%	13.6%	5.7%	1.0%
	他者への思いやりや他者との関わりの大切さに気づくことに	1.1%	10.3%	24.1%	29.7%	13.9%	0.1%	3.3%	24.2%	26.4%	17.1%	6.8%	1.3%
	社会と関わることの大切さに気づくことに	0.2%	1.7%	2.9%	3.6%	2.1%	0.1%	0.7%	3.4%	2.7%	2.8%	0.8%	0.1%
	自然の豊かさや環境保全の大切さを感じることに	0.0%	0.7%	1.7%	1.7%	0.8%	0.0%	0.1%	1.7%	1.7%	0.7%	0.7%	0.0%
	生命や生物の尊さを感じることに	0.6%	2.5%	8.4%	9.7%	5.0%	0.2%	1.3%	7.3%	8.6%	6.2%	2.3%	0.5%
	人類の文化や歴史を理解し、継承しようとするに	0.1%	0.3%	0.9%	1.1%	0.5%	0.0%	0.3%	0.9%	0.8%	0.5%	0.2%	0.1%
	災害や事故から、いのちを守ること	0.1%	0.6%	1.2%	2.1%	1.4%	0.0%	0.2%	1.6%	1.5%	1.5%	0.5%	0.0%
	その他	0.0%	0.1%	0.2%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%

※教育現場での児童・生徒の課題

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
 4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

表 II-28 『いのちの授業』へ期待するもの × 「教育現場での児童・生徒の課題」⑥

	教育現場での児童・生徒の課題												
	社会のルールやマナーを守っている						食事や睡眠など生活が規則正しい						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
「いのちの授業」へ期待するもの	自己の大切さを感じることに	6.5%	32.0%	16.6%	7.7%	2.5%	0.0%	3.9%	22.2%	19.0%	12.9%	6.9%	0.5%
	他者への思いやりや他者との関わりの大切さに気づくことに	6.8%	38.5%	20.6%	9.7%	3.4%	0.1%	4.4%	26.8%	23.4%	15.3%	8.6%	0.5%
	社会と関わることの大切さに気づくことに	0.7%	5.3%	2.6%	1.5%	0.4%	0.0%	0.6%	3.3%	2.9%	2.4%	1.0%	0.2%
	自然の豊かさや環境保全の大切さを感じることに	0.2%	2.3%	1.3%	0.8%	0.3%	0.0%	0.2%	1.7%	1.5%	0.9%	0.6%	0.0%
	生命や生物の尊さを感じることに	2.1%	11.5%	7.8%	3.4%	1.3%	0.1%	1.2%	8.5%	7.3%	6.5%	2.7%	0.1%
	人類の文化や歴史を理解し、継承しようとするに	0.3%	1.2%	0.7%	0.5%	0.3%	0.0%	0.4%	0.8%	0.5%	0.8%	0.4%	0.1%
	災害や事故から、いのちを守ること	0.4%	2.5%	1.3%	0.7%	0.4%	0.0%	0.3%	1.6%	1.3%	1.1%	0.8%	0.1%
	その他	0.0%	0.2%	0.2%	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	0.1%	0.2%	0.0%	0.2%	0.0%

表 II-29 『いのちの授業』へ期待するもの × 「教育現場での児童・生徒の課題」⑦

	教育現場での児童・生徒の課題												
	自分のこと以外に関心がない						人間関係を築くのが苦手である						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
「いのちの授業」へ期待するもの	自己の大切さを感じることに	2.7%	12.7%	20.5%	18.6%	10.5%	0.5%	6.5%	22.8%	17.9%	13.0%	5.2%	0.1%
	他者への思いやりや他者との関わりの大切さに気づくことに	3.3%	16.3%	24.6%	21.7%	12.7%	0.6%	8.2%	27.7%	21.6%	15.4%	6.0%	0.1%
	社会と関わることの大切さに気づくことに	0.5%	2.0%	3.4%	2.5%	2.0%	0.1%	1.1%	3.4%	3.0%	2.2%	0.9%	0.0%
	自然の豊かさや環境保全の大切さを感じることに	0.4%	1.2%	1.6%	1.1%	0.6%	0.0%	0.6%	1.9%	1.4%	1.0%	0.1%	0.0%
	生命や生物の尊さを感じることに	1.0%	5.5%	8.5%	6.9%	4.0%	0.4%	3.2%	9.1%	7.3%	4.4%	2.0%	0.1%
	人類の文化や歴史を理解し、継承しようとするに	0.3%	0.6%	1.0%	0.7%	0.3%	0.0%	0.5%	0.6%	1.1%	0.4%	0.2%	0.0%
	災害や事故から、いのちを守ること	0.3%	1.0%	1.6%	1.3%	1.0%	0.0%	0.8%	1.9%	1.3%	0.9%	0.4%	0.0%
	その他	0.0%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	0.1%	0.2%	0.1%	0.1%	0.0%

表 II-30 『いのちの授業』へ期待するもの × 「教育現場での児童・生徒の課題」⑧

	教育現場での児童・生徒の課題												
	学習する態度が身についている						授業の内容を概ね理解している						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
「いのちの授業」へ期待するもの	自己の大切さを感じることに	5.0%	23.8%	17.7%	13.0%	5.8%	0.3%	3.5%	28.3%	22.7%	8.0%	2.6%	0.4%
	他者への思いやりや他者との関わりの大切さに気づくことに	5.3%	27.6%	21.4%	16.7%	8.1%	0.1%	3.9%	32.5%	28.0%	10.6%	3.9%	0.3%
	社会と関わることの大切さに気づくことに	0.7%	2.9%	2.8%	2.7%	1.3%	0.1%	0.7%	3.5%	3.5%	1.9%	0.8%	0.2%
	自然の豊かさや環境保全の大切さを感じることに	0.2%	1.5%	1.4%	1.4%	0.6%	0.0%	0.0%	1.6%	1.8%	1.1%	0.4%	0.0%
	生命や生物の尊さを感じることに	1.2%	8.4%	7.6%	5.9%	3.1%	0.1%	1.2%	10.2%	9.0%	4.0%	1.7%	0.2%
	人類の文化や歴史を理解し、継承しようとするに	0.4%	0.8%	0.7%	0.7%	0.4%	0.0%	0.3%	0.8%	1.3%	0.3%	0.2%	0.0%
	災害や事故から、いのちを守ること	0.2%	1.6%	1.2%	1.3%	0.9%	0.0%	0.2%	2.0%	1.9%	0.9%	0.2%	0.0%
	その他	0.1%	0.2%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%

※教育現場での児童・生徒の課題

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
 4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

II - 2 保護者

II-2-1 「自分の子とのコミュニケーション」×「自分の子をどのくらい把握しているか」

保護者に聞いた『自分の子とのコミュニケーション』と『自分の子をどのくらい把握しているか』の両回答の関係をみると、《「日常の出来事や体験したことについて」×「健康状態」》が80.7%、《「学校での交友関係について」×「健康状態」》が75.1%、《「日常の出来事や体験したことについて」×「興味や関心のあること」》が71.0%であった。(表II-31 参照)

表 II-31 「自分の子とのコミュニケーション」×「自分の子をどのくらい把握しているか」

		自分の子をどのくらい把握しているか						
		健康状態	興味や関心のあること	学校での生活	勉強のこと	将来の夢や進路	悩み	友だちのこと
自分の子とのコミュニケーション	学校での交友関係について	75.1%	65.9%	35.6%	32.9%	37.6%	18.2%	49.1%
	学校で勉強している内容やテストの点数について	33.8%	29.8%	17.2%	19.6%	17.8%	9.0%	22.0%
	課題の克服や期待することについて	16.8%	15.3%	8.8%	9.5%	9.7%	5.5%	10.9%
	長所や得意なことについて	35.3%	33.1%	17.8%	16.8%	19.5%	10.6%	22.9%
	家庭での役割分担について	26.0%	23.8%	13.6%	12.7%	14.2%	7.7%	16.6%
	社会で必要なルールやマナーの理解について	53.2%	47.5%	24.1%	23.8%	27.5%	13.9%	33.4%
	進路や将来のことについて	46.0%	40.0%	21.0%	20.9%	30.3%	12.0%	27.5%
	スポーツや趣味について	46.0%	42.3%	21.1%	20.5%	24.6%	11.3%	28.1%
	日常の出来事や体験したことについて	80.7%	71.0%	36.0%	34.5%	40.0%	18.7%	48.3%
	健康面や体調について	57.6%	50.3%	25.6%	25.0%	30.3%	14.6%	34.1%
その他	1.6%	1.5%	0.9%	0.9%	0.9%	0.6%	1.0%	

II-2-2 「自分の子とのコミュニケーション」×「家庭でのしつけや教育に関わること」

保護者に聞いた『自分の子とのコミュニケーション』と『家庭でのしつけや教育に関わること』の両回答の関係をみると、「『日常の出来事や体験したことについて』×「社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる」が 72.2%、「『学校での交友関係について』×「社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる」が 68.4%、「『日常の出来事や体験したことについて』×「片付けなど自分のことは自分でできるようにさせる」が 64.2%であった。(表 II-32 参照)

表 II-32 「自分の子とのコミュニケーション」×「家庭でのしつけや教育に関わること」

	家庭でのしつけや教育に関わること										
	早寝早起きなど規則正しい生活習慣を身につけさせる	片付けなど自分のことは自分でできるようにさせる	社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる	テレビやゲームの時間などのルールを決める	年上の人や下の人に優しくするようにさせる	物を大切に扱い、無駄づかいをさせない	家庭学習の習慣をつけさせる	子どもと一緒に食事をする	勉強のこたけなく会話をする	子どものよきところをきちんとほめる	家の手伝いをさせる
学校での交友関係について	49.4%	60.7%	68.4%	25.2%	38.9%	46.1%	28.1%	50.4%	54.5%	49.5%	44.9%
学校で勉強している内容やテストの点数について	24.1%	27.8%	31.0%	13.4%	18.6%	22.7%	16.7%	23.7%	25.7%	22.2%	20.6%
課題の克服や期待することについて	11.9%	14.3%	15.5%	7.1%	10.5%	11.9%	9.3%	12.2%	13.5%	12.2%	10.8%
長所や得意なことについて	23.9%	29.1%	32.6%	12.7%	21.2%	23.2%	14.6%	25.5%	28.5%	28.6%	22.6%
家庭での役割分担について	18.8%	23.8%	24.2%	11.3%	16.8%	18.7%	11.3%	19.2%	19.5%	18.9%	22.9%
社会で必要なルールやマナーの理解について	36.3%	44.5%	51.3%	19.1%	31.3%	35.9%	21.5%	36.6%	40.2%	36.8%	34.5%
進路や将来のことについて	30.3%	37.2%	42.6%	15.0%	24.4%	29.7%	18.6%	31.2%	35.5%	31.1%	27.5%
スポーツや趣味について	30.7%	37.2%	41.7%	16.0%	25.5%	29.3%	17.7%	31.8%	34.4%	32.0%	27.7%
日常の出来事や体験したことについて	52.6%	64.2%	72.2%	26.7%	40.9%	48.4%	29.5%	53.6%	58.1%	53.6%	47.8%
健康面や体調について	38.7%	46.0%	52.1%	19.4%	30.6%	36.3%	21.5%	39.9%	42.2%	39.4%	35.3%
その他	1.2%	1.2%	1.3%	0.6%	0.9%	1.2%	0.6%	1.1%	1.2%	1.3%	1.2%

II-2-3 「自分の子とのコミュニケーション」×「最近の子どもの印象」

保護者に聞いた『自分の子とのコミュニケーション』と『最近の子どもの印象』の両回答の関係を見ると、「『日常の出来事や体験したことについて』×「明るく元気である（そう思う）」が34.7%、「『学校での交友関係について』×「明るく元気である（そう思う）」が33.5%、「『日常の出来事や体験したことについて』×「社会のルールやマナーを守っている（どちらかというと思う）」が32.5%であった。（表II-33～40 参照）

表 II-33 「自分の子とのコミュニケーション」×「最近の子どもの印象」①

	最近の子どもの印象												
	明るく元気である						自分らしさをもっている						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
自分の子とのコミュニケーション	学校での交友関係について	33.5%	29.1%	11.4%	3.6%	1.2%	0.2%	25.7%	27.9%	16.5%	5.8%	2.6%	0.5%
	学校で勉強している内容やテストの点数について	14.5%	13.5%	5.4%	1.5%	0.7%	0.1%	11.5%	12.9%	7.5%	2.3%	1.0%	0.3%
	課題の克服や期待することについて	7.1%	6.7%	2.8%	0.8%	0.3%	0.0%	6.5%	6.0%	3.8%	1.0%	0.5%	0.0%
	長所や得意なことについて	16.2%	12.9%	5.2%	1.7%	0.7%	0.1%	14.1%	11.9%	6.6%	2.6%	1.5%	0.1%
	家庭での役割分担について	11.3%	10.1%	3.8%	1.2%	0.7%	0.1%	8.8%	9.6%	5.9%	1.7%	1.2%	0.1%
	社会に必要なルールやマナーの理解について	22.1%	20.5%	8.9%	2.9%	1.1%	0.2%	17.7%	18.7%	12.1%	4.4%	2.5%	0.2%
	進路や将来のことについて	18.8%	18.1%	7.7%	2.5%	1.0%	0.2%	16.7%	16.4%	9.4%	3.6%	2.0%	0.3%
	スポーツや趣味について	21.2%	17.0%	6.7%	2.1%	0.9%	0.1%	17.6%	16.1%	9.7%	3.0%	1.6%	0.1%
	日常の出来事や体験したことについて	34.7%	31.2%	12.5%	4.1%	1.5%	0.2%	28.2%	29.3%	17.0%	6.2%	3.1%	0.4%
	健康面や体調について	23.8%	21.9%	9.2%	2.8%	1.3%	0.2%	20.7%	20.4%	11.8%	4.0%	2.1%	0.2%
	その他	0.7%	0.6%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%	0.8%	0.6%	0.2%	0.1%	0.1%	0.0%

表 II-34 「自分の子とのコミュニケーション」×「最近の子どもの印象」②

	最近の子どもの印象												
	やさしさや思いやりがある						何事にも前向きに取り組む						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
自分の子とのコミュニケーション	学校での交友関係について	28.7%	29.4%	14.9%	3.9%	1.5%	0.4%	11.6%	24.0%	28.1%	10.0%	4.3%	0.5%
	学校で勉強している内容やテストの点数について	12.9%	12.9%	7.1%	1.8%	0.7%	0.1%	5.3%	11.0%	11.9%	5.1%	1.7%	0.3%
	課題の克服や期待することについて	6.5%	6.8%	3.2%	0.8%	0.4%	0.0%	2.9%	5.3%	6.6%	2.1%	0.8%	0.1%
	長所や得意なことについて	15.1%	13.1%	6.0%	1.7%	0.7%	0.2%	6.1%	11.5%	12.7%	4.0%	2.0%	0.2%
	家庭での役割分担について	10.2%	9.4%	4.8%	1.7%	0.9%	0.1%	4.4%	7.7%	9.4%	3.4%	2.0%	0.1%
	社会に必要なルールやマナーの理解について	18.6%	20.5%	11.2%	3.4%	1.5%	0.2%	7.3%	16.0%	20.0%	8.1%	3.5%	0.3%
	進路や将来のことについて	17.5%	17.7%	8.9%	2.8%	1.2%	0.2%	7.4%	15.0%	15.9%	6.5%	2.9%	0.3%
	スポーツや趣味について	17.7%	18.0%	8.7%	2.4%	0.9%	0.2%	7.8%	14.6%	17.2%	5.6%	2.4%	0.2%
	日常の出来事や体験したことについて	30.0%	31.3%	16.2%	4.4%	1.8%	0.4%	12.2%	25.4%	29.9%	10.7%	5.0%	0.5%
	健康面や体調について	21.0%	22.3%	11.5%	2.8%	1.1%	0.4%	8.9%	18.7%	20.7%	7.3%	3.0%	0.3%
	その他	0.5%	0.7%	0.4%	0.0%	0.1%	0.0%	0.3%	0.4%	0.6%	0.2%	0.1%	0.0%

※最近の子どもの印象

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

表 II-35 「自分の子とのコミュニケーション」×「最近の子どもの印象」③

	最近の子どもの印象												
	自分の感情をうまくコントロールできない						ねばり強さがある						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
自分の子とのコミュニケーション	学校での交友関係について	5.9%	16.5%	21.2%	14.4%	20.0%	0.5%	8.4%	17.7%	24.3%	16.8%	10.8%	0.6%
	学校で勉強している内容やテストの点数について	2.8%	7.3%	10.5%	5.9%	8.7%	0.2%	3.7%	8.6%	11.3%	7.1%	4.3%	0.2%
	課題の克服や期待することについて	1.4%	3.8%	5.4%	2.9%	4.3%	0.1%	1.8%	4.6%	5.4%	3.4%	2.4%	0.1%
	長所や得意なことについて	2.8%	8.2%	9.3%	7.0%	9.4%	0.1%	4.6%	8.6%	11.4%	7.0%	4.7%	0.3%
	家庭での役割分担について	2.5%	6.3%	7.0%	4.8%	6.2%	0.1%	2.9%	6.0%	8.0%	5.9%	3.9%	0.2%
	社会で必要なルールやマナーの理解について	5.0%	13.2%	15.2%	9.3%	12.4%	0.4%	5.3%	10.8%	17.6%	12.8%	8.4%	0.3%
	進路や将来のことについて	3.8%	9.9%	12.4%	8.3%	13.4%	0.2%	5.4%	11.3%	14.4%	9.9%	6.9%	0.3%
	スポーツや趣味について	3.5%	9.5%	12.8%	8.9%	12.8%	0.2%	5.6%	11.5%	14.6%	10.5%	5.5%	0.3%
	日常の出来事や体験したことについて	6.0%	18.0%	22.7%	15.1%	21.4%	0.5%	9.2%	18.0%	26.1%	18.0%	11.9%	0.6%
	健康面や体調について	4.5%	12.5%	16.4%	10.4%	14.6%	0.4%	6.6%	13.4%	18.6%	12.6%	7.5%	0.4%
	その他	0.2%	0.2%	0.5%	0.3%	0.4%	0.0%	0.2%	0.5%	0.5%	0.2%	0.2%	0.1%

表 II-36 「自分の子とのコミュニケーション」×「最近の子どもの印象」④

	最近の子どもの印象												
	自分の気持ちを相手にうまく伝えられる						体力の低下が目立つ						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
自分の子とのコミュニケーション	学校での交友関係について	5.1%	17.9%	25.4%	19.7%	9.7%	0.4%	9.1%	15.9%	15.8%	10.0%	27.5%	0.6%
	学校で勉強している内容やテストの点数について	2.3%	8.3%	11.3%	9.1%	4.2%	0.3%	4.1%	7.6%	7.2%	4.1%	12.2%	0.3%
	課題の克服や期待することについて	1.2%	4.2%	5.7%	4.6%	2.0%	0.0%	2.3%	3.9%	2.9%	2.3%	6.2%	0.1%
	長所や得意なことについて	2.5%	8.8%	12.1%	8.7%	4.2%	0.2%	4.8%	7.8%	6.6%	4.8%	12.5%	0.3%
	家庭での役割分担について	1.8%	6.3%	8.0%	6.7%	3.9%	0.1%	3.3%	6.0%	5.1%	3.1%	9.3%	0.2%
	社会で必要なルールやマナーの理解について	3.5%	11.4%	17.3%	14.4%	7.8%	0.4%	6.7%	12.2%	11.2%	6.9%	18.0%	0.5%
	進路や将来のことについて	3.3%	11.0%	15.7%	11.3%	6.2%	0.4%	6.1%	10.6%	9.2%	6.0%	15.9%	0.4%
	スポーツや趣味について	3.2%	10.7%	16.0%	11.9%	5.6%	0.2%	5.1%	9.0%	8.1%	5.5%	19.9%	0.3%
	日常の出来事や体験したことについて	5.3%	18.2%	27.1%	21.2%	10.9%	0.6%	9.3%	17.7%	16.9%	10.5%	29.0%	0.7%
	健康面や体調について	3.7%	13.6%	19.1%	14.5%	7.4%	0.4%	7.1%	12.9%	12.0%	7.2%	19.6%	0.4%
	その他	0.1%	0.4%	0.7%	0.3%	0.1%	0.0%	0.2%	0.4%	0.2%	0.2%	0.6%	0.0%

※最近の子どもの印象

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
 4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

表 II-37 「自分の子とのコミュニケーション」×「最近の子どもの印象」⑤

	最近の子どもの印象												
	自分一人で選択や判断をする力がある						社会に役立とうとする心や公共心がある						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
自分の子とのコミュニケーション	学校での交友関係について	9.2%	19.7%	25.4%	14.9%	8.6%	0.7%	9.4%	22.7%	26.9%	11.0%	6.1%	2.3%
	学校で勉強している内容やテストの点数について	4.2%	9.1%	11.2%	6.7%	3.9%	0.4%	4.3%	10.0%	12.5%	4.6%	2.7%	1.2%
	課題の克服や期待することについて	2.2%	4.4%	5.7%	3.6%	1.8%	0.1%	2.5%	5.5%	5.8%	2.2%	1.3%	0.4%
	長所や得意なことについて	4.8%	9.7%	10.9%	6.7%	4.1%	0.4%	5.4%	10.6%	12.8%	4.1%	2.6%	0.9%
	家庭での役割分担について	3.2%	6.9%	7.8%	5.2%	3.5%	0.2%	3.9%	7.3%	8.6%	3.7%	2.8%	0.7%
	社会に必要なルールやマナーの理解について	6.0%	13.8%	17.2%	11.0%	6.9%	0.5%	6.6%	15.8%	18.7%	7.9%	4.8%	1.3%
	進路や将来のことについて	6.4%	12.5%	13.8%	9.4%	5.5%	0.4%	6.3%	14.9%	16.1%	6.0%	3.6%	1.0%
	スポーツや趣味について	6.2%	12.3%	15.2%	8.7%	4.8%	0.5%	5.6%	14.7%	16.2%	6.2%	3.7%	1.3%
	日常の出来事や体験したことについて	9.9%	21.3%	25.7%	16.7%	9.6%	0.8%	10.1%	24.6%	28.5%	11.6%	6.7%	2.3%
	健康面や体調について	7.5%	15.1%	17.7%	11.3%	6.9%	0.5%	7.1%	17.5%	20.4%	7.6%	4.7%	1.5%
その他	0.2%	0.6%	0.4%	0.2%	0.2%	0.0%	0.3%	0.6%	0.4%	0.1%	0.1%	0.1%	

表 II-38 「自分の子とのコミュニケーション」×「最近の子どもの印象」⑥

	最近の子どもの印象												
	社会のルールやマナーを守っている						食事や睡眠など生活が規則正しい						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
自分の子とのコミュニケーション	学校での交友関係について	24.7%	30.2%	14.2%	6.2%	2.5%	0.5%	13.6%	18.5%	19.1%	15.0%	11.7%	0.4%
	学校で勉強している内容やテストの点数について	10.7%	14.3%	6.0%	2.8%	1.1%	0.3%	6.4%	8.6%	8.6%	6.6%	5.0%	0.2%
	課題の克服や期待することについて	5.8%	6.4%	3.4%	1.5%	0.6%	0.1%	3.2%	4.4%	4.1%	3.0%	2.9%	0.0%
	長所や得意なことについて	12.1%	13.9%	6.5%	2.8%	1.1%	0.2%	6.7%	8.7%	8.5%	7.0%	5.4%	0.2%
	家庭での役割分担について	8.6%	9.3%	5.0%	2.5%	1.3%	0.2%	4.7%	6.5%	6.4%	5.0%	4.2%	0.2%
	社会に必要なルールやマナーの理解について	16.2%	20.2%	10.6%	5.6%	2.2%	0.4%	8.9%	12.4%	13.0%	11.4%	9.2%	0.3%
	進路や将来のことについて	16.2%	17.4%	8.0%	4.4%	1.6%	0.3%	7.6%	11.0%	10.8%	9.6%	8.7%	0.2%
	スポーツや趣味について	14.9%	19.3%	7.9%	4.0%	1.3%	0.2%	9.3%	11.4%	11.2%	8.6%	6.9%	0.3%
	日常の出来事や体験したことについて	25.8%	32.5%	15.4%	6.9%	2.8%	0.4%	15.2%	19.4%	19.7%	16.3%	12.7%	0.4%
	健康面や体調について	18.3%	22.2%	10.8%	5.1%	1.9%	0.3%	10.2%	13.7%	14.3%	11.4%	8.6%	0.4%
その他	0.5%	0.7%	0.3%	0.1%	0.0%	0.1%	0.5%	0.3%	0.3%	0.3%	0.2%	0.0%	

※最近の子どもの印象

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
 4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

表 II-39 「自分の子とのコミュニケーション」×「最近の子どもの印象」⑦

	最近の子どもの印象												
	自分のこと以外に関心がもてない						人間関係を築くのが苦手である						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
自分の子とのコミュニケーション	学校での交友関係について	2.9%	10.6%	19.2%	17.0%	27.5%	1.0%	6.1%	14.8%	18.3%	14.3%	24.0%	0.7%
	学校で勉強している内容やテストの点数について	1.5%	4.5%	9.2%	7.3%	12.1%	0.6%	2.9%	7.0%	8.1%	6.7%	10.3%	0.3%
	課題の克服や期待することについて	0.9%	2.4%	4.2%	3.8%	6.2%	0.1%	1.6%	3.1%	4.3%	3.2%	5.3%	0.0%
	長所や得意なことについて	1.4%	5.0%	8.2%	7.4%	14.1%	0.4%	3.1%	6.4%	9.0%	6.4%	11.1%	0.3%
	家庭での役割分担について	1.0%	4.1%	6.9%	5.5%	9.2%	0.2%	2.6%	5.3%	6.1%	4.7%	8.0%	0.1%
	社会に必要なルールやマナーの理解について	2.2%	8.5%	14.0%	11.2%	18.8%	0.6%	4.8%	11.4%	13.9%	9.3%	15.3%	0.4%
	進路や将来のことについて	1.7%	7.1%	12.3%	9.7%	16.4%	0.5%	3.6%	9.7%	11.5%	8.5%	14.1%	0.4%
	スポーツや趣味について	1.7%	6.0%	11.5%	10.3%	17.6%	0.5%	3.4%	8.4%	11.4%	9.0%	15.0%	0.4%
	日常の出来事や体験したことについて	3.0%	11.5%	20.8%	17.6%	29.7%	1.2%	6.7%	15.7%	20.5%	15.0%	24.8%	0.8%
	健康面や体調について	1.8%	8.6%	14.7%	11.8%	21.0%	0.8%	4.3%	11.8%	14.6%	10.6%	16.8%	0.6%
	その他	0.0%	0.3%	0.4%	0.3%	0.7%	0.0%	0.2%	0.3%	0.2%	0.3%	0.6%	0.1%

表 II-40 「自分の子とのコミュニケーション」×「最近の子どもの印象」⑧

	最近の子どもの印象						
	学習する態度が身についている						
	1	2	3	4	5	6	
自分の子とのコミュニケーション	学校での交友関係について	9.6%	21.8%	25.0%	10.8%	10.4%	0.8%
	学校で勉強している内容やテストの点数について	4.7%	10.7%	10.9%	4.6%	3.9%	0.5%
	課題の克服や期待することについて	2.4%	5.0%	5.8%	2.4%	1.8%	0.2%
	長所や得意なことについて	4.7%	10.4%	11.9%	5.0%	4.1%	0.4%
	家庭での役割分担について	3.5%	7.2%	8.6%	4.2%	3.4%	0.2%
	社会に必要なルールやマナーの理解について	6.1%	14.0%	18.1%	8.8%	7.7%	0.6%
	進路や将来のことについて	7.1%	12.8%	14.7%	7.0%	6.0%	0.4%
	スポーツや趣味について	5.7%	13.2%	15.6%	6.7%	6.0%	0.4%
	日常の出来事や体験したことについて	10.5%	23.2%	26.5%	12.4%	10.5%	0.8%
	健康面や体調について	7.5%	16.2%	19.1%	8.7%	6.7%	0.5%
	その他	0.2%	0.5%	0.5%	0.3%	0.1%	0.1%

※最近の子どもの印象

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
 4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

II-2-4 「家庭でのしつけや教育に関わること」×「最近の子どもの印象」

保護者に聞いた『家庭でのしつけや教育に関わること』と『最近の子どもの印象』の両回答の関係をみると、「『社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる』×「明るく元気である（そう思う）」が 33.8%、「『社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる』×「社会のルールやマナーを守っている（どちらかというと思う）」が 32.4%、「『社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる』×「やさしさや思いやりがある（どちらかというと思う）」が 32.2%であった。（表II-41～48 参照）

表 II-41 「家庭でのしつけや教育に関わること」×「最近の子どもの印象」①

	最近の子どもの印象												
	明るく元気である						自分らしさをもっている						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
家庭でのしつけや教育に関わること	早寝早起きなど規則正しい生活習慣を身につけさせる	25.4%	22.6%	8.6%	2.8%	1.2%	0.2%	19.8%	21.5%	12.7%	4.2%	2.3%	0.3%
	片付けなど自分のことは自分でできるようにさせる	31.1%	27.1%	11.0%	3.3%	1.4%	0.2%	24.6%	25.7%	15.1%	5.5%	2.9%	0.5%
	社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる	33.8%	32.0%	12.7%	4.1%	1.6%	0.2%	26.9%	29.5%	18.2%	6.2%	3.0%	0.4%
	テレビやゲームの時間などのルールを決める	12.4%	10.7%	4.1%	1.8%	0.8%	0.1%	9.2%	10.1%	6.6%	2.5%	1.4%	0.2%
	年上の人をうやまい、年下の人に優しくするようにさせる	20.0%	16.5%	6.1%	2.2%	0.9%	0.2%	15.7%	15.9%	9.2%	3.0%	1.8%	0.2%
	物を大切に扱い、無駄づかいをさせない	23.3%	19.9%	8.1%	2.8%	1.2%	0.2%	18.8%	18.8%	11.1%	4.2%	2.5%	0.2%
	家庭学習の習慣をつけさせる	14.4%	11.9%	4.4%	1.8%	0.7%	0.1%	11.4%	11.3%	6.6%	2.6%	1.3%	0.2%
	子どもと一緒に食事をする	25.5%	22.2%	8.8%	2.8%	1.2%	0.2%	21.0%	20.3%	12.5%	4.2%	2.4%	0.3%
	勉強のことだけでなく会話をする	27.1%	23.8%	9.6%	2.8%	1.2%	0.2%	21.9%	22.6%	12.9%	4.5%	2.3%	0.3%
	子どものよいところをきちんとほめる	26.6%	21.2%	8.1%	2.2%	1.0%	0.2%	22.1%	20.1%	10.8%	4.0%	2.0%	0.2%
	家の手伝いをさせる	23.4%	20.2%	7.8%	2.5%	1.1%	0.1%	19.0%	18.7%	11.4%	3.8%	1.8%	0.3%

表 II-42 「家庭でのしつけや教育に関わること」×「最近の子どもの印象」②

	最近の子どもの印象												
	やさしさや思いやりがある						何事にも前向きに取り組む						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
家庭でのしつけや教育に関わること	早寝早起きなど規則正しい生活習慣を身につけさせる	21.5%	23.0%	11.5%	3.0%	1.3%	0.3%	9.0%	18.6%	21.1%	7.9%	3.6%	0.3%
	片付けなど自分のことは自分でできるようにさせる	26.0%	27.8%	14.3%	3.7%	1.7%	0.4%	10.5%	22.6%	26.3%	9.5%	4.4%	0.5%
	社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる	29.1%	32.2%	16.1%	4.5%	1.9%	0.4%	11.8%	25.4%	30.1%	11.2%	5.0%	0.4%
	テレビやゲームの時間などのルールを決める	10.5%	10.8%	6.1%	1.5%	0.8%	0.1%	3.9%	8.9%	10.5%	4.2%	2.2%	0.2%
	年上の人をうやまい、年下の人に優しくするようにさせる	17.7%	16.4%	8.0%	2.5%	1.1%	0.2%	7.3%	14.1%	15.7%	5.8%	2.6%	0.2%
	物を大切に扱い、無駄づかいをさせない	20.1%	20.1%	10.4%	3.1%	1.4%	0.2%	8.6%	16.6%	19.4%	6.8%	3.6%	0.2%
	家庭学習の習慣をつけさせる	11.9%	12.6%	6.4%	1.7%	0.6%	0.2%	5.5%	10.7%	10.8%	4.1%	2.0%	0.2%
	子どもと一緒に食事をする	22.3%	22.5%	11.3%	2.8%	1.3%	0.3%	9.0%	18.9%	21.2%	7.5%	3.4%	0.4%
	勉強のことだけでなく会話をする	23.8%	23.7%	12.4%	3.1%	1.3%	0.2%	9.5%	20.2%	22.9%	7.8%	3.6%	0.3%
	子どものよいところをきちんとほめる	23.7%	21.2%	10.4%	2.5%	1.1%	0.3%	9.8%	19.3%	20.3%	6.3%	2.9%	0.4%
	家の手伝いをさせる	20.5%	19.7%	10.0%	2.9%	1.3%	0.3%	8.6%	16.3%	19.1%	7.2%	3.2%	0.3%

※最近の子どもの印象

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

表 II-43 「家庭でのしつけや教育に関わること」×「最近の子どもの印象」③

	最近の子どもの印象												
	自分の感情をうまくコントロールできない						ねばり強さがある						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
家庭でのしつけや教育に関わること	早寝早起きなど規則正しい生活習慣を身につけさせる	5.2%	13.0%	16.6%	10.2%	14.9%	0.5%	6.6%	13.1%	18.7%	13.2%	8.3%	0.5%
	片付けなど自分のことは自分でできるようにさせる	5.6%	16.4%	20.1%	12.8%	18.2%	0.5%	7.8%	15.7%	22.7%	16.5%	10.3%	0.6%
	社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる	6.7%	18.3%	22.5%	15.1%	20.6%	0.5%	8.6%	18.2%	26.6%	18.1%	11.8%	0.5%
	テレビやゲームの時間などのルールを決める	2.8%	7.6%	7.7%	5.0%	6.4%	0.2%	2.7%	6.0%	9.4%	7.2%	4.2%	0.2%
	年上の人をうやまい、年下の人に優しくするようにさせる	3.6%	9.9%	12.5%	7.9%	11.5%	0.3%	4.8%	10.5%	13.8%	9.7%	6.5%	0.3%
	物を大切に扱い、無駄づかいをさせない	4.8%	11.9%	15.0%	8.9%	14.2%	0.3%	6.4%	12.0%	17.4%	11.5%	7.6%	0.3%
	家庭学習の習慣をつけさせる	2.6%	7.6%	8.7%	5.9%	8.3%	0.2%	3.5%	7.9%	10.2%	7.2%	4.2%	0.2%
	子どもと一緒に食事をする	4.7%	13.0%	16.1%	10.9%	15.2%	0.4%	6.4%	13.1%	18.9%	13.3%	8.4%	0.4%
	勉強のことでなく会話をする	4.7%	13.9%	17.3%	11.5%	16.4%	0.4%	6.9%	14.6%	19.9%	14.2%	8.2%	0.5%
	子どものよいところをきちんとほめる	4.2%	12.6%	15.4%	10.7%	15.7%	0.3%	7.3%	14.1%	18.3%	12.2%	6.9%	0.4%
	家の手伝いをさせる	4.4%	11.8%	14.6%	9.7%	13.8%	0.4%	5.7%	11.9%	17.4%	11.7%	7.6%	0.3%

表 II-44 「家庭でのしつけや教育に関わること」×「最近の子どもの印象」④

	最近の子どもの印象												
	自分の気持ちを相手にうまく伝えられる						体力の低下が目立つ						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
家庭でのしつけや教育に関わること	早寝早起きなど規則正しい生活習慣を身につけさせる	3.7%	13.0%	19.8%	15.0%	8.3%	0.4%	7.6%	12.3%	11.4%	7.4%	21.4%	0.6%
	片付けなど自分のことは自分でできるようにさせる	4.4%	15.9%	23.9%	18.8%	10.0%	0.6%	8.8%	14.9%	14.7%	9.1%	26.0%	0.6%
	社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる	5.4%	18.2%	26.9%	21.0%	11.4%	0.6%	9.5%	17.8%	17.2%	10.6%	28.6%	0.6%
	テレビやゲームの時間などのルールを決める	1.8%	6.4%	9.3%	7.4%	4.5%	0.2%	4.2%	6.7%	5.8%	3.3%	9.6%	0.2%
	年上の人をうやまい、年下の人に優しくするようにさせる	3.5%	11.1%	14.0%	10.9%	5.8%	0.2%	5.4%	10.3%	8.1%	5.5%	16.2%	0.4%
	物を大切に扱い、無駄づかいをさせない	3.7%	12.6%	17.4%	13.5%	7.6%	0.3%	6.7%	11.7%	10.6%	6.1%	20.1%	0.4%
	家庭学習の習慣をつけさせる	2.3%	8.2%	9.8%	8.1%	4.6%	0.2%	4.2%	6.6%	6.3%	3.9%	11.9%	0.4%
	子どもと一緒に食事をする	3.7%	13.2%	19.6%	15.1%	8.0%	0.5%	7.8%	12.7%	11.5%	7.6%	20.5%	0.5%
	勉強のことでなく会話をする	4.4%	14.8%	20.5%	15.7%	8.3%	0.4%	7.5%	13.7%	12.4%	7.8%	22.7%	0.4%
	子どものよいところをきちんとほめる	4.4%	13.9%	18.6%	14.6%	7.0%	0.3%	6.9%	12.2%	10.9%	7.4%	21.4%	0.4%
	家の手伝いをさせる	3.6%	12.0%	17.6%	13.9%	7.0%	0.4%	6.5%	11.4%	10.2%	7.1%	19.4%	0.4%

表 II-45 「家庭でのしつけや教育に関わること」×「最近の子どもの印象」⑤

	最近の子どもの印象												
	自分一人で選択や判断をする力がある						社会に役立つととる心や公共心がある						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
家庭でのしつけや教育に関わること	早寝早起きなど規則正しい生活習慣を身につけさせる	6.9%	14.2%	18.7%	12.3%	7.7%	0.6%	7.2%	17.8%	20.2%	8.2%	5.2%	1.6%
	片付けなど自分のことは自分でできるようにさせる	8.5%	18.5%	23.0%	14.2%	8.9%	0.6%	8.6%	21.0%	25.1%	10.3%	6.4%	2.1%
	社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる	9.5%	21.2%	26.1%	16.4%	10.0%	0.6%	9.7%	24.3%	28.8%	11.7%	6.9%	2.3%
	テレビやゲームの時間などのルールを決める	3.0%	6.9%	9.6%	6.0%	3.9%	0.3%	3.3%	8.5%	9.8%	4.7%	2.5%	0.9%
	年上の人をうやまい、年下の人に優しくするようにさせる	6.1%	11.3%	14.4%	8.6%	5.0%	0.4%	6.2%	14.5%	14.7%	5.7%	3.5%	1.2%
	物を大切に扱い、無駄づかいをさせない	6.8%	14.2%	16.9%	10.4%	6.6%	0.4%	6.8%	16.8%	18.0%	7.5%	4.5%	1.6%
	家庭学習の習慣をつけさせる	4.0%	8.1%	10.5%	6.5%	3.6%	0.3%	4.2%	10.2%	10.4%	4.7%	2.5%	1.1%
	子どもと一緒に食事をする	6.9%	15.3%	19.0%	11.6%	7.0%	0.6%	7.3%	18.2%	20.4%	8.1%	4.7%	1.6%
	勉強のことでなく会話をする	7.9%	16.8%	19.7%	12.1%	7.3%	0.5%	8.1%	19.1%	21.4%	8.7%	5.1%	1.6%
	子どものよいところをきちんとほめる	7.8%	15.4%	18.5%	10.8%	5.9%	0.6%	8.2%	18.0%	19.1%	7.4%	4.5%	1.7%
	家の手伝いをさせる	6.7%	13.7%	17.0%	10.6%	6.4%	0.5%	7.2%	16.5%	17.6%	7.2%	4.8%	1.3%

※最近の子どもの印象

1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

表 II-46 「家庭でのしつけや教育に関わること」×「最近の子どもの印象」⑥

	最近の子どもの印象												
	社会のルールやマナーを守っている						食事や睡眠など生活が規則正しい						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
家庭でのしつけや教育に関わること	早寝早起きなど規則正しい生活習慣を身につけさせる	18.7%	23.2%	10.8%	5.2%	2.1%	0.4%	13.8%	15.9%	12.9%	9.4%	7.7%	0.4%
	片付けなど自分のことは自分でできるようにさせる	22.2%	28.5%	13.5%	6.1%	2.7%	0.5%	13.3%	17.2%	17.5%	14.0%	11.0%	0.4%
	社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる	25.2%	32.4%	15.4%	6.9%	3.1%	0.5%	14.0%	19.6%	20.3%	15.9%	13.2%	0.4%
	テレビやゲームの時間などのルールを決める	8.9%	11.5%	5.3%	2.7%	0.9%	0.2%	6.2%	7.4%	6.8%	4.9%	4.1%	0.2%
	年上の人をうやまい、年下の人に優しくするようにさせる	14.6%	17.3%	7.9%	3.8%	1.8%	0.3%	8.4%	10.9%	11.0%	8.1%	6.9%	0.3%
	物を大切に扱い、無駄づかいをさせない	17.1%	21.1%	9.6%	4.7%	2.2%	0.4%	9.5%	13.1%	13.4%	10.6%	8.1%	0.3%
	家庭学習の習慣をつけさせる	10.9%	12.6%	5.6%	2.5%	1.2%	0.2%	7.1%	8.7%	7.6%	5.3%	4.2%	0.2%
	子どもと一緒に食事をする	19.3%	23.2%	10.4%	5.0%	2.0%	0.4%	11.6%	14.8%	13.5%	11.1%	8.8%	0.3%
	勉強のことでなく会話をする	21.0%	24.1%	11.1%	5.5%	2.1%	0.3%	11.1%	14.6%	15.2%	12.6%	10.1%	0.3%
	子どものよいところをきちんとほめる	20.0%	22.2%	9.7%	4.7%	1.9%	0.4%	11.2%	14.1%	14.0%	10.6%	8.5%	0.2%
家の手伝いをさせる	17.2%	20.4%	10.0%	4.5%	2.2%	0.3%	10.6%	12.9%	13.0%	9.6%	8.1%	0.4%	

表 II-47 「家庭でのしつけや教育に関わること」×「最近の子どもの印象」⑦

	最近の子どもの印象												
	自分のこと以外に関心がもてない						人間関係を築くのが苦手である						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
家庭でのしつけや教育に関わること	早寝早起きなど規則正しい生活習慣を身につけさせる	2.3%	8.4%	15.1%	12.6%	20.8%	0.9%	5.4%	11.7%	13.9%	10.8%	17.8%	0.5%
	片付けなど自分のことは自分でできるようにさせる	2.8%	10.1%	18.2%	15.6%	25.9%	0.9%	6.3%	14.2%	17.3%	13.4%	21.4%	0.7%
	社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる	3.2%	11.9%	20.9%	17.7%	29.0%	0.9%	7.1%	16.1%	20.2%	15.0%	24.4%	0.7%
	テレビやゲームの時間などのルールを決める	1.1%	4.7%	7.5%	6.1%	9.9%	0.4%	2.8%	5.6%	7.4%	5.2%	8.4%	0.2%
	年上の人をうやまい、年下の人に優しくするようにさせる	1.7%	6.1%	10.8%	9.2%	17.2%	0.5%	3.9%	8.4%	10.7%	8.0%	14.3%	0.2%
	物を大切に扱い、無駄づかいをさせない	2.0%	7.7%	13.9%	11.0%	20.0%	0.4%	4.7%	11.4%	13.2%	9.2%	16.2%	0.4%
	家庭学習の習慣をつけさせる	1.3%	4.4%	7.7%	7.4%	11.7%	0.5%	2.5%	6.0%	8.0%	6.3%	9.9%	0.3%
	子どもと一緒に食事をする	2.3%	8.7%	14.2%	12.6%	21.6%	0.8%	5.1%	11.5%	14.6%	10.4%	18.1%	0.5%
	勉強のことでなく会話をする	2.4%	8.9%	15.6%	13.2%	23.2%	0.7%	5.3%	12.5%	15.1%	11.2%	19.4%	0.4%
	子どものよいところをきちんとほめる	2.2%	7.6%	13.5%	12.4%	22.5%	0.6%	4.3%	10.7%	14.0%	10.4%	18.7%	0.6%
家の手伝いをさせる	1.9%	7.6%	13.3%	11.1%	20.0%	0.7%	4.5%	10.4%	12.6%	9.8%	16.7%	0.5%	

表 II-48 「家庭でのしつけや教育に関わること」×「最近の子どもの印象」⑧

	最近の子どもの印象						
	学習する態度が身についている						
	1	2	3	4	5	6	
家庭でのしつけや教育に関わること	早寝早起きなど規則正しい生活習慣を身につけさせる	7.4%	17.4%	19.4%	8.0%	7.4%	0.7%
	片付けなど自分のことは自分でできるようにさせる	8.7%	20.7%	23.6%	10.5%	9.2%	0.8%
	社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる	9.7%	22.9%	27.4%	12.0%	11.0%	0.8%
	テレビやゲームの時間などのルールを決める	3.6%	8.9%	9.4%	4.3%	3.2%	0.4%
	年上の人をうやまい、年下の人に優しくするようにさせる	5.4%	13.2%	14.6%	6.4%	5.7%	0.4%
	物を大切に扱い、無駄づかいをさせない	6.8%	15.6%	17.1%	8.3%	6.8%	0.4%
	家庭学習の習慣をつけさせる	5.2%	11.3%	9.0%	4.0%	3.1%	0.4%
	子どもと一緒に食事をする	7.3%	17.3%	19.7%	8.3%	7.2%	0.4%
	勉強のことでなく会話をする	8.0%	18.6%	20.2%	8.8%	8.0%	0.5%
	子どものよいところをきちんとほめる	8.2%	17.3%	17.8%	8.1%	6.7%	0.6%
家の手伝いをさせる	7.0%	14.8%	18.0%	7.8%	6.6%	0.6%	

※最近の子どもの印象

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
 4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

II-2-5 「これからの学校のあり方や役割」×「望ましい教員像」

保護者に聞いた『これからの学校のあり方や役割』と『望ましい教員像』の両回答の関係を見ると、「授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけでなく学校全体でも取り組むようにする（そう思う）」×「子どもをよく理解し、適切に対処・指導してくれる」が37.1%、「地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める（どちらかというとなう思う）」×「子どもをよく理解し、適切に対処・指導してくれる」が33.5%、「授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけでなく学校全体でも取り組むようにする（そう思う）」×「子どものやる気を引き出し、意欲を高めしてくれる」が33.0%であった。（表II-49 参照）

表 II-49 「これからの学校のあり方や役割」×「望ましい教員像」

		望ましい教員像											
		わかりやすい授業をしてくれる	子どもに基本的な生活習慣や態度を身につけさせる	子どもに社会のルールやマナーを身につけさせる	子どもをよく理解し、適切に対処・指導してくれる	子どものやる気を引き出し、意欲を高められる	学級担任として、クラスをまとめることができる	子ども一人ひとりに応じた進路指導をしてくれる	保護者の相談に気軽に答えてくれる	信頼され、尊敬される人格をもっている	時代の変化に対応した指導を実践してくれる	その他	
これからの学校のあり方や役割	各学校が競い合って、これまで以上に特色ある教育活動・学校づくりを進める	1	4.8%	1.0%	1.5%	5.8%	6.0%	1.4%	2.0%	0.6%	4.0%	1.5%	0.1%
		2	10.0%	1.7%	2.9%	14.1%	12.8%	2.6%	3.5%	1.5%	7.7%	2.5%	0.1%
		3	15.1%	2.3%	4.9%	23.3%	21.3%	4.5%	5.0%	2.1%	13.5%	3.9%	0.2%
		4	7.2%	1.2%	1.9%	11.1%	9.7%	2.3%	2.0%	1.0%	6.4%	1.9%	0.1%
		5	9.0%	1.4%	2.3%	12.1%	10.4%	2.3%	2.5%	1.0%	7.1%	2.0%	0.4%
		6	2.1%	0.4%	0.7%	2.5%	2.5%	0.4%	0.6%	0.3%	1.3%	0.4%	0.1%
	学校（校長）にいろいろな決定権を与えて、子どもの実態に応じた学校づくりを進める	1	3.7%	0.8%	1.1%	5.0%	4.8%	1.2%	1.0%	0.6%	3.4%	1.1%	0.1%
		2	11.4%	2.0%	3.5%	17.0%	15.7%	3.4%	4.5%	1.8%	9.9%	3.8%	0.1%
		3	16.7%	2.5%	4.8%	23.0%	20.7%	4.5%	4.8%	2.0%	13.1%	3.4%	0.2%
		4	5.1%	1.0%	1.8%	8.6%	8.0%	1.6%	2.0%	0.9%	5.2%	1.5%	0.1%
		5	7.1%	1.1%	1.8%	9.9%	8.8%	1.8%	2.1%	0.7%	5.6%	1.5%	0.2%
		6	4.2%	0.6%	1.3%	5.3%	4.7%	1.0%	1.2%	0.5%	2.8%	0.8%	0.1%
	指導力の高い教員を増やしていく	1	17.2%	2.1%	3.9%	22.8%	20.9%	5.2%	5.1%	1.8%	14.8%	4.0%	0.3%
		2	19.5%	3.0%	5.6%	28.8%	27.1%	5.1%	6.6%	2.3%	16.8%	5.1%	0.2%
		3	7.9%	1.8%	2.7%	12.0%	10.4%	2.2%	2.4%	1.4%	5.9%	2.2%	0.2%
		4	1.6%	0.4%	0.9%	2.4%	2.1%	0.3%	0.6%	0.4%	1.2%	0.4%	0.1%
		5	0.8%	0.4%	0.5%	1.2%	1.0%	0.2%	0.4%	0.2%	0.5%	0.4%	0.1%
		6	1.3%	0.2%	0.6%	1.6%	1.2%	0.3%	0.4%	0.2%	0.8%	0.2%	0.0%
	授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけでなく学校全体でも取り組むようにする	1	26.3%	3.0%	6.1%	37.1%	33.0%	7.7%	7.7%	3.0%	21.4%	6.5%	0.6%
		2	18.8%	3.7%	6.5%	27.4%	25.6%	5.1%	6.2%	2.7%	16.0%	4.6%	0.2%
		3	2.2%	0.8%	1.0%	2.9%	2.8%	0.5%	0.9%	0.5%	1.9%	0.7%	0.1%
		4	0.2%	0.1%	0.2%	0.4%	0.2%	0.0%	0.2%	0.0%	0.1%	0.2%	0.0%
		5	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%
		6	0.8%	0.3%	0.5%	1.0%	0.9%	0.1%	0.4%	0.2%	0.6%	0.2%	0.0%
地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める	1	9.6%	1.8%	3.1%	13.0%	11.8%	2.9%	3.0%	1.6%	8.0%	2.3%	0.3%	
	2	22.9%	3.7%	6.7%	33.5%	30.5%	6.2%	6.7%	2.5%	19.4%	6.1%	0.3%	
	3	11.0%	1.7%	3.0%	16.5%	14.9%	3.0%	4.2%	1.5%	9.3%	2.8%	0.1%	
	4	1.5%	0.2%	0.4%	1.8%	1.5%	0.5%	0.6%	0.4%	1.0%	0.2%	0.1%	
	5	0.8%	0.2%	0.3%	0.9%	1.1%	0.1%	0.2%	0.1%	0.7%	0.2%	0.1%	
	6	2.6%	0.4%	0.7%	3.1%	2.9%	0.7%	0.7%	0.4%	1.6%	0.6%	0.1%	
NPO（非営利組織）や企業などとの連携・協力を進め、県民の力を生かした学校づくりを進める	1	6.0%	1.2%	2.0%	8.1%	7.5%	2.1%	2.1%	1.0%	5.1%	1.7%	0.2%	
	2	15.1%	2.8%	4.4%	22.3%	20.8%	4.4%	4.9%	1.8%	13.3%	4.2%	0.3%	
	3	15.9%	2.4%	4.8%	23.8%	21.9%	4.2%	5.2%	2.2%	13.3%	4.0%	0.2%	
	4	2.7%	0.4%	0.7%	3.8%	3.0%	0.8%	1.1%	0.5%	2.2%	0.7%	0.1%	
	5	1.6%	0.3%	0.4%	2.1%	2.1%	0.5%	0.4%	0.2%	1.2%	0.3%	0.1%	
	6	7.0%	0.9%	1.8%	8.7%	7.4%	1.5%	1.6%	0.8%	4.7%	1.2%	0.1%	
学校が、子どもの教育だけでなく、地域の人が学べる拠点としての役割ももつようにしていく	1	5.1%	1.1%	1.6%	6.5%	5.9%	1.7%	1.9%	1.0%	3.9%	1.5%	0.4%	
	2	12.6%	2.6%	4.1%	18.2%	16.7%	3.5%	3.9%	1.8%	10.2%	3.4%	0.1%	
	3	16.3%	2.3%	4.6%	24.3%	22.6%	4.4%	5.4%	1.9%	14.0%	3.9%	0.1%	
	4	4.8%	0.6%	1.4%	7.1%	6.5%	1.5%	1.9%	0.7%	4.1%	1.2%	0.1%	
	5	4.5%	0.6%	1.0%	6.1%	5.7%	1.4%	1.1%	0.6%	4.1%	0.9%	0.1%	
	6	4.9%	0.7%	1.5%	6.6%	5.3%	1.0%	1.3%	0.6%	3.6%	1.1%	0.1%	

※これからの学校のあり方や役割

- 1：そう思う、2：どちらかというとなう思う、3：どちらともいえない
4：どちらかというとなう思わない、5：そう思わない、6：わからない

II-2-6 「これからの学校のあり方や役割」×「現在の教員に必要な資質」

保護者に聞いた『これからの学校のあり方や役割』と『現在の教員に必要な資質』の両回答の関係をみると、「『授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけでなく学校全体でも取り組むようにする（そう思う）』×「子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力」が 37.5%、「『地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める（どちらかというと思う）』×「子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力」が 35.2%、「『指導力の高い教員を増やしていく（どちらかというと思う）』×「子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力」が 31.0%であった。（表II-50 参照）

表 II-50 「これからの学校のあり方や役割」×「現在の教員に必要な資質」

		現在の教員に必要な資質						
		同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力	教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力	子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力	学習指導や生徒指導等の教育課題に対応できる力	思考力等を育むために子ども同士が学び合うなどの授業をデザインする実践的指導力	よりよい授業をめざして授業研究を行う探究力	
これからの学校のあり方や役割	各学校が競い合って、これまで以上に特色ある教育活動・学校づくりを進める	1	1.8%	1.5%	6.9%	2.8%	2.8%	2.8%
		2	3.2%	3.2%	14.7%	5.1%	7.4%	4.1%
		3	5.9%	4.4%	25.1%	9.3%	8.9%	6.0%
		4	2.8%	1.9%	11.2%	4.0%	4.9%	3.3%
		5	3.3%	2.6%	12.2%	4.5%	5.4%	3.5%
		6	0.6%	0.8%	2.8%	1.2%	0.8%	0.6%
	学校（校長）にいろいろな決定権を与えて、子どもの実態に応じた学校づくりを進める	1	1.6%	1.1%	5.4%	2.1%	2.3%	2.0%
		2	5.3%	3.4%	17.9%	6.4%	8.5%	5.3%
		3	5.6%	4.7%	24.8%	8.8%	9.4%	6.4%
		4	1.8%	1.8%	9.0%	3.4%	3.9%	2.3%
		5	1.9%	2.2%	10.0%	3.9%	4.5%	2.8%
		6	1.3%	1.3%	5.6%	2.2%	1.5%	1.4%
	指導力の高い教員を増やしていく	1	5.3%	5.0%	23.8%	9.9%	10.4%	8.5%
		2	7.4%	5.5%	31.0%	10.6%	12.9%	7.9%
		3	3.3%	2.6%	12.3%	4.6%	4.7%	2.5%
		4	0.7%	0.5%	2.8%	0.8%	1.0%	0.7%
		5	0.4%	0.4%	1.4%	0.4%	0.5%	0.3%
		6	0.5%	0.3%	1.6%	0.6%	0.5%	0.4%
	授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけでなく学校全体でも取り組むようにする	1	9.9%	6.9%	37.5%	13.6%	16.9%	12.3%
		2	6.8%	6.0%	30.0%	11.4%	11.7%	6.6%
		3	0.7%	1.0%	3.5%	1.3%	1.0%	0.9%
		4	0.1%	0.1%	0.4%	0.1%	0.2%	0.1%
		5	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%
		6	0.2%	0.3%	1.2%	0.4%	0.3%	0.2%
	地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める	1	4.6%	2.7%	13.8%	4.5%	6.1%	4.6%
		2	9.1%	6.8%	35.2%	12.3%	15.3%	9.2%
		3	2.9%	3.4%	17.7%	6.9%	6.3%	4.7%
		4	0.3%	0.4%	1.8%	0.9%	0.9%	0.6%
		5	0.2%	0.2%	1.0%	0.6%	0.5%	0.4%
		6	0.5%	0.8%	3.2%	1.6%	1.0%	0.9%
NPO（非営利組織）や企業などとの連携・協力を進め、県民の力を生かした学校づくりを進める	1	2.9%	1.7%	8.6%	2.8%	4.8%	2.8%	
	2	6.4%	4.6%	23.6%	7.9%	11.2%	6.6%	
	3	5.1%	4.6%	25.6%	9.6%	9.2%	7.0%	
	4	1.0%	0.9%	3.8%	1.5%	1.7%	1.0%	
	5	0.6%	0.6%	2.1%	0.9%	0.9%	0.8%	
	6	1.6%	2.0%	8.9%	4.0%	2.5%	2.1%	
学校が、子どもの教育だけでなく、地域の人々が学べる拠点としての役割ももつようにしていく	1	2.6%	1.7%	6.9%	2.3%	3.9%	2.3%	
	2	5.2%	4.1%	19.7%	6.4%	8.7%	5.0%	
	3	5.1%	4.5%	26.4%	9.4%	10.5%	6.7%	
	4	1.9%	1.6%	7.2%	3.0%	2.8%	2.3%	
	5	1.5%	1.2%	5.8%	2.8%	2.3%	2.5%	
	6	1.3%	1.4%	6.6%	2.9%	2.0%	1.5%	

※これからの学校のあり方や役割

- 1：そう思う
- 2：どちらかというと思う
- 3：どちらともいえない
- 4：どちらかというと思わない
- 5：そう思わない
- 6：わからない

II-2-7 「支援を必要とする子どもへの対応」×「かながわの学習の重点」

保護者に聞いた『支援を必要とする子どもへの対応』と『かながわの学習の重点』の両回答の関係をみると、「『就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる』×「どちらかという自分で調べたり、意見を発表することなどにより、自ら考える力や表現する力を身につける」が 27.8%、「『就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる』×「どちらかという多くの子どもが理解できるよう、基礎・基本の学習を行う」が 27.6%、「『就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる』×「どちらかという子どもたちが集団の中で互いに学び合う」が 23.8%であった。(表II-51 参照)

表 II-51 「支援を必要とする子どもへの対応」×「かながわの学習の重点」

	かながわの学習の重点												
	A：暗記や反復学習などにより、多くの知識や技能を身につける B：自分で調べたり、意見を発表することなどにより、自ら考える力や表現する力を身につける				A：多くの子どもが理解できるよう、基礎・基本の学習を行う B：能力の高い子どもがより伸びるよう、発展的な学習を行う				A：子どもたちが集団の中で互いに学び合う B：それぞれの子どもの進度に応じて個別に学ぶ				
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	
支援を必要とする子どもへの対応	就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる	4.6%	10.7%	27.8%	15.4%	20.2%	27.6%	8.1%	2.6%	18.5%	23.8%	11.9%	4.2%
	地域の学校にある“通常の学級”で学ばせる	0.9%	1.3%	2.8%	2.2%	2.5%	3.3%	1.0%	0.4%	2.6%	3.2%	0.9%	0.6%
	地域の学校にある“特別支援学級”で学ばせる	1.5%	2.5%	5.4%	3.1%	4.0%	5.4%	2.3%	0.8%	4.0%	4.4%	2.6%	1.4%
	普段は地域の学校にある“通常の学級”で学ばせ、必要に応じて“特別支援学級や通級指導教室”で学ばせる	2.9%	8.3%	22.5%	11.4%	15.7%	21.9%	6.1%	1.5%	14.2%	18.8%	9.1%	3.1%
	県立高等学校内に設置されている“特別支援学校の分教室”で学ばせる	0.4%	1.0%	1.3%	0.9%	1.3%	1.5%	0.5%	0.3%	1.2%	1.3%	0.7%	0.3%
	“通常の学級”と“特別支援学級や特別支援学校”の子ども同士の交流を充実させる	2.1%	5.7%	15.5%	8.2%	11.3%	14.8%	3.9%	1.6%	10.8%	13.1%	5.5%	2.2%
	小・中・高等学校での子どもへの支援に、特別支援学校がもつ専門的な知識や機能を活用する	1.8%	4.6%	11.6%	6.0%	8.2%	11.0%	3.8%	0.9%	7.4%	9.3%	5.6%	1.5%
	小・中・高等学校と特別支援学校との間で、互いに移行・転学することを推進する	0.9%	2.3%	5.4%	2.7%	3.4%	5.0%	2.1%	0.6%	3.3%	4.4%	2.5%	1.0%
	自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る	2.9%	8.0%	22.5%	11.5%	15.1%	20.8%	7.1%	1.9%	13.5%	18.1%	9.6%	3.9%
その他	0.1%	0.3%	1.0%	0.6%	0.9%	0.8%	0.2%	0.2%	0.8%	0.7%	0.4%	0.2%	

かながわの学習の重点

- 1：A
- 2：どちらかというA
- 3：どちらかというB
- 4：B

II - 3 学校評議員

II-3-1 「どのような大人になってほしいか」×「望ましい教員像」

学校評議員に聞いた『どのような大人になってほしいか』と『望ましい教員像』の両回答の関係をみると、「人を思いやる心をもっている」×「子どもをよく理解し、適切に対処・指導している」が 43.3%、「人を思いやる心をもっている」×「子どものやる気を引き出し、意欲を高めている」が 42.1%、「困難を乗り越えることができる」×「子どもをよく理解し、適切に対処・指導している」が 34.6%であった。(表 II-52 参照)

表 II-52 「どのような大人になってほしいか」×「望ましい教員像」

	望ましい教員像										
	わかりやすい授業をしている	子どもに基本的な生活習慣や態度を身につけさせている	子どもに社会のルールやマナーを身につけさせている	子どもをよく理解し、適切に対処・指導している	子どものやる気を引き出し、意欲を高めている	学級担任として、クラスをまとめている	子ども一人ひとりに応じた進路指導をしている	保護者の相談に気軽に応じている	信頼され、尊敬される人格をもっている	時代の変化に対応した指導を実践している	その他
個性豊かである	3.9%	2.8%	2.1%	7.7%	7.9%	0.6%	1.7%	0.6%	3.7%	3.2%	0.0%
向上心をもって自己を高めている	23.4%	4.1%	7.7%	27.0%	27.9%	3.7%	3.0%	2.1%	18.7%	7.9%	0.7%
創造性や独創性に富む	7.5%	2.8%	3.0%	9.9%	10.7%	0.7%	1.7%	0.9%	6.9%	3.7%	0.0%
困難を乗り越えることができる	27.2%	7.1%	9.2%	34.6%	31.1%	4.3%	3.2%	2.1%	23.4%	10.3%	0.6%
健康なからだや体力を備えている	21.5%	6.9%	8.4%	28.8%	26.8%	3.4%	2.4%	2.8%	20.0%	9.4%	0.9%
社会のルールやマナーを守る	25.8%	8.1%	13.1%	32.4%	30.9%	4.9%	4.3%	3.6%	23.4%	10.7%	0.9%
専門的な知識や技能が身についている	3.4%	1.5%	1.9%	5.1%	3.4%	0.9%	0.9%	0.6%	2.8%	2.8%	0.0%
正義感や責任感がある	12.7%	4.5%	5.6%	19.1%	17.6%	3.0%	2.8%	1.3%	15.9%	3.6%	0.4%
よりよい人間関係が築ける	16.9%	3.4%	5.2%	22.1%	20.0%	2.4%	2.4%	2.2%	15.2%	6.9%	0.7%
人を思いやる心をもっている	30.3%	9.6%	13.7%	43.3%	42.1%	5.6%	5.6%	3.4%	32.8%	12.7%	1.1%
リーダーシップをとれる	3.4%	1.3%	1.5%	4.1%	4.9%	1.5%	1.5%	0.7%	4.1%	2.2%	0.4%
国際社会で活躍できる	5.4%	2.2%	2.4%	10.5%	9.9%	1.5%	2.6%	0.9%	8.6%	4.5%	0.4%
社会や公共の福祉に貢献する	7.9%	2.8%	3.9%	11.2%	11.0%	2.1%	1.5%	1.1%	8.6%	5.1%	0.0%
その他	0.0%	0.0%	0.2%	1.1%	0.9%	0.2%	0.4%	0.2%	0.7%	0.4%	0.4%
わからない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

II-3-2 「どのような大人になってほしいか」×「これからの学校のあり方と役割」

学校評議員に聞いた『どのような大人になってほしいか』と『これからの学校のあり方と役割』の両回答の関係をみると、《「人を思いやる心をもっている」×「授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけでなく学校全体でも取り組むようにする（そう思う）」が41.4%、《「社会のルールやマナーを守る」×「授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけでなく学校全体でも取り組むようにする（そう思う）」が33.3%、《「困難を乗り越えることができる」×「授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけでなく学校全体でも取り組むようにする（そう思う）」が33.0%であった。（表II-53～56 参照）

表 II-53 「どのような大人になってほしいか」×「これからの学校のあり方と役割」①

	これからの学校のあり方と役割											
	各学校が競い合って、これまで以上に特色ある教育活動・学校づくりを進める						学校（校長）にいろいろな決定権を与えて、子どもの実態に応じた学校づくりを進める					
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
個性豊かである	1.5%	1.9%	2.8%	3.0%	1.5%	0.2%	1.5%	4.5%	2.1%	1.3%	1.1%	0.4%
向上心をもって自己を高めている	5.8%	9.4%	10.9%	7.7%	8.1%	0.4%	7.7%	16.7%	10.5%	3.2%	3.0%	1.1%
創造性や独創性に富む	3.0%	4.9%	3.0%	1.7%	3.6%	0.0%	3.4%	6.2%	4.5%	0.6%	1.3%	0.2%
困難を乗り越えることができる	4.5%	10.1%	14.6%	8.6%	12.4%	0.2%	10.5%	18.9%	12.5%	3.9%	3.9%	0.9%
健康なからだや体力を備えている	3.9%	11.2%	10.7%	6.9%	9.6%	0.7%	9.4%	16.3%	9.0%	3.9%	3.0%	1.9%
社会のルールやマナーを守る	3.7%	14.0%	15.0%	9.4%	9.4%	0.6%	9.0%	21.5%	12.5%	4.1%	3.7%	1.5%
専門的な知識や技能が身についている	1.5%	1.1%	1.9%	0.9%	1.9%	0.2%	1.5%	3.0%	2.2%	0.6%	0.0%	0.2%
正義感や責任感がある	1.5%	6.9%	8.4%	5.4%	6.6%	0.0%	4.9%	12.0%	6.4%	1.9%	3.2%	0.6%
よりよい人間関係が築ける	3.7%	7.1%	8.6%	4.7%	8.1%	0.2%	6.9%	12.9%	6.9%	3.2%	2.2%	0.6%
人を思いやる心をもっている	5.8%	15.5%	17.8%	11.6%	14.8%	0.6%	10.9%	24.9%	16.1%	6.4%	6.0%	2.1%
リーダーシップをとれる	0.9%	3.6%	1.7%	1.1%	1.1%	0.0%	2.6%	2.4%	1.7%	0.6%	1.1%	0.0%
国際社会で活躍できる	3.6%	5.2%	2.8%	1.7%	2.8%	0.0%	3.2%	6.7%	4.5%	0.9%	0.9%	0.0%
社会や公共の福祉に貢献する	3.2%	3.4%	4.5%	2.4%	4.7%	0.0%	3.9%	7.9%	3.4%	1.9%	1.3%	0.2%
その他	0.2%	0.6%	0.0%	0.2%	0.4%	0.0%	0.4%	0.4%	0.4%	0.0%	0.2%	0.0%
わからない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※これからの学校のあり方と役割

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

表 II-54 「どのような大人になってほしいか」×「これからの学校のあり方と役割」②

	これからの学校のあり方と役割												
	指導力の高い教員を増やしていく						授業の質の向上や問題行動への対応などには、 教員個人だけでなく学校全体でも取り組むようにする						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
どのような大人になってほしいか	個性豊かである	3.4%	4.3%	2.4%	0.6%	0.2%	0.0%	5.8%	4.7%	0.2%	0.0%	0.2%	0.0%
	向上心をもって自己を高めている	18.5%	16.9%	4.9%	0.7%	0.9%	0.2%	26.0%	14.8%	0.7%	0.4%	0.0%	0.2%
	創造性や独創性に富む	8.4%	5.1%	1.9%	0.4%	0.4%	0.0%	9.6%	6.2%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	困難を乗り越えることができる	22.5%	20.2%	5.6%	0.9%	0.9%	0.6%	33.0%	16.1%	1.1%	0.4%	0.2%	0.0%
	健康なからだや体力を備えている	20.0%	17.6%	4.9%	0.2%	0.2%	0.6%	28.1%	13.9%	0.9%	0.2%	0.2%	0.2%
	社会のルールやマナーを守る	21.0%	22.3%	7.7%	0.6%	0.6%	0.4%	33.3%	17.0%	1.5%	0.2%	0.2%	0.2%
	専門的な知識や技能が身についている	3.2%	2.6%	1.5%	0.2%	0.0%	0.0%	4.9%	2.4%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	正義感や責任感がある	11.4%	12.4%	3.2%	1.1%	0.6%	0.2%	18.5%	9.6%	0.6%	0.2%	0.0%	0.0%
	よりよい人間関係が築ける	15.9%	12.4%	3.2%	0.2%	0.7%	0.4%	22.5%	9.4%	0.6%	0.0%	0.4%	0.0%
	人を思いやる心をもっている	27.3%	28.3%	7.9%	1.5%	0.9%	0.4%	41.4%	21.7%	2.1%	0.6%	0.4%	0.2%
	リーダーシップをとれる	3.9%	3.4%	0.9%	0.2%	0.0%	0.0%	3.7%	4.3%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	国際社会で活躍できる	9.0%	5.1%	1.7%	0.4%	0.2%	0.0%	11.0%	4.3%	0.6%	0.4%	0.0%	0.0%
	社会や公共の福祉に貢献する	8.6%	6.4%	2.6%	0.6%	0.2%	0.2%	12.5%	5.4%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他	0.7%	0.2%	0.2%	0.0%	0.2%	0.0%	0.9%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
わからない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

表 II-55 「どのような大人になってほしいか」×「これからの学校のあり方と役割」③

	これからの学校のあり方と役割												
	地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める						NPO（非営利組織）や企業などとの連携・協力を進め、県民の力を生かした学校づくりを進める						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
どのような大人になってほしいか	個性豊かである	4.1%	5.2%	0.9%	0.0%	0.2%	0.2%	1.3%	4.5%	3.9%	0.2%	0.6%	0.4%
	向上心をもって自己を高めている	15.9%	18.0%	5.8%	1.3%	0.4%	0.7%	6.0%	15.2%	14.6%	3.6%	2.1%	0.7%
	創造性や独創性に富む	4.7%	8.4%	2.4%	0.2%	0.0%	0.2%	3.2%	5.1%	4.9%	2.4%	0.6%	0.0%
	困難を乗り越えることができる	16.7%	23.8%	7.7%	1.3%	0.9%	0.4%	6.0%	16.7%	19.1%	5.2%	2.2%	1.5%
	健康なからだや体力を備えている	16.1%	19.3%	5.8%	1.3%	0.4%	0.6%	6.6%	15.0%	15.0%	3.0%	1.9%	2.1%
	社会のルールやマナーを守る	18.9%	23.4%	7.3%	1.5%	0.7%	0.6%	5.6%	16.1%	20.0%	6.6%	2.6%	1.5%
	専門的な知識や技能が身についている	3.0%	3.4%	0.7%	0.2%	0.2%	0.0%	0.6%	3.2%	2.1%	0.9%	0.4%	0.4%
	正義感や責任感がある	9.0%	13.7%	4.7%	0.6%	0.6%	0.2%	4.1%	8.1%	10.5%	3.6%	1.9%	0.7%
	よりよい人間関係が築ける	13.1%	15.2%	2.8%	0.7%	0.6%	0.4%	4.5%	11.8%	11.4%	2.6%	1.3%	1.1%
	人を思いやる心をもっている	23.6%	28.7%	9.7%	2.6%	0.9%	0.7%	8.2%	22.3%	23.6%	7.3%	3.6%	1.3%
	リーダーシップをとれる	4.1%	3.2%	0.6%	0.2%	0.2%	0.0%	1.1%	2.8%	3.6%	0.6%	0.4%	0.0%
	国際社会で活躍できる	5.8%	7.9%	1.1%	1.1%	0.4%	0.0%	2.4%	6.4%	4.7%	1.9%	0.6%	0.4%
	社会や公共の福祉に貢献する	8.1%	7.7%	2.2%	0.0%	0.6%	0.0%	2.6%	6.2%	6.0%	1.5%	1.3%	0.9%
	その他	0.6%	0.6%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.2%	0.2%	0.4%	0.0%	0.6%	0.0%
わからない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

※これからの学校のあり方と役割

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

表 II-56 「どのような大人になってほしいか」×「これからの学校のあり方と役割」④

		これからの学校のあり方と役割					
		学校が、子どもの教育だけでなく、地域の人が学べる拠点としての役割ももつようしていく					
		1	2	3	4	5	6
どのような大人になってほしいか	個性豊かである	1.1%	4.1%	3.4%	1.3%	0.9%	0.0%
	向上心をもって自己を高めている	4.5%	12.9%	11.4%	8.1%	4.1%	1.1%
	創造性や独創性に富む	2.2%	5.8%	3.2%	2.6%	2.1%	0.2%
	困難を乗り越えることができる	5.2%	16.7%	13.9%	7.5%	5.1%	2.4%
	健康なからだや体力を備えている	4.1%	13.7%	11.8%	7.9%	4.3%	1.7%
	社会のルールやマナーを守る	4.3%	15.5%	16.5%	8.6%	5.6%	1.9%
	専門的な知識や技能が身についている	0.9%	1.9%	2.2%	0.9%	1.5%	0.0%
	正義感や責任感がある	2.4%	9.7%	7.3%	4.3%	3.7%	1.3%
	よりよい人間関係が築ける	3.9%	9.7%	9.2%	5.1%	3.2%	1.7%
	人を思いやる心をもっている	6.7%	18.9%	20.6%	10.5%	7.7%	1.9%
	リーダーシップをとれる	0.7%	2.8%	2.2%	1.3%	1.1%	0.2%
	国際社会で活躍できる	1.7%	5.2%	4.9%	1.9%	2.2%	0.4%
	社会や公共の福祉に貢献する	2.8%	5.8%	5.1%	1.9%	2.1%	0.9%
	その他	0.0%	0.0%	0.2%	0.4%	0.7%	0.0%
	わからない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※これからの学校のあり方と役割

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
 4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

II-3-3 「これからの学校のあり方と役割」×「学校、家庭、地域との連携」

学校評議員に聞いた『これからの学校のあり方と役割』と『学校、家庭、地域との連携』の両回答の関係をみると、「授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけでなく学校全体でも取り組むようにする（そう思う）」×「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」が38.8%、「授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけでなく学校全体でも取り組むようにする（そう思う）」×「保護者が学校の教育活動や地域の行事に積極的に参加する」が30.9%、「地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める（どちらかというそう思う）」×「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」が28.8%であった。（表II-57 参照）

表 II-57 「これからの学校のあり方と役割」×「学校、家庭、地域との連携」

		学校、家庭、地域との連携										
		学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする	学校、家庭、地域の話し合いの場を増やす	学校、家庭、地域が協力して行事などをつくる	保護者が学校の教育活動や地域の行事に積極的に参加する	教員が地域の生涯学習活動に協力する	地域の人が学校施設を気軽に利用できるようにする	家庭や地域の人が特技や能力を生かして学校の授業に協力する	老人ホームや保育所などで体系的な学習の機会をつくる	家庭、地域が学校運営に積極的に関わることで、地域が教育に当てるように強化、再生をめざす	学校・家庭と一体となって、地域が教育に当てるように強化、再生をめざす	その他
各学校が競い合っており、これまで以上に特色ある教育活動・学校づくりを進める	1	5.4%	2.4%	3.7%	4.9%	0.9%	2.1%	3.9%	2.1%	2.4%	2.8%	0.6%
	2	14.6%	5.2%	7.9%	12.5%	3.2%	2.2%	8.4%	1.5%	8.1%	4.5%	0.4%
	3	16.1%	6.9%	7.5%	12.0%	2.4%	2.6%	9.0%	2.6%	4.5%	5.8%	0.7%
	4	10.5%	2.8%	5.6%	8.1%	0.7%	2.2%	6.9%	3.2%	3.6%	3.2%	0.4%
	5	11.8%	4.7%	5.8%	11.6%	2.2%	2.8%	7.3%	1.5%	5.8%	4.7%	0.9%
	6	0.4%	0.0%	0.4%	0.4%	0.0%	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%
学校（校長）にいろいろな決定権を与えて、子どもの実態に応じた学校づくりを進める	1	9.4%	4.3%	5.6%	10.7%	2.2%	1.3%	6.7%	2.6%	5.2%	4.7%	0.7%
	2	24.2%	8.1%	11.4%	17.8%	3.6%	6.7%	14.4%	3.7%	9.7%	7.7%	0.6%
	3	14.0%	6.9%	8.1%	11.0%	1.9%	2.4%	7.7%	2.4%	5.6%	5.2%	0.6%
	4	5.8%	1.5%	2.4%	4.1%	1.3%	0.7%	3.2%	1.3%	1.3%	1.7%	0.6%
	5	4.9%	1.3%	2.6%	4.5%	0.7%	1.1%	2.6%	0.7%	2.1%	1.7%	0.6%
	6	1.1%	0.2%	0.7%	1.5%	0.0%	0.2%	1.1%	0.0%	0.4%	0.4%	0.0%
指導力の高い教員を増やしていく	1	26.0%	9.9%	12.2%	21.3%	4.1%	4.7%	15.5%	5.2%	11.4%	10.1%	1.7%
	2	24.0%	9.2%	13.7%	20.2%	3.4%	5.1%	13.9%	3.7%	9.0%	8.1%	0.9%
	3	7.1%	2.4%	3.9%	6.4%	1.7%	2.1%	4.5%	1.3%	2.8%	2.8%	0.4%
	4	1.3%	0.6%	0.4%	0.7%	0.4%	0.2%	0.7%	0.2%	0.4%	0.4%	0.0%
	5	0.6%	0.0%	0.7%	0.9%	0.0%	0.2%	0.7%	0.2%	0.4%	0.0%	0.0%
	6	0.4%	0.2%	0.0%	0.0%	0.2%	0.4%	0.4%	0.2%	0.4%	0.0%	0.0%
授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけでなく学校全体でも取り組むようにする	1	38.8%	14.6%	18.5%	30.9%	6.6%	7.3%	20.8%	8.8%	16.3%	13.7%	1.7%
	2	18.9%	6.9%	11.2%	17.0%	2.6%	4.9%	13.7%	1.9%	7.1%	6.9%	0.6%
	3	1.1%	0.7%	0.7%	0.7%	0.6%	0.4%	0.9%	0.2%	0.6%	0.7%	0.6%
	4	0.4%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%
	5	0.2%	0.0%	0.4%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
	6	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める	1	19.1%	7.9%	10.7%	17.8%	4.5%	4.3%	13.1%	4.7%	12.5%	9.7%	0.9%
	2	28.8%	10.1%	15.4%	22.7%	3.4%	6.0%	17.8%	3.7%	9.0%	8.6%	0.9%
	3	8.1%	2.8%	3.4%	6.4%	1.3%	1.7%	3.6%	2.1%	1.7%	2.4%	0.4%
	4	2.2%	1.1%	0.6%	1.5%	0.2%	0.2%	0.9%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%
	5	0.6%	0.2%	0.6%	0.7%	0.4%	0.2%	0.2%	0.0%	0.7%	0.0%	0.6%
	6	0.6%	0.0%	0.4%	0.6%	0.0%	0.2%	0.2%	0.2%	0.0%	0.2%	0.0%
NPO（非営利組織）や企業などとの連携・協力を生かした学校づくりを進める	1	6.2%	3.2%	2.6%	6.7%	1.5%	2.6%	4.7%	1.9%	5.2%	3.6%	0.4%
	2	19.5%	7.1%	10.7%	15.5%	3.2%	4.5%	12.2%	3.6%	9.6%	8.1%	0.7%
	3	22.5%	8.6%	11.0%	18.5%	3.6%	4.1%	13.5%	4.1%	6.0%	6.7%	0.9%
	4	6.2%	2.2%	3.6%	5.2%	1.1%	0.6%	3.4%	0.4%	2.1%	1.9%	0.2%
	5	3.0%	0.6%	1.7%	2.4%	0.2%	0.4%	0.9%	0.9%	0.9%	0.7%	0.7%
	6	2.1%	0.6%	1.3%	1.1%	0.2%	0.4%	1.1%	0.0%	0.6%	0.4%	0.0%
学校が、子どもの教育だけでなく、地域の人が学べる拠点としての役割も果たすようにしていく	1	5.1%	2.1%	2.4%	4.7%	2.1%	2.6%	2.1%	1.1%	4.5%	3.2%	0.0%
	2	16.9%	8.1%	9.4%	13.5%	4.1%	4.1%	12.7%	3.2%	7.7%	6.9%	0.6%
	3	18.0%	5.6%	9.2%	14.8%	1.7%	3.6%	9.2%	3.9%	6.0%	5.4%	1.1%
	4	9.9%	3.4%	5.4%	8.6%	0.9%	1.7%	6.2%	1.1%	3.0%	2.4%	0.4%
	5	7.3%	2.6%	3.6%	5.8%	0.7%	0.4%	4.5%	1.1%	2.1%	2.4%	0.9%
	6	2.2%	0.6%	0.9%	2.2%	0.2%	0.2%	1.1%	0.4%	1.1%	0.9%	0.0%

※これからの学校のあり方と役割

- 1：そう思う、2：どちらかというそう思う、3：どちらともいえない
4：どちらかというそう思わない、5：そう思わない、6：わからない

II - 4 一般県民

II-4-1 「地域で活動できること」×「望ましい教員像」

一般県民に聞いた『地域で活動できること』と『望ましい教員像』の両回答の関係をみると、「子どもたちへのあいさつなどの声かけ」×「子どものやる気を引き出し、意欲を高めている」が 39.7%、「子どもたちへのあいさつなどの声かけ」×「子どもをよく理解し、適切に対処・指導している」が 38.6%、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」×「子どものやる気を引き出し、意欲を高めている」が 35.2%であった。(表 II-58～59 参照)

表 II-58 「地域で活動できること」×「望ましい教員像」①

	望ましい教員像						
	わかりやすい授業をしている	子どもに基本的な生活習慣や態度を身につけさせている	子どもに社会のルールやマナーを身につけさせている	子どもをよく理解し、適切に対処・指導している	子どものやる気を引き出し、意欲を高めている	学級担任として、クラスをまとめている	
地域で活動できること	ルールやマナーを守らない子どもへの注意	21.7%	13.2%	24.2%	32.6%	35.2%	4.5%
	子どもたちへのあいさつなどの声かけ	24.7%	13.7%	24.2%	38.6%	39.7%	5.3%
	登下校時などの子どもの安全確保への協力	17.4%	10.5%	16.4%	28.6%	28.5%	4.2%
	体験活動やボランティア活動への協力	8.9%	5.4%	8.6%	14.3%	15.7%	2.1%
	運動会や文化祭などの学校行事への参加・協力	9.7%	5.8%	9.7%	17.0%	17.4%	2.5%
	特技や能力を生かした学校の授業や講演・講座の講師	5.4%	4.3%	5.9%	8.9%	9.9%	0.6%
	授業がわからない子どもなどへの学習支援	6.8%	2.5%	5.0%	8.4%	9.7%	1.4%
	遊びやスポーツ、文化活動などの指導・協力	8.8%	5.4%	8.0%	13.0%	15.1%	1.6%
	学校との情報交換や話し合いなどへの積極的な参加	5.3%	3.6%	5.0%	10.6%	10.9%	1.2%
	その他	0.6%	0.2%	0.5%	0.6%	0.7%	0.0%
	できるものはない	0.7%	0.5%	0.7%	1.2%	1.1%	0.2%

表 II-59 「地域で活動できること」×「望ましい教員像」②

		望ましい教員像					
		子ども一人ひとりに応じた進路指導をしている	保護者の相談に気軽に応じている	信頼され、尊敬される人格をもっている	時代の変化を的確にとらえ、柔軟に対応している	その他	わからない
地域で活動できること	ルールやマナーを守らない子どもへの注意	4.5%	3.0%	28.0%	13.1%	1.3%	0.2%
	子どもたちへのあいさつなどの声かけ	5.3%	3.7%	31.5%	14.1%	1.0%	0.2%
	登下校時などの子どもの安全確保への協力	4.2%	3.2%	20.7%	10.1%	0.5%	0.2%
	体験活動やボランティア活動への協力	2.1%	1.5%	10.5%	5.8%	0.7%	0.2%
	運動会や文化祭などの学校行事への参加・協力	2.5%	1.9%	12.3%	6.8%	0.9%	0.2%
	特技や能力を生かした学校の授業や講演・講座の講師	0.6%	0.8%	8.4%	3.6%	0.6%	0.1%
	授業がわからない子どもなどへの学習支援	1.4%	1.1%	7.3%	2.9%	0.3%	0.2%
	遊びやスポーツ、文化活動などの指導・協力	1.6%	0.8%	9.4%	6.7%	0.6%	0.2%
	学校との情報交換や話し合いなどへの積極的な参加	1.2%	1.3%	8.2%	4.5%	0.4%	0.3%
	その他	0.0%	0.1%	0.6%	0.3%	0.4%	0.1%
	できるものはない	0.2%	0.2%	1.2%	0.6%	0.2%	0.2%

II-4-2 「県が取り組むべき施策」×「県立高校の改革の取組み」

一般県民に聞いた『県が取り組むべき施策』と『県立高校の改革の取組み』の両回答の関係を見ると、「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」×「障害のある生徒にも、個々の障害の状況等に応じた指導を行う学校づくりを進める（どちらかというと思う）」が28.1%、「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」×「学習の遅れがちな生徒にも、学力の着実な定着を図るための学校づくりを進める（どちらかというと思う）」が26.7%、「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」×「専門的な知識や技能をしっかりと身につけさせる教育を行う学校づくりを進める（どちらかというと思う）」が26.6%であった。（表II-60～62参照）

表 II-60 「県が取り組むべき施策」×「県立高校の改革の取組み」①

		県立高校の改革の取組み											
		生徒の学習ニーズや進路希望を十分踏まえながら、地域バランスや今後の生徒減少を見据えて、総合学科や定時制などの再編統合を含む新たな高校改革に取り組む						学習の遅れがちな生徒にも、学力の着実な定着を図るための学校づくりを進める					
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
県が 取 組 む べ き 施 策	少人数学級などのきめ細かな学習指導	8.7%	11.0%	6.7%	1.1%	1.1%	1.8%	11.4%	11.1%	4.5%	2.1%	0.6%	0.7%
	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策	16.4%	24.7%	13.9%	2.3%	1.5%	4.2%	20.8%	26.7%	9.2%	2.8%	2.0%	1.8%
	障害のある子どもへの支援	5.2%	7.0%	3.8%	1.0%	0.6%	1.2%	6.9%	7.3%	2.3%	0.7%	0.6%	1.1%
	外国籍の子どもへの支援	1.5%	1.9%	0.9%	0.5%	0.2%	0.2%	1.5%	2.3%	0.8%	0.2%	0.4%	0.1%
	多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり	7.5%	9.6%	4.7%	0.9%	0.9%	1.0%	6.9%	9.6%	5.1%	1.5%	1.1%	0.3%
	体験活動やボランティア活動ができる環境の整備	5.5%	9.9%	4.8%	1.1%	1.0%	1.7%	6.6%	10.9%	3.6%	1.4%	1.0%	0.7%
	地域、企業、民間団体、大学などの協力による学校の活性化	5.9%	9.2%	3.2%	0.6%	0.7%	1.1%	6.2%	7.9%	3.8%	1.1%	1.1%	0.6%
	地域に開かれた学校づくり	3.6%	5.9%	3.9%	0.4%	0.8%	1.3%	4.8%	6.5%	2.6%	0.6%	1.1%	0.5%
	高度情報化社会に安全で適正に対応できる児童・生徒指導の充実	7.9%	10.1%	4.1%	0.6%	0.6%	1.0%	7.5%	9.7%	4.1%	1.8%	0.8%	0.5%
	その他	0.5%	0.7%	0.4%	0.2%	0.5%	0.3%	0.7%	0.6%	0.2%	0.2%	0.7%	0.1%
わからない	0.0%	0.3%	0.2%	0.1%	0.0%	0.2%	0.0%	0.3%	0.4%	0.0%	0.0%	0.1%	

※県立高校の改革の取組み

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

表 II-61 「県が取り組むべき施策」×「県立高校の改革の取組み」②

	県立高校の改革の取組み												
	障害のある生徒にも、個々の障害の状況等に応じた指導を行う学校づくりを進める						国際化・情報化の社会で生きるリーダー人材を育成する学力向上や進学重点のための学校づくりを進める						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
県が取り組むべき施策	少人数学級などのきめ細かな学習指導	11.6%	13.2%	3.5%	0.9%	0.2%	1.1%	9.1%	11.1%	6.9%	1.5%	1.2%	0.6%
	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策	23.4%	28.1%	7.3%	1.4%	1.1%	2.1%	19.3%	20.6%	15.9%	2.8%	2.4%	2.3%
	障害のある子どもへの支援	10.0%	7.1%	1.1%	0.0%	0.1%	0.6%	5.1%	5.9%	4.9%	0.6%	1.1%	1.2%
	外国籍の子どもへの支援	2.5%	2.1%	0.6%	0.0%	0.1%	0.1%	1.3%	1.9%	1.1%	0.3%	0.6%	0.2%
	多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり	7.7%	11.4%	3.9%	0.9%	0.2%	0.5%	9.2%	8.5%	4.9%	1.2%	0.5%	0.2%
	体験活動やボランティア活動ができる環境の整備	7.6%	11.4%	3.2%	0.6%	0.2%	1.1%	6.4%	8.6%	5.8%	1.5%	0.9%	1.0%
	地域、企業、民間団体、大学などの協力による学校の活性化	7.2%	8.9%	2.4%	0.7%	0.6%	0.9%	7.2%	6.3%	4.5%	1.3%	1.0%	0.4%
	地域に開かれた学校づくり	5.5%	6.7%	2.4%	0.6%	0.4%	0.6%	4.2%	5.6%	4.2%	0.7%	0.7%	0.6%
	高度情報化社会に安全で適正に対応できる児童・生徒指導の充実	8.8%	10.8%	3.2%	0.6%	0.2%	1.0%	8.7%	8.4%	5.8%	0.6%	0.6%	0.2%
	その他	0.7%	1.2%	0.3%	0.1%	0.2%	0.1%	1.1%	0.4%	0.6%	0.2%	0.1%	0.2%
わからない	0.0%	0.4%	0.2%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.2%	0.4%	0.0%	0.1%	0.1%	

表 II-62 「県が取り組むべき施策」×「県立高校の改革の取組み」③

	県立高校の改革の取組み						
	専門的な知識や技能をしっかりと身につけさせる教育を行う学校づくりを進める						
	1	2	3	4	5	6	
県が取り組むべき施策	少人数学級などのきめ細かな学習指導	9.1%	13.3%	5.6%	1.2%	0.6%	0.6%
	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策	19.9%	26.6%	11.4%	1.9%	1.9%	1.6%
	障害のある子どもへの支援	6.0%	7.5%	3.5%	0.3%	0.9%	0.7%
	外国籍の子どもへの支援	1.5%	1.9%	0.7%	0.3%	0.6%	0.2%
	多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり	7.9%	10.9%	4.3%	1.0%	0.2%	0.3%
	体験活動やボランティア活動ができる環境の整備	7.4%	9.6%	4.3%	1.3%	0.7%	0.9%
	地域、企業、民間団体、大学などの協力による学校の活性化	6.7%	8.1%	3.6%	1.1%	0.6%	0.6%
	地域に開かれた学校づくり	4.4%	6.7%	3.9%	0.3%	0.4%	0.5%
	高度情報化社会に安全で適正に対応できる児童・生徒指導の充実	8.1%	11.0%	3.6%	0.8%	0.5%	0.3%
	その他	1.0%	0.6%	0.7%	0.1%	0.1%	0.2%
わからない	0.0%	0.4%	0.2%	0.1%	0.0%	0.1%	

※県立高校の改革の取組み

1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
4：どちらかというと思うわない、5：そう思わない、6：わからない

Ⅱ-4-3 「県立（公立）または私立を選んだ理由」×「県立高校の改革の取組み」

一般県民に聞いた『県立（公立）または私立を選んだ理由』と『県立高校の改革の取組み』の両回答の関係をみると、「学費が安い」×「専門的な知識や技能をしっかりと身につけさせる教育を行う学校づくりを進める（どちらかというと思う）」が36.9%、「学費が安い」×「障害のある生徒にも、個々の障害の状況等に応じた指導を行う学校づくりを進める（どちらかというと思う）」が36.7%、「学費が安い」×「学習の遅れがちな生徒にも、学力の着実な定着を図るための学校づくりを進める（どちらかというと思う）」が34.8%であった。（表Ⅱ-63～65 参照）

表Ⅱ-63 「県立（公立）または私立を選んだ理由」×「県立高校の改革の取組み」①

	県立高校の改革の取組み												
	生徒の学習ニーズや進路希望を十分踏まえながら、地域バランスや今後の生徒減少を見据えて、総合学科や定時制などの再編統合を含む新たな高校改革に取り組む						学習の遅れがちな生徒にも、学力の着実な定着を図るための学校づくりを進める						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
県立（公立）または私立を選んだ理由	学科やコースなど教育内容が進路希望にあっている	4.7%	5.5%	4.0%	0.9%	0.4%	0.8%	5.1%	7.2%	2.4%	0.8%	0.2%	0.6%
	特色ある教育内容など興味・関心に応じた学習ができる	1.3%	2.6%	0.9%	0.4%	0.0%	0.0%	1.7%	2.3%	0.6%	0.6%	0.2%	0.0%
	学年にとらわれず、幅広い科目から選択して学ぶなど新タイプの高校がある	2.6%	2.8%	0.9%	0.2%	0.2%	0.0%	2.3%	2.1%	1.3%	0.9%	0.2%	0.0%
	きめ細かな学習指導がなされている	2.1%	2.1%	0.4%	0.0%	0.2%	0.2%	1.5%	2.6%	0.4%	0.2%	0.0%	0.2%
	部活動や学校行事などが充実している	5.6%	4.7%	3.4%	0.4%	0.2%	0.4%	4.7%	6.6%	2.4%	0.8%	0.0%	0.2%
	進路指導が充実している	2.6%	3.2%	0.8%	0.6%	0.2%	0.6%	1.7%	4.0%	1.3%	0.4%	0.2%	0.4%
	進学実績が高い	4.7%	4.1%	3.4%	0.6%	0.6%	0.0%	3.8%	6.0%	2.1%	0.8%	0.8%	0.0%
	きめ細かな生徒指導がなされている	0.8%	0.9%	0.6%	0.2%	0.0%	0.0%	0.6%	1.1%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%
	施設・設備が充実している	0.8%	1.9%	0.6%	0.2%	0.2%	0.4%	0.4%	2.6%	0.6%	0.2%	0.0%	0.2%
	熱心な教員が多い	2.1%	2.3%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	1.7%	2.3%	0.6%	0.4%	0.2%	0.0%
	学費が安い	23.0%	31.1%	17.1%	2.8%	2.6%	5.3%	25.0%	34.8%	13.0%	4.0%	3.0%	2.3%
	通学の便がよい	11.5%	14.5%	8.1%	0.6%	1.1%	1.5%	12.4%	15.3%	5.3%	2.1%	1.7%	0.6%
	男女共学である	11.3%	14.1%	7.2%	0.8%	0.9%	1.5%	11.5%	14.1%	5.8%	2.1%	0.9%	1.3%
	男子校（女子校）である	0.2%	0.2%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.2%	0.0%	0.2%	0.2%	0.0%
	自由でのびのびとした雰囲気がある	8.1%	11.1%	5.3%	0.6%	1.5%	2.1%	9.6%	10.5%	4.3%	2.8%	0.6%	0.8%
校風（建学の精神・学校目標・伝統など）がよい	4.1%	5.5%	2.1%	0.8%	0.8%	0.4%	4.1%	4.1%	2.8%	1.7%	0.8%	0.0%	
その他	1.1%	1.7%	0.8%	0.2%	0.2%	0.0%	1.3%	2.3%	0.2%	0.0%	0.2%	0.0%	

※県立高校の改革の取組み

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

表 II-64 「県立（公立）または私立を選んだ理由」 × 「県立高校の改革の取組み」②

	県立高校の改革の取組み												
	障害のある生徒にも、個々の障害の状況等に応じた指導を行う学校づくりを進める						国際化・情報化の社会で生きるリーダー人材を育成する学力向上や進学重点のための学校づくりを進める						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
県立（公立）または私立を選んだ理由	学科やコースなど教育内容が進路希望にあっている	5.5%	7.5%	1.9%	0.4%	0.2%	0.8%	5.3%	5.6%	3.8%	0.4%	0.4%	0.8%
	特色ある教育内容など興味・関心に応じた学習ができる	1.7%	2.4%	0.6%	0.4%	0.2%	0.0%	1.9%	1.5%	1.5%	0.4%	0.0%	0.0%
	学年にとらわれず、幅広い科目から選択して学ぶなど新タイプの高校がある	2.3%	2.8%	1.3%	0.2%	0.2%	0.0%	2.3%	2.4%	1.7%	0.2%	0.0%	0.2%
	きめ細かな学習指導がなされている	2.1%	2.1%	0.6%	0.2%	0.0%	0.0%	1.9%	2.1%	0.8%	0.0%	0.0%	0.2%
	部活動や学校行事などが充実している	4.3%	8.1%	1.7%	0.4%	0.2%	0.0%	4.5%	4.9%	3.6%	0.8%	0.6%	0.4%
	進路指導が充実している	2.8%	3.8%	0.8%	0.2%	0.0%	0.4%	3.2%	2.6%	1.5%	0.0%	0.4%	0.2%
	進学実績が高い	4.3%	7.3%	1.1%	0.4%	0.0%	0.2%	6.0%	4.1%	2.3%	0.2%	0.8%	0.0%
	きめ細かな生徒指導がなされている	0.6%	1.5%	0.0%	0.2%	0.0%	0.2%	0.9%	0.6%	0.6%	0.0%	0.4%	0.0%
	施設・設備が充実している	0.9%	2.1%	0.8%	0.0%	0.0%	0.2%	1.1%	1.9%	0.4%	0.2%	0.0%	0.4%
	熱心な教員が多い	1.9%	2.1%	0.6%	0.6%	0.0%	0.0%	3.2%	0.8%	0.4%	0.4%	0.4%	0.0%
	学費が安い	29.4%	36.7%	10.5%	1.9%	0.9%	2.6%	22.8%	28.4%	20.3%	3.6%	4.1%	2.6%
	通学の便がよい	15.3%	15.4%	4.7%	0.8%	0.4%	0.8%	10.0%	13.0%	9.4%	1.3%	2.3%	1.1%
	男女共学である	13.7%	15.4%	4.3%	1.1%	0.0%	1.1%	9.2%	11.9%	9.6%	1.7%	2.3%	0.9%
	男子校（女子校）である	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	自由でのびのびとした雰囲気がある	10.7%	11.3%	4.0%	1.3%	0.0%	1.3%	7.0%	9.6%	7.7%	1.7%	1.5%	0.9%
	校風（建学の精神・学校目標・伝統など）がよい	4.5%	6.4%	1.3%	0.6%	0.0%	0.8%	4.5%	4.7%	2.4%	0.9%	0.8%	0.2%
その他	1.7%	1.9%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	1.5%	1.3%	0.0%	0.0%	0.2%	

※県立高校の改革の取組み

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
 4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

表 II-65 「県立（公立）または私立を選んだ理由」 × 「県立高校の改革の取組み」③

		県立高校の改革の取組み					
		専門的な知識や技能をしっかりと身につけさせる教育を行う学校づくりを進める					
		1	2	3	4	5	6
県立（公立）または私立を選んだ理由	学科やコースなど教育内容が進路希望にあっている	5.6%	7.3%	2.4%	0.4%	0.0%	0.4%
	特色ある教育内容など興味・関心に応じた学習ができる	1.7%	3.2%	0.2%	0.0%	0.2%	0.0%
	学年にとらわれず、幅広い科目から選択して学ぶなど新タイプの高校がある	2.6%	3.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	きめ細かな学習指導がなされている	1.5%	2.4%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%
	部活動や学校行事などが充実している	5.3%	7.0%	2.3%	0.2%	0.0%	0.0%
	進路指導が充実している	3.2%	3.4%	1.1%	0.0%	0.0%	0.2%
	進学実績が高い	5.1%	6.0%	1.9%	0.2%	0.2%	0.0%
	きめ細かな生徒指導がなされている	1.1%	0.9%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	施設・設備が充実している	0.6%	2.4%	0.8%	0.0%	0.0%	0.2%
	熱心な教員が多い	2.4%	1.5%	0.4%	0.4%	0.4%	0.0%
	学費が安い	22.8%	36.9%	14.7%	3.0%	2.3%	2.4%
	通学の便がよい	11.3%	17.7%	5.8%	1.1%	1.1%	0.2%
	男女共学である	10.5%	16.0%	5.8%	1.7%	1.1%	0.6%
	男子校（女子校）である	0.2%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	自由でのびのびとした雰囲気がある	7.5%	12.2%	5.5%	1.5%	1.3%	0.6%
	校風（建学の精神・学校目標・伝統など）がよい	4.5%	5.8%	2.1%	0.4%	0.6%	0.2%
	その他	0.9%	2.1%	0.8%	0.0%	0.0%	0.2%

※県立高校の改革の取組み

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
 4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

Ⅱ-4-4 「県立（公立）または私立を選んだ理由」×「私立高校のあり方」

一般県民に聞いた『県立（公立）または私立を選んだ理由』と『私立高校のあり方』の両回答の関係をみると、「施設・設備が充実している」×「社会のルールをきちんと守れるよう生徒指導に重点を置くべき（そう思う）」が11.2%、「進学実績が高い」×「私学独自の「建学の精神」を生かすべき（そう思う）」が11.0%、「校風（建学の精神・学校目標・伝統など）がよい」×「私学独自の「建学の精神」を生かすべき（そう思う）」が10.8%であった。（表Ⅱ-66～68 参照）

表 Ⅱ-66 「県立（公立）または私立を選んだ理由」×「私立高校のあり方」①

	私立高校のあり方											
	私学独自の「建学の精神」を生かすべき						より特色ある教育内容の提供など生徒の学習ニーズに応じた教育を展開すべき					
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
学科やコースなど教育内容が進路希望にあっている	10.1%	5.2%	2.0%	0.0%	0.2%	0.0%	8.3%	7.6%	1.6%	0.0%	0.2%	0.0%
特色ある教育内容など興味・関心に応じた学習ができる	10.3%	7.4%	1.3%	0.2%	0.4%	0.2%	9.4%	9.0%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%
学年にとらわれず、幅広い科目から選択して学ぶなど新タイプの高校がある	3.2%	1.6%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%	2.7%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
きめ細かな学習指導がなされている	10.6%	5.2%	2.0%	0.4%	0.2%	0.2%	9.9%	6.8%	1.3%	0.0%	0.0%	0.4%
部活動や学校行事などが充実している	7.0%	4.7%	0.7%	0.0%	0.2%	0.0%	5.6%	5.6%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%
進路指導が充実している	8.6%	4.9%	1.4%	0.0%	0.0%	0.2%	6.7%	6.5%	1.8%	0.0%	0.0%	0.2%
進学実績が高い	11.0%	5.4%	1.8%	0.4%	0.2%	0.4%	9.5%	8.1%	1.1%	0.2%	0.2%	0.2%
きめ細かな生徒指導がなされている	5.8%	4.1%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.1%	5.9%	1.1%	0.0%	0.2%	0.2%
施設・設備が充実している	10.1%	7.2%	1.6%	0.2%	0.5%	0.0%	8.8%	9.4%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%
熱心な教員が多い	8.8%	4.0%	1.8%	0.2%	0.2%	0.2%	7.0%	5.9%	1.4%	0.2%	0.0%	0.4%
学費が安い	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
通学の便がよい	0.2%	0.7%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%
男女共学である	0.4%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
男子校（女子校）である	0.7%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.5%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%
自由でのびのびとした雰囲気がある	4.3%	1.8%	0.7%	0.0%	0.2%	0.2%	2.9%	3.6%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%
校風（建学の精神・学校目標・伝統など）がよい	10.8%	5.6%	1.1%	0.2%	0.2%	0.4%	9.0%	7.7%	0.9%	0.2%	0.0%	0.2%
その他	0.9%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.2%	0.9%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※私立高校のあり方

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

表 II-67 「県立（公立）または私立を選んだ理由」×「私立高校のあり方」②

	私立高校のあり方												
	大学などの進学指導に、より重点を置くべき						ボランティア活動や部活動などを通じて、人間性の形成に重点を置くべき						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
県立（公立）または私立を選んだ理由	学科やコースなど教育内容が進路希望にあっている	5.0%	4.9%	5.8%	1.1%	0.7%	0.2%	5.8%	8.3%	2.9%	0.2%	0.2%	0.2%
	特色ある教育内容など興味・関心に応じた学習ができる	3.2%	7.4%	5.9%	1.3%	1.6%	0.4%	5.8%	10.4%	2.7%	0.5%	0.4%	0.0%
	学年にとらわれず、幅広い科目から選択して学ぶなど新タイプの高校がある	0.9%	2.0%	1.6%	0.7%	0.2%	0.0%	1.4%	2.9%	0.5%	0.2%	0.2%	0.0%
	きめ細かな学習指導がなされている	6.5%	5.9%	4.3%	1.1%	0.5%	0.2%	6.1%	8.3%	3.2%	0.4%	0.4%	0.2%
	部活動や学校行事などが充実している	2.9%	3.2%	3.8%	1.4%	0.9%	0.2%	4.7%	6.1%	1.3%	0.0%	0.4%	0.2%
	進路指導が充実している	5.0%	4.9%	5.0%	0.2%	0.0%	0.2%	3.8%	7.6%	2.7%	0.7%	0.4%	0.2%
	進学実績が高い	7.4%	6.1%	3.6%	1.4%	0.5%	0.2%	5.9%	7.9%	4.1%	0.4%	0.4%	0.4%
	きめ細かな生徒指導がなされている	2.7%	3.2%	4.5%	0.9%	0.2%	0.2%	3.2%	5.8%	2.3%	0.2%	0.2%	0.2%
	施設・設備が充実している	4.7%	4.9%	6.7%	1.8%	1.4%	0.0%	6.7%	9.0%	2.5%	0.4%	0.7%	0.2%
	熱心な教員が多い	4.1%	4.7%	4.9%	0.9%	0.2%	0.4%	5.2%	5.9%	2.3%	0.7%	0.4%	0.5%
	学費が安い	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	通学の便がよい	0.0%	0.4%	0.5%	0.0%	0.2%	0.0%	0.2%	0.4%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	男女共学である	0.0%	0.4%	0.2%	0.0%	0.2%	0.0%	0.4%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	男子校（女子校）である	0.2%	0.5%	0.4%	0.2%	0.2%	0.0%	0.2%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	自由でのびのびとした雰囲気がある	0.7%	2.2%	2.2%	0.4%	1.8%	0.0%	2.7%	3.2%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	校風（建学の精神・学校目標・伝統など）がよい	3.8%	5.4%	6.1%	0.9%	1.4%	0.4%	6.5%	9.5%	1.3%	0.5%	0.0%	0.4%
その他	0.9%	0.2%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.7%	0.4%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	

※私立高校のあり方

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
 4：どちらかというと思わない、5：思わない、6：わからない

表 II-68 「県立（公立）または私立を選んだ理由」×「私立高校のあり方」③

	私立高校のあり方						
	社会のルールをきちんと守れるよう生徒指導に重点を置くべき						
	1	2	3	4	5	6	
県立（公立）または私立を選んだ理由	学科やコースなど教育内容が進路希望にあっている	9.7%	6.1%	1.4%	0.4%	0.0%	0.0%
	特色ある教育内容など興味・関心に応じた学習ができる	9.2%	8.5%	2.0%	0.0%	0.2%	0.0%
	学年にとらわれず、幅広い科目から選択して学ぶなど新タイプの高校がある	3.1%	1.8%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	きめ細かな学習指導がなされている	9.0%	7.0%	1.8%	0.4%	0.2%	0.2%
	部活動や学校行事などが充実している	7.9%	3.8%	0.7%	0.0%	0.2%	0.0%
	進路指導が充実している	7.9%	5.4%	1.4%	0.2%	0.2%	0.2%
	進学実績が高い	9.4%	7.7%	1.6%	0.4%	0.0%	0.2%
	きめ細かな生徒指導がなされている	6.5%	3.8%	1.4%	0.0%	0.2%	0.0%
	施設・設備が充実している	11.2%	6.7%	1.3%	0.2%	0.4%	0.0%
	熱心な教員が多い	7.2%	5.4%	1.8%	0.4%	0.2%	0.2%
	学費が安い	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	通学の便がよい	0.4%	0.5%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	男女共学である	0.4%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	男子校（女子校）である	0.7%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	自由でのびのびとした雰囲気がある	3.8%	2.9%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	校風（建学の精神・学校目標・伝統など）がよい	9.2%	7.6%	1.1%	0.4%	0.0%	0.0%
その他	1.1%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

※私立高校のあり方

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
 4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

II-4-5 「県立高校の改革の取組み」×「最近の子どもの印象」

一般県民に聞いた『県立高校の改革の取組み』と『最近の子どもの印象』の両回答の関係を見ると、「障害のある生徒にも、個々の障害の状況等に応じた指導を行う学校づくりを進める（どちらかというと思う）」×「社会に役立とうとする心や公共心がある（どちらともいえない）」が16.1%、「障害のある生徒にも、個々の障害の状況等に応じた指導を行う学校づくりを進める（どちらかというと思う）」×「学ぶことに対して意欲的である（どちらともいえない）」が15.8%、「障害のある生徒にも、個々の障害の状況等に応じた指導を行う学校づくりを進める（どちらかというと思う）」×「豊かな創造力がある（どちらともいえない）」が15.7%であった。（表II-69～73 参照）

表 II-69 「県立高校の改革の取組み」×「最近の子どもの印象」①

		最近の子どもの印象												
		明るく元気である						体力がある						
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
県立高校の改革の取組み	生徒の学習ニーズや進路希望を十分踏まえながら、地域バランスや今後の生徒減少を見据えて、総合学科や定時制などの再編統合を含む新たな高校改革に取り組む	1	5.4%	7.1%	4.2%	3.1%	1.9%	0.6%	1.0%	3.6%	5.2%	5.8%	5.8%	1.0%
		2	4.3%	12.3%	10.2%	3.9%	1.9%	0.3%	0.8%	3.6%	10.8%	10.5%	6.3%	0.9%
		3	2.8%	5.3%	6.0%	3.2%	0.6%	0.3%	1.0%	1.8%	5.4%	5.8%	3.8%	0.6%
		4	0.6%	0.9%	1.3%	0.6%	0.1%	0.0%	0.2%	0.6%	0.9%	1.1%	0.6%	0.0%
		5	0.7%	1.1%	0.8%	0.1%	0.3%	0.2%	0.2%	0.3%	0.9%	0.7%	1.0%	0.2%
		6	0.9%	1.9%	1.1%	0.9%	0.2%	0.8%	0.5%	0.5%	1.4%	1.1%	1.3%	1.0%
	学習の遅れがちな生徒にも、学力の着実な定着を図るための学校づくりを進める	1	5.9%	8.3%	6.2%	3.2%	1.9%	0.8%	1.5%	3.7%	7.1%	6.6%	6.4%	0.9%
		2	4.5%	12.3%	10.3%	5.2%	1.5%	0.6%	1.0%	3.9%	10.5%	11.3%	6.7%	1.1%
		3	2.0%	4.5%	4.8%	1.6%	1.0%	0.2%	0.3%	1.7%	4.0%	4.8%	2.8%	0.6%
		4	0.7%	1.5%	1.2%	1.0%	0.2%	0.0%	0.1%	0.6%	1.1%	1.1%	1.1%	0.1%
		5	1.1%	1.1%	0.8%	0.5%	0.4%	0.1%	0.4%	0.2%	1.1%	0.6%	1.4%	0.2%
		6	0.6%	0.8%	0.4%	0.2%	0.1%	0.6%	0.3%	0.4%	0.6%	0.2%	0.5%	0.6%
	障害のある生徒にも、個々の障害の状況等に応じた指導を行う学校づくりを進める	1	5.9%	9.8%	7.7%	3.8%	2.1%	0.9%	1.3%	4.0%	8.1%	7.2%	8.4%	1.4%
		2	6.3%	13.3%	11.1%	5.0%	2.0%	0.7%	1.6%	4.2%	11.8%	13.0%	6.6%	1.4%
		3	1.5%	3.5%	3.7%	1.4%	0.6%	0.1%	0.4%	1.5%	3.3%	3.3%	2.0%	0.2%
		4	0.2%	0.5%	0.4%	0.8%	0.2%	0.0%	0.0%	0.1%	0.5%	1.0%	0.5%	0.0%
		5	0.4%	0.2%	0.4%	0.2%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	0.4%	0.3%	0.4%	0.2%
		6	0.5%	1.4%	0.3%	0.5%	0.1%	0.4%	0.2%	0.6%	0.4%	0.4%	1.0%	0.5%
	国際化・情報化の社会で生きるリーダー人材を育成する学力向上や進学重点のための学校づくりを進める	1	5.9%	9.7%	5.2%	2.9%	1.5%	0.6%	1.5%	3.2%	6.8%	7.1%	6.2%	1.2%
		2	4.9%	8.6%	8.8%	3.7%	1.7%	0.5%	1.0%	4.1%	8.4%	8.2%	5.9%	0.7%
		3	2.6%	7.1%	6.7%	3.6%	1.3%	0.2%	0.8%	2.4%	6.2%	7.0%	4.3%	0.6%
		4	0.3%	1.5%	1.5%	0.5%	0.2%	0.1%	0.0%	0.6%	1.1%	1.5%	0.8%	0.0%
		5	0.6%	0.5%	1.1%	0.7%	0.4%	0.2%	0.1%	0.1%	0.8%	1.2%	1.2%	0.2%
		6	0.4%	1.1%	0.6%	0.2%	0.1%	0.6%	0.3%	0.2%	1.0%	0.2%	0.5%	0.7%
専門的な知識や技能をしっかりと身につけさせる教育を行う学校づくりを進める	1	6.5%	9.1%	5.4%	2.6%	1.9%	0.5%	1.6%	3.8%	6.7%	6.0%	6.5%	1.2%	
	2	5.0%	12.0%	10.9%	5.6%	1.6%	0.8%	1.0%	4.2%	10.8%	12.1%	7.1%	0.8%	
	3	2.4%	5.2%	4.8%	2.5%	1.1%	0.2%	0.6%	1.7%	4.8%	4.9%	3.6%	0.6%	
	4	0.4%	1.0%	1.1%	0.5%	0.2%	0.0%	0.2%	0.3%	1.0%	1.1%	0.5%	0.2%	
	5	0.2%	0.5%	1.1%	0.2%	0.2%	0.2%	0.0%	0.1%	0.7%	0.7%	0.6%	0.2%	
	6	0.3%	0.9%	0.5%	0.3%	0.2%	0.5%	0.2%	0.4%	0.5%	0.4%	0.6%	0.6%	

※県立高校の改革の取組み／最近の子どもの印象

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

表 II-70 「県立高校の改革の取組み」×「最近の子どもの印象」②

		最近の子どもの印象												
		個性豊かである						学ぶことに対して意欲的である						
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
県立高校の改革の取組み	生徒の学習ニーズや進路希望を十分踏まえながら、地域バランスや今後の生徒減少を見据えて、総合学科や定時制などの再編統合を含む新たな高校改革に取り組む	1	3.2%	5.0%	5.6%	3.6%	4.0%	0.9%	1.2%	4.5%	7.7%	4.8%	2.0%	1.9%
		2	2.0%	8.9%	10.2%	7.1%	3.9%	0.7%	0.9%	6.5%	13.1%	7.1%	2.8%	2.4%
		3	1.4%	4.9%	5.4%	3.4%	2.2%	0.9%	0.8%	3.7%	6.2%	4.0%	1.9%	1.4%
		4	0.2%	0.7%	1.1%	0.8%	0.6%	0.0%	0.2%	1.0%	1.2%	0.4%	0.5%	0.2%
		5	0.6%	0.6%	0.5%	0.6%	0.6%	0.2%	0.2%	0.5%	0.9%	0.9%	0.5%	0.3%
		6	0.3%	1.6%	1.0%	1.1%	0.5%	1.2%	0.2%	1.5%	1.7%	0.6%	0.2%	1.5%
	学習の遅れがちな生徒にも、学力の着実な定着を図るための学校づくりを進める	1	3.6%	6.5%	6.1%	4.5%	4.2%	1.4%	0.8%	4.9%	8.8%	5.6%	3.5%	2.4%
		2	2.5%	9.2%	10.4%	7.1%	4.1%	1.1%	1.2%	7.3%	13.7%	6.9%	2.4%	2.8%
		3	0.5%	4.0%	5.0%	2.8%	1.2%	0.5%	0.6%	3.1%	5.7%	2.8%	0.8%	1.1%
		4	0.3%	0.9%	1.3%	1.3%	0.7%	0.1%	0.2%	1.1%	1.3%	1.2%	0.7%	0.2%
		5	0.6%	0.9%	0.5%	0.6%	1.2%	0.2%	0.4%	0.8%	0.7%	1.1%	0.6%	0.4%
		6	0.3%	0.5%	0.6%	0.3%	0.3%	0.6%	0.3%	0.6%	0.6%	0.2%	0.1%	0.8%
	障害のある生徒にも、個々の障害の状況等に応じた指導を行う学校づくりを進める	1	3.8%	7.4%	7.0%	5.4%	5.5%	1.3%	1.3%	6.1%	10.0%	6.4%	3.8%	2.5%
		2	2.8%	9.7%	12.2%	8.2%	3.9%	1.8%	1.2%	8.2%	15.8%	7.5%	2.5%	3.1%
		3	0.7%	3.1%	3.2%	1.9%	1.5%	0.3%	0.6%	2.2%	4.1%	2.1%	0.9%	1.0%
		4	0.0%	0.3%	0.6%	0.6%	0.4%	0.0%	0.1%	0.4%	0.3%	0.8%	0.4%	0.0%
		5	0.2%	0.3%	0.3%	0.1%	0.4%	0.1%	0.2%	0.2%	0.2%	0.4%	0.2%	0.2%
		6	0.2%	1.1%	0.6%	0.5%	0.2%	0.4%	0.2%	0.7%	0.6%	0.6%	0.2%	0.9%
	国際化・情報化の社会で生きるリーダー人材を育成する学力向上や進学重点のための学校づくりを進める	1	3.0%	6.8%	6.1%	5.0%	3.8%	1.0%	1.5%	6.6%	8.4%	4.9%	2.4%	1.8%
		2	2.0%	7.8%	9.2%	5.3%	3.2%	0.7%	0.8%	6.4%	10.9%	5.6%	2.4%	2.2%
		3	1.6%	5.0%	6.2%	4.1%	3.2%	1.0%	0.8%	3.5%	8.3%	4.4%	2.1%	2.2%
		4	0.4%	1.0%	0.9%	1.1%	0.7%	0.0%	0.1%	0.3%	1.8%	1.1%	0.6%	0.2%
		5	0.3%	0.7%	0.6%	0.7%	0.9%	0.3%	0.2%	0.3%	0.8%	1.3%	0.6%	0.5%
		6	0.4%	0.6%	0.7%	0.5%	0.0%	0.8%	0.2%	0.7%	0.7%	0.6%	0.0%	0.8%
専門的な知識や技能をしっかりと身につけさせる教育を行う学校づくりを進める	1	3.5%	6.9%	5.7%	4.4%	4.1%	1.2%	1.4%	6.1%	8.9%	4.4%	2.8%	1.9%	
	2	2.5%	9.7%	11.2%	7.1%	4.0%	1.3%	0.8%	7.2%	13.5%	8.7%	2.8%	2.8%	
	3	1.2%	3.2%	5.1%	3.5%	2.6%	0.6%	0.7%	2.8%	6.4%	2.9%	1.7%	1.6%	
	4	0.1%	0.8%	1.1%	0.6%	0.5%	0.1%	0.2%	0.6%	1.0%	0.7%	0.4%	0.2%	
	5	0.2%	0.5%	0.3%	0.6%	0.6%	0.2%	0.2%	0.4%	0.3%	0.8%	0.4%	0.3%	
	6	0.2%	0.8%	0.5%	0.5%	0.1%	0.6%	0.2%	0.6%	0.7%	0.3%	0.0%	0.7%	

表 II-71 「県立高校の改革の取組み」×「最近の子どもの印象」③

		最近の子どもの印象												
		豊かな創造力がある						年齢に相応しい社会的常識がある						
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
県立高校の改革の取組み	生徒の学習ニーズや進路希望を十分踏まえながら、地域バランスや今後の生徒減少を見据えて、総合学科や定時制などの再編統合を含む新たな高校改革に取り組む	1	1.9%	3.8%	7.0%	3.6%	3.6%	2.1%	1.5%	3.6%	5.3%	4.6%	6.4%	0.7%
		2	1.3%	5.2%	12.4%	7.8%	3.8%	2.4%	0.8%	4.9%	7.9%	10.1%	8.2%	1.1%
		3	0.6%	3.2%	7.2%	3.4%	2.2%	1.5%	0.3%	3.3%	4.2%	4.1%	5.4%	0.8%
		4	0.2%	0.6%	1.1%	1.1%	0.4%	0.1%	0.3%	0.6%	0.6%	1.2%	0.8%	0.0%
		5	0.1%	0.6%	0.8%	0.6%	0.9%	0.3%	0.2%	0.3%	1.2%	0.6%	0.8%	0.2%
		6	0.6%	0.7%	1.5%	0.7%	0.3%	1.9%	0.6%	0.4%	1.4%	1.1%	1.2%	1.0%
	学習の遅れがちな生徒にも、学力の着実な定着を図るための学校づくりを進める	1	1.8%	4.9%	7.9%	4.5%	4.7%	2.5%	1.6%	4.5%	5.8%	5.7%	7.6%	1.2%
		2	1.6%	5.5%	14.2%	6.2%	3.2%	3.3%	1.1%	4.9%	8.6%	10.1%	8.4%	1.2%
		3	0.2%	2.4%	5.6%	3.6%	1.1%	1.1%	0.3%	2.1%	3.8%	4.4%	2.9%	0.6%
		4	0.2%	0.8%	1.5%	1.3%	0.8%	0.2%	0.1%	1.0%	0.9%	1.6%	0.6%	0.0%
		5	0.3%	0.6%	0.5%	1.1%	1.1%	0.3%	0.6%	0.4%	0.6%	0.6%	1.7%	0.0%
		6	0.4%	0.0%	0.6%	0.4%	0.4%	0.8%	0.2%	0.2%	0.7%	0.1%	0.6%	0.8%
	障害のある生徒にも、個々の障害の状況等に応じた指導を行う学校づくりを進める	1	2.0%	5.3%	9.2%	4.9%	6.0%	2.8%	1.5%	5.6%	6.8%	5.9%	9.2%	1.3%
		2	1.5%	6.2%	15.7%	7.8%	3.5%	3.6%	1.4%	5.4%	9.7%	10.9%	9.5%	1.4%
		3	0.4%	1.9%	4.2%	2.5%	0.8%	0.8%	0.4%	1.5%	2.6%	3.6%	2.4%	0.3%
		4	0.0%	0.2%	0.4%	0.8%	0.5%	0.1%	0.0%	0.2%	0.4%	0.6%	0.7%	0.0%
		5	0.2%	0.2%	0.1%	0.5%	0.3%	0.2%	0.2%	0.2%	0.4%	0.1%	0.4%	0.2%
		6	0.4%	0.4%	0.6%	0.6%	0.2%	0.8%	0.3%	0.2%	0.7%	0.6%	0.7%	0.6%
	国際化・情報化の社会で生きるリーダー人材を育成する学力向上や進学重点のための学校づくりを進める	1	2.4%	3.9%	9.2%	4.3%	4.0%	1.9%	1.9%	4.3%	5.6%	6.4%	6.8%	0.9%
		2	0.6%	5.4%	10.1%	5.7%	3.6%	2.5%	0.6%	5.1%	7.1%	6.9%	7.4%	1.0%
		3	0.9%	3.6%	8.0%	4.5%	2.3%	1.9%	0.9%	2.2%	5.4%	6.0%	6.0%	0.8%
		4	0.1%	0.7%	1.5%	1.4%	0.1%	0.2%	0.0%	0.7%	0.6%	1.9%	0.9%	0.1%
		5	0.1%	0.3%	0.5%	0.9%	1.3%	0.6%	0.2%	0.5%	1.2%	0.2%	1.2%	0.3%
		6	0.5%	0.2%	0.8%	0.3%	0.2%	1.0%	0.2%	0.3%	0.6%	0.4%	0.6%	0.7%
専門的な知識や技能をしっかりと身につけさせる教育を行う学校づくりを進める	1	2.5%	4.5%	9.2%	3.4%	4.0%	2.2%	2.2%	4.5%	5.1%	6.1%	7.1%	0.9%	
	2	0.9%	6.2%	12.4%	8.8%	4.1%	3.2%	0.8%	5.4%	8.9%	9.9%	9.7%	1.3%	
	3	0.5%	2.6%	6.3%	3.6%	1.9%	1.3%	0.4%	2.1%	4.5%	4.5%	4.1%	0.6%	
	4	0.1%	0.4%	1.3%	0.6%	0.6%	0.2%	0.2%	0.5%	0.7%	0.9%	0.7%	0.2%	
	5	0.2%	0.2%	0.3%	0.5%	0.8%	0.3%	0.2%	0.2%	0.7%	0.1%	1.0%	0.2%	
	6	0.4%	0.2%	0.7%	0.3%	0.1%	1.0%	0.1%	0.4%	0.6%	0.3%	0.5%	0.6%	

※県立高校の改革の取組み／最近の子どもの印象

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
- 4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

表 II-72 「県立高校の改革の取組み」×「最近の子どもの印象」④

		最近の子どもの印象												
		チャレンジ精神が旺盛である						ねばり強さがある						
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
県立高校の改革の取組み	生徒の学習ニーズや進路希望を十分踏まえながら、地域バランスや今後の生徒減少を見据えて、総合学科や定時制などの再編統合を含む新たな高校改革に取り組む	1	1.1%	2.9%	7.2%	4.4%	4.9%	1.9%	0.6%	1.5%	5.6%	4.9%	7.9%	1.8%
		2	1.1%	4.2%	12.0%	9.2%	4.5%	1.8%	0.4%	1.5%	10.1%	11.0%	8.6%	1.3%
		3	0.8%	2.1%	6.8%	4.7%	2.2%	1.4%	0.2%	1.1%	4.6%	5.2%	5.8%	1.2%
		4	0.2%	0.6%	0.9%	1.2%	0.6%	0.0%	0.1%	0.3%	0.6%	1.3%	1.1%	0.1%
		5	0.2%	0.4%	0.6%	0.8%	1.1%	0.2%	0.0%	0.2%	0.6%	0.8%	1.3%	0.2%
		6	0.3%	0.6%	0.8%	1.4%	0.6%	1.9%	0.1%	0.1%	1.1%	2.1%	1.2%	1.2%
	学習の遅れがちな生徒にも、学力の着実な定着を図るための学校づくりを進める	1	1.4%	3.2%	8.4%	5.9%	5.1%	2.2%	0.7%	1.6%	7.1%	6.3%	8.8%	1.7%
		2	1.2%	4.5%	12.7%	8.7%	4.7%	2.5%	0.4%	1.8%	9.9%	11.1%	9.5%	1.8%
		3	0.5%	1.9%	4.8%	4.2%	1.4%	1.2%	0.0%	1.0%	4.0%	4.1%	3.9%	1.1%
		4	0.1%	0.5%	1.4%	1.6%	1.1%	0.1%	0.0%	0.2%	0.7%	2.2%	1.5%	0.1%
		5	0.3%	0.4%	0.6%	1.0%	1.3%	0.3%	0.2%	0.2%	0.3%	1.1%	1.9%	0.2%
		6	0.2%	0.2%	0.6%	0.3%	0.5%	0.9%	0.1%	0.0%	0.6%	0.6%	0.6%	0.9%
	障害のある生徒にも、個々の障害の状況等に応じた指導を行う学校づくりを進める	1	1.3%	3.6%	9.5%	7.1%	6.4%	2.5%	0.6%	1.6%	7.7%	7.9%	10.4%	2.2%
		2	1.5%	5.1%	13.9%	9.9%	5.0%	2.9%	0.4%	2.3%	11.2%	12.1%	10.5%	1.9%
		3	0.4%	1.5%	3.6%	3.2%	1.1%	0.8%	0.1%	0.6%	2.8%	3.4%	2.9%	0.9%
		4	0.2%	0.0%	0.5%	0.9%	0.5%	0.0%	0.0%	0.1%	0.2%	0.7%	1.0%	0.0%
		5	0.2%	0.1%	0.3%	0.2%	0.5%	0.2%	0.2%	0.0%	0.2%	0.2%	0.6%	0.2%
		6	0.2%	0.5%	0.7%	0.5%	0.6%	0.7%	0.2%	0.1%	0.6%	1.1%	0.7%	0.6%
	国際化・情報化の社会で生きるリーダー人材を育成する学力向上や進学重点のための学校づくりを進める	1	1.5%	3.5%	8.9%	5.9%	4.5%	1.5%	0.7%	1.8%	7.1%	6.2%	8.6%	1.4%
		2	0.8%	4.1%	10.5%	6.5%	4.4%	1.9%	0.4%	1.5%	8.7%	8.6%	7.7%	1.4%
		3	0.9%	1.9%	7.1%	6.2%	3.1%	1.9%	0.1%	1.2%	4.9%	7.6%	6.1%	1.5%
		4	0.2%	0.6%	0.6%	1.8%	0.5%	0.4%	0.0%	0.2%	1.0%	1.1%	1.7%	0.1%
		5	0.2%	0.4%	0.6%	1.0%	1.1%	0.5%	0.2%	0.0%	0.5%	0.8%	1.5%	0.6%
		6	0.2%	0.3%	0.7%	0.4%	0.5%	0.9%	0.1%	0.1%	0.5%	1.0%	0.6%	0.8%
専門的な知識や技能をしっかりと身につけさせる教育を行う学校づくりを進める	1	1.8%	3.8%	8.2%	5.6%	4.8%	1.5%	0.8%	2.0%	7.0%	5.8%	8.7%	1.5%	
	2	0.8%	4.4%	13.1%	10.0%	4.5%	3.0%	0.3%	1.5%	10.5%	11.8%	9.9%	1.9%	
	3	0.6%	1.9%	5.4%	4.1%	2.8%	1.3%	0.1%	1.1%	3.8%	5.1%	5.2%	1.0%	
	4	0.2%	0.2%	0.7%	1.1%	0.8%	0.2%	0.1%	0.0%	0.6%	1.2%	1.1%	0.2%	
	5	0.1%	0.2%	0.3%	0.6%	1.1%	0.2%	0.1%	0.0%	0.3%	0.6%	1.2%	0.2%	
	6	0.1%	0.3%	0.6%	0.5%	0.1%	1.1%	0.1%	0.1%	0.5%	0.9%	0.2%	1.0%	

表 II-73 「県立高校の改革の取組み」×「最近の子どもの印象」⑤

		最近の子どもの印象												
		やさしさや思いやりがある						社会に役立とうとする心や公共心がある						
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
県立高校の改革の取組み	生徒の学習ニーズや進路希望を十分踏まえながら、地域バランスや今後の生徒減少を見据えて、総合学科や定時制などの再編統合を含む新たな高校改革に取り組む	1	2.3%	5.9%	6.1%	3.2%	3.5%	1.3%	1.1%	3.8%	7.3%	4.0%	4.1%	2.1%
		2	1.7%	8.8%	13.4%	5.4%	2.8%	0.9%	0.8%	4.6%	13.2%	7.7%	4.5%	2.2%
		3	1.2%	4.9%	6.7%	3.0%	1.7%	0.7%	0.5%	2.1%	6.8%	4.5%	2.8%	1.5%
		4	0.3%	1.3%	1.0%	0.2%	0.6%	0.1%	0.1%	0.7%	1.1%	0.6%	0.8%	0.1%
		5	0.4%	0.9%	1.0%	0.3%	0.5%	0.2%	0.1%	0.5%	1.0%	0.6%	0.8%	0.3%
		6	1.0%	1.4%	1.5%	0.5%	0.2%	1.3%	0.1%	0.7%	1.8%	0.8%	0.6%	1.7%
	学習の遅れがちな生徒にも、学力の着実な定着を図るための学校づくりを進める	1	3.2%	6.9%	7.3%	3.7%	3.6%	1.5%	1.3%	3.6%	8.8%	5.2%	4.8%	2.7%
		2	1.9%	9.5%	13.6%	5.0%	3.4%	1.1%	0.7%	5.5%	13.9%	7.3%	4.7%	2.4%
		3	0.4%	4.3%	5.3%	2.7%	0.9%	0.6%	0.0%	2.2%	5.6%	3.2%	1.9%	1.2%
		4	0.5%	1.1%	1.9%	0.8%	0.5%	0.0%	0.1%	0.6%	1.5%	1.5%	0.6%	0.2%
		5	0.6%	1.0%	0.9%	0.4%	0.9%	0.2%	0.3%	0.3%	0.6%	0.9%	1.4%	0.4%
		6	0.4%	0.4%	0.6%	0.0%	0.2%	1.1%	0.1%	0.3%	0.7%	0.1%	0.5%	1.0%
	障害のある生徒にも、個々の障害の状況等に応じた指導を行う学校づくりを進める	1	3.2%	7.9%	8.8%	4.4%	4.4%	1.5%	1.5%	4.9%	9.3%	6.2%	5.7%	2.8%
		2	2.4%	11.1%	14.8%	5.6%	3.1%	1.5%	0.8%	5.4%	16.1%	8.0%	5.0%	3.2%
		3	0.6%	2.5%	4.3%	1.7%	1.2%	0.4%	0.2%	1.7%	4.1%	2.6%	1.5%	0.7%
		4	0.2%	0.3%	0.6%	0.5%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.8%	0.6%	0.0%
		5	0.2%	0.2%	0.4%	0.2%	0.4%	0.1%	0.1%	0.0%	0.2%	0.2%	0.6%	0.3%
		6	0.3%	1.0%	0.6%	0.4%	0.0%	0.9%	0.1%	0.5%	1.1%	0.3%	0.4%	0.8%
	国際化・情報化の社会で生きるリーダー人材を育成する学力向上や進学重点のための学校づくりを進める	1	3.1%	7.6%	7.5%	3.9%	2.8%	1.0%	1.2%	5.0%	8.8%	5.6%	3.5%	1.8%
		2	1.4%	8.2%	11.1%	4.1%	2.5%	0.9%	0.4%	4.5%	11.3%	6.0%	3.6%	2.4%
		3	1.5%	4.9%	8.1%	3.2%	2.8%	0.9%	0.5%	2.2%	7.9%	4.7%	4.2%	1.9%
		4	0.3%	1.0%	1.1%	0.7%	0.6%	0.2%	0.0%	0.5%	1.5%	1.0%	0.8%	0.2%
		5	0.2%	0.8%	1.1%	0.6%	0.5%	0.4%	0.2%	0.2%	1.0%	0.6%	1.1%	0.5%
		6	0.5%	0.6%	0.5%	0.2%	0.2%	1.0%	0.3%	0.1%	0.9%	0.2%	0.5%	1.0%
専門的な知識や技能をしっかりと身につけさせる教育を行う学校づくりを進める	1	3.2%	7.3%	7.7%	3.4%	3.2%	0.9%	1.4%	4.8%	8.7%	4.6%	4.1%	2.3%	
	2	1.6%	9.3%	14.4%	5.7%	3.3%	1.7%	0.4%	5.0%	13.5%	8.5%	5.5%	3.0%	
	3	1.3%	4.7%	5.4%	2.4%	1.8%	0.6%	0.4%	2.1%	6.2%	3.6%	2.4%	1.4%	
	4	0.3%	0.6%	1.0%	0.5%	0.5%	0.2%	0.1%	0.3%	1.3%	0.6%	0.7%	0.1%	
	5	0.2%	0.4%	0.6%	0.6%	0.6%	0.2%	0.2%	0.0%	0.7%	0.6%	0.7%	0.2%	
	6	0.3%	0.7%	0.6%	0.2%	0.1%	0.8%	0.2%	0.2%	0.9%	0.2%	0.2%	0.9%	

※県立高校の改革の取組み／最近の子どもの印象

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
- 4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

II-4-6 「県立高校の改革の取組み」×「どのような大人になってほしいか」

一般県民に聞いた『県立高校の改革の取組み』と『どのような大人になってほしいか』の両回答の関係をみると、「障害のある生徒にも、個々の障害の状況等に応じた指導を行う学校づくりを進める（どちらかというと思う）」×「人を思いやる心をもっている」が27.9%、「専門的な知識や技能をしっかりと身につけさせる教育を行う学校づくりを進める（どちらかというと思う）」×「人を思いやる心をもっている」が26.0%、「学習の遅れがちな生徒にも、学力の着実な定着を図るための学校づくりを進める（どちらかというと思う）」×「人を思いやる心をもっている」が25.2%であった。（表II-74～75 参照）

表 II-74 「県立高校の改革の取組み」×「どのような大人になってほしいか」①

		どのような大人になってほしいか							
		個性豊かである	向上心をもって自己を高めている	創造性や独創性に富む	困難を乗り越えることができる	健康なからだや体力を備えている	社会のルールやマナーを守る	専門的な知識や技能が身につけている	
県立高校の改革の取組み	生徒の学習ニーズや進路希望を十分踏まえながら、地域バランスや今後の生徒減少を見据えて、総合学科や定時制などの再編統合を含む新たな高校改革に取り組む	1	3.2%	6.9%	4.1%	11.2%	9.5%	13.8%	2.8%
		2	2.5%	10.1%	5.0%	16.2%	14.3%	20.4%	2.7%
		3	1.5%	5.8%	2.4%	9.9%	8.8%	11.9%	1.5%
		4	0.4%	1.4%	0.2%	1.9%	1.5%	2.0%	0.2%
		5	0.5%	0.9%	0.3%	1.4%	1.9%	1.8%	0.5%
		6	0.3%	1.1%	0.6%	3.0%	3.1%	3.7%	0.2%
	学習の遅れがちな生徒にも、学力の着実な定着を図るための学校づくりを進める	1	2.9%	7.7%	4.1%	13.6%	12.4%	16.2%	2.4%
		2	2.8%	10.9%	4.4%	18.5%	15.2%	22.5%	2.8%
		3	1.5%	4.5%	2.0%	6.2%	6.3%	7.9%	1.5%
		4	0.6%	1.3%	0.9%	2.4%	1.5%	2.8%	0.5%
		5	0.7%	1.5%	0.9%	1.7%	2.2%	2.4%	0.4%
		6	0.2%	0.4%	0.4%	1.4%	1.5%	1.9%	0.2%
	障害のある生徒にも、個々の障害の状況等に応じた指導を行う学校づくりを進める	1	4.1%	9.2%	5.0%	15.2%	13.9%	18.7%	2.9%
		2	3.6%	12.2%	4.9%	19.5%	17.2%	24.7%	2.9%
		3	0.7%	3.2%	1.5%	5.3%	4.9%	6.3%	1.0%
		4	0.2%	0.6%	0.4%	1.3%	0.6%	1.0%	0.3%
		5	0.1%	0.5%	0.3%	0.8%	0.8%	1.1%	0.3%
		6	0.0%	0.6%	0.5%	1.8%	1.7%	2.2%	0.2%
	国際化・情報化の社会で生きるリーダー人材を育成する学力向上や進学重点のための学校づくりを進める	1	3.3%	8.6%	4.6%	12.7%	10.6%	15.1%	2.6%
		2	2.4%	9.1%	4.1%	15.0%	12.2%	18.0%	2.3%
		3	1.9%	6.2%	2.8%	11.2%	11.0%	13.9%	1.3%
		4	0.5%	0.9%	0.5%	1.8%	1.8%	3.0%	0.5%
		5	0.3%	1.1%	0.4%	1.6%	1.8%	2.0%	0.9%
		6	0.2%	0.4%	0.3%	1.5%	1.6%	1.9%	0.2%
専門的な知識や技能をしっかりと身につけさせる教育を行う学校づくりを進める	1	3.3%	8.2%	4.1%	13.5%	11.4%	15.3%	3.2%	
	2	3.0%	10.1%	4.8%	17.8%	16.6%	23.0%	3.2%	
	3	1.5%	5.4%	2.6%	8.9%	7.5%	10.0%	0.6%	
	4	0.2%	1.5%	0.5%	1.2%	1.3%	2.0%	0.1%	
	5	0.4%	0.5%	0.4%	1.1%	1.1%	1.9%	0.4%	
	6	0.2%	0.6%	0.3%	1.3%	1.4%	1.8%	0.2%	

※県立高校の改革の取組み

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

表 II-75 「県立高校の改革の取組み」×「どのような大人になってほしいか」②

		どのような大人になってほしいか								
		正義感や責任感がある	よりよい人間関係が築ける	人を思いやる心をもっている	リーダーシップをとれる	国際社会で活躍できる	社会や公共の福祉に貢献する	その他	わからない	
県立高校の改革の取組み	生徒の学習ニーズや進路希望を十分踏まえながら、地域バランスや今後の生徒減少を見据えて、総合学科や定時制などの再編統合を含む新たな高校改革に取り組む	1	7.5%	6.6%	14.4%	1.1%	4.7%	3.8%	0.2%	0.0%
		2	11.8%	10.7%	23.6%	1.8%	7.0%	4.7%	0.2%	0.0%
		3	5.0%	5.6%	12.4%	1.0%	2.4%	2.2%	0.1%	0.2%
		4	1.4%	0.7%	2.5%	0.2%	0.7%	0.4%	0.0%	0.0%
		5	1.3%	0.9%	2.1%	0.2%	0.6%	0.2%	0.1%	0.0%
		6	1.9%	0.7%	4.9%	0.1%	1.0%	0.9%	0.2%	0.2%
	学習の遅れがちな生徒にも、学力の着実な定着を図るための学校づくりを進める	1	9.2%	8.6%	18.7%	0.7%	4.9%	4.1%	0.2%	0.0%
		2	10.9%	10.9%	25.2%	1.8%	5.4%	4.7%	0.2%	0.1%
		3	5.2%	3.4%	9.6%	1.1%	3.7%	2.1%	0.1%	0.1%
		4	1.5%	1.4%	2.9%	0.4%	1.4%	0.6%	0.1%	0.0%
		5	1.3%	0.6%	1.9%	0.2%	0.8%	0.4%	0.1%	0.0%
		6	0.8%	0.3%	1.9%	0.1%	0.4%	0.3%	0.1%	0.2%
	障害のある生徒にも、個々の障害の状況等に応じた指導を行う学校づくりを進める	1	10.6%	8.8%	21.2%	1.3%	5.8%	5.0%	0.2%	0.0%
		2	11.9%	11.5%	27.9%	2.2%	7.8%	4.9%	0.2%	0.2%
		3	4.1%	3.4%	7.2%	0.6%	1.6%	1.6%	0.2%	0.0%
		4	0.9%	0.7%	1.2%	0.1%	0.6%	0.2%	0.0%	0.0%
		5	0.4%	0.3%	0.6%	0.1%	0.2%	0.1%	0.1%	0.0%
		6	1.1%	0.4%	2.1%	0.2%	0.6%	0.5%	0.0%	0.1%
	国際化・情報化の社会で生きるリーダー人材を育成する学力向上や進学重点のための学校づくりを進める	1	9.1%	6.9%	16.3%	2.0%	7.9%	3.9%	0.2%	0.0%
		2	9.6%	8.5%	19.7%	1.3%	6.0%	4.2%	0.0%	0.0%
		3	6.0%	7.3%	15.5%	0.8%	1.9%	2.3%	0.3%	0.2%
		4	1.5%	1.4%	3.3%	0.1%	0.3%	0.7%	0.2%	0.0%
		5	1.1%	0.8%	3.0%	0.0%	0.3%	0.9%	0.1%	0.0%
		6	1.6%	0.3%	2.3%	0.2%	0.2%	0.2%	0.0%	0.2%
専門的な知識や技能をしっかりと身につけさせる教育を行う学校づくりを進める	1	8.5%	8.1%	17.0%	1.4%	6.2%	3.4%	0.2%	0.0%	
	2	12.7%	11.1%	26.0%	1.8%	6.2%	6.3%	0.1%	0.2%	
	3	5.0%	4.5%	11.7%	0.9%	2.8%	1.5%	0.3%	0.0%	
	4	1.0%	1.0%	2.1%	0.2%	0.6%	0.3%	0.1%	0.0%	
	5	1.0%	0.3%	1.7%	0.0%	0.5%	0.4%	0.0%	0.0%	
	6	0.9%	0.2%	1.9%	0.2%	0.2%	0.3%	0.1%	0.2%	

※県立高校の改革の取組み

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
 4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

II-4-7 「県立高校の改革の取組み」×「私立高校のあり方」

一般県民に聞いた『県立高校の改革の取組み』と『私立高校のあり方』の両回答の関係をみると、「障害のある生徒にも、個々の障害の状況等に応じた指導を行う学校づくりを進める（どちらかというと思う）」×「より特色ある教育内容の提供など生徒の学習ニーズに応じた教育を展開すべき（どちらかというと思う）」が22.8%、「専門的な知識や技能をしっかりと身につけさせる教育を行う学校づくりを進める（どちらかというと思う）」×「より特色ある教育内容の提供など生徒の学習ニーズに応じた教育を展開すべき（どちらかというと思う）」が20.7%、「障害のある生徒にも、個々の障害の状況等に応じた指導を行う学校づくりを進める（どちらかというと思う）」×「ボランティア活動や部活動などを通じて、人間性の形成に重点を置くべき（どちらかというと思う）」が20.5%であった。（表II-76～78参照）

表 II-76 「県立高校の改革の取組み」×「私立高校のあり方」①

	私立高校のあり方													
	私学独自の「建学の精神」を生かすべき						より特色ある教育内容の提供など生徒の学習ニーズに応じた教育を展開すべき							
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6		
県立高校の改革の取組み	生徒の学習ニーズや進路希望を十分踏まえながら、地域バランスや今後の生徒減少を見据えて、総合学科や定時制などの再編統合を含む新たな高校改革に取り組む	1	14.1%	4.7%	2.2%	0.2%	0.5%	0.6%	13.8%	5.9%	1.7%	0.0%	0.1%	0.6%
		2	9.7%	15.2%	5.3%	0.4%	0.4%	2.1%	7.6%	20.2%	3.4%	0.2%	0.3%	1.3%
		3	4.9%	6.9%	4.8%	0.3%	0.3%	0.8%	4.4%	9.2%	3.6%	0.2%	0.2%	0.4%
		4	1.5%	1.1%	0.6%	0.0%	0.1%	0.2%	1.1%	1.7%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
		5	2.0%	0.6%	0.2%	0.1%	0.2%	0.0%	2.1%	0.5%	0.3%	0.2%	0.0%	0.0%
		6	1.3%	1.9%	0.9%	0.0%	0.0%	1.6%	1.8%	2.3%	0.3%	0.0%	0.0%	1.3%
	学習の遅れがちな生徒にも、学力の着実な定着を図るための学校づくりを進める	1	14.1%	6.6%	3.4%	0.2%	0.8%	1.1%	14.8%	7.8%	2.6%	0.2%	0.1%	0.6%
		2	11.0%	14.4%	6.7%	0.5%	0.2%	1.4%	9.0%	19.9%	3.7%	0.2%	0.2%	1.1%
		3	3.3%	6.2%	3.0%	0.2%	0.3%	1.0%	2.8%	8.1%	2.7%	0.0%	0.1%	0.4%
		4	2.2%	1.6%	0.4%	0.0%	0.1%	0.3%	1.6%	2.4%	0.3%	0.1%	0.1%	0.2%
		5	2.5%	0.9%	0.2%	0.0%	0.2%	0.2%	2.1%	1.1%	0.4%	0.1%	0.1%	0.2%
		6	0.5%	0.6%	0.2%	0.0%	0.0%	1.3%	0.6%	0.6%	0.2%	0.0%	0.0%	1.2%
	障害のある生徒にも、個々の障害の状況等に応じた指導を行う学校づくりを進める	1	16.2%	7.7%	4.0%	0.4%	0.8%	1.2%	17.2%	9.2%	2.8%	0.1%	0.2%	0.8%
		2	12.3%	16.2%	6.7%	0.5%	0.6%	1.8%	9.7%	22.8%	3.8%	0.3%	0.3%	1.0%
		3	2.8%	4.4%	2.9%	0.1%	0.0%	0.7%	2.4%	5.4%	2.4%	0.1%	0.1%	0.5%
		4	1.1%	0.9%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	1.2%	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%
		5	0.6%	0.4%	0.2%	0.0%	0.1%	0.2%	0.7%	0.3%	0.3%	0.0%	0.0%	0.1%
		6	0.6%	0.8%	0.2%	0.0%	0.1%	1.4%	0.6%	1.1%	0.2%	0.0%	0.0%	1.3%
	国際化・情報化の社会で生きるリーダー人材を育成する学力向上や進学重点のための学校づくりを進める	1	15.4%	6.7%	2.0%	0.3%	0.3%	0.6%	14.7%	9.0%	1.2%	0.0%	0.1%	0.4%
		2	8.1%	13.1%	4.6%	0.6%	0.3%	1.8%	6.9%	17.0%	3.0%	0.5%	0.2%	0.9%
		3	6.1%	7.8%	6.1%	0.0%	0.2%	1.3%	5.4%	10.5%	4.5%	0.1%	0.0%	0.8%
		4	1.4%	1.6%	0.8%	0.1%	0.0%	0.1%	1.3%	1.9%	0.6%	0.0%	0.1%	0.1%
		5	2.2%	0.5%	0.2%	0.0%	0.6%	0.1%	2.0%	0.7%	0.4%	0.0%	0.1%	0.2%
		6	0.4%	0.7%	0.2%	0.0%	0.2%	1.4%	0.6%	0.8%	0.2%	0.0%	0.1%	1.3%
専門的な知識や技能をしっかりと身につけさせる教育を行う学校づくりを進める	1	14.9%	6.1%	2.5%	0.3%	0.5%	1.3%	14.3%	8.6%	1.9%	0.0%	0.1%	0.6%	
	2	10.7%	16.1%	7.0%	0.5%	0.2%	1.5%	9.6%	20.7%	4.1%	0.3%	0.2%	1.0%	
	3	5.0%	6.1%	3.5%	0.2%	0.4%	1.1%	4.5%	7.8%	2.8%	0.2%	0.2%	0.6%	
	4	1.1%	1.4%	0.6%	0.0%	0.0%	0.1%	0.9%	1.5%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	
	5	1.5%	0.2%	0.2%	0.0%	0.3%	0.2%	1.2%	0.7%	0.2%	0.0%	0.1%	0.2%	
	6	0.5%	0.6%	0.2%	0.0%	0.2%	1.1%	0.5%	0.7%	0.1%	0.0%	0.1%	1.2%	

※県立高校の改革の取組み／私立高校のあり方

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

表 II-77 「県立高校の改革の取組み」×「私立高校のあり方」②

		私立高校のあり方												
		大学などの進学指導に、より重点を置くべき						ボランティア活動や部活動などを通じて、人間性の形成に重点を置くべき						
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
県立高校の改革の取組み	生徒の学習ニーズや進路希望を十分踏まえながら、地域バランスや今後の生徒減少を見据えて、総合学科や定時制などの再編統合を含む新たな高校改革に取り組む	1	5.8%	6.2%	5.6%	1.6%	2.4%	0.5%	10.1%	8.3%	3.0%	0.1%	0.3%	0.5%
		2	4.5%	9.5%	14.1%	2.8%	1.3%	1.1%	4.9%	18.7%	7.1%	1.0%	0.2%	1.2%
		3	1.7%	5.4%	8.5%	1.3%	0.6%	0.6%	2.7%	7.5%	6.4%	0.7%	0.2%	0.6%
		4	0.2%	0.8%	1.7%	0.3%	0.2%	0.1%	0.8%	1.4%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%
		5	0.8%	0.4%	1.1%	0.2%	0.7%	0.0%	1.2%	0.7%	0.6%	0.2%	0.5%	0.0%
		6	0.7%	0.7%	1.7%	0.5%	0.3%	1.7%	1.0%	2.6%	0.9%	0.0%	0.1%	1.1%
	学習の遅れがちな生徒にも、学力の着実な定着を図るための学校づくりを進める	1	6.2%	7.4%	7.6%	2.3%	2.4%	0.4%	10.6%	11.6%	3.2%	0.2%	0.3%	0.5%
		2	3.6%	9.6%	15.9%	2.7%	1.5%	1.1%	6.2%	17.9%	8.4%	0.6%	0.5%	0.7%
		3	1.5%	3.8%	6.8%	0.9%	0.6%	0.4%	1.6%	5.9%	5.4%	0.7%	0.0%	0.5%
		4	0.9%	1.4%	1.1%	0.4%	0.4%	0.5%	0.5%	2.5%	1.3%	0.1%	0.0%	0.2%
		5	1.2%	0.7%	1.1%	0.2%	0.6%	0.2%	1.1%	1.0%	0.8%	0.3%	0.5%	0.2%
		6	0.4%	0.2%	0.4%	0.2%	0.1%	1.3%	0.6%	0.5%	0.2%	0.0%	0.0%	1.2%
	障害のある生徒にも、個々の障害の状況等に応じた指導を行う学校づくりを進める	1	7.1%	7.7%	8.9%	2.7%	3.1%	0.8%	12.9%	12.0%	4.0%	0.2%	0.6%	0.8%
		2	4.5%	10.6%	17.4%	2.9%	1.5%	1.2%	5.8%	20.5%	9.7%	0.7%	0.4%	1.0%
		3	1.3%	3.2%	4.9%	0.6%	0.3%	0.5%	1.1%	4.1%	4.7%	0.6%	0.0%	0.4%
		4	0.2%	0.4%	0.7%	0.3%	0.3%	0.0%	0.2%	1.1%	0.6%	0.1%	0.0%	0.0%
		5	0.3%	0.5%	0.4%	0.0%	0.2%	0.0%	0.2%	0.3%	0.1%	0.4%	0.3%	0.1%
		6	0.3%	0.6%	0.5%	0.2%	0.2%	1.4%	0.5%	1.3%	0.2%	0.0%	0.0%	1.1%
	国際化・情報化の社会で生きるリーダー人材を育成する学力向上や進学重点のための学校づくりを進める	1	7.0%	8.5%	6.6%	1.5%	1.3%	0.6%	10.4%	10.2%	3.5%	0.4%	0.5%	0.5%
		2	3.6%	9.7%	11.0%	2.1%	1.1%	1.1%	4.5%	15.2%	7.1%	0.8%	0.2%	0.8%
		3	1.8%	3.7%	12.4%	1.7%	1.0%	0.8%	3.2%	9.4%	7.6%	0.4%	0.1%	0.6%
		4	0.6%	0.5%	1.3%	0.8%	0.6%	0.1%	0.8%	2.6%	0.3%	0.2%	0.1%	0.0%
		5	0.6%	0.5%	0.8%	0.3%	1.4%	0.1%	1.3%	1.0%	0.8%	0.1%	0.4%	0.1%
		6	0.2%	0.2%	0.7%	0.2%	0.2%	1.3%	0.5%	0.9%	0.0%	0.0%	0.1%	1.5%
専門的な知識や技能をしっかりと身につけさせる教育を行う学校づくりを進める	1	7.3%	6.7%	7.4%	1.6%	2.3%	0.5%	10.9%	9.9%	3.3%	0.4%	0.7%	0.5%	
	2	3.8%	11.4%	14.9%	3.4%	1.3%	1.1%	6.2%	19.1%	8.6%	1.0%	0.4%	0.7%	
	3	1.3%	3.9%	8.6%	1.1%	0.6%	0.8%	1.8%	7.2%	6.2%	0.2%	0.1%	0.7%	
	4	0.5%	0.8%	1.0%	0.6%	0.3%	0.0%	0.2%	1.9%	0.7%	0.2%	0.0%	0.0%	
	5	0.6%	0.2%	0.4%	0.0%	1.0%	0.2%	1.1%	0.6%	0.5%	0.1%	0.0%	0.2%	
	6	0.4%	0.1%	0.6%	0.0%	0.2%	1.3%	0.5%	0.7%	0.0%	0.0%	0.1%	1.3%	

表 II-78 「県立高校の改革の取組み」×「私立高校のあり方」③

		私立高校のあり方						
		社会のルールをきちんと守れるよう生徒指導に重点を置くべき						
		1	2	3	4	5	6	
県立高校の改革の取組み	生徒の学習ニーズや進路希望を十分踏まえながら、地域バランスや今後の生徒減少を見据えて、総合学科や定時制などの再編統合を含む新たな高校改革に取り組む	1	15.1%	5.1%	1.5%	0.1%	0.1%	0.4%
		2	11.2%	17.1%	3.4%	0.4%	0.1%	1.1%
		3	6.5%	7.2%	3.6%	0.2%	0.0%	0.4%
		4	1.7%	1.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
		5	1.5%	0.7%	0.6%	0.1%	0.3%	0.0%
		6	1.7%	2.4%	0.4%	0.1%	0.2%	1.0%
	学習の遅れがちな生徒にも、学力の着実な定着を図るための学校づくりを進める	1	17.9%	6.7%	1.1%	0.1%	0.1%	0.4%
		2	11.5%	18.1%	3.8%	0.1%	0.2%	0.7%
		3	4.1%	5.5%	3.7%	0.3%	0.0%	0.4%
		4	1.5%	1.8%	0.9%	0.3%	0.0%	0.2%
		5	1.8%	1.0%	0.6%	0.1%	0.3%	0.2%
		6	1.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%
	障害のある生徒にも、個々の障害の状況等に応じた指導を行う学校づくりを進める	1	19.0%	8.1%	2.1%	0.2%	0.4%	0.6%
		2	12.7%	19.0%	5.2%	0.2%	0.2%	1.0%
		3	3.5%	4.2%	2.7%	0.2%	0.0%	0.2%
		4	0.8%	1.0%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%
		5	0.8%	0.3%	0.1%	0.0%	0.1%	0.2%
		6	1.1%	1.1%	0.0%	0.2%	0.0%	0.9%
	国際化・情報化の社会で生きるリーダー人材を育成する学力向上や進学重点のための学校づくりを進める	1	15.2%	8.1%	1.5%	0.2%	0.2%	0.3%
		2	10.1%	13.5%	3.6%	0.3%	0.1%	0.9%
		3	8.0%	9.1%	3.6%	0.2%	0.0%	0.4%
		4	1.5%	1.8%	0.6%	0.2%	0.0%	0.0%
		5	1.9%	0.6%	0.6%	0.0%	0.3%	0.2%
		6	1.1%	0.6%	0.2%	0.0%	0.0%	1.1%
専門的な知識や技能をしっかりと身につけさせる教育を行う学校づくりを進める	1	17.4%	6.2%	1.4%	0.2%	0.3%	0.3%	
	2	12.6%	18.2%	3.8%	0.6%	0.2%	0.7%	
	3	4.6%	6.7%	4.2%	0.0%	0.2%	0.6%	
	4	1.1%	1.4%	0.6%	0.1%	0.0%	0.0%	
	5	1.5%	0.6%	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	
	6	0.7%	0.6%	0.1%	0.0%	0.0%	1.2%	

※県立高校の改革の取組み／私立高校のあり方

- 1：そう思う、2：どちらかというと思う、3：どちらともいえない
- 4：どちらかというと思わない、5：そう思わない、6：わからない

II-4-8 「今後期待する教育・「人づくり」の場」×「望ましい教員像」

一般県民に聞いた『今後期待する教育・「人づくり」の場』と『望ましい教員像』の両回答の関係を見ると、「学校（幼稚園・保育所、小学校～大学等）」×「子どものやる気を引き出し、意欲を高めている」が 47.5%、「学校（幼稚園・保育所、小学校～大学等）」×「子どもをよく理解し、適切に対処・指導している」が 45.5%、「家庭」×「子どものやる気を引き出し、意欲を高めている」が 44.5%であった。（表II-79～80 参照）

表 II-79 「今後期待する教育・『人づくり』の場」×「望ましい教員像」①

		望ましい教員像					
		わかりやすい授業をしている	子どもに基本的な生活習慣や態度を身につけさせている	子どもに社会のルールやマナーを身につけさせている	子どもをよく理解し、適切に対処・指導している	子どものやる気を引き出し、意欲を高めている	学級担任として、クラスをまとめている
今後期待する教育・「人づくり」の場	家庭	29.0%	17.4%	29.0%	43.3%	44.5%	6.6%
	地域（NPO法人など含む）	11.8%	7.7%	11.4%	19.2%	19.1%	2.4%
	学校（幼稚園・保育所、小学校～大学等）	30.3%	17.4%	29.7%	45.5%	47.5%	6.7%
	企業	10.0%	4.3%	9.8%	12.8%	14.8%	2.0%
	市町村行政	10.3%	6.4%	10.8%	16.8%	17.6%	2.2%
	県行政	3.7%	2.4%	3.2%	7.1%	6.5%	0.7%
	その他	0.8%	0.4%	0.7%	1.2%	0.9%	0.2%

表 II-80 「今後期待する教育・『人づくり』の場」×「望ましい教員像」②

		望ましい教員像					
		子ども一人ひとりに応じた進路指導をしている	保護者の相談に気軽に応じている	信頼され、尊敬される人格をもっている	時代の変化に的確にとらえ、柔軟に対応している	その他	わからない
今後期待する教育・「人づくり」の場	家庭	8.7%	4.7%	35.2%	16.9%	1.5%	0.6%
	地域（NPO法人など含む）	3.7%	2.1%	15.8%	6.8%	0.9%	0.2%
	学校（幼稚園・保育所、小学校～大学等）	9.5%	4.9%	37.1%	17.1%	1.5%	0.6%
	企業	3.1%	1.3%	10.5%	6.2%	0.8%	0.1%
	市町村行政	3.9%	1.6%	12.6%	7.0%	0.5%	0.2%
	県行政	2.0%	0.6%	5.6%	2.3%	0.1%	0.2%
	その他	0.2%	0.2%	1.1%	0.5%	0.2%	0.0%

II - 5 児童・生徒

II-5-1 「学校に行きたくないとき」×「学校に行きたくない理由」

児童・生徒に聞いた『学校に行きたくないとき』と『学校に行きたくない理由』の両回答の関係をみると、小学生では、「ほとんどない」×「つかれているから」が50.5%であり、中学生では、「ほとんどない」×「疲れているから」が65.7%であった。

また、高校生では、「ほとんどない」×「疲れているから」が72.0%であり、特別支援学校児童・生徒では、「ほとんどない」×「つかれているから」が52.6%であった。(表II-81～84 参照)

表 II-81 「学校に行きたくないとき」×「学校に行きたくない理由」(小学生)

		学校に行きたくない理由								
		つかれているから	仲の良い友だちが少ないから	いじめられるから	じゅ業についていけないから	先生がいやなときがあるから	家にいる方が楽しいから	なんとなくやる気が起きないから	わからない	その他
学校に行きたくないとき	ある	38.8%	9.1%	14.0%	8.7%	15.3%	31.4%	31.8%	4.1%	17.8%
	ときどきある	45.4%	5.7%	7.8%	9.4%	7.3%	20.6%	40.6%	6.7%	12.2%
	ほとんどない	50.5%	2.3%	5.6%	4.7%	6.1%	13.1%	35.0%	9.3%	12.6%
	ない	0.3%	0.8%	0.6%	0.6%	0.0%	0.3%	0.6%	0.6%	0.3%

表 II-82 「学校に行きたくないとき」×「学校に行きたくない理由」(中学生)

		学校に行きたくない理由								
		疲れているから	仲の良い友だちが少ないから	いじめられるから	授業についていけないから	自分と合わない先生がいるから	家にいる方が楽しいから	なんとなく気持ち乗らないから	わからない	その他
学校に行きたくないとき	ある	49.7%	7.9%	3.9%	6.4%	10.3%	29.1%	36.7%	4.8%	20.3%
	ときどきある	62.4%	5.5%	3.6%	5.3%	7.9%	15.6%	41.9%	3.6%	16.5%
	ほとんどない	65.7%	1.2%	2.0%	5.2%	3.2%	6.9%	35.1%	10.1%	10.9%
	ない	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.3%	0.0%

表 II-83 「学校に行きたくないとき」×「学校に行きたくない理由」(高校生)

		学校に行きたくない理由								
		疲れているから	仲の良い友だちが少ないから	いじめられるから	授業についていけないから	自分と合わない先生がいるから	家にいる方が楽しいから	なんとなく気持ち乗らないから	わからない	その他
学校に行きたくないとき	ある	61.2%	9.0%	0.8%	3.7%	7.2%	21.4%	46.0%	2.0%	12.8%
	ときどきある	69.4%	4.1%	0.9%	2.9%	2.6%	11.2%	52.4%	2.7%	7.4%
	ほとんどない	72.0%	3.9%	0.9%	2.2%	2.6%	3.4%	35.3%	5.2%	9.5%
	ない	0.5%	0.0%	2.8%	1.4%	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%

表 II-84 「学校に行きたくないとき」×「学校に行きたくない理由」(特別支援学校児童・生徒)

		学校に行きたくない理由							
		つかれているから	仲の良い友だちが少ないから	いじわるをされるから	授業がつまらないから	先生がいやなときがあるから	家にいる方が楽しいから	その他	わからない
学校に行きたくないとき	ある	37.5%	6.3%	12.5%	6.3%	12.5%	18.8%	12.5%	18.8%
	ときどきある	34.5%	17.2%	10.3%	17.2%	10.3%	10.3%	17.2%	20.7%
	ほとんどない	52.6%	0.0%	10.5%	15.8%	5.3%	21.1%	0.0%	15.8%
	ない	1.9%	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

II-5-2 「自分自身について」×「どのような大人になりたいか」

児童・生徒に聞いた『自分自身について』と『どのような大人になりたいか』の両回答の関係をみると、小学生では、「仲の良い友だちがいる（そう思う）」×「たくさんの友だちや仲間がいる人」が44.4%であり、中学生では、「仲の良い友だちがいる（そう思う）」×「自分らしさをもっている人」が47.3%であった。

また、高校生では、「仲の良い友だちがいる（そう思う）」×「自分らしさをもっている人」が51.2%であり、特別支援学校児童・生徒では、「学校が好きですか（はい）」×「人を思いやるやさしい人」が41.9%であった。（表II-85～88参照）

表 II-85 「自分自身について」×「どのような大人になりたいか」（小学生）

		どのような大人になりたいか															
		自分らしさをもっている人	いつも努力をしている人	いつも新しいことに取り組んでいる人	とてもむずかしいことをやりぬく人	健康で体力に自信がある人	体力や守る人	社会の決まりや守る人	得意なことや決まらぬことを知り、上手にできる人	正しいことや決まらぬことを厳格にやることができる人	たくさんの友だちや仲間がいる人	人を思いやる心をもっている人	みんなをまとめることができる人	海外で活躍できる人	人の役に立てる人	その他	わからない
明るく元気だ	1	29.5%	28.3%	7.7%	13.8%	20.3%	18.3%	12.8%	14.4%	35.4%	27.5%	7.6%	12.1%	26.3%	2.4%	1.8%	
	2	4.0%	3.2%	1.1%	2.5%	3.7%	3.0%	2.0%	2.2%	4.2%	4.1%	1.2%	1.4%	3.9%	0.6%	0.9%	
	3	6.3%	6.6%	1.9%	3.6%	4.1%	4.5%	3.4%	3.0%	6.9%	7.1%	1.0%	1.9%	5.6%	0.2%	1.8%	
自分らしさをもっている	1	29.3%	26.3%	7.2%	13.5%	17.6%	16.3%	12.0%	13.1%	32.5%	26.5%	7.1%	11.9%	24.1%	2.6%	1.7%	
	2	4.1%	3.8%	1.1%	2.0%	3.0%	3.7%	2.9%	3.2%	5.7%	4.1%	1.0%	1.1%	3.7%	0.2%	1.0%	
	3	6.2%	8.0%	2.4%	4.3%	7.4%	5.7%	3.3%	3.3%	8.2%	8.1%	1.5%	2.4%	8.0%	0.3%	2.0%	
やさしさや思いやりがある	1	20.0%	20.2%	5.1%	8.1%	12.4%	12.4%	8.1%	9.6%	22.8%	20.7%	4.9%	7.6%	19.6%	1.4%	1.1%	
	2	6.6%	5.7%	1.9%	3.8%	5.3%	3.4%	3.5%	2.7%	7.8%	5.3%	1.7%	2.5%	5.3%	0.8%	1.4%	
	3	13.1%	12.3%	3.7%	7.6%	10.4%	9.8%	6.6%	7.3%	15.9%	12.8%	3.1%	5.3%	10.9%	1.0%	2.2%	
何事に対してもやる気がある	1	19.3%	18.8%	4.5%	9.3%	12.2%	11.0%	6.9%	10.2%	18.6%	17.2%	5.1%	7.3%	14.8%	1.1%	0.7%	
	2	10.8%	10.4%	3.0%	6.3%	9.0%	7.5%	6.7%	4.8%	16.2%	12.4%	2.2%	3.6%	12.0%	1.0%	2.3%	
	3	9.6%	8.9%	3.1%	4.2%	6.9%	7.0%	4.6%	4.5%	11.6%	9.1%	2.3%	4.4%	8.9%	1.0%	1.6%	
自分の気持ちをコントロールできる	1	21.3%	21.5%	5.3%	10.6%	13.3%	14.4%	9.2%	10.9%	24.3%	20.8%	4.9%	8.5%	18.3%	1.3%	1.2%	
	2	9.3%	7.2%	2.4%	4.3%	6.9%	5.5%	4.4%	4.2%	9.8%	8.3%	2.6%	2.8%	9.2%	0.9%	1.3%	
	3	9.1%	9.4%	3.0%	4.9%	7.9%	5.8%	4.6%	4.3%	12.4%	9.6%	2.2%	4.1%	8.3%	1.0%	2.1%	
ねばり強く、最後までやりとげる	1	20.3%	20.5%	4.9%	10.6%	13.3%	12.1%	8.7%	11.8%	23.7%	19.5%	5.5%	8.6%	18.0%	1.7%	1.0%	
	2	9.3%	8.3%	3.0%	4.8%	7.3%	6.6%	4.4%	3.3%	11.5%	9.4%	2.2%	2.7%	9.2%	0.6%	1.8%	
	3	9.9%	9.1%	2.7%	4.3%	7.3%	6.9%	5.0%	4.3%	11.2%	9.8%	2.1%	3.9%	8.5%	0.7%	1.8%	
自分の気持ちを相手にうまく伝えられる	1	15.6%	14.8%	4.1%	7.6%	9.9%	8.4%	6.5%	7.5%	18.5%	15.3%	4.5%	6.5%	13.3%	1.1%	0.2%	
	2	14.6%	14.5%	4.0%	7.2%	10.8%	12.0%	6.5%	7.6%	16.4%	15.3%	3.2%	5.3%	13.8%	0.9%	2.4%	
	3	9.4%	8.9%	2.6%	4.9%	7.3%	5.5%	4.9%	4.6%	11.6%	8.1%	2.1%	3.6%	8.6%	1.0%	1.9%	
外で運動したり遊んだりするのが好きだ	1	28.9%	29.3%	7.8%	14.5%	22.9%	18.7%	13.2%	14.9%	34.4%	27.4%	7.6%	11.6%	25.6%	2.4%	2.2%	
	2	7.3%	6.1%	1.9%	3.8%	3.0%	5.2%	3.0%	3.3%	7.7%	7.7%	1.3%	2.3%	6.9%	0.6%	1.3%	
	3	3.2%	2.6%	0.8%	1.4%	2.0%	1.8%	1.8%	1.4%	4.1%	3.3%	0.6%	1.4%	3.2%	0.1%	1.0%	
自分の力でものを決められる	1	17.9%	17.5%	4.6%	9.7%	11.2%	9.3%	7.3%	8.7%	19.1%	15.6%	5.1%	7.7%	14.8%	1.4%	0.8%	
	2	9.6%	9.3%	2.6%	4.6%	8.8%	8.8%	5.0%	5.1%	12.8%	11.3%	2.2%	3.3%	10.3%	0.6%	1.4%	
	3	12.2%	11.4%	3.3%	5.4%	7.9%	7.7%	5.7%	5.7%	14.5%	11.7%	2.3%	4.5%	10.7%	1.0%	2.3%	
みんなの役に立ちたい	1	30.1%	29.8%	7.7%	15.3%	18.8%	19.9%	12.8%	15.3%	35.2%	32.5%	7.7%	11.5%	30.2%	2.1%	1.3%	
	2	3.6%	3.0%	1.4%	1.8%	3.7%	2.3%	2.3%	1.6%	4.1%	2.2%	1.0%	1.4%	2.2%	0.6%	1.4%	
	3	5.7%	5.2%	1.6%	2.7%	5.5%	3.4%	3.0%	2.6%	7.3%	4.1%	0.9%	2.5%	3.3%	0.5%	2.0%	
社会のきまりや約束したことを守っている	1	24.4%	26.1%	5.9%	11.5%	15.9%	17.5%	10.2%	12.4%	28.1%	26.6%	5.5%	8.7%	22.0%	1.7%	1.7%	
	2	4.6%	3.3%	1.7%	3.2%	3.7%	2.5%	2.9%	2.7%	5.5%	3.4%	1.1%	1.8%	4.3%	0.6%	1.1%	
	3	10.1%	8.8%	3.0%	5.1%	8.5%	5.7%	4.9%	4.5%	12.8%	8.5%	2.9%	4.9%	9.3%	0.9%	1.8%	
食事やすいみんなど生活がきそく正しい	1	20.3%	20.4%	4.4%	9.4%	15.2%	14.1%	8.8%	10.6%	23.3%	20.1%	5.3%	8.2%	18.0%	1.1%	1.3%	
	2	10.3%	9.8%	3.9%	5.8%	7.2%	6.8%	4.4%	5.5%	13.5%	11.2%	2.6%	3.7%	10.6%	1.2%	2.0%	
	3	9.1%	7.9%	2.4%	4.5%	5.6%	4.9%	4.8%	3.5%	9.6%	7.3%	1.8%	3.3%	7.2%	0.8%	1.3%	
仲の良い友だちがいる	1	37.1%	36.6%	10.3%	18.8%	26.4%	24.2%	17.1%	18.3%	44.4%	36.4%	9.3%	14.5%	33.7%	2.6%	3.6%	
	2	1.1%	0.9%	0.2%	0.4%	1.1%	0.7%	0.6%	0.5%	1.3%	1.1%	0.4%	0.4%	1.4%	0.4%	0.3%	
	3	1.4%	0.6%	0.2%	0.5%	0.5%	0.6%	0.3%	0.8%	0.7%	1.1%	0.1%	0.5%	0.5%	0.2%	0.7%	
だれとでもすぐ仲良くなれる	1	21.9%	20.3%	5.4%	11.3%	14.6%	13.7%	9.3%	11.1%	27.1%	21.5%	5.8%	8.2%	19.8%	1.5%	1.6%	
	2	8.2%	8.3%	2.6%	3.7%	5.6%	6.2%	3.7%	3.8%	8.4%	9.3%	2.0%	3.0%	7.5%	1.3%	1.4%	
	3	9.6%	9.6%	2.6%	4.8%	8.0%	5.6%	5.0%	4.7%	10.9%	8.1%	1.8%	4.1%	8.5%	0.3%	1.6%	
自分で考え、何かをつくり上げるのが得意だ	1	19.9%	17.5%	5.9%	10.4%	12.7%	11.0%	9.6%	9.7%	21.8%	17.0%	5.2%	8.0%	16.3%	1.2%	1.4%	
	2	10.9%	12.0%	2.7%	5.5%	9.3%	8.5%	5.5%	5.6%	14.1%	13.6%	2.4%	3.8%	12.4%	1.4%	1.8%	
	3	8.7%	8.6%	2.0%	3.6%	6.0%	6.1%	2.8%	4.1%	10.4%	8.1%	1.9%	3.6%	6.9%	0.6%	1.4%	
家で勉強する習慣がある	1	21.5%	22.7%	5.9%	10.9%	15.7%	14.8%	10.1%	11.6%	22.6%	21.9%	5.7%	9.3%	18.7%	1.5%	1.2%	
	2	10.1%	8.7%	2.4%	4.6%	6.9%	6.1%	4.8%	4.5%	14.0%	9.4%	2.8%	3.0%	10.9%	1.0%	1.8%	
	3	8.1%	6.8%	2.4%	4.1%	5.5%	4.9%	3.3%	3.5%	9.9%	7.5%	1.3%	3.0%	6.3%	0.6%	1.7%	
じゆ業の内ようが理かいてできる	1	25.9%	26.5%	7.2%	13.2%	17.4%	17.9%	11.4%	13.9%	29.7%	26.3%	6.9%	10.8%	23.4%	1.6%	1.8%	
	2	5.6%	5.2%	1.3%	2.6%	3.5%	3.1%	2.4%	2.1%	6.5%	5.5%	1.1%	1.6%	5.6%	0.9%	0.9%	
	3	8.1%	6.5%	2.2%	3.8%	7.1%	4.9%	4.2%	3.6%	10.2%	6.9%	1.8%	3.0%	6.7%	0.6%	2.0%	
家族のことを理かいてしている	1	32.0%	31.4%	9.1%	14.6%	22.4%	20.5%	14.4%	15.6%	37.3%	31.3%	8.1%	12.4%	28.2%	2.2%	2.0%	
	2	3.2%	2.6%	0.5%	1.5%	2.0%	1.8%	1.3%	1.7%	3.5%	2.4%	0.7%	0.6%	2.8%	0.3%	0.6%	
	3	4.5%	4.0%	1.0%	3.4%	3.7%	3.4%	2.2%	2.4%	5.3%	4.9%	1.0%	2.1%	4.9%	0.5%	2.1%	
家族はあなたを理かいてくれている	1	26.1%	26.5%	6.5%	12.4%	17.6%	17.6%	10.8%	13.2%	29.0%	27.4%	6.6%	10.4%	23.5%	1.8%	1.4%	
	2	3.7%	3.0%	0.8%	1.4%	2.0%	2.1%	2.0%	2.0%	4.5%	3.3%	1.0%	1.0%	3.7%	0.5%	0.6%	
	3	9.9%	8.5%	3.3%	5.7%	8.5%	6.1%	5.3%	4.4%	12.8%	7.9%	2.2%	3.7%	8.6%	0.8%	2.6%	

※自分自身について

1：そう思う、2：そうではないと思う、3：わからない

表 II-86 「自分自身について」 × 「どのような大人になりたいか」 (中学生)

		どのような大人になりたいか														
		自分らしさを 持っている人	常に努力を おしまない人	いつも新しいこと に取り組んでいる人	困難を乗り越えら れる人	健康で体力に自信 がある人	社会のルールやマ ナーを守る人	専門的なこと をわかっていて、上 手にできる人	正しいことや決 められたことを最後 までやりとげる人	たくさんの友だち や仲間がいる人	人を思いやる心 をもっている人	リーダーシップ をとれる人	海外で活躍 できる人	社会の役に 立っている人	その他	わから ない
明るく元気だ	1	31.7%	16.0%	5.3%	18.4%	11.6%	17.4%	6.8%	9.6%	29.0%	28.2%	7.1%	8.7%	8.9%	2.2%	1.6%
	2	8.9%	5.0%	2.3%	5.5%	3.7%	6.3%	3.5%	4.0%	6.1%	6.7%	1.4%	2.1%	3.8%	0.5%	1.4%
	3	12.0%	7.3%	2.7%	9.5%	4.7%	8.5%	4.3%	6.3%	10.7%	11.1%	2.2%	2.8%	4.7%	1.0%	1.9%
自分らしさをも っている	1	35.2%	16.5%	6.3%	19.2%	11.3%	18.7%	9.7%	11.7%	28.2%	27.8%	7.9%	8.8%	9.9%	2.7%	1.7%
	2	5.5%	3.0%	1.0%	4.0%	2.1%	4.0%	1.5%	2.2%	4.1%	4.6%	0.8%	1.4%	2.3%	0.3%	1.2%
	3	11.9%	8.8%	3.0%	10.3%	6.6%	9.5%	3.4%	6.0%	13.5%	13.5%	2.0%	3.3%	5.2%	0.7%	2.0%
やさしさや思いや りがある	1	23.6%	13.0%	4.5%	14.3%	8.4%	14.0%	6.0%	8.1%	21.5%	21.5%	5.8%	6.4%	7.2%	1.1%	1.2%
	2	7.4%	3.6%	1.7%	3.7%	3.4%	4.9%	2.4%	3.1%	5.3%	5.1%	1.0%	1.5%	2.8%	0.8%	1.8%
	3	21.7%	11.7%	4.0%	15.3%	8.2%	13.1%	6.2%	8.6%	19.0%	19.3%	4.0%	5.5%	7.2%	1.8%	1.8%
何事にも前向きに 取り組む	1	21.4%	13.4%	3.3%	13.0%	7.8%	11.2%	4.5%	8.1%	17.6%	18.4%	6.0%	6.4%	6.3%	1.6%	0.9%
	2	16.3%	7.8%	3.2%	10.2%	7.8%	11.2%	5.7%	6.7%	13.2%	14.7%	3.3%	4.3%	6.0%	1.4%	2.4%
	3	14.3%	7.0%	3.7%	10.3%	4.3%	9.4%	4.5%	5.1%	14.8%	12.5%	1.4%	3.0%	5.0%	0.6%	1.4%
自分の気持ちをコン トロールできる	1	28.8%	16.0%	5.7%	18.7%	10.6%	16.2%	8.0%	11.2%	24.5%	26.0%	6.0%	8.0%	9.2%	1.7%	2.1%
	2	12.7%	5.5%	2.3%	7.3%	5.2%	7.9%	3.5%	4.7%	10.6%	9.9%	2.5%	2.8%	3.7%	1.1%	1.1%
	3	11.3%	6.5%	2.2%	7.4%	4.3%	7.8%	3.2%	4.0%	10.6%	9.9%	2.2%	2.7%	4.4%	0.9%	1.6%
ねばり強く、最後ま でやりとげる	1	20.9%	13.8%	4.1%	13.8%	7.8%	12.8%	4.6%	8.8%	18.2%	20.5%	5.5%	6.1%	7.1%	1.2%	0.6%
	2	15.6%	6.5%	3.0%	8.7%	6.1%	9.0%	4.9%	5.4%	13.4%	11.2%	3.3%	4.1%	5.1%	1.2%	2.4%
	3	15.8%	7.9%	3.0%	10.8%	5.9%	10.3%	5.2%	5.5%	13.9%	14.0%	1.9%	3.4%	5.1%	1.2%	1.8%
自分の気持ちを相手 にうまく伝えられる	1	16.9%	9.5%	3.3%	9.7%	5.6%	8.8%	4.4%	5.9%	15.4%	14.2%	4.5%	5.8%	5.5%	0.9%	0.6%
	2	20.4%	10.6%	4.1%	13.8%	8.0%	13.8%	5.8%	8.7%	16.6%	18.7%	3.6%	4.8%	6.8%	1.7%	2.3%
	3	15.2%	8.1%	2.9%	10.0%	6.5%	9.6%	4.4%	5.2%	13.6%	12.9%	2.7%	3.0%	5.1%	1.1%	2.0%
外で運動したり遊ん だりするのが好きだ	1	33.6%	20.8%	6.6%	23.1%	16.1%	19.1%	7.4%	11.9%	31.8%	29.8%	7.2%	10.5%	10.9%	2.1%	1.7%
	2	13.4%	5.2%	2.1%	6.9%	2.3%	8.9%	5.1%	5.8%	9.5%	11.7%	2.8%	2.1%	4.3%	1.1%	2.1%
	3	5.5%	2.3%	1.5%	3.5%	1.7%	4.0%	2.0%	2.1%	4.3%	4.4%	0.7%	1.1%	2.1%	0.5%	1.1%
自分の力でものを ごとを決められる	1	21.7%	11.9%	3.4%	12.5%	7.1%	11.2%	6.2%	6.8%	17.1%	17.2%	5.5%	6.8%	7.1%	1.4%	0.9%
	2	14.6%	8.6%	3.0%	10.0%	6.5%	10.1%	3.6%	5.7%	14.0%	13.3%	2.4%	3.3%	5.5%	1.2%	1.9%
	3	16.2%	7.8%	3.8%	10.9%	6.4%	10.8%	4.9%	7.2%	14.5%	15.3%	2.7%	3.5%	4.7%	1.0%	2.1%
みんなの役に立ち たい	1	35.5%	21.7%	7.3%	22.9%	12.3%	21.7%	9.3%	14.9%	30.7%	34.9%	8.5%	9.0%	13.3%	2.2%	1.3%
	2	6.7%	2.5%	1.6%	4.3%	4.3%	4.1%	2.3%	1.9%	5.5%	3.6%	0.9%	1.7%	2.0%	0.7%	1.5%
	3	9.9%	4.1%	1.4%	6.2%	3.5%	6.2%	3.1%	3.0%	9.5%	7.3%	1.3%	2.7%	2.1%	0.7%	2.1%
社会のルールやマ ナーを守っている	1	34.8%	19.5%	6.1%	20.9%	11.2%	22.9%	9.0%	14.2%	27.4%	29.1%	7.4%	9.2%	12.0%	2.0%	1.9%
	2	6.3%	2.5%	1.4%	4.2%	3.0%	2.5%	1.4%	2.1%	6.3%	5.4%	1.2%	1.8%	1.3%	0.7%	0.8%
	3	11.3%	6.2%	2.7%	8.4%	5.9%	6.6%	4.1%	3.6%	11.9%	11.2%	2.0%	2.6%	4.1%	1.0%	2.1%
食事や睡眠など生活 が規則正しい	1	18.6%	10.8%	3.4%	11.7%	7.4%	12.5%	5.0%	8.5%	15.0%	17.2%	4.8%	5.2%	6.2%	1.1%	1.1%
	2	22.8%	11.4%	4.5%	13.5%	8.4%	12.8%	6.9%	7.9%	19.5%	18.5%	4.3%	5.5%	7.2%	1.9%	2.3%
	3	11.1%	6.1%	2.4%	8.1%	4.2%	6.8%	2.7%	3.4%	11.2%	10.1%	1.6%	2.8%	3.9%	0.7%	1.5%
仲の良い友だちが いる	1	47.3%	26.0%	9.1%	30.5%	18.8%	28.3%	13.1%	17.5%	42.4%	42.6%	9.9%	12.1%	15.0%	2.8%	3.0%
	2	2.1%	0.7%	0.1%	1.1%	0.5%	1.4%	0.7%	0.9%	1.0%	1.1%	0.4%	0.5%	0.8%	0.3%	0.8%
	3	3.1%	1.7%	1.1%	1.8%	0.7%	2.3%	0.9%	1.5%	2.3%	2.3%	0.5%	1.0%	1.4%	0.5%	1.1%
だれとでもすぐ仲良 くなれる	1	22.9%	11.4%	4.6%	14.1%	8.9%	11.9%	4.6%	8.0%	21.8%	20.4%	5.5%	6.4%	5.5%	2.1%	1.1%
	2	14.3%	8.1%	3.0%	8.7%	5.2%	10.2%	5.0%	7.1%	11.6%	12.1%	2.7%	3.3%	5.5%	1.0%	1.7%
	3	15.2%	8.8%	2.7%	10.6%	5.9%	10.0%	5.0%	4.8%	12.4%	13.4%	2.5%	4.0%	6.2%	0.6%	2.0%
自分で考え、何かを つくり上げるのが得意だ	1	19.8%	10.7%	3.9%	11.2%	6.2%	10.7%	7.5%	6.5%	15.7%	15.9%	5.5%	6.2%	5.5%	1.5%	0.7%
	2	18.1%	10.8%	3.3%	11.9%	8.4%	11.6%	3.5%	7.7%	15.4%	16.6%	2.8%	4.3%	6.1%	1.3%	2.0%
	3	14.7%	6.7%	3.1%	10.3%	5.4%	9.7%	3.6%	5.8%	14.6%	13.2%	2.4%	3.1%	5.8%	0.8%	2.2%
家で勉強する習慣が ある	1	14.9%	9.6%	2.3%	10.6%	4.7%	10.5%	3.7%	5.9%	11.7%	13.8%	3.5%	4.4%	5.5%	0.9%	0.7%
	2	27.5%	13.1%	5.5%	16.7%	11.5%	15.5%	7.8%	9.5%	24.8%	22.6%	5.2%	5.8%	7.6%	2.0%	2.3%
	3	10.1%	5.6%	2.4%	6.2%	3.8%	6.2%	3.0%	4.5%	9.2%	9.6%	2.1%	3.4%	4.3%	0.7%	1.9%
授業の内容が理解で きる	1	29.2%	17.2%	5.3%	18.2%	10.9%	19.0%	7.8%	11.9%	24.8%	24.5%	6.6%	7.4%	10.4%	1.8%	1.4%
	2	9.8%	4.5%	1.8%	5.6%	4.1%	5.0%	2.8%	3.3%	8.2%	7.8%	1.6%	2.7%	2.5%	0.8%	1.4%
	3	13.6%	6.5%	3.0%	9.7%	5.1%	8.1%	3.9%	4.8%	12.7%	13.6%	2.5%	3.6%	4.5%	1.0%	2.0%
家族のことを理解し ている	1	34.3%	18.8%	6.4%	21.1%	12.8%	20.8%	9.4%	12.5%	29.3%	30.7%	7.9%	8.9%	10.6%	1.8%	1.7%
	2	5.8%	2.6%	1.7%	3.7%	2.7%	3.3%	1.9%	1.9%	5.2%	4.4%	1.1%	2.0%	2.6%	0.9%	1.3%
	3	12.4%	7.0%	2.1%	8.6%	4.5%	8.1%	3.3%	5.5%	11.2%	10.9%	1.7%	2.7%	4.0%	0.9%	1.8%
家族はあなたを理解 してくれている	1	27.4%	15.1%	4.9%	17.2%	10.2%	17.5%	7.1%	9.9%	23.5%	24.6%	5.9%	7.4%	8.2%	1.4%	0.8%
	2	7.9%	4.0%	2.7%	5.2%	3.7%	4.9%	2.6%	3.1%	7.0%	6.5%	1.6%	2.2%	3.6%	1.1%	1.4%
	3	17.2%	9.2%	2.7%	10.9%	5.9%	9.8%	4.9%	6.8%	15.1%	14.8%	3.3%	3.9%	5.4%	1.1%	2.7%

※自分自身について

1：そう思う、2：そうではないと思う、3：わからない

表 II-87 「自分自身について」×「どのような大人になりたいか」(高校生)

		どのような大人になりたいか														
		自分らしさを 持っている人	常に努力を 惜しまない人	いつも新しいこと に取り組んでいる人	困難を乗り越え られる人	健康で体力が ある人	社会のルールや マナーを守る人	専門的なこと をたくわえて 知っている人	正しいこと や決められた ことを最後まで やりとげられる人	たくさんの 友だちや仲間 がいる人	人を思いや る心をもっている人	リーダー シップのとれる人	海外で活 躍できる人	社会の役に 立っている人	その他	わからない
明るく元気だ	1	32.2%	15.1%	6.8%	16.7%	8.1%	12.6%	8.3%	8.3%	23.5%	25.4%	7.2%	6.4%	7.8%	1.1%	1.1%
	2	12.7%	6.4%	2.9%	7.1%	3.6%	7.2%	7.5%	4.9%	5.9%	8.5%	2.1%	1.0%	3.8%	0.8%	1.2%
	3	13.1%	7.1%	2.6%	7.3%	3.1%	7.3%	6.3%	3.7%	8.8%	9.9%	2.3%	2.3%	4.6%	0.5%	1.7%
自分らしさをもっている	1	37.6%	18.3%	8.2%	19.7%	9.4%	15.9%	12.8%	9.7%	24.0%	26.5%	8.3%	5.9%	9.4%	1.8%	0.8%
	2	8.4%	3.7%	1.6%	4.6%	2.5%	5.0%	4.0%	2.9%	4.8%	6.0%	1.3%	1.2%	2.6%	0.2%	1.1%
	3	12.0%	6.5%	2.5%	6.8%	3.0%	6.2%	5.3%	4.2%	9.4%	11.0%	2.0%	2.5%	4.2%	0.5%	2.1%
やさしさや思いやりがある	1	30.0%	15.0%	6.3%	16.0%	7.5%	13.3%	9.7%	8.4%	20.6%	23.3%	6.2%	4.7%	8.5%	1.3%	0.6%
	2	8.8%	4.2%	1.7%	4.9%	2.6%	4.9%	4.9%	3.0%	5.2%	5.5%	2.0%	1.4%	2.7%	0.7%	1.2%
	3	19.1%	9.3%	4.2%	10.2%	4.7%	8.9%	7.6%	5.5%	12.5%	14.8%	3.4%	3.5%	5.0%	0.5%	2.1%
何事にも前向きに取り組む	1	24.3%	14.3%	5.2%	13.5%	6.1%	9.5%	6.7%	7.2%	15.9%	18.3%	5.8%	4.7%	6.6%	0.9%	0.5%
	2	18.6%	7.9%	4.0%	10.0%	4.3%	10.4%	9.9%	5.9%	12.4%	13.8%	3.1%	2.4%	5.4%	1.1%	1.7%
	3	14.8%	6.4%	3.1%	7.6%	4.3%	6.9%	5.5%	3.7%	9.7%	11.1%	2.6%	2.4%	4.1%	0.5%	1.8%
自分の気持ちをコントロールできる	1	29.9%	16.2%	6.2%	15.6%	7.9%	13.8%	11.2%	9.1%	19.8%	22.6%	5.8%	4.9%	8.5%	1.1%	1.2%
	2	14.8%	7.1%	3.3%	8.6%	3.6%	7.7%	5.8%	4.2%	10.1%	11.7%	3.9%	2.7%	4.0%	0.7%	1.1%
	3	13.2%	5.3%	2.9%	6.9%	3.3%	5.7%	5.1%	3.6%	8.3%	9.2%	1.9%	2.1%	3.7%	0.7%	1.7%
ねばり強く、最後までやりとげる	1	24.9%	14.5%	5.2%	14.5%	5.9%	10.8%	7.5%	8.0%	15.4%	18.5%	6.1%	5.2%	7.0%	1.2%	0.8%
	2	17.6%	7.0%	3.6%	8.4%	4.5%	8.7%	7.8%	4.5%	11.8%	13.1%	3.2%	2.4%	5.7%	0.8%	1.7%
	3	15.5%	6.9%	3.5%	8.1%	4.4%	7.6%	6.8%	4.3%	11.0%	11.9%	2.4%	1.9%	3.6%	0.4%	1.5%
自分の気持ちを相手にうまく伝えられる	1	17.3%	7.8%	3.9%	8.4%	4.6%	7.5%	5.0%	4.3%	11.8%	11.4%	3.7%	3.3%	4.2%	0.7%	0.7%
	2	26.2%	13.4%	5.0%	14.8%	5.5%	13.0%	12.0%	8.5%	16.1%	20.3%	5.3%	3.2%	8.1%	1.4%	1.6%
	3	14.4%	7.2%	3.4%	7.8%	4.6%	6.7%	5.1%	4.1%	10.3%	11.9%	2.6%	3.0%	4.0%	0.4%	1.8%
外で運動したり遊んだりするのが好きだ	1	36.2%	17.9%	7.2%	19.7%	10.5%	15.0%	10.2%	9.4%	24.7%	27.6%	7.7%	6.7%	9.1%	1.4%	0.7%
	2	14.9%	7.7%	3.4%	7.9%	2.6%	8.9%	9.0%	5.3%	8.7%	10.7%	2.8%	1.7%	4.9%	1.0%	1.8%
	3	7.1%	3.0%	1.5%	3.5%	1.7%	3.3%	3.0%	2.3%	4.9%	5.5%	1.1%	1.2%	2.3%	0.1%	1.5%
自分の力でものごとを決められる	1	27.5%	12.8%	6.1%	13.2%	6.3%	11.3%	9.4%	7.3%	16.1%	19.3%	5.8%	5.0%	7.1%	1.5%	1.3%
	2	15.6%	7.4%	2.8%	8.6%	3.7%	8.1%	6.0%	5.0%	10.7%	11.9%	3.4%	2.3%	4.4%	0.4%	1.1%
	3	15.1%	8.4%	3.4%	9.3%	4.9%	7.7%	6.8%	4.6%	11.5%	12.5%	2.4%	2.4%	4.8%	0.7%	1.7%
社会の役に立ちたい	1	35.1%	18.8%	7.5%	20.2%	8.7%	18.3%	11.1%	11.2%	23.1%	29.3%	8.3%	6.1%	14.0%	0.9%	0.9%
	2	9.8%	4.3%	2.0%	4.4%	2.9%	3.8%	5.8%	2.6%	5.9%	5.9%	1.8%	1.6%	0.7%	1.0%	1.2%
	3	12.9%	5.2%	2.9%	6.4%	3.1%	4.8%	5.1%	3.1%	9.0%	8.2%	1.5%	1.9%	1.6%	0.5%	1.9%
社会のルールやマナーを守っている	1	39.9%	21.3%	7.5%	22.2%	10.1%	21.1%	14.5%	12.4%	26.1%	31.2%	8.1%	6.5%	11.9%	1.4%	1.2%
	2	6.1%	2.1%	1.7%	2.3%	1.8%	1.6%	2.7%	1.5%	3.4%	3.3%	1.5%	1.4%	1.5%	0.7%	0.7%
	3	12.1%	5.2%	3.0%	6.7%	2.9%	4.5%	4.9%	3.1%	8.7%	9.1%	2.0%	1.8%	2.9%	0.4%	2.1%
食事や睡眠など生活が規則正しい	1	19.9%	10.0%	4.2%	10.5%	5.1%	9.2%	5.5%	5.8%	12.9%	14.7%	4.5%	3.4%	5.4%	0.8%	0.6%
	2	29.3%	14.3%	6.6%	15.3%	7.0%	13.5%	13.5%	8.2%	19.7%	22.7%	5.2%	4.2%	8.1%	1.3%	1.8%
	3	8.7%	4.2%	1.5%	5.3%	2.7%	4.5%	3.2%	3.0%	5.6%	6.2%	1.7%	2.0%	2.8%	0.4%	1.5%
仲の良い友だちがいる	1	51.2%	25.0%	10.2%	27.0%	12.9%	23.4%	18.2%	14.4%	34.7%	39.4%	10.5%	8.0%	13.8%	1.9%	2.0%
	2	2.5%	1.1%	0.6%	1.2%	0.8%	1.5%	1.4%	1.0%	1.5%	1.7%	0.5%	0.5%	0.8%	0.2%	0.7%
	3	4.1%	2.5%	1.5%	2.8%	1.1%	2.3%	2.6%	1.7%	1.9%	2.4%	0.6%	1.0%	1.5%	0.4%	1.2%
誰とでもすぐ仲良くなれる	1	20.9%	10.0%	4.9%	10.7%	5.3%	7.0%	5.9%	5.3%	15.3%	15.9%	5.0%	4.3%	5.0%	0.8%	0.7%
	2	22.9%	11.5%	4.0%	12.8%	6.2%	13.5%	10.8%	7.6%	12.9%	17.6%	4.5%	2.7%	7.1%	1.2%	1.6%
	3	14.2%	7.0%	3.3%	7.7%	3.2%	6.7%	5.3%	4.0%	10.0%	10.2%	2.1%	2.6%	4.2%	0.5%	1.7%
自分で考え、何かをつくり上げるのが得意だ	1	22.6%	10.4%	6.2%	10.8%	4.8%	8.6%	8.9%	6.0%	12.0%	14.8%	5.2%	4.0%	4.6%	1.2%	0.7%
	2	18.9%	10.2%	2.9%	11.2%	5.5%	11.3%	6.9%	5.9%	13.9%	15.6%	4.0%	2.7%	6.7%	0.6%	1.4%
	3	16.4%	8.0%	3.1%	9.2%	4.6%	7.3%	6.4%	5.1%	12.4%	13.2%	2.4%	2.8%	4.9%	0.7%	2.0%
家で勉強する習慣がある	1	11.2%	6.4%	2.7%	5.9%	2.7%	4.7%	3.1%	3.4%	5.2%	6.3%	2.9%	2.5%	3.3%	0.7%	0.5%
	2	39.5%	17.7%	7.8%	20.5%	9.6%	18.3%	15.7%	11.0%	27.9%	31.5%	7.2%	5.9%	10.6%	1.5%	2.4%
	3	7.5%	4.5%	1.8%	4.8%	2.5%	4.2%	3.3%	2.5%	5.2%	5.9%	1.6%	1.2%	2.4%	0.2%	1.1%
授業の内容が理解できる	1	24.9%	13.4%	5.4%	13.5%	5.6%	12.7%	10.0%	8.4%	14.7%	18.4%	5.6%	4.3%	6.6%	1.1%	0.5%
	2	16.0%	6.9%	2.9%	7.7%	4.2%	6.5%	5.6%	4.1%	11.6%	12.6%	3.6%	2.6%	4.8%	0.9%	1.5%
	3	17.0%	8.2%	3.9%	9.7%	4.9%	8.0%	6.6%	4.5%	11.8%	12.5%	2.4%	2.7%	4.9%	0.5%	2.0%
家族のことを理解している	1	35.7%	17.8%	7.2%	19.0%	9.2%	16.9%	11.2%	10.5%	23.6%	26.8%	7.8%	6.1%	10.0%	1.2%	1.0%
	2	7.7%	3.7%	1.9%	4.5%	1.7%	3.4%	4.6%	2.4%	4.9%	5.3%	1.7%	1.5%	2.4%	0.5%	0.9%
	3	14.5%	7.1%	3.2%	7.7%	3.9%	6.8%	6.3%	4.0%	9.6%	11.5%	2.2%	2.1%	3.9%	0.8%	2.2%
家族はあなたを理解してくれている	1	32.7%	16.6%	6.3%	16.6%	8.6%	14.6%	10.2%	9.9%	20.5%	24.0%	7.2%	5.6%	8.3%	1.1%	0.8%
	2	8.1%	3.6%	1.8%	4.0%	1.9%	3.6%	4.0%	1.7%	4.9%	6.1%	1.5%	1.4%	2.5%	0.7%	1.2%
	3	17.2%	8.3%	4.1%	10.3%	4.3%	9.0%	8.0%	5.4%	12.8%	13.5%	2.9%	2.6%	5.5%	0.8%	2.0%

※自分自身について

1 : そう思う、2 : そうではないと思う、3 : わからない

表 II-88 「自分自身について」×「どのような大人になりたいか」(特別支援学校児童・生徒)

		どのような大人になりたいか												
		自分らしさを もっている人	いつも努力を している人	いつも新しい ことに取り組 んでいる人	とてもむず かしいこと をやりに ぬく人	いろいろな ことをよく 知っている 人	正しいこと を最後まで やりとげる 人	たくさん の友だちが いる人	人を思い やるやさ しい人	みんなを まとめる ことが できる人	人の役に 立てる人	その他	わから ない	
自分自身について	学校が好きですか	1	29.0%	24.2%	8.1%	8.1%	7.3%	16.1%	23.4%	41.9%	8.1%	25.0%	3.2%	10.5%
		2	0.8%	0.0%	0.8%	0.0%	0.8%	0.8%	0.8%	1.6%	1.6%	0.8%	0.0%	1.6%
		3	5.6%	5.6%	2.4%	0.8%	5.6%	2.4%	0.8%	6.5%	3.2%	4.8%	1.6%	4.8%
	いろいろなことを知 りたいという気持ち をもっていますか	1	31.5%	22.6%	8.9%	8.1%	11.3%	15.3%	20.2%	39.5%	9.7%	25.8%	3.2%	10.5%
		2	0.0%	0.8%	0.8%	0.8%	0.0%	0.0%	1.6%	2.4%	1.6%	1.6%	0.0%	1.6%
		3	4.0%	6.5%	1.6%	0.0%	2.4%	4.0%	3.2%	8.1%	1.6%	3.2%	1.6%	4.8%
	やり始めたことは最 後までがんばります か	1	21.0%	19.4%	8.1%	5.6%	7.3%	13.7%	16.9%	29.8%	8.9%	17.7%	0.8%	7.3%
		2	0.0%	0.8%	0.0%	0.8%	1.6%	0.0%	2.4%	1.6%	0.0%	0.8%	0.0%	1.6%
		3	14.5%	8.9%	3.2%	1.6%	4.8%	5.6%	5.6%	17.7%	4.0%	11.3%	4.0%	8.1%
	やさしい性格ですか	1	23.4%	19.4%	7.3%	6.5%	7.3%	12.1%	16.9%	36.3%	8.1%	18.5%	2.4%	11.3%
		2	1.6%	0.8%	0.8%	0.0%	0.8%	0.8%	0.0%	0.8%	0.8%	0.8%	0.0%	1.6%
		3	9.7%	9.7%	3.2%	2.4%	5.6%	6.5%	8.1%	12.9%	4.0%	11.3%	2.4%	4.0%
	人の役に立ちたいと 思いますか	1	25.0%	19.4%	8.1%	7.3%	9.7%	14.5%	16.1%	35.5%	11.3%	25.0%	1.6%	2.4%
		2	0.8%	0.8%	0.8%	0.0%	0.8%	0.0%	1.6%	1.6%	0.8%	0.0%	0.0%	3.2%
		3	9.7%	8.9%	2.4%	0.8%	3.2%	4.8%	7.3%	12.1%	0.8%	4.8%	3.2%	11.3%
	自分の気持ちを相手 にうまく伝えられま すか	1	10.5%	8.9%	1.6%	2.4%	2.4%	5.6%	8.1%	12.9%	3.2%	7.3%	0.8%	2.4%
		2	14.5%	8.1%	5.6%	0.8%	5.6%	4.0%	7.3%	17.7%	5.6%	10.5%	1.6%	11.3%
		3	10.5%	12.1%	4.0%	4.8%	5.6%	9.7%	9.7%	18.5%	4.0%	12.1%	2.4%	3.2%
	仲の良い友だちがい ますか	1	26.6%	22.6%	9.7%	8.1%	11.3%	14.5%	22.6%	34.7%	10.5%	24.2%	0.8%	5.6%
		2	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.8%	0.0%	2.4%	0.8%	1.6%	0.8%	2.4%
		3	7.3%	6.5%	1.6%	0.0%	1.6%	4.0%	2.4%	12.1%	1.6%	4.0%	2.4%	8.1%
	決まった時間に食事 をしますか	1	29.8%	21.0%	8.9%	6.5%	10.5%	14.5%	18.5%	37.9%	10.5%	20.2%	3.2%	13.7%
		2	2.4%	2.4%	1.6%	0.8%	0.8%	2.4%	3.2%	4.0%	0.8%	2.4%	0.8%	1.6%
		3	3.2%	6.5%	0.8%	1.6%	2.4%	2.4%	3.2%	8.1%	1.6%	8.1%	0.8%	1.6%

※自分自身について

1 : はい、 2 : いいえ、 3 : どちらともいえない

II-5-3 「勉強する理由」×「どのような大人になりたいか」

児童・生徒に聞いた『勉強する理由』と『どのような大人になりたいか』の両回答の関係をみると、小学生では、「**「りっぱな大人になるため」**×**「たくさんの友だちや仲間がいる人」**」が23.2%であり、中学生では、「**「高校や大学に進学したいから」**×**「自分らしさをもっている人」**」が23.8%であった。

また、高校生では、「**「将来何かの役に立つと思うから」**×**「自分らしさをもっている人」**」が21.9%であり、特別支援学校児童・生徒では、「**「学校で学んだことが、将来役に立つと思うから」**×**「人を思いやるやさしい人」**」が26.6%であった。(表II-89～92 参照)

表 II-89 「勉強する理由」×「どのような大人になりたいか」(小学生)

勉強する理由	どのような大人になりたいか														
	自分らしさをもっている人	いつも努力をしている人	いつも新しいことに取り組んでいる人	とてもむずかしいことをやりぬく人	健康で体力に自信がある人	社会の決まりや守るべきことを守る人	得意なことをよくわかっていたり、上手にできる人	正しいことや決められたことを最後までやりとげられる人	たくさんの友だちや仲間がいる人	人を思いやる心をもっている人	みんなをまとめることができる人	海外で活躍できる人	人の役に立っている人	その他	わからない
新しいことを知ったり、わかることが楽しいから	11.2%	11.6%	3.3%	4.7%	6.5%	6.6%	4.6%	5.3%	11.6%	10.8%	1.8%	2.8%	8.7%	0.2%	1.0%
りっぱな大人になるため	20.1%	20.5%	6.1%	9.6%	15.6%	14.0%	8.2%	11.2%	23.2%	20.0%	4.1%	8.1%	19.5%	1.1%	1.0%
高校や大学などに行きたいから	9.5%	8.3%	2.4%	5.9%	6.0%	6.1%	5.1%	4.9%	10.7%	8.1%	3.2%	4.1%	8.1%	0.8%	0.4%
やりたい仕事があるから	7.9%	7.2%	2.1%	4.7%	5.2%	4.5%	4.1%	3.3%	10.4%	7.7%	2.3%	4.2%	7.8%	0.8%	0.4%
しょうもない役に立つと思うから	17.7%	18.3%	4.5%	7.5%	13.6%	13.8%	7.3%	10.0%	21.6%	20.1%	4.9%	6.8%	17.5%	1.2%	1.1%
先生や親から「勉強しなさい」と言われるから	2.2%	1.7%	0.8%	1.2%	2.0%	1.2%	1.9%	0.6%	3.7%	1.8%	0.5%	0.6%	1.9%	0.2%	0.6%
友だちに負けたくないから	3.3%	3.0%	0.3%	1.7%	2.2%	1.4%	1.3%	1.0%	3.0%	2.4%	0.8%	1.0%	2.2%	0.4%	0.2%
その他	1.4%	0.7%	0.2%	0.7%	1.0%	0.5%	0.7%	0.3%	1.2%	1.0%	0.4%	0.5%	0.7%	0.6%	0.2%
わからない	1.3%	0.8%	0.2%	0.8%	1.0%	0.7%	0.5%	0.7%	1.8%	0.9%	0.2%	0.6%	1.4%	0.2%	1.6%

表 II-90 「勉強する理由」×「どのような大人になりたいか」(中学生)

勉強する理由	どのような大人になりたいか														
	自分らしさをもっている人	常に努力をおこなっている人	いつも新しいことに取り組んでいる人	困難を乗り越えられる人	健康で体力に自信がある人	社会のルールやマナーを守る人	専門的なことをよくわかっていたり、上手にできる人	正しいことや決められたことを最後までやりとげられる人	たくさんの友だちや仲間がいる人	人を思いやる心をもっている人	リーダーシップをとれる人	海外で活躍できる人	社会の役に立っている人	その他	わからない
新しい知識を知ったり、わかることが楽しいから	9.7%	6.5%	1.6%	6.1%	3.1%	6.2%	2.2%	3.2%	6.8%	7.4%	1.5%	2.1%	3.1%	0.6%	0.3%
立派な大人になるため	15.7%	8.4%	2.7%	10.6%	5.9%	11.0%	2.8%	6.9%	13.1%	15.0%	3.0%	2.9%	5.5%	0.8%	0.6%
高校や大学に進学したいから	23.8%	14.6%	4.8%	16.9%	10.2%	14.9%	6.8%	9.8%	23.3%	22.6%	5.1%	6.8%	8.1%	1.4%	1.1%
やりたい仕事があるから	13.1%	6.8%	2.7%	6.9%	5.1%	7.4%	5.5%	4.7%	10.1%	11.2%	2.8%	4.1%	4.6%	0.4%	0.5%
将来何かの役に立つと思うから	20.2%	11.7%	5.0%	14.6%	7.9%	13.5%	5.3%	8.0%	17.5%	18.4%	4.6%	5.5%	7.9%	0.8%	1.4%
先生や親から「勉強しなさい」と言われるから	5.9%	2.1%	1.7%	3.3%	2.4%	3.1%	1.7%	1.7%	6.2%	5.2%	0.8%	1.6%	1.3%	0.5%	1.2%
友だちに負けたくないから	4.0%	2.3%	1.0%	2.3%	1.7%	2.4%	1.1%	1.4%	4.3%	3.3%	1.1%	1.1%	1.5%	0.5%	0.2%
その他	1.6%	0.8%	0.5%	1.1%	1.0%	0.6%	0.5%	0.5%	1.1%	1.1%	0.1%	0.2%	0.4%	0.8%	0.1%
わからない	2.4%	1.2%	0.4%	1.6%	0.9%	1.1%	0.4%	1.0%	2.4%	2.0%	0.8%	0.8%	0.8%	0.5%	1.5%

表 II-91 「勉強する理由」×「どのような大人になりたいか」(高校生)

	どのような大人になりたいか														
	自分らしさをもっている人	常に努力を惜しまない人	いつも新しいことに取り組んでいる人	困難を乗り越えられる人	健康で体力に自信がある人	社会のルールやマナーを守る人	専門的なことをくわしく知っている人	正しいことや決めたことを最後までやりとげる人	たくさんの友だちや仲間がいる人	人を思いやる心をもっている人	リーダーシップのとれる人	海外で活躍できる人	社会の役に立っている人	その他	わからない
新しい知識を得たり、理解することが楽しいから	11.1%	6.3%	3.0%	5.1%	3.1%	5.0%	4.6%	3.1%	4.7%	5.8%	1.9%	2.1%	2.6%	0.7%	0.4%
立派な大人になるため	11.7%	6.2%	2.4%	8.5%	2.8%	6.5%	3.0%	4.3%	8.6%	9.9%	2.6%	2.3%	4.5%	0.2%	0.3%
進学したいから	19.2%	11.0%	4.2%	12.4%	5.0%	10.0%	9.0%	6.5%	14.9%	15.1%	4.2%	3.7%	5.8%	0.4%	0.5%
やりたい仕事があるから	15.3%	9.3%	3.0%	8.1%	3.5%	7.1%	6.8%	4.2%	9.7%	12.9%	3.7%	2.6%	4.5%	0.7%	0.5%
将来何かの役に立つと思うから	21.9%	11.3%	3.7%	12.4%	5.4%	10.9%	7.3%	8.0%	14.1%	18.2%	4.5%	3.7%	7.1%	0.5%	0.4%
先生や親から「勉強しなさい」と言われるから	3.7%	1.1%	1.1%	1.4%	1.4%	2.1%	2.2%	0.7%	3.1%	2.8%	0.7%	1.0%	1.1%	0.2%	0.4%
友だちに負けたくないから	2.7%	1.3%	0.7%	1.7%	1.0%	1.3%	1.1%	1.0%	2.0%	2.3%	0.6%	0.3%	0.6%	0.1%	0.1%
その他	1.4%	0.5%	0.7%	0.6%	0.5%	0.5%	0.8%	0.3%	1.1%	1.0%	0.2%	0.4%	0.2%	0.7%	0.1%
わからない	4.2%	1.0%	0.8%	1.4%	0.7%	1.1%	1.2%	0.7%	2.9%	2.4%	0.7%	0.6%	0.5%	0.2%	2.1%

表 II-92 「学校に行く理由」×「どのような大人になりたいか」(特別支援学校児童・生徒)

	どのような大人になりたいか											
	自分らしさをもっている人	いつも努力をしている人	いつも新しいことに取り組んでいる人	とてもむずかしいことをやりぬく人	いろいろなことをよく知っている人	正しいことを最後までやりとげる人	たくさんの友だちがいる人	人を思いやるやさしい人	みんなをまとめることができる人	人の役に立っている人	その他	わからない
新しいことを知ることが楽しいから	10.5%	10.5%	4.0%	2.4%	4.0%	5.6%	9.7%	15.3%	3.2%	8.9%	0.0%	2.4%
立派な大人になるため	10.5%	8.9%	4.0%	3.2%	3.2%	8.9%	6.5%	13.7%	2.4%	10.5%	0.8%	0.8%
やりたいことがあるから	8.9%	4.8%	4.0%	3.2%	3.2%	4.0%	6.5%	8.1%	1.6%	2.4%	0.8%	0.8%
学校で学んだことが、将来役に立つと思うから	16.9%	16.1%	6.5%	5.6%	8.9%	10.5%	9.7%	26.6%	4.8%	12.9%	0.8%	3.2%
先生や親から「学校に行きなさい」と言われるから	2.4%	0.8%	0.8%	0.0%	1.6%	1.6%	4.8%	6.5%	1.6%	5.6%	1.6%	3.2%
友だちに負けたくないから	3.2%	2.4%	0.8%	0.8%	0.8%	1.6%	0.8%	4.0%	1.6%	3.2%	0.0%	0.0%
その他	2.4%	2.4%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.8%	4.0%	1.6%	2.4%	0.0%	2.4%
わからない	2.4%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	2.4%	4.8%	1.6%	4.8%	1.6%	7.3%

II-5-4 「これからの世の中」×「どのような大人になりたいか」

児童・生徒に聞いた『これからの世の中』と『どのような大人になりたいか』の両回答の関係を見ると、小学生では、「今より良くなっている」×「たくさんの友だちや仲間がいる人」が48.4%であり、中学生では、「今より悪くなっている」×「自分らしさをもっている人」が55.8%であった。

また、高校生では、「今より良くなっている」×「自分らしさをもっている人」が65.9%であり、特別支援学校児童・生徒では、「わからない」×「人を思いやるやさしい人」が60.3%であった。(表II-93~99 参照)

表 II-93 「これからの世の中」×「どのような大人になりたいか」(小学生) ①

		どのような大人になりたいか							
		自分らしさをもっている人	いつも努力をしている人	いつも新しいことに取り組んでいる人	とてもむずかしいことをやりぬく人	健康で体力に自信がある人	社会の決まりや守るべきことを守る人	得意なことをくわしく知っていたり、上手にできる人	正しいことや決められたことを最後までやりとげる人
これからの世の中	今より良くなっている	42.7%	40.6%	10.9%	21.3%	27.9%	26.3%	17.3%	20.2%
	今より悪くなっている	33.3%	33.8%	10.0%	21.9%	26.7%	29.0%	21.4%	23.8%
	わからない	38.9%	37.2%	10.9%	15.3%	30.7%	24.8%	18.3%	17.1%
	関心がない	34.7%	36.7%	10.2%	24.5%	24.5%	12.2%	16.3%	12.2%

表 II-94 「これからの世の中」×「どのような大人になりたいか」(小学生) ②

		どのような大人になりたいか						
		たくさんの友だちや仲間がいる人	人を思いやる心をもっている人	みんなをまとめることができる人	海外で活やくできる人	人の役に立てる人	その他	わからない
これからの世の中	今より良くなっている	48.4%	41.5%	10.9%	17.0%	37.7%	3.1%	1.7%
	今より悪くなっている	42.9%	33.3%	13.8%	16.7%	35.7%	3.3%	4.3%
	わからない	46.6%	39.2%	5.9%	11.5%	35.1%	1.5%	8.6%
	関心がない	40.8%	22.4%	6.1%	16.3%	16.3%	14.3%	16.3%

表 II-95 「これからの世の中」 × 「どのような大人になりたいか」(中学生) ①

		どのような大人になりたいか							
		自分らしさをもっている人	常に努力をおしまない人	いつも新しいことに取り組んでいる人	困難を乗り越えられる人	健康で体力に自信がある人	社会のルールやマナーを守る人	専門的なことをくわしく知っていたり、上手にできる人	正しいことや決められたことを最後までやりとげる人
これからの世の中	今より良くなっている	53.3%	33.1%	11.6%	33.4%	23.5%	32.1%	14.6%	21.5%
	今より悪くなっている	55.8%	30.4%	12.5%	34.7%	21.3%	35.8%	17.0%	19.7%
	わからない	52.0%	23.9%	8.5%	34.5%	16.5%	32.1%	12.1%	22.0%
	関心がない	40.0%	27.4%	6.3%	25.3%	21.1%	16.8%	16.8%	6.3%

表 II-96 「これからの世の中」 × 「どのような大人になりたいか」(中学生) ②

		どのような大人になりたいか						
		たくさんの友だちや仲間がいる人	人を思いやる心をもっている人	リーダーシップをとれる人	海外で活躍できる人	社会の役に立てる人	その他	わからない
これからの世の中	今より良くなっている	48.7%	48.3%	16.2%	16.2%	19.9%	5.0%	3.3%
	今より悪くなっている	42.6%	44.0%	9.8%	15.4%	20.2%	3.4%	2.7%
	わからない	49.3%	51.0%	7.6%	10.1%	15.0%	2.7%	4.9%
	関心がない	35.8%	25.3%	13.7%	14.7%	9.5%	5.3%	20.0%

表 II-97 「これからの世の中」 × 「どのような大人になりたいか」(高校生) ①

		どのような大人になりたいか							
		自分らしさをもっている人	常に努力を惜しまない人	いつも新しいことに取り組んでいる人	困難を乗り越えられる人	健康で体力に自信がある人	社会のルールやマナーを守る人	専門的なことをくわしく知ったり、上手にできる人	正しいことや決められたことを最後までやりとげる人
これからの世の中	今より良くなっている	65.9%	29.0%	14.5%	31.1%	14.8%	25.1%	17.5%	16.0%
	今より悪くなっている	58.4%	29.9%	14.0%	31.6%	12.9%	30.1%	27.5%	18.1%
	わからない	58.4%	30.2%	10.7%	33.0%	15.7%	28.2%	19.5%	18.9%
	関心がない	41.4%	16.4%	8.6%	22.9%	19.3%	17.9%	26.4%	7.1%

表 II-98 「これからの世の中」 × 「どのような大人になりたいか」(高校生) ②

		どのような大人になりたいか						
		たくさんの友だちや仲間がいる人	人を思いやる心をもっている人	リーダーシップのとれる人	海外で活躍できる人	社会の役に立てる人	その他	わからない
これからの世の中	今より良くなっている	40.8%	39.3%	13.3%	14.2%	17.2%	1.5%	0.9%
	今より悪くなっている	37.3%	47.9%	13.9%	7.4%	15.3%	2.6%	3.1%
	わからない	41.2%	47.1%	10.0%	10.4%	19.0%	1.8%	2.7%
	関心がない	25.0%	25.0%	7.9%	4.3%	5.7%	7.9%	21.4%

表 II-99 「これからの世の中」 × 「どのような大人になりたいか」(特別支援学校児童・生徒)

		どのような大人になりたいか											
		自分らしさをもっている人	いつも努力をしている人	いつも新しいことに取り組んでいる人	とてもむずかしいことをやりぬく人	いろいろなことをよく知っている人	正しいことを最後までやりとげる人	たくさんの友だちがいる人	人を思いやるやさしい人	みんなをまとめることができる人	人の役に立てる人	その他	わからない
これからの世の中	今より良くなっている	45.5%	36.4%	21.2%	15.2%	21.2%	33.3%	39.4%	57.6%	21.2%	45.5%	0.0%	0.0%
	今より悪くなっている	8.3%	41.7%	8.3%	16.7%	33.3%	8.3%	41.7%	58.3%	25.0%	33.3%	0.0%	25.0%
	わからない	41.4%	29.3%	8.6%	5.2%	10.3%	17.2%	15.5%	60.3%	8.6%	27.6%	3.4%	22.4%
	どのような社会になるか興味がない	33.3%	16.7%	8.3%	8.3%	0.0%	16.7%	25.0%	8.3%	0.0%	25.0%	25.0%	41.7%

II-5-5 「これからの世の中」×「働くことについて」

児童・生徒に聞いた『これからの世の中』と『働くことについて』の両回答の関係をみると、小学生では、「今より良くなっている」×「働いて自分のゆめをかなえたい」が50.2%であり、中学生では、「今より良くなっている」×「働いて充実感や生きる喜びを感じたい」が44.6%であった。

また、高校生では、「今より良くなっている」×「働いて生きがいや、やりがいを得たい」が55.8%であり、特別支援学校児童・生徒では、「今より悪くなっている」×「働いてほしいものを手に入れたい」、「どのような社会になるか興味がない」×「まだわからない」が54.5%であった。(表II-100～103 参照)

表 II-100 「これからの世の中」×「働くことについて」(小学生)

		働くことについて				
		働いて じゅう 実感や 生き るよ ろこ びを 感じ たい	働いて ほ しい も の を 手 に 入 れ たい	働いて 自 分 の ゆ め を か な え たい	でき ば た く 働 き た く な い	まだ わ か ら な い
こ れ か ら の 世 の 中	今より良くなっている	27.8%	11.1%	50.2%	0.2%	10.8%
	今より悪くなっている	26.2%	21.4%	39.5%	3.3%	9.5%
	わからない	18.6%	13.6%	45.4%	0.9%	21.5%
	関心がない	14.3%	24.5%	24.5%	2.0%	34.7%

表 II-101 「これからの世の中」×「働くことについて」(中学生)

		働くことについて				
		働いて 充 実 感 や 生 き る 喜 び を 感 じ た い	働いて ほ しい も の を 手 に 入 れ たい	働いて 自 分 の 希 望 を か な え たい	でき ば た く 働 き た く な い	まだ わ か ら な い
こ れ か ら の 世 の 中	今より良くなっている	44.6%	19.5%	32.2%	1.3%	2.3%
	今より悪くなっている	37.6%	23.4%	28.6%	2.7%	7.7%
	わからない	31.6%	21.0%	29.4%	1.9%	16.1%
	関心がない	17.2%	23.7%	25.8%	15.1%	18.3%

表 II-102 「これからの世の中」×「働くことについて」(高校生)

		働くことについて				
		働いて 生 き が い や 、 や り が い を 得 た い	働いて ほ しい も の を 手 に 入 れ たい	働いて 自 分 の 希 望 を か な え たい	でき ば た く 働 き た く な い	まだ わ か ら な い
こ れ か ら の 世 の 中	今より良くなっている	55.8%	13.7%	26.2%	2.7%	1.5%
	今より悪くなっている	39.7%	23.2%	25.8%	7.1%	4.3%
	わからない	47.6%	16.3%	23.1%	6.2%	6.8%
	関心がない	23.0%	18.7%	19.4%	15.8%	23.0%

表 II-103 「これからの世の中」×「働くことについて」(特別支援学校児童・生徒)

		働くことについて				
		働いて 充 実 感 や 生 き る よ ろ こ び を 感 じ た い	働いて ほ しい も の を 手 に 入 れ たい	働いて 自 分 の 夢 を か な え たい	でき ば た く 働 き た く な い	まだ わ か ら な い
こ れ か ら の 世 の 中	今より良くなっている	40.6%	21.9%	28.1%	0.0%	9.4%
	今より悪くなっている	9.1%	54.5%	18.2%	0.0%	18.2%
	わからない	28.6%	19.6%	10.7%	0.0%	41.1%
	どのような社会になるか 興味がない	0.0%	9.1%	36.4%	0.0%	54.5%

II-5-6 「相談相手」×「悩んでいること」

児童・生徒に聞いた『相談相手』と『悩んでいること』の両回答の関係をみると、小学生では、「親」×「なやみはない」が 35.0%であり、中学生では、「学校の先生」×「将来のこと」が 32.2%であった。

また、高校生では、「同級の友だち」×「将来のこと」が 46.4%であり、特別支援学校児童・生徒では、「家族」×「将来のこと」が 21.8%であった。(表 II-104~107 参照)

表 II-104 「相談相手」×「なやんでいること」(小学生)

	悩んでいること							
	友だちのこと	学校のこと	家族のこと	将来のこと	からだのこと	異性のこと	その他	なやみはない
親	13.4%	7.5%	6.9%	21.9%	11.3%	2.7%	2.1%	35.0%
兄弟や姉妹	3.5%	2.0%	2.6%	6.6%	2.9%	0.9%	0.6%	10.9%
祖父や祖母	3.3%	2.6%	2.6%	6.5%	3.3%	1.0%	0.6%	8.3%
親せきの大人	1.0%	0.5%	0.6%	1.8%	0.8%	0.6%	0.1%	1.6%
学校の先生	4.5%	2.3%	3.0%	7.7%	5.0%	1.4%	0.9%	10.8%
同級の友だち	11.6%	6.1%	6.1%	18.8%	9.3%	3.3%	1.4%	25.0%
年上の友だち	2.3%	1.0%	1.8%	4.2%	2.3%	1.3%	0.5%	4.8%
近所の人	0.6%	0.2%	0.2%	0.9%	0.3%	0.1%	0.1%	0.8%
じゆくや習い事の先生	1.0%	0.8%	0.5%	2.6%	1.1%	0.2%	0.2%	2.2%
けい帯電話やインターネットなどでやり取りをする相手	1.0%	0.6%	0.6%	1.9%	1.1%	0.1%	0.2%	1.5%
その他	0.8%	0.5%	0.6%	1.4%	0.7%	0.2%	0.2%	0.9%
相談する人がいない	2.1%	0.8%	1.1%	1.2%	0.7%	0.3%	0.2%	1.5%

表 II-105 「相談相手」×「悩んでいること」(中学生)

	悩んでいること							
	友だちのこと	学校のこと	家族のこと	将来のこと	からだのこと	異性のこと	その他	悩みはない
親	10.6%	7.5%	3.0%	25.2%	5.5%	2.2%	2.7%	17.9%
兄弟姉妹	4.3%	3.0%	1.4%	8.8%	1.7%	0.7%	0.6%	6.0%
祖父母	2.4%	1.6%	1.3%	5.0%	0.9%	0.3%	0.3%	3.6%
親せきの大人	0.5%	0.6%	0.6%	1.8%	0.2%	0.2%	0.2%	1.3%
学校の先生	12.7%	10.2%	7.3%	32.2%	5.3%	4.1%	3.6%	21.9%
同級の友だち	4.6%	3.9%	2.2%	8.4%	1.7%	1.1%	1.4%	5.4%
年上の友だち	4.2%	2.7%	2.2%	7.1%	1.2%	1.2%	1.1%	4.2%
近所の人	0.2%	0.5%	0.2%	0.7%	0.2%	0.1%	0.0%	0.8%
塾や習い事の先生	1.8%	1.6%	1.2%	4.2%	0.8%	0.3%	0.4%	2.1%
携帯電話やインターネット等でやり取りをする相手	2.3%	2.4%	1.7%	5.0%	0.8%	1.0%	0.5%	2.7%
その他	1.1%	1.1%	1.0%	1.9%	0.4%	0.2%	1.0%	1.2%
相談する人がいない	1.2%	1.1%	1.1%	3.5%	0.7%	0.4%	0.5%	2.6%

表 II-106 「相談相手」×「悩んでいること」(高校生)

	悩んでいること							
	友だちのこと	学校のこと	家族のこと	将来のこと	からだのこと	異性のこと	その他	悩みはない
親	8.6%	9.7%	4.2%	36.8%	4.8%	4.8%	1.7%	9.4%
兄弟姉妹	4.2%	3.4%	2.3%	12.6%	1.5%	1.7%	0.9%	3.0%
祖父母	0.6%	0.7%	1.1%	3.2%	0.2%	0.5%	0.2%	1.0%
親戚の大人	0.8%	0.7%	0.4%	2.7%	0.4%	0.2%	0.2%	0.8%
学校の先生	2.0%	2.3%	1.2%	9.9%	1.4%	1.1%	0.7%	1.8%
同級の友だち	10.7%	11.2%	6.7%	46.4%	6.2%	7.2%	2.4%	12.8%
年上の友だち	2.8%	3.3%	1.7%	11.0%	1.4%	2.4%	1.0%	2.5%
地域の人	0.2%	0.4%	0.4%	0.5%	0.1%	0.2%	0.1%	0.5%
塾・予備校の先生	0.7%	0.7%	0.4%	3.3%	0.4%	0.5%	0.2%	0.4%
携帯電話やインターネット等でやり取りをする相手	2.0%	1.8%	1.0%	4.9%	0.9%	1.4%	0.3%	1.1%
その他	1.0%	1.1%	0.5%	2.9%	0.8%	0.2%	0.7%	1.4%
相談する人がいない	1.4%	1.4%	1.0%	2.2%	0.8%	0.7%	0.5%	1.8%

表 II-107 「相談相手」×「悩んでいること」(特別支援学校児童・生徒)

		悩んでいること						悩みはない
		友だちのこと	学校のこと	家族のこと	将来のこと	異性のこと	その他	
相談相手	家族	4.0%	7.3%	2.4%	21.8%	0.0%	6.5%	15.3%
	学校の先生	2.4%	5.6%	3.2%	13.7%	0.0%	3.2%	8.1%
	親せきの人	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.8%	0.8%
	同級の友だち	2.4%	1.6%	2.4%	8.9%	0.8%	0.8%	4.0%
	年上の友だち	2.4%	0.0%	1.6%	8.1%	0.0%	0.8%	1.6%
	近所の人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他	0.8%	0.0%	0.8%	0.8%	0.0%	4.0%	2.4%
	相談する人がいない	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	0.8%

II-5-7 「ルール・マナーの意識」×「どのような大人になりたいか」

児童・生徒に聞いた『ルール・マナーの意識』と『どのような大人になりたいか』の両回答の関係をみると、小学生では、「約束を守らない（よくないと思う）」×「たくさんの友だちや仲間がいる人」が44.8%であり、中学生では、「万引きをする（よくないと思う）」×「自分らしさをもっている人」が50.7%であった。

また、高校生では、「万引きをする（よくないと思う）」×「自分らしさをもっている人」が55.8%であり、特別支援学校児童・生徒では、「人に注意されると反抗する（よくない）」×「人を思いやるやさしい人」、《「人のものを勝手に使う（よくない）」×「人を思いやるやさしい人」》、《「遊ぶために夜遅く外出する（よくない）」×「人を思いやるやさしい人」》がともに48.4%であった。（表II-108～111参照）

表 II-108 「ルール・マナーの意しき」×「どのような大人になりたいか」（小学生）

		どのような大人になりたいか														
		自分らしさをもっている人	いつも努力をしている人	いつも新しいことに取り組んでいる人	とてもむずかしいことをやりぬく人	健康で体力に自信がある人	社会の決まりや守るべきことを守る人	得意なことを知っていて、上手にできる人	正しいことや決められたことを最後までやりとげる人	たくさんの友だちや仲間がいる人	人を思いやる心をもっている人	みんなをまとめることができる人	海外で活やくできる人	人の役に立てる人	その他	わからない
約束を守らない	1	38.1%	36.6%	10.0%	18.4%	26.8%	25.0%	17.4%	18.5%	44.8%	38.0%	9.4%	14.6%	34.2%	2.8%	4.1%
	2	0.4%	0.5%	0.1%	0.7%	0.4%	0.1%	0.3%	0.4%	0.6%	0.2%	0.2%	0.4%	0.4%	0.1%	0.2%
	3	1.3%	1.1%	0.6%	0.7%	1.0%	0.7%	0.5%	0.7%	1.0%	0.6%	0.2%	0.4%	1.1%	0.2%	0.3%
電車の中でさわいだり、ゆかにすわりこむ	1	37.7%	36.8%	10.4%	18.7%	26.7%	25.0%	16.8%	19.0%	43.5%	37.6%	9.6%	14.4%	34.5%	2.7%	4.0%
	2	1.1%	0.8%	0.2%	0.7%	0.9%	0.2%	0.7%	0.3%	1.8%	0.2%	0.1%	0.7%	0.7%	0.3%	0.3%
	3	0.9%	0.7%	0.2%	0.4%	0.6%	0.5%	0.6%	0.2%	1.3%	0.9%	0.1%	0.3%	0.6%	0.1%	0.2%
電車の中でけい帯電話をかける	1	30.3%	28.9%	7.7%	15.1%	20.4%	19.5%	13.2%	15.4%	34.0%	31.0%	7.9%	11.7%	27.9%	2.1%	2.4%
	2	4.9%	4.8%	1.4%	3.0%	3.8%	2.7%	2.2%	1.6%	6.9%	3.6%	1.0%	2.2%	4.1%	1.0%	1.2%
	3	4.2%	4.5%	1.6%	1.8%	3.9%	3.5%	2.6%	2.6%	5.4%	4.1%	0.8%	1.5%	3.8%	0.0%	1.0%
注意されると無ししたり反こうしたりする	1	36.5%	35.5%	9.8%	17.2%	24.8%	24.3%	15.9%	18.1%	42.0%	36.4%	8.5%	14.4%	32.9%	2.6%	3.3%
	2	0.9%	1.0%	0.5%	1.4%	1.6%	0.6%	1.2%	0.7%	2.1%	0.7%	0.6%	0.7%	1.0%	0.3%	0.6%
	3	2.3%	1.8%	0.4%	1.2%	1.8%	1.0%	1.1%	0.9%	2.3%	1.7%	0.6%	0.2%	1.9%	0.2%	0.6%
インターネットやメールで人の悪口を書く	1	38.4%	36.8%	10.4%	18.8%	27.3%	25.4%	17.4%	18.8%	44.7%	38.2%	9.4%	14.6%	35.0%	2.8%	3.6%
	2	0.5%	0.6%	0.2%	0.6%	0.5%	0.1%	0.6%	0.3%	1.1%	0.3%	0.1%	0.5%	0.4%	0.2%	0.3%
	3	0.9%	0.8%	0.2%	0.5%	0.5%	0.3%	0.2%	0.6%	0.6%	0.3%	0.3%	0.3%	0.4%	0.1%	0.6%
人のものを勝手に使う	1	36.6%	35.6%	10.0%	18.3%	26.3%	24.9%	16.3%	18.3%	43.1%	36.9%	8.9%	14.4%	33.9%	2.9%	3.7%
	2	0.8%	0.8%	0.1%	0.6%	0.7%	0.2%	0.6%	0.3%	1.2%	0.4%	0.4%	0.4%	0.6%	0.2%	0.2%
	3	2.1%	1.6%	0.6%	0.7%	1.1%	0.6%	1.2%	0.8%	2.1%	1.4%	0.4%	0.5%	1.4%	0.0%	0.6%
遊ぶために夜おそく外出する	1	34.8%	33.8%	9.3%	16.7%	23.9%	23.4%	15.4%	17.5%	39.6%	34.8%	8.9%	12.5%	31.8%	2.3%	3.2%
	2	2.2%	2.5%	0.9%	1.7%	2.1%	1.0%	1.4%	1.1%	3.1%	1.2%	0.7%	1.4%	1.3%	0.6%	0.9%
	3	2.9%	2.1%	0.5%	1.5%	2.2%	1.5%	1.4%	1.0%	3.9%	2.9%	0.2%	1.4%	2.8%	0.2%	0.5%

※ルール・マナーの意識

- 1:よくないと思う
- 2:べつにかまわないと思う
- 3:わからない

表 II-109 「ルール・マナーの意識」×「どのような大人になりたいか」(中学生)

		どのような大人になりたいか														
		自分らしさを大切にしている人	常に努力を惜しまない人	いつも新しいことに挑戦している人	困難を乗り越えられる人	健康で体力に自信がある人	社会のルールやマナーを守る人	専門的なことをよくわかっていたり、上手にできる人	正しいことや決められたことを最後までとげるとる人	たくさんの友だちや仲間がいる人	人を思いやる心をもっている人	リーダーシップをとれる人	海外で活躍できる人	社会の役に立っている人	その他	わからない
約束を守らない	1	47.6%	26.2%	9.0%	30.8%	17.9%	30.3%	12.8%	18.8%	40.9%	42.9%	9.6%	12.1%	16.1%	2.5%	3.5%
	2	2.0%	0.6%	0.5%	1.1%	0.9%	0.6%	0.8%	0.6%	2.0%	0.8%	0.7%	0.7%	0.5%	0.7%	0.6%
	3	2.9%	1.5%	0.8%	1.4%	1.1%	1.2%	0.9%	0.5%	2.9%	2.3%	0.5%	0.8%	0.5%	0.8%	0.8%
電車の中で騒いだり、床に座り込む	1	48.4%	26.1%	8.9%	31.2%	18.2%	30.5%	13.1%	18.7%	41.4%	42.0%	9.1%	11.7%	16.3%	2.7%	3.6%
	2	2.6%	1.4%	0.9%	1.4%	1.2%	0.8%	0.6%	0.6%	2.6%	1.7%	1.3%	1.1%	0.5%	0.8%	0.5%
	3	1.6%	0.8%	0.5%	0.9%	0.7%	0.8%	0.8%	0.6%	1.8%	2.2%	0.3%	0.8%	0.6%	0.2%	0.8%
電車の中で携帯電話をかけたがり、化粧をする	1	37.5%	20.4%	6.8%	24.2%	13.0%	24.2%	9.6%	14.7%	30.2%	32.3%	7.8%	8.9%	12.6%	1.5%	3.3%
	2	8.3%	3.6%	1.8%	4.8%	3.7%	3.6%	2.8%	2.8%	8.0%	6.9%	1.8%	2.9%	2.1%	1.2%	0.7%
	3	6.6%	4.1%	1.6%	4.5%	3.2%	4.1%	2.1%	2.4%	7.6%	6.7%	1.1%	1.7%	2.6%	0.9%	0.8%
注意されると無視したり反抗したりする	1	40.4%	22.9%	7.8%	26.5%	14.9%	26.7%	10.9%	16.2%	34.3%	36.3%	7.8%	10.3%	13.9%	1.7%	3.0%
	2	5.2%	2.1%	1.4%	2.8%	2.3%	2.2%	1.5%	1.4%	5.2%	3.6%	1.4%	1.7%	1.3%	1.3%	0.8%
	3	6.9%	3.3%	1.1%	4.1%	2.9%	3.2%	2.2%	2.4%	6.3%	6.1%	1.4%	1.6%	2.1%	0.6%	1.1%
インターネットやメールで人の悪口を書く	1	46.5%	26.1%	8.3%	30.2%	17.8%	29.0%	12.1%	17.6%	39.4%	41.0%	9.5%	11.8%	15.4%	2.6%	3.4%
	2	2.8%	1.1%	1.1%	1.7%	1.2%	1.1%	0.9%	1.1%	2.6%	2.0%	0.5%	0.9%	0.8%	0.5%	0.6%
	3	3.1%	1.1%	0.8%	1.4%	1.0%	1.9%	1.5%	1.3%	3.7%	2.8%	0.7%	0.9%	1.1%	0.5%	0.8%
人のものを勝手に使う	1	44.9%	24.5%	8.4%	28.3%	17.2%	28.1%	12.8%	17.6%	38.3%	38.5%	9.4%	11.2%	14.8%	2.6%	3.6%
	2	2.6%	1.4%	0.7%	1.7%	1.1%	1.3%	0.5%	1.0%	3.3%	2.4%	0.6%	1.0%	0.6%	0.6%	0.4%
	3	5.1%	2.4%	1.1%	3.3%	1.7%	2.7%	1.3%	1.3%	4.3%	5.0%	0.7%	1.4%	2.0%	0.5%	0.9%
遊ぶために夜遅く外出する	1	33.4%	20.0%	6.1%	22.7%	11.7%	22.1%	9.7%	13.3%	26.4%	30.0%	7.1%	8.5%	12.1%	1.6%	2.2%
	2	12.2%	4.9%	3.2%	6.7%	5.2%	5.6%	3.8%	3.9%	12.8%	10.0%	2.8%	3.3%	3.5%	1.3%	1.7%
	3	6.8%	3.4%	1.0%	3.9%	3.2%	4.4%	1.1%	2.7%	6.5%	5.9%	0.8%	1.7%	1.8%	0.8%	0.9%
たばこを吸ったり、酒を飲んだりする	1	45.2%	24.3%	8.4%	29.0%	16.9%	27.4%	12.2%	17.2%	37.9%	38.6%	9.3%	11.4%	14.9%	2.2%	3.3%
	2	4.7%	2.1%	1.7%	2.4%	2.1%	3.0%	1.4%	1.5%	5.5%	3.7%	0.8%	1.4%	1.5%	1.1%	0.8%
	3	2.5%	1.9%	0.2%	2.0%	0.9%	1.6%	0.9%	1.1%	2.4%	3.4%	0.5%	0.7%	0.9%	0.3%	0.7%
万引きをする	1	50.7%	27.7%	9.3%	32.8%	19.1%	31.5%	13.8%	19.5%	44.2%	44.9%	10.1%	12.8%	17.0%	3.1%	4.4%
	2	0.8%	0.2%	0.5%	0.3%	0.4%	0.2%	0.5%	0.1%	0.8%	0.5%	0.2%	0.3%	0.2%	0.3%	0.2%
	3	0.9%	0.5%	0.3%	0.4%	0.5%	0.3%	0.3%	0.2%	0.8%	0.5%	0.4%	0.4%	0.2%	0.2%	0.3%

表 II-110 「ルール・マナーの意識」×「どのような大人になりたいか」(高校生)

		どのような大人になりたいか														
		自分らしさを大切にしている人	常に努力を惜しまない人	いつも新しいことに挑戦している人	困難を乗り越えられる人	健康で体力に自信がある人	社会のルールやマナーを守る人	専門的なことをよくわかっていたり、上手にできる人	正しいことや決められたことを最後までとげるとる人	たくさんの友だちや仲間がいる人	人を思いやる心をもっている人	リーダーシップをとれる人	海外で活躍できる人	社会の役に立っている人	その他	わからない
約束を守らない	1	53.3%	27.0%	10.6%	29.2%	13.2%	25.8%	20.2%	16.1%	35.0%	40.7%	11.2%	8.9%	15.3%	1.9%	2.6%
	2	1.2%	0.7%	0.8%	0.5%	0.8%	0.4%	1.0%	0.4%	1.1%	0.9%	0.1%	0.3%	0.4%	0.4%	0.4%
	3	3.5%	1.0%	1.0%	1.4%	0.8%	1.0%	1.0%	0.5%	2.2%	2.1%	0.4%	0.4%	0.5%	0.2%	1.0%
電車の中で騒いだり、床に座り込む	1	55.0%	27.2%	11.0%	29.6%	13.7%	26.4%	20.9%	16.3%	36.0%	41.9%	11.2%	8.7%	15.6%	2.2%	3.0%
	2	1.4%	0.8%	0.6%	0.7%	0.7%	0.3%	0.8%	0.2%	1.3%	0.7%	0.3%	0.4%	0.5%	0.2%	0.2%
	3	1.7%	0.7%	0.7%	1.0%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	0.9%	1.1%	0.1%	0.5%	0.2%	0.1%	0.9%
電車の中で携帯電話をかけたがり、化粧をする	1	46.1%	23.3%	9.6%	25.6%	11.7%	22.1%	17.6%	13.8%	29.5%	35.3%	9.7%	7.7%	13.2%	1.8%	2.3%
	2	6.7%	3.1%	1.7%	3.2%	1.5%	2.6%	2.4%	1.5%	5.0%	4.4%	1.1%	1.1%	1.7%	0.4%	0.8%
	3	5.1%	2.1%	1.0%	2.2%	1.6%	2.3%	2.1%	1.5%	3.8%	4.0%	0.9%	0.8%	1.3%	0.3%	0.9%
注意されると無視したり反抗したりする	1	44.9%	23.4%	9.1%	24.7%	11.1%	21.9%	16.6%	14.3%	29.4%	35.3%	9.7%	7.8%	13.5%	1.6%	2.1%
	2	5.6%	2.4%	1.7%	2.9%	1.8%	2.5%	2.9%	1.1%	4.1%	3.2%	1.2%	0.8%	1.0%	0.5%	0.7%
	3	7.3%	2.7%	1.5%	3.5%	1.9%	2.8%	2.6%	1.5%	4.8%	5.2%	0.8%	1.0%	1.8%	0.3%	1.3%
インターネットやメールで人の悪口を書く	1	48.8%	25.0%	9.7%	26.8%	12.5%	23.1%	17.9%	14.5%	32.5%	37.7%	9.7%	8.1%	14.3%	1.9%	2.6%
	2	5.0%	1.7%	1.4%	1.8%	1.3%	2.1%	2.4%	1.0%	2.7%	2.7%	1.0%	0.8%	1.0%	0.5%	0.5%
	3	4.2%	1.7%	1.2%	2.5%	1.0%	1.8%	1.8%	1.4%	3.1%	3.0%	1.0%	0.8%	1.0%	0.1%	1.0%
人のものを勝手に使う	1	47.5%	23.6%	9.0%	25.8%	12.3%	23.4%	18.7%	14.5%	31.1%	36.8%	10.2%	7.7%	14.1%	1.5%	2.5%
	2	4.7%	2.1%	1.3%	1.7%	1.0%	1.0%	1.5%	1.1%	2.9%	2.2%	0.5%	0.8%	1.1%	0.5%	0.5%
	3	5.8%	2.9%	2.0%	3.6%	1.5%	2.7%	2.0%	1.4%	4.2%	4.7%	1.0%	1.1%	1.1%	0.4%	1.1%
遊ぶために夜遅く外出する	1	29.2%	15.6%	6.1%	16.3%	6.7%	14.4%	11.0%	8.8%	17.5%	21.6%	6.2%	5.0%	8.8%	1.1%	1.2%
	2	20.6%	9.1%	4.3%	10.5%	5.9%	9.3%	7.7%	5.8%	15.5%	16.4%	3.9%	3.5%	5.0%	1.1%	1.7%
	3	8.0%	3.9%	1.8%	4.3%	2.1%	3.4%	3.4%	2.3%	5.0%	5.6%	1.4%	1.1%	2.5%	0.2%	1.0%
たばこを吸ったり、酒を飲んだりする	1	46.0%	23.8%	9.1%	25.2%	11.8%	22.4%	16.8%	14.4%	30.0%	35.0%	9.6%	7.3%	12.9%	1.5%	2.1%
	2	7.5%	2.9%	2.1%	3.3%	2.0%	2.7%	3.5%	1.3%	5.0%	5.0%	1.5%	1.5%	2.3%	0.8%	0.8%
	3	4.6%	1.9%	1.1%	2.7%	1.0%	2.1%	1.8%	1.2%	3.1%	3.7%	0.6%	0.8%	1.1%	0.1%	1.1%
万引きをする	1	55.8%	27.4%	11.2%	30.0%	14.4%	26.0%	21.1%	16.6%	36.6%	42.6%	11.0%	9.0%	15.6%	2.3%	3.3%
	2	1.2%	0.7%	0.4%	0.6%	0.2%	1.0%	0.7%	0.1%	0.8%	0.4%	0.3%	0.2%	0.3%	0.1%	0.2%
	3	1.1%	0.6%	0.7%	0.5%	0.2%	0.2%	0.4%	0.3%	0.8%	0.6%	0.3%	0.4%	0.4%	0.1%	0.6%

※ルール・マナーの意識

- 1:よくないと思う
- 2:べつにかまわないと思う
- 3:わからない

表 II-111 「ルール・マナーの意識」×「どのような大人になりたいか」(特別支援学校児童・生徒)

		どのような大人になりたいか											
		自分らしきをもっている人	いつも努力をしている人	いつも新しいことに取り組んでいる人	とてもむずかしいことをやりぬく人	いろいろなことをよく知っている人	正しいことを最後までやりとげる人	たくさんの友だちがいる人	人を思いやるやさしい人	みんなをまとめることができる人	人の役に立てる人	その他	わからない
約束を守らない	1	33.1%	29.0%	11.3%	8.9%	13.7%	19.4%	22.6%	47.6%	12.1%	29.0%	1.6%	13.7%
	2	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	1.6%	0.0%	0.8%	0.0%	0.8%
電車の中で携帯電話をかける	1	32.3%	26.6%	10.5%	8.1%	11.3%	18.5%	21.8%	46.8%	11.3%	28.2%	2.4%	12.1%
	2	2.4%	1.6%	0.0%	0.0%	2.4%	0.8%	1.6%	2.4%	0.8%	1.6%	0.0%	1.6%
人に注意されると反抗する	1	33.1%	28.2%	9.7%	8.1%	11.3%	18.5%	21.8%	48.4%	12.1%	28.2%	1.6%	12.9%
	2	2.4%	0.0%	1.6%	0.0%	2.4%	0.8%	2.4%	0.8%	0.0%	0.8%	0.8%	0.0%
インターネットやメールで人の悪口を書く	1	33.1%	28.2%	10.5%	8.1%	12.9%	19.4%	21.0%	47.6%	12.1%	28.2%	1.6%	12.9%
	2	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	2.4%	1.6%	0.0%	0.8%	0.8%	0.0%
人のものを勝手に使う	1	34.7%	28.2%	11.3%	8.1%	13.7%	19.4%	23.4%	48.4%	12.1%	29.8%	2.4%	13.7%
	2	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
遊ぶために夜遅く外出する	1	33.1%	28.2%	9.7%	8.1%	12.9%	19.4%	21.8%	48.4%	12.1%	29.0%	1.6%	12.1%
	2	1.6%	0.0%	0.8%	0.0%	0.8%	0.0%	1.6%	0.8%	0.0%	0.0%	0.8%	0.8%

※ルール・マナーの意識

1:よくない

2:かまわない

II-5-8 「働くことについて」×「勉強する理由」

児童・生徒に聞いた『働くことについて』と『勉強する理由』の両回答の関係をみると、小学生では、「働いて自分のゆめをかなえたい」×「りっぱな大人になるため」が 23.0%であり、中学生では、「働いて充実感や生きる喜びを感じたい」×「高校や大学に進学したいから」が 15.7%であった。

また、高校生では、「働いて生きがいや、やりがいを得たい」×「将来何かの役に立つと思うから」が 17.5%であり、特別支援学校児童・生徒では、「働いて充実感や生きるよろこびを感じたい」×「学校で学んだことが、将来何かの役に立つと思うから」が 12.1%であった。(表II-112～115 参照)

表 II-112 「働くことについて」×「勉強する理由」(小学生)

		勉強する理由								
		新しいことを知ったり、わかることが楽しいから	りっぱな大人になるため	高校や大学などに行きたいから	やりたい仕事があるから	将来何かの役に立つと思うから	先生や親から「勉強しなさい」と言われるから	友だちに負けたくないから	その他	わからない
働くことについて	働いてじゅう実感や生きるよろこびを感じたい	8.1%	12.3%	6.6%	4.3%	11.6%	0.8%	1.3%	0.8%	0.6%
	働いてほしいものを手に入れたい	2.3%	6.7%	3.6%	2.7%	4.9%	1.8%	1.2%	0.4%	1.0%
	働いて自分のゆめをかなえたい	11.2%	23.0%	10.2%	11.5%	21.5%	2.6%	2.7%	1.2%	1.1%
	できれば働きたくない	0.1%	0.1%	0.2%	0.0%	0.5%	0.2%	0.2%	0.0%	0.2%
	まだわからない	3.3%	6.1%	2.1%	0.6%	6.5%	1.3%	1.2%	0.5%	2.2%

表 II-113 「働くことについて」×「勉強する理由」(中学生)

		勉強する理由								
		新しい知識を知ったり、わかることが楽しいから	立派な大人になるため	高校や大学に進学したいから	やりたい仕事があるから	将来何かの役に立つと思うから	先生や親から「勉強しなさい」と言われるから	友だちに負けたくないから	その他	わからない
働くことについて	働いて充実感や生きる喜びを感じたい	7.5%	11.4%	15.7%	7.6%	14.5%	2.4%	3.2%	1.1%	1.8%
	働いてほしいものを手に入れたい	2.4%	5.4%	11.6%	3.8%	6.8%	4.0%	1.3%	0.3%	1.1%
	働いて自分の希望をかなえたい	4.2%	7.7%	14.1%	10.2%	12.0%	2.3%	1.8%	0.8%	1.1%
	できれば働きたくない	0.2%	0.8%	1.1%	0.5%	0.5%	1.0%	0.2%	0.4%	0.4%
	まだわからない	1.1%	2.6%	3.6%	0.5%	4.0%	1.2%	0.7%	0.3%	2.0%

表 II-114 「働くことについて」 × 「勉強する理由」 (高校生)

		勉強する理由								
		新しい知識を得たり、理解することが楽しいから	立派な大人になるため	進学したいから	やりたい仕事があるから	将来何かの役に立つと思うから	先生や親から「勉強しなさい」と言われるから	友だちに負けたくないから	その他	わからない
働くことについて	働いて生きがいや、やりがいを得たい	9.0%	10.5%	15.8%	11.5%	17.5%	1.9%	1.8%	0.8%	1.9%
	働いてほしいものを手に入れたい	2.0%	3.4%	6.9%	3.2%	6.2%	2.6%	1.0%	0.5%	1.7%
	働いて自分の希望をかなえたい	3.8%	4.7%	8.3%	9.4%	8.9%	1.1%	1.0%	0.5%	1.0%
	できれば働きたくない	1.1%	0.5%	2.2%	0.4%	1.4%	0.7%	0.3%	0.6%	1.2%
	まだわからない	1.0%	0.7%	1.4%	0.5%	1.6%	0.3%	0.3%	0.3%	2.3%

表 II-115 「働くことについて」 × 「学校に行く理由」 (特別支援学校児童・生徒)

		学校に行く理由							
		新しいことを知ることが楽しいから	立派な大人になるため	やりたいことがあるから	学校で学んだことが、将来役に立つと思うから	先生や親から「学校に行きなさい」と言われるから	友だちに負けたくないから	その他	わからない
働くことについて	働いて充実感や生きるよろこびを感じたい	4.8%	8.9%	4.0%	12.1%	2.4%	2.4%	0.0%	3.2%
	働いてほしいものを手に入れたい	7.3%	5.6%	4.0%	8.1%	4.0%	0.0%	1.6%	3.2%
	働いて自分の夢をかなえたい	6.5%	4.8%	2.4%	11.3%	1.6%	2.4%	0.8%	0.8%
	できれば働きたくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	まだわからない	6.5%	1.6%	3.2%	6.5%	4.8%	0.0%	4.8%	7.3%

II-5-9 「勉強する理由」×「教わりたい先生」

児童・生徒に聞いた『勉強する理由』と『教わりたい先生』の両回答の関係をみると、小学生では、「りっぱな大人になるため」×「わかりやすい授業をしてくれる」が 37.3%であり、中学生では、「高校や大学に進学したいから」×「わかりやすい授業をしてくれる」が 33.5%であった。

また、高校生では、「進学したいから」×「わかりやすい授業をしてくれる」が 26.0%であり、特別支援学校児童・生徒では、「学校で学んだことが、将来役に立つと思うから」×「自分たちのことをよくわかってくれる先生」が 25.8%であった。(表 II-116～119 参照)

表 II-116 「勉強する理由」×「教わりたい先生」(小学生)

	教わりたい先生										
	わかりやすい授業をしてくれる	社会の決まりや守るべきことを教えてくれる	自分たちのことをわかって、しかったり、ほめたりしてくれる	やる気にさせてくれる	たんにんとして、クラスをまとめてくれる	何でもいっしょになってやってくれる	自分の目標や手本になってくれる	何でもよく知っている	その他	わからない	
勉強する理由	新しいことを知ったり、わかることが楽しいから	19.5%	4.1%	13.3%	9.6%	3.4%	4.1%	3.7%	4.3%	0.6%	1.0%
	りっぱな大人になるため	37.3%	7.4%	26.3%	20.1%	7.1%	7.5%	6.7%	8.6%	2.9%	1.0%
	高校や大学などに行きたいから	15.9%	2.6%	12.2%	8.1%	3.9%	4.0%	3.0%	4.2%	2.4%	0.6%
	やりたい仕事があるから	13.6%	2.7%	10.6%	7.3%	3.3%	3.6%	3.5%	4.3%	1.6%	0.4%
	しょう来何かの役に立つと思うから	33.3%	6.0%	26.3%	16.7%	6.1%	8.1%	6.3%	8.4%	2.7%	1.3%
	先生や親から「勉強しなさい」と言われるから	3.6%	0.8%	2.5%	2.1%	0.7%	1.5%	0.4%	1.8%	0.8%	0.7%
	友だちに負けたくないから	4.9%	0.2%	3.4%	2.9%	0.8%	1.5%	0.9%	1.7%	0.6%	0.2%
	その他	1.5%	0.3%	1.2%	0.9%	0.2%	0.4%	0.4%	0.4%	1.0%	0.2%
	わからない	2.4%	0.1%	1.2%	0.9%	0.3%	0.9%	0.6%	0.9%	0.5%	1.4%

表 II-117 「勉強する理由」×「教わりたい先生」(中学生)

	教わりたい先生											
	わかりやすい授業をしてくれる	社会のルールやマナーを教えてくれる	自分たちのことをわかって、しかったり、ほめたりしてくれる	やる気を出させ、意欲を高めてくれる	学級担任として、クラスをまとめてくれる	将来や進路の相談に乗ってくれる	生徒と一緒に何でもやってくれる	自分の目標や手本になってくれる	何でもよく知っている	その他	わからない	
勉強する理由	新しい知識を知ったり、わかることが楽しいから	11.9%	2.1%	6.9%	6.8%	1.4%	3.1%	5.5%	2.7%	2.4%	0.8%	0.2%
	立派な大人になるため	21.1%	3.3%	12.4%	12.8%	2.7%	5.2%	10.7%	3.8%	3.3%	0.8%	0.3%
	高校や大学に進学したいから	33.5%	3.4%	18.6%	19.5%	3.6%	12.2%	17.2%	4.7%	5.1%	2.7%	1.3%
	やりたい仕事があるから	16.0%	2.2%	9.7%	8.8%	2.1%	5.5%	8.1%	3.3%	3.5%	0.6%	0.8%
	将来何かの役に立つと思うから	27.4%	3.3%	15.8%	17.5%	3.9%	7.9%	13.9%	6.0%	4.4%	1.9%	0.5%
	先生や親から「勉強しなさい」と言われるから	7.1%	0.4%	3.7%	4.9%	1.1%	2.3%	4.8%	1.4%	1.2%	0.8%	0.8%
	友だちに負けたくないから	4.8%	0.7%	2.9%	3.3%	1.0%	1.5%	3.0%	1.4%	1.1%	0.5%	0.2%
	その他	1.5%	0.2%	0.9%	0.8%	0.2%	0.5%	1.0%	0.4%	0.2%	0.7%	0.3%
	わからない	3.1%	0.2%	1.1%	1.8%	0.2%	0.5%	1.6%	0.5%	0.7%	0.6%	1.8%

表 II-118 「勉強する理由」×「教わりたい先生」(高校生)

	教わりたい先生											
	わかりやすい授業をしてくれる	社会のルールやマナーを教えてくれる	自分たちのことをわかってくれて、しかったり、ほめたりしてくれる	やる気を出させ、意欲を高めてくれる	学級担任として、クラスをまとめてくれる	一人ひとりに応じた進路指導をしてくれる	生徒と一緒になつて何でもしてくれる	自分の目標や手本になってくれる	何でもよく知っている	その他	わからない	
勉強する理由	新しい知識を得たり、理解することが楽しいから	13.1%	2.5%	4.9%	6.4%	0.7%	3.0%	3.4%	3.2%	2.2%	0.4%	0.5%
	立派な大人になるため	14.4%	3.0%	8.6%	8.7%	0.9%	3.9%	6.0%	4.0%	1.7%	0.1%	0.4%
	進学したいから	26.0%	3.0%	11.8%	16.6%	1.2%	7.2%	8.9%	5.6%	3.6%	1.1%	0.8%
	やりたい仕事があるから	17.4%	2.4%	9.3%	11.6%	1.0%	5.8%	7.1%	5.8%	2.4%	0.7%	0.5%
	将来何かの役に立つと思うから	25.5%	3.9%	13.4%	16.1%	1.5%	8.5%	11.3%	6.5%	3.3%	0.6%	0.8%
	先生や親から「勉強しなさい」と言われるから	4.5%	0.7%	2.3%	2.6%	0.4%	1.7%	1.8%	1.1%	1.1%	0.2%	0.4%
	友だちに負けたくないから	3.1%	0.5%	1.2%	2.3%	0.3%	1.0%	1.5%	1.0%	0.5%	0.1%	0.2%
	その他	1.7%	0.1%	0.5%	1.1%	0.2%	0.3%	0.6%	0.4%	0.5%	0.7%	0.1%
わからない	3.2%	0.4%	1.4%	1.9%	0.1%	1.0%	1.5%	0.9%	0.7%	0.6%	2.7%	

表 II-119 「学校に行く理由」×「教わりたい先生」(特別支援学校児童・生徒)

	教わりたい先生										
	わかりやすい授業をしてくれる先生	何でもいっしょになってやってくれる先生	自分たちのことをよくわかってくれる先生	きびしくしかってくれる先生	やさしくほめてくれる先生	やる気にさせてくれる先生	自分の目標や手本になってくれる先生	何でもよく知っている先生	その他	わからない	
学校に行く理由	新しいことを知ることが楽しいから	12.1%	11.3%	14.5%	1.6%	13.7%	5.6%	2.4%	4.8%	0.0%	0.0%
	立派な大人になるため	12.1%	8.1%	11.3%	0.8%	11.3%	4.0%	3.2%	4.8%	0.8%	0.0%
	やりたいことがあるから	7.3%	5.6%	7.3%	0.8%	4.8%	7.3%	1.6%	3.2%	0.8%	0.0%
	学校で学んだことが、将来役に立つと思うから	23.4%	10.5%	25.8%	0.8%	16.9%	12.1%	5.6%	6.5%	0.8%	0.0%
	先生や親から「学校に行きなさい」と言われるから	4.8%	4.0%	6.5%	1.6%	5.6%	4.0%	2.4%	1.6%	0.8%	0.0%
	友だちに負けたくないから	4.0%	1.6%	1.6%	0.0%	0.8%	0.8%	0.8%	2.4%	0.0%	0.0%
	その他	3.2%	0.0%	6.5%	0.0%	2.4%	3.2%	0.8%	0.8%	0.8%	0.8%
わからない	2.4%	2.4%	6.5%	0.8%	2.4%	4.0%	2.4%	1.6%	0.8%	4.8%	

Ⅱ-5-10 「学校がどのようになったらよいか」×「どのような大人になりたいか」

児童・生徒に聞いた『学校がどのようになったらよいか』と『どのような大人になりたいか』の両回答の関係をみると、小学生では、「学校の活動で、いろいろな体験をする場面がもっとふえる」×「たくさんの友だちや仲間がいる人」が17.5%であり、中学生では、「学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになる」×「自分らしさをもっている人」が22.5%であった。

また、高校生では、「学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになる」×「自分らしさをもっている人」が21.3%であり、特別支援学校児童・生徒では、「いろいろな体験をする場面がもっと増える」×「人を思いやるやさしい人」が23.4%であった。(表Ⅱ-120～127参照)

表 II-120 「これからの学校について」×「どのような大人になりたいか」(小学生) ①

	どのような大人になりたいか								
	自分らしさをもっている人	いつも努力をしている人	いつも新しいことに取り組んでいる人	とてもむずかしいことをやりぬく人	健康で体力に自信がある人	社会の決まりや守るべきことを守る人	得意なことをくわしく知っていたり、上手にできる人	正しいことや決められたことを最後までやりとげる人	
これからの学校について	勉強の時間や内ようがふえても、一人ひとりの進み方に合わせて勉強させてくれる	10.7%	11.4%	2.9%	5.9%	7.3%	6.9%	4.8%	5.3%
	同級生や上級生、下級生といっしょに行事などをする場面がふえる	9.8%	9.1%	2.8%	4.9%	6.2%	5.4%	3.3%	5.7%
	学校の活動で、いろいろな体験をする場面がもっとふえる	14.8%	14.9%	4.2%	6.9%	9.3%	8.8%	6.8%	7.7%
	いろいろなけい験をした学校外の人に会うことができる	4.9%	5.5%	1.4%	3.0%	3.9%	3.5%	2.4%	2.2%
	社会のことや大人になったときのことをたくさん教えてくれる	5.3%	4.8%	1.2%	2.5%	3.7%	4.1%	2.4%	3.3%
	学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる	13.5%	12.0%	3.2%	5.7%	9.4%	9.3%	6.1%	5.9%
	ほかの学校にじまんでできることがある	6.6%	5.6%	2.1%	3.3%	5.1%	4.4%	3.3%	2.9%
	その他	1.3%	1.4%	0.5%	0.8%	1.4%	0.6%	1.0%	0.7%
	わからない	2.2%	2.4%	0.7%	1.5%	2.5%	1.7%	1.4%	1.0%

表 II-121 「これからの学校について」×「どのような大人になりたいか」(小学生) ②

	どのような大人になりたいか							
	たくさんの友だちや仲間がいる人	人を思いやる心をもっている人	みんなをまとめることができる人	海外で活やくできる人	人の役に立てる人	その他	わからない	
これからの学校について	勉強の時間や内ようがふえても、一人ひとりの進み方に合わせて勉強させてくれる	10.3%	11.2%	2.1%	3.7%	8.4%	0.8%	0.5%
	同級生や上級生、下級生といっしょに行事などをする場面がふえる	10.7%	9.1%	2.7%	3.6%	8.4%	0.4%	0.3%
	学校の活動で、いろいろな体験をする場面がもっとふえる	17.5%	13.8%	3.8%	6.0%	14.4%	1.0%	0.4%
	いろいろなけい験をした学校外の人に会うことができる	7.1%	4.1%	0.7%	2.8%	5.4%	0.4%	0.2%
	社会のことや大人になったときのことをたくさん教えてくれる	4.9%	5.4%	1.3%	2.6%	4.7%	0.1%	0.2%
	学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる	16.3%	14.5%	3.2%	3.7%	12.2%	0.8%	0.9%
	ほかの学校にじまんでできることがある	9.4%	6.3%	1.9%	3.2%	7.4%	0.8%	0.2%
	その他	1.7%	1.0%	0.2%	0.6%	1.0%	0.5%	0.6%
	わからない	3.8%	2.6%	0.8%	0.8%	1.9%	0.2%	2.4%

表 II-122 「これからの学校のあり方」×「どのような大人になりたいか」(中学生) ①

		どのような大人になりたいか							
		自分らしさをもっている人	常に努力をおしまない人	いつも新しいことに取り組んでいる人	困難を乗り越えられる人	健康で体力に自信がある人	社会のルールやマナーを守る人	専門的なことをくわしく知ったり、上手にできる人	正しいことや決められたことを最後までやりとげる人
これからの学校のあり方	勉強の時間や内容が増えても、一人ひとりに合わせて指導してくれる	15.8%	9.6%	2.8%	9.7%	4.3%	9.1%	4.5%	6.0%
	同級生や上級生、下級生と一緒に行事などに取り組む機会が増える	12.6%	6.2%	2.6%	7.5%	5.5%	6.6%	2.4%	4.6%
	学校の活動で、いろいろな体験をする機会がもっと増える	14.7%	8.0%	3.0%	10.3%	6.2%	9.0%	3.6%	5.5%
	いろいろな経験をもった人と接する時間や場がある	6.9%	4.3%	1.9%	4.4%	2.8%	3.9%	1.7%	2.4%
	社会のことや大人になったときのことをたくさん教えてくれる	6.8%	4.8%	1.6%	5.4%	2.8%	5.4%	2.7%	3.4%
	学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる	22.5%	11.2%	3.8%	16.0%	8.7%	15.5%	6.0%	9.5%
	ほかの学校に自慢できることがある	8.2%	4.4%	2.0%	4.7%	4.0%	4.6%	2.4%	3.1%
	その他	1.8%	1.3%	0.3%	1.0%	0.7%	1.1%	0.5%	0.4%
	わからない	3.9%	2.1%	1.1%	2.0%	1.5%	2.6%	1.1%	1.5%

表 II-123 「これからの学校のあり方」×「どのような大人になりたいか」(中学生) ②

		どのような大人になりたいか						
		たくさんの友だちや仲間がいる人	人を思いやる心をもっている人	リーダーシップをとれる人	海外で活躍できる人	社会の役に立てる人	その他	わからない
これからの学校のあり方	勉強の時間や内容が増えても、一人ひとりに合わせて指導してくれる	10.7%	13.2%	2.5%	2.7%	4.8%	0.6%	0.8%
	同級生や上級生、下級生と一緒に行事などに取り組む機会が増える	12.1%	11.1%	2.4%	2.7%	4.0%	1.1%	0.5%
	学校の活動で、いろいろな体験をする機会がもっと増える	13.7%	13.8%	4.0%	4.6%	5.2%	0.5%	0.2%
	いろいろな経験をもった人と接する時間や場がある	5.4%	5.9%	1.4%	2.5%	2.1%	0.2%	0.5%
	社会のことや大人になったときのことをたくさん教えてくれる	5.2%	6.2%	1.4%	1.7%	3.6%	0.2%	0.2%
	学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる	21.4%	22.3%	3.9%	5.3%	8.2%	1.3%	1.1%
	ほかの学校に自慢できることがある	7.3%	6.5%	2.4%	2.8%	2.3%	0.6%	0.5%
	その他	2.1%	1.4%	0.7%	0.8%	0.4%	0.9%	0.5%
	わからない	3.7%	2.7%	0.8%	1.1%	1.1%	0.5%	2.1%

表 II-124 「これからの学校のあり方」×「どのような大人になりたいか」(高校生) ①

	どのような大人になりたいか								
	自分らしさをもっている人	常に努力を惜しまない人	いつも新しいことに取り組んでいる人	困難を乗り越えられる人	健康で体力に自信がある人	社会のルールやマナーを守る人	専門的なことをくわしく知っていたり、上手にできる人	正しいことや決められたことを最後までやりとげる人	
これからの学校のあり方	勉強の時間や内容が増えても、一人ひとりに合わせて指導してくれる	13.7%	8.7%	2.9%	8.6%	3.6%	7.7%	6.1%	4.8%
	同級生や上級生、下級生と一緒に行事などに取り組む機会が増える	11.2%	6.2%	2.6%	5.6%	2.6%	4.8%	3.1%	3.0%
	学校の活動で、いろいろな体験をする機会がもっと増える	15.1%	7.5%	3.7%	8.0%	4.0%	5.8%	5.0%	3.9%
	豊富な経験をもった人と接する時間や場がある	7.4%	4.5%	2.6%	4.7%	2.3%	2.8%	4.2%	2.4%
	社会のことや大人になったときのことをたくさん教えてくれる	10.8%	6.1%	2.4%	5.9%	2.8%	5.9%	4.2%	4.3%
	学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる	21.3%	9.6%	3.0%	12.5%	4.8%	10.2%	8.5%	6.7%
	ほかの学校に自慢できることがある	8.7%	4.5%	1.7%	4.8%	1.9%	4.8%	3.3%	2.8%
	その他	1.8%	0.5%	0.5%	0.9%	0.5%	0.4%	0.8%	0.2%
	わからない	4.7%	1.6%	1.0%	2.1%	1.4%	2.3%	1.5%	0.8%

表 II-125 「これからの学校のあり方」×「どのような大人になりたいか」(高校生) ②

	どのような大人になりたいか							
	たくさんの友だちや仲間がいる人	人を思いやる心をもっている人	リーダーシップのとれる人	海外で活躍できる人	社会の役に立てる人	その他	わからない	
これからの学校のあり方	勉強の時間や内容が増えても、一人ひとりに合わせて指導してくれる	8.3%	10.5%	3.0%	2.4%	4.9%	0.4%	0.3%
	同級生や上級生、下級生と一緒に行事などに取り組む機会が増える	9.2%	9.6%	2.2%	2.3%	3.1%	0.2%	0.3%
	学校の活動で、いろいろな体験をする機会がもっと増える	10.2%	11.2%	3.0%	2.8%	4.0%	0.4%	0.1%
	豊富な経験をもった人と接する時間や場がある	3.4%	5.6%	1.8%	1.2%	2.3%	0.4%	0.2%
	社会のことや大人になったときのことをたくさん教えてくれる	5.9%	8.1%	2.0%	1.3%	3.7%	0.2%	0.4%
	学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる	15.9%	18.2%	4.6%	3.1%	5.8%	0.5%	0.6%
	ほかの学校に自慢できることがある	7.4%	7.2%	2.1%	1.7%	2.5%	0.4%	0.2%
	その他	0.8%	1.0%	0.4%	0.4%	0.4%	0.8%	0.2%
	わからない	2.8%	2.9%	0.4%	0.8%	0.8%	0.3%	2.5%

表 II-126 「これからの学校」×「どのような大人になりたいか」(特別支援学校児童・生徒) ①

		どのような大人になりたいか							
		自分らしさをもっている人	いつも努力をしている人	いつも新しいことに取り組んでいる人	とてもむずかしいことをやりぬく人	いろいろなことをよく知っている人	正しいことを最後までやりとげる人	たくさんの友だちがいる人	人を思いやるやさしい人
これからの学校	一人ひとりに対し、もっといねいにめんどろを見てくれる	9.7%	7.3%	3.2%	0.8%	3.2%	3.2%	4.0%	9.7%
	みんなといっしょに行事をする回数が増える	11.3%	8.9%	2.4%	4.0%	3.2%	5.6%	7.3%	11.3%
	いろいろな体験をする場面がもっと増える	16.1%	13.7%	6.5%	3.2%	5.6%	8.9%	14.5%	23.4%
	いろいろな経験をしているたくさんの人に会える	6.5%	8.1%	2.4%	4.0%	3.2%	4.0%	8.1%	12.1%
	世の中のことをたくさん教えてくれる	6.5%	6.5%	2.4%	1.6%	4.0%	6.5%	2.4%	10.5%
	いごちのいいところがある	9.7%	7.3%	2.4%	0.0%	2.4%	4.0%	6.5%	14.5%
	ほかの学校にじまんでできるものがある	2.4%	1.6%	0.0%	0.8%	2.4%	3.2%	0.0%	2.4%
	その他	0.8%	0.8%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.8%
	わからない	1.6%	1.6%	0.0%	0.8%	1.6%	0.8%	1.6%	4.8%

表 II-127 「これからの学校」×「どのような大人になりたいか」(特別支援学校児童・生徒) ②

		どのような大人になりたいか			
		みんなをまとめることができる人	人の役に立てる人	その他	わからない
これからの学校	一人ひとりに対し、もっといねいにめんどろを見てくれる	4.0%	5.6%	1.6%	3.2%
	みんなといっしょに行事をする回数が増える	4.0%	7.3%	0.8%	1.6%
	いろいろな体験をする場面がもっと増える	5.6%	12.9%	1.6%	6.5%
	いろいろな経験をしているたくさんの人に会える	2.4%	4.8%	0.0%	3.2%
	世の中のことをたくさん教えてくれる	0.8%	7.3%	0.0%	0.8%
	いごちのいいところがある	4.8%	7.3%	0.8%	4.0%
	ほかの学校にじまんでできるものがある	0.0%	2.4%	0.0%	0.8%
	その他	0.8%	1.6%	0.8%	0.0%
	わからない	0.8%	4.0%	0.8%	4.0%

II-5-11 「学校がどのようになったらよいか」×「働くことについて」

児童・生徒に聞いた『これからの学校のあり方』と『働くことについて』の両回答の関係を見ると、小学生では、「学校の活動で、いろいろな体験をする場面がもっとふえる」×「働いて自分のゆめをかなえたい」が 17.5%であり、中学生では、「学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる」×「働いて充実感や生きる喜びを感じたい」が 15.6%であった。

また、高校生では、「学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる」×「働いて生きがいや、やりがいを得たい」が 16.0%であり、特別支援学校児童・生徒では、「いろいろな体験をする場面がもっと増える」×「働いて充実感や生きるよろこびを感じたい」、
 「いろいろな体験をする場面がもっと増える」×「働いて自分の夢をかなえたい」がともに 10.5%であった。(表 II-128～131 参照)

表 II-128 「これからの学校について」×「働くことについて」(小学生)

		働くことについて				
		働いてじゅう実感や生きるよろこびを感じたい	働いてほしいものを手に入りたい	働いて自分のゆめをかなえたい	できれば働きたくない	まだわからない
これからの学校について	勉強の時間や内ようがふえても、一人ひとりの進み方に合わせて勉強させてくれる	7.0%	3.3%	11.2%	0.2%	2.9%
	同級生や上級生、下級生といっしょに行事などをする場面がふえる	8.1%	2.0%	9.0%	0.0%	2.3%
	学校の活動で、いろいろな体験をする場面がもっとふえる	8.5%	4.5%	17.5%	0.3%	4.2%
	いろいろなけい験をした学校外の人に会うことができる	3.0%	1.8%	6.5%	0.1%	1.2%
	社会のことや大人になったときのことをたくさん教えてくれる	3.6%	1.6%	6.0%	0.0%	1.4%
	学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる	7.9%	4.7%	15.4%	0.2%	3.7%
	ほかの学校にじまんでできることがある	3.7%	2.8%	9.0%	0.1%	1.5%
	その他	0.6%	1.2%	1.0%	0.4%	0.6%
	わからない	1.1%	1.5%	2.8%	0.2%	3.4%

表 II-129 「これからの学校のあり方」×「働くことについて」(中学生)

		働くことについて				
		働いて充実感や生きる喜びを感じたい	働いてほしいものを手に入りたい	働いて自分の希望をかなえたい	できれば働きたい	まだわからない
これからの学校のあり方	勉強の時間や内容が増えても、一人ひとりに合わせて指導してくれる	10.1%	4.9%	8.4%	0.6%	1.9%
	同級生や上級生、下級生と一緒に行事などに取り組む機会が増える	8.7%	4.4%	5.5%	0.4%	2.2%
	学校の活動で、いろいろな体験をする機会がもっと増える	10.6%	4.5%	9.6%	0.4%	1.9%
	いろいろな経験をもった人と接する時間や場がある	5.2%	2.1%	3.5%	0.2%	0.8%
	社会のことや大人になったときのことをたくさん教えてくれる	5.3%	2.3%	4.0%	0.5%	0.7%
	学校にいとほっとしたり、楽な気持ちになれる	15.6%	9.3%	11.7%	1.4%	3.7%
	ほかの学校に自慢できることがある	5.2%	3.9%	4.2%	0.2%	0.8%
	その他	1.1%	0.8%	0.9%	0.6%	0.5%
	わからない	2.1%	2.7%	2.7%	0.3%	2.6%

表 II-130 「これからの学校のあり方」×「働くことについて」(高校生)

		働くことについて				
		働いて生きがいや、やりがいを得たい	働いてほしいものを手に入りたい	働いて自分の希望をかなえたい	できれば働きたくない	まだわからない
これからの学校のあり方	勉強の時間や内容が増えても、一人ひとりに合わせて指導してくれる	12.1%	4.2%	5.6%	1.5%	0.9%
	同級生や上級生、下級生と一緒に行事などに取り組む機会が増える	9.1%	3.4%	4.2%	0.7%	0.7%
	学校の活動で、いろいろな体験をする機会がもっと増える	11.0%	3.4%	7.0%	1.0%	1.1%
	豊富な経験をもった人と接する時間や場がある	5.9%	1.3%	3.9%	0.9%	0.4%
	社会のことや大人になったときのことをたくさん教えてくれる	8.1%	3.0%	4.6%	1.1%	0.8%
	学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる	16.0%	6.7%	8.2%	2.1%	1.4%
	ほかの学校に自慢できることがある	6.3%	3.6%	3.7%	0.7%	0.6%
	その他	1.2%	0.5%	0.8%	0.5%	0.2%
	わからない	2.6%	2.1%	1.8%	1.5%	2.4%

表 II-131 「これからの学校」×「働くことについて」(特別支援学校児童・生徒)

		働くことについて				
		働いて充実感や生きるよろこびを感じたい	働いてほしいものを手に入りたい	働いて自分の夢をかなえたい	できれば働きたい	まだわからない
これからの学校	一人ひとりに対し、もっとていねいにめんどろを見てくれる	6.5%	4.8%	0.8%	0.0%	6.5%
	みんなといっしょに行事をする回数が増える	5.6%	4.8%	7.3%	0.0%	4.0%
	いろいろな体験をする場面がもっと増える	10.5%	8.9%	10.5%	0.0%	8.9%
	いろいろな経験をしているたくさんの人に会える	7.3%	1.6%	3.2%	0.0%	5.6%
	世の中のことをたくさん教えてくれる	4.8%	5.6%	2.4%	0.0%	1.6%
	いごちのいいところがある	4.8%	6.5%	2.4%	0.0%	8.9%
	ほかの学校にじまんでできるものがある	0.8%	3.2%	0.8%	0.0%	1.6%
	その他	0.8%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%
	わからない	2.4%	0.8%	0.8%	0.0%	6.5%

資料 調査票

平成 25 年度 (2013 年度)
神奈川県「教育に関する意識調査」(教職員用)

この調査は、これからの神奈川の教育を中長期的な視点から検討する際の基礎資料とするものです。

先生方が日ごろ感じていることや考えていることを率直にお聞かせください。

記入上の注意

- 1 氏名・住所の記入は必要ありません。
- 2 回答はマークシート用紙をお願いします。
- 3 マークする際には、鉛筆やシャープペンシルで、をしっかりと塗りつぶしてください。マークが薄かったりすると読み取れないことがあります。(マークシート用紙の例をご覧ください。)
- 4 回答数は、質問ごとに、「1つ」「必ず2つ」「3つまで」などと指定がありますので、その範囲内でマークしてください。
- 5 わかる質問だけお答えいただければ結構です。
- 6 マークシート用紙は、機械で読み取りますので、絶対に折り曲げないでください。

★回答いただきましたら、マークした回答用紙のみを担当の方にご提出ください。

記入の仕方などについて、わからないことがありましたら、気軽にお問い合わせください。

【問い合わせ先】

神奈川県教育委員会教育局総務室企画調整グループ

〒231-8509 横浜市中区日本大通 33

電 話 (045) 210-8030 (直通)

※受付時間：月～金 8時30分～17時15分 (土日祝日は閉庁)

ファクシミリ (045) 210-8920

(教職員用)

平成 25 年度 神奈川県「教育に関する意識調査」

教育現場での児童・生徒の課題

問 1 あなたが日ごろ、学校で向き合っている児童・生徒について、全体の傾向としてどのように感じていますか。次の項目について、近いと思うものを選んで番号をマークしてください。(それぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも いえない	どちらかという そう思わない	そう思わない	わからない
①明るく元気である	1	2	3	4	5	6
②自分らしさをもっている	1	2	3	4	5	6
③やさしさや思いやりがある	1	2	3	4	5	6
④何事にも前向きに取り組む	1	2	3	4	5	6
⑤自分の感情をうまくコントロールできない	1	2	3	4	5	6
⑥ねばり強さがある	1	2	3	4	5	6
⑦自分の気持ちを相手にうまく伝えられる	1	2	3	4	5	6
⑧体力の低下が目立つ	1	2	3	4	5	6
⑨自分一人で選択や判断をする力がある	1	2	3	4	5	6
⑩社会に役立つと心や公共心がある	1	2	3	4	5	6
⑪社会のルールやマナーを守っている	1	2	3	4	5	6
⑫食事や睡眠など生活が規則正しい	1	2	3	4	5	6
⑬自分のこと以外に関心がもてない	1	2	3	4	5	6
⑭人間関係を築くのが苦手である	1	2	3	4	5	6
⑮学習する態度が身についている	1	2	3	4	5	6
⑯授業の内容を概ね理解している	1	2	3	4	5	6

どのような大人になってほしいか

問2 あなたは、児童・生徒に、将来どのような大人になってほしいと思いますか。次の中から特に期待するものを選んで番号をマークしてください。(4つまで)

- 1 個性豊かである
- 2 向上心をもって自己を高めている
- 3 創造性や独創性に富む
- 4 困難を乗り越えることができる
- 5 健康なからだや体力を備えている
- 6 社会のルールやマナーを守る
- 7 専門的な知識や技能が身についている
- 8 正義感や責任感がある
- 9 よりよい人間関係が築ける
- 10 人を思いやる心をもっている
- 11 リーダーシップをとれる
- 12 国際社会で活躍できる
- 13 社会や公共の福祉に進んで貢献する
- 14 その他 ()

学校・家庭・地域での教育課題

問3 あなたは、現在の児童・生徒の教育に関する次の項目について、どのように思いますか。あなたの考えに近いものを選んで番号をマークしてください。(それぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも いえない	どちらかという そう思わない	そう思わない	わからない
①学校では確かな学力の定着が図られている	1	2	3	4	5	6
②学校では一人ひとりに応じた個性を伸ばす教育が行われている	1	2	3	4	5	6
③学校はいじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる	1	2	3	4	5	6
④家庭ではしつけや教育が十分に行われている	1	2	3	4	5	6
⑤地域では児童・生徒の教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている	1	2	3	4	5	6

(教職員用)

学校の役割・家庭の役割

問4 あなたは、次の項目を児童・生徒に身につけさせるのは、学校と家庭（塾や習い事などに行かせることも含む）のどちらの役割だと思いますか。あなたの考えに近いものを選んで番号をマークしてください。（それぞれ1つずつ）

	主として家庭	どちらかという和家庭	どちらかという和学校	主として学校	わからない
①基本的な生活習慣	1	2	3	4	5
②社会のルールやマナー	1	2	3	4	5
③人を思いやる心	1	2	3	4	5
④学ぶ意欲や学習の習慣	1	2	3	4	5
⑤受験に必要な学力	1	2	3	4	5
⑥将来や進路について考える力	1	2	3	4	5
⑦友だちをつくり、人間関係を築く力	1	2	3	4	5
⑧ものごとをやりとげるねばり強さ	1	2	3	4	5
⑨音楽や美術など芸術的な感性や能力	1	2	3	4	5
⑩英会話など実践的な語学力	1	2	3	4	5
⑪将来の職業に役立つ知識・技能	1	2	3	4	5
⑫知識や感性・情操などを育む読書の習慣	1	2	3	4	5
⑬健康に関する知識や体力・運動能力	1	2	3	4	5

日々の業務で感じていること

問5 あなたは、日々の業務について、どのように感じていますか。次の項目について、あなたの考えに近いものを選んで番号をマークしてください。(それぞれ1つずつ)

	そう 思う	ど ち ら か と い う と 思 う	ど ち ら か と も い え な い	ど ち ら か と い う と 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い
①児童・生徒を理解することが、これまで以上に難しくなった	1	2	3	4	5	6
②教材研究等、授業の準備に費やす時間がとれなくなった	1	2	3	4	5	6
③特別な支援を必要とする児童・生徒の実態が多様になり、対応に苦慮している	1	2	3	4	5	6
④児童・生徒の問題行動に、どこまで対応すべきか迷うことが多くなった	1	2	3	4	5	6
⑤家庭訪問や外部連携会議、見回りなどへの対応で、学校を離れる回数が増えた	1	2	3	4	5	6
⑥教員間の仕事の分担や業務量に差がある	1	2	3	4	5	6
⑦人間関係での悩みごとが増えた	1	2	3	4	5	6

めざす教員像

問6 あなたがめざす教員とはどのようなものですか。特に重要と思う項目を次の中から選んで番号をマークしてください。(3つまで)

- 1 わかりやすい授業をする
- 2 児童・生徒に基本的な生活習慣や態度を身につけさせる
- 3 児童・生徒に社会のルールやマナーを身につけさせる
- 4 児童・生徒をよく理解し、適切に対処・指導ができる
- 5 児童・生徒のやる気を引き出し、意欲を高められる
- 6 学級担任として、クラスをまとめることができる
- 7 児童・生徒一人ひとりに応じた進路指導ができる
- 8 保護者の相談に丁寧に応じる
- 9 信頼され、尊敬される人格をもっている
- 10 時代の変化に対応した指導を実践する
- 11 その他 ()

(教職員用)

教員に必要な資質

問7 あなたは、現在の教員にとって必要な資質能力はどのようなものだと思いますか。特に重要と思う項目を次の中から選んで番号をマークしてください。(2つまで)

- 1 同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力
- 2 教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力
- 3 子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力
- 4 学習指導や生徒指導等の教育課題に対応できる力
- 5 思考力等を育むために子ども同士が学び合うなどの授業をデザインする実践的指導力
- 6 よりよい授業をめざして授業研究を行う探究力

学習指導の重点

問8 あなたは、現在の学校教育について、次の項目のAとBのどちらに重点をおいた方がよいと思いますか。あなたの考え方に近いものを選んで番号をマークしてください。(それぞれ1つずつ)

A		A				B			
		A	どちらかとA	どちらかとB	B				
①	暗記や反復学習などにより、多くの知識や技能を身につける	1	2	3	4	自分で調べたり、意見を発表することなどにより、自ら考える力や表現する力を身につける			
②	多くの児童・生徒が理解できるよう、基礎・基本の学習を行う	1	2	3	4	能力の高い児童・生徒がより伸びるよう、発展的な学習を行う			
③	児童・生徒が集団の中で互いに学び合う	1	2	3	4	それぞれの児童・生徒が進度に応じて個別に学ぶ			

諸課題の解決の方策と学校のあり方

問9 あなたは、これからの学校について、どのようなことを考えていく必要があると思いますか。次の項目について、あなたの考えに近いものを選んで番号をマークしてください。(それぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも いえない	どちらかという そう思わない	そう思わない	わからない
①各学校が競い合って、これまで以上に特色ある教育活動・学校づくりを進める	1	2	3	4	5	6
②学校(校長)に予算や人事などの面で裁量を与え、現場の実態に応じた独自の学校づくりを進める	1	2	3	4	5	6
③教員一人ひとりが自らの指導力を自覚し、それぞれの能力に応じた向上に努める	1	2	3	4	5	6
④教員の仕事が均分化・平準化できるよう、校内の組織や業務内容を見直す	1	2	3	4	5	6
⑤授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人力だけでなく学校全体でも取り組む	1	2	3	4	5	6
⑥地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める	1	2	3	4	5	6
⑦NPOや企業などとの連携・協力を進め、県民の力を生かした学校づくりを進める	1	2	3	4	5	6
⑧学校が児童・生徒の教育機能だけでなく、地域の教育の拠点としての役割も担う存在となる	1	2	3	4	5	6

学校への地域の望ましい関わり方

問10 学校活動に地域が関わるとしたら、どのような関わり方がもっともよいと思いますか。次の項目から選んで番号をマークしてください。(1つ)

- 1 地域の方が運動会や文化祭などの学校行事に参加する
- 2 地域の方が学校関係者と情報交換などを行い、活動支援や安全確保などに取り組む
- 3 地域の方が学校関係者と協働して、直接学校運営に参画する
- 4 その他 ()

(教職員用)

義務教育学校・高等学校のあり方

問11 少子化の進展に伴い、子どもたちの数が減少しています。こうした状況において、今後の小・中学校、高等学校のあり方としてめざすべき方向性について、あなたの考えに近いものを選んで番号をマークしてください。(それぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも いえない	どちらかという そう思わない	そう思わない	わからない
①小学校や中学校の再編統合によって1校あたりの児童・生徒数を確保し、子ども同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ	1	2	3	4	5	6
②義務教育9年間を一元的に指導できる小中一貫教育校の設置・拡充をめざすべきだ	1	2	3	4	5	6
③高等学校の新たな再編統合によって1校あたりの生徒数を確保し、生徒同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ	1	2	3	4	5	6
④生徒の個性化・多様化に対応しながらも、誰もが身につけるべき共通的な資質・能力の定着を重視した高等学校づくりをめざすべきだ	1	2	3	4	5	6
⑤各学校では、外部の意見や評価を生かし、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざすべきだ	1	2	3	4	5	6
⑥各学校では、保護者や地域住民が学校運営に参画し、協働して地域とともにある学校づくりをめざすべきだ	1	2	3	4	5	6

県が取り組むべき施策

問12 学校がよりよい教育を行うために、特に優先して取り組む必要があると思う対応や対策について、次の中から選んで番号をマークしてください。(3つまで)

- 1 少人数学級などのきめ細かな学習指導の充実
- 2 いじめ・暴力行為、不登校などへの対策
- 3 障害のある児童・生徒への支援
- 4 外国籍の児童・生徒への支援
- 5 多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり
- 6 体験活動やボランティア活動ができる環境の整備
- 7 地域、企業、民間団体、大学などの協力による学校の活性化
- 8 地域に開かれた学校づくり
- 9 高度情報化社会に安全で適正に対応できる児童・生徒指導の充実
- 10 その他 ()

「神奈川らしい教育」に生かしたいもの

問13 現在、学校や地域の特性を生かした教育が各地で展開されていますが、あなたが「神奈川らしい教育」に生かしたいものはどれですか。次の中から選んで番号をマークしてください。(3つまで)

- 1 自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性
- 2 個性豊かでたくましい人づくり
- 3 共生社会の実現をめざすボランティアや社会貢献活動
- 4 社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション
- 5 高度情報化時代に対応したICT（情報通信技術）
- 6 これからの社会を支える科学技術
- 7 温暖化やエネルギーなど地球規模で取り組むべき問題
- 8 神奈川の歴史や伝統文化・風土
- 9 学校や地域での防災・減災
- 10 その他 ()

(教職員用)

次の設問については、今後とも充実を図る必要があると考えられる取組みとしてお聞きします。
各設問にお答えください。

支援を必要とする児童・生徒への対応

問14 支援を必要とする子どもの教育では、障害のある子どもとない子どもが共に学び共に育つための取組みが求められています。そのために必要なこととして、あなたの考えに特に近いものを次の中から選んで番号をマークしてください。(3つまで)

支援を必要とする子どもとは、障害の有無にかかわらず、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を要する児童・生徒のことをさします。

- 1 就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる
- 2 地域の学校にある“通常の学級”で学ばせる
- 3 地域の学校にある“特別支援学級[※]”で学ばせる
- 4 普段は地域の学校にある“通常の学級”で学ばせ、必要に応じて“特別支援学級や通級指導教室[※]”で学ばせる
- 5 県立高等学校内に設置されている“特別支援学校の分教室”で学ばせる
- 6 “通常の学級”と“特別支援学級や特別支援学校”の子ども同士の交流を充実させる
- 7 小・中・高等学校での子どもへの支援に、特別支援学校がもつ専門的な知識や機能を活用する
- 8 小・中・高等学校と特別支援学校との間で、互いに移行・転学することを推進する
- 9 自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る
- 10 その他 ()

※

特別支援学級：地域の学校に置かれる、障害の比較的軽い子どものための少人数学級

通級指導教室：通常の学級に在籍する障害の軽い子どもが、その状態等に応じた特別な指導を受ける場

「キャリア教育」へ期待するもの

問15 あなたが「キャリア教育」に期待するものは何ですか。次の中から選んで番号をマークしてください。(2つまで)

- 1 フリーターやニートの増加への対策
- 2 進学や就職など卒業学年に偏った指導の改善
- 3 希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成
- 4 望ましい職業観や勤労観の確立
- 5 社会の一員としての自覚と責任の形成
- 6 学ぶことの意義の理解と主体的な学習態度の形成
- 7 将来設計の立案と社会的自立への準備
- 8 その他 ()

「いのちの授業」へ期待するもの

問16 あなたは、児童・生徒が「いのちの授業」を通して特に得られることは何だと思いますか。次の中から選んで番号をマークしてください。(2つまで)

「いのちの授業」とは、他者への思いやりや自分を大切にする心を育み、かながわを担う人づくりを進めるために、各教科、道徳の時間、総合的な学習の時間、食育やキャリア教育など、あらゆる教育活動を通して展開する授業のことをさします。

- 1 自己の大切さを感じることに
- 2 他者への思いやりや他者との関わり大切さに気づくことに
- 3 社会と関わることに大切さに気づくことに
- 4 自然の豊かさや環境保全の大切さを感じることに
- 5 生命や生物の尊さを感じることに
- 6 人類の文化や歴史を理解し、継承しようとすることに
- 7 災害や事故から、いのちを守ること
- 8 その他 ()

教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方

問17 あなたは、現在の様々な教育課題の解決に向けて、どのような研修のあり方が望ましいと考えますか。次の中から選んで番号をマークしてください。(必ず2つ)

- 1 学校が抱える共通の課題に応じた校内研修
- 2 学校外で開催される講座や実習などの研修
- 3 地域の学校が抱える課題に対して近隣の学校が合同で行う研修
- 4 職場や自宅でパソコンやインターネットを活用して取り組む研修
- 5 夜間に開催される研修
- 6 休日に開催される研修
- 7 その他 ()

研修の際に重視すること

問18 あなたが研修の際に重視するのは主にどのようなことですか。次の中から近いものを選んで番号をマークしてください。(必ず2つ)

- 1 全国や県内の先導的・先進的な取り組みについて理解を深める研修であること
- 2 共通の課題意識をもつ人と一緒に解決の方途を協議し、探究する研修であること
- 3 指導力の高い教職員から直接指導を受ける研修であること
- 4 所属校の業務の都合に合わせて、研修機会を選択できること
- 5 多様な研修形態の中から、必要に応じて選択できること
- 6 職場や地域の課題に対する共通認識をもてる研修であること
- 7 研修の成果を職場の教職実践に生かせる研修であること
- 8 その他 ()

(教職員用)

最後に、集計結果を分析するために必要な項目についてお聞きします。個人を特定するものではありません。回答用紙にマークしてお答えください。

F 1 あなたのお勤めの学校はどの市町村にありますか。次の中から番号をマークしてください。

- | | | | | | |
|---------|---------|---------|--------|---------|---------|
| 1 横浜市 | 2 川崎市 | 3 相模原市 | 4 横須賀市 | 5 鎌倉市 | 6 逗子市 |
| 7 三浦市 | 8 葉山町 | 9 厚木市 | 10 大和市 | 11 海老名市 | 12 座間市 |
| 13 綾瀬市 | 14 愛川町 | 15 清川村 | 16 平塚市 | 17 藤沢市 | 18 茅ヶ崎市 |
| 19 秦野市 | 20 伊勢原市 | 21 寒川町 | 22 大磯町 | 23 二宮町 | 24 小田原市 |
| 25 南足柄市 | 26 中井町 | 27 大井町 | 28 松田町 | 29 山北町 | 30 開成町 |
| 31 箱根町 | 32 真鶴町 | 33 湯河原町 | | | |

F 2 あなたの学校の校種について、次の中から番号をマークしてください。

- | | |
|----------------|------------------|
| 1 小学校 | 2 中学校 |
| 3 高校（全日制 普通科） | 4 高校（全日制 専門学科） |
| 5 高校（全日制 総合学科） | 6 高校（定時制・通信制） |
| 7 中等教育学校 | 8 盲学校 |
| 9 ろう学校 | 10 養護学校（支援学校を含む） |

F 3 あなたの性別について、次の番号をマークしてください。

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

F 4 あなたの年齢について、次の中から番号をマークしてください。（平成25年8月1日現在）

- | | | | |
|----------|----------|----------|---------|
| 1 20～29歳 | 2 30～39歳 | 3 40～49歳 | 4 50歳以上 |
|----------|----------|----------|---------|

F 5 あなたの在職年数について、次の中から番号をマークしてください。

- | | | | |
|---------|----------|----------|---------|
| 1 1～10年 | 2 11～20年 | 3 21～30年 | 4 31年以上 |
|---------|----------|----------|---------|

F 6 あなたの職名について、次の中から番号をマークしてください。

- | | | | |
|------|-------------|--------|--------|
| 1 校長 | 2 副校長 | 3 教頭 | 4 総括教諭 |
| 5 教諭 | 6 養護教諭・栄養教諭 | 7 実習助手 | |

ご協力ありがとうございました

平成 25 年度 (2013 年度)
神奈川県「教育に関する意識調査」(保護者用)

この調査は、これからの神奈川の教育を中長期的な視点から検討する際の基礎資料とするものです。

あなた自身が日ごろ感じていることや考えていることを率直にお聞かせください。

記入上の注意

- 1 氏名・住所の記入の必要はありません。
- 2 回答はマークシート用紙にお願いします。
- 3 マークする際には、鉛筆やシャープペンシルで、をしっかりと塗りつぶしてください。マークが薄かったりすると読み取れないことがあります。(マークシート用紙の例をご覧ください。)
- 4 回答数は、質問ごとに、「1つ」「3つまで」「いくつでも」などと指定がありますので、その範囲内でマークしてください。
- 5 わかる質問だけお答えいただければ結構です。
- 6 マークシート用紙は、機械で読み取りますので、絶対に折り曲げないでください。
- 7 調査票中の「お子様」とは、この調査票を持ち帰ったお子様のことです。

★回答いただきましたら、マークした回答用紙のみを学校にご提出ください。

記入の仕方などについて、わからないことがありましたら、気軽にお問い合わせください。

【問い合わせ先】

神奈川県教育委員会教育局総務室企画調整グループ
〒231-8509 横浜市中区日本大通 33
電 話 (045) 210-8030 (直通)
※受付時間：月～金 8時30分～17時15分 (土日祝日は閉庁)
ファクシミリ (045) 210-8920

(保護者用)

平成 25 年度 神奈川県「教育に関する意識調査」

最近の子どもの印象

問1 あなたは、最近の子どもについて、どのような印象をおもちですか。次の項目について、近いと思うものを選んで番号をマークしてください。(それぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも いえない	どちらかという そう思わない	そう思わない	わからない
①明るく元気である	1	2	3	4	5	6
②自分らしさをもっている	1	2	3	4	5	6
③やさしさや思いやりがある	1	2	3	4	5	6
④何事にも前向きに取り組む	1	2	3	4	5	6
⑤自分の感情をうまくコントロールできない	1	2	3	4	5	6
⑥ねばり強さがある	1	2	3	4	5	6
⑦自分の気持ちを相手にうまく伝えられる	1	2	3	4	5	6
⑧体力の低下が目立つ	1	2	3	4	5	6
⑨自分一人で選択や判断をする力がある	1	2	3	4	5	6
⑩社会に役立つととる心や公共心がある	1	2	3	4	5	6
⑪社会のルールやマナーを守っている	1	2	3	4	5	6
⑫食事や睡眠など生活が規則正しい	1	2	3	4	5	6
⑬自分のこと以外に関心がもてない	1	2	3	4	5	6
⑭人間関係を築くのが苦手である	1	2	3	4	5	6
⑮学習する態度が身についている	1	2	3	4	5	6

子どもに影響を与えている存在

問2 現在の子どもの成長に特に大きな影響を与えていると考えられる存在について、次の中から選んで番号をマークしてください。(4つまで)

- | | | |
|----------------|----------|-------------|
| 1 親 | 2 兄弟姉妹 | 3 祖父母 |
| 4 携帯電話やスマートフォン | 5 コンピュータ | 6 友人 |
| 7 テレビ | 8 学校の教員 | 9 地域の人 |
| 10 ゲーム | 11 本や雑誌 | 12 塾や習い事の先生 |
| 13 マンガ | 14 新聞 | 15 その他 () |

どのような大人になってほしいか

問3 あなたは、お子様に将来どのような大人になってほしいと思いますか。次の中から特に期待するものを選んで番号をマークしてください。(4つまで)

- 1 個性豊かである
- 2 向上心をもって自己を高めている
- 3 創造性や独創性に富む
- 4 困難を乗り越えることができる
- 5 健康なからだや体力を備えている
- 6 社会のルールやマナーを守る
- 7 専門的な知識や技能が身についている
- 8 正義感や責任感がある
- 9 よりよい人間関係が築ける
- 10 人を思いやる心をもっている
- 11 リーダーシップをとれる
- 12 国際社会で活躍できる
- 13 社会や公共の福祉に進んで貢献する
- 14 その他 ()
- 15 わからない

学校・家庭・地域での教育課題

問4 あなたは、現在の子どもの教育に関する次の項目について、どのように思いますか。あなたの考えに近いものを選んで番号をマークしてください。(それぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも いえない	どちらかという そう思わない	そう思わない	わからない
①学校では確かな学力の定着が図られている	1	2	3	4	5	6
②学校では一人ひとりに応じた個性を伸ばす教育が行われている	1	2	3	4	5	6
③学校はいじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる	1	2	3	4	5	6
④家庭ではしつけや教育が十分に行われている	1	2	3	4	5	6
⑤地域では子どもの教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている	1	2	3	4	5	6

(保護者用)

学校の役割・家庭の役割

問5 あなたは、次の項目を子どもに身につけさせるのは、学校と家庭（塾や習い事などに行かせることも含む）のどちらの役割だと思いますか。あなたの考えに近いものを選んで番号をマークしてください。（それぞれ1つずつ）

	主として家庭	どちらかと いうと家庭	どちらかと いうと学校	主として学校	わからない
①基本的な生活習慣	1	2	3	4	5
②社会のルールやマナー	1	2	3	4	5
③人を思いやる心	1	2	3	4	5
④学ぶ意欲や学習の習慣	1	2	3	4	5
⑤受験に必要な学力	1	2	3	4	5
⑥将来や進路について考える力	1	2	3	4	5
⑦友だちをつくり、人間関係を築く力	1	2	3	4	5
⑧ものごとをやりとげるねばり強さ	1	2	3	4	5
⑨音楽や美術など芸術的な感性や能力	1	2	3	4	5
⑩英会話など実践的な語学力	1	2	3	4	5
⑪将来の職業に役立つ知識・技能	1	2	3	4	5
⑫知識や感性・情操などを育む読書の習慣	1	2	3	4	5
⑬健康に関する知識や体力・運動能力	1	2	3	4	5

自分の子とのコミュニケーション

問6 あなたが、お子様とコミュニケーションを図る上で重きをおいている話題は何ですか。次の中から選んで番号をマークしてください。（いくつでも）

- 1 学校での交友関係について
- 2 学校で勉強している内容やテストの点数について
- 3 課題の克服や期待することについて
- 4 長所や得意なことについて
- 5 家庭での役割分担について
- 6 社会に必要なルールやマナーの理解について
- 7 進路や将来のことについて
- 8 スポーツや趣味について
- 9 日常の出来事や体験したことについて
- 10 健康面や体調について
- 11 その他（ ）

自分の子をどのくらい把握しているか

問7 あなたが、お子様に関して知っていると思う項目を次の中から選んで番号をマークしてください。
(いくつでも)

- 1 健康状態 2 興味や関心のあること 3 学校での生活 4 勉強のこと
- 5 将来の夢や進路 6 悩み 7 友だちのこと

家庭でのしつけや教育に関わること

問8 あなたが、日ごろ、お子様のしつけや教育に関して、気をつけていると思う項目を、次の中から選んで番号をマークしてください。(いくつでも)

- 1 早寝早起きなど規則正しい生活習慣を身につけさせる
- 2 片付けなど自分のことは自分でできるようにさせる
- 3 社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる
- 4 テレビやゲームの時間などのルールを決める
- 5 年上の人をうやまい、年下の人に優しくするようにさせる
- 6 物を大切に扱い、無駄づかいをさせない
- 7 家庭学習の習慣をつけさせる
- 8 子どもと一緒に食事をする
- 9 勉強のことだけでなく会話をする
- 10 子どものよいところをきちんとほめる
- 11 家の手伝いをさせる

かながわの学習の重点

問9 あなたは、お子様の教育に関する取組みとして、次の項目のAとBのどちらに重点をおいた方がよいと思いますか。あなたの考えに近いものを選んで番号をマークしてください。(それぞれ1つずつ)

	A		B																								
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%;">A</td> <td style="width: 25%;">いうとA どちらかと</td> <td style="width: 25%;">いうとB どちらかと</td> <td style="width: 25%;">B</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> </table>	A	いうとA どちらかと	いうとB どちらかと	B	1	2	3	4					1	2	3	4					1	2	3	4	
A	いうとA どちらかと	いうとB どちらかと	B																								
1	2	3	4																								
1	2	3	4																								
1	2	3	4																								
①	暗記や反復学習などにより、多くの知識や技能を身につける	←	自分で調べたり、意見を発表することなどにより、自ら考える力や表現する力を身につける																								
②	多くの子どもが理解できるように、基礎・基本の学習を行う	←	能力の高い子どもがより伸びるよう、発展的な学習を行う																								
③	子どもたちが集団の中で互いに学び合う	←	それぞれの子どもが進度に応じて個別に学ぶ																								

(保護者用)

教科やその他の活動の重点

問10 現在、学校教育では、様々な教科や活動が行われています。以下の取組みの中で、今後、さらに力を入れてほしいと思うものを、次の中から選んで番号をマークしてください。(4つまで)

- 1 「読む」「書く」「聞く」「話す」力を高める国語教育
- 2 コミュニケーション能力を高める英語教育
- 3 科学に対する興味関心を高める理数教育
- 4 情操を養う音楽や美術などの教育
- 5 健やかな心と体を育む教育
- 6 コンピュータやメディアの教育
- 7 豊かな心を育む道徳教育
- 8 人と自然の共生をめざす環境教育
- 9 犯罪や災害から身を守る防災・安全教育
- 10 自然や社会とふれあう体験活動
- 11 公共性を育むボランティア活動
- 12 将来の職業・進路を考える教育(キャリア教育)
- 13 その他()
- 14 わからない

教員の印象

問11 あなたは、現在の学校の教員についてどのような印象をおもちですか。次の項目について、あなたの考えに近いものを選んで番号をマークしてください。(それぞれ1つずつ)

	そう 思う	そう 思う どちらか という と	ど ちら か と い う と そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い
①子ども一人ひとりと接する時間が少ない	1	2	3	4	5
②子どものことに熱心に取り組む教員が少ない	1	2	3	4	5
③様々な課題にすぐに対応してくれる	1	2	3	4	5
④子どもに信頼されている	1	2	3	4	5
⑤授業などにいろいろな工夫をしている	1	2	3	4	5
⑥家庭や地域との連携に積極的である	1	2	3	4	5

望ましい教員像

問12 あなたが考える望ましい教員とはどのような人ですか。特に重要と思うものを次の中から選んで番号をマークしてください。(3つまで)

- 1 わかりやすい授業をしてくれる
- 2 子どもに基本的な生活習慣や態度を身につけさせてくれる
- 3 子どもに社会のルールやマナーを身につけさせてくれる
- 4 子どもをよく理解し、適切に対処・指導してくれる
- 5 子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる
- 6 学級担任として、クラスをまとめることができる
- 7 子ども一人ひとりに応じた進路指導をしてくれる
- 8 保護者の相談に気軽に応じてくれる
- 9 信頼され、尊敬される人格をもっている
- 10 時代の変化に対応した指導を実践してくれる
- 11 その他 ()

現在の教員に必要な資質

問13 あなたは、現在の教員にとって必要な資質能力はどのようなものだと思いますか。特に重要と思う項目を次の中から選んで番号をマークしてください。(2つまで)

- 1 同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力
- 2 教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力
- 3 子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力
- 4 学習指導や生徒指導等の教育課題に対応できる力
- 5 思考力等を育むために子ども同士が学び合うなどの授業をデザインする実践的指導力
- 6 よりよい授業をめざして授業研究を行う探究力

(保護者用)

地域で活動できること

問14 現在、様々な教育問題に対して地域での教育力に期待する声があります。こうした中、あなたが地域でできると思うものを次の中から選んで番号をマークしてください。(いくつでも)

- 1 ルールやマナーを守らない子どもへの注意
- 2 子どもへのあいさつなどの声かけ
- 3 登下校時などの子どもの安全確保への協力
- 4 体験活動やボランティア活動への協力
- 5 運動会や文化祭などの学校行事への参加・協力
- 6 特技や能力を生かした学校の授業や講演・講座への協力
- 7 授業がわからない子どもなどへの学習支援
- 8 遊びやスポーツ、文化活動などの指導・協力
- 9 学校との情報交換や話し合いなどへの積極的な参加
- 10 その他 ()
- 11 できるものはない

これからの学校のあり方や役割

問15 あなたは、これからの学校のあり方や役割、教育活動の展開について、どのようなことを考えていく必要があると思いますか。次の項目について、あなたの考えに近いものを選んで番号をマークしてください。(それぞれ1ずつ)

	そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも いえない	どちらかという そう思わない	そう思わない	わからない
①各学校が競い合って、これまで以上に特色ある教育活動・学校づくりを進める	1	2	3	4	5	6
②学校(校長)にいろいろな決定権を与えて、子どもの実態に応じた学校づくりを進める	1	2	3	4	5	6
③指導力の高い教員を増やしていく	1	2	3	4	5	6
④授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけでなく学校全体でも取り組むようにする	1	2	3	4	5	6
⑤地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める	1	2	3	4	5	6
⑥NPO(非営利組織)や企業などとの連携・協力を進め、県民の力を生かした学校づくりを進める	1	2	3	4	5	6
⑦学校が、子どもの教育だけでなく、地域の人が学べる拠点としての役割ももつようにしていく	1	2	3	4	5	6

義務教育学校・高等学校のあり方

問16 少子化の進展に伴い、子どもたちの数が減少しています。こうした状況において、今後の小・中学校、高等学校のあり方としてめざすべき方向性について、あなたの考えに近いものを選んで番号をマークしてください。(それぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも いえない	どちらかという そう思わない	そう思わない	わからない
①小学校や中学校の再編統合によって1校あたりの児童・生徒数を確保し、子ども同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ	1	2	3	4	5	6
②義務教育9年間を一元的に指導できる小中一貫教育校の設置・拡充をめざすべきだ	1	2	3	4	5	6
③高等学校の新たな再編統合によって1校あたりの生徒数を確保し、生徒同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ	1	2	3	4	5	6
④生徒の個性化・多様化に対応しながらも、誰もが身につけるべき共通的な資質・能力の定着を重視した高等学校づくりをめざすべきだ	1	2	3	4	5	6
⑤各学校では、外部の意見や評価を生かし、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざすべきだ	1	2	3	4	5	6
⑥各学校では、保護者や地域住民が学校運営に参画し、協働して地域とともにある学校づくりをめざすべきだ	1	2	3	4	5	6

県が取り組むべき施策

問17 学校がよりよい教育を行うために、特に優先して取り組む必要があると思う対応や対策について、次の中から選んで番号をマークしてください。(3つまで)

- 1 少人数学級などのきめ細かな学習指導
- 2 いじめ・暴力行為、不登校などへの対策
- 3 障害のある子どもへの支援
- 4 外国籍の子どもへの支援
- 5 多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり
- 6 体験活動やボランティア活動ができる環境の整備
- 7 地域、企業、民間団体、大学などの協力による学校の活性化
- 8 地域に開かれた学校づくり
- 9 高度情報化社会に安全で適正に対応できる児童・生徒指導の充実
- 10 その他 ()

(保護者用)

「神奈川らしい教育」に生かしたいもの

問18 現在、学校や地域の特性を生かした教育が様々な場面で展開されていますが、あなたが「神奈川らしい教育」として取り組んでほしい内容はどれですか。次の中から選んで番号をマークしてください。
(3つまで)

- 1 自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性
- 2 個性豊かでたくましい人づくり
- 3 共生社会の実現をめざすボランティアや社会貢献活動
- 4 社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション
- 5 高度情報化時代に対応したICT（情報通信技術）
- 6 これからの社会を支える科学技術
- 7 温暖化やエネルギーなど地球規模で取り組むべき問題
- 8 神奈川の歴史や伝統文化・風土
- 9 学校や地域での防災・減災
- 10 その他（ ）

支援を必要とする子どもへの対応

問19 支援を必要とする子どもの教育では、障害のある子どもとない子どもが共に学び共に育つための取組みが求められています。そのために必要なこととして、あなたの考えに特に近いものを次の中から選んで、番号をマークしてください。(3つまで)

支援を必要とする子どもとは、障害の有無にかかわらず、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を要する児童・生徒のことを指します。

- 1 就学前に、保護者が学校選択について相談できる体制を充実させる
- 2 地域の学校にある“通常の学級”で学ばせる
- 3 地域の学校にある“特別支援学級※”で学ばせる
- 4 普段は地域の学校にある“通常の学級”で学ばせ、必要に応じて“特別支援学級や通級指導教室※”で学ばせる
- 5 県立高等学校内に設置されている“特別支援学校の分教室※”で学ばせる
- 6 “通常の学級”と“特別支援学級や特別支援学校”の子ども同士の交流を充実させる
- 7 小・中・高等学校での子どもへの支援に、特別支援学校がもつ専門的な知識や機能を活用する
- 8 小・中・高等学校と特別支援学校との間で、互いに移行・転学することを推進する
- 9 自立と社会参加を見据えた適切な指導・支援や就労支援の充実を図る
- 10 その他（ ）

※

特別支援学級：地域の学校に置かれる、障害の比較的軽い子どものための少人数学級

通級指導教室：通常の学級に在籍する障害の軽い子どもが、その状態等に応じた特別な指導を受ける場

分教室：県立特別支援学校の過大規模化への対応として、平成16年度より県立高等学校内に設置

最後に、集計結果を分析するために必要な項目についてお聞きします。個人を特定するものではありません。回答用紙にマークしてお答えください。

F 1 あなたが現在お住まいの市町村について、次の中から番号をマークしてください。

- | | | | | | |
|---------|---------|---------|-----------|---------|---------|
| 1 横浜市 | 2 川崎市 | 3 相模原市 | 4 横須賀市 | 5 鎌倉市 | 6 逗子市 |
| 7 三浦市 | 8 葉山町 | 9 厚木市 | 10 大和市 | 11 海老名市 | 12 座間市 |
| 13 綾瀬市 | 14 愛川町 | 15 清川村 | 16 平塚市 | 17 藤沢市 | 18 茅ヶ崎市 |
| 19 秦野市 | 20 伊勢原市 | 21 寒川町 | 22 大磯町 | 23 二宮町 | 24 小田原市 |
| 25 南足柄市 | 26 中井町 | 27 大井町 | 28 松田町 | 29 山北町 | 30 開成町 |
| 31 箱根町 | 32 真鶴町 | 33 湯河原町 | 34 神奈川県以外 | | |

F 2 あなたのお子様の学校について、次の中から番号をマークしてください。(お子様が複数いらっしゃる場合は、この調査を持ち帰ったお子様に該当するものをお答えください)

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1 小学校 | 2 中学校 |
| 3 高校 (全日制 普通科) | 4 高校 (全日制 単位制 普通科) |
| 5 高校 (全日制 専門学科) | 6 高校 (全日制 総合学科) |
| 7 高校 (定時制) | 8 盲学校 |
| 9 ろう学校 | 10 養護学校 |

F 3 あなたの性別について、次の番号をマークしてください。

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

F 4 あなたの年齢について、次の中から番号をマークしてください。(平成 25 年 8 月 1 日現在)

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1 20～29歳 | 2 30～39歳 | 3 40～49歳 |
| 4 50～59歳 | 5 60～69歳 | 6 70歳以上 |

F 5 あなたのお子様に兄弟姉妹はいらっしゃいますか。どちらかの番号をマークしてください。

- | | |
|------|-------|
| 1 いる | 2 いない |
|------|-------|

F 6 あなたの現在のお仕事は、次のどれにあたりますか。あてはまるものを選んで番号をマークしてください。

- | | | | |
|---------------------|--------------|---------------|------|
| 1 自営業 | 2 勤め (フルタイム) | 3 勤め (パートタイム) | 4 内職 |
| 5 主婦・主夫 (職業についていない) | 6 無職 | | |
| 7 その他 (|) | | |

ご協力ありがとうございました

平成 25 年度（2013 年度）
神奈川県「教育に関する意識調査」（学校評議員用）

この調査は、これからの神奈川の教育を中長期的な視点から検討する際の基礎資料とするものです。

学校評議員などとして学校に関わる中で、あなた自身が日ごろ感じていることや考えていることを率直にお聞かせください。

記入上の注意

- 1 氏名・住所の記入の必要はありません。
- 2 回答はマークシート用紙をお願いします。
- 3 マークする際には、鉛筆やシャープペンシルで、**＝**をしっかりと塗りつぶしてください。マークが薄かったりすると読み取れないことがあります。（マークシート用紙の例をご覧ください。）
- 4 回答数は、質問ごとに、「1つ」「3つまで」「いくつでも」などと指定がありますので、その範囲内でマークしてください。
- 5 わかる質問だけお答えいただければ結構です。
- 6 マークシート用紙は、機械で読み取りますので、絶対に折り曲げないでください。

★回答いただきましたら、マークした回答用紙のみを学校の担当の方にご提出ください。

記入の仕方などについて、わからないことがありましたら、気軽にお問い合わせください。

【問い合わせ先】

神奈川県教育委員会教育局総務室企画調整グループ

〒231-8509 横浜市中区日本大通 33

電 話 (045) 210-8030 (直通)

※受付時間：月～金 8時30分～17時15分（土日祝日は閉庁）

ファクシミリ (045) 210-8920

平成 25 年度 神奈川県「教育に関する意識調査」

最近の子どもの印象

問1 あなたは、最近の子どもについて、どのような印象をおもちですか。次の項目について、近いと思うものを選んで番号をマークしてください。(それぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも いえない	どちらかという そう思わない	そう思わない	わからない
①明るく元気である	1	2	3	4	5	6
②自分らしさをもっている	1	2	3	4	5	6
③やさしさや思いやりがある	1	2	3	4	5	6
④何事にも前向きに取り組む	1	2	3	4	5	6
⑤自分の感情をうまくコントロールできない	1	2	3	4	5	6
⑥ねばり強さがある	1	2	3	4	5	6
⑦自分の気持ちを相手にうまく伝えられる	1	2	3	4	5	6
⑧体力の低下が目立つ	1	2	3	4	5	6
⑨自分一人で選択や判断をする力がある	1	2	3	4	5	6
⑩社会に役立とうとする心や公共心がある	1	2	3	4	5	6
⑪社会のルールやマナーを守っている	1	2	3	4	5	6
⑫食事や睡眠など生活が規則正しい	1	2	3	4	5	6
⑬自分のこと以外に関心がもてない	1	2	3	4	5	6
⑭人間関係を築くのが苦手である	1	2	3	4	5	6
⑮学習する態度が身についている	1	2	3	4	5	6

どのような大人になってほしいか

問2 あなたは、子どもに将来どのような大人になってほしいと思いますか。次の中から特に期待するものを選んで番号をマークしてください。(4つまで)

- 1 個性豊かである
- 2 向上心をもって自己を高めている
- 3 創造性や独創性に富む
- 4 困難を乗り越えることができる
- 5 健康なからだや体力を備えている
- 6 社会のルールやマナーを守る
- 7 専門的な知識や技能が身についている
- 8 正義感や責任感がある
- 9 よりよい人間関係が築ける
- 10 人を思いやる心をもっている
- 11 リーダーシップをとれる
- 12 国際社会で活躍できる
- 13 社会や公共の福祉に進んで貢献する
- 14 その他 ()
- 15 わからない

学校・家庭・地域での教育課題

問3 あなたは、現在の子どもの教育に関する次の項目について、どのように思いますか。あなたの考えに近いものを選んで番号をマークしてください。(それぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも いえない	どちらかという そう思わない	そう思わない	わからない
①学校では確かな学力の定着が図られている	1	2	3	4	5	6
②学校では一人ひとりに応じた個性を伸ばす教育が行われている	1	2	3	4	5	6
③学校はいじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる	1	2	3	4	5	6
④家庭ではしつけや教育が十分に行われている	1	2	3	4	5	6
⑤地域では子どもの教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている	1	2	3	4	5	6

(学校評議員用)

学校の役割・家庭の役割

問4 あなたは、次の項目を子どもに身につけさせるのは、学校と家庭（塾や習い事などに行かせることも含む）のどちらの役割だと思いますか。あなたの考えに近いものを選んで番号をマークしてください。（それぞれ1つずつ）

	庭主として家	どちらかと いうと家庭	どちらかと いうと学校	校主として学	わからない
①基本的な生活習慣	1	2	3	4	5
②社会のルールやマナー	1	2	3	4	5
③人を思いやる心	1	2	3	4	5
④学ぶ意欲や学習の習慣	1	2	3	4	5
⑤受験に必要な学力	1	2	3	4	5
⑥将来や進路について考える力	1	2	3	4	5
⑦友だちをつくり、人間関係を築く力	1	2	3	4	5
⑧ものごとをやりとげるねばり強さ	1	2	3	4	5
⑨音楽や美術など芸術的な感性や能力	1	2	3	4	5
⑩英会話など実践的な語学力	1	2	3	4	5
⑪将来の職業に役立つ知識・技能	1	2	3	4	5
⑫知識や感性・情操などを育む読書の習慣	1	2	3	4	5
⑬健康に関する知識や体力・運動能力	1	2	3	4	5

子どもとのコミュニケーション

問5 家庭で大人が子どもとコミュニケーションを図る上で、大切な話題は何だと思いますか。次の中から選んで番号をマークしてください。（いくつでも）

- 1 学校での交友関係について
- 2 学校で勉強している内容やテストの点数について
- 3 課題の克服や期待することについて
- 4 長所や得意なことについて
- 5 家庭での役割分担について
- 6 社会に必要なルールやマナーの理解について
- 7 進路や将来のことについて
- 8 スポーツや趣味について
- 9 日常の出来事や体験したことについて
- 10 健康面や体調について
- 11 その他（ ）

かながわの学習の重点

問6 あなたは、現在関わっている学校での子どもの教育に関する取組みについて、次の項目のAとBのどちらに重点をおいた方がよいと思いますか。あなたの考えに近いものを選んで番号をマークしてください。(それぞれ1ずつ)

A						B	
		A	どちらかという とA	どちらかという とB	B		
①	暗記や反復学習などにより、多くの知識や技能を身につける	1	2	3	4	自分で調べたり、意見を発表することなどにより、自ら考える力や表現する力を身につける	
②	多くの子どもが理解できるように、基礎・基本の学習を行う	1	2	3	4	能力の高い子どもがより伸びるよう、発展的な学習を行う	
③	子どもたちが集団の中で互いに学び合う	1	2	3	4	それぞれの子どもの進度に応じて個別に学ぶ	

教科やその他の活動の重点

問7 現在、学校教育では、様々な教科や活動が行われています。以下の取組みの中で、今後、さらに力を入れてほしいと思うものを、次の中から選んで番号をマークしてください。(4つまで)

- 1 「読む」「書く」「聞く」「話す」力を高める国語教育
- 2 コミュニケーション能力を高める英語教育
- 3 科学に対する興味関心を高める理数教育
- 4 情操を養う音楽や美術などの教育
- 5 健やかな心と体を育む教育
- 6 コンピュータやメディアの教育
- 7 豊かな心を育む道徳教育
- 8 人と自然の共生をめざす環境教育
- 9 犯罪や災害から身を守る防災・安全教育
- 10 自然や社会とふれあう体験活動
- 11 公共性を育むボランティア活動
- 12 将来の職業・進路を考える教育(キャリア教育)
- 13 その他()
- 14 わからない

教員の印象

問8 あなたは、現在の学校の教員についてどのような印象をおもちですか。次の項目について、あなたの考えに近いものを選んで番号をマークしてください。(それぞれ1つずつ)

	そう 思う	ど ち ら か と い う と そ う 思 う	ど ち ら か と い う と そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い
①子ども一人ひとりと接する時間が少ない	1	2	3	4	5
②子どものことに熱心に取り組む教員が少ない	1	2	3	4	5
③様々な課題にすぐに対応してくれる	1	2	3	4	5
④子どもに信頼されている	1	2	3	4	5
⑤授業などにいろいろな工夫をしている	1	2	3	4	5
⑥家庭や地域との連携に積極的である	1	2	3	4	5

望ましい教員像

問9 あなたが考える望ましい教員とはどのような人ですか。教員の取組みとして特に重要と考え、望むべきと思われるものを次の中から選んで番号をマークしてください。(3つまで)

- 1 わかりやすい授業をしている
- 2 子どもに基本的な生活習慣や態度を身につけさせている
- 3 子どもに社会のルールやマナーを身につけさせている
- 4 子どもをよく理解し、適切に対処・指導している
- 5 子どものやる気を引き出し、意欲を高めている
- 6 学級担任として、クラスをまとめている
- 7 子ども一人ひとりに応じた進路指導をしている
- 8 保護者の相談に気軽に応じている
- 9 信頼され、尊敬される人格をもっている
- 10 時代の変化に対応した指導を実践している
- 11 その他 ()

現在の教員に必要な資質

問10 あなたは、現在の教員にとって必要な資質能力はどのようなものだと思いますか。特に重要と思う項目を次の中から選んで番号をマークしてください。(2つまで)

- 1 同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力
- 2 教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力
- 3 子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力
- 4 学習指導や生徒指導等の教育課題に対応できる力
- 5 思考力等を育むために子ども同士が学び合うなどの授業をデザインする実践的指導力
- 6 よりよい授業をめざして授業研究を行う探究力

学校、家庭、地域との連携

問11 子どもの教育のために、学校、家庭、地域がより連携協力を進めるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。次の中から選んで番号をマークしてください。(3つまで)

- 1 学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする
- 2 学校、家庭、地域の話し合いの場を増やす
- 3 学校、家庭、地域が協力して行事などをつくる
- 4 保護者が学校の教育活動や地域の行事に積極的に参加する
- 5 教員が地域の生涯学習活動に協力する
- 6 地域の人が学校施設を気軽に利用できるようにする
- 7 家庭や地域の人が特技や能力を生かして学校の授業に協力する
- 8 老人ホームや保育所などで体験的な学習の機会をつくる
- 9 家庭、地域が学校運営に積極的に関わることのできるしくみをつくる
- 10 学校・家庭と一体となって、地域が教育に当たれるように強化・再生をめざす
- 11 その他 ()

これからの学校のあり方と役割

問12 あなたは、これからの学校のあり方や役割、教育活動の展開について、どのようなことを考えていく必要があると思いますか。次の項目について、あなたの考えに近いものを選んで番号をマークしてください。(それぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも いえない	どちらかという そう思わない	そう思わない	わからない
①各学校が競い合って、これまで以上に特色ある教育活動・学校づくりを進める	1	2	3	4	5	6
②学校(校長)にいろいろな決定権を与えて、子どもの実態に応じた学校づくりを進める	1	2	3	4	5	6
③指導力の高い教員を増やしていく	1	2	3	4	5	6
④授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけでなく学校全体でも取り組むようにする	1	2	3	4	5	6
⑤地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める	1	2	3	4	5	6
⑥NPO(非営利組織)や企業などとの連携・協力を進め、県民の力を生かした学校づくりを進める	1	2	3	4	5	6
⑦学校が、子どもの教育だけでなく、地域の人が学べる拠点としての役割ももつようにしていく	1	2	3	4	5	6

義務教育学校・高等学校のあり方

問13 少子化の進展に伴い、子どもたちの数が減少しています。こうした状況において、今後の小・中学校、高等学校のあり方としてめざすべき方向性について、あなたの考えに近いものを選んで番号をマークしてください。(それぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも いえない	どちらかという そう思わない	そう思わない	わからない
①小学校や中学校の再編統合によって1校あたりの児童・生徒数を確保し、子ども同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ	1	2	3	4	5	6
②義務教育9年間を一元的に指導できる小中一貫教育校の設置・拡充をめざすべきだ	1	2	3	4	5	6
③高等学校の新たな再編統合によって1校あたりの生徒数を確保し、生徒同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ	1	2	3	4	5	6
④生徒の個性化・多様化に対応しながらも、誰もが身につけるべき共通的な資質・能力の定着を重視した高等学校づくりをめざすべきだ	1	2	3	4	5	6
⑤各学校では、外部の意見や評価を生かし、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざすべきだ	1	2	3	4	5	6
⑥各学校では、保護者や地域住民が学校運営に参画し、協働して地域とともにある学校づくりをめざすべきだ	1	2	3	4	5	6

県が取り組むべき施策

問14 学校がよりよい教育を行うために、特に優先して取り組む必要があると思う対応や対策について、次の中から選んで番号をマークしてください。(3つまで)

- 1 少人数学級などのきめ細かな学習指導
- 2 いじめ・暴力行為、不登校などへの対策
- 3 障害のある子どもへの支援
- 4 外国籍の子どもへの支援
- 5 多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり
- 6 体験活動やボランティア活動ができる環境の整備
- 7 地域、企業、民間団体、大学などの協力による学校の活性化
- 8 地域に開かれた学校づくり
- 9 高度情報化社会に安全で適正に対応できる児童・生徒指導の充実
- 10 その他 ()

最後に、集計結果を分析するために必要な項目についてお聞きします。個人を特定するものではありません。回答用紙にマークしてお答えください。

F 1 あなたが現在お住まいの市町村について、次の中から番号をマークしてください。

- | | | | | | |
|---------|---------|---------|-----------|---------|---------|
| 1 横浜市 | 2 川崎市 | 3 相模原市 | 4 横須賀市 | 5 鎌倉市 | 6 逗子市 |
| 7 三浦市 | 8 葉山町 | 9 厚木市 | 10 大和市 | 11 海老名市 | 12 座間市 |
| 13 綾瀬市 | 14 愛川町 | 15 清川村 | 16 平塚市 | 17 藤沢市 | 18 茅ヶ崎市 |
| 19 秦野市 | 20 伊勢原市 | 21 寒川町 | 22 大磯町 | 23 二宮町 | 24 小田原市 |
| 25 南足柄市 | 26 中井町 | 27 大井町 | 28 松田町 | 29 山北町 | 30 開成町 |
| 31 箱根町 | 32 真鶴町 | 33 湯河原町 | 34 神奈川県以外 | | |

F 2 あなたが関わっていらっしゃる学校について、次の中から番号をマークしてください。

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1 小学校 | 2 中学校 |
| 3 高校（全日制 普通科） | 4 高校（全日制 単位制 普通科） |
| 5 高校（全日制 専門学科） | 6 高校（全日制 総合学科） |
| 7 高校（定時制） | 8 盲学校 |
| 9 ろう学校 | 10 養護学校 |

F 3 あなたの性別について、次の番号をマークしてください。

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

F 4 あなたの年齢について、次の中から番号をマークしてください。（平成 25 年 8 月 1 日現在）

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 1 20～29歳 | 2 30～39歳 | 3 40～49歳 | 4 50～59歳 |
| 5 60～69歳 | 6 70歳以上 | | |

ご協力ありがとうございました

平成 25 年度 (2013 年度)
神奈川県「教育に関する意識調査」(一般県民用)

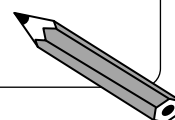
この調査は、これからの神奈川の教育を中長期的な視点から検討する際の基礎資料とするものです。

あなた自身が日ごろ、お感じになっていることやお考えになっていることを率直にお聞かせください。

記入上の注意

- 1 この調査は、封筒のあて名の方をお願いするものです。あて名のご本人の方にご記入をお願いします。
- 2 氏名・住所の記入は必要ありません。
- 3 お答えは、直接この調査用紙のあてはまる番号に○印をつけてください。
- 4 質問によって、○をつける数を「1つ」「3つまで」「いくつでも」などと指定しておりますので、その範囲内でお答えください。
- 5 ご回答がわかるものであれば、ご記入いただく筆記用具の種類や色は問いません。
- 6 わかる質問だけお答えいただければ結構です。

ご記入がおわりましたら…



ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒で 10 月 1 日 (火) までにご投函ください。切手は不要です。また、お名前を記入する必要もありません。

なお、記入の仕方などについて、わからないことがありましたら、お気軽にお問い合わせください。

【問い合わせ先】

神奈川県教育委員会教育局総務室企画調整グループ

〒231-8509 横浜市中区日本大通 33

電話 (045) 210-8030 (直通)

※受付時間：月～金 8 時 30 分～17 時 15 分 (土日祝日は閉庁)

ファクシミリ (045) 210-8920

(一般県民用)

平成 25 年度 神奈川県「教育に関する意識調査」

最近の子どもの印象

問1 あなたは、最近の子どもについて、どのような印象をおもちですか。次の各項目について、あなたの考え方に近いものをそれぞれ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも いえない	どちらかという そう思わない	そう思わない	わからない
(1) 明るく元気である	1	2	3	4	5	6
(2) 体力がある	1	2	3	4	5	6
(3) 個性豊かである	1	2	3	4	5	6
(4) 学ぶことに対して意欲的である	1	2	3	4	5	6
(5) 豊かな創造力がある	1	2	3	4	5	6
(6) 年齢に相応しい社会的常識がある	1	2	3	4	5	6
(7) チャレンジ精神が旺盛である	1	2	3	4	5	6
(8) ねばり強さがある	1	2	3	4	5	6
(9) やさしさや思いやりがある	1	2	3	4	5	6
(10) 社会に役立とうとする心や公共心がある	1	2	3	4	5	6

どのような大人になってほしいか

問2 あなたは、子どもに、将来どのような大人になってほしいと思いますか。次の中から特に期待するものを4つまで選んでください。(○は4つまで)

- 1 個性豊かである
- 2 向上心をもって自己を高めている
- 3 創造性や独創性に富む
- 4 困難を乗り越えることができる
- 5 健康なからだや体力を備えている
- 6 社会のルールやマナーを守る
- 7 専門的な知識や技能が身につけている
- 8 正義感や責任感がある
- 9 よりよい人間関係が築ける
- 10 人を思いやる心をもっている
- 11 リーダーシップをとれる
- 12 国際社会で活躍できる
- 13 社会や公共の福祉に進んで貢献する
- 14 その他 ()
- 15 わからない

学校・家庭・地域での教育課題

問3 あなたは、現在の子どもの教育に関する次の項目について、どのように思いますか。各項目について、あなたの考えに近いものをそれぞれ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも いえない	どちらかという そう思わない	そう思わない	わからない
(1) 学校では確かな学力の定着が図られている	1	2	3	4	5	6
(2) 学校では一人ひとりに応じた個性を伸ばす教育が行われている	1	2	3	4	5	6
(3) 学校はいじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる	1	2	3	4	5	6
(4) 家庭ではしつけや教育が十分に行われている	1	2	3	4	5	6
(5) 地域では子どもの教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている	1	2	3	4	5	6

(一般県民用)

学校の役割・家庭の役割

問4 あなたは、次の項目を子どもに身につけさせるのは、学校と家庭（塾や習い事などに行かせることも含む）のどちらだと思いますか。各項目について、あなたの考えに近いものをそれぞれ選んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

	主として家庭	いどちらか家庭	いどちらか学校	主として学校	わからない
(1) 基本的な生活習慣	1	2	3	4	5
(2) 社会のルールやマナー	1	2	3	4	5
(3) 人を思いやる心	1	2	3	4	5
(4) 学ぶ意欲や学習の習慣	1	2	3	4	5
(5) 受験に必要な学力	1	2	3	4	5
(6) 将来や進路について考える力	1	2	3	4	5
(7) 友達をつくり、人間関係を築く力	1	2	3	4	5
(8) ものごとをやりとげるねばり強さ	1	2	3	4	5
(9) 音楽や美術など芸術的な感性や能力	1	2	3	4	5
(10) 英会話など実践的な語学力	1	2	3	4	5
(11) 将来の職業に役立つ知識・技能	1	2	3	4	5
(12) 知識や感性・情操などを育む読書の習慣	1	2	3	4	5
(13) 健康に関する知識や体力・運動能力	1	2	3	4	5

かながわの学習の重点

問5 学校教育において、あなたはAとBのどちらに重点をおいた方がよいと思いますか。次の(1)～(3)について、あなたの考えに近いものをそれぞれ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

(1)	暗記や反復学習などにより、多くの知識や技能を身につける	1	2	3	4	自分で調べたり、意見を発表することなどにより、自ら考える力や表現する力を身につける
(2)	多くの子どもが理解できるよう、基礎・基本の学習を行う	1	2	3	4	能力の高い子どもがより伸びるよう、発展的な学習を行う
(3)	子どもたちが集団の中で互いに学び合う	1	2	3	4	それぞれの子どもが進度に応じて個別に学ぶ

教科やその他の活動の重点

問6 現在、学校教育では、様々な教科や活動が行われています。以下の取組みの中で、今後、さらに力を入れてほしいと思うものを、4つまで選んでください。(○は4つまで)

- 1 「読む」「書く」「聞く」「話す」力を高める国語教育
- 2 コミュニケーション能力を高める英語教育
- 3 科学に対する興味関心を高める理数教育
- 4 情操を養う音楽や美術などの教育
- 5 健やかな心と体を育む教育
- 6 コンピュータやメディアの教育
- 7 豊かな心を育む道徳教育
- 8 人と自然の共生をめざす環境教育
- 9 犯罪や災害から身を守る防災・安全教育
- 10 自然や社会とふれあう体験活動
- 11 公共性を育むボランティア活動
- 12 将来の職業・進路を考える教育(キャリア教育)
- 13 その他 ()
- 14 わからない

(一般県民用)

望ましい教員像

問7 あなたが考える望ましい教員とはどのような人ですか。教員の取組みとして特に重要と考え、望むべきと思われるものを次の中から3つまで選んでください。(○は3つまで)

- 1 わかりやすい授業をしている
- 2 子どもに基本的な生活習慣や態度を身につけさせている
- 3 子どもに社会のルールやマナーを身につけさせている
- 4 子どもをよく理解し、適切に対処・指導している
- 5 子どものやる気を引き出し、意欲を高めている
- 6 学級担任として、クラスをまとめている
- 7 子ども一人ひとりに応じた進路指導をしている
- 8 保護者の相談に気軽に応じている
- 9 信頼され、尊敬される人格をもっている
- 10 時代の変化を的確にとらえ、柔軟に対応している
- 11 その他 ()
- 12 わからない

現在の教員に必要な資質

問8 あなたは、現在の教員にとって必要な資質能力はどのようなものだと思いますか。特に重要と思う項目を次の中から選んで2つまで選んでください。(○は2つまで)

- 1 同僚とチームで対応し、地域や社会と連携できる力
- 2 教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力
- 3 子どもをよく理解し、個々の教育的ニーズを踏まえて対応できる力
- 4 学習指導や生徒指導等の教育課題に対応できる力
- 5 思考力等を育むために子ども同士が学び合うなどの授業をデザインする実践的指導力
- 6 よりよい授業をめざして授業研究を行う探究力

学校、家庭、地域との連携

問9 子どもの教育のために、学校、家庭、地域がより連携協力するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)

- 1 学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする
- 2 学校、家庭、地域の話し合いの場を増やす
- 3 学校、家庭、地域が協力して行事などをつくる
- 4 保護者が学校の教育活動や地域の行事に積極的に参加する
- 5 教員が地域の生涯学習活動に協力する
- 6 地域の人が学校施設を気軽に利用できるようにする
- 7 家庭や地域の人が特技や能力を生かして学校の授業に協力する
- 8 老人ホームや保育所などで体験的な学習の機会をつくる
- 9 家庭、地域が学校運営に積極的に関わることのできるしくみをつくる
- 10 学校・家庭と一体となって、地域が教育に当たれるように強化・再生をめざす
- 11 その他 ()
- 12 わからない

地域で活動できること

問10 現在、様々な教育問題に対して地域での教育力に期待する声があります。こうした中で、あなたが、地域でできることはありますか。できると思うものを次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

- 1 ルールやマナーを守らない子どもへの注意
- 2 子どもたちへのあいさつなどの声かけ
- 3 登下校時などの子どもの安全確保への協力
- 4 体験活動やボランティア活動への協力
- 5 運動会や文化祭などの学校行事への参加・協力
- 6 特技や能力を生かした学校の授業や講演・講座の講師
- 7 授業がわからない子どもなどへの学習支援
- 8 遊びやスポーツ、文化活動などの指導・協力
- 9 学校との情報交換や話し合いなどへの積極的な参加
- 10 その他 ()
- 11 できるものはない

(一般県民用)

県が取り組むべき施策

問11 学校がよりよい教育を行うために、特に優先して取り組む必要があると思う対応や対策について、次の中から3つまで選んでください。(○は3つまで)

- 1 少人数学級などのきめ細かな学習指導
- 2 いじめ・暴力行為、不登校などへの対策
- 3 障害のある子どもへの支援
- 4 外国籍の子どもへの支援
- 5 多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり
- 6 体験活動やボランティア活動ができる環境の整備
- 7 地域、企業、民間団体、大学などの協力による学校の活性化
- 8 地域に開かれた学校づくり
- 9 高度情報化社会に安全で適正に対応できる児童・生徒指導の充実
- 10 その他 ()
- 11 わからない

子どものイメージ

問12 これまでの設問にお答えになる際に、あなたがイメージした「子ども」は、次のうちどれが一番近いですか。(○は1つ)

- 1 小学校入学前まで
- 2 小学生
- 3 中学生
- 4 高校生
- 5 高校卒業以上

義務教育学校・高等学校のあり方

問13 少子化の進展に伴い、子どもたちの数が減少しています。こうした状況において、今後の小・中学校、高等学校のあり方としてめざすべき方向性について、あなたの考えに近いものをそれぞれ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも いえない	どちらかという そう思わない	そう思わない	わからない
(1) 小学校や中学校の再編統合によって1校あたりの児童・生徒数を確保し、子ども同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ	1	2	3	4	5	6
(2) 義務教育9年間を一元的に指導できる小中一貫教育校の設置・拡充をめざすべきだ	1	2	3	4	5	6
(3) 高等学校の新たな再編統合によって1校あたりの生徒数を確保し、生徒同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ	1	2	3	4	5	6
(4) 生徒の個性化・多様化に対応しながらも、誰もが身につけるべき共通的な資質・能力の定着を重視した高等学校づくりをめざすべきだ	1	2	3	4	5	6
(5) 各学校では、外部の意見や評価を生かし、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざすべきだ	1	2	3	4	5	6
(6) 各学校では、保護者や地域住民が学校運営に参画し、協働して地域とともにある学校づくりをめざすべきだ	1	2	3	4	5	6

(一般県民用)

県立(公立)高校と私立高校

問14 県立(公立)高校と私立高校を比べると、次の点について、どちらの方がよいと思いますか。各項目について1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	県立(公立)の方がよい	私立の方がよい	どちらともいえない	わからない
(1) 学校の特色や個性	1	2	3	4
(2) 授業の内容	1	2	3	4
(3) 学校の行事・部活動	1	2	3	4
(4) 大学などへの進学	1	2	3	4
(5) 就職	1	2	3	4
(6) 生徒指導	1	2	3	4
(7) 施設や設備	1	2	3	4
(8) 教員	1	2	3	4
(9) 学校の雰囲気	1	2	3	4
(10) 総合的にみると	1	2	3	4

問15 もし、あなたが(またはお子様が) 中学3年生だとしたら、県立(公立) 高校と私立高校のどちらを選びますか。(○は1つ)

1	県立(公立) 高校	}	下の問15付問へ進む
2	私立高校		
3	どちらともいえない	}	次ページの間16へ進む
4	わからない		

(問15で「1～2」と答えた方に)

問15付問 県立(公立) または私立を選んだ理由の主なものは何ですか。次の中から4つまで選んでください。(○は4つまで)

1	学科やコースなど教育内容が進路希望にあっている
2	特色ある教育内容など興味・関心に応じた学習ができる
3	学年にとらわれず、幅広い科目から選択して学ぶなど新タイプの高校がある
4	きめ細かな学習指導がなされている
5	部活動や学校行事などが充実している
6	進路指導が充実している
7	進学実績が高い
8	きめ細かな生徒指導がなされている
9	施設・設備が充実している
10	熱心な教員が多い
11	学費が安い
12	通学の便がよい
13	男女共学である
14	男子校(女子校) である
15	自由でのびのびとした雰囲気がある
16	校風(建学の精神・学校目標・伝統など) がよい
17	その他 ()

(一般県民用)

県立高校の改革の取組み

問16 神奈川県では、10年間にわたり「県立高校改革推進計画」(平成12～21年)に基づく改革に取り組んできましたが、今後の生徒の減少傾向を見据えて、あなたは将来の県立高校にどのようなことを望みますか。各項目について1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも いえない	どちらかという そう思わない	そう思わない	わからない
(1) 生徒の学習ニーズや進路希望を十分踏まえながら、地域バランスや今後の生徒減少を見据えて、総合学科や定時制などの再編統合を含む新たな高校改革に取り組む	1	2	3	4	5	6
(2) 学習の遅れがちな生徒にも、学力の着実な定着を図るための学校づくりを進める	1	2	3	4	5	6
(3) 障害のある生徒にも、個々の障害の状況等に応じた指導を行う学校づくりを進める	1	2	3	4	5	6
(4) 国際化・情報化の社会で生きるリーダー人材を育成する学力向上や進学重点のための学校づくりを進める	1	2	3	4	5	6
(5) 専門的な知識や技能をしっかりと身につけさせる教育を行う学校づくりを進める	1	2	3	4	5	6

私立高校のあり方

問17 神奈川県は近代私学発祥の地と言われており、長い歴史と伝統の中で各校が独自の校風を築いてきましたが、今後の私立高校のあり方について、あなたはどのように思いますか。次の各項目について1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	そどちらかという	いえちとも	そどちらかという	そう思わない	わからない
(1) 私学独自の「建学の精神」を生かすべき	1	2	3	4	5	6
(2) より特色ある教育内容の提供など生徒の学習ニーズに応じた教育を展開すべき	1	2	3	4	5	6
(3) 大学などの進学指導に、より重点を置くべき	1	2	3	4	5	6
(4) ボランティア活動や部活動などを通じて、人間性の形成に重点を置くべき	1	2	3	4	5	6
(5) 社会のルールをきちんと守れるよう生徒指導に重点を置くべき	1	2	3	4	5	6

生涯にわたる自分づくりの実践

問18 自分づくりは生涯にわたって、様々な場面で行われています。あなたが、そのことについて期待するのはどのようなことですか。次の中から3つまで選んでください。(○は3つまで)

- 1 図書館・美術館・博物館が所蔵する資料等の充実
- 2 美術館・博物館で開催される展覧会や学習講座の充実
- 3 住民の主体的な参画による地域スポーツの振興を図るしくみの充実
- 4 地域の人々が互いに学び合えるコミュニティの充実
- 5 様々な主体が一体となって地域の防災を考え、行動につなげる場の充実
- 6 自然・歴史・風土・文化芸術・産業・観光などのかながわの魅力を生かした学びの場の充実
- 7 大学や民間企業等における学び直しの機会の充実
- 8 文化芸術を創造し、支えていく人材への支援充実
- 9 その他 ()

(一般県民用)

生涯を通じた教育・「人づくり」の実践

問19 人の成長に応じて様々な場面で教育・「人づくり」は行われます。あなたが、取り組んでいることの中で、教育・「人づくり」だと思えるものはどのようなことですか。次の中から3つまで選んでください。
(○は3つまで)

「人づくり」とは、あたかもモノづくりのように、人を予定される形に仕立てることはありません。人は、生まれた時から、すでにそこに「在る」存在なのですから、モノのように「つくる」ことはできません。
「人づくり」とは、「絶えず自らを磨き、新たな自分へと更新していく、『自分づくり』を支援する営み」だと考えます。
(神奈川県教育の総合的な指針「かながわ教育ビジョン」p.14より)

- 1 家庭における育児・子育て等の取組み
- 2 地域（NPO法人などを含む）における子どもや成人に対する取組み
- 3 学校における子どもや成人に対する取組み（外部講師として指導する場合も含みます）
- 4 企業における子どもや成人に対する取組み
- 5 市町村行政における子どもや成人に対する取組み
- 6 県行政における子どもや成人に対する取組み
- 7 その他（ ）

問20 教育・「人づくり」は、人の成長に応じて世界を広げながら、様々な場面で行われますが、あなたが今後期待する教育・「人づくり」の場は何ですか。次の中から3つまで選んでください。
(○は3つまで)

- 1 家庭
- 2 地域（NPO法人など含む）
- 3 学校（幼稚園・保育所、小学校～大学等）
- 4 企業
- 5 市町村行政
- 6 県行政
- 7 その他

最後に、あなたご自身とあなたのご家族のことについて、お聞きします。これは回答を統計的に分析するために使用するもので、個人を特定するものではありません。特にお住まいの地域がわからないと集計ができませんので、F 1 は必ずご記入くださるようお願いいたします。

《全員の方がお答えください》

F 1 あなたが、現在お住まいの市町村を、○で囲んでください。(○は1つ)

横浜市、川崎市、相模原市
横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町
厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村
平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町
小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町
箱根町、真鶴町、湯河原町

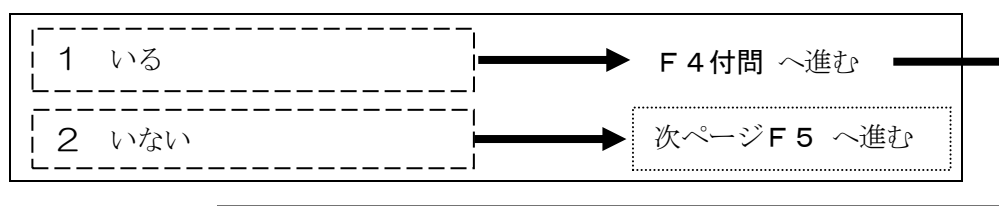
F 2 あなたの性別をお聞かせください。(○は1つ)

1 男性 2 女性

F 3 あなたの年齢をお聞かせください。(平成25年8月1日現在)(○は1つ)

1 20～29歳 2 30～39歳 3 40～49歳
4 50～59歳 5 60～69歳 6 70歳以上

F 4 あなたにお子さんは、いらっしゃいますか。同居・別居は問いません。(○は1つ)



(F 4で「1」と答えた方に)

F 4 付問 あなたの一番下のお子さんは、現在どのような成長段階ですか。(○は1つ)

1 幼稚園入園前 2 幼稚園在園中
3 小学校在学中 4 中学校在学中
5 高校在学中 6 短大・高専・各種学校・専修学校在学中
7 大学・大学院在学中 8 学校教育終了
9 その他(具体的に:)

(一般県民用)

《全員の方がお答えください》

F 5 あなたの現在のお仕事は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1 自営業主 2 家族従事者 (家業手伝い)	→ F 5 付問 1 へ進む
3 勤め (フルタイム) 4 勤め (パートタイム) 5 内職	→ F 5 付問 2 へ進む
6 主婦・主夫 (職業についていない) 7 学生 8 無職 9 その他 (具体的に :)	

(F 5で「1～2」と答えた方に)

F 5 付問 1 具体的にお仕事の内容をお聞かせください。(A～Cのうち○は1つ)

自営業主・家族従業者 (家業手伝い) の方
A 農林漁業
B 商工サービス業 (各種の卸店、小売店、飲食店、理髪店、修理店、工事店などの経営者)
C 自由業 (開業医、弁護士、宗教家、芸術家、茶華道師匠、芸能人、スポーツ選手など)

(F 5で「3～5」と答えた方に)

F 5 付問 2 具体的にお仕事の内容をお聞かせください。(D～Iのうち○は1つ)

勤め (フルタイム)・勤め (パートタイム)・内職の方
D 経営・管理職 (会社・団体の部長級以上、官公庁の課長級以上)
E 専門・技術職 (研究員、技術者、裁判官、病院勤務医師、看護師など)
F 事務職 (事務系会社員、事務系公務員、警察官、駅員など)
G 教育職 (幼稚園・小・中・高校教師、保育士など)
H 技能・労務職 (工場などの生産工程従事者、運転士、電話交換手など)
I 販売・サービス職 (商店、飲食店、サービス業などの従事者)

ご協力ありがとうございました

平成 25 年度 (2013 年度)

かながわ
神奈川県「教育に関する意しき調査」(小学生用)

これは、これからの神奈川県の教育を考えていくときの資料として使うアンケートです。

あなた自身が日ごろ感じていることや思っていることを答えてください。

記入上の注意

- 1 氏名・住所を書く必要はありません。
- 2 答えはマークシート用紙にしてください。
- 3 マークするときは、えんぴつやボールペンなどで、□をしっかりとぬりつぶしてください。
- 4 しつ問によって、答える数が「1つ」「3つまで」「いくつでも」などと決まっていますので、注意してマークしてください。
- 5 わかるしつ問だけ答えてください。
- 6 マークシート用紙は、機械で読み取りますので、ぜったいに折り曲げないでください。

★答え終わったら、マークした回答用紙だけをたんにんの先生に、出して

(小学生用)

平成 25 年度 神奈川県「教育に関する意識調査」

自分自身について

問1 あなたは、自分自身について次のことをどのように思いますか。あなたの考えに近いものを選んで、番号をマークしてください。(それぞれ1つずつ)

	そう 思う	そう ではない と思う	わ か ら な い
① 明るく元気だ	1	2	3
② 自分らしさをもっている	1	2	3
③ やさしさや思いやりがある	1	2	3
④ 何事に対してもやる気がある	1	2	3
⑤ 自分の気持ちをコントロールできる	1	2	3
⑥ ねばり強く、最後までやりとげる	1	2	3
⑦ 自分の気持ちを相手にうまく伝えられる	1	2	3
⑧ 外で運動したり遊んだりするのが好きだ	1	2	3
⑨ 自分の力でものごとを決められる	1	2	3
⑩ みんなの役に立ちたい	1	2	3
⑪ 社会のきまりや約束したことを守っている	1	2	3
⑫ 食事やすいみんななど生活がきそく正しい	1	2	3
⑬ 仲の良い友だちがいる	1	2	3
⑭ だれとでもすぐ仲良くなれる	1	2	3
⑮ 自分で考え、何かをつくり上げるのが得意だ	1	2	3
⑯ 家で勉強する習かんがある	1	2	3
⑰ じゅ業の内ようが理かいできる	1	2	3
⑱ 家族のことを理かいしている	1	2	3
⑲ 家族はあなたを理かいしてくれている	1	2	3

夢中になれるとき

問2 あなたが夢中になったり、じゅう実感を感じたりするのはどのようなときですか。あてはまるものを選んで番号をマークしてください。(3つまで)

- 1 面白いじゅ業を受けているとき
- 2 スポーツをしているとき
- 3 友だちと遊んだり、話したりしているとき
- 4 学校の仲間と運動会などのじゅんびや練習をしているとき
- 5 勉強がわかったり、知らなかったことを知ったとき
- 6 人のためになったり、社会の役に立つことをしているとき
- 7 しゅ味など自分の好きなことをしているとき
- 8 ゲームをしているとき
- 9 その他 ()
- 10 特にない

なやんでいること

問3 あなたのなやみや不安なこと、気がかりなことは何ですか。次の中から特に気になっているものを選んで番号をマークしてください。(2つまで)

- 1 友だちのこと
- 2 学校のこと
- 3 家族のこと
- 4 しょう来のこと
- 5 からだのこと
- 6 異性のこと
- 7 その他 ()
- 8 なやみはない

相談相手

問4 あなたは、自分だけでは、かい決できないようななやみがあるとき、だれに相談したいですか。次の中から選んで番号をマークしてください。(いくつでも)

- 1 親
- 2 兄弟や姉妹
- 3 祖父や祖母
- 4 親せきの大人
- 5 学校の先生
- 6 同級の友だち
- 7 年上の友だち
- 8 近所の人
- 9 じゅくや習い事の先生
- 10 けい帯電話やインターネットなどでやり取りをする相手
- 11 その他 ()
- 12 相談する人がいない

(小学生用)

ルール・マナーの意しき

問5 あなたは、次のことについてどのように思いますか。あなたの考えに近いものを選んで、番号をマークしてください。(それぞれ1つずつ)

	よ く な い と 思 う	べ つ に か ま わ な い と 思 う	わ か ら な い
① 約束を守らない	1	2	3
② 電車の中でさわいだり、ゆかにすわりこむ	1	2	3
③ 電車の中でけい帯電話をかける	1	2	3
④ 注意されると無ししたり反こうしたりする	1	2	3
⑤ インターネットやメールで人の悪口を書く	1	2	3
⑥ 人のものを勝手に使う	1	2	3
⑦ 遊ぶために夜おそく外出する	1	2	3

自分とかかわりの深いもの

問6 今の生活の中で、あなたと特に深いかかわりをもっているのは、だれ(どれ)だと思いますか。次の中から選んで番号をマークしてください。(4つまで)

- | | | |
|------------|----------------|-----------------|
| 1 家族 | 2 学校の先生 | 3 友人 |
| 4 近所の人 | 5 じゅくや習い事などの先生 | 6 けい帯電話やスマートフォン |
| 7 コンピュータ | 8 ゲーム | 9 テレビ |
| 10 マンガ | 11 本やざっし | 12 新聞 |
| 13 その他 () | | |

どのような大人になりたいか

問7 あなたは、しょう来どのような大人になりたいですか。次の中からあてはまるものを選んで番号をマークしてください。(4つまで)

- 1 自分らしさをもっている人
- 2 いつも努力をしている人
- 3 いつも新しいことに取り組んでいる人
- 4 とてもむずかしいことをやりぬく人
- 5 健康で体力に自信がある人
- 6 社会の決まりや守るべきことを守る人
- 7 得意なことをくわしく知っていたり、上手にできる人
- 8 正しいことや決められたことを最後までやりとげる人
- 9 たくさんの友だちや仲間がいる人
- 10 人を思いやる心をもっている人
- 11 みんなをまとめることができる人
- 12 海外で活やくできる人
- 13 人の役に立てる人
- 14 その他 ()
- 15 わからない

これからの世の中

問8 あなたが大人になったころの世の中は、どのようになっていると思いますか。次の中から選んで番号をマークしてください。(1つ)

- 1 今より良くなっている
- 2 今より悪くなっている
- 3 わからない
- 4 関心がない

働くことについて

問9 あなたは、働くことについてどのように考えていますか。次の中から選んで番号をマークしてください。(1つ)

- 1 働いてじゅう実感や生きるよろこびを感じたい
- 2 働いてほしいものを手に入れたい
- 3 働いて自分のゆめをかなえたい
- 4 できれば働きたくない
- 5 まだわからない

(小学生用)

学校外での生活

問10 学校にいるとき以外の時間の過ごし方として、あなたがしたいと思うことは何ですか。次の中から選んで番号をマークしてください。(3つまで)

- 1 学校の宿題や予習・ふく習などの勉強をする
- 2 じゅくや習い事に通う
- 3 家の手伝いや決められた仕事をする
- 4 テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする
- 5 けい帯電話やスマートフォンなどで友だちと言葉をやりとりする
- 6 スポーツや遊びでからだを動かす
- 7 外出して友だちと過ごす
- 8 しゅ味や自分の好きなことをする
- 9 家族といっしょに過ごす
- 10 その他 ()
- 11 とくに何もしない

学校に行きたくないとき

問11 あなたは、学校に行きたくないときがありますか。次の中から選んで番号をマークしてください。(1つ)

- 1 ある 2 ときどきある 3 ほとんどない 4 ない

学校に行きたくない理由

(問11で「1」「2」「3」と答えた人のみ答えてください)

問12 学校に行きたくないと思うとき、その理由は何ですか。次の中から選んで番号をマークしてください。(2つまで)

- 1 つかれているから
- 2 仲の良い友だちが少ないから
- 3 いじめられるから
- 4 じゅ業についていけないから
- 5 先生がいやなときがあるから
- 6 家にいる方が楽しいから
- 7 なんとなくやる気が起きないから
- 8 わからない
- 9 その他 ()

勉強する理由

問13 あなたが勉強するのはなぜだと思いますか。特に自分の考えに近いと思うものを選んで番号をマークしてください。(2つまで)

- 1 新しいことを知ったり、わかることが楽しいから
- 2 りっぱな大人になるため
- 3 高校や大学などに行きたいから
- 4 やりたい仕事があるから
- 5 しょう来何かの役に立つと思うから
- 6 先生や親から「勉強しなさい」と言われるから
- 7 友だちに負けたくないから
- 8 その他 ()
- 9 わからない

教わりたい先生

問14 あなたが教わりたい先生は、どのような人ですか。特に重要だと思うものを次の中から選んでください。(3つまで)

- 1 わかりやすい授業をしてくれる
- 2 社会の決まりや守るべきことを教えてくれる
- 3 自分たちのことをわかってくれて、しかったり、ほめたりしてくれる
- 4 やる気にさせてくれる
- 5 たんにんとして、クラスをまとめてくれる
- 6 何でもいっしょになってやってくれる
- 7 自分の目標や手本になってくれる
- 8 何でもよく知っている
- 9 その他 ()
- 10 わからない

これからの学校について

問15 あなたは、学校がどのようにになったらよいと思いますか。あなたの考えに近いものを選んで番号をマークしてください。(2つまで)

- 1 勉強の時間や内ようがふえても、一人ひとりの進み方に合わせて勉強させてくれる
- 2 同級生や上級生、下級生といっしょに行事などをする場面がふえる
- 3 学校の活動で、いろいろな体験をする場面がもっとふえる
- 4 いろいろなけい験をした学校外の人に会うことができる
- 5 社会のことや大人になったときのことをたくさん教えてくれる
- 6 学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる
- 7 ほかの学校にじまんであることがある
- 8 その他 ()
- 9 わからない

(小学生用)

最後に、アンケートの結果を分せきするために必要なことについてお聞きします。だれが書いたのかを調べるものではありません。回答用紙にマークしてお答えください。

F 1 あなたが今、住んでいる市町村を次の中から選び、番号をマークしてください。

- | | | | | | | | | | | | |
|----|--------------------------------|----|-----------------------------|----|------------------------------|----|-------------------------------|----|----------------------------|----|-----------------------------|
| 1 | <small>よこはま</small>
横浜市 | 2 | <small>かわさき</small>
川崎市 | 3 | <small>きがみほら</small>
相模原市 | 4 | <small>よこすか</small>
横須賀市 | 5 | <small>かまくら</small>
鎌倉市 | 6 | <small>ずし</small>
逗子市 |
| 7 | <small>みうら</small>
三浦市 | 8 | 葉山町 | 9 | <small>あつぎ</small>
厚木市 | 10 | <small>やまと</small>
大和市 | 11 | <small>えびな</small>
海老名市 | 12 | <small>ざま</small>
座間市 |
| 13 | <small>あやせ</small>
綾瀬市 | 14 | 愛川町 | 15 | 清川村 | 16 | <small>ひらつか</small>
平塚市 | 17 | <small>ふじさわ</small>
藤沢市 | 18 | <small>ちがさき</small>
茅ヶ崎市 |
| 19 | <small>ほだの</small>
秦野市 | 20 | <small>いせはら</small>
伊勢原市 | 21 | 寒川町 | 22 | <small>おおいそ</small>
大磯町 | 23 | 二宮町 | 24 | 小田原市 |
| 25 | <small>みなみあしがら</small>
南足柄市 | 26 | <small>なかい</small>
中井町 | 27 | <small>おおい</small>
大井町 | 28 | 松田町 | 29 | 山北町 | 30 | 開成町 |
| 31 | 箱根町 | 32 | <small>まなづる</small>
真鶴町 | 33 | <small>ゆがわら</small>
湯河原町 | 34 | <small>かながわ</small>
神奈川県以外 | | | | |

F 2 あなたのせい別について次の番号をマークしてください。

- 1 男 2 女

ご協力ありがとうございました

平成 25 年度 (2013 年度)
神奈川県「教育に関する意識調査」(中学生用)

この調査は、これからの神奈川県の教育を考えていく上での資料とするものです。

あなた自身が日ごろ感じていることや思っていることを率直^{そっちよく}に教えてください。

記入上の注意

- 1 氏名・住所の記入の必要はありません。
- 2 答えはマークシート用紙にしてください。
- 3 マークするときは、鉛筆^{えん}やボールペンなどで、をしっかりと塗りつぶしてください。
- 4 質問によって、答える数が「1つ」「3つまで」「いくつでも」などと決まっていますので、注意してマークしてください。
- 5 わかる質問だけ教えてください。
- 6 マークシート用紙は、機械で読み取りますので、絶対に折り曲げないでください。

★答え終わったら、マークした回答用紙のみを担当の先生に提出してください。

(中学生用)

平成 25 年度 神奈川県「教育に関する意識調査」

自分自身について

問 1 あなたは、自分自身について次の項目をどのように思いますか。あなたの考えに近いものを選んで、番号をマークしてください。(それぞれ1つずつ)

	そう 思う	そう では ない と思う	わ か ら な い
① 明るく元気だ	1	2	3
② 自分らしさをもっている	1	2	3
③ やさしさや思いやりがある	1	2	3
④ 何事にも前向きに取り組む	1	2	3
⑤ 自分の気持ちをコントロールできる	1	2	3
⑥ ねばり強く、最後までやりとげる	1	2	3
⑦ 自分の気持ちを相手にうまく伝えられる	1	2	3
⑧ 外で運動したり遊んだりするのが好きだ	1	2	3
⑨ 自分の力でものごとを決められる	1	2	3
⑩ みんなの役に立ちたい	1	2	3
⑪ 社会のルールやマナーを守っている	1	2	3
⑫ 食事や睡眠など生活が規則正しい	1	2	3
⑬ 仲の良い友だちがいる	1	2	3
⑭ だれとでもすぐ仲良くなれる	1	2	3
⑮ 自分で考え、何かをつくり上げるのが得意だ	1	2	3
⑯ 家で勉強する習慣がある	1	2	3
⑰ 授業の内容が理解できる	1	2	3
⑱ 家族のことを理解している	1	2	3
⑲ 家族はあなたを理解してくれている	1	2	3

夢中になれるとき

問2 あなたが夢中になったり、充実感を感じたりするのはどのようなときですか。あてはまるものを選んで番号をマークしてください。(3つまで)

- 1 面白い授業を受けているとき
- 2 スポーツをしているとき
- 3 友だちと遊んだり、話したりしているとき
- 4 学校の仲間と行事に取り組んでいるとき
- 5 勉強がわかったり、知らなかったことを知ったとき
- 6 人のためになったり、社会の役に立つことをしているとき
- 7 趣味など自分の好きなことをしているとき
- 8 ゲームをしているとき
- 9 その他 ()
- 10 特にない

悩んでいること

問3 あなたの悩みや不安なこと、気がかりなことは何ですか。次の中から特に気になっているものを選んで番号をマークしてください。(2つまで)

- 1 友だちのこと
- 2 学校のこと
- 3 家族のこと
- 4 将来のこと
- 5 からだのこと
- 6 異性のこと
- 7 その他 ()
- 8 悩みはない

相談相手

問4 あなたは、自分だけでは解決できないような悩みが生じたとき、だれに相談したいですか。次の中から選んで番号をマークしてください。(いくつでも)

- 1 親
- 2 兄弟姉妹
- 3 祖父母
- 4 親せきの大人
- 5 学校の先生
- 6 同級の友だち
- 7 年上の友だち
- 8 近所の人
- 9 塾や習い事の先生
- 10 携帯電話やインターネット等でやり取りをする相手
- 11 その他 ()
- 12 相談する人がいない

(中学生用)

ルール・マナーの意識

問5 あなたは、次の項目についてどのように思いますか。あなたの考えに近いものを選んで、番号をマークしてください。(それぞれ1つずつ)

	よくないと思う	べつにかまわないと思う	わからない
① 約束を守らない	1	2	3
② 電車の中で騒いだり、床に座り込む	1	2	3
③ 電車の中で携帯電話をかけたたり、化粧をする	1	2	3
④ 注意されると無視したり反抗したりする	1	2	3
⑤ インターネットやメールで人の悪口を書く	1	2	3
⑥ 人のものを勝手に使う	1	2	3
⑦ 遊ぶために夜遅く外出する	1	2	3
⑧ たばこを吸ったり、酒を飲んだりする	1	2	3
⑨ 万引きをする	1	2	3

自分とかかわりの深いもの

問6 今の生活の中で、あなたの考え方や行動に特に深いかかわりをもっているのは、だれ(どれ)だと思いますか。次の中から選んで番号をマークしてください。(4つまで)

- | | | |
|------------|--------------|----------------|
| 1 家族 | 2 学校の先生 | 3 友人や先輩 |
| 4 近所の人 | 5 塾や習い事などの先生 | 6 携帯電話やスマートフォン |
| 7 コンピュータ | 8 ゲーム | 9 テレビ |
| 10 マンガ | 11 本や雑誌 | 12 新聞 |
| 13 その他 () | | |

どのような大人になりたいか

問7 あなたは、将来どのような大人になりたいですか。次の中からあてはまるものを選んで番号をマークしてください。(4つまで)

- 1 自分らしさをもっている人
- 2 常に努力をおしまない人
- 3 いつも新しいことに取り組んでいる人
- 4 困難を乗り越えられる人
- 5 健康で体力に自信がある人
- 6 社会のルールやマナーを守る人
- 7 専門的なことをくわしく知っていたり、上手にできる人
- 8 正しいことや決められたことを最後までやりとげる人
- 9 たくさんの友だちや仲間がいる人
- 10 人を思いやる心をもっている人
- 11 リーダーシップをとれる人
- 12 海外で活躍できる人
- 13 社会の役に立てる人
- 14 その他 ()
- 15 わからない

これからの世の中

問8 あなたが大人になったころの社会(世の中)は、どのようになっていると思いますか。次の中から選んで番号をマークしてください。(1つ)

- 1 今より良くなっている
- 2 今より悪くなっている
- 3 わからない
- 4 関心がない

働くことについて

問9 あなたは、働くことについてどのように考えていますか。次の中から選んで番号をマークしてください。(1つ)

- 1 働いて充実感や生きる喜びを感じたい
- 2 働いてほしいものを手に入れたい
- 3 働いて自分の希望をかなえたい
- 4 できれば働きたくない
- 5 まだわからない

(中学生用)

学校外での生活

問10 学校にいるとき以外の時間の過ごし方として、あなたがしたいと思うことは何ですか。次の中から選んで番号をマークしてください。(3つまで)

- 1 学校の宿題や予習・復習などの勉強をする
- 2 塾^{じゅく}や予備校に通う
- 3 家の手伝いや決められた仕事をする
- 4 テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする
- 5 携帯電話やスマートフォンを使って友だちと言葉のやり取りをする
- 6 スポーツや遊びでからだを動かす
- 7 外出して友だちと過ごす
- 8 趣味^{しゅみ}など自分の好きなことをする
- 9 家族と一緒に過ごす
- 10 その他 ()
- 11 特に何もしない

学校に行きたくないとき

問11 あなたは、学校に行きたくないときがありますか。次の中から選んで番号をマークしてください。(1つ)

- 1 ある 2 ときどきある 3 ほとんどない 4 ない

学校に行きたくない理由

(問11で「1」「2」「3」と答えた人のみ答えてください)

問12 学校に行きたくないと思うとき、その理由は何ですか。次の中から選んで番号をマークしてください。(2つまで)

- 1 疲^{つか}れているから
- 2 仲の良い友だちが少ないから
- 3 いじめられるから
- 4 授業についていけないから
- 5 自分と合わない先生がいるから
- 6 家にいる方が楽しいから
- 7 なんとなく気持ちが乗らないから
- 8 わからない
- 9 その他 ()

勉強する理由

問13 あなたが勉強するのはなぜだと思いますか。特に自分の考えに近いと思うものを選んで番号をマークしてください。(2つまで)

- 1 新しい知識を知ったり、わかることが楽しいから
- 2 立派な大人になるため
- 3 高校や大学に進学したいから
- 4 やりたい仕事があるから
- 5 将来何かの役に立つと思うから
- 6 先生や親から「勉強しなさい」と言われるから
- 7 友だちに負けたくないから
- 8 その他 ()
- 9 わからない

教わりたい先生

問14 あなたが教わりたい先生は、どのような人ですか。特に重要だと思えるものを次の中から選んでください。(3つまで)

- 1 わかりやすい授業をしてくれる
- 2 社会のルールやマナーを教えてくれる
- 3 自分たちのことをわかってくれて、しかったり、ほめたりしてくれる
- 4 やる気を出させ、意欲を高めてくれる
- 5 学級担任として、クラスをまとめてくれる
- 6 将来や進路の相談に乗ってくれる
- 7 生徒と一緒に^{いっしょ}になって何でもやってくれる
- 8 自分の目標や手本になってくれる
- 9 何でもよく知っている
- 10 その他 ()
- 11 わからない

これからの学校のあり方

問15 あなたは、学校がどのようにになったらよいと思いますか。あなたの考えに近いものを選んで番号をマークしてください。(2つまで)

- 1 勉強の時間や内容が増えても、一人ひとりに合わせて指導してくれる
- 2 同級生や上級生、下級生と一緒に^{いっしょ}に行事などに取り組む機会が増える
- 3 学校の活動で、いろいろな体験をする機会がもっと増える
- 4 いろいろな経験をもった人と接する時間や場がある
- 5 社会のことや大人になったときのことをたくさん教えてくれる
- 6 学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる
- 7 ほかの学校に^{まね}自慢できることがある
- 8 その他 ()
- 9 わからない

(中学生用)

最後に、集計結果を分析^{せき}するために必要な項目^{こう}についてお聞きします。個人を特定するものではありません。回答用紙にマークしてお答えください。

F 1 あなたが現在住んでいる市町村について次の中から番号をマークしてください。

- | | | | | | |
|---------|---------|---------|-----------|---------|---------|
| 1 横浜市 | 2 川崎市 | 3 相模原市 | 4 横須賀市 | 5 鎌倉市 | 6 逗子市 |
| 7 三浦市 | 8 葉山町 | 9 厚木市 | 10 大和市 | 11 海老名市 | 12 座間市 |
| 13 綾瀬市 | 14 愛川町 | 15 清川村 | 16 平塚市 | 17 藤沢市 | 18 茅ヶ崎市 |
| 19 秦野市 | 20 伊勢原市 | 21 寒川町 | 22 大磯町 | 23 二宮町 | 24 小田原市 |
| 25 南足柄市 | 26 中井町 | 27 大井町 | 28 松田町 | 29 山北町 | 30 開成町 |
| 31 箱根町 | 32 真鶴町 | 33 湯河原町 | 34 神奈川県以外 | | |

F 2 あなたの性別について次の番号をマークしてください。

- 1 男性 2 女性


ご協力ありがとうございました

平成 25 年度 (2013 年度)
神奈川県「教育に関する意識調査」(高校生用)

この調査は、これからの神奈川県の教育を考えていく上での資料とするものです。

あなた自身が日ごろ感じていることや思っていることを率直に教えてください。

記入上の注意

- 1 氏名・住所の記入の必要はありません。
- 2 答えはマークシート用紙にしてください。
- 3 マークするときは、鉛筆やボールペンなどで、をしっかりと塗りつぶしてください。マークが薄かったりすると読み取れないことがあります。(マークシート用紙の例をご覧ください。)
- 4 質問によって、答える数が「1つ」「3つまで」「いくつでも」などと決まっていますので、注意してマークしてください。
- 5 わかる質問だけ教えてください。
- 6 マークシート用紙は、機械で読み取りますので、絶対に折り曲げないでください。

★答え終わったら、マークした回答用紙のみを担任の先生に提出してください。

(高校生用)

平成 25 年度 神奈川県「教育に関する意識調査」

自分自身について

問 1 あなたは、自分自身について次の項目をどのように思いますか。あなたの考えに近いものを選んで、番号をマークしてください。(それぞれ1つずつ)

	そう 思う	そう ではない と思う	わ か ら な い
① 明るく元気だ	1	2	3
② 自分らしさをもっている	1	2	3
③ やさしさや思いやりがある	1	2	3
④ 何事にも前向きに取り組む	1	2	3
⑤ 自分の気持ちをコントロールできる	1	2	3
⑥ ねばり強く、最後までやりとげる	1	2	3
⑦ 自分の気持ちを相手にうまく伝えられる	1	2	3
⑧ 外で運動したり遊んだりするのが好きだ	1	2	3
⑨ 自分の力でものごとを決められる	1	2	3
⑩ 社会の役に立ちたい	1	2	3
⑪ 社会のルールやマナーを守っている	1	2	3
⑫ 食事や睡眠など生活が規則正しい	1	2	3
⑬ 仲の良い友だちがいる	1	2	3
⑭ 誰とでもすぐ仲良くなれる	1	2	3
⑮ 自分で考え、何かをつくり上げるのが得意だ	1	2	3
⑯ 家で勉強する習慣がある	1	2	3
⑰ 授業の内容が理解できる	1	2	3
⑱ 家族のことを理解している	1	2	3
⑲ 家族はあなたを理解してくれている	1	2	3

夢中になれるとき

問2 あなたが夢中になったり、充実感を感じたりするのはどのようなときですか。あてはまるものを選んで番号をマークしてください。(3つまで)

- 1 面白い授業を受けているとき
- 2 スポーツをしているとき
- 3 友だちと遊んだり、話したりしているとき
- 4 学校の仲間と行事に取り組んでいるとき
- 5 勉強がわかったり、知らなかったことを知ったとき
- 6 人のためになったり、社会の役に立つことをしているとき
- 7 趣味など自分の好きなことをしているとき
- 8 ゲームをしているとき
- 9 その他 ()
- 10 特にない

悩んでいること

問3 あなたの悩みや不安なこと、気がかりなことは何ですか。次の中から特に気になっているものを選んで番号をマークしてください。(2つまで)

- 1 友だちのこと
- 2 学校のこと
- 3 家族のこと
- 4 将来のこと
- 5 からだのこと
- 6 異性のこと
- 7 その他 ()
- 8 悩みはない

相談相手

問4 あなたは、自分だけでは解決できないような悩みが生じたとき、誰に相談したいですか。次の中から選んで番号をマークしてください。(いくつでも)

- 1 親
- 2 兄弟姉妹
- 3 祖父母
- 4 親戚しんせきの大人
- 5 学校の先生
- 6 同級の友だち
- 7 年上の友だち
- 8 地域の人
- 9 塾・予備校の先生
- 10 携帯電話やインターネット等でやり取りをする相手
- 11 その他 ()
- 12 相談する人がいない

(高校生用)

ルール・マナーの意識

問5 あなたは、次の項目についてどのように思いますか。あなたの考えに近いものを選んで、番号をマークしてください。(それぞれ1つずつ)

	よくないと思う	べつにかまわないと思う	わからない
① 約束を守らない	1	2	3
② 電車の中で騒いだり、床に座り込む	1	2	3
③ 電車の中で携帯電話をかけたり、化粧をする	1	2	3
④ 注意されると無視したり反抗したりする	1	2	3
⑤ インターネットやメールで人の悪口を書く	1	2	3
⑥ 人のものを勝手に使う	1	2	3
⑦ 遊ぶために夜遅く外出する	1	2	3
⑧ たばこを吸ったり、酒を飲んだりする	1	2	3
⑨ 万引きをする	1	2	3

自分とかかわりの深いもの

問6 今の生活の中で、あなたの考え方や行動に特に深いかかわりをもっているのは、誰(どれ)だと思いますか。次の中から選んで番号をマークしてください。(4つまで)

- | | | |
|------------|--------------|----------------|
| 1 家族 | 2 学校の先生 | 3 友人や先輩 |
| 4 近所の人 | 5 塾や習い事などの先生 | 6 携帯電話やスマートフォン |
| 7 コンピュータ | 8 ゲーム | 9 テレビ |
| 10 マンガ | 11 本や雑誌 | 12 新聞 |
| 13 その他 () | | |

どのような大人になりたいか

問7 あなたは、将来どのような大人になりたいですか。次の中からあてはまるものを選んで番号をマークしてください。(4つまで)

- 1 自分らしさをもっている人
- 2 常に努力を惜しまない人
- 3 いつも新しいことに取り組んでいる人
- 4 困難を乗り越えられる人
- 5 健康で体力に自信がある人
- 6 社会のルールやマナーを守る人
- 7 専門的なことをくわしく知っていたり、上手にできる人
- 8 正しいことや決められたことを最後までやりとげる人
- 9 たくさんの友だちや仲間がいる人
- 10 人を思いやる心をもっている人
- 11 リーダーシップのとれる人
- 12 海外で活躍できる人
- 13 社会の役に立てる人
- 14 その他 ()
- 15 わからない

これからの世の中

問8 あなたが大人になった頃の社会(世の中)は、どのようになっていると思いますか。次の中から選んで番号をマークしてください。(1つ)

- 1 今より良くなっている
- 2 今より悪くなっている
- 3 わからない
- 4 関心がない

働くことについて

問9 あなたは、働くことについてどのように考えていますか。次の中から選んで番号をマークしてください。(1つ)

- 1 働いて生きがいや、やりがいを得たい
- 2 働いてほしいものを手に入れたい
- 3 働いて自分の希望をかなえたい
- 4 できれば働きたくない
- 5 まだわからない

(高校生用)

学校外での生活

問10 学校にいるとき以外の時間の過ごし方として、あなたがしたいと思うことは何ですか。次の中から選んで番号をマークしてください。(3つまで)

- 1 学校の宿題や予習・復習などの勉強をする
- 2 塾や予備校に通う
- 3 家の手伝いや決められた仕事をする
- 4 テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする
- 5 携帯電話やスマートフォンを使って友だちと言葉のやり取りをする
- 6 スポーツや遊びでからだを動かす
- 7 外出して友だちと過ごす
- 8 趣味など自分の好きなことをする
- 9 家族と一緒に過ごす
- 10 その他 ()
- 11 特に何もしない

学校に行きたくないとき

問11 あなたは、学校に行きたくないときがありますか。次の中から選んで番号をマークしてください。(1つ)

- 1 ある 2 ときどきある 3 ほとんどない 4 ない

学校に行きたくない理由

(問11で「1」「2」「3」と答えた人のみ答えてください)

問12 学校に行きたくないと思うとき、その理由は何ですか。次の中から選んで番号をマークしてください。(2つまで)

- 1 疲れているから
- 2 仲の良い友だちが少ないから
- 3 いじめられるから
- 4 授業についていけないから
- 5 自分と合わない先生がいるから
- 6 家にいる方が楽しいから
- 7 なんとなく気持ちが乗らないから
- 8 わからない
- 9 その他 ()

勉強する理由

問13 あなたが勉強するのはなぜだと思いますか。次の中から選んで番号をマークしてください。(2つまで)

- 1 新しい知識を得たり、理解することが楽しいから
- 2 立派な大人になるため
- 3 進学したいから
- 4 やりたい仕事があるから
- 5 将来何かの役に立つと思うから
- 6 先生や親から「勉強しなさい」と言われるから
- 7 友だちに負けたくないから
- 8 その他 ()
- 9 わからない

教わりたい先生

問14 あなたが教わりたい先生は、どのような人ですか。特に重要だと思うものを次の中から選んでください。(3つまで)

- 1 わかりやすい授業をしてくれる
- 2 社会のルールやマナーを教えてくれる
- 3 自分たちのことをわかってくれて、しかったり、ほめたりしてくれる
- 4 やる気を出させ、意欲を高めてくれる
- 5 学級担任として、クラスをまとめてくれる
- 6 一人ひとりに応じた進路指導をしてくれる
- 7 生徒と一緒に何でもやってくれる
- 8 自分の目標や手本になってくれる
- 9 何でもよく知っている
- 10 その他 ()
- 11 わからない

これからの学校のあり方

問15 あなたは、学校がどのようになったらよいと思いますか。あなたの考えに近いものを選んで番号をマークしてください。(2つまで)

- 1 勉強の時間や内容が増えても、一人ひとりに合わせて指導してくれる
- 2 同級生や上級生、下級生と一緒に行事などに取り組む機会が増える
- 3 学校の活動で、いろいろな体験をする機会がもっと増える
- 4 豊富な経験をもった人と接する時間や場がある
- 5 社会のことや大人になったときのことをたくさん教えてくれる
- 6 学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる
- 7 ほかの学校に自慢できることがある
- 8 その他 ()
- 9 わからない

(高校生用)

最後に、集計結果を分析するために必要な項目についてお聞きします。個人を特定するものではありません。回答用紙にマークしてお答えください。

F 1 あなたが現在住んでいる市町村について次の中から番号をマークしてください。

- | | | | | | |
|---------|---------|---------|-----------|---------|---------|
| 1 横浜市 | 2 川崎市 | 3 相模原市 | 4 横須賀市 | 5 鎌倉市 | 6 逗子市 |
| 7 三浦市 | 8 葉山町 | 9 厚木市 | 10 大和市 | 11 海老名市 | 12 座間市 |
| 13 綾瀬市 | 14 愛川町 | 15 清川村 | 16 平塚市 | 17 藤沢市 | 18 茅ヶ崎市 |
| 19 秦野市 | 20 伊勢原市 | 21 寒川町 | 22 大磯町 | 23 二宮町 | 24 小田原市 |
| 25 南足柄市 | 26 中井町 | 27 大井町 | 28 松田町 | 29 山北町 | 30 開成町 |
| 31 箱根町 | 32 真鶴町 | 33 湯河原町 | 34 神奈川県以外 | | |

F 2 あなたの高校について次の中から番号をマークしてください。

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1 全日制 普通科 | 2 全日制 普通科 (専門コース) |
| 3 全日制 単位制 普通科 | 4 全日制 専門学科 |
| 5 全日制 総合学科 | 6 定時制 |

F 3 あなたの性別について次の番号をマークしてください。

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

ご協力ありがとうございました

平成 25 年度 (2013 年度)

かながわ
神奈川県「教育に関する意識調査」(特別支援学校
児童・生徒用)

これは、これからの^{かながわ}神奈川県の教育を考えていくときの^{しりょう}資料として使うアンケートです。

あなた自身が日ごろ感じていることや思っていることを^{そつちよく}率直に答えてください。

記入上の注意

- 1 氏名・住所を書く必要はありません。
- 2 答えはマークシート用紙にしてください。
- 3 マークするときは、^{えんぴつ}鉛筆やボールペンなどで、をしっかりとぬりつぶしてください。
- 4 ^{しつもん}質問によって、答える数が「1つ」「3つまで」「いくつでも」などと決まっていますので、注意してマークしてください。
- 5 できる^{はんい}範囲で答えてください。
- 6 自分で答えることが難しい場合は、おうちの方に聞き取ってもらったり、代わりに答えてもらってもかまいません。
- 7 マークシート用紙は、機械で読み取りますので、ぜったいに折り曲げないでください。

★答え終わったら、マークした回答用紙だけを^{たんじん}担任の先生に出してください。

平成 25 年度 神奈川県「教育に関する意識調査」

自分自身について

問1 あなたは、自分自身について次のことをどのように思いますか。あなたの考えに近いものを選んで、番号をマークしてください。(それぞれ1つずつ)

① 学校が好きですか	1 はい	2 いいえ	3 どちらともいえない
② いろいろなことを知りたいという気持ちをもっていますか	1 はい	2 いいえ	3 どちらともいえない
③ やり始めたことは最後までがんばりますか	1 はい	2 いいえ	3 どちらともいえない
④ やさしい性格ですか	1 はい	2 いいえ	3 どちらともいえない
⑤ 人の役に立ちたいと思いますか	1 はい	2 いいえ	3 どちらともいえない
⑥ 自分の気持ちを相手にうまく伝えられますか	1 はい	2 いいえ	3 どちらともいえない
⑦ 仲の良い友だちがいますか	1 はい	2 いいえ	3 どちらともいえない
⑧ 決まった時間に食事をしますか	1 はい	2 いいえ	3 どちらともいえない

楽しいと感じるとき

問2 あなたが楽しいと感じるのはどんなときですか。あてはまるものを選んで番号をマークしてください。(3つまで)

- 好きな先生の授業を受けているとき
- スポーツをしているとき
- 友だちといっしょにいるとき
- 知らなかったことを知ったとき
- 自分の好きなことをしているとき
- 人の役に立つことをしたとき
- ゲームをしているとき
- その他 ()
- 特にない

あなたにかかわりの深いもの

問6 今の生活の中で、あなたの考え方や行動にとっても深いかかわりをもっていると思う人(もの)について、①、②、③の中からそれぞれ番号を選んでマークしてください。(それぞれ1つずつ)

①	1 家族	2 学校の先生	3 友人	4 近所の人
②	1 テレビ	2 携帯電話やスマートフォン	3 コンピュータ	4 ゲーム
③	1 新聞	2 マンガ	3 本	4 雑誌

どのような大人になりたいか

問7 あなたは、将来どのような大人になりたいですか。次の中から特にそう思うものを選んで番号をマークしてください。(4つまで)

- 1 自分らしさをもっている人
- 2 いつも努力をしている人
- 3 いつも新しいことに取り組んでいる人
- 4 とてもむずかしいことをやりぬく人
- 5 いろいろなことをよく知っている人
- 6 正しいことを最後までやりとげる人
- 7 たくさんの友だちがいる人
- 8 人を思いやるやさしい人
- 9 みんなをまとめることができる人
- 10 人の役に立てる人
- 11 その他 ()
- 12 わからない

これからの世の中

問8 あなたが大人になったころの世の中は、どのようになっていると思いますか。次の中から選んで番号をマークしてください。(1つ)

- 1 今より良くなっている
- 2 今より悪くなっている
- 3 わからない
- 4 どのような社会になるか興味がない

働くことについて

問9 あなたは、働くことについてどのように考えていますか。次の中から選んで番号をマークしてください。(1つ)

- 1 働いて充実感じゅうじつかんや生きるよろこびを感じたい
- 2 働いてほしいものを手に入れたい
- 3 働いて自分の夢ゆめをかなえたい
- 4 できれば働きたくない
- 5 まだわからない

学校外での生活

問10 学校にいるとき以外の時間の過ごし方として、あなたがしたいと思うことは何ですか。次の中から選んで番号をマークしてください。(3つまで)

- 1 学校の宿題などをする
- 2 家の手伝いをする
- 3 テレビを見る
- 4 マンガを読む
- 5 ゲームをする
- 6 携帯電話けいたいでんわやスマートフォンを使って友だちと言葉をやりとりする
- 7 外出して友だちと過ごす
- 8 スポーツや遊びでからだを動かす
- 9 家族といっしょに過ごす
- 10 その他 ()
- 11 特に何もしない

教わりたい先生

問14 あなたは、どんな先生に教わりたいですか。次の中から選んで番号をマークしてください。(3つまで)

- 1 わかりやすい授業^{じゆぎょう}をしてくれる先生
- 2 何でもいっしょになってやってくれる先生
- 3 自分たちのことをよくわかってくれる先生
- 4 きびしくしかってくれる先生
- 5 やさしくほめてくれる先生
- 6 やる気にさせてくれる先生
- 7 自分の目標や手本になってくれる先生
- 8 何でもよく知っている先生
- 9 その他 ()
- 10 わからない

これからの学校

問15 あなたは、学校がどのようになつたらよいと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものを選んで番号をマークしてください。(2つまで)

- 1 一人ひとりに対し、もっとていねいにめんどうを見てくれる
- 2 みんなといっしょに行事をする回数が増える
- 3 いろいろな体験をする場面がもっと増える
- 4 いろいろな経験^{けいけん}をしているたくさんの人に出会える
- 5 世の中のことをたくさん教えてくれる
- 6 いごこちのいいところがある
- 7 ほかの学校にじまんでできるものがある
- 8 その他 ()
- 9 わからない

最後に、集計結果を分析するために必要なことについてお聞きします。個人を特定するものではありません。回答用紙にマークしてお答えください。

F 1 あなたが今、住んでいる市町村を次の中から選び、番号をマークしてください。

- | | | | | | | | | | | | |
|----|--------------------------------|----|-----------------------------|----|------------------------------|----|-------------------------------|----|----------------------------|----|-----------------------------|
| 1 | <small>よこはま</small>
横浜市 | 2 | <small>かわさき</small>
川崎市 | 3 | <small>しがみほら</small>
相模原市 | 4 | <small>よこすか</small>
横須賀市 | 5 | <small>かまくら</small>
鎌倉市 | 6 | <small>ずし</small>
逗子市 |
| 7 | <small>みうら</small>
三浦市 | 8 | 葉山町 | 9 | <small>あつぎ</small>
厚木市 | 10 | <small>やまと</small>
大和市 | 11 | <small>えびな</small>
海老名市 | 12 | <small>ぎま</small>
座間市 |
| 13 | <small>あやせ</small>
綾瀬市 | 14 | 愛川町 | 15 | 清川村 | 16 | <small>ひらつか</small>
平塚市 | 17 | <small>ふじさわ</small>
藤沢市 | 18 | <small>まがさき</small>
茅ヶ崎市 |
| 19 | <small>はだの</small>
秦野市 | 20 | <small>いせはら</small>
伊勢原市 | 21 | 寒川町 | 22 | <small>おおiso</small>
大磯町 | 23 | 二宮町 | 24 | 小田原市 |
| 25 | <small>みなみあしがら</small>
南足柄市 | 26 | <small>なかい</small>
中井町 | 27 | <small>おおい</small>
大井町 | 28 | 松田町 | 29 | 山北町 | 30 | 開成町 |
| 31 | 箱根町 | 32 | <small>まなづる</small>
真鶴町 | 33 | <small>ゆがわら</small>
湯河原町 | 34 | <small>かながわ</small>
神奈川県以外 | | | | |

F 2 あなたの学校について次の中から番号をマークしてください。

- | | | | | | |
|---|--------------------------|---|------|---|----------------------------|
| 1 | <small>もう</small>
盲学校 | 2 | ろう学校 | 3 | <small>ようご</small>
養護学校 |
|---|--------------------------|---|------|---|----------------------------|

F 3 あなたの学部について次の番号をマークしてください。

- | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|-----|
| 1 | 小学部 | 2 | 中学部 | 3 | 高等部 |
|---|-----|---|-----|---|-----|

F 4 あなたの性別について次の番号をマークしてください。

- | | | | |
|---|---------------------------|---|---------------------------|
| 1 | <small>だんせい</small>
男性 | 2 | <small>じょせい</small>
女性 |
|---|---------------------------|---|---------------------------|

ご協力ありがとうございました

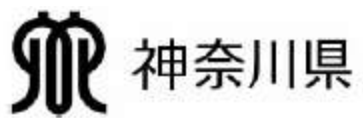
[お願い]

この報告書の内容を引用された場合は下記までご連絡ください。

(掲載部分の写しをお送りいただければ幸いです。)

平成 25 年度 教育に関する意識調査 調査報告書

発行年月 平成 26 年 3 月
発 行 者 神奈川県教育委員会教育局総務室
〒231-8509
神奈川県横浜市中区日本大通 33
電話 (045) 210-1111 (代表)
FAX (045) 210-8920



教育委員会教育局総務室企画調整グループ
横浜市中区日本大通 33 〒231-8509
電話(045)210-1111(代表) FAX(045)210-8920